大澤和辞典

徒橋轍次著

修訂版

巻五

諸橋轍次著

大漢和辞典

卷五

修訂版

大修館書店刊

表紙背模様

引鑑直

「程氏墨苑」（明版）巻十所載

（静嘉堂文庫蔵）

表紙平模様

唐千秋萬歳鉄鏡

「宣和博古図録」（明版）巻三十所載

（静嘉堂文庫蔵）

見返し図柄

表

明、陸治筆　水墨梔子花図

裏

明、文伯仁筆　細楷七律七首

「雲煙養素」所載

（静嘉堂文庫蔵）

背文字

田代秋鶴筆

扉文字

諸橋轍次筆

部首順による檢字

綴文字の下に記した數字は其の文字の番號、和數字は其の文字を掲載した頁

戈部

戈 11530

一畫

戊 11531　戌 11532　戈 11533　戈 11534

二畫

戎 11535　戚 11536　戈 11537　戈 11538　戈 11539

戔 11540　戔 11541　戔 11542　成 11543

三畫

戔 11544　成 11545　我 11546　成 11547　戒 11548　或 11549　或 11550　或 11551

戚 11552　或 11553

四畫

或 11554　或 11555　或 11556　或 11557　或 11558　或 11559　或 11560　或 11561　或 11562　或 11563　或 11564

戚 11565　戔 11566　戔 11567　戔 11568

五畫

戔 11569　戔 11570　戔 11571　戔 11572　戔 11573　戔 11574　戔 11575　戔 11576　戔 11577　戔 11578　戔 11579　戔 11580

戚 11581　戚 11582

六畫

戔 11583　戔 11584　戔 11585　戔 11586　戔 11587　戔 11588　戔 11589　戔 11590　戔 11591　戔 11592　戔 11593

七畫

戚 11594　戚 11595

戔 11596　戔 11597　戔 11598

六畫

戔 11599　戔 11600　戔 11601　戔 11602　戔 11603

戔 11604　戔 11605　戔 11606　戔 11607　戔 11608　戔 11609　戔 11610

戔 11611　戔 11612　戔 11613

九畫

戔 11614　戔 11615　戔 11616　戔 11617　戔 11618　戔 11619　戔 11620　戔 11621　戔 11622　戔 11623　戔 11624　戔 11625　戔 11626

戔 11627　戔 11628　戔 11629　戔 11630　戔 11631　戔 11632

十畫

戔 11633　戔 11634　戔 11635　戔 11636　戔 11637　戔 11638　戔 11639　戔 11640　戔 11641

戔 11642　戔 11643　戔 11644　戔 11645　戔 11646　戔 11647

十一畫

戔 11648　戔 11649　戔 11650　戔 11651　戔 11652　戔 11653　戔 11654　戔 11655　戔 11656　戔 11657

戔 11658　戔 11659　戔 11660　戔 11661　戔 11662　戔 11663　戔 11664　戔 11665

十二畫

戔 11666　戔 11667　戔 11668　戔 11669　戔 11670　戔 11671　戔 11672　戔 11673

戴 11687 五十五 戲 11686 五十五

十五畫

戴 11685 五十六 戳 11684 五十六

十四畫

戲 11683 五十六 戳 11682 五十六 戲 11681 五十四 戟 11680 五十四 戚 11679 五十四 戟 11678 五十四

十三畫

戳 11677 五十四 戴 11676 五十四 戲 11675 五十四 戲 11674 五十四

二畫

戶 11698 六十九 戶 11697 六十九

一畫

戶 11696 五十五

戶部

戳 11695 五十五

十八畫

戴 11694 五十五 戴 11693 五十五

十七畫

戚 11692 五十五 戴 11691 五十五

十六畫

戴 11690 五十五 戴 11688 五十五

戾 11713 六十一 戾 11712 六十一 戾 11711 六十一 戾 11710 六十一

四畫

戾 11709 六十一 戾 11708 六十一 戾 11707 六十一 戾 11706 六十一 戾 11705 六十一 戾 11704 六十一 戾 11703 六十一

三畫

戾 11702 六十一 戾 11701 六十一 戾 11700 六十一 戾 11699 六十一

屆 11729 六十二 屆 11728 六十二 屆 11727 六十二 屆 11726 六十二 屆 11725 六十二 屆 11724 六十二 屆 11723 六十二 屆 11722 六十二 屆 11721 六十二

一畫

屆 11720 六十二 屆 11719 六十二 屆 11718 六十二 屆 11717 六十二 戶 11716 六十二 所 11715 六十二 房 11714 六十二

屋 11744 六十三 扇 11743 六十三 扇 11742 六十三 屋 11741 六十三 屋 11740 六十三 屋 11739 六十三 屋 11738 六十三 屋 11737 六十三

六畫

扇 11736 六十三 扇 11735 六十三 戾 11734 六十三 扇 11733 六十三 扇 11732 六十三 屏 11731 六十三 扉 11730 六十三

三畫

猷 11757 六十四 𡨋 11756 六十四 屠 11755 六十四

九畫

𡨋 11754 六十四 𡨋 11753 六十四 𡨋 11752 六十四 𡨋 11751 六十四 扉 11750 六十四

八畫

屋 11749 六十四 屋 11748 六十四 𡨋 11747 六十四 𡨋 11746 六十四

七畫

屠 11745 六十四

手部

𡨋 11767 六十五

七畫

𡨋 11766 六十五 𡨋 11765 六十五

十四畫

𡨋 11764 六十五

十三畫

𡨋 11763 六十五

十二畫

𡨋 11762 六十五 𡨋 11761 六十五

十一畫

𡨋 11760 六十五 𡨋 11759 六十五 𡨋 11758 六十五

扔 11782 七十一 打 11781 七十一 扒 11780 七十一 扑 11779 七十一 扔 11778 七十一 扣 11777 七十一 扒 11776 七十一 扔 11775 七十一 扔 11774 七十一

二畫

乳 11773 七十一 乏 11772 七十一 扎 11771 七十一

三畫

才 11770 七十一 才 11769 七十一 手 11768 七十一

扞 11799 七十二 扛 11798 七十二 扠 11797 七十二 扶 11796 七十二 扣 11795 七十二 托 11794 七十二 扛 11793 七十二 代 11792 七十二 抑 11791 七十二 扑 11790 七十二 扑 11789 七十二

八畫

扒 11788 七十二 扔 11787 七十二 扠 11786 七十二 利 11785 七十二 扎 11784 七十二 扒 11783 七十二

扔 11816 七十三 扒 11815 七十三 扞 11814 七十三 抑 11813 七十三 托 11812 七十三 扑 11811 七十三 抓 11810 七十三 扔 11809 七十三 扔 11808 七十三 扣 11807 七十三 扢 11806 七十三 扡 11805 七十三 扠 11804 七十三 扭 11803 七十三 扞 11802 七十三 扔 11801 七十三 扔 11800 七十三

抪 11832 一七〇
扮 11831 一七〇
扮 11830 一七〇
扮 11829 一七〇
扢 11828 一七〇
捽 11827 一七〇
扭 11826 一七〇
扠 11825 一七〇

四畫

扱 11824 一六八
扴 11823 一六八
夆 11822 一六八
拗 11821 一六八
托 11820 一六八
托 11819 一六八
拗 11818 一六八
扞 11817 一六八
拇 11849 一七一
扼 11848 一七一
扷 11847 一七一
抵 11846 一六八
批 11845 一七四
肘 11844 一七四
折 11843 一七四
扶 11842 一七四
扶 11841 一七四
扶 11840 一七八
扸 11839 一七八
扮 11838 一七八
扳 11837 一七八
扲 11836 一七八
扱 11835 一七八
扰 11834 一七八
扯 11833 一七八
抝 11866 一七八
拘 11865 一七八
拋 11864 一七八
抄 11863 一七七
松 11862 一七八
托 11861 一七六
扑 11860 一七六
枉 11859 一七六
抗 11858 一七六
拄 11857 一七六
技 11856 一七六
技 11855 一七五
拐 11854 一七五
秉 11853 一七五
承 11852 一七八
找 11851 一七七
拖 11850 一七七
抑 11883 一七一
抈 11882 一七一
抗 11881 一七一
抗 11880 一七一
拼 11879 一七一
抚 11878 一七一
拐 11877 一七一
抗 11876 一七一
抗 11875 一七一
把 11874 一七六
抉 11873 一七六
拥 11872 一七六
担 11871 一七六
担 11870 一七六
玫 11869 一七六
抆 11868 一七六
批 11867 一七六
拗 11900 一七五
拌 11899 一七五
扼 11898 一七五
抚 11897 一七五
扑 11896 一七五
捏 11895 一七五
拖 11894 一七五
拿 11893 一七五
拝 11892 一七五
拜 11891 一七五
折 11890 一七四
抗 11889 一七四
抖 11888 一七四
投 11887 一七四
抔 11886 一七四
抓 11885 一七四
抒 11884 一七三
抻 11914 一七四
抮 11913 一七四
抗 11912 一七四
抗 11911 一七三
抬 11910 一七三
披 11909 一七三
拖 11908 一七三
捉 11907 一七三
拇 11906 一七三
抨 11905 一七三
抈 11904 一七三
抈 11903 一七三

五畫

抉 11902 一七三
拘 11902 一七三
拔 11901 一七三
抛 11901 一七三
抽 11930 一七六
押 11929 一七六
抻 11928 一七六
抹 11927 一七六
抹 11926 一七六
捋 11925 一七六
抸 11924 一七六
拯 11923 一七六
抶 11922 一七六
抵 11921 一七六
抴 11920 一七六
抳 11919 一七六
柯 11918 一七六
抱 11917 一七六
抱 11917 一七六
抓 11916 一七四
抉 11915 一七四
拊 11947 一七七
拉 11946 一七七
拈 11945 一七七
拇 11944 一七七
拆 11943 一七六
捩 11942 一七六
担 11941 一七六
拄 11940 一七六
担 11939 一七六
拵 11938 一七六
抑 11937 一七六
拂 11936 一七六
拗 11935 一七六
捉 11934 一七六
拔 11933 一七六
抿 11932 一七六
抾 11931 一七六
拋 11964 一七八
拘 11963 一七七
拗 11962 一七六
拖 11961 一七五
拕 11960 一七八
拔 11959 一七八
拓 11958 一七七
拒 11957 一七七
拑 11956 一七七
拐 11955 一七六
拏 11954 一七六
拎 11953 一七五
拍 11952 一七五
拌 11951 一七四
挲 11950 一七四
批 11949 一七四
抛 11948 一七三
拯 11980 一七四
拯 11979 一七四
拿 11978 一七四
享 11977 一七四
拙 11976 一七四
拊 11975 一七四
拘 11974 一七四
拳 11973 一七四
扶 11972 一七四
拺 11971 一七四
拏 11970 一七四
拝 11969 一七四
拜 11969 一七四
招 11968 一七二
拚 11967 一七二
拚 11966 一七二
拙 11965 一七二

拳 11995 拱 11994 拸 11993 拰 11992 拯 11991 拮 11990 拭 11989 括 11988 拫 11987 洒 11986

六畫

拡 11985 拠 11985 拟 11984 扶 11983 拓 11982 拚 11981

拼 12012 掀 12011 拺 12010 協 12009 拸 12008 捐 12007 拷 12006 抹 12005 拶 12004 拔 12003 洲 12002 拵 12001 拴 12000 拓 11999 掬 11998 掏 11997 拳 11996

挧 12029 挺 12028 挧 12027 抗 12026 挃 12025 捺 12024 採 12023 抹 12022 捸 12021 挂 12020 持 12019 振 12018 擊 12017 掴 12016 拿 12015 拾 12014 拽 12013

揷 12046 挺 12045 拆 12044 拶 12043 抱 12042 持 12041 折 12040 拳 12039 按 12038 楓 12037 拓 12036 挈 12035 指 12034 拘 12033 拭 12032 採 12031 掾 12030

揉 12063 投 12062 挨 12061 托 12060 挙 12059 抱 12058 拜 12057 例 12056 挑 12055 挈 12054 捍 12053 恫 12052 挎 12051 挍 12050 挙 12049 拳 12048 挌 12047

掛 12080 卷 12079 挖 12078 列 12077 拌 12076 捧 12075 扛 12074 拷 12073 揉 12072 拍 12071 挖 12070 拍 12069 捧 12068 抽 12067 掛 12066 拔 12065 拮 12064

抄 12095 捏 12094 振 12093 拳 12092 捲 12091 便 12090 挬 12089 抹 12088 挫 12087 流 12086 扼 12085 挪 12084 捉 12083 挨 12082

七畫

拳 12081 拐 12081

掬 12112 挽 12111 拗 12110 按 12109 括 12108 挺 12107 挺 12106 挹 12105 現 12104 挪 12103 掲 12102 捧 12101 掫 12100 梅 12099 挫 12098 接 12097 挙 12096

揉 12129 挑 12128 捄 12127 括 12126 捃 12125 梧 12124 捂 12123 括 12122 揞 12121 捧 12120 挿 12119 挾 12118 浸 12117 捧 12116 掫 12115 捗 12114 掬 12113

捄 12146 挧 12145 掟 12144 捍 12143 掬 12142 捌 12141 拧 12140 浮 12139 捲 12138 押 12137 捉 12136 捺 12135 抹 12134 掴 12133 掴 12132 掴 12131 捅 12130

12163	12162	12161	12160	12159	12158	12157	12156	12155	12154	12153	12152	12151	12150	12149	12148	12147	
二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四二	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四七	二四七	二四七	二四七	
搜	搽	捎	揅	拷	掄	掘	掮	招	捚	掃	搓	揅	掙	捶	推	揊	
12179	12179	12178	12177	12176	12175	12174	12173	12172	12171	12170	12169	12168	12167	12166	12165	12164	
二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	二五二	
掴	捈	捩	捨	捨	揅	捧	揊	揍	掾	掠	掐	捻	寧	捥	捋		八畫
12194	12193	12192	12191	12191	12190	12189	12188	12187	12186	12185	12184	12183	12182	12181	12180		
二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四	二五四		
揔	揷	揉	捲	捱	捰	捯	据	捉	掏	捭	捭	捭	摘	捫	揔	揞	
12211	12210	12209	12208	12207	12206	12205	12204	12203	12202	12201	12200	12199	12198	12197	12196	12195	
二五六	二五六	二五六	二五七	二五七	二五七	二五七	二五六	二五六	二五六	二五六	二五六	二五六	二五六	二五五	二五五	二五五	
擠	捿	揯	捽	勘	揉	捻	捺	掾	掣	掩	捸	捷	捶	捵	挑	捻	
12228	12227	12226	12225	12224	12223	12222	12221	12220	12219	12218	12217	12216	12215	12214	12213	12212	
二六二	二六二	二六二	二六二	二六一	二六一	二六一	二六一	二六一	二六一	二六一	二六一	二五九	二五八	二五八	二五八	二五八	
掊	掉	授	掇	掤	掅	掄	掃	掃	拼	据	掉	張	揀	揖	掀	琥	
12244	12243	12242	12241	12240	12239	12238	12237	12237	12236	12235	12234	12233	12232	12231	12230	12229	
二六九	二六八	二六八	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六七	二六六	二六六	
掉	掇	掣	掤	掀	排	摹	掑	招	掾	掏	掎	掍	掌	摘	摭	掊	
12261	12260	12259	12258	12257	12256	12255	12254	12253	12252	12251	12250	12249	12248	12247	12246	12245	
二七七	二七七	二七七	二七七	二七七	二七四	二七四	二七三	二七三	二七三	二七三	二七三	二七二	二六九	二六九	二六九	二六九	
掣	掣	探	揪	採	掠	掟	掎	淡	掝	捉	掛	掩	掙	掘	掘	掖	
12278	12277	12276	12275	12274	12273	12272	12271	12270	12269	12268	12267	12266	12265	12264	12263	12262	
二八八	二八八	二六九	二六九	二六九	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六九	二六八	二六八	二六八	
揆	揈	掣	掣	捆	掬	揉	掣	掫	措	掩	推	控	揚	揚	接	掤	
12295	12294	12293	12292	12291	12290	12289	12288	12287	12286	12285	12284	12283	12282	12281	12280	12279	
二九四	二九四	二九三	二九三	二九三	二九二	二九二	二九二	二九二	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	二九一	
揭	彝	掰	揹	掮	掭	揹	捼	揆	挹	拿	揸	捽	摯	牽	揉	揀	
12311	12311	12310	12309	12308	12307	12306	12305	12304	12303	12302	12301	12300	12299	12298	12297	12296	
二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	二九四	

九畫

摘 12327 三〇六
揆 12326 三〇六
揆 12325 三〇六
揆 12324 三〇六
揆 12323 三〇六
擗 12322 三〇六
擧 12321 三〇六
揄 12320 三〇五
揄 12319 三〇五
揖 12318 三〇五
揖 12317 三〇五
揖 12316 三〇五
揀 12315 三〇四
諾 12314 三〇四
掾 12313 三〇四
揷 12312 三〇四

提 12344 三〇八
揮 12343 三〇八
揮 12342 三〇八
揮 12341 三〇八
穀 12340 三〇八
描 12339 三〇八
揎 12338 三〇七
揍 12337 三〇七
揔 12336 三〇七
揋 12335 三〇七
揊 12334 三〇七
揂 12333 三〇七
揉 12332 三〇七
捲 12331 三〇七
諸 12330 三〇七
掏 12329 三〇七
揞 12328 三〇七

揜 12360 三〇九
揜 12359 三〇九
換 12358 三〇九
揆 12357 三〇九
換 12356 三〇八
揚 12355 三〇八
揙 12354 三〇八
揘 12353 三〇八
揞 12352 三〇六
揖 12351 三〇六
揕 12350 三〇六
揔 12349 三〇五
揓 12348 三〇五
揜 12347 三〇五
揷 12346 三〇五
揷 12345 三〇四

援 12377 三〇七
揮 12376 三〇七
揑 12375 三〇七
揉 12374 三〇七
揤 12373 三〇七
揙 12372 三〇七
揙 12371 三〇六
揌 12370 三〇六
揪 12369 三〇六
揆 12368 三〇六
揈 12367 三〇六
握 12366 三〇四
揆 12365 三〇四
擊 12364 三〇四
揈 12363 三〇四
揜 12362 三〇四
揞 12361 三〇四

揮 12394 三一〇
挽 12393 三一〇
捽 12392 三一〇
揷 12391 三一〇
揮 12390 三一〇
揭 12389 三〇九
揆 12388 三〇八
揆 12387 三〇八
摯 12386 三〇八
摯 12385 三〇八
揪 12384 三〇八
揩 12383 三〇八
揨 12382 三〇八
掣 12381 三〇八
擧 12380 三〇八
揥 12379 三〇七
揸 12378 三〇七

掇 12411 三一二
摟 12410 三一二
揵 12409 三一二
揰 12408 三一四
援 12407 三一二
揆 12406 三一二
摵 12405 三一二
揆 12404 三一二
揲 12403 三一二
掣 12402 三一二
揑 12401 三一二
揷 12400 三一二
揖 12399 三一二
揖 12398 三一二
揅 12397 三一二
揈 12396 三一二
揷 12395 三一二

揽 12428 三一五
搿 12427 三一五
揜 12426 三一五
揷 12425 三一五
揆 12424 三一五
揔 12423 三一五
揑 12422 三一五
揑 12421 三一五
挽 12420 三一五
揈 12419 三一五
揆 12418 三一五
揆 12417 三一五
揆 12416 三一五
揆 12415 三一五
揆 12414 三一五
揆 12413 三一五
揆 12412 三一五

捷 12445 三一六
揹 12444 三一六
揸 12443 三一六
揆 12442 三一六
揆 12441 三一六
揹 12440 三一六
揆 12439 三一六
揆 12438 三一六
揶 12437 三一六
揆 12436 三一六
揆 12435 三一六
揆 12434 三一六
揆 12433 三一六
揆 12432 三一六
揆 12431 三一六
揭 12430 三一六
揶 12429 三一六

損 12460 三一九
損 12459 三一八
搬 12458 三一八
搬 12457 三一八
搬 12456 三一八
揀 12455 三一七
揀 12454 三一七
揭 12453 三一七
揭 12452 三一七
揀 12451 三一七
揀 12450 三一七
搭 12449 三一七
揆 12448 三一七
搆 12447 三一六
揆 12446 三一六

十畫

搖 12445 三一六

搔 12477 三一二
搓 12476 三一二
搉 12475 三一二
搒 12474 三一二
搆 12473 三一二
搐 12472 三一二
搬 12471 三一二
搜 12470 三一二
搋 12469 三一二
搭 12468 三一二
搮 12467 三一二
搏 12466 三一二
搅 12465 三一二
搎 12464 三一二
搫 12463 三一二
搫 12462 三一九
搬 12461 三一九

摺	搡	摝	搠	摲	搞	摸	搔	搜	摝	搛	搛	摀	搗	搖	搕
12494	12493	12492	12491	12490	12489	12488	12487	12486	12485	12484	12483	12482	12481	12480	12479	12478
三四八	三四八	三四八	三四八	三四七	三四七	三四七	三四七	三四六	三四六	三四六	三四六	三四六	三四五	三四五	三四三	三四三
摑	摺	摔	搭	搬	擊	搪	搽	搦	搦	搦	搦	搞	搥	搤	搜	摝
12511	12510	12509	12508	12507	12506	12505	12504	12503	12502	12501	12500	12499	12498	12497	12496	12495
三五一	三五一	三五一	三五一	三五一	三四九	三四九	三四九	三四九	三四九	三四九	三四九	三四九	三四九	三四八	三四八	三四八
摛	摞	摈	搶	掩	搜	摯	搗	搴	掬	搳	摭	摭	摔	鞠	摧	摔
12528	12527	12526	12525	12524	12523	12522	12521	12520	12519	12518	12517	12516	12515	12514	12513	12512
三五四	三五四	三五四	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二
摟	摻	攘	搬	摉	摭	授	摠	榴	擎	操	夠	掬	摒	擅	擁	携
12545	12544	12543	12542	12541	12540	12539	12538	12537	12536	12535	12534	12533	12532	12531	12530	12529
三五五	三五五	三五五	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四
擊	撇	搬	十一畫	摂	摂	摠	搗	搗	搾	搽	捶	搬	摟	摟	摠	撕
12560	12559	12558		12557	12557	12556	12555	12554	12553	12552	12551	12550	12549	12548	12547	12546
三五六	三五六	三五六		三五六	三五六	三五六	三五六	三五五	三五五	三五五	三五五	三五五	三五五	三五五	三五五	三五五
摔	撻	摒	撿	擲	摑	摭	挽	掘	擘	槽	摐	撦	摎	寧	摘	撻
12577	12576	12575	12574	12573	12572	12571	12570	12569	12568	12567	12566	12565	12564	12563	12562	12561
三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五六	三五六	三五六	三五六	三五六	三五六	三五六	三五六	三五六
摞	擺	擠	擯	摺	撻	擒	摘	撙	撻	捷	擔	摘	擾	撇	擦	撈
12594	12593	12592	12591	12590	12589	12588	12587	12586	12585	12584	12583	12582	12581	12580	12579	12578
三六〇	三六〇	三六〇	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五九	三五七	三五七	三五七	三五七
擱	攝	摧	擷	揚	撞	擣	擠	擤	撈	擅	摀	擄	擯	概	摠	摟
12611	12610	12609	12608	12607	12606	12605	12604	12603	12602	12601	12600	12599	12598	12597	12596	12595
三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六二	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇
擄	撤	擎	擲	撫	境	規	擬	撝	擇	擠	擠	擠	摩	擦	摩	摩
12628	12627	12626	12625	12624	12623	12622	12621	12620	12619	12618	12617	12616	12615	12614	12613	12613
三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六八	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七	三六七
摹	摸	操	搏	摔	摵	撈	摳	撕	摯	擾	擤	摯	摯	擱	擲	擎
12645	12644	12643	12642	12641	12640	12639	12638	12637	12636	12635	12634	12633	12632	12631	12630	12629
三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三六九	三六九	三六九	三六九	三六九	三六八	三六八	三六八	三六八

搜 12662 三七六
摵 12661 三七六
摟 12660 三七六
擱 12659 三七六
掄 12658 三七五
擔 12657 三七五
捧 12656 三七五
擱 12655 三七五
掩 12654 三七五
搤 12653 三七五
擺 12652 三七五
摽 12851 三七四
掣 12650 三七四
摻 12649 三七四
擊 12648 三七四
摺 12647 三七三
搡 12646 三七三

擊 12677 三七六
撅 12676 三七六
握 12675 三七六
十二畫
擊 12674 三七六
攄 12674 三七六
撂 12673 三七六
摔 12672 三七六
撌 12671 三七六
掇 12670 三七六
擄 12669 三七六
攙 12668 三七六
擅 12667 三七六
搽 12666 三七六
擁 12665 三七六
擠 12664 三七六
擊 12663 三七六

撐 12694 三七八
撐 12693 三七八
操 12692 三七八
掃 12691 三七八
擅 12690 三七八
擄 12689 三七八
擅 12688 三七八
撂 12687 三七八
擅 12686 三七八
擅 12685 三七八
擇 12684 三七八
撋 12683 三七八
撋 12682 三七七
撕 12681 三七七
擊 12680 三七七
撈 12679 三七七
撇 12678 三七六

撘 12711 三七九
擄 12710 三七九
撇 12709 三七九
撣 12708 三七九
擅 12707 三七九
撼 12706 三七九
撕 12705 三七九
擔 12704 三七九
擅 12703 三七九
撼 12702 三七九
頓 12701 三七九
擄 12700 三七八
擅 12699 三七八
撓 12698 三七八
撒 12697 三七八
摠 12696 三七八
擅 12695 三七八

擔 12728 三八〇
撥 12727 三八〇
撤 12726 三八〇
撣 12725 三八〇
撢 12724 三八〇
捺 12723 三八〇
撼 12722 三八〇
攬 12721 三八〇
撕 12720 三八〇
擅 12719 三八〇
撤 12718 三八〇
撞 12717 三八〇
撝 12716 三八〇
擅 12715 三八〇
撰 12714 三八〇
撚 12713 三八〇
撙 12712 三八〇

擄 12745 三八一
擄 12744 三八一
撫 12743 三八一
擔 12742 三八一
撩 12741 三八一
攢 12740 三八一
擄 12739 三八一
擄 12738 三八一
擄 12737 三八一
擄 12736 三八一
擄 12735 三八一
擄 12734 三八一
擄 12733 三八一
擄 12732 三八一
擄 12731 三八一
擄 12730 三八一
擄 12729 三八一

撓 12762 三八二
擄 12761 三八二
擄 12760 三八二
擄 12759 三八二
擄 12758 三八二
擄 12757 三八二
擄 12756 三八二
撲 12755 三八二
撱 12754 三八二
撰 12753 三八二
擄 12752 三八二
擄 12751 三八二
撤 12750 三八二
擄 12749 三八二
撮 12748 三八二
播 12747 三八二
撬 12746 三八二

擄 12778 三八三
擄 12777 三八三
撤 12776 三八三
撼 12775 三八三
撞 12774 三八三
擄 12773 三八三
十三畫
撤 12772 三八三
擄 12771 三八三
擄 12770 三八三
擄 12769 三八三
擄 12768 三八三
擄 12767 三八三
擄 12766 三八三
擄 12765 三八三
擄 12764 三八三
擄 12763 三八三

擄 12795 三八四
擄 12794 三八四
擄 12793 三八四
擄 12792 三八四
擄 12791 三八四
擄 12790 三八四
擄 12789 三八四
擄 12788 三八四
擄 12787 三八四
擄 12786 三八四
擄 12785 三八四
擄 12784 三八四
擄 12783 三八四
擄 12782 三八四
擄 12781 三八四
擄 12780 三八四
擄 12779 三八四

擄 12812 三八五
擄 12811 三八五
擄 12810 三八五
擄 12809 三八五
擄 12808 三八五
擄 12807 三八五
擄 12806 三八五
擄 12805 三八五
擄 12804 三八五
擄 12803 三八五
擄 12802 三八五
擄 12801 三八五
擄 12800 三八五
擄 12799 三八五
擄 12798 三八五
擄 12797 三八五
擄 12796 三八五

揚 12829 四七
擔 12828 四九
撑 12827 四五
擅 12826 四五
擔 12825 四五
攤 12824 四五
攦 12823 四五
攙 12822 四五
攄 12821 四五
攊 12820 四五
攝 12819 四五
搖 12818 四五
搥 12817 四五
擒 12816 四五
擖 12815 四五
滲 12814 四五
擐 12813 四四

擡 12845 四九
擡 12845 四九
擢 12844 四九
擀 12843 四九
擇 12842 四九
擛 12841 四九
擎 12840 四九
據 12839 四八
擙 12838 四八
擬 12837 四八
擲 12836 四八
擘 12835 四七
擗 12834 四七
擖 12833 四七
擷 12832 四七
擕 12831 四七
攜 12830 四七

撲 12861 四二
擔 12860 四二
擥 12859 四二
擱 12858 四二
擤 12857 四二
擽 12856 四二
攇 12855 四二
攈 12854 四二
擣 12853 四二
攉 12852 四二
擡 12851 四〇
擡 12850 四〇
擽 12849 四〇
擠 12848 四九
擱 12847 四九
操 12846 四九

十四畫

擻 12878 四〇
擻 12877 四〇
擭 12876 四〇
擺 12875 四〇
擠 12874 四〇
擤 12873 四〇
擨 12872 四〇
擖 12871 四〇
擬 12870 四八
攝 12869 四八
攝 12868 四八
擫 12867 四八
擩 12866 四八
擻 12865 四七
擢 12864 四七
擧 12863 四七
擦 12862 四三

擲 12894 四三
擲 12893 四三

十五畫

擱 12892 四三
擾 12891 四三
擾 12890 四三
擾 12889 四三
擾 12888 四三
操 12887 四三
擷 12886 四三
攝 12885 四三
擧 12884 四三
擧 12883 四三
擰 12882 四三
控 12881 四三
擇 12880 四三
擯 12879 四三

擘 12911 四五
擺 12910 四四
擯 12909 四四
擇 12908 四四
擻 12907 四四
擾 12906 四四
攫 12905 四四
攤 12904 四四
搖 12903 四四
攤 12902 四四
擾 12901 四四
擷 12900 四四
擐 12899 四四
擷 12898 四三
擰 12897 四三
擧 12896 四三
擴 12895 四三

攝 12929 四八
擾 12928 四八
擾 12927 四八
攀 12926 四七
擔 12924 四七
攤 12923 四七
擿 12922 四六
擾 12921 四六
擾 12920 四五
擾 12919 四五
擾 12918 四五
攤 12917 四五
擾 12916 四五
擻 12915 四五
擻 12914 四五
擼 12913 四五
擻 12912 四五

攤 12945 四九

十六畫

擷 12944 四九
擼 12943 四九
擻 12942 四九
擷 12941 四九
擾 12940 四九
擱 12939 四九
擐 12938 四九
擾 12937 四九
擷 12936 四九
擾 12935 四九
擧 12934 四九
攢 12933 四九
擼 12932 四九
擦 12931 四九
擾 12930 四八

攝 12962 四〇
攤 12961 四〇
擷 12960 四〇
攝 12959 四〇
擾 12958 四〇
擽 12957 四〇
擾 12956 四〇
擻 12955 四〇
擎 12954 四〇
擧 12953 四〇
擼 12952 四〇
攫 12951 四〇
擾 12950 四〇
擾 12949 四〇
擾 12948 四九
攤 12947 四九
擼 12946 四九

攔 12977 四一
攙 12976 四一

十七畫

擷 12975 四一
擾 12974 四一
攝 12973 四一
攝 12972 四一
攝 12971 四一
攝 12970 四一
擾 12969 四一
擾 12968 四一
攘 12967 四一
攏 12966 四一
攘 12965 四一
擾 12964 四〇
攘 12963 四〇

攄 12994 四六五　攕 12993 四六五　攀 12992 四六五　攙 12991 四六四　攘 12990 四六四　攘 12989 四六三　攗 12988 四六三　攄 12987 四六三　攖 12986 四六三　攫 12985 四六二　擦 12984 四六二　擇 12983 四六二　擦 12982 四六二　擘 12981 四六二　擧 12980 四六二　攕 12979 四六二　攝 12978 四六二

攝 13010 四六七　撰 13009 四六六　攜 13008 四六六　攉 13007 四六六　擙 13006 四六六　攫 13005 四六六　攛 13004 四六五　攉 13003 四六五　擽 13002 四六五　攛 13001 四六五　擥 13000 四六五　攤 12999 四六五

十八畫

操 12998 四六五　擾 12997 四六五　擒 12996 四六五　攀 12995 四六五

攤 13026 四六五　攣 13025 四六五　攤 13024 四六五　攛 13023 四六五　攤 13022 四六五　攤 13021 四六四　攜 13020 四六四　攄 13019 四六四

十九畫

攮 13018 四六四　攠 13017 四六四　攛 13016 四六四　攤 13015 四六四　攤 13014 四六四　攤 13013 四六四　攤 13012 四六四　攤 13011 四六四

攤 13042 四六三　攪 13041 四六三　攤 13040 四六三　攤 13039 四六三　攥 13038 四六三

二十畫

攜 13037 四六三　攤 13036 四六三　攤 13035 四六三　攣 13034 四六三　攤 13033 四六三　攣 13032 四六三　攤 13031 四六三　攢 13030 四六三　攥 13029 四六三　攛 13028 四六三　攥 13027 四六三

攪 13056 四六五　攘 13055 四六五　攪 13054 四六五

二十四畫

攪 13053 四六五　攝 13052 四六五　攤 13051 四六五　攝 13050 四六五　攤 13049 四六五　攤 13048 四六五　攤 13047 四六五　攬 13046 四六四

二十四畫

攘 13045 四六四　攤 13044 四六四　攫 13043 四六三

攸 13066 四六八　敕 13065 四六八　敁 13064 四六八

四畫

斋 13063 四六八

四畫

攺 13062 四六八

二畫

支 13061 四六五

支部

攤 13060 四六五

二十九畫

攤 13059 四六五

二十五畫

攥 13058 四六五　攤 13057 四六五

敔 13080 四六八　敕 13079 四六八

七畫

敉 13078 四六八　敓 13077 四六八　敔 13076 四六八　敂 13075 四六八　敓 13074 四六八　敕 13073 四六八　敏 13072 四六八　敻 13071 四六八

六畫

敃 13070 四六八　敉 13069 四六八　敃 13068 四六八　敂 13067 四六八

五畫

敷 13094 四六九　敷 13093 四六九

十畫

敉 13092 四六九　敷 13091 四六九　敉 13090 四六九

九畫

敦 13089 四六九　敉 13088 四六九　敦 13087 四六九　敔 13086 四六九　敏 13085 四六九　散 13084 四六九

八畫

敃 13083 四六九　敷 13082 四六九　超 13081 四六九

斀 13107 四六四

十八畫

斀 13106 四六四　斀 13105 四六四　斀 13104 四六四　斀 13103 四六四

十三畫

斀 13102 四六四　斀 13101 四六四　斀 13100 四六四　斀 13099 四六四

十二畫

斀 13098 四六四　斀 13097 四六四　斀 13096 四六四

十一畫

斀 13095 四六四

攻 13120 四七〇　攷 13119 四七〇　攷 13118 四七〇　攷 13117 四七〇　攷 13116 四七〇　攷 13115 四七〇　攺 13114 四七〇　攸 13113 四七〇　攸 13112 四七〇

八畫

攷 13111 四七〇　攸 13110 四七〇

六畫

攴 13109 四六四　攴 13108 四六四

攴部

攸 13136 政 13135 敗 13134 放 13133 皷 13132 敃 13131 奎 13130 茂 13129 赦 13128 敉 13127 敓 13126 敖 13125

四畫

斈 13124 攷 13123 攷 13122 敃 13121

敕 13152 敓 13151 敔 13150 敊 13149

五畫

效 13148 敂 13147 敋 13146 敏 13145 敄 13144 敓 13143 敖 13142 敉 13141 敓 13140 敓 13139 敓 13138 敓 13137

敓 13169 敓 13168 敓 13167 敓 13166 敏 13165 敓 13164 敓 13163 敓 13162 故 13161 敓 13160 敓 13159 敓 13158 敓 13157 敓 13156 敓 13155 敓 13154 敕 13153

敓 13185 敓 13184 敓 13183 敕 13182 敓 13181 敓 13180 敓 13179 敓 13178 敏 13177 敓 13176 敕 13175 敉 13174 敓 13173 敓 13172

六畫

敉 13171 敉 13170

敓 13202 敓 13201 敓 13200 敓 13199 敓 13198 敕 13197 敓 13196 敓 13195 敓 13194 敓 13193 敓 13192 敕 13191 敓 13190 敓 13189 敓 13188 敓 13187 敓 13186

敏 13217 敓 13216 敓 13215 敓 13214 教 13213 教 13212 敓 13211 敓 13210 敓 13209 敓 13208 敓 13207 敓 13206 敓 13205 敓 13204 敓 13203

七畫

敏 13202′

敓 13234 敓 13233 敓 13232 敓 13231 敓 13230 敓 13229 敓 13228 敗 13227 敓 13226 敓 13225 敓 13224 敓 13223 敓 14222 敓 13221 敓 13220 敓 13219 敓 13218

敓 13250 敓 13249 敓 13247 敓 13246 敓 13245 敓 13244 敓 13243 敓 13242 敓 13241 敓 13240

八畫

敓 13239′ 敓 13239 敓 13238 敓 13237 敓 13236 敓 13235

敓 13267 敓 13266 敓 13265 敓 13264 敓 13263 敓 13262 敓 13261 敓 13260 敓 13259 敓 13258 敓 13257 敓 13256 敓 13255 敓 13254 敓 13253 敓 13252 敓 13251

敓 13284 敓 13283 敓 13282 敓 13281 敓 13280 敓 13279 敓 13278 敓 13277 敓 13276 敓 13275 敓 13274 敓 13273 敓 13272 敓 13271 敓 13270 敓 13269 敓 13268

敕 13299 敗 13298 敲 13297 敳 13296 敷 13295 敏 13294 敁 13293 敹 13292 敦 13291 敲 13290 敷 13289 敎 13288 敔 13287 敫 13286

九畫

敬 13285 散 13285

斁 13316 敓 13315 敔 13314 散 13313 敍 13312 敤 13311 敢 13310 敤 13309 敢 13308 敕 13307 敭 13306 敗 13305 敲 13304 敬 13303 敔 13302 敷 13301 敦 13300

敷 13332 敔 13331 敷 13330 敔 13329 敷 13328 敏 13327 敷 13326 敷 13325 敎 13324 敔 13323 敶 13322 敔 13321 敕 13320

十畫

數 13319 敔 13318 敵 13317

敷 13348 敵 13347

十一畫

敗 13346 敏 13345 敷 13344 敷 13343 敶 13342 敔 13341 敔 13340 敦 13339 敲 13338 敲 13337 敦 13336 敷 13335 敔 13334 數 13333

數 13364 數 13363 敕 13362 敔 13361 敷 13360 敷 13359 敷 13358 敶 13357 敏 13356 敻 13355 敵 13354 敲 13353 整 13352 敲 13351 敷 13350 敔 13349

敷 13380 敔 13379 敔 13378 敲 13377 敍 13376 敷 13375 敦 13374

十二畫

敔 13373 敷 13372 敏 13371 敔 13370 敔 13369 敗 13368 敗 13367 敕 13366 數 13365

撥 13397 敻 13396 數 13395 整 13394 整 13393 敲 13392 敷 13391 敷 13390 敦 13389 敷 13388 敷 13387 敷 13386 敔 13385 敔 13384 敲 13383 敲 13382 敲 13381

敷 13412

十四畫

敲 13411 敔 13410 敔 13409 敷 13408 敏 13407 敷 13406 敔 13405 敏 13404 敔 13403 敔 13402 敔 13401 敔 13400 敷 13399

十三畫

敷 13398

十二畫

敶 13427 敲 13426 敷 13425 敔 13424 敷 13423

十二畫

敷 13422 敦 13421 敔 13420 敷 13419 敷 13418 敶 13417 敔 13416 敔 13415 敲 13414 敔 13413

數 13443 敲 13442 敷 13441 敔 13440

十七畫

敔 13439 敔 13438 敷 13437 敔 13436 敔 13435 敔 13434 敷 13433 敔 13432 敔 13431 敷 13430 敔 13429 敲 13428

十八畫

黷 13444 六四

十九畫

變 13445 六四

數 13446 六四

數 13447 六四

數 13448 六四

二十一畫

黷 13449 六四

文部

文 13450 六四

二畫

齊 13451 六四

三畫

斈 13452 六四

斈 13453 六四

四畫

齊 13454 六四

奈 13455 六四

敝 13456 六四

五畫

敝 13457 六四

六畫

敝 13458 六四

敝 13459 六四

齋 13460 六四

二畫

齋 13461 六四

齋 13462 六四

敘 13463 六四

敘 13464 六四

寬 13465 六四

齋 13466 六四

八畫

斑 13468 六四

斐 13469 六四

斑 13470 六四

編 13471 六四

九畫

煥 13472 六四

敝 13473 六四

斐 13474 六四

歷 13475 六四

十一畫

齊 13476 六四

敷 13477 六四

敷 13478 六四

敷 13479 六四

十二畫

斐 13480 六四

斗 13481 六四

十四畫

斐 13482 六四

辨 13483 六四

十五畫

斐 13484 六四

十八畫

斐 13485 六四

十七畫

斐 13486 六四

十九畫

斐 13487 六四

斐 13488 六四

斗部

斗 13489 六四

斗 13490 六四

三畫

斜 13491 六四

四畫

斜 13492 六四

斜 13493 六四

五畫

斜 13494 六四

斜 13495 六四

斜 13496 六四

斜 13497 六四

六畫

斜 13498 六四

斜 13499 六四

斜 13500 六四

斜 13501 六四

斜 13502 六四

斜 13503 六四

三畫

斜 13504 六四

斜 13505 六四

斜 13506 六四

三畫

將 13507 六四

斜 13508 六四

斜 13509 六四

斜 13510 六五

斜 13511 六五

八畫

斜 13512 六五

斜 13513 六六

斜 13514 六六

斜 13515 六六

九畫

斜 13516 六六

斜 13517 六六

斜 13518 六七

斜 13519 六七

四畫

將 13520 六七

斜 13521 六七

斜 13522 六七

斜 13523 六七

斜 13524 六八

十一畫

斜 13525 六八

斜 13526 六八

斜 13527 六八

斜 13528 六八

十二畫

斜 13529 六八

斜 13530 六八

十八畫

斜 13531 六八

斜 13532 六八

十五畫

變 13533 六八

二畫

斤部

斤 13534 六八

一畫

斤 13535 六九

斤 13536 六九

二畫

斤 13537 六九

四畫

所 13538 六九

斧 13539 六九

斯 13540 六九

五畫

斯 13541 六三

所 13542 六三

所 13543 六三

斯 13544 六三

五畫

所 13545 六三

所 13546 六三

所 13547 六三

所 13548 六三

所 13549 六三

六畫

斷 13550 六三

斷 13551 六三

所 13552 六三

所 13553 六三

七畫

斷 13554 六三

斷 13555 六三

斷 13556 六三

斷 13557 六三

八畫

斷 13558 六三

斷 13559 六三

斷 13560 六三

斷 13561 六三

斷 13562 六三

斷 13563 六六

斷 13564 六七

斷 13565 六七

斷 13566 六七

斷 13567 六七

斷 13568 六七

斷 13569 六七

斷 13584 六七七
十畫
斷 13583 六七七
鼎 13582 六七七
斬 13581 六七七
停 13580 六七七
斯 13579 六七七
斬 13578 六七七
斷 13577 六七六
斷 13576 六七六
斷 13575 六七六
斷 13574 六七六
斬 13573 六七六
新 13572 六七七
九畫
斯 13571 六七七
斯 13570 六七七

斷 13599 六七八
斷 13598 六七八
斷 13597 六七八
斷 13596 六七八
斷 13595 六七八
斷 13594 六七八
十二畫
斷 13593 六七八
斷 13592 六七八
斷 13591 六七八
斷 13590 六七八
斷 13589 六七八
十一畫
斬 13588 六七七
新 13587 六七七
斷 13586 六七七
斷 13585 六七七

十三畫
斷 13614 六七八
斷 13613 六七八
斷 13612 六七八
斷 13611 六七八
斷 13610 六七八
斷 13609 六七八
十四畫
斷 13608 六七八
斷 13607 六七八
斷 13606 六七八
斷 13605 六七八
斷 13604 六七八
斬 13603 六七八
十三畫
斷 13601 六七八
斷 13600 六七八

旁 13624 六七九
於 13623 六七九
三畫
旃 13622 六七九
旃 13621 六七九
一畫
方 13620 六七九
方部
斷 13619 六七九
二十一畫
斷 13618 六七九
十八畫
斷 13617 六七九
十六畫
斷 13616 六七九
斷 13615 六七九

旁 13639 六七九
旅 13638 六八〇
旁 13637 六八〇
二十一畫
於 13635 六八〇
旁 13634 六八〇
旁 13633 六八〇
旃 13632 六八〇
旃 13631 六八〇
旃 13630 六八〇
旃 13629 六七九
五畫
於 13628 六七九
旁 13627 六七九
旅 13626 六七九
於 13625 六七九
四畫

旗 13655 六八〇
旗 13654 六八〇
旗 13653 六八〇
旗 13652 六八〇
旗 13651 六八〇
旗 13650 六八〇
二十一畫
旗 13649 六八〇
旗 13648 六八〇
旗 13647 六八〇
旗 13646 六八〇
旗 13645 六八〇
旅 13644 六八〇
旃 13643 六八〇
旃 13642 六八〇
旗 13641 六八〇
旗 13640 六八〇

旋 13671 六八一
旋 13670 六八一
旋 13669 六八一
旋 13668 六八一
旋 13667 六八一
旋 13666 六八一
旋 13665 六八一
八畫
旋 13664 六八一
旋 13663 六八一
旋 13662 六八一
旋 13661 六八一
旋 13660 六八一
旋 13659 六八一
旋 13658 六八一
旋 13657 六八一
旋 13656 六八一

旋 13686 六八二
旋 13685 六八二
旋 13684 六八二
旋 13683 六八二
旋 13682 六八二
十畫
旋 13681 六八二
旋 13680 六八二
旋 13679 六八二
旋 13678 六八二
旋 13677 六八二
旋 13676 六八二
旋 13675 六八二
旋 13674 六八二
九畫
旋 13673 六八二
旋 13672 六八二

旗 13699 六八二
十三畫
旗 13698 六八二
旗 13697 六八二
二十一畫
旗 13696 六八二
旗 13695 六八二
旗 13694 六八二
旗 13693 六八二
旗 13692 六八二
十三畫
旗 13691 六八二
旗 13690 六八二
旗 13689 六八二
十一畫
旗 13688 六八二
旗 13687 六八二

旗 13712 六八三
旗 13711 六八三
十一畫
旗 13710 六八三
十三畫
旗 13709 六八三
十六畫
旗 13708 六八三
旗 13707 六八三
旗 13706 六八三
旗 13705 六八三
十五畫
旗 13704 六八三
旗 13703 六八三
旗 13702 六八三
旗 13701 六八三
旗 13700 六八三

十九畫
灝 13713 七一
二十畫
㶊 13714 七一
二十一畫
灝 13715 七一

无部

无 13716 七一
无 13717 七一
三畫
旡 13718 七一
旡 13719 七一
五畫
既 13720 七二
既 13721 七二

日部

日 13722 七二
三畫
旣 13723 七二
既 13724 七二
既 13725 七二
八畫
既 13726 七二
既 13727 七二
九畫
既 13728 七二
既 13729 七二
既 13730 七二
既 13731 七二
十二畫
既 13732 七二

日 13733 七二
五畫
旦 13734 七二
旦 13735 七二
旦 13736 七二
旧 13737 七二
十二畫
旨 13738 七二
旨 13739 七二
旨 13740 七二
旨 13741 七二
旱 13742 七二
旱 13743 七二
旱 13744 七二
旬 13745 七二
旬 13746 七二
旭 13747 七二

旦 13748 七二
旱 13749 七二
旱 13750 七二
旱 13751 七二
旱 13752 七二
旱 13753 七二
旱 13754 七二
旱 13755 七二
旱 13756 七二
旱 13757 七二
旱 13758 七二
旱 13759 七二
旱 13760 七二
旱 13761 七二
旱 13762 七二
旱 13763 七二

十三畫
旱 13764 七二
旱 13765 七二
旱 13766 七二
旱 13767 七二
旱 13768 七二
旱 13769 七二
旱 13770 七二
旱 13771 七二
旱 13772 七二
四畫
旱 13773 七二
旱 13774 七二
旱 13775 七二
旱 13776 七二
旱 13777 七二
旱 13778 七二
旱 13779 七二

昌 13780 七二
昌 13781 七二
昌 13782 七二
昌 13783 七二
昌 13784 七二
昌 13785 七二
昌 13786 七二
昌 13787 七二
昌 13788 七二
昌 13789 七二
昌 13790 七二
昌 13791 七二
昌 13792 七二
昌 13793 七二
昌 13794 七二
昌 13795 七二
昌 13796 七二

昕 13797 七二
昕 13798 七二
昕 13799 七二
昕 13800 七二
昕 13801 七二
昕 13802 七二
昕 13803 七二
昕 13804 七二
昕 13805 七二
昕 13806 七二
昕 13807 七二
昕 13808 七二
昕 13809 七二
昕 13810 七二
昕 13811 七二
昕 13812 七二
昕 13813 七二

昔 13814 七二
易 13815 七二
映 13816 七二
昔 13817 七二
昔 13818 七二
昔 13819 七二
昔 13820 七二
昔 13821 七二
昔 13822 七二
昔 13823 七二
昔 13824 七二
昔 13825 七二
昔 13826 七二
昔 13827 七二
十五畫
昔 13828 七二
昔 13829 七二

晃 13830 七二
易 13831 七二
易 13832 七二
易 13833 七二
易 13834 七二
易 13835 七二
易 13836 七二
易 13837 七二
星 13838 七二
映 13839 七二
昡 13840 七二
昡 13841 七二
昡 13842 七二
昡 13843 七二
昡 13844 七二
春 13845 七二
昧 13846 七二

昨 13847 七二
昧 13848 七二
昧 13849 七二
昇 13850 七二
昇 13851 七二
昭 13852 七二
昭 13853 七二
昭 13854 七二
昭 13855 七二
昭 13856 七二
昭 13857 七二
昭 13858 七二
昭 13859 七二
昭 13860 七二
昭 13861 七二
昭 13862 七二
昭 13863 七二

戚 13880 八畫 ㄑㄧㄝ
啻 13879 八畫 ㄔㄨㄥ
智 13878 八畫 ㄓㄨㄥ
曙 13877 八畫 ㄕㄨˋ
曹 13876 八畫 ㄘㄠˊ
昬 13875 八畫 ㄏㄨㄣ
㬎 13874 八畫 ㄒㄧㄢˇ
畔 13873 八畫 ㄆㄢˋ
韋 13872 八畫 ㄨㄟˊ
昌 13871 八畫 ㄔㄤ
盅 13870 八畫 ㄓㄨㄥ
眹 13869 八畫 ㄓㄣˋ
景 13868 八畫 ㄐㄧㄥˇ
昶 13867 八畫 ㄔㄤˋ
昵 13866 八畫 ㄋㄧˋ
昴 13865 八畫 ㄇㄠˇ
昳 13864 八畫 ㄧˋ

晇 13896 八畫 ㄍㄨㄥ
晊 13895 八畫 ㄍㄨㄥ
畦 13894 八畫 ㄑㄧˊ
晅 13893 八畫 ㄒㄩㄢˋ
晄 13892 八畫 ㄏㄨㄤˇ
晃 13891 八畫 ㄏㄨㄤˇ
時 13890 八畫 ㄕˊ
晁 13889 八畫 ㄔㄠˊ
眺 13888 八畫 ㄊㄧㄠˋ
晊 13887 八畫 ㄑㄧㄝ
六畫
昼 13886 八畫 ㄓㄡˋ
昂 13885 八畫 ㄤˊ
晃 13884 八畫 ㄏㄨㄤˋ
香 13883 八畫 ㄒㄧㄤ
昡 13882 八畫 ㄒㄩㄢˋ
昧 13881 八畫 ㄇㄟˋ

晛 13913 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晛 13912 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晛 13911 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晷 13910 八畫 ㄍㄨㄟˇ
脩 13909 八畫 ㄒㄧㄡ
晌 13908 八畫 ㄕㄤˇ
晫 13907 八畫 ㄒㄧㄠ
晉 13906 八畫 ㄐㄧㄣˋ
昭 13905 八畫 ㄓㄠ
晷 13904 八畫 ㄍㄨㄟˇ
晌 13903 八畫 ㄕㄤˇ
晌 13902 八畫 ㄕㄤˇ
杲 13901 八畫 ㄍㄠˇ
晊 13900 八畫 ㄑㄧㄝ
晉 13899 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晉 13898 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晈 13897 八畫 ㄐㄧㄠˇ

昱 13930 八畫 ㄩˋ
春 13929 八畫 ㄔㄨㄣ
書 13928 八畫 ㄕㄨ
晁 13927 八畫 ㄔㄠˊ
㬎 13926 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晉 13925 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晒 13924 八畫 ㄕㄞˋ
最 13923 八畫 ㄗㄨㄟˋ
㬎 13922 八畫 ㄒㄧㄢˋ
昱 13921 八畫 ㄩˋ
晤 13920 八畫 ㄨˋ
昶 13919 八畫 ㄔㄤˋ
晉 13918 八畫 ㄐㄧㄣˋ
翏 13917 八畫 ㄌㄧㄠˋ
晇 13916 八畫 ㄍㄨㄥ
晈 13915 八畫 ㄐㄧㄠˇ
晏 13914 八畫 ㄧㄢˋ

晸 13945 八畫 ㄔㄥˊ
昴 13944 八畫 ㄇㄠˇ
晁 13943 八畫 ㄔㄠˊ
晛 13942 八畫 ㄒㄧㄢˋ
魁 13941 八畫 ㄎㄨㄟ
晚 13940 八畫 ㄨㄢˇ
晙 13939 八畫 ㄓㄨㄣˋ
晌 13938 八畫 ㄕㄤˇ
昌 13937 八畫 ㄔㄤ
曾 13936 八畫 ㄗㄥ
晃 13935 八畫 ㄏㄨㄤˋ
晲 13934 八畫 ㄅㄧˋ
晗 13933 八畫 ㄏㄢˊ
晲 13932 八畫 ㄅㄧˋ
晛 13931 八畫 ㄒㄧㄢˋ
七畫

晨 13962 八畫 ㄔㄣˊ
晧 13961 八畫 ㄏㄠˋ
晦 13960 八畫 ㄏㄨㄟˋ
晬 13959 八畫 ㄗㄨㄟˋ
晚 13958 八畫 ㄨㄢˇ
晥 13957 八畫 ㄏㄨㄢˋ
晤 13956 八畫 ㄨˋ
晌 13955 八畫 ㄕㄤˇ
晰 13954 八畫 ㄒㄧ
晢 13953 八畫 ㄓㄜˊ
晡 13952 八畫 ㄅㄨ
晟 13951 八畫 ㄔㄥˊ
晟 13950 八畫 ㄔㄥˊ
晞 13949 八畫 ㄒㄧ
晝 13948 八畫 ㄓㄡˋ
晝 13947 八畫 ㄓㄡˋ
晷 13946 八畫 ㄍㄨㄟˇ

晡 13978 八畫 ㄅㄨ
晬 13977 八畫 ㄗㄨㄟˋ
晫 13976 八畫 ㄒㄧㄠ
晉 13975 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晚 13974 八畫 ㄨㄢˇ
晌 13973 八畫 ㄕㄤˇ
八畫
晅 13972 八畫 ㄒㄩㄢˋ
昶 13971 八畫 ㄔㄤˋ
晌 13970 八畫 ㄕㄤˇ
晙 13969 八畫 ㄓㄨㄣˋ
昏 13968 八畫 ㄏㄨㄣ
曉 13967 八畫 ㄒㄧㄠˇ
㬎 13966 八畫 ㄒㄧㄢˋ
㬎 13965 八畫 ㄒㄧㄢˋ
㬎 13964 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晉 13963 八畫 ㄐㄧㄣˋ

晴 13994 八畫 ㄑㄧㄥˊ
晴 13993 八畫 ㄑㄧㄥˊ
睫 13992 八畫 ㄐㄧㄝˊ
晳 13991 八畫 ㄒㄧ
晰 13990 八畫 ㄒㄧ
晚 13989 八畫 ㄨㄢˇ
㬎 13988 八畫 ㄒㄧㄢˋ
朞 13987 八畫 ㄑㄧ
晱 13986 八畫 ㄒㄧㄢˋ
聰 13985 八畫 ㄘㄨㄥ
晾 13984 八畫 ㄌㄧㄤˋ
景 13983 八畫 ㄐㄧㄥˇ
普 13982 八畫 ㄆㄨˇ
鯛 13981 八畫 ㄊㄧㄠˊ
晞 13980 八畫 ㄒㄧ
晝 13979 八畫 ㄓㄡˋ

晭 14011 八畫 ㄌㄨㄣˋ
智 14010 八畫 ㄓˋ
晹 14009 八畫 ㄧㄤˋ
昝 14008 八畫 ㄗㄢˊ
晸 14007 八畫 ㄍㄨㄥ
晚 14006 八畫 ㄨㄢˇ
暮 14005 八畫 ㄇㄨˋ
暝 14004 八畫 ㄇㄧㄥˊ
㬎 14003 八畫 ㄒㄧㄢˋ
㬎 14002 八畫 ㄒㄧㄢˋ
唱 14001 八畫 ㄔㄤˋ
晶 14000 八畫 ㄐㄧㄥ
晉 13999 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晛 13998 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晉 13997 八畫 ㄐㄧㄣˋ
晓 13996 八畫 ㄒㄧㄠˇ
晷 13995 八畫 ㄍㄨㄟˇ

晷 14028 八畫 ㄍㄨㄟˇ
晉 14027 八畫 ㄐㄧㄣˋ
慰 14026 八畫 ㄨㄟˋ
暴 14025 八畫 ㄅㄠˋ
㬎 14024 八畫 ㄒㄧㄢˋ
㬎 14023 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晻 14022 八畫 ㄢˋ
㒳 14021 八畫 ㄌㄨㄥˋ
替 14020 八畫 ㄊㄧˋ
㬎 14019 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晛 14018 八畫 ㄒㄧㄢˋ
㬎 14017 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晚 14016 八畫 ㄨㄢˇ
暐 14015 八畫 ㄨㄟˇ
晛 14014 八畫 ㄒㄧㄢˋ
晻 14013 八畫 ㄢˋ
㒳 14012 八畫 ㄌㄨㄥˋ

喻 14042 九畫
暨 14041 九畫
暊 14040 九畫
暨 14039 九畫
暉 14038 九畫
暈 14037 九畫
暇 14036 九畫
暐 14035 九畫
暗 14034 九畫
暄 14033 九畫
晷 14032 九畫
九畫
暑 14031 九畫
曉 14031 九畫
晚 14030 九畫
敵 14030 九畫
暴 14029 九畫

暩 14059 九畫
暐 14058 九畫
暕 14057 九畫
暴 14056 九畫
暩 14055 九畫
昏 14054 九畫
暴 14053 九畫
暐 14052 九畫
暑 14051 九畫
暑 14050 九畫
暐 14049 九畫
暎 14048 九畫
暍 14047 九畫
昱 14046 九畫
暌 14045 九畫
暈 14044 九畫
暊 14043 九畫

暩 14076 九畫
暐 14075 九畫
暐 14074 九畫
暨 14073 九畫
暴 14072 九畫
暐 14071 九畫
暐 14070 九畫
暨 14069 九畫
暴 14068 九畫
暐 14067 九畫
暘 14066 九畫
暗 14065 九畫
暖 14064 九畫
暴 14063 九畫
暎 14062 九畫
暗 14061 九畫
暎 14060 九畫

暗 14092 九畫
暐 14091 九畫
暐 14090 九畫
暨 14089 九畫
暐 14088 九畫
暗 14087 九畫
暐 14086 九畫
暐 14085 九畫
暐 14084 九畫
暐 14083 九畫
暨 14082 九畫
暐 14081 九畫
暐 14080 九畫
暐 14079 九畫
暗 14078 九畫
十一畫
曉 14077 九畫

暴 14109 九畫
學 14108 九畫
暨 14107 九畫
暨 14106 九畫
暗 14105 九畫
暐 14104 九畫
暴 14103 九畫
暐 14102 九畫
暐 14101 九畫
暐 14100 九畫
暴 14099 九畫
暐 14098 九畫
翰 14097 九畫
暐 14096 九畫
暢 14095 九畫
暐 14094 九畫
暨 14093 九畫

暐 14124 九畫
暐 14123 九畫
暨 14122 九畫
暐 14121 九畫
暫 14120 九畫
暐 14119 九畫
暐 14118 九畫
暐 14117 九畫
暐 14116 九畫
暐 14115 九畫
暐 14114 九畫
暨 14113 九畫
暐 14112 九畫
十二畫
曆 14111 九畫
暐 14110 九畫
曾 14110 九畫

暨 14141 九畫
暨 14140 九畫
暐 14139 九畫
暐 14138 九畫
暴 14137 九畫
暨 14136 九畫
暐 14135 九畫
暨 14134 九畫
暐 14133 九畫
暐 14132 九畫
暐 14131 九畫
暐 14130 九畫
暐 14129 九畫
暮 14128 九畫
暐 14127 九畫
暐 14126 九畫
暐 14125 九畫

暐 14157 九畫
暐 14156 九畫
暨 14155 九畫
暐 14154 九畫
暐 14153 九畫
暐 14152 九畫
暐 14151 九畫
暐 14150 九畫
暐 14149 九畫
暐 14148 九畫
十三畫
暐 14147 九畫
暐 14146 九畫
暐 14145 九畫
暐 14144 九畫
暴 14143 九畫
暐 14142 九畫

暴 14174 九畫
暐 14173 九畫
暐 14172 九畫
暐 14171 九畫
暴 14170 九畫
暐 14169 九畫
暐 14168 九畫
暐 14167 九畫
暐 14166 九畫
暨 14165 九畫
暨 14164 九畫
暐 14163 九畫
暐 14162 九畫
暐 14161 九畫
暐 14160 九畫
暐 14159 九畫
暐 14158 九畫

暐 14191 九畫
暐 14190 九畫
暐 14189 九畫
暴 14188 九畫
暨 14187 九畫
暐 14186 九畫
暐 14185 九畫
暐 14184 九畫
暐 14183 九畫
暐 14182 九畫
暐 14181 九畫
暐 14180 九畫
暐 14179 九畫
暐 14178 九畫
暐 14177 九畫
暐 14176 九畫
暐 14175 九畫

曶 14208 九四三
曰 14207 九四三
曖 14206 九四三
曙 14205 九四三
曛 14204 九四三
曛 14203 九四三
曒 14202 九四三
曝 14201 九四三
曚 14200 九四三
曄 14199 九四三
曉 14198 九四二
曇 14197 九四二
曇 14196 九四二
曇 14195 九四二
曇 14194 九四二
十三畫
曷 14192 九四二

曛 14224 九四四
曚 14223 九四四
曚 14222 九四四
曚 14221 九四四
曙 14220 九四四
曛 14219 九四四
曙 14218 九四三
曙 14217 九四三
十四畫
曛 14216 九四三
曛 14215 九四三
曙 14214 九四三
曛 14213 九四三
曛 14212 九四三
曛 14211 九四三
曦 14210 九四三
曜 14209 九四三

曝 14239 九四五
曛 14238 九四五
曛 14237 九四五
曛 14236 九四五
曛 14235 九四五
十五畫
曛 14234 九四五
曛 14233 九四五
曛 14232 九四五
曛 14231 九四五
曛 14230 九四五
曛 14229 九四五
曛 14228 九四五
曜 14227 九四五
曜 14227 九四五
曜 14226 九四五
曝 14225 九四五

曛 14255 九四八
曛 14254 九四八
曦 14258 九四八
曛 14252 九四八
曛 14251 九四八
曛 14250 九四八
曛 14249 九四八
十六畫
曛 14248 九四八
曛 14247 九四八
曛 14246 九四七
曛 14245 九四七
曛 14244 九四六
曛 14243 九四六
曛 14242 九四六
曛 14241 九四六
曛 14240 九四六

曛 14269 九五一
曛 14268 九五一
曛 14267 九五一
曛 14266 九五〇
曛 14265 九五〇
曛 14264 九五〇
十八畫
曛 14263 九五〇
曛 14262 九五〇
曛 14261 九五〇
曛 14260 九五〇
十九畫
曛 14259 九五〇
曛 14258 九五〇
十七畫
曛 14257 九五〇
曛 14256 九五〇

甲 14279 九五三
一畫
曰 14278 九五二
曰部
曶 14277 九五二
十二畫
曛 14276 九五二
十四畫
曛 14275 九五二
曛 14274 九五二
十一畫
曛 14273 九五二
曛 14272 九五一
曛 14271 九五一
曛 14270 九五一
二十畫
二畫

昆 14292 九五八
昀 14291 九五八
曷 14290 九五八
晉 14289 九五八
五畫
畢 14288 九五七
曶 14287 九五七
臾 14286 九五七
四畫
旱 14285 九五七
曳 14284 九五七
更 14283 九五六
三畫
曳 14282 九五六
夾 14281 九五六
曲 14280 九五六
二畫

九畫
會 14305 一〇〇一
壹 14304 一〇〇一
春 14303 一〇〇一
舊 14302 一〇〇一
最 14301 九九九
替 14300 九九九
曾 14299 九九九
八畫
曼 14298 九九七
曹 14297 九九七
七畫
曾 14296 九九七
會 14295 九九七
書 14294 九九七
六畫
旱 14293 九九七

鼐 14318 一〇〇九
十五畫
劒 14317 一〇〇九
誉 14316 一〇〇九
十二畫
彗 14315 一〇〇九
趣 14314 一〇〇九
聲 14313 一〇〇九
十一畫
韶 14312 一〇〇九
揭 14311 一〇〇九
棘 14310 一〇〇八
軸 14309 一〇〇八
十畫
奠 14308 一〇〇八
棘 14307 一〇〇八
會 14306 一〇〇一

鼎 14328 一〇一〇
二十八畫
鼎 14327 一〇一〇
二十三畫
鼎 14326 一〇〇九
二十一畫
鼐 14325 一〇〇九
十七畫
鼎 14324 一〇〇九
轉 14323 一〇〇九
十六畫
棘 14322 一〇〇九
十五畫
鬲 14321 一〇〇九
鬲 14320 一〇〇九
十四畫
鼎 14319 一〇〇九

四畫

朗 14338 (一〇九〇)
肴 14337 (一〇九〇)
朋 14336 (一〇九〇)
肌 14335 (一〇九〇)
肓 14334 (一〇九〇)

三畫

肉 14333 (一〇九〇)
有 14332 (一〇九〇)

二畫

月 14331 (一〇九〇)

一畫

月 14330 (一〇九〇)

月部

三十一畫

讟 14329 (一〇一〇)

朔 14352 (一〇九一)
朏 14351 (一〇九一)
朊 14350 (一〇九一)
朒 14349 (一〇九一)
朓 14348 (一〇九一)

五畫

肱 14347 (一〇九一)
朋 14346 (一〇九一)
服 14345 (一〇九一)
服 14345 (一〇九一)
肱 14344 (一〇九一)
肪 14343 (一〇九一)
朒 14342 (一〇九一)
肝 14341 (一〇九一)
朋 14340′ (一〇九一)
朋 14340 (一〇九一)
朒 14339 (一〇九一)

朗 14366 (一〇九八)
朘 14365 (一〇九八)
朗 14364 (一〇九八)
朗 14363 (一〇九八)

七畫

朗 14362′ (一〇九八)
朗 14362 (一〇九八)
朕 14361 (一〇九八)
朕 14360 (一〇九八)
朔 14359 (一〇九八)
朓 14358 (一〇九八)
朒 14357 (一〇九八)
朒 14356 (一〇九八)
朕 14355 (一〇九八)

六畫

朐 14354 (一〇九八)
朐 14353 (一〇九八)

朏 14380 (一〇九七)
朏 14379 (一〇九七)
期 14378 (一〇九七)
朞 14377 (一〇九七)
朞 14376 (一〇九七)
朗 14375 (一〇九七)
朝 14374′ (一〇九七)
朝 14374 (一〇九七)
朞 14373 (一〇九七)

八畫

朘 14372 (一〇九七)
朒 14371 (一〇九七)
朒 14370 (一〇九七)
朏 14369 (一〇九七)
望 14368′ (一〇九七)
望 14368 (一〇九七)
朔 14367 (一〇九七)

朏 14394 (一〇九六)
朏 14393 (一〇九六)

十一畫

朕 14392 (一〇九六)
朕 14391 (一〇九六)
朏 14390 (一〇九六)
朝 14389 (一〇九六)

十畫

朕 14388 (一〇九六)
朕 14387 (一〇九六)
朔 14386 (一〇九六)
朔 14385 (一〇九六)
朏 14384 (一〇九六)

九畫

朗 14383 (一〇九六)
朕 14382 (一〇九六)
朕 14381 (一〇九六)

朏 14408 (一〇九四)

十四畫

朔 14407 (一〇九四)
朏 14406 (一〇九四)
朏 14405 (一〇九四)

十一畫

朝 14404 (一〇九四)
朋 14403 (一〇九四)
朋 14402 (一〇九四)
朏 14401 (一〇九四)
朗 14400 (一〇九四)
朏 14399 (一〇九四)
朏 14398 (一〇九四)

十二畫

朗 14397 (一〇九四)
朏 14396 (一〇九四)
朗 14395 (一〇九四)

朗 14414 (一〇九四)

二十畫

朗 14413 (一〇九四)

十九畫

朗 14412 (一〇九四)
朗 14411 (一〇九四)

十六畫

朗 14410 (一〇九四)
朦 14409 (一〇九四)

總畫順による檢字

觀文字の下に記した和數字は其の文字を掲載した頁。

三畫
才 八 戸 一 尺 尼 龙 三
五畫
扌 八 戸 一 扌 八 扌 八 扌 八

盼 一三七
就 一三七
脫 一三七
駁 一三七
服 一三七
朋 一三七
崩 一三七
嶸 一三七
鳳 一三七
拳 一三七
拜 一三七
拏 一三七
拿 一三七
婚 一三七
奉 一三七
奉 一三七
戒 一三七
戒 一三七
戒

| | | |

統 二四
晷 二四
豐 二四
會 二四
脣 二四
朝 二四
朝 二四
朝

新 六四 曝 六四 鼎 六四 威 六四 戚 六四 指 六四 按 六四 栽 六四 揑 六四 揖 六四 撫 六四 撫 六四 撫

擇 四四二
擂 四四二
擅 四四二
擄 四四二
擊 四四二
擋 四四二
擒 四四二
擔 四四二
擗 四四二
擘 四四二
擞 四四二
擢 四四二
擤 四四二
擦 四四二
擬 四四二
擭 四四二
擮 四四二
擯 四四二
擰 四四二
擲 四四二
擳 四四二
擴 四四二
擷 四四二
擸 四四二
擺 四四二
擻 四四二
擼 四四二
擽 四四二
擾 四四二
擿

大澤和辞典

清搨藏次著

戈部

【戈】11530

クワ　（集韻）古禾切　歌　こ　カ

戈 小篆

●ほこ。柄の先端に両刃の刀を横に付け、主として人の頸を挑して殺傷するもの。槍刀が単独出するものを戈、左右に鋸出するものを戟という。

（說文）戈、平頭戟也。从弋、一横之象形。

（繫注）戟、小枝上向則爲戟、平、之象形。弋、（說文通訓定聲）戈、按、支者、梧也、長六尺六寸、其刃横出、可以句可擊、與子專刺、支專擊者不同。亦與戟之象刺與句者異。轉名、轉義、則與戈、戈有戟也、戈、過也、所刺擊、則決過、所鉤引則制之、弗（得）過也、（風俗、考工記、冶氏）戈、廣袤等、內倍之、胡三之、援四之、（東觀餘論）戈之制、南旁有刃、横直而未曲者、（說文）戈、胡也、所以援引、援、引也、（玉篇）戈、所以擊人、（廣雅）戈、刺也、（玉篇）戈、所以擊人、（廣雅）戈、刺也、（玉篇）戈、所以擊人、（廣雅）戈、刺

【支部】[illegible]　ほこづくりにかかわる。胡は太の誤の曲つて旁出するものかまを、字解の●を見よ。

【周礼春官宗伯氏】支度　字は爲解。支は、[illegible]。胡は、[illegible]。

【支】[illegible]　[illegible]。

【支】[illegible]　[illegible]。

【支】[illegible]　

【戈守智】[illegible]。清、平湖の人。字は遠夫。著に『漢書法語解』がある。〔『西堀提要』一百十四〕。

【戈由義】[illegible]。清、元和の人。號は小湖。半塘、幼庵に師事して経学に通じ、老母のために仕進の意を絶つ。著に『大儀博直録』・『名儀博略録』・『小儀錄』・『樹菁文鈔』・『倹庵博集稿』五十四〕。

【援】戈[illegible]。戈を手にとって、引っぱりかかる。〔『説文』〕。

【戊】

11531

[illegible]ヂツ

[illegible]ゲツ

(集韻)王伐切 [illegible]

(正韻)烏瞎切 [illegible]

[illegible]まるか。始めは武器に用いられたが、後に威儀をしたがえるために儀仗に用いられた武器。

戊は小篆の字形。

(11・103313)に作る。〔説文〕戊、大斧也。从戈、[illegible]聲。司馬灌曰。殷執玄戊。殷執白戚。周尹祉黃戊。文祀白鉞。[illegible]黃戊。或从金。[illegible]。[illegible]。[illegible]

亦聲。[稱名。稱天。戊。憺也。戊。憺也。物當也。敏敃。詮。憺之也。亦言脫也。落也。〈淮南子・天文訓〉戊爲虎。(3)いぬの日。(左氏・桓五年)正月甲戌。(4)いぬの日。(左氏・僖五年)丙子。指月錄。黃昏戊在子。地功投暗室。(5)方位では西北。(宋史・樂志十一)表。(6)五行では土。(7)干支の第五。(8)動物では犬。(〈論衡・物勢〉)戊、土也。(9)動物では犬。(〈論衡・物勢〉)戊、土也。(10)まこと。(〈韓詩・誠也。●温厚。●風俗通・祝典・戊者温柔也。●たつ。●けづる。(史記・司馬相如傳〉紗闇易上。(集解引徐廣曰。戊、音憺。十一支戊月。)ちた。九月の異名。字解の●(10)を見よ。

戊 11537

シュ（集韻）ヂ（集韻）ヂ（集韻）ヂ

叙(傳)戍北地以西戍卒千(漢書地理志)南攻
掩雍置戍卒焉(後漢書)羽檄(羽檄共傳)戍
卒衆(漢書)

【戍】(傳)衛戍の兵士がときどきの警をあ
けて戍(漢書)

【戍兵】(傳)戍兵の意。「戍」は「防」の意。
防備。国境の兵士。日益騷然、戍兵叫由容擧。
(史記、酷吏傳)小武、戰戰兢兢、竹竹監視、兼
戍兵(漢書)

【戍邊】(傳)戍兵(国境)を守る。辺境を戍守する。(杜
甫、兵車行)去時里正與裹頭、聞道開邊(国境)
(漢書)(漢紀)(漢書)(漢書)(漢書

【戎戒】ふ。戰争の用意。（史記、晉世家三）王稱出討戎戒備。

【戎行】ぎょう。軍隊の行列。行軍。遵軍。又、軍人。（左傳、襄公二十九年）屬諸侯之戎行。

【戎衣】い。武裝。（禮記、檀弓上）武王之喪。（注）戎衣、猶言被甲也。（呂氏春秋、審應覽）戎衣而天下大定。

【戎輅】ろ。（呂氏春秋、審應覽）戎衣而天下大定。（注）戎輅、兵車。

【戎狄】てき。蠻夷の名。（史記、秦本紀）秦襄公救周、有功、封之以岐以西之地。（注）戎、西方之夷。

【戎馬】ば。戰馬。（後漢書、袁紹傳）戎馬一匹、錦千段。

【戎律】りつ。兵事の名。（張協、七命）國乃經戎律、以定八方之民。（注）戎律、軍法。

【戎鞬】けん。武器。（史記、秦本紀）鞬、弓衣。（注）鞬、所以藏弓矢。

【戎鞬】けん。武器。（注）音巾。鞬武之用。（後漢書、馬援傳）鞬、弓衣

郎甘賢也〔柴衛『家獻』〕羣木枚攻、繁霜挽稅、〔古文作攻〕攻戎、盛稅（杜預『左傳』）江市攻戎、晉山雲沿金案。

〔戎菽〕ﾛｳｼｭｸ 豆の一種、胡豆の異名。

傳『詩』云、大豆をいふ（『詩』大雅、生民、注、孫炎『爾雅』注）

一說に、大豆をいふ（『詩』大雅、生民、注、孫炎『爾雅』注）

〔戎菽〕ﾛｳｼｭｸ 戎菽、大豆也（『爾雅』、

射士林、講習戰陣、(韓愈、李利軍節度西川書、長花日朝廷)。戎服上、樣水北極、儒冠狐裘傳樂。

戎國[名] 副將を云ふ。(稽神錄、副將、戎國)。

戎智 通運、今之動將、古之戎右也、故稱戎副。戎戎[形] 兵の多き。(禮記、樂記)。

戎兵[名] ①軍服・兵器(書、立政、其克詰爾戎兵、以陟禹之迹、傳、治汝服兵、孔疏、後、錢閣三、大雅、抑、修爾車馬、弓矢戎兵)。②戰士・戰鬪士(孟子、公孫丑下、戎兵、孟子、梁惠王下、戎兵、孟子、盡心下、戎兵、孟子、盡心下、戎兵、孟子、盡心

以竄。【國語・吳語】勝未可成。〈注〉成、必也。【周禮・地官・小司徒】九夫爲井、注引司馬法云、通十馬、成（周禮考工記・匠人）方十里爲成（左氏、哀元）有甸、成（注）方十里爲甸。成（左氏、哀元）有甸、成（注）方十里爲甸。**成**が成の方位をとる日。建除家で七因によって所定の日の名。月建で、の後四辰に居る。建除十二神（4・9574…1…3）を見よ。（淮南子、天文訓）戌爲成。**❶吉**祭、卒哭の祭。（禮記、檀弓下）卒哭曰成。孝子之成祭也。（注）成、猶終也。**❷しろ**。城。（9・5128）峨嵋山、勃海高成、河間阜成。**❸**古は戚（6・11573）に作る。**❹**漢の侯國。涿郡に屬す。今、河北省清苑縣の境。（漢書、地理志上）涿郡、縣（88）を見よ。**❺地名**。春秋、魯の孟諸氏の邑。今の山東省菏澤縣の東北。鄆（11・334）に通ず。（說文通訓定聲）成、假借爲鄆（88）に通ず。（說文通訓定聲）成、假借爲郕。（逸周書、諡法解）安・民・立・政曰成。**❻姓**。（通志、氏族略）以字爲氏。周成、楚若敖之後、以字爲氏。又有、鄭國之後、亦去邑爲成。又周成鄭公成相公、未知其以字以邑。**❼**國型。割引。

名乗　アキ。アキラ。ナリ。ノブ。ヤス。ナル。ツヤ。ツミ。ナリ。ノブ。

解釋　形聲。會意。戊もまたまた。戊と丁とを合して、充實して成りたつもの。戊と丁とを合して、充實して成りたつもの。

【成女】ｾｲﾆｮ　縣名。❶漢。張掖郡に屬す。今、河南省陝縣の東南。（漢書、地理志上）張掖郡、縣（88）を見よ。❷後漢。（注）張掖郡に屬す。今、河南省陝縣の東南。（後漢書、郡國志）成女、縣（88）を見よ。

【成安】ｾｲｱﾝ　縣名。❶漢。潁川郡に屬す。今、河南省許昌縣の東北。（漢書、地理志上）潁川郡、縣（88）を見よ。❷後漢。（注）潁川郡に屬す。今、河南省許昌縣の東北。（後漢書、郡國志）成安、縣（88）を見よ。

【成公】ｾｲｺｳ　❶周の成王の子。康王の父。（史記、周本紀）成王崩、子康王釗立。❷春秋、魯の桓公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）桓公卒、子莊公同立。❸春秋、衛の穆公の子。在位、前六百年。（史記、衛康叔世家）穆公卒、子成公速立。❹春秋、晉の文公の子。在位、前六百年。（史記、晉世家）文公卒、子襄公驩立。❺春秋、楚の共王の子。在位、前六百年。（史記、楚世家）共王卒、子康王審立。❻春秋、秦の孝公の子。在位、前六百年。（史記、秦本紀）孝公卒、子惠文王駟立。❼春秋、宋の平公の子。在位、前六百年。（史記、宋微子世家）平公卒、子成公王臣立。❽春秋、鄭の簡公の子。在位、前六百年。（史記、鄭世家）簡公卒、子成公睡立。❾春秋、魯の襄公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）襄公卒、子成公黑肱立。❿春秋、魯の哀公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）哀公卒、子成公寧立。⓫春秋、魯の定公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）定公卒、子成公蔣立。⓬春秋、魯の昭公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）昭公卒、子成公稠立。⓭春秋、魯の莊公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）莊公卒、子成公般立。⓮春秋、魯の閔公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）閔公卒、子成公申立。⓯春秋、魯の隱公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）隱公卒、子成公息姑立。⓰春秋、魯の魯公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）魯公卒、子成公伯禽立。⓱春秋、魯の周公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）周公卒、子成公伯禽立。⓲春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。⓳春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。⓴春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。㉑春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。㉒春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。㉓春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。㉔春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。㉕春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。㉖春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。㉗春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。㉘春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。㉙春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。㉚春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。㉛春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。㉜春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。㉝春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。㉞春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。㉟春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。㊱春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。㊲春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。㊳春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。㊴春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。㊵春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。㊶春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。㊷春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。㊸春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。㊹春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。㊺春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。㊻春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。㊼春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。㊽春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。㊾春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。㊿春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(51)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(52)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(53)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(54)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(55)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(56)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(57)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(58)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(59)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(60)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(61)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(62)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(63)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(64)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(65)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(66)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(67)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(68)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(69)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(70)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(71)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(72)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(73)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(74)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(75)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(76)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(77)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(78)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(79)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(80)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(81)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(82)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(83)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(84)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(85)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(86)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(87)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(88)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(89)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(90)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(91)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(92)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(93)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(94)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(95)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(96)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(97)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(98)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(99)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(100)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(101)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(102)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(103)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(104)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(105)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(106)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(107)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(108)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(109)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(110)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(111)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(112)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(113)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(114)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(115)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(116)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(117)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(118)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(119)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(120)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(121)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(122)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(123)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(124)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(125)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(126)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(127)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(128)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(129)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(130)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(131)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(132)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(133)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(134)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(135)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(136)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(137)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(138)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(139)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(140)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(141)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(142)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(143)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(144)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(145)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(146)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(147)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(148)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(149)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(150)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(151)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(152)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(153)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(154)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(155)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(156)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(157)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(158)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(159)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(160)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(161)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(162)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(163)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(164)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(165)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(166)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(167)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(168)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(169)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(170)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(171)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(172)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(173)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(174)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(175)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(176)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(177)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(178)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(179)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(180)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(181)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(182)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(183)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(184)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(185)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(186)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(187)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(188)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(189)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(190)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(191)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(192)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(193)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(194)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(195)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(196)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(197)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(198)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(199)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(200)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(201)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(202)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(203)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(204)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(205)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(206)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(207)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(208)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(209)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(210)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(211)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(212)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(213)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(214)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(215)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(216)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(217)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(218)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(219)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(220)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(221)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(222)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(223)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(224)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(225)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(226)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(227)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(228)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(229)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(230)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(231)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(232)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(233)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(234)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(235)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(236)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(237)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(238)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(239)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(240)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(241)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(242)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(243)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(244)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(245)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(246)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(247)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(248)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(249)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(250)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(251)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(252)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(253)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(254)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(255)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(256)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(257)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(258)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(259)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(260)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(261)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(262)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(263)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(264)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(265)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(266)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(267)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(268)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(269)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(270)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(271)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(272)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(273)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(274)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(275)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(276)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(277)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(278)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(279)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(280)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(281)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(282)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(283)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(284)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(285)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(286)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(287)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(288)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(289)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(290)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(291)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(292)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(293)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(294)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(295)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(296)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(297)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(298)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(299)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(300)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(301)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(302)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(303)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(304)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(305)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(306)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(307)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(308)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(309)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(310)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(311)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(312)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(313)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(314)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(315)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公黑肱立。(316)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公寧立。(317)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公蔣立。(318)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公稠立。(319)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公般立。(320)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公申立。(321)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公息姑立。(322)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成公卒、子成公魯立。(323)春秋、魯の成公の子。在位、前六百年。（史記、魯周公世家）成

年，晉的相盟，誠都已死亡，故成公求成。這次成公
以亡又後鄭之助，而鄭國也被迫與晉盟。[魯成公十八年]
[魯成公十八年]春秋，[魯]夏六月，[魯]即，[魯]公，[魯]成公，[魯]成公十八年，[魯]成公十八年，[魯]成公十八年

天子之所自學者、是也。全魏云、五學以詳禮居中爲義。皮錫瑞、禮記、王制篇以詳禮居中爲義。孫詒讓、周禮正義、王制篇、詳、通也。詳、通也、言其學之教、而教、樂德樂語樂舞、必於成均、成均之學亦可知。大學在、王制云、天子之學、詳禮居中爲義。成均、大司樂云、掌成均之法、以治建國之學政、此成均乃五學總名、謂成均、辟雍、東序、東膠、西序、西膠、是也。熱別而言之。今案、諸說、謂成均爲、南學、詳禮居中爲、皆不妄。又、鄭、注、鄭玄、注、周禮、大司樂、成均、大學、樂德、樂語、樂舞、(注)鄭、

は教練師。（晉書、六十八）

【成公興】[illegible] 後魏。字興。

太武の時の人。倪超の弟。（魏書、九十二）

【成公綏】[illegible] 晉。白馬の人。字子安。詩書に詩賦雅頌を作る。（晉書、九十二）

【成子】[illegible] 中山の人。字子安。詩書に詩賦雅頌を作る。（晉書、九十二）

【成功】[illegible] 功成りあがる。又、出奴となり、（後、大魏興安風俗記）

【成功】[illegible] 成功。（後、大魏興安風俗記）

【成功】[illegible] 成功。（後、大魏興安風俗記）

【成功】[illegible] 成功。

曰：成師。●陳、侯云都（一）。●按：宋の字。

成歯 四字。抜けがはって老後まで残る歯。永久歯。

成説 四字。清、大名の人。字は伯穎、號は香蘇山房。『尚書考辨』『毛詩後編』『禮記偶箋』『周易恒解』（十一）（清）惠棟『詩史』（十二）『墨香居畫識』五。

成事 名詞。●『孝経』『礼記』『左伝』『荀子』『呂氏春秋』『淮南子』『説苑』『白虎通』『論衡』『後漢書』『潛夫論』『風俗通』『抱朴子』『文選』『文心雕龍』『顔氏家訓』『太平御覽』『太平廣記』『冊府元龍』『文苑英華』『李太白集』『杜工部集』『白氏長慶集』『韓昌黎集』『柳河東集』『李長吉歌詩』『昌黎先生集』『李義山雜纂』『東坡集』『山谷集』『後漢書』『晉書』『宋書』『南斉書』『梁書』『陳書』『魏書』『北斉書』『周書』『隋書』『南史』『北史』『唐書』『新唐書』『五代史』『宋史』『遼史』『金史』『元史』『明史』『清史稿』『清史』『説文』『玉篇』『廣韻』『集韻』『類篇』『正字通』『康熙字典』『説文解字注』『説文通訓定聲』『説文新附考』『説文段注撰要』『説文段注訂』『説文解字義証』『説文解字約注』『説文解字羣経正義』『説文解字羣経正義』『説文解字羣経正義

也、物成熟可・孝慈也、(漢書)・(漢書)・孝慈傳上天下太平、五穀成熟、

成熟 ㊀ 十分のこと。又、物事の出来あがつた時期に達すること。上達熟練。(孟林、秦之第十一小説)・達すること。上達熟練。(孟林、秦之第十一小説)・(後漢書、張衡傳)・(後漢書、張衡傳)・(後漢書、張衡傳

曰其自時中又高邪成休、僅王有成績、（後漢）、（後漢）、（後漢）

郡（漢因之。武帝置重。益州、後漢仍曰。蜀郡三國魏郡。於此。晉武帝改。蜀郡。臨。成都縣。蜀國。蜀郡。蜀。成都縣。蜀國。存。湔。湔。蜀郡。蜀郡。南安。蜀。益州。蜀郡。蜀郡。蜀郡。元初元年。置。而屏不。蜀。五代因之。宋太平興國元年。仍隸蜀。益州。鴻法。初。曰。成都府。淳化五年。改。成都。蜀郡。成都府。淳化五年。改。成都。蜀郡。成都府。淳化五年。改。成都。蜀郡

轉鬻、便宜行事之文、近石進斥成敗、總而斷之、無乎而為不可、後郭人立平、大吉。

【成風之功】[illegible]、普遍的它的成功。

莊子、宗師篇中之運斤成風之語、本乃文、[illegible]、[illegible]、[illegible]

世而不免於儒其身著儒學教志相迭化
爲文學而有大儒荀子卿宗師經術凡从
儒聚而講習者皆稱儒荀子儒效篇注儒
字不必成德而能後學者之師所生者成
【成考】30.37 成功考績。【國語、吳語】
今天子不能立無成功而有大罪者也。【韋注】成
成績。30.37 ●成績者。謂成功考績。【左氏、昭二十
年】晏子曰。君之所欲。臣能成之

王、號：號：鄭：鄭：謚は文角、官は鎮山縣監、左議政を贈る。『海東名臣錄』。清、黃均（1814～1879）：246）の室名。

【成鏡軒】[illegible]：明、徐有貞（1420～1479）：626）の室名。

【成親王】[illegible]：清、永理（1746～1805）：146）の封諡。

【成世昌】[illegible]：朝鮮、李朝の人。字は[illegible]、[illegible]、謚は[illegible]。『東文選』、『成侗集』。

【成侗】[illegible]：物事の成就は破壊の前提であるという意。『成侗集』。

【成大心】[illegible]：春秋、魯の人。陶臣の子。字は[illegible]、父に次いで今尹となり、樊子に事へて「左氏」を[illegible]。

【成悅】[illegible]：朝鮮、李朝の人。字は[illegible]、[illegible]、[illegible]、

我 施身自謂也、或說、我、頃頃也、从「戈矛、不、古文垂也、一曰、古文殺字。(廣韻)我、我、己稱、(左子、盡心上)馬牧皆無分於我矣。(注)我、身也。(孟子、盡心上)揭子取鎬我、(注)我、鎬、我鎬、已也。⑩わがかた。うちも。自國。(禮記、奔喪)我人。(後漢書、楊震傳)天算平人、わがまみ。(後漢書、楊震傳)天算平人、暇、日。(注)我、日。●わが、おのれの。④自己に關することをあらはす辭。(詩、小雅、甫田、我田既臧、(春秋、宣、十五)春人踏我西田。●親しきことに冠する詞。わが親愛する所のことば。(集注)我、親也。(論語、述而、鄭玉注)孝也。●固辭。我。●うるる。(紙(10‥4419))二種あり。說文通訓定聲、我、假借爲鎬、(莊子、山木)吾無我、(釋文)我、本作鎬。●にはか。(俄(1‥956))に通ず。(說文通訓定聲)我、假借爲俄。(說文)我、或從、我、頃聲。(廣韻)我、頃也。(6‥11546)、(轉2‥2828)、(6‥11554)に作る。「集韻」我、古作、戚。(康熙字典)我、古文軍、或、●姓(尉友篇)我、見風俗通。(漢書、藝文志)我子、(注)師古曰、劉向別錄云、爲墨子之學。

【我】[wǒ] 一 ㄨㄛˇ 國名に變ずる。四國名。他愛(1‥828)二の例、增韻編、四我愛也、唐、我意、(1‥828)二の例、我愛也、唐、我意、(1‥828)二の例、我愛也、唐、我意、(1‥828)二の例、

たり、したりすること。

【我等】[wo3 deng3] 自分たち。私ども。〔普陀略本行經〕我等人。無有憍慢。

【我人】[wo3 ren2] ●我と人。我相の四名の一に、圓覺の我相に、楞嚴經に、宋祁「我人衆生及與壽命」、唐命記「西域傳」、唐都都聚鬼の名。師郎公答「我子」、新離「我人相」、若日月有為」●(イ)

【我慢】[wo3 man4] 自己をうぬぼれて思い上がること。〔淮山南子・精神〕「我慢者、道之所不入也」、〔後漢書・馬援傳〕「我慢」、〔後漢書・馬援傳〕「我慢」、〔後漢書・馬援傳〕「我慢

[助]我失[目]……自分の目を助長する。[詩]……[注]……[疏]……[傳]我以文……詩を以て文を博める。文は先王の詩書をいう。[論語]……子曰……[疏]……[論語]……[注]……[疏]……[論語]……[注]……[疏]……[論語]……[注]

〔訓〕我鬲者去謂之鍑也。

〔自〕我捐之。〔段注〕……己の得たものを己が失いのであるから惜しむ所はなく捐てるのである。

〔史記〕魏其侯傳〔集解〕魏其侯曰、侯自我得之。自我捐之。無所恨。

〔自〕我得之。〔段注〕……〔通俗編〕博雅、自我得之自、我捐之之同。〔通俗編〕博雅、自、我、之、之、我部略同。我捐、我、自、我、之同。

〔知〕我者其惟春秋乎。〔孟子〕公孫丑下「孟子曰、……自分が自分の値を高くして自分を貴いのであるから、無為自然の道を以て載も貴しとしてのべることを述べたる語。〔老子〕七十二「知我者希、則我者貴、是聖人被褐懷玉。」

知、我者其惟春秋乎。〔孟子〕……

を知るとは唯、此の春秋の書に於てのみのである。孔子が春秋を作り、天子に代つて是非の権をはじめて行つたる書を述べた語。〔孟子〕離婁上「孟子曰、……孔子成春秋、而亂臣賊子懼焉。……孟子曰、……知我者其惟春秋乎。罪我者其惟春秋乎。」

〔史記〕孟荀列傳〔集解〕……

我が多くの人に経験をつつむる者は、夜部も昼間の徳には信種を指し、種は生種の意、列子では民の無為の徳を讃へた語とする。〔列子〕……

……

〔戒〕我以不知知人、則知人者。……

〔戒〕我以不知知人、則知人者。……

〔戒〕我以不知知人、則知人者。

者として行なうべきものの意。「禮記」祭統、下若干一切衆生、初入〔…〕寶珠以信爲本、仁爲主、「觀無量壽經」、「初行菩薩、若信堅固、若中、諸根不具、[illegible]

【戒定】……●梵語の戒を戒に対して智慧を研ぐことを後にするを人を無為の人といいのでこれを戒供養・戒供養・戒定・戒慧・戒供養・戒定・戒慧・戒供養・戒供養の四種が生ずる。乗急戒・戒供養・戒供養の戒は小乗の比丘・戒の人は出家の菩薩の如きものの。乗戒供養・戒供養の戒は菩薩居士・戒供養・戒慧・戒供養・戒定・戒慧・戒供養・戒慧・戒供養・戒慧・戒供養

【宴饗】[illegible]：食物をひかへる禁食する。

【戒鬻】[illegible]：[illegible]。（漢書、史弁傳「臣聞、[illegible]母、淫泆愚惑」）

【戒心】[illegible]：用心。（孟子、公孫丑下）「富在薪水之間、[illegible]」。[illegible]、[illegible]、[illegible]、

如三国書文帝紀注引魏書、戒・戒・戒・

〔集韻〕戔、一曰、戔戔、多也。〔易、賁、戔戔多也〕。❷あまり。〔晉〕(8・1644b)に通ず。〔說文〕通訓定聲〕戔、假借爲殘。〔周禮、地官、鄭人、掌裘注〕殘、猶殘、〔注〕殘、猶殘餘、〔不可殺也〕。〔釋文〕戔、本亦作殘。〔周禮、考工記、輪人〕則是以博爲戔、〔注〕戔、讀如手足胝、胝是以博爲戔、〔注〕戔、讀如手足胝、胝是以博爲戔、〔注〕戔、讀如手足胝、胝

鑑、或佐、之史也、言又在之史也、禮記檀弓曰、父死、何、或敢有他志、注、鑑、記、程義皆語、或作又、**⑥語助同**、（經傳通用者、各語、或、詩助也、詩云保日、以松柏之茂、無不爾或承、言無不爾承也、或語助耳、毫曰、或之言、有也、亦謂語助之有、）

【或】（甲骨文）（金文）（古陶文）（古璽文）（古文四聲韻）

異一は地、支である地の四境を守るの意。しかるに、或では四境を守ることが中心となり、更に口を加えて國とした。國は或字に口を加えたものである。

名義 會意。口と戈とからなる。口は四方の境界。戈は武器。

解字 甲骨文に口と戈とからなる字があり、或字の原形とみられる。字は、口と戈とからなる。口は四方の境界、戈は武器。

字音 呉音・漢音ともワク。

字訓 或は、又は、（『爾雅』釋言）「或は、蓋し、疑辭なり。」（『廣韻』）「或は、疑辭なり。」（『玉篇』）「或は、疑辭なり。」（『玉篇』）「或は、疑辭なり。」（『玉篇

戈部（五—七畫）戦戦戒戒戒

海商群、面大食（宋於戚、因氏焉）。●史記。

戚（ㄑㄧ）：憂也。又為姓。（史記、戚侯）。同上。●集韻：「說文、迫也、或作蹙。」閒體、考工記、總目不徹至無以戚之。戚迫、曲禮子夏問、閒以戚、吾使、毀、（注）戚、促也。●きめ。ちぢめる。（注）戚、促無、族、注、宋陸曰、戚、蹙理也。[三]史記。作「戚」。四類名（集韻）憂、迫也、或作「戚」。イタ、チク。

戚愛[ㄑㄧ ㄞˋ]：もかげ。親しむ者。親戚、親愛の者也。私女也。以私物、公、貴國之公也。

戚愛[ㄑㄧ ㄞˋ]：賢王之於、賢者也、物其之於、戚愛也。（呂覽、求人）。

戚雉[ㄑㄧ ㄓˋ]：宋の人。同文の姓子。●は仲本、宮殿、宋世家、世家、世家、

三十八。

【戚臣】ｓｈｉ ｃｈｅｎ：やぶれこはれてゐること。(太玄経・棘況)「戚臣之間、謂之戚脅」戚脅、明々不可。

【戚戚】ｓｈｉ ｓｈｉ：心配する。(論語・述而)「君子坦蕩蕩、小人長戚戚」

【戚戚然】ｓｈｉ ｓｈｉ ｚｅｎ：(孟子・公孫丑上)「曾子・子思同道而處、曾子之心、子思之心、一也。曾子・子思、師道也、子思、臣道也。曾子・子思、若使易位、則亦然。夫子之於人、有師道三焉、有臣道三焉。其尊卑也、則若天地焉、其親也、則若父子焉。其道也、則若水火焉。水火之道、多於仁者。人皆之、而溺焉。其道也、則若天地焉。天地之道、一言而盡也。其尊也、則若父子焉。父子之道、一言而盡也。其親也、則若水火焉。水火之道、一言而盡也

戚 11596 ユウ 威（6—11571）に同じ。（正字通）威同。

戰 11597 ○カン（集韻）侯軒切 寒 ○ダン（集韻）居寒切 寒

戟 小 11598 カツ ケチ 屑 （集韻）泛黠切 屑 ㄐㄧㄝˊ jiehe

戛 小 11599 ○ほこ。（說文）戛、軍也。从二戈。（集韻）戟、博雅、槍戟、盾也。通作干。

戮 小 11600 サイ 銭（6—12525）の古字。（篇海）銭、古文戮字。

戲 11601 シュク（字彙補）足縛切 屋 姓。（字彙補）戲、姓也。姓氏急戲章注、梁四公子戲鬬。

戟 11602 ジャウ 義未詳。（搜眞玉鏡）戟、在良切。

戰 11603 ソク 賊（6—12526）に同じ。（篇海）賊、同賊。

戟 11604 タク（集韻）竹角切 覺 うつ。なげうつ。戟（6—12340）に同じ。（集韻）戟、說文、擊也。一曰、擿也。或从戈。

戛 11605 カツ 戛（6—11598）の俗字。（字彙）戛、俗戛字。

戟 11606 ○ほこ。（說文）戟、柄の先端に横刃を象出するもの。（集韻）戟、也。也、姓氏。姓氏急戟章注、梁四公子戲鬬。

戟 小 11606 ケキ キク 職 （集韻）記逆切 陌 ㄐㄧˋ ji

戟、むしろ。稽（6—13567）に通ず。（說文通訓定聲）戟、段借爲稽。（漢書、揚雄志上）三百里內戟殿。（注）師古曰、戟、盡也。○物の蓄、戟然。（之）を見よ。○戟（6—11590）に作る。（集韻）戟、或作拮。○戟に作る。（集韻）戟、或作拮。○俗に戟、戟（6—11590）に作る。（字彙）戟、俗戟字。

名義 ノリ。つぶ。

解釋 會意。百と戈との合字。百は首。首を切り落す文の意。

戟 高くと上つて蓄をうつ。（白居易、草堂記）蓄戟高擎、蓄、戟、拔搏。

戟 兄の蓄をいう。あによめ。（漢の蘇武が匈奴の地に捕虜となつて居た時、兄の蘇武が客に行き餞を喫した。（蘇武、詩）蓄戟、蓄、戟、拔、搏。

戟 戟、蓄、戟、拔、搏。

戟 戟、蓄、戟、拔、搏。

戟

華大字典・戟、本作𢦏。（華嚴經音義、上）戈形、物名、戟形、物名、（華嚴經音義、上）

（周禮・考工記・冶氏）戟廣寸有半寸、内二之、胡四之、援五之。（注）今之鎌戟也。●（太平御覽・兵部）張揖曰、戟、盾也。（說文通訓定聲）戟、別義、捷之、羌、戟、盾也。按、釋名釋兵、狄面短者曰子盾、車上所持者也。●（太平御覽・兵部）戟、盾也。（注）抵、徒手、下、圍、射如戟形。（會箋）戟之樓枝、向上、上、無、欲、打人、則必立其手、手立射、屈如戟之援。●さ（本草・大戟、釋名、時珍曰、其苗、乳、青便、人、僵蠶、州、論、石、蟲、戟、喉、痛、●古文注。

闕注 會意。戈と戟の省文との合字。枝のある兵器。

戟 【戟衣】ほこにかぶせ掩うたぬの。（劉禹錫・詩）

【戟衣】ほこにかぶせ掩うたぬの。（劉禹錫・詩）

【戟支】ほこ。（後漢書・馬援傳）

【戟刺】ほこをかける具。（唐書・柳公權傳）

【戟架】ほこを立てかける具。（唐書・柳公權傳）

【戟手】ほこのさきのこと。（鮑照・詩）

【戟手】ほこのさきのこと。（鮑照・詩）

【戟手】ほこのさきのこと。（鮑照・詩）

【戟手】ほこのさきのこと。（鮑照・詩）

【戟手】ほこのさきのこと。（鮑照・詩）

【戟】ほこの刃の有る方。（後漢書・馬援傳）

【戟】ほこの刃の有る方。（後漢書・馬援傳）

【戟】ほこの刃の有る方。（後漢書・馬援傳

戮 11611 テイ（字會補）逐帝切 圖

有殺氏は國の名。（字會補）戮、有殺氏、國名。

戚 11612 カン コン（餘文）口含切 圖

●ころす。（無此字典）戚、或作○。（字彙補）戚、同上。

字彙 字形、集韻は戚に作る。（集韻）戚、或从含。

𢦏 11613 ヤキ ジャク 義未詳。（漢典玉篇）戟式切

逆切。

九畫

戟 11614 シュン 集韻 質韻

戟10・33797）に同じ。（字彙）戟、同、畫。

戟 11615 ジキ 集韻 試吏切 圖

□●兵器の名。（說文）戟、闕。

字彙 小 ■ 从戈从音。（段注）无徐如此、小徐無此从戈从音、有戟从此、古戟字、古之戟役、皆戟干戈、十四字。云云、非許語也、其義其音、蓋皆闕矣。（說文通訓定聲）戟、按、兵也、从戈、意省聲。●はに、ねばつち。（通志 51.68）に通ず。（說文通訓定聲）戟、段借爲、埴。（書、禹貢、厥土赤埴、傳文、埴、黏土。（徐、埴、黏土皆讀日）。

檄、昭言試（說文、埴、音義同。）●あつまる。（易、坤、無疆、傳文）。

戟 11616 カン コン 集韻 苦含切 圖

□●ゴン 集韻 胡感切 圖

字彙 小 ■ 戈並聲。●かつ。うつ。ころす。（說文）戟、刺也、从戈、倝聲。●かつ。（集韻）戟、一曰、勝也。（說文通訓定聲）戟、段借爲、戡。（書、西伯戡黎序）作、西伯戡黎。（孫星衍、今文尚書）西伯戡黎、（孫星衍、今文尚書）西伯既戡黎、（說文、作、戡、亦勝也、（書、戡、殺也、（書、蔡侯無道、殺之而不、取其國、故云、戡、不、云、滅也。（法言、重黎、劉寶南陽、注）戡、取也。●埴（8・52360）に通ず。（書、西伯戡黎）西伯既戡、黎。（爾雅、釋詁、堪、勝也、（法言、重黎、劉寶南陽、注）書、同上。（說文通訓定聲）戡、字彙作、勘。□●まさ。（韻會）戡、勝也。●すこしくきる。（廣韻）戡、少研磨斉傳）顧詩、不、少、戡、（集韻）戡、或从手。

戡 11617 シン 集韻 面立切 圖

ヒン

字彙 小 ■ 兵器をさきめる。（說文）戰、戰兵也、从戈目聲。（詩、目、戰、戰干戈、（左氏、宣、十二）戰、戰干戈、（注）戰、藏也、（左氏、襄、二十四）兵不、戰、必取其旅、（注）戰、藏也。●をさめる。やむ。やめる。（廣韻）戰、敵也、止也、（詩、小雅、鶴鳴、戰、其左翼、（傳）戰、敵也。（漢書、武五子傳贊）其兵、戰、大也、戰、必自禁、（注）師古曰、戰、敵也、（南史、虞寄傳）顧詩、不、少、戰、雷霆。●やはらげる。安んずる。（詩 8・27569）、（漢、7・18450）に通ず。（說文通訓定聲）戰、段借爲、鬱、（孟子、梁惠王下）思、戰、用光、（集注）、戰、安也、●あつめる。集（11・41974）に通ず。（說文通訓定聲）戰、段借爲、集。（爾雅、釋詁）戰、聚也、（詩、周頌、時邁）載戰干戈、（傳）戰、聚也、●さす。（詩 5・12119）に通ず。（說文通訓定聲）戰、段借爲、插。

西周期、乃是殷殺之業。

【戡敵】ヒン テキ 國家の危難をたひらげさせる。

【戡亂】ヒン ラン 亂をしづめたてから。（唐書、陸贄傳）興元戡亂功、謝、元、子、貞、力、義、有、銘。

【戡暴】ヒン ボク 暴亂をたひらげる。義暴。

【戡亂】ヒン ラン 亂を平定する。（劉蛻、謝命論）而或者載、漢武之雄、謀、英、書、運、書、在、神、功、聞、孔、墨之、聖生、謂、英、書、運、書、在、神、功、聞、孔、墨、之、聖、

兵保大定功安民和衆豐財者也。（詳「戰勝」に）。をまりやはらぐ（魏志）司馬懿傳、「士大戰大逆流行」。

【戰翼】に。鳥が羽をさめて飛ばないこと。特して、敵に対して降服する喩。（詩小雅、鶴鳴）「鶴鳴九皐、聲聞于野。魚潛在淵、或在于渚。樂彼之園、爰有樹檀、其下維蘀。他山之石、可以攻玉。」（後漢書、馮衍傳）「蓋聞、天地之間、物有萌芽、人有性命、是以聖人因時而興、因人而成、故能成其大業、而名傳于後世。今天下之人、皆知秦之無道、而不知其所以失天下也。……秦之所以失天下、而陳涉、項羽、劉氏、得之者、……蓋聞、……」。

【戰鏡】に。●鏡をきめる。●特に、志を持て。時をまつ。（宮崎市定紀論「戰國時代」、「戰國時代」、「思想」、「戰國時代」、「戰國時代」、「戰國時代

戩 11636 カ（集韻）居何切 **戲**

●くび。（集韻）戩、博雅、戰戰、戰也。●或は 戲（8－11573）、狩（7－19767）に作り、通じて利（6－14658）に作る。（集韻）戩、或省、亦从刂通作利。

戲 11637 ヨセン（集韻）子洩切 **戲** 日一ヒ

戲 小 ■ 戲、滅也。从戈音聲。（說文）

戲 小 ■ 戲、滅也。从戈音聲。（說文）

■ 戲（段注）滅者、盡也。盡之義兼美惡。凡盡皆得云云。滅、亦皆得云云。此戲字、俾爾戲敉、朱子曰、戲、盡也、敉、弛也。此注甚合。古義、猶雅、覆、敏、幅也、此訓樣本之幅覆、天保之戲敉、爸阿之敉幅、皆得云云。幅覆、天保之本不訓幅、與幅連文、則可訓幅覆、敉、破、本不訓幅、與敉幅連文、則可訓幅敉、敉、破、矣、皆於義不合。攜字、一字以兼二義者、毛公傳之曰、敉、幅也、而覆、穢也、蕪、小也、則不一曰敉、幅也、而覆、穢也、蕪、小也、皆得云云。敉、幅也、而覆、穢也、蕪、小也、あげ、ぶ、みな。（詩、小雅、天保、傳、爾雅、敉、幅也。（集傳）戲、盡也。●さいはひ（爾雅、釋詁）敉、幅也。（詩、小雅、天保、傳、爾雅、敉、幅也。●或は 戲（8－11560）に作る。（集韻）戲、或作、敉。●敉（8－11560）に通ず。（集韻）敉、資始數、商（詩、魯頌、閟宮）實始翼、商（詩、商頌、殷武）。●（集韻）敉、爾雅、覆、敏、幅也、孫炎說、ユキ。

戲 11638 チツ 通 敉（9－22508）に同じ。（正字通）敉、同敉。

戲 11639 セツ（集韻）所結切 **戲** 日一セ

戲 小 ●たつ。きる。（ひたちきる。切断する。もと截（6－11563）に作る。（說文）截、斷也。从戈音聲。（說文通訓定聲）截、字亦作戲。（中華大字典）截、本作戲。（爾雅）截、字亦作戲。（段注

分別內用外用、保惜引見、講旨記名、以上事同、知分別注撰、師於覺月、不驗、何事錄出、五缺次補、任用一人、編入選官、單任候揀、投供驗到、本月初一日驗到、如數取到部人用、

【戴鼠】ｔａｉｓｈｕ ｎｕｒｉｎｕｍｉ 源氏竜代の實方。鈷切119・63538 ●同上（『日本史籍』源氏正記、淡氏上）滿仲書請、武臣藤原夫子、次に可無利刀、乃召之、鼠前良宗、鼠鉄六匁、得二刀、自戴鼠、日隈廻傳之子孫、

【戴満】ｔａｉｍａｎ 満鼠

【戴敵】ｔａｉｔｅｋｉ ●ことばのりょうきょく。巧に思案する。『書・金縢』惟敵書曰、惟若王侯、投供驗到、『後漢書・祭祀志』惟敵察民所向、『晉書・禮樂志』惟敵、●ことばのりょうきょく。巧に思案する。『書・金縢』惟敵書曰、惟若王侯、投供驗到、『後漢書・祭祀志』惟敵察民所向、『晉書・禮樂志』惟敵、

【戴敵】ｔａｉｔｅｋｉ 敵戴

【戴鼠】ｔａｉｓｈｕ ｎｕｒｉｎｕｍｉ 鼠戴

【戴満】ｔａｉｍａｎ 戴満

十一畫

𢼸 11648 シプ

籀文 古文戟。

戲 11649 ヨウ (集韻)鈴封切 𢼸

武器。戲改。(廣韻)戲 戟戟兵器。(集韻)戲 兵器。

𢼸 11650 ガク ゴウ (集韻)牙切 𢼸

ほこ。きき。或は戟6・11586)に作る。(集韻)戲 戟。戟鋒刃之戟。或省。

戲 11651 ヨウ (集韻)鈴封切 𢼸

(集韻)戲 戟。

戱 小 (集韻)戲 戟。

戱 11652 サヴ (集韻)胡陝切 𢼸

(左氏、文・十八)高陽氏有才子八人、云云。檮戭。(釋文)戭、(漢書作)敺、韋昭曰、震反。国震いたて。(集韻)戭、長笛。国人名。国の●に同じ。(左氏、文・六)天之(篇)賈季古才子。

戱 小 (集韻)戲 戟。

戱 11653 セツ (集韻)戟 戟。

戱 11654 コ

戟4・11639)の本字。(玉篇)戱 戟本字。

戱 11655 ヨク (集韻)力切 𢼸 ヨクヒ (集韻)鎮書切 𢼸 ヨウ (正韻)万敖切 𢼸

(集韻)戲 戟。

戱 小 (説文)戲、殺也。从攴麥聲。(禮記、月令)季冬月祭獸戮。(注)戮、猶殺也。

(史記、武帝紀)有 顔戮。(晉書、衛瓘傳)得 執戮 戮。●はずかしめる。はずかしめ。(廣雅、釋詁三)戮、辱也。(左氏、文・六)天之(篇)賈季 古才子。

戱 小 (集韻)戲 戟。

戱 小 (説文)戲、長槍也。从攴賁聲。●人名。(廣韻)戲 戟。檮戭、八元名。(左氏、文・十八)高陽氏有才子八人、書紀、陳戭、檮戭、大臨、尨降、庭堅、仲容、叔達。国●長いほこ。(集韻)戭、長笛。国●はこの類。(集韻)戭、子鳳。●人名。国の●に同じ。戭(6・12356)に通ず。

刑戮、通語耳、亦含輕重也。(史記、武帝紀)有 顔戮。(晉書、衛瓘傳)得 執戮 戮。●はずかしめる。はずかしめ。(廣雅、釋詁三)戮、辱也。(左氏、文・六)天之(篇)賈季 古才子。

戱 11653 セツ (集韻)戟 戟。

戱 11654 コ

戟4・11639)の本字。(玉篇)戱 戟本字。

戱 11655 ヨク (集韻)力切 𢼸 ヨクヒ (集韻)鎮書切 𢼸 ヨウ (正韻)万敖切 𢼸

戮 小 (説文)戮、殺也。从攴翏聲。(禮記、月令)季冬月祭獸戮。(注)戮、猶殺也。

(史記、武帝紀)有 顔戮。(晉書、衛瓘傳)得 執戮 戮。●はずかしめる。はずかしめ。(廣雅、釋詁三)戮、辱也。(左氏、文・六)天之(篇)賈季 古才子。

(国語、晉語七)戮 辱也。(左氏、文・六)天之(篇)賈季 古才子。

(国語、晉語七)戮 辱也。(国語、晉語七)

(国語、晉語七)戮 辱也。(国語、晉語七)

(国語、晉語七)戮 辱也。(国語、晉語七)

之戮」力、以興(興有業)請命、(論語、憲問)「魯伯文、曰、戮力同心。」(禮記、檀弓)「戮力以事君、(國語、魯語)多怨」(史記、秦本紀)「樊于期、秦人、亡、秦王捕之、聞其賢、請見、樊于期曰、今秦待我、若待戮人、(戮人、罪人)」(漢書、高帝紀)「戮力、(師古曰、戮、勉也、言勉力共事也)」(後漢書、馮衍傳)「戮力、(注、戮、勉也)」(後漢書、馮衍傳)「戮力、(注、戮、勉也)」(後漢書、馮衍傳)「戮力、(注、戮、勉

【戰記物】名詞。戰記的書物。保元物語、平治物語、源平盛衰記、太平記、平家物語的類をいふ。

【戰慄】名・自サ。恐れののくこと。〈書言字考節用集〉

【戰慄】名・自サ。恐れののくこと。〈書言字考節用集〉

【戰機】名。戰爭の起る機會。〈李昌平、秋日〉

【戰機】名。戰爭の起る機會。〈李昌平、秋日〉

【戰鬼】名。戰場の鬼。〈文明本節用集〉

【戰鬼】名。戰場の鬼。〈文明本節用集〉

【戰袋】名。戰に乘つて敵人を欺く方法。〈太平記、一、六、大塔宮〉

【戰袋】名。戰に用ひる入公目。〈戰場名例〉〈唐書、太宗紀〉「貴妃嘉偶、禍兵納種、志以戰袋、結髮爲期。」〈白氏文集、李夢得、秋日〉

【戰袋】名。戰に乘つて敵人を欺く方法。〈太平記、一、六、大塔宮〉

【戰袋】名。戰に用ひる入公目。〈戰場名例〉〈唐書、太宗紀〉「貴妃嘉偶、禍兵納種、志以戰袋、結髮爲期。」〈白氏文集、李夢得、秋日〉

【戰場】名。戰を行ふ場。〈文明本節用集〉

【戰場】名。戰を行ふ場。〈文明本節用集〉

【戰況】名。戰の有りさま。戰爭の狀況。戰狀。

【戰況】名。戰の有りさま。戰爭の狀況。戰狀。

【戰鼓】名。戰に用ひる太鼓。〈軍事上、戰鼓〉「李白、征夫行詩、旗旆縱橫向道、戰鼓喧山欲動例、〈詩紀、岑參、送王相公赴安西〉「雨山夜、木作車輪來海取、蓬蒿、戰鼓」

【戰鼓】名。戰に用ひる太鼓。〈軍事上、戰鼓〉「李白、征夫行詩、旗旆縱橫向道、戰鼓喧山欲動例、〈詩紀、岑參、送王相公赴安西〉「雨山夜、木作車輪來海取、蓬蒿、戰鼓」

【戰後】名・副。戰爭の終つた後。〈張商、寄弟詩〉

【戰後】名・副。戰爭の終つた後。〈張商、寄弟詩〉

【戰後經營】名・サ。戰爭終結後、國力の疲弊を挽回する爲の政治上經濟等あらゆる方面に力を注ぐこと。

【戰功】名。いくさのてがら。戰爭のてがら。軍功。〈軍事上、戰功〉「夏侯、自動、軍功已多。〈後漢書、袁紹傳、動例、戰功〉

【戰功】名。いくさのてがら。戰爭のてがら。軍功。〈軍事上、戰功〉「夏侯、自動、軍功已多。〈後漢書、袁紹傳、動例、戰功〉

【戰攻】名・サ。攻撃。〈軍事上、戰攻〉「攻撃、奇兵」

【戰攻】名・サ。攻撃。〈軍事上、戰攻〉「攻撃、奇兵」

【戰國】名。戰を行ふ國。〈戰場名例〉〈唐書、太宗紀〉「不宜、勝而勝也。〈後漢書、袁紹〉明主尊理、兵甲愈起、辭責使戰、戰攻不息。〈後漢書、袁紹〉故明主

【戰慄】名・自サ。ふるへ恐れること。もののきおそれること。〈書言字考節用集〉〈史記、荀況傳〉「秦人、若虎狼之國、殺戮無辜、而以威脅之。楚人以習戰攻、以威脅。」〈荀子、議兵〉「秦人、若虎狼之國、殺戮無辜、而以威脅之。楚人以習戰攻、以威脅。」

【戰慄】名・自サ。ふるへ恐れること。もののきおそれること。〈書言字考節用集〉〈史記、荀況傳〉「秦人、若虎狼之國、殺戮無辜、而以威脅之。楚人以習戰攻、以威脅。」

【戰獲】名・サ。戰爭のえもの。俘虜。〈左氏、定九年、用戰獲例〉〈注〉若有戰獲、夫勿無知之性。例

【戰場】名・自サ。戰を行ふ場。〈文明本節用集〉

【戰動】名・サ。戰のいきを、戰爭の動功。戰功。〈拾芥抄、軍事部〉「ひとつはけしくたたかひ、戰動、軍功」

【戰動】名。〈軍說〉王公諸侯、謂例、武、鎮、鎮、鎮

爲一（史記・秦始皇紀）人人自安樂、無戰勝之志。郭注傳、字對日、夫矢無二目、日戰勝（荀子・彊國篇）。

爭右者及其車、其志無二目、其心無二耳（荀子・議兵）。

爭右者及其車、其志無二目、其心無二耳（荀子・議兵）。

戰勝（ヤ）ヤ　戰勝に於て船を以て敵船等に

かける保障料をいふ。

戰時利得（ヤ）ヤ　戰時に於て船舶等に

收益に對する課稅。

戰船（ヤ）ヤ　いくさぶね。（事物起原、戰陣攻

城、戰船）。

戰舟（ヤ）ヤ　墨子曰、公輸自魯之楚、爲舟

戰之具、楚王說之（墨子・魯問）。

戰時保險料（ヤ）ヤ　戰時に於て船舶等に

かける保險料をいふ。

戰時利得稅（ヤ）ヤ　戰時に於ける過大の

戰時（ヤ）ヤ　戰時に於て、戰場に於て。

戰時禁制（ヤ）ヤ　戰時に於て敵船に應

するやうに案配された國家の各種の組織。

戰時稅（ヤ）ヤ　戰時に於て勝俸空軍がと

る平時と異なる兵員、或は部隊の組織。

戰時禁制品（ヤ）ヤ　公法上又は條約

上、戰時交戰國に輸出することを禁止する物品。

戰時保險料（ヤ）ヤ　戰時に於て船舶等に

かける保險料をいふ。

戰時利得（ヤ）ヤ　戰時に於ける過大の

收益に對する課稅。

戰舟（ヤ）ヤ　墨子曰、公輸自魯之楚、爲舟

戰之具、楚王說之（墨子・魯問）。

戰車（ヤ）ヤ　戰時に用ひる車。兵車。

戰場（ヤ）ヤ　戰時に於て、敵と相戰ふ所。

戰時（ヤ）ヤ　戰時中、時中の意。（大日本帝

國憲法第二十一條）。

戰時禁制（ヤ）ヤ　戰時に於て敵船に應

するやうに案配された國家の各種の組織。

戰時稅（ヤ）ヤ　戰時に於て勝俸空軍がと

る平時と異なる兵員、或は部隊の組織。

戰時禁制品（ヤ）ヤ　公法上又は條約

上、戰時交戰國に輸出することを禁止する物品。

戰時保險料（ヤ）ヤ　戰時に於て船舶等に

かける保險料をいふ。

戰時利得（ヤ）ヤ　戰時に於ける過大の

收益に對する課稅。

戰車（ヤ）ヤ　戰時に用ひる車。兵車。

戰場（ヤ）ヤ　戰時に於て、敵と相戰ふ所。

戰鬥（ヤ）ヤ　戰鬥に用ひる車。（事物起原、戰陣攻

城、戰車）。

戰鬥（ヤ）ヤ　戰鬥の用に供する

【戰鬬】ㄓㄢˋ ㄉㄡˋ　名。同上。漢書、王莽傳：「莽以……戰鬬文書，諸……」

【戰船】ㄓㄢˋ ㄔㄨㄢˊ　名。戰艦。（晉書、文帝紀）「……將帥以……戰船……」

【戰場】ㄓㄢˋ ㄔㄤˇ　名。戰鬬之場所。（漢書、王莽傳）「……戰場……」

【戰鬬】ㄓㄢˋ ㄉㄡˋ　名。同上。漢書、王莽傳：「……戰鬬

【戰伐】[illegible] たたかひうつ。攻伐。（史記 荀卿列傳）「[illegible]春秋 勾踐歸國外傳 子胥力諫勾踐伐元 [illegible]」「[illegible]」「[illegible]」「[

之義者也。

【戰如風發、攻如河決】（『戰如風發、攻如河決』）『戰』字は風の發するやうに迅速に、攻撃は河の決するやうに一氣にする。（三略・上略）家識曰、良將之統軍也、知己而治人、揆惡而除患、士力日新、戰如風發、攻如河決、敵其奚可望而不可、當其奚可下而不可勝、以身先人、故其民爲天下雄。

戲 11668 ギ 戲（6・11681）の俗字。（正字通）戲字。

戲 11669 サク 戲（6・11667）の本字。（正字通）戲・戲字。

戲 11670 ショク 戲（6・11667）の譌字。（龍龕手鏡）戲・戲字之譌。

戲 11671 ソウ 增（6・24017）の俗字。（正字通）戲・戲字。

戟 11672 キキ 域（8・5158）の古字。（集韻）域・古作・戟。

戮 11673 ホツ 許（10・35917）の籀文。（說文）許・籀文許从二戟。

戲 11674 キツ 鳩（7・20694）に同じ。（集韻）鳩・或从戈。

戲 11675 セウ 紹（13・42376）の古字。（字集補）戲・古文紹字。

戲 11676 シュン 戲（10・35792）に同じ。（字集補）戲・同・蕭。

戲 11677 カク 義未詳。（搜眞玉鏡）戲・音角。

戲 11678 シン 祇（4・2560）の俗字。（正字通）熟・俗祇字。

十三畫

戲 11679 キク 戲（集韻）古切 屋

戲 小 11680 バン マン（集韻）古忽切 **戲**

やいば。（集韻・戲）刃也。

㊀キ（集韻）有義切 **戲** 一 ヨイ

㊁イ（集韻）於宜切 **戲** 支

㊂コク（集韻）高何切 **戲** 歌

㊃サ（集韻）子馬切 **戲** 麻

㊄ゲ・ギ（集韻）魚巳切 **戲** 紙

戲 小 11681 ●**たはむれる**。②**秋笑して興**ずる。（說10・35510）に通ず。（說文通訓定聲）戲、假借爲謔。（禮・坊記）國門之內、戲而不謔。（注）戲、謂擽手言笑者也。㊁**あそ**ぶ。（張衡・東京賦）清戲躍鱗魚。（注）娛目、戲、游也。㊂**たはけ**る。（說文）戲、戲、弄也。㊃**ふざけ**る。（國語・晉語九）請與之戲。（韋注）戲、角力也。㊄**技**を演ずる。（孔子家語・相魯）孟僖侯備戲下前。●**たはむれ**、なぐさみ、あそび（戲走、蘇則傳）以獲戲、多殺、羣史、（晉書・夏侯傳）謂曹・海賓・能殫・水戲・乎。●**真技**。（漢書・賈鼂傳）詔能・角抵諸戲。（晉書・王戎傳）於・是武・陵・戲・戲。●**はた**・しまし の。（說文・戲、三軍之偏也、从戈虛聲。（段注）史・漢・項羽紀高帝紀皆曰、諸侯・軍・戲下。各就・國。師古曰、戲、軍之旅號也。●**武器**の名。（說文・戲、一曰、兵也。（段注）一說、兵械之名也。（正字通）戲、左傳、楚成得臣、與晉文公・遇曰、請與・君子・戲。（注）戲、武器也。箭・言以兵・相見也。●**つき**る。歇（6・10241）に通ず。（說文通訓定聲）戲、假借爲歇。（方言・十・戲、怒也、齊曰・戲。●**いかな**し。（方言・六・戲、怒也。（廣雅・釋詁・戲、怒也。●**はなこと**ば。（廣雅・釋詁三）戲、施也。●**のり**。ただしい。（說文通訓定聲）戲、假借爲義。（說文通訓定聲）戲、假借爲嬉。（方言・十・戲、戲也。（注）戲、謂擽手言笑。（禮・坊記）國門之內、戲而不謔。（注）戲、謂擽手言笑者也。（張衡・東京賦）清戲躍鱗魚。（注）娛目、戲、游也。（說文

9に同じ。淺文通訓定聲）**敷**（說文解字）**𢿱**（集韻）**𢿱**（廣韻）**敷**（玉篇）**敷**（正韻）**敷**（字彙）**敷**（同上）**敷**（說文）**敷**（玉篇）**敷**（廣韻）**敷**（集韻）**敷**（類

輔が出でて海鹽七縣の二院に本づいて別に派を作す。樂器も絃樂管樂を增し、之を宮調といひ、次第に崑腔に代り、清の乾隆末年より陝西・湖北等の土戲が中央に進出し、崑曲の勢力衰退し、現在の京劇の基礎となり、地方の土戲も崑腔を採用して花部と呼んだ。花部は時好に投じて次第に勢を得、陝西より發した西皮調と湖北より發した二黃調が最皮黃調と稱し、其の後、清末以來、調は全國に成はびこる京調といひ、現今の京劇の代表物となつた。其の曲は節奏が文學的情趣は低いが、而して明代の戲文は、大都良曲を以て演ぜられた。現在南曲は蘇州の極に達して、陽腔も南は福建・廣東にまで、北は山西・陝西に進出し、餘姚腔は紹興・寧波・蘇州・杭州・上海・南京・蕪湖・揚州・鎮江・常州・蘇州・無錫・常熟・崑山・太倉・嘉興・湖州・杭州・紹興・寧波・台州・溫州・福州・漳州・廣州・潮州・梅縣・海陸豐・海南島・臺灣・安南・暹羅・緬甸・馬來・爪哇・呂宋・日本・朝鮮・琉球・印度・土耳其・埃及・墨西哥・秘魯・巴西・ブエノスアイレス・ハバナ・ロンドン・パリ・ベルリン・ローマ・ニューヨーク・ロサンゼルス・ホノルル・ハワイ・ロンドン・ロスアンゼルス・ホノルル・ハワイ・ロンドン・ロスアンゼルス・ホノルル・ハワイ・ロンドン・ロスア

【戴遂子】hāi suì zǐ pǔ. 倡優。

【戴嬉蟻】hāi xī yǐ. 紹別は遊ぶ仲間。一揚州書助編『圓定之八』藤州州長。戴嬉蟻。

【戴牌子】hāi pái zǐ. 演劇の藝題を書いたびら。

【戴甲】hāi jiǎ. 書名。一冊。民國。大東書局編刊。

戴 11684

タク　（篇海）敕角切　覺。

ダイ　（集韻）丁代切　隊。

（篇海）敕角切　覺。

（篇海）敕角切　覺。

（篇海）敕角切　覺

丘衢に流帰し人に教ふるに自ら慧く母れを以て第一義とす。自ら霊性と號する。著に太極圖說入文道心說・近思錄補注・朱子詩解・生業孝養補注がある。

【戴浩】?‥?‥ 明の人。字は伝聖。号は魁。水東の弟。官は歳用の守。後、家に帰して隠居し、上疏して自ら劾する書を後世に留る。著に甄菴詩稿がある。(明史二百八十一)(姚鼐同明史二百九十二)(姚鼐同明史二百九十二)(姚鼐同明史二百九十二)(姚鼐同明史二百九十二)(姚鼐同明史二百九十二)

【戴鍔】?‥?‥ 清、奚樂の人。字は芭瑞。書に巧。

【戴鍔】?‥?‥ 明、台州太平の人。字は徳文。成化の進士。官は兵部主事・職方郎中・浙江右参政に至る。著に奏議詩稿がある。(四庫提要、一百九十二)

【戴鍔】?‥?‥ 明の人。字は時興。號は静山・紫谷。官は太和知縣・後博士・国子監祭酒・南京吏部尚書・太子少師・謚は恭簡。著に紫谷集・静山集・戴恭簡集・国子日記・日知録・日知録・日知録

[明史稿、二百六十七]・[國朝獻徵、八十五]

(明人小傳、二)○明詩綜、十六 ●●(巡撫の)

○明詩綜、十六 ●●(巡撫の)

○明詩綜、十六 ●●(巡撫の)

人。少して婺源の江友に従学し、總經制度名物及び排歩天象に精通し、萬橋の傳注及び設文等の書を究め、愛学を尚ぶ。調詰を好まず、館閣より義理を集ね、實事を是とし、家に儲才多し。四庫著に詩經、禮記、孟子、論語、孝経、爾雅、性吉士を授けられる。乾隆四十二年没、年五十五。著に詩經、禮記、孟子、論語、孝経、爾雅、性理字義疏證、方言疏證、原善、原象、句股割圜記、策算簡明、孟子字義疏證、儀禮正譌、原象、句股割圜記、策算簡明、孟子字義疏證、儀禮正譌、孟子字義疏證、九章算術細草圖說、勾

れること及び、王貴、逆を作し、謂て害せられるや、趙は謂て官を辞されられ、郭が決せられて後、南書郭が上書して官を辞されられ、郭が決せられて

【戴公】[ㄊㄞˋ ㄍㄨㄥ]　清、月徒の人。字は蘭郎、號は紹新、遷光の人。著に紹禮堂集、聽鶯山館文鈔、聽鶯山館詩鈔。

【戴弼】[ㄊㄞˋ ㄅㄧˋ]　烏の名。さいたたき。戴勝(28)の項を参ら。八戸城、熱之東北、紹興の間。

【戴逵】[ㄊㄞˋ ㄎㄨㄟˊ]　晉、剡の人。字は安道。人物を鑒て、書て絹、財物を贈られた時、絹千匹を受て、書を絹に送げ去られた。絹を以て行つて殘りの絹七匹を以て酒を飲ませ、絹を以て行つて殘りの絹七匹を以て酒を飲ませ、絹を以て行つて殘りの絹七匹を以て酒を飲ませ、

國老人官は御博士に擬せられ、著に『尚友錄』十八巻。

戴以恬 [1811]‥‥‥清の人。熙の弟子。字は用伯。號は醇齋。

戴有燾 [1811]‥‥‥清。休寧の人。嘉慶に進士。[1811]‥‥‥清。[1811]‥‥‥清。[1811]‥‥‥清

侯に封ぜられ、淮南内史となり、後、高平王守に徙る。淮南内史、四十二年、卒。

【戴村壩】清、なかせきの壩。山東省泰山縣の東の四里。明の永樂十年、戴建建つ。天順年、知州の戴宗周、増築す。嘉靖元年紀建つ。山東、兗州府、東平州、戴村、なお水故跡所、經也、水名。明、分上老人白英策、堯壩於紀、橋を玉里、汶水に導く。馬壩、馬西壩、南紀、胡今、宣里、汶村壩。

【戴泰】1917/1777　明の人。字は泰伯。徳進を以て召に徴され、和州の知となり、清白を以て稱せ

【戴大有】1917/1777　清、杭州の人。字は養素。

【戴大賓】1917/1777　明、善田出の人。字は賓侯、正德中、起到第に補せられ、對理の兄の子を養ふ。理、之を養育さえず大賓、伴行して免るる得。（明詩綜・戊十一）

【戴第元】1917/1777　清、大興の人。號は眞庵。嘉慶中、起到第に補せられ、官は太僕寺少卿、弟均元、長子小字、子衛等と輔佐し、時人、西江の四戴と稱す。（國朝畿輔詩徵、九十三）

【戴頂兒】1917/1777　清代、帽子の上に位階を表はす。（明史・輿服志・冠帽・星子・輔・冠頂・朝冠・喜慶四年紀・向如等等・供戴・紅帽・結頂・冠帽・冠・冠・冠

截流停發明。義例一則。諸篇書。而繕得。其讀。是故墨道可名之曰。漢學。戴震師傳鬼。漢學。而非。宋學。

十五畫

【戲】 11686

キ（廣韻）許義切 支

わらひあそぶ。（廣韻）戲。相笑之兒。

【𢦏】 11687

ヤク 義未詳（搜神玉篇）鼠。吾聞。

【𢦏】 11688

シ 義未詳（能篇字鑑）鼠。吾聞。

【戴】 11690

タイ（通韻）作戴。

版6 11695の本字。（正字通）戴。或省。

十六畫

【戴】 11691

識10 35974に同じ。（韻會）戴與。孟同。

【戴】 11694

シュン 義10 33797に同じ。（餘文）戴。同。義。

十八畫

【戴】 11695

グク（集韻）權切 𠬝

●ほこの類。（韻11 41073）に同じ。（廣韻）戴。戟。（集韻）

戴。戟屬。或从戈。●通じて鞏（6－23747）に作る。（正韻）戴。或省。戈作。鞏。書。鄒魯。一人兒。鈌。鞏立。西塗。

十七畫

【戚】 11692

ル（字彙補）許伽切 支

武器の名。（字彙補）戚。兵名。

【戚】 11693

ケ（字彙補）五可切 歌

十五畫

【戶】 11696

コ（集韻）後五切 麌

戶 小篆 戶 古文 戶 籀文 戶 隸書

戶。とびら。片一方。家の戶口。家の戶口。（廣韻）半門曰戶。象形。屋。古文戶。（釋名）釋宮室。戶。護也。所以護護閉塞也。一切經音義十四。一扇曰戶。兩扇曰門。又在。於室室曰戶。在。於室庭域。曰門。（玉篇）尤急備。時。排。戶入。●とくち。室の出入口。（詩）

戶部

戶部

雞風。七月八月在宇。九月在戶。●かどぐち。家宅の出入口。（老子。四十七不出。出戶知天下。●物の出入口。（長沙書簡）鼻孔。鼻戶。●あな。（韻。月令。蟄蟲咸動。啓戶。始出戶。（淮南子。時則訓）。●へや。（詩）。鳶。焦仲卿妻。作。府吏堂無。聲。再拜。進。跪。白。三百戶。（後漢書。姚松。）。●いへ。家族。（易。松）其。邑人。三百戶。（後漢書。姚儀志）。●民。（晉書。燕容德載記。或百家合戶。或千十戶。（魏書。崔浩傳）。●郡。（晉書。食貨志）。天下高貴。奮等第高下。二年。定。戶。●ひと。住民。人民。（唐書。姚崇傳）。溫戶。強。（劉詩。洛陽。宛魚書至。江村雁戶。）●特定の職業に従事する集。（宋史。食貨志下二）其戶。●ともしび。ともる。（集韻。廣韻。）。●おやのみ。（集韻。）。●ひとつ。（韻。）。●ひとりの。（集韻。）。●ひとつ。（左氏。宣。十二）屈。（注）。止也。（左氏。宣。十二）屈。（注）。止也。（漢書。王莽傳）。之。（注）。闌。（注）。師古曰。戶。止也。●飲酒の種。限。上百。下戶。（元稹。春游詩。酒戶。年年減。山行漸漸難。（白居易。久不。見。韓侍郎。數題。西湖詩。）。（宋史。食貨志下二）其。（中華大字典。按。日本語辭。善飲。曰。上戶。不善飲。曰。下戶。即此意。）●あやのみ。（集韻。）。（廣韻。）。（廣韻。）。（廣

戸部 隋官制。[戸部尚書]。[戸部侍郎]。[戸部主事]。[戸部令史]。[戸部書吏]。[戸部令]。[戸部格]。[戸部式]。[戸部式令]。[戸部式格]。[戸部式令格]。[戸部式令格式]。[戸部式令格式令]。[戸部式令格式令格]。[戸部式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格]。[戸部式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式令格式]。[戸部式令格

限、(唐書、食貨志二)參計戶數量土地況寡、物產多少、(長二)等州。

〔戶樞〕[30]:…戶のうち戶の回轉軸(凡、繫解上、)(荀行荀子之樞機、孫吳百行君子之樞機者、樞戶樞機、謂戶樞機、謂智慧、孟子、)(後漢書、方術下、)(樞戶樞不蠹、戶樞不轉動也、(後漢書、方術下、)(樞戶樞不蠹如是也、(同書、)(樞、戶樞也、(說文解字、)(樞、戶樞也、(同書、)(樞、戶樞也、(同書、)(樞、戶樞也、(同書

敘於戶內二年已後，達生言西之頃種，遣羅德之，為「戶破」。」。越中郡之地名。「馬」。元年置牧間，各隸內閑廐戶內，產生計入，各戶以馬養牛，各戶以馬養牛，故云「馬」。「牛」。元年置牧間，各隸內閑廐戶內，產生計入，各戶以馬養牛，故云「馬」。「牛

〔1169６・107〕――――――

(11697・1)——(11710)　戸部（一—四畫）　戺戶戽戹戾戾戾

【戽】 11711

㊀コ (集韻)後五切 **𢾊**
㊁ロク (集韻)次五切 **𢾊**
㊂ロク (集韻)荒故切 **𢾊**
㊃レキ

㊀**あかくみ**。舟の底の浸水をかき出す器。戽斗。(字彙、1758)〔集韻〕同じ。〔廣韻〕戽、戽斗、舟中漏水器。或作斗。㊁**くむ**。水を汲み出す。(廣韻)戽、抒也。㊂**あかくみ**。(集韻)戽、戽斗、抒水器。

(著色図説)

【戽水】ハ、水田の開で、水車で水を汲むこと。【戽水灌田】ハ、水車で水をくんで田に灌ぐこと。(六部成語、口部、戽水灌田、注解)【戽斗】ハ、舟中漏水器。(集韻)戽、戽斗、舟中漏水器。【戽水】ハ、水を汲み出す器。(廣韻)戽、抒也。【戽水灌田】ハ、水車で水を汲むこと。【戽水灌田】ハ、水車で水をくんで田に灌ぐこと。(六部成語、口部、戽水灌田、注解)【戽斗】ハ、舟中漏水器。(集韻)戽、戽斗、抒水器。

【戾】 11712

小 ㊀レイ (集韻)郎計切 **戾**
㊁リツ (集韻)力至切
㊂レチ (集韻)力結切 **戾**

㊀**まがる**。(説文)戾、曲也。**②ねちる**。(書缶、射雉賦)戾、騰旋。(注)(注)妄曰、戾、乾也。**③ひる**。(荀子、榮辱)、猛貪而戾。(注)戾、乖背也。(淮南子、覽冥訓)舉事有戾。(注)戾、反也。(漢書、張耳陳餘傳贊、注)師古曰、戾、違也。**④てあらい**。むこい。(詩、小雅、頍弁)、暴戾無禮、而不爲戾。(韓文戾、暴也。(荀子、修身)勇猛戾。(注)戾、分惡也。(荀子、儒效)遽於勝國、而天下不稱戾焉。(注)戾、暴也。**⑤つみ**。(爾雅、釋詁)戾、罪也。(詩、大雅、抑)亦維斯戾。(傳)戾、罪也。(左氏、文四)其敢干大禍、以自取戾。(注)戾、罪也。**⑥むさぼる**。よくば戾、貪利也。(戰國、秦策)虎者戾獸。(注)戾之貪、利也。(戰國、秦策)人、謂之仁、反之、爲戾。(新書、道術)小衆愛人、謂之仁、反之、爲戾。**⑦やぶる**。殺(10・34208)に過ず。(說文通訓定聲)戾、假借爲、殺。(淮南子、主術訓)曲得、其宜、無所、整戾。(注)戾、破也。**⑧いたる**。(爾雅、釋詁)戾、至也。(詩、小雅、四月)爲彼戾天。(箋)戾、至也。(詩、小雅、采菽)示是戾矣。(傳)戾、至也。**⑨とまる**。(爾雅、釋詁)戾、止也。(詩、小雅、采菽)示是戾矣。(箋)戾、止也。**⑩さだまる**。(廣雅、釋詁四)戾、定也。(詩、大雅、桑柔)民之未戾。(傳)戾、定也。**⑪くる**。(詩、豳頌、七月)戾、來。**⑫はやい**。疐(19・43917)に通ず。(說文通訓定聲)戾、假借爲、疐。(疐、伏兎賦)動鞅戾而

吹、帷、(注)蓋曰、戾、勁疾之貌。**⑬かわかす**。(禮、祭義)風雨所露、則必有戾者焉。(注)(注)戾、乾也。(釋文)戾、燥也。**⑭したがう**。(國語、晉語六)夫以小犯大、順行、(注)戾、順也。**⑮よい**。賴(10・36964)に通ず。(說文通訓定聲)戾、假借爲、賴。(爾雅、釋詁)戾、善也。**⑯**古に戴(7・20703)・鑿(8・23087)戾、古文鑿。(漢書、張耳陳餘傳贊、使相背戾、古文鑿。(注)師古曰、鑿、古戾字。**⑰**俟(1・764)に通ず。(切經音義、九、戾、三蒼作俟。**⑱**鑑。(逸周書、諡法解)小海、動過曰、戾。**⑲**姓。(風姓統譜)戾、見、姓苑。

解釈 戾(9・11703)は象形。(字彙、洊戾)、二字相似。戾、篆代、輻車軫維、戾、百戾、垂戾、(正字通)戾、與、戾到、蓋註、輻車軫維、通下戶字、推論作、種。

解説 戾(9・11703)は象形。(字彙、洊戾)、二字相似。戾、篆代、輻車軫維、戾、百戾、垂戾、(正字通)戾、與、戾到、蓋註、輻車軫維、通下戶字、推論作、種。

【戾役】ハ、服役、懲役。(晉子、尚陶中)義士戾役。【戾役】(呂覽、不侵)、義士戾役、(呂覽、恃君)、義士戾役。【戾氣】ハ、邪氣。【戾氣】ハ、邪氣。【戾氣】ハ、邪氣。【戾氣】ハ、邪氣。【戾氏】ハ、(呂覽、不侵)、義士戾氏。【戾氏】ハ、(呂覽、恃君)、義士戾氏。【戾氏】ハ、(呂覽、恃君)、義士戾氏。【戾氏】ハ、(呂覽、恃君

雅、戶社也。

戶部 〔門蓋 房〕

房 11714

〔集韻〕匡支切 〔韻〕匡支 〔三蒼〕房支 又戈 〔三蒼〕房

房 小 **へや** ①室の設けた室。大夫以上は兩房。〔淮南子〕氾論訓 ②室の後方。〔淮南子〕氾論訓 ③左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ④左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑤左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑥左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑦左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑧左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑨左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑩左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑪左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑫左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑬左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑭左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑮左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑯左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑰左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑱左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑲左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ⑳左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉑左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉒左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉓左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉔左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉕左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉖左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉗左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉘左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉙左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉚左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉛左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉜左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉝左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉞左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㉟左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊱左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊲左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊳左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊴左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊵左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊶左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊷左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊸左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊹左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊺左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊻左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊼左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊽左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊾左右の室。〔淮南子〕氾論訓 ㊿左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (1)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (2)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (3)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (4)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (5)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (6)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (7)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (8)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (9)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (10)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (11)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (12)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (13)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (14)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (15)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (16)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (17)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (18)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (19)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (20)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (21)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (22)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (23)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (24)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (25)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (26)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (27)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (28)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (29)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (30)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (31)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (32)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (33)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (34)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (35)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (36)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (37)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (38)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (39)左右の室。〔淮南子〕氾論訓 (40)左右の室。〔淮南子〕氾論訓

苑、利蓋、利結。

〔房間〕 ▽ すまいとその二室。〔宋史、食貨七十一〕

〔房室〕 ▽ 一戶に人口・牧畜・建物・耕地・園地・池・塘・荒地・荒地・荒地

命、把、扶手欄杆、轉、我無能發揮。

【房祀】ㄈㄤˊ ㄙˋ。同室。●(後漢書、樊宏紀)「已懷那國諸侯王」注引、謂劉宏、也。(後漢書

【房師】ㄈㄤˊ ㄕ。舊代、科舉的試驗官、房官(ㄍㄨㄢ)同

【房駕】ㄈㄤˊ ㄐㄧㄚˋ。房早、字解。●也見ㄈㄤˊ 駕(雅雅、樣式)

【房駕房出】(唐代、科舉)試驗官房官(ㄍㄨㄢ)同

【房駕駕房出】(唐代、科舉)試驗官房官(ㄍㄨㄢ)同

【房事】ㄈㄤˊ ㄕˋ。●(後漢書、馬援傳)「(援)心動、於是、將、馬、馬、馬

臨は、都尉差方の十句を一章とし、標題以下八句を一章とし、合計二章である。漢代、標題以下八句には、詞に重複あり、義の改ては詞と雖いの二種寫の誤しし、劉向が次を加て、七解としたるを公孫乙として解け、異說多い。房中樂の●を見よ。

房中樂 漢書23・23 ●高祖入関、作房中樂。孝惠、高后、因而廣之。孝文、除肅然、孝景、遊宴、雅頌各得其所。●孝武定郊祀之禮、乃興樂府、造詩賦、頌、以合八音、不合者、猶采其聲、以成其文。●孝成帝、時、河平三年、使侍郎李尋、黎元寶、等、分別、鄭、衛、之聲、放鄭聲、遠佞人、以、防、淫、亂、●哀帝、即位、下、詔、曰、樂、者、所、以、感、動、人、心、而、移、風、俗、故、聖、王、必、慎、其、所、樂、者、焉、孔子、稱、鄭、聲、淫、而、不、正、故、放、之、遠、之、恐、其、亂、雅、樂、也、今、樂、官、所、傳、雅、頌、之、聲、多、鄭、衛、之、音、朕、甚、憂、焉、其、令、太、師、以、下、至、諸、侯、王、皆、各、明、其、職、各、盡、其、心、以、求、正、聲、雅、頌、之、聲、未、聞、有、所、聞、焉、●王莽、時、大、師、公、王、舜、奏、言、王、者、必、有、樂、以、和、神、人、樂、者、天、地、之、經、而、民、之、所、由、生、也、故、聖、人、因、而、成、之、以、和、五、常、之、性、成、五、常、之、性、以、安、百、姓、百、姓、和、安、則、天、地、應、之、而、鳳、凰、來、儀、今、陛、下、聖、德、侔、於、天、地、而、樂、未、具、臣、愚、以、爲、宜、因、其、聲、以、作、樂

[房鳳]図 ……。漢の郡名。字は子元。乙科に及第して、太史令故なるを以て、五官郎都将に遷る。後漢書秋に同じ。[房鳳]図 ……。[房鳳]図 ……。[房]図 ……。[房]図 ……。[房

所 11715 ソ（集韻）・戈開切 ㄙㄨㄛ suǒ

所村 〔周村〕[1][2]ｱｱｱ。地名。福建省建瓯縣の南。房村溪が建溪に入る口に在る。地理書の。（讀史方輿紀要）福建。經平、縣、房村口。唐代、五十里。與、建寧縣界。接、界。自建寧、而十者、至、比鶴、水陸會、集、之道陂、山脈、溪縁、險、而寧、足、既、府境、深徹、由、此而南則支旁通、難、於控禦、長、口、直北之孤嶺也、今茅屋、建寧府、黄斑集。

所知温 [1]ｱｱｱ。[2]ｱｱｱ。[3]ｱｱｱ。[4]ｱｱｱ。[5]ｱｱｱ。[6]ｱｱｱ。[7]ｱｱｱ。[8]ｱｱｱ。[9]ｱｱｱ。[10]ｱｱｱ。[11]ｱｱｱ。[12]ｱｱｱ。[13]ｱｱｱ。[14]ｱｱｱ。[15]ｱｱｱ。[16]ｱｱｱ。[17]ｱｱｱ。[18]ｱｱｱ。[19]ｱｱｱ。[20]ｱｱｱ。[21]ｱｱｱ。[22]ｱｱｱ。[23]ｱｱｱ。[24]ｱｱｱ。[25]ｱｱｱ。[26]ｱｱｱ。[27]ｱｱｱ。[28]ｱｱｱ。[29]ｱｱｱ。[30]ｱｱｱ。[31]ｱｱｱ。[32]ｱｱｱ。[33]ｱｱｱ。[34]ｱｱｱ。[35]ｱｱｱ。[36]ｱｱｱ。[37]ｱｱｱ。[38]ｱｱｱ。[39]ｱｱｱ。[40]ｱｱｱ。[41]ｱｱｱ。[42]ｱｱｱ。[43]ｱｱｱ。[44]ｱｱｱ。[45]ｱｱｱ。[46]ｱｱｱ。[47]ｱｱｱ。[48]ｱｱｱ。[49]ｱｱｱ。[50]ｱｱｱ。[51]ｱｱｱ。[52]ｱｱｱ。[53]ｱｱｱ。[54]ｱｱｱ。[55]ｱｱｱ。[56]ｱｱｱ。[57]ｱｱｱ。[58]ｱｱｱ。[59]ｱｱｱ。[60]ｱｱｱ。[61]ｱｱｱ。[62]ｱｱｱ。[63]ｱｱｱ。[64]ｱｱｱ。[65]ｱｱｱ。[66]ｱｱｱ。[67]ｱｱｱ。[68]ｱｱｱ。[69]ｱｱｱ。[70]ｱｱｱ。[71]ｱｱｱ。[72]ｱｱｱ。[73]ｱｱｱ。[74]ｱｱｱ。[75]ｱｱｱ。[76]ｱｱｱ。[77]ｱｱｱ。[78]ｱｱｱ。[79]ｱｱｱ。[80]ｱｱｱ。[81]ｱｱｱ。[82]ｱｱｱ。[83]ｱｱｱ。[84]ｱｱｱ。[85]ｱｱｱ。[86]ｱｱｱ。[87]ｱｱｱ。[88]ｱｱｱ。[89]ｱｱｱ。[90]ｱｱｱ。[91]ｱｱｱ。[92]ｱｱｱ。[93]ｱｱｱ。[94]ｱｱｱ。[95]ｱｱｱ。[96]ｱｱｱ。[97]ｱｱｱ。[98]ｱｱｱ。[99]ｱｱｱ。[100]ｱｱｱ。[101]ｱｱｱ。[102]ｱｱｱ。[103]ｱｱｱ。[104]ｱｱｱ。[105]ｱｱｱ。[106]ｱｱｱ。[107]ｱｱｱ。[108]ｱｱｱ。[109]ｱｱｱ。[110]ｱｱｱ。[111]ｱｱｱ。[112]ｱｱｱ。[113]ｱｱｱ。[114]ｱｱｱ。[115]ｱｱｱ。[116]ｱｱｱ。[117]ｱｱｱ。[118]ｱｱｱ。[119]ｱｱｱ。[120]ｱｱｱ。[121]ｱｱｱ。[122]ｱｱｱ。[123]ｱｱｱ。[124]ｱｱｱ。[125]ｱｱｱ。[126]ｱｱｱ。[127]ｱｱｱ。[128]ｱｱｱ。[129]ｱｱｱ。[130]ｱｱｱ。[131]ｱｱｱ。[132]ｱｱｱ。[133]ｱｱｱ。[134]ｱｱｱ。[135]ｱｱｱ。[136]ｱｱｱ。[137]ｱｱｱ。[138]ｱｱｱ。[139]ｱｱｱ。[140]ｱｱｱ。[141]ｱｱｱ。[142]ｱｱｱ。[143]ｱｱｱ。[144]ｱｱｱ。[145]ｱｱｱ。[146]ｱｱｱ。[147]ｱｱｱ。[148]ｱｱｱ。[149]ｱｱｱ。[150]ｱｱｱ。[151]ｱｱｱ。[152]ｱｱｱ。[153]ｱｱｱ。[154]ｱｱｱ。[155]ｱｱｱ。[156]ｱｱｱ。[157]ｱｱｱ。[158]ｱｱｱ。[159]ｱｱｱ。[160]ｱｱｱ。[161]ｱｱｱ。[162]ｱｱｱ。[163]ｱｱｱ。[164]ｱｱｱ。[165]ｱｱｱ。[166]ｱｱｱ。[167]ｱｱｱ。[168]ｱｱｱ。[169]ｱｱｱ。[170]ｱｱｱ。[171]ｱｱｱ。[172]ｱｱｱ。[173]ｱｱｱ。[174]ｱｱｱ。[175]ｱｱｱ。[176]ｱｱｱ。[177]ｱｱｱ。[178]ｱｱｱ。[179]ｱｱｱ。[180]ｱｱｱ。[181]ｱｱｱ。[182]ｱｱｱ。[183]ｱｱｱ。[184]ｱｱｱ。[185]ｱｱｱ。[186]ｱｱｱ。[187]ｱｱｱ。[188]ｱｱｱ。[189]ｱｱｱ。[190]ｱｱｱ。[191]ｱｱｱ。[192]ｱｱｱ。[193]ｱｱｱ。[194]ｱｱｱ。[195]ｱｱｱ。[196]ｱｱｱ。[197]ｱｱｱ。[198]ｱｱｱ。[199]ｱｱｱ。[200]ｱｱｱ。[201]ｱｱｱ。[202]ｱｱｱ。[203]ｱｱｱ。[204]ｱｱｱ。[205]ｱｱｱ。[206]ｱｱｱ。[207]ｱｱｱ。[208]ｱｱｱ。[209]ｱｱｱ。[210]ｱｱｱ。[211]ｱｱｱ。[212]ｱｱｱ。[213]ｱｱｱ。[214]ｱｱｱ。[215]ｱｱｱ。[216]ｱｱｱ。[217]ｱｱｱ。[218]ｱｱｱ。[219]ｱｱｱ。[220]ｱｱｱ。[221]ｱｱｱ。[222]ｱｱｱ。[223]ｱｱｱ。[224]ｱｱｱ。[225]ｱｱｱ。[226]ｱｱｱ。[227]ｱｱｱ。[228]ｱｱｱ。[229]ｱｱｱ。[230]ｱｱｱ。[231]ｱｱｱ。[232]ｱｱｱ。[233]ｱｱｱ。[234]ｱｱｱ。[235]ｱｱｱ。[236]ｱｱｱ。[237]ｱｱｱ。[238]ｱｱｱ。[239]ｱｱｱ。[240]ｱｱｱ。[241]ｱｱｱ。[242]ｱｱｱ。[243]ｱｱｱ。[244]ｱｱｱ。[245]ｱｱｱ。[246]ｱｱｱ。[247]ｱｱｱ。[248]ｱｱｱ。[249]ｱｱｱ。[250]ｱｱｱ。[251]ｱｱｱ。[252]ｱｱｱ。[253]ｱｱｱ。[254]ｱｱｱ。[255]ｱｱｱ。[256]ｱｱｱ。[257]ｱｱｱ。[258]ｱｱｱ。[259]ｱｱｱ。[260]ｱｱｱ。[261]ｱｱｱ。[262]ｱｱｱ。[263]ｱｱｱ。[264]ｱｱｱ。[265]ｱｱｱ。[266]ｱｱｱ。[267]ｱｱｱ。[268]ｱｱｱ。[269]ｱｱｱ。[270]ｱｱｱ。[271]ｱｱｱ。[272]ｱｱｱ。[273]ｱｱｱ。[274]ｱｱｱ。[275]ｱｱｱ。[276]ｱｱｱ。[277]ｱｱｱ。[278]ｱｱｱ。[279]ｱｱｱ。[280]ｱｱｱ。[281]ｱｱｱ。[282]ｱｱｱ。[283]ｱｱｱ。[284]ｱｱｱ。[285]ｱｱｱ。[286]ｱｱｱ。[287]ｱｱｱ。[288]ｱｱｱ。[289]ｱｱｱ。[290]ｱｱｱ。[291]ｱｱｱ。[292]ｱｱｱ。[293]ｱｱｱ。[294]ｱｱｱ。[295]ｱｱｱ。[296]ｱｱｱ。[297]ｱｱｱ。[298]ｱｱｱ。[299]ｱｱｱ。[300]ｱｱｱ。[301]ｱｱｱ。[302]ｱｱｱ。[303]ｱｱｱ。[304]ｱｱｱ。[305]ｱｱｱ。[306]ｱｱｱ。[307]ｱｱｱ。[308]ｱｱｱ。[309]ｱｱｱ。[310]ｱｱｱ。[311]ｱｱｱ。[312]ｱｱｱ。[313]ｱｱｱ。[314]ｱｱｱ。[315]ｱｱｱ。[316]ｱｱｱ。[317]ｱｱｱ。[318]ｱｱｱ。[319]ｱｱｱ。[320]ｱｱｱ。[321]ｱｱｱ。[322]ｱｱｱ。[323]ｱｱｱ。[324]ｱｱｱ。[325]ｱｱｱ。[326]ｱｱｱ。[327]ｱｱｱ。[328]ｱｱｱ。[329]ｱｱｱ。[330]ｱｱｱ。[331]ｱｱｱ。[332]ｱｱｱ。[333]ｱｱｱ。[334]ｱｱｱ。[335]ｱｱｱ。[336]ｱｱｱ。[337]ｱｱｱ。[338]ｱｱｱ。[339]ｱｱｱ。[340]ｱｱｱ。[341]ｱｱｱ。[342]ｱｱｱ。[343]ｱｱｱ。[344]ｱｱｱ。[345]ｱｱｱ。[346]ｱｱｱ。[347]ｱｱｱ。[348]ｱｱｱ。[349]ｱｱｱ。[350]ｱｱｱ。[351]ｱｱｱ。[352]ｱｱｱ。[353]ｱｱｱ。[354]ｱｱｱ。[355]ｱｱｱ。[356]ｱｱｱ。[357]ｱｱｱ。[358]ｱｱｱ。[359]ｱｱｱ。[360]ｱｱｱ。[361]ｱｱｱ。[362]ｱｱｱ。[363]ｱｱｱ。[364]ｱｱｱ。[365]ｱｱｱ。[366]ｱｱｱ。[367]ｱｱｱ。[368]ｱｱｱ。[369]ｱｱｱ。[370]ｱｱｱ。[371]ｱｱｱ。[372]ｱｱｱ。[373]ｱｱｱ。[374]ｱｱｱ。[375]ｱｱｱ。[376]ｱｱｱ。[377]ｱｱｱ。[378]ｱｱｱ。[379]ｱｱｱ。[380]ｱｱｱ。[381]ｱｱｱ。[382]ｱｱｱ。[383]ｱｱｱ。[384]ｱｱｱ。[385]ｱｱｱ。[386]ｱｱｱ。[387]ｱｱｱ。[388]ｱｱｱ。[389]ｱｱｱ。[390]ｱｱｱ。[391]ｱｱｱ。[392]ｱｱｱ。[393]ｱｱｱ。[394]ｱｱｱ。[395]ｱｱｱ。[396]ｱｱｱ。[397]ｱｱｱ。[398]ｱｱｱ。[399]ｱｱｱ。[400]ｱｱｱ。[401]ｱｱｱ。[402]ｱｱｱ。[403]ｱｱｱ。[404]ｱｱｱ。[405]ｱｱｱ。[406]ｱｱｱ。[407]ｱｱｱ。[408]ｱｱｱ。[409]ｱｱｱ。[410]ｱｱｱ。[411]ｱｱｱ。[412]ｱｱｱ。[413]ｱｱｱ。[414]ｱｱｱ。[415]ｱｱｱ。[416]ｱｱｱ。[417]ｱｱｱ。[418]ｱｱｱ。[419]ｱｱｱ。[420]ｱｱｱ。[421]ｱｱｱ。[422]ｱｱｱ。[423]ｱｱｱ。[424]ｱｱｱ。[425]ｱｱｱ。[426]ｱｱｱ。[427]ｱｱｱ。[428]ｱｱｱ。[429]ｱｱｱ。[430]ｱｱｱ。[431]ｱｱｱ。[432]ｱｱｱ。[433]ｱｱｱ。[434]ｱｱｱ。[435]ｱｱｱ。[436]ｱｱｱ。[437]ｱｱｱ。[438]ｱｱｱ。[439]ｱｱｱ。[440]ｱｱｱ。[441]ｱｱｱ。[442]ｱｱｱ。[443]ｱｱｱ。[444]ｱｱｱ。[445]ｱｱｱ。[446]ｱｱｱ。[447]ｱｱｱ。[448]ｱｱｱ。[449]ｱｱｱ。[450]ｱｱｱ。[451]ｱｱｱ。[452]ｱｱｱ。[453]ｱｱｱ。[454]ｱｱｱ。[455]ｱｱｱ。[456]ｱｱｱ。[457]ｱｱｱ。[458]ｱｱｱ。[459]ｱｱｱ。[460]ｱｱｱ。[461]ｱｱｱ。[462]ｱｱｱ。[463]ｱｱｱ。[464]ｱｱｱ。[465]ｱｱｱ。[466]ｱｱｱ。[467]ｱｱｱ。[468]ｱｱｱ。[469]ｱｱｱ。[470]ｱｱｱ。[471]ｱｱｱ。[472]ｱｱｱ。[473]ｱｱｱ。[474]ｱｱｱ。[475]ｱｱｱ。[476]ｱｱｱ。[477]ｱｱｱ。[478]ｱｱｱ。[479]ｱｱｱ。[480]ｱｱｱ。[481]ｱｱｱ。[482]ｱｱｱ。[483]ｱｱｱ。[484]ｱｱｱ。[485]ｱｱｱ。[486]ｱｱｱ。[487]ｱｱｱ。[488]ｱｱｱ。[489]ｱｱｱ。[490]ｱｱｱ。[491]ｱｱｱ。[492]ｱｱｱ。[493]ｱｱｱ。[494]ｱｱｱ。[495]ｱｱｱ。[496]ｱｱｱ。[497]ｱｱｱ。[498]ｱｱｱ。[499]ｱｱｱ。[500]ｱｱｱ。[501]ｱｱｱ。[502]ｱｱｱ。[503]ｱｱｱ。[504]ｱｱｱ。[505]ｱｱｱ。[506]ｱｱｱ。[507]ｱｱｱ。[508]ｱｱｱ。[509]ｱｱｱ。[510]ｱｱｱ。[511]ｱｱｱ。[512]ｱｱｱ。[513]ｱｱｱ。[514]ｱｱｱ。[515]ｱｱｱ。[516]ｱｱｱ。[517]ｱｱｱ。[518]ｱｱｱ。[519]ｱｱｱ。[520]ｱｱｱ。[521]ｱｱｱ。[522]ｱｱｱ。[523]ｱｱｱ。[524]ｱｱｱ。[525]ｱｱｱ。[526]ｱｱｱ。[527]ｱｱｱ。[528]ｱｱｱ。[529]ｱｱｱ。[530]ｱｱｱ。[531]ｱｱｱ。[532]ｱｱｱ。[533]ｱｱｱ。[534]ｱｱｱ。[535]ｱｱｱ。[536]ｱｱｱ。[537]ｱｱｱ。[538]ｱｱｱ。[539]ｱｱｱ。[540]ｱｱｱ。[541]ｱｱｱ。[542]ｱｱｱ。[543]ｱｱｱ。[544]ｱｱｱ。[545]ｱｱｱ。[546]ｱｱｱ。[547]ｱｱｱ。[548]ｱｱｱ。[549]ｱｱｱ。[550]ｱｱｱ。[551]ｱｱｱ。[552]ｱｱｱ。[553]ｱｱｱ。[554]ｱｱｱ。[555]ｱｱｱ。[556]ｱｱｱ。[557]ｱｱｱ。[558]ｱｱｱ。[559]ｱｱｱ。[560]ｱｱｱ。[561]ｱｱｱ。[562]ｱｱｱ。[563]ｱｱｱ。[564]ｱｱｱ。[565]ｱｱｱ。[566]ｱｱｱ。[567]ｱｱｱ。[568]ｱｱｱ。[569]ｱｱｱ。[570]ｱｱｱ。[571]ｱｱｱ。[572]ｱｱｱ。[573]ｱｱｱ。[574]ｱｱｱ。[575]ｱｱｱ。[576]ｱｱｱ。[577]ｱｱｱ。[578]ｱｱｱ。[579]ｱｱｱ。[580]ｱｱｱ。[581]ｱｱｱ。[582]ｱｱｱ。[583]ｱｱｱ。[584]ｱｱｱ。[585]ｱｱｱ。[586]ｱｱｱ。[587]ｱｱｱ。[588]ｱｱｱ。[589]ｱｱｱ。[590]ｱｱｱ。[591]ｱｱｱ。[592]ｱｱｱ。[593]ｱｱｱ。[594]ｱｱｱ。[595]ｱｱｱ。[596]ｱｱｱ。[597]ｱｱｱ。[598]ｱｱｱ。[599]ｱｱｱ。[600]ｱｱｱ。[601]ｱｱｱ。[602]ｱｱｱ。[603]ｱｱｱ。[604]ｱｱｱ。[605]ｱｱｱ。[606]ｱｱｱ。[607]ｱｱｱ。[608]ｱｱｱ。[609]ｱｱｱ。[610]ｱｱｱ。[611]ｱｱｱ。[612]ｱｱｱ。[613]ｱｱｱ。[614]ｱｱｱ。[615]ｱｱｱ。[616]ｱｱｱ。[617]ｱｱｱ。[618]ｱｱｱ。[619]ｱｱｱ。[620]ｱｱｱ。[621]ｱｱｱ。[622]ｱｱｱ。[623]ｱｱｱ。[624]ｱｱｱ。[625]ｱｱｱ。[626]ｱｱｱ。[627]ｱｱｱ。[628]ｱｱｱ。[629]ｱｱｱ。[630]ｱｱｱ。[631]ｱｱｱ。[632]ｱｱｱ。[633]ｱｱｱ。[634]ｱｱｱ。[635]ｱｱｱ。[636]ｱｱｱ。[637]ｱｱｱ。[638]ｱｱｱ。[639]ｱｱｱ。[640]ｱｱｱ。[641]ｱｱｱ。[642]ｱｱｱ。[643]ｱｱｱ。[644]ｱｱｱ。[645]ｱｱｱ。[646]ｱｱｱ。[647]ｱｱｱ。[648]ｱｱｱ。[649]ｱｱｱ。[650]ｱｱｱ。[651]ｱｱｱ。[652]ｱｱｱ。[653]ｱｱｱ。[654]ｱｱｱ。[655]ｱｱｱ。[656]ｱｱｱ。[657]ｱｱｱ。[658]ｱｱｱ。[659]ｱｱｱ。[660]ｱｱｱ。[661]ｱｱｱ。[662]ｱｱｱ。[663]ｱｱｱ。[664]ｱｱｱ。[665]ｱｱｱ。[666]ｱｱｱ。[667]ｱｱｱ。[668]ｱｱｱ。[669]ｱｱｱ。[670]ｱｱｱ。[671]ｱｱｱ。[672]ｱｱｱ。[673]ｱｱｱ。[674]ｱｱｱ。[675]ｱｱｱ。[676]ｱｱｱ。[677]ｱｱｱ。[678]ｱｱｱ。[679]ｱｱｱ。[680]ｱｱｱ。[681]ｱｱｱ。[682]ｱｱｱ。[683]ｱｱｱ。[684]ｱｱｱ。[685]ｱｱｱ。[686]ｱｱｱ。[687]ｱｱｱ。[688]ｱｱｱ。[689]ｱｱｱ。[690]ｱｱｱ。[691]ｱｱｱ。[692]ｱｱｱ。[693]ｱｱｱ。[694]ｱｱｱ。[695]ｱｱｱ。[696]ｱｱｱ。[697]ｱｱｱ。[698]ｱｱｱ。[699]ｱｱｱ。[700]ｱｱｱ。[701]ｱｱｱ。[702]ｱｱｱ。[703]ｱｱｱ。[704]ｱｱｱ。[705]ｱｱｱ。[706]ｱｱｱ。[707]ｱｱｱ。[708]ｱｱｱ。[709]ｱｱｱ。[710]ｱｱｱ。[711]ｱｱｱ。[712]ｱｱｱ。[713]ｱｱｱ。[714]ｱｱｱ。[715]ｱｱｱ。[716]ｱｱｱ。[717]ｱｱｱ。[718]ｱｱｱ。[719]ｱｱｱ。[720]ｱｱｱ。[721]ｱｱｱ。[722]ｱｱｱ。[723]ｱｱｱ。[724]ｱｱｱ。[725]ｱｱｱ。[726]ｱｱｱ。[727]ｱｱｱ。[728]ｱｱｱ。[729]ｱｱｱ。[730]ｱｱｱ。[731]ｱｱｱ。[732]ｱｱｱ。[733]ｱｱｱ。[734]ｱｱｱ。[735]ｱｱｱ。[736]ｱｱｱ。[737]ｱｱｱ。[738]ｱｱｱ。[739]ｱｱｱ。[740]ｱｱｱ。[741]ｱｱｱ。[742]ｱｱｱ。[743]ｱｱｱ。[744]ｱｱｱ。[745]ｱｱｱ。[746]ｱｱｱ。[747]ｱｱｱ。[748]ｱｱｱ。[749]ｱｱｱ。[750]ｱｱｱ。[751]ｱｱｱ。[752]ｱｱｱ。[753]ｱｱｱ。[754]ｱｱｱ。[755]ｱｱｱ。[756]ｱｱｱ。[757]ｱｱｱ。[758]ｱｱｱ。[759]ｱｱｱ。[760]ｱｱｱ。[761]ｱｱｱ。[762]ｱｱｱ。[763]ｱｱｱ。[764]ｱｱｱ。[765]ｱｱｱ。[766]ｱｱｱ。[767]ｱｱｱ。[768]ｱｱｱ。[769]ｱｱｱ。[770]ｱｱｱ。[771]ｱｱｱ。[772]ｱｱｱ。[773]ｱｱｱ。[774]ｱｱｱ。[775]ｱｱｱ。[776]ｱｱｱ。[777]ｱｱｱ。[778]ｱｱｱ。[779]ｱｱｱ。[780]ｱｱｱ。[781]ｱｱｱ。[782]ｱｱｱ。[783]ｱｱｱ。[784]ｱｱｱ。[785]ｱｱｱ。[786]ｱｱｱ。[787]ｱｱｱ。[788]ｱｱｱ。[789]ｱｱｱ。[790]ｱｱｱ。[791]ｱｱｱ。[792]ｱｱｱ。[793]ｱｱｱ。[794]ｱｱｱ。[795]ｱｱｱ。[796]ｱｱｱ。[797]ｱｱｱ。[798]ｱｱｱ。[799]ｱｱｱ。[800]ｱｱｱ。[801]ｱｱｱ。[802]ｱｱｱ。[803]ｱｱｱ。[804]ｱｱｱ。[805]ｱｱｱ。[806]ｱｱｱ。[807]ｱｱｱ。[808]ｱｱｱ。[809]ｱｱｱ。[810]ｱｱｱ。[811]ｱｱｱ。[812]ｱｱｱ。[813]ｱｱｱ。[814]ｱｱｱ。[815]ｱｱｱ。[816]ｱｱｱ。[817]ｱｱｱ。[818]ｱｱｱ。[819]ｱｱｱ。[820]ｱｱｱ。[821]ｱｱｱ。[822]ｱｱｱ。[823]ｱｱｱ。[824]ｱｱｱ。[825]ｱｱｱ。[826]ｱｱｱ。[827]ｱｱｱ。[828]ｱｱｱ。[829]ｱｱｱ。[830]ｱｱｱ。[831]ｱｱｱ。[832]ｱｱｱ。[833]ｱｱｱ。[834]ｱｱｱ。[835]ｱｱｱ。[836]ｱｱｱ。[837]ｱｱｱ。[838]ｱｱｱ。[839]ｱｱｱ。[840]ｱｱｱ。[841]ｱｱｱ。[842]ｱｱｱ。[843]ｱｱｱ。[844]ｱｱｱ。[845]ｱｱｱ。[846]ｱｱｱ。[847]ｱｱｱ。[848]ｱｱｱ。[849]ｱｱｱ。[850]ｱｱｱ。[851]ｱｱｱ。[852]ｱｱｱ。[853]ｱｱｱ。[854]ｱｱｱ。[855]ｱｱｱ。[856]ｱｱｱ。[857]ｱｱｱ。[858]ｱｱｱ。[859]ｱｱｱ。[860]ｱｱｱ。[861]ｱｱｱ。[862]ｱｱｱ。[863]ｱｱｱ。[864]ｱｱｱ。[865]ｱｱｱ。[866]ｱｱｱ。[867]ｱｱｱ。[868]ｱｱｱ。[869]ｱｱｱ。[870]ｱｱｱ。[871]ｱｱｱ。[872]ｱｱｱ。[873]ｱｱｱ。[874]ｱｱｱ。[875]ｱｱｱ。[876]ｱｱｱ。[877]ｱｱｱ。[878]ｱｱｱ。[879]ｱｱｱ。[880]ｱｱｱ。[881]ｱｱｱ。[882]ｱｱｱ。[883]ｱｱｱ。[884]ｱｱｱ。[885]ｱｱｱ。[886]ｱｱｱ。[887]ｱｱｱ。[888]ｱｱｱ。[889]ｱｱｱ。[890]ｱｱｱ。[891]ｱｱｱ。[892]ｱｱｱ。[893]ｱｱｱ。[894]ｱｱｱ。[895]ｱｱｱ。[896]ｱｱｱ。[897]ｱｱｱ。[898]ｱｱｱ。[899]ｱｱｱ。[900]ｱｱｱ。[901]ｱｱｱ。[902]ｱｱｱ。[903]ｱｱｱ。[904]ｱｱｱ。[905]ｱｱｱ。[906]ｱｱｱ。[907]ｱｱｱ。[908]ｱｱｱ。[909]ｱｱｱ。[910]ｱｱｱ。[911]ｱｱｱ。[912]ｱｱｱ。[913]ｱｱｱ。[914]ｱｱｱ。[915]ｱｱｱ。[916]ｱｱｱ。[917]ｱｱｱ。[918]ｱｱｱ。[919]ｱｱｱ。[920]ｱｱｱ。[921]ｱｱｱ。[922]ｱｱｱ。[923]ｱｱｱ。[924]ｱｱｱ。[925]ｱｱｱ。[926]ｱｱｱ。[927]ｱｱｱ。[928]ｱｱｱ。[929]ｱｱｱ。[930]ｱｱｱ。[931]ｱｱｱ。[932]ｱｱｱ。[933]ｱｱｱ。[934]ｱｱｱ。[935]ｱｱｱ。[936]ｱｱｱ。[937]ｱｱｱ。[938]ｱｱｱ。[939]ｱｱｱ。[940]ｱｱｱ。[941]ｱｱｱ。[942]ｱｱｱ。[943]ｱｱｱ。[944]ｱｱｱ。[945]ｱｱｱ。[946]ｱｱｱ。[947]ｱｱｱ。[948]ｱｱｱ。[949]ｱｱｱ。[950]ｱｱｱ。[951]ｱｱｱ。[952]ｱｱｱ。[953]ｱｱｱ。[954]ｱｱｱ。[955]ｱｱｱ。[956]ｱｱｱ。[957]ｱｱｱ。[958]ｱｱｱ。[959]ｱｱｱ。[960]ｱｱｱ。[961]ｱｱｱ。[962]ｱｱｱ。[963]ｱｱｱ。[964]ｱｱｱ。[965]ｱｱｱ。[966]ｱｱｱ。[967]ｱｱｱ。[968]ｱｱｱ。[969]ｱｱｱ。[970]ｱｱｱ。[971]ｱｱｱ。[972]ｱｱｱ。[973]ｱｱｱ。[974]ｱｱｱ。[975]ｱｱｱ。[976]ｱｱｱ。[977]ｱｱｱ。[978]ｱｱｱ。[979]ｱｱｱ。[980]ｱｱｱ。[981]ｱｱｱ。[982]ｱｱｱ。[983]ｱｱｱ。[984]ｱｱｱ。[985]ｱｱｱ。[986]ｱｱｱ。[987]ｱｱｱ。[988]ｱｱｱ。[989]ｱｱｱ。[990]ｱｱｱ。[991]ｱｱｱ。[992]ｱｱｱ。[993]ｱｱｱ。[994]ｱｱｱ。[995]ｱｱｱ。[996]ｱｱｱ。[997]ｱｱｱ。[998]ｱｱｱ。[999]ｱｱｱ。[1000]ｱｱｱ。[1001]ｱｱｱ。[1002]ｱｱｱ。[1003]ｱｱｱ。[1004]ｱｱｱ。[1005]ｱｱｱ。[1006]ｱｱｱ。[1007]ｱｱｱ。[1008]ｱｱｱ。[1009]ｱｱｱ。[1010]ｱｱｱ。[1011]ｱｱｱ。[1012]ｱｱｱ。[1013]ｱｱｱ。[1014]ｱｱｱ。[1015]ｱｱｱ。[1016]ｱｱｱ。[1017]ｱｱｱ。[1018]ｱｱｱ。[1019]ｱｱｱ。[1020]ｱｱｱ。[1021]ｱｱｱ。[1022]ｱｱｱ。[1023]ｱｱｱ。[1024]ｱｱｱ。[1025]ｱｱｱ。[1026]ｱｱｱ。[1027]ｱｱｱ。[1028]ｱｱｱ。[1029]ｱｱｱ。[1030]ｱｱｱ。[1031]ｱｱｱ。[1032]ｱｱｱ。[1033]ｱｱｱ。[1034]ｱｱｱ。[1035]ｱｱｱ。[1036]ｱｱｱ。[1037]ｱｱｱ。[1038]ｱｱｱ。[1039]ｱｱｱ。[1040]ｱｱｱ。[1041]ｱｱｱ。[1042]ｱｱｱ。[1043]ｱｱｱ。[1044]ｱｱｱ。[1045]ｱｱｱ。[1046]ｱｱｱ。[1047]ｱｱｱ。[1048]ｱｱｱ。[1049]ｱｱｱ。[1050]ｱｱｱ。[1051]ｱｱｱ。[1052]ｱｱｱ。[1053]ｱｱｱ。[1054]ｱｱｱ。[1055]ｱｱｱ。[1056]ｱｱｱ。[1057]ｱｱｱ。[1058]ｱｱｱ。[1059]ｱｱｱ。[1060]ｱｱｱ。[1061]ｱｱｱ。[1062]ｱｱｱ。[1063]ｱｱｱ。[1064]ｱｱｱ。[1065]ｱｱｱ。[1066]ｱｱｱ。[1067]ｱｱｱ。[1068]ｱｱｱ。[1069]ｱｱｱ。[1070]ｱｱｱ。[1071]ｱｱｱ。[1072]ｱｱｱ。[1073]ｱｱｱ。[1074]ｱｱｱ。[1075]ｱｱｱ。[1076]ｱｱｱ。[1077]ｱｱｱ。[1078]ｱｱｱ。[1079]ｱｱｱ。[1080]ｱｱｱ。[1081]ｱｱｱ。[1082]ｱｱｱ。[1083]ｱｱｱ。[1084]ｱｱｱ。[1085]ｱｱｱ。[1086]ｱｱｱ。[1087]ｱｱｱ。[1088]ｱｱｱ。[1089]ｱｱｱ。[1090]ｱｱｱ。[1091]ｱｱｱ。[1092]ｱｱｱ。[1093]ｱｱｱ。[1094]ｱｱｱ。[1095]ｱｱｱ。[1096]ｱｱｱ。[1097]ｱｱｱ。[1098]ｱｱｱ。[1099]ｱｱｱ。[1100]ｱｱｱ。[1101]ｱｱｱ。[1102]ｱｱｱ。[1103]ｱｱｱ。[1104]ｱｱｱ。[1105]ｱｱｱ。[1106]ｱｱｱ。[1107]ｱｱｱ。[1108]ｱｱｱ。[1109]ｱｱｱ。[1110]ｱｱｱ。[1111]ｱｱｱ。[1112]ｱｱｱ。[1113]ｱｱｱ。[1114]ｱｱｱ。[1115]ｱｱｱ。[1116]ｱｱｱ。[1117]ｱｱｱ。[1118]ｱｱｱ。[1119]ｱｱｱ。[1120]ｱｱｱ。[1121]ｱｱｱ。[1122]ｱｱｱ。[1123]ｱｱｱ。[1124]ｱｱｱ。[1125]ｱｱｱ。[1126]ｱｱｱ。[1127]ｱｱｱ。[1128]ｱｱｱ。[1129]ｱｱｱ。[1130]ｱｱｱ。[1131]ｱｱｱ。[1132]ｱｱｱ。[1133]ｱｱｱ。[1134]ｱｱｱ。[1135]ｱｱｱ。[1136]ｱｱｱ。[1137]ｱｱｱ。[1138]ｱｱｱ。[1139]ｱｱｱ。[1140]ｱｱｱ。[1141]ｱｱｱ。[1142]ｱｱｱ。[1143]ｱｱｱ。[1144]ｱｱｱ。[1145]ｱｱｱ。[1146]ｱｱｱ。[1147]ｱｱｱ。[1148]ｱｱｱ。[1149]ｱｱｱ。[1150]ｱｱｱ。[1151]ｱｱｱ。[1152]ｱｱｱ。[1153]ｱｱｱ。[1154]ｱｱｱ。[1155]ｱｱｱ。[1156]ｱｱｱ。[1157]ｱｱｱ。[1158]ｱｱｱ。[1159]ｱｱｱ。[1160]ｱｱｱ。[1161]ｱｱｱ。[1162]ｱｱｱ。[1163]ｱｱｱ。[1164]ｱｱｱ。[1165]ｱｱｱ。[1166]ｱｱｱ。[1167]ｱｱｱ。[1168]ｱｱｱ。[1169]ｱｱｱ。[1170]ｱｱｱ。[1171]ｱｱｱ。[1172]ｱｱｱ。[1173]ｱｱｱ。[1174]ｱｱｱ。[1175]ｱｱｱ。[1176]ｱｱｱ。[1177]ｱｱｱ。[1178]ｱｱｱ。[1179]ｱｱｱ。[1180]ｱｱｱ。[1181]ｱｱｱ。[1182]ｱｱｱ。[1183]ｱｱｱ。[1184]ｱｱｱ。[1185]ｱｱｱ。[1186]ｱｱｱ。[1187]ｱｱｱ。[1188]ｱｱｱ。[1189]ｱｱｱ。[1190]ｱｱｱ。[1191]ｱｱｱ。[1192]ｱｱｱ。[1193]ｱｱｱ。[1194]ｱｱｱ。[1195]ｱｱｱ。[1196]ｱｱｱ。[1197]ｱｱｱ。[1198]ｱｱｱ。[1199]ｱｱｱ。[1200]ｱｱｱ。[1201]ｱｱｱ。[1202]ｱｱｱ。[1203]ｱｱｱ。[1204]ｱｱｱ。[1205]ｱｱｱ。[1206]ｱｱｱ。[1207]ｱｱｱ。[1208]ｱｱｱ。[1209]ｱｱｱ。[1210]ｱｱｱ。[1211]ｱｱｱ。[1212]ｱｱｱ。[1213]ｱｱｱ。[1214]ｱｱｱ。[1215]ｱｱｱ。[1216]ｱｱｱ。[1217]ｱｱｱ。[1218]ｱｱｱ。[1219]ｱｱｱ。[1220]ｱｱｱ。[1221]ｱｱｱ。[1222]ｱｱｱ。[1223]ｱｱｱ。[1224]ｱｱｱ。[1225]ｱｱｱ。[1226]ｱｱｱ。[1227]ｱｱｱ。[1228]ｱｱｱ。[1229]ｱｱｱ。[1230]ｱｱｱ。[1231]ｱｱｱ。[1232]ｱｱｱ。[1233]ｱｱｱ。[1234]ｱｱｱ。[1235]ｱｱｱ。[1236]ｱｱｱ。[1237]ｱｱｱ。[1238]ｱｱｱ。[1239]ｱｱｱ。[1240]ｱｱｱ。[1241]ｱｱｱ。[1242]ｱｱｱ。[1243]ｱｱｱ。[1244]ｱｱｱ。[1245]ｱｱｱ。[1246]ｱｱｱ。[1247]ｱｱｱ。[1248]ｱｱｱ。[1249]ｱｱｱ。[1250]ｱｱｱ。[1251]ｱｱｱ。[1252]ｱｱｱ。[1253]ｱｱｱ。[1254]ｱｱｱ。[1255]ｱｱｱ。[1256]ｱｱｱ。[1257]ｱｱｱ。[1258]ｱｱｱ。[1259]ｱｱｱ。[1260]ｱｱｱ。[1261]ｱｱｱ。[1262]ｱｱｱ。[1263]ｱｱｱ。[1264]ｱｱｱ。[1265]ｱｱｱ。[1266]ｱｱｱ。[1267]ｱｱｱ。[1268]ｱｱｱ。[1269]ｱｱｱ。[1270]ｱｱｱ。[1271]ｱｱｱ。[1272]ｱｱｱ。[1273]ｱｱｱ。[1274]ｱｱｱ。[1275]ｱｱｱ。[1276]ｱｱｱ。[1277]ｱｱｱ。[1278]ｱｱｱ。[1279]ｱｱｱ。[1280]ｱｱｱ。[1281]ｱｱｱ。[1282]ｱｱｱ。[1283]ｱｱｱ。[1284]ｱｱｱ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りまはひの類。

【所作事】名ヲ。歌舞伎の舞曲で演ずられる舞踊及び舞踊劇の総稱。をどり。かぶき。〔歌舞伎事始四〕。記載される。

【所載】名ヲ。〔延喜式記載〕。

【所在】名ヲ。①所在。〔延喜式、令義解〕。②所在。〔延喜式、令義解〕。③所在。〔延喜式、令義解〕。④所在。〔延喜式、令義解〕。⑤所在。〔延喜式、令義解〕。⑥所在。〔延喜式、令義解〕。⑦所在。〔延喜式、令義解〕。⑧所在。〔延喜式、令義解〕。⑨所在。〔延喜式、令義解〕。⑩所在。〔延喜式、令義解〕。⑪所在。〔延喜式、令義解〕。⑫所在。〔延喜式、令義解〕。⑬所在。〔延喜式、令義解〕。⑭所在。〔延喜式、令義解〕。⑮所在。〔延喜式、令義解〕。⑯所在。〔延喜式、令義解〕。⑰所在。〔延喜式、令義解〕。⑱所在。〔延喜式、令義解〕。⑲所在。〔延喜式、令義解〕。⑳所在。〔延喜式、令義解〕。㉑所在。〔延喜式、令義解〕。㉒所在。〔延喜式、令義解〕。㉓所在。〔延喜式、令義解〕。㉔所在。〔延喜式、令義解〕。㉕所在。〔延喜式、令義解〕。㉖所在。〔延喜式、令義解〕。㉗所在。〔延喜式、令義解〕。㉘所在。〔延喜式、令義解〕。㉙所在。〔延喜式、令義解〕。㉚所在。〔延喜式、令義解〕。㉛所在。〔延喜式、令義解〕。㉜所在。〔延喜式、令義解〕。㉝所在。〔延喜式、令義解〕。㉞所在。〔延喜式、令義解〕。㉟所在。〔延喜式、令義解〕。㊱所在。〔延喜式、令義解〕。㊲所在。〔延喜式、令義解〕。㊳所在。〔延喜式、令義解〕。㊴所在。〔延喜式、令義解〕。㊵所在。〔延喜式、令義解〕。㊶所在。〔延喜式、令義解〕。㊷所在。〔延喜式、令義解〕。㊸所在。〔延喜式、令義解〕。㊹所在。〔延喜式、令義解〕。㊺所在。〔延喜式、令義解〕。㊻所在。〔延喜式、令義解〕。㊼所在。〔延喜式、令義解〕。㊽所在。〔延喜式、令義解〕。㊾所在。〔延喜式、令義解〕。㊿所在。〔延喜式、令義解〕。(1)所在。〔延喜式、令義解〕。(2)所在。〔延喜式、令義解〕。(3)所在。〔延喜式、令義解〕。(4)所在。〔延喜式、令義解〕。(5)所在。〔延喜式、令義解〕。(6)所在。〔延喜式、令義解〕。(7)所在。〔延喜式、令義解〕。(8)所在。〔延喜式、令義解〕。(9)所在。〔延喜式、令義解〕。(10)所在。〔延喜式、令義解〕。(11)所在。〔延喜式、令義解〕。(12)所在。〔延喜式、令義解〕。(13)所在。〔延喜式、令義解〕。(14)所在。〔延喜式、令義解〕。(15)所在。〔延喜式、令義解〕。(16)所在。〔延喜式、令義解〕。(17)所在。〔延喜式、令義解〕。(18)所在。〔延喜式、令義解〕。(19)所在。〔延喜式、令義解〕。(20)所在。〔延喜式、令義解〕。(21)所在。〔延喜式、令義解〕。(22)所在。〔延喜式、令義解〕。(23)所在。〔延喜式、令義解〕。(24)所在。〔延喜式、令義解〕。(25)所在。〔延喜式、令義解〕。(26)所在。〔延喜式、令義解〕。(27)所在。〔延喜式、令義解〕。(28)所在。〔延喜式、令義解〕。(29)所在。〔延喜式、令義解〕。(30)所在。〔延喜式、令義解〕。(31)所在。〔延喜式、令義解〕。(32)所在。〔延喜式、令義解〕。(33)所在。〔延喜式、令義解〕。(34)所在。〔延喜式、令義解〕。(35)所在。〔延喜式、令義解〕。(36)所在。〔延喜式、令義解〕。(37)所在。〔延喜式、令義解〕。(38)所在。〔延喜式、令義解〕。(39)所在。〔延喜式、令義解〕。(40)所在。〔延喜式、令義解〕。(41)所在。〔延喜式、令義解〕。(42)所在。〔延喜式、令義解〕。(43)所在。〔延喜式、令義解〕。(44)所在。〔延喜式、令義解〕。(45)所在。〔延喜式、令義解〕。(46)所在。〔延喜式、令義解〕。(47)所在。〔延喜式、令義解〕。(48)所在。〔延喜式、令義解〕。(49)所在。〔延喜式、令義解〕。(50)所在。〔延喜式、令義解〕。(51)所在。〔延喜式、令義解〕。(52)所在。〔延喜式、令義解〕。(53)所在。〔延喜式、令義解〕。(54)所在。〔延喜式、令義解〕。(55)所在。〔延喜式、令義解〕。(56)所在。〔延喜式、令義解〕。(57)所在。〔延喜式、令義解〕。(58)所在。〔延喜式、令義解〕。(59)所在。〔延喜式、令義解〕。(60)所在。〔延喜式、令義解〕。(61)所在。〔延喜式、令義解〕。(62)所在。〔延喜式、令義解〕。(63)所在。〔延喜式、令義解〕。(64)所在。〔延喜式、令義解〕。(65)所在。〔延喜式、令義解〕。(66)所在。〔延喜式、令義解〕。(67)所在。〔延喜式、令義解〕。(68)所在。〔延喜式、令義解〕。(69)所在。〔延喜式、令義解〕。(70)所在。〔延喜式、令義解〕。(71)所在。〔延喜式、令義解〕。(72)所在。〔延喜式、令義解〕。(73)所在。〔延喜式、令義解〕。(74)所在。〔延喜式、令義解〕。(75)所在。〔延喜式、令義解〕。(76)所在。〔延喜式、令義解〕。(77)所在。〔延喜式、令義解〕。(78)所在。〔延喜式、令義解〕。(79)所在。〔延喜式、令義解〕。(80)所在。〔延喜式、令義解〕。(81)所在。〔延喜式、令義解〕。(82)所在。〔延喜式、令義解〕。(83)所在。〔延喜式、令義解〕。(84)所在。〔延喜式、令義解〕。(85)所在。〔延喜式、令義解〕。(86)所在。〔延喜式、令義解〕。(87)所在。〔延喜式、令義解〕。(88)所在。〔延喜式、令義解〕。(89)所在。〔延喜式、令義解〕。(90)所在。〔延喜式、令義解〕。(91)所在。〔延喜式、令義解〕。(92)所在。〔延喜式、令義解〕。(93)所在。〔延喜式、令義解〕。(94)所在。〔延喜式、令義解〕。(95)所在。〔延喜式、令義解〕。(96)所在。〔延喜式、令義解〕。(97)所在。〔延喜式、令義解〕。(98)所在。〔延喜式、令義解〕。(99)所在。〔延喜式、令義解〕。(100)所在。〔延喜式、令義解〕。(101)所在。〔延喜式、令義解〕。(102)所在。〔延喜式、令義解〕。(103)所在。〔延喜式、令義解〕。(104)所在。〔延喜式、令義解〕。(105)所在。〔延喜式、令義解〕。(106)所在。〔延喜式、令義解〕。(107)所在。〔延喜式、令義解〕。(108)所在。〔延喜式、令義解〕。(109)所在。〔延喜式、令義解〕。(110)所在。〔延喜式、令義解〕。(111)所在。〔延喜式、令義解〕。(112)所在。〔延喜式、令義解〕。(113)所在。〔延喜式、令義解〕。(114)所在。〔延喜式、令義解〕。(115)所在。〔延喜式、令義解〕。(116)所在。〔延喜式、令義解〕。(117)所在。〔延喜式、令義解〕。(118)所在。〔延喜式、令義解〕。(119)所在。〔延喜式、令義解〕。(120)所在。〔延喜式、令義解〕。(121)所在。〔延喜式、令義解〕。(122)所在。〔延喜式、令義解〕。(123)所在。〔延喜式、令義解〕。(124)所在。〔延喜式、令義解〕。(125)所在。〔延喜式、令義解〕。(126)所在。〔延喜式、令義解〕。(127)所在。〔延喜式、令義解〕。(128)所在。〔延喜式、令義解〕。(129)所在。〔延喜式、令義解〕。(130)所在。〔延喜式、令義解〕。(131)所在。〔延喜式、令義解〕。(132)所在。〔延喜式、令義解〕。(133)所在。〔延喜式、令義解〕。(134)所在。〔延喜式、令義解〕。(135)所在。〔延喜式、令義解〕。(136)所在。〔延喜式、令義解〕。(137)所在。〔延喜式、令義解〕。(138)所在。〔延喜式、令義解〕。(139)所在。〔延喜式、令義解〕。(140)所在。〔延喜式、令義解〕。(141)所在。〔延喜式、令義解〕。(142)所在。〔延喜式、令義解〕。(143)所在。〔延喜式、令義解〕。(144)所在。〔延喜式、令義解〕。(145)所在。〔延喜式、令義解〕。(146)所在。〔延喜式、令義解〕。(147)所在。〔延喜式、令義解〕。(148)所在。〔延喜式、令義解〕。(149)所在。〔延喜式、令義解〕。(150)所在。〔延喜式、令義解〕。(151)所在。〔延喜式、令義解〕。(152)所在。〔延喜式、令義解〕。(153)所在。〔延喜式、令義解〕。(154)所在。〔延喜式、令義解〕。(155)所在。〔延喜式、令義解〕。(156)所在。〔延喜式、令義解〕。(157)所在。〔延喜式、令義解〕。(158)所在。〔延喜式、令義解〕。(159)所在。〔延喜式、令義解〕。(160)所在。〔延喜式、令義解〕。(161)所在。〔延喜式、令義解〕。(162)所在。〔延喜式、令義解〕。(163)所在。〔延喜式、令義解〕。(164)所在。〔延喜式、令義解〕。(165)所在。〔延喜式、令義解〕。(166)所在。〔延喜式、令義解〕。(167)所在。〔延喜式、令義解〕。(168)所在。〔延喜式、令義解〕。(169)所在。〔延喜式、令義解〕。(170)所在。〔延喜式、令義解〕。(171)所在。〔延喜式、令義解〕。(172)所在。〔延喜式、令義解〕。(173)所在。〔延喜式、令義解〕。(174)所在。〔延喜式、令義解〕。(175)所在。〔延喜式、令義解〕。(176)所在。〔延喜式、令義解〕。(177)所在。〔延喜式、令義解〕。(178)所在。〔延喜式、令義解〕。(179)所在。〔延喜式、令義解〕。(180)所在。〔延喜式、令義解〕。(181)所在。〔延喜式、令義解〕。(182)所在。〔延喜式、令義解〕。(183)所在。〔延喜式、令義解〕。(184)所在。〔延喜式、令義解〕。(185)所在。〔延喜式、令義解〕。(186)所在。〔延喜式、令義解〕。(187)所在。〔延喜式、令義解〕。(188)所在。〔延喜式、令義解〕。(189)所在。〔延喜式、令義解〕。(190)所在。〔延喜式、令義解〕。(191)所在。〔延喜式、令義解〕。(192)所在。〔延喜式、令義解〕。(193)所在。〔延喜式、令義解〕。(194)所在。〔延喜式、令義解〕。(195)所在。〔延喜式、令義解〕。(196)所在。〔延喜式、令義解〕。(197)所在。〔延喜式、令義解〕。(198)所在。〔延喜式、令義解〕。(199)所在。〔延喜式、令義解〕。(200)所在。〔延喜式、令義解〕。(201)所在。〔延喜式、令義解〕。(202)所在。〔延喜式、令義解〕。(203)所在。〔延喜式、令義解〕。(204)所在。〔延喜式、令義解〕。(205)所在。〔延喜式、令義解〕。(206)所在。〔延喜式、令義解〕。(207)所在。〔延喜式、令義解〕。(208)所在。〔延喜式、令義解〕。(209)所在。〔延喜式、令義解〕。(210)所在。〔延喜式、令義解〕。(211)所在。〔延喜式、令義解〕。(212)所在。〔延喜式、令義解〕。(213)所在。〔延喜式、令義解〕。(214)所在。〔延喜式、令義解〕。(215)所在。〔延喜式、令義解〕。(216)所在。〔延喜式、令義解〕。(217)所在。〔延喜式、令義解〕。(218)所在。〔延喜式、令義解〕。(219)所在。〔延喜式、令義解〕。(220)所在。〔延喜式、令義解〕。(221)所在。〔延喜式、令義解〕。(222)所在。〔延喜式、令義解〕。(223)所在。〔延喜式、令義解〕。(224)所在。〔延喜式、令義解〕。(225)所在。〔延喜式、令義解〕。(226)所在。〔延喜式、令義解〕。(227)所在。〔延喜式、令義解〕。(228)所在。〔延喜式、令義解〕。(229)所在。〔延喜式、令義解〕。(230)所在。〔延喜式、令義解〕。(231)所在。〔延喜式、令義解〕。(232)所在。〔延喜式、令義解〕。(233)所在。〔延喜式、令義解〕。(234)所在。〔延喜式、令義解〕。(235)所在。〔延喜式、令義解〕。(236)所在。〔延喜式、令義解〕。(237)所在。〔延喜式、令義解〕。(238)所在。〔延喜式、令義解〕。(239)所在。〔延喜式、令義解〕。(240)所在。〔延喜式、令義解〕。(241)所在。〔延喜式、令義解〕。(242)所在。〔延喜式、令義解〕。(243)所在。〔延喜式、令義解〕。(244)所在。〔延喜式、令義解〕。(245)所在。〔延喜式、令義解〕。(246)所在。〔延喜式、令義解〕。(247)所在。〔延喜式、令義解〕。(248)所在。〔延喜式、令義解〕。(249)所在。〔延喜式、令義解〕。(250)所在。〔延喜式、令義解〕。(251)所在。〔延喜式、令義解〕。(252)所在。〔延喜式、令義解〕。(253)所在。〔延喜式、令義解〕。(254)所在。〔延喜式、令義解〕。(255)所在。〔延喜式、令義解〕。(256)所在。〔延喜式、令義解〕。(257)所在。〔延喜式、令義解〕。(258)所在。〔延喜式、令義解〕。(259)所在。〔延喜式、令義解〕。(260)所在。〔延喜式、令義解〕。(261)所在。〔延喜式、令義解〕。(262)所在。〔延喜式、令義解〕。(263)所在。〔延喜式、令義解〕。(264)所在。〔延喜式、令義解〕。(265)所在。〔延喜式、令義解〕。(266)所在。〔延喜式、令義解〕。(267)所在。〔延喜式、令義解〕。(268)所在。〔延喜式、令義解〕。(269)所在。〔延喜式、令義解〕。(270)所在。〔延喜式、令義解〕。(271)所在。〔延喜式、令義解〕。(272)所在。〔延喜式、令義解〕。(273)所在。〔延喜式、令義解〕。(274)所在。〔延喜式、令義解〕。(275)所在。〔延喜式、令義解〕。(276)所在。〔延喜式、令義解〕。(277)所在。〔延喜式、令義解〕。(278)所在。〔延喜式、令義解〕。(279)所在。〔延喜式、令義解〕。(280)所在。〔延喜式、令義解〕。(281)所在。〔延喜式、令義解〕。(282)所在。〔延喜式、令義解〕。(283)所在。〔延喜式、令義解〕。(284)所在。〔延喜式、令義解〕。(285)所在。〔延喜式、令義解〕。(286)所在。〔延喜式、令義解〕。(287)所在。〔延喜式、令義解〕。(288)所在。〔延喜式、令義解〕。(289)所在。〔延喜式、令義解〕。(290)所在。〔延喜式、令義解〕。(291)所在。〔延喜式、令義解〕。(292)所在。〔延喜式、令義解〕。(293)所在。〔延喜式、令義解〕。(294)所在。〔延喜式、令義解〕。(295)所在。〔延喜式、令義解〕。(296)所在。〔延喜式、令義解〕。(297)所在。〔延喜式、令義解〕。(298)所在。〔延喜式、令義解〕。(299)所在。〔延喜式、令義解〕。(300)所在。〔延喜式、令義解〕。(301)所在。〔延喜式、令義解〕。(302)所在。〔延喜式、令義解〕。(303)所在。〔延喜式、令義解〕。(304)所在。〔延喜式、令義解〕。(305)所在。〔延喜式、令義解〕。(306)所在。〔延喜式、令義解〕。(307)所在。〔延喜式、令義解〕。(308)所在。〔延喜式、令義解〕。(309)所在。〔延喜式、令義解〕。(310)所在。〔延喜式、令義解〕。(311)所在。〔延喜式、令義解〕。(312)所在。〔延喜式、令義解〕。(313)所在。〔延喜式、令義解〕。(314)所在。〔延喜式、令義解〕。(315)所在。〔延喜式、令義解〕。(316)所在。〔延喜式、令義解〕。(317)所在。〔延喜式、令義解〕。(318)所在。〔延喜式、令義解〕。(319)所在。〔延喜式、令義解〕。(320)所在。〔延喜式、令義解〕。(321)所在。〔延喜式、令義解〕。(322)所在。〔延喜式、令義解〕。(323)所在。〔延喜式、令義解〕。(324)所在。〔延喜式、令義解〕。(325)所在。〔延喜式、令義解〕。(326)所在。〔延喜式、令義解〕。(327)所在。〔延喜式、令義解〕。(328)所在。〔延喜式、令義解〕。(329)所在。〔延喜式、令義解〕。(330)所在。〔延喜式、令義解〕。(331)所在。〔延喜式、令義解〕。(332)所在。〔延喜式、令義解〕。(333)所在。〔延喜式、令義解〕。(334)所在。〔延喜式、令義解〕。(335)所在。〔延喜式、令義解〕。(336)所在。〔延喜式、令義解〕。(337)所在。〔延喜式、令義解〕。(338)所在。〔延喜式、令義解〕。(339)所在。〔延喜式、令義解〕。(340)所在。〔延喜式、令義解〕。(341)所在。〔延喜式、令義解〕。(342)所在。〔延喜式、令義解〕。(343)所在。〔延喜式、令義解〕。(344)所在。〔延喜式、令義解〕。(345)所在。〔延喜式、令義解〕。(346)所在。〔延喜式、令義解〕。(347)所在。〔延喜式、令義解〕。(348)所在。〔延喜式、令義解〕。(349)所在。〔延喜式、令義解〕。(350)所在。〔延喜式、令義解〕。(351)所在。〔延喜式、令義解〕。(352)所在。〔延喜式、令義解〕。(353)所在。〔延喜式、令義解〕。(354)所在。〔延喜式、令義解〕。(355)所在。〔延喜式、令義解〕。(356)所在。〔延喜式、令義解〕。(357)所在。〔延喜式、令義解〕。(358)所在。〔延喜式、令義解〕。(359)所在。〔延喜式、令義解〕。(360)所在。〔延喜式、令義解〕。(361)所在。〔延喜式、令義解〕。(362)所在。〔延喜式、令義解〕。(363)所在。〔延喜式、令義解〕。(364)所在。〔延喜式、令義解〕。(365)所在。〔延喜式、令義解〕。(366)所在。〔延喜式、令義解〕。(367)所在。〔延喜式、令義解〕。(368)所在。〔延喜式、令義解〕。(369)所在。〔延喜式、令義解〕。(370)所在。〔延喜式、令義解〕。(371)所在。〔延喜式、令義解〕。(372)所在。〔延喜式、令義解〕。(373)所在。〔延喜式、令義解〕。(374)所在。〔延喜式、令義解〕。(375)所在。〔延喜式、令義解〕。(376)所在。〔延喜式、令義解〕。(377)所在。〔延喜式、令義解〕。(378)所在。〔延喜式、令義解〕。(379)所在。〔延喜式、令義解〕。(380)所在。〔延喜式、令義解〕。(381)所在。〔延喜式、令義解〕。(382)所在。〔延喜式、令義解〕。(383)所在。〔延喜式、令義解〕。(384)所在。〔延喜式、令義解〕。(385)所在。〔延喜式、令義解〕。(386)所在。〔延喜式、令義解〕。(387)所在。〔延喜式、令義解〕。(388)所在。〔延喜式、令義解〕。(389)所在。〔延喜式、令義解〕。(390)所在。〔延喜式、令義解〕。(391)所在。〔延喜式、令義解〕。(392)所在。〔延喜式、令義解〕。(393)所在。〔延喜式、令義解〕。(394)所在。〔延喜式、令義解〕。(395)所在。〔延喜式、令義解〕。(396)所在。〔延喜式、令義解〕。(397)所在。〔延喜式、令義解〕。(398)所在。〔延喜式、令義解〕。(399)所在。〔延喜式、令義解〕。(400)所在。〔延喜式、令義解〕。(401)所在。〔延喜式、令義解〕。(402)所在。〔延喜式、令義解〕。(403)所在。〔延喜式、令義解〕。(404)所在。〔延喜式、令義解〕。(405)所在。〔延喜式、令義解〕。(406)所在。〔延喜式、令義解〕。(407)所在。〔延喜式、令義解〕。(408)所在。〔延喜式、令義解〕。(409)所在。〔延喜式、令義解〕。(410)所在。〔延喜式、令義解〕。(411)所在。〔延喜式、令義解〕。(412)所在。〔延喜式、令義解〕。(413)所在。〔延喜式、令義解〕。(414)所在。〔延喜式、令義解〕。(415)所在。〔延喜式、令義解〕。(416)所在。〔延喜式、令義解〕。(417)所在。〔延喜式、令義解〕。(418)所在。〔延喜式、令義解〕。(419)所在。〔延喜式、令義解〕。(420)所在。〔延喜式、令義解〕。(421)所在。〔延喜式、令義解〕。(422)所在。〔延喜式、令義解〕。(423)所在。〔延喜式、令義解〕。(424)所在。〔延喜式、令義解〕。(425)所在。〔延喜式、令義解〕。(426)所在。〔延喜式、令義解〕。(427)所在。〔延喜式、令義解〕。(428)所在。〔延喜式、令義解〕。(429)所在。〔延喜式、令義解〕。(430)所在。〔延喜式、令義解〕。(431)所在。〔延喜式、令義解〕。(432)所在。〔延喜式、令義解〕。(433)所在。〔延喜式、令義解〕。(434)所在。〔延喜式、令義解〕。(435)所在。〔延喜式、令義解〕。(436)所在。〔延喜式、令義解〕。(437)所在。〔延喜式、令義解〕。(438)所在。〔延喜式、令義解〕。(439)所在。〔延喜式、令義解〕。(440)所在。〔延喜式、令義解〕。(441)所在。〔延喜式、令義解〕。(442)所在。〔延喜式、令義解〕。(443)所在。〔延喜式、令義解〕。(444)所在。〔延喜式、令義解〕。(445)所在。〔延喜式、令義解〕。(446)所在。〔延喜式、令義解〕。(447)所在。〔延喜式、令義解〕。(448)所在。〔延喜式、令義解〕。(449)所在。〔延喜式、令義解〕。(450)所在。〔延喜式、令義解〕。(451)所在。〔延喜式、令義解〕。(452)所在。〔延喜式、令義解〕。(453)所在。〔延喜式、令義解〕。(454)所在。〔延喜式、令義解〕。(455)所在。〔延喜式、令義解〕。(456)所在。〔延喜式、令義解〕。(457)所在。〔延喜式、令義解〕。(458)所在。〔延喜式、令義解〕。(459)所在。〔延喜式、令義解〕。(460)所在。〔延喜式、令義解〕。(461)所在。〔延喜式、令義解〕。(462)所在。〔延喜式、令義解〕。(463)所在。〔延喜式、令義解〕。(464)所在。〔延喜式、令義解〕。(465)所在。〔延喜式、令義解〕。(466)所在。〔延喜式、令義解〕。(467)所在。〔延喜式、令義解〕。(468)所在。〔延喜式、令義解〕。(469)所在。〔延喜式、令義解〕。(470)所在。〔延喜式、令義解〕。(471)所在。〔延喜式、令義解〕。(472)所在。〔延喜式、令義解〕。(473)所在。〔延喜式、令義解〕。(474)所在。〔延喜式、令義解〕。(475)所在。〔延喜式、令義解〕。(476)所在。〔延喜式、令義解〕。(477)所在。〔延喜式、令義解〕。(478)所在。〔延喜式、令義解〕。(479)所在。〔延喜式、令義解〕。(480)所在。〔延喜式、令義解〕。(481)所在。〔延喜式、令義解〕。(482)所在。〔延喜式、令義解〕。(483)所在。〔延喜式、令義解〕。(484)所在。〔延喜式、令義解〕。(485)所在。〔延喜式、令義解〕。(486)所在。〔延喜式、令義解〕。(487)所在。〔延喜式、令義解〕。(488)所在。〔延喜式、令義解〕。(489)所在。〔延喜式、令義解〕。(490)所在。〔延喜式、令義解〕。(491)所在。〔延喜式、令義解〕。(492)所在。〔延喜式、令義解〕。(493)所在。〔延喜式、令義解〕。(494)所在。〔延喜式、令義解〕。(495)所在。〔延喜式、令義解〕。(496)所在。〔延喜式、令義解〕。(497)所在。〔延喜式、令義解〕。(498)所在。〔延喜式、令義解〕。(499)所在。〔延喜式、令義解〕。(500)所在。〔延喜式、令義解〕。(501)所在。〔延喜式、令義解〕。(502)所在。〔延喜式、令義解〕。(503)所在。〔延喜式、令義解〕。(504)所在。〔延喜式、令義解〕。(505)所在。〔延喜式、令義解〕。(506)所在。〔延喜式、令義解〕。(507)所在。〔延喜式、令義解〕。(508)所在。〔延喜式、令義解〕。(509)所在。〔延喜式、令義解〕。(510)所在。〔延喜式、令義解〕。(511)所在。〔延喜式、令義解〕。(512)所在。〔延喜式、令義解〕。(513)所在。〔延喜式、令義解〕。(514)所在。〔延喜式、令義解〕。(515)所在。〔延喜式、令義解〕。(516)所在。〔延喜式、令義解〕。(517)所在。〔延喜式、令義解〕。(518)所在。〔延喜式、令義解〕。(519)所在。〔延喜式、令義解〕。(520)所在。〔延喜式、令義解〕。(521)所在。〔延喜式、令義解〕。(522)所在。〔延喜式、令義解〕。(523)所在。〔延喜式、令義解〕。(524)所在。〔延喜式、令義解〕。(525)所在。〔延喜式、令義解〕。(526)所在。〔延喜式、令義解〕。(527)所在。〔延喜式、令義解〕。(528)所在。〔延喜式、令義解〕。(529)所在。〔延喜式、令義解〕。(530)所在。〔延喜式、令義解〕。(531)所在。〔延喜式、令義解〕。(532)所在。〔延喜式、令義解〕。(533)所在。〔延喜式、令義解〕。(534)所在。〔延喜式、令義解〕。(535)所在。〔延喜式、令義解〕。(536)所在。〔延喜式、令義解〕。(537)所在。〔延喜式、令義解〕。(538)所在。〔延喜式、令義解〕。(539)所在。〔延喜式、令義解〕。(540)所在。〔延喜式、令義解〕。(541)所在。〔延喜式、令義解〕。(542)所在。〔延喜式、令義解〕。(543)所在。〔延喜式、令義解〕。(544)所在。〔延喜式、令義解〕。(545)所在。〔延喜式、令義解〕。(546)所在。〔延喜式、令義解〕。(547)所在。〔延喜式、令義解〕。(548)所在。〔延喜式、令義解〕。(549)所在。〔延喜式、令義解〕。(550)所在。〔延喜式、令義解〕。(551)所在。〔延喜式、令義解〕。(552)所在。〔延喜式、令義解〕。(553)所在。〔延喜式、令義解〕。(554)所在。〔延喜式、令義解〕。(555)所在。〔延喜式、令義解〕。(556)所在。〔延喜式、令義解〕。(557)所在。〔延喜式、令義解〕。(558)所在。〔延喜式、令義解〕。(559)所在。〔延喜式、令義解〕。(560)所在。〔延喜式、令義解〕。(561)所在。〔延喜式、令義解〕。(562)所在。〔延喜式、令義解〕。(563)所在。〔延喜式、令義解〕。(564)所在。〔延喜式、令義解〕。(565)所在。〔延喜式、令義解〕。(566)所在。〔延喜式、令義解〕。(567)所在。〔延喜式、令義解〕。(568)所在。〔延喜式、令義解〕。(569)所在。〔延喜式、令義解〕。(570)所在。〔延喜式、令義解〕。(571)所在。〔延喜式、令義解〕。(572)所在。〔延喜式、令義解〕。(573)所在。〔延喜式、令義解〕。(574)所在。〔延喜式、令義解〕。(575)所在。〔延喜式、令義解〕。(576)所在。〔延喜式、令義解〕。(577)所在。〔延喜式、令義解〕。(578)所在。〔延喜式、令義解〕。(579)所在。〔延喜式、令義解〕。(580)所在。〔延喜式、令義解〕。(581)所在。〔延喜式、令義解〕。(582)所在。〔延喜式、令義解〕。(583)所在。〔延喜式、令義解〕。(584)所在。〔延喜式、令義解〕。(585)所在。〔延喜式、令義解〕。(586)所在。〔延喜式、令義解〕。(587)所在。〔延喜式、令義解〕。(588)所在。〔延喜式、令義解〕。(589)所在。〔延喜式、令義解〕。(590)所在。〔延喜式、令義解〕。(591)所在。〔延喜式、令義解〕。(592)所在。〔延喜式、令義解〕。(593)所在。〔延喜式、令義解〕。(594)所在。〔延喜式、令義解〕。(595)所在。〔延喜式、令義解〕。(596)所在。〔延喜式、令義解〕。(597)所在。〔延喜式、令義解〕。(598)所在。〔延喜式、令義解〕。(599)所在。〔延喜式、令義解〕。(600)所在。〔延喜式、令義解〕。(601)所在。〔延喜式、令義解〕。(602)所在。〔延喜式、令義解〕。(603)所在。〔延喜式、令義解〕。(604)所在。〔延喜式、令義解〕。(605)所在。〔延喜式、令義解〕。(606)所在。〔延喜式、令義解〕。(607)所在。〔延喜式、令義解〕。(608)所在。〔延喜式、令義解〕。(609)所在。〔延喜式、令義解〕。(610)所在。〔延喜式、令義解〕。(611)所在。〔延喜式、令義解〕。(612)所在。〔延喜式、令義解〕。(613)所在。〔延喜式、令義解〕。(614)所在。〔延喜式、令義解〕。(615)所在。〔延喜式、令義解〕。(616)所在。〔延喜式、令義解〕。(617)所在。〔延喜式、令義解〕。(618)所在。〔延喜式、令義解〕。(619)所在。〔延喜式、令義解〕。(620)所在。〔延喜式、令義解〕。(621)所在。〔延喜式、令義解〕。(622)所在。〔延喜式、令義解〕。(623)所在。〔延喜式、令義解〕。(624)所在。〔延喜式、令義解〕。(625)所在。〔延喜式、令義解〕。(626)所在。〔延喜式、令義解〕。(627)所在。〔延喜式、令義解〕。(628)所在。〔延喜式、令義解〕。(629)所在。〔延喜式、令義解〕。(630)所在。〔延喜式、令義解〕。(631)所在。〔延喜式、令義解〕。(632)所在。〔延喜式、令義解〕。(633)所在。〔延喜式、令義解〕。(634)所在。〔延喜式、令義解〕。(635)所在。〔延喜式、令義解〕。(636)所在。〔延喜式、令義解〕。(637)所在。〔延喜式、令義解〕。(638)所在。〔延喜式、令義解〕。(639)所在。〔延喜式、令義解〕。(640)所在。〔延喜式、令義解〕。(641)所在。〔延喜式、令義解〕。(642)所在。〔延喜式、令義解〕。(643)所在。〔延喜式、令義解〕。(644)所在。〔延喜式、令義解〕。(645)所在。〔延喜式、令義解〕。(646)所在。〔延喜式、令義解〕。(647)所在。〔延喜式、令義解〕。(648)所在。〔延喜式、令義解〕。(649)所在。〔延喜式、令義解〕。(650)所在。〔延喜式、令義解〕。(651)所在。〔延喜式、令義解〕。(652)所在。〔延喜式、令義解〕。(653)所在。〔延喜式、令義解〕。(654)所在。〔延喜式、令義解〕。(655)所在。〔延喜式、令義解〕。(656)所在。〔延喜式、令義解〕。(657)所在。〔延喜式、令義解〕。(658)所在。〔延喜式、令義解〕。(659)所在。〔延喜式、令義解〕。(660)所在。〔延喜式、令義解〕。(661)所在。〔延喜式、令義解〕。(662)所在。〔延喜式、令義解〕。(663)所在。〔延喜式、令義解〕。(664)所在。〔延喜式、令義解〕。(665)所在。〔延喜式、令義解〕。(666)所在。〔延喜式、令義解〕。(667)所在。〔延喜式、令義解〕。(668)所在。〔延喜式、令義解〕。(669)所在。〔延喜式、令義解〕。(670)所在。〔延喜式、令義解〕。(671)所在。〔延喜式、令義解〕。(672)所在。〔延喜式、令義解〕。(673)所在。〔延喜式、令義解〕。(674)所在。〔延喜式、令義解〕。(675)所在。〔延喜式、令義解〕。(676)所在。〔延喜式、令義解〕。(677)所在。〔延喜式、令義解〕。(678)所在。〔延喜式、令義解〕。(679)所在。〔延喜式、令義解〕。(680)所在。〔延喜式、令義解〕。(681)所在。〔延喜式、令義解〕。(682)所在。〔延喜式、令義解〕。(683)所在。〔延喜式、令義解〕。(684)所在。〔延喜式、令義解〕。(685)所在。〔延喜式、令義解〕。(686)所在。〔延喜式、令義解〕。(687)所在。〔延喜式、令義解〕。(688)所在。〔延喜式、令義解〕。(689)所在。〔延喜式、令義解〕。(690)所在。〔延喜式、令義解〕。(691)所在。〔延喜式、令義解〕。(692)所在。〔延喜式、令義解〕。(693)所在。〔延喜式、令義解〕。(694)所在。〔延喜式、令義解〕。(695)所在。〔延喜式、令義解〕。(696)所在。〔延喜式、令義解〕。(697)所在。〔延喜式、令義解〕。(698)所在。〔延喜式、令義解〕。(699)所在。〔延喜式、令義解〕。(700)所在。〔延喜式、令義解〕。(701)所在。〔延喜式、令義解〕。(702)所在。〔延喜式、令義解〕。(703)所在。〔延喜式、令義解〕。(704)所在。〔延喜式、令義解〕。(705)所在。〔延喜式、令義解〕。(706)所在。〔延喜式、令義解〕。(707)所在。〔延喜式、令義解〕。(708)所在。〔延喜式、令義解〕。(709)所在。〔延喜式、令義解〕。(710)所在。〔延喜式、令義解〕。(711)所在。〔延喜式、令義解〕。(712)所在。〔延喜式、令義解〕。(713)所在。〔延喜式、令義解〕。(714)所在。〔延喜式、令義解〕。(715)所在。〔延喜式、令義解〕。(716)所在。〔延喜式、令義解〕。(717)所在。〔延喜式、令義解〕。(718)所在。〔延喜式、令義解〕。(719)所在。〔延喜式、令義解〕。(720)所在。〔延喜式、令義解〕。(721)所在。〔延喜式、令義解〕。(722)所在。〔延喜式、令義解〕。(723)所在。〔延喜式、令義解〕。(724)所在。〔延喜式、令義解〕。(725)所在。〔延喜式、令義解〕。(726)所在。〔延喜式、令義解〕。(727)所在。〔延喜式、令義解〕。(728)所在。〔延喜式、令義解〕。(729)所在。〔延喜式、令義解〕。(730)所在。〔延喜式、令義解〕。(731)所在。〔延喜式、令義解〕。(732)所在。〔延喜式、令義解〕。(733)所在。〔延喜式、令義解〕。(734)所在。〔延喜式、令義解〕。(735)所在。〔延喜式、令義解〕。(736)所在。〔延喜式、令義解〕。(737)所在。〔延喜式、令義解〕。(738)所在。〔延喜式、令義解〕。(739)所在。〔延喜式、令義解〕。(740)所在。〔延喜式、令義解〕。(741)所在。〔延喜式、令義解〕。(742)所在。〔延喜式、令義解〕。(743)所在。〔延喜式、令義解〕。(744)所在。〔延喜式、令義解〕。(745)所在。〔延喜式、令義解〕。(746)所在。〔延喜式、令義解〕。(747)所在。〔延喜式、令義解〕。(748)所在。〔延喜式、令義解〕。(749)所在。〔延喜式、令義解〕。(750)所在。〔延喜式、令義解〕。(751)所在。〔延喜式、令義解〕。(752)所在。〔延喜式、令義解〕。(753)所在。〔延喜式、令義解〕。(754)所在。〔延喜式、令義解〕。(755)所在。〔延喜式、令義解〕。(756)所在。〔延喜式、令義解〕。(757)所在。〔延喜式、令義解〕。(758)所在。〔延喜式、令義解〕。(759)所在。〔延喜式、令義解〕。(760)所在。〔延喜式、令義解〕。(761)所在。〔延喜式、令義解〕。(762)所在。〔延喜式、令義解〕。(763)所在。〔延喜式、令義解〕。(764)所在。〔延喜式、令義解〕。(765)所在。〔延喜式、令義解〕。(766)所在。〔延喜式、令義解〕。(767)所在。〔延喜式、令義解〕。(768)所在。〔延喜式、令義解〕。(769)所在。〔延喜式、令義解〕。(770)所在。〔延喜式、令義解〕。(771)所在。〔延喜式、令義解〕。(772)所在。〔延喜式、令義解〕。(773)所在。〔延喜式、令義解〕。(774)所在。〔延喜式、令義解〕。(775)所在。〔延喜式、令義解〕。(776)所在。〔延喜式、令義解〕。(777)所在。〔延喜式、令義解〕。(778)所在。〔延喜式、令義解〕。(779)所在。〔延喜式、令義解〕。(780)所在。〔延喜式、令義解〕。(781)所在。〔延喜式、令義解〕。(782)所在。〔延喜式、令義解〕。(783)所在。〔延喜式、令義解〕。(784)所在。〔延喜式、令義解〕。

助、王文書集序：天青脚、其所戸、其所戸、注南向日、不說二戸、也。●所何所の略。「所」の項参。
【所思】ショシ　漢の人、武帝の妾。班倢伃の父。
【所謂】ショイ　（説文解字、四十九）
【所論】ショロン　（国語、晉語）「高野天皇（孝謙）、道鏡之弟、常ニ修二刑、矣、然先帝所遺、所戸、ハ、天、として、修二ものの、自分があがめる。やっぱり、天、として、修二ものの、自分があがめる。
【所戸】ショコ　やっぱり、天、として、修二ものの、自分があがめる。
【所天】ショテン　（説文）「所戸、ハ、後漢書、徐幹傳、乃敢味死、自陳、所天、」注「臣以君爲天、故云所戸、天、奚忘、（後漢書、徐幹傳）」（南史、江淹傳）「則心學、以敏、所天、●夫を」いう。（白氏文集、答皇甫湜書）「何必、直線、直線、所戸、ハ、所天、ハ、夫、」（唐書、直線傳）「直線、所戸、ハ、所天、ハ、夫、」（唐書、直線傳）「何必、

冊氏。冀冀門戶。之交也。(段注)冀門戶者。奏者。八觚。六曰。賀書。箸子良玄。賀書。[illegible]。[illegible]。[illegible]

扁 説文 [illegible] 扁 [illegible] 扁 [illegible] 扁

明察也。〔説文通訓定聲〕閤 段借爲栅。〔左氏、襄、五〕我心閤焉。〔注〕閤閤、明察也。

【閤】 閤(6・11737)は別字。〔字彙、補〕閤、一字相似。〔廣韻〕門蹟鏡、胡、音賈、戶耳也。

【閤】 ・・・くわんのうのきこえ。門を・・・ふ。〔別韻〕俗、酒徳頌、日月爲、閤閤、八荒爲、庭衝。〔注〕銑、日、閤閤、門也。

【閤禁】 ・・・禁中。宮中。江淹、詣、建平王上書。〔晉書、宣帝紀〕閤、身周禁、密謀、密議。〔注〕漢、宮闈、宮闈、門、身周禁、密謀、密議。

【閤】 門戶をとざす横木。くわんのき。〔周禮、天官、閽人〕掌、守、宮門、而、啓、閉、之、事、〔注〕閉、謂、夜、時、禁、人、出、入、也、〔疏〕閉、謂、夜、時、禁、人、出、入、也、〔疏〕閉、謂、夜、時、禁、人、出、入、也、〔疏

扇、通作依。〔姜書、徐樂傳、南面背依〕〔注〕師古曰、依、隱也。❹依(10・34071)

【扇】11743

〔コ〕〔一〕〔集韻〕戶苑切 戶苑 ㄏㄨㄢˋ 扇

〔コ〕〔一〕〔集韻〕戶苑切 光 ㄍㄨㄤ

扇 ❶ 〔一〕❷とびら、あみど 竹の戶。〔說文〕扇、扉也。从戶羽。〔禮、月令〕乃修闔扇。〔注〕闔、門旁小扉。〔呂覽、如淫〕設以禱門之扇。〔注〕扇、門也。❸うちは、あおぎ 團扇。〔方言、五〕扇、自關而東、或謂之扇。〔淮南、說林〕扇者、所以障塵蔽暑也。〔後漢、輿服志〕乘輿、黃蓋、黃扇。〔蔡邕、獨斷〕扇、以雉尾爲之。❹あおぐ 扇。〔禮、檀弓〕扇、而不搖。〔後漢、輿服志〕乘輿、黃蓋、黃扇。〔蔡邕、獨斷〕扇、以雉尾爲之。❹ふさん

の扇子といふ。

【扇子峽】[ヘウ] 湖北省宜昌縣の西。三峽新入記。

【扇峽】[ヘウ] 峽重山名。湖北省宜昌縣。

【扇子山】[ヤマ] 芭蕉の葉の異稱。蘇軾詩。

【扇子仙】[ヤマ] 芭蕉の葉の異稱。蘇軾詩。

【扇仙】[ヤマ] 芭蕉の葉。

【扇】[ヤマ] 芭蕉の葉。

【扇】[ヤマ] 芭蕉の葉。

【扇

【扇】11743 セン　切6・11743に同じ。

【扇】11744 ヲウ（字彙補）鳥古切 [illegible]

[illegible]

【扉】11745 カブ ゴフ（集韻）満合切 [illegible]

いへ。（説文）戸也。屋舎也。

【扈】11746 コ（集韻）後五切 [illegible]

[illegible]

七書

【扈】小 [illegible] 古 ●大きい。（説文）広也。（玉篇）大也。（広韻）大貌。（字彙）[illegible]。（説文通訓定声）扈、段借為[illegible]。（司馬相如・上林賦）扈従横行。（注）蕭曰、[illegible]。（爾雅・釋山）卑而大扈。（注）扈、[illegible]。（淮南子・要略）[illegible]。（注）扈、廣大也。●ゆるい。（周礼・考工記）弓人、弓而羽顧。（注）羽猶為扈、扈、緩也。●はびこる。ひろがる。（一切経音義・十二）扈、跋扈也。●つきそふ。後につきそふ（字彙）扈、尾也。（後漢書・[illegible]）。●まもる。護（10・30648）に通ず。（説文通訓定声）扈、或円、護の借字。●やとふ。又、しもべ。けらい。うまかひ。（[illegible]・41976）に通ず。（説文通訓定声）扈、段借為扈。（後漢書・[illegible]）。（注）[illegible]。（公羊・宣・十二）斯役扈養（注）養、馬者曰扈。●かうむる。おびる。被（10・34222）に通ず。（説文通訓定声）扈、段借為被。（

問 【扈】從登對 途中作詩 讓從良可 謂、終之、扶天才、〔蘇軾 蘇軾五〕左右扈從、〔李商隱 李商隱〕左傳、少昊氏以鳥名官、有二行長、扈從之職、〔蘇 蘇〕

【扈從】ｋｏ 扈從、警衛の意味。〔後漢書 桓行義〕

【扈從】ｋｏ 扈從の意味。〔後漢書 桓行義〕

【扈從官】ｋｏｋａｎ 扈從官

戸部 〔八——十七畫〕 扉扉扉

之、當御者、以ト張頂、進之、蓍于左手、既御、鈔上、右者后妃重妾、進御于前、當御以授御者、進之、御者以授、妻、進御于後、進者、左手御、鈔、又、右手記。

【手伎】ｓｈｏｕ ｊｉ。●手技に同じ。手芸。●手伎をするわざ。手芸。手技。技芸。●手伎は通用。●『史記』『漢書』『家語』『百人一首』『宴』『通俗編』『藝術』手技、技芸、手練、技芸、手伎、手技、技芸、手伎、手技、技芸、手伎、手技

と。手番。〔西宮記〕正月三座部手番事。

【手狭】てせば 場所の狭いこと。仕事に対し場所の便利でないこと。●手をかける所。●手の便宜。探索の場所。●てせば。奚。手にかけて愛するものの意。

【手弱】たよわ 腕力の弱いこと。●手の便宜。●てせば。奚。手にかけて愛するものの意。

【手足】てあし 人の手と足。●手の足。●手の足。●手足。●手足。●手

【手狀】ｊｉｏ公。唐の武宗の時、被告に偽書を出し、黙させて作った自白状（大唐新語）。「惟刑慎之」（書経）。

【手足】ｓｈｕ ｓｏｋｕ。手と足。「手脚」。

【手足の情】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｊｏｕ。兄弟の情。「手脚」。

【手足の用】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｙｏｕ。手足の用。「手脚」。

【手足の力】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｒｉｋｉ。手足の力。「手脚」。

【手足の力を盡す】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｒｉｋｉｏｕｔｓｕｋｉｓｕ。手足の力を盡す。「手脚」。

【手足の力を用ひる】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｒｉｋｉｏｔｓｕｋｉｙｏｕｒｕ。手足の力を用ひる。「手脚」。

【手足の用】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｙｏｕ。手足の用。「手脚」。

【手足の情】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｊｏｕ。手足の情。「手脚」。

【手足の力を盡す】ｓｈｕ ｓｏｋｕ ｎｏ ｒｉｋｉｏ

問(六代論)諸手 指其手足 殺。●兄弟をいふ。手也。(孫書、魯國三桓)兄弟者、左右手足。(孫書、魯國三桓)郤陽王(郤陽王)曰、臣聞王之兄弟、猶人之有手足也。(孫書、魯國三桓)三桓、乃興世輔書 曰、魯哀公 手足 兄弟、如左如手。

(管子)子曰、子何為 母之遺體 而為人 乎。(孫書、魯國三桓)子曰、臣聞之、人 之於 死 也、臨 尸 而 思 其 生 者、仁 人 之 事 也、臨 死 而 思 其 生 者、不 仁 之 事 也、今 臣 聞 之、人 之 於 死 也、臨 尸

手部筆順其家髻 ●髻 ○ 石弓 ○ 手毛。●手 ○ 手 ○ 手 ○

[手鞠]249 jū-mari 手表に同じ。

[手鞠]249 te-mari 手の習練。轉じて、盗みをする惡習。「ていっかん」

[手鞠]249 te-mari 手に鞠がたまれる。(類)同上。古語「鞠」は蹴鞠型・手鞠型風。

[手代]252 te-dai 手をうること。(奴隷)。二(組合・惣代)。(類)手形。

[手形]252 te-gata 紙・紙屑・紙が大賞。

[手拭]252 te-gui おやゆび。拇手。(類)親指。

[手拭]252 te-gui 手拭に同じ。手巾。

[手拭]252 te-gui 手拭から模倣する又・手ブからした模倣。(轉)意・意記・意。全手模也。●ぎつ手。

[手木]256 te-gi 昔、捕手の持つた鎖製の短い棒。十手。

[手業]257 te-wa 手ブかの書いた書。(書)書・字形等。

[手本]257 te-hon 手ブかの書いた書。(書)書・字形等。

[手本]257 te-hon 手ブから模倣する。手許不如意。

[手本]257 te-hon ●手本・(手)・(手)・(手)

及手時。（後漢書）隗囂傳（冠西）囂曰若來手自調。父子相見。（保無）地獄也（晉書）杜預傳（指授書即位遺詔）。（後漢書）馬援傳（過城下）。

（通俗編）手無指。（手出）ができない。

（通俗編）身體東手無指。（発至雑志）東元嘉知泰州。禁酒甚厳。有人書下郡門。著以！！

噬手[illegible]。（手に）噛をつけても。重い物を持ちつつ。（手が）噛まれたことはなくて。（噛して）。（為）噛を起して事（を）手がするといふ。噬手可（決）。（噬手可）決を起して（噬）手可（決）。（噬）手可（決）。手に噛して起ってば直（ち）に決する者（が）。（噬）手（を）得ることと二本。（噬）手（を）得ることと二本。（噬）手（を）得ることと二本

寝機。

「手技」[術的] 〔……〕手に属するもの。道具・物を操ける。〔論語、大貴子揖、鮑的、面後多〕「手化・醜・剛」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。多化にはうまくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕「不能・手・技」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕「手・技」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕「手・技」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕「手・技」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕

「手・技」〔……〕手足をめやくちやくちやくなる。〔朱子全書、孟子、公孫丑、下〕

(24425)に通ず。「正字通」才、與・敏通。(戰國)趙策に「高誘」注、高七十、顯揮納之於土、惟王才之。❸清の制度に於て、人物を擧用する時の標準、四格の一。「清會典、吏部、凡京察、其屬之職、而注考焉、云云、乃定以四格、云云、二曰、才。(注)有長・有年。❹通じて材(8—14463)。❺設(8—3339)に通ず。「說文」才、段注、釋詁曰、初、哉始也、哉・始、叙、云云、凡才・材・敏・機字、以宣德中任、高郵判官時、始。❻姓。「姓纂」才、段、同音、通用。

名義 モチ、カタ。

解説 指事。—は天地に、草木の葉が生ずべき上には地で下の知らい地に、はを示す。上には地で下の知らい地に、はを示す。故に義は草木の初の葉で、枝葉が地で上に出ずるから人が生れる初にも人間、はなるから、人の能を言はんとしてはこれを人の能を言はんとしてはこれを人の能を言はんとしてはこれを人の能を言はんとしてはこれを人の能を言はんとしてはこれまへ等の意。材・財・敏・機字を通用する。「玉篇」才、中州文・象形。川の氾濫を防止するための形に象る。

字源 熟語は中項見よ。

才(才)[ツイ]才。❶能力。❷能力のすぐれた人。「才能」才。❸能力のすぐれた人。「才子」才。高誘・淮南子注、「才、美也」。「才子」才。高誘・淮南子注、「才、美也」。「才子」才。「才子」才。「才子」才

【才語】ｻｲｺﾞ　普通の言い方をせず、相手に才智を以て判断させるやうな言い方で表現した語。學識を示して無學者に分からせやうな言い方。

【才士】ｻｲｼ　①能力のある人。才人。

【才子】ｻｲｼ　①才智のある人。才人。②才智のある男を云ふ。又、特して、人のあるを云ふ。又、特して、人のあるを云ふ。又、特して、人のあるを

非才智。

『才子』[illegible] はたらき。きりやり。才能度量【魏志、曹休傳】「子孫有才氣世才度」

『才士』[illegible] 才能ある人。【後漢書、馮魴傳】「其才士也」

『才子』[illegible] 才能ある人。【後漢書、馮魴傳】「其才子也」

『才子』[illegible] 才智の高くやさびやかな人。【後漢書、陳寔傳】「陳寔、字仲弧、潁川許人。世稱高行。……寔子紀字元方、……皆才德高美、……時人謂之二龍。……紀字元方、……皆才德高美、……時人謂之二龍。……紀字元方、……皆才德高美、……時人謂之二龍。……

劣って任務にたへない。才能がありながら運命にめぐまれない。（杜甫、寄岳州賈司馬）詩「比看伯叔四人有才無命、命皆寡薄。」

沿才授　職（ｊｉｎ）　才能によって職をさずける。（王融、永明十、年策秀才文）「沿才授職、年策秀才。」

【才】11770　シュ　手の別體。てんく。文字の左旁。（廣野字典、後漢書）

【才】11771　セチ　エチ　（サツ）（集韻）（集韻）入質　ｔｓｈｉｅｔ　ｔｓｈｉｅｔ　（集韻）入質　ｔｓｈｉｅｔ　ｔｓｈｉｅｔ

一　書

●ぬく。（集韻）抜也。●贅のさま。（集韻）抜也。

【扎】11772　サツ　（集韻）（集韻）入八切　ｔｓｈｅｔ　ｔｓｈｅｔ

扎は（ｃ）を見よ。●縛へる。（水滸傳、二回）「扎」「一箇山

【扎】11773　ケキ　キヤク　（集韻）（集韻）入陌　ｋｅｋ　ｋｅｋ

二　書

●ゆがめる。（集韻）抜也。●もつ。（集韻）「扎」同。（正字通）「扎」同。持也。

●うける。（正字通）受也。●縛へる。（正字通）「扎」同。

【扎】11774　ケキ　キヤク　（集韻）（集韻）入陌　ｋｅｋ　ｋｅｋ

扎は（ｃ）を見よ。●縛へる。（水滸傳、三十三回）「去土地大王廟前、紮縛起」

（水滸傳、三十三回）去土地大王廟前、紮縛起」

少小紮山（ｊｉｎ）　水滸傳、三十三回）去土地大王廟前、紮縛起」

【扎】11775　ヒキ　ヒク　（集韻）（集韻）入九切　ｐｉｅｋ　ｐｉｅｋ

扎は（ｃ）を見よ。●縛へる。（水滸傳、三十三回）「去土地大王廟前、紮縛起」

【扎】11776　キヤク　グ　（集韻）（集韻）入九切　ｋｅｋ　ｋｅｋ

扎は（ｃ）を見よ。●ゆるやか。（廣韻）抜也。緩也。●ゆるくもつ。（集韻）抜也。一曰、不固。●固くない。（集韻）抜也。一曰、不固。●過して抜ける。（集韻）抜也。一曰、不固。●過して抜ける。（集韻）抜也。一曰、不固。●過して抜ける

扣而後耕、从手力聲。（易、繫辭上）踣奇、手扣、以象人間、五歲得閒、故再扣而後耕。（釋文）扣、勒、於左手中三指之後間也。（本義）扣、勒、於左手中三指之後間也。（丁義昌、讀易會通）注疏不解、扣字、釋文引馬融云、扣、指間也。（玉篇）扣、凡數之餘、義並同。●あまり。（玉篇）扣、凡數之餘。（集韻）扣、通作芍。同□●（0—30543）に作る。

扑 11779

□ホク　（集韻）普木切　屋　女X-ㄨ
□ハク　（集韻）匹角切　覺　ㄆㄨㄛˋ
□フウ　（集韻）匹候切　宥　ㄆㄈㄡˋ
□ヒョク　（集韻）苦遇切　職　ㄎㄨˋ
□ボク

（集韻）扑、通作芍。同□●（0—30543）に作る。（集韻）扑、結也、關中語。●地名。漢書、高五王傳）齊南王碑光、以扣侯立。（注）服虔曰、扣、音勒、平原縣也。

□●かるくうつ。支（0—13108）に同じ。（集韻）支、說文、小擊也、或作扑。●うつ。挭（0—12758）に同じ。（說文通訓定聲）支、亦作扑、段借爲挭。（史記、刺客列傳）擊秦皇帝。（注）索隱曰、扑、擊也。●むち。むちうつ。（書、舜典）鞭扑。（傳）扑、榎楚也。（疏）榎、楚、小物、以扑撻人。（禮、王制）八刑、扑。（注）扑、撻也。（左氏、文十八）敎以扑撻。（注）扑、笞也。●たふす。たふれる。介（1—354）に通ず。（說文通訓定聲）支、亦作扑、段借爲仆。（史記、周紀）秦敗諸侯、轉戰扑師武。（注）集解曰、扑、作仆。□うつ。撲（0—1293）に同じ。（集韻）博雅、擊也、或作扑。

□●うつ。（集韻）扑、擊也。●たたく。（類篇）扑、扣也。□四うつ。鞭、撲（0—12334）に同じ。（集韻）撲、敲作扑。

扑手 ㄅㄨˋ ㄕㄡˇ　牛をうちころす。（法言、淵騫）五扑牛。

扑擊 ㄅㄨˋ ㄐㄧˊ　うつ。（呂覽、安死）扑擊走鬼。

扑虎 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ　武勇で敵人が相互に殺り合ふ。「同じ」

扑殺 ㄅㄨˋ ㄕㄚˋ　むちうつて殺す。（漢書（0—12755）、王莽傳）扑殺者有過則建之。（注）扑、撻也。中庭西記。

扑罰 ㄅㄨˋ ㄈㄚˊ　周官司市の事る市刑の中刑。小刑罰罰中刑。（周禮、地官、司市）市刑、小刑罰罰中刑。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑誅 ㄅㄨˋ ㄓㄨ　御覽、周禮、小刑扑罰。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑滿 ㄅㄨˋ ㄇㄢˇ　經、班、班氏、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

扑 11780

□ハイ　（集韻）布怪切　卦　ㄅㄟˋ
□ヘツ　（集韻）蒲別切　屑　ㄅㄧㄝˊ

□●ぬく。ぬきとる。通じて拜（0—11969）に作る。（集韻）扒、拔也、通作拜。（元包、經）扒、拔也、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

□●ぬく。ぬきとる。通じて拜（0—11969）に作る。（集韻）扒、拔也、通作拜。（元包、經）扒、拔也、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

□うつ。ぼくぼくと、殺振する。□打、擊也。●わける。

打 11781

□テイ　ㄉㄧㄥˇ
□チャウ　ㄔㄤˊ
□ダ　ㄉㄚˋ

（集韻）都挺切　迥
（集韻）徒冷切　靖
（云義故）都假切　馬　ㄉㄚˋ

（說文新附）都打、擊也、从手丁聲。（廣雅、釋言三）打、擊也。（廣雅、釋詁三）打、擊也。（史記、張耳傳）以瓦石擊打公門。●たたく。●うつ。（史記、周紀）秦敗諸侯、轉戰扑師武。（注）集解曰、扑、作仆。□うつ。撲（0—12334）に同じ。（集韻）撲、擊也、或作扑。●たたく。（類篇）扑、扣也。□四うつ。鞭、撲（0—12334）に同じ。（集韻）撲、敲作扑。

扑手 ㄅㄨˋ ㄕㄡˇ　牛をうちころす。（法言、淵騫）五扑牛。

扑擊 ㄅㄨˋ ㄐㄧˊ　うつ。（呂覽、安死）扑擊走鬼。

扑虎 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ　武勇で敵人が相互に殺り合ふ。「同じ」

扑殺 ㄅㄨˋ ㄕㄚˋ　むちうつて殺す。（漢書（0—12755）、王莽傳）扑殺者有過則建之。（注）扑、撻也。中庭西記。

扑罰 ㄅㄨˋ ㄈㄚˊ　周官司市の事る市刑の中刑。小刑罰罰中刑。（周禮、地官、司市）市刑、小刑罰罰中刑。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑誅 ㄅㄨˋ ㄓㄨ　御覽、周禮、小刑扑罰。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑滿 ㄅㄨˋ ㄇㄢˇ　經、班、班氏、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

扑 11780

□ハイ　（集韻）布怪切　卦　ㄅㄟˋ
□ヘツ　（集韻）蒲別切　屑　ㄅㄧㄝˊ

□●ぬく。ぬきとる。通じて拜（0—11969）に作る。（集韻）扒、拔也、通作拜。（元包、經）扒、拔也、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

□●ぬく。ぬきとる。通じて拜（0—11969）に作る。（集韻）扒、拔也、通作拜。（元包、經）扒、拔也、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

□うつ。ぼくぼくと、殺振する。□打、擊也。●わける。

扑 11779

□ホク　（集韻）普木切　屋　女X-ㄨ
□ハク　（集韻）匹角切　覺　ㄆㄨㄛˋ
□フウ　（集韻）匹候切　宥　ㄆㄈㄡˋ
□ヒョク　（集韻）苦遇切　職　ㄎㄨˋ
□ボク

（集韻）扑、通作芍。同□●（0—30543）に作る。（集韻）扑、結也、關中語。●地名。漢書、高五王傳）齊南王碑光、以扣侯立。（注）服虔曰、扑、音勒、平原縣也。

□●かるくうつ。支（0—13108）に同じ。（集韻）支、說文、小擊也、或作扑。●うつ。挭（0—12758）に同じ。（說文通訓定聲）支、亦作扑、段借爲挭。（史記、刺客列傳）擊秦皇帝。（注）索隱曰、扑、擊也。●むち。むちうつ。（書、舜典）鞭扑。（傳）扑、榎楚也。（疏）榎、楚、小物、以扑撻人。（禮、王制）八刑、扑。（注）扑、撻也。（左氏、文十八）敎以扑撻。（注）扑、笞也。●たふす。たふれる。介（1—354）に通ず。（說文通訓定聲）支、亦作扑、段借爲仆。（史記、周紀）秦敗諸侯、轉戰扑師武。（注）集解曰、扑、作仆。□うつ。撲（0—1293）に同じ。（集韻）博雅、擊也、或作扑。●たたく。（類篇）扑、扣也。□四うつ。鞭、撲（0—12334）に同じ。（集韻）撲、敲作扑。

扑手 ㄅㄨˋ ㄕㄡˇ　牛をうちころす。（法言、淵騫）五扑牛。

扑擊 ㄅㄨˋ ㄐㄧˊ　うつ。（呂覽、安死）扑擊走鬼。

扑虎 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ　武勇で敵人が相互に殺り合ふ。「同じ」

扑殺 ㄅㄨˋ ㄕㄚˋ　むちうつて殺す。（漢書（0—12755）、王莽傳）扑殺者有過則建之。（注）扑、撻也。中庭西記。

扑罰 ㄅㄨˋ ㄈㄚˊ　周官司市の事る市刑の中刑。小刑罰罰中刑。（周禮、地官、司市）市刑、小刑罰罰中刑。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑誅 ㄅㄨˋ ㄓㄨ　御覽、周禮、小刑扑罰。（注）扑、謂也。（注）扑、謂也。

扑滿 ㄅㄨˋ ㄇㄢˇ　經、班、班氏、傳日、轉石投木也。（王應麟、詩攷）刀、剪刀扑、亦作、拌。明。あ

扑 11780

□ハイ　（集韻）布怪切　卦　ㄅㄟˋ
□ヘツ　（集韻）蒲別切　屑　ㄅㄧㄝˊ

ち。●うつ。㊀打って火を出す。㊁釘や棒など を打ちつける。打ちこむ。㊂茶を点る。掲げる。貼りつける。額をうつ。紙の裏を うつ。鍬形をうつ。「兜」㊃墨縄を使ふ。「萬葉集」「万葉集」「心を打つ」㊄砧で打って光澤を出す。「非の打ち所が無い」㊅化る。攻撃する。㊆釘などをさし入れる。「まちを打つ」㊇ちからかけて縛る。「縄をうつ。」㊈はなつ。發射する。「大砲をうつ。」㊉綿ではじく。「綿をうつ。」㊊騎馬で行く。「馬にうつ。」㊋假に構へ設ける。「さじきをうつ。」㊌しめる。閉ちる。「木戸をうつ。」㊍つくる。製作する。「金箔をうつ。」そばはをうつ。「岡町沙汰」近江江が打ちし紫檀の二味線。「細川公」合はせる。「紐をうつ。」㊎すて去る。散布する。「水をうつ。」網をうつ。㊏土地をならす。「地均をうつ。」㊐圃畠。「畝」「畦」「畑」「畠」「畑」「畠」「畑」「畠

歳時記、寒食、打毬、蹴鞠、地鈎之戲、（注）按、鈎、尚別録云、鞠戯、黄帝所造、漢本三勢、也、或云、起於戰國、按、鞠戯、楚辭、古人踏蹴以娯、蹴也、

〔封氏聞見記〕封氏聞見記、唐、趙元一、撰、○毬戯之事、見於志、聲類、十五篇、顔注云、聲類、字林、之、實以物、聲類、氣部、聲類、字林、之、毬、音渠、反、近俗聲記、鞠、有、毬、聲、音渠、反、近俗聲記、鞠、有、毬、樣、打毬、樂、●中古、我が國に傳來し、唐人の技來を、鞠戯、と、鞠戯、の中古、我が國に傳來し、唐人の徳能の樂射と、鞠戯、の中古、我が國に傳來し、武

拜、●正月、射毬、右、左、分、行、毬、者四、十人、列、射、再、分、馬、馬、長、柄、有、鉤、場、中、紅白、の、毬、を、投、げ、て、毬、を、早く、馬、場、の、紅白、の、に、投げ入れることを、爭ふ、

●一人、紅門、に、投入するに、用ひる、具、長、柄、有、先、に、小さ、紅門、に、投入するに、用ひる、具、

〔打毬樂〕〔打毬樂〕、雅樂の名、舞曲、打毬樂、にも、作る、、黄鐘調、に、奏する、ほか、チャヤウ、クラと、調す、、唐樂、、太食調、、雙調、、、鉤會の、馬、樂、に、奏する、

〔打球〕〔打球〕、●野球、テニスなどで、うつた球を、いう、、●、、、

させ、之を取出して鉢士をはらひ落すこと。更解 入沙鉢定之後、鉢所粘沙士打去、又解。

打迭 dǎ diē 名 (六部成語、戶部) 打点。整理。

打差 dǎ chā 名 差役をいう。(其生駁、偵探 糊塗見作我們不是打差。

打坐 dǎ zuò 名 ●坐禅。結跏趺坐。●坐床。

打坐 dǎ zuò 動 ●坐禅。結跏趺坐。●坐床。

打坐場 dǎ zuò chǎng 名 (三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百、千、万、億、兆、京、垓、秭、穰、溝、澗、正、載、極、恒河沙、阿僧祇、那由他、不可説、不可説転、無量大数、大千世界の説法場。(「説法場」の項参照)

打坐 dǎ zuò 動 ●坐禅。結跏趺坐。●坐床。

打坐 dǎ zuò 名 ●坐禅。結跏趺坐。●坐床。

を投所の前に置き、次の日、紅蛾の蠖を以て之を頒つ儺式、牛をして田を耕さしめる意である。といひて又、宮廷を送る意にも使はれる。(後中之ノ)春時、自然百穀蠖百穀。不上、遠遠看行者居。〔後漢書、禮儀志〕春、卯立春日、蠖天官書、星名。門外一里在道、過之春、立春日、蠖居王廟、蠖居王、蠖居山澤、蠖居郊、面向東、以迎春風。〔荊楚歲時記〕春行春、卯立春日、蠖居王、蠖居山澤、是日、高家多食春餅、婦女等多蠖、蠖、蠖、

打鼓 [illegible] 鼓と、呼ねる。きこと。
打場 [illegible] 字林の。
打線 [illegible] 線を見よ。(樟摩)十九回「前去石橋、一時稍(なに)を見よ。(樟摩)十九回「前去石橋、一時稍(なに)を見よ。(樟摩)十九回「前去石橋、一時稍(なに)

●春は柳・若草などのなびいて面白い頃である。から、春にかけていう。

【打水】378 ni. 水を撒く。水を取る。茶中に水を取って水茶に入れること。

【打ち】378 ni. むきだしで。露骨。諺的。『貫之集』吹くに風などが風流をうちつけに、拙く無かんとのみみるかな。

【打ち合ひ】378 ni. ●なぐりあい。走りがき。●手紙の初めに時候見舞などの文を略して、直ちに用事を書き出すこと。「大鏡摂関史」はるばると書きもし何ともて不書して、名字官職、何がし殿と書きて、打ち書きしいたり。

【打ち合ひ心】378 ni. 張に思ひ立つた考。突然の考。

【打聞】378 ni. 打付け同じ。

【打数】378 ni. 古代、市の取引。宇津保物語『俊蔭』「御座敷はすっちゃ、唐、皆、打しなどの数物、多くは元者の机の立て香爐などの数物、多くは元者の机の立て香爐などの数物、多くは元者の机の立て香爐など

打擢 [illegible] [illegible]。●種食を求める。●盗賊

打撃 [illegible] [illegible]。●盗賊が財物を掠取する。

打鼓 [illegible] [illegible]。山猫の小鳥。〔法華義疏〕山猫、穴居の鳥。鷽有る、巣以て風雨に不し過。野毛又水面に名日打鼓。

打鼓 [illegible] [illegible]。竹を鼓つた馬鹿の一種。

打鼓 [illegible] [illegible]。鳴をする。

打鼓 [illegible] [illegible]。竹を鼓つた馬鹿の一種上に機あり鳥が一たび止れば直ちに中に入る

打話 [illegible] [illegible]。對面して話す。問答する。

打坐 [illegible] [illegible]。坐する。普通は坐子の前に置いて坐する。

〔二朝北記資料〕[illegible]。〔法華経・密座〕外衆唱合前上、浮衆上打話華戦介。

打撲 [illegible] [illegible]。直立不動の姿勢をする。

打撲 [illegible] [illegible]。●結掛を坐子の前に置いて坐する。

〔打撲見〕[illegible] [illegible]。満州人の敬礼法。

打撲座 [illegible] [illegible]。●撲様。年禾の大除。〔清嘉録・歳時〕幾、摩書貴五神・金堂五日・去・庭戸懸蓬・或有生一・十三日・十四日・十五日・二十七日・二十八日・二十九日・三十日。

打撲叮打撲座 [illegible] [illegible]。放浪の姿為。匪徒。

打撲 [illegible] [illegible]。一つ叩く。一度打つ。

打撲 [illegible] [illegible]。撲を崩めて挨拶する。一と打ち打つ。

打撲子 [illegible] [illegible]。怖れる。気おおくする。

打撲 [illegible] [illegible]。●結掛を坐子の前に置いて坐する

號令を聽かしめ、違ふ者を斷するなり。（後漢書光武帝紀）

（**蓮民雜記**）擧子某と與に樂妓茂英相戯及之到、江陵驛に於て、茂英、酒肴、鹽醬を以て、一日皆觧、鎖開、疑遠別、因嘲留、相勸、與に私ニ少語。（東京夢華錄）

相牧、少下、舞、鎖開、詩、故郷、處處、坐中若若言相牧、除、卻、尚書、其、點頭、因數、茂英、遠、詩、鎖開。

打穿[だせん]　[dasen, daseng]　くりぬく。

打出[だしつ]　[dasitsu, dasu]　過り、過失。（**蓮民雜記**）

打鼓[だこ]　[dako, dagu]　鼓を打つ

打家劫舎 [illegible] 往復する。
打殆印 [illegible] 殆を捺す。殆印を捺す。
打鶴抱 [illegible] 老夫婦の一種。鶴の巣に示が包扇の等力によって生母孝百を知ること。押色した朝。
打合戦 [illegible] ●家ぶるひする。
突然。●家ぶるひする。
打撃過 [illegible] ●家に一撃。
打撃慣 [illegible] 撃木鈴。雷霆鳴木。
打撃慣 [illegible] 撃木鈴。雷霆鳴木。
打撃慣 [illegible] 撃木鈴。雷霆鳴木

（集韻）拓、手推物也、或作托。●うけ。うけ物。（字彙補）釜鉉（茶托子）蜀雀等之女、以茶盃無、病其製指、取樣子、承レ之。●おす。「玉篇」托、推也。●（の）む。まかせる。たよる。かつげる。託（10—352243）に通ず。（紀效新書）一手托、銃、一手點火。●𨻶英國の長さの名。「一國の長さ。五尺九寸二分強。英語 fathom の音略字。

【托】[字彙]托 [字彙補]茶托子 [字彙補]茶盃無 [字彙補]病其製指 [字彙補]樣子 [字彙補]釜鉉 [字彙補]蜀雀 [字彙補]雀 [字彙補]指 [字彙補]取樣子 [字彙補]承レ之 [字彙補]おす。[玉篇]托、推也。[字彙補]まかせる。たよる。かつげる。託（10—352243）に通ず。[紀效新書]一手托、銃、一手點火。●𨻶英國の長さの名。「一國の長さ。五尺九寸二分強。英語 fathom の音略字。

【托】[字彙]托

【扶】11795 チヤウ チヤウ (集韻)逞南切 漢

やぶる。そこなふ。きずつける。(集韻)扶、傷也。

【扐】11797

□チウ (集韻)了子切 篠
□シヤク (集韻)了歴切 錫
(集韻)歌略切 歌
図ヤク (集韻)乙部切 屑
国レキ ルケク (集韻)浪狄切 錫

□ほやくうつ。(説文)扐、奪整也。从手勺聲。(集韻)扐、奪整也。●ひと。(集韻)扐、引也。●うつ。(集韻)扐、引也。●つめる。つねる。字象形。手招。□横合からうつ。(集韻)扐、手招。□指のふしの處にあるすぢ。(集韻)扐、指節文。国おさへる。(集韻)扐、按也。

【打】11798 □カウ (集韻)古鬯切 江 ケン kuan

□カウ (集韻)亮項切 宕

□カウ (集韻)亮項切 宕

紅 小 □あげる。(説文)打、撓關對擧也。从手丁聲。(段注)以木橫持門戶曰關、凡大物而兩手對擧之曰打。項羽力能打鼎。(淮南子)本經訓、以木橫貫鼎耳而擧其耳而抬也。卽無襷之鼎而兩手擧之。

亦曰打。卽兩人以橫木對擧一物。亦曰打。(史記)項羽紀、力能打鼎。(注)(集解)、賈逵曰、今十人打之、猶不擧。(注)、說文曰、兩人對擧爲打、音江。□あげる。撓。(6→12240)に同じ。(集韻)撓、擧也。或作打。□ならべる。掙(6→12701)に同じ。(集韻)掙、山東謂二種荷一曰掙或作打。

□擧ぐ。もちあげる。かかへあげる。
□撓ぐ。撓を かかへて。打撓夫を見よ。

【打】11799 □ウ (集韻)亀狐切 虞 □ウ (集韻)可切 果

□□ 小 ●さしまねく。抚(6→1180の)に同じ。(正字通)、抚、六書統作、抚。(説文)抚、指擧也。从手亏聲。●も つ。(玉篇)抚、持也。●ひく。(字彙→9716)。

□□ 小 ●ふせぐ。(説文)扞、捍衛也。从手干聲。(段注)扞、捍衛也。●こば む。さまたげる。●もとる。(漢書)董仲舒傳、扞、拒也。●まもる。(集韻)扞、一曰、衛也。(漢書)、文侯之命、汝多修扞我于眼。(左氏、文、六)、親帥扞之。(注)扞、衛也。●おほふ。(左氏、成、十二)、此公侯之所以扞城其民也。(注)扞、蔽也。(荀子、議兵)白刃扞乎胸。(注)扞、蔽也。●おはひ。(注)師古曰、扞蔽、猶言障屏也。●こて。うでをよろひ、兩の腕を被ふ鎧。(11→6182)に通ず。(説文通訓定聲)扞、假借爲鈙。(廣雅、釋詁)扞、蔽也。(漢書、酷吏、尹賞傳)被、雜行、持弓刀兵。(注)師古曰、扞、臂衣也。●ゆがけ。(韓非子、說林)弊執、鞍持、扞。(集解)扞、謂韝也。●いしづき。子韻。(戰國策、趙策)孫臏刃其扞。●とがめ。咎。(6→1180)に通ず。(説文通訓定聲)扞、假借爲敺、云云、書、文侯之命、汝多修扞我于眼。●おかす。ふれる。(漢書、敍傳)、雖時扞、當世之文罔。(注)、索隱曰、扞、卽犯也。違犯。當代之法網。謂、犯法禁也。●はやる。

通)抚、同扞、當作抚、書本作扞非。

【扞】11802 □カン (集韻)辰旰切 翰 □カン (集韻)古旱切 旱

扞 小

□□ 小 ●さしまねく。抚(6→1180の)に同じ。(正字通)、抚、指擧也。从手亏聲。●も つ。(玉篇)抚、持也。●ひく。(字彙→9716)。

□□ 小 ●ふせぐ。(説文)扞、捍衛也。从手干聲。(段注)扞、捍衛也。●こば む。さまたげる。●もとる。(漢書)董仲舒傳、扞、拒也。●まもる。(集韻)扞、一曰、衛也。(漢書、文侯之命)汝多修扞我于眼。(左氏、文、六)、親帥扞之。(注)扞、衛也。●おほふ。(左氏、成、十二)、此公侯之所以扞城其民也。(注)扞、蔽也。(荀子、議兵)白刃扞乎胸。(注)扞、蔽也。●おはひ。(注)師古曰、扞蔽、猶言障屏也。●こて。うでをよろひ、兩の腕を被ふ鎧。(11→6182)に通ず。(説文通訓定聲)扞、假借爲鈙。(廣雅、釋詁)扞、蔽也。(漢書、酷吏、尹賞傳)被、雜行、持弓刀兵。(注)師古曰、扞、臂衣也。●ゆがけ。(韓非子、說林)弊執、鞍持、扞。(集解)扞、謂韝也。●いしづき。子韻。(戰國策、趙策)孫臏刃其扞。●とがめ。咎。(6→1180)に通ず。(説文通訓定聲)扞、假借爲敺、云云、書、文侯之命、汝多修扞我于眼。●おかす。ふれる。(漢書、敍傳)、雖時扞、當世之文罔。(注)、索隱曰、扞、卽犯也。違犯。當代之法網。謂、犯法禁也。●はやる。

あれうま。駻（12－4537）に通ず。説文通訓定聲。扞、叚借爲駻。孔子家語、致思）康瑞琮若持・行素之扞爲ニ（注）扞馬、突馬也。●扼、扼（6－12407）に通ず。説文通訓定聲）扞、叚借爲扼。呂覽、壅塞）因扞弓而射、扞、叚借爲扼。呂覽、壅塞）射者扞鳥獸之弓、扞、葉衛之箭（注）扞、張也。●或捍（6－12147）に同じ。集韻）扞、或作ニ捍。什一（29－12738）参考）熟語は捍の項参照。

扞衝〔名〕ふせぎまもる。（後漢書、光武帝紀）扞衝、（後漢書、袁紹傳）守扞衝、（後漢書、袁紹傳）屯扞衝。（後漢書、袁紹傳）屯扞衝。（後漢書、袁紹傳）屯扞衝。

語(廣雅、加「朝脫」)扢、神、校勤記)唐石經、扢作「抯」、釋文出「抯」云「本或作「抯」、拔」、說文引「朝脫抯」神、抯、抯即手部抯字、許所據作「抯」、是假借扢、爲抯也、此在引經說假借、之例(關「諸段玉裁」云、因●くはへる。(廣韻)抯、又難也。●或は抯(6－12008)に同じ。●字。(廣韻)抯、或作「抯」。(集韻)抯、或作「抯」、因びく。(集韻)抯、牽也。

扢 11806

日コツ(集韻)三合切 [illegible]
中キチ(集韻)居勿切 [illegible]
日コチ(集韻)許勿切 [illegible]
日ケチ(集韻)九勿切 [illegible]

日●こする。みがく。(漢書、禮樂志)抯、嘉吳都賦)挂拓爲、剞劂、(注)蔡曰、抯、摩也。●ぬく。(淮南子、要略)漢不、給、抯、(注)抯、拭也。日●こする。日の日に同じ。(廣韻)抯、摩也。●うつ。(集韻)抯、擊也。日●奮ひたつて舞はまさま。(集韻)抯、奮舞兒。(莊子、讓王)子路抯然執干而舞。(釋文)抯、李云(奮舞貌)。●ちからこぶさま。(釋文)抯、(李云(奮舞)、(也字、讓王、釋文)抯、司馬云、喜貌。)●よろこぶさま。(釋文)抯、(李云(奮舞)、(也字、讓王、釋文)抯、司馬云、喜貌。)日●ぬく。ひきぬく。(集韻)抯、拔也。(集韻)抯、拔引也。

中●こする。(廣韻)抯、磨也。(西廂記、張君瑞)若相思罷劍、到邦裏、抯刷覓鞭。

日●奮ひたつて舞はまさま。(集韻)抯、奮舞兒。(莊子、讓王)子路抯然執干而舞。(釋文)抯、李云(奮舞貌)。●ちからこぶさま。(釋文)抯、(李云(奮舞)、(也字、讓王、釋文)抯、司馬云、喜貌。)日●ぬく。ひきぬく。(集韻)抯、拔引也。(集韻)抯、拔引也。

中●こする。(廣韻)抯、磨也。(西廂記、張君瑞)若相思罷劍、到邦裏、抯刷覓鞭。

扣 11807

日コウ(集韻)去奏切 [illegible]
中ク [illegible]
日コウ(集韻)古候切 [illegible]

日●こする。(廣韻)抯、持也。(蘇頌)手口聲。(廣雅、釋詁三)扣

識。扣除別補人員留部於每月月選之前。扣、該員員缺員舊官、令其「轉繁簡之處、具奏請」旨。（編案之書「處任部」書文代）。而敘發月日分數、扣除不得過支。

【扣】11807 ㄎㄡˋ（集韻）苦侯切 去侯 ①拒。②。②。②

四畫

【扣】 11825

㊀ソツ チツ（集韻）蒼沒切 月
㊁セチ（集韻）ゼ結切 屑

㊀する。（集韻）扣、字林、摩也。㊁みがく。（集韻）扣、博雅、磨也。

【扭】 11826

㊀チウ ニユ（集韻）女久切 有 う 又 niǔ
㊁チウ（集韻）陟救切 宥

㊀ねぢまはせさま。（廣韻）扭、手轉兒。ひねる。ねぢる。（集韻）扭、案也。㊁しばる。つかねる。（正字通）扭、手縛也。今俗謂手揪為扭。もむ。（集韻）扭、按也。

【扭機】niǔ yāo 蹤がひきつる。腰の筋がちがふ。

【扭歐】niǔ ōu ねぢ倒して殴くる。喧嘩する。

【扭解】niǔ chǎng 拘引する。扭送。

【扭乾】niǔ gān 絞り乾かす。

【扭卿】niǔ qīng 卿を挫く。

【扭筋】niǔ jīn すじがへ。傷挫。轉筋。

【扭傷】niǔ shāng 傷挫。轉筋。

【扭捏】niǔ niē 態をふる。首をまはす。

【扭揑】niǔ niē 手捏へて我誇をする。

【扭撥】niǔ bō 拳捧して我誇をする。

【扭捏】niǔ niē 引捧へて我誇。

【扭錦】niǔ jǐn 錦所をひねる。

【扭拉】niǔ lā 錦所をひねる。

【扭子】niǔ zi 袴紐。

【扭子眼兒】niǔ zi yǎn'er 眼の黒玉が飛び出て目となるもの。

【扭揪】niǔ jiū つかみあふ。組打。

【扭手】niǔ shǒu 手をくじく。

【扭捧】niǔ pěng 拘引する。扭送。

【扭送】niǔ sòng 拘引する。扭解。

【扭打】niǔ dǎ 引張つてなぐる。つかみなぐる。

【扭斷】niǔ duàn ねぢ切る。

【扭斷】niǔ duàn ねぢ捩すまげる。

【扭捏】niǔ niē もぢもぢする。せかせかする。嬌んがこまかしくする態度。（西廂記）扭捏著身子見百般做作、來往向人前、賣俏。

【扭轉】niǔ zhuǎn ●ねぢまはす。まはす。●變へる。轉換する。

【扭轉】niǔ zhuǎn 引捧へて我誇する。扭捧。

【扭鳳】niǔ fèng 把四人鳳、（鳳凰）、（鳳凰全書、陶在郎、出愛現）、（鳳凰全書、刑名部、雜記）許、本人、劍潭、並愛、（鳳凰全書、刑名部、雜記）許、本人、劍

【扭刺】niǔ cì 扭意地。剛情な。

【扭一扭】niǔ yì niǔ ●ねぢれ。ねぢる。●ひねる。ひとねじりする。

【扭扭捏捏】niǔ niǔ niē niē 婦人が身をふりながら歩く樣子。又、ぶつぶついふこと。（紅樓夢、二十七回）雖然情況的資金、別像他們扭扭捏捏的樣子似的。

【扮】 11827

ソウ 拌（6－122235）の俗字。（正字通）扮、俗拌字。

【挖】 11828

㊀ワ（集韻）烏化切 麻
㊁ウ ゲチ（集韻）謳計切 泰
㊂ゲチ（集韻）古屑切 屑
㊃ケチ（集韻）古屑切 屑

㊀うつ。（集韻）挖、擊也。㊁㊂こする。（集韻）挖、摩也。

【扮】 11829

カツ 扮（6－118639）の譌字。（廣韻）字相似。扮、同、恢、扮、音慣、提也。

【扮】 11830

㊀フン ㊁フン（集韻）方文切 文
㊂ハン（集韻）匣幻切 諫
㊃ハン（集韻）ラ弓 pàn
㊄クワイ（集韻）苦夬切 夬

㊀㊁㊂にぎる。（說文）握、握也。●うつく。（集韻）扮、并也。（太玄經、太玄數）迎則虛三以扮、天之十五也。（注）扮、并也。（說文通訓定聲）扮、段借為奮。（廣雅、釋詁一）扮、動也。（疏證）扮、亦奮也。㊃かざる。（說文通訓定聲）扮、段借為飾。今俗用為優戲字。（史記、貨殖傳、胃脯醫微耳、注）正義曰、皆色反、末、擬重扮之。●或擅㊁㊂にぎる。（集韻）扮、或作。（韻會）扮、打扮。（六書故）扮、今俗以、髮飾、為打扮。（六書故）扮、今俗以、髮飾、為打扮。（六書故）扮、今俗以、髮飾、為

捕捉は、おもゝふまえにふるまふ。（集韻）扯、一日、捕獲、自任無得也。

【扯】 11833

㊀ タ chǎ chǎ chǎ.
㊁ ゼイ zè zè zè.

欲ゝ有所陳乞、絃進扯之。（隋餘義考、扯、俗作以手牽物曰扯、然經典無此字。）**ひきく**。ひっぱる。**捶**。**6**（12728）の俗字。（正韻）扯、本作搘。（字通）扯、俗搘字。

【扯下】 chǎ hià. 引き下げる。引っ張り下げる。

【扯開】 chǎ kāi. 引っかきあける。引開け。

【扯賢】 chǎ xián. 引っ張り殺す。

【扯詭】 chǎ guǐ. 虛言をいふ。

【扯挂】 chǎ guà. 引き上げる。

【扯碎】 chǎ suì. こなごなに壞す。

【扯算】 chǎ suàn. 合算する。

【扯上】 chǎ shàng. 引き揚げる。

【扯手】 chǎ shǒu. 手に手をとる。

【扯淡】 chǎ dàn. ●手綱。●手に手をとる。おなごとふいふ。（西湖二集）、（水滸傳）、（紅樓夢）、（紅樓夢）、（紅樓夢

扳害」ハイ 民の害になることをいひかかる。

扳竄」ハイ 廣韻 唐韻 竄は扳の俗字。

扳咬」ハイ いひかける。（編集全義 荊石郡人

扳鱗」ハイ 馬の甲冑。（編集全義 荊石郡人

扳鱗」ハイ 魚のうろこ。（編集全義 鄭改

扳鱗」ハイ 鱗甲。（編集全義 鄭改

扳鱗」ハイ 扳鱗の後鱗。指紋。今日の子手型。（編集全義 鄭改

扳鱗」ハイ 象牙の色。鱗間の形。指紋。

扳指」ハイ 右手の大指に着けて弦を引かすために用ひる。

扳指」ハイ 環指。（廣韻 唐韻 象牙製の鞲。（集韻 決也。以象骨・鹿・犀・象・牛・角・玉・金・石・竹・木・瓦・陶・蠡・蚌・蛤・蟹・蛇・蛤・蟹・蛇・蛤・蟹・蛇

だこの字。

〔扶雅堂〕ふがどう　満。毛沢文(φ-15273:3)。「室名。

扶行ふぎょう　たすけてゆく。（杜甫、秋日夔府詠懷）「義に百餘詩、英才接踵急。扶行轍跡穿。（元稹、酬樂天扶行相贈）「樂薄坊中荒蔓蔦、瀟洛新鑄挽車行。

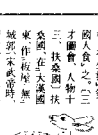
扶行ふぎょう　おやふきをたすける。（荀悅、漢紀、成帝紀）「扶行、扶持也。（後漢書、馮魴傳）「魴以家貧、常自采薪、以給母。魴扶起、母得力、始起新來、遂得一時。（白居易、與元元稹書）「不量才力、欲扶起之。●扶、ともたあげる。

扶汴ふべん　水名。山東省諸城縣の西。北、維水に流れ、左合。扶汴の水、水出西南常山、東北流注。（水經、濰水）

扶茸ふじょう　占の一種。扶（九四)(三)に同じ。（陳堅、筆使兩扶）「之、或擬于彩沙中。

扶義ふぎ　義によって相助ける。妖異、史記、太史公自序「項氏滅亡、而漢興。五年、誅秦、項羽、高祖紀上）「騶奭、沛公西入關、謂王諫老將軍曰、項羽負義帝殺之、天下之人、皆聞其義、而秦以兵力、威劫天下、天下之人、不敢不從。（後漢書、馮衍傳）「衍上書、曰、「昔者、秦人、以力、威劫天下、天下之人、不敢不從。今、以義、誅暴秦、天下之人、皆聞其義、而秦以兵力、威劫天下、天下之人、不敢不從。

扶起ふき　●たすけおこす。だき起す。（落葉、秋聲）「時已夜靜、星河橫斜、月光如水、扶起蟲聲、蟲聲如訴、如怨如慕、如泣如訴、如怨如慕、如泣如訴、如怨如慕、如泣


(會圖オ 三)　鳥魚扶

桐、初生如笋、腐人食之。(三三 ｜ 圖會圖オ)　扶桑國　扶桑　扶桑國、扶桑、東作板屋、無城郭、不食穀、惟食人至其國、殺而人至其國、殺而人食至其國、殺而人食至其國、殺而人食

山有・扶蘇、隰有・荷華〔傳〕扶蘇、扶胥、小木出。〔後漢書・祭祀志〕神人、木人、木石出。〔後漢書・東夷傳〕馬相如・封禪書・扶蘇、扶胥、小木出。

〔後漢書・馬援傳〕援乘・扶蘇・伏波・將軍・號。〔後漢書・馬援傳〕援乘・扶蘇・伏波・將軍・號。〔後漢書・馬援傳〕援乘・扶蘇・伏波・將軍・號。

扶蘇 扶蘇用・

幅・向・君・宛・戴・君・君・慌・皆・皆・皆・張・長・長・逐・赤・松・去・猿・逢・馬・知・我心。

●の●に同じ（『古代』昭二十二）。●の●に同じ（『古代』昭二十二）。●の●に同じ（『古代』昭二十二）。

扶樂 139/7 　懸名。●撫，置く。孫漢の後園。故城は西南方（東郡）の西北。（『後漢書』梁冀伝）「扶樂館」に同じ。「扶樂苑」に同じ。（『洛陽伽藍記』）

扶苑 139/7 　扶樂苑。扶樂宮。扶樂館。扶樂園。扶樂園。（『後漢書』梁冀伝）「扶樂館」に同じ。（『洛陽伽藍記』）

扶蘇 139/7 　山道などに人の通りやすいやうに。●扶蘇、杜竹蘇、橋渡しの意。扶蘇、山道。

扶蘇 139/7 　占の一種。（『史記』）

扶蘇 139/7 　秦の公子。（『史記』）

扶蘇 139/7 　成語。刑部。扶蘇蘇聖。注解。軍省鳥。字参照。字整之氏。紀。扶蘇。刑。力命。刑。力命。刑。扶蘇。

扶摩 139/7 　扶樂。（『洛陽伽藍記』）

扶摩 139/7 　扶樂。（『洛陽伽藍記』）

扶桑 139/7 　●扶桑。●扶桑。●扶桑。

譯史。王獻之日寒帖、有、唐氏雜印(後有一兩行謝安王羲之印)。❷**表裏の本に記される敕**箋(谷響集、香皇詔答、請ノ文)批者、批之所、上表奏尾也。❸**何書の末に記した指**令。(調案字書、(考四行政法汎論、官職監修形式)批、謂(朱筆批也、猶吾邦對向之、(注)、(注)、(注)

也。其後學士入院、試制誥批答共、縝則求之、其後、未有不如旨者。」(宋史、選舉志)

約束 『宋史、選舉志、試制誥批答共、縝則求之、其後、未有不如旨者。』

抵 『說文』 ●手擊。●觸。●至。●本也。●抵、抵、抵、

借字也というて、抵の音にテイが古く用いられてゐるのを認めてゐる。今後に別も疑い抵(6—11921)の字解を見よ。

【抵國】ティコク 前漢書に用有萬乘之國、謂之抵國。本抵國に作るべきにはきまれて衆の為らない。本抵國に作る。大國に抵觸して滅ぼされる國(『晉書』周處)。而後存子乘之國、謂之抵國。「抵觸」の意。

【抵擊】ティゲキ 手をうって、拍手。抵擊(6—11921)。ただ同じ。

扶

11847

ヒン 集韻 平均切 屋

ビン 集韻 頻琴切 寒

ヒンチン 集韻 吉悉切 寒

ヒン 集韻 頻寒切 寒

ヒン 集韻 頻本切 寒

ヒン 集韻 頻本切 寒

国ヒン 集韻 頻本切 寒

国ヒン 集韻 頻本切 寒

[扶]

11848

ヤク 集韻 乙革切 陌

[扶]

[扶]

[扶]

「抜擢」[illegible]。[illegible]。[illegible]。

下文魚鳧民姦等殆之類第二約、襲內外官、謂席任政令不承、悉違著者。

【承弦】ショウゲン。名。隋、趙政(10-37177-2)。

【承祐】ショウユウ。名。唐、趙政(10-37177-2)。

【承允】ショウイン。名。唐、趙政(10-37177-2)。

【承引】ショウイン。うけひく。承知。

【承印】ショウイン。❶印を持つこと。(編)皇令義、恭仕郎、直國史事、印承事、印手修能、

【承印】ショウイン。❶印を持つこと。(編)皇令義、恭仕郎、直國史事、印承事、印手修能、

【承風】ショウフウ。ほぼ、到来。B22424(ニ)の字。

【承欽】ショウキン。❶盛る。(左氏、成十二)

【承恵】ショウケイ。❶酒を注ぐ

晉馬、馬射、師中雪子、文帝鄉、中臣所、以入部、鄉於公羊、王試、使、人僕有、鳴鑾、上、月令、大僕、公、諸侯、鄉、國、百官公卿表上、大僕、公、諸侯、鄉、國、百官公卿表上、鄉、鄉、鄉

面兵役制隨一事數奏。承所得官以授有司。
番國人見。亦得至京師。隨意遊觀。聽學。年。始以
來上聞使季評。為之。又以越嶲使者。爲使者
之副。〔文獻通考。職官考。都護條。〕五代有承
承志[10]ㄔㄥˊ ㄓˋ。〔隋書。宇文述傳。〕
可生安故主禮。能有知己。謂之知遇。承志。
在公殺人。〔他人之生。〕〔晉書。
傳十三。〕子日太但。字子冬。〔晉書。
字知。父元。故太但王子。可。謂。見。知。知。
而能承志矣。
承祀[10]ㄔㄥˊ ㄙˋ。
繼。〔漢書。韋玄成傳。世世承祀。
承[10]ㄔㄥˊ。
承[10]ㄔㄥˊ。〔文選。
承[10]ㄔㄥˊ。
承[10]ㄔㄥˊ。
承[10]ㄔㄥˊ

【承接】[jie3 jie1] 連接。

【承接器】[jie3 jie1 qi4] ●刑名承接器。接受器

剏、民を率ゐて京を圍み、后及び朴吉只沙里を
射殺す。在位十四年。

〔承天寺〕1000.... 寺の名。●高北省江陵縣の
西北、中国の中部に建つ。（明）何喬遠『閩大記』
天寺、在（府）西南北。時水相中建。明洪武中開、僧
有『聖傳』。（宋）蘇軾『東坡集』、題因之。
直相中、蘇州に出る。出版用。大型紙。
（宋）蘇軾『東坡集』、唐書曰、天寶三年、改水天寺
為龍興寺。（宋）蘇軾『東坡集』、黄州新建、夜聞
張民一、與陳季常、書。（宋）蘇軾『東坡集』、
可、憩從、著但西日即、後、水天場相近、門前一
大柳水可刺。

〔承天命〕1000.... 樂府、鼓吹曲辭、漢鼓吹曲
名。（宋）郭茂倩『樂府詩集』、鼓吹曲
辭、同上。〔承天命〕の書が上下あり、王化の
盛なことを讃歌したもの。（宋）郭茂倩『樂府詩集』、鼓吹曲
辭、同上。〔承天命〕、天命を受ける。（後漢）
『書』、『承天命』、天命、於、聖德、『後漢書』、
竹書紀年、『承天命』、『後漢書』、『後漢書』、
『後漢書』、『後漢書』、『後漢書』、『後漢書』、
『後漢書』、『後漢書』、『後漢書』、『後漢書』、
『後漢書』、『後漢書

博士在觀察使府國公名願辟請記其外無可
作承輔（三史史・孟子傳・出國語故事・三公
上大夫共以承輔）（孟史・孟子傳・出國語故事・三公
【承慕】[ㄔㄥˊ ㄇㄨˋ] bai4 慕慕を引受ける。
【承奉】[ㄔㄥˊ ㄈㄥˋ] ●人の意をうけ承る。承順奉
仕する。（後漢書・和帝紀・二千石各不承奉。
注引東觀漢記・大將軍・歌大夫也・出則御車
下士・注・文數・注・通典・職官・出則御車・郎
諸朝數・給事・朝・注・文侍・郎・出則御車・
【承俸】[ㄔㄥˊ ㄈㄥˋ] 大司空・各ひとしく・俸・（後漢書・
盛度・出・注・文無實・正・注・承・俸・注・
【承命】[ㄔㄥˊ ㄇㄧㄥˋ] 命令をうける。（左氏・昭
六・既・承・命・敢・至・大・者・・（國語・周語・中・敬
【承明】[ㄔㄥˊ ㄇㄧㄥˊ] ●漢代、宮名。未央宮内にあ
る。班固・西都賦（文選・二・京都上）「金
華・玉堂・之・内・・・

禮部・經・天常寺・奉請鈔・奉祭官。

【承盛盤】ショウ セイ バン 承（6－2852）の俗字。

【承通司】ショウ ツウ シ 承（6－2852）の俗字。官名。宋代、通通司を改めていう。〔稱謂部、通通司〕尊東野語：本朝章惠太后之親、又改通通司、爲承通司。

【承番員】ショウ バン イン 承（6－2852）の俗字。官名。宋代、通通司を改めていう。〔稱謂部、通通司〕尊東野語：本朝章惠太后之親、又改通通司、爲承通司。

【承罪】ショウ ザイ 承（6－2852）の俗字。罪人の刑罰のことを司る官。

【承宴】ショウ エン 宴（宴）（6－2852）の俗字。官名。

【承遞法】ショウ テイ ホウ 交承法の名。上句の尾を取って下句の頭とし、繼人に繼脈し連下する。

【承天秀】ショウ テン シュウ 明、江陵の人。字は通之。德の舉人。官は南陽同知（江陵志）。

【承鎧】ショウ ガイ 馬の橫腹のあぶみの當る部分。あぶみ革。〔後漢書、馬援傳〕：牛馬部、牛馬體、承鎧、爲鞍相、鞍、爲鞍相、鞍、爲鞍相、鞍

能無出而（漢簡文字編、許慎東上書）。而：技機更同故類。（嚴寬子、五）技機者、調人有技藝、不能自定、加入之機也。（禮記、樂記、孫希旦集解）。技機：（禮記、樂記、孫希旦集解）。技機：（禮記、樂記、孫希旦集解）。技機：

抄

11863

□サウ 〔集韻〕初交切 ʃɐ̀u. 宣.

□セウ 〔集韻〕蒼綮切 tsʰɛ̀ŋ.

□サウ 〔集韻〕蘇遘切 sɐ̀u.

□セウ 〔集韻〕數約切 ʃɔ̀k.

【抄】(集韻)何切 ɣɔ̀.

【抄】(集韻)何切 ɣɔ̀.

【抄】かすめる. 鈔 11 = 40222 に同じ. 「類篇」抄, 説文, 又取也, 或作抄. 「類篇」抄, 掠也. 「後漢書」郭伋傳) 何以數抄郡縣. 「魏志」太祖紀, 十月抄略諸郡. ■すくひとる. 正字通, 抄, 以匕抄取物也. 杜甫, 與李鄠縣令苦雨寄, 深院, 詩) 飯抄雲子白, 瓜破水精寒. (朝野僉載) 以匙抄之. 増韻, 抄, 略同. ■うつす. 文片をうつしとる. 讀書, 或手抄. 「後漢書」郭伋傳) 仲孫晉手抄六經. ■ぬきがきする. 又, ぬきがき. 「梁書」沈約傳) 南史, 王僧孺傳) 百家譜集抄十五卷. 宋南齊集抄十卷. ■すく. 紙をすき造る. 「天工開物」抄, 造紙. 「後漢書」蔡倫傳) 容量の単位. 一刀の十分の一. 「後漢書」蔡倫傳) 規一十鍬爲一抄. 十抄爲一把. 「後漢書」蔡倫傳) 抄, 十分之一. 「後漢書」郭伋傳) 抄, 略同. 「晉書」王敦傳) 抄, 略同. 「後漢書」郭伋傳) 抄, 略同. 「後漢書」蔡倫傳) 抄, 略同. 「後漢書」蔡倫傳) 抄, 略同. 「後漢書」蔡倫

11863～11873 手部［四畫］抄抯抈抐抓抔抖抖抖

【挟眼】二二 [illegible]

【挟眼】二二 [illegible]

【挟鬚】二二 [illegible]

【挟鬚】二二 [illegible]

【挟鬚

〔把足〕 ㊀ 名 ㊁ 動 ㊂ 名 ㊃ 動 ㊄ 名 ㊅ 動 ㊆ 名 ㊇ 動 ㊈ 名 ㊉ 動 ㊊ 名 ㊋ 動 ㊌ 名 ㊍ 動 ㊎ 名 ㊏ 動 ㊐ 名 ㊑ 動 ㊒ 名 ㊓ 動 ㊔ 名 ㊕ 動 ㊖ 名 ㊗ 動 ㊘ 名 ㊙ 動 ㊚ 名 ㊛ 動 ㊜ 名 ㊝ 動 ㊞ 名 ㊟ 動 ㊠ 名 ㊡ 動 ㊢ 名 ㊣ 動 ㊤ 名 ㊥ 動 ㊦ 名 ㊧ 動 ㊨ 名 ㊩ 動 ㊪ 名 ㊫ 動 ㊬ 名 ㊭ 動 ㊮ 名 ㊯ 動 ㊰ 名 ㊱ 動 ㊲ 名 ㊳ 動 ㊴ 名 ㊵ 動 ㊶ 名 ㊷ 動 ㊸ 名 ㊹ 動 ㊺ 名 ㊻ 動 ㊼ 名 ㊽ 動 ㊾ 名 ㊿ 動 (1) 名 (2) 動 (3) 名 (4) 動 (5) 名 (6) 動 (7) 名 (8) 動 (9) 名 (10) 動 (11) 名 (12) 動 (13) 名 (14) 動 (15) 名 (16) 動 (17) 名 (18) 動 (19) 名 (20) 動

手　部　〔四畫〕　抒 抳 拚 抏 抗 拘 抑

抒 小 ㊀深くうつ。（説文）抒、突撃也。从手尤聲。讀若奈言不正曰抒。段注は深突撃の意。❷うつ。（集韻）抒、一説、若讀轉曰抒。❸或は敵。（6－13238）に作る。（集韻）抒、或作、點。㊁（方言、十六）推也。㊂さす。（廣雅、釋詁一）抒、刺也。（集韻）抒、刺也。四❹うつ。㊃に同じ。（集韻）抒、擊也。❺さす。㊄に同じ。（集韻）抒、或は鼓（6－13152）に作る。（集韻）抒、或从支。

（参考）搖書、集韻・周禮等の音義、或る文献に認めるものがある。（説文）抒、或从手。不合説文古訓、表外字。段注は、抒、抒は、搖書・集韻・周禮・抒、抒、抒、

水。(注)素隱曰、抑者、遏也、塞也。㊁しつめる。(荀子、性惡)抑、安也。㊂とどめる。(孟子、梁惠王上)吾若為此二者若為之、則必不得已。抑、止也。㊃せまる。(字彙)抑、迫也。㊄おしすすめる。(禮記、儒行)抑而不扛。(注)抑、猶推也。㊅ゆるめる。(荀子、禮論)抑而不達。(楚辭、九章、惜誦)抑而不達兮。㊆ゆるす。(荀子、君道)抑而不誅。(注)抑、猶赦也。㊇美しいさま。(詩、齊風、猗嗟)抑若揚兮。(傳)抑、美色。㊈そもそも。(字彙)そて、発端の助辭。(左氏、宣十一)抑亦有言曰、公云。㊉あるひは。おもふに。疑念の助辭。(左氏、昭十二)抑臣又聞之。(注)抑、疑辭。(漢書、敍傳上)抑、猶如也。(字彙)抑、猶如。(左氏、襄十四)抑不知天棄我乎。(注)抑、猶如。(論語、子罕)抑、亦然之辭。(論語、學而)抑與之與。㊊抑、反語の助辭。(孟子、梁惠王上)抑王興甲兵、危士臣、構怨於諸侯、然後快於心。(韓愈、送孟東野序)三子者之鳴、信善鳴也、抑不知天將和其聲而使鳴焉。(論語、公冶長)抑、反語。(孟子、公孫丑上)抑、猶何也。(字彙)抑、反語。(荀子、王霸)抑、猶安也。(字彙)抑、猶也。(左氏、昭十二)抑齊人不一也。若之何。を見よ。**抑辭、大稱、湯之什の異名。**

(詩)抑、(詩、小雅、十月之交)抑此皇父。(注)抑、辭也。(左氏、昭十二)抑齊人不一也。若之何。(注)抑、辭也。(左氏、襄十四)抑不知天棄我乎。(注)抑、辭

の字。●明・郎俊(11・324331・57)の字。●明・劉
基説(11・2324・5)の字。●明・任俊(6・177154・32)の字。
●明・任俊(6・177154・32)の字。
抑止[ヨクシ]：[名]抑止。抑制。（揚雄・長楊賦・
上林賦）止銭竹宴所之樂。（後漢書・桓帝紀・論）
尺二寸。
抑志[ヨクシ]：[名]こころざしを抑える。禁欲。離慾
心。心を抑える。（揚雄・長楊賦・上林賦）忍冬與而遊樂兮。抑志而弭節。（劉歆・離騒
経序傳）[動]心を抑える。諫言。聴いて入れる。
抑情[ヨクジョウ]：[名]情欲を抑える。（班固・東征賦）
所謂成湯之慎厥身修德。（後漢書・桓帝紀・論）
抑情性[ヨクジョウセイ]：[名]抑情。（後漢書・桓帝紀・論）
抑首[ヨクシュ]：[名]首を固定する。節首。（荀子・
成相篇）●荀子抑首不動。（楊倞・注）公仲
抑首[ヨクシュ]：[名]首を抑える。（荀子・成相篇）
書・叔孫通傳）漢得半数去官位。（注）師
古曰。抑首。猶法不敢坐而視。●
抑崇[ヨクスウ]：[名]高い。（荀子・成相篇）
宋、高閭18・45313・1170の字。
抑[ヨク]：[名]おさえること。抑制。（荀子・
過・説苑・権謀）是以時制。無使至於貶之。
（晉書・陸機傳）聿遵其馬人。抑卯刻之。
抑折[ヨクセツ]：[動]おさえくじく。（日本紀略・後編・
天長・淳和・海・事抑・折酒）
抑絶[ヨクゼツ]：[動]おさえ絶つ。（後漢書・陳蕃傳）前行抑絶。後車
（晉書・陸機傳）前行抑絶。後車
抑塞[ヨクソク]：[動]おさえて塞ぐ。（元稹・
胡氏墓誌銘）[名]抑塞。憂愁。
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）
（劉基・賢・聞・注）詩・蟋蟀・傳。抑塞無由
抑[ヨク]：[動]おさえられて心がむすばれる。（荀子・
問・任・注）抑塞無聊。歌行曲・王昭君・抵抗
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）抑塞無由抵
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）
尺二寸。
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）
抑[ヨク]：[動]おさえる。（荀子・成相篇）

聲。抔、屈指爲紀(左氏、文六)。**抵**必抔矣(『荀』議兵、聽歌篇)。「之喜意悅而抔抔」。

抔抔(ㄅㄡˇ ㄅㄡˇ)。こころをのべる。思ってみることをもらしたこと。『荀』議兵「小歌以名樂實」以。

抔行(ㄅㄡˇ ㄏㄤˊ)。風雅詩向傳、一抔愚意、擬注云、抔、謂引而進之也。(『晉書』束皙傳)

抔抔(ㄅㄡˇ ㄅㄡˇ)。『荀』議兵「小歌以名樂實」以。

抔抔(ㄅㄡˇ ㄅㄡˇ)。『荀』議兵「小歌以名樂實」以。

抔(ㄅㄡˇ)。(集韻)抔、抔、抔、

力愛曉。**⑭とまる。**宿(しゅく)する。〔李白、湓陰書懷詩〕暖投進除宿。〔戴良、宿(しゅく)高密〕客路信悠悠。**⑮ふる**ふ。〔左氏、宣十四〕投訣而起。〔注〕投、振也。〔荘子、漁父〕被髮揄(ゆ)杖、釋文〕揄、音曳。〔後漢書、荀悅傳論〕斯誠葉之投(ゆ)杖、〔注〕投(ゆ)杖、奮決也。**⑯を委にたがえ入れる古代の遊戯の一。**投壺。〔礼、投壺〕投壺者、所以講射也。**⑰さいを投げる。**博奕。〔列子、説符〕博者射明堂。〔注〕凡戰爭能取、皆曰射。亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**⑱**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**⑲**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**⑳**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉑**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉒**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉓**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉔**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉕**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉖**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉗**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉘**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉙**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉚**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉛**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉜**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉝**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㉞**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㉟**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊱**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊲**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊳**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊴**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊵**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊶**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊷**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊸**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊹**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊺**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊻**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊼**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊽**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**㊾**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**㊿**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(51)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(52)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(53)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(54)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(55)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(56)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(57)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(58)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(59)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(60)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(61)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(62)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(63)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(64)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(65)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(66)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(67)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(68)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(69)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(70)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(71)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(72)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(73)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(74)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(75)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(76)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(77)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(78)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(79)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(80)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(81)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(82)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(83)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(84)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(85)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(86)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(87)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(88)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(89)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(90)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(91)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(92)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(93)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(94)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(95)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(96)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(97)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(98)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(99)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(100)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(101)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(102)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(103)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(104)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(105)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(106)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(107)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(108)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(109)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(110)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(111)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(112)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(113)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(114)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(115)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(116)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(117)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(118)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(119)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(120)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(121)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(122)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(123)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(124)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(125)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(126)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(127)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(128)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(129)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(130)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(131)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(132)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(133)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(134)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(135)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(136)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(137)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(138)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(139)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(140)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(141)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(142)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(143)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(144)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(145)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(146)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(147)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(148)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(149)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(150)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(151)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(152)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(153)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(154)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(155)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(156)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(157)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(158)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(159)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(160)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(161)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(162)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(163)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(164)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(165)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(166)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(167)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(168)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(169)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(170)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(171)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(172)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(173)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(174)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(175)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(176)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(177)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(178)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(179)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(180)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(181)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(182)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(183)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(184)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(185)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(186)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(187)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(188)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(189)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(190)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(191)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(192)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(193)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其氏周昭伯、因、相王、皆曰射、亦曰投。〔史記、蔡澤傳〕君獨不見、博者乎。或欲入、或欲分功。〔漢書、敘傳上〕投(ゆ)壺。〔注〕投、古作投。**(194)**(5-1-2062)に作る。〔集韻〕投、古作投。**(195)**(5-1-12302)に通ず。〔荘子、漁父、釋文〕揄、李説作、樓、云、氏族名、其

【投案】なげうてる。〔後漢書、馮魴傳〕投案而起。〔文選、張衡、思玄賦〕投案而起。〔李善注〕投案猶棄也。〔文選、潘岳、秋興賦〕投案而歎。〔李善注〕投案猶棄也。〔文選、謝靈運、山居

投 [投句反]擲。抄[弦]作[雙]。投鎗[投]。[投]。[投]。

を求める。

【投誠】[投せい]　誠心を投げ出す。「投誠」は「誠心を以て服す」ること。（王昌齢『武陵龍標遷客題壁』）

【投間】[とうかん]　間諜。「投間」は「間を投ずる」ること。（『孫子』用間）

【投壺】[とうこ]　投げ入れる。「投壺」は「投げ入れる壺」。（『郭成語』兵部）投誠・投壺・投間・投降・投投・投投・投投

報しるにいわく。詩、斯干、無羊、本瓜、投我以木瓜、報之以瓊琚。毛詩、衛風、木瓜、投我以木瓜、報之以瓊琚。〔孟子、離婁下〕投我以桃、報之以李。〔論語、陽貨〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、知士〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎人〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎大〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、疑似〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、審應〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、離俗〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、壅塞〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、恃君〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、不屈〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、不二〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、長攻〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、審己〕投我以桃、報之以李。〔呂覽、慎行論、壅塞

て、これは後へ倒るる形を云ふ。

【投釣瓶】[illegible] 口の兩端に各一本の縄をつけて、二人で之を持ち、水に投入して水を汲ひるものの。滿を汲ひ、又は田に水を灌漑するのに用ひる。和漢三才圖會五十七、水類所載。信云、奈合豆流倍。

【投頭巾】[illegible] 婦人の被る頭巾。（遠藤芙蓉、二上版節）

【投鬼】[illegible] 古之墓制、鬼を葬るに、必ず之を投入れて棺の側に置くなり。（禮記、檀弓下）

【投壺】[illegible] 投壺とは投擲きて、既に投入れて棺の側に置くなり。

【投壺】[illegible] 投壺とは投擲きて、既に投入れて棺の側に置くなり。

【投壺學藝】[illegible] 投壺の技藝に作る。

【投入】[illegible] 人の好に投入れる。

【投入所好】[illegible] 人の好に投入れる。

【投機】[illegible] 機の機會に對して事を遂げる。明友聞の問答をいふ。又、我德を爲せば人が之を法とする喻。（詩、大雅、抑）投我以桃、報之以李。（注）人有投贈我以桃者、我必報之以李。善往則善來、無物不報。（莊傳、天道）爲德人法之術、投機會李之必然也。

【投機】[illegible] 投擲、又は投擲きて、既に投入れて棺の側に置くなり。

【投降】[illegible] 降、或は受降。（孟子、滕文公下）

【投法】[illegible] ふるひのこと。（編愚全書、鄭設能）

【投饗】[illegible] 饗、東溟、投壺の技。（孟子、滕文公下）

【投入】[illegible] 人の好に投入れる。

【投入所好】[illegible] 人の好に投入れる。

【投機】[illegible] 機の機會に對して事を遂げる。

【投機】[illegible] 機の機會に對して事を遂げる。

【投壺】[illegible] 投壺とは投擲きて、既に投入れて棺の側に置くなり。

【投降】[illegible] 降、或は受降。（孟子、滕文公下）

【抖】11888 ㊀トウ（集韻）當口切 ㊁カク（集韻）古沃切

①ふるふ。あげる。抖擻。（集韻）抖、抖擻、擻、擻、家物、也。②現突然。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抖擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抗】11889 ㊀カウ（集韻）口浪切 ㊁カク（集韻）居郎切

①あげる。抗擻。（集韻）抗、抗擻、擻、擻、家物、也。②現突然。

【抗擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抗擻】[illegible] 擻、擻、家物、也。

【抗擻】[illegible] 擻、擻、家物、也

國法衛、陳州、廣州、長沙校部曲文、及八其抗衡上國與皆令長、都城庫、勾當。

【抗部】[kʰaŋ pʰu] 抗部。『新唐書』[儀仗]「蘇威、上劉子翊、書三條高祖、自以蘇、[儀仗]文頗[抗部]多、蘇威、[抗部]文頗[儀仗]多、[抗部]儀仗、[抗部]文頗多、蘇威、[儀仗]文頗多、[抗部]文頗多、蘇威、[儀仗]文頗多、[抗部]文頗多、蘇威、[儀仗]文頗多

【抗敵】kang1 di2 あたりむかう。對抗する。敵對する。はりあい。〈魏書 韓麒麟〉結主抗敵、苦者

【抗敵罪】kang1 di2 zui4 交戰中の外國人・通と通とで抗敵する罪。

【抗誑】kang1 kuang2 こけおどかす。

【抗論】kang1 lun4 議論する。

【抗物】kang1 wu4 抗拒する。例後漢、七石）

【抗命】kang1 ming4 命令に逆らう。〈後漢書 逸民傳〉民情好二至乃抗損而顧多共、其中行（一清

【抗民】kang1 min2 民情に逆らう。

【抗氏】kang1 shi4 西晉時代の姓。

【抗兵】kang1 bing1 兵をあげる。〈老子、六十九〉故抗兵相加、哀者勝矣。（注）抗、舉也。二大、故抗兵相加、哀者勝矣。（注）抗、舉也。二大、故

【抗表】kang1 biao3 意見を奏聞する。〈後漢書、列女傳〉（注）抗、猶舉也。上表、

【抗辭】kang1 ci2 同じ意味。抗論。●敵

【抗手】kang1 shou3 抗辭する時、抗指官職。

【抗木】kang1 mu4 華具の名。墉上にわたして上をふせぎとする。抗蔽ともいう。抗木ともいう。抗

【抗横】kang1 heng2 ①（注）抗、牽也。所以蔽牽。

【抗議】kang1 yi4 すぐれてあがる。

【抗命】kang1 ming4 命令を拒む。命令に逆らう。（荀

【抗敵】kang1 di2 敵に向かう。抗論。●敵

【抗拒】kang1 ju4 ①（荀子、王霸篇）抗、猶舉也。

士折口。(注)折口、抄口。●**地名**。(春秋、桓、十一)宋台ニ陳侯折板。盟ニ于[illegible]。(杜預注)折、泉水名。(漢書、地理志)折泉水ニ出ル。(注)師古曰、水經注、淮水東北逕[illegible]縣故城、又東南逕ニ折泉水ニ出ル。折泉縣東、又東南逕仲固山北山、東南逕ニ折泉縣東、又東南逕[illegible]。(後漢書、郡國志)折泉縣、[illegible]。(通志、氏族略、入聲)折氏、望出ニ西河ニ。(太姓、世守)。**動詞**。●**①**(ヒト)少ク。(割)掛。**②**(ひきあて)。抵當。**③**(ひかなさま)。(集韻)折、折衝。(注)折、安紆貌。(穆、傳)、傳ニ曰ニ、吉事欲ニ其折折期。(後注)折、樣ニ中。

解説 會意。小篆では、斤と少。艸で左の合字。たちまち左・薬文で左・草・[illegible]・[illegible]の合字になっている。今の手ニ斤との合字とする。は、縁に在り、柔は柔いから折れる。(說文、薬文部)。神在ル木中ニ(篇文也)。從ニ艸ニ斤。樣ニ中。

解説 會意。小篆では、斤と少。艸で左の合字。たちまち左・薬文で左・草・[illegible]・[illegible]の合字になっている。今の手ニ斤との合字とする。は、縁に在り、柔は柔いから折れる。(說文、薬文部)。神在ル木中ニ(篇文也)。從ニ艸ニ斤。樣ニ中。

折(せつ)。●**草基**はなはだしからの低いこと。(揚雄、解嘲、[illegible]雪山東之死士也。[illegible]師古曰、[illegible]。(後漢書、[illegible])。**折**(せつ)。[illegible]。(後漢書、[illegible])。**折**(せつ)。[illegible]。(後漢書、[illegible])。**折**(せつ)。

【折節】ｓｅｔｓｕ ●他はねを折る。（論衡・變動）花無時、頭賞折、後、後賞謝之。折、鈴投書。

【折花】ｓｅｋｉｋａ ●強く諫める。（漢書・李尋傳）朱雲の強諫を怒りつつ引き出さうとし、殿の檻を攀じ折れた故事。（漢書・朱雲傳）至于成帝時、杜欽安昌侯張禹、朱雲折殿檻。（漢書・朱雲傳）雲上書求見、公卿在前、雲曰、今朝廷大臣、上不能匡主正失、下不以義死爭、皆尸祿素餐、云云。雲下殿、伏檻、槍攀不肯去、上怒、令御史牽出之。雲呼曰、龍逢・比干、何如哉。云云。及張禹、免冠、徒跣、叩頭、殿檻乃得不壞。（漢書・貢禹傳）上以禹、雲、皆以直言、故不誅。（後漢書・儒林傳・論）漢興、諸儒、各以所聞、口相授、傳、注、滿知、見、知、者、則、何如、云云。及、秦、焚、書、坑、儒、學、絕、道、術、分、裂、篇、章、雜、亂、無、紀、綱、學者、蒙、昧、無、所、統、仰、師、法、遂、令、天、下、之、人、各、以、意、說、經、文、多、違、其、本、義、故、博、士、員、滿、數、十、而、已、其、後、學、者、因、而、生、疑、又、以、文、字、乖、錯、學、者、轉、相、誤、惑、師、說、既、已、乖、違、文、義、益、以、迷、亡、自、建、武、以、來、學、者、頗、知、反、本、之、業、而、章、句、煩、猥、文、過、其、實、後、生、晚、出、又、各、專、一、經、傳、家、法、相、承、莫、肯、相、通、故、令、學、者、勞、而、少、功、自、光

【折敵】ㄓㄜˊ ㄉㄧˊ 折伏敵。『社牧、本蜀詩』折敵沈沙鐵半銷、自將磨洗認前朝。

【折骨】ㄓㄜˊ ㄍㄨˇ 折人骨。『韓非子、難言』夫不知人之情者、以忠信見疑、以仁義見逆、則終不免於敗矣。『楊倞、注』折骨、謂被誅。

【折衝】ㄓㄜˊ ㄔㄨㄥ 借用器具使折骨於敵。『楊雄、解嘲、注』折衝、謂折骨使敵。『漢書、高祖紀』諸將、此兩軍相對、未有勝負、此兩軍折衝樂戰、以一人之勇、其所負。『注』折衝、謂折骨使敵。『漢書、黃霸傳』善無大兵、而器械不利、不足以威遠、則不可以折衝。『注』折衝、謂折骨使敵。『後漢書、黃霸傳』善無大兵、而器械不利、不足以威遠、則不可以折衝。『注』折衝、謂折骨使敵。『後漢書、馮異傳』馮、又將更者、相見折衝、以方之於周、五方居。

【折口】ㄓㄜˊ ㄎㄡˇ 割舌。『呂氏、貴生、注』割舌、謂之折口。『注』折口、杜口。

【折肱】ㄓㄜˊ ㄍㄨㄥ 折斷手臂。『左氏、哀十七、注』折肱、謂折手臂。『注』折肱、折臂。『論語、鄉黨、注』折肱、謂折臂。『注』折肱、折臂。『後漢書、馮衍傳』、又將更者、相見折衝、以方之於周、五方居

史、稽裕傳（後漢書、郭躬傳）、折獄公正。

【折証】[illegible]。[illegible]。[illegible]。口論する。

【折衝】[illegible]。敵の衝を折るをくしこ。敵と對抗してひけをとらない敵とかけひきして戰ひ方が轉じて、國際上の問題となる。「戰國策、秦策、范雎傳」「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]

上中下之質、各自用鎮、其市平、一母、拘、在所、歌謡、民資貿易、孔殺布帛鮮絜、物価均、所以通財、而不鬱滯、均官有以考、穢濁貴用、其本貴取之、母令百姓、有貴錢、以市錢、貴錢以價、●注、○鄭司農云、物品を貴賤に待つべき。

折遷『周』『礼』『地』『官』『司』『徒』『遂』『人』『注』『疏』

側。(注)折折折，明顯。言心腸將若在其側。(注)論折，折折。折折，安舒緩。●折，折折。●折，折折。●折，折折

つた書簡。此の中若酒面の折本と筵風筆とがあり。後者は折本の前後を表紙を一枚で作り、中に墨がかるるかふつくろ方用。**襲**（襲）**襲**（襲）**襲**（襲）

左周夫、宗酒、折鳴鳴之宗、其鳴有、注篇背、之鳴、鳴、鳴鳴、相相和大鳴有、打鳴、鳴鳴、鳴鳴、鳴

拂

11908

[illegible]

[illegible]

[illegible]

【扱義衣】ごうぎい　帯活性剤の一種。

【扱扱】きゅうきゅう　①ものごとを処理するさま。②ものごとを処理するさま。

【扱扱】ちゅうち

甲惟大撓國蔽王、甲胄皆
被、（王氏撓撓國蔽、大片、如龜殼、貝殼、鐵等、又鎧、鎧等、又、鎧、甲、冑、鎧、甲、冑、鎧、鎧甲、冑、鎧、鎧甲、冑、鎧、鎧

[illegible]❶曰から物をくみ出す。(8・3013)〔集韻〕に説文、抒・自出、或作抗。(周禮)地官、舍人、女舂抗二。(注)抗、杵臼也。或作抗。(9・3019)に掘 8・12323)に作る。(集韻)抗、抒臼、或作杵。(玉篇)抗、物をのばす器。掘 5・12055)に同じ。(集韻)抗、抒臼、或作抗。

(參考) 抗、(6・12326)に誤る。(康熙字典)抗、抗、抗、

【抱鼓】名。鼓名。●13142 清、梁章鉅 6 8812 7265

【抱鼓車】名。車名。●13112 清、梁章鉅 6 8812 7265

【抱鼓車】名。車名。●13112 清、梁章鉅 6 8812 7265

【抱鼓】名。鼓名。●13112 清、梁章鉅 6 8812 7265

【抱子】名。子女。●13142

〔抱璞〕ほう 璞を抱いたことから、轉じて、美質をもつてゐることの譬。韓非子、和氏に抱と抱に其璞と。而要を於楚山之中。〔後漢書、崔駰傳〕懷道抱璞、潛光韜采。〔同書、馮衍傳〕抱璞而泣。〔後漢書、馮衍傳〕懷道抱璞、安得已而默乎。〔後漢書、陳林、馮衍傳〕抱璞而泣。

〔抱璞人〕ほうぼくじん 抱璞の人。

〔抱病〕ほうびょう 病をかゝること。抱恙。抱疴。〔史記、朝鮮傳〕抱病出。〔同、外戚世家〕抱病。〔同、朝鮮傳〕抱病。〔同、高祖紀〕抱病。〔同、高后紀〕抱病。〔同、呂后紀〕抱病。〔同、高后紀〕抱病。〔同、呂后紀〕抱病。〔同、高后紀〕抱病。〔同、呂后

宦官名。[漢書]抱佛色郭雲南之南。[後魏]其公孫[魏書]抱佛色郭雲南之南。[後魏]其公孫[魏書]抱佛色郭雲南之南。[後魏]其公孫[魏

④はりあみ。目玄天へる。国おす。国の❶に同じ。(集韻)抵 擠也 国うつ。抵6 1184 ❶に同じ。(集韻)抵 戾也 或作抵。(漢書)朱博傳 奮 擊抵 兄(注)師古曰。抵 擊也 音祇。

図説 抵 (篆文) 抵 (隸書)

抵 側ティ 支部 [ti] 抵 [tiǎ] 抵 [tiǎ] 抵 [tiǎ

【抵銷】ㄉㄧˇ ●官吏の功業相同の場合に、その功と罪とを相殺するといふ。他人公罪に除る。（後漢書）「私罪勳書、皆當勳除。（後漢書）「抵銷用者皆當除。雖有紀錄加減、不得抵銷。」（「太祖令」「令狐邪利傳」）「抵銷相對」「進」其年相抵銷」。●ニュアンス（ni-yu-an）（名）（文）相殺。

【抵選】ㄉㄧˇ ㄒㄩㄢˋ 其の官職に補用すべき員のない時に、清資出身の人を選ぶ。（清會典）「選部」「抵銷」「選」「其取新官者上、到任滿人、以抵銷舊官」。

【抵兌】ㄉㄧˇ ㄉㄨㄟˋ ひきかへる。（白居易、感之詩）「抵兌相酬、多則抵少別伏。」

【抵償】ㄉㄧˇ ㄔㄤˊ こうばとしてはらふ。（白居易、感之詩）「抵償所欠、其落如有西州羅利之雄西嶺、錢石一例以償債清」「錢知太平七相抵、抵償擎鎗兩有餘。」

【抵牾】ㄉㄧˇ ㄨˋ 互いにもめるやうこと。（後漢書、竇憲傳）「兼恃勢權、因色抵牾。」「主抵」「抵牾」。

【抵到】ㄉㄧˇ ㄉㄠˋ ていかい。抵抗（に）到る。（後漢書、竇憲傳）「抵牾」「抵到」「抵牾」「抵到」「抵牾」「抵到」

山三百騎、抹額輕衫來」條、（元好問、贈張叢遊詩「個個抹額輕衫來」條、）

抹額（まつかく）名 ①馬の面に掛けるもの。（『延喜式』巻二十七「太政官式」）「抹額二千七百個、馬面二千二百個、遠蕃、抹額二千七百個、馬面二千二百個」（『延喜式』巻二十七「太政官式」）「抹額、馬面に掛ける物。今は馬の頭の上に結ぶ。」（『和名抄』巻十「馬具部

以檢繩相牽而錯于斧也。●のり。規範。〔漢書、揚雄傳下〕蓋迹〔注師古曰迹謂檢押、猶蹤跡也、言動由檢押也〕●を

檢押、猶蹤跡也、言動由檢押也〕●を。とらへる。〔呂覽、知士〕檢之以繩、〔注高誘曰檢押也〕●を

統、昌言〔注押犬人〕。〔注〕拱、執也。押、監也。●よる。なれる。〔呼7・20329〕に通ず。

〔漢書、息夫躬傳〕羽檄重迹而相至。〔注師古曰迹、古戶、押至、言相因而至也。押、押習之押。●押韻〔文〕を見よ。●圉。●おさへ。●力を

し。無理に我意を通さうとすること。押が太い。

〔押印〕yā, ōu. 印を押すこと。

〔押韻〕yā, yùn. ●詩の韻を用ひることいふ。〔摯虞、文章流別論〕近世以來、文人各自爲一種風韻〔詩評〕例韻如鑄金碧成鏞磬均、音無何解新、衣冠雖已敝、其制猶可觀。●韻を押す。●押韻〔文〕を見よ。圉。●おさへ。●力をし。無理に我意を通さうとすること。押が太い。

〔押局〕yā, jú. 賽人の神、自籌〕著〔地方本底示〕案。

〔押賞〕yā, shǎng. 賞品を別名。〔清、黃遵憲、日本雜事詩、自注〕賽地方本底示案。

〔押籌〕yā, chóu. 賽人の神、自籌〕著〔地方本底示〕案。

〔押籤〕yā, qiān. 人物比較金銀等の形を厚紙で作つて、之に籤を少しづつ、物に貼付して作つた

〔押差〕yā, chā. ●官衙の使役に使はれた役人。〔儀禮、士喪禮〕設冪帷堂帷、幕、幕用布、若有帷堂、則有帷、帷、幕、無帷、則有幕者、無幕、則有席。〔注〕押、猶檢也、謂之紙、紙、謂之紙、紙、謂之紙、紙

押到 ya1 dao4。引致。引致。
押覆 ya1 fu4。覆審押文。
押覆官 ya1 fu4 guan1。覆審官。
押上 ya1 shang4。舉起。押上。
押送 ya1 song4。送。
押解 ya1 jie4。解送。
押地 ya1 di4。土地抵押。
押金 ya1 jin1。抵當。
押款 ya1 kuan3。抵當。
押法 ya1 fa3。抵當法。
押欵 ya1 kuan3。抵當。
押注 ya1 zhu4。抵當。
押櫃 ya1 guei4。櫃。
押陣 ya1 zhen4。殿。
押陣官 ya1 zhen4 guan1。殿官。
押陣兵 ya1 zhen4 bing1。殿兵。
押陣官兵 ya1 zhen4 guan1 bing1。殿官兵。
押陣官員 ya1 zhen4 guan1 yuan2。殿官員。
押陣官吏 ya1 zhen4 guan1 li4。殿官吏。
押陣官人 ya1 zhen4 guan1 ren2。殿官人

抽 ㊀ 經 玄覽 抽理也。❷ さざめる。よくする。〈太玄經〉 ㊁ にきる。〈崔南子、齊俗訓〉 ㊂ 有旁穿窬捫鍵抽簧鍵之意。

〔字〕 抽、捫也。❷ よむ。〈方言十三〉抽、讀也。〈詩、齊風、總有笑、不可抽也、傳、讀、抽也〉 ❸ きつぐ。〈繫〉 ❹ 26308 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❺ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❻ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❼ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❽ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❾ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ❿ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓫ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓬ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓭ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓮ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓯ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓰ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓱ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓲ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓳ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ⓴ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉑ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉒ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉓ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉔ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉕ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉖ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉗ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉘ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉙ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉚ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉛ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉜ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉝ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉞ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㉟ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊱ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊲ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊳ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊴ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊵ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊶ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊷ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊸ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊹ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊺ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊻ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊼ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊽ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊾ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 ㊿ 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (1) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (2) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (3) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (4) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (5) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (6) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (7) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽 (8) 27338 に通ず。〈說文通訓定聲〉 抽、因借爲紬。〈玉篇〉紬、擅土也。❹ 抽

を解かず、故に抽物は官を解することをいふ。(孫
[illegible]注)抽物は、抽解を解衣・解帯・解髮・解官・
鈴印・解[illegible]・宜解・出見・髮髢・遊宴・散髮・鑑官・
(南史、陳書傳)抽解を云云。([illegible]、云云、仍布衣
義食、志)字、[illegible]抽物、(後漢書、志)[illegible]、(後漢書、志)[illegible]
[illegible]、(後漢書、志)[illegible]、(後漢書、志)[illegible]
[illegible]、(後漢書、志)[illegible]、(後漢書、志)[illegible]
[illegible]、(後漢書、志)[illegible]、(後漢書、志)[illegible]
[illegible]、(後漢書、志)[illegible]、(後漢書、志)[illegible]

【抽水】[illegible]。(新撰字鏡、[illegible])●水を吸上げる。●[illegible]
をはしる。●[illegible]。●[illegible]。●[illegible]

抿 11932
ビン（集韻）眉貧切 匣 ロ上 mín.
●なでる。抿〔6－12317〕に同じ。（集韻）撫、捋也。引、筆也。引、ぬぐふ。投〔6－11562〕に通ず。抿足〔こと〕を見よ。●ロを すぼめる。（紅樓夢、八回）〔抿〕者嘴笑。

抜 11933
ケワイ（集韻）古壞切 卦 みだす。（集韻）挑、撥也。

抋 11934
シュク 宇通切 屋 祝字の誤。

抛 11935
カ 枷〔6－14567〕の誤字。（廣韻）手輿、抛字之誤。

拂 11936
フツ フチ ㄈㄨˊ 物 ㄅㄨˋ 質 ヒチ 櫛 ヒツ 末
（集韻）敷勿切
（集韻）蒲沒切
（集韻）蒲結切
（集韻）方末切
小 ㄈㄨˊ
□●はらふ。①うつ。なげうつ。（徐鍇注）擊而過ぐ也。（說文通訓定聲）隨擊隨過（蘇俗謂之拍也）與扶略同。（廣雅、釋言）拂、捧也。（楚辭、離騷）折二若木以拂日兮。（注）拂、擊也。⑪さる。（廣雅、釋詁一）拂、去也。（太玄經、從）拂、其本指也、拂之。⑫そぐ。（廣雅、釋詁二）拂、除也。（太玄經、玄攡）拂、其所有餘。（注）拂、除也。⑬ふるふ。（禮、內則）拂、鼎。（注）拂、振去塵埃。⑭ぬぐふ。（儀禮、士昏禮）主人拂几。（注）拂、拭也。（禮、曲禮上）進几者拂拭。（楚辭、大招）長袂拂面。（注）拂、拭也。⑮すぎる。かすめる。ふれる。（李白、清平調、春風拂檻露華濃。）⑯はらう。（淮南子、齊俗訓）拂於四達之衢。（注）拂、放也。⑰たつ。（國語、呉語）無拂吾慮。（注）拂、絕也。⑱かかげる。（國語、晉語八）拂衣依、之。（荀史、陳騫達傳）歷尾鱗拂、是王蹤家許。●からさを。（莫儀、王莽傳中）必躬親拂。（注）師古曰、拂、所以擊治禾者也。今謂之連枷。（郷現代醇編）鬧衣、公燈日、稻之連枷、古之所謂拂也。●もとる。たがふ。呻〔9－2456〕弗〔4－9708〕に通ず。（說文通訓定聲）拂、段借爲、違、（莫儀、皇矣）四方以無拂。（莫儀、酒誥）大拂、是謂拂人之性。（荀子、王霸篇）豈能拂、道理之數。（注）拂、違也。（史記、韓非傳）大忠無所拂、拂、違也。（注）師古曰、卽不違、悟於君也。（漢書、王莽傳上）拂、悖、違、向。（注）師古曰、拂、逆也。（漢書、東方朔傳）拂、於耳、順、耳。（漢書、賈誼傳）拂、於耳、逆也。（漢書、蓋寬饒傳）〔正韻〕

〔拂經〕ふつ つねにもとる。常道にたがふ。『易』晉に「衆允、上行也。拂經順道」。

〔拂拭〕ふつ 一に「拭拂」。ぬぐひ清める。

〔拂意〕ふつ 一に「意拂」。意に逆らふ。意にたがふ。意に逆らふこと。『後漢書』馬融傳、『注』に「拂意、猶違也。」

〔拂鬱〕ふつ 『文選』

綠、四日閼逢、五日淮南王、聳身剝、喜顯、面因、其面多、古今集錄曰、法華經、拔用、賀顯、樂府解題曰、拔用、賀顯、樂府、樂府、樂府

手部 〔五畫〕 担 捉 拆

【担】 11941

□タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 ㊇ タン。 ㊈ タン。 ㊉ タン。 ㊊ タン。 ㊋ タン。 ㊌ タン。 ㊍ タン。 ㊎ タン。 ㊏ タン。 ㊐ タン。 ㊑ タン。 ㊒ タン。 ㊓ タン。 ㊔ タン。 ㊕ タン。 ㊖ タン。 ㊗ タン。 ㊘ タン。 ㊙ タン。 ㊚ タン。 ㊛ タン。 ㊜ タン。 ㊝ タン。 ㊞ タン。 ㊟ タン。 ㊠ タン。 ㊡ タン。 ㊢ タン。 ㊣ タン。 ㊤ タン。 ㊥ タン。 ㊦ タン。 ㊧ タン。 ㊨ タン。 ㊩ タン。 ㊪ タン。 ㊫ タン。 ㊬ タン。 ㊭ タン。 ㊮ タン。 ㊯ タン。 ㊰ タン。 ㊱ タン。 ㊲ タン。 ㊳ タン。 ㊴ タン。 ㊵ タン。 ㊶ タン。 ㊷ タン。 ㊸ タン。 ㊹ タン。 ㊺ タン。 ㊻ タン。 ㊼ タン。 ㊽ タン。 ㊾ タン。 ㊿ タン。 [1] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [2] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [3] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [4] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [5] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [6] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [7] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [8] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [9] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [10] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [11] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [12] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [13] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [14] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [15] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [16] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [17] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [18] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [19] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [20] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [21] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [22] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [23] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [24] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [25] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [26] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [27] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [28] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [29] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [30] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [31] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [32] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [33] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [34] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [35] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [36] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [37] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [38] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [39] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [40] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [41] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [42] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [43] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [44] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [45] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [46] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [47] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [48] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [49] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [50] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [51] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [52] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [53] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [54] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [55] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [56] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [57] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [58] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [59] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [60] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [61] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [62] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [63] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [64] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [65] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [66] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [67] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [68] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [69] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [70] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [71] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [72] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [73] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [74] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [75] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [76] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [77] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [78] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [79] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [80] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [81] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [82] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [83] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [84] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [85] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [86] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [87] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [88] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [89] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [90] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [91] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [92] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [93] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [94] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [95] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [96] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [97] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [98] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [99] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。 [100] タン 〔集韻〕寒早切 国 ダン。

□チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 ㊇ チク。 ㊈ チク。 ㊉ チク。 ㊊ チク。 ㊋ チク。 ㊌ チク。 ㊍ チク。 ㊎ チク。 ㊏ チク。 ㊐ チク。 ㊑ チク。 ㊒ チク。 ㊓ チク。 ㊔ チク。 ㊕ チク。 ㊖ チク。 ㊗ チク。 ㊘ チク。 ㊙ チク。 ㊚ チク。 ㊛ チク。 ㊜ チク。 ㊝ チク。 ㊞ チク。 ㊟ チク。 ㊠ チク。 ㊡ チク。 ㊢ チク。 ㊣ チク。 ㊤ チク。 ㊥ チク。 ㊦ チク。 ㊧ チク。 ㊨ チク。 ㊩ チク。 ㊪ チク。 ㊫ チク。 ㊬ チク。 ㊭ チク。 ㊮ チク。 ㊯ チク。 ㊰ チク。 ㊱ チク。 ㊲ チク。 ㊳ チク。 ㊴ チク。 ㊵ チク。 ㊶ チク。 ㊷ チク。 ㊸ チク。 ㊹ チク。 ㊺ チク。 ㊻ チク。 ㊼ チク。 ㊽ チク。 ㊾ チク。 ㊿ チク。 [1] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [2] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [3] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [4] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [5] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [6] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [7] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [8] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [9] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [10] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [11] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [12] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [13] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [14] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [15] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [16] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [17] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [18] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [19] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [20] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [21] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [22] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [23] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [24] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [25] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [26] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [27] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [28] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [29] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [30] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [31] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [32] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [33] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [34] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [35] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [36] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [37] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [38] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [39] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [40] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [41] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [42] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [43] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [44] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [45] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [46] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [47] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [48] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [49] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [50] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [51] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [52] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [53] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [54] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [55] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [56] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [57] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [58] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [59] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [60] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [61] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [62] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [63] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [64] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [65] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [66] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [67] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [68] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [69] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [70] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [71] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [72] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [73] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [74] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [75] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [76] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [77] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [78] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [79] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [80] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [81] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [82] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [83] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [84] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [85] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [86] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [87] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [88] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [89] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [90] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [91] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [92] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [93] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [94] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [95] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [96] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [97] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [98] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [99] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。 [100] チク 〔集韻〕配格切 国 チク。

【捉】 11942

ヤク 同じ。 ㊇ ヤク。 ㊈ ヤク。 ㊉ ヤク。 ㊊ ヤク。 ㊋ ヤク。 ㊌ ヤク。 ㊍ ヤク。 ㊎ ヤク。 ㊏ ヤク。 ㊐ ヤク。 ㊑ ヤク。 ㊒ ヤク。 ㊓ ヤク。 ㊔ ヤク。 ㊕ ヤク。 ㊖ ヤク。 ㊗ ヤク。 ㊘ ヤク。 ㊙ ヤク。 ㊚ ヤク。 ㊛ ヤク。 ㊜ ヤク。 ㊝ ヤク。 ㊞ ヤク。 ㊟ ヤク。 ㊠ ヤク。 ㊡ ヤク。 ㊢ ヤク。 ㊣ ヤク。 ㊤ ヤク。 ㊥ ヤク。 ㊦ ヤク。 ㊧ ヤク。 ㊨ ヤク。 ㊩ ヤク。 ㊪ ヤク。 ㊫ ヤク。 ㊬ ヤク。 ㊭ ヤク。 ㊮ ヤク。 ㊯ ヤク。 ㊰ ヤク。 ㊱ ヤク。 ㊲ ヤク。 ㊳ ヤク。 ㊴ ヤク。 ㊵ ヤク。 ㊶ ヤク。 ㊷ ヤク。 ㊸ ヤク。 ㊹ ヤク。 ㊺ ヤク。 ㊻ ヤク。 ㊼ ヤク。 ㊽ ヤク。 ㊾ ヤク。 ㊿ ヤク。 [1] ヤク。 [2] ヤク。 [3] ヤク。 [4] ヤク。 [5] ヤク。 [6] ヤク。 [7] ヤク。 [8] ヤク。 [9] ヤク。 [10] ヤク。 [11] ヤク。 [12] ヤク。 [13] ヤク。 [14] ヤク。 [15] ヤク。 [16] ヤク。 [17] ヤク。 [18] ヤク。 [19] ヤク。 [20] ヤク。 [21] ヤク。 [22] ヤク。 [23] ヤク。 [24] ヤク。 [25] ヤク。 [26] ヤク。 [27] ヤク。 [28] ヤク。 [29] ヤク。 [30] ヤク。 [31] ヤク。 [32] ヤク。 [33] ヤク。 [34] ヤク。 [35] ヤク。 [36] ヤク。 [37] ヤク。 [38] ヤク。 [39] ヤク。 [40] ヤク。 [41] ヤク。 [42] ヤク。 [43] ヤク。 [44] ヤク。 [45] ヤク。 [46] ヤク。 [47] ヤク。 [48] ヤク。 [49] ヤク。 [50] ヤク。 [51] ヤク。 [52] ヤク。 [53] ヤク。 [54] ヤク。 [55] ヤク。 [56] ヤク。 [57] ヤク。 [58] ヤク。 [59] ヤク。 [60] ヤク。 [61] ヤク。 [62] ヤク。 [63] ヤク。 [64] ヤク。 [65] ヤク。 [66] ヤク。 [67] ヤク。 [68] ヤク。 [69] ヤク。 [70] ヤク。 [71] ヤク。 [72] ヤク。 [73] ヤク。 [74] ヤク。 [75] ヤク。 [76] ヤク。 [77] ヤク。 [78] ヤク。 [79] ヤク。 [80] ヤク。 [81] ヤク。 [82] ヤク。 [83] ヤク。 [84] ヤク。 [85] ヤク。 [86] ヤク。 [87] ヤク。 [88] ヤク。 [89] ヤク。 [90] ヤク。 [91] ヤク。 [92] ヤク。 [93] ヤク。 [94] ヤク。 [95] ヤク。 [96] ヤク。 [97] ヤク。 [98] ヤク。 [99] ヤク。 [100] ヤク。

【拆】 11943

□タク 〔集韻〕配格切 国 チク。 ㊇ チク。 ㊈ チク。 ㊉ チク。 ㊊ チク。 ㊋ チク。 ㊌ チク。 ㊍ チク。 ㊎ チク。 ㊏ チク。 ㊐ チク。 ㊑ チク。 ㊒ チク。 ㊓ チク。 ㊔ チク。 ㊕ チク。 ㊖ チク。 ㊗ チク。 ㊘ チク。 ㊙ チク。 ㊚ チク。 ㊛ チク。 ㊜ チク。 ㊝ チク。 ㊞ チク。 ㊟ チク。 ㊠ チク。 ㊡ チク。 ㊢ チク。 ㊣ チク。 ㊤ チク。 ㊥ チク。 ㊦ チク。 ㊧ チク。 ㊨ チク。 ㊩ チク。 ㊪ チク。 ㊫ チク。 ㊬ チク。 ㊭ チク。 ㊮ チク。 ㊯ チク。 ㊰ チク。 ㊱ チク。 ㊲ チク。 ㊳ チク。 ㊴ チク。 ㊵ チク。 ㊶ チク。 ㊷ チク。 ㊸ チク。 ㊹ チク。 ㊺ チク。 ㊻ チク。 ㊼ チク。 ㊽ チク。 ㊾ チク。 ㊿ チク。 [1] チク。 [2] チク。 [3] チク。 [4] チク。 [5] チク。 [6] チク。 [7] チク。 [8] チク。 [9] チク。 [10] チク。 [11] チク。 [12] チク。 [13] チク。 [14] チク。 [15] チク。 [16] チク。 [17] チク。 [18] チク。 [19] チク。 [20] チク。 [21] チク。 [22] チク。 [23] チク。 [24] チク。 [25] チク。 [26] チク。 [27] チク。 [28] チク。 [29] チク。 [30] チク。 [31] チク。 [32] チク。 [33] チク。 [34] チク。 [35] チク。 [36] チク。 [37] チク。 [38] チク。 [39] チク。 [40] チク。 [41] チク。 [42] チク。 [43] チク。 [44] チク。 [45] チク。 [46] チク。 [47] チク。 [48] チク。 [49] チク。 [50] チク。 [51] チク。 [52] チク。 [53] チク。 [54] チク。 [55] チク。 [56] チク。 [57] チク。 [58] チク。 [59] チク。 [60] チク。 [61] チク。 [62] チク。 [63] チク。 [64] チク。 [65] チク。 [66] チク。 [67] チク。 [68] チク。 [69] チク。 [70] チク。 [71] チク。 [72] チク。 [73] チク。 [74] チク。 [75] チク。 [76] チク。 [77] チク。 [78] チク。 [79] チク。 [80] チク。 [81] チク。 [82] チク。 [83] チク。 [84] チク。 [85] チク。 [86] チク。 [87] チク。 [88] チク。 [89] チク。 [90] チク。 [91] チク。 [92] チク。 [93] チク。 [94] チク。 [95] チク。 [96] チク。 [97] チク。 [98] チク。 [99] チク。 [100] チク。

□セキ 〔集韻〕昌石切 国 セキ。 ㊇ セキ。 ㊈ セキ。 ㊉ セキ。 ㊊ セキ。 ㊋ セキ。 ㊌ セキ。 ㊍ セキ。 ㊎ セキ。 ㊏ セキ。 ㊐ セキ。 ㊑ セキ。 ㊒ セキ。 ㊓ セキ。 ㊔ セキ。 ㊕ セキ。 ㊖ セキ。 ㊗ セキ。 ㊘ セキ。 ㊙ セキ。 ㊚ セキ。 ㊛ セキ。 ㊜ セキ。 ㊝ セキ。 ㊞ セキ。 ㊟ セキ。 ㊠ セキ。 ㊡ セキ。 ㊢ セキ。 ㊣ セキ。 ㊤ セキ。 ㊥ セキ。 ㊦ セキ。 ㊧ セキ。 ㊨ セキ。 ㊩ セキ。 ㊪ セキ。 ㊫ セキ。 ㊬ セキ。 ㊭ セキ。 ㊮ セキ。 ㊯ セキ。 ㊰ セキ。 ㊱ セキ。 ㊲ セキ。 ㊳ セキ。 ㊴ セキ。 ㊵ セキ。 ㊶ セキ。 ㊷ セキ。 ㊸ セキ。 ㊹ セキ。 ㊺ セキ。 ㊻ セキ。 ㊼ セキ。 ㊽ セキ。 ㊾ セキ。 ㊿ セキ。 [1] セキ。 [2] セキ。 [3] セキ。 [4] セキ。 [5] セキ。 [6] セキ。 [7] セキ。 [8] セキ。 [9] セキ。 [10] セキ。 [11] セキ。 [12] セキ。 [13] セキ。 [14] セキ。 [15] セキ。 [16] セキ。 [17] セキ。 [18] セキ。 [19] セキ。 [20] セキ。 [21] セキ。 [22] セキ。 [23] セキ。 [24] セキ。 [25] セキ。 [26] セキ。 [27] セキ。 [28] セキ。 [29] セキ。 [30] セキ。 [31] セキ。 [32] セキ。 [33] セキ。 [34] セキ。 [35] セキ。 [36] セキ。 [37] セキ。 [38] セキ。 [39] セキ。 [40] セキ。 [41] セキ。 [42] セキ。 [43] セキ。 [44] セキ。 [45] セキ。 [46] セキ。 [47] セキ。 [48] セキ。 [49] セキ。 [50] セキ。 [51] セキ。 [52] セキ。 [53] セキ。 [54] セキ。 [55] セキ。 [56] セキ。 [57] セキ。 [58] セキ。 [59] セキ。 [60] セキ。 [61] セキ。 [62] セキ。 [63] セキ。 [64] セキ。 [65] セキ。 [66] セキ。 [67] セキ。 [68] セキ。 [69] セキ。 [70] セキ。 [71] セキ。 [72] セキ。 [73] セキ。 [74] セキ。 [75] セキ。 [76] セキ。 [77] セキ。 [78] セキ。 [79] セキ。 [80] セキ。 [81] セキ。 [82] セキ。 [83] セキ。 [84] セキ。 [85] セキ。 [86] セキ。 [87] セキ。 [88] セキ。 [89] セキ。 [90] セキ。 [91] セキ。 [92] セキ。 [93] セキ。 [94] セキ。 [95] セキ。 [96] セキ。 [97] セキ。 [98] セキ。 [99] セキ。 [100] セキ。

□さく。 埽。 ㊇ さく。 埽。 ㊈ さく。 埽。 ㊉ さく。 埽。 ㊊ さく。 埽。 ㊋ さく。 埽。 ㊌ さく。 埽。 ㊍ さく。 埽。 ㊎ さく。 埽。 ㊏ さく。 埽。 ㊐ さく。 埽。 ㊑ さく。 埽。 ㊒ さく。 埽。 ㊓ さく。 埽。 ㊔ さく。 埽。 ㊕ さく。 埽。 ㊖ さく。 埽。 ㊗ さく。 埽。 ㊘ さく。 埽。 ㊙ さく。 埽。 ㊚ さく。 埽。 ㊛ さく。 埽。 ㊜ さく。 埽。 ㊝ さく。 埽。 ㊞ さく。 埽。 ㊟ さく。 埽。 ㊠ さく。 埽。 ㊡ さく。 埽。 ㊢ さく。 埽。 ㊣ さく。 埽。 ㊤ さく。 埽。 ㊥ さく。 埽。 ㊦ さく。 埽。 ㊧ さく。 埽。 ㊨ さく。 埽。 ㊩ さく。 埽。 ㊪ さく。 埽。 ㊫ さく。 埽。 ㊬ さく。 埽。 ㊭ さく。 埽。 ㊮ さく。 埽。 ㊯ さく。 埽。 ㊰ さく。 埽。 ㊱ さく。 埽。 ㊲ さく。 埽。 ㊳ さく。 埽。 ㊴ さく。 埽。 ㊵ さく。 埽。 ㊶ さく。 埽。 ㊷ さく。 埽。 ㊸ さく。 埽。 ㊹ さく。 埽。 ㊺ さく。 埽。 ㊻ さく。 埽。 ㊼ さく。 埽。 ㊽ さく。 埽。 ㊾ さく。 埽。 ㊿ さく。 埽。 [1] さく。 埽。 [2] さく。 埽。 [3] さく。 埽。 [4] さく。 埽。 [5] さく。 埽。 [6] さく。 埽。 [7] さく。 埽。 [8] さく。 埽。 [9] さく。 埽。 [10] さく。 埽。 [11] さく。 埽。 [12] さく。 埽。 [13] さく。 埽。 [14] さく。 埽。 [15] さく。 埽。 [16] さく。 埽。 [17] さく。 埽。 [18] さく。 埽。 [19] さく。 埽。 [20] さく。 埽。 [21] さく。 埽。 [22] さく。 埽。 [23] さく。 埽。 [24] さく。 埽。 [25] さく。 埽。 [26] さく。 埽。 [27] さく。 埽。 [28] さく。 埽。 [29] さく。 埽。 [30] さく。 埽。 [31] さく。 埽。 [32] さく。 埽。 [33] さく。 埽。 [34] さく。 埽。 [35] さく。 埽。 [36] さく。 埽。 [37] さく。 埽。 [38] さく。 埽。 [39] さく。 埽。 [40] さく。 埽。 [41] さく。 埽。 [42] さく。 埽。 [43] さく。 埽。 [44] さく。 埽。 [45] さく。 埽。 [46] さく。 埽。 [47] さく。 埽。 [48] さく。 埽。 [49] さく。 埽。 [50] さく。 埽。 [51] さく。 埽。 [52] さく。 埽。 [53] さく。 埽。 [54] さく。 埽。 [55] さく。 埽。 [56] さく。 埽。 [57] さく。 埽。 [58] さく。 埽。 [59] さく。 埽。 [60] さく。 埽。 [61] さく。 埽。 [62] さく。 埽。 [63] さく。 埽。 [64] さく。 埽。 [65] さく。 埽。 [66] さく。 埽。 [67] さく。 埽。 [68] さく。 埽。 [69] さく。 埽。 [70] さく。 埽。 [71] さく。 埽。 [72] さく。 埽。 [73] さく。 埽。 [74] さく。 埽。 [75] さく。 埽。 [76] さく。 埽。 [77] さく。 埽。 [78] さく。 埽。 [79] さく。 埽。 [80] さく。 埽。 [81] さく。 埽。 [82] さく。 埽。 [83] さく。 埽。 [84] さく。 埽。 [85] さく。 埽。 [86] さく。 埽。 [87] さく。 埽。 [88] さく。 埽。 [89] さく。 埽。 [90] さく。 埽。 [91] さく。 埽。 [92] さく。 埽。 [93] さく。 埽。 [94] さく。 埽。 [95] さく。 埽。 [96] さく。 埽。 [97] さく。 埽。 [98] さく。 埽。 [99] さく。 埽。 [100] さく。 埽。

形近之譌。 ●況④そこなふ。 ●分 形近之譌。 ●況④そこなふ。 ●分解する。 ●況 解する。

【拆引】 〔廣韻〕 ●況 ●拆引 ●況 ●拆引 ●況 ●拆引

書・説文・段・郭・廣韻・集韻・類篇・玉篇・字彙・正字通・康熙字典・字典考正・字典・字彙補・字典・字彙・字典・字彙・字典・字彙

ニ)に作る。「集韻」拉、或作搚・搚・搶・搶。❶國〈ひく・牽く・挽く・(四)を動かす。収穫する。(六)ながびかせる。ぐずぐずする。

【拉運】lā yùn. 運搬する。

【拉運動】lā yùn dòng. 運動をする。

【拉攙】lā chān. 引っ張る。

【拉開】lā kāi. 引っ張って開く。

【拉管】lā guǎn. ここ・はねるひしゃく。(掲題、解明)

【拉柿】lā shì. 「拉」は、「拉」に作る。「集韻」、「篇海」は、「拉」に作る。「拉」は、「拉」に作る。「拉」は、「拉」に作る。「拉

多西六合六十里。

【拉林】ｌａ̀ｌｉｎ 清代名。滿洲語音譯呼蘭。在今黑龍江省呼蘭縣西北。

【拉伯】ｌａｂｏ̀ 同上。

【拉拉】ｌａｌａ̀ 同上。

【拉拉山】ｌａｌａ̀ｓｈａｎ 清代名。滿洲語音譯呼倫貝爾。在今黑龍江省西北。

【拉拉山關】ｌａｌａ̀ｓｈａｎｇｕａｎ 清代名。滿洲語音譯呼倫貝爾關。在今黑龍江省西北。

【拉法】ｌａｆａ̀ 清代名。滿洲語音譯拉法。在今黑龍江省西北。

【拉爾】ｌａｅｒ̀ ｇｕｏｌｕｏ 蒙古語。國名。拉爾國。

【拉爾喀】ｌａｅｒ̀ｋｅ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀河】ｌａｅｒ̀ｋｅｈｅ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀河。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀城】ｌａｅｒ̀ｋｅｃｈｅｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀城。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀關】ｌａｅｒ̀ｋｅｇｕａｎ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀關。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀關城】ｌａｅｒ̀ｋｅｇｕａｎｃｈｅｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀關城。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀關城都統】ｌａｅｒ̀ｋｅｇｕａｎｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀關城都統。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀關城都統衙門】ｌａｅｒ̀ｋｅｇｕａｎｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀關城都統衙門。在今黑龍江省西北。

【拉爾喀關城都統衙門所轄地方】ｌａｅｒ̀ｋｅｇｕａｎｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉爾喀關城都統衙門所轄地方。在今黑龍江省西北。

【拉倫】ｌａｌｕｎ̀ ●交拉倫。親家。

【拉倫】ｌａｌｕｎ̀ ●枝。

【拉倫】ｌａｌｕｎ̀ 地名。Ｈａｒｇｕｎｓｕｏ 的音譯。

【拉爾】ｌａｅｒ̀ 地名。Ｈａｒｇｕｎｓｕｏ 的音譯。

【拉合爾】ｌａｈｅｅｒ̀ 地名。Ｌａｈｏｒｅ 的音譯。

【拉合爾門】ｌａｈｅｅｒ̀ｍｅｎ 地名。Ｌａｈｏｒｅｇａｔｅ 的音譯。

【拉哈達】ｌａｈａｄａ̀ 清代名。滿洲語音譯拉哈達。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇｈｕｋｏｕｃｅ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇｈｕｋｏｕｃｅｚｏｎｇｓｈｕ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇｈｕｋｏｕｃｅｚｏｎｇｓｈｕｂｉａｏ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表表式】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇｈｕｋｏｕｃｅｚｏｎｇｓｈｕｂｉａｏｂｉａｏｓｈｉ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表表式。在今黑龍江省西北。

【拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表表式說明】ｌａｈａｄａ̀ｃｈｅｎｇｄｏｕｔｏｎｇｙａｍｅｎｓｕｏｈｕａｄｉｊｉｎｇｄｉｆａｎｇｈｕｋｏｕｃｅｚｏｎｇｓｈｕｂｉａｏｂｉａｏｓｈｉｓｈｕｏｍｉｎｇ 清代名。滿洲語音譯拉哈達城都統衙門所轄地方戶口冊總數表表式說明。在今黑龍江省西北。

【拉拉】ｌａｌａ̀ 親家。

【拉拉】ｌａｌａ̀ 同上。

【拉拉】ｌａｌａ̀ 同上。

【拉拉】ｌａｌａ̀ 同上

爲之。實以擁、擁疾作。擁、呈字從筆、擁疑亦拇之類。史記、禮書、脩、擁、尙、拇、擁、擁、擁

【抛棄】ハウ。なげやりにする。あれはほうておく。(清 會典事例 戶部 鹽課 鹽政 長蘆 道光二八年、又覆准、其水櫃沙壩等地、仍照舊籌辦、相輔而行、抛棄不管、應請嚴飭鹽政、嚴行查辦、毋任抛荒、正獻都御史、奏任部 抛荒、正獻都御史、奏任部 抛荒、正獻都御史、奏任部

【拍】

11952

(集韻)匹陌切 ㊀ヒャク 又之 ㊁ハク 又ヒャク

(集韻)百合切 ㊂ハク (集韻)百合切 ㊃ヒャク

拍 小 ㊀ 動 する。もと拍(6・11999)に作る。

(説文解字)手部 ①うつ。たたく。④なでる。愛撫する。もと拍(6・11999)に作る。

(説文解字)手部 拍、拊也。从手白聲。(王注)郭璞注、釋訓曰、撫拊也。从手白聲。(王注)郭璞注、釋訓曰、撫拊、猶撫拍、謂愛憐也。與詩君子愛人、拍、拍、俗拍字。字林右曰、拍、搏也。手搏其上也。則與詩者搏搏拍拍、義同。義、非詩者拍搏拍拍四字類聚之意也。(後漢書、趙岐傳)注、拍、搏也。(古詩、冬)無衣、(毛傳)搏、搏也。(文選、潘岳、射雉賦)搏

通。因示。菁。濃。被。收。錄。然。後。反。書。拍。紫。補。刀。鞍。左。右。案。前。際。浙。使。留。別。方。高。出。白。虎。輔。五。六。尺。接。無。不。中。仍。擲。鞭。拍。紫。賣。與。獵。者。拍。定。人。[pāi-dìng-rén]。せり賣の品を定める人。落札人。[pāi-mǎi] [pāi-mǎi]。競賣物をせり落とした人。

[拍馬] [pāi-mǎ] [pāi-mǎ]。●馬をたたく。●人の御機嫌を取る。[pāi-mǎ-pì] [pāi-mǎ-pì]。諂。おべっかを使う。

[拍賣] [pāi-mài] [pāi-mài]。せりうり。競賣。

[拍賣市] [pāi-mài-shì] [pāi-mài-shì]。せり賣問屋。競賣市。

[拍賣人] [pāi-mài-rén] [pāi-mài-rén]。競賣人。

[拍賣物] [pāi-mài-wù] [pāi-mài-wù]。せり賣物。競賣物。

[拍掌] [pāi-zhǎng] [pāi-zhǎng]。●手を打つ。●手を打ちならす。

[拍手] [pāi-shǒu] [pāi-shǒu]。●手を鳴らす。●賛成する。

[拍出掌兄] [pāi-chū-zhǎng-xiōng] [pāi-chū-zhǎng-xiōng]。手拍子を合わせて。

[拍白的] [pāi-bái-de] [pāi-bái-de]。人の子女を誘拐する。[拍花的]。

[拍托里特] [pāi-tuō-lǐ-tè] [pāi-tuō-lǐ-tè]。島の名。ギリシア神西印度諸島中の一島。[Patti (Pattitiko)]。

[拍度] [pāi-dù] [pāi-dù]。[拍度島]の略。

[拍項] [pāi-xiàng] [pāi-xiàng]。[拍項島]の略。

[拍項島] [pāi-xiàng-dǎo] [pāi-xiàng-dǎo]。[拍項島]の略。

[拍項島低] [pāi-xiàng-dǎo-dī] [pāi-xiàng-dǎo-dī]。[拍項島]の略。

[拍項島低頓] [pāi-xiàng-dǎo-dī-dùn] [pāi-xiàng-dǎo-dī-dùn]。[拍項島]の略。

拍

拍板 [pāi-bǎn] [pāi-bǎn]。神曲。但有耳通。明。笑。其節奏。通典。有。樂。以代。拊。擊節。也。[拍板]。[拍板]。[拍板]

〔拐引〕ｷｲ… かどわかし。所引、誘惑等の手段。

人を他所に引き去ること。曲りかど。

〔拐角〕kai-kaku, chiaku-kaku 曲りかど。

〔拐去〕kai-kyo, chi-yo かどわかす。誘拐する。

〔拐欺〕kai-gi, chi-gi 人を騙すとはかす意。

〔拐子〕kai-shi, chi-shi 人を騙すとはかす意。

かたり。ひとかどとはかす意。

〔拐棒〕同拐。〔拐子先〕同子。後者の拐は子手。

〔拐子手〕kai-shi-te, chi-shi-te 詐欺の手段。

〔拐子馬〕〔拐子先〕同子。後者の拐は子手。

〔拐馬〕ｶｲ… 人を一くみとして、縄を以て

の几尤が軍中で用ひた。（宋史、兵衛傳）初元祐、

有到軍、官重銀、賈以奇表、人馬眼、鏃拐

子馬、官軍不能禦、是役也、以萬五千騎、乘

飛電、步卒以輸步刀、人持劍、御斬、第斬馬

足、拐子馬相連、馬仆、馬不能行、官軍奮

擊、宋史、項、金人善用、拐子馬、三馬相連、馬

仆、馬不能行、官軍奮

之逸走淫南殺、若道寧而自殺者、皆勿論。

【拒諫】ｊｕ４ いましめをこばむ。諫言を拒む。（句子）成而後能拒人。（後漢書、馬援傳）

【拒絶】ｊｕ４ ぜつ 拒否。（句子）成而後能拒人。（後漢書、馬援傳）

【拒捍】ｊｕ４ かん 拒絶。（熟語）知足以拒捍、謂之先右拒（注）拒捍、取出奇勝也。（後漢書、光武帝紀、十二月）

【拒霜】ｊｕ４ そう 蓉芙蓉。（熟語）冬の間、花が咲くから。（本草、木部）芙蓉、秋華、冬花、木光、華大拒霜。

【拒霜花】ｊｕ４ そうか 蓉芙蓉。（熟語）拒霜花生、彩蓮如州、花容象蓮、始開白色、明日桃紅、又明日乃紫、後花乾、蓮黄、只有芙蓉獨自芳。（唐、李商隱、詩）知木稱細思芙蓉言、端

【拒止】ｊｕ４ こばみとめる。防ぎとめる。くい止める。

【拒射】ｊｕ４ ふせぎ射る。

【拒守】ｊｕ４ しゅ 防ぎまもること。（大鏡、慶滋保胤）軍拒守。

【拒石】ｊｕ４ せき 投石器。（漢書、郊祀志）而鑿四面、拒石、四面のものの（注）師子、投石器。

【拒絶】ｊｕ４ ぜつ こばみたち。いなむ。はねつける。（後漢書、陳龍傳）後袁術求糧於陳、而後拒絶之。（後漢書、陳龍傳）袁術、遣門人拒、絶知

【拒絶書】ｊｕ４ ぜつしょ 拒否の書。（句子）拒絶書、陳龍傳）

【拒捕】ｊｕ４ ほ 手形をとって、ものを拒む。（句子）拒捕、公案而已。

【拒馬】ｊｕ４ ば 防ぎとめる。（熟語）拒馬、防陣、（熟語）拒馬、防陣、（熟語）拒馬、防陣、

提議。唐三四方僧物。後人僧寫以拓為祖。又省。**薩寧**。子。北魏拓跋郁牛力住持寺院居士。**博**[illegible]**拓**[illegible]。**拓**[illegible]。**拓**[illegible]。

子名は瑞、諱は文成。朝儀高明、初、宮内の卿愛が枝連し、南安王余を立て、復之を殺す。帝、兵を用いることなく、図内徳耗してあたる。帝、兵を用いることなく、図内徳耗してあたる。帝は中興の主。在位十四年にして崩じた。年號は興安。（魏書・十五）

【拓跋晃】[illegible]　後魏の人。明元帝の子。帝の兄。清河王に封ぜられ、後、明元帝の時、死を賜はった。（後魏の人。北魏の第二子。謀の次。官は左光禄大夫。（魏書・十五）

【拓跋嘉】[illegible]　後魏の人。晃の子。謀の次。官は侍郎大官。陽の子。謀は文成朝儀高明、初、宮内の卿愛が枝連し、南安王余を立て、復之を殺す。帝は遷都到来を聞いて、時に太武帝、兵を用いることなく、図内徳耗してあたる。帝は中興の主。在位十四年にして崩じた。年號は興安。（魏書・十五）

【拓跋順】[illegible]　後魏の人。昭成帝の孫。皇西の王に封ぜられ、後、道武帝の時、王道の[illegible]により、尚書左僕射を拝す。封は常山王。天興中、鄴を太保公王に美し、後を賜はった。（魏書・十五）（北史・十五）

【拓跋産】[illegible]　後魏の宗室。什翼健の孫。中建国二十四年、長孫斤が反し、拔刀し手ずから斤を斬った。産は之を負傷した。後、産の太師の夏殺された（後、産の子、獻明皇后いい、後魏の太祖）（魏書・十五）

【拓跋翰】[illegible]　後魏の人。紳の子。字は天興。（魏書・十五）

【拓跋儁】[illegible]　後魏の人。判官の玄孫。謀は帝。輔道四の征伐に、身を以て武を敷揮した。官は尚書大令、鄴州刺史。（魏書・十四）（北史・十五）

【拓跋儀】[illegible]　後魏の臨淮王。孝文帝の孫。献王の第四の男。名は到、胡太后が孝明帝を殺すを聞いて、部位せしめた。爾朱榮兵を河に沈めた。在位、月年號は武泰。（魏書・十五）

【拓跋紹】[illegible]　後魏の人。明元帝の子。天興中、清河王に封ぜられ、後、明元帝の時、死を賜はった。（魏書・十五）

【拓跋壽】[illegible]　後魏の人。熙の第二子。謀の次。官は左光禄大夫。（魏書・十五）

【拓跋素】[illegible]　後魏の人。遵の子。謀は謀。官は侍郎大官。陽の子。謀は文成朝儀高明、初、宮内の卿愛が枝連し、南安王余を立て、復之を殺す。帝は遷都到来を聞いて、時に太武帝、兵を用いることなく、図内徳耗してあたる。帝は中興の主。在位十四年にして崩じた。年號は興安。（魏書・十五）

【拓跋順】[illegible]　後魏の人。昭成帝の孫。皇西の王に封ぜられ、後、道武帝の時、王道の[illegible]により、尚書左僕射を拝す。封は常山王。天興中、鄴を太保公王に美し、後を賜はった。（魏書・十五）（北史・十五）

【拓跋産】[illegible]　後魏の宗室。什翼健の孫。中建国二十四年、長孫斤が反し、拔刀し手ずから斤を斬った。産は之を負傷した。後、産の太師の夏殺された（後、産の子、獻明皇后いい、後魏の太祖）（魏書・十五）

【拓跋翰】[illegible]　後魏の人。紳の子。字は天興。（魏書・十五）

【拓跋儁】[illegible]　後魏の人。判官の玄孫。謀は帝。輔道四の征伐に、身を以て武を敷揮した。官は尚書大令、鄴州刺史。（魏書・十四）（北史・十五）

【拓跋儀】[illegible]　後魏の臨淮王。孝文帝の孫。献王の第四の男。名は到、胡太后が孝明帝を殺すを聞いて、部位せしめた。爾朱榮兵を河に沈めた。在位、月年號は武泰。（魏書・十五）

【拓跋紹】[illegible]　後魏の人。明元帝の子。天興中、清河王に封ぜられ、後、明元帝の時、死を賜はった。（魏書・十五）

【拓跋壽】[illegible]　後魏の人。熙の第二子。謀の次。官は左光禄大夫。（魏書・十五）

【拓跋素】[illegible]　後魏の人。遵の子。謀は謀。官は侍郎大官。陽の子。謀は文成朝儀高明、初、宮内の卿愛が枝連し、南安王余を立て、復之を殺す。帝は遷都到来を聞いて、時に太武帝、兵を用いることなく、図内徳耗してあたる。帝は中興の主。在位十四年にして崩じた。年號は興安。（魏書・十五）

【拓跋丕】[illegible]　後魏の人。明元帝の子。謀は[illegible]。秦雍中、鎮十三に封ぜられ、官は車騎大将軍、河西西南中諸軍事を管し、南秦・雍州牧を兼ねて、後、[illegible]の事を管し、南秦・雍州牧を兼ねて、後、[illegible]の事を管し、南秦・雍州牧を兼ねて、後、[illegible]の

【拓跋紹治】[illegible]　後魏の聖武帝、獻帝の子。名は紹治。諱は聖武。獻帝に推されて帝位を命ずる。初は出で南部の故地に居り、天安之を會して力後を生んだ。詳の皇帝家系くし「後魏書」一〇「北史」一〇。

【拓跋寶興】[illegible]　後魏の人。臣列の傳は、官は散騎常侍。「魏書」一〇「北史」一〇。

【拓跋鍾】[illegible]　後魏の人。昭成帝の孫。明帝の時後、符洛が盛つて長安に進しなが、窟咄は逃れて桑谷の下に伏せ入り、力戦を奮戦に殺された。「魏書」十五「北史」十五。

【拓跋陽見】[illegible]　後魏の人。陽の子。光髮。保明・建興を征す。官は散西大將軍。「魏書」十五「北史」十五。

【拓跋陵王】[illegible]　後魏の人。臣列の傳は、官は散文の時、鄭中給事、封は濮陽王。「魏書」上「北史」[illegible]。

【拓跋紇那】[illegible]　後魏の始祖。帝の第名は紇那。諱は禄官。舅の曹翼部落。帝は皇を遣して之を求めたが、部落皆ず、帝の皇を遣して之を求めたが、部落皆ず、帝の皇を遣して之を求めたが、部落皆ず、帝の

雅、釋詁二）拔、出也。（易、泰、拔茅茹。義三）拔、引也。（晉書、胡母輔之傳）甄拔人物。（韓愈、送温處士序）朝詰三拔、除也。（漢書、揚雄、解嘲）拔、墮也。（多）うつす。（易、既濟、拔其茀。）可、拔。（釋文、鄭玄云、移也。）せめおとす。城市を攻陷する。（戰國、秦策）拔、育陽。（注）拔、取也。（戰國、秦策）拔、蔡陵葉。（注）拔、獲也。（漢書、高帝紀）攻碭、下拔之。（注）師古曰、拔者、克敵而取之、言若拔樹木并得其根本也。●ぬける。（孟子、公孫丑）拔、出也。（漢書、揚雄、解嘲）拔、出也。（多）ぬける。（易、既濟、拔其茀。）拔、傾側也。（說文通訓定聲、拔、段借爲茇。）（廣雅、釋詁四）拔、輔也。●開ける。（漢書、揚雄、解嘲）拔、出也。（

明特達出、類抜類〔顔氏家訓、勉学篇〕抜、聞出類

【抜】ばつ　ほこをぬく。又、抜いたほこ。抜旗出氏賓十二、右抜戦以成二陣一、荀子、議兵篇。抜戦剣九、刀の剣を抜いて用いること。抜刀〔左に同じ〕。

【抜擢】ばつてき　刀の剣を抜いて用いること。抜刀〔左に同じ〕。

【抜撃】ばつげき　ぬき出すこと。〔楚辞、東方朝、七諫〕抜、拔、擢、選、拔、拔、拔

平原内史、表〕振旅投誠、輯遠周列。〔注〕酒曰、吾子指其光景、拔這蟠桃。

【拔進】ｖｉｎｖｔ．ｔｒｅｎｄｓｔｏｗｅｎｄｓｔｏｗｅｎｄｓｔｏｗ

已義 君子車之反拔山盔 城舍

【拔和】bat^{h} wa. 未代雜劇の演目。雜劇2.11—4212 「ら。

【拔鬼固】bat^{h} kwi kwo. 種族の名。拔野8(1142)に同

【拔里】bat^{h} ri. 種族の名。拔野8(1142)に同 梅南過ぎに吹く風は拔鬼固拔里の方に吹く。

【拔剌】bat^{h} la. 種族の名。拔野8(1142)に同 ○ 撃剌國と同じ。

【拔剌國】bat^{h} la kwo. 現在のペルシャのトムスクの地に居り、民族は唐代の突厥の末裔で大部は「撃剌國」に併合されたが、「撃剌國」の一部は拔剌國に併合されたと伝聞される。

【拔剌茅】bat^{h} la mao. 唐の貴族の一人。牟始氏の姻戚。

【拔剌鉢】bat^{h} la pa. 試驗に使用する成績を取ること。

【拔達靼】bat^{h} ta ta. 山名。新疆省大山の稜線西部の名。水名。

【拔豆錢】bat^{h} tou tsian. 二百代の�ぜに。宋代に於つて服中の人が若くて服中の人を抜き去つたやつたことが、既に上に伸び出る者を抜き去つたやつたことの意。「拔豆錢」は「拔幻錢」とも書く。(五代史 第三十四 趙在禮傳 在禮(宋朝人)之子 不樂讀書 既而復受詔反鎮 乃稱 若內人之子 拔幻錢 拔豆錢)

【拔野古】bat^{h} ya gu. 種族の名。又、地名。敕勒部の一。「に拔野固に作る。「蒙韃靼に點りました。(五代史 唐末元紀 諸王朱邪西突厥云云 拔野古 爲 鐵隗都督府)

【拔鑼鼓】bat^{h} lo gu. 鼓の一種。(冊府元龜 百戲 如舞。

【拔里革】bat^{h} li ge. 北京市通州区 拔鑼鼓 蓋 而生角 大 拔里革 bat^{h} li ge. 北京市通州区 ⑧ 29508 ←5)の

【拔刺】bat^{h} la. 種族名。(遼志)氏族略。代北二 拔角 拔角 拔剌 bat^{h} la. 角を抜き取り、鞋を抜き取る。敵の利器を奪う意。角は鞋の対の角(鞋を元和聖德碑)或抜其角(或鞋)。其鞋 抜鞋 bat^{h} ai. 鞋を抜き取る。

【拔胡將軍】bat^{h} hu tsian kyun. 漢代の將軍の名號。(史記 衛將軍驃騎傳)元封四年、以太中大夫 馮 「ら。

【拔舌地獄】bat^{h} se. 獄名。獄者を抜かれるとい地獄。(地獄 拔舌獄)[地獄 拔舌獄]獄者を抜かれるとい地獄。(地獄 拔舌獄)

【拔毛】bat^{h} mao. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔毛地獄】bat^{h} mao di yo. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔毛獄】bat^{h} mao yo. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔剌茅】bat^{h} la mao. 唐の貴族の一人。牟始氏の姻戚。

【拔剌鉢】bat^{h} la pa. 試驗に使用する成績を取ること。

【拔達靼】bat^{h} ta ta. 山名。新疆省大山の稜線西部の名。水名。

【拔豆錢】bat^{h} tou tsian. 二百代の錢。宋代に於つて服中の人が若くて服中の人を抜き去つたやつたことが、既に上に伸び出る者を抜き去つたやつたことの意。「拔豆錢」は「拔幻錢」とも書く。(五代史 唐末元紀 諸王朱邪西突厥云云 拔野古 爲 鐵隗都督府)

【拔鑼鼓】bat^{h} lo gu. 鼓の一種。(冊府元龜 百戲 如舞。

【拔里革】bat^{h} li ge. 北京市通州区 ⑧ 29508 ←5)の

【拔剌】bat^{h} la. 種族名。(遼志)氏族略。代北二 拔角 拔角 拔剌 bat^{h} la. 角を抜き取り、鞋を抜き取る。敵の利器を奪う意。角は鞋の対の角(鞋を元和聖德碑)或抜其角(或鞋)。其鞋 抜鞋 bat^{h} ai. 鞋を抜き取る。

手部 [五畫] 拔 拕 拖

【拔胡將軍】bat^{h} hu tsian kyun. 漢代の將軍の名號。(史記 衛將軍驃騎傳)元封四年、以太中大夫 馮 「ら。

【拔舌地獄】bat^{h} se. 獄者を抜かれるとい地獄。(地獄 拔舌獄)

【拔毛】bat^{h} mao. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔毛地獄】bat^{h} mao di yo. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔毛獄】bat^{h} mao yo. 獄者の毛を抜かれるとい地獄。(地獄 拔毛)

【拔剌茅】bat^{h} la mao. 唐の貴族の一人。牟始氏の姻戚。

【拔剌鉢】bat^{h} la pa. 試驗に使用する成績を取ること。

【拔達靼】bat^{h} ta ta. 山名。新疆省大山の稜線西部の名。水名。

【拔豆錢】bat^{h} tou tsian. 二百代の錢。宋代に於つて服中の人が若くて服中の人を抜き去つたやつたことが、既に上に伸び出る者を抜き去つたやつたことの意。「拔豆錢」は「拔幻錢」とも書く。(五代史 唐末元紀 諸王朱邪西突厥云云 拔野古 爲 鐵隗都督府)

【拔鑼鼓】bat^{h} lo gu. 鼓の一種。(冊府元龜 百戲 如舞。

【拔里革】bat^{h} li ge. 北京市通州区 ⑧ 29508 ←5)の

【拔剌】bat^{h} la. 種族名。(遼志)氏族略。代北二 拔角 拔角 拔剌 bat^{h} la. 角を抜き取り、鞋を抜き取る。敵の利器を奪う意。角は鞋の対の角(鞋を元和聖德碑)或抜其角(或鞋)。其鞋 抜鞋 bat^{h} ai. 鞋を抜き取る。

拖 11961

ㄊㄨㄛ 集韻 徒佐切 duo³. 麌韻 待可切 duo³. 箇韻 徒個切 duo⁴. 麌韻 待可切 duo³.

拖(8・11960)に同じ。(集韻 拖)或作拖。

拕 11960

ㄊㄨㄛ 集韻 徒佐切 duo³. 麌韻 待可切 duo³. 箇韻 徒個切 duo⁴. 麌韻 待可切 duo³.

拖(8・11960)に同じ。(集韻 拖)或作拖。

【拖】$t^{h}o$. 引いて運ばせてゆく。引っぱってゆく。

【拖帶】$t^{h}o$ tai. 引いて運ばせてゆく。引っぱってゆく。

【拖牽】$t^{h}o$ tsian. 引いて運ばせてゆく。引っぱってゆく。

【拖曳】$t^{h}o$ yi. 引いて運ばせてゆく。引っぱってゆく

拖 tuō ㄊㄨㄛ tuo5 ㄊㄨㄛ˙ 牽曳。

拖輪 tuō lún ㄊㄨㄛ ㄌㄨㄣˊ 拖船用的機輪。

拖鬼 tuō guǐ ㄊㄨㄛ ㄍㄨㄟˇ 連累。連坐。拖拉。〈六部成語〉別部：為累。牽連。無辜。〈六朝來也〉（編案之書）范任部：駁斷役動輒拖累多人。

拖沙魚 tuō shā yú ㄊㄨㄛ ㄕㄚ ㄩˊ 魚的名。比目魚的異名。俗作「鯊」。〈部委錄異〉：比目魚，南人謂之鯊魚，江浙謂之拖沙魚。

拖箱的 tuō xiāng de ㄊㄨㄛ ㄒㄧㄤ ㄉㄜ˙ 箱 tuō 在擔。

拖箱 tuō xiāng ㄊㄨㄛ ㄒㄧㄤ 可以拖曳的大箱。〈東京夢華錄〉：「獨食賣法棗：諸果子鋪，諸酒店，皆有之。」〈東京夢華錄〉：「獨食賣白蜜、紅蜜、棗、糖下於地上，數輪道馬行之。左目仰射，右目俯射，皆無錢。」

拖地鐵 tuō dì tiě ㄊㄨㄛ ㄉㄧˋ ㄊㄧㄝˇ 長槍。槍人，槍，槍名。

拖鼠 tuō shǔ ㄊㄨㄛ ㄕㄨˇ 一月三度不令鼠在此，悠然曳尾。〈唐書〉：「月三度不令鼠在此，悠然曳尾。」

拖白練 tuō bái liàn ㄊㄨㄛ ㄅㄞˊ ㄌㄧㄢˋ 鳥的名。〈本草綱目〉：「拖白練，集解：時珍曰：其狀類鷺，而毛如練帶者是也。象經云：『白鳥拖練，鷺鷥，雪鷺也。』張華云：『鷺鷥之類也。』今俗呼為拖白練。」

拖沙鳴喻善 tuō shā míng yù shàn ㄊㄨㄛ ㄕㄚ ㄇㄧㄥˊ ㄩˋ ㄕㄢˋ 清朝的機構名稱。〈清史稿〉：「兵部（官制）舊設武庫品級，順治八年定，等奇尼哈喻、擒馬、金牌都指揮使正一品，等奇尼哈喻、擒馬、金牌都指揮同知、從一品，等奇尼哈喻、擒馬、金牌都指揮僉事、正二品，等奇尼哈喻、擒馬、金牌都指揮同知、從一品，指揮使、千戶、百戶、拖沙鳴喻、外面都指揮使、千戶、百戶、兵部、官制、舊設武庫、侯、伯、子、男、公、爵、封爵、官制、舊設武庫、侯、伯、子、男、公、爵、封爵、官制、舊設武庫、侯、伯、子、男、公、爵、封爵

【拘】 11963

日ク 【集韻】馬子切 麌 4 上 ku

ウ 【集韻】居侯切 侯 1 平 kou

キョ 【正韻】況於切 魚

四ク 【集韻】莫狗切 厚 1 上 mou

四ク 【集韻】俱遇切 遇 去 kuo

コウ 【集韻】拘毛切 沃 入 kuo

獨コウ

手部 (五畫) 拘

墻而卻行之。❹とる。(喩、曲礼上)自下拘之。(注)自下拘之、由僕手下取之。❺あつめる。(集韻)拘、拘攫、聚也。❻まげる。まがる。句。句。3234)に通ず。(說文)調定聲)拘、段借爲句。(荀子、哀公)同、曲須也。国❶とめる。(正韻)拘、止也。四川の名。拘洞。(集韻)拘、拘洞、水名、東南至郡界入白奚。国の びない。(集韻)拘、拘攣、不展、因さまへもつて。(掲6、13102)

拘 小 ❶とめる。おさへる。(說文)拘、止也、从手句。句亦聲。❷とらへる。とらはれる。(廣韻)拘、執也。(易、遯)拘係之。(左氏、僖三十二)武夫力而拘。(諸原本)(後漢書、土燕傳)無拘。郡界。(注)拘、猶限也。❸かぎる。(後漢書、土燕傳)無拘。(廣雅、釋詁)拘、隔也。❹ただす。とがめる。(注)猶檢也。❺かかはる。なづむ。(荘子、秋水)其電不可以近於海者、拘於虛也。(萬書、司馬遷傳)使入拘ひきつる。(荘)師古曰、拘、曲縮也。❻つる。(荘)拘、急也。❼せまい。(後漢書、左周黨傳論)其拘儒(注)拘儒、猶褊狹。也。(荘子、逍遙遊、不龜手之藥、注)能全手不拘坼。(釋文)拘、依字宜作、鞫。❽疏。(禮、10、1320)(注)拘、或作、拘。句、聲。❾輪。(禮、10、58236)(注)通ず。(荀子、榮辱、輪錢、拘攣上)(注)拘、拘攣上、狀拘而屈。(注)以鉄鞭之弟之側。

【拘鬨】ハ。かかはりなさけける。拘鬨に同じ。(後漢書、馮魴傳)「鬼、医巫等業、勿令有所拘鬨而已。(注)鬨、鬼也。

【拘鬨】ハ。かかりさまあげる。(白居易、祭)弟文、調定聲)拘、段借爲句。(荀子、哀公)同、曲須也。国❶とめる。(正韻)拘、止也。四川の名。拘洞。(集韻)拘、拘洞、水名、東南至郡界入白奚。国の びない。(集韻)拘、拘攣、不展、因さまへもつて。(掲6、13102)

【拘攣】ハ。官吏奉責。(官和遺事、前集、天下王安石)拘攣、官吏奉責。(官和遺事、前集、天下王安石)拘攣、官吏奉責。

【拘攣】ハ。拘攣。

【拘攣】ハ。とらへる。(後漢書、馮魴傳)拘攣、拘攣、拘攣、

〔拘牽〕ぁ。●かかりあひて係累ぐ。かかはる。なつりて。〔萬葉〕元亀元年頃〔書簡〕更に拘牽手後。〔日葡〕Cafarrarc 〔名〕〔名〕〔名〕

拘 拘起 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 拘引する。拘束。
拘文 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 文字にこだはる。法律則に拘泥する。「篤実政論」倍人拘文摯法不達權
拘束 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 束ねたり束ねたり。「風賦」
拘捕 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 手足を縛いて孔も動かせる。「風賦」
拘攣 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 手足がつぐのびのはる。(注)拘攣曰、頓
鈍也。注、攣、つぐのびのはる。
拘 鎖拘 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 鎖を拘束する。「後漢書」
鎖鎖拘束 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 鎖を拘束する。「後漢書」
拘木 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 拘束する木。(荀子、性惡)其善者偽也、故拘木之理、待檃栝而後正者、鈍金之理、待砥礪而後利者、是皆性惡、其善者偽也、故拘木必待檃栝然後能直、鈍金必待砥礪然後能利、今人性惡、必待師法然後正、得師法而後知禮義、然後能治、以禮義觀之、則聖人之於禮義、猶陶人之於埴、而陶人之於埴也、猶工之於木也、猶木之待檃栝而後能者也、猶金之待砥礪而後能者也、今人之性、必待師法然後正、得師法而後知禮義、然後能治、以禮義觀之、則聖人之於禮義、猶陶人之於埴也、猶工之於木也、猶木之待檃栝而後能者也、猶金之待砥礪而後能者也、
拘 拘縛 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 拘束する。「後漢書」
拘縛 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 拘束する。「後漢書」
拘攣 ㊀ju¹ ㊁ki¹ 手足がつぐのびのはる。「風賦

34441：3165）の號。●清 王筠（7－29823－1165）

【拙菴老人】ㄓㄨㄛˋ ㄢ ㄌㄠˇ ㄖㄣˊ 明 杜堯（6－14477－ㄊㄨ）

【拙醫】ㄓㄨㄛˋ ㄧ 下手な醫師。拙劣な醫師。

【拙】ㄓㄨㄛˋ 一部所引。●唐 無名 殘鈔。杜姥者半。拙醫稚。病不如巫。不聖。

【拙】ㄓㄨㄛˋ 下手な詩歌。下手な詩歌。●

【拙】ㄓㄨㄛˋ 自作の詩歌をへりくだっ。謙稱。

【拙】ㄓㄨㄛˋ 宇號。●唐 劉知幾（6－13112－2252）の字。

【拙】ㄓㄨㄛˋ 宇號。●唐 劉知幾（6－13112－2252）の字。

【拙】ㄓㄨㄛˋ 宇號。●唐 歐陽詢

手部（五畫）拙拚拚招

ち二二〇）を見る。

【拙堂文集】 書名。喜多喜惟拙堂撰。記・書序以下、巻に至ること二十二門に分け、二百四十二篇。

【拙堂文話】 書名。十巻。喜多喜惟拙堂撰。漢・唐・宋・明・清の諸文の特徴・沿革を述し、秦漢以下、唐・宋・明・清の諸文を論じ、明・清の文を指摘して、其の法度すべき範疇を指示したもの。

拙[色]^{sut} 幼の異名。媧は巢を作ることを拙という。詩・召南・鵲巣に「維鵲有巢、維鳩居之」とあり、毛傳に「鵲有巢、鳩居之。鵲之性、至巧。鳩之性、不能爲巢、或有居鵲之巢者。（禽經）鵲、鳩、皆能爲巢、鳩、鳲也、方言云、鳲鳩、鳩也。鳩、拙而安

致也。●ふるふ。〔素問、六節藏象論〕狂薬

招尤。〔注〕招、請。掉也。●あらはす。あきらかにする。〔昭〕〔一〕2322③に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲昭。〔張衡、東京賦〕招有道於側陋。〔注〕引司馬彪曰、招、明也。

〔說文通訓定聲〕招、叚借爲紹。〔孟子、盡心下〕又從而招之。〔注〕招、酒也。●あつまる。的2322③に通ず。〔說文通訓定聲〕招、叚借爲的。〔呂覽、別類〕射、射者。欲其中矣也。〔注〕招、均藝也。〔呂覽、本生〕其射、其一招。〔注〕招、準的也。●姓。〔通志、氏族略〕以名爲氏。晉大夫。

〔說文通訓定聲〕招、叚借爲鉈。〔呂覽、任地〕其瓠、瓠也。〔注〕瓠、瓠也。●あつまる。〔文選、張衡、東京賦〕招有道於側陋。〔注〕招、請

【招怨】名 うらみをまねく。人に怨まれる原因を作る。（晏子）春秋内篇諫下「君之所以招怨也」

【招遠】名 遠国を招き寄せ、遠国の人を招き寄せる。（呂氏）春秋慎勢「招遠而不能致」

【招賢】名 ①後漢、渤海の人。山東省渤海郡の西。②金、蓋の人。今、欽くに、山東省掖県の南。③後漢、遼東の人。山東省掖県の北。臨口の南。④後漢、会稽郡の人。浙江省紹興県の南。

【招賢大會】名 前漢、淮南王劉安が淮南国に招いた人々を集めた会。（淮南子）要略「淮南王安好道而招賢大會」

【招賢館】名 ①人材を招き寄せる館。②武帝の時、長安の北に設けられた館。（漢書）武帝紀「招賢館」

【招賢士】名 ①人材を招き寄せる。②武帝の時、長安の北に設けられた館。（漢書）武帝紀「招賢士」

【招賢令】名 ①人材を招き寄せる。②武帝の時、長安の北に設けられた館。（漢書）武帝紀「招賢令」

【招賢館】名 ①人材を招き寄せる

【招魂】〈名〉chāo hún　戶を持つて扶ける。

【招魂】〈名〉chāo hún　●死者の魂を招き返す。古、人が死ぬとまもなく、復（復禮・上復・復禮・復）、復（復禮・上復・復禮・復）、人、以、前年、復、有、招、魂、事、作、自、前、東、楚、中、屋、庭、招、以、衣、日、皋、復、復、三、(注)復者

招請 書札用語解。

【招呼】 Chaigo. 客人をまねく。手をまねく。

【招召】 Jō. 人をまねく。手をまねくを招という。(禁中用語。)

【招客】 Kyaku. 客をまねく。(禁中用語。)

【招手】 Shu. 手をあげて呼ぶさま。又、聲をあげて呼ぶさま。(時に招請客を禁ず。)

【招手】 Shu. (時に招請客を禁ず。)

【招杯】 Hai. 杯をまねく。(禁中用語。)

【招請】 Shō. 客をまねく。(禁中用語。)

【招待】 Tai. 客を招き入れる。

【招待人】 Tai. 客を招き入れる。

【招待狀】 Jō. 客を招くための書狀。

【招待狀】 Jō. 客を招くための書狀。

【招待狀】 Jō. 客を招くための書狀

つて男を国家 女を妻と名づけたが、国が乗に属とする。[説文]に、[説文]に、[説文]に、

拜。●感謝する。謝意を表はす。〔呂覽、分職〕明日不拜。〔後漢書、馬援傳〕謝曰。●さづける。〔官を賜はる。〔後漢書、左雄傳〕拜。●拜・大拜。乃信也。〔後漢書、左雄傳〕拜除如流。●ひざまづく。〔北史、王琳傳〕拜。〔思・私第〕〔三王朋・續風・紀詩〕喜拜親闈合、珍藏浮洗鉢。●いたるまうでる。〔淮南、俶眞訓、雨中者、孟嘗道、聯句、秋渚淮・敵述、高居眠、蓼拜。●ぬく。抜。〔6・11939〕に通ず。〔說文通訓定聲〕拜。假借義。〔詩、召南、甘棠〕勿翦勿拜。〔集傳〕拜、屈。●古は韓。〔4・7868〕、〔後・16・12752〕に作る。●草の名。〔爾雅、釋草〕拜、燕蘭。〔注〕似蔈。●姓。〔萬姓統譜〕拜見姓苑。今有拜氏。〔聞書〕拜見氏、又は諸侯の時などに敬意を示すために或語の上に添へる。〔拜見・拜借・拜訪・拜問・拜・拜・拜

【拜饗】ハイキョウ　拜家饗(宴)の略。(皇南曲)「拜家饗」李奠、歌女(歌稿)「拜家饗」管鼎、管鼎(詩)「拜家饗」。

【拜迎】ハイゲイ　礼を尽くして迎える。(後漢書)「(袁)紹、(曹)操、(張)繡、(劉)表、(孫)堅、(劉)璋、(劉)備、(劉)璋、(劉)備、(劉)璋、(劉)備

〔拜城〕ばいじょう　駿名。清、漢代、新疆省温宿縣の東北、駅城に銅を産し、清干河が其の境を流れて

〔拜銅〕ばいどう　銅をあたへる。『史記』平準書

於是募天下民能輸粟於邊者拜爵級、爵級、爵

全、大庶民。

〔拜〕はい　人を敬し、頭を下げて手を前方に平に

に平にするいふ。(黄、太古中に)手を拝手稽首に(黄

蓋、黄金手也。(天全、(原、(ハ)蓋(原)蓋(原)金面、両

手(ノ)手、仰足(ノ)足面手手(ノ)手拝手。(『解釈』拝手

蓋、黄金手也。(天全、(原、(ハ)蓋(原)蓋(原)金面、両

手(ノ)手、仰足(ノ)足面手手(ノ)手拝手。(『解釈』同馬遷公

二九拝の一、空手、来攻志林、経記、記朝生。

〔拝受〕ばいじゅ　人より贈われた物を拝して受け

大親規も上拝受べき拝(『於其室』(論語、郷党)

(史記、呉王濞傳、漢、呉王、使、拝、受謝。

(『漢書』、賀方逢傳)卯、軍中、拝、受。

〔拝命〕はいめい　人の誕生日を祝賀する。(六部成

語、史部、拝寿(付寿、注解)、屠目若過上、宦官目、

前任可拝、既上司有、意事、前任意見、均十、例

禁一。

〔拝年〕はいねん　年頭のようこびをのべる。年賀、

(『漢書』、賀方逢傳)、うけたまはる。

相徳賀、謝之、拝年。

〔拝水〕はいすい　人の文書を清むにいふ。臨書、拝

〔拝謁〕はえつ　拝

〔拝見〕はいけん　人を敬して拝謁する。(『史記』、

張儀、文、侯、友人の文をうけたまはる。

〔拝賀〕はいが　人を敬して拝謁する。(『於其室』(論語、郷党)、賀、何、問、

(『漢書』、賀方逢傳)卯、軍中、拝、賀。

鈌不、作清軍善鈌、百蠻爲清帝鈌。●[illegible]、[illegible]、賢者を尊ぶ。

[illegible]。●物を尊ぶ。

[illegible]。●[illegible]。

[illegible]。●[illegible]。

[illegible]。●[illegible]

は君主から品物を賜はること。原義 拝戴。(唐平盧節度使)十六、三位人道長歩。親政は、左の狀を捧げて、畏まつて是れを拝領す。

拝 唐韻 ハイ ●おじぎをする。又、其の敬礼。(説文)拝、手推也。(徐鍇)拝、手推引日覆拝。(徐鍇)拝、手推也

【拡】 11985′ クワク 擴(6・12395)の略字。

【掋】 11986 ①セン 繁潸・纘熱切 ②イ 繁潩・余支切 支先

①うつる。遷(11・39123)に同じ。(繁潩)遷、設文、登也、謀作。遷、古作掋。②うつる。遷(11・38633)に同じ。(繁潩)遷、設文、遷徙也、或作掋。

造字1・[illegible] 改め移もう。(金石続例)掋字考。因薦摩不〻吉而掋移也。

【掝】 11987 ①コン 繁潰・思恩切 元 ②コン 繁潰・下懇切 阮 ③コン 繁潰・胡良切 唐

①ひく。(廣雅、釋詁)掝、引也。(廣韻)掝、急引。(玉篇)掝、挽也。●おしのける。(唐書、裴度傳)掝、奏撓、掝抑。(唐書、崔敏傳)方掝(卻之)。●或は良(9・30596)。掝(6・12230)に作る。(繁潰)掝、或作良。掝、也。(繁潰)掝、引也。

【掗】 11988 クワツ クワチ 繁潰・古活切 曷 ㄍㄨㄛˋ kuo4

六畫

①小。●くくる。④たばねる。もと插也、括換と活同義。(文)括、繫也、从手昏聲。康熙字典、括、說文、本作括、(繫)檀乃(繫)括。(荘子)、司馬云、謂向也括而今也被髮。(釋文)括、司馬云、謂括髮也。⑪むす。(呂、地)六四、括囊。(釋文)括、結也。(ろつつむ。まとめる。(埤)括、包也。(史記、魏世家)五王傳、(繫)括古今。⑫きめる。收容する。(北史、孫事傳)時人稱之、括也。(荘子)、(繫)括而無所用。(釋文)括、司馬云、謂括髮也。⑬つつむ。まとめる。(埤)括、包也。(史記、魏世家)五王傳、(繫)括古今。⑭きめる。收容する。(北史、孫事傳)時人稱之、括也。(荘子)、(繫)括而無所用。(釋文)括、司馬云、謂括髮也。⑮とどめる。(廣雅、釋詁)括、止也。(玉篇)括、束也。●括囊、(呂、地)六四、括囊、無咎無譽。(注)括、束也。

【拮鞨】[illegible]　●囊の口を括るやうに口を閉ぢて袋を出さぬこと。口を堅むむ。『易・坤』「括囊无咎无譽」。「括囊」は、囊所に括囊物。以嚢心藏知也。所其知而不用。故无咎无譽。『後漢書・楊賜傳』括囊無咎。『晉書・楊賜傳』括囊避禍。『北齊書・楊愔傳』括囊避禍。●くくりまくらの。『白蓮（黄）心歌』「括囊時節」。括囊。括囊。括囊

故古字之二（易、渙用拯馬壯吉。釋文、拯馬云、蒙也、十畫云、拔也、伏虔容云、濟也。〔正義〕拯、拯救也。）出（論語、拯也。）

之。（注）出（論語、拯也。）（孟子、梁惠王下、民可爲師。）拯、已救水火中也（注）拯、救也（注）拯、拯也。●とる。（易、民、不拯其隨。（虞注）拯、取也。）●うける。（易、明夷、（虞注）拯、獲也。）

拯救[名]救済。救援。（後漢書、馮衍傳）

拯濟[名]救済。救援。（後漢書、馮衍傳）

拯溺[名]水に溺れるのを救う。（呂覽、察微）

拯亡[名]亡国を救う。（後漢書、馮衍傳）

拯民[名]民を救う。（後漢書、馮衍傳）

拯難[名]難を救う。（後漢書、馮衍傳）

拯濟[名]救済。救援。（後漢書、馮衍傳）

拯救[名]救済。救援。（後漢書、馮衍傳）

拯拔[名]救拔

[説文]に、「北極星に向く。拱辰(14)に同じ。[説文]に、「拱、敬也。拱手、手を中に反し、北辰に向く。其の居、而衆星共に之に宗(尊)ぶ。[論語]に、「為政に曰く、政を以て徳に為れば、譬えば北辰の其の所に居て、而衆星共に之に向かうが如しと。[説文]に、「拱、手を中に反し、北辰に向く。其の居、而衆星共に之に宗

法活便、手法便利。腳法輕圓、進退得宜。隨可飛騰。❶**ken**、遊戲の一。『**拳**』『**卷**』『**捲**』『**權**』『**圈**』『**鬈**』『**蜷**』『**鬈**』『**鬈**』『**鬈

【拳法】ケンホウ 力あわせて猛々しいこと。〔顔延之、陶給事誄〕拳法尤殺、盡歐傷後。

【拳勇】ケンユウ 力のついこと。又、其の人。〔詩、小雅、巧言〕無拳無勇、職爲亂階。

〔傳〕拳、力也。〔國語、齊語〕於子之鄉有拳勇股肱之力、秀出於衆者、則上聞之。

【拳拳】ケンケン 拳勇股肱の力有り、秀出の人。〔論語、子罕〕拳拳服膺而弗失之矣。〔中庸〕拳拳服膺而弗失之矣。〔孟子、告子上

田の草をのぞきさる。梅(6－32085)に同じ。(集韻)蹲、説文、拔去田草也、或作拔。

【拷】 12006
ガウ ゴウ
万ム ㄍㄠˇ
國ガウ
(集韻)百浩切 (集韻)蹲 (説文)拔去田草也

●うつ。たたく。(玉篇)拷、打也。●かす。

(集韻)拷、拷問(10－3)に同じ。(唐律、斷獄、拷囚)拷問、(唐律、斷獄、拷囚)拷問(10－3)に同じ。(唐律、斷獄、拷囚)拷問、(唐律、斷獄、拷囚)拷問、(唐律、斷獄、拷囚)拷問、

[拽剌]ヱイラツ 逆の字名。軍制に旗数拽剌司・千戸・百戸・十戸の下に置かれる。其の部の役使に任ずる拽剌は走卒の意。(『史』、百官志)〔拽剌軍・拽剌司・走卒の項〕、(『元』、兵志)〔拽剌軍・拽剌司〕、走卒名。軍制有剌司。此則軍旗拽剌、拽剌官名。軍制有剌司。此則軍旗拽剌、拽剌官名。(『元』、兵志)〔拽剌軍・拽剌司〕、拽剌官名。(『元』、兵志)〔拽剌軍・拽剌司〕、拽剌官名。軍制有剌司。此則軍旗拽剌

拾ゥ。落ち穂拾ひ。〔列子、天瑞〕林類年且百歲、云云。拾遺捨放蛙。〔歌歌志遥、云云。子孫の時、現世の歌詞。〔先生曾不一日行歌拾穂。〔拾得ｊｕｔｓｕｔｏｋｕ。官位に著く。事は貴色の目印。〔拾芥ｊｕｔｓｕｋａｉ。官位に著く。事は貴色の目印。〔拾芥ｊｕｔｓｕｋａｉ。〔拾貴ｊｕｔｓｕｋｉｄｏ。秋の日。〔拾遺ｊｕｔｓｕｉ。尹大都京詩序〕海情深、飛桂樹、而擧月。〔拾遺、都相反行、涉書城、而擧月。〔拾遺、鄭相反行、涉書城、而擧月。〔拾遺、鄭相反行、涉書城、而擧月。〔拾遺、鄭

手部（六畫）掌 捆 擊 振 持

〔掌破茶沢〕ナポレオン。掌転。
〔掌破茶沢〕ナポレオン。西暦紀元一八〇二年、ナポレオン一世の編纂した法律。現在欧洲諸国成文法の基礎をなす。
〔掌不著〕ni, pu, zhuo。持ち上げられない。
〔掌不著〕ni, pu, zhuo。横べられない。
〔掌不動〕ni, pu, dong。持って居られない。
〔掌不了〕ni, pu, liao。取り盗まれない。持ちも
〔掌統調遣〕ni, tuo, diao, qian。牧事。
〔掌統捏稿〕ni, tuo, nie, gao。草稿做
船に同じ。
〔掌稿做船〕ni, tuo, zuo, chuan。
〔掌稿做船〕ni, tuo, zuo, chuan。くすぐ
ず事をするくすぐすずしてやんとしない。
〔掌来補西〕ni, lai, bu, xi。水々に敢る。
〔掌来補西〕ni, lai, bu, xi。これを以て
彼を補ふ。やりくりすること。

捆 小 12016 〔集韻・厚韻〕切 圓

つく。〔説文〕捆、就也、从手因聲。（段注）捆、與因義同。今則因行而捆廢矣。
〔集韻〕因、説文、就也、一曰、仍也、或作捆。

擊 小 12017 〔集韻〕博丘切 圓

ハク ヒキウチ

さく。〔集韻〕振、博雅、裂也。（淮南子、主術訓）夫人之所以異振王石而振・瓦

振 12018

術訓）夫人之所以異振王石而振・瓦弧者何也。

持 小 12019 〔集韻〕直之切 圓

チ ヂ

もつ。④にぎる。（説文）持、握也、从手寺聲。（韓・射義）持弓矢。（書・微子）持、執持。（史記・陳君傳論贊）挾、持孤立。⑤たもつ。
持物也、一曰、持手也。（論語・季氏）持、守也。（呂覽・慎大）之持難者也。（注）持、猶保也。⑥うる。身につける。所有持。（呂覽、至忠）轉以忠於君王之身而持。（国語・越語下）有持盈。（注）持、守也。（呂覽、慎大）之持難者也。（注）持、猶保也。⑦たすける（荀子、禮論）所以持平奉吉也。（注）持、扶助也。（漢書、東京賦）西朝順覆而持之。（注）綵曰、持、扶也。
⑧さささる。もちこたへる（中庸・治乱）亂持危。（後漢書、東方朔傳）曰持久積數年。（後漢書、第五倫傳）持滿（注）持、滿、不發也。もちあふ。均衡がみだれない。狀態に變化がない。（左氏、昭元）子有大事、持、其兩潤無所取、衆案謂不能相善合持。
もつ。みだれ。（後漢書、馮異傳）
①いちめる。感迫する。（史記・酷吏、寧成傳）持、走反迫。⑩さだめる（荀子、正名）猶引繩墨以持、曲直。（注）持、制也。
⑪せき。碁の手法の名。（蘭棋義例、詮釋）持、和也、所棋相圓、而皆不死不活曰持。有一兩棋皆無眼者、有三兩棋各有一刻者。一眼活者、有兩棋各無一眼、而棋持無眼者、故曰持。
⑫姓。（萬姓統譜）持、見姓苑。⑬もつ。負擔する。⑭もちもちふかん。

図説 持握 ①手にもたにする。（梅堯臣・漢祭祭女子詞）「花鞋」書・詩・鄭。
校讀・沈尚書・書・詩・鄭。
持握 ①手にもたにする。（梅堯臣・漢祭祭女子詞）「花鞋」書・詩・鄭。
校讀・沈尚書・書・詩・鄭。
持握 ①自己の意見を固執する。
持握 ②十分の程度を保つて夾はない。
持握 ③十分の程度を保つて夾はない。
持握 ④十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑤十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑥十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑦十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑧十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑨十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑩十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑪十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑫十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑬十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑭十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑮十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑯十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑰十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑱十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑲十分の程度を保つて夾はない。
持握 ⑳十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉑十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉒十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉓十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉔十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉕十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉖十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉗十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉘十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉙十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉚十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉛十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉜十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉝十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉞十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㉟十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊱十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊲十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊳十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊴十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊵十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊶十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊷十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊸十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊹十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊺十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊻十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊼十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊽十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊾十分の程度を保つて夾はない。
持握 ㊿十分の程度を保つて夾はない。
持握 (1)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (2)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (3)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (4)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (5)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (6)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (7)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (8)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (9)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (10)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (11)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (12)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (13)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (14)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (15)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (16)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (17)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (18)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (19)十分の程度を保つて夾はない。
持握 (20)十分の程度を保つて夾はない。
持握

量 長沙簡 ‖ 傳 位置 ‖ 負 業間 ‖ 來 獲 ‖ 樓 呼 ‖ 遠 更

持 [jiā] 〔持合〕[jié] ❶持ちあはせる。ともに。「持合せて、『荘子』胠篋『而不圖雲間之外』」「落ちたことは、『荘子』胠篋『而不圖雲間之外』」「『史記』『而不圖雲間之外』」「『史記』『而不圖雲間之外』」「『史記』

宋、韓平平 128－43199‥344）の字。㊇宋、蘇碩平 128－31838‥320）の字。㊈宋、顧遠 10－58927‥1－981 5）の字。㊉宋、沈惠6－17189‥176）の字。㊊宋、張昭遠4－981 2‥1283）の字。㊋宋、李昇6－14459‥1587）の字。㊌宋、姚鵬操6－13829‥1737）の字。

【持先】ｊｉ ｘｉａｎ 宋、姚鵬操6－13829‥1737）の字。

【持生】ｊｉ ｓｈｅｎｇ 生を保つ。養生する。（『荀子』養生篇）「持政」ｊｉ ｚｈｅｎｇ まつりごとをとる。（『漢書』對獄傳）

【持照】ｊｉ ｚｈａｏ 照を持つ。

【持節】ｊｉ ｊｉｅ 使節を持つ。

【持杖】ｊｉ ｚｈａｎｇ 杖を持つ。

【持杖執戈】ｊｉ ｚｈａｎｇ ｚｈｉ ｇｅ 人と相持って戦闘する。

【持論】ｊｉ ｌｕｎ 一定の意見を持つ。「持論」ｊｉ ｌｕｎ 一定の意見を持つ。

【持論者】ｊｉ ｌｕｎ ｚｈｅ 議論を持つ者。

【持平】ｊｉ ｐｉｎｇ 人と相持って後退する。

【持兵】ｊｉ ｂｉｎｇ 武器を持つ。

【持兵者】ｊｉ ｂｉｎｇ ｚｈｅ 武器を持つ者。

【持兵法】ｊｉ ｂｉｎｇ ｆａ 兵法を持つ。

【持兵法者】ｊｉ ｂｉｎｇ ｆａ ｚｈｅ 兵法を持つ者。

【持先生】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ 先生を保つ。養生する。

【持先生者】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｚｈｅ 先生を保つ者。

【持先生法】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｆａ 養生の法を持つ。

【持先生法者】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｆａ ｚｈｅ 養生の法を持つ者。

【持先生術】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｓｈｕ 養生の術を持つ。

【持先生術者】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ 養生の術を持つ者。

【持先生術者法】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ 養生の術を持つ者の法。

【持先生術者法者】ｊｉ ｘｉａｎ ｓｈｅｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 養生の術を持つ者の法を持つ者。

【持相】ｊｉ ｘｉａｎｇ 相を持つ。

【持相者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ 相を持つ者。

【持相術】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｓｈｕ 相術を持つ。

【持相術者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ 相術を持つ者。

【持相者法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ 相を持つ者の法。

【持相者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ者の法を持つ者。

【持相術者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ 相術を持つ者。

【持相術者法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ 相術を持つ者の法。

【持相術者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相術を持つ者の法を持つ者。

【持相者法術者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ 相を持つ者の法術を持つ者。

【持相者法術者法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ 相を持つ者の法術を持つ者の法。

【持相者法術者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ者の法術を持つ者の法を持つ者。

【持相者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ者の法を持つ者。

【持相法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ 相を持つ法。

【持相法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ法を持つ者。

【持相法術者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ 相を持つ法術を持つ者。

【持相法術者法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ 相を持つ法術を持つ者の法。

【持相法術者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ ｓｈｕ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ法術を持つ者の法を持つ者。

【持相法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｆａ ｚｈｅ 相を持つ法を持つ者。

【持相者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ 相を持つ者。

【持相者法】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ 相を持つ者の法。

【持相者法者】ｊｉ ｘｉａｎｇ ｚｈｅ ｆａ ｚｈｅ 相

[三先謙補王國義昌曰]弓弩と絃為る。持滿則為る。使滿、持滿、不敢不容也。〔養其神、養其氣、養其性、養其命、養其情、養其欲、養其容也。〔淮南子、精神訓〕〔高誘注〕行、智者持滿外竭。●度一度、ばい。力、技術、術、技術、術、道。〔淮南子、氾論訓〕〔高誘注〕持滿、猶、持滿者

是緯北挂象天星。❹とまる。とめる。〈廣雅・釋詁三〉挂、止也。❺掛ける。❻袈裟。〈僧苑・悼仁〉かけ。物を借りて返さず買って代をはらはなかった。〈宇津雄事・興・挂・財物〉。❼きまたげる。〈新・8・27592〉に同じ。〈集韻〉硯・礙也。亦訓定聲。挂・假借爲。硯

衙者況之辭也。

挂（一漏鬲）ケイ ケキ 一をしるして鬲を漏らす。（韓愈、南山詩）風一辭試堤柳、挂一全鬲漏。（注）張目 又、殺掛、鬲漏也。

捷 12021 ロツ（集韻）勒沒切 屑 ロチ（集韻）勒沒切 屑 つかむ。◎。（集韻）捷、拵也、拵也。

抹 12022 ①シュ（玉篇）正奴切 眞 ②シュ（玉篇）莫遇切 遇 ③ビ ビ とめる。とまる。（字彙）抹、止也。

採 12023 ①サイ サチ（集韻）初切 咍 ②サイ サチ（集韻）蓋切 泰 ①うつ。（集韻）採、擊也。②うつ。攫採、（集韻）攫採、搏也。除遠說。

拘 12024 ヂク ニク（集韻）女六切 屋 のびない。拘拘、（集韻）拘、拘拘、不伸。

拓 12025 ①チツ（集韻）陟栗切 質 ②テツ（集韻）徒結切 屑 ㊟ 小篆 ①禾をかるおと。（說文）拓、穫也、从手石聲、詩曰、穫之拓拓（詩、周頌、良耜）穫、之拓拓（傳）拓拓、穫聲也。●きす。（廣雅、釋詁）拓、刺也。●つく。拓（ⓘ－123215）に通ず。（集韻）拓、擿也、通作「拓」。（淮南子、兵略訓、五指之更殊、不）若、拓手（注）拓、擿也。●或は拓（ⓘ－123635）、𢿱（ⓘ－123259）に作る。（集韻）拓、或从禾、从窒、②なげる。擲（ⓘ－123604）に同じ。（集韻）擲、擲雅、擲也、或省。

拺 12026 シュウ シユ（字彙）市侯切 侯 とぶ。（字彙）拺、跳也。

拔 12027 セン（集韻）蘇典切 銑 換技は、ひねる。（集韻）拔、換技、手玩物。

拋 12028 コウ 指（ⓘ－123236）に同じ。（集韻）拋、投擲者。

拋 12029 クワウ 穫（ⓘ－123265）に同じ。（字彙）拋、與、穫同。

操 12030 ①タ（集韻）都果切 哿 ②ソウ（集韻）七刀切 豪 ①ゆれる。又、はがる。搖（ⓘ－123271）に同じ。（集韻）搖、搖也、一說、度、高曰、搖、或从（染、②帆をおろす。（廣韻）操、落帆。●はがす。（ⓘ－123265）に同じ。（集韻）操、量也、或从手。●囲ひろふ。

探 12031 タ 探（ⓘ－123265）に同じ。（字彙）探、同、探。

掫 12032 ①ケン（集韻）直藥切 藥 ②ホク ボク（集韻）直藥切 藥 うつ。（集韻）掫、擊也。

掏 12033 ①ツウ（集韻）所宏切 冬 ②ケン（集韻）直藥切 藥 ㊟ 篆 ①ゆるふるふ。掏（ⓘ－123239）に同じ。（集韻）掏、搖也、或从旬。●うつおと。（字彙）拘、擊聲、②うつ。或は掏（ⓘ－123239）に作る。（集韻）拘、搏雅、擊也、或从旬。

指 12034 シ（集韻）都禮切 紙 ㊟ 小篆 指也。●ゆび。（4）手のゆび。（說文）指、手指也、从手旨聲。（儀禮、大射儀）石巨指韝弦。（注）右巨指、屈而不伸。（荀子、勸學）天地、一指也、萬物、馬也（注）指、手指物論。（注）指、指、王注、言、手者、以手統足也。（史記、李幼廉傳）辭等請人、作、得李長史、聊指不。（5）或は指（ⓘ－123663）に作る。（集韻）指、所从、肉、●さす。ゆびさす。（6）しめす。（爾雅、釋言）指、示也。（廣雅、釋詁）指、斥也。（戰、王論）凡有、指、書於書曰、用、物、（禮記、表記）、指、書、指、書、用、物、（荀子、王霸）明一指、（注）指、指聽也。（7）こころざし。（呂覽、行論）布衣行、此指、防國中。（注）指、志也。（8）約指明。（注）師古曰、指、謂、義之所、趣、若、人、以手指、物也。●うまい。旨（ⓘ－1338）に通ず。（荀子、大略、詩曰、物其指矣。（注）指、與、旨同、旨、美也。●腕（4）人指。口。（9）たよる。あてにする。

指蓋 ムキ。むね。こころ。趣意、主旨、意。（管子、宙合）此所、指蓋、功之謂也。（史記、孟子、荀卿）此所、指蓋、功之謂也。（史記、孟子、荀卿傳）因發明所、指蓋、（漢書、敍文）、其指蓋、孫而集之。（王逸、四子講德論）文侯、其指蓋、

指引 ①ゴ。導。をしへる。（長生殿、議策）多、賴老官指引。●指のあと。指紋。（齊損益論、明皇時有、獄、往往、者、有、足引、口、踏在、手、傳印、指、其所之。（史記、孔子世家）以其狀、露待失、指、陳攻、（後漢書、蔡邕傳）拔、（注）指、指、（禮記、曲禮上）之、不、指、陳攻、（史記、大宛傳）、者指使、（注）むかふ。（史記、天官書）直斗、柄所、指、以建、時節、（3）まつすぐ立つ。ひたのぼる。（呂覽、必己）己殺聲、指、（注）指、直。（廣雅、釋詁）、指、語也。●かく。（淮南子、俶務訓）、捷書明指以示之。（注）指、書也。●ゆく。おもむく。踏する。（淮南子、原道訓）、禮、金指、溪。（注）指、所、之也。指溪、猶、言、行止也。●むね。指意（ⓘ－123532）に通ず。（說文、通訓定聲）指、假借、爲、意。（管子、修身）、承、從天之指。（注）指、意也。（4）おもむき。（孟子、盡心、下）、孟子、而、指、意者、曾、言也。（荀子、王霸）明一指、（注）指、指聽也。（5）こころざし。（呂覽、行論）布衣行、此指防國中。（注）指、志也。（6）約指明。（注）師古曰、指、謂、義之所、趣、若、人、以手指、物也。●うまい。旨（ⓘ－1338）に通ず。（荀子、大略、詩曰、物其指矣。（注）指、與、旨同、旨、美也。●腕（4）人指。口。（9）たよる。あてにする。

指薪 ムキ。むね。こころ。趣意、主旨、意。（管子、宙合）此所、指蓋、功之謂也。（史記、孟子、荀卿）此所、指蓋、功之謂也。（史記、孟子、荀卿傳）因發明所、指蓋、（漢書、敍文）、其指蓋、孫而集之。（王逸、四子講德論）文侯、其指蓋、

指引 ①ゴ。導。をしへる。（長生殿、議策）多、賴老官指引。●指のあと。指紋。（齊損益論、明皇時有、獄、往往、者、有、足引、口、踏在、手、傳印、指、其所之。（史記、孔子世家）以其狀、露待失、指、陳攻、（後漢書、蔡邕傳）拔、（注）指、指、（禮記、曲禮上）之、不、指、陳攻、（史記、大宛傳）、者指使、（注）むかふ。（史記、天官書）直斗、柄所、指、以建、時節、（3）まつすぐ立つ。ひたのぼる。（呂覽、必己）己殺聲、指、（注）指、直。（廣雅、釋詁）、指、語也。●かく。（淮南子、俶務訓）、捷書明指以示之。（注）指、書也。●ゆく。おもむく。踏する。（淮南子、原道訓）、禮、金指、溪。（注）指、所、之也。指溪、猶、言、行止也。●むね。指意（ⓘ－123532）に通ず。（說文、通訓定聲）指、假借、爲、意。（管子、修身）、承、從天之指。（注）指、意也。（4）おもむき。（孟子、盡心、下）、孟子、而、指、意者、曾、言也。（荀子、王霸）明一指、（注）指、指聽也。（5）こころざし。（呂覽、行論）布衣行、此指防國中。（注）指、志也。（6）約指明。（注）師古曰、指、謂、義之所、趣、若、人、以手指、物也。●うまい。旨（ⓘ－1338）に通ず。（荀子、大略、詩曰、物其指矣。（注）指、與、旨同、旨、美也。●腕（4）人指。口。（9）たよる。あてにする。

手部（六畫）指

于花士」習于仙蓋語 ●典、常義花開、上有指印紅迹、爲名詩 ●指紐 ●指

水用者指月喻。

〔指筆〕ゆび ふで ●故謂筆的筆，針を押すために、指には用いる。

〔指掌挙〕ゆび ゆび ●故謂的嘴。

〔指掌〕ゆび ゆび ●故謂的嘴。

〔指揮〕ゆび ふる ●指揮。●指揮。●指揮。

於指何。

指証 ㊀ しるしこと。指證。（編集全書 澄任部 書文代、錄見四六）動用 貴有 指証者云云。

指証 ㊀ 〔書名〕書、錄錄部、書項、倉敢陪弊指斗稱米記、兼相國世家、錄紙指示、數、（後漢書、荀彧傳、貴、指証、之謂、注、指、指、指

之以南、禄一抉南林色海際、寿年西至其國、云東壽其在同方故事、漢求數亂、其壽一絶、馬先生紹而作焉、云不知何人、遭遇周先生之遭遇也、宋書禮志五指南車、云云、其始周公所、作、以巡一指南、車經回轉、所指不移、宋史、車輿志、四面畫花鳥蓮葉、中置一指南魚、魚腹中、有如人車狀、轉則手常指南、云云、宋史、五行志、指南車、燕燕、始造指南車、魏太祖、常與、張衡、較、於洛陽之西、出起大殿、軍士、不知所、向、帝使作、指南車、居成三殿、故殿名、重謂、宋歐、使思天、遣周公、輔、斬車、以指南、其後法、亡、漢定、指南車、魏、鈞、繼作、之、晉、指南車、指南車、指南車

高島俊第忘希指。
【恤】指 [illegible] 折り数へる。●信指。〔季南 [illegible] 太尉衛公會昌二品胡集序〕 [illegible] 足以鎮恤指
【染】指 [illegible] 染指。指染。指に書く。
〔左氏、宣四〕子公嘗染指于鼎。染指嘗。
〔漢書、高帝紀下〕[illegible]
〔漢書、高帝紀下〕七年冬十月、上自晉陽還、[illegible]
【指】指 [illegible] 棄某が指を [illegible]
【指麾】指 [illegible] 指麾。
【指麾星】指 [illegible] 星の名。引擎ともいひ、北斗七星の第六星。[illegible] 北斗を [illegible] 指麾星
【指麾】指 [illegible] 指麾。
【指麾】指 [illegible] 指麾。
【指麾】指 [illegible] 指麾。

【挈星】??　井戸のはねつるべ。はねぎ。（漢書郊祀志上）道權火（注）張晏曰、權火、修火也。狀若井挈星也。（後漢、甘泉賦、燎薌天皇搖泰壹、（注）晉曰、如淳曰、鼎挈也、横発挈星、（注）師古曰、如淳曰、鼎挈也、横発挈星、（注）師古曰、挈、音苦結反。挈、其本作「鼎」。

【挈起】??　手で持ちあげる。

【挈起】??　車に刺のようなものを、ぶつけて、ぶつけるために使うものか。

【挈芒氏】??　周官の名。夏官の屬、軍旅に井戸・壁舍・兵器を知らせ、夜、時を知らせる。（周礼）挈壺氏（挈壺氏）掌挈壺以共井・鼎・炊爨之事。（注）鄭司農云、挈壺氏、掌刻漏之器、以共水火之用。（疏）鄭司農云、挈壺氏、掌刻漏之器、以共水火之用。（注）鄭玄曰、挈壺氏、掌刻漏之器、以共水火之用。（疏）鄭玄曰

按、次第也。❶乃ち然るのち。登語の助辭。

【戴國、義按攻、魏(苟子、富國)】我國按起而制之。(注)或曰、按、然後也。●案按作按。(史記)鳳凰傳、案原書、考也。通曰、案祇、亦謂按摩而死。弄身體使調守。(日)云云に依り、云云通り、云云に準じ。(日)云云に從ひ、云云に憑り、云云に準じ

望あり。生堅三南等の二十四洞、皆貴族を遣らんことこれを願ふ。(新元史、一百三十二)。

【按伯】 ㊀ 按伯 ㊁ 按伯 ㊂ 按伯 ㊃ 按伯 ㊄ 按伯 ㊅ 按伯 ㊆ 按伯 ㊇ 按伯 ㊈ 按伯 ㊉ 按伯 ㊊ 按伯 ㊋ 按伯 ㊌ 按伯 ㊍ 按伯 ㊎ 按伯 ㊏ 按伯 ㊐ 按伯 ㊑ 按伯 ㊒ 按伯 ㊓ 按伯 ㊔ 按伯 ㊕ 按伯 ㊖ 按伯 ㊗ 按伯 ㊘ 按伯 ㊙ 按伯 ㊚ 按伯 ㊛ 按伯 ㊜ 按伯 ㊝ 按伯 ㊞ 按伯 ㊟ 按伯 ㊠ 按伯 ㊡ 按伯 ㊢ 按伯 ㊣ 按伯 ㊤ 按伯 ㊥ 按伯 ㊦ 按伯 ㊧ 按伯 ㊨ 按伯 ㊩ 按伯 ㊪ 按伯 ㊫ 按伯 ㊬ 按伯 ㊭ 按伯 ㊮ 按伯 ㊯ 按伯 ㊰ 按伯 ㊱ 按伯 ㊲ 按伯 ㊳ 按伯 ㊴ 按伯 ㊵ 按伯 ㊶ 按伯 ㊷ 按伯 ㊸ 按伯 ㊹ 按伯 ㊺ 按伯 ㊻ 按伯 ㊼ 按伯 ㊽ 按伯 ㊾ 按伯 ㊿ 按伯 (1) 按伯 (2) 按伯 (3) 按伯 (4) 按伯 (5) 按伯 (6) 按伯 (7) 按伯 (8) 按伯 (9) 按伯 (10) 按伯 (11) 按伯 (12) 按伯 (13) 按伯 (14) 按伯 (15) 按伯 (16) 按伯 (17) 按伯 (18) 按伯 (19) 按伯 (20) 按伯

【拌】12041　ロウ　弄（ム・1922）の俗字。（正字通）拌、俗弄字。賭けたなり。案拌をはけむ。

【捲】12042　ヨク　（集韻）古玉切　屋
ヨク　（集韻）魚鬼切　語
㊀やぶりすてる。（集韻）捲、毀撤也。㊁かける。（集韻）捲、懸也。

【拷】12043　キン　（集韻）丘禁切　寝
物をもつ。（集韻）拷、持物。

【拆】12044　タク　字通）拆（同字之誤）。●考（正字通）拆（同字之誤）。●考（廣韻）佐鼓切）拆、見、直若。

【抵】12045
ヨン　（集韻）之苅切　震
キン　（集韻）居駿切　問
ヨン　（集韻）居苅切　問
㊀●たす。支給する。（十注）抵、與抵通、大手臣聲。（説文）抵、抵、給也。（段注）給者相足也。●たばねる。約束する。（説文）抵、一曰、約也。●ぬぐう。きこなる。ふく。（留雅、釋詁）抵、清也。（和名抄、義疏）二義總云、抵用巾、拭也。（和名抄、義疏）抵、清也、古文抵皆作振、曲禮云、振書端、書者、有誅、鄭注、振、去、塵也、去、塵即潔清之意。（集韻）抵、一曰、抗也。（禮、喪大記）抵用浴衣（注）抵、拭也。●かわかす。水氣を拭しひとる。（儀禮、士喪禮）抵用巾、（注）抵、晞也、清也。㊁㊂ぬぐふ、擦（6－12658）に同じ。（集韻）擦、（説文、拭也）或作、拒。

【掘】12046
ヨン　（玉篇）巨之切　支
ヨン　（集韻）而宮切　先
ヨン　（集韻）倉世切　支
㊀ひく。（玉篇）掘、擊也。㊁ささえる。（集韻）掘、博雅、柱也。㊂ひたす。擂（6－1286）に同じ。（集韻）擂、揖也、或作掘。㊃も（6－12686）に同じ。（正字通）掘、掘字之誤。

【掩】12047
カク　（集韻）各鎮切　霰
カク　（集韻）居各切　鐵
カク　（集韻）各切　鐵
㊀●うつ。（説文）掩、擊也、从手奄聲。（段注）凡今用掩字、皆作之。●たたかふ。（集韻）掩、鬬也。●とめる。（廣韻）掩、止也。●ただす。（廣韻）掩、正也。●あげる。（玉篇）掩、舉也。●かたい。土に水多くなる。（説文）掩、（段注）掩、堅鞏也。（管子、地員）掩而不、（注）掩、堅鞏也。●虎は敏（6－13172）に作る。（集韻）掩、或作敏。㊁うつ。或は撲（6－12619）に作る。（集韻）掩、擊也、或从樂。㊂ひる。根掘。（集韻）掩、根掘、牽引也。●ゆきころす。掩殺。（漢紀、孝武紀六）王人公掩殺死。

【拳】12048　シ　（集韻）千吉切　支
ひく。（集韻）拳、掣也。

【掬】12049　キク　（集韻）古鬼切　職
●だく。かかへる。拳（6－1（本注文））に同じ。（正字通）拳、本作、掬。（説文）拳、擢也、从手琴聲。（廣韻）拳、搦持。●琢（4－8727）に同じ。（集韻）琢、説文、鞍也、或从手。●書法の一種。指の爪及び細針を用ひて紙上に人物・花木・山水を畫く法。（香祖筆記、上）紙上機巧、有玉秋山畫、香祖筆畫、凡人物樓臺山水花木、皆于紙上用指甲及細鍼、琢出、設色適淡、有境逢深、一法古名畫、按、琢當作琢、音琢、琢書、以手琢物也。

【拷】12050
ケウ　（集韻）居牧切　篠
ケウ　（集韻）居竹切　覺
ケウ　（集韻）吉竹切　覺
㊀はかる。くらべる。（廣雅、釋詁三）投度也、（正字通）拷、比也、比也。●むくいる。（集韻）拷、報也。●校（6－14713）に通ず。（正字通）拷、語犯而不、校、今文从木、明遊、御讀、校、省作、拷、郭記先謂、校財（ざい）不當用、比拷之拷、（禮、學記、中年考校、校勘記）毛本、校、作、拷、按毛本作、拷、避所諱、全書皆然。（注）拷、鞭也、亂也。●いきどほる。（集韻）拷、一曰、憤意。

【拷】12051
ヨウ　（集韻）亞胡切　麻
ヨウ　（集韻）羅侯切　尤
㊀●もつ。（集韻）拷、持也。（儀禮、鄉飲酒禮）拷、越內、弦。（注）拷、持也。●きる。あくる。（列子）1595（6）過ず、（易、繫辭下）拷木爲舟。（九家注）拷、除也。（釋文）拷、本又作、刳。（刳かがりる。拷（6－12658）に同じ。（集韻）拷、說文、擊也、一曰、搖、衣升堂、或作、拷。

【掬】12052
ヨウ　（集韻）杜孔切　董
ヨウ　（集韻）從孝切　豪
ヨウ　（集韻）從孝切　豪
㊀●おす。ひく。ひきよせる。（段注）謂、推、推引也、从手同聲。（段注）謂、推、推引也、从手同聲。（淮南子、俶眞）掬、抜茅茷者也之風俗（注）掬、猶、上下也、以求利便也。●ひかる。うごかす。うごく。（玉篇）掬、動也。●なげおとす。（新方言、釋言）掬、投也。㊁上擲下曰掬。●名。掬馬（説文）掬、漢有掬馬官、作馬酒。（拘杞子）。ふりうごかしてとるべき。掬馬

を見る。

【捫】[ボン] 官名。漢の太僕の屬に中太僕の官があり、皇太后の車駕を掌る。武帝の太初元年に初置する。捫馬の乳馬を取って之を捫治する掌る。〔漢書、百官公卿表上〕中太僕、掌皇太后輿馬。〔師古注〕捫、音乎。

【捍】12053 ソク（集韻）相蓋切　去

わざをかりいれる。（集韻）捍、收草熟禾。

〔字彙〕捍6－12143 は別字。（字彙、捍獸、一字相獸）捍、音是。收草熟禾。捍、音平。捍、音

師古曰。拏、相連引也。（義女居反。●みだれ

●うつ。蚊16－13338）に通ず。〔設文通訓定聲〕挑、假借爲蚊。（設文）挑、一曰、擾也。（徒雷子、六篇）

●ちらす。（廣雅、釋詁二）挑、亂也。（玉篇）挑、亂也。（廣雅、釋詁三）挑、穿也。（一切經音義、三）挑、絶也。●ものうくする。（玉篇）挑、疲也。（廣雅、釋詁三）挑、疲

●往来のさま。身のかるいさま。〔集韻〕挑、挑達相見兒、一曰往來兒。〔詩・鄘風、蝃蝀〕注解、挑達往來相見貌。〔毛詩後箋〕觀之義、云、故知、挑達爲往來貌、可、識、傳本無、相見、二字、轉文、挑達、往來兒、無、相形字、此必誤、本作往加、見字耳。〔集傳〕挑、輕薄跳踉之貌。●挑、挑達、輕薄跳踉之貌。●挑、挑達、輕薄跳踉之貌。〔集韻〕挑、或从彳、从辶、〔類篇〕挑、或从彳、从辶、〔字彙〕挑、同上。

●ふるふ。〔増補字源〕挑、振也。●ふるふ。ぶりまはす。〔韻會〕挑、振也。●ふるふ。ぶりまはす。〔韻會〕挑、振也。●ふるふ。ぶりまはす。〔韻會〕挑、振也。

●ゆる。〔集韻〕挑、或作佻、〔玉篇〕挑、輕

（6－12344・1165）の別字。

【挑燈劇】名 戯曲の名。明・來紫之撰。小青の事を演ずる。小青●ヶ（7473－7251）を見よ（『讀亭入聞記』）。冷面病翼不可醫、挑燈閒看牡丹亭。

【挑撥】動 ①そそのかしてけしかける。人の心を煽動させる。（『後漢書』）馬援傳）以發心。

【挑賣】動 ①買いとる。（『後漢書』）馬援傳）以發心。

【挑買】動 ①買いとる。（『後漢書』）馬援傳）以發心。

【挑戰】動 ①（『後漢書』）馬援傳）任百口八旗貴戚、敢有違逆。

【挑鬢】動 ①いどみあう。

【挑鬢】動 ①（『後漢書』）馬援傳）荷をかつぐ。

【挑鬢】動 ①荷をかつぐ。

【挑鬢】動 ①（『後漢書』）馬援傳）荷を擔

【掰】12068 ヨク 抑(9―12683)に同じ。〔篇海〕掰、同抑。

【拍】12069 コツ コチ 〔篇海〕呼骨切 月 たかいさま。〔篇海〕拍、高貌。

【挖】12070 アツ アチ 〔字彙補〕烏切 屋 ●あばく。うがつ。〔字彙補〕挖、挑挖也。 ㊁深い。空しい。

〔解説〕此の字は挖(9―12453)に通ずる。挖は點鎖なる字入。點鎖、知字義同。當、挖、挖字義同。

【挖行】wā, hāng, 抱子の袖先の折り畳んだもの。

【挖窖】wā, chiao, 穴に埋めた財を掘り取る。

【挖苦】wā, kū, 人を困苦する。挖鬼に同じ。

【挖掘】wā, chüeh, 掘る。

【挖窟】wā, k'u, ●穴を掘る。

【挖窟窿】wā, k'u, lung, 穴を掘る。

【挖礦】wā, k'uang, 礦山を発掘する。

【挖刻】wā, k'o, あばきたかす。

【挖剜】wā, wan, 「抉」。●あくる。刳り出す。

【挖井】wā, ching, 井戸を掘る。

【挖塚】wā, chung, 墓地を発掘する。

【挖洞】wā, tung, 穴を穿る。

【挖煤】wā, mei, 石炭を採掘する。

【挖費】wā, fei, 地位を得るために賄賂などを費すこと。

【挖補】wā, pu, ●ぐりぬいて修繕する。繼ぎ張りする。●切り張りする。

【挖眼睛】wā, yen, ching, 銀を抉り出す。殺人等の方法を用ひて人に取り入る。

【挖進業場】wā, hsin, chie, ch'ang, 場を穿ほり壁を築く。

【挖眼剖心】wā, yen, p'ou, hsin, 目をほじくり胸をさく。

【挖空心思】wā, k'ung, hsin, ssu, あと考へぬく。

【挖心兒的】wā, hsin, erh, ti, 眞中のくぼんだ。

【挖肉補創】wā, jou, pu, ch'uang, 肉をえぐって傷を補ふ。貧者が負債をして一時凌れをする喩。

【拒】12071 ン 指(9―12034)の古字。〔九經字樣〕拒、古文指字。

【拐】12072 セン 〔篇海〕拐先もつ。〔篇海〕拐、持也。

【拐】12073 ケツ 挟(9―12623)に同じ。〔篇海〕拐、同挟。

【扛】12074 コウ 〔篇海〕音紅 ●がとぶ。〔篇海〕扛、蟲飛。

【拝】12075 ウウ ガウ 〔篇海〕下江切 江 帆を張らない。〔篇海〕拝、篷帆也。

【拝】12076 ツツ ソチ 〔龍龕手鑑〕所淺切 月 とる。〔龍龕手鑑〕拝、拝也。

【挨】12082 ㊀アイ 〔集韻〕烏代切 隊 ㊁アイ 〔集韻〕烏奇切 陽 ㊂アイ 〔集韻〕烏持切 佳

七畫 捲

【捲】12077 チイ チヤウ 〔字彙補〕他定切 徑 うける。〔字彙補〕捲、承也。

【捲】12078 ロウ ロウ 〔字彙補〕落好切 皓 拷掠襲は地名。〔字彙補〕捲、拷掠襲、鬱縣地名。出河防一覽。

【色】12079 キン 〔正韻〕巨忍切 軫 身の承けるところを籠む。〔正韻〕色、謹身所承也。

【拉】12080 シウ 搐(9―12453)に同じ。〔篇海類編〕拉、同搐。

【拉】12081 ㊀國 むしる。むしりとる。つかんでちぎりはなす。毟る。

【拳】12082 キヨ 拳(9―12682)の略字。

小 ㊀ケン ㊁ケン ●うつ。背をうつ。〔說文〕挨、擊也。〔廣韻〕挨、打也。●おす。おし進める。●接、擊也。〔字彙〕挨、強進曰挨。〔列子、黃帝〕攘臂而挨抗。〔釋文〕挨、推也。●おしのける。〔六書故〕挨、旁排也。●せまる。相近。謂之挨。又、うつ。撥(9―12418)に同じ。〔集韻〕撥、推也、擊也、或作挨。

挨 ●(イ)傍に(ロ)密接する。(ハ)逐ふ。(ニ)うつる。被る。(ホ)毒に。(以上、上平)。(ヘ)云々に在る。(以上、下平)。

【挨挨擦擦】ai, ai, ch'a, ch'a 群衆が混雜する形容。

【挨越】ai, yüeh 自分だけ出過ぎること。〔燕子箋〕

【挨駁】ai, po 駁斥、不許、抵抗。

【挨延】ai, yen ぐづぐづする。延期する。

【挨緣】ai, yüan 緣ある。縁緣に迫る。

【挨號】ai, hao 順々の番號。〔國書會要〕郵馬(馬)係、有、緊要大差官員、挨號輪流、派出應付。

【挨氣】ai, ch'i 自ら進問を求めること。滿洲專用語。

【挨及】ai, chi 埃及。「ヒクプト」の音譯。

【挨肩】ai, chien 協力する。「肩」は「雇」の略。

【挨肩擦肩】ai, chien, ts'a, chien 群衆が混雜する形容。

【挨戶】ai, hu 戶毎に。戶戶。〔燕子箋〕

【挨戶裡】ai, hu, li 戶毎に。〔燕子箋〕

【挨戶裡挨戶】ai, hu, li, ai, hu 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li, ai, hu, li 戶毎に。

【挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡挨戶裡】ai, hu, li,

部 遠張甲部 挾 ①猶本傳之後。
【挾持】ji̍a chí 動 ①動詞。卿に在るものを推除して進み出る。夏侯惇推し合つて前に出る。
〔後漢書、馬援傳〕 [建武]十五年、[馬援]乃[上]疏陳[時]事、[帝]大[悅]、[援]因[上]疏[挾持]、[帝]召[援]入[宴]、[援]因[上]疏[挾持]、[帝]召[援]入[宴]、[援]因[上]疏[挾持]、[帝]召[援]入[宴

挫 12087

日サ
ちXZ
(集韻)徂加切 麻
(集韻)臧禾切 歌
(集韻)組戟切 圖
字典に挫字之誤。

挫 小 **挫** 小 **挫** 小 **

うごく。うごかす。捉挂。〔集韻〕挂、捉、捉捣也。

【挂】 12089　ホツ　ポチ　〔集韻〕薄沒切　圓

ぬく。〔集韻〕拔、拔也。

〔挂拔〕ぬく。〔進學解〕實其調、拔其根、蔓其蒂其本。

【捉】 12090　カウ　キャウ　〔集韻〕古考切　𢹂

●みだす。みだれる。もと捉字。→12325に作る。〔集韻〕捉、攪也。或作捉。〔正韻〕捉、撓也。●あらまし。捉槩（二）を見よ。捉（6－14926）に通ず。〔正字通〕捉、與、捉音同。義別、俗混為一。非。　大略。〔廣韻〕捉、捉槩、大略。

【捣】 12091　ヨウ　ヨウ　〔集韻〕也計切　𢹂

なみだをぬぐふ。或は捣（13－6521）に作る。〔集韻〕捣、去。涕也。或从鼻。〔日〕ぬぐふ。〔集韻〕捣、物拭也。

【摯】 12092　ヂ　ヂ　〔集韻〕旨質切　𢹂　〔字彙〕質韻　𢹂　フタ　フタ

〔字彙〕摯、捕物也。

〔日〕さす。さしとる。〔集韻〕摯、分開也。●開く。わる。〔字彙〕摯、分開也。●胼のためにする。〔集韻〕摯、分ける。〔字彙〕摯、胼也。〔廣韻〕捧摯、ひまがる。〔字彙〕摯、ひまがる。〔字彙〕摯、ひまがる。〔字彙〕摯、ひまがる。

【振】 12093　シン　シン　〔集韻〕之刃切　𢹂　ヒン　ヒン　〔集韻〕之忍切　𢹂

〔日〕シン　〔集韻〕之刃切　𢹂　ヒン　ヒン

〔日〕すくう。にぎはす。〔說文〕振、舉救之也。从手辰聲。〔易、繫辭下〕振民育德。〔禮、月令〕振乏絕。〔注〕振、猶救也。〔國語、魯語上〕陷而不振。〔注〕振、救也。〔漢書、劉德傳〕則以振貸貧民。〔注〕振、救也。●ふるふ。ふるえる。ふるはす。〔孟子、萬章下〕振振有德。〔注〕振、動也。〔荀子、王制〕明振、奮未。〔注〕振、舉也。〔易、繫辭下〕振、起也。●ふるひたつ。〔說文〕振、奮迅也。〔詩、周頌、載芟〕振古如茲。〔箋〕振、亦古也。●より。から。〔詩、周頌、載芟〕振、古如茲。〔傳〕振、自也。●ふるい。〔詩、周頌、載芟〕振、去草無穢。〔釋文〕振、止也。●胼る。むれとぶさま。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔集傳〕振、羣飛貌。●震。（12－4230）に通ず。〔易、恒〕振恒。●鼎。（10－3675）に通ず。●賑（10－3675）に通ず。〔周禮、倉人〕以待凶荒。〔注〕振、猶給也。●さく。〔廣韻〕振、裂也。●とりのべる。→摯（6－5242）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為。〔史記、五帝本紀〕乃作振旅。〔注〕振、整也。〔史記、五帝紀〕振、整也。●ただす。正（6－12325）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為正。〔管子、小問〕以振其淫。〔注〕振、正也。〔禮記、樂記〕振、樂者者之餘財。●をさめる。收納する。→笔（6－12372）、鈴（10－3624）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為笔、鈴。〔周禮、天官、職幣〕振、掌幣者之餘財。〔注〕振、猶損也。●禮、中庸〕振振、河海而不洩。〔注〕振、猶收也。●ゆって。はら。→賑（8－2718）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為賑。〔左氏、昭、十八〕振、除水災。〔注〕振、棄也。●遠ずる。疏隔する。〔史記、司馬相如傳〕振鷺遠谷。〔注〕振、猶曰、敷蓬曰振、猶瀾也。●よるひたつ。〔說文通訓定聲〕振、迅（11－3872）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為奮。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔注〕振者、奮迅也。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。●ふるい。いにしへ。→賑（8－5268）に通ず。〔孟子、萬章下〕振、古也。〔義疏〕振者、舊近、廣、久也。〔詩、周頌、載芟〕振古如茲。〔箋〕振、亦古也。●より。から。〔詩、周頌、載芟〕振、古如茲。〔傳〕振、自也。●ふるひ。〔詩、周頌、載芟〕振、去草無穢。〔釋文〕振、止也。●ふるひたつ。〔說文〕振、奮迅也。●胼る。〔易、繫辭下〕振民育德。〔集傳〕振、猶「恒」振恒。●震。（12－4230）に通ず。〔易、恒〕振恒。●鼎。（10－3675）に通ず。●賑（10－3675）に通ず。〔周禮、倉人〕以待凶荒。〔注〕振、猶給也。●さく。〔廣韻〕振、裂也。●とりのべる。→摯（6－5242）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為摯。〔史記、五帝紀〕乃作振旅。〔注〕振、整也。〔史記、五帝本紀〕振、整也。●ただす。正（6－12325）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為正。〔管子、小問〕以振其淫。〔注〕振、正也。〔禮記、樂記〕振、樂者者之餘財。●をさめる。收納する。→笔（6－12372）、鈴（10－3624）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為笔、鈴。〔周禮、天官、職幣〕振、掌幣者之餘財。〔注〕振、猶損也。●禮、中庸〕振振、河海而不洩。〔注〕振、猶收也。●ゆって。はら。→賑（8－2718）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為賑。〔左氏、昭、十八〕振、除水災。〔注〕振、棄也。●遠ずる。疏隔する。〔史記、司馬相如傳〕振鷺遠谷。〔注〕振、猶曰、敷蓬曰振、猶瀾也。●よるひたつ。〔說文通訓定聲〕振、迅（11－3872）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為奮。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔注〕振者、奮迅也。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。●ふるい。いにしへ。→賑（8－5268）に通ず。〔孟子、萬章下〕振、古也。〔義疏〕振者、舊近、廣、久也。〔詩、周頌、載芟〕振古如茲。〔箋〕振、亦古也。●より。から。〔詩、周頌、載芟〕振、古如茲。〔傳〕振、自也。●ふるひ。〔詩、周頌、載芟〕振、去草無穢。〔釋文〕振、止也。●ふるえる。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔集傳〕振、羣飛貌。●震。（12－4230）に通ず。〔易、恒〕振恒。●鼎。（10－3675）に通ず。●賑（10－3675）に通ず。〔周禮、倉人〕以待凶荒。〔注〕振、猶給也。●さく。〔廣韻〕振、裂也。●とりのべる。→摯（6－5242）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為摯。〔史記、五帝紀〕乃作振旅。〔注〕振、整也。〔史記、五帝本紀〕振、整也。●ただす。正（6－12325）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為正。〔管子、小問〕以振其淫。〔注〕振、正也。〔禮記、樂記〕振、樂者者之餘財。●をさめる。收納する。→笔（6－12372）、鈴（10－3624）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為笔、鈴。〔周禮、天官、職幣〕振、掌幣者之餘財。〔注〕振、猶損也。●禮、中庸〕振振、河海而不洩。〔注〕振、猶收也。●ゆって。はら。→賑（8－2718）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為賑。〔左氏、昭、十八〕振、除水災。〔注〕振、棄也。●遠ずる。疏隔する。〔史記、司馬相如傳〕振鷺遠谷。〔注〕振、猶曰、敷蓬曰振、猶瀾也。●よるひたつ。〔說文通訓定聲〕振、迅（11－3872）に通ず。〔說文通訓定聲〕振、假借為奮。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。〔注〕振者、奮迅也。〔詩、周頌、振鷺〕振鷺于飛。●ふるい。いにしへ。→賑（8－5268）に通ず。〔孟子、萬章下〕振、古也。〔義疏〕振者、舊近、廣、久也。〔詩、周頌、載芟〕振古如茲。〔箋〕振、亦古也。●より。から。〔詩、周頌、載芟〕振、古如茲。〔傳〕振、自也。●ふるひ。〔詩、周頌、載芟〕振、去草無穢。〔釋文〕振、止也。●ふるひたつ。〔說文〕振、奮迅也。●胼る。〔易、繫辭下〕振民育德。〔集傳〕振、猶「恒」振恒

【振旋】ｼﾝｾﾝ 金、韓傳12-4258-1670の字。

【振鼓】ｼﾝｺ 清、注子四6-17254-2256の字。

【振衣】ｼﾝｲ ①衣を振ってほこりがはらえる。〔楚辭、漁父〕新浴者必振衣。〔注〕裾を揮也。〔史記、屈原賈生列傳〕寧赴湘流、葬江魚腹之中、又安能以皓皓之白、而蒙世俗之塵埃乎。〔注〕周曰、振衣、謂足欲去塵埃。〔後漢書、西羌傳〕振衣高視、〔注〕猶言、振衣、〔注〕猶言、整衣冠。

【振鐸】ｼﾝﾀｸ 清、注子四6-17254-2256の字。

【振威】ｼﾝｲ ①威を振う。〔史記、秦始皇紀〕工以振威天下。〔漢、叔孫〕(111-4508-2)の字。

【振威將軍】ｼﾝｲｼｮｳｸﾝ 官名。清、蕭べ、武職後品の武職。〔後漢書、郡國志〕郡國置武職、從一品封十一年、復改定、正一品封。〔後漢書、百官志〕武職、從一品封。

【振長】ｼﾝﾁｮｳ 馬、馬大七之或不一致馬、兵以相下、天下。〔漢書、食貨〕(1-1-1)の字。

【振振】ｼﾝｼﾝ ①ふるひおそれる。〔戰國、燕策〕燕王誠振振、恐而不敢戰、兵以相下、天下。〔漢書、食貨〕(1-1-1)の字。

【振振】ｼﾝｼﾝ ①ふるひおそれる。〔戰國、燕策〕燕王誠振振、恐而不敢戰、兵以相下、天下。②盛んなさま。〔詩、周南、桃夭〕振振公子、于常之子、于歸、宜其室家。〔注〕振振、盛盛也。〔後漢書、馮衍傳〕振振、盛盛也。〔注〕振振、盛盛也。

【振振將軍】ｼﾝｼﾝｼｮｳｸﾝ 官名。清、蕭べ、武職後品の武職。〔後漢書、郡國志〕郡國置武職、從一品封十一年、復改定、正一品封。〔後漢書、百官志〕武職、從一品封。

【振鐸】ｼﾝﾀｸ 清、注子四6-17254-2256の字。

【振動】ｼﾝﾄﾞｳ ①動かす。〔孟子、公孫丑上〕以振動之、無不善者。〔注〕振動、動搖也。〔後漢書、馮衍傳〕振動海內、昭光振耀、響如鈴音、聲聞數百里。〔注〕振動、猶搖也。

【振耀】ｼﾝﾖｳ ①ひかりがかがやく。〔後漢、羽獵賦〕昭光振耀、響如鈴音、聲聞數百里。

【振撥】ｼﾝﾊﾂ 清、注子四6-17254-2256の字。

【振鳴】ｼﾝﾒｲ 清、注子四6-17254-2256の字。

【振鳴】ｼﾝﾒｲ ①鳴く。〔詩、周南、桃夭〕振振公子、于常之子、于歸、宜其室家。〔注〕振振、盛盛也。〔後漢書、馮衍傳〕振振、盛盛也。〔注〕振振、盛盛也。

【振屋】ｼﾝｵｸ 屋をとのえる。〔周易、相上、上林賦〕鳴石相擊、玉石相擊、鳴聲如雷、聞數百里。〔注〕振、猶搖也。〔後漢書、馮衍傳〕振動海內、昭光振耀、響如鈴音、聲聞數百里。

【振旅】ｼﾝﾘｮ 軍隊を整理する。〔周易、師〕師、衆也、貞、正也、能以衆正可以王矣。〔注〕師、衆也、貞、正也、能以衆正可以王矣。〔注〕師、衆也、貞、正也、能以衆正可以王矣。〔注

【振鷺】ｊｉｎ ふるはせおどろかす。きもをつぶさせる。【後漢書・馬援傳】「鷺」は鷺。【史記・高祖紀・索隱】「鷺」は鷺。【漢書・王莽傳・注・師古曰】「鷺」は鷺。

【振旅】ｌｕ ふるひ進む。【詩・周頌・時邁】「振旅」は「鷺羽」。【漢書・郊祀志・顔師古曰】「振旅」は「鷺羽」。

【振鷺】ｌｕ 鷺羽。【詩・周頌・有瞽】「振鷺」は「鷺羽」。【漢書・郊祀志・顔師古曰】「振鷺」は「鷺羽」。

【振鷺】ｌｕ 鷺羽。【詩・周頌・有瞽・毛傳

客語：把）勇力振世，字与以怯。

【振整】[illegible]清 語衡（6－21823－12）の原名。

【振整】[illegible]とともの。（宋郊）再轉。社狩 清 [illegible]。（宋郊）清 水 無袋 治 [illegible]整整 圖 [illegible]。

【振聲】[illegible]の字。●清 高有聞（11－8－8－2）の字。●清 鄭 [illegible]（10－8－8－2）の字。●清 [illegible]（10－8－8－2）の字。●清 王鎮 生 [illegible]。

【振鐸】[illegible]ふるひとのへる。

【振鐸】[illegible]ふるひとのへる。

【振鐸】[illegible]ふるひとのへる。振儀、（敦煌 燕 [illegible]）

【振】風 12092 疾風をいう。『説文』(10-42390-20)：震、同じく陣風。陣風、青帝の卿風を陣という。『爾雅』(10-42390-20)：

【𢹂𢹂】ハク 𢹂𢹂(8－6324・3)に同じ。𢹂は沙(6－7212)に同じく、𢹂(8－6324・3)に通ず。(白居易・唐撫州景靈寺故律大德弘和尚石碑銘)𢹂𢹂男女日、我得度者、萬五千七十二人。

【挼】12097 サ 挼(8－12095)の誤字。(正字通)挼、挼字之譌。

【掗】12098 カウ 掗(8－12350)に同じ。(集韻)掗、挼、或作掗。

【挴】12099 バイ (集韻)皆切 佳 ●むさぼる。(方言、十三)挴、食也。(楚辭、天問)穫土巧挴、夫何厥佑。(注)挴、食也。●はげる。(方言、二)挴、傀也、晉曰。挴。(集韻)挴、慙也。

【挵】12100 ㊀ガ (集韻)語切 置 ㊁カ (集韻)牛河切 歌 ㊀㊁もむ。(集韻)浜、拔也。

【挵】12101 ロウ (集韻)盧貢切 腫 もってあそぶ。(集韻)浜、玩也、或从手。

【掘】12102 キョク (集韻)掘玉切 沃 ●さがしもとめる。ほほづえ。(殷文)掘、乾持也、从手鼎聲。(段注)鐫鑿傳曰、拈鑿、乾持也、謂、有所、操作、曲其肘、如鞲而持之也。●ほり。●もつこ。土をはこぶ具。(集韻)掘、或作掘。(正字通)掘、與、掘通。(荀子、議兵)拱指掘、(楊倞注)掘、與、掘通。(荀子、議兵)拱指掘、(楊倞注)掘、當國曉。(集解王念孫曰、拱指指屈、當依、當國讀、改、掘爲、掘、案、掘與、掘通。●すすめる。推薦する。(唐書、李頻傳、大加、獎拔。)

【挵】12103 ハウ 挵(8－12474)の俗字。(正字通)挵、俗挵字。

【挴】12104 ケン (集韻)吉典切 銑 ぬぐう。或は揃(8－13020)に作る。(集韻)挴、博雅、拭也、或作、揃。

【挹】12105 イフ (集韻)乙力切 緝 ●くむ。●とる。●おさえてへりくだる。損抑、抑(8－1180)に通ず。(荀子、宥坐)丘聞、損而益、滿而溢、抑而不已者、損抑之道也。(注)抑、亦退也。(朱浮、爲幽州牧與彭寵書)(後漢書)(後漢書、朱浮傳)抑、抑、或作挹。(荀子、宥坐)抑、抑、或作挹。(荀子、宥坐)抑、抑、或作挹。(荀子、宥坐

惟聖武英挺。（注）向曰：挺，拔也。●そびえる。（左思 蜀都賦）高根比木樹。（張衡 西京賦）●挺衛山之陳。（孫綽 遊天台山 賦）台榭森挺以凌霄。●挺而生。（左思 蜀都賦）奇挺，特出也。（左思 蜀都賦）奇挺，傑出也。（左思 蜀都賦）挺，特出也。（徐陵 與王僧辯書）將奧，特挺。●挺揚。（漢書 揚雄傳）挺，側生也。（荀悅 漢紀）●挺，直。（漢書 揚雄傳）挺，直也。（周禮 考工記，弓人）於挺輮中有柎焉。（注）挺，直也。●もつ。まっすぐに持つ。（集韻）挺，曰，直持也。（陳彭年典）●まっすぐな物品を數へるに用ひる。（漢語）●挺，生也。●まっすぐな物品を數へるに用ひる。

挺【挺】【挺】【挺】

[擬然不整]ギネンフセイ。抜き出て衆人の中にはなし。[擬]一説の人々から抜き出てすぐれたこと。[擬]擬[説]説文[擬]、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12106]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12107]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12108]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12109]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12110]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12111]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12112]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12113]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12114]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12115]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12116]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12117]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12118]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12119]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12120]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12121]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12122]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12123]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12124]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ 擬[0-12125]。[説文]擬、[段]方正亮風。[擬然不整]。

【擬】ギ

作輓同[輓王制]五十不[從力政]蔽力政。挽引粲作之事。杜甫前出塞詩挽弓當挽強。●図弦。[三]ひく。[四]に同じ。[五]ながす。[六]ひろく。[七]鋸で材をきり割く。[八]ろくろの轆で器物を造る。

[挽引]ヒキ　ひく。重い物などをひくこと。[禮王制]五十不[從力政]蔽力政。●轅式のとき、車を動せて車を引き、車を送る意。[晉書]張華傳[張華]嘗時、賈王田代相求以爲[挽歌]。[蔡邕]撫掌歌[蔡邕]嘗時、賈王田代相求以爲[挽歌]。[後漢書]張衡傳[張衡]嘗時、賈王田代相求以爲[挽歌]。[蔡邕]撫掌歌[蔡邕]嘗時、賈王田代相求以爲[挽歌]。[後漢書]張衡傳[張衡

授・愛也・或从支。

【挾】12118

ケイ・ゲツ　Kyō, Chiaō
ヒ・ヘイ　hrai-

(集韻)厳帖切 (韻)
(集韻)胡協切 (韻)
(集韻)子洽切 (韻)
(集韻)呈洽切 (韻)

①はさむ。②わきにはさむ。

𢹂 本字

(説文)挾、俾持也。从手夾聲。(釋名・釋姿容)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(國語・晉語)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(儀禮・鄉射禮)乗挾矢。(釋文)挾、對音協。(五代史・盧文紀傳)以節挾之、首得文紀。(注)挾、猶言帶也。(王粲・登樓賦)挾清漳之通流兮。(注)善曰、帶也。③かかめる。身につける。(左氏・宣・十二)三軍之士、皆如挾纊。(注)挾、猶抱也。④はさむ。(左氏・襄・十一)三軍之士、皆如挾纊。(注)挾、猶持也。(楚辭・劉向・九歌・惜誓)懷芬香而挾椒。(楚辭・劉向・九歌・悲命)挾天爵而周流。(注)挾、持也。⑤中にする。(荀子・正論)天子出、諸侯持輪挾輿。(注)在輿左右。⑥あふ。(國語・(注)挾、猶會也。⑦隠・蔵す。(周禮・天官・太宰)挾日而斂之。(釋文)挾、本作市。(注)市、子合反。(国)もつ。夾(8-1258)に同じ。(集韻)夾・説文・挾、或从手。

(説文)挾、俾持也。从手夾聲。(釋名・釋姿容)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(國語・晉語)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(儀禮・鄉射禮)乗挾矢。(釋文)挾、對音協。(五代史・盧文紀傳)以節挾之、首得文紀。(注)挾、猶言帶也。(王粲・登樓賦)挾清漳之通流兮。(注)善曰、帶也。(荀子・正論)天子出、諸侯持輪挾輿。(注)在輿左右。(国語・晉語)挾、猶會也。(周禮・天官・太宰)挾日而斂之。(注)挾、猶抱也。(左氏・宣・十二)三軍之士、皆如挾纊。(注)挾、猶持也。(楚辭・劉向・九歌・惜誓)懷芬香而挾椒。(楚辭・劉向・九歌・悲命)挾天爵而周流。(注)挾、持也。(荀子・正論)天子出、諸侯持輪挾輿。(注)在輿左右。(国語・晉語)挾、猶會也。(周禮・天官・太宰)挾日而斂之。(釋文)挾、本作市。(注)市、子合反。(国)もつ。夾(8-1258)に同じ。(集韻)夾・説文・挾、或从手。

(説文)挾、俾持也。从手夾聲。(釋名・釋姿容)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(國語・晉語)挾、其捨刺爵鑄、(注)在掖曰。(儀禮・鄉射禮)乗挾矢。(釋文)挾、對音協。(五代史・盧文紀傳)以節挾之、首得文紀。(注)挾、猶言帶也。(王粲・登樓賦)挾清漳之通流兮。(注)善曰、帶

而讓坎 殺之。

【挾了】了 ㄌㄧㄠˇ 了能手持。〔賈泊逸歐、周紀〕歐 刻王十二年。臣光曰、云云、君子挾才以驕善人。

【挾裙】ㄑㄩㄣˊ 裙 ●著、衣服。●裙、裙襦的總稱。

【挾箱】ㄒㄧㄤ 箱 ●裙、裙襦的總稱。

【挾箱風】ㄈㄥ 箱 ●裙、裙襦的總稱。

【挾刷】ㄕㄨㄚ 刷 ●裙、裙襦的總稱。

【挾誅】ㄓㄨ 誅

に配列し、五に右右前後に動かし、味方の一つの駒の中間に敵の駒を挟み得たら其の駒をとり、せて駒を取られた方を負とする将棋。

【挿】 12119 サフ

插の一字体。(字書)

【捧】 12120 ホウ ブ ホウ オウ

(集韻)(廣韻)敷容切 (集韻)(廣韻)房用切

捧字。

【捧】 12121 タン (集韻)叢樹切 (集韻)(廣韻)徒感切

魚が貪ふさま。(集韻)(廣韻)魚。魚食皃。

【捧】 12122 ソン (集韻)苑樹切

のべる。(集韻)苑。振也。

【捧】 12123 ヨウ ケウ (集韻)吾巧切

ヨウ (集韻)居巧切

□ゆだす。授。(後漢書)(儒林伝)(范升)(駁博士)(疏)(後漢書)(儒林伝)(范升)(駁博士)(疏)(後漢書)(儒林伝)(范升)(駁博士)(疏)

図圃 ナク。

捄敗 [illegible]。やぶれるのをすくふ。又、やぶれたものを救ふ。（集韻）過愛に「百捄敗」非也。

挑 12128 チョウ 挑（9－12056）の俗字。（正字通）挑・挑字之譌。

捄 12129 カウ 孫（9－12056）の譌字。（正字通）捄・挑字之譌。

捅 12130 ①トウ（集韻）丁孔切 ②ソウ（集韻）損動切、ムメム。三。

①●すりこむ。でる。（集韻）捅、進前也。●ひく。（集韻）捅、引也。●刺(イ)穿つ。（玉篇）捅、刺也。●おこす。ちあげる。（玉篇）捅、擡也。又、ひく。敲（6－1320ウ）に同じ。（集韻）敲、擊也、引也、或从手。

掳 12131 ①コン（集韻）古本切、ㄍㄨㄣˇ ②コン（集韻）胡昆切、ㄏㄨㄣ 元

①●ととのへる。（集韻）掳、齊等也。（孟子、滕文公上）掳屨織席以食。（注）掳、猶即扶也。●おる。（玉篇）掳、折也。●とる。（玉篇）掳、取也。●いへる。（玉篇）掳、無組也。●のべる。（玉篇）掳、抒也。●聞くくる。縛る。結ぶ。紐（8－27506）に通ず。②おす。掳（6－12475）に同じ。

攫 12132 グワク（集韻）居縛切 藥

①●ひく。（集韻）攫、引也。●刺(イ)穿つ。つつく。⑥突く。つつく。⑦おこすもちあげる。（玉篇）攫、擡也。敲（6－1320ウ）に同じ。（集韻）敲、擊也、引也、或从手。

掠 12133 ①ケウ（集韻）力照切 ②ケウ（集韻）力遥切 ③レキ（集韻）七遥切 ④ジャク（集韻）五水切 藥

①●ととのへる。（集韻）掠、齊等也。（孟子、滕文公上）掠屨織席以食。（注）掠、猶即扶也。●おる。（玉篇）掠、折也。●とる。（玉篇）掠、取也。●いへる。（玉篇）掠、無組也。●のべる。（玉篇）掠、抒也。●聞くくる。縛る。結ぶ。紐（8－27506）に通ず。②おす。掳（6－12475）に同じ。

捺 12134 ①ナフ（集韻）奈曷切 ②ナク（集韻）格格切 ③ジャク（集韻）七遥切 ④ジャク（集韻）五水切 藥

①●おさへる。（説文）捺、按也、从手奈聲。（集韻）捺、或从薛。②同上。（集韻）捺、或从薛。③同上。（集韻）捺、掠也。④ぬのける。赤（10－36993）土部之捺。図はねのける。赤（10－36993）土部之捺。図は捺の俗字。（集韻）捺、除後也。周禮赤友氏、或从手。（周禮、秋官、序官、赤拔氏、注）赤、猶言捺拔、也、主。除、蟲者自性者。図図に同じ。（集韻）捺、拔拔、發擢也。

捉 12135 ①ショク ②ソク ③ショク ④チョク ⑤ダク 屋

（集韻）直加切 麻

（集韻）清都切 麻 （集韻）余遮切 麻 （集韻）補居切 魚 麻

図図 小 ①ひく。積に引く。（説文）捉、引也。从手赤聲。（段注）謂積而引之也。（集韻）捉、博雅、引也。（法言、問神）捉中心之所欲。通、諸人之嗜者、莫如肉。●くむ。くみとる。（廣雅、釋詁二）捉、抒也。●うるどい。（廣雅、釋詁四）捉、銳也。図くむ。通じて斟（6－13599）に作る。（集韻）捉、抒也、通作斟。図のべる。揔（6－12932）に同じ。（集韻）揔、博雅、舒也、或作捉。図なげうつ。（集韻）捉、擲也。

捉 12136 サク（集韻）而角切 覺 ソク 屋 小 ●とる。もつ。にぎる。つかむ。かまへる。（説文）捉、握也、从手足聲。一曰、握也。（博名、釋姿容）捉、握也。（廣雅、釋詁二）捉、持也。使相捉及也。（廣雅、釋詁二）捉、持也。（廣雅、王氏疏）周公躬執捉之勞。（注）師古曰、一飯三吐、食、一沐三捉、髮。（世說新語、賞譽篇）捉、握停之。●とらへる。からめとる。（廣韻、屋）、握持也。（增韻）捉、捕也。（唐韻、沃）、賊人を捕捉未獲。

捉妖 [illegible]。妖怪を捕ふる。

捉鋒 [illegible]。鋒を捕ふる。

捉人官 [illegible]。官命を受けて配遣をあつかふ者。（唐書、對策傳）初州縣故、有人捉人官。[illegible]、官命を受けて配遣

捉名 [illegible]。名を捕ふる。

捉生 [illegible]。敵の捕虜、情、之況情。（唐書、李光弼傳）光弼、[illegible]、高適之、現場を見つけ出す。

捉搦 [illegible]。捉搦、搦、[illegible]。

捉搦 [illegible]。すばやくつかまへる。（唐書、[illegible]）

捉搦 [illegible]。捉搦、搦、[illegible]。

捉搦 [illegible]。見る。

捉搦 [illegible]。[illegible]。

捉搦 [illegible]。[illegible]。

捉搦 [illegible]。[illegible]

手　部　（七畫）　捉　捭　捭　捋

秀才 詩〇為僕傳無 施 長陵不乖樑。

【捉手】 詩〇長陵、合 ●。 注 〈鄭志〉、諸書傳 注 雲師傳曰 雲以兄長、 郭璞 先生 知 其行 雲師 雲師 ●。 注 〈鄭志〉、 注 〈鄭志〉、 注 〈鄭志〉、

秀才舊雲軒詩兩面殺鹿十六高捋賢賢（海君軒集）●他人の手を引きなる親愛の情を表す。（呂覽知度）捋捋（捋捋）繁鄙鄙色（梁志）朱桓傳（注）桓（桓）志恭與諸人新一捋（陸平輯）無所復拒（注）桓（桓）志恭與諸人新一捋（陸平輯）無所復拒（注）捋（捋）

【揉】12146 ケイ 揉(9・12146)に同じ。〔集韻〕

【捭】12147 ラヴ ロウ (字彙)郎刀切 麻 ●とりる。(字彙)捭、閉也。●はづす。かけてあるものをはづす。

【捎】12148 日セウ (集韻)師交切 匹 ヨウ (集韻)山巧切 匹 ヨウ (集韻)所教切 匹 ショウ 戸ム shō 四セウ (集韻)思敲切 麗

小 ●とる。物の上部を持つてとる。〔説文〕捎、自關已西、凡取物之上者為捎。从手肯聲。(段注)取物之上、謂取物之顛也。捎之言、梢也。〔増韻〕捎、取也。●もちぶる。〔廣雅、釋詁一〕捎、擇也。●はらふ。ふれる。〔揚雄、羽獵賦〕鬼、捎星之旆。(注)向曰、捎、拂也。●かすめる。かする。〔増韻〕捎、掠也。〔杜甫、重過何氏詩〕花安蝶翅捎、溪暖鯉魚出。●かきりはふ。〔説文〕捎、亦是也。〔史記、樂毅傳〕以伐捎、若蔡、法之。〔晉書、嵇康傳〕捎、(注)曰、捎、殺也。●清拂は、良馬の名。〔廣韻〕、清拂、良馬名。●捎 8－14 9866 に通ず。〔漢書、天文志〕捎蓋精白者。(左思、呉都賦)捎雲無以絵。(注)割日、漢書天文志曰、見捎蓋。●胸の左袖を及ぼす。●数(6－13311)に同じ。〔集韻〕数、擊也、或作捎。四うつ。数(6－13311)に同じ。〔集韻〕数、擊也、或作捎。

【捎】12149 チウ ネチ 〔集韻〕力結切 麗 うこせ nieh 廣ネツ

小 ●おさへる。おす。(字林)捎、捺也。●とらへる。(集韻)捎、招也。●こねる。ひねりあつめる。〔増韻〕捎、捻也。●にぎる。〔海物異名記〕壯夫極力捎之不死。●掬 ④無。⑤まむ。四こねる。⑥土・粉に水をまぜて練る。⑦ねやす。⑧ひねる。でつちる。⑨ねやす。⑩色々に混ぜる。(字彙)捎、混也。●こねる。試みる。色々に混じ試みる。●無理なことを言ふ。「駄々をこねる」。

【捎】12150 ロウ 〔集韻〕奈惠切 匹 ヨウ 〔説文〕段注〕郎惠切 麗 ●すてる。のぞくやめる。

小 ●はらふ。〔説文〕捎、棄也。从手肖聲。(段注)捎、俗書捎專字。字義捎、除去也。〔段文通訓定聲〕捎、蠱除腐、謂之捎。〔列子、説符〕牢相捎、死相捎。〔史記、呉起傳〕捎不急之官、(注)捎、棄也。●自我捎之。自我捎之。〔張衡、東京賦〕捎衰色。〔韓詩外傳〕捎不急之官、〔漢書、董仲舒傳〕捎、細大不捎。●あたへる。貨賄を与へる。寄附する。献する。〔漢書、貨殖傳〕出捎千金。●死體を給与に遣棄する。〔漢書、神農紀〕捎不食。●死體を給与に遣棄する。〔漢書、貨殖志〕國家捎棄、〔周禮、考工記、輪人〕以其圍之防、捎其載、(注)捎、除也。●〔説文通訓定聲〕捎、段借為趙。趙、廣雅、釋詁一〕捎、動也。〔集韻、博雅、揺揺、蠱捎也。

【捎言】ヨウ 高言。捎言に同じ。字解四の及び捎言に同じ。(張協、觀海賦)捎蒙柏輪

捐養、或謂貧乏者。捐、**❶車輪の外圓。**車環。圓（ム一ㄢˊ）。通才。（說文通訓定聲）捐環、捐、（注）者車輿環。（郝經行義記）捐、與冒同。冒、空也、環中空以貫輞、故謂之捐。

【捐想】ㄐㄩㄢ ㄒㄧㄤˇ。うらみをする。捐怨（ㄩㄢˋ）に同じ。

【捐怨】ㄐㄩㄢ ㄩㄢˋ。自賢と開愛すること。（清會典事例、吏部、除授）官員捐愛怨者、讓、乾隆六年、本省武官郭昌捐、給牛種、捐、懇荒地十頃、奏准、准、捐、（清會典事例、戶部、田賦）

【捐助養糧】ㄐㄩㄢ ㄓㄨˋ ㄧㄤˇ ㄌㄧㄤˊ。清代、或規上、後日除運すべき糧數、捐、（清會典事例、吏部、除授）清代、或規上、後日除運すべき糧數、捐、（清會典事例、吏部、除授）四七年乾隆二十七年奏准、江南漕糧、除運、撥、兼和倉月格等項外、江南漕糧、除運、撥、兼和倉月格等項外、江南漕糧、除運、撥、兼和倉月格等項外

〔編集全書、段数部、篇部、近衛常年目録〕

捐 [illegible]。〔字書〕捐、棄也。捐、除也。捐、捐捐、捐捐、捐

以客貿之」後、是難以今學、遇之、而謂其識録評、而已之文、皆所不用、謂之「自信」、「自負」、「自出」、「自信」、「自負」、「自出」、「自信」、「自負」、「自出」、

手部（七畫）捕 挽

〔捕送〕ほそう とらへて護送する。（國史略、鳥羽天皇永久五年、有「豊」詐陽」逐義興」條）後人入平水墨、救補送ず。

〔捕捉〕ほそく とらへること。（唐紀元、登元元年、敕錢上人乃所、知多武已殺、或在貴縣、宋鮑之遷、無可敵、拉送護、捕捉未捕、以數者、無所、知、此之類、疑捉）

〔捕獲〕ほかく 獲物を捕ること。（後漢書、祭祀、燔柴祭日、宜並放免。

〔捕擊〕ほげき とらへて、撃つこと。（後漢書、刑部、郡境州縣、遇盜賊、到、亦協力捕擊。

〔捕討〕ほとう とらへて、討つこと。（後漢書、袁紹傳、袁紹、紹、紹、

剖、一音元。

【扶】 12159 サフ セフ 〔篇海〕初治切 **扶**

するどい。〔篇海〕扶、利也。

【抪】 12160 日ホ 〔集韻〕浦故切 **抪**
日フホ 〔集韻〕蒲遇切 **抪**
日チヨク 〔集韻〕竹力切 **抪**

日をきめる。抪擒。〔集韻〕抪、抪擒、收斂也。日をきめる。〔集韻〕捉、步擒、收斂也。或从手。日うつ。〔集韻〕抪、打也。日はかとる。はかがゆく。

【挻】 12161 日ワン 〔集韻〕紺寸切 **挻**
日ユン 〔集韻〕七倫切 **挻**
日サイ 〔集韻〕祖回切 **挻**
四スイ 〔集韻〕注垂切 **挻**
国サイ スイ 〔集韻〕祖雖切 **挻**
国スイ 〔集韻〕紺對切 **挻**

国（説文）小篆 挻、推也、从手爰聲、春秋傳曰、挻侯衛侯之手。段注）左八年、左傳曰、鄭伯欲、涉佗挻侯之手。及挻、此謂衛侯欲、先鄭、涉佗執其手、卻之、由指掌、逆推及於挻也、杜云、直及挻非。（集韻）挻、日推也。（馬融長笛賦）按琴挻挻、遇指乘運。●おさくる。（廣雅）標註三挻、挻也。（標註）挻、又子寸。国四国おさくる。国の●に同じ。（集韻）挻、博雅、挻也、因おす。或は捽（6－122235）に作る。（集韻）挻、推也、或作捽。

【挻載】「ｻﾞｲ 挻たたり抑へ、たりする。（馬融長笛賦）挻琴挻載、遇指乘運。（注）舊曰、說文曰、挻推也、載、猶抑也、向曰、挻琴挻載、遇指乘運。（集韻）挻琴運音合韻。

【捄】 12162 日チウ 〔集韻〕正鳩切 **捄**
日ジユク 〔集韻〕式竹切 **捄**

日ひく。捄（6－12359）に同じ。（集韻）捄、引也、或从手。国ひく。（集韻）捄、說文、引也、或从手。

【掬】 12163 ソウ 掬（6－12596）の本字。（正字通）掬、掬本字。

【揉】 12164 カウ 〔篇海〕古撓切 **揉**

あげる。〔篇海〕揉、擧也。

【捉】 12165 サフ 捉（6－12346）に同じ。（海篇）捉同、捕。

【捶】 12166 エイ 〔篇海〕許竊切 **捶**

ひく。〔篇海〕捶、牽引也。

【捽】 12167 ユウ 捽（6－12479）に同じ。（篇海）捽、同、搖、見、轉典。

【挈】 12168 ケツ 挈（6－12035）に同じ。（篇海）挈、同、挈。

【捻】 12169 エウ 捻（6－12479）に同じ。（篇海）捻、同、猛。

【揣】 12170 ズイ 揣、古作、揣。（6－12371）の古字。（集韻）

【捩】 12171 サイ 〔篇海〕莊皆切 **捩**

さあげる。〔篇海〕捩、擧撃也。

【捉】 12172 リヨ 〔龍龕手鑑〕音呂 **捉**

とも。（龍龕手鑑）捉、飾拍也。

【捌】 12173 ヘン 義未詳、（搜眞玉鏡）捌、音拂。

【掘】 12174 昔機未詳 掘、同、掘。

抗に同じ。（搜眞玉鏡）

【掘】 12175 シン 義未詳（龍龕手鑑）掘、音新。

【椎】 12176 カク 義未詳（龍龕手鑑）椎、音角。

【椎】 12177 キヨウ 挈（6－12349）の本字。（正字通）椎、本作、挈。

【捎】 12178 サツ 捎（6－12604）の本字。（正字通）捎、本作、捎。

【採】 12179 サウ ソウ 〔莊子、釋文〕素報反 **採**

かく。採（6－12477）に同じ。（莊子、徐無鬼、委蛇覆採、釋文、採、本又作、搔、素報反、徐本作、搔。

【搜】 12179′ ソウ 搜（6－12486）の略字。

八畫

【捋】 12180 トク 〔集韻〕得切 **捋**

●うつ。（集韻）捋、打也。（集韻）捋、擊也。●おす。（集韻）捋、按也。

【捥】 12181 日ワン 〔集韻〕烏貫切 **捥**
日ワン 〔集韻〕烏丸切 **捥**
日ワン 〔集韻〕鄔管切 **捥**
四クヅ ウチ 〔集韻〕紇勿切 **捥**

日うで。かひな。捥（9－29681）、挽（6－12364）に同じ。（廣韻）捥、手腕。捥、腕、亦同。（集韻）捥、說文、手擊也、或作、捥。（史記、封禪書）海上燕齊之間、莫不、捥、捥而自言、有、禁方、能、神僊、矣。日ねじる。或は挽（6－11970）に作る。（集韻）捥、振也、或作、挽。日まる。（集韻）捥、取也。四ねじる。捥（6－12060）に同じ。（集韻）

鬷 拗侯也、或从宀。

【窒】 12182 ワン

（集韻）窒也。

【捻】 12183 ネン

（集韻）捻也。

【掐】 12184 コウ

（集韻）掐、擲也、掐指、擊也。

【搭】 12185 トウ

（集韻）搭合切 合

（集韻）沉合切 陶

【拷】 12186 コウ

（集韻）拷、擲也、掐指、擊也。

【拔】 12187 ハツ

（集韻）拔、擲也、掐指、擊也。

【拔】 12188 ハツ

（集韻）拔、擲也、掐指、擊也。

【捧】 12189 ホウ

（集韻）捧、擲也。

【捧】 12189 ホウ

（集韻）父奉切 馮

【捧】 12189 ホウ

（集韻）許容切 冬

□ ゆびぬき。ゆびおほひ。（説文）捥、韝指也。从手喜聲。讀若鳩。（段注）謂以識秩衣之人恐鍼之繫、其指用、韝代韝、韝於指以指之也。射韝亦謂之指韝。● かはぶくろ。（説文）捥、一曰、弩弦。（集韻）搭、一曰、韝也。● 或は韝 18・43161）に作る。（集韻）搭、或从摩。□ ● おほふ。（集韻）搭、一曰、拳也。● 或は掩 5・12503）・搭 5・12508）に作る。（集韻）搭、或作掩、搭。

□ ● 兩手で持つ。ささげる。（釋名）捧、奉也。手奉物也。● 手を上げて敬礼する。（後漢書）劉平等傳注、王莽、平帝崩、太后詔平等、捧璽綬、平等拜、太后乃以璽綬授王莽。（漢書）王莽傳、太后詔王莽、捧璽綬、莽稽首再拜、受璽綬。（漢書）王莽傳、莽稽首再拜、受璽綬、莽自以當之、莫敢言。● 手を上げて敬礼する。（後漢書）劉平等傳注、王莽、平帝崩、太后詔平等、捧璽綬、平等拜、太后乃以璽綬授王莽。（漢書）王莽傳、太后詔王莽、捧璽綬

舞兒者？是亦爾所不知矣（舞子妻）。（集韻）捧心（西子之心）…… 五面たたく人 演技を

【捧心】（西子之心）…… 五面たたく人 演技を

【捧足】（西子之足）…… 西施の足。美人の足。

【捧場】（ホウジョウ）…… 舞台の上で、役者の演技を

を焚き、或は布帽のために肉を割き身を乗てること。

【捨身飼虎】ｼｬｼﾝｼﾞｶｲｺ 〔漢語〕自分の身を乗て虎を養ふ。〔説話〕釈迦牟尼の故事。〔経〕金光明経・摩訶薩埵王子品・捨身品・〔説話〕過去世に有、国王名大車有子。子曰摩訶薩埵、於山林中見一虎。虎産七子、飢羸将死、欲捨此身飼虎。入林中至虎所、虎不食、欲捨此身飼虎。入林中至虎所、虎不食、欲捨此身飼虎。薩埵又念、観此身、乃以竹枝竹刺強出血、以此血塗地、令虎嗅之、虎乃食之。

【捨生】ｼｬｾｲ 生命を棄てる。命を捨てる。

【捨宅】ｼｬﾀｸ 住宅を捨てる。

【捨置】ｼｬﾁ ほったらかしにする。

【捨直】ｼｬﾁｮｸ 捨賞のねだん。

【捨撥】ｼｬﾊﾂ ほったらかしにする。

【捨得】ｼｬﾄｸ 捨てるのは惜しいが、止めるのは惜しくない。

【捨扶持】ｼｬﾌﾁ 〔漢語〕〔説話〕〔説話〕〔説話

通類左傳の同上八條に分け、經典引文を攷證し、愛れ、禪ふに反し、隱ふに反し、下文皆之を依據とする。「禪」は「隱」に對する語。「隱」は「禪」に對する語。「隱」と「禪」とは、互に轉注の關係にあるものか。「禪」は「隱」の通假字か。

【捫】ハイ　手まさぐる。〔集韻〕捫、摸也。

【捫心】ハイシン　胸に手を當てる。〔後漢書、馮衍傳〕捫心而自悲。

【捫舌】ハイゼツ　●舌をおさえる。〔淮南子、修務訓〕捫舌而言。

【捫蝨】ハイシツ　●蝨をとる。〔後漢書、桓帝紀〕帝嘗幸上林苑、中黃門張逢、捫蝨而進。

【捫摩】ハイマ　手でなでる。〔後漢書、馮衍傳〕捫摩太微、而北辰可指

から男に挑みかかること。 ❸公債。預金などの元金を償還しないこと。

掘出[名] 掘り出すこと。 ❶掘り出すこと。 ❷掘り出すこと。 ❸掘り出すこと。

掘出物[名] ❶思ひ掘出物。 ❷掘り出すこと。 ❸掘り出すこと。

掘物[名] ❶思ひ掘出物。 ❷掘り出すこと。 ❸掘り出すこと。

掘穿[名] 掘り穿つこと。

掘鑿[名] 掘り鑿つこと。

掘鑿[名] 掘り鑿つこと。

掘鑿[名] 掘り

出於衆者有別以言（主）天勇爲。捲。

【捲】ケン chuan, chüan, kuan, kun まきあげる。とりあげる。杜樓夢（同地恩或捲案的跟）。

【捲】ケン 捲捲格 chüan, kuan 行はれる位置中の隱なく、遂さに讀むもの。捲話 ~ 19402 ~ 20ノ を見よ。

【捲】ケン 捲捲 chüan, kuan 曬まるく。

【捲】ケン 朝早く出勤の作物に蓋いてある蓆。轉じて、農が早く出勤を見送ることをいふ。

【捲】ケン 捲捲 chüan, kuan 捲まるく。

【捲】ケン 捲捲 chüan, kuan 捲まるく。

【捲】ケン 捲捲 chüan, kuan 捲まるく

詩『著師道』 酔人往往遭一推搗。

【搥】 ツイ 也。 ○ もち。餅。

【搥】 ツイ 也。 ○ ものをもちうつ。 **飯**は詩の如鞠を得。頭小所の如鞠の如鞠のかつ皆かなるで高人となった。其の後、如鞠を愛せず、或るとき、唐朝の初朝早く如鞠を起しなが起きなるのつこの頃の人、如鞠を愛すること、去年の慶苏を集めたの塚の上に遊れ、見渡から見えなくなったら、如鞠がこれ、我を盗まるはまた行なたとい。いふ故事、元日に去の唐宗を集めた所へ行ったとき、之を持つて、酒とともに、或時は、唐朝の時、若然、徒の明、百官、所、朝、如鞠初得、呼、之、不、如起、欲、捧、之、如鞠、是、上、乃、故、減、除、所、使出、如不可得、因日、汝我苏不、獲、汝、我、人苏、苏起自、歌明、也、今京東之伝酒然。

【搥】字字 [大、人、史立] 搥表 而字 『説文』 搥表 金選 即例表 是也。

【搥】 ツイ 也。 ○ 搥鼓。搥棒。 **搥**、鼓、宗、而 **鼓**搥 **搥**表。

【搥】 ツイ 也。 ○ もちうつ。 搥打。『後漢書』左慈傳 中国潮傳。 搥、撲、搥、撲、搥、撲、宗、而 **搥**、搥、搥、搥

手部 (八畫) 捷 掮 掩 掬 掭 掠 掗 掝 掫 掬 掭 掠 掗 掝 掫 掬 掭 掠 掗 掝 掫

【掄錄】りろく 選國の都をいふ。一定の場所はなく、四時の氣候によつて處を易へる。(遼史、營衛志)。遼國墨有大漠後包長城之境。因(遼史、營衛志)。秋冬漠南有大漠後包長城之境。因(遼史、營衛志)。秋冬漠南有大漠後包長城之境。因(遼史、營衛志)。以爲常。四時各有一行在之所。謂之掄錄。春捺鉢。夏長城。秋木蘭。冬漠南。(遼史、營衛志)。掄錄。(遼史、營衛志)。掄錄。(遼史、營衛志)。掄錄

【捽】12225

日ツチ　（集韻）昨没切　𠀋
D X・ツチ　D X・ヒ（tsuci）
日ソツ　（集韻）昨律切　𠀋
日スイ　（集韻）蘇對切　𠀋

書 賈長傳〔捽中把〕土、手足斷絕。（注）師古曰、捽、拔取也。中、古讀如竹。（集韻）捽、拔取也。（玉篇）捽、捽中同。

【捽】ツツ　捽中に同じ。

【捽】ツツ　草の中を行く音。（集韻）捽、捽聲。

【捽】ツツ　身體離在。土、墓墟祭。荀、亦山雞也。

【捽】ツツ　抜いて食べた野菜。荀は蔬。（法言）修施〔賈梅捽捽、捷言施闕〕（注）捽、持、鋤也。捽、手

【捽】ツツ　髮をつかんで引っぱる。（荀子）正論〔賈梅捽捽、捷言施闕〕（注）捽、持、鋤也。捽、手

【捽】ツツ　髮を掴む。（崔南子）氾論訓）鄒則

【捽】ツツ　髮、髮を掴む。（漢書）賈誼傳）捽、中、

【捽】ツツ　ぬきとる。（漢書）賈誼傳）捽、中、

【捽】ツツ　師古曰、捽、拔取也。

【捽】ツツ　師古曰、捽、拔取也。（漢書）賈誼傳）上、文、髮、人、抑而刑、之也。（注）師古曰、捽、持、頭髮也。抑、謂按之也。

【捽】ツツ　髮をつかんでおさえる。（漢書）賈誼傳）上、文、髮、人、抑而刑、之也。（注）師古曰、捽、持、頭髮也。抑、謂按之也。

【掠】12226

三ワツ　（集韻）烏括切　𠀋
日ワツ　（集韻）烏八切　𠀋
日カツ　（集韻）下括切　𠀋
四ワン　（集韻）烏版切　𠀋

小 一一一 取出す。（說文）捽、捽也。今人剃字當作掠。（段注）義與扶略同。

【掠】ツツ　髮、（段注）義與扶略同。

【掠】ツツ　ひく。（說文）捽、捽也。

【掠】ツツ　首すじをつかむ。（漢書）金日磾傳）

【掠】ツツ　ぬきとる。（漢書）金日磾傳）

日磾捽胡投、投成之元鼎中、胡頭、捽、其頭、

今相御臥輪之榻、也、捽胡投、捽、其頭、

而投、敗引投、投成之元鼎中、投成之元鼎中、投成、

故有、醉酒若、盜飛御、日、若狀、紀、紀可、以、拒

消。【捽中】ツツ　捽中に同じ。（正字通）捽、捽、捽

【捽中】ツツ　草を拔り取る。草を引き抜く。（漢通）从、捽聲。正。

【攫】12227

セイ　捽（9－14960）、捽（9－14960）に同じ。（正字通）捽、捽、捽

【搾】12228

キュウ　（集韻）去伸切　𠀋
ク　（集韻）去伸切　𠀋

【搾】ツツ　（集韻）搾、搾也。

おす。（集韻）搾、搾也。

【摑】12229

クワク　（集韻）郭獲切　𠀋

うつ。或は就（6－13172）に作る。（玉篇）

摑、批摑也。（集韻）摑、打也、或作、就。

【掀】12230

日ケン　（集韻）遠言切　元
ト－ト（hiten）
日キン　（集韻）許近切　文
日ギン　（集韻）許訖切　𠀋
四コン　（集韻）胡恩切　元
四キン　（集韻）巨近切　𠀋

小 一一一 ●かかげる。あげる。（說文）掀、舉也。从手、欣聲。春秋傳曰、掀公出、於鄭。（桂注）成十六年左傳文。杜注、掀、舉也。（廣韻）掀、以手高舉。●たかいさま。掀然の条を見よ。●開。①はね。⑩開く。（段注）掀、舉也。或作、掀。（左氏、成十六）掀公出、於鄭。（釋文）掀、引也、胡畏反。（玉篇）あげる。二日の●に同じ。（集韻）掀、舉也。●ひく。四に同じ。（集韻）掀、一曰、引也。

【掀起】ハツキ　まくれ上がる。持ち上がる。

【掀起來】ハツキライ　持ち上げる。かかる。まくりあげる。

【掀屋】ハツオク　屋根をかかげる。（唐日樓文集）遠殘、掀、屋、起、覆之、但見、一片天、蓬、面已、

【掀然】ハツネン　高く聳えるさま。高くもりあげるさま。（韓愈、和侯喜贈張籍詩）文、不、張、掀、然、

【掀然】ハツネン　高く聳えるさま。（蘇軾、送、蘇、冠、卷自詩）

【掀髯】ハツゼン　かまびすしい聲

故意にはめる。

掀搨[ji] 、あがる（呉筠、王連市太山石室詩）我將一日騫連掀搨。

掀竭[ji] 、ふりあがる。あふれる。（韓愈、鶴賦）あふりあがる。（韓愈、鶴賦）あふれあがる。（韓愈、鶴賦）

掀舞[ji] 、ゆれうごく。（張籍、東都遇雪詩）風風有時作、掀舞翼差差。（韓愈、孟郊、大雪歌）はげしく舞う。（李賀、雨時詩）

掀裙[ji] 、裳裙。（李賀、雨時詩）

掀裳[ji] 、裳裙。（李賀、雨時詩）

掀裙[ji] 、裳裙。（李賀、雨時詩）

掀髯[ji] 、ひげをふるわせる

[掃遷]ｓｏｕ１ｑｉａｎ ｓｏｕ１ｑｉａｎ はらちがえる。（清水）。

[掃除]ｓｏｕ１ｃｈｕ１ はらひのける。（清水）。

[掃地]ｓｏｕ１ｄｉ はらひつくす。ことごとく。（清水）。

[掃除]ｓｏｕ１ｊｏｋｕ はらひのけること。除去。（清水）。

[掃除舊布]ｓｏｕ１ｊｏｋｕｋｕｕｆｕ 新田氏の大統。桓武。

[掃除舊布]ｓｏｕ１ｊｏｋｕｋｕｕｆｕ 新田氏の大統。桓武。

[掃部]ｓｏｕ１ｂｕ ①氏。新撰姓氏錄第六巻に見える。②職名。令官位令に「掃部寮。掃除事。」とある。

[掃部寮]ｓｏｕ１ｂｕｒｙｏｕ 掃部寮。（清水）。

[掃部助]ｓｏｕ１ｂｕｎｏｓｕｋｅ 掃部寮の長官。唐名は清掃使。

[掃部頭]ｓｏｕ１ｂｕｎｏｔｏｕｄｏｕ 掃部寮の長官。唐名は清掃使。

[掃部寮]ｓｏｕ１ｂｕｒｙ

部司の三あり。具に宮中の補設・酒掃等を掌る。各一具の官職と屬と従掌との範囲異にし、内掌部は、内侍司・縫殿・掌侍・蔵人・内侍部の御のみに奉仕し、掃部は後宮の職員・後宮の御のみに奉仕し、後、内掌部と掃部司とは宮中と掃部寮との内掌部司と掃部司とは、正庁・清涼殿・紫宸殿・常寧殿・承明門・内裏・内侍部・掃部寮・内侍部・掃部司・内侍・掃部・掃部司・内侍・掃部・掃部寮・内侍・掃部・掃部寮・内侍・掃部・掃部寮

訟）。愚至拔出。〔疏〕若手拾掇物然。
掇 ㊀ 周南、芣苢 ㊁ 周南、芣苢 ㊂ 周南、芣苢 ㊃ 周南、芣苢 ㊄ 周南、芣苢 ㊅ 周南、芣苢 ㊆ 周南、芣苢 ㊇ 周南、芣苢 ㊈ 周南、芣苢 ㊉ 周南、芣苢 ㊊ 周南、芣苢 ㊋ 周南、芣苢 ㊌ 周南、芣苢 ㊍ 周南、芣苢 ㊎ 周南、芣苢 ㊏ 周南、芣苢 ㊐ 周南、芣苢 ㊑ 周南、芣苢 ㊒ 周南、芣苢 ㊓ 周南、芣苢 ㊔ 周南、芣苢 ㊕ 周南、芣苢 ㊖ 周南、芣苢 ㊗ 周南、芣苢 ㊘ 周南、芣苢 ㊙ 周南、芣苢 ㊚ 周南、芣苢 ㊛ 周南、芣苢 ㊜ 周南、芣苢 ㊝ 周南、芣苢 ㊞ 周南、芣苢 ㊟ 周南、芣苢 ㊠ 周南、芣苢 ㊡ 周南、芣苢 ㊢ 周南、芣苢 ㊣ 周南、芣苢 ㊤ 周南、芣苢 ㊥ 周南、芣苢 ㊦ 周南、芣苢 ㊧ 周南、芣苢 ㊨ 周南、芣苢 ㊩ 周南、芣苢 ㊪ 周南、芣苢 ㊫ 周南、芣苢 ㊬ 周南、芣苢 ㊭ 周南、芣苢 ㊮ 周南、芣苢 ㊯ 周南、芣苢 ㊰ 周南、芣苢 ㊱ 周南、芣苢 ㊲ 周南、芣苢 ㊳ 周南、芣苢 ㊴ 周南、芣苢 ㊵ 周南、芣苢 ㊶ 周南、芣苢 ㊷ 周南、芣苢 ㊸ 周南、芣苢 ㊹ 周南、芣苢 ㊺ 周南、芣苢 ㊻ 周南、芣苢 ㊼ 周南、芣苢 ㊽ 周南、芣苢 ㊾ 周南、芣苢 ㊿ 周南、芣苢 (1) 周南、芣苢 (2) 周南、芣苢 (3) 周南、芣苢 (4) 周南、芣苢 (5) 周南、芣苢 (6) 周南、芣苢 (7) 周南、芣苢 (8) 周南、芣苢 (9) 周南、芣苢 (10) 周南、芣苢 (11) 周南、芣苢 (12) 周南、芣苢 (13) 周南、芣苢 (14) 周南、芣苢 (15) 周南、芣苢 (16) 周南、芣苢 (17) 周南、芣苢 (18) 周南、芣苢 (19) 周南、芣苢 (20) 周南、芣苢

しめること。〔戦国策、陳氏〕「若年八十、髮眼夜行、夢、勝月猶恢、吾敵」。

授　〔字鏡〕。

授法　〔字鏡〕。

授田　〔字鏡〕。

授　〔字鏡〕。

授　〔字鏡〕。

**授

兵器出軍時、皆無出門授兵、名曰授兵、及其還車、則授人之官、名曰受兵、[illegible]年、元鼎[illegible]年、[illegible]、[illegible]月、上[illegible]氏[illegible]

【授命】[illegible]。生命をなげ出して[illegible]。[illegible]。[illegible]。

遭敵、不。旁金戟助、攘行。●謝行自在のさま。〔郭璞、遊仙詩〕三二年光掉行。

〔掉尾〕zhào wěi 掉尾。●尾をふるふ。〔國語、楚語上〕不能掉其尾。〔司馬相如、上林賦〕掉鞀鼓、揱鳴鐘。●貴情、七感〔張華、鷦鷯賦〕以托噪、事掉尾於垂中。●殺後の活動の勢をいふ。又、文章の結尾が力あるにもいふ。又、文章の末尾に句又は數句を加へる。此によつて文體が皆動き。

〔掉鞅〕zhào yāng 掉鞅。●むちをふるふ。〔李白、幽州胡馬客歌〕雙鳧掉鞅翔、萬歲曲樂聲。〔花柔大夫、宮詞〕開場樂動御用、掉鞅鳴鑾小鼎花。●掉鞅。

〔掉掉〕zhào zhào 掉掉。●同じ。〔荀子、儒效〕二國之大權、形埶相使、掉掉然。〔楊倞、注〕掉掉、猶言大權、形埶相使、使動而讀行。

〔掉述〕zhào shù 掉述。●からかふ。調弄する。●戲れ反對。

〔掉書袋〕zhào shū dài 掉書袋。●平常の典語に、一々出處典故を引いて話すといふ。必ずしも書物に據つた故事に對して話すとは云はない。〔南唐、李穆利用傳〕李穆、利用、下連、〔南唐書、李利用傳〕李穆、利用、下連、〔南唐書、李利用傳〕李穆、利用、下連、〔南唐書、李

蔑狹ハ(注)(省)曰、掌、裂ヲ之也。❶つかさど
る。〔公羊傳、襄廿年〕、掌、主也。〔周禮、天官、
冢宰〕、朝覲、天官、冢宰、祭祀、(注)掌、主也。
〔孟子、離婁公上〕、禮使、益掌火。(注)掌、
主也。〔國語、晉語七〕使ノ掌ノ公族大夫。
(注)掌、主也。❷ただす。〔周禮、春官、家
宗人〕、掌ノ家禮。(注)掌、亦正也。❸さばく
〔公羊傳、宣十五年〕、執掌、(疏)掌
謂、捧、持之ノ也。❹さは。いけ、たまり。〔陳
(11・41262)〕に通ず。〔說文通訓定聲〕掌、
假借爲ル隴。(轉名、釋水、沈出所ル爲ル海
曰ル掌。停處如ル手掌中也。今兗州人謂ル潭
之中ニ、而無ル源者ル、爲ル掌。(喻出之、寄
華陽錄少府詩)、蟾掌九仞、危蹬影入
池。❺姓。〔通志、氏族略、以族爲ル氏〕掌
氏、魯大夫後ノ、以ル音掌ル故從ル音文。
望出ル現邪琅琊。❻國語鐵。

名詞　ナカ。

【掌握】ショウアク　手ニ握ル。

【掌中】ショウチウ　手ノ中。又、手
のうち。ひとにぎり。列子、湯問篇、正、後汗、海使
命、膠、手掌ニ、注、而無ル源者ル、(疏)、掌、(爾雅、釋水)海內之
中ニ

妹後之。

【掌指】ｼｮｳｼ　たなごころとゆび。手をいう。〔後漢書・馬援傳〕「手足胼胝、手指不伸。」

【掌上】ｼｮｳｼｮｳ　①手のひらの上。〔史・地理志〕「甘泉山、云云、倍佯千丈、山上觀平石如掌、有掌指之狀。」

【掌文】ｼｮｳﾌﾞﾝ　①宮官の名。天官の屬。王の祭祀・饗燕・軍旅等に、紙を張り張弧を設けることを掌る。〔周禮・春官・掌文〕「掌文、王大祭・祀・燕・饗・喪・設弧。」

【掌侍】ｼｮｳｼﾞ　①内侍司の屬官。掌侍四人。掌司に典侍・掌侍・掌蔵・掌縫・掌殿・掌酒・掌水・掌薬・掌膳・掌蔵

命諸掌徒。鄭我伯振（注）向曰。掌徒。掌徒。掌祭。周官の名。地官の屬。にがなをあつめて後事に供することを掌る。（周禮）地官。

掌統 [illegible] つかさどりすべる。上帝をすべる。（魏書）百官志四上）諸掌各二人。從三品。掌。統北衙禁兵。

掌陰 [illegible] ●官名。唐。置く。門閥の優劣を掌る。（唐書）選舉志上）司陰。後魏。掌官名。

掌門閥 [illegible] ●ゆかり。門閥を掌る。

掌人間 [illegible] ●官名。（社稷掌。四十日同。魯連上。鄭。掌。人間。

掌把 [illegible] 手のうち。たなごころ。

掌勸 [illegible] 霸權を掌握する。

掌媒 [illegible] 官名。媒妁を掌る。（管子。入國）

掌御 [illegible] 官名。倉庫を掌る。（荀子。議兵）若是則忽然掌亡矣。（注）地藏。

掌膳 [illegible] 役所の名。

掌判 [illegible] 結婚の相談を受ける。男女の媒妁をする。（注）手。手也。得。協。合。主合。其半。（注）判。半也。得。協。合。主合。其半。

掌人 [illegible] 官名。（書）益稷。鳥獸蹌蹌。掌。

掌鞫 [illegible] 裁判の番頭。又。庸僕情聞の支配頭。

掌人 [illegible] 家人の別。

掌踵 [illegible] 秋の足のうら。（爾雅。釋獸。注）云。猶。掌也。此獸。秋。皆有。掌。掌。

掌皮 [illegible] 周官の名。天官の屬。皮革のことを掌る。（周禮）天官。掌皮。掌。秋獫。皮。多。敏。

掌指 [illegible] 手を手に握る。（王筠。四子講義）論語。子路。掌指。（注）言。手。指。（郭象。莊子。注）同。（司馬彪。同。

掌武 [illegible] 官名。唐代。太尉の異稱。（容齋隨筆）官稱。（注）同。

掌鼎 [illegible] 官名。（管子。入國）

掌鞫 [illegible] 裁判の番頭。又。庸僕情聞の支配頭。

掌踵 [illegible] 秋の足のうら。（爾雅。釋獸。注）云。猶。掌也。此獸。秋。皆。有。掌。掌。

掌皮 [illegible] 周官の名。天官の屬。皮革のことを掌る。（周禮）天官。掌皮。掌。秋獫。皮。多。敏。

掌指 [illegible] 手を手に握る。（王筠。四子講義）論語。子路。掌指。（注）言。手。指。（郭象。莊子。注）同。（司馬彪。同。

掌武 [illegible] 官名。唐代。太尉の異稱。（容齋隨筆）官稱。（注）同。

掌鼎 [illegible] 官名。（管子。入國）

此。以示。之。桂之未。能。盡知。者。大謝氏。掌。欲。司徒。掌。五教。

掌官 [illegible] 官名。はらりを掌る。（周禮）地官。日侍。皇太子。由。掌。官。

掌交 [illegible] ●手のうち。手のみや。（後漢書）公孫述傳。掌。交。

掌人 [illegible] 官名。（後漢書）百官志。掌。人。

掌人 [illegible] 官名。（後漢書）百官志。掌。人。

掌人 [illegible] 官名。（後漢書）百官志。掌。人

掎 小 [illegible] 四 ひく。④あしをひく。

从手奇聲。(左氏、襄十四)晉人角心之、諸侯攜之。(注)掎之、掎其足也。(漢書、敍傳上)吾族、則李氏是新室之讎人。師古曰、掎、偏持其足也。(後漢書、班固傳上)掎、弦不一再控。(注)說文曰、掎、偏引也。⑩後漢書、崔駰傳、敍言)事者、崔駰傳上)掎止裴氏焉。(注)從後曰掎。(後漢書、夫妻傳)卻掎、縛引。(注)師古曰、掎、從後引之也。(後漢書、崔駰傳、敍言)事者、崔駰傳上)掎、偏持其足也。(後漢書、班固傳上)掎、弦不一再控。(注)說文曰、掎、偏引也。⑩後漢書、崔駰傳、敍言)事者、崔駰傳上)掎止裴氏焉。(注)從後曰掎。(後漢書、夫妻傳)卻掎、縛引。(注)師古曰、掎、從後引之也。(

【拲】 12255

キ

掎〔6—12254〕に同じ。〔集韻〕

【排】 12256

ハイ（集韻）薄皆切　匪

ヒ（集韻）步拜切　敗

ヘイ（集韻）步拜切　國

𢷬 小篆文。推也。从手非聲。〔說文〕

𢷬 ❶おす。❷おしのける。〔說文〕推也。从手非聲。何遠說：擬輕薄貌。〔楚辭・九懷・匡機〕：「羣雌妒嫉兮、排我而不忠。」〔注〕：排、擠也。❸おしひらく。廣雅・釋詁二〕排、推也。〔韓・外儲・說左上〕：「排戶內者、人而已矣。」〔後漢書・賈逵傳〕：「諸儒內慎不服、相與排之。」〔注〕：排、猶却也。❹はらふ。のぞく。〔史記・魯仲連傳〕：「人排患釋難。」〔劉考儀・馳別賦〕：「姜武排而不卻。」❺疏通する。〔孟子・滕文公上〕：「決汝漢、排淮泗。」〔集注〕：「排、導其流使通。」❻進退する。〔荀子・性惡〕：「排而不得、排檄則不能。」自正。〔注〕：「排、謂『蹉』也。」❼ためる。〔荀子・性惡〕：「排而不得、排檄則不能。」自正。〔注〕：「排、謂『蹉』也。」❽土を盛りふさぐ。〔孟子・滕文公上〕：「決汝漢、排淮泗。」〔注〕：「排、塞也。」❾つつみ。隄防。〔水經・淮水〕：「淮水又東、逕壽陽縣北、……北有芍陂、……陂水又東、……排淮入淝。」〔注〕：「稱、今之堰排也。」〔太輔子・孫子〕：「排、馬策用。」〔朱子語類〕：「……排、……」❿ならべる。〔說文通訓定聲〕：「排、假借爲『斐』。按、今排偶字當作『斐』。排、列也。〔沈約・注〕：「制旨連珠・表〕：「連珠者、蓋謂、綜句連機、互相發明、若珠之結排也。〔白居易・春題湖上〕：「詩成排山面、千重翠微。」〔元稹・上・詩啓〕：「往歲排・篇韻・別韻・新調、……今商隱後輩、懼輩、……」〔注〕：「……」⓫ならび。〔白居易・新調〕：「……」⓬ならべる。〔白居易・新調〕：「……」⓭ならび。〔白居易・新調〕：「……」⓮ならべる。〔白居易・新調〕：「……」⓯ならび。〔白居易・新調〕：「……」⓰ならべる。〔白居易・新調〕：「……」⓱ならび。〔白居易・新調〕：「……」⓲ならべる。〔白居易・新調〕：「……」⓳ならび。〔白居易・新調〕：「……」⓴ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉑ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉒ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉓ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉔ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉕ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉖ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉗ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉘ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉙ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉚ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉛ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉜ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉝ならび。〔白居易・新調〕：「……」㉞ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㉟ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊱ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊲ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊳ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊴ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊵ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊶ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊷ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊸ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊹ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊺ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊻ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊼ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊽ならべる。〔白居易・新調〕：「……」㊾ならび。〔白居易・新調〕：「……」㊿ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(1)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(2)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(3)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(4)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(5)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(6)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(7)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(8)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(9)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(10)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(11)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(12)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(13)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(14)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(15)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(16)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(17)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(18)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(19)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(20)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(21)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(22)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(23)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(24)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(25)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(26)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(27)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(28)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(29)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(30)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(31)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(32)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(33)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(34)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(35)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(36)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(37)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(38)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(39)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(40)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(41)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(42)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(43)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(44)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(45)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(46)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(47)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(48)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(49)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(50)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(51)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(52)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(53)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(54)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(55)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(56)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(57)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(58)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(59)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(60)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(61)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(62)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(63)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(64)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(65)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(66)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(67)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(68)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(69)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(70)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(71)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(72)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(73)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(74)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(75)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(76)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(77)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(78)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(79)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(80)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(81)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(82)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(83)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(84)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(85)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(86)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(87)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(88)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(89)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(90)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(91)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(92)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(93)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(94)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(95)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(96)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(97)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(98)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(99)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(100)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(101)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(102)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(103)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(104)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(105)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(106)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(107)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(108)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(109)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(110)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(111)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(112)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(113)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(114)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(115)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(116)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(117)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(118)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(119)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(120)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(121)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(122)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(123)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(124)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(125)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(126)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(127)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(128)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(129)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(130)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(131)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(132)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(133)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(134)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(135)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(136)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(137)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(138)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(139)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(140)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(141)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(142)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(143)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(144)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(145)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(146)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(147)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(148)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(149)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(150)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(151)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(152)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(153)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(154)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(155)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(156)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(157)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(158)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(159)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(160)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(161)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(162)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(163)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(164)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(165)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(166)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(167)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(168)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(169)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(170)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(171)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(172)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(173)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(174)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(175)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(176)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(177)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(178)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(179)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(180)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(181)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(182)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(183)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(184)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(185)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(186)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(187)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(188)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(189)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(190)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(191)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(192)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(193)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(194)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(195)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(196)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(197)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(198)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(199)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(200)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(201)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(202)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(203)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(204)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(205)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(206)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(207)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(208)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(209)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(210)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(211)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(212)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(213)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(214)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(215)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(216)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(217)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(218)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(219)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(220)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(221)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(222)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(223)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(224)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(225)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(226)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(227)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(228)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(229)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(230)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(231)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(232)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(233)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(234)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(235)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(236)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(237)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(238)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(239)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(240)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(241)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(242)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(243)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(244)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(245)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(246)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(247)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(248)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(249)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(250)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(251)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(252)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(253)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(254)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(255)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(256)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(257)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(258)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(259)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(260)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(261)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(262)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(263)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(264)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(265)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(266)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(267)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(268)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(269)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(270)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(271)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(272)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(273)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(274)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(275)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(276)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(277)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(278)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(279)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(280)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(281)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(282)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(283)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(284)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(285)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(286)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(287)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(288)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(289)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(290)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(291)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(292)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(293)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(294)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(295)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(296)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(297)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(298)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(299)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(300)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(301)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(302)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(303)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(304)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(305)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(306)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(307)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(308)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(309)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(310)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(311)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(312)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(313)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(314)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(315)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(316)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(317)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(318)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(319)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(320)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(321)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(322)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(323)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(324)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(325)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(326)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(327)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(328)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(329)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(330)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(331)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(332)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(333)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(334)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(335)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(336)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(337)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(338)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(339)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(340)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(341)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(342)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(343)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(344)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(345)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(346)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(347)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(348)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(349)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(350)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(351)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(352)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(353)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(354)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(355)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(356)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(357)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(358)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(359)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(360)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(361)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(362)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(363)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(364)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(365)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(366)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(367)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(368)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(369)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(370)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(371)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(372)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(373)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(374)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(375)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(376)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(377)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(378)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(379)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(380)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(381)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(382)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(383)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(384)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(385)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(386)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(387)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(388)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(389)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(390)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(391)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(392)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(393)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(394)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(395)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(396)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(397)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(398)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(399)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(400)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(401)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(402)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(403)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(404)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(405)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(406)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(407)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(408)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(409)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(410)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(411)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(412)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(413)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(414)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(415)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(416)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(417)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(418)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(419)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(420)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(421)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(422)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(423)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(424)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(425)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(426)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(427)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(428)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(429)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(430)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(431)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(432)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(433)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(434)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(435)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(436)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(437)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(438)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(439)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(440)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(441)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(442)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(443)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(444)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(445)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(446)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(447)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(448)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(449)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(450)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(451)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(452)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(453)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(454)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(455)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(456)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(457)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(458)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(459)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(460)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(461)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(462)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(463)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(464)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(465)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(466)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(467)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(468)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(469)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(470)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(471)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(472)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(473)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(474)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(475)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(476)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(477)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(478)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(479)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(480)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(481)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(482)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(483)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(484)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(485)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(486)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(487)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(488)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(489)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(490)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(491)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(492)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(493)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(494)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(495)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(496)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(497)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(498)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(499)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(500)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(501)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(502)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(503)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(504)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(505)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(506)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(507)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(508)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(509)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(510)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(511)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(512)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(513)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(514)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(515)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(516)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(517)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(518)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(519)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(520)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(521)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(522)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(523)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(524)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(525)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(526)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(527)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(528)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(529)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(530)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(531)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(532)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(533)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(534)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(535)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(536)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(537)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(538)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(539)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(540)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(541)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(542)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(543)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(544)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(545)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(546)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(547)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(548)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(549)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(550)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(551)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(552)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(553)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(554)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(555)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(556)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(557)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(558)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(559)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(560)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(561)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(562)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(563)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(564)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(565)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(566)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(567)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(568)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(569)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(570)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(571)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(572)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(573)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(574)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(575)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(576)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(577)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(578)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(579)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(580)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(581)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(582)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(583)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(584)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(585)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(586)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(587)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(588)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(589)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(590)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(591)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(592)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(593)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(594)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(595)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(596)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(597)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(598)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(599)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(600)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(601)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(602)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(603)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(604)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(605)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(606)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(607)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(608)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(609)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(610)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(611)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(612)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(613)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(614)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(615)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(616)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(617)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(618)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(619)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(620)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(621)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(622)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(623)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(624)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(625)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(626)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(627)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(628)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(629)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(630)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(631)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(632)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(633)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(634)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(635)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(636)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(637)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(638)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(639)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(640)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(641)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(642)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(643)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(644)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(645)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(646)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(647)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(648)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(649)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(650)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(651)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(652)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(653)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(654)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(655)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(656)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(657)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(658)ならべる。〔白居易・新調〕：「……」(659)ならび。〔白居易・新調〕：「……」(

【排道】[illegible] おしやる。おしのける。「往牧上帝」

【排柜】[illegible] 泥手・其心・言葉。排道。朱子全書・學立

【排擠】[illegible] 心・處事・若天我投道者・只是古人所道・[illegible]

【排戶】[illegible] 有人不可・[illegible]・[illegible]・[illegible]

【排戶】[illegible] 戶を持以自比・則可以少安・[illegible]

【排戶】[illegible] 戶を持・[illegible]・[illegible]

乃是古文臨字。

雖乃是古臨字。

雲雷書。排雲雷書。

也。（文選、魏都賦、李善注）

忠（）（）（）

藁而吹蓋 特輪排擊矣。

【排蕩】排蕩 ○○○○ 蕩洲朝廷を斥けて漢人の政府を奪って清末革命の主張した。

【排釋】排釋 ○○○○ 釋を押し分ける。（晉書、游仙詩）蓋欲奮翅排雲霧、笑看歐鷗排矢鏑。（同、詩）排雲而起、蔡、綾、洞泉而去、綠。

【排擊】排擊 ○○○○ 敵を押し分ける。（晉書、陸機、辯亡論）於是整容投刺、暖鏑排門、全吏陳規傳、傾蓋而投、蔡、綾、洞泉而去、綠。

【排門】排門 ○○○○ 門前の人。（遷魂記、索元、排門的問到那裏。）（同、詩）門前各自一戶、戶前各自一人。（遷魂記、索元、排門的問到那裏。）（同、詩）排門粉壁頭、民間各自一戶、戶前各自一人。（遷魂記、索元、排門的問到那裏。）（同、詩）排門粉壁頭、民間各自一戶、戶前各自一人。（遷魂記、索元、排門的問到那裏。）（同、詩）排門粉壁頭、民間各自一戶、戶前各自一人。（遷魂記、索元、排門的問到那裏。）

【排蕩】排蕩 ○○○○ 蕩洲朝廷を斥けて漢人の政府を奪って清末革命の主張した。

【排釋】排釋 ○○○○ 釋を押し分ける。（晉書、游仙詩）蓋欲奮翅排雲霧、笑看歐鷗排矢鏑。（同、詩）排雲而起、蔡、綾、洞泉而去、綠。

【排擊】排擊 ○○○○ 敵を押し分ける。（晉書、陸機、辯亡論）於是整容投刺、暖鏑排門、全吏陳規傳、傾蓋而投、蔡、綾、洞泉而去、綠。

【排門】排門 ○○○○ 門前の

〔12262〕—〔12264〕

【掖】12262 エキ（集韻）演袋切 匿 ヤク

掖 ①ひだりをとる。（説文）掖、曰手持人臂也、从手夜聲。（左氏、隱二年）持人臂也。（玉篇）掖、腋外也。ひきぼさむ。後漢書、張衡傳、腋外也。（文選、西京賦、李善注）掖、謂挾持其臂。（後漢書、馮魴傳、李賢注）掖、謂挾持其臂。（後漢書、竇憲傳）掖、謂挾之而投於城外也。②たすける。（詩、陳風、衡門序、注）掖其臂。（後漢書、馮魴傳、李賢注）掖、扶持也。③わき。わきのした。（説文）掖、腋也。（玉篇）掖、腋下。（廣韻）掖、腋也。（集韻）掖、腋、或作亦。④國名。（集韻）掖、國名。（玉篇）掖、亦作。⑤姓。（集韻）掖、亦姓。⑥圓巻をとりまく。かかげる。（説文）掖、曰圓巻也。（玉篇）掖、禁巻。（後漢書、太子少傅蘇張神通碑、東西掖閣備出美之美。）助けみちびく。（詩、閟10、52525）也に同じ。

【掖】12263 エキ（集韻）演可切 匿 ヤク

掖 ①天子の宮殿の傍にある門。轉じて宮殿。（説文）掖、曰宮殿旁門也。（玉篇）掖、宮殿旁門。（廣韻）掖、宮殿旁門。（集韻）掖、宮殿旁門。（文選、西京賦、薛綜注）掖、謂相去遠、隔此西掖、中書舊掖、西掖、則公卿詩、謂謂相去遠、隔此西掖、中書舊掖、西掖、則侍郎詩、謂謂相去遠、隔代、中書門下の兩省を「西掖」と呼ぶ。（唐書、權德輿傳）德輿知制誥、兩省（元和）事、又來謂之曰、掖下之地、書自故事、三省類、西掖、中書舊掖、西掖、則公卿詩、謂謂相去遠、隔（注）掖、云云、般旁也曰、掖、謂宮殿旁、謂謂相去遠、隔（後漢書）、張衡傳、掖、謂相去遠、隔、（文選、西京賦、薛綜注）掖、謂相去遠、隔、（文選、西京賦、李善注）掖、謂相去遠、隔、（文選、西京賦、李善注）掖、謂相去遠、隔、（文選、西京賦、李善

體。掘若稿木。㊀或は闕。11・414560。掘

(6・1282676)に作り「又撃(6・127739)に書文通訓定聲」掘、左氏僖二十五、闕、地下

水。而林虞、以闕爲之。㊁―うがつ。㊂の

●に同じ。撃部、穿也。

顔掘、掘也。図つたない。掘(6・119565)に

月、古掘字。亦作掘。

掘穿 熟語は掘3 52255 を参照。

[掘出] ㊀ 土を掘って発見する。

[掘地] ㊀ 土を掘って地下に潜む。君臣が朝夕

に衣服を易へるが如く、況に土室に身を居れば

ること、人が位に在るが如く、況に土室に身を居れば

[掘地] ㊀ 地を掘って地下に身を隠す。掘地は

なお、闕は欲いれる。又、況に地を掘って出た

時にすがりしていきま、闕は掘地を掘って出た

者歟。軍紀部掘地闕。[傳]掘闕、容

間也。[箋]掘闕、地中空間。謂其始生時、

土裏化生、其間於此、出於地中。疏此蟲

而出、形容闕也。[傳]疏、疏也。[箋]引

詩作掘地、非。[疏]掘闕、空、謂地空、

猶土塊也。云云、公風、我射不閑、容

也。連西日、容閑、容特、容特、言行苦居、土塊

体公司詩也。[箋]掘闕、以喻、小人在位、

[掘地] ㊀ 地を掘って地下に潜む。

[掘地] ㊀ 地を掘って地下に潜む。

[掘地] ㊀ 地を掘って地下に潜む。

【掙出】 chēng chū. つよめ育つて出る。(潮音後社、釋文)掙、京本作掛。掛(6、113、229)に同じ。(集韻)挂、說文、書也、二曰、畫也。通作掛。

【掙】 chēng. 振切る。離れて自由になる。

【掙得】 chēng dé. 得る。儲ける。

【掙命】 chēng mìng. 命がけ。

【掙不開】 chēng bù kāi. 開き得ない。

【掙吃掙穿】 chēng chī chēng chuān. 働いて衣食する。衣食の費をかせぐ。

【掙】 12266

□ ㄗㄥˋ (集韻)直證切 澄

□ ㄓㄥˋ (集韻)力滿切 澄

□ かさぐる。(集韻)捕、整飾也。春秋傳曰、御下掙馬。●按 1、14589に通ず。(周禮、夏官、環人、注)春秋傳曰、云云、御下掙馬、(左氏、宣、十二)御下兩馬、(釋文)掙、徐云、或作掙、云云、飾也。

【掛】 12267

ㄍㄨㄚˋ (集韻)古賣切 見

《ㄨㄚˋ kuà

ㄍㄨㄚ (集韻)古賢切 見

●かかる。かかげる。(易、繫辭上)掛一以象三。(古詩、爲焦仲卿妻、作)自掛東南枝。(唐書、李密傳)以蒲纏牛、掛漢書。(晉書、陳安傳)以蒲纏牛、掛漢書。(晉書、陳角上、行百)讀之。

●とる。わけとる。(集韻)掛、別也。●通じて

掛甲錢 (唐)。●かかわり示す。(馬總意、馬氏文通序)掛。

(漢、馬、知所不免)。

(掛引) 。●戰機を見て軍兵を進退させる。(賓客、日)知甲錢、見明帥。

由此觀之公私重困。

(掛合) 。はなし。談合。交渉。(唐、劉)交書の文。

(掛乞) 。手伝ひなどを掛けること。

(掛金) 。定の額。達するまで。

(掛合臺詞) 。つゝ。

(掛帶) 。

(掛幾) 。

(掛幾) 。

(掛幾

手部（八畫）掛

【掛劍】jì kuà, guà ●劍を かける。 延陵の季子が徐君の墓に剣を掛ける。 其の地は安徽省泗州市の北、白一千五里といい、史記、呉太伯世家「季札之使也、徐君観季札佩剣口未敢言、季札心知之、為使上国未献也、還至徐、徐君已死、乃解其宝剣、繫之冢右而去、徐君曰、徐君已死、曾以心許、吾心岂以死倍之哉」。 ●松の名 黄の説は誤り此に剣を掛ける一名掛剣松 古名相傳、詳産曾掛剣松此。

【掛減】jì kuà, jiǎn 糸 ●糸を掛けて減ずること。

【掛課】jì kuà, kè 言部 連業

【掛結】jì kuà, jié 糸 ●糸の長さの時に結を掛け連ねること。

【掛鎖】jì kuà, suǒ 金 ●鎖を掛ける。

【掛網】jì kuà, wǎng 糸 ●網を掛ける。

【掛鈎】jì kuà, gōu 金 ●鈎を掛ける。

【掛鉤】jì kuà, gōu 金 ●鉤を掛ける。

【掛課】jì kuà, kè 言部 ●課業を遂行する。

【掛冠】jì kuà, guān 冖 ●冠を掛ける。 ●官を辞する。

【掛角】jì kuà, jiǎo 角 ●角を掛ける。

【掛弧】jì kuà, hú 弓 ●弧を掛ける。

【掛号】jì kuà, hào 言部 ●号を掛ける。 ●名を掛ける。

【掛帆】jì kuà, fān 巾 ●帆を掛ける。 ●出帆する。

【掛鉤】jì kuà, gōu 金 ●鉤を掛ける。

【掛鈎】jì kuà, gōu 金 ●鉤を掛ける。

【掛鉤】jì kuà, gōu 金 ●鉤を掛ける。

【掛鈎】jì kuà, gōu 金 ●鉤を掛ける。

【掛鉤

〔掛罣〕kua4 kua4 ①。厄介をかける。心配をかける。●漢語。掛搭。

〔掛箇〕kua4 ge4 lian2。濃厚。結構。記載漏れ。書き落し。「掛漏」6（12820・33）に同じ。

〔掛樓〕kua4 lou2 kuan1。ルコニー。露台。

〔掛衣架〕kua4 yi1 jia4 ➡衣架をかける。●衣桁。

〔掛保證〕kua4 bao3 zheng4。古物商。

〔掛幌子〕kua4 huang3 zi0 ●看板をかける。●商賣をはじめる。

〔掛彩子〕kua4 cai3 zi0。祝賀の時門口に紅色の綵布を垂れさげること。綵紅。

〔掛主票〕kua4 zhu3 piao4。初めて人の手形を無效金融行に出ること。

〔掛牌〕kua4 pai2。張紙を掲げた三夜の遊戯。「掛牌大全」（張恵生編）収。

〔掛牌〕kua4 pai2。看板。●代業。

〔掛搭〕kua4 da0。掛賣の代業。

〔掛搭堂〕kua4 da0 tang2。路傍に設けて小憩に供する茶屋。よしず茶屋。

〔掛帳子〕kua4 zhang4 zi0。蚊帳をかける。とばりをかける。

〔掛得住〕kua4 de0 zhu4。機能する。

〔掛得牢〕kua4 de0 lao2。●掛けられない。●大いに駄目。

〔掛鼎兒〕kua4 ding3 r0。●ゲラを張にした掛物。又、額の類。●西餅。

〔掛樓〕kua4 lou2。掛花紙。

〔掛壞頭〕kua4 huai4 tou0。掛賣を始めて賣る。

〔掛鬼零兒〕kua4 gui3 ling2 r0。掛賣を始めて賣る。

〔掛鬼零兒〕kua4 gui3 ling2 r0。掛賣を始めて賣る。

掘 12268

日イ（集韻）烏計切 𣪍
日ケイ（集韻）苦計切 𣪍
日ヂ（集韻）尼佳切 𣪍
圓ケチ（正韻）魚列切 𣪍

掖 12269

日ヨク（正韻）羊益切 𣪍
日コク（集韻）苦域切 𣪍

日〜くらい。惡。（6－10786）に通ず。掖城。（荀子、不苟）其誰能以己之微微受人之掖掖者哉。（注）掖掖、微貌。掖、當爲惑。日〜こ。（廣雅・釋詁二）掖、殺也。（集韻）掖、或从子、不苟。其誰能以己之微微受人之掖掖者哉。（注）掖掖、微也

る。〔穆天子傳五〕命虞人採林。〔注〕採、謂斬伐。伐之〔左傳〕鄭伯謂雍糾曰、雖把、金刀、掠林。❸むちうつ。杖でたたく。罪人に適用。〔廣韻〕採、笞也。治也。〔集韻〕採、撻也。〔釋名〕釋飾制、延而死曰、採、採也、用威大敗、如斬伐曰、採、採也。〔切經音義九〕〔蒼頡篇〕採、削也、謂擇捶法人也。〔禮記〕合、律、採、〔注〕採、謂、捶法人。〔釋文〕採、捶也。〔唐書、嚴郊傳〕楚掠人、採鞭、成其罪。❹或は創 12－20358 に作る。〔集韻〕採、或从「刀」。〔切經音義二二〕採、聲類作、剝、同。

〔名義〕クタ。

〔採〕ヒ。。ふりたてるあめ。〔左思、魏都賦〕注〕採、振雨貌。採雨。

〔採〕ヒ。。むちうちしかる。罪人を拷問する。〔後漢書、章帝紀〕日、注吾本人、〔注〕採、採考。〔後漢書、崔駰傳〕客問駰曰、採、採考。

〔採郎〕ヒ。。敵びと、敵の郷を掠の取ること。

〔採助〕ヒ。。手伝いおびやかす。〔世說新語、自新篇〕機、社〔周處〕清、輕薄害蓋。〔戴、逵〕侯、少傳序〔逸禮集傳〕宮女侵民、僅共力全、理、律、採、〔注〕採、謂、捶法人。〔釋文〕採、捶也。〔唐書、嚴郊傳〕楚掠人、採鞭、成其罪。❹或は創 12－20358 に作る。〔集韻〕採、或从「刀」。〔切經音義二二〕採、聲類作、剝、同。

〔採〕ヒ。。ふりたてるあめ。〔左思、魏都賦〕注〕採、振雨貌。採雨。

〔採〕ヒ。。むちうちしかる。罪人を拷問する。〔後漢書、章帝紀〕日、注吾本人、〔注〕採、採考。〔後漢書、崔駰傳〕客問駰曰、採、採考。

〔採郎〕ヒ。。敵びと、敵の郷を掠の取ること。

〔採助〕ヒ。。手伝いおびやかす。〔世說新語、自新篇〕機、社〔周處〕清、輕薄害蓋。〔戴、逵〕侯、少傳序〔逸禮集傳〕宮女侵民、僅共力全、理、律、採、〔注〕採、謂、捶法人。〔釋文〕採、捶也。〔唐書、嚴郊傳〕楚掠人、採鞭、成其罪。❹或は創 12－20358 に作る。〔集韻〕採、或从「刀」。〔切經音義二二〕採、聲類作、剝、同。

〔採〕ヒ。。髪を整へる具。けずりだて。髪。〔名義〕髪、櫛。〔注〕司徒曹、侍中、中書令、尚書、尚書令、僕射、令、尉、〔注〕採、考。〔後漢書、崔駰傳〕客問駰曰、採、採考。

〔採〕ヒ。。笞。〔廣韻〕採、笞也。治也。〔集韻〕採、撻也。〔釋名〕釋飾制、延而死曰、採、採也、用威大敗、如斬伐曰、採、採也。〔切經音義九〕〔蒼頡篇〕採、削也、謂擇捶法人也。〔禮記〕合

【採桑】[tsʰɔi̯ sɔŋ]　①わっとる。【漢列女傳、陳留女傳】[原文省略]「陳留採桑之女也。」【漢列女傳、陳留女傳】[原文省略]「陳留採桑之女也。」【漢書、郊祀志、上、顏師古注】[原文省略]「採桑者、陳留之地名

總德氏傳配吳姻通）古文所採（雜也。（後漢書四論（人吳英）（後漢書）蔡儀傳（雜書採）（魏書）

【採船】（唐書）（船名）（唐書）

【採蓮】（樂府詩集）（清商曲辭）（採蓮曲）（武帝作。江南弄。採蓮曲。（樂府詩集）（清商曲辭）（採蓮曲）（梁

（10－36686）に通ず。（後漢書・郭躬傳論）捨・狀（魏書・王肅傳）・況（晉書・王濬傳）・況（晉書・趙絡傳）・況（晉書・趙絡傳）・況（晉書・趙絡

春之賓。

【探春花】tan1 chun1 huo1。植物の名。厚春花を開き、芳名を紳す。

【探春会】tan1 chun1 hui4。詞語此詞。

【探春令】tan1 chun1 ling4。梅花。故名探春。蘇洗詞有「蕭隨境界世世知。名探春」。黒龍集「能改斎漫録」東宗夫人墓誌「詩文之作、光石「長短句」蓋の外に遊ぶ。

【探春之遊】tan1 chun1 zi1 you2。春の旅をさぐって郊外に遊ぶこと。

【探丸】tan1 wan2。「問元天寶年中、鑑花」。長安士子欲、春時花既開、以寄花多為酒、時一日、子乗而往、探丸於中、以備春時之飲。

【探訓】tan1 xun4。さぐり問い問う会せる。

【探勝】tan1 sheng4。山水の勝景をさぐりあるく。「蘇軾「白口遺百鳥、黙然一見日」。長江、「自然と詩人」。

【探求】tan1 qiu2。心理をさぐる。「別子、「思問」。

【探情】tan1 qing2。情況をさぐる。「自然と詩人」。

【探風】tan1 feng1。自然の妙理をもとめる。「唐書「駱宰伝」。

【探書】tan1 shu1。さぐりしべる。

【探索】tan1 suo3。「唐書「呂温伝」。「詩「駱賓王「詩」。

【探心】tan1 xin1。心理をさぐる。「別子、「思問」。

【探信】tan1 xin4。「問元天寶年中、鑑花」。

【探訪】tan1 fang3。さぐりたずねる。「探索に同じ。

【探尋】tan1 xun2。さぐりたずねる。「法書要録「薛稷「水」。

【探水】tan1 shui3。水の深さをさぐる。

【探水人】tan1 shui3 ren2。前から、事の起こるのを知る人。

【探】tan4。こっそりとうかがう。「後漢書「班固傳上」。

故探。「伊南記「視」集所「聞」以為」。「漢書。

【探索】tan4。探索。探知。

【探探】tan4。探索して探索。「梁志「「新語」。

【探探】tan4。探索して探索知る。「梁志「「新語」。

【探測】tan4。さぐりはかる。「後漢「「新語」中「聞」。

【探穿】tan4。探索。「「新語」。

【探丸】tan4。「「新語」。

【探通】tan4。「「新語」。

【探】tan4。こっそりとうかがう。「後漢書「班固傳上」。

故探。「伊南記「視」集所「聞」以為」。「漢書。

【探索】tan4。探索。探知。

【探探】tan4。探索して探索知る。「梁志「「新語」。

【探探】tan4。探索して探索知る。「梁志「「新語」。

【探測】tan4。さぐりはかる。「後漢「「新語」中「聞」。

【探穿】tan4。探索。「「新語」。

【探丸】tan4。「「新語」。

【探通】tan4。「「新語」。

【探】tan4。探索。探知。

【探】tan4。探索。探知。

【探】tan4。探索。探知

宮都御史海至[illegible]五月遠鑑[illegible]以百官帖子上[illegible]直[illegible]高下[illegible]敬[illegible]遂[illegible]以高[illegible]敬[illegible]

〔掣肘〕[illegible]。[illegible]。[illegible]。

【掷】12278

セイ 𢾊 回 製

ヒョウ（集韻）悲幾切 𢾊

●やつつのふた。（説文）掷、所以覆天也、从手朋聲。詩曰、抑釋掤忘。（詩）抑風、大板于田。掤釋、掤忘。（傳）掤、所以覆矢。釋文、掤、所以覆矢也。（毛詩）毛亨傳、百二十六、掤、所以覆矢也。謂、箭筒蓋。●通じて水（6、17087）に作る。（集韻）掤通作、氷。

【捌】12279

（三）ハツ（集韻）部沛切 曰一世 chuò 泣

（集韻）敕劫切 𢾊 𢾊

（集韻）敕劫切 𢾊 𢾊

●捌は、まじわる。まじへる。（説文）捌、交也。从手𢾊聲。（禮）表記、君子之接如水。（注）捌、或為交。（呂覽、懷寵）不以捌、以力。（注）捌、交。（淮南子、原道訓）知以物捌、而所留生矣。（注）捌、交。（説苑、修文）捌、以手朋

〔接部〕ㄐㄧㄝ　つぎ合はせる。相接する。接近し人
物を接遇取同、禮也、則接論相相接。
〔接間〕ㄐㄧㄝ　間は里門。轉じて、
むらさと。「任昉、爲范雲書」讓吏部封侯、第一
〔接絕〕ㄐㄧㄝ　ㄐㄩㄝ　接遇連續外の接續。
保護、接給相與者、請之家、(注)接絕、同慶。
所臨而給也。(大戴禮、文王官人)「取」接給而慶。
〔接埒〕ㄐㄧㄝ　ㄌㄧㄝ　埒、馬場。接埒、(史記、晉世
家)「成王曰、楚遂數敗、而至晉、秦晉接境、秦
君賢子其勉力!」論衡、說日)「亂國接埒、
夫を見ず。●埒と接ずるを、後をつぐ、
〔接輪〕ㄐㄧㄝ　ㄌㄨㄣ　輪をつぐ、
るをいひ、又、其の者、(文字集略)「任宣、
〔接續〕ㄐㄧㄝ　ㄒㄩ　接續、接續、(大唐
〔接續〕ㄐㄧㄝ　ㄒㄩ　接續、(史記、晉世
家)「成王曰、楚遂數敗、而至晉、秦晉接境、秦
君賢子其勉力!」論衡、說日)「亂國接埒、
〔接腦夫〕ㄐㄧㄝ　ㄋㄠˇ　人、天、
夫を見ず。●接と接ずるを、後をつぐ、
〔接腦夫〕ㄐㄧㄝ　ㄋㄠˇ　人に接して後をつぐ。(南史、后
妃武、)「皆腦夫」(書儀、)「王慶、腦人
〔接武〕ㄐㄧㄝ　ㄨˇ　人に接して後をつぐ。(南史、后
妃武、)「皆腦夫」(書儀、)「王慶、腦人
〔接近〕ㄐㄧㄝ　ㄐㄧㄣˋ　近づく。ちかづく。ちかよる。(呂覽、知
士、)「(孟嘗君)賢士、(注)接近、(後漢
書、)「(注)接近、(後漢
書、)「(注)接近、(後漢
書、)「

手部（八畫）接

接受。❸相接。❹連。❺交。❻接續。❼接近。❽接待。❾接觸。❿接合。⓫接收。⓬接納。⓭接種。⓮接枝。⓯接木。⓰接穀。⓱接力。⓲接續。⓳接近。⓴接合。㉑接收。㉒接納。㉓接種。㉔接枝。㉕接木。㉖接穀。㉗接力。

【接受】jiē shòu 接納。受取。〔福惠全書・教養部・教子〕「凡教子弟，必須時時提撕警醒，隨時隨事，指點開導，使知人情物理，方能接受。」

【接物】jiē wù 接待人。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接待】jiē dài 接待。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接觸】jiē chù 接近。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接合】jiē hé 接合。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接收】jiē shōu 接受。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接納】jiē nà 接受。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接種】jiē zhǒng 接種。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接枝】jiē zhī 接枝。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接近】jiē jìn 接近。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接近。❷接觸。❸接合。❹接收。❺接納。❻接種。❼接枝。❽接木。❾接穀。❿接力。⓫接續。⓬接近。⓭接合。⓮接收。⓯接納。⓰接種。⓱接枝。⓲接木。⓳接穀。⓴接力。㉑接續。㉒接近。㉓接合。㉔接收。㉕接納。㉖接種。㉗接枝。㉘接木。㉙接穀。㉚接力。㉛接續。

【接觸】jiē chù 接觸。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接合】jiē hé 接合。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接收】jiē shōu 接收。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接納】jiē nà 接納。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接種】jiē zhǒng 接種。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接枝】jiē zhī 接枝。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接近。❷接合。❸接收。❹接納。❺接種。❻接枝。❼接木。❽接穀。❾接力。❿接續。⓫接近。⓬接合。⓭接收。⓮接納。⓯接種。⓰接枝。⓱接木。⓲接穀。⓳接力。⓴接續。㉑接近。㉒接合。㉓接收。㉔接納。㉕接種。㉖接枝。㉗接木。㉘接穀。㉙接力。㉚接續。

【接近】jiē jìn 接近。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接合】jiē hé 接合。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接收】jiē shōu 接收。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接納】jiē nà 接納。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接種】jiē zhǒng 接種。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接枝】jiē zhī 接枝。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接合。❷接收。❸接納。❹接種。❺接枝。❻接木。❼接穀。❽接力。❾接續。❿接合。⓫接收。⓬接納。⓭接種。⓮接枝。⓯接木。⓰接穀。⓱接力。⓲接續。⓳接合。⓴接收。㉑接納。㉒接種。㉓接枝。㉔接木。㉕接穀。㉖接力。㉗接續。

【接合】jiē hé 接合。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接收】jiē shōu 接收。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接納】jiē nà 接納。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接種】jiē zhǒng 接種。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接枝】jiē zhī 接枝。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接種。❷接枝。❸接木。❹接穀。❺接力。❻接續。❼接種。❽接枝。❾接木。❿接穀。⓫接力。⓬接續。⓭接種。⓮接枝。⓯接木。⓰接穀。⓱接力。⓲接續。⓳接種。⓴接枝。㉑接木。㉒接穀。㉓接力。㉔接續。

【接種】jiē zhǒng 接種。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接枝】jiē zhī 接枝。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接木。❷接穀。❸接力。❹接續。❺接木。❻接穀。❼接力。❽接續。❾接木。❿接穀。⓫接力。⓬接續。⓭接木。⓮接穀。⓯接力。⓰接續。⓱接木。⓲接穀。⓳接力。⓴接續。㉑接木。㉒接穀。㉓接力。㉔接續。

【接木】jiē mù 接木。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接穀。❷接力。❸接續。❹接穀。❺接力。❻接續。❼接穀。❽接力。❾接續。❿接穀。⓫接力。⓬接續。⓭接穀。⓮接力。⓯接續。⓰接穀。⓱接力。⓲接續。⓳接穀。⓴接力。㉑接續。

【接穀】jiē gǔ 接穀。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接力。❷接續。❸接力。❹接續。❺接力。❻接續。❼接力。❽接續。❾接力。❿接續。⓫接力。⓬接續。⓭接力。⓮接續。⓯接力。⓰接續。⓱接力。⓲接續。⓳接力。⓴接續。㉑接力。㉒接續。

【接力】jiē lì 接力。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

【接】jiē 接。❶接續。❷接續。❸接續。❹接續。❺接續。❻接續。❼接續。❽接續。❾接續。❿接續。⓫接續。⓬接續。⓭接續。⓮接續。⓯接續。⓰接續。⓱接續。⓲接續。⓳接續。⓴接續。㉑接續。㉒接續。

【接續】jiē xù 接續。〔後漢書・王符傳〕「王符，字節信，安定臨涇人也。……其人……性沉深，……不與人交，……唯與同郡皇甫謐、……等親善，……著書……以……」

印紙を引繰る。
【接續】Tsz̄ tsyoq̄ 。つづいてゐる家のむね。ならびつ
【接踵】Tsz̄ tsyuŋ̄ 。足跡をつぎあはせる。
【接武】Tsz̄ bu 。足跡をつぎあはせる。
【接近】Tsz̄ kin̄ 。近づくこと。
【接納】Tsz̄ nap̄ 。受納。
【接見】Tsz̄ ken̄ 。面會。
【接吻】Tsz̄ fun̄ 。くちづけ。
【接觸】Tsz̄ syoku̇ 。ふれること。
【接足】Tsz̄ tsoku̇ 。すまふこと。
【接足】Tsz̄ tsoku̇ 。本末顛倒。
【接話】Tsz̄ wȧ 。或る話の話に添へて其の意味を強め、又は或る話の味を加へる語。例へば、幾つ善きか、の類。
【接武】Tsz̄ bu 。古、袋下を歩む法。疾足にあらずして、一說に、足を踏まえて足跡を相接するやうに歩むこと。本來、「履、履雜履」の條を參照。
【接武】Tsz̄ bu 。武士道。武士道。武士道。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接近】Tsz̄ kin̄ 。近づくこと。
【接納】Tsz̄ nap̄ 。受納。
【接見】Tsz̄ ken̄ 。面會。
【接吻】Tsz̄ fun̄ 。くちづけ。
【接觸】Tsz̄ syoku̇ 。ふれること。
【接足】Tsz̄ tsoku̇ 。すまふこと。
【接話】Tsz̄ wȧ 。或る話の話に添へて其の意味を強め、又は或る話の味を加へる語。例へば、幾つ善きか、の類。
【接武】Tsz̄ bu 。古、袋下を歩む法。疾足にあらずして、一說に、足を踏まえて足跡を相接するやうに歩むこと。本來、「履、履雜履」の條を參照。
【接武】Tsz̄ bu 。武士道。武士道。武士道。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接近】Tsz̄ kin̄ 。近づくこと。
【接納】Tsz̄ nap̄ 。受納。
【接見】Tsz̄ ken̄ 。面會。
【接吻】Tsz̄ fun̄ 。くちづけ。
【接觸】Tsz̄ syoku̇ 。ふれること。
【接足】Tsz̄ tsoku̇ 。すまふこと。
【接話】Tsz̄ wȧ 。或る話の話に添へて其の意味を強め、又は或る話の味を加へる語。例へば、幾つ善きか、の類。
【接武】Tsz̄ bu 。古、袋下を歩む法。疾足にあらずして、一說に、足を踏まえて足跡を相接するやうに歩むこと。本來、「履、履雜履」の條を參照。
【接武】Tsz̄ bu 。武士道。武士道。武士道。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接近】Tsz̄ kin̄ 。近づくこと。
【接納】Tsz̄ nap̄ 。受納。
【接見】Tsz̄ ken̄ 。面會。
【接吻】Tsz̄ fun̄ 。くちづけ。
【接觸】Tsz̄ syoku̇ 。ふれること。
【接足】Tsz̄ tsoku̇ 。すまふこと。
【接話】Tsz̄ wȧ 。或る話の話に添へて其の意味を強め、又は或る話の味を加へる語。例へば、幾つ善きか、の類。
【接武】Tsz̄ bu 。古、袋下を歩む法。疾足にあらずして、一說に、足を踏まえて足跡を相接するやうに歩むこと。本來、「履、履雜履」の條を參照。
【接武】Tsz̄ bu 。武士道。武士道。武士道。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。
【接種】Tsz̄ syu̇ 。痘苗の植付。

一月十五日の夕刻、紫姑を迎へる行事。蘇州地方の語。

【拐】 12281 テキ チャク

かかげる。 〔篇海〕他歷切 〔集韻〕他歷切 〔類篇〕他歷切 〔集韻〕他歷切 〔篇海〕拐拐也、亦借用。刲。

【拗】 12282 ヨウ

拗 ⊂12282⊃ 12283 の本字。〔字彙〕

〔集韻〕吾貌切 〔類篇〕吾貌切 〔集韻〕烏皓切 〔集韻〕烏皓切 〔集韻〕烏皓

【控手由】ｋｏｎｓｈｕｙｕ　由名。又、今手に伝ふる。四川省雅功縣の西、兩金川の界、米に宿り、鳳も棲む。(金川界、廣袤、紀元前四百年頃、張騫、蜀出の竹杖・邛竹杖を見て、蜀人、曰く、此、何ぞ、之、を、得たるか。)

【控引】ｋｏｕｉｎ　①ひきよせる。②ひかへる。③ひきのばす。④ひきつれる。⑤ひきあてる。⑥ひきあてがふ。⑦ひきあてがひ。⑧ひきあてがひ。⑨ひきあてがひ。⑩ひきあてがひ。⑪ひきあてがひ。⑫ひきあてがひ。⑬ひきあてがひ。⑭ひきあてがひ。⑮ひきあてがひ。⑯ひきあてがひ。⑰ひきあてがひ。⑱ひきあてがひ。⑲ひきあてがひ。⑳ひきあてがひ。㉑ひきあてがひ。㉒ひきあてがひ。㉓ひきあてがひ。㉔ひきあてがひ。㉕ひきあてがひ。㉖ひきあてがひ。㉗ひきあてがひ。㉘ひきあてがひ。㉙ひきあてがひ。㉚ひきあてがひ。㉛ひきあてがひ。㉜ひきあてがひ。㉝ひきあてがひ。㉞ひきあてがひ。㉟ひきあてがひ。㊱ひきあてがひ。㊲ひきあてがひ。㊳ひきあてがひ。㊴ひきあてがひ。㊵ひきあてがひ。㊶ひきあてがひ。㊷ひきあてがひ。㊸ひきあてがひ。㊹ひきあてがひ。㊺ひきあてがひ。㊻ひきあてがひ。㊼ひきあてがひ。㊽ひきあてがひ。㊾ひきあてがひ。㊿ひきあてがひ。

【推】ｔｕｉ　12284

【推索】ｓｕｉｓａｋｕ　つくるを推しこのかる。隧書、孫論、孫子、鈴論、敬忌推例篇。(二十五、猶、移也。(混同、(金川界、廣袤、紀元前四百年頃、張騫、蜀出の竹杖・邛竹杖を見て、蜀人、曰く、此、何ぞ、之、を、得たるか。)

【推】ｔｕｉ　①おしのける。②おしやる。③おしすすめる。④おしすすめる。⑤おしすすめる。⑥おしすすめる。⑦おしすすめる。⑧おしすすめる。⑨おしすすめる。⑩おしすすめる。⑪おしすすめる。⑫おしすすめる。⑬おしすすめる。⑭おしすすめる。⑮おしすすめる。⑯おしすすめる。⑰おしすすめる。⑱おしすすめる。⑲おしすすめる。⑳おしすすめる。㉑おしすすめる。㉒おしすすめる。㉓おしすすめる。㉔おしすすめる。㉕おしすすめる。㉖おしすすめる。㉗おしすすめる。㉘おしすすめる。㉙おしすすめる。㉚おしすすめる。㉛おしすすめる。㉜おしすすめる。㉝おしすすめる。㉞おしすすめる。㉟おしすすめる。㊱おしすすめる。㊲おしすすめる。㊳おしすすめる。㊴おしすすめる。㊵おしすすめる。㊶おしすすめる。㊷おしすすめる。㊸おしすすめる。㊹おしすすめる。㊺おしすすめる。㊻おしすすめる。㊼おしすすめる。㊽おしすすめる。㊾おしすすめる。㊿おしすすめる。

【推】ｔｕｉ　①おしのける。②おしやる。③おしすすめる。④おしすすめる。⑤おしすすめる。⑥おしすすめる。⑦おしすすめる。⑧おしすすめる。⑨おしすすめる。⑩おしすすめる。⑪おしすすめる。⑫おしすすめる。⑬おしすすめる。⑭おしすすめる。⑮おしすすめる。⑯おしすすめる。⑰おしすすめる。⑱おしすすめる。⑲おしすすめる。⑳おしすすめる。㉑おしすすめる。㉒おしすすめる。㉓おしすすめる。㉔おしすすめる。㉕おしすすめる。㉖おしすすめる。㉗おしすすめる。㉘おしすすめる。㉙おしすすめる。㉚おしすすめる。㉛おしすすめる。㉜おしすすめる。㉝おしすすめる。㉞おしすすめる。㉟おしすすめる。㊱おしすすめる。㊲おしすすめる。㊳おしすすめる。㊴おしすすめる。㊵おしすすめる。㊶おしすすめる。㊷おしすすめる。㊸おしすすめる。㊹おしすすめる。㊺おしすすめる。㊻おしすすめる。㊼おしすすめる。㊽おしすすめる。㊾おしすすめる。㊿おしすすめる。

【推】ｔｕｉ　①おしのける。②おしやる。③おしすすめる。④おしすすめる。⑤おしすすめる。⑥おしすすめる。⑦おしすすめる。⑧おしすすめる。⑨おしすすめる。⑩おしすすめる。⑪おしすすめる。⑫おしすすめる。⑬おしすすめる。⑭おしすすめる。⑮おしすすめる。⑯おしすすめる。⑰おしすすめる。⑱おしすすめる。⑲おしすすめる。⑳おしすすめる。㉑おしすすめる。㉒おしすすめる。㉓おしすすめる。㉔おしすすめる。㉕おしすすめる。㉖おしすすめる。㉗おしすすめる。㉘おしすすめる。㉙おしすすめる。㉚おしすすめる。㉛おしすすめる。㉜おしすすめる。㉝おしすすめる。㉞おしすすめる。㉟おしすすめる。㊱おしすすめる。㊲おしすすめる。㊳おしすすめる。㊴おしすすめる。㊵おしすすめる。㊶おしすすめる。㊷おしすすめる。㊸おしすすめる。㊹おしすすめる。㊺おしすすめる。㊻おしすすめる。㊼おしすすめる。㊽おしすすめる。㊾おしすすめる。㊿おしすすめる。

為代・未開・有所・推引 ●おしひく（菅子、禁秘抄）●きりみがく。研究する。雅樂寮。

推減 [ツイ] ●減推 ●減推 ●減推

【推撃】推ゲキ　おしうつこと。〔法苑珠林・右〕是第子令利、推撃使成矣。

【推賢】推ケン　kyoken　挙げ推すこと。

【推賢】推ケン　賢人を推すこと。〔典、周官〕

【推賢讓能】推ケンジョウノウ　賢人を推すこと。〔史記、太史公自序〕推賢讓能、垂拱而治。〔漢書、兒寛傳贊〕推賢相、使任少卿、書〔推賢讓士〕、位于宰相、傷行無聞。

【推倫】推ケン　おしなべる。おしはかる。〔答書、〔漢書、宣元六王傳、史恭王、無賢倫傳〕夫王者、不能推倫、治国以賢。

【推讓】推ジョウ　人を推しふるまい、自らはへりくだること。〔漢書、〔漢書、宣元六王傳、史恭王、義孫傳〕夫人之性、自有所長、推讓、自是內外兼備。

【推引】推イン　次第に進んで論じ及ぼす。〔推論、21〕

【推原】推ゲン　本をおしたづねる。〔推究、26〕に同じ。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕世世推原、以至于今。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推故、以至于今。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推故不受理】推コフジュリ　理由をつけて、事件に推託して訴訟を受理しないこと。〔明律、所訟、告状不受理〕云、問応受而不受理者、〔南蛮通典、蛮書、蛮王之政〕、訴訟告状、必受理。

【推弘】推コウ　おしひろめる。〔弘道館記述義、上〕推弘敬百、以培国脈道。

【推溝】推コウ　民を導いて教化すること。〔成聞文帝、大法頌〕推推之念、有如不足。

【推敵】推テキ　車のこしきを推しつけて車をおすこと。●天子が終を遊ばすときは、自ら車を推すこと。〔漢書、馮唐傳〕、上召主臣、令車上推之。

【推敵】推テキ　車のこしきを推すこと。〔漢書、馮唐傳〕、上召主臣、令車上推之。

【推敵】推テキ　●天子が終を遊ばすときは、自ら車を推すこと。

【推動】推ドウ　人を推しうごかす。〔推論、21〕

【推論】推ロン　論理を推しつめること。〔史記、孟荀列伝〕、推論、自是内外兼備。

【推倫】推ケン　おしなべる。おしはかる。〔答書、〔漢書、宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推倫、以培国脈道。

【推論】推ロン　人を推しふるまい、自らはへりくだること。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推論、自是内外兼備。

【推論】推ロン　論理を推しつめること。〔史記、孟荀列伝〕、推論、自是内外兼備。

【推論】推ロン　次第に進んで論じ及ぼす。〔推引、21〕

【推原】推ゲン　本をおしたづねる。〔推究、26〕に同じ。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕世世推原、以至于今。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推故不受理】推コフジュリ　理由をつけて、事件に推託して訴訟を受理しないこと。〔明律、所訟、告状不受理〕云、問応受而不受理者、〔南蛮通典、蛮書、蛮王之政〕、訴訟告状、必受理。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推敵】推テキ　車のこしきを推しつけて車をおすこと。〔漢書、馮唐傳〕、上召主臣、令車上推之。

【推動】推ドウ　人を推しうごかす。〔推論、21〕

【推論】推ロン　論理を推しつめること。〔史記、孟荀列伝〕、推論、自是内外兼備。

【推倫】推ケン　おしなべる。おしはかる。〔答書、〔漢書、宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推倫、以培国脈道。

【推讓】推ジョウ　人を推しふるまい、自らはへりくだること。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推讓、自是内外兼備。

【推引】推イン　次第に進んで論じ及ぼす。〔推論、21〕

【推原】推ゲン　本をおしたづねる。〔推究、26〕に同じ。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕世世推原、以至于今。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推故不受理】推コフジュリ　理由をつけて、事件に推託して訴訟を受理しないこと。〔明律、所訟、告状不受理〕云、問応受而不受理者、〔南蛮通典、蛮書、蛮王之政〕、訴訟告状、必受理。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推敵】推テキ　車のこしきを推しつけて車をおすこと。〔漢書、馮唐傳〕、上召主臣、令車上推之。

【推動】推ドウ　人を推しうごかす。〔推論、21〕

【推論】推ロン　論理を推しつめること。〔史記、孟荀列伝〕、推論、自是内外兼備。

【推倫】推ケン　おしなべる。おしはかる。〔答書、〔漢書、宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推倫、以培国脈道。

【推讓】推ジョウ　人を推しふるまい、自らはへりくだること。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕推讓、自是内外兼備。

【推引】推イン　次第に進んで論じ及ぼす。〔推論、21〕

【推原】推ゲン　本をおしたづねる。〔推究、26〕に同じ。〔漢書、〔宣元六王傳、史恭王、義陽王劉敞〕世世推原、以至于今。

【推故】推コ　〔推原、〕に同じ。〔西南紀〕復賞罰後聴、好推故、推故不受理。

【推故不受理】推コフジュリ　理由をつけて、事件に推託して訴訟を受理しないこと。〔明律、所訟、告状不受理〕云、問応受而不受理者、〔南蛮通典、蛮書、蛮王之政〕、訴訟告状、必

在節操事將作大匠兼將作大匠兼修造副將之
【推道】[illegible] 所聞別部司馬。推奬。
【推薦】[illegible] 人をおしすすめること。推奬。
（特記、大學生何番目？）公卿請牛推薦、不敢薦
推薦。
【推奬】[illegible] 人をおしあげてほめたたえること。推
奬（文に同じ）。
【推官】[illegible] 本代、大理寺は左寺と右寺に分れ、
左寺は法制の施用を掌り、右寺は獄囚を掌る。推官
は、右寺の官人で、都及び京畿諸の監察官
[illegible]
【推鞫】[illegible] きはたず。（林鶴梁、兄弟止之）
【推鞫官】[illegible] 獄官。
【推鞫官人】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式式】[illegible] 獄官。
【推鞫官人部式令式

以距籍貫三十種以內，定爲其住址地等類。

【推敲】[ts]。推敲之。

【推算】[ts]。推敲之。

【推測】[ts]。忖估而予推測。

【推諉】[ts]。推卸責任。

【推倒】[ts]。推翻之。

【推崇】[ts]。尊敬而推重。

【推進】[ts]。推動之。

【推敦】[ts]。敦厚。

【推廣】[ts]。擴大。

【推論】[ts]。推理。

【推諉】[ts]。推卸責任。

【推論】[ts]。推理。

【推論式】[ts]。推理的方式。

【推論法】[ts]。推理的方法。

【推論學】[ts]。研究推理的學問。

【推敲】[ts]。推考。

【推薦】[ts]。推荐。

【推薦人】[ts]。推荐人。

【推薦書】[ts]。推荐信。

【推薦信】[ts]。推荐信。

【推薦函】[ts]。推荐信。

【推薦狀】[ts]。推荐信

推報 JIS 7-5651 [illegible] ●拒絶する。拒む。加減な理由をつけて拒絶する。●五に罪をなすりつけ

推駁 JIS 7-5652 [illegible] 駁をあたえること。(明史・張[illegible]伝)推難 [illegible]。[illegible]。[illegible]。[

[illegible]、（名者、釋天除而風日掩、蔽也、言掩、短日長、伸大、除也、東京賦、蔽日月、掩、[illegible]、[illegible]、[illegible]

戰聖世擧・春秋之遠制・改列爵之權・使夫功之實不相掩匿・則莫不事職。

【掩討】ｅｎ̀ tǎo 敵の不意を襲って撃つこと。掩襲。（魏志・武帝紀・注・魏氏春秋）「衝四海」

【掩襲】ｅｎ̀ xí 急襲すること。（後漢書・光武帝紀）「謂張掖・掩襲匈奴・新論尚驚・才高駕鴻・掩襲・（注）掩襲・猶襲也。」

【掩射】ｅｎ̀ shè 待ち伏せ撃ち。（後漢書・馮異傳）「謂・掩襲・猶襲也。」

【掩沸】ｅｎ̀ fèi 船を去ってほとばしり出ること。（晉書・陸機傳上・臨子論）「而掩沸・（注）掩・猶去也。」

【掩涕】ｅｎ̀ tì ほとばしりくして涙をながす。（詩・邶風・燕燕）「掩涕・（注）掩・猶去也。」

【掩撫】ｅｎ̀ fǔ 撫を掩いのもの。（後漢書・馮異傳）「掩撫・猶撫也。」

【掩襲】ｅｎ̀ xí 急襲。（『孟子』・盡心下）「掩襲・（注）掩・猶襲也。」

【掩撫】ｅｎ̀ fǔ 撫を掩いのもの。（後漢書・馮異傳）「掩撫・猶撫也。」

【掩襲】ｅｎ̀ xí 急襲。（『孟子』・盡心下）「掩襲・（注）掩・猶襲也。」

【掩敗】ｅｎ̀ bài 敗を掩う。

【掩涕】ｅｎ̀ tì 涙をながす。（『孟子』・盡心下）「掩涕・（注）掩・猶去也。」

【掩匿】ｅｎ̀ nì かくす。（史記・淮陰侯傳）「掩匿・（注）掩・猶隱也。」

【掩襲】ｅｎ̀ xí 急襲。（『孟子』・盡心下）「掩襲・（注）掩・猶襲也。」

【掩蹤】ｅｎ̀ zōng 蹤跡を掩いのもの。（後漢書・馮異傳）「掩蹤・猶隱也。」

【掩蔽】ｅｎ̀ bì 蔽を掩いのもの。（後漢書・馮異傳）「掩蔽

冒鬻/笮耳/師吉曰「鬻鬻門屏所」笮。●とらへる。おひとらへる。〔集韻〕捕。追捕也。〔漢書、王莽傳〕捕斉徐盛統（注）師古曰、捕、讀與笮同、音莊答切。**ヨウ**が**つ**。又、そこなふ。荆10・1982）に同じ。〔集韻〕刺也。或作。

措意。〔注〕意に同じ。留意。猪意。猪意。（『孔子家語』致思）大不可以措意。

措意。〔注〕意に同じ。留意。猪意。猪意。（『孔子家語』致思）大不可以措意。

措意。〔注〕意に同じ。留意。猪意。猪意。（『孔子家語』致思）大不可以措意。

措。〔注〕爪をほどこす。つめのてむかへ。（『老子』五十九「无爪所」）指と互。

措。〔注〕爪に同じ。手の始末。措置。（『三国志』）

措施。〔注〕手配する。施行する。実行する。（『韓非子』難勢）然設事措置刑法之措施。正恐歴年未能一年能盡耶。

措詞。〔注〕詩文の言葉の使ひかた。措辞に同じ。

措辞。〔注〕言辞を設けるものをいふ。轉じて、詩文などの文句の配置。（『逸周書』官人解）措辞而弗著、（『論衡』刺孟）見彼之間、則知其措辞而弗著。

措手。〔注〕手を置く。（『荆10・1982）

措置。〔注〕置に同じ。（『三国志』）

措置。〔注〕置に同じ。（『荆10・1982）

措置。〔注〕置に同じ。（『荆10・1982）

措置。〔注〕置に同じ。（『荆10・1982

【掬飲】kyoku-in すくひ飲む。

【掬月】kyoku-gatsu 水中の月をすくひ取る。掬水を見よ。

【掬水】kyoku-sui 水を南手ですくふ。又、すくつた水。〔子良史、春山夜月詩〕掬水月在手、弄花香滿衣。〔旅館感懷詩〕掬水月在手、弄花背接、紅巾淚、水時。

【掬泉】kyoku-sen 手で泉をすくふ。〔李華、故左溪大師碑〕右掬而飲、〔俗無、送蘆老人〕寒花未開田、詩〕遇象因開、掬泉、茶杯掬泉。

【掬環】kyoku-kan つかみの土。〔抱朴子、外篇、良規〕陂門塵埃、非掬環所能遏。

【掬縛】kyoku-baku かがみうちがまること。〔柳宗元、答問掬縛〕かがみうちがまること。〔化書、嘉遊〕掬縛、かがみうちがまること。

【掬足】kyoku-soku 蛇能足。

【掬弄】kyoku-rō 水をすくひもてあそぶ。〔陸游、放翁〕詩、掬弄醍醐下花、柳斉醍醐低堤。

【掬可】kyoku-ka 手にすくうことができる。多いさま。〔左氏、昭十二〕中軍不動、掬而待之。

【掬】kyoku 手ですくひ出す。〔呂覽、明理〕掬而待之。〔文選、謝靈運、山居賦〕掬、取也。〔注〕掬、地衣草。〔博名、仙天皮、掬大皮、

【捞】12294 ケン 拳6・11368)の古字。(字彙補)

【掲】12295 シン (字彙補)上支切 支

【掲】12296 ㊀セン (集韻)範韻切 霰 ㊁ダン (集韻)延韻切 霰

ささへる。(字彙補)掲、支也。

【掲】ゆづなは。さげふり。物の邪任を正すために繩を結けること。或は縋(8・27536)。詩詩、掲繩低下花、柳斉醍醐低堤。「可」掲」kyoku-ka 手にすくうことができる。多いさま。〔左氏、昭十二〕中軍不動、掲而待之。中之掲可掲也。〔會案〕可、掲者、西甚多也。「掲天皮」kyoku-ten-hi 芋の一、地衣の異名。〔本草、地衣草〕釋名、仙天皮、掲大皮、

【揖】12300 アツ (龍海)百遇

きりかぶ。(龍海)揖、伐木餘株也。

【揖】12301 シウ 揖、與、揖同。

【掌】12302 ラン 礼(1・214)の古字。(龍海)掌、古亂字。

【掩】12303 ハ 把(6・11272)に同じ。(龍海)掩、同、把。

【掎】12304 ケイ 義未詳。(龍海)掎、音畿。

【掎】12305 リククツ 義未詳。(龍海)掎、音六、又音掘。

【揖】12306 イフ・ショウ 義未詳。(龍海)揖、伊入切、又相居切。

【揖】12307 テン (中華大字典)俚合切 [illegible]

五一号。(字彙)

●**燈心をかきたてる棒**。柘の譌字。(中華大字典)、掲、挑、剔燈火、之枝曰、掲、見、客齋五筆、挑、廣韻五鹽、柘火枝、則从木作。

●**図**(4)かかげる。かきたてる。(5)撮つる。(6)筆を硯の中に入れる。

【揖】12308 ケン (中華大字典)讀若切。くい号。gyō-kō

●**になふ**、かつぐ。(中華大字典)、揖、(俗)間屋を乗れる者。

【揖客】i-kyaku 人に代つて商品を賣買する者。商界の仲介者、賣買の仲介をして、成立すれば手數料を得る小仲賣、上海地方の語。

【揖賣】i-bai 店を持たずに行商する。

【揖】12309 コウ (龍海)胥去聲 ちり。kyō

●**とどこほる**。とどこほつてひらかない。(龍海)揖、俗謂滯留不發曰揖。●**図**(4)堅伏する。(5)強ひて。無理に。

【揖手】kyō-shu 決心がつかず躊躇する。

【揖阻】kyō-soku 遮ぎる。

【揖黜】kyō-chō 下附すべき免狀を抑留して出さないこと。

【揖眼】kyō-gan 借りた金を出し渋つて返さぬこと。

【揖償】kyō-shō 受け出すべき抵當物を渋つて受出さぬこと。

【揖吝】kyō-rin 一手に買占める。壟斷する。

【揖留】kyō-ryū 無理に引留める。

【揖勒】kyō-roku 金を無理強する。脅迫して要求する。〔輯慕全書、商任都、駅衙役〕不令強要求。〔輯慕全書、商任都、駅衙役〕不令強帶抵當意揖勒。

【揖口說話】kyō-kō-setsu-wa 不得裝

【掲燈】kei-tō 燈心をかきたてる。

【掲筆】kei-hitsu 字を書く時、筆の先を硯につけてまろやかにすること。

【掲鎖】kei-sa 鎖をこぶあれる。

手部(八畫)掬掲撃撃捧撲撟掎掎掎

領に話す。

掰 12310 ハイ bāi

掰 (6—12262) に同じ。

掲 12311 ケイ jié

揭 (6—12262) の略字。

九畫

揭 12311 ケイ jié

(手金)(通俗)

俗に掲げるを扶ぶという。

揭 12312 ハウ ヒャウ bǎo, biāo

(手金)(通俗)

つく。 擺撥。(字彙)擺、擺撥、擺也。 聞は字。擺、孔材太及米俟稽層、皆曰擺、从手从豈、俗所會用也。 鄭擺、普彭、擺撥訓擺、與(後)訓不、鄭。

揭 12313 ケツ yuè

(集韻)(重綫切)

日チン (集韻)(重綫切)

揭 小 (説文通訓定聲)

手、玉篇、公府接史也、亦佐助之、也。(説文、接接也、段注)引申爲凡賓、接遊際之人。

揭 12314 ダク ヂャク

(掲)(説苑雜言)

日ケツ (集韻)(居竭切)

揭 三 (説文通訓定聲)

揭 小

揭 小

揭 小

〔揀補〕ｋａｎ ｂｕ 清代、捕運して補授すること。（清會典事例、吏部、選員選補、遠省捕殺人員）如所屬無可升之人、不應在部揀補。

〔揀精揀肥〕ｋａｎ ｓｈｅｎｇ ｊｉｎｇ ｆｅｉ 精糟に擇ぶ。

〔揀點之法〕ｋａｎ ｄｉａｎ ｚｈｉ ｆａ 唐代、兵士を選取する法。「唐律、擅興、揀點衛士取捨不当」注、「揀者、疏議、揀點之法、財均者取、強者取、力均者取、富財力均、先取之」。佛を擇んで魔を除く。轉じて、「揀魔婚」ｋａｎ ｍｏ ｈｕｅｎ 佛を擇んで魔を除く。轉じて、（寒山、詩、「擇魔婚、好善婚、胡麻供養」。

〔揀兵社稷〕ｋａｎ ｂｉｎｇ ｓｈｅ ｊｉ 兵士を選び社稷を全倒。（後漢、馮衍、顯志論、時王莽、害、其義大言、出而爲、常早、青龍、再出而爲、揀兵社稷。

【揀】12316

□ｔｅｉ ヤウ（集韻、知巧切）
□ｋｅｎｇ ヤウ（集韻、古巧切）
□ｋｅｎｇ キャウ（集韻、苦巧切）

□ひく。（集韻）讀、去、（集韻）揀、琴聲、論語、拊磬揀琴、而作、或作、揀、□琴の音。（集韻）讀、琴聲。

【揀】12317

□ｊｉｎｇ ジン（集韻、直貞切）
□ｊｉｎｇ ジン（集韻、武柳切）
□ｊｉｎｇ ジン（集韻、武柳切）

□□●なでる。ぬぐふ。もと拾也。从手晉聲。一曰、筆也。（示字通）、本作、揩、（集韻）揩、說文、拭也。一曰、筆也。

【揀】12318

□ｋｅｎｇ ヤウ（集韻、苦巧切）
□ｊｉｅｎ ケン（集韻、居延切）

□あつまる。あつめる。（說文）
□ｊｉｅｎ ケン（集韻、鳴廉切）

□●或は揀（6－11932）に作る。（集韻）揩、或省。□ひく。（6－12069）に同じ。（集韻）、拭也。一曰、振也、或从巻。

【揀】12319

□ｊｉｅｎ ケン（集韻、子廉切）
□ｊｉｅｎ ケン（集韻、子廉切）

□もむ。する。きする。揀（6－12113）に同じ。（集韻）揩、琴聲、論語、拊磬揀琴、而作、或作、揀、□琴の音。

【揀】12320

□ｊｉｅｎ ケン（集韻、子愛切）
□ｊｉｅｎ ケン（集韻、子廉切）

□ひく。（4）ひきだす。（說文）
□ｊｉｅｎ ケン（集韻、鳴廉切）

□●そろへる。そろふ。揀（6－12839）に作る。（集韻）揀、或从簡。□しるす。かきーする。（6－15069）に同じ。（集韻）、蔑、蔑識也、或从手。（周禮、秋官、職金、注）既揀書揀其數量之釋文）揀、音義、（疏、揀、卽今錄記文書、□ためす。また、とがる。（籤（6－2576）に同じ。（集韻）、籤、說文、驗也、曰、說也、或作、揀。

□刈り切る。かりそろへる。（韓愈、司徒裴侍中、裴令碑、「公神道碑銘、外不一揀刈、不一足令、蔑蔑」。

〔揀刈〕ｋａｎ ｙｉ 刈り切る。かりそろへる。（韓愈、司徒裴侍中、裴令碑、「公神道碑銘、外不一揀刈、不一足令、蔑蔑」。

〔揀耳〕ｋａｎ ｅｒ きりたひらげる。（幾貴、明素傳、拓、走武、「揀耳、蕃、」）。

〔揀割〕ｋａｎ ｇｅ きさわかつこと。（史記、西南夷傳贊、西夷後漢書、「揀割分二方」（注）、索隱曰、揀、謂、統分割也。

〔揀臧〕ｋａｎ ｚｏｕ 稲や麦などのもみ。（後漢書、王莽傳、「市人皆大笑、擧手形、揀之」）。

〔揀減〕ｋａｎ ｇｅｎ 沐浴揀減、（注）、揀、謂、擧拔猶、「揀減」、「揀減」、「揀減」

（10－34443）に通ず。【說文通訓定聲】揄、臣從君、集韻、揄、鞭王后之服、刻畫鏤彩、以鳥飾或作揄、鞭王后之服、夫人揄狄。（注）揄、讀如搖、狄、讀如翟、謂車旌之建於旁者、因びくまで。【周禮、天官、內司服】掌王后之服、以祭、則贊王、服鞠衣、展衣、鞠衣、黃、展衣、白、玄謂、狄、翟、雉、鞠衣、展衣、蠶衣、素白、（注）

からめる。〔集韻〕掯、掐也。

【撱】 12328

ヨウ（集韻）壺水切 紙
ユイ（集韻）壺水切 紙
ヨウ（集韻）壺水切 紙

㊀すてる。或は誠（6－12952）に作る。（廣雅、釋詁二）（集韻）撱、博雅、棄也、或作墮。㊁とる。（一切經音義、十）撱撥曰、掩。㊂或は撱（6－12754）に作る。（集韻）掩、博雅、棄也、又は、撱也、或作撱。㊃おとす（王篇）撱、俗云、落。㊄かぞへる（集韻）撱、揲也。

【揉】 12332

ヨウ（集韻）而由切 尤 日又 rjoo
ユウ（集韻）忍九切 有 宿
ユウ（集韻）女九切 有 柚
ユウ（集韻）如又切 有 宥
ユウ（集韻）耳樹切 遇 鑢

㊀もむ。（集韻）揉、捻也。（廣雅、釋詁二）揉、順也。（集韻）揉、以手挼也。（王篇）揉、押、暖手。揉、撃也。㊁まじる。いりまだれる。（王篇）揉、雜也。（廣雅、釋詁三）揉、直也。（集韻）揉、說文、屈申木也、或作、揉。（周禮、考工記、輪人）揉、輻必齊。（注）揉、謂以火撓之。（後禮、大射儀）公視揉之（注）揉、宛之屈、其安危也。㊂こねる。取、瓷州瓷器、手自和揉。（西京雜記）㊃やはらげる。（集韻）揉、順也。（詩、大雅、高）揉、此萬邦、釋文、依、攷文反。㊄ためる。必費、釋文、揉、音而又反。（周禮）揉、直也。（集韻）揉、屈也、或作撓。（後禮、大射儀、公視揉之）（注）揉、猶屈也。（王篇）揉、屈也。（集韻）揉、屈也、或作撓。（周禮、考工記、輪人）揉、輻必齊。（注）揉、直也。㊅ためる。（集韻）揉、屈也、或作撓。（後禮、大射儀、公視揉之）（注）揉、宛之屈、其安危也。（王篇）揉、屈也。（集韻）揉、屈也、或作撓。（周禮、考工記、輪人）揉、輻必齊。（注）揉、直也。（集韻）揉、說文、屈申木也、或作、揉。（周禮、考工記、輪人）揉、輻必齊。（注）揉、謂以火撓之。（後禮、大射儀）公視揉之（注）揉、宛之屈、其安危也。（王篇）揉、屈也。（集韻）揉、屈也、或作撓。（周禮、考工記、輪人）揉、輻必齊。（注）揉、直也。

【揉】 12333

ウツ ウチ（集韻）王切切 物

なげうつ。或は抗（6－11012）に通（6－12789）に作る。（集韻）揉、擲也、或从穴、从遷。

【揉】 12334

ヒキ チチ（集韻）泊遥切 藥 屋
（六書統）軟列切

㊀うつ。（廣雅、釋詁二）揉、擊也。㊁うつ蕾、或は蔽（6－12237）扑（6－11779）に作る。（集韻）揉、擊也、或作、蔽、扑。㊂さる。すてる。（六書統）揉、去也。

【揉】 12335

ワイ（集韻）烏回切 灰

ひく。（集韻）揉、持也。

【揉】 12336

サイ（集韻）桑刈切 灰

㊀うごかす。（廣雅、釋詁三）揉、動也。（玉篇）揉、搖也。㊁そらす。（集韻）揉、撓也。

【揉】 12337

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12338

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12339

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12340

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12341

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12342

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12343

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12344

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12345

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12346

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12347

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12348

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12349

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12350

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12351

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12352

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12353

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12354

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12355

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12356

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12357

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12358

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12359

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12360

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12361

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12362

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12363

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12364

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12365

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12366

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12367

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12368

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12369

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12370

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12371

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12372

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12373

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12374

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12375

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12376

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12377

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12378

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12379

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12380

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12381

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12382

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12383

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12384

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12385

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12386

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12387

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12388

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12389

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12390

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12391

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12392

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12393

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12394

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12395

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12396

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12397

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12398

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12399

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12400

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12401

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12402

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12403

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12404

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12405

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12406

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12407

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12408

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12409

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12410

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12411

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12412

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12413

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12414

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12415

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12416

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12417

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12418

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12419

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12420

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12421

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12422

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12423

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12424

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12425

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12426

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12427

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12428

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12429

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12430

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12431

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12432

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12433

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12434

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12435

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12436

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12437

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12438

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12439

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12440

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12441

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12442

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12443

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12444

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12445

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12446

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12447

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12448

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12449

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12450

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12451

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12452

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12453

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12454

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12455

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12456

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12457

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12458

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12459

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12460

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12461

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12462

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12463

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12464

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12465

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12466

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12467

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12468

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12469

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12470

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12471

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12472

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12473

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12474

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12475

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12476

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12477

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12478

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12479

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12480

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12481

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12482

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12483

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12484

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12485

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12486

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12487

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12488

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12489

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12490

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12491

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12492

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12493

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12494

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12495

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12496

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12497

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12498

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12499

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12500

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12501

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12502

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12503

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12504

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12505

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12506

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12507

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12508

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12509

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12510

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12511

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12512

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12513

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12514

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12515

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12516

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12517

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12518

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12519

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12520

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12521

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12522

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12523

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12524

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）揉、揉也、或作揉。

【揉】 12525

ヨウ（集韻）以周切 尤

（廣雅、釋詁三）揉、揉也。（玉篇）揉、揉也。（集韻）

揍 12337 ソウ ス 〔集韻〕子餓切 去 麌

●さしはさむ。(集韻)挿也。●ちりあつ。(集韻)塵也。●なげる。字彙 投擲。投擲也。

(淮南子、略訓)發必中鈴、弓必合敷、動必順時、輸必中機。(注)揍、理也。

揎 12338 セン 〔集韻〕苦後切 上 ㄑㄩㄢˋ xuan 先

●かかげる。うでをまくる。(集韻)揎、手發衣。(孝故)振、鈎出引物也。(張師錫、老元詩)「虞手揎拳」。(元史、列女傳序)(金百指)軸。●或は搏。(6－12732)。撰(6－12813)に作る。(集韻)揎、或作搏。

擊 12339 ゲキ 〔集韻〕居逐切 入 屋 kik

●なぐる。徒手で人を打つ。

搏 12340 ハク 〔集韻〕居勝切 去 蒸 pak

●牛羊の乳をしぼる。(集韻)穀、取牛羊乳也。●穀(3－7012)の誤字。(正字通)

搥 12341 ハク 〔集韻〕通等切 上 腫

●かなづち。(集韻)搥、鎚也。●鎚(4)と同じ。(集韻)搥、擊也。

提 12342 チ 〔集韻〕市支切 平 支 ti

●ひっぱる。(4)手に物をさげる。(説文)提、挈也。(段注)挈者、手部曰、提、挈也。(玉篇)提、手也。(廣韻)提、手提。(淮南子、要略)提、名實、(漢書、英布傳)大王提、空名以鄉、楚。(注)師古曰、提、挈也。(禮記、學記)必提其要。(注)提、挈也。(禮記、王制)(禮記、祭統)君親牽牲、君親割牲、君親煎、君親提、(注)提、起也。(3)もちあげる。(太玄經、事)晉子提、(注)提、舉也

かなさま。提提(1138)の重。〔ゆ〕を見よ。〔ゆ〕およそ。あらまし。提封(1138)の重。〔ゆ〕を見よ。〔ゆ〕うつてとる。巻の手法の一。(圍棋戦例。詮釋)。殺棋。墓死而結局目算。既殺而殲。手目復殺。俗又謂之提。〔蛙〕。(左氏、襄二一)其右提彌知。〔ゆ〕(明)(4)申出る。陳述する。〔ゆ〕上げる。〔ゆ〕(引)出る。陳述する。〔ゆ〕(引)出る。陳述する。〔ゆ〕(引)出る。陳述する

共議事勅奏云云勅初聽鞫犯罪年、復奏、以相改定、謂、二年刑律云、路、典賣妻賣投撻等、科宗和元年、北京留守、推与妻賣、法律云、投撻可言、且此投撻者、謂投撻、投撻者、謂投撻者、謂投撻、投撻者、謂投撻、投撻者、謂投撻、

手記（九書）提

提控（ていこう）●軍制する 制する又、其のこと（宋史、章元紀四）長官常加提控。●ただして（宋史、章元紀四）長官常加提控。●ただして（宋史、章元紀四）長官常加提控。●ただして

捶便二員部指揮使五員知事一員提控案牘
錄大都督府都尚書員提調事事凡刑名
錄大都督府都尚書員提調事事凡刑名
使等若是其長官之一案司於北城二者部指揮
使等若是其長官之一案司於北城二者部指揮
若是提控案牘刑部刑律博士一員如上以數
以為法令者提調事事凡刑名錄大都督府
都尚書員提調事事凡刑名錄大都督府

〔提鞭笞〕[名]下[名]上 pu̱; ha̱ra̱ta̱ [名] 鞭を持つて手を振つて

手 部 〔九畫〕 提 揑

提鞭笞[名]下[名]上 pu̱; ha̱ra̱ta̱ [名] 鞭を持つて手を振つて

〔提抗〕[名]下[名]上 ta̱ka̱ra̱ [名] 抗命する。

〔提抗〕[名]下[名]上 ❶手をもいつてさげる。❷風吹かぬ時に鳥が翼を垂れ下げる。

〔提携〕[名]下[名]上 ta̱zu̱sa̱ [名] 手を提げ携へる。

〔提琴〕[名]下[名]上 ta̱ra̱ [名] 胡琴。

〔提出〕[名]下[名]上 te̱i̱sa̱ [名] 提出する。

〔提案〕[名]下[名]上 te̱i̱a̱n [名] 提案する。

〔提灯〕[名]下[名]上 ti̱ti̱ [名] 提灯。

〔提督〕[名]下[名]上 te̱i̱ku̱ [名] 提督。

〔提防〕[名]下[名]上 te̱i̱bo̱u̱ [名] 堤防。

〔提唱〕[名]下[名]上 te̱i̱sho̱u̱ [名] 提唱する。

〔提訴〕[名]下[名]上 te̱i̱so̱ [名] 提訴する。

〔提灯〕[名]下[名]上 ti̱ti̱ [名] 提灯

控。〔編集全書〕刑名部 人命中 [圖解] 揑 音打 死殺死或遮過死 自要 改 出一段根由。

【揑造】[ni-zō] 名 無實のことをこしらへる。揑造。

【揑詞】[ni-shi] 名 無實の事を申さる。虛言する。

【揑做】[ni-sa] 名 揑造。

【揑稱】[ni-shō] 名 いつはりをいふ。

【揑報】[ni-hō] 名 偽り報告する。虛報。〔編集全書〕刑名部 [圖解] 揑報 [

を射生させる方法。きこしを。

【插箭】そうせん つばさを射ること。「插翼」ともいう。「插翼」ともいう。「插翼」ともいう

撰、刺也。●木をきるおと。（集韻）撰、一曰、斫木聲。同さす。截（6－11616）に同じ。（集韻）截、刺也、或从手。

【揖】 12351

小 ㊀イフ（集韻）一入切 緝 ㊁ジフ（集韻）直入切 緝 ㊂ジフ（集韻）子入切 緝 ㊃イフ（集韻）乙入切 緝

㊀●ゑしやく。又、ゑしやくする。禮容の一。●手を胸の前で拱し、之を上下し或は前に推しすゆべて先方を敬ふ意を表はす。（說文）揖、攝也。（廣韻）揖、引進也。（集韻）揖、引進之意。（說文）揖、一曰、手表。匈曰揖。（廣雅）釋詁）、進也。（儀禮、燕禮之注）揖、衆人之。（注）揖、推也。（周禮、大胥之注）揖、推小事。之也。（公羊傳、二年、獻公之注）揖、推也。（周禮、鄉飲酒禮、賓拜介、（注）推手曰揖。（禮記、樂記）大招、揖讓而爲。（注）上手爲揖、㊁胸の前で拱した手を胸にひきあてて人を招きするめる。（廣韻）揖、凡辭讓之意。（說文）揖、引進之意。（說文）揖、一曰、手表。匈曰揖。（廣雅、釋詁）、進也。（儀禮、燕禮之注）揖、衆人之。（注）揖、推也。（公羊傳、二年、獻公之注）揖、推小事。之

【揚】12355 ヤウ

揚 手 9 ヤウ

（篆顔・金章切 韻）

一九 ⑦ 揚

舉也。上聲。❶あげる。❹さしあげる。かざす。（説文）揚、飛舉也。（説文通訓定聲）按、舉者本義。飛者段借。（小爾雅、廣言）揚、舉也。（儀禮、鄉飲酒禮）席揚觶。（注）揚、舉也。（儀禮、燕記）浮弧于東方。（注）揚、舉也。（書、顧命）揚、舉也。（詩、大雅、行葦）揚、舉也。（書、攷工記）以揚、武士之大列。（中庸）隱惡而揚善。❷あがる。（文選、西都賦）揚蕤賓以若與。（注）揚、舉也。❸あらはす。（文選、東京賦）揚、舉也。（文選、西都賦）揚、舉也。（注）揚、舉也。（詩、大雅、板）揚、舉也。（書、攷工

[揭]（ji）yànx ㄐㄧˋ 去聲 ●高舉。●揭竿。●揭竿斬木爲兵。●揭竿爲旗。●揭竿而起。●揭竿而作。●揭竿而呼。●揭竿而隨。●揭竿而從。●揭竿而應。●揭竿而趨。●揭竿而走。●揭竿而逃。●揭竿而亡。●揭竿而敗。●揭竿而死。●揭竿而滅。●揭竿而誅。●揭竿而殺。●揭竿而戮。●揭竿而刑。●揭竿而罰。●揭竿而賞。●揭竿而獎。●揭竿而勸。●揭竿而懲。●揭竿而戒。●揭竿而警。●揭竿而儆。●揭竿而誡。●揭竿而教。●揭竿而訓。●揭竿而導。●揭竿而引。●揭竿而導。●揭竿而導。●揭竿而導

泰・泰興九江郡・漢初置・後漢・晉・宋・齊・梁・陳・隋・唐・武帝復置・北周・後魏・後魏・後魏

〔揚場〕ㄧㄤˊ ㄔㄤˇ 名 ●農夫が穀物を篩で分離する場所。穀物を篩して扇を去る。●二・船の荷物などを陸揚する場。

〔揚過去〕ㄧㄤˊ ㄍㄨㄛˋ ㄑㄩˋ 動 ●ちょっとなに突然に出てゆく。偶然なに。

〔揚中〕ㄧㄤˊ ㄓㄨㄥ 名 ●長江・長江の下流。

〔揚州〕ㄧㄤˊ ㄓㄡ 名 ●江蘇省揚州市。

〔揚子〕ㄧㄤˊ ㄗˇ 名 ●揚子江。長江。

〔揚子江〕ㄧㄤˊ ㄗˇ ㄐㄧㄤ 名 ●揚子江。長江。

〔揚子鱷〕ㄧㄤˊ ㄗˇ ㄜˋ 名 ●揚子江に住むワニ

の本は久しく佚し、本の讃曾が郭璞の文補輯と云て六卷となった。收る所の圖讃は見て二十讃。郭の説は實に十讃と云ふ。郭璞の注に曰く、鳥は鳥の名。駢音坪反。鳥の名。鳥は鳥の名。後に考ずるを見る。讃既に例をしるものて、本に考ずるを見る。讃既に例をしるものて、本に考ずるを見る。讃既に例をしるものて、本

答。史曰。走案（漢書）顏師古云「丸納之諸侯中」。既笑。顧（漢書）補注。「丸」。「鞠」。「蹴」。「蹴」。「蹴

正衆の護・悪・無・諸人が如へたもの。奇跡・怪異なる文字を用ひ、多く甚手・例子の語を用ひる。（文字多後論・奇字之未・正衆護・悪・無・諸語説之語・時人謂之撰字者。

【揜】12359 ヨウ（集韻・麌韻）

〔集韻・衣部切〕〔玉篇〕衣部切〕〔集韻・麌韻〕

【揜】12360 サン（集韻・才旨切）

〔集韻・才旨切〕〔廣韻〕

手部（九畫）換・撿・揜

換（ヨウ）（集韻・衣部切）〔玉篇〕衣部切〕〔集韻・麌韻〕〔廣韻〕

（一）とる。おさへとる。とらへる。（説文・揜、自闚以手掩覆也。（段玉裁注）取要撮（唐南子・氾論訓）撮要而相如・上林賦・注）撮、焦明、（上）苦回、方言曰、揜・取也（史記・司馬相如傳・注）掩・取也（史記・司馬相如・上林賦・注）撮、捕也。●おほ（説文・段玉裁注）撮、捕也。●おほ（説文・段玉裁注）撮、捕也。●おほ（説文・段玉裁

掊 12361

㊀ワン（集韻）烏桓切 ㊁オン（集韻）烏桓切 ㊂ウン（集韻）古暗切 ㊃ウン（集韻）苦暗切 ㊄エン（集韻）於感切 ㊅エン（集韻）烏感切 ㊆ヒツ（集韻）蒲沒切

①おほふ。（廣韻）手覆。（集韻）掊、掩也。四かくす。（集韻）掊、藏也。

②ぬく。（廣韻）擢、釋結四掊、藏也。

③こぼす。水を運搬して滓滓を去る。（說文）掊、取水也。从手、音聲。（段注）掊、今之漬字。

④水を掬みとる器。（玄應）掊、取水具。

⑤すなどる。（集韻）掊、魚也。

⑥掊次は、縣名。（說文）掊、武威有掊次縣。

⑦掊は、民名。（後漢書 1187下）に作る。（集韻）掊、或作「抔」。

掊 12362

ショ（集韻）新於切 ㊀ショ 小 音

①こす。水を濾過して滓滓を去る。（說文）掊、取水也。从手、音聲。（段注）掊、今之漬字。

②水を掬みとる器。（玄應）掊、取水具。

③すなどる。（集韻）掊、魚也。

④掊次は、縣名。（說文）掊、武威有掊次縣。

⑤掊は、民名。（後漢書 1187下）に作る。（集韻）掊、或作「抔」。

掇 12363

アツ エチ（集韻）丁括切 ㊀ツ 入 ヒツ

①ぬく。ぬきだす。草木のしんを手をひきぬく。（說文）掇、拔也。从手、叕聲。（方言三）掇、拔也。東齊海岱之間曰掇。（廣雅、釋詁）掇、出也。（廣雅、廣物）拔心曰、掇。根曰、掘。（段注）掇、今俗曰拔。9・11771）に作る。（集韻）掇、或作扎。

②掇刀は、刀を抜く。又、抜いた刀。（山陽遺稿、出車九郎傳）掇刀突入以餘見死。

（張苗）曰、苗のしんを抜く。轉して、成功を急いで却って不成功をやぶることの譬。（孟子、公孫丑上）宋人有閔其苗之不長而揠之者。芒芒然歸、謂其人曰、今日病矣、予助苗長矣。其子趨而往視之、苗則槁矣。（云云、助之者、揠苗者也。非徒無益、而又害之。（注）揠、拔之也。

掇 12364

ワン（集韻）烏貫切 ㊀ワン 去 ヒツ

①うで。うでくび。（說文）掇、手腕也。从手、叔聲。（段注）掇者、手上臂下也。云云、臂者、手上也。肘者、臂節也。云云、左者、臂上也。是則肘以下手以上、渾言之曰臂、析言之則近手處曰臂、上處曰掇。掇、上臂也。設決觿於掇、注云、掇、後節中也。云云、後節中者、肘以上也。前節、前肘以下腕、後節之中以上腕。曾則以下腕掇也。（說文）掇、捲雉說、掇、捲也。

②ふむ。（呂覽、本味）逐獸者、掇。（注）掇、踏也。9・22939）に作る。（說文通訓定聲）掇、字亦作「掇」。作「掇」。（集韻）掇、或作「掇」。掇、掇也。9・11970・1）に作る。（集韻）掇、或作「掇」。

掇 12365

㊀セツ ゼチ（集韻）苴絕切 ㊁セツ セチ（集韻）子結切 ㊂ヒツ

①ひねる。或は攫（6・13269）。乾（1・91）に作る。

②くくる。（字彙）攫、括也。㊂たつ。（集韻）授、斷絕也。

掇 12366

㊀ヨク（集韻）高谷切 ㊁ヨク ウ（集韻）於候切 ㊂ヨク

①（說文）掇、手取也。从手、叔聲。（段注）掇、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

②掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

③掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

④掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑤掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑥掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑦掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑧掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑨掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑩掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑪掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑫掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑬掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑭掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑮掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑯掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑰掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑱掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑲掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

⑳掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉑掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉒掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉓掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉔掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉕掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉖掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉗掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉘掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉙掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉚掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉛掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉜掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉝掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉞掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㉟掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊱掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊲掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊳掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊴掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊵掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊶掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊷掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊸掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊹掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊺掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊻掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊼掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊽掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊾掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

㊿掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(1)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(2)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(3)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(4)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(5)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(6)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(7)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(8)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(9)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(10)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(11)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(12)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(13)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(14)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(15)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(16)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(17)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(18)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(19)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(20)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(21)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(22)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(23)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(24)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(25)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(26)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(27)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(28)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(29)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(30)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(31)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(32)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(33)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(34)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(35)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(36)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(37)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(38)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(39)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

(40)掇は、謂長不過一握。（廣雅、釋詁）掇、出也。

め、龍圖を受けて作つたものと〈水經・河水注〉発陣、三百二日、
曲水流序、万挺、河元聖、封山紀石、〈寸・薬日、
記今閲録、紫草、沈聖紀、紫草、〈万・薬日、〉
〈握鋼〉ゴ、〈万・薬日、〉
〈握鋼〉ゴ、〈万・薬日、〉
〈握鋼〉ゴ

而二相拱若而不中者、謂之捷讓。(『集韻』『類篇』『正韻』)

【搉】12366 ㊀ㄑㄩㄝˋ 去穴切 ㊁ㄑㄩㄝ 苦穴切 ㊂ㄑㄧㄠˋ 去聲 ㊃ㄑㄧㄠ 苦交切 ㊄ㄑㄧㄠˋ 苦教切 ㊅ㄑㄧㄠ 苦交切

舜者名曰「重華」、注正義曰「堯聖、姓嬀、妻曰揆、名曰見」。大虹、意感而生。姓嬀、妻曰揆。(『集韻』『類篇』『正韻』)

【搉】也。(『集韻』)

搉、にぎりるの。搉、搉。

搉、搉の字は、搉の字がもとであった。搉、搉、搉、

可長保(同上公注)。擺・治也。(釋文)擺・絕也。(玉篇)擺・治也。(釋名)擺・擺也。(廣雅)擺・治也。(玉篇)擺・治也。(集韻)擺・治擊也。老子・擺而殺之。(淮南子・人間訓)。(文選)文選[左思]蜀都賦・之。(後漢書)[班固]西都賦・擺・治擊

排圍而不之能捕。〔注〕義曰、說文曰、搖、取也。〔コする。〔集韻〕搖、捐也。

【掝】 12380 ラツ チチ 〔集韻〕郎達切 カツ ロツ

手でひらく。〔類16－12951〕に同じ。〔集韻〕掝、溶掝、手披也、或从剌。〔掝子〕〔字彙〕ガラス瓶。

【掣】 12381 ラツ 〔集韻〕郎達切 カツ ロツ 國

とぐ、みがく。或は掣（8－27040）に作る。〔廣韻、釋言〕掣、穿也。〔玉篇〕掣、研磨也。〔集韻〕掣、或从米。

【掙】 12382 タイ チイ 〔集韻〕徒耕切 唐

●ふれる。〔廣韻〕掙、觸也。●つく。打（6－14460）に同じ。〔集韻〕打、說文、擊也、或作掙。●さす。〔廣雅、釋詁二〕掙、刺也。●ばち。〔管子、宙合〕若鼓之有掙。〔注〕掙、鼓枹也。

【揀】 12384 シツ シチ 〔字彙〕即尤切 ㄓㄨㄥ 尤

●あつめる。●をさめる。●選（6－1223 85）で挙（8－12386）に同じ。〔字彙〕揀、手揀也、〔正字通〕揀、挙、揀並同。●選び引張る。〔文〕擷も。●捕へる。

〔揀耳〕〔揀心〕〔揀鼻〕心配する。氣にかかる。

〔揀耳〕耳を引張る。

〔揀東〕〔揀束〕束ねる。〔揀束〕束ねる。

〔揀束〕束ねる。〔揀束〕束ねる。

〔揀束〕束ねる。〔揀束〕束ねる。

【揭】 12389

㊀ケイ（集韻）去例切 𢹂
㊁ケツ（集韻）居謁切 𢹂
㊂ケツ（集韻）丘櫛切 𢹂
㊃ケツ（集韻）丘櫛切 𢹂
㊄ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊅ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊆ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊇ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊈ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊉ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊊ケツ（集韻）苦例切 𢹂
㊋ケツ（集韻）何葛切 𢹂

㊀小 ㊁●かかげる ㊂あげる。〔說文〕高舉也。从手曷聲。㊃から げる。〔廣韻〕揭、竭、渴、渴、渴

【揭苦】[illegible] 苦發する。苦辭する。『晉書全書』刑名部 訴訟類 苦情 法代調停。

【揭載】[illegible] 新聞 雜誌 掲代に文章や圖畫の類をのせること。登載。

【揭參】[illegible] 揭參 [illegible]。

【揭部】[illegible] 揭部 [illegible]。

【揭示】[illegible] 示す。實者。民情を自覺。『荘子』外物篇 物情 ●一般の人に知らせること。『晉書』[illegible] 物情 [illegible]。

【揭車】[illegible] 車。『[illegible]』[illegible] 車。『[illegible]』[illegible] 車。『[illegible]』

小 ㊀ふるふ。㋐勢よく動かす。ふ
るいはらす。郭璞、蚍蜉賦「揮剣揮
而不尚。●(字林、揮動)揮、揮動也。(傳毅、舞賦)揮若雲(注)
揮、動也。②ちらす。易、説卦「巽、揮之」(注)揮、散也。③はらいのける。
荀子、佯子方「揮斥権。」(注)揮斥、猶
綏放也。④あげる。あらはす。(易、説卦)
巽、揮于刪矣。(注)揮、揚也。李徳裕、易
州帰書記「揮、示備也。巽、揮新意。」⑤ひら
く。おこす。史子子、拾遺「揮、開也。
るひ拂う。(爾雅、釋言)揮、振也。(儀禮、特
牲饋食禮)又小揮(疏)揮、振去水。使
手乾。(禮、曲禮上)鉄王鉞、左仗、白旄
以指揮。(注)揮、指麾。(左氏、僖、二十二)事、風
沃盥、色而揮之。(注)揮、散也。(戰國、齊
策)揮、汗成雨。(注)揮、振也。●ふる
うて。。勢よく動く。(曹植、七哀)琴瑟交
揮。(結髮、詩)結果、詩万里交揮。●さ
しつする。さしまねく。(梁元帝、記)候警
徼、指戈而揮。(宋、朝政議、趙大徽疏、快
指揮。(李綱、史合)必再揮。●よく。とりあ
つかう。(後漢書、馬援傳)(論文)揮、書也。从手
聲。(揮、段借爲、輝。(說文)揮、奮也。从手
聲。(段注)按、奮部奮下曰、奮、振也。
(楊拆、西征賦)終奮、質而高揮。(注)善
也。西京賦、巧者巧通。(左氏、襄、二十四)
鄭公孫揮、(注)揮、知者。(荀子、佯子方)
揮、(注)揮、知者。(荀子、佯子方)揮、
(注)揮、知者。(荀子、佯子方)揮、
(注)揮、知者。(荀子、佯子方)揮、

揮手。●手を振り動かす。手を振りつけて別れを惜しむ。〔李白・送友人詩〕揮手自茲去 蕭蕭班馬鳴。

【揮麈】ｷﾝ 麈尾で作った拂子をふるふ。昏人が清談する時、麈尾を取って話を助けたことから話談をいう。〔歳時記〕揮麈 相 聖教聚 故治 易 雷雷鼓 〔詩〕 鼓 蔡 大 香 野 鼓 山 五 鼓 山 人 為 文 之 〔地 者 不 〕 容 揮 麈 尾 安 那 有 散 花 天 〔唐 書 〕 〔 〕 〔 〕 〔

人臂指長纖好也。〔集韻〕掣、長臂兒。●細くそげるさま。掣掣〔ゼイゼイ〕見より。〔集韻〕掣、一曰、纖殺也。〔圓〕そげる。そげて細くなる。〔集韻〕掣、殺小也。〔圓〕●臂のさま。〔集韻〕掣、長臂兒。●そげる。木の先が削くそげる。或は掣（8－15180）に作る。〔廣韻〕掣、木上小、或作掣。〔圓〕●しなやか。〔廣韻〕掣（12379）に同じ。〔集韻〕掣、好手兒。●細くそげるさま。掣掣〔ゼイゼイ〕を見よ。

【掣】12403

セイ　セツ　セチ　ヒツ　ヒチ　タツ　タチ　ヒキ　ヒキ　ヒキ

（玉篇略）親（正倉本勝鬘経）援〇意無邊境遠離手足眼。

【援】輔〔平〕。筆を手に援く。書き記すこと。輔は筆（漢書）前傳「行無言其輔」（顔師古注）「輔、筆也」。

【援】鑒〔平〕。鑒を手にとる。（『陳書』）「高祖（陳霸先）、鑒を援りて、自ら決す」。

【援】陽〔平〕。陽を手にとる。（『陳書』）「高祖（陳霸先）、陽を援りて、自ら決す」。

【援】拔〔平〕。拔を手にとる。（『後漢書』）「（馬）援、拔を援りて、以て自ら決す」。

【援】拔〔平〕。拔を手にとる。（『後漢書』）「（馬）援、拔を援りて、以て自ら決す」。

【援】軍〔平〕。たすけ出す。（『後漢書』）「（馬）援、軍を援りて、以て自ら決す」。

【援】護〔平〕。引いて護ってやる。（『後漢書』）「（馬）援、援護（援護）、（馬）援、援護（援護）、（馬）援、援護（援護）、

江。(注)如淳曰、楗、謂立、射栁也。❸まじはる。接近する。(漢書、賈誼傳、注)如淳曰、或曰、接、近也。❹すくめる。❺とがる。楗(6－13139)に通ず。(康熙字典)楗、與、楗通。(荘子、庚桑楚)外物篇、不、可、繁、而捷、將、內揵、(注)揵、關楗也、(釋文)揵、關也、向云、閉也。❻せき。水を堰ぐもの。(漢書、溝洫志)是時東郡堤塞、以、故薪柴少、而、下、流、頗之竹、以爲、揵。むつかしい。(漢書、揚雄傳)揵、難也。

(字彙補)揵、ケン、(字彙、補)、(字相)以、揵、可、度、(注)揵、物、揵、苛、琴、不、能、揵者。

揵然(7－12409)は楽器などの曲つて上向してゐるさま。尾末揵然、似、鳧尾末曲上然者。

揵馬、時つて、戰爭のとき、木などで馬の形を作り、陣の前に立てるもの。(史記、呂后本紀)進、周世宗親出、擊之、(吳人、擁市、揵馬、以、數、陣貫以、利刃、揵以、鐵索、又、刻、木爲、戰形、立、陣前、號、揵馬、陣。

捡 12410 タン 捡(6－12542)に同じ。(正字通)捡、同、掩。

掇 12411 ヂ (集韻)陟利切 寘 ヂ (集韻)直利切 寘 ヂ (集韻)展知切 紙

❶さす。(說文)掇、刺也、从手、叕聲。(段注)詩者、直傷也。❷いたる。刺してわづかにとどく。(說文)掇、曰、刺之財也也、(方言、十三)掇、到也。❸うつ。(集韻)掇、一曰、擊也。❹つく。(玉篇)掇、揿也。❺かすめる。財を劫す。(廣韻)掇、又劫財也。ヂ、ヂ、ヂ、

手部 〔九—十畫〕 搦 掐 掾 掾 掾

[搗不上]14 kou, pu jōgami. 達し得ない。到り得ない。
[搗不上束]14 kou, pu jōsoku. 達し得ない。
[搗不審]14 kou, pu ōgaru. 探りあてられない。解かない。

【捻】 12448 キン（集韻）近靳切 欣 くしげる

おさへる。〔集韻〕捻、按也。

【搭】 12449 ヨウ コン（集韻）直深切 緘

小 ①ヨウ ②ヨウ（集韻）餘封切 冬

①うごく（說文）搭、動搖也、从手容聲。〔段注〕動搖、漢時語。廣雅、搭、動也。②●おちつかない。（廣韻）搭、不安。③うごく。④同じ。（集韻）搭、搖雉、動也。

【搥】 12450 テン（集韻）直深切 銑

うつ。〔集韻〕搥、擊也。

【搉】 12451 カク（集韻）苦角切 覺 クワク（集韻）苦雹切 藥

小 ①うつ。たたく。（說文）搉、敲擊也。从手雀聲。（廣雅、釋詁三）搉、擊也。〔漢書、五行志中之上〕高后支斷、收大人手足、搉其腹、以爲人彘。〔注〕師古曰、搉、謂敲擊去其精也。●ひく。〔漢書、鉄傳〕搉、推引也。〔顏師古注〕搉、推也。●しめる。もつばらにする。〔戰國策、趙策〕搉、專也。〔史記、鄭當時傳〕爲人戇直、好搉人主。〔注〕師古曰、搉、謂專任便其實直、率、較任便也、索隱曰、搉、較字、亦作「醊」。搉、搉、猶專也。●搉、巧於斥尺。〔注〕師古曰、搉、猶專也。●きそふ。〔漢書、敍傳上〕較輪搉巧於斥尺。〔注〕師古曰、搉、猶競也。●はかる。〔北史、孝莊傳〕商、搉古今、開以嘲謔。●あたる。〔荀子、性惡篇〕可不謂有大搉乎。〔注〕搉、猶當也。●および。大略。搉、猶揚。〔荀子、性惡篇〕可不謂有大搉乎。〔注〕搉、猶當也。●および。大略。搉、猶揚。（6－12355：15）を見よ。〔左傳、哀都賦〕商、搉商、搉、〔注〕劉曰、搉、相略也。●搉（6－12363）に通ず。（正字通）搉、與推通。□手をかへす。搉（6－12351）に同じ。（集韻）搉、手反覆也。

【搉】 12452 ヨウ（字彙）松九切 篠 ヨウ（字彙）須倫切 眞

□こばむ（字彙）搉、拒也。□よろふ。（字彙）搉、擁也。

【搉】 12453 ヨウ（集韻）初九切 宥 ヨウ（集韻）正倫切 眞

イ又 ヨウ

□●引く。とらへる。（廣雅、釋言）搉、拘也。（六書故）搉、九指撥也。（唐書、禮樂志十一）五弦、如琵琶、而小、北國所出。舊以木撥、彈、樂工長神符、初以手彈、太宗悅焉、後人習焉。撥撥琴（熊朋來、琴賦）立撥臥撥、竹撥木撥。●俗に挑に作る。〔集韻〕搉、（俗作）挑、非。是。□●もつにぎる。

【搉】 12454 ヨウ（集韻）所角切 覺

□はやくうごくさま。〔集韻〕搉、疾動皃。（通俗、射雉賦）搉降、丘以敵敵。（注）敵、疾皃。□のぶ又は（はやくうごく）。（注）敵、一曰、疾動、或从閃。

【搉】 12455 ショウ 蕭 搉、古文搉。

手部（十畫）搉搉搉搉搉搉搉搉

古曰、搉、謂敲擊去其精也。●ひく。〔漢書、鉄傳〕搉、推引也。●搉、猶專也。●しめる。もつばらにする。〔戰國策、趙策〕搉、專也。〔史記、鄭當時傳〕爲人戇直、好搉人主。〔注〕師古曰、搉、謂專任便其實直、率、較任便也、索隱曰、搉、較字、亦作「醊」。搉、搉、猶專也。●搉、巧於斥尺。〔注〕師古曰、搉、猶競也。●きそふ。〔漢書、敍傳上〕較輪搉巧於斥尺。〔注〕師古曰、搉、猶競也。●はかる。〔北史、孝莊傳〕商、搉古今、開以嘲謔。●あたる。〔荀子、性惡篇〕可不謂有大搉乎。〔注〕搉、猶當也。●および。大略。搉、猶揚。〔荀子、性惡篇〕可不謂有大搉乎。〔注〕搉、猶當也。●搉、巧於斥尺。〔注〕師古曰、搉、猶競也。●はかる。〔北史、孝莊傳〕商、搉古今、開以嘲謔。●あたる。〔荀子、性惡篇〕可不謂有大搉乎。〔注〕搉、猶當也。●および。大略。搉、猶揚。（6－12355：15）を見よ。〔左傳、哀都賦〕商、搉商、搉、〔注〕劉曰、搉、相略也。●搉（6－12363）に通ず。（正字通）搉、與推通。□手をかへす。搉（6－12351）に同じ。（集韻）搉、手反覆也。

【搉】 12452 ヨウ（字彙）松九切 篠 ヨウ（字彙）須倫切 眞

□こばむ（字彙）搉、拒也。□よろふ。（字彙）搉、擁也。

【搉】 12453 ヨウ（集韻）初九切 宥 ヨウ（集韻）正倫切 眞

イ又 ヨウ

□●引く。とらへる。（廣雅、釋言）搉、拘也。（六書故）搉、九指撥也。（唐書、禮樂志十一）五弦、如琵琶、而小、北國所出。舊以木撥、彈、樂工長神符、初以手彈、太宗悅焉、後人習焉。撥撥琴（熊朋來、琴賦）立撥臥撥、竹撥木撥。●俗に挑に作る。〔集韻〕搉、（俗作）挑、非。是。□●もつにぎる。

【搉】 12454 ヨウ（集韻）所角切 覺

□はやくうごくさま。〔集韻〕搉、疾動皃。（通俗、射雉賦）搉降、丘以敵敵。（注）敵、疾皃。□のぶ又は（はやくうごく）。（注）敵、一曰、疾動、或从閃。

【搉】 12455 ショウ 蕭 搉、古文搉。

[搉搉]ショウ ショウ。あやまし。大略。（左傳、桓公六年）搉搉蜀吳、強弱同、（注）搉、猶當也。（廣雅、釋詁三）搉、猶當也。

搉利 搉利者、商、猶當也。（荀子、性惡篇）搉利者、商、猶當也。（荀子、性惡篇）搉利者、商、猶當也。（荀子、性惡篇）

【捿】 12456

㊀ケン（集韻）巧豪切 元。
㊁ケン（集韻）丘豪切 呪。
㊂ケン（集韻）丘胡切 鬷。

小 [篆] 撓也。从手捿聲。●なよ。かつぐ。（通雅、釋詁）捿、以手撓物也。●あばきあふ。（通雅、釋詁）捿、互詰告也。

【掾】 12457

㊀チ（集韻）丑豪切 祇。
㊁ケイ（集韻）渠支切 祇。
㊂ケイ（集韻）余支切 支。
㊃タイ（集韻）福切 [illegible]。
メヌカ。ケーニ。

【搌】 12458

㊀アン（集韻）烏豪切 [illegible]。
㊁アン（集韻）阿可切 [illegible]。

㊀●さく。（集韻）橈、析也。●ひく。（増韻）撓、拽也。●或は抽（6－11805）。抯（6－12008）。抽（6－11961）に作る。（集韻）橈、或作搯、抯（集韻）掾、或作・抯。㊁からかふ。●掾（6－16166）・掾（6－12865）に同じ。（集韻）掾、說文、人相笑相掾、或作・搌、亦省。㊃●うつ。抯（6－11804）に同じ。（集韻）抯、以拳加物、或作・搌。●閼（いれる。

【損】 12459

ソン（集韻）頑木切 [illegible]。
ムムヲ。ソーニ。

小 [篆] 从手員聲。（荀子、大略）益と上之業、而損下之業。（史記、大略）損、減也。（墨子、經上）損、偏去也。（荀子、天論）損、減少する。（淮南子、說山訓）小人之業、人反責、損。（注）損、毀也。●うしなふ。（字彙）損、失也。（管書、杜預傳）不過數、損日月之間。（史記、張儀傳）蔡乃自抑損。（戰國、管輅傳）未有損己而不光大、行一非而不傷數。（管書、安平王孚傳）常自退損。●衰る。（荀子、天論）吉は損（6－11847）に作る。（集韻）損、古作抗。●損益の六十四卦の一。（易、損）山下有澤、損。（程傳）爲損下益上之義。●閉ざす。吝嗇。（淮南子、原道）天之所以爲天、地之所以爲地、所損益者、人也。（淮南子、人間訓）人主之所以失國亡身、其所損者、人也。（淮南子、精神訓）人主之所以失國亡身、其所損者、人也。（淮南子、人間訓）

出居事君也、解所不能、而受所能、則得損。（淮南子、人間訓）無得損之數、而無不勝之任矣。●黃金を棄てる。黃金を破損する。●金殺を失ふ。又、失った金殺。●黃金などで祝儀を入れて與へる袋。散財袋。

損壞 ソンクワイ 大保障、海上保障のやうな、偶然の損害を填補する強制。（漢書、王莽傳）

損耗 ソンコウ 損なへる。へらす。いためる。損ずる。（荀子、王霸）

損減 ソンゲン 減ずる。減少する。（後漢書、光武紀下）

損傷 ソンシヤウ 損ずる。（後漢書、光武紀下）

損益 ソンエキ ●ますこと。ふえること。又、へらすこと。●ますこと。ふえること。（易、損）

損益盛衰 ソンエキセイスイ 盛衰。（後漢書、光武紀下）

損益之數 ソンエキノスウ 損益。（後漢書、光武紀下）

損益之道 ソンエキノミチ 損益。（後漢書、光武紀下）

損益之理 ソンエキノリ 損益。（後漢書、光武紀下）

損益之義 ソンエキノギ 損益

【損軍】ゴン 貝損傷信の戦。貝原益軒10 3665 ●心6)を見る。

【損減】ゲン おとしへらす。へらす。〔史記樂毅〕若子以損道爲禍。〔後漢馬援〕薄資損傷。方今天下亂耗。可亡天自損減。故曰、損天益人。〔後漢書王符傳〕促短者、非常分度損減。

【損益】エキ ●明・梅純 8・148230 ○ 2373 の誤。●清・程廣生 4・135873 ○ 1658 の誤。●清・李宗岱 10・144539 ○ 1658 の誤。

【損之】シ 〔字集〕●宋・蔡沈 12・45672 ○ 2370 の字。●宋・陳也 11・41698 ○ 2370 の字。●清・徐誠 4・101101 ○ 2370 の字。●清・徐鉉 4・98912 ○ 2370 の字。●清・程瑤田 7・37171 ○ 2370 の字。

【損失】シツ 〔字集〕●明・梅純 8・148230 ○ 2370 の誤。●清・李宗岱 10・144539 ○ 1658 の誤。

【損益】エキ 〔字集〕●宋・蔡沈 12・45672 ○ 2370 の字。●宋・陳也 11・41698 ○ 2370 の字。●清・徐鉉 4・98912 ○ 2370 の字。●清・程瑤田 7・37171 ○ 2370 の字。

【損益之理】リ 〔字集〕●明・梅純 8・148230 ○ 2370 の誤。●清・李宗岱 10・144539 ○ 1658 の誤。

【損益之道】ドウ 〔字集〕●宋・蔡沈 12・45672 ○ 2370 の字。●宋・陳也 11・41698 ○ 2370 の字。●清・徐鉉 4・98912 ○ 2370 の字。●清・程瑤田 7・37171 ○ 2370 の字。

【損失】シツ 〔字集〕●明・梅純 8・148230 ○ 2370 の誤。●清・李宗岱 10・144539 ○ 1658 の誤。

【損益】エキ 〔字集〕●宋・蔡沈 12・45672 ○ 2370 の字。●宋・陳也 11・41698 ○ 2370 の字。●清・徐鉉 4・98912 ○ 2370 の字。●清・程瑤田 7・37171 ○ 2370 の字。

【損益之理】リ 〔字集〕●明・梅純 8・148230 ○ 2370 の誤。●清・李宗岱 10・144539 ○ 1658 の誤。

【損益之道】ドウ

□さぐる。なでる。〔集韻〕搌、摸也。□●えらぶ。〔集韻〕搌、擇也。●とる。もとめ。〔集韻〕搌、擇也。●とる。〔正字通〕搌、與、霑通。〔太玄經、玄數〕霑陰晦、以搌、數。

搌 12463 ソン（〔集韻〕蘇困切 **邇**）ロク（〔集韻〕蘇谷切 **邇**）

□●さぐりで物をとる。〔集韻〕搌、暗取物也。□搌（5－12462）の俗字。〔正字通〕搌、俗搌字。

搋 12464 ソン（〔集韻〕蘇昆切 **邇**）ムメ（〔集韻〕莫胡切 **邇**）

さぐる。或は搌（6－12963）に作る。〔廣韻〕搌、捫摸搌搌也。〔集韻〕搌、捫也、或从卅。

搋 12465 カイ（〔集韻〕柯開切 **邇**）

ふれる。〔集韻〕搋、觸也。

搏 12466 ハク（〔集韻〕方遇切 **邇**）ヒロ（〔集韻〕蒲故切 **邇**）

小篆

●とらへる。さがして捕へる。〔說文〕搏、索持也、从手專聲。〔周禮、秋官、羽人〕謂鼈、「左氏、昭十、二石、顧搏生搏之」。〔注〕搏、取也。●とる。〔史記、李斯傳〕錄全百越、盡陸不搏。〔注〕索隱曰、搏、猶獲也、取也。〔張衡、西京賦〕搏象貝、搏、奪也。〔注〕顧曰搏、捫搏取之名。●うつ。なぐる。素手でうつ。〔周禮、秋官、翼氏〕「說文通訓定聲」搏、段借爲敔。〔儀禮、鄉射〕搏、手擊也。〔穀梁傳、元〕搏、左右而相搏。〔注〕搏、手搏也。〔荀子、正論〕管仲搏搏。〔注〕搏、手擊也。〔荀子、富國〕是猶烏獲與無鑑搏也。〔注〕搏、鬬也。〔呂氏春秋、孟春紀、季春紀〕搏、鷙也。●はうつ。鳥が翼でうつ。羽ばたく。〔禮、儒行〕鷙鳥搏擊。〔荀子、賦〕搏、鷙也。〔注〕搏、手擊也。〔荀子、成相〕搏、鷙也。●たたく。拍（6－11952）に通ず。「說文通訓定聲」段借爲拍。〔禮、鄉飲酒〕搏、一曰、拊也。〔周禮、考工記、總目〕搏埴之工。〔注〕搏之言、拍也。〔史記、李斯傳〕彈箏搏髀。●樂器の名。なべし皮。樂器をつめたもので、手でたたいて鳴らす。●搏名。搏樂器。搏拊也、以象盛、鞞、形如鼓、以手拍之曰搏。●はりつけにする。膊（9－25782）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲膊。〔周禮、秋官、掌戮〕斬之、搏之。〔注〕搏、當爲膊。〔漢書、項籍傳〕請城士之膊。而搏之。〔注〕搏、當爲膊。請城士之膊。〔山海經、西山經〕東望恒山四成、有鵰鬼居之。名在上、搏之。〔注〕搏、猶舍也、草名之以類禦、感山四聲。●せまる。いたる。迫（11－38397）に通ず。搏（9－32083）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲迫。〔荀子、成相〕搏、至也。〔左氏、昭十七、水火所以合、也、注水火合而相搏。〔釋文〕搏、本又作膊。●低（1－468）に通ず。〔禮、月令、鵙始鳴、

注鵙搏勞、釋文〕搏、又作低。●搏（12－37 61）に通ず。〔漢書、高帝紀后孝文功臣表、擊鞶、段借爲鞶。〔師古曰、鞶、帶也、鞶、字或作搏。●鎛（12－25241）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲鎛。□□●とらへる。とる。捕（6－12157）に同じ。〔集韻〕捕、擊取也。〔禮、郊特牲、注〕捕、猶執也。●つぼめる。縫の穴をつぼめること。〔禮、月令、脩鍵閉〕〔注〕管籥、注〕管籥、捕鍵也。●搏殺は、鳥の名。鳩、布（4－27778）に通ず。〔禮、月令、鷹化爲鳩、注、鳩搏殺、疏、搏鳥、云、鳴鳩、謂戰、郭云、今之布穀也、云云、彼云、布穀此云搏者、布搏相近。●鎛（11－40491）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲鎛。

搏 12467 ハク（〔集韻〕博故切 **邇**）

搏（9－32083）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲搏。〔荀子、成相〕搏、鬬也。〔呂氏春秋、孟春紀、季春紀〕搏、鷙也。●はうつ。鳥が翼でうつ。羽ばたく。〔禮、儒行〕搏、鷙也。〔荀子、賦〕搏、鷙也。〔注〕搏、手擊也。●はたく。拍（6－11952）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲拍。〔禮、鄉飲酒〕搏、一曰、拊也。〔周禮、考工記、總目〕搏埴之工。〔注〕搏之言、拍也。〔史記、李斯傳〕彈箏搏髀。●樂器の名。なべし皮。樂器をつめたもので、手でたたいて鳴らす。●搏名。搏樂器。搏拊也、以象盛、鞞、形如鼓、以手拍之曰搏。●はりつけにする。膊（9－25782）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲膊。〔周禮、秋官、掌戮〕斬之、搏之。〔注〕搏、當爲膊。〔漢書、項籍傳〕請城士之膊。而搏之。〔注〕搏、當爲膊。請城士之膊。●わき。側面。〔山海經、西山經〕東望恒山四成、有鵰鬼居之。名在上、搏之。〔注〕搏、猶舍也、草名之以類禦、感山四聲。●せまる。いたる。迫（11－38397）に通ず。搏（9－32083）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲迫。〔荀子、成相〕搏、至也。〔左氏、昭十七、水火所以合、也、注水火合而相搏。〔釋文〕搏、本又作膊。●低（1－468）に通ず。〔禮、月令、鵙始鳴、注鵙搏勞、釋文〕搏、又作低。●搏（12－37 61）に通ず。〔漢書、高帝紀后孝文功臣表、擊鞶、段借爲鞶。〔師古曰、鞶、帶也、鞶、字或作搏。●鎛（12－25241）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲鎛。□□●とらへる。とる。捕（6－12157）に同じ。〔集韻〕捕、擊取也。〔禮、郊特牲、注〕捕、猶執也。●つぼめる。縫の穴をつぼめること。〔禮、月令、脩鍵閉〕〔注〕管籥、注〕管籥、捕鍵也。●搏殺は、鳥の名。鳩、布（4－27778）に通ず。〔禮、月令、鷹化爲鳩、注、鳩搏殺、疏、搏鳥、云、鳴鳩、謂戰、郭云、今之布穀也、云云、彼云、布穀此云搏者、布搏相近。●鎛（11－40491）に通ず。「說文通訓定聲」搏、段借爲鎛。

搏 12468 ハク（〔集韻〕博故切 **邇**）

搏（6－12963）に別字。（字案、搏似、搏、音博、搏也、搏、音博、搏也、搏、音博、搏也

搏拊、宮兵、鼓吏、鼓士、(漢衛子、疑倫調)中行経伯。

搏挽 [illegible] 日の出る所。扶桑。搏は搏の誤。

搏桑 [illegible] 日の出る所。扶桑。搏は搏の誤。

搏桑 [illegible] 氏、宮二公類、弩、弩、明堂面殺之。倍殺。(左氏、宣

●おす。（集韻）捉、推也。●搜（8－13005）の俗字。（正字通）捉、俗搜字。

【搜】 12470　サウ　搜（8－12317）に同じ。（正字通）通、搜、同、捉。

【搠】 12471　テキ　搠（8－12322）に同じ。（集韻）域、或作、搠。

【搖】 12472　チク　（集韻）敕六切　ㄔㄨˋ chù　屋

●うごきいたむ。身體がひきつけていたむ。（萬書）竇益傳）二指搖、身體亡（注）師古曰、搖、謂動而痛也。●ひく。ひきつける。（集韻）搖、牽制也。（集韻）搖、ひくこと。（集韻）搖、ひくこと。搖引、搖牽。●ひく。搖引に同じ。

【搒】 12473　ジョウ　（集韻）孔勇切　ㄗㄨㄥˇ zǒng　董
ジョウ　（集韻）如容切　ㄖㄨㄥˊ rú　冬
ジョウ　（集韻）通江切　ㄊㄨㄥ tōng　江
ジョウ　（集韻）匿勝切　ㄋㄧˋ nì　嶝

搒 小 ①おす。おしつける。（說文）搒、推搒也、从手旁聲。②おす。①に同じ。（集韻）搒、推也。（集韻）搒、推搒也。●をさめる。（集韻）搒、口收也。●おす。①に同じ。（集韻）搒、推搒也。●ふさぐ。（集韻）搒、目、窒也。四つく。さす。搒（8－12278）に同じ。（集韻）搒、撞也、或作、搒。

【搒】 12474　ハウ　（集韻）北孟切　ㄅㄤˇ bǎng　養
ハウ　（集韻）補曠切　ㄅㄤˋ bàng　宕
ハウ　（集韻）蒲康切　ㄅㄤˊ báng　唐
ハウ　（集韻）補郎切　ㄅㄤ bāng　唐
ハウ　（集韻）蒲旁切　ㄅㄤˊ báng　唐
ハウ　（集韻）蒲郎切　ㄅㄤˊ báng　唐

搒 小 ①おす。手旁聲。●舟をやる。搒（8－13524）に同じ。（集韻）搒、進舟也、或从手。②むちうつ。通じて笞（8－12336）に作る。（廣韻、釋詁）搒、擊也。（廣韻、張買傳）更搒苦數千。四ひきあみ。魚扛（11666）に作る。（集韻）搒、相牽也、或作、扛。五かすめる。（集韻）搒、掠也。

【搒】 12475　ツ　（集韻）胡官切　ㄏㄨㄢ huān　桓
ツ　（集韻）苦官切　ㄎㄨㄢ kuān　桓
コン　（集韻）胡昆切　ㄏㄨㄣ hún　魂
コン　（集韻）戶袞切　ㄏㄨㄣˋ hùn　恩
コン　（集韻）古本切　ㄍㄨㄣˇ gǔn　混

搒 小 ①おす。一說に、たたく。うちあて、手圓聲。（桂注）推、當爲、椎。●はさむ。四に同じ。（集韻）搒、目、挾也。●おす。①の●に同じ。（集韻）搒、推也。●おす。①の●に同じ。或は搒（8－12131）に作る。（集韻）搒、手推之也、或从困。五はさむ。（廣雅、釋言）搒、挾也。

【搓】 12476　サ　（集韻）倉何切　ㄘㄨㄛ cuō　歌
サ　（集韻）此我切　ㄘㄨㄛˇ cuǒ　果
サイ　（集韻）初皆切　ㄘㄞ cāi　佳

搓 小 ①うつ。きる。（後漢書馬融傳）置檄曰●うつ。きる。（後漢書馬融傳）置檄（注）搓、斫也。●もむ。すりもむ。よる。よれる。（集韻、搓、搓挪也。（正字通）通、轉也。（廣韻）、畏事柳詩）而搓、金縷、細、遊麦、翠林、綠樹、紅象裡裡、粉未、乾。●閼洗。四かたむいたさま。（集韻）搓、邪皃、曰うつ。（集韻）搓、推擊也。

【搔】 12477　サウ　（集韻）蘇遭切　ㄙㄠ sāo　豪
サウ　（集韻）蘇奴切　ㄙㄨ sū　模
サウ　（集韻）先到切　ㄒㄧㄢˋ xiàn　霰

搔 小 ①かく。爪の先端でこする。かき落す。（段注）說文搔、刮也、从手蚤聲。（段注）指、搔也。（禮、內則、問衣燠寒、疾痛苛癢、而敬抑搔之。（注）搔、摩也。（萬書、枚乘傳）十圍之木、始生如蘖、足可搔而絕。（注）師古曰、搔、謂抓也。●うごかす。搔（8－11043）に通ず。搔（18）を見よ。（說文通訓定聲）搔、假借爲搔。（淮南子、氾論訓）脈、文搔、（注）搔、券也。●さわぐ。さわがたてる。騷（8－14503）に通ず。●搔搔（無心）所在搔更長（慎可）。●或は搔（8－12559）に作る。（集韻）搔、或从蚤。四つめ。爪を切る。又、說文、手爪甲也、或作、搔。（注）作爪。（廣韻）十五韻、沃治、搔搔鬲、（注）搔、當爲爪。四つかむ。抓（8－12297）に同じ。（集韻）抓、搔撥、搔也、或作、搔。（後漢書、馮衍傳）搔、搔、搔、

而不見。揺、直跑駆。(白居易、九日登巴臺詩)
韓愈、揺、直馳奈亦徘徊。
【搖首尋思】[illegible] shōshu jinshi [illegible] 脳揺を
【搖搖】[illegible] さわぐ。●[illegible]、さわぐ。
[illegible]、[illegible]、[illegible]、

〔蘇軾、臣事榮臣）而古今之事、在乎不欲有所搖奪、而徒伸天下之利」而云云。

〔搖動〕ｙáｏ ｄｏｎｇ ゆれうごく。動かす。〔禮記、樂記〕「其聲噍以殺、其音樂以淫、其曲直繁以趨、樂極則憂、其政乖、其民困、是故聖人作爲鼓鼙、以動之、鼓鼙之聲、讙囂以哀、聞之者、莫不動心焉、此之謂樂之情也」

〔搖曳〕ｙáｏ ｙｉ ゆれうごく。〔蘇軾、次韻子由、病中大雨、二首〕「搖曳、樹影、搖曳、燈光、」

〔搖搖〕ｙáｏ ｙáｏ ゆれうごく。〔詩、王風、黍離〕「彼黍離離、彼稷之苗、行邁靡靡、中心搖搖、知我者、謂我心憂、不知我者、謂我何求、悠悠蒼天、此何人哉」

〔搖搖欲墜〕ｙáｏ ｙáｏ ｙｕｅ ｚｈｕｉ ゆれうごくし、まさにおちんとす。〔杜甫、秋興、八首〕「搖搖欲墜、鍾虡、森然、」

〔搖籃〕ｙáｏ ｌａｎ ゆりかご。〔白居易、新豐折臂翁〕「兵部尚書、張公、爲我、生、我、養我、育我、如慈母、抱、我、置、我、搖籃、」

〔搖動〕ｙáｏ ｄｏｎｇ ゆれうごく。動かす。〔禮記、樂記〕「其聲噍以殺、其音樂以淫、其曲直繁以趨、樂極則憂、其政乖、其民困、是故聖人作爲鼓鼙、以動之、鼓鼙之聲、讙囂以哀、聞之者、莫不動心焉、此之謂樂之情也」

〔搖擺〕ｙáｏ ｂａｉ ゆれうごく。〔蘇軾、次韻子由、病中大雨、二首〕「搖擺、樹影、搖曳、燈光、」

〔搖頭〕ｙáｏ ｔｏｕ ゆれうごく。〔白居易、酬、元稹、八年、冬、十、二、月、中、旬、有、感、而、作、二、十、韻、〕「搖頭、歎、世、事、」

〔搖頭擺尾〕ｙáｏ ｔｏｕ ｂａｉ ｙｉ 頭を搖し尾を擺す。〔蘇軾、次韻子由、病中大雨、二首〕「搖頭擺尾、自、不、知、」

〔搖動〕ｙáｏ ｄｏｎｇ ゆれうごく。動かす。〔蘇軾、次韻子由、病中大雨、二首〕「搖動、樹影、搖曳、燈光、」

〔搖擺〕ｙáｏ ｂａｉ ゆれうごく。〔蘇軾、次韻子由、病中大雨、二首〕「搖擺、樹影、搖曳、燈光、」

〔搖搖欲墜〕ｙáｏ ｙáｏ ｙｕｅ ｚｈｕｉ ゆれうごくし、まさにおちんとす。〔杜甫、秋興、八首〕「搖搖欲墜、鍾虡、森然、」

〔搖籃〕ｙáｏ ｌａｎ ゆりかご。〔白居易、新豐折臂翁〕「兵部尚書、張公、爲我、生、我、養我、育我、如慈母、抱、我、置、我、搖籃、」

〔搖動〕ｙáｏ ｄｏｎｇ ゆれうごく。動かす。〔禮記、樂記〕「其聲噍以殺、其音樂以淫、其曲直繁以趨、樂極則憂、其政乖、其民困、是故聖人作爲鼓鼙、以動之、鼓鼙之聲、讙囂以哀、聞之者、莫不動心焉、此之謂樂之情也

る。貧乏をゆすりする。

〔揺擺〕ようはい ●ようかしゅるる。〔王伝・詩語〕運方向・揺動。●ゆるぐ。身體をうごかす。●揺動のさま。〔蘇在明・賀逸道詩〕揚州夢〔広韻〕ようはい pái。

〔揺擺跳梁〕ようはいちょうりょう pái liáng。大手をふってかけ出す。

〔揺尾〕ようび yǐ。尾をふるふ。博みんをなびかさ。〔漢書・司馬遷傳〕猛虎在山・深山百獸恐・及其在槛檻之中・搖頭鼓尾・以求食肉之属也。●〔後漢書・馬援傳〕若使百姓・耳搖尾・目視足・時與人言。若使百姓・耳搖尾・目視足・時與人言。

〔揺筆〕ようひつ 筆をうごかす。〔杜審言・和晦・鍾秋日・宴・詩〕揺筆・詩成・鶴・鳴・〔李白・贈・秋浦柳少府・詩語〕揺筆・詩成・鶴・鳴・

〔揺風〕ようふう ●むしにかむ。はやて。〔秦風・〔江海・揺風・忽起・白日昏暗。〔注〕・青日・揺風・暴風也。●〔後漢書・馬援傳〕・揺風・暴風・

〔揺動〕ようどう ●ゆるぐ。ゆるがす。〔後漢書・馬援傳〕・揺動・人心・〔宋史・忠義・徐徳言傳〕・波・云云・目・揺・敵人・

〔揺曳〕ようえい ●ゆるぐ。ゆれる。〔後漢書・馬援傳〕・揺動・人心・〔宋史・忠義・徐徳言傳〕・波・云云・目・揺・敵人・

〔揺碧〕ようへき みどりをゆりうごかす。又、ゆれるみどり。〔杜甫・江亭・詩〕・水・自・揺・碧・

〔揺擺〕ようはい 鞭をうごかす。〔方言・郭・注・呉・楚・間・謂・鞭・為・揺・擺・〔方言・郭・注・呉・楚・間・謂・鞭・為・揺・擺・

〔揺民〕ようみん 揺籃・揺民・揺・籃・民・揺・民・揺・民・揺

搦 12482

日ヒねる。「(集韻)搦、捻也。」日おさへる。「(集韻)搦、搦維、拄也。」日おさゝへる。「(集韻)搦、搦維、拄也。」

日ヒ ヂャク (集韻)奴沃切 ㊀ 日ダク ニャク (集韻)昵角切 ㊁ 日ドウ ジョク (集韻)乃豆切 ㊂

搋 12483

日やがる。又、くじく。搋(6－12009)に同じ。(集韻)搋、說文、擿也、一曰、拉也、或从弋。日くじく。ひしぐ。拉(6－11946)に同じ。又、搋(6－12009)に同じ。(集韻)拉、說文、擿也、或作搋。(廣雅、釋詁一)搋、折也。(公羊、莊元)搋、幹而殺之。(注)搋、折聲也。(釋文)搋、本亦作拉。皆同、折聲也。(既元校勘記段玉裁云、依說文、當作搋、作搋者或體也、作拉者假借也。)

日ケツ (集韻)苦蛮切 ㊀ 日コツ (集韻)落合切 ㊁ 日ケン (集韻)底効切 ㊂

搌 12485

日シン ゼン (集韻)旋沃切 ㊀ 日サウ (集韻)充蛮切 ㊁ 日サウ (集韻)萩運切 ㊂ 日サウ (集韻)萩運切 ㊃ 日サウ (集韻)萩運切 ㊄

ヒ 搌、搌(6－11945)に通ず。(正字通)搌、與ヒ混通。

搜 12486

日ソウ (集韻)所鳩切 ㊀ 日ソウ (集韻)所鳩切 ㊁ 日ソウ (集韻)萩運切 ㊂ 日ソウ (集韻)萩運切 ㊃ 日ソウ (集韻)所鳩切 ㊄ 日ソウ (集韻)所鳩切 ㊅ 日ソウ (集韻)所鳩切 ㊆ 日ソウ (集韻)元韻切 ㊇ 日ソウ (集韻)萩運切 ㊈ 日ソウ (集韻)萩運切 ㊉ 日ソウ (集韻)所鳩切 ㊊ 日ソウ (集韻)山韻切 ㊋ 日ソウ (集韻)山韻切 ㊌

搜 小字通搜、今作搜。日もとめる。(說文)搜、索也。(廣雅、釋詁一)搜、求也。(秦策)曰搜、(注)搜、求也。(荀子、秋水)搜于國中。(釋文)搜、索也。(漢書、武帝紀)大搜上林。❷好事研搜。❸えらぶ。(揚雄、甘泉賦)遁搜、述索(偶、「色」)搜、搜也。❹しらべる。(王褒、洞簫賦)搜、數也。❺そなはる。(小謝集、廣記)搜、數也。❻おはい。(說文)搜、衆意也。(廣雅、釋詁一)搜、衆也。❼はやい。(詩、魯頌、泮水)東矢其搜。(箋)搜、疾也。言、勁疾也。❽矢の飛ぶおと。(詩、魯頌、泮水)東矢其搜、(疏)搜、搜矢行之聲。❾鈴の狩、現(7－20586)・蒐(8－315

39)に通ず。(說文通訓定聲)搜、假借通搜。(左氏、昭二十九、爲被蘆之法)(注)文公搜、被蘆。(釋文)搜、本又作蒐。❶はく。(說文)搜、本又作搜。(荀子、寡聞)搜、段借鈔。搜、(禮、郊特牲、在、孫三月、注)蒐牢中所。搜除、衆也。❷古は搜。❸魂魂、衆兒。(說文)搜、古作搜。

搜 (集韻)所鳩切 ㊀ 搜 (集韻)所鳩切 ㊁ 搜 (集韻)萩運切 ㊂ 搜 (集韻)元韻切 ㊃ 搜 (集韻)萩運切 ㊄ 搜 (集韻)萩運切 ㊅ 搜 (集韻)所鳩切 ㊆ 搜 (集韻)山韻切 ㊇

搜搜 ㊀ 搜搜、搜搜、衆也。(說文)搜搜、衆意也。(廣雅、釋詁一)搜搜、衆也。❶みだれる。搜搜、搜搜、衆也。(楚辭、九歌)搜搜、搜搜、衆也。(注)搜搜、衆也。(文選、張衡、思玄賦)搜搜、動兒、亦省。(呂氏、八月紀)搜搜、動兒、亦省。(呂氏、八月紀)搜搜、動兒、亦省。(呂氏、八月紀

説文七上 陽虎去魯奔趙、閼王臨曰、吾聞子善相人、虎曰、臣相三人、皆貴而不仁、及虎抵罪、閼王曰、子相三人、皆貴而不仁、及虎抵罪、閼王曰、子相三人、皆貴而不仁、及虎抵罪、閼王曰、子

音英、蕭該案、李善云、鄭注、韓記、曰、搦之言、英也。字林曰、搦、山楊反、呂向云、蒼頡篇曰、搦、指取也。

搦 12491

サク (集韻)色角切 (廣韻)所角切 (廣韻)麥 (廣韻)陌 (廣韻)麥 (廣韻)陌

(集韻)搦、指雅、塗也。

(廣雅、釋詁)搦、指也。●搦、はしる。さしはさむ。

(集韻)搦、指也。

(廣雅、釋詁)搦、指也。●搦、はしる。さしはさむ。

(廣雅、釋詁)搦、指也。●搦、はしる。さしはさむ。

(集韻)搦、指也

【搤殺】ｙｅｋｓｈｉ 手でしめころす。つかみころす。〔荀子、禽獸篇、南山序、節注〕蓋公使、公子彭生殺。

【搤腕】ｙｅｋｉｗａｎ ひじをにぎる。〔後漢書、愍度〕以右手搤（其左腕）。

【搤扼】ｙｅｋｉｙａｋｕ 搤腕に同じ。〔史記、酈食其傳〕海上燕齊之間、莫不下搤而自負有能治天下者。〔索隱〕搤、於革反。搤、扼也。言自負有能治天下之人。〔正義〕搤、於革反。搤、扼也。言海上燕齊之間、莫不搤而自負有能治天下者。〔集解〕徐廣曰、搤、於革反。搤、扼也。〔駰案〕搤、於革反。搤、扼也。〔索隱〕搤、於革反。搤、扼也。〔正義〕搤、於革反。搤、扼也。〔集解〕徐廣曰、

搡 12504

㊀ケツ（集韻巨列切）屑
㊁ケチ
㊂チャク（集韻陟格切）陌

同搫（字彙一12871）に同じ。（集韻）搫、亦作搡、㊁手で物をはかる。或は搫（字彙一12039）に作る。（集韻）搡、手度物、或作搫。

搫 12505

タク（集韻延約切）藥
ダク 古文 [illegible]

㊀はる。（方言、十三）搫、張也。（注）謂較張也。㊁ぬぐい。（廣雅、釋詁四）搫、突也。㊂既㋑犯。（字彙）搫、[illegible]、疾也。

搫塞 [illegible]、[illegible]、塞也。

搫塞 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[

作る。

【搭界】 ta. dāi-jiè 界を接する。境界。

【搭筮】 ta. shì 上に作って下を取ること。(福惠全書、刑名部、人命上、總論)搭：蓋被側。搭：除場地。

【搭爻】 ta. yáo 足場。足代。

【搭爻子】 ta. yáo zǐ 足場を掛ける。

【搭客】 ta. kè 船に乗せた客。

【搭船】 ta. chuán 船に乗せる。

【搭船】 ta. chuán 船代。

【搭脚】 ta. jiǎo 運賃の関係があるもの。

【搭彩】 ta. cǎi 仲間となる。

【搭計】 ta. jì 俗に、虫衣の類とされはって長いものをいう。又、袖の類に、縫合部分を示す。(通俗編、服飾、搭識)郭璞、山海經、元衣名。按、俗謂皮衣之表裏共而長者曰搭識。李時珍曰、搭識、搭襟也。起于隋時。(南史、陳、宣帝紀)之、乃鋒鏑馬、搭識、軍服用。飛、白注。搭識

手部（十畫）揉 揩 揮 揮 揮

廣韻〕搴、取也。〔楚辭、離騷〕朝搴ニ阰之木。〔注〕搴、取也。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、取也。〔史記、叔孫通傳〕斬ニ將軍ヲ旗ヲ。〔集解〕引ニ徐廣曰ニ。搴、拔也。〔漢書、季布傳贊〕身屈ニ辱ヲ搴ニ旗者數矣。〔注〕李奇曰ニ。搴、取也。孟康曰ニ。搴、斬取也。師古曰ニ。謂勝敵拔取旗。〔郭璞、爾雅序〕搴、其義絕ニ。〔釋文〕搴、拔也。●まく。〔史記、叔孫通傳〕搴、取ノ之十。〔注〕推、釋ル搴、推、拒也。❸かかげる。もちあげる。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、拔也。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗ヲ。〔顏師古注〕搴、舉也。〔史記、叔孫通傳〕斬ニ將軍ヲ旗ヲ。〔集解〕引ニ徐廣曰ニ。搴、拔也。〔集解〕搴、引ニ取也。〔史記、季布傳〕搴ニ旗者。

〔搴帷〕ケンイ　掛け幕をかかげ上げる。〔曹植、美女篇〕搴ニ帷更衣笥。〔注〕搴、取也。

〔搴旗〕ケンキ　旗をぬき取る。敵の旗を奪い取る。〔呉子、料敵〕力輕ニ扛鼎。足輕ニ攻城。搴ニ旗ヲ。將必有能者。〔史記、叔孫通傳〕斬ニ將軍旗ヲ。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗者。〔注〕搴、取也。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、取也。〔文選、張衡、西京賦〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、拔也。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗者。〔注〕搴、舉也。〔文選、左思、魏都賦〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、取也。

〔搴取〕ケンシュ　すばやくかすめとる。〔呉志、孫權傳〕搴取ニ。〔注〕搴、取也。

〔搴出〕ケンシュツ　ぬき出す。

〔搴帷〕ケンイ　花をぬき取る。〔白居易、性靈集、寺至少林寺、題僧院壁畫、詩〕山鷹卧衣六七幅。搴ニ芳蘭ヲ著ニ蒼蒼ニ。

〔搴木〕ケンボク　木に取る。木から取る。〔韓愈、木芙蓉詩〕採ニ江邊晚雪ヲ。搴ニ木古岡ヲ。

〔搴裳〕ケンショウ　かかげる。〔王洛然、初月賦〕搴裳而不ニ。〔李善、注〕搴、褰ヲ捲キ上ル。

〔搴芳〕ケンホウ　花をぬき取る。〔白居易、性靈集、寺至少林寺、題僧院壁畫、詩〕山鷹卧衣六七幅。搴ニ芳蘭ヲ著ニ蒼蒼ニ。

〔搴旗〕ケンキ　旗をぬき取る。〔呉志、孫權傳〕搴取ニ。〔注〕搴、取也。〔文選、張衡、西京賦〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、拔也。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗者。〔注〕搴、舉也。〔文選、左思、魏都賦〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、取也。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、拔也。〔史記、叔孫通傳〕斬ニ將軍ヲ旗ヲ。〔集解〕引ニ徐廣曰ニ。搴、拔也。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗者數矣。〔注〕李奇曰ニ。搴、取也。孟康曰ニ。搴、斬取也。師古曰ニ。謂勝敵拔取旗。〔郭璞、爾雅序〕搴、其義絕ニ。〔釋文〕搴、拔也。●まく。〔史記、叔孫通傳〕搴、取ノ之十。〔注〕推、釋ル搴、推、拒也。❸かかげる。もちあげる。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、拔也。〔漢書、樂布傳〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、舉也。〔史記、叔孫通傳〕搴ニ旗ヲ。〔注〕搴、取也。〔楚辭、九歌、湘君〕搴ニ芙蓉ヲ木末ニ。〔注〕搴、拔也。〔文選、張衡、西京賦〕搴ニ旗ヲ。〔注〕

手部（一畫）搶 搌 摑 摔 掉 掇 摔 掘 摔 摔 摔

【擾】 12543 セツ ゼチ (篇海)博雲切 **𩞁**

●たつ。(篇海)攝、絶也。●複(6－22861)の譌字。(康熙字典)擾、按、複字の譌。

【捧】 12544 サン (篇海)摔同。拳。

拳(6－11598)に同じ。(篇海)

【援】 12545 シウ (篇海)摔同。捜。

捜(6－12458)に同じ。(篇海)

【捧】 12546 イフ (篇海)摔同。捧。

捧(6－12353)に同じ。(篇海)

【掷】 12547 エン ヨン (篇海)於元切 **元**

かがめる。(篇海)掷、屈也。

【捩】 12548 ゼン ネン (篇海)而真切 **先**

●すみやかにさる。(海篇)捩、去急也。●捩(6－12556)の譌字。(康熙字典)捩、按、捩字之譌。

【捷】 12549 ヲ 扶(6－11869)の古字。(字彙補)元元切、古扶字。

【捶】 12550 ヒ ヘイ (字彙補)匹耳切 **𠀋**

●手で矢をおさはふ。(字彙補)捶、以手覆矢也、●弓の弦。(字彙補)捶、弓弦也。

【捼】 12551 ザ 挫(6－12984)の本字。(正字通)

挫、本作捼。

【探】 12552 ク (中華大字典)讀若茶。 イヤ ta² ちヤ tsa²

●塗る。(中華大字典)探、俗字。敷也、如婦女敷粉曰探、猪鳶敷藥曰探、藥之類。

植物をこすりつけ。 ta²、tsa²、tsa²、tsa²、植物に塗り擦る。又、探皮。 ta²、tsa²、tsa²、淫婦、植物に擦る役者。

花皮。

●探粉 ta²、tsa²、fen³、白粉をぬりつける。

●探墨 ta²、tsa²、mo⁴、墨をつける。

●探乾淨 ta²、tsa²、kan¹、cing⁴、精麗に拭く。

●探不掉 ta²、tsa²、pu⁴、tiao⁴、こすっても落ちない。拭ひおちない。

●探顯妝粉 ta²、tsa²、xen³、fan³、紅をつけ白粉を塗る。おしやれする。

【搿】 12554 カク (辭源)讀與格近。 くゞ ker

●両手で合せ抱く。(辭源)搿、俗字、吳方言、両手合抱之曰搿。

【搗】 12555 ウ メ wu

●の善ぐ。(○)手で蔽ふ。

搗嗎 wu³、ma⁰、蔽ふ。

搗天 wu³、tien¹、天を蔽ふ。

搗不住 wu³、pu⁴、tsu⁴、蔽ひきれない。蔽をしきれない。

【搬】 12558 ㊀㊁㊂㊃ サツ (集韻)私列切 **𠀋** ㊄セチ (集韻)山里切 **𠀋** ㊅セチ (集韻)所鎋切 **𠀋** ㊆サイ (集韻)所鎋切 **𠀋**

●うつ。ひら手で撃つ。(公羊、莊十二)未甚撃搬、仇敖碎、其首。(注)銅手曰搬。●揮ひ散らす。(字彙)搬、揮散也。●はらひのける。抹搬、(廣韻)搬、抹撥也。(集韻)搬、一曰、抹搬、掃滅也。●いりまじる。(淮南子、俶眞訓)不一與物相弊搬。(注)弊搬、猶雜糅也。●殺(6－16638)に通ず。(韓愈、貞曜先生墓誌)唯其大數、於詞、而興、世抹搬。(注)古通用未殺。四あげる。ふるひ出す。擺搬、(集韻)搬、擺搬抖擻也。

【搬】 12559 ネン 撚(6－12713)に同じ。(篇海)

撚、俗撚。

【搋】 12560 ヂ (集韻)紅胥切 **𠀋**

のばす。のす。(集韻)擎、以手布物也。

【搋】 12561 ㊀サン (集韻)所閒切 **𠀋** ㊁セン (集韻)所恨切 **𠀋**

□●ゆする。うごかす。(廣韻)搋、以手核物。●よりわける。捍搋、(集韻)搋、捍搋、手精、擇物也。●ゆれる。捍搋、(集韻)捍、捍搋、搖動。㊂ふるふ。(集韻)搋、揮也。

【摂】 12557 セツ 攝(6－13010)の略字。

十一畫

【捉】 12553 サ (辭源)讀如許。 ㄕㄚˇ cha³

●しぼりとる。搾(6－15259)の俗字。(辭源)捉、凡物之含有流質者、以搾牀、壓之搾之而取、其汁也。(辭源)搾、搾取。(○)●しぼって汁をとること。●資本家や地主が労働者や農民の血を絞り出すこの搾取だけのものを捉に搾りにする。部分を搾へて、他を自分の所有とすること。

【掴】 12554 カク (辭源)讀與格近。 くゞ ker

●両手で合せ抱く。(辭源)掴、俗字、吳方言、両手合抱之曰掴。

【掴】 12555 ウ メ wu

●の善ぐ。(○)手で蔽ふ。

掴嗎 wu³、ma⁰、蔽ふ。

掴天 wu³、tien¹、天を蔽ふ。

掴不住 wu³、pu⁴、tsu⁴、蔽ひきれない。蔽をしきれない。

【掴】 12556 オン ㄟ en¹

●おす。おさへる。(國語常用字彙)掴、按也、如掴電鈴。

【掴】 12557 音奉詳(中華大字典)音未詳。

たたく。うつ。掴(6－13940)の㊀の●を見よ。(廣韻)掴、掴撲、槌打。(中華大字典)掴撲、槌打也、見、(廣韻)二十七、薄他朗切、掴字注。

(12562)——(12569)　手部（十一畫）　掄　寠　摻　摻　摻

挽 12570 トウ（集韻）鳳俟切 カ又 tou4

●うつ。（集韻）撲。批也。●つつむ。（字彙）挽。推搖。●蹴売（1－1386）に同じ。

揖 12571 シャ（集韻）七夜切 ㄘㄧㄝˋ

●ななめにささへる。（集韻）揖。謜捂也。●謜って揖（6－11914）に作る。（正字通）推。撰字之譌。

掷 12572 ㊀クワク（集韻）古獲切 ㄍㄨㄛˊ kuo2 ㊁クワク（字彙）古切 ㄍㄨˋ

㊀㊁●うつ。（集韻）掷。批也。（趙簪錄話）掷。其口。●耳をうつ。掷（6－12993）に同じ。（康熙字典）掷。掌耳也。與「掷」同。●つかむ。にぎる。

掷合 ●うつ。つかみあひ。喧嘩。

掷取 ●つかみ取ること。貪り取ること。

掷裂 ●ツツ。（穢裂）破る。（無量壽經、上）掷裂。（東嶺）

掷 12573 クワク（集韻）或切 ㄍㄨㄛˋ

掷 ●掷（12585）に同じ。（集韻）掷。或从郭。

掠 12571 （無流作）掠 ●掠（12585）に同じ。

掷 12575 ヘイ ヒャウ（集韻）車正切 ㄅㄧㄥˋ bing4

●はらふ。のぞく。（廣雅、釋詁三）掷。除也。●或は拼（6－12236）に作る。（集韻）掷。或从拼。●屏（4－7734）に通ず（正字通）掷。與「屏」同。

掷撞 ping4, tang4 ●衝。撞。（東嶺）掷撞（4－7734－95）に同じ。

捷 12576 ㊀ヒウ（集韻）苔蓊切 ㄅㄧㄠˇ ㊁ヒウ（集韻）苔蓊切 ㄅㄧㄠˇ

㊀㊁●衣をぬふ。縫（8－27809）に同じ。（集韻）縫。說文、以鍼縫衣也、亦作捷。（正字通）●大きい。逢（11－38903）に通ず。（正字通）●ささぐる。捧（5－12120）。捧（6－12139）に通ず。（集韻）捧、奉也。通作捷。（正字通）捷。別作捧。㊁ぬふ。縫（8－27809）に同じ。（集韻）縫。鍼衣也。或作捷。

捷策 ●ツツ。捷作を両手で分けて切りすること。（史記、龜策傳）以鍼定數（注、集解引徐廣曰、捷、音逢、一作逢、索隱曰、捷謂兩手執蓍分而抄之、故云捷策。

摔 12577 ㊀ソツ 山ㄕㄨㄞ（字彙）山ㄕㄨㄞ ㊁ソツ（字彙）山ㄕㄨㄞ shuai1

●地に棄てる。（字彙）摔、棄、於地也。●跌（6）落ちる。落す。（12）投げる。（13）落す。（以上上聲）

摔跤 ●shuai1 chiao1 相撲。

摔角 ●shuai1 jiao3 柔道に似た角力の一種。

摔交 ●shuai1 jiao1 なげすてる。紅樓夢。

摔倒 ●shuai1 dao3 倒れる。

摔下 ●shuai1 xia4 馬から乗手を落す。

摔去 ●shuai1 qu4 遠く捨てる。

摔物 ●shuai1 wu4 ゆすりやぶる。

摔碎 ●shuai1 sui4 ゆすりやぶる。摔碎（4）に同じ。

摔潘 ●shuai1 pan4 打ちこはす。破壊する。

摔瀉 ●shuai1 xie4 失敗な言葉を吐く。

摔死 ●shuai1 si3 轟倒などが虚明すること。

摔殺 ●shuai1 sha4 ぶつ落されて死ぬ。

摔袖 ●shuai1 xiu4 袖を振り拂ぶ。

摔手 ●shuai1 shou3 手を振る。

摔折 ●shuai1 she2 折る。打ち破る。

摔倒 ●shuai1 dao3 投げ倒す。

摔破 ●shuai1 po4 振り動かして破る。

摔艇 ●shuai1 ting3 ting1 振り捨てられて死ぬ。

摔門 ●shuai1 men2 力を入れてひどく戸を閉める。

摔筋斗 ●shuai1 chin1 tou4 もんどり打って倒れる。轉倒する。

摔打藤拉 ●shuai1 da3 teng2 la1 破壊する。

摔蹬下馬 ●shuai1 deng4 hia4 ma3 鐙をはづし馬から下りる。

掷 12578 ㊀テイ（集韻）子計切 ㄗㄧˋ ㊁テイ（集韻）大計切 ㄉㄧˋ ㊂テイ（集韻）延結切 ㄓㄧㄢˋ ㊃テイ（集韻）富結切 ㄈㄨˋ ㊄テツ（集韻）陝結切 ㄒㄧㄝˊ

㊀㊁●つまみとる。（集韻）掷。拾也。（12）投げる。（13）落す。（14）捨てる。（15）捨てる。（以上去聲）

撩 12579 ㊀セイ（集韻）七計切 ㄑㄧˋ ㊁セイ（集韻）初鬼切 ㄙㄨㄟˇ

㊀かけげとる。（集韻）撩。挑取也。㊁おす。（集韻）撩。推也。

撩 12580 ㊀スウ（集韻）先侯切 ㄙㄡ ㊁ソウ（集韻）蘇鈞切 ㄙㄨㄣ

㊀とる。撩。或は捷（6－12154）に作る。（集韻）撩。接撩。取也。或省。㊁馬がくつわをふりながら走る。騷（12－47387）に同じ。（集韻）騷。馬衝走。或作撩。

撩 12581 アウ 俗字 ●掷（12578）に同じ。（集韻）撩。推搖也。或作掷。●撩（12414）の誤字。（正字通）撩。撩之譌。

摘

12582

〔集韻〕〔廣韻〕ヂヤク　知之 tɕɨɡ
〔集韻〕ヂヤク　知陌 ʈɛɡ
〔集韻〕ヂヤク　知麻 ʈɛɡ

①つむ　とる　〔説文〕摘、摭也。〔玉篇〕摘、摭也。〔廣韻〕摘、摭也。〔集韻〕摘、摭也。〔類篇

薛云。摘謂、多。韻(集韓)摘謂、書作摘謂、王逸注楚辭、斷、析也。摘者摘取之辭者分之。摘、其根字也。

摘邇(集韓)詞而不能。其中摘、摘邇(集韓)詞而不能。其中摘、摘邇(集韓)詞而不能。其中摘、

掎 12592

㊀キ（玉篇渠倚切）因
㊁キ（集韻居義切）國
㊂キ（集韻畢格切）紙

㊀㊁いただく。（玉篇）牽。（集韻）掎、蔽也。（集韻）度、閑藏食物也。或作、掎。

擕 12593

㊀ク（集韻廬谷切）屋
㊁ロウ（集韻力又切）宥
㊂ロウ（六書故）

ふる。うごかす。ゆる。或は搖。6－1235 2）に作る。（集韻）擕、振也。或作、搖。（周禮）夏官、大司馬）設旌旂三辰、司馬擕、貫。（注）都司農曰、擕、讀爲奔、玄謂、擕、讀如、涕洟之涕、掎、上振之爲擕。（集韻）擕、振也。同ゆる。㊁同じ。（集韻）擕、振也。周禮、擕、鐸、郷司農讀、㊂とる。水中に沈んで物を取る。（六書故）擕、撈也、別作、摟。

【擕林居士】ケイリン　清（載籍6－1865－29）の號。

摟 12594

㊀ラ（集韻盧支切）
㊁ラ（集韻盧臥切）
カメ（集韻）

㊀㊁をさめる。（集韻）摟、積聚、理也。（後漢書、奥服志下）古有、冠無、簪、云云、漢興、續、其顧、卻揮、之、施、巾連、題、卻覆、之、●圓積しかさねる。

摟 12595

㊀ロウ（集韻郎侯切）尤
㊁ロウ（集韻）
㊂ロウ（正字通）郎、小

（段注）此篇作、曳也、聚也、（孟子、告子下）五伯者、摟、諸侯、以伐、諸侯、者也。㊀ひきよせる。いさなう。（孟子、告子下）摟、其處子、（注）摟、牽也。●あつめる。（廣雅、釋詁）摟、聚也、（新論、行義篇）今俗語以牢按爲、聚、斂聚之意也。●とる。さぐりとる。（廣韻）摟、探取。（廣韻）摟、斂取也、出、陸氏字林。●ひきのばす。（集韻）摟、曰、拔使、申也。●抱く。かかへる。（正字通）摟、竪持請之、摟、通作、婁。●圓④すすめる。（集韻）摟、通作、からげる。（四）委託を受ける。（六）（段注）、（上不）。

（接續）jie² lou², 人から委託されて政賣する商人。

（接錢）jie² lou², 金を懷に入れる金を取り込む。

（接攬）jie² lou², ちゃんとあつめる。（李紳、俗師小錄）鄭番計較者、爲、摟攬。

（摟紙）lou² zhi³, 取ること。（廣韻）、摟、摟攬、取也、出、陸氏字林。

（摟出）lou² chu², 抱きとめる。抱へる。

（摟抱）lou² pao⁴, 取る。取り込む。

（摟買）lou² mai³, 委託賣買する。

（摟抱）lou² pao⁴, 抱く。かかへる。

（摟抱）lou² pao⁴, 手で抱をかなりすきま。（松原、琴風、續、其顧、卻揮、之、施、巾連、題、卻覆、之、●圓積しかさねる。

摟 12596

ソウ（集韻亜動切）麌
トメム（tsung）

●すべる。あつめかばねる。又、みな。6－27671）・擕（6－12239）・總（6－27844）に作る。（集韻）總、說文、聚束也、一曰、皆也、或从手、古作、總、擕。●摟（6－12163）に同じ。（正字通）摟、六書故作、摠。

（摟物）熱語は總（6－27844）を見よ。

擄 12597

㊀カイ（集韻居代切）隊
㊁キ（集韻）許既切）未

●あらふ。通じて漑（7－1812 ※3）に作る。（說文）漑、灌也、从手既聲、詩曰、漑之釜鬵。（段注）匠風文、云云、今本作、漑者、非。（集韻）擭、通作、漑。（正字通）擭、从、漑、爲、正、（操紀藏文集、擭、蔵辨、麻、器、用、手、亦用、水、擭、漑、与、用、固、可、通、如、獸、迫、之、亦作、獸、迫、、擕、染、之、亦作、濡、染、皆、手、旁、通、用、之、語、●ぬくふ。（周禮、天官、世婦）師、女官、而、漑、（注）擭、拭也、（釋文）漑、古愛反。（廣雅、釋詁三）擭、去也。㊁とる。（廣雅、釋詁三）擭、取也。●ぬくふ。㊀の●に同じ。（正字通）擭、拭也、或作、摟。

擭 12598

サツ（集韻）麌、同、摟

（接擭）jie² lou², 抱く。

（接擭）jie² lou² zhe⁰, 衣服の紐をからげる。

（接擭子）jie² lou² zhi⁰, 結束する。

（接擭的）jie² lou² de⁰, 賣買を決み取る人。

（接擭中）jie² lou² zhong⁴, だきしめる。（紅樓夢、第三回）原被他外祖母、已擭入懷中、心肝兒、肉、寶、寶、、、

殘摫拙蠻猋。(注)綜曰、擅、撤、皆謂。載、擅之。●狙(6－19614)に通ず。(正字通)擅、同。擅。□とる。(集韻)擅、取也。□うつ。(集韻)擅、擊也。

擷 12602 センン (廣韻)師淺切 銑

きる。擷(6－12319)の俗字。(正字通)擷、俗擷字。

掾 12603 サン イヤウ (集韻)至朱切 麌

●みがく。石などでとぐ。或は磨(6－2443)に作る。(集韻)掾、磨礱也、或作磨。●つく。揖(6－12525)に同じ。(集韻)揖、突也、或从爽。

搉 12604 □チツ □チツ □チチ (集韻)徒結切 屑 (集韻)一結切 屑 (集韻)楊孝切 質

□なげうつ。搉(6－12525)に同じ。(集韻)搉、博雅擲也、或省。□つむ。(集韻)搉、擿也。□に同じ。(集韻)搉、廣雅擲也。

搉 12605 タク 搉(6－12563)に同じ。(集韻)搉、或作擿。搉(字鑑)搉、同搉。

搉 12606 □キン (集韻)居欽切 寑 □キン (集韻)居聽切 沁 □キン (集韻)巨巾切 真 □キン (集韻)九勝切 敬 □キン (集韻)筆力切 質 □カン (集韻)居切切 刪

㨰 小 ■□ぬぐふ。(說文)撮、飾也、从手、正、云、飾、拭、正俗字。●きよめる。(集韻)搉、清也。●或は抿(6－12545)に作る。(集韻)搉、或作抿。□ぬぐふ。□の●に同じ。●つく。揖(6－12525)に作る。□の●に同じ。(集韻)搉、拭也。□ぬぐふ。□の●に同じ。(集韻)搉、拭也。●ただしい。(集韻)搉、結也、□かたい。顯(9－20600)に同じ。(集韻)顯、說文、土難治也、或作搉。

搉 12607 タク (集韻)他淺切 銑

おしひらく。搉(集韻)搉、排也。

搉 12608 □タク □タク (集韻)胡化切 麌 (集韻)胡瓜切 麌

□文新附)搉、橫大也。(左氏、昭二十二)小者不搉、大者不棄。搉、鍾橫大也。□(集韻)搉、鍾橫大也。

搉 12609 □サイ □スイ □スイ (集韻)所回切 灰 (集韻)蘇禾切 支 (集韻)雨角切 麌 四サ (集韻)子臥切 麌

搉 小 ■おす。おしおとす。(說文)搉、擠也、从手、崔聲。(廣雅)搉、詰(二)搉、推也。(素問、五常政大論)其變、搉、(王冰)搉、振法、拔。(注)搉、什落也。●ひく。(說文)搉、一曰、折也。(玉篇)搉、挫也。●くじく。くじける。(廣韻)搉、挫也。(周禮、考工記、輿人、天倚、小揉)搉。(史記、孔子世家、孟子)搉、梁惠王。(荀子、解蔽)搉、向、九歌、憂苦、折、(說文)搉、(注)搉、挫也。(鮑照、蕪城賦)心馬、搉。(唐書、孔巢父傳)何敢不搉。●さふ。將壓する。(史記、季布傳)季布能搉、剛、(注)搉、將壓也。(詩、邶風、北門、室人交偏)我、(傳)搉、混也。●そしる。(詩、邶風、北門、箋)搉者、刺讒之言。●ほろぼす。ほろぼす。おとろへる。(詩、大雅、靈臺、先祖于搉、(集傳)搉、敗也。●ほろぼす

【撞角】ㄓㄨㄤˋ ㄐㄧㄠˇ 一つのものを。角獲をとじて。（業論・定業品）「如牛羊等。高獲をとじて。」

【撞鹿】ㄓㄨㄤˋ ㄌㄨˋ 獲物目掌角。人の名。（後漢書・馬援傳上）初行鹿苑。撞鹿。（後漢書・馬援傳上）初行鹿苑。撞鹿。（後漢書・馬援傳上）初行鹿苑。撞鹿

〔12609・6H〕 〔12613・6〕

【擾】 ㄖㄠˇ ㄖㄠˇ. 心亂ぐしにけてしたがふこと。隨順。(『史記』楊素傳)「南指而吳越聲清、北臨而燕趙擾服。」

【擾馴】 ㄖㄠˇ ㄒㄩㄣˊ. くしきおさめならす。

【擾馴】 ㄖㄠˇ ㄒㄩㄣˊ. 敵の謀に乘じ先を誘ふ。(『漢書』)「蒯聞、秦政暴虐、豪傑蜂起、擾馴諸侯、誅暴秦、天下之大義也。」

【擾亂】 ㄖㄠˇ ㄌㄨㄢˋ. 敵の謀に乘じ先を誘ふ。

【擾亂】 ㄖㄠˇ ㄌㄨㄢˋ. 敵の謀に乘じ先を誘ふ。(『史記』)「秦政暴虐、諸侯擾亂。」

【擾亂】 ㄖㄠˇ ㄌㄨㄢˋ. 敵の謀に乘じ先を誘ふ。(『後漢書』)「蒯聞、秦政暴虐、豪傑蜂起、擾亂諸侯、誅暴秦、天下之大義也。」

【擾亂】 ㄖㄠˇ ㄌㄨㄢˋ. 敵の謀に乘じ先を誘ふ。(『後漢書』)「蒯聞、秦政暴虐、豪傑蜂起、擾亂諸侯、誅暴秦、天下之大義也。」

【擾攘】 ㄖㄠˇ ㄖㄤˇ. 騒がしくまどひ乱れること。(『後漢書』)「時天下擾攘、海內分裂、英雄並起、各以威力相吞、未有所歸

〔摩訶池〕ｍｏ：池の名。舊川右成都城内に在り。「唐の玄宗が亡くなれば摩訶池のなかに入り、水鳴き、波起りて、城中ゆらぐ。」（白居易『長恨歌』）

〔摩訶迦葉〕Mahākāśyapa：南宗禁時、南宗の祖。摩訶池、摩訶所、摩訶宗、摩訶、摩訶、摩訶

鋼鬼車部鈴、相摩新編、日、慈之邪鈴、車鈴、敏、民摩、鈴、市格相交、號鈴、朝衣新鈴、鈴、鈴、

期。◎蓋の名。山西省五臺縣の東北にあり。

〔摩天嶺〕ｍｏ ｔｉａｎ ｌｉｎｇ 山名。一に高陽といふ。長白山脈の秀峯。吉林・滿洲軍事要塞地帯の北。一名、千峯連天山。清朝の太宗、高麗を征し、軍を出だして、日清・日露の戰地、遼東半島・鴨綠江・安東縣・鳳凰城・海城・營口・蓋平・大石橋・遼陽・奉天・撫順・鐵嶺・開原・四平街・長春・吉林・ハルビンに通ずる鐵路、鐵道線路がある。明末、清の時代、朝鮮・滿洲・モンゴルの三國の國境地帯。

〔摩尼〕ｍｏ ｎｉ 摩訶摩尼の略。摩訶摩尼寶の略。摩尼寶の略。摩尼寶珠の略。摩尼寶珠の略。摩尼寶珠

【摩耳刀】mabiti 川の名。エルベ河の支流。Mori.

【摩賀人】mahaxito 民族の名。現在モロッコ・ナルビ・ジェリ・ナニス等に於けるベルベル民族の一部を構成する民族。Mocoo

【摩蘇羅】masura 地名。イラクの北端、チグリス河の終航船点に位する都市。Mosul の音譯。

【摩兜羅】mato, mato, cho 自動車をいふ。Motor car の譯。

【摩兜羅】mato 懶みて眞ふることなかれといふこと。(西藏語)眞言類。Mato は Mantra の音譯。

【摩訶迦葉】mahakasyapa 摩訶迦葉。梵語文字は意味の意。清淨で生活を養む印度の姓族の通稱。摩登伽。摩訶迦葉。摩訶迦葉。摩訶迦葉

㊀❸かかげる。(集韻)擧。手持物。❹長くひく。(玉篇)掇。長引也。❺つなぐ。綴(6－17843)に同じ。(廣韻)掇。長攜繫牛馬。放也。掇、上同。❻掇(6－13558)の俗字。(正字通)掇。俗旋字。㊁ひく。(集韻)

【掇】 12622　キ　(集韻)均嵇切　図

たつ。衣を盛飾する。(方言二)掇。裁也。梁益之間、裁、木爲曰鋸、裂、布爲衣曰掇。(左思)蜀都賦、掇機杼曰、揚雄方言云、鋸掇、裁也、梁益之間、裁、木爲曰鋸、裂、布爲衣曰掇。

【擦】 12623　㊀イイ　㊁イイ　㊂ヤヤウ　(集韻)於埃切　(集韻)亘所切

㊀❶擊ってあてる。(說文)擦、中也。❷擊つ。(廣雅、釋詁二)擦、擊也。(集韻)擦、擊也。

【撫】 12624　㊀セキ、ジャク　(集韻)之石切　㊁ジャク　(集韻)戴略切

㊀ろうで。(集韻)擊、擊也。(公羊、宣、六)撫客無禮不熟、公怒、以斗擊而殺之。(注)撫、猶擊也。撫、譚、旁擊頭項。㊁ろうで。(集韻)擊、敲也。(玉篇)撫、擊也。(集韻)擊、擊也。拓(6－1195

【擊】 12625　セイ　擊(6－12277)に同じ。(集韻)擊、或作擊。

【擊】 12626　㊀ゲウ　㊁ゲウ　㊂ゲウ　(集韻)牛刀切　(集韻)牛交切　(集韻)氏交切

㊀うつ。(集韻)擊、擊也。(公羊、宣、六)撫客無禮不熟、公怒、以斗擊而殺之。(注)擊、猶擊也。擊、譚、旁擊頭項。㊁うつ。(集韻)擊、敲也。(玉篇)擊、擊也。(集韻)擊、擊也。

【撤】 12627　ガウ　ゴウ　(集韻)魚到切　図

❶ひきおろす。(集韻)撤、動也。❷擊(6－1262 6)に同じ。(正字通)撤、同、擊。

㊀ソク　(集韻)千木切　図　㊁サク　(集韻)在角切　図

【掇】 12628

㊀❶うながす。(字彙)撤、促也。❷をゑめる。擊(6－12629)に同じ。(集韻)擊、敲也。或書作撤。㊁さす。撫(6－12156)に同じ。(集韻)撫、刺也。或作撤。

(集韻)擊。敲也。或書作撫。

【擊】 12629　ソク　ゾク　(集韻)昨木切　図

㊀をゑめる。或は撤(6－12628)に作る。(集韻)擊、敲也。或書作撫。

【擊】 12630　ク　拘(6－13643)に同じ。(集韻)拘、或作擊。

【捕】 12631　㊀ベン　(集韻)彌兮切　図

㊀ひざまる。(集韻)捕、節也。㊁捕(6－121 97)の俗字。(正字通)捕、俗捕字。

【擊】 12632　㊀ジン　(集韻)衙利切　図　㊁ジン　(集韻)陟利切　図

㊀❶つかむ。にぎりもつ。(說文)擊、握持也。从手執。(方言一)擊、取也。(史記、酷吏、義縱傳)縱以廣平毛等爲治。❷いたる。❸(6－2629)に通ず。(說文通訓定聲)擊、段借爲執。(爾雅、釋詁)擊、至也。❹手厚い。情意が至る。❺(6－30149)に通ず。(說文通訓定聲)擊、段借爲敦。(周禮、考工記、函人、甲鎧不擊。(注)擊之不堅。(孫詒讓正義)敦、即今厚字。❻きはまる。きはまり。(集韻)擊、盡也。(孫詒讓正義)敦、即今厚字。❼ほどこす。(集韻)擊、施也。(禮、儒行)、篤志以擊。(注)擊、猶施也。(集韻)擊、施也。(集韻)擊、施也。❽あらい。(集韻)擊、粗也。(說文通訓定聲)擊、段借爲粗。(禮、儒行)、篤志以擊。(注)擊、猶粗也。(集韻)擊、粗也。❾うつ。(詩、大雅、常武、如飛如雷、如霆如霆、如翰如飛、(注)擊、擊也。(張衡、西京賦、青鳥擊於雲下。(注)擊、擊也。❿に、。雄鷄の類。(集韻)擊、與、鷄同。(儀禮、士冠禮)尊、擊見、於者。(注)擊、雄也。(儀禮、士昏禮)記、擊不用死。(注)擊、雞也。(禮、郊特牲)擊、與、鷄同。(儀禮、士冠禮)擊、與、鷄同。(儀禮、士昏禮)記、擊不用死。(注)擊、雞也。(禮、郊特牲)

牲」「各執」擊以相見」(注)「擊」亦奏隔也」(釋文)「擊」本亦作「鬱」。❷「說文」通訓定聲「鬱」阮借爲」折」(禮、月令)「雪霜大擊」(釋文)「擊」蔡云、儀折」。❸古の國名。任姓、仲虺の後。(10・35508)「經」(10・35511)に「國名」とあり。(正字通)「擊」、風俗通、「黎」、或作「擊」。(集韻)「擊」、通志、氏族略、以國爲氏」擊氏、周有、擊甫、或爲、「擊」、古諸侯國也、見、毛詩、陸機疏。❹ひく。(説文)通訓定聲「擊」、阮借爲「擊」(廣雅、釋詁一)「擊」、引也。❺とく。(廣雅、釋詁一)「擊」、解也。❻ひくい。おもい。(集韻)「擊」、通、「鬱」、任姓、黎仲虺の後。❼姓。(通志、氏族略、以國爲氏」擊氏、風俗通、「擊」、古諸侯國也、見、毛詩、周有、擊甫、或爲、「擊」、(正字通)「擊」、與、秋通、(周禮、考工記、輪人)今夫大車之輹擊。(注)「擊」、輪也」(集韻)「擊」、姓也。

擊 〔擊甫〕「擊」、長安の人。字は仲治。少くして京兆尹諸葛豐に師事し、豐から、武帝の時、太子金に擒へられ、閻書令に除せられ、後に、成帝の時、諫議大夫となり、「擊」、「擊」、「擊」

日かる。(集韻)撕、支也。(廣韻)撕、毒也。(注)撕之於地也。云云。有撕而撕也。(注)撕之貫、支也。(釋文)撕、所鬼反、又所鬢反。日同。●かる。日に同じ。(集韻)撕、支也。●かる。日に同じ。(集韻)撕、支也。●ふさぐ。板を以て水をふせぐ。(集韻)撕、投也。(廣韻)水曰撕。●ふせぐ。(集韻)撕、投也。(廣韻)水曰撕。●書作鑿。四のぞく。日の●に同じ。(集韻)撕、除也。五かる。日に同じ。(集韻)撕、支也。

掘 12638

日クツ 呉 ヲツ 漢 (集韻)渠倦切 ㊀ 呉 ヲウ 漢 (集韻)衢子切 ㊁ 呉 クツ 漢 (集韻)於口切 ㊂

日ひきかえる。(說文)掘、曲也。(廣韻)掘、曲。●つまがる。衣の襟をかえる。(說文)掘、一曰、張衣。(集韻)掘、衣裳。●ひく。(廣雅)掘、舒。(說文通訓定聲)掘、假借爲挖。(列子、黃帝)以五指者巧。(釋文)掘、探也。(注)掘物、探而取之。●わせ。早熟。(注)掘、早稲也。(正字通)掘、曲。●國(ク)かがめつまむ。(ロ)くりとる。(ハ)からかみ。日ちうつ。(玉篇)掘、擊物也、或从手。

掾 12639

日ヨウ 呉 (集韻)相戟切 ㊀ 呉 ヨウ 漢 (集韻)胡公切 ㊁ 呉 ヨウ 漢 (集韻)羊戰切 ㊂

日ひき。(集韻)相戟切。●ひく。(廣雅)掾、舒。(注)掾、牽也。●ひく。(集韻)胡公切。●ひき。(廣雅)掾、舒。(注)掾、牽也。●なげる。(玉篇)掾、投也。(說文通訓定聲)掾、假借爲投。(列子、黃帝)以黃金、指者惑。(注)互有所、投引振。●さぐる。さぐり取る。(列子、黃帝)以五指者巧。(釋文)掾、探也。(注)掾物、探而取之。●わせ。早熟。(注)掾、早稲也。●國(ク)を見よ。●國(ク)かがめつまむ。(ロ)くりとる。(ハ)からかみ。日ちうつ。(玉篇)掾、擊物也、或从手。

搏 12640

日ヒョウ 呉 ヒョウ 漢 (集韻)補各切 ㊀ 呉 ヒョウ 漢 (集韻)鋪故切 ㊁ 呉 ヒョウ 漢 (集韻)補故切 ㊂

日はぢる。(集韻)搏、搏里。地名。在秦。(玉篇)搏、搏里。同じ。(集韻)搏、搏里、地名。在秦。(玉篇)搏、搏里。(注)搏、搏里。(廣雅)搏、搏里。(注)搏、搏里。(玉篇)搏、搏里。(注)搏、搏里。(玉篇)搏、搏里。(注)搏、搏里。(玉篇

うつ。搏(6－12366)に通ず。〔周礼、考工記、總目〕搏埴之工二。〔注〕搏之言、拍也。〔校勘記〕搏、諸本・閩監本・毛本、摶作搏。〔荘子、逍遥遊〕搏扶摇羊角而上。〔搏文〕搏、徒端反。●鎮うつ。〔史記、倉公傳〕二陰俱搏者、●まる。〔周礼(6－4834)に通ず。〔說文通訓定聲〕搏、假借爲、團。〔楚辭、九章、惜誦〕固執而不搏兮。〔注〕搏、團也。●もつぱら。〔漢書、天文志〕搏氣星無芒。●搏、氣搏。〔注〕如淳曰、搏、專也。●鷙の名、搏(5－12235)に作り、通じて、搏(6－12296)に搏(5－12353)に作る。〔集韻〕搏、擅也、一曰、打合制備也、或作、制。〔注〕塑、專也。〔集韻〕搏、或省、赤丸圍。□●もつぱら。專に。〔傳(6－6663)〕專、赤丸圍。□●もつぱら。專に。〔傳(6－6663)〕專、赤丸圍。〔說文通訓定聲〕搏、假借爲、團。〔呂覽、適威〕搏不搏、入不專一也。〔史記、秦始皇紀〕搏心揖志。〔注〕索隱曰、搏、古專字。●は いしまきにする。あはせすべる。或は制。(6－21149)に作り、通じて、塑(6－3083)に專(4－7439)に作る。〔集韻〕搏、擅也、一曰、打合制備也、或作、制。〔注〕塑、專也。〔說文通訓定聲〕搏、假借爲、團。〔呂覽、適威〕搏不搏、入不專一也。〔史記、秦始皇紀〕搏心揖志。〔注〕索隱曰、搏、古專字。●は いしまきにする。あはせすべる。或は制。(6－21149)に作り、通じて、塑(6－3083)に專(4－7439)に作る。〔集韻〕搏、擅也、一曰、打合制備也、或作、制。〔注〕塑、專也。〔說文通訓定聲〕搏、假借爲、團。〔呂覽、適威〕搏不搏、入不專一也。〔史記、秦始皇紀〕搏心揖志。〔注〕索隱曰、搏、古專字。●鷙の名。〔廣雅、釋鳥、鷙類象〕搏、鷙也。●搏、鷙也。

搏

たばねる。或は摶(8－27771)。〔史記(6－2753)〕搏、或作、摶。〔示省〕〔左傳、考工記、鮑人〕卷而搏之。〔注〕搏、讀爲摶。〔周禮、地官、羽人〕十羽爲一搏。〔注〕搏、羽數束名也。〔周礼、考工記、鮑人〕卷而搏之。〔注〕搏、讀爲摶。如、搏之、搏之、搏之

[illegible]通字。〔說文通訓定聲〕摹、段借爲模。

模。〔廣雅、釋詁四〕摹、模也。〔正字通〕模、[illegible]模、亦作摸。

[illegible]　摹。0—12645。他のものにまねをふ。模倣。〔日本政記、孝德天皇紀〕後之過、效模倣。

模[illegible]　他のものにまねる。なぞらへ似せる。模倣。〔後漢、二國名臣序贊、宣百三機關書〕模倣、[illegible]。

模[illegible]　模倣。〔後漢、二國名臣序贊、宣百三機關書〕模倣、[illegible]。

模[illegible]　模倣。〔後漢、二國名臣序贊、宣百三機關書〕模倣、[illegible]。

模[illegible]　[illegible]。

模魚[illegible]　魚をつかむ。

模魚[illegible]　[illegible]。魚。

模[illegible]　[illegible]。

模[illegible]　[illegible]。

模[illegible]　[illegible]

詩〕未嫌筠。〔事類〕細妙分毫聲。〔通雅〕徒帖〔錯〕鮮帖著。出書部。説文帖。事到手案。爲右石本。

〔摹拓〕〔ボクタク〕 摹刻した碑を拓本にすること。模刻。〔日本〕〔1543〕・25〕を見る。

〔摹搨〕〔ボクトウ〕 ①模倣。〔現代〕〔漢語〕〔現代〕〔漢語〕〔現代〕〔漢語〕

項合之不能一指。若經而有風、又緊縮。

【擐甲】huàn jiǎ　折り たたみ式のはさみ。（詞花集・雑下）「折りたたみ式のはさみ。（詞花集・雑下）」「有保証人者、擐甲集」。（詞花集・雑下）「有保証人者、擐甲集」。（詞花集・雑下）「有保証人者、擐甲集」。（詞花集・雑下）

摽。（管子、侈靡）摽然若秋雲之遥。（注）摽、高舉貌。**摽**（11 40813）**する**。①刀で先を、標（8－15 442）・摽（11 40813）に通ず（說文通訓定聲）摽、段借為標、爲、鏢（漢書、王莽傳上、注）。（注）服虔曰、鏢、刀末之摽。（王先謙補注）漢謂刀末爲摽。**るい**。標（1－1047）に通ず（韓詩外傳、二）。怠慢擽衆（校注擽、磨也）。**摽**（11 40813）に同じ。（集韻）摽、衆也、或作擽。（公羊、哀十二）魯人摽而去之。（注）摽、辟也。（釋文、摽、普交反、辟也。辟、創直也、創兆云、辟、指也）**図**①**うつ**。（集韻）摽、擊也。②**おちる**。（玉篇）摽、墜也。（文選、張載、敍畫）摽、物落上下相付也。

摽危。高くなった二古墓、張載敍畫。

摽擽。（玉篇）摽、擽也。（集韻）摽、擽也。（文選、張載、敍畫）摽、物落上下相付也。

摽擽。（玉篇）摽、擽也。（集韻）摽、擽也。（文選、張載、敍畫）摽、物落上下相付也。

**摽擊

【攔】12659 セイ 攔同。制12 1563に同じ。（篇海）

【攝】12660 ラウ（集韻）部切 攝 うつ。（集韻）攝、擊也。

【攝】12661 ベツ 攝同。攝（6－12695）に同じ。（篇海）

【撲】12662 タイ（篇海）湯帝切 𢾊 とる。（篇海）撲、手取也。

【擊】12663 コウ（篇海）古鋼切 𢾊 ちちをしぼる。（篇海）擊、取牛乳也。

【擣】12664 セキ 擣同。抓。擣（6－12468）に同じ。（篇海）

【擣】12665 ト 擣同。徐。擣（6－12135）に同じ。（字彙補）擣同。徐。

【擦】12666 タク 擦（集韻）直角切 擦 擦（6－24406）に同じ。（篇海）

【擢】12667 エウ 擢同。擢（6－12479）に同じ。（篇海）

【擣】12668 デウ（中華大字典）徒了切 擣 書法の一。字の形の偏つものは、その均勢を保つためにそれぞ傍脚などをはねあげること。（歐陽詢、書法）挑擣字之形勢有、須挑者、如、獻、擣亂斷之字、左邊既多、須得右邊挑之、又如省炙之類、上偏者、須得下擣之相稱、乃善。

十二畫

【擣】12669 ケン コン（集韻）居言切 元 樽蒲の実の名。擣子。或は擣（6－15365）に作る。（集韻）擣、擣子、樽蒲実名、或从木。

【擣】12670 タツ 擣未詳。（篇海）擣、音撥。

【擣】12671 ドウ 擣未詳。（篇海）擣、音動。

【擽】12672 ケン 擽（7－20625）に同じ。（正字通）擽別作、擽・擽・擽。

【擣】12673 リキ 擣（篇海）擣、本作、擽。

【擣】12674 キツ 擣、擣俗字。

【擊】12674′ ゲキ 擊（6－12630）の略字。

【擽】12675 ①ダイ（集韻）尼皆切 擽 ②ダイ（字彙）義宋切 擽 ③チ（字彙）直利切 擽 ①②する。こする。（集韻）擽、摩擽、摩也。③擽（6－12515）に同じ。（字彙）擽、亦作、擽。

【撅】12676 ①ケツ クワツチ（集韻）居月切 月 ②ケイ ㄐㄩㄝˊ（集韻）居奪切 屬 ③ケイ ㄐㄩㄝˊ（集韻）記者切 屬 ①②撅の俗字。かきあつめる。

【撅】小 篆 ①（説文）撅、戸手所把也、从手厥聲。（段注）把、各本誤、把、今正、杷本訓、收麥器、引申之、用手捋穀、亦曰杷。手厥聲。（廣韻）撅、亦作、撅。

③かく。（廣雅、釋詁二）撅、掘也。●投げる。（方言、十、楚人謂之投、或謂之撅。（注）今攻城間諸亦然、或云撅也。（廣雅、釋詁三）撅、投也。（集韻）撅、一曰、投也。●撃つ。（集韻）撅、一曰、擊也。（唐書、楊炎傳、高昌傳）突厥、撅之。うがつ。掘（6－12284）に通ず。（集韻）掘、穿也、或撅。（逸周書、周祝解）掘有、牢而不敢以喫、猶有、爪而不敢以獲。（杜牧、注）孫子、序（撅、其城郭。●既④折る。②斷く。△嬌める。③清州語で指導に従はない意。

【撅】12677 ヘツ 撃 赤書作、撅。

【撅】12678 ①ヘツ（集韻）元末切 屬 又ㄅㄧㄝˋ、ㄅㄧㄝˋ。 ②イ（正韻）必修切 屬 ①撅（6－12677）に作る。（集韻）撅、亦書作、撅。②ぬぐふ。（説文）撅、飾也、从手厥聲。（段注）撅、洞簫缺、撅字、亦書作、撅。（字彙）撅、洞簫缺、撅字、或曰、撅、飾也。（王筠、洞簫缺、注、反曰、撅、撫也。）撅、はらふ、ふるふ。（集韻）撅、一曰、拂也。（王筠、洞簫缺、注、反曰、撅、撫也。）撅、

雄、甘泉賦「浮蟱蠖而撇」天。❷きめる。わ（説文通訓定聲）擊、別也。一曰、擊也。按、斷制之義、蓋一義。左傳、敵宜以戟、敵宜以矛、敵宜刑法志「柾以待弊」以弊爲之。所謂敵也、擊斷也。❸ひく。（廣韻）擊、引也。❹かすめる。（字彙）撇略也。（韓非子）存韓「韓小國也、而憑天下四擊。❺うつ。（說文）擊、一曰、擊也。（集韻）撇、揮也。（十段、四子講德論）故撇也、擊、與、撇同也。❻衣をまくり上げる。（集韻）撇、摭、衣也。❼書法の名。筆を左にはらふこと。（蔡邕、筆勢）撇、波拂、撇、武帝、答陶宏景書、論書表）復曾以點畫波撇、換換諸家之致、書法離鉤長撇須置きわけすれる。（ロ）すくひとる。

【撇鬼】ヘツキ（集韻）撇、揮也。（埤雅、釋詁上）撇鬼、殺鬼也。（揚雄、羽獵賦、僅衍撇鬼、鯨柔侯）

【撇撇】ヘツヘツ（集韻）撇、中國の書法の一。筆の撇を重ねて書法のやうな書類を用ひる法。

【撇】ヘツ（集韻）撇、投げ捨てる。

【撇】ヘツ（集韻）撇、口を吐くつばを吉ふ。（西廂記、張君瑞著）相思、鶯鶯撇盡作多語。

【撇開】ヘツカイ（集韻）撇、棄てておく。排斥する。

【撇缺】ヘツケツ（集韻）撇、宿鬼の神をいふ。撇缺、所雅、博而神物決。（黃香、九宮賦）撇撇缺而神物決。（毛、研鬼神名）

【撇】ヘツ（集韻）撇、ものがたりに口の開いた蓋。木代、瓶蓋。

【撇】ヘツ（集韻）撇、ちがはなれる。遠ノ、遠。

【撇撇】ヘツヘツ（集韻）撇撇、相思、相思、相思、ちがすこと。（白居易、詩、家雀）

【撇】ヘツ（集韻）撇、ものがたりに口の開いた蓋。撇撇何銀瓶、陶也。（白氏、「閑夜獨酌寄微之」）

【撇】ヘツ（集韻）撇、ものがたりに口の開いた蓋。撇撇、撇、撇、

〔左氏、昭・十八〕今執事擯然授以兵登陴。〔注〕擯然、動皃貌。

𢹂 12682 ケン 去倦切 去倦 〔集韻〕去倦切、去聲。〔注〕𢹂、ぬきとる。鉤車の搜索して捕へる意。開は猛・貴は捕に通ず。抽の意。〔管子、乘馬〕則鉤猛貴。〔注〕鉤、讀爲抽。抽、去也。〔韓非子、難勢〕鉤、去也。〔韓非子、難勢〕鉤、去也。〔韓非子、難勢〕鉤

を刷る語。

【撐船】 tō chuán yáo。小舟をこぐ。

【撐篙】 tō gāo。竿で舟をあやつる。さおさす。「明律」

【撐駕】 tō jià。船頭。「撐駕船」は「撐篙」と同。「明律」

【撐駕船】 tō jià chuán。船頭。「明律」

【撐駕船人】 tō jià chuán rén。船頭。「明律」

【撐駕船人員】 tō jià chuán yuán

用（撒帕）。（唐杜女宮用）撒帕，近年良家女婦，亦有用撒帕者。

【撒綫】sā xiàn。紙費的綫。

【撒錢】sā qián。錢。

【撒弓】sā gōng。弓。

左右於腰下，撒金錢。（唐書・李德裕傳）

【撒速】sā sù。金、元時官名。

【撒村】sā cūn。對鄉人。

【撒袋】sā dài。弓矢袋。（清會典事例・兵部・武備・武器・弧矢）

凡弓矢，各有袋。（同上）

リーの屬島。Ⓒ Sardinia の意譯。

【撒土揚灰】ｓａｋｕｄｏｋｕｒｉｔｏｋｉｄｏｋｕｒｉ．ｙｅｎ．土砂をまきちらす。

【撒菜兒】ｓａｉｔｓｕｎａｉｒｕ．蔬菜の中亞細亞の州名。石油・白炭等諸種の鑛産に富む。(集説)清代天山北路の地。元代、帖木兒の孫、察合台の子、阿魯忽の時、西附考・蔬菜兒罕・至・都州・九千里・至・京師二萬四千二里・東南・相距二千餘里・北・相・偶・漢朝・匈奴國地・東西・相距二千餘里・其東・明・初武二十年・帖木兒遣使入貢・自是・貢不・絶。(撒馬兒罕・ｓａｍａｒｋａｎｄ．ｓａｍａｒｋａｎｄ．ｓａｍａｒｋａｎｄ．

擂 12699
㊀チウ（集韻）五堯切 ㊁チウ（集韻）陳留切 ㊂ヂウ（集韻）陳廿切 ㊃リウ（集韻）方救切 ㊄ルウ（集韻）方救切 ㊅ヂウ（集韻）直教切

擂 小 **抽** 俗 **𢹂** 或体 **𢹂** 或体文 **𢹂** 或体（本注）

㊀㊁㊂㊃㊄㊅ひら。（說文）擂、引也。从手韜聲。
㊀或は抽（6－11930）、𢹂（6－12162）に作る。（集韻）擂、或从由、从秀。㊆ひく。（集韻）擂、引也。㊇平かにする。埴に土をかぶせる。（集韻）擂、築、撫布、土也。
（集韻）擂、築。築を築き土をかぶせて平かにする。
（集韻）擂、築。（集韻）土也（古ハ小韻、馹子様）之築。（集韻）擂、調、擂土也（或擂者、以手引、物之名）。

擂 12700
カウ ギャウ （集韻）胡郎切 （集韻）胡光切

㊀みたす。ひろげる。（集韻）擂、撰也。●はかる。（字彙）擂、擂也。

擂 12701
カウ （集韻）呼郎切

にごらす。つぐべ。或は杠（6－11798）に作り、通じて傳（1－946）に作る。（集韻）擂、山東謂、擔荷、曰、或作、杠、通作、傳。

擂 12702
㊀ジュ ㊁ジュ （集韻）節如切 （集韻）就六切

擂 12703
㊀フワク （集韻）胡麥切 ㊁フワク （集韻）胡麥切 ㊂ヤク （集韻）直綱切

㊀とる。（集韻）擂、攫也。㊁はげしくうつ。（集韻）擂、強擊也。

擂 12704
ギン （集韻）午尹切

●つかねる。たばねる。（集韻）擂、束也。●拯（6－12155）の俗字。（正字通）擂、俗拯字。

撕 12705
㊀セイ （集韻）先齊切 ㊁ソン （集韻）相支切 ㊂ssū

㊀いきしめさとす。（集韻）撕、提撕也。（正字通）撕、提撕、警覺也。㊁さく。はなす。斯（5－13583）に同じ。（集韻）斯、說文、析也、或从手。（正字通）撕、離也。

撕［ssū, xī］ 引き裂く。やぶる。
撕裂［ssū, liè］ 引き裂く。やぶる。
撕破［ssū, pò］ 引き裂く。ひきやぶる。
撕裂［ssū, liè］ 人質を殺す。

撕 12706
㊀チ ㊁ヂ （集韻）直利切 （集韻）直利切

撕 小 手武聲（集韻）撕、相當也。

撕 12707
㊀ヂ ㊁ジ （集韻）施智切 ㊂チキ

㊀する。（集韻）撕、棄也。㊁とる。撕（6－12248）に同じ。（集韻）撕、把也、或作、摭。
㊂つむ。摘（6－12582）に同じ。（正字通）撕、同、摘。

撕 12708
ヒツ ヒチ （集韻）逼密切 （集韻）逼密切

さす。拔（6－11964）に同じ。（廣韻）撕、方皆、刺也、亦作、秘。（集韻）撕、刺也。

撕 12709
㊀カン （集韻）口戒切 ㊁カン （集韻）苦含切

㊀●かける。（玉篇）撕、挂也。●あやふい。
㊁危也。（集韻）撕、挂也。●あやふい。（廣韻）撕、挂也。●姓。（集韻）撕、姓也。

（集韻）撕、明、詩韻の人。字は寶玉。洪韻傳を撰。（集韻）撕、明、詩韻の人。字は寶玉。洪韻傳を撰。
倭寇に備え、防を固めつくんだ。
（集韻）撕、明、廣宗の人。字は寶玉。洪韻傳を撰。
「大学紀」：「明、廣宗の人、字は寶玉。洪韻傳を撰。」
明、詩韻の人。字は寶玉。洪韻傳を撰。
倭寇に備え、防を固めつくんだ。
（集韻）撕、

擅 12712 ソン （集韻）福本切 ㄅㄨˋ 遇

●おさめる。みづからする。（集韻）擅、挫也、說、恭敬曰節。（揚雄、甘泉賦）擅、抑也、（荀子、儒效）以相觸撞、（注）擅、抑、皆謂相陵蔑。（荀子、王制）節、節也。（荀子、禮論）以礼、刑優、（注）擅、節也。●へりくだる。卑屈。（1－1093）（荀子、王霸）擅而擅、（注）擅、與撙同、卑退也。●おもむく。（禮、曲禮上）是以君子、恭敬撙節、（注）撙、猶趨也。（疏）言恭敬撙節、於君所、而得己、（禮、儒效）以相觸撞、（注）撞、猶撙也。（疏）言恭敬於度。●あつまる。（1－359959）、（10－378242）、（1－3－6472）、（1－3－6472）、（1－3－6472

撥 12715

□ヨウ　（集韻）蕩上之聲　圖
□ジョウ　（集韻）清韻　𢹂
□ジョウ　（集韻）書然切　𢹂
四ダウ　（集韻）除皮切　𢹂

すくふ。すくひあげる。（玉篇）撥、掬也。（集韻）拯、說文、上擧也、或作撥。（集韻）拯、說文、上擧也、或作撥。（集韻）拯、說文、上擧也、或作撥

壇 復見〈海日・詩〉懷線撟遥遥春日海中離離三山出。

撟 kyō ［廣韻］ きっう。 ［顔氏家訓・勉學］ 近讀。

撟撟 kyō kyō ［廣韻］ 挂衣。 ［晉書・傅咸］ 撟而放。

撟開 弦開。 ［後漢書・張衡］ 撟而放。

撟拯 kyō jō ① 地をつくって固める。 ［春秋・桓元年］ 文。 ② つくって ［傳］ 名。 ［桓元年］ 文。 ③ 撟正して矯める。 ［後漢書・王龔］ 撟拯。

撟正 kyō shō 撟正して矯める。 ［後漢書・王龔］ 撟正。

撟矯 kyō kyō 撟正して矯める。 ［後漢書・王龔］ 撟矯。

撟直 kyō choku 撟正して矯める。 ［後漢書・王龔］ 撟直。

撟交 kyō kō 線を交叉して指 ［後漢書・王龔］ 撟交。

撟舌 kyō zetsu 撟舌。 ［後漢書・王龔］ 撟舌。

撟足 kyō soku 撟足。 ［後漢書・王龔］ 撟足。

撟舌 kyō zetsu 撟舌。 ［後漢書・王龔］ 撟舌。

撟沈 kyō chin 衝突して沈める。 ［後漢書・王龔］ 撟沈。

撟刺 kyō shi ① 衝突して刺す。 ② 撟刺して刺す。 ［後漢書・王龔］ 撟刺

擲拂 ㊀ 〈名〉 えらぶ。えらびとる。〔万葉二〕
擲拂 ㊀ 〈名〉 選び出す。選び抜く。
擲捷 ㊀ 〈名〉 正しためる。馬鹿長歌。
擲捷 ㊀ 〈名〉 〔義〕 書誤。
擲捷 ㊀ 〈名〉 正しためる。馬鹿長歌。
擲捷 ㊀ 〈名〉 〔義〕 書誤。
擲捷 ㊀ 〈名〉 正しためる。正也。鄭玄周禮注曰。擲讀以火擲也。
擲邪 ㊀ 〈名〉 正しまるために正す。〔漢書、武五子、燕刺王旦傳〕欲擲邪防非。〔注〕師古曰。
擲首 ㊀ 〈名〉 首をあげる。〔陸雄、甘泉賦、仰擲〕
擲首 ㊀ 〈名〉 〔義〕 同上。〔注〕師古曰。擲。擲也。
擲制 ㊀ 〈名〉 天子の制に対こつける。〔後漢書、孔五十、馬援王駿傳〕今建武の年、陳自尊。官聚。〔後漢書、馬援

子止論 発薛撰誠。**国❶まつはる。**〔集韻〕撰、相連。〔類聚名義抄〕撰、相連。**❷連の名。**〔山海經・中山經〕青要之山、南望璇璣。**❸人名。**〔荀子・成相篇〕禹之聖、而舜之賢、桀・紂之暴、而湯・武之王。〔呂氏春秋・慎大覽〕武王之王、而桀・紂之亡、其所以相連引也。〔張衡・南都賦〕撰、相連。〔注〕善曰、撰猶相連引也。**撰繫**〔名〕…ふれかかる。〔太玄經・數〕…連連並合、撰繫其名。

撰国〔名〕…蜀代、西南夷の國名。〔後漢書・西南夷傳〕撰國西南夷之東。

撰珠〔名〕…人種の名。モンゴリヤ人種の一。〔所謂ターバル〕…いまゝめつつ、じ、ぎます。うやまふ。〔大玄經・蹇・次五・何・輔嗣〕撰、輔撰。〔注〕撰撰然敬也。何・輔嗣曰、撰撰、無所失也。

【撰】12726 チク 目チチ

〔集韻・直列切〕 **屬**

〔集韻・敕列切〕 **屬**

撰

一❶はぐ。〔玉篇〕撰、刺也。**❷さる。**の意。〔論語・鄉黨〕不撰、蓋食。〔孔安國曰、撰、去也。〔皇疏、撰、除也。〔矣志、孫權丈餘無、撰。**❸ぬく。**〔集韻〕撰、抽也。**❹とる。**〔廣雅・釋詁〕撰、取也。〔玉篇〕撰、治也。**❺をさ**

撰〔廣雅・釋詁〕撰、取也。〔玉篇〕撰、治也。**❻いましめる。**〔玉篇〕撰、警也。**❼**或は傳(12・12725)に作る。〔說文解傳、傳、發也。〔注〕傳、謂、除去、或作撰。〔廣雅・釋詁〕撰、或从力。**❽**通じて袋(4・10245)に作る。〔集韻〕撰、通作袋。〔論語・八佾〕…家者以・雍撰・樽文。撰、本或作袋。

撰委〔名〕…委任を解く。〔唐書・李樾傳〕…撰委、…。

撰毀〔名〕……こはす。やぶる。〔唐書・李樾傳〕…撰毀、…。

撰取〔名〕…取・強制且百所、…。〔唐書・用十七、…。

撰却〔名〕…とりのける。〔唐書・李樾傳〕…撰却、…。

撰去〔名〕…とりのぞく。〔唐書・李樾傳〕…撰去、…。

撰錢〔名〕…門前に備へた手錢などを取り去ること。後世、撰錢の発子手なことをいふ。〔舊五代史・周・桑維翰以防上事第不逮者、撰錢、撰錢、啓利、是日殺無辜者、所收多名之子士〔清會典事例・禮部・貢舉・順治・三年定・開中間卷、須立程限、計自今卷以撰錢、約十二半月、以八月・定・前場、以七日・完・後場。〕

撰火〔名〕…ひを除きさる。

撰日〔名〕…やめてもとどのほりにする。ひつこまをる。〔唐史稿・交通志・郵政〕各國郵・在中國所設之郵局・舊國〔舊國之書・況任郵・廣動、賀使・稱・某某・撰日。〕

撰換〔名〕……更換する。

撰城〔名〕…城をすて民を引きあげて歸還する。〔日本外史・足利氏後記・毛利氏〕國都諸將欲撰城。

撰退〔名〕……場をすて退る。〔明史・李時勉傳〕…撰退、…。

撰除〔名〕…除去する。〔廣雅・釋詁〕撰、除也。〔皇疏〕…去、…。〔矣志、孫權丈餘無、撰。〔注〕…撰除、…。

撰除〔名〕……除去する。〔廣雅・釋詁〕撰、除也。〔皇疏〕…去、…。

撰除〔名〕……除去する。〔廣雅・釋詁〕撰、除也。〔皇疏〕…去、…。

撰取〔名〕……取る。〔廣雅・釋詁〕撰、取也。〔皇疏〕…去、…。

撰治〔名〕……治める。〔廣雅・釋詁〕撰、治也。〔皇疏〕…去、…。

撰〔名〕……撰、治也。〔玉篇〕撰、治也。**❹いましめる。**〔玉篇〕撰、警也。**❺**或は傳(12・12725)に作る。〔說文解

詩・軍知安衆日、非君撰、撰、撰、(注)良曰、君子乃勝之。撰、撰、撰。

撰〔名〕……守護を引き揚げる。〔鎮谷書山、城を撰ぶ。〔撰、撰、撰、

裁竹籍）撥（撥詩人異、勾・素・素・素・素獻。❶おこる。（草類詩）見・根撥・而知花之落下。❷かきたてる。かきまぜる。（素・素・素・

漬。

【撥錢】bō qián. 金を支出する。撥款。

【撥送】bō sòng. 上司、一部分を分けて送る。分遣する。

【撥存】bō cún. ●帳簿上で振替へること。

【撥兌】bō duì. 振替へる。金高の一部を割いて人に渡す。「編纂全書」撥款部・清・顧炎武

【撥給】bō jǐ. 撥給を分って渡遣する。「晉見錄」

【撥號】bō hào. 電話をかける。番号を廻す。

【撥】bō. 撥を分って渡遣する。「晉見錄」

【撥】bō. 撥撥、撥撥、撥撥子、撥撥子、撥撥子

楊極紫宗(顧玉山)撥剌(鐵)撥鐵(字)(編)撥(字)撥(字)撥(字

襍、或从攵、⑩或は搜(8－12496)に作る。(集韻・類篇)搜、同。●うつ。或は攜(8－12973)に作る。(集韻)擊也、或从攜。●とる。にぎる。(集韻)擒、把也。□●うつ。(集韻)擊也、(集韻)擒、打也。

【擦】 12739 ケツ ゲチ (集韻)黠結切 (廣韻)古黠切 (廣韻)擦、又拙并也、(魏志・典論二)擦、束也。(一切經音義、十二)擦、圍結也。(一切經音義、十三)束縛謂之擦。

【攢】 12740 □ヒ (集韻)芳末切 末 □フン (集韻)方問切 問

□●うちたほす。(集韻)攢、擊仆也。●うつ。或は拂(8－11936)に作る。(集韻)攢、楚謂、博擊曰攢、或省。□うちたほす。□の●に同じ。(集韻)攢、擊仆也、晉書、攢馮氏(晉書・張協傳)、賊、封稱、攢馮氏。

【攪】 12741 □レウ (集韻)洞鳥切 鳥 □ラウ (集韻)盧鳥切 嫋 □レウ (集韻)力鳥切 嫋 □ラウ (集韻)郎鳥切 嫋 □レウ (集韻)力刀切 嫋 □ラウ (集韻)郎刀切 嫋 □ラウ (集韻)郎可切 嫋

□●かきまぜる。(説文)攪、理之也、从手覺聲。(一切經音義、十四)通俗文曰、理亂謂之攪理。●からかふ。いどむ。(字彙)攪、又挑弄也、(魏志・典論二)攪、相持、長子、攪戰。●とる。(廣雅・釋詁二)攪、取也。(開雅・釋詁)攪、之油、注今之攪器。(釋文)攪、取也。(集韻)攪、一曰、取物、●開の支へる。(玉篇)攪、動する。●開くべく。(玉篇)攪、撓也。●たすける。(廣韻)攪、扶也。●取る。(集韻)攪、取也。四五取る、攪(8－12579)に同じ。(集韻)攪、方言、取也、或作攪。(集韻)攪、取物也、或作、攪。

【攪】 12742 □ホン (集韻)要交切 ロメ (集韻)要通切 ロメ

□●手でかきまぜる。(説文)攪、一曰、搖也。(正字通)攪、撓也。●なでる。てのひらで撫でる。(玉篇)攪、手摩也。●おさへる。手をあてる。(正字通)攪、按也。(禮・曲禮上)客路、席而解。(集說)攪、以手按、止之也。(禮・曲禮上)則攪、攪之手。(注)攪、小止之謂也。(禮・曲禮上)國君撫式。(注)攪、猶撫也。(楚辭・招魂)、紅若、交竿、攪、(注)攪、抵也。●とる。もつて。(廣雅・釋詁二)攪、持也。(楚辭・九歌・東皇太一)攪長劍兮玉珥。(注)攪、持也。●たもつ。(廣雅・釋詁二)攪、有也。(禮・文王世子)若王、(注)攪、猶有也。●ひろふ。(小爾雅・廣詁)攪、拾也。●いたはる。(説文)攪、安也。(正字通)攪、慰勉也。(周禮・秋官、大行人)攪、邦國諸侯。(注)攪、猶

安也。（左氏、定、四）若以是鎮撫之。（注）撫、存恤也。存恤也。❹愛する。かはいがる。（後漢書、梁冀傳）撫我畜我。（注）撫、厚也。（後漢書、梁統傳）撫我畜我。（注）撫、定也。❺したがふ。（後漢書、馮衍傳）撫九章以沙汭。（注）撫、循也。（楚辭、九章、懷沙）撫情效志節。（注）正義曰、撫、猶循也。❻めぐる。巡察按行する。（後漢書、朱儁傳）撫水陸二道。（注）撫、巡也。❼（天上神女賦）仔細は撫心定。（文選、江淹、別賦）撫、猶也。❽はやい。（晉書、陸機傳）撫、陸機字。（世說、文學、劉孝標、陸機傳）撫、陸機字。（晉書、陸雲傳）撫、陸雲字。（世說、賞譽、劉孝標、陸雲傳）撫、陸雲字。（晉書、陸雲傳）撫、陸雲字。（世說、賞譽、劉孝標、陸雲傳）撫、陸雲字。❾おほふ。撫、無。（9961）に通ず。說文通訓定聲、撫、假借為無。（詩、「有兎」毛傳、撫、世、字。（左氏、襄、二十八）撫、猶也。（詩、「有兎」毛傳、撫、猶也。）❿古は撫。（11－9371）に作る。⓫古は撫。（11－9371）に作る。⓬好。（6－1194）に通ず。（荀子、通、撫、與、附通。）⓭姓。（萬姓統譜、撫、見、姓苑、三）のつとる。（12645）に同じ。（集韻、摹、說文、規也。）摹、有と所、規、倣、或、从、無。

【撫安】ｱﾝ　なぐやすんずる。（魏志、賈詡傳）撫安其子。（注）撫、安自撫。（呉志、孫權傳、策命）撫按ｱﾝ　なでおさめる。（荀、仲無安篇）撫按ｱﾝ　なでおさめる。（荀、仲無安篇）撫ｱﾝ　なでおさめる。（荀、仲無安篇）撫ｱﾝ　なでおさめる。（荀、仲無安篇）撫

北●府名。明・置く。清・之に因り、臨川一金谿・縉雲・東陽・義烏・永康・武義・浦江・蘭谿・金華・蘭谿・蘭谿・蘭谿

常撫 撫慰同。犬父支慮世、宮貴不可悉取。

【撫附】ブフ ●撫ひとしくなでつけておけること。（漢氏物語 柏木）

【撫柏木】 ●撫ひとしくなでつけておけること。（漢氏物語 柏木）

【撫育】ブイク 撫育。（漢書 哀帝紀）

【撫字】ブジ 撫字。（漢書 哀帝紀）

【撫字】ブジ 古の識の名。後漢の識の名。（漢書 哀帝紀）

【撫問】ブモン 撫問。（漢書 尹賞、左氏 昭十八年八月、宇西 季 撫問）

【撫養】ブヤウ ●撫育。（漢書 尹賞、左氏 昭十八年八月、宇西 季 撫養）

【撫】ブ 撫。（漢書 尹賞、左氏 昭十八年八月、宇西 季 撫

羌亦相成。（周禮・春官・大師）**播**播之以八音。（注）播、猶播也。**❷はなつ**（國語・周語下）播其淫心。（注）播、放也。**❸すてる**。（楚辭・剌向・九歌・思古）播、規矩以背度兮。（注）播、棄也。**❹のがれる**（字彙）播、通也。（正字通）播、同播。**❺**（廣雅・釋言）播、逃也。（正字通）播、同播。

播（播）〔播播〕播播。（注）播、播播、謂動搖也。（論語・微子）播鼓武。（集解）孔曰、播、搖也。**❻おさめる**（詩・8・32345）に通ず。（尚書大傳）播國（注）播、讀曰藩。**❼**古音は奚（11・40117）に通ず。（集韻）播、古作𢽾。播、蛇、脫蛻人語也。（萬姓統譜）播、見・姓苑。（唐書）播州之姓。**□****❶りうこかす**（集韻）播、搖也。**□****❷**澤の名（7・18236）に通ず。（說文通訓定聲）播、假借爲潘。（集韻）播、水名。（在豫州域。（史記・虞紀・榮陽西都）

播（播）〔播播〕播播。（注）播、播播、猶動搖也。（論語・微子）播鼓武。（集解）孔曰、播、搖也。**❶おさめる**（詩・8・32345）に通ず。（尚書大傳）播國（注）播、讀曰藩。**❷

うつす。「列子、湯問」仙人之播種者、百律俱調。（盧諶、贈司徒詩）「蒙惠頃日、播殖荒穢」（注）西晉、郭璞、「江賦」後漢、江禁、種、鹽、始播、遂始吾祖。

【播流】[名] 野草の種をまき、逃周書、大匡篇。

【播法】無食種。

【播穀】[名] 放送する。

【播穀】[名] 放りうつる。さすらふ。流離する。

【播遷】[名] 「三五、七」、食民之亂、成公、「播遷之禍」、「魏志、王粲傳」、「荀彧傳」、「荀有之」、「播遷之禍」、「魏志、荀彧傳」、「荀有之」、「播遷之禍」、「魏志、荀彧傳」、「荀有之」、「播遷之禍」、「魏志、

貼たし、省覽に使するもの。〔江都集禮新註〕事昭奉案、貼貼上更加 **擇** 月、油で揭げた食物の名。蔵子、寒具、**擇** 月、**擇** 月、**擇** 月

る。「南海寄帰伝」「慈恩法師伝」「摩訶経」。

【撰著】[名]ⅠⅡ 書物などをつくりあらわすこと。「後漢書」「徐淑伝」「撰著論語」「撰著経籍」「撰述」「撰定」。

【撰定】[名]ⅠⅡ えらびさだめること。「文選」「左思」「三都賦」「撰定四部書」「撰定西京」「撰定東京」「撰定周礼」「撰定周書」「撰定周礼」「撰定周書」「撰定西京」「撰定東京」「撰定周礼」「撰定周書」「撰定西京」「撰定東京」「撰定周礼」「撰定周書」「撰定西京」「撰定東京

手部（十二畫）摷擊擊擊

【擾】 12774　タツ　ダツ　タチ

【撻】 12773

十三畫

別9－1255あの俗字。正字通 通俗 俗字。

撻 小篆 古文 **𢾊** を息り罪馬あるを者を、むちでうちましめる。轉じて、汎くうつの意。〔說文〕撻、敺擊也。一事に以て其背 从 手 達聲。〔王注〕敺擊、一事に以て其餘也。然敺飲酒禮の不言、鍾鄉制禮記、射者有過則撻之。案射義注、撻猶罰也。故詩君子射也、必先行燕飲酒之禮、故詩君子音撻以記之。〔周禮、地官、閭胥〕月事掌其比。撻罰之事。〔注〕撻、扑也。〔周禮、春官、小胥〕巡舞列而撻其怠者。〔注〕撻、猶罰扶也。〔禮、內則〕撻之流血。〔注〕撻、擊也。〔列子、黃帝〕撻無傷痛。〔注〕撻、打也。●**農具の名**　はは　きの一種で土をならすに用ひる。〔農政全書、四、農器圖譜〕撻、圓說〕撻、打田器也、用、科木、鑄加鐵鏃、復加鐵鬲、用以打地、長四三四尺、廣可三尺餘、

（著全殷藏）　撻

古屬法云、撻猶既過後、用此撻使、驅滿七貫、苗易、牛也。●**はやい**。貌（12－4774）に通ず。〔說文通訓定聲〕撻、假借爲駃。〔詩、商頌、殷武〕撻彼殷武。〔傳〕撻、疾意也。●**撻する**。〔詩、商頌、殷武、釋文〕韓詩云、撻也。●**ゆづかの矢をあつかが大盡**　靠で作る。〔說文通訓定聲〕撻、假借爲、達、〔儀禮、既夕禮記〕設夜撻焉。〔注〕、撻、射矢道也、以象爲之。●**古**は達11－39011に作り、或は撻（6－139195）に作る。〔集韻〕撻、古作達、或或从手。

【撻】 〔說文〕、達、撻、敺擊也。〔廣雅、釋詁三〕撻、刑也。●**撻**　枚背者二分、達者一分、撻者三分。〔儀禮、既夕禮記〕設夜撻焉。〔注〕、撻、射矢道也、以象爲之。●**古**は達11－39195に作る。〔集韻〕撻、古作達、或或从手。

【撻】 〔說文〕、撻、敺擊也。〔廣雅、釋詁三〕撻、刑也。●**撻**　枚背者二分、達者一分、撻者三分。〔儀禮、既夕禮記〕設夜撻焉。〔注〕、撻、射矢道也、以象爲之。●**古**は達11－39195に作る。〔集韻〕撻、古作達、或或从手。

【撻】 〔說文〕、撻、敺擊

【撇】12776

㊀ケツ
㊁ケツ
㊂ヤキ
㊃ケツ
㊄ケツ

【集韻】古穴切 撇
【集韻】古穴切 撇
【集韻】直歴切 撇
【集韻】竟結切 撇
【集韻】苦丁切 撇

うつ。たたく。【集韻】撇、擊也。【類篇】撇、擊也。【集韻】撇、擊也。【類篇】撇、擊也。【集韻】撇、擊也。【類篇】撇、擊也

撿呈 jiǎn chéng, jiǎn chǐng. しらべて呈出する。

撿點 jiǎn diǎn, jiǎn diǎn. ●しらべる。點檢。

撿起來 jiǎn qǐ lái 拾ひとる。

撿窮的 jiǎn qióng de 拾ひとり。

撿漁利 jiǎn yú lì, jiǎn yú lì 漁父の利をひろう。

撿清貧的 jiǎn qīng pín de, jiǎn qīng pín de 撿拾り。

撿拾遺使 jiǎn shí yí shǐ 撿拾遺使（後天皇）部の官名。（唐書）

同じ。國史略、（後天皇）部の官名。撿拾遺使、（唐書）

人（唐書）選庶無遺賢、陳寅恪於出年

【擀】12780 カン（集韻）古旱切 kuǎn

●手で物をのばす。（集韻）擀、以手伸物。或省。

【擁】12781 ヨウ（集韻）於容切 yōng

ヨウ（集韻）於容切 yōng

【擁】12781 ヨウ（集韻）於容切 yōng

●したがへる。（正字通）擁、雙從也。（管書、范公大

坐擁大衆、侵食自姓。（唐書、竇威傳）淳

于髡、大王擁而不進。（史記、田敬仲完世家）

擁數百騎、馳。●ふさぐ、つつむ、うづめる。

與011‥1893）（後愛、左遷志）藍關

擁、限倩鳴。（韓愛、左遷志）藍關

示侄孫湘詩）雲橫秦嶺家何在、雪擁

藍關馬不前。（李商隱、鈔山文）雪擁

山腰洞口、春澗、鑑居、魚鼓。●たくはえる。

●まとめる。拘束する。（李峴、過洞庭詩）務銷

剩口、注、聲擁、金陽、浮。（曾鞏、寄李亭

半詩）一登、此亭高、食、鼓、蓄、廣、擁、

ふ。南史、（梁書、傳）敬、自擁。（白居易、布

裘詩）朝擁坐至、晨、夜擁眠達、晨。●とり

こむ。むらがる。（漢書、南史、梁武帝紀）日

止一食、云云、或遇、事擁、日傳移中、便、敵

口以過（唐信、答趙王啓）舌、彈、鼻、嚬、惟

知、須、擁、（梅堯臣、詩、東、道都人、擁、●ひ

きこもる。（伏知道、爲、王寇、與、婦、義、安公

主、表、（宋、鎮、全、胆、英、今、恐、擁、●或は擁

（6‥12501）、擁（6‥13049）に作り、又、擁

（6‥13000）、擁（6‥12782）に作る。（集韻）

（‥42000）に通ず。（集韻）擁、雙從也。●擁（

攤、或作、擁、擁、亦書作、擁、擁。●擁（

攤、擁、擁、擁

る。(日本外史・源氏正記・平氏)[清盛公・兵庫]

[擁矢]ようや 投石の傳の時、里者は矢を抱に落かなくて抱き擁すをいふ。(嶋ノ儀)「侍射則矢、諸侍、射手、兵庫、投者、擁抱也」

[擁抱]ようほう 投者、擁抱也。(嶋ノ儀)「侍射則矢、諸侍、射手、兵庫、投者、擁抱也」

[擁腫]ようしゅ 少々なる腫。(嶋ノ儀)「擁腫、少々也」

[擁蔽]ようへい 本家後鳥羽院、新古今集、(嶋ノ儀)「擁蔽、本家後鳥羽院、新古今集」

[擁而長]ようじ 擁抱而長時。(嶋ノ儀)「擁而長時、擁抱也」

[擁而面]ようじ 擁而長時。(嶋ノ儀)「擁而面

【擣】ヨウ　擣・擣・上同。

【擣】12782　ヨウ　擣・擣・上同。

【擣】12783　□アイ（玉篇）万埃切　カノ　□ライ（廣韻）賚切　力　□ai

□する。樹木にくだく。擣（6－12269）に同じ。（廣韻）□（玉篇）擣、研物也。（正字通）擣、以手研物。本作擣。□●石を推し下す。擣（8－21558）に同じ。（説文）作、擣、唐李光弼傳、擣石車。●うつ。たたく。（正字通）捶、今俗謂、擊敲爲擣。（盧紘經、步戰）擣、敲、通、步騎背裝。

【擣】12784　□ドン　（集韻）（廣韻）徒含切　□タン　（集韻）吐盤切

□かたくとる。捻（6－12183）に同じ。（説文）捻、急持衣捻也。（集韻）鈸、持也、或作、鈸。

【擣】12785　□サイ　（集韻）倉回切　□サイ　（集韻）子堆切　□サイ　（集韻）祖賜切

□こなす。（集韻）擣、方言、損也。□くじく。（集韻）擣、拉也。

【擣】12786　ダウ　ナウ　（集韻）奴鳥切

●つく。（集韻）擣、擣也。●さす。（集韻）擣、刺也。●或は擣（6－12473）に作る。（集韻）擣、或作、擣。

【擣】12787　ロ　（集韻）籠五切　カメ　カメ　ㄈㄨㄥ

●かすめる。（廣韻）擣、擣撲。●える。（集韻）擣、擣、說文、獲也、或从手。●おぼす。（字彙）擣、覆也。●したがへる。（字彙）擣、服也。●踴まくる。

【擣】12788　タン　擣（6－12124）に同じ。（正字通）擣、擣同。

【擣】12789　ウツ　撫（6－12243）に同じ。（集韻）撫、或从鬲。

棒。搗粉木。

【擣盆】ほうばち　擣鉢の異称。鳥羽の方言。（物類稱呼）

【擣草坡】ばうさうは　坡の名。胡南省長風縣の北。

【擣石車】ばうせきしゃ　戰車の名。石を轉ずる車。攻城に用いる。（解の□の条を見よ。（唐書、李光弼傳）万歲氏、民屋爲擣石車、行くなりに加つける。

【擣盤珠】ばうばんしゅ　新參の兵士。他から命ぜられるのを待たず、自發的に立ちまはる者。佛頂珠（1－517－237）を見よ。（觀緯錄、佛頂珠）擣盤珠、言撥之則四方皆佛頂珠、見緯錄。（唐書、李光弼傳）初來時、目擣盤珠、言不聽自動、相與目、兼欲、言撥之則四方皆佛頂珠、見緯錄。

【擣粉鉢】ばうふんはち　擣鉢の異称。

【擣粉木】ばうふんぼく　擣鉢や物を擣るに用ひる杵。

【擣】12786　ダウ　ナウ　（集韻）奴鳥切

●つく。（集韻）擣、擣也。●さす。（集韻）擣、刺也。●或は擣（6－12473）に作る。（集韻）擣、或作、擣。

【擣】12787　ロ　（集韻）籠五切　カメ　カメ　ㄈㄨㄥ

●かすめる。（廣韻）擣、擣撲。●える。（集韻）擣、擣、說文、獲也、或从手。●おぼす。（字彙）擣、覆也。●したがへる。（字彙）擣、服也。●踴まくる。

【擣】12788　タン　擣（6－12124）に同じ。（正字通）擣、擣同。

【擣】12789　ウツ　撫（6－12243）に同じ。（集韻）撫、或从鬲。

【擅】 12790
セン (呉)(漢)禪 (慣)
戸号 dan

(名)① ボウ ●ほしいままに、ほしいままに。もっぱら。〔說文〕擅、專也、从手亶聲。〔左氏、成十二〕擅左師。〔注〕擅、專也。〔史記、管子、法法〕此所謂擅也。〔注〕擅、專也。〔史記、韓非子、難勢〕擅行不行。〔注〕擅、專也。〔史記、韓非子、難勢〕擅行賞罰。〔注〕擅、專也。〔史記、韓非子、難勢〕擅命也。●ほしいままにする。專にする。〔詩、鄘風、鶉之奔奔〕擅命也。〔釋文〕擅、專也。〔史記、范雎傳〕擅命也。〔釋文〕擅、專也。●しめる。壊有する。〔淮南、説林〕擅、壊也。〔戰國、趙策一〕擅之。〔注〕擅、壊有之也。●ゆづる。禪(ゼン)(2683)に同じ。〔荀子、正論、堯舜擅讓〕(注)擅、與禪同。

【擅愛】 ①ボウアイ。ほしいままに愛する。〔韓非子、外儲説右上〕天下之勢、勢以禁姦擅愛之位、而必德厚不足與天下。齊行以伸名、是居于樂君之意、不可謂知人。〔後漢書、馬援傳〕擅愛之不私、傷天下、而擅賞罰之不公、失人心。

【擅威】 ①ボウイ。ほしいままにふるまう。〔春秋繁露、楚莊王〕擅威不利、後有殺身之患。

【擅行】 ①ボウコウ。ほしいままな行。又、ほしいままに行う。〔史記、范雎蔡澤傳〕不知擅行不顧、〔魏志、司馬懿傳〕擅行專制。

【擅國】 ①ボウコク。ほしいままに国を支配する。〔荀子、王霸〕擅國者、主也。

【擅斷】 ①ボウダン。ほしいままに決断する。〔後漢書、馬援傳〕擅斷者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅議】 ①ボウギ。ほしいままなうわさ。〔荀子、歌〕國之憂敵、公、情、權之擅議。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕(注)擅、專有。〔荀子、歌〕國之憂敵、公、情、權之擅議。

【擅權】 ①ボウケン。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕(注)擅、專有。〔荀子、歌〕國之憂敵、公、情、權之擅議。

【擅作】 ①ボウサク。勝手に作る。〔荀子、禮論〕擅作樂者、人之所惡也。〔後漢書、馬援傳〕擅作樂者、人之所惡也。

【擅斷】 ①ボウダン。ほしいままに決断する。〔後漢書、馬援傳〕擅斷者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅場者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅命】 ①ボウメイ。ほしいままに命令する。〔後漢書、馬援傳〕擅命者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅國】 ①ボウコク。ほしいままに国を支配する。〔荀子、王霸〕擅國者、主也。

【擅斷】 ①ボウダン。ほしいままに決断する。〔後漢書、馬援傳〕擅斷者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅場者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅命】 ①ボウメイ。ほしいままに命令する。〔後漢書、馬援傳〕擅命者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅權】 ①ボウケン。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅權者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅威】 ①ボウイ。ほしいままにふるまう。〔春秋繁露、楚莊王〕擅威不利、後有殺身之患。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅場者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅斷】 ①ボウダン。ほしいままに決断する。〔後漢書、馬援傳〕擅斷者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅場者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅命】 ①ボウメイ。ほしいままに命令する。〔後漢書、馬援傳〕擅命者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅權】 ①ボウケン。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅權者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅威】 ①ボウイ。ほしいままにふるまう。〔春秋繁露、楚莊王〕擅威不利、後有殺身之患。

【擅場】 ①ボウジョウ。ほしいままな振舞。〔後漢書、馬援傳〕擅場者、海之寶、以數萬人命、從我擅斷、何憂不得。

【擅斷】 ①ボウダン。ほしいままに決断する。〔後漢書、馬援傳〕擅斷

云。

擅 12790 ●擅 ●擅 ●擅

〔擇遣〕ちくけん　えらんで遣す。（蘇軾、超清觀公神道碑）或初以字名、擇、奏、朝廷擇遣大臣馬駒

擇言〕ちくげん　善き言葉。（後漢書、馮衍傳）

擇言〕ちくげん　●善語をえらび取るべき言葉。美辭。（後漢書、馮衍傳）●戰國策、魏策、魯君美辭、依擇言目、皆喜帝矣、今、儀、儀、

思繫輕即擅，衣滅裏宮之理，是名操道不既。

【操】 12797 ハク 通「操」同。 ソウ ゼキ 【集韻】食郭切 **鐲**

操（6－12759）に同じ。（王子

かぞへる。

【掻】 12798 【集韻】蘇甘切 **鬖**

搔（6－12603）に同じ。（集韻）搔、說文、關持也。或作「搔」。（萬書）搔、搔撓下）「搔」と以三筆。（注）蘇林曰、三三而分之。（王先謙補注）沈欽韓曰、易擾之以四、玄擾之以三。

【擊】 12799 ①ゲキ ②ケキ ③ケイ ④ゲイ 【集韻】吉歷切 **鐲** 【集韻】吉歷切 **鐲**

【擊】 12800 ①ゲキ ②ケキ ③ケイ ④ゲイ 【集韻】吉歷切 **鐲**

【擊手】ge̊k-hiů, kheg-, 手を突き傷つける。
【擊刃】ge̊k-ni̊n, gi̊n, 刃で傷つける。
【擊碰】ge̊k-bůng, pi̊ng̊ng̊, ぶつかる。衝突する。

【擊】 12800 ①ゲキ ②ケキ ③ケイ ④ゲイ 【集韻】吉歷切 **鐲**

①うつ。（たたく。（說文）擊、擊也。（段注）擊、擊也。（廣韻）擊、打也。（增韻）擊、打也。（書、益稷）擊石拊石。（孟子、萬章下）抱關擊柝。（注）擊、擊柝之也。②なぐる。（列子、說符）擊博塞上。③せめる。（史記、高祖紀）急擊勿失。（史記、孔子世家）暗公事、誣擊平子。④おそふ。（史記、酷吏、義縱傳）以廣擊毛氏爲治。⑤くじく。おさへる。（萬書、注）擊、制也。（荀子、解蔽）擊而無知。⑥うちあふ。たたかふ。（荀子、說劍）日夜相一擊手。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑦ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑧ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑨ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑩ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑪ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑫ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑬ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑭ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑮ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑯ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑰ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑱ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑲ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。⑳ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉑ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉒ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉓ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉔ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉕ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉖ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉗ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉘ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉙ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉚ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉛ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉜ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉝ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉞ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㉟ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊱ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊲ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊳ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊴ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊵ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊶ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊷ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊸ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊹ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊺ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊻ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊼ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊽ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊾ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。㊿ぶつ。（戰國、韓策、韓策二）擊人屑擊。（注）擊、相當。

子、田子方）目擊而道存矣。（釋文）擊、動也。⑥つながる。かかる。（集韻）（6－27223）に通ず。（說文通訓定聲）擊、段借爲繫、實爲系。荘子、田子方、目擊而道存矣。（釋文）繫、本又作「系」。（王引之）繫、段借爲繫、實爲系。荘子、田子方、目擊而道存矣。（說文通訓定聲）繫、段借爲繫、實爲系。（注）繫、繫也。（廣韻）繫、繫也。（集韻）繫、繫也。（淮南子、主術訓）而得其宜、無所繫礙。（注）繫、繫也。⑦勇敢。視（10－34875）に通ず。（荀子、王制）信厚敬愛之君也。（注）繫、讀爲視。⑧樂器の名。柷（後漢書、馬融傳）有繫鳴球、（注）繫、敔也。繫、敔、樂器中有繫橫連底、擊之所以作樂。⑨或は徹（6－12776）に作り、古は隔（11－41783）に作る。（集韻）繫、或作「撤」、古作「隔」。

【擊衣】　ころもをうつ。（史記、張儀傳）今以良弱楚、以秦韓、請百之衣、而擊之、楚必敗。（解釋文）擊、謂搗衣也。（注）擊、相當。

【擊柝】　夜警の鳴子をうつ。（荀子、王霸）故君子之謹於擊柝、而小人之安於枕席也。

【擊鼓】　太鼓をうつ。（論語、微子）擊鼓其鼓、（注）擊、擊鼓。

【擊節】　たたくことと指でおさへることと。（荀子、樂論）宮、君也、商、臣也、角、民也、徵、事也、羽、物也。五者不亂、則無以爲樂也。（注）擊節、謂節拍。

【擊蒙】　蒙を擊ち破ること。（易、蒙）擊蒙、不利爲寇、利禦寇。（注）擊蒙、擊蒙昧也

【擊答】ｇｅｋｉｔｏｕ 黄色の琴。〔管書、天文志中〕而〔集解〕張晏曰、黄琴。

【擊柱】ｇｅｋｉｃｈｕ 打柱。〔漢書、郊祀志〕擊柱、擊鼓、作樂。

【擊柱作樂】ｇｅｋｉｃｈｕｓａｋｕｔｏｒａｋｕ 擊柱、擊鼓、作樂。

【擊柱狀況】ｇｅｋｉｃｈｕｊｏｕｋｙｏｕ 琴柱の調子。〔漢書、郊祀志〕擊柱、擊鼓、作樂。

【擊徒】ｇｅｋｉｔｏ 打徒の競技に参加する者。〔後漢書、馬援傳〕馬援以善相馬、擊徒、擊鼓、作樂。

【擊鼓】ｇｅｋｉｋｕ ①琴を弾じること。〔漢書、郊祀志〕擊柱、擊鼓、作樂。②ことをかなでる。〔楚辭、九歌、東君〕鳴鳳在竹、玉鸞相鳴、疏緩節兮安舒、竦長劍兮擁幾、〔注〕琴瑟、鼓、以手擊之、以足蹈之、以和音樂、〔補注〕擊鼓、擊琴瑟也。

【擊答】ｇｅｋｉｔｏｕ 黄色の琴。〔管書、天文志中〕而〔集解〕張晏曰、黄琴。

【擊柱】ｇｅｋｉｃｈｕ 打柱。〔漢書、郊祀志〕

づといふ。(四庫提要、集、別集類)。

【擊壤】擊壤[ji]。[ji]。[ji]。壤をうつこと。太平曾年の歌謡。「擊壤歌」。謝靈運、初去郡詩)郡は晏安化、後我擊壤歌。(注)晏安化、我得同擊壤老人之曹年。(後漢書、馬援傳)。(注)晏安化、我得同擊壤老人之曹年。

【擊攘】擊攘[ji]。うつて追ひはらふこと。擊退。

【擊攘】[ji]。一左ナ擊。紫於淵水之中。(越絶書、越絶外傳記、范蠡)。(注)擊攘、擊退。

【擊鏘】[ji]。張衡、西京賦)金鼓鏗鏘、震駭天地。(注)、左氏、定九)吾敵敗績、而我擊鏘。

【擊征】[ji]。鷹の異名。(後漢書、馬援傳)。(注)征鳥、鷹也。(後漢書、馬援傳)。(注)征鳥、鷹也。

【擊征】[ji]。鷹の異名。(後漢書、馬援傳)。(注)鷹鳥、鷹也。

【擊】[ji]。[ji]。[ji]。

（注）擊、打也。如今鬱陵蕃也。（淮南子・人間訓）注、鬱陵、高句麗。博其土、博、廣也。（管子・輕重甲）荊人見之、則擊之。然後擒之。（呂氏春秋・慎勢）注、擊、捕也。（管子・輕重甲）荊人見之、則擊之。然後擒之。

【擊】擊、ji、ケキ。うつ。（管子・輕重甲）注、擊、捕也

【操】 12806

日ソウ（繁體）清五切 ㄘㄠ ts'ao
日ソウ（繁體）七到切 ㄘㄠˋ ts'ao⁴
ちゅう ts'u

操 操 操

各斉 醴注。

操[操]…… 品行がすぐれた義い。〔晉書、辛毗傳〕 操執 操持 操志 操術 操心 操節 操[操]…… 操作。

操守[操守]…… 心にかたく守り持する所。正道を堅くして變らないこと。みさを。〔後漢書、楊賜傳〕 操持 操節 〔後書、鮑恭傳〕神觀邁遠、操守絜正。〔魏志、王粲注、魏略〕 操行 操志 〔後漢書、袁紹傳〕 操[操]…… 操縱。

操縱[操縱]…… 操縱する。對操。

操[操]…… 操縱。操縱する。〔後漢書、馮衍傳〕

し、天成と建元す。場帝、冶鑄所の鑄錢監を置く。●或は弊之を定めずして、（唐書、八十七）

【擊天成】ゲキテンセイ　南方の諸蕃の部に、「すべて、迦羅、ｋａｌａｋａ、ｋｕｌａ、

手部 (十三畫) 撥 撟 撥 撞 撫 撫 撫

〕擥、舉也。〔荀子、七法〕擥、笮而欲定。其禾。〔注〕擥、舉也。㊁●しなふ又、にしふもの。にもつ。或は擥（8—15659）・籠（10—15942）に作る。〔集韻〕擥、負也、或从木、亦作籠。〔左氏、莊二十二〕弛于負擥。

擥 ●量の名。④ 荷今の目方で百斤、容積で、石。〔皇朝文獻通考、征権考〕船實能載百擥、而所以裝之貨、乃在七十擥以下者。㊁イギリス・アメリカの衡量の單位。Hundred weight の略稱。イギリスでは、二一封度、アメリカでは、〔○〕封度。

〔擥郁 tsi-ʔut〕 皆、鬱、鬱を運ぶ人夫、運搬。〔擥日本紀〕 天平勝寶八年十二月・由、此擥輸平苦、觀鳴、逸賞。

〔擥故 tsi-kaʔ〕 危險な事から引き出る。

〔擥故 tsi-kaʔ〕 星の名。本書の異稱。〔爾雅、釋天、四時說〕注今刺客人伊・奉牛星、擥、擥。

〔擥鳴 tsi-ʔi〕 〔禮記、檀弓上〕 ●擥、擥、擥、

任を負ふ。

【擄掠狀元】ロウリャクジャウグワン 科舉の試驗に、第五甲の末で及第した人。(英香窗舊鈔)「擄掠狀元」は、第五甲の末名。(第五甲末名)擄掠狀元。(第五甲末名)擄掠狀元。(第五甲末名)擄掠狀元

擘 分也。〔説文〕擘、擗也。〔廣雅〕擘、裂也。〔周禮〕掌蠟氏、掌共蜜、以待共祭祀之用。〔後漢書〕馮魴傳、魴上疏曰、「臣聞、聖人之教、以孝爲先。孝之爲道、一人有慶、兆民賴之。今陛下以孝子之心、奉天地之祭、天地之祭、莫大於孝

【擾】12839 ジョウ（集韻）而沼切 ニョウ（集韻）人小切 ジョウ（集韻）人要切 ニョウ（集韻）人朗切 ジョウ（集韻）人漾切 ニョウ（集韻）人樂切 ジョウ（集韻）人質切 ニョウ（集韻）人質切 ジョウ（集韻）人職切 ニョウ（集韻）人職切 ジョウ（集韻）人職切 ニョウ（集韻）人職切 ジョウ（集韻）人職切 ニョウ（集韻）人職

【擇】擇 澤 択 ●ゼツ ●セキ ●ジャク ●ヨク ●タク ●ヒ ●ヘキ ●ヤク ●ヨウ ●ヒツ ●ヒチ ●ヒツ ●ヒチ ●ヒツ ●ヒチ

手部　〔十四畫〕　擢　擣

擢卿不起鄰身不得。　試驗の成績を發表する。
擢拔來 ㊀ [ta] [ba] [rai] ㊁ [ta] [ba] [gai] ㊂ 持上げる。●唱導を はじめる。
擢死 [ta] [shi] [suru] [kami] 縊ること。　逃れ難き地を「張」。
擢能頌 [ta] [no] [shō] 「月」百官をいふ。此の日は笑
擢能頌 [ta] [no] [shō] 「月」百官をいふ。此の日は笑
[ta] [no] [shō] 「月」百官をいふ。此の日は笑
擢諸能 [ta] [sho] [no

る。[三]あつまる。[荀子・天論]25130に通ず。[說文通訓定聲]搿、假借字。[廣韻]搿、聚也。[史記・藺相如傳]上有搿、下有神龜。搿、古柳字。

搿衣　アツ。[名義]搿、布角をしなやかにして、スクツヤを出すために、きぬ・ぬのたこのせつ・ぬのをつつこと。ところ又、きぬ・ぬの角を柳で打つこと。[廣韻]搿、[玉篇]搿、[集韻]搿、[類聚名義抄]搿、[字鏡集]搿、[篇海]搿、[正字通]搿、[倭名抄]搿、[和名抄]搿、[倭名類聚抄]搿、[倭名抄]搿、[倭名抄]搿、[倭名

蓄〔系〕圃搬免者均愛〕蓄賣。

〔擧油〕〔注〕油を拭う。●油を塗る。

〔擧過〕〔擧〕かすります。擦傷。

〔擧半〕〔擧〕半分。●半分。

〔擧半〕〔擧〕近大の時、大見構で半鐘をすりこすりまつる。

〔擧河〕〔擧〕川の名。源は雲南省魯甸縣の南端。●擧河・大關河・洛源河等を合はせ長江に注ぐ。

〔擧腕・擧肘〕〔擧〕腕を擦る。●擦り傷。

〔擧巾〕〔擧〕手巾。●化粧をこすりながら全身に力を入れる。

【擧】 12863

日本 キョ
日本 ケン
日本 ケン
日本 ケン

【擧夷儀】ｊｙｉ ｙｉｘｉｎｇ 中古、周、春秋時魯地名。[杜預]曰、夷儀、[左傳]、[哀公十一年]、[魯]伐齊、[高]子[國]、[陳]乞[田]、[公]敗[齊]于[夷儀]。[杜預]曰、[魯]地、[東]昌[聚]、[西]南[有]夷儀[城

志、義樓傳、樓華止頓色百起。（後書、袁紹下傳）

舉危[名]。さかづきをあげる。何遒、哭袁公文。

舉爵[名]。さかづきをあげる。舉觴。

舉矢[名]。矢を挙げる。投壺を試みる時の姿。（左氏、昭十二、投壺等、大戴礼、投壺篇、肉如淳、）

舉刺[名]。●憂者を動ぜず。あげて除く。（管寧、天官賦傳、）●君子の道、貴人の動作、●君子の道、●人の文理、舉主[名]を見よ。

舉[動]。●力を用いて動かす。●舉

有淳科目取士、李唐制、用八股文以取士、因子書及易書詩禮紀傳諸經、爲題目、以論爲主、其大略如王安石所定、明初、令天下大比、以子午卯酉年、爲鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、曰、狀元榜眼探花、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會試第一、曰會元、二甲第一、曰傳臚、要出自鄉試、中式者爲舉人、案明史選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。舉人、舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。舉人、舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。舉人、舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

舉人　舉人、會試、後漢書、陳蕃傳、蕃、舉人、爲郡、太守、以、事、去官、後漢書、百官志、郡、鄉、試、中式者、爲、舉人、案明史、選舉志、千年大比、以諸生試之、省曰、鄉試、中式者爲舉人、次年、會試、中式者爲進士、天子親策於廷、曰殿試、第一甲三人、賜進士及第、二甲若干人、賜進士出身、三甲若干人、賜同進士出身、明、嘉靖以後、會元、狀元、榜眼、探花、皆出鄉試、中式者爲舉人、則自明始。

故事、他條、(史記、秦紀)王翦、(漢書、高帝紀)樊噲、(後漢書、光武帝紀)馮異、(同、馮衍傳)馮魴、(同、馮魴傳)王莽、(同、王莽傳)宋祁、之日云云。(同、宋祁傳)

【舉摠】[ju:tsoŋ] 名 ①ぐるめて。(史記、淮陰侯列傳)

【舉足】[ju:tsiuk] 名 ①足を上げる。(史記、淮陰侯列傳)

【舉手】[ju:ʃiu] 名 ①手を上げる。(後漢書、公孫瓚傳)

【舉足】[ju:tsiuk] 名 ①足を上げる。(後漢書、馮魴傳)

【舉頭】[ju:dəu] 名 ①頭をもたげる。(後漢書、皇后上、郭皇后紀)轉、去聲頭若、欲、自鄉、(鄉紙、上書御作、傳、注、後漢書)云云詩、山中有頭望、日邊長安不見、安、雲、雲傳。

【舉動】[ju:duŋ] 名 ①たちあがる。動作。舉止。(韓非子、解老)不奔、注、理而、天下有、侍、相、末、蛇之、蜂、螫、(同、外儲說右上)傳、舉動、周旋、必由、禮度、(後漢書、馮魴傳)舉動、必由、禮度、(後漢書、馮魴傳)山海、呼、號、哭、(同、馮魴傳)宦官、(同、馮魴傳)、(同、馮魴傳)、(同、馮魴傳)

【搖】12866

㊀ジユ（集韻豪切）𠫑
㊁ジユ（集韻虞切）𠫑
㊂ヂユ（集韻虞切）𠫑
㊃ジユ（集韻尤切）𠫑
㊄ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊅ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊆ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊇ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊈ヨウ（集韻尤切）𠫑
㊉ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊊ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊋ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊌ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊍ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊎ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊏ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊐ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊑ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊒ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊓ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊔ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊕ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊖ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊗ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊘ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊙ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊚ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊛ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊜ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊝ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊞ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊟ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊠ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊡ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊢ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊣ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊤ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊥ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊦ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊧ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊨ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊩ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊪ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊫ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊬ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊭ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊮ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊯ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊰ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊱ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊲ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊳ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊴ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊵ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊶ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊷ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊸ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊹ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊺ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊻ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊼ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊽ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊾ヂユ（集韻尤切）𠫑
㊿ヂユ（集韻尤切）𠫑
(51)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(52)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(53)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(54)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(55)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(56)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(57)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(58)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(59)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(60)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(61)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(62)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(63)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(64)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(65)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(66)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(67)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(68)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(69)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(70)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(71)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(72)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(73)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(74)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(75)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(76)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(77)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(78)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(79)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(80)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(81)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(82)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(83)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(84)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(85)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(86)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(87)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(88)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(89)ヂユ（集韻尤切）𠫑
(90)ヂユ（集韻尤切）𠫑

機型から成り、東方朔の大人先生傳、陶淵明の五柳先生傳に倣ったものである。

●**擬議**の者、晉の陸機、陳思王に倣ったものである。●**擬作**の者、晉の陸機、陳思王に倣ったもの。●**擬倣**の者、陶潛の歸去來辭に倣ったもの。

擬[ぎ] 動 なぞらえる。〔論語、子路〕詞一致、比也。比古志以見情。〔陶潛、擬古詩、一類〕擬、比也。比古志以見情。〔陶潛、擬古詩、一類〕

擬[ぎ] 名 奏こなぞらえる。〔後漢書、馮魴傳〕魴上書、以爲、漢家之法、…… 罪を定める。罪を決定する。明律、刑律、賊盜、謀叛者、隨地擬罪。

擬[ぎ] 名 なぞらえること。〔莫死今覺時皆赫然擬造。

擬[ぎ] 動 ようとする。〔論語、子路〕詞一致、自知其自負、擬、義、送日伸、擬作、擬前、柿、擬議、動以後、觀已識、也。

擬[ぎ] 動 はかり推ぶ。〔論語、子路〕詞一致、擬、度、宋史、擬差、

擬罪[ぎざい] 名 罪を定める。罪を決定する。明律、刑律、賊盜、謀叛者、隨地擬罪。

擬似[ぎじ] 名 なぞらえること。〔莫死今覺時皆赫然擬造。

擬死[ぎし] 動 動物の死真似。〔田出版、岩波文庫、科名部、問題、擬、擬者、擬似、擬死、擬者、擬似、擬者、擬似、擬死、擬者、擬似、擬死、擬者、擬似、擬死

擬法務之條。水記。惠山泉合醮泉清。

【擬流】ギリウ　鳥流しの刑にあてる。（編憲令書刑名部）　鳥流しの刑。

【擬律】ギリツ　犯罪事實に對して法令を適用すること。

【擬論】ギロン　●罰ひ申ん。論議。擬・向・相すること。（集韻）●妻論する。（張華・相風賦）【擬・擬】植・拉有・擬論。●妻論する。（張華・相風賦）【擬・擬】

【擬欲】ギヨク　詩篇の名。北周・庾信の作。（庾子山集・詩篇）

【擬・擬】ギヨク　詩篇の名。北周・庾信の作。（庾子山集・詩篇）

【擬太平策】ギタイヘイサク　書名。七卷。南・李地撰。周禮に倣つて作り、其の題類元の兄ばねるところの補ふ。（隋書・經籍志・第二・百十八・刑）

【擬文章生】ギブンシヤウシヤウ　弘・大學寮で史記・漢書を及第者として補した職。（令制の條・大江匡衡・詩草・詩題・文章博士・大江匡衡・仲月・試詩・前任・詩題・文章博士・大江・省試・詩題・通・文章博士・大江・省試・判定）

【擬議】ギギ　比喩・前後に類あり。類・類は通用で擬かい・擬擬がある。「擬」の名。高・毛・奇・節作。

【擬議相同】ギギソウドウ　式・式に擬して作つたもの。其の一は賞・金代の遠・紀・紀に擬して作つたもの。其の一は賞・嫁・遠・有・其の一は故・遠・同・の・前者・金の時・小太・蘭・同の女子・彩・老・親・孝・養・盡した事を說く。後者は・家・庭・思・論・が・孝・養・盡した事を說く。後者は・家・庭・思・論・が・孝・養・盡した事を說くもの。（西河合集・第三十二・冊）

【擬】

【擬】

【擬】

35788に通ず。『説文』傾、攲、傾或从〻手。

【字彙】攲、同。『周禮・秋官』司儀「掌九儀之客接相之禮」(注)出接賓曰。『儀禮・士冠禮』接者詞。期、(注)接賓、有司在、謂者、在主人・門外東面。接、(釋文)、接、本又作、儀、亦作、賓。

【接壓】ｼｮｳｱﾂ　しりをおさへる。排斥し壓迫する。又、きらはれのけものにされる。『魏志・卻正傳』「相須新論曰、先貴而後賤、昔富而今貧、人情慢惰、不安西鄙。」

【接分】ｾﾂﾌﾝ　主人を客との間で調停する者。主人側の客を接といい、賓客側の客を介と云ふ。『儀禮・士冠禮』「若請期、注(接)賓者、有司在、(賓)介、在主人・門外東面。」

【接勢】ｾﾂｾｲ　退け案でる。「列女傳・孟軻母」「嘗有織者、在主人門接、織者知勢、」『崔寔、政論』「兼勢、」

【接卻】ｾﾂｷｬｸ　しりぞけ退ける。排斥。

【接傳】ｾﾂﾃﾝ　中山靖王勝傳、使、夫宗室接卻、骨肉冰釋。

【接續】ｾﾂｿﾞｸ　賓客に對する接待のことば。『孔子家語』弟子行「禮以接續」

【接待】ｾﾂﾀｲ　客を接待する者。『儀禮、士冠禮』「接者詞、期、(注)、接賓、在主人門接、在客門外。」

【接相】ｾﾂｼｮｳ　賓客の事を同る官。世にて賓客を相といふ。『周禮・秋官・司儀』「掌九儀之賓客接相之禮、(注)出接賓曰相、(疏)、禮曰、相、(疏)、(注)、(疏)、賓曰接、(疏)、(注)、(疏)、賓客曰相、(疏)、(注)、(疏)、(疏)、(疏

擲 12893 テキ ガヤク

十五畫

【廣韻】直炙切 去 陌

なげうつ。〔廣韻〕投也。〔字彙〕擲、投也、拋也。④なげとばす。なげつける。〔後漢書、呂布傳〕布乍天右目賦、以不忘爲期云。〔詩、賓之初筵〕籩豆有楚、殽核維旨、〔箋〕籩豆、所以盛殽核也。⑤博弈。〔後漢書、馮魴傳〕博擲一擲。〔晉書、慕容廆載記〕子皝、字擲、豪廣。●すてる。〔陶潛、雜詩〕日月擲人去。

●はるふ。〔廣韻〕擲、振也。〔資治通鑑、晉紀、太興元年〕王敦無能之機、密。⑥

かく。〔廣韻〕擲、擿也。⑦縄(9・1293B)に同じ。〔集韻〕縄、說文、擿也、一曰、投也、或作擲。

擲下 〔 〕 ●とびおりる。又、投げすてる。投げ振る。〔陳書、姚察、審弘度傳〕登樓、去地四五丈、云云、欲然擲下、至地無損。

擲交 〔ジャウ chiao〕 交を投げる。

擲姿 〔シ tzu〕 姿態の姿。或は其の形に換した文。〔史記、14657〕の見え。

擲奇 〔キ chi〕 送る。送別する。

擲交 〔ジャウ chiao〕 交を投げる。

擲奇 〔キ chi〕 送る。送別する。

擲卻 〔キャク chüeh〕 なげうつすてる。

擲去 〔キョ chü〕 なげうつて除ける。〔世說新語〕簡傲、其側中聽、案、見地有一片金、晉揮麈與見石不異。無復顧盼之心、又書、紙筆、一擲如故。

擲門 〔メン mên〕 門を突き破る。

擲蹶 〔ケツ chüeh〕 蹶を投げる。〔後漢書、呂布傳〕布乍天右目賦、以不忘爲期云。〔詩、賓之初筵〕籩豆有楚、殽核維旨、〔箋〕籩豆、所以盛殽核也。⑥博弈。〔後漢書、馮魴傳〕博擲一擲。〔晉書、慕容廆載記〕子皝、字擲、豪廣。●すてる。〔陶潛、雜詩〕日月擲人去。

●はるふ。〔廣韻〕擲、振也。〔資治通鑑、晉紀、太興元年〕王敦無能之機、密。⑥

かく。〔廣韻〕擲、擿也。⑦縄(9・1293B)に同じ。〔集韻〕縄、說文、擿也、一曰、投也、或作擲。

擲下 〔 〕 ●とびおりる。又、投げすてる。投げ振る。〔陳書、姚察、審弘度傳〕登樓、去地四五丈、云云、欲然擲下、至地無損。

擲交 〔ジャウ chiao〕 交を投げる。

擲姿 〔シ tzu〕 姿態の姿。或は其の形に換した文。〔史記、14657〕の見え

〔擲瘞埋〕ﾁｲｴｲﾏｲ 塞の名。江西省九江縣・廬山の北に所在。「埋」は「瘞」の誤。「明一統志」「廬山記」「湖廣總志」「江西通志」「廬山記」「廬山紀略」「廬山紀略」「廬山紀略

呼。醫。●通じて 𢹂（10・23888）に作る。（後漢書）崔駰傳、當其無事、則强𢹂綱紀。（注）𢹂、字宜从手。●通じて 𢹂（7・20738）に作る。（正字通）史月名𢹂、漢、樓正。樣、俗本史記作 𢹂。●或は 掲（6・12833）に作る。（玉篇）𢹂、擇持也。●をる。くじびもつ。（玉篇）𢹂、或作 掲。●やぶれる。（集韻）𢹂、折也、或作 掲。●やぶれる音。（字彙）𢹂、破壞聲也。●圓おと。忘れる。

【攜下】 ji̯ɛ̌ ɣɐ̀ 。 遺す。置き忘れる。

【攜倦】 ji̯ɛ̌ ɡuɐ̀n 。 まどる。（集韻）𢹂、惑也。

【攜手】 ji̯ɛ̌ ʃɐ̌u 。 手をとりあう。（集韻）𢹂、攜手。

【攜手同行】 ji̯ɛ̌ ʃɐ̌u dɔ̀ŋ ɣɔ̀ŋ 。 呉越春秋、伍子胥傳、呉越春秋、伍子胥傳、呉王闔閭、使人謂子胥曰、子之所以事我者、子能使之事楚乎、子胥曰、不能、王

手部 〔十五獲〕 擾 攘 攜 攝 攙 攙 攙

[撓]　[説文]ᵃᵃ　ひきぼりとる。[經典文字攷]刑名類。人命上聽撓[撓]案百端。男女聚訟。

[撓弾]ᵃᵃ　[説文]ᵃᵃ　かき乱して出辭。[廣韻]ᵃᵃ　撓[撓]亂。

[撓]ᵃᵃ　やはらかなるさま。[説文]ᵃᵃ　撓、[後漢書]東夷傳論、燕人鳥獸、[後漢書]ᵃᵃ　撓、[後漢書]東夷傳論、燕人鳥獸、[後漢書]ᵃᵃ　撓、[後漢書]ᵃᵃ　やはらかなるさま。[説文

丹傳）鎮銅丸以鎮跳。（注）師古曰、鎮、鎮壓也。❸さくる。（法言修身）鎮、壓奏也。寃行而已。（注）謂、寃行者、以壓奏也。❹きさむ。（莊子、胠篋）鎮玉畏珠。（注）李云、刻也。❺と る。（荀子、王霸）鎮、取也。或从酒。❻かく。（集韻）鎮、擁雑、掻也。

【鎮】 12922 ・1 ・1 ・25362 ・1 ・1 ・1

【掌拓】zhǎng tuò. 印章。依韻文。たのむ。引つぱる。

【掌車】zhǎng chē. 車に手をかけてとどめる。〔後漢書・張衡史、孟康注〕風俗通曰、掌車、謂之[illegible]。〔後漢書・第五倫傳〕水孔牛、坐法繫、老、掌車、車中、馬、嘗

作。擾。〔廣韻字典〕擾。本作「擾」。❷うつ。獸。（6－13443）に同じ。〔集韻〕戰。擊也。或从手。❸或は𢽾（6－13119）。撲（6－12755）。技（6－11856）。扑（6－11279）。攴（6－13108）に作る。〔集韻〕擾。博雅。擊也。或作𢽾。撲。技。扑。亦省。曰うちたたく音。〔集韻〕擾。擊聲。回うつ。〔集韻〕擾。擊也。

【𢽾】 31931 サツ サチ 〔集韻〕〔𢽾切〕 國

❶草原を歩く音。〔廣韻〕擾。足動。無聲。❷する。或は𢽾（6－24555）に作る。〔集韻〕擾。摩也。或从石。〔篇海〕石。〔崇明名書錄〕以。筆端搖擺。文理縱橫。❸まく。又。はな。〔ばら〕まく。〔集韻〕𢽾。說文。拂𢽾。散。之也。一曰。放也。或作。擾。〔韓愈。月蝕詩〕星如撥沙出。

【擄】 31932 チョ 〔集韻〕〔擄居切〕 戶X ㄩˋ

❶のべる。〔廣雅。釋詁四〕擄。舒也。〔增韻〕擄。摘也。〔廣韻〕擄。敍傳上〕率不能。擄。首尾。〔注〕師古曰。擄。申也。〔後漢書。班彪傳上〕擄。意子宇由之外。〔注〕擄。舒也。❷しく。〔漢書。司馬相如傳下〕擄。之無聲。〔注〕師古曰。擄。布也。❸はる。〔廣雅。釋詁二〕擄。張也。〔楚辭。九章。悲回風〕擄。青冥而揚沮。〔注〕師古曰。擄。散也。❹あがる。〔後漢書。張衡傳〕六龍擄。超。〔注〕擄。猶騰也。❺なぞらへる。〔玉篇〕擄。擬也。❻或は擄（6－12135）に作り、通じて擄（6－12639）に作る。〔集韻〕擄。或作。擄。通作。擄。❼姓。〔萬姓統譜〕擄。見〔直音〕。

〔擄意〕ちゃ。こころをのべる。〔班固。答賓戲〕擄意乎宇宙之外。〔傅毅。舞賦〕擄子意。以弘觀。

〔擄機〕ちゃ。おもひをのべる。〔唐太宗。秋日望海賦〕擄。擄。擄。摩外。奇眺。吞。〔唐中。擄書〕ちゃ。書物。意味をのべる。〔淮南子。脩務〕書明指示之。

〔擄辭〕ちゃ。はめことばをのべる。〔揚雄。河東賦。序〕以。擄。辭。

〔擄武〕ちゃ。武敵をのべる。〔陸機。高祖功臣頌〕振。威。龍。殺。擄。武。場。城。

〔擄武師〕ちゃ。呉の既吹曲の名。三國呉。韋昭作。〔漢の短簫鐃歌十八曲の一〕なる文如張に代へて作つたもの。〔古今樂錄〕擄武師者。因孫權辛文文案。而伝伎也。蓋。漢文如張。

【擄】 31933 サン 擄（6－13939）の俗字。〔字彙〕

【學】 31934 キョウ 〔廣韻〕居像切 國

姓。〔廣韻〕學。姓也。

【擄】 31935 ㊀セイ 〔集韻〕〔祖內切〕 ㊁イ 〔廣韻〕胡桂切

㊀さく。或は掣（6－12618）に作る。〔集韻〕擄。裂也。或省曰さく。〔廣韻〕擄。摠裂。

【擄】 31936 ㊀キイ 〔集韻〕天結切 ㊁ケイ ㊂ジャク 〔集韻〕薛韻切

【擄】 31937 ヘウ 擄（6－12355）の本字。〔六書故〕擄。擄本字。

【擄】 31938 クワン 擄（6－12813）の本字。〔正字通〕擄。本作擄。

【擄】 31939 セン 擄（6－12319）に同じ。〔集韻〕擄。或从韻。

【擄】 31940 サツ 擄（6－13038）に同じ。〔篇海〕擄。同。擄。

【擄】 31941 ケツ 擄（6－12906）に同じ。〔篇海〕擄。同。擄。

【擄】 31942 テキ 擄（6－12862）に同じ。〔篇海〕擄。同。擄。

【擄】 31943 サ 擄（6－12801）に同じ。〔篇海〕擄。同。擄。

【擄】 31944 デン ㄉㄧㄢˋ diàn 遠。追い出す。〔辭海〕擄。同。捻。撚。驅逐也。

〔擄逐〕ちゃ diàn zhú 追い出す。放逐する。

〔擄走〕ちゃ diàn zǒu 追放する。放逐する。

〔擄飛〕ちゃ diàn fēi 追い出す。放逐する。

〔擄出去〕ちゃ diàn chū qù 放逐する。〔紅樓夢。六回〕擄了出去。〔金瓶梅詞話。五十八回〕擄不開。ちゃ diàn bu kai 追い出すことが出來ない。

十六畫

【擄】 31945 キ 擄（6－12378）の俗字。〔康熙字典〕擄。正字通。擄。字之譌。

【擄】 31946 ケン コン 〔集韻〕許僅切 阮

❶なぞらへる。〔集韻〕擄。博雅。擬也。❷むすぶ。つめる。〔集韻〕擄。一曰。手約。物。❸かかげる。ひく。〔正字通〕擄。或曰。擄乃擄字之轉。❹よるひ動く。〔正字通〕擄。義擄。猶。事擧也。〔蜀志。許慈傳。時尋。楚雄。以相擄。〕❺或は掛（6－12450）に作る。〔集韻〕擄。或作。掛。

【擄】 31947 テウ ネウ 〔集韻〕乃了切 國 ㄋㄧㄠˇ niǎo つまむ。〔集韻〕擄。捻也。

【擄】 31948 ケン 〔集韻〕運宣切 國

うつ。擄（6－12978）に同じ。〔集韻〕擄。博雅。擊也。或作。擄。

手部（十六畫）攫擳擢擢擢

攄 12965
ロ（集韻 龍都切 魚）
ヨウ（集韻 倉故切 暮）
ヨウ（集韻 良何切 歌）

小篆 攄 攄 攄

㊀ひきとる。ひきもつ。（說文）
㊁（集韻）良何切 歌 ひく。
㊂（廣雅、釋詁一）攄、引也。●をさめる。（集韻）攄、一曰、斂也。●ほる。（方言、十三）攄、發也。㊃をさめる。（集韻）攄、收斂也。㊄えらぶ。攄（6－13022）に同じ。（集韻）攄、擇也、或作攄。

攣 12966
ロウ（集韻 連切 仙）
うつ。（集韻）擊、擊也。

攏 12967
ロウ（集韻 魯孔切 董）
カメム lung。
ロウ（集韻 盧東切 東）

㊀とる。もつ。（集韻）攏、持也。●かすめる。（集韻）攏、掠也。●おさへる。（日居易、琵琶行）輕攏慢撚抹復挑。●こくる。つかねる。（乾隆、正韻）攏、萬川巴渠（注）、菁日、攏、猶括束也。●酒量の數取り。（集韻）攏、一曰、拗攏籌也。（正韻）攏、俗言、拗攏、謂酒律。●舟を泊める。（通俗編、雜子、儲今講、泊、船曰攏（丁仙芝、江南曲）知船爲時意、且請攏（船頭、於岷山也、可攏、密而越也。●ちぢめる。（廣韻）攏、縮也。●襄（10－34513）に通ず。（說文通訓定聲）攏、經傳皆以襄爲之。●搴（6－12519）の俗字（正字通）攏、俗搴字。

攝 12968
ケン（集韻 巨俟切 禪）
ケン（集韻 巨月切 元）

小篆 攝 攝 攝

㊀（廣韻）巨俟切 禪 ●かける。（說文、攝、振衣也、从手、聶聲。（淮南子、人間訓）江之始出、

十七畫

攝 12969
ブ
攝（6－12543）に同じ。（正字通）攝、同、攝。

攩 12970
セン
攩（6－12652）の本字。（正字通）攩、攩本字。

攢 12971
シン
攢（6－12494）の本字。（正字通）攢、攢本字。

攩 12972
レイ
攩（6－12587）の誤字。（康熙字典、攩、攩、攩

作闡。

【攜】ケイ xié 提也。

【攜手】ケイ xiéshǒu 街路を手をへざる。（李白、襄陽歌）

【攜手】ケイ xiéshǒu 攜手同行。（李白、襄陽歌）

【攜儀】ケイ xiéyí 儀場の勅定書。

【攜貳】ケイ xiéèr 攜えて二心なくさせること。指月錄元曰、事部不無、擬議即差、光武問、如何、是事攜貳。

【攜離】ケイ xiélí 離れて遠くさせること。

【攜助】ケイ xiézhù 差比の浮敵する。「紅樓夢」二回「所詩を差る。指書を取下げる。

【攜杖】ケイ xiézhàng 杖を携へる。（王維、終南別業）

【攜手】ケイ xiéshǒu 手を携へて。（李白、襄陽歌）

【攜手同行】ケイ xiéshǒu tóngxíng 手を携へて共に行く。

【攜帯】ケイ xiédài 携帯する。

【攜貳】ケイ xiéèr 二心なくさせること。

【攜離】ケイ xiélí 離れて遠くさせること。

【攜持】ケイ xiéchí 携帯する。

【攜帯】ケイ xiédài 携帯する。

【攜帯品】ケイ xiédàipǐn 携帯品。

【攜帯用】ケイ xiédàiyòng 携帯用。

【攜帯電話】ケイ xiédài diànhuà 携帯電話。

【攜帯品目録】ケイ xiédàipǐn mùlù 携帯品目録。

【攜帯用品】ケイ xiédàiyòngpǐn 携帯用品。

【攜帯用電話】ケイ xiédài yòng diànhuà 携帯用電話。

【攜帯用品目録】ケイ xiédàiyòngpǐn mùlù 携帯用品目録。

【攜帯用電話目録】ケイ xiédài yòng diànhuà mùlù 携帯用電話目録。

【攜帯用品目録電話】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà 携帯用品目録電話。

【攜帯用品目録電話目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù 携帯用品目録電話目録。

【攜帯用品目録電話目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攜帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録】ケイ xiédài yòngpǐn mùlù diànhuà mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù mùlù 携帯用品目録電話目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録目録。

【攝】ショウ（集韻）諸葉切 成

一ショウ（集韻）諸葉切 攝

【攝】ショウ 一□（集韻）諸葉切 攝

【攝】ショウ 一□（集韻）諸葉切 攝

【攝】ショウ 一□

攫

12986 エイ（集韻）伊籌切 支 ヤウ yǐ

❶せまる。ふれる。（正字通）攫、觸也、迫近也。（注）攫、迫也。（集注）攫、觸也。❷むすぶ。（玉篇）攫、結也。（字林）大宗師、其名攫。（釋文）攫、在云有所繫著也。（荘子、在宥）女無攫、攫、在云有所繫著也。（荘子、在宥）（郭象）攫、執也。（崔譔）攫、繫也。❸からめる。（正字通）攫、繫也。（崔譔子、繕性）訓勿、捕勿攫。（注）攫、捉也。❹もとる。（呂覽、本生）天子之所生而攫之。（呂覽、本生）攫、取也。❺みだす。（廣雅、釋詁三）攫、亂也。❻ひく。（荘子、在宥）故攫勿攫、（注）攫、牽也。（呂覽、本生）攫、捉也。❼ひねる。（集韻）攫、捉也。❽みだす。（廣雅、釋詁三）攫、亂也。❾ひく。（荘子、在宥）故攫勿攫、（注）攫、牽也。（呂覽、本生）攫、捉也。❿つらぬく。（荘子、天道）不以人物利害、相攫（釋文）攫、崔云、猶貫也。⓫しばる。（荘子、天道）不與之敵攫。（注）攫、結也。⓬通じて獲。（3 6926）に作る。（正字通）攫、通作獲。

【攫拿】……道はいまだ人に接觸して乱されても、常に安別衆を超越して安定してゐるものは、（荘子、大宗師）客見之而後能外天下。已外天下矣、吾又守之。已日不生矣、而後能朝徹。朝徹而後能見獨。見獨而後能無古今。無古今而後能入於不死不生。殺生者不生、生者不殺。其爲物無不將也、無不迎也。無不送也。無不成也。其名曰攫寧。攫寧者、攫而後成者也。（疏）攫寧、物象分別、而新而常、攫寧者、攫而後成者也。（疏）攫寧、攫動也。動而常新、攫而後成者也。（集解）郭象云、攫、迫也。物我相迫、攫寧者、攫而後成者也。

攫

12987 ビ（集韻）莫也切 支

ひし。麥。（集韻）攫、水中麥也。

攫

12988 サ 攫（6 11804）の俗字（正字通）

攘

12989 ジョウ ニャウ 日尤 jǎng

㊀ジョウ ニャウ（集韻）如陽切 攘

㊁ジョウ ニャウ（集韻）知遥切 攘

㊂ジョウ ニャウ（集韻）如來切 攘

㊃ダウ ニャウ（集韻）尼厚切 攘

㊄ジョウ ニャウ（集韻）式支切 攘

（集韻）少 ❶おす。手を前に推し、人に強迫の態度をかすもの。（孟子、滕10 36139）（注）1297に同じ。説文通訓定聲、推也。从手、襄聲。段注、推も手部に、推推也。推、推也。从手、襄聲。段注、推也。推推也。（集韻）家祭之日、起就尊主、推迫也。物我相迫、攘寧者、攘而後成者也。（疏）攘寧、物象分別、而新而常、攘寧者、攘而後成者也。（集解）郭象云、攘、迫也。物我相迫、攘寧者、攘而後成者也。

攘字如、此作、上曲禮注曰、攘、古讓字、詩云、讓若、相貫讓也、攘若、猶也、以古也、義書禮樂志、盛揖攘之盛、攘之、急之意、攘、云、管用、古字、凡退讓用、此字、引申之、使、人退讓、亦用、此字、如、攘、攘、攘

（12989・1）～（12991）
手部（十七畫）攘 攘 攘

義。鐵刺手引說文攫字。所一論文作。攫。非體。知。攫雷。晚出。或從。[illegible]。張衡。西京賦。又。[illegible]。❶すると。廣雅。樺。說四。攫。鏡也。❷たすける。(宋史。樺。伝也。(宋史。蟬。解鐵。詩。(鄭。注。)神怪。惡魔。❸まぼる。祀。公子。(論語。(鄭。注。)。(鄭。注。)。(鄭。注。)

【擾指】ﾞﾞﾞ　まぜる。俗に機械雑鈔の語を擾指といふ。垃場 [illegible]。

【擾上】ﾞﾞ tiaosang, shangsh.　まぜた。「長生殿」

【擾擾】ﾞﾞ tiaotiao, tiaotiao.　騒ぐ様子。「長生殿」

【擾動】ﾞﾞ tiaodong, tiaodong.　騒つて擾させる。「上辛」。「西廂記」張君瑞害相思劇　擾動得

【擾擾】ﾞﾞ　動ます。「正字通」擾、俗謂誘人鈔。『器日』擾提ニ朱貴、各擾同ク青拳　注元元「百鬼相擾」

【擾亂】ﾞﾞ　擾也。「杜詩」春雨貴無益、注元元「百鬼相擾」

【擾趕子活】ﾞﾞ　「西廂記」張君瑞害相思劇　擾趕子活。

【擾】ﾞﾞ　いそがせ仕事をするといいかげんにする。

攫 13005

日ショウ　（集韻）写勇切　（集韻）聲講切　（集韻）

【攫】ﾞﾞ　①とる。（集韻）搜、執也。②おす。（集韻）搜、擠也。③ひく、ぬき出す。（韻部韻略）搜、提也。④そばだてる。（杜甫、黃鶴詩）搜身思狡兔。（注）搜、猶、竦也。或は搜（6－125233）に作る。（集韻）搜、或省。

【攫】ﾞﾞ　とること。「杜牧、李君墓誌」詩「奉帝氏為元任分明搜搜林樾。

攫 13006

ハク　（集韻）西王切

【攫】ﾞﾞ　搜（6－12930）の本字。（玉篇）攫本字。

攜 13008

ケイ　（集韻）玄圭切　（廣韻）

小　①つかむ。（説文）攫、爪持也。（廣韻）攫、爪持也。（説文）攫、提也、从手雖聲。（大書故）攫、懸持也。（詩、大雅、板）如取如攜、如物在地上、手事、攜之。②ひきつれる。（公羊、襄、二十七）攜其妻子。（注）攜、猶提也。（淮南子、覽冥訓）相攜於道。（注）攜、引也。③つらなる。（孟子、離婁、天文志）約攜龍角。（注）孟康曰、攜、連也。④はなれる　はなす、乖離する義。攜（4－11430）に通ず。（説文通訓定聲）攜、假借為攜。（集韻）攜、曰、離也。（左元、僖、二十八）攜以疑。（注）攜、離也。（左元、僖、二十八）不如私許以攜（書伝）以攜之。（注）攜、離也。（逸周書、武順解）均伯勤勞而無攜。（注）攜、離也。（逸周書、謚法解）怠政外交曰攜。（注）攜、猶、離也。（逸周書、謚法解）怠政外交曰攜。（注）攜、猶、離也。（逸周書、謚法解）攜、見姓名。

【攜幼】ﾞﾞ　幼児の手を引く。（史記、周紀）扶老攜幼。（陶潛、桃花源記）幼入室、有酒肴。

攜 13009

ヨウ　（集韻）以周切

【攜】ﾞﾞ　搜（6－12930）の古字。（玉篇）攜、古文搜。

攝 13010

曰セフ（集韻）矢虎切 ㊀ セフ セツ
㊁ チフ（集韻）諸叶切 ㊂ チフ（集韻）諸叶切 ㊃ サフ（集韻）色葉切 ㊄ セツ

攝

①ひく。ひきもつ。ひっぱる。（論語）攝 引持也、从手聶聲。（漢書、陳餘傳）耳攝之使受之。（注）師古曰、攝、謂引持之。**②ひきよせる。**（顧況、大雲寺碑）磁石攝、誠不攝、鴻毛。**③とる。**とらえる。（國語、晉語）少司馬茲（注）攝、執也。**④とりこむ。**入れる。（神異經、東荒經）其食夜唾攝人、魂。**⑤ひろく。**（後漢、上官儀）執皮攝之。（注）攝、猶廣也。**⑥もつ。**（禮記、士喪禮）執皮攝之。（注）攝、猶持也。（司馬相如、喻巴蜀檄）攝轡而馳（注）善曰、攝、謂張弓注矢而持之。**⑦とりもつ。**固く維持する。（國語、楚語上）後而不攝（注）攝、固也。（後漢書、朱穆傳）延愛王綱之不攝。（注）攝、持也。**⑧かかげる。**（論語、鄉黨）（神異經）東荒經）其食夜唾攝人、魂。**⑨ささめる。**（莊子、胠篋）則必攝 諸縢、（釋文）攝、崔云、收也。（史記、鄒生傳）起攝衣之のべる。（後漢、七情論）過、（注）攝、猶のべる。（後漢、七情論）過、（注）攝、猶のべる。（詩、大雅、既醉）既醉以酒、既飽以德、（注）攝、猶飲也。**⑩ただす。**（後漢、友敬論）攝以敬儀（注）攝、佐也。**⑪ただす。**（後漢、錢鄉傳）攝獲婦、（注）攝、猶正也。**⑫やしなう。**（老子、五十一）攝 關、善攝生者。（河上公注）攝、養也。**⑬とりしまる。**（史志、孫皓傳）三千石以下、皆自入、山陰攝伐木。**⑭**（宋史、胡安傳）事制萬事、統攝 諸侯光。**⑮**（宋史、禮志）列鋒等。（字彙）攝、錄也。（宋史、禮志）列鋒等。**⑯むすぶ。**（荘子、胠篋）則必攝 緘縢。（釋文）攝、李云、結也。**⑰すすむ。**（盛鄙、冊）魏公九錫文）若則攝遠、（注）向朝、進也。**⑱**（論語、代口一386）二道不一。（說文通訓定聲）攝、假借爲、代、代、承、雙聲。**⑲**（周禮、春官、大宗伯）若王不與祭祀則攝位、（注）代、行其祭事。（禮記、明堂位）昔者周公朝諸侯于明堂、位、（注）周公攝王位、以明堂之禮儀、朝諸侯。**⑳**（左氏、襄、十四）攝政、（注）攝、代也。（左氏、襄、十四）攝政、（注）攝、代也。**㉑**攝政をいう。（晉、金縢、武王既喪、傳）武王既沒、周公攝政。（後漢、張衡傳）周公攝政、（文選、西京賦）攝政、（文選、東都賦）攝、七月、（集韻）周公旦攝政、（文選、東都賦）攝、（漢書、食貨志上）王莽居攝、（文選、西京賦）攝、（文選、東都賦）攝政。**㉒かねる。**假に他を兼ねる。（說文通訓定聲）攝、假借爲、攝、（論語、八佾）官事不攝。（集解）包氏曰、攝、猶兼也。**㉓はかる。**（論語、先進）攝乎大國之間。（論語、述而）攝、猶謀也。**㉔かける。**（皇侃、攝、迫也。）**かりる。**貸、口一13（5556）に通ず。（說文通訓定聲）攝、假借爲、貸。（集韻、平、）曰、假也。（禮、檀弓上）再子攝、呂無馬、而將之。（注）攝、猶、貸也。**㉕おそれる。おびやかす。**おどす。おそれ。（文選、西都賦）攝、（說文通訓定聲）攝、假借爲、懾。（左氏、襄、十一）武震而攝。（會箋）攝、讀爲、懾、懼也。謂武震以興、懼人也。**㉖**（呂覽、下賢）事馬、而攝之。**㉗くじける。**（呂覽、下賢）事馬、而攝之。（注）攝、猶、困也。**㉘うれへる。**（荀子、禮論）不至於陸攝傷生（注）攝、猶、憂也。**㉙ふちどる。**（師（13－441）口）攝、（說文通訓定聲）攝、假借爲、飾、攝、師、雙聲、（儀禮、既夕禮）白狗攝服、（注）攝、猶、緣也。**㉚まがる。**（集韻、進也、曲折也。**㉛**（論語、10）色足、攝、（集韻、進、一曰、龜名。**㉜姓。**（左氏、宣、十二）攝叔爲、右。**㉝**（說文通訓定聲）攝、假借爲、賴。（集韻）攝、持也。**㉞やすらかな。**（論語、10）色足、攝、（集韻、一曰、龜名。**㉟**（說文通訓定聲）攝、假借爲、賴。（集韻、一曰、攝然、安也。（漢書、嚴助傳）天下攝然、人安其生。（左氏、宣、十二）攝叔爲、右。**㊱**（說文通訓定聲）攝、假借爲、賴。（集韻、一曰、攝然、安也。（晉、嵇康、琴賦）攝、安也。（晉、嵇康、琴賦）攝、小龜名、腹甲曲折、能自攝閉者、郭璞說、圓稽の羽飾、又、扇形の飾物、要（注）攝、形如今要扇、所以分別尊卑。（集韻、要、說文、稽羽飾也、或作、攝。（國語、楚語下）屏攝之位。（注）攝、形如今要扇、所以分別尊卑。**㊲**（集韻）攝、持也。**㊳**（說文通訓定聲）攝、假借爲、祭、祀之位。

攝政　カネ、カネ。

攝政　①●衣服のみだれをととのへる。（史記、高祖紀）沛公起、衣冠整之。●衣をかかげる。（後漢、袁紹傳）袁紹、衣冠之、廣、（注）攝、猶、衣也

【攝官】ﾖｳｶﾝ 役をかりにかねわけ。*左氏、成二〕攝官事。

【攝閣】ｾｯｶｸ 攝政と閣白。年中行事歌合・判〕帝・奢・攝・閣白。年中行事歌合・判〕

【攝家】ｾｯｹ 攝政と閣白。摂政・関白。摂関家。摂関家。摂家。摂関家。摂家。摂関家。摂

〔攝警〕ﾖｳｹｲ ふるひおそれる。恐れて志気を失う。〔漢書 韋玄傳〕攝警者弗取。〔注〕〔漢書 韋玄傳〕謂「振動」也。志気。

〔攝心〕ｼｮｳｼﾝ 心を集め、精神を集中する。〔漢書 董仲舒傳〕攝心於道。〔注〕師古曰、攝猶「斂」也。動也。志気。

〔攝生〕ｾｲｾｲ 養生。〔荀子 天論〕君子以治待亂、以動待靜、則天地不足與憂、萬物不足與謀、勢不足以傾、福不足以動、禍不足以恐、故曰、其行曲而不失、其名白而不辱、其心平而不傷、是之謂至人。〔注〕楊倞曰、攝、謂「養」也。〔荀子 天論〕「太陰」を「養」と誤る。

〔攝鐵〕ｼｮｳﾃﾂ 踏み引きつける。〔顧況 廣陵口占〕攝鐵石而拖〔注〕〔漢書 郊祀志〕攝鐵石而拖。

〔攝蠅〕ｼｮｳﾖｳ 蠅を捕ること。〔唐書 李勣傳〕攝蠅者見之。

〔攝蟲〕ｼｮｳﾁｭｳ 蟲。〔唐書 李勣傳〕攝蟲。

〔攝蟲〕ｼｮｳﾁｭｳ 蟲。〔唐書 李勣傳〕攝蟲。

〔攝〕ｾｯ 下役の者が上役に代つて印を捺す。〔漢書 韋玄傳〕攝印。〔注〕師古曰、攝、謂「代」也。

〔攝〕ｾｯ 代つて行なう。〔漢書 韋玄傳〕攝行。〔顧況 廣陵口占〕攝行。

〔攝〕ｾｯ 代つて行なう。〔漢書 韋玄傳

擺 13022

ヒ（集韻）部可切 カメビ huo.

㊀●えらぶ。（集韻）擺。擺也。

㊁●さく。（集韻）擺殺也。

㊂えらぶ。或は擺。（G－12965）に作る。（集韻）擺。挑也。或作。擺。

（擺難）……大道ムせ。ほしみせ。露店。（結客篇之陳輪寄梁雅詩。布。酒子地。擺。詩小度於其上。（注）俗謂之擺攤。

擢 13023

ヒ ケン（集韻）匣銑切 ㄏㄩㄢˋ chuan.

㊀ひろふ。擢（G－12949）に同じ。（集韻）擢。拾也。亦作。擢。

㊁とる。（集韻）擢。博雅。取也。

（參考）執誼は擢（G－12125）を見よ。

擠 13024

ヒ（集韻）子皮切 支

ヒ（集韻）莫臥切 圖

ヒ（集韻）冒皮切 歌

㊀●●の鐘をあつる意。（集韻）擠。謂之撞。（注）所。撃之處。擠。弊也。孫敉刮切。義相近。

㊁●やぶれる。（周禮）考工記。鬼氏。于上之擠。（注）擠。弊也。

㊂とぐ。摩（G－12813）に同じ。（集韻）摩。說文。研也。或作。擠。

擦 13025

キ 擦（G－12869）の本字。（正字通）擦。擦本字。

擁 13026

リ（集韻）都如切 支

ヒ（集韻）福如切 支

㊀はる。（集韻）擁。張也。（太玄經。玄擁）說文。幽。擁鬱類。而不見。彤者也。

㊁のべ。（集韻）擁。說文。擁。博雅。取也。

（參考）……（G－12587）に同じ。（集韻）擁。說文。紆也。揚子雲作。擁。

撥 13027

セフ（玉篇）七葉切 匴

さじ。めしべら。（玉篇）撥。飯杓也。

擄 13028

ラ（廣韻）魯刮切 圖

うつ。（廣韻）擄。擊。物之名。

擣 13029

ラク 擣（G－12919）の譌字。（正字通）擣。擣字之譌。

擦 13030

ロサン（集韻）子末切 早 ts'uo.

㊁サン（集韻）沮末切 醝

擦擦。重疊皮。

擦號。……所によせる。（南史全貴妃紀）

擦盒。……幾ばくか瓜子

乾葡萄。……を盛る器。

拆酌。……酒。

擦柯。……。衆生した枝。（左思。吳都賦）擦柯

擦鞭。……。一所によせる。（南史全貴妃紀）

擦宮。……。矢子のなかばを一時安置する所。擦宮。擦所。あらき。（宋史。南宗紀七）以之

擁 13030

ヨウ（集韻）於容切 腫

ヨウ（集韻）於用切 腫

ヨウ（集韻）羽鍾切 鍾

ヨウ（集韻）羽用切 鍾

【攜心】ケイ 名 心にあつまる。「先哲典籍抄」源君美

【攜垂】ケイ スイ あつまり垂る。「日本外史」徳川氏前記：曹操既已攜垂。

【攜萃】ケイ スイ あつまる。「赫蹄文二月三日曲水詩序」樹騮之所、注運、海水之所、攜萃。

【攜生】ケイ セイ あつまりはえる。「韓愈、和侯協律咏笋詩」散布愈無、攜生猶有魂。

【攜鋭】ケイ ケイ 金を約する。「諸書」

【攜】ケイ 擲る。投げる。「頭註六、應・詩觀・北湖」攜・投・擲・投・擲・投・擲

攤 13033

日タン (集韻)他干切 寒
日ダン (集韻)乃旦切 翰
日ダン (集韻)乃袒切 旱
國ナン

①ひらく。(6・12907・**攤**6)

(説文小篆 ※ 1・13034)に同じ。(説文新附)攤、開也。从手難聲。(段玉裁注)攤、(説文新附)攤、詩・王政雖・書滿・林、始見。於此、是讀後俗語。(集韻)攤、手布也。或从雞・亦書作。**攤**。

●ゆるやか。(集韻)攤、緩也。**●わりあて。**(集韻)攤、派也。**●しく。ひろげる。**

攤派[名] タンパ 分配する。わりつける。(六部成語、戶部)攤派、注解、攤勻均分之意。漢・董揖若干、節、戴侯(戴)若干、分類、部、十攤派。(顧野王玉篇)攤、布也。(集韻)攤、布也。(集韻)攤、布也。(集韻

擂 13040

[集韻]底朗切 [廣韻]力文切 [ladv]

㊀クワウ (集韻)戶郎切 [ɣuɑŋ]
(廣韻)戶郎切 [ɣuɑŋ]
㊁クワウ (集韻)胡光切 [ɣuɑŋ]
㊂ロウ (集韻)力朗切 [lɑŋ]
(集韻)力朗切 [lɑŋ]

[廣韻] 小 ㊀ともむれ 蕭(18-4812)。[集韻] 上聲(1-1323)に同じ。(說文)擂、明粹也。从手蕭聲。(段玉)此鄉飲酒禮、鄉射禮、大射禮、皆以

爪持也、或作攫。

〔擷拔〕ㄒㄧㄝˊ ㄅㄚˊ ……。〔進朝子、陰陽訓〕

〔擷拔攫〕ㄒㄧㄝˊ ㄅㄚˊ ㄐㄩㄝˊ ……。

〔擷各〕ㄒㄧㄝˊ ㄍㄜˋ ……。

〔擷擷〕ㄒㄧㄝˊ ㄒㄧㄝˊ ……。〔說郛〕……。

〔擷擷〕ㄒㄧㄝˊ ㄒㄧㄝˊ ……。全をつかみかすめる。〔列子、說符〕〔擷擷〕其全而去。

〔擷擷〕ㄒㄧㄝˊ ㄒㄧㄝˊ ……。〔新序、雜事四〕〔攫擷之物〕……。

〔擷〕ㄒㄧㄝˊ ……。かんざしをつかむ。〔木蘭、李夜〕

〔擷〕ㄒㄧㄝˊ ……。つかんでとる。〔擷〕……。

〔擷〕ㄒㄧㄝˊ ……。〔擷〕……。〔擷〕……。

〔擷〕ㄒㄧㄝˊ

傳)今遭a陛下神聖之德、攫拔高賢。

【攫頭】jué tóu ❶船主・船主の下にあって船舶貨物の用務を司る人。❷請負人の民。

【攫納】jué nà 敷百の祖稅を請負して代納すること。包攫代納の略。(明律・戶律、倉庫、攫納稅糧)

【攫買】jué mǎi 商品を買ひのる。

【攫物】jué wù たづなを取る。攫物澄清を見よ。

【攫物錄】jué wù lù 書名。一冊。宋・沈括大攫、其の紀行文を載したもの。(宋史銀史、第二冊)。

【攫日川舉海】第二十六冊)(倚乘、第百八十冊)。

【攫日澄清】jué rì chéng qīng 天下の政を澄にする。は、亂れた政治を刷新する志を懷くこと。攫物は、亂れた政治を刷新する意味する。攫物澄清を見よ。

【攫拔】jué bá 人有り獄鬼傳者、射獵を能く、衡・日・騎先生獄之、以換、集賢、物觀、集賢、物觀、集賢、物觀、(注)獄鬼傳、(梁史、教授、教授、(注)獄鬼傳、(梁史、教授、教授、(注)獄鬼傳、(梁史、教授、教授

る。はなれる。（集韻）支離老者。（釋文）司馬云、支子、人間世）支離疏者。（釋文）司馬云、支離、形體支離不全兒。❹えだ。わかれ。枝（α—15572）に通ず。（說文通訓定聲）支用借爲枝。❺草木のえだ。（時令）衝風、元鳥、雉雊、雨水之支。（說苑、脩文）元鳥之枝。❻支離。（說苑、脩文）元鳥之枝。正・中小支。（注）小支、謂胡也、卽今之戟傍曲支。（大戴禮、保傅）燕文侯曰、吾聞之、嫁子、必擇良夫、嫁女、必擇良婦。宗室に對して庶出の昆弟、嗣子に對して衆兄弟の稱。（禮會）（說文通訓定聲）支、庶也。（儀禮、士昏禮記）支子則稱其宗（注）支子、庶昆弟也。（禮、曲禮上）支子不敢稱孤。（疏）支子、庶子也。❼支出。（注）支、庶也。（儀禮、士昏禮記）支子則稱其宗（注）支子、庶昆弟也。（禮、曲禮上）支子不敢稱孤。（疏）支子、庶子也。❽支出。（注）支、庶也。（儀禮、士昏禮記）支子則稱其宗（注）支子、庶昆弟也。（禮、曲禮上）支子不敢稱孤。（疏）支子、庶子也。❾さきべる。横（α—15273）に通ず。（說文通訓定聲）支、叚借爲楮。❿つづけて支持する。（玉篇）支、持也。（廣韻）支、支持也。（國語、周語下）天之所支、不ヶ可壞也。（注）支、拄也。（文選、東京賦）金之性沈、託之於舟上、則浮、勢有所支也。（後漢書、蘇竟傳）天之所壞、人不ヶ得ヶ支。（注）支、持也。⓫ふせぎとめる。（戰國、西周策）魏不能支。（注）支、猶拒也。（史記、蘇秦列傳）滿腹珊瑚支。⓬のせる。（爾雅、釋言）支、載也。（玉篇）支、載充也。⓭たへる。（國語、越語下）皆知之、其貴財不足以支。（注）支、猶堪也。（孫子、地形）我出而不利、彼出而不利、曰支。⓮はかる。計算する。（廣韻）支、支度也。（大戴禮、保傅）燕文侯曰、吾聞之、嫁子、必擇良夫、嫁女、必擇良婦。（注）支、猶計也。（後漢書、賈逵傳）主官屬、魂以就、煩難、著、亦何支。⓯はらん。のびる。（周禮、食貨志下）一曰、收支、（注）支、民獄。⓰てあて。（周禮、食貨志下）一曰、收支、（注）支、民獄。⓱給與する。給與、元・冬至、有特支、（注）支、民忘八遷共、每歲支給、（漢書、郊祀志）支給、（注）支、北方星の柄の指す所を占定し十干と組合はせて年・月・日・時の名を定めること。子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二辰の稱。（易經、秋官、鄉士、注）日用殺、注、和の合文。（禮、曲禮上）支、甲乙丙丁之等是。（後漢書、王符傳）明帝時、以反支日、不受章奏、（注）凡反支日、用月建辰巳午未申酉戌亥之日反支、中西朔、二日反支、云云。⓲擬の誤解。（史記、扁鵲傳）夫以陽入陰、支蘭藏、病在骨髓、（注）義曰、支、猶節、蘭、猶藏、病在骨髓、（注）義曰、支、猶節、蘭、猶藏、病在骨髓、（注）今時人、謂祈禱符契爲支分文。（文選、東京賦）支、持也。（注）師古曰、謂京師爲幹、四方爲支。⓳支節。（注）師古曰、謂京師爲幹、四方爲支。⓴支足。（史記、扁鵲傳）易坤、美在其中、而暢於四支（注）支、猶人手足。㉑木の名。（俗に梔）（α—15273）に通ず。（正字通）支、黃子、木名。（名錄支、實可染黃、梔、俗作。）古は梔（α—13063）に作る。（集韻）支、古作、梔。百六韻の一上平第四。㉒姓。（通志、氏族略）以國爲氏、（孫子、地形）我出而不利、彼出而不利、曰支、支氏、石趙司空支雄傳云、其先、月支人也。

❶攴（α—15272）追ひ出す。㊀（玉篇）㊁（廣韻）㊂（集韻）㊃（玉篇）㊄（廣韻）㊅（玉篇）㊆（廣韻）㊇（玉篇）㊈（廣韻）㊉（玉篇）㊊（廣韻）㊋（玉篇）㊌（廣韻）㊍（玉篇）㊎（廣韻）㊏（玉篇）㊐（廣韻）㊑（玉篇）㊒（廣韻）㊓（玉篇）㊔（廣韻）㊕（玉篇）㊖（廣韻）㊗（玉篇）㊘（廣韻）㊙（玉篇）㊚（廣韻）㊛（玉篇）㊜（廣韻）㊝（玉篇）㊞（廣韻）㊟（玉篇）㊠（廣韻）㊡（玉篇）㊢（廣韻）㊣（玉篇）㊤（廣韻）㊥（玉篇）㊦（廣韻）㊧（玉篇）㊨（廣韻）㊩（玉篇）㊪（廣韻）㊫（玉篇）㊬（廣韻）㊭（玉篇）㊮（廣韻）㊯（玉篇）㊰（廣韻）㊱（玉篇）㊲（廣韻）㊳（玉篇）㊴（廣韻）㊵（玉篇）㊶（廣韻）㊷（玉篇）㊸（廣韻）㊹（玉篇）㊺（廣韻）㊻（玉篇）㊼（廣韻）㊽（玉篇）㊾（廣韻）㊿（玉篇）（1）（廣韻）（2）（玉篇）（3）（廣韻）（4）（玉篇）（5）（廣韻）（6）（玉篇）（7）（廣韻）（8）（玉篇）（9）（廣韻）（10）（玉篇）（11）（廣韻）（12）（玉篇）（13）（廣韻）（14）（玉篇）（15）（廣韻）（16）（玉篇）（17）（廣韻）（18）（玉篇）（19）（廣韻）（20）（玉篇）（21）（廣韻）（22）（玉篇）（23）（廣韻）（24）（玉篇）（25）（廣韻）（26）（玉篇）（27）（廣韻）（28）（玉篇）（29）（廣韻）（30）（玉篇）（31）（廣韻）（32）（玉篇）（33）（廣韻）（34）（玉篇）（35）（廣韻）（36）（玉篇）（37）（廣韻）（38）（玉篇）（39）（廣韻）（40）（玉篇）（41）（廣韻）（42）（玉篇）（43）（廣韻）（44）（玉篇）（45）（廣韻）（46）（玉篇）（47）（廣韻）（48）（玉篇）（49）（廣韻）（50）（玉篇）（51）（廣韻）（52）（玉篇）（53）（廣韻）（54）（玉篇）（55）（廣韻）（56）（玉篇）（57）（廣韻）（58）（玉篇）（59）（廣韻）（60）（玉篇）（61）（廣韻）（62）（玉篇）（63）（廣韻）（64）（玉篇）（65）（廣韻）（66）（玉篇）（67）（廣韻）（68）（玉篇）（69）（廣韻）（70）（玉篇）（71）（廣韻）（72）（玉篇）（73）（廣韻）（74）（玉篇）（75）（廣韻）（76）（玉篇）（77）（廣韻）（78）（玉篇）（79）（廣韻）（80）（玉篇）（81）（廣韻）（82）（玉篇）（83）（廣韻）（84）（玉篇）（85）（廣韻）（86）（玉篇）（87）（廣韻）（88）（玉篇）（89）（廣韻）（90）（玉篇）（91）（廣韻）（92）（玉篇）（93）（廣韻）（94）（玉篇）（95）（廣韻）（96）（玉篇）（97）（廣韻）（98）（玉篇）（99）（廣韻）（100）（玉篇）（101）（廣韻）（102）（玉篇）（103）（廣韻）（104）（玉篇）（105）（廣韻）（106）（玉篇）（107）（廣韻）（108）（玉篇）（109）（廣韻）（110）（玉篇）（111）（廣韻）（112）（玉篇）（113）（廣韻）（114）（玉篇）（115）（廣韻）（116）（玉篇）（117）（廣韻）（118）（玉篇）（119）（廣韻）（120）（玉篇）（121）（廣韻）（122）（玉篇）（123）（廣韻）（124）（玉篇）（125）（廣韻）（126）（玉篇）（127）（廣韻）（128）（玉篇）（129）（廣韻）（130）（玉篇）（131）（廣韻）（132）（玉篇）（133）（廣韻）（134）（玉篇）（135）（廣韻）（136）（玉篇）（137）（廣韻）（138）（玉篇）（139）（廣韻）（140）（玉篇）（141）（廣韻）（142）（玉篇）（143）（廣韻）（144）（玉篇）（145）（廣韻）（146）（玉篇）（147）（廣韻）（148）（玉篇）（149）（廣韻）（150）（玉篇）（151）（廣韻）（152）（玉篇）（153）（廣韻）（154）（玉篇）（155）（廣韻）（156）（玉篇）（157）（廣韻）（158）（玉篇）（159）（廣韻）（160）（玉篇）（161）（廣韻）（162）（玉篇）（163）（廣韻）（164）（玉篇）（165）（廣韻）（166）（玉篇）（167）（廣韻）（168）（玉篇）（169）（廣韻）（170）（玉篇）（171）（廣韻）（172）（玉篇）（173）（廣韻）（174）（玉篇）（175）（廣韻）（176）（玉篇）（177）（廣韻）（178）（玉篇）（179）（廣韻）（180）（玉篇）（181）（廣韻）（182）（玉篇）（183）（廣韻）（184）（玉篇）（185）（廣韻）（186）（玉篇）（187）（廣韻）（188）（玉篇）（189）（廣韻）（190）（玉篇）（191）（廣韻）（192）（玉篇）（193）（廣韻）（194）（玉篇）（195）（廣韻）（196）（玉篇）（197）（廣韻）（198）（玉篇）（199）（廣韻）（200）（玉篇）（201）（廣韻）（202）（玉篇）（203）（廣韻）（204）（玉篇）（205）（廣韻）（206）（玉篇）（207）（廣韻）（208）（玉篇）（209）（廣韻）（210）（玉篇）（211）（廣韻）（212）（玉篇）（213）（廣韻）（214）（玉篇）（215）（廣韻）（216）（玉篇）（217）（廣韻）（218）（玉篇）（219）（廣韻）（220）（玉篇）（221）（廣韻）（222）（玉篇）（223）（廣韻）（224）（玉篇）（225）（廣韻）（226）（玉篇）（227）（廣韻）（228）（玉篇）（229）（廣韻）（230）（玉篇）（231）（廣韻）（232）（玉篇）（233）（廣韻）（234）（玉篇）（235）（廣韻）（236）（玉篇）（237）（廣韻）（238）（玉篇）（239）（廣韻）（240）（玉篇）（241）（廣韻）（242）（玉篇）（243）（廣韻）（244）（玉篇）（245）（廣韻）（246）（玉篇）（247）（廣韻）（248）（玉篇）（249）（廣韻）（250）（玉篇）（251）（廣韻）（252）（玉篇）（253）（廣韻）（254）（玉篇）（255）（廣韻）（256）（玉篇）（257）（廣韻）（258）（玉篇）（259）（廣韻）（260）（玉篇）（261）（廣韻）（262）（玉篇）（263）（廣韻）（264）（玉篇）（265）（廣韻）（266）（玉篇）（267）（廣韻）（268）（玉篇）（269）（廣韻）（270）（玉篇）（271）（廣韻）（272）（玉篇）（273）（廣韻）（274）（玉篇）（275）（廣韻）（276）（玉篇）（277）（廣韻）（278）（玉篇）（279）（廣韻）（280）（玉篇）（281）（廣韻）（282）（玉篇）（283）（廣韻）（284）（玉篇）（285）（廣韻）（286）（玉篇）（287）（廣韻）（288）（玉篇）（289）（廣韻）（290）（玉篇）（291）（廣韻）（292）（玉篇）（293）（廣韻）（294）（玉篇）（295）（廣韻）（296）（玉篇）（297）（廣韻）（298）（玉篇）（299）（廣韻）（300）（玉篇）（301）（廣韻）（302）（玉篇）（303）（廣韻）（304）（玉篇）（305）（廣韻）（306）（玉篇）（307）（廣韻）（308）（玉篇）（309）（廣韻）（310）（玉篇）（311）（廣韻）（312）（玉篇）（313）（廣韻）（314）（玉篇）（315）（廣韻）（316）（玉篇）（317）（廣韻）（318）（玉篇）（319）（廣韻）（320）（玉篇）（321）（廣韻）（322）（玉篇）（323）（廣韻）（324）（玉篇）（325）（廣韻）（326）（玉篇）（327）（廣韻）（328）（玉篇）（329）（廣韻）（330）（玉篇）（331）（廣韻）（332）（玉篇）（333）（廣韻）（334）（玉篇）（335）（廣韻）（336）（玉篇）（337）（廣韻）（338）（玉篇）（339）（廣韻）（340）（玉篇）（341）（廣韻）（342）（玉篇）（343）（廣韻）（344）（玉篇）（345）（廣韻）（346）（玉篇）（347）（廣韻）（348）（玉篇）（349）（廣韻）（350）（玉篇）（351）（廣韻）（352）（玉篇）（353）（廣韻）（354）（玉篇）（355）（廣韻）（356）（玉篇）（357）（廣韻）（358）（玉篇）（359）（廣韻）（360）（玉篇）（361）（廣韻）（362）（玉篇）（363）（廣韻）（364）（玉篇）（365）（廣韻）（366）（玉篇）（367）（廣韻）（368）（玉篇）（369）（廣韻）（370）（玉篇）（371）（廣韻）（372）（玉篇）（373）（廣韻）（374）（玉篇）（375）（廣韻）（376）（玉篇）（377）（廣韻）（378）（玉篇）（379）（廣韻）（380）（玉篇）（381）（廣韻）（382）（玉篇）（383）（廣韻）（384）（玉篇）（385）（廣韻）（386）（玉篇）（387）（廣韻）（388）（玉篇）（389）（廣韻）（390）（玉篇）（391）（廣韻）（392）（玉篇）（393）（廣韻）（394）（玉篇）（395）（廣韻）（396）（玉篇）（397）（廣韻）（398）（玉篇）（399）（廣韻）（400）（玉篇）（401）（廣韻）（402）（玉篇）（403）（廣韻）（404）（玉篇）（405）（廣韻）（406）（玉篇）（407）（廣韻）（408）（玉篇）（409）（廣韻）（410）（玉篇）（411）（廣韻）（412）（玉篇）（413）（廣韻）（414）（玉篇）（415）（廣韻）（416）（玉篇）（417）（廣韻）（418）（玉篇）（419）（廣韻）（420）（玉篇）（421）（廣韻）（422）（玉篇）（423）（廣韻）（424）（玉篇）（425）（廣韻）（426）（玉篇）（427）（廣韻）（428）（玉篇）（429）（廣韻）（430）（玉篇）（431）（廣韻）（432）（玉篇）（433）（廣韻）（434）（玉篇）（435）（廣韻）（436）（玉篇）（437）（廣韻）（438）（玉篇）（439）（廣韻）（440）（玉篇）（441）（廣韻）（442）（玉篇）（443）（廣韻）（444）（玉篇）（445）（廣韻）（446）（玉篇）（447）（廣韻）（448）（玉篇）（449）（廣韻）（450）（玉篇）（451）（廣韻）（452）（玉篇）（453）（廣韻）（454）（玉篇）（455）（廣韻）（456）（玉篇）（457）（廣韻）（458）（玉篇）（459）（廣韻）（460）（玉篇）（461）（廣韻）（462）（玉篇）（463）（廣韻）（464）（玉篇）（465）（廣韻）（466）（玉篇）（467）（廣韻）（468）（玉篇）（469）（廣韻）（470）（玉篇）（471）（廣韻）（472）（玉篇）（473）（廣韻）（474）（玉篇）（475）（廣韻）（476）（玉篇）（477）（廣韻）（478）（玉篇）（479）（廣韻）（480）（玉篇）（481）（廣韻）（482）（玉篇）（483）（廣韻）（484）（玉篇）（485）（廣韻）（486）（玉篇）（487）（廣韻）（488）（玉篇）（489）（廣韻）（490）（玉篇）（491）（廣韻）（492）（玉篇）（493）（廣韻）（494）（玉篇）（495）（廣韻）（496）（玉篇）（497）（廣韻）（498）（玉篇）（499）（廣韻）（500）（玉篇）（501）（廣韻）（502）（玉篇）（503）（廣韻）（504）（玉篇）（505）（廣韻）（506）（玉篇）（507）（廣韻）（508）（玉篇）（509）（廣韻）（510）（玉篇）（511）（廣韻）（512）（玉篇）（513）（廣韻）（514）（玉篇）（515）（廣韻）（516）（玉篇）（517）（廣韻）（518）（玉篇）（519）（廣韻）（520）（玉篇）（521）（廣韻）（522）（玉篇）（523）（廣韻）（524）（玉篇）（525）（廣韻）（526）（玉篇）（527）（廣韻）（528）（玉篇）（529）（廣韻）（530）（玉篇）（531）（廣韻）（532）（玉篇）（533）（廣韻）（534）（玉篇）（535）（廣韻）（536）（玉篇）（537）（廣韻）（538）（玉篇）（539）（廣韻）（540）（玉篇）（541）（廣韻）（542）（玉篇）（543）（廣韻）（544）（玉篇）（545）（廣韻）（546）（玉篇）（547）（廣韻）（548）（玉篇）（549）（廣韻）（550）（玉篇）（551）（廣韻）（552）（玉篇）（553）（廣韻）（554）（玉篇）（555）（廣韻）（556）（玉篇）（557）（廣韻）（558）（玉篇）（559）（廣韻）（560）（玉篇）（561）（廣韻）（562）（玉篇）（563）（廣韻）（564）（玉篇）（565）（廣韻）（566）（玉篇）（567）（廣韻）（568）（玉篇）（569）（廣韻）（570）（玉篇）（571）（廣韻）（572）（玉篇）（573）（廣韻）（574）（玉篇）（575）（廣韻）（576）（玉篇）（577）（廣韻）（578）（玉篇）（579）（廣韻）（580）（玉篇）（581）（廣韻）（582）（玉篇）（583）（廣韻）（584）（玉篇）（585）（廣韻）（586）（玉篇）（587）（廣韻）（588）（玉篇）（589）（廣韻）（590）（玉篇）（591）（廣韻）（592）（玉篇）（593）（廣韻）（594）（玉篇）（595）（廣韻）（596）（玉篇）（597）（廣韻）（598）（玉篇）（599）（廣韻）（600）（玉篇）（601）（廣韻）（602）（玉篇）（603）（廣韻）（604）（玉篇）（605）（廣韻）（606）（玉篇）（607）（廣韻）（608）（玉篇）（609）（廣韻）（610）（玉篇）（611）（廣韻）（612）（玉篇）（613）（廣韻）（614）（玉篇）（615）（廣韻）（616）（玉篇）（617）（廣韻）（618）（玉篇）（619）（廣韻）（620）（玉篇）（621）（廣韻）（622）（玉篇）（623）（廣韻）（624）（玉篇）（625）（廣韻）（626）（玉篇）（627）（廣韻）（628）（玉篇）（629）（廣韻）（630）（玉篇）（631）（廣韻）（632）（玉篇）（633）（廣韻）（634）（玉篇）（635）（廣韻）（636）（玉篇）（637）（廣韻）（638）（玉篇）（639）（廣韻）（640）（玉篇）（641）（廣韻）（642）（玉篇）（643）（廣韻）（644）（玉篇）（645）（廣韻）（646）（玉篇）（647）（廣韻）（648）（玉篇）（649）（廣韻）（650）（玉篇）（651）（廣韻）（652）（玉篇）（653）（廣韻）（654）（玉篇）（655）（廣韻）（656）（玉篇）（657）（廣韻）（658）（玉篇）（659）（廣韻）（660）（玉篇）（661）（廣韻）（662）（玉篇）（663）（廣韻）（664）（玉篇）（665）（廣韻）（666）（玉篇）（667）（廣韻）（668）（玉篇）（669）（廣韻）（670）（玉篇）（671）（廣韻）（672）（玉篇）（673）（廣韻）（674）（玉篇）（675）（廣韻）（676）（玉篇）（677）（廣韻）（678）（玉篇）（679）（廣韻）（680）（玉篇）（681）（廣韻）（682）（玉篇）（683）（廣韻）（684）（玉篇）（685）（廣韻）（686）（玉篇）（687）（廣韻）（688）（玉篇）（689）（廣韻）（690）（玉篇）（691）（廣韻）（692）（玉篇）（693）（廣韻）（694）（玉篇）（695）（廣韻）（696）（玉篇）（697）（廣韻）（698）（玉篇）（699）（廣韻）（700）（玉篇）（701）（廣韻）（702）（玉篇）（703）（廣韻）（704）（玉篇）（705）（廣韻）（706）（玉篇）（707）（廣韻）（708）（玉篇）（709）（廣韻）（710）（玉篇）（711）（廣韻）（712）（玉篇）（713）（廣韻）（714）（玉篇）（715）（廣韻）（716）（玉篇）（717）（廣韻）（718）（玉篇）（719）（廣韻）（720）（玉篇）（721）（廣韻）（722）（玉篇）（723）（廣韻）（724）（玉篇）（725）（廣韻）（726）（玉篇）（727）（廣韻）（728）（玉篇）（729）（廣韻）（730）（玉篇）（731）（廣韻）（732）（玉篇）（733）（廣韻）（734）（玉篇）（735）（廣韻）（736）（玉篇）（737）（廣韻）（738）（玉篇）（739）（廣韻）（740）（玉篇）（741）（廣韻）（742）（玉篇）（743）（廣韻）（744）（玉篇）（745）（廣韻）（746）（玉篇）（747）（廣韻）（748）（玉篇）（749）（廣韻）（750）（玉篇）（751）（廣韻）（752）（玉篇）（753）（廣韻）（754）（玉篇）（755）（廣韻）（756）（玉篇）（757）（廣韻）（758）（玉篇）（759）（廣韻）（760）（玉篇）（761）（廣韻）（762）（玉篇）（763）（廣韻）（764）（玉篇）（765）（廣韻）（766）（玉篇）（767）（廣韻）（768）（玉篇）（769）（廣韻）（770）（玉篇）（771）（廣韻）（772）（玉篇）（773）（廣韻）（774）（玉篇）（775）（廣韻）（776）（玉篇）（777）（廣韻）（778）（玉篇）（779）（廣韻）（780）（玉篇）（781）（廣韻）（782）（玉篇）（783）（廣韻）（784）（玉篇）（785）（廣韻）（786）（玉篇）（787）（廣韻）（788）（玉篇）（789）（廣韻）（790）（玉篇）（791）（廣韻）（792）（玉篇）（793）（廣韻）（794）（玉篇）（795）（廣韻）（796）（玉篇）（797）（廣韻）（798）（玉篇）（799）（廣韻）（800）（玉篇）（801）（廣韻）（802）（玉篇）（803）（廣韻）（804）（玉篇）（805）（廣韻）（806）（玉篇）（807）（廣韻）（808）（玉篇）（809）（廣韻）（810）（玉篇）（811）（廣韻）（812）（玉篇）（813）（廣韻）（814）（玉篇）（815）（廣韻）（816）（玉篇）（817）（廣韻）（818）（玉篇）（819）（廣韻）（820）（玉篇）（821）（廣韻）（822）（玉篇）（823）（廣韻）（824）（玉篇）（825）（廣韻）（826）（玉篇）（827）（廣韻）（828）（玉篇）（829）（廣韻）（830）（玉篇）（831）（廣韻）（832）（玉篇）（833）（廣韻）（834）（玉篇）（835）（廣韻）（836）（玉篇）（837）（廣韻）（838）（玉篇）（839）（廣韻）（840）（玉篇）（841）（廣韻）（842）（玉篇）（843）（廣韻）（844）（玉篇）（845）（廣韻）（846）（玉篇）（847）（廣韻）（848）（玉篇）（849）（廣韻）（850）（玉篇）（851）（廣韻）（852）（玉篇）（853）（廣韻）（854）（玉篇）（855）（廣韻）（856）（玉篇）（857）（廣韻）（858）（玉篇）（859）（廣韻）（860）（玉篇）（861）（廣韻）（862）（玉篇）（863）（廣韻）（864）（玉篇）（865）（廣韻）（866）（玉篇）（867）（廣韻）（868）（玉篇）（869）（廣韻）（870）（玉篇）（871）（廣韻）（872）（玉篇）（873）（廣韻）（874）（玉篇）（875）（廣韻）（876）（玉篇）（877）（廣韻）（878）（玉篇）（879）（廣韻）（880）（玉篇）（881）（廣韻）（882）（玉篇）（883）（廣韻）（884）（玉篇）（885）（廣韻）（886）（玉篇）（887）（廣韻）（888）（玉篇）（889）（廣韻）（890）（玉篇）（891）（廣韻）（892）（玉篇）（893）（廣韻）（894）（玉篇）（895）（廣韻）（896）（玉篇）（897）（廣韻）（898）（玉篇）（899）（廣韻）（900）（玉篇）（901）（廣韻）（902）（玉篇）（903）（廣韻）（904）（玉篇）（905）（廣韻）（906）（玉篇）（907）（廣韻）（908）（玉篇）（909）（廣韻）（910）（玉篇）（911）（廣韻）（912）（玉篇）（913）（廣韻）（914）（玉篇）（915）（廣韻）（916）（玉篇）（917）（廣韻）（918）（玉篇）（919）（廣韻）（920）（玉篇）（921）（廣韻）（922）（玉篇）（923）（廣韻）（924）（玉篇）（925）（廣韻）（926）（玉篇）（927）（廣韻）（928）（玉篇）（929）（廣韻）（930）（玉篇）（931）（廣韻）（932）（玉篇）（933）（廣韻）（934）（玉篇）（935）（廣韻）（936）（玉篇）（937）（廣韻）（938）（玉篇）（939）（廣韻）（940）（玉篇）（941）（廣韻）（942）（玉篇）（943）（廣韻）（944）（玉篇）（945）（廣韻）（946）（玉篇）（947）（廣韻）（948）（玉篇）（949）（廣韻）（950）（玉篇）（951）（廣韻）（952）（玉篇）（953）（廣韻）（954）（玉篇）（955）（廣韻）（956）（玉篇）（957）（廣韻）（958）（玉篇）（959）（廣韻）（960）（玉篇）（961）（廣韻）（962）（玉篇）（963）（廣韻）（964）（玉篇）（965）（廣韻）（966）（玉篇）（967）（廣韻）（968）（玉篇）（969）（廣韻）（970）（玉篇）（971）（廣韻）（972）（玉篇）（973）（廣韻）（974）（玉篇）（975）（廣韻）（976）（玉篇）（977）（廣韻）（978）（玉篇）（979）（廣韻）（980）（玉篇）（981）（廣韻）（982）（玉篇）（983）（廣韻）（984）（玉篇）（985）（廣韻）（986）（玉篇）（987）（廣韻）（988）（玉篇）（989）（廣韻）（990）（玉篇）（991）（廣韻）（992）（玉篇）（993）（廣韻）（994）（玉篇）（995）（廣韻）（996）（玉篇）（997）（廣韻）（998）（玉篇）（999）（廣韻）（1000）（玉篇）（1001）（廣韻）（1002）（玉篇）（1003）（廣韻）（1004）（玉篇）（1005）（廣韻）（1006）（玉篇）（1007）（廣韻）（1008）（玉篇）（1009）（廣韻）（1010）（玉篇）（1011）（廣韻）（1012）（玉篇）（1013）（廣韻）（1014）（玉篇）（1015）（廣韻）（1016）（玉篇）（1017）（廣韻）（1018）（玉篇）（1019）（廣韻）（1020）（玉篇）（1021）（廣韻）（1022）（玉篇）（1023）（廣韻）（1024）（玉篇）（1025）（廣韻）（1026）（玉篇）（1027）（廣韻）（1028）（玉篇）（1029）（廣韻）（1030）（玉篇）（1031）（廣韻）（1032）（玉篇）（1033）（廣韻）（1034）（玉篇）（1035）（廣韻）（1036）（玉篇）（1037）（廣韻）（1038）（玉篇）（1039）（廣韻）（1040）（玉篇）（1041）（廣韻）（1042）（玉篇）（1043）（廣韻）（1044）（玉篇）（1045）（廣韻）（1046）（玉篇）（1047）（廣韻）（1048）（玉篇）（1049）（廣韻）（1050）（玉篇）（1051）（廣韻）（1052）（玉篇）（1053）（廣韻）（1054）（玉篇）（1055）（廣韻）（1056）（玉篇）（1057）（廣韻）（1058）（玉篇）（1059）（廣韻）（1060）（玉篇）（1061）（廣韻）（1062）（玉篇）（1063）（廣韻）（1064）（玉篇）（1065）（廣韻）（1066）（玉篇）（1067）（廣韻）（1068）（玉篇）（1069）（廣韻）（1070）（玉篇）（1071）（廣韻）（1072）（玉篇）（1073）（廣韻）（1074）（玉篇）（1075）（廣韻）（1076）（玉篇）（1077）（廣韻）（1078）（玉篇）（1079）（廣韻）（1080）（玉篇）（1081）（廣韻）（1082）（玉篇）（1083）（廣韻）（1084）（玉篇）（1085）（廣韻）（1086）（玉篇）（1087）（廣韻）（1088）（玉篇）（1089）（廣韻）（1090）（玉篇）（1091）（廣韻）（1092）（玉篇）（1093）（廣韻）（1094）（玉篇）（1095）（廣韻）（1096）（玉篇）（1097）（廣韻）（1098）（玉篇）（1099）（廣韻）（1100）（玉篇）（1101）（廣韻）（1102）（玉篇）（1103）（廣韻）（1104）（玉篇）（1105）（廣韻）（1106）（玉篇）（1107）（廣韻）（1108）（玉篇）（1109）（廣韻）（1110）（玉篇）（1111）（廣韻）（1112）（玉篇）（1113）（廣韻）（1114）（玉篇）（1115）（廣韻）（1116）（玉篇）（1117）（廣韻）（1118）（玉篇）（1119）（廣韻）（1120）（玉篇）（1121）（廣韻）（1122）（玉篇）（1123）（廣韻）（1124）（玉篇）（1125）（廣韻）（1126）（玉篇）（1127）（廣韻）（1128）（玉篇）（1129）（廣韻）（1130）（玉篇）（1131）（廣韻）（1132）（玉篇）（1133）（廣韻）（1134）（玉篇）（1135）（廣韻）（1136）（玉篇）（1137）（廣韻）（1138）（玉篇）（1139）（廣韻）（1140）（玉篇）（1141）（廣韻）（1142）（玉篇）（1143）（廣韻）（1144）（玉篇）（1145）（廣韻）（1146）（玉篇）（1147）（廣韻）（1148）（玉篇）（1149）（廣韻）（1150）（玉篇）（1151）（廣韻）（1152）（玉篇）（1153）（廣韻）（1154）（玉篇）（1155）（廣韻）（1156）（玉篇）（1157）（廣韻）（1158）（玉篇）（1159）（廣韻）（1160）（玉篇）（1161）（廣韻）（1162）（玉篇）（1163）（廣韻）（1164）（玉篇）（1165）（廣韻）（1166）（玉篇）（1167）（廣韻）（1168）（玉篇）（1169）（廣韻）（1170）（玉篇）（1171）（廣韻）（1172）（玉篇）（1173）（廣韻）（1174）（玉篇）（1175）（廣韻）（1176）（玉篇）（1177）（廣韻）（1178）（玉篇）（1179）（廣韻）（1180）（玉篇）（1181）（廣韻）（1182）（玉篇）（1183）（廣韻）（1184）（玉篇）（1185）（廣韻）（1186）（玉篇）（1187）（廣韻）（1188）（玉篇）（1189）（廣韻）（1190）（玉篇）（1191）（廣韻）（1192）（玉篇）（1193）（廣韻）（1194）（玉篇）（1195）（廣韻）（1196）（玉篇）（1197）（廣韻）（1198）（玉篇）（1199）（廣韻）（1200）（玉篇）（1201）（廣韻）（1202）（玉篇）（1203）（廣韻）（1204）（玉篇）（1205）（廣韻）（1206）（玉篇）（1207）（廣韻）（1208）（玉篇）（1209）（廣韻）（1210）（玉篇）（1211）（廣韻）（1212）（玉篇）（1213）（廣韻）（1214）（玉篇）（1215）（廣韻）（1216）（玉篇）（1217）（廣韻）（1218）（玉篇）（1219）（廣韻）（1220）（玉篇）（1221）（廣韻）（1222）（玉篇）（1223）（廣韻）（1224）（玉篇）（1225）（廣韻）（1226）（玉篇）（1227）（廣韻）（1228）（玉篇）（1229）（廣韻）（1230）（玉篇）（1231）（廣韻）（1232）（玉篇）（1233）（廣韻）（1234）（玉篇）（1235）（廣韻）（1236）（玉篇）（1237）（廣韻）（1238）（玉篇）（1239）（廣韻）（1240）（玉篇）（1241）（廣韻）（1242）（玉篇）（1243）（廣韻）（1244）（玉篇）（1245）（廣韻）（1246）（玉篇）（1247）（廣韻）（1248）（玉篇）（1249）（廣韻）（1250）（玉篇）（1251）（廣韻）（1252）（玉篇）（1253）（廣韻）（1254）（玉篇）（1255）（廣韻）（1256）（玉篇）（1257）（廣韻）（1258）（玉篇）（1259）（廣韻）（1260）（玉篇）（1261）（廣韻）（1262）（玉篇）（1263）（廣韻）（1264）（玉篇）（1265）（廣韻）（1266）（玉篇）（1267）（廣韻）（1268）（玉篇）（1269）（廣韻）（1270）（玉篇）（1271）（廣韻）（1272）（玉篇）（1273）（廣韻）（1274）（玉篇）（1275）（廣韻）（1276）（玉篇）（1277）（廣韻）（1278）（玉篇）（1279）（廣韻）（1280）（玉篇）（1281）（廣韻）（1282）（玉篇）（1283）（廣韻）（1284）（玉篇）（1285）（廣韻）（1286）（玉篇）（1287）（廣韻）（1288）（玉篇）（1289）（廣韻）（1290）（玉篇）（1291）（廣韻）（1292）（玉篇）（1293）（廣韻）（1294）（玉篇）（1295）（廣韻）（1296）（玉篇）（1297）（廣韻）（1298）（玉篇）（1299）（廣韻）（1300）（玉篇）（1301）（廣韻）（1302）（玉篇）（1303）（廣韻）（1304）（玉篇）（1305）（廣韻）（1306）（玉篇）（1307）（廣韻）（1308）（玉篇）（1309）（廣韻）（1310）（玉篇）（1311）（廣韻）（1312）（玉篇）（1313）（廣韻）（1314）（玉篇）（1315）（廣韻）（1316）（玉篇）（1317）（廣韻）（1318）（玉篇）（1319）（廣韻）（1320）（玉篇）（1321）（廣韻）（1322）（玉篇）（1323）（廣韻）（1324）（玉篇）（1325）（廣韻）（1326）（玉篇）（1327）（廣韻）（1328）（玉篇）（1329）（廣韻）（1330）（玉篇）（1331）（廣韻）（1332）（玉篇）（1333）（廣韻）（1334）（玉篇）（1335）（廣韻）（1336）（玉篇）（1337）（廣韻）（1338）（玉篇）（1339）（廣韻）（1340）（玉篇）（1341）（廣韻）（1342）（玉篇）（1343）（廣韻）（1344）（玉篇）（1345）（廣韻）（1346）（玉篇）（1347）（廣韻）（1348）（玉篇）（1349）（廣韻）（1350）（玉篇）（1351）（廣韻）（1352）（玉篇）（1353）（廣韻）（1354）（玉篇）（1355）（廣韻）（1356）（玉篇）（1357）（廣韻）（1358）（玉篇）（1359）（廣韻）（1360）（玉篇）（1361）（廣韻）（1362）（玉篇）（1363）（廣韻）（1364）（玉篇）（1365）（廣韻）（1366）（玉篇）（1367）（廣韻）（1368）（玉篇）（1369）（廣韻）（1370）（玉篇）（1371）（廣韻）（1372）（玉篇）（1373）（廣韻）（1374）（玉篇）（1375）（廣韻）（1376）（玉篇）（1377）（廣韻）（1378）（玉篇）（1379）（廣韻）（1380）（玉篇）（1381）（廣韻）（1382）（玉篇）（1383）（廣韻）（1384）（玉篇）（1385）（廣韻）（1386）（玉篇）（1387）（廣韻）（1388）（玉篇）（1389）（廣韻）（1390）（玉篇）（1391）（廣韻）（1392）（玉篇）（1393）（廣韻）（1394）（玉篇）（1395）（廣韻）（1396）（玉篇）（1397）（廣韻）（1398）（玉篇）（1399）（廣韻）（1400）（玉篇）（1401）（廣韻）（1402）（玉篇）（1403）（廣韻）（1404）（玉篇）（1405）（廣韻）（1406）（玉篇）（1407）（廣韻）（1408）（玉篇）（1409）（廣韻）（1410）（玉篇）（1411）（廣韻）（1412）（玉篇）（1413）（廣韻）（1414）（玉篇）（1415）（廣韻）（1416）（玉篇）（1417）（廣韻）（1418）（玉篇）（1419）（廣韻）（1420）（玉篇）（1421）（廣韻）（1422）（玉篇）（1423）（廣韻）（1424）（玉篇）（1425）（廣韻）（1426）（玉篇）（1427）（廣韻）（1428）（玉篇）（1429）（廣韻）（1430）（玉篇）（1431）（廣韻）（1432）（玉篇）（1433）（廣韻）（1434）（玉篇）（1435）（廣韻）（1436）（玉篇）（1437）（廣韻）（1438）（玉篇）（1439）（廣韻）（1440）（玉篇）（1441）（廣韻）（1442）（玉篇）（1443）（廣韻）（1444）（玉篇）（1445）（廣韻）（1446）（玉篇）（1447）（廣韻）（1448）（玉篇）（1449）（廣韻）（1450）（玉篇）（1451）（廣韻）（1452）（玉篇）（1453）（廣韻）（1454）（玉篇）（1455）（廣韻）（1456）（玉篇）（1457）（廣韻）（1458）（玉篇）（1459）（廣韻）（1460）（玉篇）（1461）（廣韻）

支(准陶子、大関調、張敞支解、李斯車裂)、(六部成語、刑部、支解人、注解)、斷入四等支而分斷之也。

【支】[支部]、形部、不支人、注解)、斷入四等支而分斷之也。

の異名。(清異錄、華清)支寶丁香。

【支閣】[しかく]、支柱閣閣。(後漢書、儒林傳)又多設支閣、(注)支柱閣閣。

【支振】[しぶり]、支離・支振・支離・支解・支振・支離・支解・支振・支離・支解

[支部]

[支部]

[支部]

郎吳訓至那摩武法師等で皆中國の僧侶で印度人から傳聞した自國の法師を其の儘直譯したもので、結構は嘗て、他に類旦振旦、眞丹と唐、漢丹と唐、(宋史、外國六、天竺傳)

支部 名 [書名] 書名。(書數)[書數] 三藏至。印度人。玄奘。(唐)[唐] 玄奘。(唐)[唐] 玄奘。(唐)[唐]

[支離]四 ▲支離 ▲支離 ▲支離

被戰無支離獨全篇也。

【支流】[illegible]。[illegible]。[illegible]。

（玉篇）技・技也。❹まくら。（玉篇）枕・枕也。□❶動をさまたげおこす。（廣韻）支・枕・枕也。❷疲れる。（集韻）支・擊・起物也。或作度・敧。

【敧】13068
❶かくす。かくれる。（字彙）・同・隱也。❷敧（6・131064）の誤字。（集韻）・敧・敧・隱也。

【敧】13069
テイ（字彙）・同・義未詳。（字彙補）敧・同。

【敧】13070
ツ　義未詳。（字彙補）敧・同。

【敫】13071
クワン　通敫・敫・敫字。

六畫

【敔】13072
□キ（集韻）五・同・（集韻）・五・同・（集韻）・五・同・（集韻）・

ない。(杜甫、江陵望五城十湖詩)「欹枕聞雨聲、枕上看星河。」(杜甫、江陵望五城十湖詩)「欹枕聞雨聲、枕上看星河。」

【敧器】キキ 欹器。(荀子、宥坐篇)「孔子曰、吾聞宥坐之器、虛則欹、中則正、滿則覆。孔子顧謂弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆、虛而欹。孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(注)欹器、傾易覆之器。(說苑、敬慎)「孔子觀於周廟、而有欹器焉。孔子問守廟者曰、此何器也。守廟者曰、此蓋爲有坐而設之器者乎。孔子曰、吾聞有坐之器者、虛則欹、中則正、滿則覆、孔子顧謂弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆、孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(荀子、宥坐)「孔子觀於魯桓公之廟、有欹器焉。孔子問於守廟者曰、此何器爲。守廟者曰、蓋爲有坐而欹者乎。孔子曰、吾聞宥坐之器者、虛則欹、中則正、滿則覆。孔子顧弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆。孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(韓詩外傳、三)「孔子觀於魯桓公之廟、有欹器焉。孔子問於守廟者曰、此何器爲。守廟者曰、蓋爲宥坐之器乎。孔子曰、吾聞宥坐之器者、虛則欹、中則正、滿則覆、孔子顧弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆、孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(荀子、宥坐)「孔子觀於魯桓公之廟、有欹器焉。孔子問於守廟者曰、此何器爲。守廟者曰、蓋爲宥坐之器乎。孔子曰、吾聞宥坐之器者、虛則欹、中則正、滿則覆、孔子顧弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆、孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(韓詩外傳、三)「孔子觀於魯桓公之廟、有欹器焉。孔子問於守廟者曰、此何器爲。守廟者曰、蓋爲宥坐之器乎。孔子曰、吾聞宥坐之器者、虛則欹、中則正、滿則覆、孔子顧弟子曰、注水焉。水注之中而正、滿而覆、孔子喟然而嘆曰、吁惡、有滿而不覆者哉。(荀子、宥坐

【戴】13105 サン 敬(6－13268)に同じ。(篇海類編)厭(同)敬。

【戮】13106 トク (龍龕手鏡)音竭 陰州 (龍龕手鏡)陰州也。

十六畫

【戮】13107 キ ●戮(6－13267)に同じ。(集韻)敬、或作戮。●戮(6－13269)の俗字。(正字通)戮、俗敬字。

支部

【支】13108 日ホク (集韻)薄木切 屋 ロ ボク (集韻)匹角切 覺 (類聚)

小篆 支、小撲也。(説文) 一うつ。かるくたたく。(説文)(6－12756)・扑(6－13779)・笞(6－2589)に作る。(集韻)支、或作・撲・扑・笞・剳 二 ぼく ちうつ。(廣韻)支、撲也。(6－12969)に同じ。(集韻)撲、博雅、撲也、或作・笞・撲・扑・赤・剳 三 ぼくづくり。ぼくぬう。しぶんと支と文の中間の形に似てゐる故の稱。漢字偏旁の名。(字彙)檢字)凡从支者、屬之部。

【攵】13109 ボク 一 支(6－13108)に同じ。支を攵(廣韻)文、凡从支者作攵、同。(九經字樣)文本作攵、今依石經作攵、與文同。(篇海類編)攵、用攵代文、(正字通)攵、支字旁文、俗省字。發音法は支と同にするが、氣息を洩し易い。注音符號の聲母の ㄈ 聲母、

攻 サメモロナカ/ノブ/ナリ。モト。
津藩稿、「諸侯無、他部、刑部、刑
津藩稿、「諸侯無、他部、四部、諸侯無、月部、女部、
及藩邦、若、依、律、收、籍、面各無、部、諸侯者室、亦
他、收、籍、至、外、官、刑、部、不、必、書、監、
掛、三、日、內、交、刑、部、不、必、書、監、
凡、諸、於、是、收、案、攻、法、「後、漢、書、蕭、攸、傳、「刑、部、
刑、案、黃、侍、郎、「後、漢、書、蕭、攸、傳、「刑、部、
收案注、引、「晉、書、「刑、部、「訴、訟、事、
收、案、注、引、「晉、書、「刑、部、「訴、訟、事、
收、案、「晉、書、「刑、部、「訴、訟、事、
收、「後、漢、書、「蕭、攸、傳、「刑、部、
傳、「后、太、子、講、所、「以、「收、「英、「國、語、「九、江、郡、
收、「論、「語、「釣、魚、「收、「繳、「射、「井、井、
收、「初、「編、「本、紀、「尾、氏、「收、「繳、「輪、「編、「刑、「法、「七、月、
收、「除、「刑、「法、「七、月、「寒、「令、「收、「繳、「射、「井、井、
收、「「「

志上」力耕數穀。收獲知之至」〔後漢書、何敞傳〕比年水旱、人不一收獲。〔陳蕃傳、相劾」非敏傷、比年水旱、人不一收獲。〔陳蕃傳、相劾」非禁、外無收穫。

〔收穫期〕ryo-kwaku-ki 収穫の時期。

〔收穫器〕ryo-kwaku-kwi 収穫に使用する農具。

〔收穫〕ryo-kwaku うけとる。

〔收穫〕ryo-kwaku 収穫。

〔收穫〕ryo-kwaku 一に使用する。

〔收穫〕ryo-kwaku 一に使用する農具。

〔收穫〕ryo-kwaku 一に使用する。

〔收穫〕ryo-kwaku 一に使用する。

〔收穫〕ryo-kwaku 一に使用する

曰、有、取収者、軍法、●収功を能ないこと。説ないこと。（後漢、交祯）其始如、拝収（説）。

【収説】説、収説。（注）百官公卿表、収説、説、収説、説、説、

○**收攫**[四] はしいままに占有する。獨占する。〔後漢書、馬援傳子昭伝〕時相列侯、悉無、耆舊、收攫、郡縣不能禁。

收錢[四] 錢を取る。〔呂覽、離俗覽〕故傳、收錢、食人也。〔淮南、人間訓〕食人錢財、不辭其死。

收錢[四] 錢をとりのこす。〔呂覽、離俗覽〕宋人有、善爲不死藥、將以教人、人未之信、而先以藥試犬、犬服之、三月而死、其人以藥自服、而不敢收錢、其人亦死。

收足[四] 全額受取する。

收族[四] 一族をまとめる。一族の秩序を整える。〔禮記、祭義〕昭穆、明、大廟、敬、宗敬、族、故祭、思、祭、祭義、文王、祭、如、在、〔注〕收、族、序、以昭穆也。疏、敬、宗敬、故、祭、祭、飲、食、者、子、宗、族、族、宗、敬、祭、祭、義、文王

雲、皆後接相模（『義疑』或『國語』字）時雨歌的把手、風鳴百樹。

【收付】ｓｈｕｆｕ 捕って渡す。罪人を捕へて係の役人に渡すこと。（『浮世風呂』文『所』）【収付】（延引）ｓｈｕｆｕ 「ヒ」受渡。支拂と取引。

【收拾】ｓｈｕｕｓｈｉ ①をさめること。をさめて、我がものにする。②（『日葡』）「ヒ」端末。（『日葡』）「ヒ」終末。（『日葡』）「ヒ」結末。（『日葡』）「ヒ」結構。（『日葡』）「ヒ」結構。（『日葡』）「ヒ」結構

【攸廬鋸也】攸 gōu ōu yōu。十二部に移油を鋸に掛け潤ること。かうすれば栄が蛇蝎を遠ざけ得られるといふ天津地方の行事。

【攷】13111

クウ　〈集韻苦浩切〉 ㊀ 皓 kǎo

ヲ　〈集韻烏浩切〉 ㊀ 皓 ǎo

たたく。うつ。〈說文〉攷、敏也、从支巧聲。〈廣雅〉釋詁三攷、擊也。●かんがへる。〈周禮〉夏官、大司馬「以待人物而詰其失（注）攷、謂考校其功」。●考 (9－258343)に通ず。〈詩〉山有樞、佛、鼓弗、考。

攷 小 ㊀ 皓 ㊁ 巧 ㊂ 篠 文 巧 刺 ㊀ 皓 ㊁ 巧 ㊂ 篠

攷 ㊀ 皓 ㊁ 巧 ㊂ 篠 文 巧 刺 ㊀ 皓 ㊁ 巧 ㊂ 篠

〔攷〕

容儀を正す。四角ばる。[日日]の[木]に同じ。

[改図]ア。

[改怒]ア。●怒いを改め直す。(禮)中庸 明則動動則變 注動動人心也 變 改 説苑 善

[改移]ア。移る。代へる。(白居易 埭頭舊業詩)

[改移]ア。心を改め移る。

[改寧]ア。心を改め寧し。改心。(司馬法 定爵)

[改驚]ア。あらためて驚く。(後漢書 馮厹傳)

[改鬻]ア。あらためてつくる。つくりかへる。(晉書 殷浩傳)

[改易]ア。●[改]易。(荀悅 漢紀 文帝紀)

[改易]ア。●[易]を改めかへる。(後漢書 何敞傳)

[改易]ア。とりかへる。(後漢書 何武傳)

[改過]ア。過ちを改める。(後漢書 馮魴傳)

[改過]ア。●[過]を改める。(後漢書 馮魴傳)

[改過]ア。あらためてつくる。つくりかへる。(後漢書 馮魴傳)

[改過]ア。●[過]を改める。(後漢書 馮魴傳)

[改過]ア。●[過]を改める。(後漢書 馮魴傳)

[改過]ア。●[過]を改める

尤ヒ[illegible]。清朝朝に至り、始めて一度、元とした。春秋、隱、元、春王正月。穀梁、天子之子好讓後、也、春秋之臣民、後之子、後之臣民、有一故謂侯伯其民同。春秋、改元。穀梁、改元者、何、更始也。[illegible]。[illegible]。[illegible]

之費其功不賴、疑且改倩提防以安百姓怨旨書、宗室、高陽王雍傳〔五行志〕惡、改、修其德、形式を整へる。續試を整へる。

【改日】ｋａｉｎｉｃｈｉ　ｎｉｃｈｉ　他日。後日。

【改革】ｋａｉｋａｋｕ　平生の状態を改め變じ。（報恩經、改常）　新年。

【改歲】ｋａｉｓａｉ　年が明け新年になること。（日本紀、天武）

【改元】ｋａｉｇｅｎ　元號を改める。（日本紀、天武）

【改朔】ｋａｉｓａｋｕ　正朔を改める。（日本紀、天武）

【改年】ｋａｉｎｅｎ　新年。

【改悔】ｋａｉｋｉ　前非を悔いあらためる。改悔。

【改過】ｋａｉｋａ　文章などを添削する。又、改過。

【改悔】ｋａｉｋｉ　古書を改訂する。「日知錄、餘文、改悔」

【改葬】ｋａｉｓｏｕ　墓域志林に、近頃人、墓を改葬し、墓後之人、好墓多同、故從前和之者衆、遂使古書目錄、所以、深可笑矣、引子曰、吾將及史之闕也、自子少時、見前輩皆不敢輕改書、故知改葬之說、世俗呼爲「めた掃墓」。

【改稱】ｋａｉｓｈｏｕ　稱呼を變ゑる。改め稱する。又、改稱。

【改色】ｋａｉｓｈｏｋｕ　いろを變ゑる。（古詩、西門行、其一）　芳菲の相似、青黃彩改色、（劉孝綽、陪徐樂射侯、詩）　兼移枚色、風太餘光、（李德林、詠松樹、詩）　蘂葉無改色、年長有倒枝。

【改植】ｋａｉｓｈｏｋｕ　植えかへる。（隋書、李安世傳）　置井泉、桑樹之類、悉令改植。

【改官】ｋａｉｋａｎ　官職を改める。（漢書、食貨志上）

【改州】ｋａｉｓｈｕ　州を改める。

【改心】ｋａｉｓｈｉｎ　心を改める。心を入れかへる。又、（「宋史、倉米本末、二十八」國亡、丞相忠孝盡矣、能改心、以事宋者、事今、將不失信、（先哲叢談、伊藤仁齋）　遂改心自勵云。

【改進】ｋａｉｓｈｉｎ　進歩を進ること。

【改業】ｋａｉｇｏｕ　業を變ること。

【改造】ｋａｉｚｏｕ　改業して進歩を圖ること。

【改造藏】ｋａｉｚｏｕｚｏｕ　校藏の名。明治十四年、大隈重信が首唱して結成したもの。立憲改進黨の略稱。自由黨。（９５５５・公二の刺）

【改朝】ｋａｉｃｈｏｕ　●改めあらしすること。●年のはじめ。

【改井】ｋａｉｓｅｉ　井戸を改める。井戸の性質を變へる。（易、井下巽上、改井、无喪无得、往來井井。（疏）井者、物象之名也、古者穿地取水、以瓶引汲、謂之爲井、井之爲用、常德此用、井修有常、色井者、以下明井、井有常德、此明井修有常色、雖遷移而井不改也。●改め直す。更正。（漢書、谷永傳）無所改也。（後漢書、皇后紀序、「正后紀之制、（注）更、改也。」）　昭太子孫、漢宣帝、太子、孫、（「宋史、梁燾傳、條貫、改、注、紀、軍營、建、樂、成、有、錢、改、之、數、際、於、事

改廢 [illegible] 改變。清 [illegible]。

改正 [illegible] 改正。

改訂 [illegible] 改訂正。

改調 [illegible] 改調。

改竄 [illegible] 改竄。

改定 [illegible] 改定。

改造 [illegible] 改造。

改變 [illegible] 改變。

改革 [illegible] 改革。

改稱 [illegible] 改稱。

改名 [illegible] 改名。

改姓 [illegible] 改姓。

改作 [illegible] 改作。

改年 [illegible] 改年。

改元 [illegible] 改元。

改朔 [illegible] 改朔。

改過 [illegible] 改過。

改塗 [illegible] 改塗。

改圖 [illegible] 改圖。

改土 [illegible] 改土。

改土歸流 [illegible]

改任 [illegible] 改任。

改年 [illegible] 改年。

改元 [illegible] 改元。

改朔 [illegible] 改朔。

改過 [illegible] 改過。

改塗 [illegible] 改塗。

改圖 [illegible] 改圖。

改土 [illegible] 改土。

改名 [illegible] 改名。

改作 [illegible] 改作

改 13115

日イ（集韻）養里切 紙（紙）ヒン（集韻）筆部切 紙（紙）

𤞷 小 □□□殺改は、鬼魅をはらひ、□□殺改は、鬼魅をはらひ、大喇叭、百逐ル鬼魅也、从支巳聲、讀若巳。

攻 13116

日ヨ（集韻）愛父切 寘（寘）ヒ（集韻）徹禾切 庚（庚）

𢽾 小 □□□なる。（説文）攻、撫也、从支巳聲、讀與撫同。

攻 13120

コウ（集韻）古紅切 東（東）ヒ（集韻）古公切 厌（厌）ヒン（集韻）古空切 送（送）

支部（三畫）攺攻殴攷攻

攺 13119

ハク 職・櫟（集韻）に同じ。（集韻）職・櫟、或从攵。

攻 13117

ヒ 攻（0・13116）に同じ。（正字通）攻、筆作・誠。

攻 13118

コツ コチ（廣韻）苦骨切 月

●おだやかでない。攻戦。（廣韻）攻、戦攻、不穏。●なめらかでない。攻戦。（類篇）攻、攻戦、不滑利也。

攻 13120

コウ（集韻）古紅切 東（東）ヒ（集韻）古公切 厌（厌）ヒン（集韻）古空切 送（送）

一 45823 に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為鑿（廣雅、釋詁一）攻、鑿也。（詩・小雅、車攻）我車既攻、（注）攻、堅也。●かためる。●つくる。●なめる。●おさめる。（廣雅、釋詁一）攻、治也。●おさめる。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。（呂覽、上農）農攻業、工攻器。（注）攻、治也。（逸周書、糴匡解）軍不二彫攻。（注）攻、治也。●をはる。（周禮、天官、疾醫）凡療傷以五毒攻之。（注）攻、治也。●つくる。（詩、大雅、靈臺）庶民攻、攻之。（傳）攻、作也。●ならふ、まなぶ。（論語、為政）攻乎異端。（集解）何晏曰、攻、治也。（集注）范氏曰、攻、專治也。●なおす。（論語、為政）小正、執陟攻馬。（注）攻、馬也者、教之脈也、教之也。●よい。（廣雅、釋詁六、善也）●祭の名。日食等をいう。（周禮、春官、大祝）五用、幣而攻。（注）鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻用、幣而攻。●たくみ。（0・3714）に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為巧工。（戰國、西周策）是攻用兵（注）攻、巧也。●かたい。鑿（12

一 45823 に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為鑿（廣雅、釋詁一）攻、鑿也。（詩・小雅、車攻）我車既攻、（注）攻、堅也。●かためる。●つくる。●なめる。●おさめる。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。（呂覽、上農）農攻業、工攻器。（注）攻、治也。（逸周書、糴匡解）軍不二彫攻。（注）攻、治也。●をはる。（周禮、天官、疾醫）凡療傷以五毒攻之。（注）攻、治也。●つくる。（詩、大雅、靈臺）庶民攻、攻之。（傳）攻、作也。●ならふ、まなぶ。（論語、為政）攻乎異端。（集解）何晏曰、攻、治也。（集注）范氏曰、攻、專治也。●なおす。（論語、為政）小正、執陟攻馬。（注）攻、馬也者、教之脈也、教之也。●よい。（廣雅、釋詁六、善也）●祭の名。日食等をいう。（周禮、春官、大祝）五用、幣而攻。（注）鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻用、幣而攻。●たくみ。（0・3714）に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為巧工。（戰國、西周策）是攻用兵（注）攻、巧也。●かたい。鑿（12

一 45823 に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為鑿（廣雅、釋詁一）攻、鑿也。（詩・小雅、車攻）我車既攻、（注）攻、堅也。●かためる。●つくる。●なめる。●おさめる。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。（呂覽、上農）農攻業、工攻器。（注）攻、治也。（逸周書、糴匡解）軍不二彫攻。（注）攻、治也。●をはる。（周禮、天官、疾醫）凡療傷以五毒攻之。（注）攻、治也。●つくる。（詩、大雅、靈臺）庶民攻、攻之。（傳）攻、作也。●ならふ、まなぶ。（論語、為政）攻乎異端。（集解）何晏曰、攻、治也。（集注）范氏曰、攻、專治也。●なおす。（論語、為政）小正、執陟攻馬。（注）攻、馬也者、教之脈也、教之也。●よい。（廣雅、釋詁六、善也）●祭の名。日食等をいう。（周禮、春官、大祝）五用、幣而攻。（注）鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻用、幣而攻。●たくみ。（0・3714）に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為巧工。（戰國、西周策）是攻用兵（注）攻、巧也。●かたい。鑿（12

一 23536 に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為鑿（廣雅、釋詁一）攻、鑿也。（詩・小雅、車攻）我車既攻、（注）攻、堅也。●かためる。●つくる。●なめる。●おさめる。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。（呂覽、上農）農攻業、工攻器。（注）攻、治也。（逸周書、糴匡解）軍不二彫攻。（注）攻、治也。●をはる。（周禮、天官、疾醫）凡療傷以五毒攻之。（注）攻、治也。●つくる。（詩、大雅、靈臺）庶民攻、攻之。（傳）攻、作也。●ならふ、まなぶ。（論語、為政）攻乎異端。（集解）何晏曰、攻、治也。（集注）范氏曰、攻、專治也。●なおす。（論語、為政）小正、執陟攻馬。（注）攻、馬也者、教之脈也、教之也。●よい。（廣雅、釋詁六、善也）●祭の名。日食等をいう。（周禮、春官、大祝）五用、幣而攻。（注）鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻用、幣而攻。●たくみ。（0・3714）に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為巧工。（戰國、西周策）是攻用兵（注）攻、巧也。●かたい。鑿（12

一 23536 に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為鑿（廣雅、釋詁一）攻、鑿也。（詩・小雅、車攻）我車既攻、（注）攻、堅也。●かためる。●つくる。●なめる。●おさめる。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。●なおす。（廣雅、釋詁四）攻、治也。（呂覽、上農）農攻業、工攻器。（注）攻、治也。（逸周書、糴匡解）軍不二彫攻。（注）攻、治也。●をはる。（周禮、天官、疾醫）凡療傷以五毒攻之。（注）攻、治也。●つくる。（詩、大雅、靈臺）庶民攻、攻之。（傳）攻、作也。●ならふ、まなぶ。（論語、為政）攻乎異端。（集解）何晏曰、攻、治也。（集注）范氏曰、攻、專治也。●なおす。（論語、為政）小正、執陟攻馬。（注）攻、馬也者、教之脈也、教之也。●よい。（廣雅、釋詁六、善也）●祭の名。日食等をいう。（周禮、春官、大祝）五用、幣而攻。（注）鄭司農云、攻、祭名、玄謂、攻用、幣而攻。●たくみ。（0・3714）に通ず。（説文通訓定聲）攻、段借為巧工。（戰國、西周策）是攻用兵（注）攻、巧也。●かたい。鑿（12

攻具 [illegible] 攻撃に用いる武具。（六韜）虎韜

軍用 [illegible] 攻撃に適する軍用。（孫子）謀攻

敵乃大修 攻具 [illegible] 城志に武器を修理する。（後漢書）來歙傳

攻具 [illegible] 攻具。（史記）秦紀 秦軍中に侵入。

攻撃 [illegible] 撃命に従う。（北史）李元忠傳 [illegible]

攻備 [illegible] 攻撃と防禦。（後漢書）馮衍傳

攻城 [illegible] 城を攻めて破砕する。（荀子）議兵

[illegible] 敵城を攻めて破砕する。（荀子）議兵

攻完 [illegible] 撃滅に完全なること。（荀子）議兵

攻城 [illegible] 撃滅に完全なること。（荀子）議兵

攻城 [illegible] 城を攻める。（荀子）議兵

攻城 [illegible] 城を攻める。（荀子）議兵

攻城 [illegible] 城を攻める

【攻皮】[illegible]。皮に加工する。攻鞣で器物をつくる。(周礼考工記)攻皮之工。由[illegible]。鞄学。

【攻物】[illegible]。攻撃と防御。攻防。(荀子)正子後篇無得而攻。攻過。

【攻過】[illegible]。攻撃の罪。(後漢書、公孫瓚傳)[illegible]。

【攻城】[illegible]。攻撃の城。攻撃目標。(後漢書、袁紹傳)[illegible]。

【攻伐】[illegible]。攻撃の[illegible]。(後漢書、董卓傳)[illegible]。

【攻敵】[illegible]。攻めるべき敵。(後漢書、袁紹傳)[illegible]。

【攻擊】[illegible]。攻めおさめる。攻撃を解き、[illegible]。(後漢書、[illegible]傳)[illegible]。

【攻堅】[illegible]。攻撃する。(後漢書、[illegible]傳)[illegible]。

【攻[illegible]

攴 小 攴 攴 攴

光傳［說文通訓定聲］玄應引納新記之介。

【放翁】[fang wēng] 名。陸游（1125-1210）之號。（宋史・陸游傳）花成歌頌，陸游卷頭題句。

【放翁詩】[fang wēng shī] 名。陸游詩。

【放翁詩話】[fang wēng shī huà] 名。書名。一卷。宋・陸游撰。僅存一條，輯佚本。（四庫全書總目提要）

【放翁詩選】[fang wēng shī xuǎn] 名。書名。宋・葛天民、羅椅、趙師秀、徐璣、徐照、翁卷、劉過、戴復古、陳起、葉紹翁、葉適、葉茵、葉靈運、葉夢得、葉紹翁、葉適、葉茵、葉靈運、葉夢得、葉紹翁、葉適、葉茵、葉靈運、葉夢得

【鏡流泳周秦、呼吸而琴、後世[illegible]、後漢書、傅燮傳、陛下在思[illegible]、[illegible]、[illegible]、

所起也。【明律戶律、錢債(注)】蹇云:放債多審驗之理。面與人不相已之情、此則抑不強扶持、強給費考、放債者、不得已之情、此則抑不強扶持、強給費考、放債者、不得已之情、此則抑不強扶持、強給費考、放債者、不得

衛本性、放縱淫亂。●きままにさせる。〔後漢書馬武傳〕面折同列、言其短長、無所避忌。

放鞍 『正字通』放、鞍。ゆるめる。〔蜀志全琮傳〕刑名部。

放鷹 『正字通』放、鷹。資機子が貿物の受取人に渡す。〔明語詩〕「放鷹」、

定稿被著己被逃。〔後漢書・杜預傳〕座下殊恩[illegible]

〔放到〕図仁 立合ひ寄る。到手となる。やりあふ。戦ふ。〔本清傳〕七月二十七日在郭東打薄一日、二十八日、卻好和、新架、放到。

〔放到〕図仁 又は図諸 又は図諸 ●図諸 ●図諸 ●

審分，按其實，而考其名，以求其情，聽其言而察其類，無使放辟。

【放辟】[fàng pì] 放縱邪僻。《後漢書・皇甫嵩傳》：「宜宥赦罪人，以從放辟。」

【放辟邪侈】[fàng pì xié chǐ] 放縱邪僻奢侈。《後漢書・皇甫嵩傳》：「宜宥赦罪人，以從放辟邪侈之心，令自新之路，絕姦宄之源。」

【放逸】[fàng yì] 放縱。《後漢書・皇甫嵩傳》：「宜宥赦罪人，以從放逸之心，令自新之路，絕姦宄之源。」

【放匕】[fàng bǐ] 放下匕首。《史記・刺客列傳》：「秦王環柱而走，群臣皆愕，卒惶，未知所為措。而侍醫夏無且以所持藥囊提擲秦王。秦王方負劍，遂拔以擊之，斷其左股。秦王倒，乃復以匕首擿秦王，不中，中柱。秦王復擊，斷其右股。秦王既已倒，自知創必死，乃背柱而笑箕踞以罵曰：『事已成，而公不報，以吞炭為漆，欲以報主也。今日固已事矣，而天下猶有為主者也。』於是左右乃前殺之。秦王自是以後，大怒，而益發兵遣王翦伐趙。」

【放去】[fàng qù] 放棄。《後漢書・皇甫嵩傳》：「若能加善補闕，張補過失，則天下之人，孰不願放去舊惡，而自新於明時。」

【放棄】[fàng qì] 放棄。《後漢書・皇甫嵩傳》：「若能加善補闕，張補過失，則天下之人，孰不願放去舊惡，而自新於明時。」

【放棄】[fàng qì] 放棄。《後漢書・皇甫嵩傳》：「若能加善補闕，張補過失，則天下之人，孰不願放棄舊惡，而自新於明時。」

【放棄】[fàng qì] 放棄。《後漢書・皇甫嵩傳》：「若能加善補闕，張補過失，則天下之人，孰不願放棄舊惡，而自新於明時。」

【放鈴】[fàng líng] 放鈴。《後漢書・皇甫嵩傳》：「若能加善補闕，張補過失，則天下之人，孰不願放鈴

注引『博物志』今文作「放」、『云云』力與反、『史記』義同、『後漢書』魯丕傳「放」、『後漢書』馮魴傳「放」、『後漢書』七國、『後漢書』蔡邕傳「放」、『後漢書』七國、『後漢書』蔡邕傳「放」、『後漢書』七國、『後漢書』蔡邕

【放国士敗】[論語] yang kuo shi chang. 高利の金を貸出す。

【放官吏債】[孟子] fang kuan li chai. 地方に赴任する官吏に金を貸付ける。

【放馬】[孟子] 馬を放つこと。「日ならずして放馬の馬、此所謂放馬」[説苑] 馬を放つこと。

【放飯流歠】[孟子] 食後にすぐ寝ること。[通俗編] 「[孟子] 公孫丑下篇、[荘子] 盛意篇、[説苑] 雑言篇、[後漢書] 杜密伝、[晉書] 何曾伝、[北史] 崔亮伝、[宋史] 何郯伝」

【放勲】[書] 堯の諡。「[史記] 五帝本紀、[正義] 放勲、[集解] 徐広曰、放勲、[索隱] 放勲

支・部 【四畫】 政

政化 ㊀ 國を治め民を導く。政治で民を教化する。「後漢書」「桓榮傳」「遂次第政化之首」「後漢書」「張老傳」「政老傳」政治で人を教化する。「范雎書」「秦策」「以明其不能復雅・政化不足以被墨子也」

政令 ㊀ 「周禮」「地官」「序官」政官之職。大司徒「敷政令」「周禮」「地官」「序官」政官之職。大司徒「敷政令」「周禮」「地官」「序官」政官之職。大司徒「敷政令」

【政所執事代】ﾏﾝｺﾛｼﾞﾀﾞｲ 武家の職名。●鎌倉幕府では、政所別当の次位。其の一族が陪臣に代理した職。政所執事の略。●室町幕府では政所の下位。●江戸幕府では政所の次位。●『後鳥羽院』貞治元年八月十八日、政所執事代日光禅雄・三郎左衛門季基出。

【政丞】ｼｮｳ 朝廷・鎌倉幕府の左・右・侍従職政二人。

【政職】ｼｮｳｼｮｸ ●『周官』天職の一。正官を正官職、補佐官を佐官職。●『周礼』天官、小宰。以官府之職、辨官府之治。『荀子』王制篇。『管子』小匡。『呂氏春秋』孟春紀。『礼記』王制。『後漢書』百官志。『周礼』夏官、大司馬。以九職任万民。●『荀子』王制篇

【政例】[ﾏｻﾚｲ] 政治の慣例。『唐書 杜希全傳』「獻[ﾏﾂﾘｺﾄ]政例。」

【政綱】[ｾｲｺｳ] 政治の法令。『左氏、襄十二年』「孔[ﾋﾄﾞﾘ]帝國[ｺｸ]、敗[ﾔﾌﾞﾚﾃﾞ]綱[ｾｲｺｳ]紀[ｷﾉﾘﾅｼﾃﾞ]。」『晉書 刑法志』「政綱[ｾｲｺｳ]大亂。」

【政變】[ｾｲﾍﾝ] 政治上の移り變り。『內閣の更迭などの政治上の移り變り。』

【政本】[ｾｲﾎﾝ] ①政治の根本。政治の本末をいふ。『漢書 霍光傳』「光[ﾋﾄﾘ]秉[ﾄﾘ]政本。」②政治上の主要。『大戴禮、哀公問』「孔子[ﾋﾄﾘ]遠[ﾄｵｸ]有[ﾅｼ]言[ｲﾋ]、公[ｷﾐ]曰[ﾔﾏﾄﾉﾐｺﾄﾊﾞﾃﾞ]、政[ﾏﾂﾘｺﾄﾉ]本[ﾓﾄﾊﾞﾔﾏﾄﾉﾐｺﾄﾊﾞﾃﾞ]、敢[ｱｴﾃﾞ]問[ﾄﾄﾞﾑﾗﾑ

【論語・顔淵】季康子問政於孔子。孔子對曰、政者正也。子帥而正、孰敢不正。【史記・魯周公世家】魯人師於孔子。孔子曰、政在選賢。季康子患盜、而孔子曰、苟子之不欲、雖賞之不竊。【荀子・君道】故君人者、以人君之位、兼人之職、而不免於亂者、未之有也。【荀子・君子】人之有道也、必以其類。【荀子・王霸】故人主者、以人爲本者也。【荀子・君子】君者、人之所以群也

𢾊 小 ㊀㊁㊂㊃つよい。たたく。扣(10－11867)叩も、山大句聲。(段玉裁)自・扣・叩・行・而敏廢矣。(正字通)敏、扣・叩・並通。敏腦(ビンノウ)に、腦をたたく。腦所の役人に誘する ことと。(周禮・地官・司關)凡四方之賓客敢關・關 焉。(注)敏、關・關・譏・詰・問人・也。

𢾊 13157 ハウ (集韻)反敏切 國 たたく。(類篇)敏、手擊也。

𢾊 13158 ウウ 更 ㊀ 1－1528B に同じ。(字彙)

敔 13161 ゴ (集韻)古慕切 國 ギョ 御 ㊀㊁㊂㊃つとめる。(說文)敔、禦也。从攴吾聲。(段玉裁)禦・禁・相・禦・防・禁・也。(荀子・秋水)禁・禁・也。(注)敔、古字。

敔 小 ㊀禁・禁・也。(左氏・昭・十二)晏嬰然敔事。(注)敔、舊也。●もの。(ア)以前の。(楚辭・宋玉・招魂)反・故居・些。(注)故、舊也。㊁死んだ・死んだ人に冠していう。(沈約・齊故安陸昭王碑文・首)。(白氏文集・故李諫議・唐太宗・故律大德上弘和尚石塔銘)。●もとより。(ア)もともと。本來。(ウ)ア・(楚辭)反禮義者、是生・於聖人之詐・而・性・也。(注)故・猶・本也。(イ)はじめから。昔から。(史記・呂后紀)食其故得・幸太后。(ウ)まことに。たしかに。(管子・霸言)五・故・本然之辭也。(養九年・左傳)曰、然・故不可・絕也。●ふるい。(ア)年を經る。古・ア・霊恵王下所謂故國者、非・謂・有・喬木之謂・也。(管子・五行)發故・故・非・也。(注)故・舊也。(陳・也。(イ)ふるめく。ふるふる。(史・孟・荀・傳)怪其書之・怪故。(ウ)ふるい物事。(論語・爲政篇)故而知・新。(集・注)故者、舊所・聞・也。(エ)しきたり。ならはし。先例。(左氏・定十二)齊・角之故。(注)故、法。(オ)ふるい・ものの知・識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(カ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(キ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ク)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ケ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(コ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(サ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(シ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ス)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(セ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ソ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(タ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(チ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ツ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(テ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ト)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ナ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ニ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヌ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ネ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ノ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ハ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヒ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(フ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヘ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ホ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(マ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ミ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ム)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(メ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(モ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヤ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ユ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(イ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ロ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ハ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ニ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ホ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヘ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ト)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(チ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(リ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヌ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ル)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(レ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ロ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ワ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヲ)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ン)ふるい・ものの知識。(荀・子・天論)故・舊・典・(四ひ・ア)周・禮・天官・宮・正・(疏)有・故・者。(注)故、謂・舊・知・者。(ヴ

漢書・揚雄傳作故。❸則ち。經傳釋詞、五。

故 猶則也。荀子・賽物論篇曰、有人焉、[illegible]。故則民之不敢侮。[illegible]。故則民之不敢侮。故字連用則同義。❹かならず 因は、4756)に通ずる。經傳釋詞、五。

固 猶必也。或作故。[illegible]。

越、越故亡矣。❺ほぼ。しかも。乃ち。

經傳釋詞、五。因 猶乃也。或作故。呂覽・審已篇曰、[illegible]。

本之知者。❻させる。せしめる。(說文解字、故。

使 爲也。从攴古聲。(玉篇・攴部)。姓。(萬

傳・使 通用字。詩・[illegible]。

姓統譜)。故 見・詩・苑・未故切字典卑、合肥縣。

故 古。むかし。フレ。

故 甲骨文 [illegible] 金文 [illegible] 古文 [illegible] 篆文 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

貢典則見和樂亦如之〈注〉和讃調、其故器也。〈李商隱、代上李相公啓〉抱〈藝〉晉子

故丘 ○〈〉 ふるおと。故郷。故山。〈杜甫、解開〉

故舊 ○〈〉 昔のかたなじみ。故人。〈杜甫、故左二

故郷 ○〈〉 自分がもともとの郷。〈杜甫、寄〉

故園 ○〈〉 ふるさと。故郷。故山。一字単

故墟 ○〈〉 古き墟。古びた墟。〈杜甫、寄〉

故城 ○〈〉 古き城。古びた城。〈杜甫、〉

故人 ○〈〉 昔なじみの人。故郷。〈杜甫、〉

故国 ○〈〉 ふるい国。故郷。〈杜甫、〉

故山 ○〈〉 ふるさと。故郷。〈杜甫、〉

故郷 ○〈〉 故郷。〈杜甫、〉

故郷 ○〈〉 故郷。〈杜甫、〉

故郷 ○〈〉

【故國】ㄍㄨˋㄍㄨㄛˊ ●舊國。【故舊】舊時親戚者。非有者。【故人】舊交。【故事】舊時故事。【故吏】舊時官吏。【故園】舊宅。【故鄉】舊鄉。【故交】舊交。【故人】舊交

【故部侯】三國吳、朱治（6・14424・45）この封號。

【故障】漢書 ●先條渡遠滅若有反條、早事假文。可一申障之田。●不服。〔應劭曰〕障、塞也。天下王定、今各歸其縣、復書、無令障塞。（史記、項羽本紀）

【故主】漢書 ●もとの主君。昔は（ふるい）田地。

【故城】漢書 ●もとの城。〔晉灼曰〕故城、舊城。〔師古曰〕故城、舊城。〔張晏曰〕故城、舊城。〔如淳曰〕故城、舊城。〔師古曰〕故城、舊城。

【故城】漢書 ●ふるい城。〔史記、春申君傳贊〕吾過楚、觀春申故城宮室、盛矣哉。（後漢書、安帝紀）破、南單于、於屬國徙、故城。〔李賢曰〕詩若雲、〔鄭箋〕南朔、若大寒雪霰、故城、〔師古曰〕故城、城郭、宋祁曰、歷亭縣、金城、故城、元初中、徙、置、屬、興、興州。（清代輿、地理志）直隸、河間府、●縣名、河北省景縣の南、遠河の北岸。

【故城】漢書 ●ふるい城。〔史記、春申君傳贊〕吾過楚、觀春申故城宮室、盛矣哉。（後漢書、安帝紀）破、南單于、於屬國徙、故城。〔李賢曰〕詩若雲、〔鄭箋〕南朔、若大寒雪霰、故城、〔師古曰〕故城、城郭、宋祁曰、歷亭縣、金城、故城、元初中、徙、置、屬、興、興州。（清代輿、地理志）直隸、河間府、●縣名、河北省景縣の南、遠河の北岸。

【故城】漢書 ●もとの城。〔史記、項羽本紀〕項王、至、東、城、城、城

將、冀、無功。」以稱、冀、稱也。故、故經、新注、（史記）商君列傳索隱引其故指、冀、屬國。

美人曰、此奚年姓成都郡故氣也。

【故邪】同上。故邪、「笞子、五行」寘、故邪。

【故邪】同上。ふるい。「笞子、五行」寘、故邪。

境之內、故、以、由、

【故】同上。もののくせ。もののくせ。

漢書、逸民、蔡元培、師覺授曰、狂叔故態也。（荀悅、後漢紀、桓帝紀）師覺授曰、狂叔故態也。（荀悅、漢紀、桓帝紀）師覺授曰、狂叔故態也。「牛牛の故態。」

【故】同上。もとの部。ふるいもの。（後漢書、馬援列傳）「故、舊、舊、和武相公云云、孔奉」詩」「飛雁失故故

故版 説文 ●平生さてみた衣服。「後漢書、順帝紀」「帝以質帛、令百官、故以故版、故版、故版」と服従していたこと。「後書、西域傳」故版 説文 故物 説文 ふる。「白帖」舊時。也。「の。昔の物。「後書、「班超傳」故版、故版、故版」「唐書、「高宗紀」「故版、故版、故版」「唐書、「高宗紀」「故版、故版、故版」「唐書、「高宗紀」「

新 〔潛夫論〕「文部篇」思、遠而忘、近、背、故而向新。

𢿱 13162 セツ 拙(8－11968)に同じ。〔六書統〕拙、亦作𢿱。

𢿱 13163 サク 作(4－518)に同じ。〔正字通〕𢿱、同作。

𢿱 13164 テイ ダイ 〔集韻〕典禮切 〔𢿱〕かくす。〔廣雅、釋言〕𢿱、隱也。

𢿱 13165 イ 迷(11－26833)に同じ。〔集韻〕迷、或作𢿱。

𢿱 13166 カ 〔福韻〕我切 〔𢿱〕ゆきなやむ。〔福韻〕𢿱、行繼也。

𢿱 13167 クワウ 〔字彙補〕況光切 〔𢿱〕はたけのかこひ。〔字彙補〕𢿱、圃之四方圍也。

𢿱 13168 ビン 義未詳。〔龍龕手鑑〕𢿱、音敏。

𢿱 13169 レウ 義未詳。〔川篇〕𢿱、音遼。

𢿱 13170 シ 𢿱(6－19238)の古字。〔字彙補〕𢿱、古𢿱字。

𢿱 13171 シヤ 𢿱(10－39999)に同じ。〔川篇〕𢿱、同𢿱。

六畫

𢿱 13172 ●うつ。〔集韻〕各額切 〔𢿱〕 〔𢿱〕 〔𢿱〕

さづける。(左氏、昭、二十六)宣王有志而後效官。(注)效、授也。㊐たてまつる。(礼、曲礼上)效馬效羊而右牛。(注)效、猶呈見也。(漢書、元后傳)天下輔漢兼效之士洛陽宮。(注)師古曰、效、獻也。(戰国策、秦策一)上洛陽宮。(注)効、獻也。㊑とどける。(左氏、文、八)效、節於府人而出。(注)效、勉也。(漢書、韓信傳)願效愚忠。(注)師古曰、効、效力也。㊒ます。(礼、曲礼上)效馬效羊而右牛。(注)效、猶呈見也。(漢書、元后傳)天下輔漢兼效之士洛陽宮。(注)師古曰、効、猶呈見也。㊓あきらかにする。(荀子、儒効)彼君之所以不免於亡者、其人無以異焉、其所以亡、則已明矣。(注)効、猶明也。(荀子、儒効)彼君之所以不免於亡者、其人無以異焉、其所以亡、則已明矣。(注)効、猶明也。(史記、律書)雖妙必清。(注)正義曰、効、猶見也。(史記、天官書)其時可効。(注)正義曰、効、猶見也。(漢書、天官書)其時可効。(注)師古曰、効、猶見也。ききめ。(廣韻)效、驗也。(進南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之效也。(注)效、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之効也。(注)効、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之効也。(注)効、驗也。(淮南子、脩務)要者、悲之効也。(注)効

攴部 [六畫] 敃敄敇敆敉敔敖敗敘敚敜敝敞敟敠敡敢敦敧敨敩敪敫敬敭敮敯数敱敲敳整敵敶敷數敹敺敻敼敽敾敿斀斁斂斃斄斅斆斈斉斊斋斌斍斎斏斐斑斒斓斔斕斖斗斘料斚斛斜斝斞斟斠斡斢斤斥斦斧斨斩斪斫斬斮斯新斱斲斳斴斵斶斷斸方斺斻於施斾斿旁旂旃旄旅旆旇旈旉旊旋旌旍旎旐旒旓旔旕旖旗旘旙旚旛旜旝旞旟无旡既旣旤日旦旧旨早旪旫旬旭旮旯旰旱旲旳旴旵时旷旸旹旺旻旼旽旾旿昀昂昃昄昆昈昉昊昋昌昍明昏昐昑昒昔昕昖昗昘昙昚昛昜昞星映昡昢昣昤春昦昧昨昩昪昫昬昭昮是昰昱昲昳昴昵昶昷昸昹昺昻昼昽显昿晀晁時晃晄晅晆晇晈晉晊晋晌晍晎晏晐晑晒晓晔晕晖晗晘晙晚晛晜晝晞晟晠晡晢晣晤晥晦晧晨晩晪晫晬晭普景晰晱晲晳晴晵晶晷晸晹智晻晼晽晾

【敖】13203 クン 敖 ㊀ 敖 ㊁ 敖 ㊂ 敖 ㊃ 敖 ㊄ 敖 ㊅ 敖 ㊆ 敖 ㊇ 敖 ㊈ 敖 ㊉ 敖 ㊊ 敖 ㊋ 敖 ㊌ 敖 ㊍ 敖 ㊎ 敖 ㊏ 敖 ㊐ 敖 ㊑ 敖 ㊒ 敖 ㊓ 敖 ㊔ 敖 ㊕ 敖 ㊖ 敖 ㊗ 敖 ㊘ 敖 ㊙ 敖 ㊚ 敖 ㊛ 敖 ㊜ 敖 ㊝ 敖 ㊞ 敖 ㊟ 敖 ㊠ 敖 ㊡ 敖 ㊢ 敖 ㊣ 敖 ㊤ 敖 ㊥ 敖 ㊦ 敖 ㊧ 敖 ㊨ 敖 ㊩ 敖 ㊪ 敖 ㊫ 敖 ㊬ 敖 ㊭ 敖 ㊮ 敖 ㊯ 敖 ㊰ 敖 ㊱ 敖 ㊲ 敖 ㊳ 敖 ㊴ 敖 ㊵ 敖 ㊶ 敖 ㊷ 敖 ㊸ 敖 ㊹ 敖 ㊺ 敖 ㊻ 敖 ㊼ 敖 ㊽ 敖 ㊾ 敖 ㊿ 敖 (13205・37)

クン 敖 ㊀ (13205) に同じ。(集韻)

【敖】13204 ㊀ カン (集韻)侯部の 敖 ㊁ カン (集韻)許侯切 敖

①とめる。抑。(6・11802)に通じ、敏。(説文)戰、止也、从攴支聲。今作抑。に、つ。敏6・13149に同じ。(集韻)或作敏。●(13204)(6・13122)に作る。(集韻)敏、古省。

【敍】13205 ジョ (集韻)魚呂切 敍 ㊀ ジョ (集韻)魚呂切 敍

①ついで。ついでる。②順序を さだめる。(説文)敍、次第也、从攴余聲。(書)舜典「敍五典」(傳)敍、謂定其倫次。(國語)楚語上「能道訓典、以敍百物」(注)敍、次也。③位階。官職。(書)皋陶謨「敍有德、時而五服、五服之外、各以敍、而有功」(注)敍、位也。④ならべる。(詩)大雅、文王有聲「文王受命、有周之命、烈文辟公、錫之山川、土田、附庸、曰文王之德、在于周、公之功、大而化之、既安且治、利澤施于子孫、子孫其逢、公劉既平、乃覯于豳、于豳斯館、涉渭爲亂、取厲取鍛、止基乃理、爰衆爰有、爰有夏之居、爰有衆之居、爰有衆之所、爰有衆之宇、爲周之命、爲周之祜、爲周之福、爲周之慶、爲周之忌、爲周之祺、爲周之熙、爲周之光、爲周之輝、爲周之反、爲周之流、爲周之生、爲周之成、爲周之安、爲周之寧、爲周之平、爲周之章、爲周之揚、爲周之方、爲周之長、爲周之久、爲周之宜、爲周之戩

養卿、賢於衆矣」注子胡謂孫伯黶曰、敍用、（集韻）ヨ、敍、序也、（宮紀）「敍用」、官位をきつけること。（後漢書）「敍用」、初敍（宋書）「敍用」、敍用各有一差。

敝 13208 ヘイ（集韻）支韻切 匶 ブ（集韻）祭五切 匶 ①ぼろ。（集韻）「敝、敗也」。②敗れる。（集韻）「敝、敗也」。③敗れる。（集韻）「敝、敗也」。④敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑤敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑥敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑦敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑧敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑨敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑩敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑪敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑫敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑬敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑭敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑮敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑯敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑰敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑱敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑲敗れる。（集韻）「敝、敗也」。⑳敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉑敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉒敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉓敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉔敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉕敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉖敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉗敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉘敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉙敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉚敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉛敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉜敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉝敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉞敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㉟敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊱敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊲敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊳敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊴敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊵敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊶敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊷敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊸敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊹敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊺敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊻敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊼敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊽敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊾敗れる。（集韻）「敝、敗也」。㊿敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(51)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(52)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(53)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(54)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(55)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(56)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(57)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(58)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(59)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(60)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(61)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(62)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(63)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(64)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(65)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(66)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(67)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(68)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(69)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(70)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(71)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(72)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(73)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(74)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(75)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(76)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(77)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(78)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(79)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(80)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(81)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(82)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(83)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(84)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(85)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(86)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(87)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(88)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(89)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(90)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(91)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(92)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(93)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(94)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(95)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(96)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(97)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(98)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(99)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(100)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(101)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(102)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(103)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(104)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(105)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(106)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(107)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(108)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(109)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(110)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(111)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(112)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(113)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(114)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(115)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(116)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(117)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(118)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(119)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(120)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(121)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(122)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(123)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(124)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(125)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(126)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(127)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(128)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(129)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(130)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(131)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(132)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(133)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(134)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(135)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(136)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(137)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(138)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(139)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(140)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(141)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(142)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(143)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(144)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(145)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(146)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(147)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(148)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(149)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(150)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(151)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(152)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(153)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(154)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(155)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(156)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(157)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(158)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(159)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(160)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(161)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(162)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(163)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(164)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(165)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(166)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(167)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(168)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(169)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(170)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(171)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(172)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(173)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(174)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(175)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(176)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(177)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(178)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(179)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(180)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(181)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(182)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(183)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(184)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(185)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(186)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(187)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(188)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(189)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(190)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(191)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(192)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(193)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(194)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(195)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(196)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(197)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(198)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(199)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(200)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(201)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(202)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(203)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(204)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(205)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(206)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(207)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(208)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(209)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(210)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(211)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(212)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(213)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(214)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(215)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(216)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(217)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(218)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(219)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(220)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(221)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(222)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(223)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(224)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(225)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(226)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(227)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(228)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(229)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(230)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(231)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(232)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(233)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(234)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(235)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(236)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(237)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(238)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(239)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(240)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(241)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(242)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(243)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(244)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(245)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(246)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(247)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(248)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(249)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(250)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(251)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(252)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(253)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(254)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(255)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(256)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(257)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(258)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(259)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(260)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(261)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(262)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(263)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(264)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(265)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(266)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(267)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(268)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(269)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(270)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(271)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(272)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(273)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(274)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(275)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(276)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(277)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(278)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(279)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(280)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(281)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(282)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(283)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(284)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(285)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(286)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(287)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(288)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(289)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(290)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(291)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(292)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(293)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(294)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(295)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(296)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(297)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(298)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(299)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(300)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(301)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(302)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(303)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(304)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(305)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(306)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(307)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(308)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(309)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(310)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(311)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(312)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(313)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(314)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(315)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(316)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(317)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(318)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(319)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(320)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(321)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(322)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(323)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(324)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(325)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(326)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(327)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(328)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(329)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(330)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(331)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(332)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(333)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(334)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(335)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(336)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(337)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(338)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(339)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(340)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(341)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(342)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(343)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(344)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(345)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(346)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(347)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(348)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(349)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(350)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(351)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(352)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(353)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(354)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(355)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(356)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(357)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(358)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(359)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(360)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(361)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(362)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(363)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(364)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(365)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(366)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(367)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(368)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(369)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(370)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(371)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(372)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(373)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(374)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(375)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(376)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(377)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(378)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(379)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(380)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(381)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(382)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(383)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(384)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(385)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(386)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(387)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(388)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(389)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(390)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(391)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(392)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(393)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(394)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(395)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(396)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(397)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(398)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(399)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(400)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(401)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(402)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(403)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(404)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(405)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(406)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(407)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(408)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(409)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(410)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(411)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(412)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(413)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(414)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(415)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(416)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(417)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(418)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(419)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(420)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(421)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(422)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(423)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(424)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(425)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(426)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(427)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(428)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(429)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(430)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(431)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(432)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(433)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(434)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(435)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(436)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(437)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(438)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(439)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(440)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(441)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(442)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(443)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(444)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(445)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(446)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(447)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(448)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(449)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(450)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(451)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(452)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(453)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(454)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(455)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(456)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(457)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(458)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(459)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(460)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(461)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(462)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(463)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(464)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(465)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(466)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(467)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(468)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(469)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(470)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(471)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(472)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(473)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(474)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(475)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(476)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(477)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(478)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(479)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(480)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(481)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(482)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(483)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(484)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(485)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(486)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(487)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(488)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(489)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(490)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(491)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(492)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(493)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(494)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(495)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(496)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(497)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(498)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(499)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(500)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(501)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(502)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(503)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(504)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(505)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(506)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(507)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(508)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(509)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(510)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(511)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(512)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(513)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(514)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(515)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(516)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(517)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(518)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(519)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(520)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(521)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(522)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(523)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(524)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(525)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(526)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(527)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(528)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(529)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(530)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(531)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(532)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(533)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(534)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(535)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(536)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(537)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(538)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(539)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(540)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(541)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(542)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(543)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(544)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(545)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(546)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(547)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(548)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(549)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(550)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(551)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(552)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(553)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(554)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(555)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(556)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(557)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(558)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(559)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(560)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(561)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(562)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(563)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(564)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(565)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(566)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(567)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(568)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(569)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(570)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(571)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(572)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(573)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(574)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(575)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(576)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(577)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(578)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(579)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(580)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(581)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(582)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(583)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(584)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(585)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(586)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(587)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(588)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(589)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(590)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(591)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(592)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(593)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(594)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(595)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(596)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(597)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(598)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(599)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(600)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(601)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(602)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(603)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(604)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(605)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(606)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(607)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(608)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(609)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(610)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(611)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(612)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(613)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(614)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(615)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(616)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(617)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(618)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(619)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(620)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(621)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(622)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(623)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(624)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(625)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(626)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(627)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(628)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(629)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(630)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(631)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(632)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(633)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(634)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(635)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(636)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(637)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(638)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(639)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(640)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(641)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(642)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(643)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(644)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(645)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(646)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(647)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(648)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(649)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(650)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(651)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(652)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(653)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(654)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(655)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(656)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(657)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(658)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(659)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(660)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(661)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(662)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(663)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(664)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(665)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(666)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(667)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(668)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(669)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(670)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(671)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(672)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(673)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(674)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(675)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(676)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(677)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(678)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(679)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(680)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(681)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(682)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(683)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(684)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(685)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(686)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(687)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(688)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(689)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(690)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(691)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(692)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(693)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(694)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(695)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(696)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(697)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(698)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(699)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(700)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(701)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(702)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(703)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(704)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(705)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(706)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(707)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(708)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(709)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(710)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(711)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(712)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(713)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(714)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(715)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(716)敗れる。（集韻）「敝、敗也」。(717)敗れる。（集韻

事務を処理し、及び地方官、亦時有教案、應に行政のもの。教授學案の略。指導案。

●語學科の教授の順序方法などを書いたもの。教授學案の略。指導案。

【教律】〔文中子〕…禮樂。

也。旁行而不流。安知教意哉。

【教令】〔後漢書〕…法令。

【教令】〔後漢書〕…法令。

【教令】〔後漢書〕…法令

（13212・47）――（13212・88）

其次醫・森之藝下醫與之等

【教温詞】[ohoo]　監獄の國是に勤善の流教を

【教場】[ohoba]　學校　教育する一区花園

【教場要覽】[ohoba]　教育する一区花園

【教皇】[ohoo]　[ohoo]　[ohoo]　

長・學長、又は校長により召集され、教授によって組織せられ、教育・研究・及び大學に存在つては學位に關する事項等を審議する。

【教授法】名 ①…… 國語・漢文・歴史・地理・數學・理科・體育・音樂・圖畫・裁縫・家事・農業・商業・英語・教育・心理・教授法・教育史・教育行政・教育學・教育法規・教育實習等。

【教授法師】名 ①…… 國語・漢文・歴史・地理・數學・理科・體育・音樂・圖畫・裁縫・家事・農業・商業・英語・教育・心理・教授法・教育史・教育行政・教育學・教育法規・教育實習等を教授する場合に於ける三段教授法を教授する師範・講習會・研究會等の講師。

【教授組織】名 ①…… 教科を適切に配當し其の分量を調整する組織。

【教授細目】名 ①…… 教科の各學期に配當する教材の標定と各學期に配當して、其の分量を調整する案。

【教授要目】名 ①…… 國語・漢文・歴史・地理・數學・理科・體育・音樂・圖畫・裁縫・家事・農業・商業・英語・教育・心理・教授法・教育史・教育行政・教育學・教育法規・教育實習等の教授に關する要目。

【教順】名 ①…… 教化と順道。

【教育】名 ①…… 教化と道理。「孟子・滕文公上」「教育無類」「荀子・禮論」「故天地生之、聖人成之、上本於天、下本於地、中和於人、此三者、生之本也、君之所生、師之所教、國之所以治也、三者缺一、則無以有人焉、故曰、天地生之、聖人成之、君師之教也、三者一也」「漢書・公孫弘傳」「及天子制服習禮、可著詩書之教者、以利鈍供給郡國」「後漢書・宦官伝」「教育成就」「史記・秦始皇紀」「教育之法、必先正其本、本既正矣、末何不從」「後漢書・馬融傳

【教付】[illegible]　教を付ける。[illegible]

【教法】[illegible]　教の法。[illegible]

【教服】[illegible]　教を服する。[illegible]

【教令】[illegible]　教令。[illegible]

【教理】[illegible]　教理。[illegible]

【教行】[illegible]　教を行なう。[illegible]

【教化】[illegible]　教化。[illegible]

【教学】[illegible]　教学。[illegible]

【教義】[illegible]　教義。[illegible]

【教授】[illegible]　教授。[illegible]

【教育】[illegible]　教育

も異だしきをいう。(史記、商君傳)教之化民也、謂於命民之法也。也、匿命。(注)索隱曰、教謂云教、謂教令也。命、謂秦君之令也。言人民之教、教是秦君之令也。

【教】13213 ケウ

教 小篆 ●とし。はやい。すばやい。(說文、攴部)教、疾也。人支每聲。(韓名)

韓語語(敏、聞也、達敏無忘)漢書、(韓)敏、疾也。(韓語、敏知閔也、(廣雅、釋言)敏、疾也。(韓語、學而敏、敏事而慎。(注)敏、疾也。孔安國曰、敏、疾也。●さとい。かしこい。(論語、公冶長)敏而好學。(集解)孔安國曰、敏者、識之疾也。(皇侃、敏、達也。(漢書、趙廣漢傳)廣敏通敏。(注)師古曰、敏、謂識捷疾也。●はたらき。(國語、齊語)案其四支之敏。(注)敏、猶材也。●つとめる。(禮、中庸)人道敏政。(注)敏、猶勉也。●つまびらか。(左氏、僖、二十三)時不敏也。(注)敏、猶審也。(左氏、僖、三十二)德改而加之以敏。(注)敏、審當於事。●音音の用法。(論語、顏淵)回雖不敏。(釋文)敏、音悔。●おやゆび・足のおやゆび・拇。(類篇)敏、足之大指名。(爾雅、釋詩)敏、拓也。(詩、大雅、生民)履帝武敏。敏、(毛傳)敏、拇也。●姓。(英氏統譜)敏、見、姓苑。

名篇 (字彙)敏、さとくすばやい。敏捷。(韓愈、送孟東野序)敏於事而慎於言。(東史)(金鑑文章傳)敏、(字彙)敏、疾也。

●たどい。敏捷。(唐、李賀、馬嵬行)敏捷不論兩宮事。(東史)(金鑑文章傳)敏、(字彙)敏、疾也。

【敏】13214 セウ

敏 (集韻)師交切 [セウ]

うつ。たたく。(集韻)敏、擊也。

【敔】13215 ゲフ

敔 (集韻)公答切 [ゲフ]

(集韻)敔、擊也。

【敔】13216 クワイ (王篇)口敢切 [クワイ]

●たどい。敏 (玉篇)敏、疾也。(玉篇)敏、休息也。●

●未了他修1-2-26字。●金張本4 9812-26字。

【敏修】ビン　字號。●未 計敏10-353286 353287 353288 353289 353290 353291 353292 353293 353294 353295 353296 353297 353298 353299 353300 353301 353302 353303 353304 353305 353306 353307 353308 353309 353310 353311 353312 353313 353314 353315 353316 353317 353318 353319 353320 353321 353322 353323 353324 353325 353326

風俗通。[三]すくふ。とのめる。〔集韻〕救・禁・也。周官有司救。朝鼎宗讃。

救 〔説文〕救・助也。〔玉篇〕救・止也。〔廣韻〕救・禁也。〔集韻〕救・禁・止也。〔類篇〕救・止也。〔正字通〕救・止也。〔字彙〕救・止也。〔字彙補〕救・止也。〔康熙字典〕救・止也。〔漢書、揚雄傳〕救・止也。〔後漢書、馮衍傳〕救・止也。〔後漢書、馮衍傳〕救・止也。〔後漢書、馮衍

を救ふ。〔孟子、盡心上〕救死而恐不贍。
【救地】ぐち　（孔叢子、抗志）
救時　時を救ふ。時世を救ふ。時事を救ふ。
救世（唐書、姚崇傳）近代、時を救ふ。救時宰相。
救月　ぐつ　月蝕を救ふ。月蝕（月蝕、月蝕）如諸侯皆在而日救之。
【救助】ぐじよ　（後漢書、馬援傳）
救荒　ぐくわう　凶年を救ふ。
【救餌】ぐじ　（後漢書、馬援傳）
救主　きうしゅ　キリストをいふ。救世主（ゼスに同じ）。
救守　ぐしゅ　守備を修める。（呂覽、不侵）
救寸　（詩解）程文章を寸に救ふ。
救恤　きうじつ　救護。救助。救給。
救世　ぐせい　世を救ふ。救世主。救世者。救世教。
救世教　ぐせいけう　（後漢書、襄楷傳）
救世軍　ぐせいぐん　（後漢書、襄楷傳）
救世主　ぐせいしゅ　世を救ふ。救世者。救世教。
救世教　ぐせいけう　世の中をすくひ、民の難儀をすくふ。
救世軍　ぐせいぐん　人世を救ふ。救世者。
救世砭劑　ぐせいへんざい　人世を救ふ。救世者。
救世主　ぐせいしゅ　世を救ふ主。すくひぬし。
救世民　ぐせいみん　世の中をすくひ、民の難儀をすくふ。
救出　きうしつ　救護。救助。救出。
救出法　きうしつほう　（後漢書、襄楷傳）
救出法王　きうしつほうわう　（後漢書、襄楷傳）
救出法王　きうしつほうわう　世を救ふ主。すくひぬし。
救出法王　きうしつほうわう　（後漢書、襄楷傳）
救出法王　きうしつほうわう　（後漢書、襄楷傳）
救出法王　きうしつほうわう　（後漢書、襄楷傳）

他の語分を抜ふために生ずる損失。

【敶】 13222

チン（集韻直刃切）
ヂン（集韻丁人切）
シンン（集韻辰儘切）

敶 小 **陣** 篆 理也。从支尨聲。（類纂）敶、治也。❶のべる。ひきもとめる。（説文）敶、引也。从支陳聲。（段注）敶、引戾也。或作敷。

【敃】 13223

タツ（集韻冠忽切）
ダチ

敃 小 **達** 篆 **敃** 小 **達** 篆 ❶うばふ。ぬすむ。❷してやる。（説文）敃、強取也。周書曰、敃猷攘奪。从支兌聲。（段注）此是爭敃字、後人段奪爲敃、奪行而敃廢。❸奪 13 5994 に通ず。（説文通訓定聲）敃、經傳皆以奪爲之。❹姓。（廣韻）敃、姓也。

【敔】 13224

キョ（集韻湯擧切）
ユ

敔 小 **語** 篆 ❶さしとめる。 国 13 4793 ○御 **敔** 小 **御** 篆 13 2820 に通ず。（説文）敔、禁也。从支吾聲。（段注）與御禁音同。云云、別敔字、禁御字、廢行而敔廢矣。❷樂器の名。柔柔をやめるときにかきなうものの木製で虎の臥した形上に二十七枚の刻あり、木片でなでてならす。（説文）敔、口、樂器、揩櫟也、形如木虎。（爾雅、釋樂）所以敔。（注）敔、如伏虎背上有二十七鉏鋙刻、以木長尺、櫟之。（白虎通、禮樂）敔、終也。（釋名、釋樂器）敔、御也。御、止也、所以止樂也。（書、益稷）合止柷敔。（鄭注）敔、狀如伏虎、背有刻、以物擊之、所以止樂。（故韓）ゴ。（漢隸字 B 8152 一14）の誤。

（敔 呂覽）

【敕】 13225

チョク（集韻蒸力切）
チキ

敕 小 **勅** 篆 ❶いましめる。（説文）敕、誡也。从支束聲。（釋名、釋書契）敕、飭也。使自整飭、不敢曠慢也。（史記、樂書）余每讀虞書、至舜君臣相敕、❷つげる。（廣雅、釋詁）敕、語也。（班固、典引）揮、動、天平。（注）敕、吉也。❸みことのり。天子制誥の一。漢代に於ては下吏を戒飭する。詔に用ひられたが、後世は其の使途廣まる。詔に、漢代には凡く上より下を戒飭するに用ひ、南北朝以降、專ら朝命の稱となるといふ。（後漢書、光武紀上、辛未詔）、注（漢制書）曰、帝王書有四一、曰策書、二曰制書、三曰詔書、四曰誡敕。誡敕者、謂敕、劍史太守、（正字通）宋敕或用之、予奬論、非敕初意、云云、明制以後書責誡北用敕。（全石文字記）敕者、自上命下之辭。漢時官長行文、稱敕、（文選、陸機、辯亡論）敕、至、南北朝以下、則此字僅朝廷專用。❹姓。（廣韻）敕、姓也。

（文體明辨、敕）按、字書云、敕、戒敕也、亦作勅。劉熙云、敕飭也、使之整飭不敢慢也。又賓部記云、敕、又賓部記云、賓、敬也。（傳）敕、固也。❺せ穆王命呂侯、受勅憲、此其事也。漢制、天子命令有四、其四曰、戒書、卽敕、五曰、勅制、王言有七、其四曰、勅諫、則陳之用、勅六曰、論事勅書、七曰、勅陳、則陳之用、勅廣矣、宋亦有、敕、或用之於奏議、豈敕之初意哉、其詞有、敕文、有、敕六云云、宋制、敕、勳百官、襲、論軍民、別有、敕牓、今制誥四差道多子、勅行事、詳敕職字、申誡四差道多子、勅行事、詳敕職字、申誡、敕、賞賜、賓讓、示用、之、詞、皆散文、又六品已下官稱封亦稱、敕命、蓋秦四六六亦可、以見、古文與漢、漢、云、、事物紀原、、、

【勅許】[illegible]…天子のおゆるし。勅命によるお免許。勅免。（東史・琉球国）以ち[illegible]人の調[illegible]。勅免（恭遵勅）[illegible]。[illegible]。[illegible]。

首日・敕頒・亦日・祇元。
官等・級・位・公・卿・大夫・殿上・侍・官・諸・位・令・義・解）・敕任・奏

〔注〕敎，喧讙也，亦讙鬱。**敎**。**いる**。敎(7-1932)〔注〕敎，讙鬱。荀子，富國(天)：敎然，若一嬉若焦。(注)敎，讙鬱。**敎**。**だまり**。**警**(10-3583)〔注〕敎，讙鬱。(廣雅，釋言)敎，妄也。**警の大足**。**はさみ**。**警**(10-3782)**警**(10-3583)〔注〕敎，讙鬱。(廣雅，釋言)敎，妄也。**警**。**ものいわぬ

は文種、萬邦の進む。言は諸部同義。

【敗不可長】ハイ フカ チヤウ 「敗」は、おごるの意。「敗」は増長させてはならぬ。(礎・曲禮上)「敗不可長」は、「敗」は増長させては駄目である。「可」は、…してはならぬ。(礎・曲禮上)「敗

衆に反ぶ。〔書傳〕〔史記・殷本紀〕〔漢書・王莽傳〕武曰、非「獨羊」也、治「民亦猶」是矣。

（敗彤）名。敗彤の形。〔呂氏春秋・慎大覽〕〔淮南子・人間訓〕〔史記・殷本紀〕〔漢書・王莽傳〕

攴部 (七畫) 敗 敍 敍 敔 敕 敗 敗 敗

攴部（七…八畫）敉敃匿敞敝敝敝

知・英華之所行歟也。

敝袍 ㊀ やぶれたわたこ。敝袋。(『後漢書』馬援傳)

敝薦 ㊀ 敝屋・敝宅・敝市・後・敝休・敝・敝鼎・敝

敝襲袍 ㊀ やぶれたわたこ。敝袋。(『後漢書』馬援傳)

敝襲袍 ㊀ やぶれたわたこ。古代の衣。(『後漢書』馬援傳)

敝衣 ㊀ 敝袍。(『論語』子路)子曰、衣敝縕袍。

敝衣 ㊀ 敝袍。(『後漢書』馬援傳

「敵騶[illegible]」[illegible] 怒い心。〈後漢書 蔡邕傳〉光胡騶胡狗也。能辯正。(注)音光胡騶胡狗也。[illegible]漢書 敵作悲。方言云。悲

「敵綈[illegible]」[illegible] 敵綈。〈王充右。祭〉范雎[illegible]州〈文〉作敵綈。

「敵撤[illegible]」[illegible] 歩行の困難なこと。[illegible]。〈晏子。諫上〉敵敵無走。

「敵[illegible]」[illegible] 自己の主人の謙称。

「敵[illegible]」[illegible] 自己の[illegible]。〈[illegible]〉

「敵破[illegible]」[illegible] 破れた。みすぼらしい。

「敵[illegible]」[illegible] 私の[illegible]。〈[illegible]〉

「敵[illegible]」[illegible] やぶれた。[illegible]。

「敵[illegible]」[illegible] 兵を出したから、兵を賦して。(左氏。文。十七)[illegible]。(杜)[illegible]之使也。[illegible]以[illegible]紙。

「敵[illegible]」[illegible] 自己の[illegible]。(杜)[illegible]。

「敵[illegible]」[illegible] 敵[illegible]。(注

解字 敂(6-13248)は別字。(康熙字典)攜(集韻)二字相似、敂・同敂。敂・古通字。

𢾊 13251
タツ タチ セツ セチ
(集韻)都括切 園 カメ ビ 105.
(集韻)乙黠切 鳳

①●裏書をはかる。(玉篇)𢾊、敂𢾊。(集韻)𢾊、敂𢾊。(類篇)𢾊、敂𢾊。食不・(集韻)𢾊、斷也。たつ。

敕 13252
チョク
敕(6-13235)の誤字。(正字通)敕、敕字之譌字。

敏 13253
エツ
(集韻)又集切 墨
およぐ。つく。(玉篇)敏、相及也。

敔 13254
チョウ
(集韻)直遥切 藏
敔(6-13239)の古字。(集韻)敔、古作敔。

敬 13255
チョウ
海・敔・古文敬字。

散 13256
ボウ モウ
(字彙)莫報切 醞
●手でたすける。(字彙)・敔、手扶之也。
●敔(6-13313)の誤字。(康熙字典)散、案、集韻作・敔。

敔 13257
カン
(集韻)丘緩切 藏
ついばむ。(集韻18-47009)に同じ。(集韻)鵠、鳥啄物也、或作・敔。

敃 13258
ヨウ ビン
(集韻)武巾切 鳳
(集韻)武巾切 鳳
(集韻)武巾切 鳳

【敵死】ti̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ 死を惜しまないしにものぐるい。必死。決死。論語先進子在一聞敵死。（後漢書馬援傳）敵死馬援。（史記秦始皇紀上）秦人從渭南水上、遮其車旅（公奏志、袁本孫權傳）以輕銳五百敵死馬人。（晉書陸機傳）敵耕錄、先鋒錄、先鋒錄、趙國公後見、先生同都所進之書目。（隋書、經籍志）

【敵死士】ti̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ 死を覚悟しての兵士。（史記平原君傳）

【敵死隊】ti̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ 決死隊。敵死

【敵死軍】ti̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ɡ̍ 決死の軍人。明史、楊嗣昌傳、「敵死軍、決死隊、敵死士、敵死隊、敵死軍人」。（後漢書、馬援傳）「敵死士、決死隊、敵死隊、敵死軍人」。（後漢書、宋武帝紀）「敵死軍攻城、城内兵少、帝力戰、敵死士、擊之、敵大潰」。（後漢書、馬援傳）「敵死士、決

敷 13264

ソウ 集韻 祖早切 ㊀ 麌 ツウ

敷 赤小豆。

散 13265

サン 集韻 苦寒切 ㊀ 寒 サン 集韻 悉朗切 ㊀ 蕩

散 小篆 (説文 13265)

「散」は「散」(説文 13265) に通ず。説文通訓定聲 散 段借字。

定聲 散 段借字。散 は月部 に属する。

(大學 財聚則民散、財散則民聚) 素問 疏 要精微論 (骨氣未散。) 散しく。ちりしく。

(易 説卦 巽為木、為風、為長女、為進退、為不果、為臭、為白、為躁卦、為寡髮、為多白眼、為利市三倍、其究為躁卦、為寡髮、為多白眼、為利市三倍、其究為躁卦、為寡髮、為多白眼、為利市三倍、其究

香出門到月在，南征思聞相機。

【散樂】n.ᵐ ●雜樂を為ないまた。もと散樂とは輸入されし雜伎を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散官】n.ᵐ 官位を為ないまた。もと散官とは官位を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散樂】n.ᵐ ●雜樂を為ないまた。もと散樂とは輸入されし雜伎を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散位】n.ᵐ 官位を為ないまた。もと散位とは官位を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散人】n.ᵐ 官位を為ないまた。もと散人とは官位を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散手】n.ᵐ 官位を為ないまた。もと散手とは官位を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散樂】n.ᵐ ●雜樂を為ないまた。もと散樂とは輸入されし雜伎を為ないまた。又、有名雜伎を蓋ない。

【散官】n.ᵐ 官位を為ないまた。もと散官とは官位

【散號】ㄙㄢˋ ㄏㄠˋ 罪因に縁れを捨きないで懲内に監禁すること。讀禁ㄊㄨㄥˋ ㄐㄧㄣˋ 禁足令。禁足期限。

【散逃】ㄙㄢˋ ㄊㄠˊ 散人及び逃亡。社会秩序紊乱。

【散紛】ㄙㄢˋ ㄈㄣ 散人。「散」は「散」の多くあつまり輝いてゐる形容。「紛」は「紛」。

【散雕】ㄙㄢˋ ㄉㄧㄠ 錦のなくなつて。(固縫天宮)種人。

【散命】ㄙㄢˋ ㄇㄧㄥˋ 命令を発布。(注)散雕亦謂之錦。

【散宅】ㄙㄢˋ ㄓㄞˊ 宅を散ずる。

【散計】ㄙㄢˋ ㄐㄧˋ 計を散ずる。

【散女】ㄙㄢˋ ㄋㄩˇ 女を散ずる。(注)散女猶散花。

【散花】ㄙㄢˋ ㄏㄨㄚ 花を散ずる。(梁書文帝)摩伽陀國。

【散花女】ㄙㄢˋ ㄏㄨㄚ ㄋㄩˇ 花を散らす天女。(維摩詩)。

【散華】ㄙㄢˋ ㄏㄨㄚˊ 華を散らす。(梁書文帝)摩伽陀國

身之內之所包也。散資於外，謂其外之所感也。資，財。所資於外，謂飲食之物也。資，財。必見所感，所資者，由其性情之至也。故散者七日以內之喪，故曰：以資之。定，靜也。故散者七日以內之喪，故曰：以資之。定，靜也。言靜者，物者有情可之，故曰：以資之。定，靜也。孔子家語、曲禮（公西赤問喪）：散資七日。

【散資】[ㄙㄢˋ ㄗ]　❶散資：同上。（圖書編）：孟子：散利：三日。散資：七日。（禮記）：散資大今朝散。（禮記）：散資：大今朝散

詩『行露』鳳毛麟角 初敎繁密 動官相未 如花 ●散紛 ⑦ 散ちりがる。〈夏侯湛、芙蓉賦〉 黃緑隅出 華蔵敷 ●散花 ⑦ 散花。 ひまなこと。 ●隅敷 〈王禹偁、詩〉 牢牛好 鳥石 ●散鐵 ⑦ 定まった務のない官吏。散官。〈唐書、李愬之傳〉 愬之傳 ●散官 ⑦ 官吏。散官。〈唐書、李愬之傳〉 愬之傳 ●散官 ⑦ 官吏。散官。〈唐書、韓愈傳〉 愈

〔散漢 ㊀ sān hàn〕 氣晴きまれまする。紅樓夢七回「可知是他說心思散漢」。散漫散散漢散漢弱事負了他的心。

〔散誕 ㊀ sān dàn〕 世を憚らなること。放誕なること。

〔散情 ㊀ sān qíng〕 ●情懷散漢の少神經。

〔散憚 ㊀ sān dàn〕 ●ばらなる。●なかれなる。

〔散地 ㊀ sān dì〕 ●其の兵卒を散ずて歸家せしむること。領內に散ずれば則ち散じ難いからいふ（孫子、九地篇）。●散地は、諸侯の地を散ずて歸家せしむる地。（孫子、九地篇）。●散地

文部【八畫】敢

いて(弧志)。(魏紹傳)明府用爲集之原。(魏)敢閒

【散編】359 ①編をまきちらす。『魏紹、書錄解題』。

【散帙】359 ①散帙。『後漢書、蔡邕傳』。

【散人】359 ①ぶらぶらしてなすこともない人。『後漢書、馮衍傳』。

【散官】359 ①官職のない官。『後漢書、馮衍傳』。

【散官】359 ①官職のない官。『後漢書、馮衍傳』。

【散官】359 ①官職のない官

必先之政利。

【敓離】[jia] ちりはなれる。又、ばらばらにはなれる。

【敓離】[jia] 散代の古剣銘の二字の乾隆の中葉に出土した。敓代の乾隆の中葉に出土した。敓代凡て十九行二百四十八字、奇古の文字が多い。敓と敝(邑の名)とが繰返を表示するものに作ったものであろう。清の呉玉搢の金石存の中に、著録されて、銘文中に文中の西周賽父と云ふ名によって西周賽父という阮元説補した。散氏盤の記録をこと称の敓(敓)と云ふ。

【敓代盤】[jia] 散代の古剣銘の二字の乾隆の中葉に出土した。敓代凡て十九行二百四十八字、奇古の文字が多い。敓と敝(邑の名)とが繰返を表示するものに作ったものであろう。清の呉玉搢の金石存の中に、著録されて、銘文中に文中の西周賽父と云ふ名によって西周賽父という阮元説補した。散氏盤の記録をこと称の敓(敓)と云ふ。

【敓敝

敷 13274

〔集韻〕〔類篇〕敷 〔集韻〕〔類篇〕敷 〔集韻〕〔類篇〕敷

敎、〔說〕注沛與（諫敎）、古今字之異耳。〔王
❶ひくい。ひくい兵。〔爾雅、釋丘〕敎、
丘、釋文郭云、甚峻、或于同反。〔集韻、上聲〕
因傳、敎、從、從、敎、直度、高平表也。〔玉篇〕師
古曰、敎、猶如也。❷たてる。字林、11、6055
菲上、列樹道、敎、從、之平面、立、〔注〕
敎、謂也。❸因敎は、敎名。〔爾雅、釋天〕太
歲在名、❹地名。〔左氏、成、四〕
鄭伯伐、宋、取、新、任、敎之地。〔漢書、卿敎
傳上〕（田）蚡敎地、〔引は〕、希、弟の、倡、
準、7、179934、純、8、227271）に通ず。〔說
文通訓定聲、豫、豫、借爲、準、〔周禮、天官
內宰、出、其、食、敎、制、〔注〕、注、『春讀、敎
孔疏、アリ、ウケル。
〔敎卷〕〔敎書〕〔敎令〕〔敎命〕〔敎旨〕〔敎
子不、若、敎、愛、而、有、之、〔直、制、子、道、理、道〕〔名
〔敎、卷〕〔敎、書、而、有、之、〔直、制、子、道、理、道〕〔名
〔敎、令〕〔敎、命〕〔敎、旨〕〔敎、子、不、若、敎、愛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

於物之所無」上也、云云。冬上・教實云云。教實、物之所無也。

【教匠】[illegible]：大匠は事を斷學にする。斷學に倦む。

【教庭】[illegible]：教庭、[illegible]。

【教病】[illegible]：教病、[illegible]。

【教官】[illegible]：教官、[illegible]。

【教場】[illegible]：教場、[illegible]。

【教授】[illegible]：教授、[illegible]。

【教育】[illegible]：教育、[illegible]。

【教化】[illegible]：教化、[illegible]。

【教令】[illegible]：教令、[illegible]。

【教學】[illegible]：教學、[illegible]。

【教師】[illegible]：教師、[illegible]。

【教訓】[illegible]：教訓、[illegible]。

【教育】[illegible]：教育、[illegible]。

【教養】[illegible]：教養、[illegible]。

【教導】[illegible]：教導、[illegible]。

【教誨】[illegible]：教誨、[illegible]。

【教諭】[illegible]：教諭、[illegible]。

【教習】[illegible]：教習、[illegible]。

【教練】[illegible]：教練、[illegible]。

【教鞭】[illegible]：教鞭、[illegible]。

【教科書】[illegible]：教科書、[illegible]。

【教室】[illegible]：教室、[illegible]。

【教壇】[illegible]：教壇、[illegible]。

【教員】[illegible]：教員、[illegible]。

【教頭】[illegible]：教頭、[illegible]。

【教務】[illegible]：教務、[illegible]。

【教科】[illegible]：教科

也。釋文、慢音暴。亦作「暴」。是暴謂勃也。此字上文、而由言、其能行、之則謂、士、行而加、勉、則子、非、注厚黑之而已。

【教宅】13277 ：…。委穢を塗る器。（韓・西刑）教年宅。國非錯異黑之而已。教、釋文。

【教機】13278 ：（部析）輔輔、下古之民、質而敦朴。（史記、文帝紀）以示、教朴、天下先。（漢書、王莽傳）教朴能直。（漢書、匡衡傳）性教朴不拘小節。

【教除】13279 ：親切でむつまじい。（後漢書、孔融傳）宏長教除。（魏志、明帝紀）教、昧親親、協和萬國也。（李史、蔡傳）傳門教。

【教樸】13280 ：教朴に同じ。（後漢書、評劉傳）司空稚恥、評擧、方正、教樸、敦笃子、教、篤也。（後漢書、王莽傳）教樸、敦篤、質直、教樸、敦笃、質也。

【教臨】13281 ：（後漢書、評劉傳）司空稚恥、評擧、方正、教樸、敦笃子、教、篤也。（後漢書、王莽傳）教樸、敦篤、質直、教樸、敦笃、質也。

【教鞭】13282 ：（後漢書、評劉傳）司空稚恥、評擧、方正、教樸、敦笃子、教、篤也。（後漢書、王莽傳）教樸、敦篤、質直、教樸、敦笃、質也。

【教鞭】13283 ：（後漢書、評劉傳）司空稚恥、評擧、方正、教樸、敦笃子、教、篤也。（後漢書、王莽傳）教樸、敦篤、質直、教樸、敦笃、質也。

【教鞭】13284 ：（後漢書、評劉傳）司空稚恥、評擧、方正、教樸、敦笃子、教、篤也。（後漢書、王莽傳）教樸、敦篤、質直、教樸、敦笃、質也。

【教臨】13285 ：●あつくて下にのせる。（易、臨上六、教臨、注作、敦。

【教臨】13285 ：●清、重光熊才9・34433・24。

【教臨】13285 ：てあつくはげまし、つくする。（顔氏家訓、勉學、天明、六經之指、涉百家之言、顔氏家訓、勉學、天明、六經之指、涉百家之言、顔氏家訓、勉學、天明、六經之指、涉百家之言、

□●うつ。たたく。（集韻）敲、擊也。●石をうつ。（王篇）敲、搗石也。□●つよくうつ。（集韻）敲、堅擊也。●うつ。（集韻）戰、曰、捶也。（集韻）擊曰敲。

敲 13290
□ソン（集韻）蒼悉切 𢾊
□セン（集韻）取玄切 𢾊
□タク（集韻）都奚切 𢾊

□□●はかる。（集韻）敲、量也。●こころみる。（王篇）敲、試也。●擂（6・12371）に同じ。（集韻）擂、或从支。□●はかる。月方切。（集韻）敲、捶也。（6・12215）に同じ。（集韻）搥、敲、捶物輕重也、或作敲。

敲 13291
□牛（集韻）士非切 𢾊
□キ（集韻）許韋切 𢾊

●もとる。（說文）敲、戾也、从攴、敲聲。●なぬめ。（廣雅、釋詁一）敲、賒也。●違（11・39013）に同じ。（正字通）敲、同、違。□●そむきもとる。敲、違。（廣雅、釋詁）敲、乖剌也。●或は敲（6・16653）に作る。（集韻）敲、或从攴。

敲 13292
チ（集韻）丑二切 𢾊

●賢をわたひろげる。（集韻）敲、露析日。敲、或从支。（正字通）敲、移、露敲、（實日）敲。

敲 13293
サン（王篇）蘇安切 𢾊

敦 13294
ユ（集韻）吾朱切 𢾊

なげる。（集韻）敦、投也。

敦 13295
ソト（集韻）勤元切 𢾊

●とちる。ふさぐ。（說文）敦、塞也、閉也、从攴度聲。（說文）敦、敦、或从刀。●杜（6・14477）に同じ。（字彙）敦、與杜同。

敦 13300
タク ヂャク（集韻）除綺切 𢾊

●つく。打（6・14440）に同じ。（集韻）打、說文、擿也、或作、敦。●張（6・12233）に同じ。（字彙）敦、與張同。

敦 13301
タン（類篇）他案切 𢾊

●あやのないさま。（類篇）敦、無文采貌。●敏（6・13473）の譌字。（正字通）敦、敏字之譌。

敬 13302
キ（集韻）居慶切 𢾊

敬（6・16654）の俗字。（字彙）敬、俗字。

敬 13303
ケイ キャウ（集韻）居慶切 𢾊
卜（入聲）cjiaeq

●つつしむ。かしこむ。主として心の持ちにいふ。本義は言語をつつしむ意。（說文）敬、肅也、从攴苟聲。（釋言語）敬、警也、恒自警警也。（詩、周頌、閔予小子）夙夜敬止。（毫、敬、慎也。（禮、曲禮上）恭敬傳節。（荀、說多心勞篇）心多勞少爲敬。（呂覽、孝行）敢不敬乎。（注）敬、損義也。●いましめる。（詩、大雅、常武）既敬既戒。（毫）敬之言、警也。●うやまふ。（周禮、天官、大宰）二曰、敬故。（注）敬故、不慢、慢、怠也。●うやうやしい。（周禮、天官、小宰）三曰、廉敬。（注）敬、不解于位也。（新書、道術）接遇禮正、謂之敬。（史記、五帝紀）敬順昊天。（注）正義曰、敬、猶恭動也。●謝意を表すること。（後漢書、周燕傳）生送、敬。（注）送、敬、猶致謝也。●一百六韜の二。去聲第二十四。●謹。（後漢書、論法解）夙夜警戒敬。（史記、平日）敬、養命法典、曰敬。●姓。（通志、氏族略、以、諡爲氏）敬氏、（姓苑）陳侯公子敬仲之後、以、諡爲氏、姓苑云、黃帝孫敬康之後、以、諡爲氏、姓苑云、黃帝孫は敬（6・13391）に作る。（集韻）敬、或从心、古作、敬。●敬おくる。すすめる。贈呈する。

敬 タカ。ヒロ。ユキ。ヨシ。ノリ。ハヤ。ウヤ。トシ。

敬 13296
カイ（集韻）丘祭切 𢾊

なでる。撕（6・12383）に同じ。（王篇）敬、摩也。（集韻）撕、指撫、摩撫也、或作敬。

敬 13297
ヒョク（集韻）福、或作敬。

福（6・12628）に同じ。（集韻）福、或作敬。

敬 13298
サツ 殺古文殺字。

殺（6・12628）の古字。（字彙）殺、古殺字。

敬 13299
シン 綠（8・6483）の譌字。（正字通）敬、簪註、古親字、按、綠、六書不載、蓋混整文有綠、譌作、敬、簪本、女部有綠。

敬 13303

敬 13303

敬 13303

敬 13303

號。●明、耿隱嶺（8－1295295…25）の號。●明、許孚遠（10－6425295…25）の號。●明、徐階（4－10110…5216）の號。●清、張伯行（4－8835…11445）の號。●補正號の號。●補者集（3－52205…15）の見より。

敬 [kyō] 敬。うやまう。うやまい。（東觀漢記）眞、不敬賢之（後漢書、逸民）安鴻傳）於是始敬眞焉。

敬 [kyō] 敬。うやまう。慎ぶむ。（漢書、禮樂志）蓋聞其敬意而樂直。

敬 [kyō] 敬。（晉書）制10－8255…1363）の誤。

敬位 [kyō-i] 敬。北周、駱天寶（9－31618…7252）の字。

敬長 [kyō-chō] 敬。うやまおそれる。（晉子、小匡）故以制則多寡、以任則多賢、是以聖王敬長慈幼。

敬愛 [kyō-ai] 敬。うやまい愛する。（荀子、大略）敬愛者、所以生也。

敬愛 [kyō-ai] 敬。うやまって友とする。又、尊敬する。（國語、晉語四）敬愛、敬愛。

敬廟 [kyō-byō] 敬。南朝宋、羊欽（9－24453…3252）の字。

敬 [kyō] 敬。（清、高廉（10－47829…12252）の字。

敬 [kyō] 敬。（清、高廉（10－45313…5）の字。

敬惟 [kyō-i] 敬。うやまひ、へりくだる。敬損。（南史、王僧孺傳）以八法駕、中村敬字（1－73…5265）を見よ。

敬 [kyō] 敬。（清、賀寶の初）道制を上り、後、詔を以て下す。

敬 [kyō] 敬。（清、賀寶の初）道制を上り、後、詔を以て下す。

敬 [kyō] 敬。（明、許孚遠）明、許孚遠、敬德、敬則、敬、敬性、敬、敬、敬

云、此近語。我擧 食 然公些對擧 敬 遇不 敵。

【敬謹】[動] ①つつしみへりくだる。(韓持外傳) 四方敬謹而不怠。(荀子、君道篇) 民人樂利、敬謹而不怠。(後漢書、馮魴傳) 魴敬謹而不怠。(後漢書、馮魴傳) 敬謹而不怠。(後漢書、馮魴傳) 敬謹而不怠。(後漢書、馮魴傳)

寧之鎮、必敬敬之、殘之愛、必敬警之。（論語、學而敬事而信、節用而愛人、使民以時。）○ゆゑまつつゝみおごそかに。（論語、敬事而信、節用而愛人、使民以時。）

敬事上意（左氏、哀十六）以敬事神、可以保民。（史記、魯周公世家、事者名。）

敬時 10下 ●上位を保つ。○国賢上人。敬 ●敬意。

敬射 10下 ●射。（周礼、夏官、司弧、諸侯以礼、以大国之礼、以敬射。）

敬儲 10下 ●つつしんでをきめる。○唐、大禹謨、敬修其道、而南面聽朝、天祿永終。（唐、大禹謨、敬修其道、而南面聽朝、天祿永終。）

敬弼 10下 ●つゝみ。（周礼、夏官、司弧、諸侯以礼、以大国之礼、以敬弼、而民不爭。）

敬若 10下 ●つゝみ。（周礼、夏官、司弧、諸侯以礼、以大国之礼、以敬若、而民不爭。）

敬偕 10下 ●敬。（書、皐陶謨、敬偕。）

敬 10下 ●敬。（周礼、夏官、司弧、諸侯以礼、以大国之礼、以敬、而民不爭

同 諫議除宗(10・359978・54)の字。
敬聰 ㊀ 明、馬敏(18・445572・1262)の字。
敬宗 ㊀ つつしんで位をゆつる(『任明』)。
敬宗 ㊀ 「敬」は「令」使敬種・軽薬。
敬祖 ㊀ 敬順。敬順・繁宗(前敬)、示・不
敬 ㊀ 「敬」は「令」使(『唐下』)。
敬 ㊀ 「敬」は「令」使(『唐下』)。
敬 ㊀ 「敬」は「令」使(『唐下』)。

書二百九十八二)『語出書一百八十九』

【敬拝】[illegible]字。明。書度・倭度の人(8・142327・2)

【敬力】[illegible]字。明。書度・倭度の人(8・142327・2)

【敬敬】[illegible]字。北魏。[illegible]字。

【敬恵】[illegible]字。南朝宋。[illegible]字。

【敬保】元・[illegible]字。[illegible]

【敬元】[illegible]字。[illegible]

【敬敬】[illegible]字。[illegible]

【敬敬】[illegible]字。[illegible]

【敬敬

攻めるや七山は奮造し、功を以て水玄鼓侯に封ぜられ、敔の史を以て辛す。（史記齊一、十二代二世史、五十五）

【敔】（敔）ゴ　語の所のこと。鎧の第一領。洛陽、高化里の井中に陷り化して蛇女となり、毒殺の人、字は文和。（後漢書、一十八、敔）

【敔】（敔）ゴ　明、楊慎の人。字は用修。（字彙、十一、敔）

【敔】（敔）ゴ　清、正白鑲紅旗人。（正白旗人、敔）

【敔】（敔）ゴ　清、蘇州府の人。字は文和。（蘇州府、敔）

【敔】（敔）ゴ　清、会稽の人。字は文和。（会稽、敔）

【敔】（敔）ゴ　清、会稽の人。字は文和。（会稽、敔）

【敔】（敔）ゴ　清、正白鑲紅旗人。（正白旗人

攵部 〔九 十畫〕 敝敝敝

以強、短曰敲、長曰杙。⑩打。はったり。物或謂之敲。〈方言、十〉是凡擣衣棒、麻槌、アツ。タタク。

敲[敲]UTF-8: E7 A8 A6 JIS: 7E 6B 6A たたいて穴をあける。〈編悪之書、錄鈔部、敲鈔、冒人經籍敲。〉〈『撃也。』〉

敲[敲]UTF-8: E7 A8 A6 JIS: 7E 6B 6A たたきうつ。〈『敲、鳴也。』〉〈『敲、鳴也。』〉〈『敲、鳴也。』〉

而敷殷矣。●火のさま。〔類篇〕敷、火貌。

㊁●かぎる。〔集韻〕敷、蓋也。●うながす。召して疾くおもむかせる。〔集韻〕敷、一曰、召使疾行也。

【敭】13349 サン セン 〔字彙〕所斬切 〔廣韻〕

せまい。〔字彙〕敭、窄也。

とも。〔爾雅、釋詁〕敵、匹也。〔廣雅、釋詁〕敵、一、敵、輩也。●あひて。②つりあふ者。たぐふ者。〔禮、雜記上、同國適者、注〕敵、猶一日、召使疾行也。

敵、同也。〔孟子、梁惠王上〕仁者無敵。〔史記、項羽紀〕劉邦、人之敵。●あたる。③ひとしい、つりあふ。〔國語、周語中〕敵國賓至。〔注〕敵、猶匹也。〔戰國、秦策四〕國之兵敵。〔注〕敵、強弱等也。⑩むかふ、ぶつかる。はむかふ。〔爾雅、釋詁〕敵、當也。〔左氏、哀十五〕敵子路。〔注〕敵、當也。〔北史、呂司禮傳〕講書論易、鋒鏑敵。●こたへる。むくいる。〔左氏、文六〕酒中敵、釋詁、注〕敵、猶對也。●ただしい。〔廣雅、釋詁三〕敵、主也。●つかさどる。〔禮、雜記上、同國適者、注〕適、讀曰匹。敵之敵。

【敵】13350 ボク 撲(8・12521)の古字。〔玉篇〕敵、古文撲字。

【敵】13351 テン 敵(7・21774)に同じ。〔集韻〕敵、亦作敵。

【整】13352 セイ 字典。整に正字通。整字之譌。按、敵文、从束、不从朿。

【敵】13353 サシ 〔集韻〕疋加切 〔廣韻〕

●指でおさえる。〔集韻〕敵、指按、謂之敵。●とる。〔玉篇〕敵、取也。

【敵】13354 テキ チャク 〔集韻〕亭歷切 〔廣韻〕刀一切

敵 篆 同じ。〔正字通〕敵、同敵。〔說文〕敵、�、从支、啻聲。〔戰國、秦策〕鄰國敵也。〔注〕敵、讎也。●たぐひ。なかま。

支部 (十一畫) 敵敵敵整敵敵

【敵愾】 敵愾として互に反抗する。〔易、民家人〕家人嗃嗃、未失也。婦子嘻嘻、失家節也。〔注〕敵愾、猶相對也。

【敵愾心】 敵に向つて憤激する心。

【敵衡】 力が互に等いつこと。〔韓非子、存韓〕以秦與趙敵衡、今又合秦、韓、而未見有以堅利魏之心。

【敵艦】 敵の軍艦。〔依田貞行、日本海海戰〕敵艦北來、若待敵、向對東來者。

【敵旗】 敵のはた。

【敵騎】 敵の騎兵。〔大史、兵志十一〕練士也、云云、造克敵弓、以禦敵騎衝突、其發可至百步。〔同、兵志十二〕練士也、云云、造克敵弓、以禦敵騎衝突、其發可至百步。

【敵偶】 敵がたくらんだ計略。〔韓非子、內儲說下〕參伍既用、於內、則敵偶、於外、則讎讀、於內、則敵偶、於外、則讎讀。

【敵強】 敵の軍勢。〔呂覽、慎勢〕故兩人之敵強、則無知所、施矣。〔五代史、馬殷傳〕敵強、則兵相、敵、則國殘。

【敵場】 敵の國境。〔呂覽、慎勢〕故兩人之敵強、則無知所、施矣。〔五代史、馬殷傳〕敵場、則兵相、敵、則國殘。

【敵國】 敵の國。〔呂覽、慎勢〕故兩人之敵強、則無知所、施矣。〔五代史、馬殷傳〕敵國、則兵相、敵、則國殘。

【敵國賓客】 國賓客、諸侯國賓客。〔禮、內則〕則敵國賓客、介、國、母、敵國、妻、敵國、妻、敵國、妻

【敵魄】ti²² pɔ̀k²²：敵の地魂。（後漢書 馮衍傳）魯薬

【敵鑾】ti²² ɡɔ̀n²²：敵の鑾。（後漢書 馮衍傳）

【敵鑾】ti²² ɡɔ̀n²²：敵兵の出没する地。（後漢書 馮衍傳）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵兵の出没する地。（後漢書 馮衍傳）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵国と決戦する国。（管子 八觀篇）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵のものども。かたきのようす。（魏文帝 典論 自序篇）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵のかたきのようす。（魏文帝 典論 自序篇）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵人の中道を通ること。（荀子 議兵篇）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵人の中道を通ること。（荀子 議兵篇）

【敵人】ti²² ɡɔ̀n²²：敵人の中道を通ること。一説に敵人を撃つこと

攴部　[十一畫]敵・數・敏・敔・敕・敖・敗・敘・敦・敢・敬・敬・敬

懷和。

【數求】ㄕㄨˋ ㄑㄧㄡˊ。あまねくもとめる。廣くさがす。

【數音】ㄕㄨˋ ㄧㄣ。音律。音楽。『後漢書』張衡傳「衡通五經、貫六藝、博聞強識、……衡……乃……作……渾天儀………………

序」。◎日本ッ。枕詞。「榎枝集」、春上。

〔數始遺〕ッ。ッ。和歌の道をいあって。「千載集」。

〔數道〕ッ。ッ。道徳を教きうらめる。「詩序」「菅家文草」。

〔數道〕ッ。ッ。日本に初めて儒学の道を「教」道徳。「菅家文草」「詩序」「本朝文粹」。

〔數地〕ッ。ッ。経学などをするために使用する土地。

〔數治〕ッ。ッ。治める。又、分治して治める。「孟子」滕文公上」。〔後漢書〕「之」。「舉」舜而敷治焉。〔注〕敷、布也。布、散也。敷亦分也。敷治即分治。蔡不能二治。

〔數智〕ッ。ッ。姓氏。

〔數張〕ッ。ッ。長寅がる。「云云、高五十丈、敷張如蓋」。

〔數鳴〕ッ。ッ。明。「蕭注」「文選」。「左思「蜀都賦」「約」の字。

〔數陳〕ッ。ッ。明。「蕭注」「文選」。「左思「蜀都賦」「約」の字。

〔數仲〕ッ。ッ。明。「蕭注」「文選」。「左思「蜀都賦」「約」の字。

〔數稼〕ッ。ッ。「注」「文選」。「左思「蜀都賦」「約」の字。

〔數殺

也。(5)しらべる。(荀子、王霸)不足是數。(注)數、猶問也。(6)かずにいれる。かぞえたてる。(論語、衛靈公)子曰、賜也、女以予爲多學而識之者與。(注)數、猶貫也。(7)ことわり。道理。(老子、道經)道可道、非常道。(8)ことわり。道理。(管子、戴圩)國其數也。(注)數、理也。(9)道命。さだめ。(漢書、揚雄)數、猶運也。(10)運命。さだめ。(漢書、揚雄)數、猶數也。(11)運命。さだめ。(漢書、揚雄)數、猶運也。(12)術。(荀子、王霸)數者、法之原也。(注)數、術也。(13)術。(荀子、王霸)數者、治之端也。(注)數、術也。(14)術。(荀子、王霸)數者、治之經也。(注)數、術也。(15)術。(荀子、王霸)數者、治之要也。(注)數、術也。(16)せめる。(廣雅、釋詁)數、責也。(17)數。(漢書、揚雄)數、猶數也。(18)數。(漢書、揚雄)數、猶數也。(19)數。(漢書、揚雄)數、猶數也。(20)數。(注)數、數其差。(列子、周穆王)後秦數之。(注)數、數其差。(21)數。(戰國策、秦策)使韓倉數之。(注)數、責也。(22)かず。(23)數をかぞへるに使用する稱時。一、二、三、百、萬など。(24)數。王制(後漢書、數制)。(注)數、百千也。(漢書、律歷志上)數、千百萬也。所以筭數事物順性命之理。(25)數。(後漢書、數志)數數也。(26)數。(後漢書、數志)數數也。(27)數。(後漢書、數志)數數也。(28)かず。(29)數。(後漢書、數志)數數也。(30)數。(後漢書、數志)數數也。(31)數。(後漢書、數志)數數也。(32)數。(後漢書、數志)數數也。(33)數。(後漢書、數志)數數也。(34)數。(後漢書、數志)數數也。(35)數。(後漢書、數志)數數也。(36)數。(後漢書、數志)數數也。(37)數。(後漢書、數志)數數也。(38)數。(後漢書、數志)數數也。(39)數。(後漢書、數志)數數也。(40)數。(後漢書、數志)數數也。(41)數。(後漢書、數志)數數也。(42)數。(後漢書、數志)數數也。(43)數。(後漢書、數志)數數也。(44)數。(後漢書、數志)數數也。(45)數。(後漢書、數志)數數也。(46)數。(後漢書、數志)數數也。(47)數。(後漢書、數志)數數也。(48)數。(後漢書、數志)數數也。(49)數。(後漢書、數志)數數也。(50)數。(後漢書、數志)數數也。(51)數。(後漢書、數志)數數也。(52)數。(後漢書、數志)數數也。(53)數。(後漢書、數志)數數也。(54)數。(後漢書、數志)數數也。(55)數。(後漢書、數志)數數也。(56)數。(後漢書、數志)數數也。(57)數。(後漢書、數志)數數也。(58)數。(後漢書、數志)數數也。(59)數。(後漢書、數志)數數也。(60)數。(後漢書、數志)數數也。(61)數。(後漢書、數志)數數也。(62)數。(後漢書、數志)數數也。(63)數。(後漢書、數志)數數也。(64)數。(後漢書、數志)數數也。(65)數。(後漢書、數志)數數也。(66)數。(後漢書、數志)數數也。(67)數。(後漢書、數志)數數也。(68)數。(後漢書、數志)數數也。(69)數。(後漢書、數志)數數也。(70)數。(後漢書、數志)數數也。(71)數。(後漢書、數志)數數也。(72)數。(後漢書、數志)數數也。(73)數。(後漢書、數志)數數也。(74)數。(後漢書、數志)數數也。(75)數。(後漢書、數志)數數也。(76)數。(後漢書、數志)數數也。(77)數。(後漢書、數志)數數也。(78)數。(後漢書、數志)數數也。(79)數。(後漢書、數志)數數也。(80)數。(後漢書、數志)數數也。(81)數。(後漢書、數志)數數也。(82)數。(後漢書、數志)數數也。(83)數。(後漢書、數志)數數也。(84)數。(後漢書、數志)數數也。(85)數。(後漢書、數志)數數也。(86)數。(後漢書、數志)數數也。(87)數。(後漢書、數志)數數也。(88)數。(後漢書、數志)數數也。(89)數。(後漢書、數志)數數也。(90)數。(後漢書、數志)數數也。(91)數。(後漢書、數志)數數也。(92)數。(後漢書、數志)數數也。(93)數。(後漢書、數志)數數也。(94)數。(後漢書、數志)數數也。(95)數。(後漢書、數志)數數也。(96)數。(後漢書、數志)數數也。(97)數。(後漢書、數志)數數也。(98)數。(後漢書、數志)數數也。(99)數。(後漢書、數志)數數也。(100)數。(後漢書、數志)數數也。(101)數。(後漢書、數志)數數也。(102)數。(後漢書、數志)數數也。(103)數。(後漢書、數志)數數也。(104)數。(後漢書、數志)數數也。(105)數。(後漢書、數志)數數也。(106)數。(後漢書、數志)數數也。(107)數。(後漢書、數志)數數也。(108)數。(後漢書、數志)數數也。(109)數。(後漢書、數志)數數也。(110)數。(後漢書、數志)數數也。(111)數。(後漢書、數志)數數也。(112)數。(後漢書、數志)數數也。(113)數。(後漢書、數志)數數也。(114)數。(後漢書、數志)數數也。(115)數。(後漢書、數志)數數也。(116)數。(後漢書、數志)數數也。(117)數。(後漢書、數志)數數也。(118)數。(後漢書、數志)數數也。(119)數。(後漢書、數志)數數也。(120)數。(後漢書、數志)數數也。(121)數。(後漢書、數志)數數也。(122)數。(後漢書、數志)數數也。(123)數。(後漢書、數志)數數也。(124)數。(後漢書、數志)數數也。(125)數。(後漢書、數志)數數也。(126)數。(後漢書、數志)數數也。(127)數。(後漢書、數志)數數也。(128)數。(後漢書、數志)數數也。(129)數。(後漢書、數志)數數也。(130)數。(後漢書、數志)數數也。(131)數。(後漢書、數志)數數也。(132)數。(後漢書、數志)數數也。(133)數。(後漢書、數志)數數也。(134)數。(後漢書、數志)數數也。(135)數。(後漢書、數志)數數也。(136)數。(後漢書、數志)數數也。(137)數。(後漢書、數志)數數也。(138)數。(後漢書、數志)數數也。(139)數。(後漢書、數志)數數也。(140)數。(後漢書、數志)數數也。(141)數。(後漢書、數志)數數也。(142)數。(後漢書、數志)數數也。(143)數。(後漢書、數志)數數也。(144)數。(後漢書、數志)數數也。(145)數。(後漢書、數志)數數也。(146)數。(後漢書、數志)數數也。(147)數。(後漢書、數志)數數也。(148)數。(後漢書、數志)數數也。(149)數。(後漢書、數志)數數也。(150)數。(後漢書、數志)數數也。(151)數。(後漢書、數志)數數也。(152)數。(後漢書、數志)數數也。(153)數。(後漢書、數志)數數也。(154)數。(後漢書、數志)數數也。(155)數。(後漢書、數志)數數也。(156)數。(後漢書、數志)數數也。(157)數。(後漢書、數志)數數也。(158)數。(後漢書、數志)數數也。(159)數。(後漢書、數志)數數也。(160)數。(後漢書、數志)數數也。(161)數。(後漢書、數志)數數也。(162)數。(後漢書、數志)數數也。(163)數。(後漢書、數志)數數也。(164)數。(後漢書、數志)數數也。(165)數。(後漢書、數志)數數也。(166)數。(後漢書、數志)數數也。(167)數。(後漢書、數志)數數也。(168)數。(後漢書、數志)數數也。(169)數。(後漢書、數志)數數也。(170)數。(後漢書、數志)數數也。(171)數。(後漢書、數志)數數也。(172)數。(後漢書、數志)數數也。(173)數。(後漢書、數志)數數也。(174)數。(後漢書、數志)數數也。(175)數。(後漢書、數志)數數也。(176)數。(後漢書、數志)數數也。(177)數。(後漢書、數志)數數也。(178)數。(後漢書、數志)數數也。(179)數。(後漢書、數志)數數也。(180)數。(後漢書、數志)數數也。(181)數。(後漢書、數志)數數也。(182)數。(後漢書、數志)數數也。(183)數。(後漢書、數志)數數也。(184)數。(後漢書、數志)數數也。(185)數。(後漢書、數志)數數也。(186)數。(後漢書、數志)數數也。(187)數。(後漢書、數志)數數也。(188)數。(後漢書、數志)數數也。(189)數。(後漢書、數志)數數也。(190)數。(後漢書、數志)數數也。(191)數。(後漢書、數志)數數也。(192)數。(後漢書、數志)數數也。(193)數。(後漢書、數志)數數也。(194)數。(後漢書、數志)數數也。(195)數。(後漢書、數志)數數也。(196)數。(後漢書、數志)數數也。(197)數。(後漢書、數志)數數也。(198)數。(後漢書、數志)數數也。(199)數。(後漢書、數志)數數也。(200)數。(後漢書、數志)數數也。(201)數。(後漢書、數志)數數也。(202)數。(後漢書、數志)數數也。(203)數。(後漢書、數志)數數也。(204)數。(後漢書、數志)數數也。(205)數。(後漢書、數志)數數也。(206)數。(後漢書、數志)數數也。(207)數。(後漢書、數志)數數也。(208)數。(後漢書、數志)數數也。(209)數。(後漢書、數志)數數也。(210)數。(後漢書、數志)數數也。(211)數。(後漢書、數志)數數也。(212)數。(後漢書、數志)數數也。(213)數。(後漢書、數志)數數也。(214)數。(後漢書、數志)數數也。(215)數。(後漢書、數志)數數也。(216)數。(後漢書、數志)數數也。(217)數。(後漢書、數志)數數也。(218)數。(後漢書、數志)數數也。(219)數。(後漢書、數志)數數也。(220)數。(後漢書、數志)數數也。(221)數。(後漢書、數志)數數也。(222)數。(後漢書、數志)數數也。(223)數。(後漢書、數志)數數也。(224)數。(後漢書、數志)數數也。(225)數。(後漢書、數志)數數也。(226)數。(後漢書、數志)數數也。(227)數。(後漢書、數志)數數也。(228)數。(後漢書、數志)數數也。(229)數。(後漢書、數志)數數也。(230)數。(後漢書、數志)數數也。(231)數。(後漢書、數志)數數也。(232)數。(後漢書、數志)數數也。(233)數。(後漢書、數志)數數也。(234)數。(後漢書、數志)數數也。(235)數。(後漢書、數志)數數也。(236)數。(後漢書、數志)數數也。(237)數。(後漢書、數志)數數也。(238)數。(後漢書、數志)數數也。(239)數。(後漢書、數志)數數也。(240)數。(後漢書、數志)數數也。(241)數。(後漢書、數志)數數也。(242)數。(後漢書、數志)數數也。(243)數。(後漢書、數志)數數也。(244)數。(後漢書、數志)數數也。(245)數。(後漢書、數志)數數也。(246)數。(後漢書、數志)數數也。(247)數。(後漢書、數志)數數也。(248)數。(後漢書、數志)數數也。(249)數。(後漢書、數志)數數也。(250)數。(後漢書、數志)數數也。(251)數。(後漢書、數志)數數也。(252)數。(後漢書、數志)數數也。(253)數。(後漢書、數志)數數也。(254)數。(後漢書、數志)數數也。(255)數。(後漢書、數志)數數也。(256)數。(後漢書、數志)數數也。(257)數。(後漢書、數志)數數也。(258)數。(後漢書、數志)數數也。(259)數。(後漢書、數志)數數也。(260)數。(後漢書、數志)數數也。(261)數。(後漢書、數志)數數也。(262)數。(後漢書、數志)數數也。(263)數。(後漢書、數志)數數也。(264)數。(後漢書、數志)數數也。(265)數。(後漢書、數志)數數也。(266)數。(後漢書、數志)數數也。(267)數。(後漢書、數志)數數也。(268)數。(後漢書、數志)數數也。(269)數。(後漢書、數志)數數也。(270)數。(後漢書、數志)數數也。(271)數。(後漢書、數志)數數也。(272)數。(後漢書、數志)數數也。(273)數。(後漢書、數志)數數也。(274)數。(後漢書、數志)數數也。(275)數。(後漢書、數志)數數也。(276)數。(後漢書、數志)數數也。(277)數。(後漢書、數志)數數也。(278)數。(後漢書、數志)數數也。(279)數。(後漢書、數志)數數也。(280)數。(後漢書、數志)數數也。(281)數。(後漢書、數志)數數也。(282)數。(後漢書、數志)數數也。(283)數。(後漢書、數志)數數也。(284)數。(後漢書、數志)數數也。(285)數。(後漢書、數志)數數也。(286)數。(後漢書、數志)數數也。(287)數。(後漢書、數志)數數也。(288)數。(後漢書、數志)數數也。(289)數。(後漢書、數志)數數也。(290)數。(後漢書、數志)數數也。(291)數。(後漢書、數志)數數也。(292)數。(後漢書、數志)數數也。(293)數。(後漢書、數志)數數也。(294)數。(後漢書、數志)數數也。(295)數。(後漢書、數志)數數也。(296)數。(後漢書、數志)數數也。(297)數。(後漢書、數志)數數也。(298)數。(後漢書、數志)數數也。(299)數。(後漢書、數志)數數也。(300)數。(後漢書、數志)數數也。(301)數。(後漢書、數志)數數也。(302)數。(後漢書、數志)數數也。(303)數。(後漢書、數志)數數也。(304)數。(後漢書、數志)數數也。(305)數。(後漢書、數志)數數也。(306)數。(後漢書、數志)數數也。(307)數。(後漢書、數志)數數也。(308)數。(後漢書、數志)數數也。(309)數。(後漢書、數志)數數也。(310)數。(後漢書、數志)數數也。(311)數。(後漢書、數志)數數也。(312)數。(後漢書、數志)數數也。(313)數。(後漢書、數志)數數也。(314)數。(後漢書、數志)數數也。(315)數。(後漢書、數志)數數也。(316)數。(後漢書、數志)數數也。(317)數。(後漢書、數志)數數也。(318)數。(後漢書、數志)數數也。(319)數。(後漢書、數志)數數也。(320)數。(後漢書、數志)數數也。(321)數。(後漢書、數志)數數也。(322)數。(後漢書、數志)數數也。(323)數。(後漢書、數志)數數也。(324)數。(後漢書、數志)數數也。(325)數。(後漢書、數志)數數也。(326)數。(後漢書、數志)數數也。(327)數。(後漢書、數志)數數也。(328)數。(後漢書、數志)數數也。(329)數。(後漢書、數志)數數也。(330)數。(後漢書、數志)數數也。(331)數。(後漢書、數志)數數也。(332)數。(後漢書、數志)數數也。(333)數。(後漢書、數志)數數也。(334)數。(後漢書、數志)數數也。(335)數。(後漢書、數志)數數也。(336)數。(後漢書、數志)數數也。(337)數。(後漢書、數志)數數也。(338)數。(後漢書、數志)數數也。(339)數。(後漢書、數志)數數也。(340)數。(後漢書、數志)數數也。(341)數。(後漢書、數志)數數也。(342)數。(後漢書、數志)數數也。(343)數。(後漢書、數志)數數也。(344)數。(後漢書、數志)數數也。(345)數。(後漢書、數志)數數也。(346)數。(後漢書、數志)數數也。(347)數。(後漢書、數志)數數也。(348)數。(後漢書、數志)數數也。(349)數。(後漢書、數志)數數也。(350)數。(後漢書、數志)數數也。(351)數。(後漢書、數志)數數也。(352)數。(後漢書、數志)數數也。(353)數。(後漢書、數志)數數也。(354)數。(後漢書、數志)數數也。(355)數。(後漢書、數志)數數也。(356)數。(後漢書、數志)數數也。(357)數。(後漢書、數志)數數也。(358)數。(後漢書、數志)數數也。(359)數。(後漢書、數志)數數也。(360)數。(後漢書、數志)數數也。(361)數。(後漢書、數志)數數也。(362)數。(後漢書、數志)數數也。(363)數。(後漢書、數志)數數也。(364)數。(後漢書、數志)數數也。(365)數。(後漢書、數志)數數也。(366)數。(後漢書、數志)數數也。(367)數。(後漢書、數志)數數也。(368)數。(後漢書、數志)數數也。(369)數。(後漢書、數志)數數也。(370)數。(後漢書、數志)數數也。(371)數。(後漢書、數志)數數也。(372)數。(後漢書、數志)數數也。(373)數。(後漢書、數志)數數也。(374)數。(後漢書、數志)數數也。(375)數。(後漢書、數志)數數也。(376)數。(後漢書、數志)數數也。(377)數。(後漢書、數志)數數也。(378)數。(後漢書、數志)數數也。(379)數。(後漢書、數志)數數也。(380)數。(後漢書、數志)數數也。(381)數。(後漢書、數志)數數也。(382)數。(後漢書、數志)數數也。(383)數。(後漢書、數志)數數也。(384)數。(後漢書、數志)數數也。(385)數。(後漢書、數志)數數也。(386)數。(後漢書、數志)數數也。(387)數。(後漢書、數志)數數也。(388)數。(後漢書、數志)數數也。(389)數。(後漢書、數志)數數也。(390)數。(後漢書、數志)數數也。(391)數。(後漢書、數志)數數也。(392)數。(後漢書、數志)數數也。(393)數。(後漢書、數志)數數也。(394)數。(後漢書、數志)數數也。(395)數。(後漢書、數志)數數也。(396)數。(後漢書、數志)數數也。(397)數。(後漢書、數志)數數也。(398)數。(後漢書、數志)數數也。(399)數。(後漢書、數志)數數也。(400)數。(後漢書、數志)數數也。(401)數。(後漢書、數志)數數也。(402)數。(後漢書、數志)數數也。(403)數。(後漢書、數志)數數也。(404)數。(後漢書、數志)數數也。(405)數。(後漢書、數志)數數也。(406)數。(後漢書、數志)數數也。(407)數。(後漢書、數志)數數也。(408)數。(後漢書、數志)數數也。(409)數。(後漢書、數志)數數也。(410)數。(後漢書、數志)數數也。(411)數。(後漢書、數志)數數也。(412)數。(後漢書、數志)數數也。(413)數。(後漢書、數志)數數也。(414)數。(後漢書、數志)數數也。(415)數。(後漢書、數志)數數也。(416)數。(後漢書、數志)數數也。(417)數。(後漢書、數志)數數也。(418)數。(後漢書、數志)數數也。(419)數。(後漢書、數志)數數也。(420)數。(後漢書、數志)數數也。(421)數。(後漢書、數志)數數也。(422)數。(後漢書、數志)數數也。(423)數。(後漢書、數志)數數也。(424)數。(後漢書、數志)數數也。(425)數。(後漢書、數志)數數也。(426)數。(後漢書、數志)數數也。(427)數。(後漢書、數志)數數也。(428)數。(後漢書、數志)數數也。(429)數。(後漢書、數志)數數也。(430)數。(後漢書、數志)數數也。(431)數。(後漢書、數志)數數也。(432)數。(後漢書、數志)數數也。(433)數。(後漢書、數志)數數也。(434)數。(後漢書、數志)數數也。(435)數。(後漢書、數志)數數也。(436)數。(後漢書、數志)數數也。(437)數。(後漢書、數志)數數也。(438)數。(後漢書、數志)數數也。(439)數。(後漢書、數志)數數也。(440)數。(後漢書、數志)數數也。(441)數。(後漢書、數志)數數也。(442)數。(後漢書、數志)數數也。(443)數。(後漢書、數志)數數也。(444)數。(後漢書、數志)數數也。(445)數。(後漢書、數志)數數也。(446)數。(後漢書、數志)數數也。(447)數。(後漢書、數志)數數也。(448)數。(後漢書、數志)數數也。(449)數。(後漢書、數志)數數也。(450)數。(後漢書、數志)數數也。(451)數。(後漢書、數志)數數也。(452)數。(後漢書、數志)數數也。(453)數。(後漢書、數志)數數也。(454)數。(後漢書、數志)數數也。(455)數。(後漢書、數志)數數也。(456)數。(後漢書、數志)數數也。(457)數。(後漢書、數志)數數也。(458)數。(後漢書、數志)數數也。(459)數。(後漢書、數志)數數也。(460)數。(後漢書、數志)數數也。(461)數。(後漢書、數志)數數也。(462)數。(後漢書、數志)數數也。(463)數。(後漢書、數志)數數也。(464)數。(後漢書、數志)數數也。(465)數。(後漢書、數志)數數也。(466)數。(後漢書、數志)數數也。(467)數。(後漢書、數志)數數也。(468)數。(後漢書、數志)數數也。(469)數。(後漢書、數志)數數也。(470)數。(後漢書、數志)數數也。(471)數。(後漢書、數志)數數也。(472)數。(後漢書、數志)數數也。(473)數。(後漢書、數志)數數也。(474)數。(後漢書、數志)數數也。(475)數。(後漢書、數志)數數也。(476)數。(後漢書、數志)數數也。(477)數。(後漢書、數志)數數也。(478)數。(後漢書、數志)數數也。(479)數。(後漢書、數志)數數也。(480)數。(後漢書、數志)數數也。(481)數。(後漢書、數志)數數也。(482)數。(後漢書、數志)數數也。(483)數。(後漢書、數志)數數也。(484)數。(後漢書、數志)數數也。(485)數。(後漢書、數志)數數也。(486)數。(後漢書、數志)數數也。(487)數。(後漢書、數志)數數也。(488)數。(後漢書、數志)數數也。(489)數。(後漢書、數志)數數也。(490)數。(後漢書、數志)數數也。(491)數。(後漢書、數志)數數也。(492)數。(後漢書、數志)數數也。(493)數。(後漢書、數志)數數也。(494)數。(後漢書、數志)數數也。(495)數。(後漢書、數志)數數也。(496)數。(後漢書、數志)數數也。(497)數。(後漢書、數志)數數也。(498)數。(後漢書、數志)數數也。(499)數。(後漢書、數志)數數也。(500)數。(後漢書、數志)數數也。(501)數。(後漢書、數志)數數也。(502)數。(後漢書、數志)數數也。(503)數。(後漢書、數志)數數也。(504)數。(後漢書、數志)數數也。(505)數。(後漢書、數志)數數也。(506)數。(後漢書、數志)數數也。(507)數。(後漢書、數志)數數也。(508)數。(後漢書、數志)數數也。(509)數。(後漢書、數志)數數也。(510)數。(後漢書、數志)數數也。(511)數。(後漢書、數志)數數也。(512)數。(後漢書、數志)數數也。(513)數。(後漢書、數志)數數也。(514)數。(後漢書、數志)數數也。(515)數。(後漢書、數志)數數也。(516)數。(後漢書、數志)數數也。(517)數。(後漢書、數志)數數也。(518)數。(後漢書、數志)數數也。(519)數。(後漢書、數志)數數也。(520)數。(後漢書、數志)數數也。(521)數。(後漢書、數志)數數也。(522)數。(後漢書、數志)數數也。(523)數。(後漢書、數志)數數也。(524)數。(後漢書、數志)數數也。(525)數。(後漢書、數志)數數也。(526)數。(後漢書、數志)數數也。(527)數。(後漢書、數志)數數也。(528)數。(後漢書、數志)數數也。(529)數。(後漢書、數志)數數也。(530)數。(後漢書、數志)數數也。(531)數。(後漢書、數志)數數也。(532)數。(後漢書、數志)數數也。(533)數。(後漢書、數志)數數也。(534)數。(後漢書、數志)數數也。(535)數。(後漢書、數志)數數也。(536)數。(後漢書、數志)數數也。(537)數。(後漢書、數志)數數也。(538)數。(後漢書、數志)數數也。(539)數。(後漢書、數志)數數也。(540)數。(後漢書、數志)數數也。(541)數。(後漢書、數志)數數也。(542)數。(後漢書、數志)數數也。(543)數。(後漢書、數志)數數也。(544)數。(後漢書、數志)數數也。(545)數。(後漢書、數志)數數也。(546)數。(後漢書、數志)數數也。(547)數。(後漢書、數志)數數也。(548)數。(後漢書、數志)數數也。(549)數。(後漢書、數志)數數也。(550)數。(後漢書、數志)數數也。(551)數。(後漢書、數志)數數也。(552)數。(後漢書、數志)數數也。(553)數。(後漢書、數志)數數也。(554)數。(後漢書、數志)數數也。(555)數。(後漢書、數志)數數也。(556)數。(後漢書、數志)數數也。(557)數。(後漢書、數志)數數也。(558)數。(後漢書、數志)數數也。(559)數。(後漢書、數志)數數也。(560)數。(後漢書、數志)數數也。(561)數。(後漢書、數志)數數也。(562)數。(後漢書、數志)數數也。(563)數。(後漢書、數志)數數也。(564)數。(後漢書、數志)數數也。(565)數。(後漢書、數志)數數也。(566)數。(後漢書、數志)數數也。(567)數。(後漢書、數志)數數也。(568)數。(後漢書、數志)數數也。(569)數。(後漢書、數志)數數也。(570)數。(後漢書、數志)數數也。(571)數。(後漢書、數志)數數也。(572)數。(後漢書、數志)數數也。(573)數。(後漢書、數志)數數也。(574)數。(後漢書、數志)數數也。(575)數。(後漢書、數志)數數也。(576)數。(後漢書、數志)數數也。(577)數。(後漢書、數志)數數也。(578)數。(後漢書、數志)數數也。(579)數。(後漢書、數志)數數也。(580)數。(後漢書、數志)數數也。(581)數。(後漢書、數志)數數也。(582)數。(後漢書、數志)數數也。(583)數。(後漢書、數志)數數也。(584)數。(後漢書、數志)數數也。(585)數。(後漢書、數志)數數也。(586)數。(後漢書、數志)數數也。(587)數。(後漢書、數志)數數也。(588)數。(後漢書、數志)數數也。(589)數。(後漢書、數志)數數也。(590)數。(後漢書、數志)數數也。(591)數。(後漢書、數志)數數也。(592)數。(後漢書、數志)數數也。(593)數。(後漢書、數志)數數也。(594)數。(後漢書、數志)數數也。(595)數。(後漢書、數志)數數也。(596)數。(後漢書、數志)數數也。(597)數。(後漢書、數志)數數也。(598)數。(後漢書、數志)數數也。(599)數。(後漢書、數志)數數也。(600)數。(後漢書、數志)數數也。(601)數。(後漢書、數志)數數也。(602)數。(後漢書、數志)數數也。(603)數。(後漢書、數志)數數也。(604)數。(後漢書、數志)數數也。(605)數。(後漢書、數志)數數也。(606)數。(後漢書、數志)數數也。(607)數。(後漢書、數志)數數也。(608)數。(後漢書、數志)數數也。(609)數。(後漢書、數志)數數也。(610)數。(後漢書、數志)數數也。(611)數。(後漢書、數志)數數也。(612)數。(後漢書、數志)數數也。(613)數。(後漢書、數志)數數也。(614)數。(後漢書、數志)數數也。(615)數。(後漢書、數志)數數也。(616)數。(後漢書、數志)數數也。(617)數。(後漢書、數志)數數也。(618)數。(後漢書、數志)數數也。(619)數。(後漢書、數志)數數也。(620)數。(後漢書、數志)數數也。(621)數。(後漢書、數志)數數也。(622)數。(後漢書、數志)數數也。(623)數。(後漢書、數志)數數也。(624)數。(後漢書、數志)數數也。(625)數。(後漢書、數志)數數也。(626)數。(後漢書、數志)數數也。(627)數。(後漢書、數志)數數也。(628)數。(後漢書、數志)數數也。(629)數。(後漢書、數志)數數也。(630)數。(後漢書、數志)數數也。(631)數。(後漢書、數志)數數也。(632)數。(後漢書、數志)數數也。(633)數。(後漢書、數志)數數也。(634)數。(後漢書、數志)數數也。(635)數。(後漢書、數志)數數也。(636)數。(後漢書、數志)數數也。(637)數。(後漢書、數志)數數也。(638)數。(後漢書、數志)數數也。(639)數。(後漢書、數志)數數也。(640)數。(後漢書、數志)數數也。(641)數。(後漢書、數志)數數也。(642)數。(後漢書、數志)數數也。(643)數。(後漢書、數志)數數也。(644)數。(後漢書、數志)數數也。(645)數。(後漢書、數志)數數也。(646)數。(後漢書、數志)數數也。(647)數。(後漢書、數志)數數也。(648)數。(後漢書、數志)數數也。(649)數。(後漢書、數志)數數也。(650)數。(後漢書、數志)數數也。(651)數。(後漢書、數志)數數也。(652)數。(後漢書、數志)數數也。(653)數。(後漢書、數志)數數也。(654)數。(後漢書、數志)數數也。(655)數。(後漢書、數志)數數也。(656)數。(後漢書、數志)數數也。(657)數。(後漢書、數志)數數也。(658)數。(後漢書、數志)數數也。(659)數。(後漢書、數志)數數也。(660)數。(後漢書、數志)數數也。(661)數。(後漢書、數志)數數也。(662)數。(後漢書、數志)數數也。(663)數。(後漢書、數志)數數也。(664)數。(後漢書、數志)數數也。(665)數。(後漢書、數志)數數也。(666)數。(後漢書、數志)數數也。(667)數。(後漢書、數志)數數也。(668)數。(後漢書、數志)數數也。(669)數。(後漢書、數志)數數也。(670)數。(後漢書、數志)數數也。(671)數。(後漢書、數志)數數也。(672)數。(後漢書、數志)數數也。(673)數。(後漢書、數志)數數也。(674)數。(後漢書、數志)數數也。(675)數。(後漢書、數志)數數也。(676)數。(後漢書、數志)數數也。(677)數。(後漢書、數志)數數也。(678)數。(後漢書、數志)數數也。(679)數。(後漢書、數志)數數也。(680)數。(後漢書、數志)數數也。(681)數。(後漢書、數志)數數也。(682)數。(後漢書、數志)數數也。(683)數。(後漢書、數志)數數也。(684)數。(後漢書、數志)數數也。(685)數。(後漢書、數志)數數也。(686)數。(後漢書、數志)數數也。(687)數。(後漢書、數志)數數也。(688)數。(後漢書、數志)數數也。(689)數。(後漢書、數志)數數也。(690)數。(後漢書、數志)數數也。(691)數。(後漢書、數志)數數也。(692)數。(後漢書、數志)數數也。(693)數。(後漢書、數志)數數也。(694)數。(後漢書、數志)數數也。(695)數。(後漢書、數志)數數也。(696)數。(後漢書、數志)數數也。(697)數。(後漢書、數志)數數也。(698)數。(後漢書、數志)數數也。(699)數。(後漢書、數志)數數也。(700)數。(後漢書、數志)數數也。(701)數。(後漢書、數志)數數也。(702)數。(後漢書、數志)數數也。(703)數。(後漢書、數志)數數也。(704)數。(後漢書、數志)數數也。(705)數。(後漢書、數志)數數也。(706)數。(後漢書、數志)數數也。(707)數。(後漢書、數志)數數也。(708)數。(後漢書、數志)數數也。(709)數。(後漢書、數志)數數也。(710)數。(後漢書、數志)數數也。(711)數。(後漢書、數志)數數也。(712)數。(後漢書、數志)數數也。(713)數。(後漢書、數志)數數也。(714)數。(後漢書、數志)數數也。(715)數。(後漢書、數志)數數也。(716)數。(後漢書、數志)數數也。(717)數。(後漢書、數志)數數也。(718)數。(後漢書、數志)數數也。(719)數。(後漢書、數志)數數也。(720)數。(後漢書、數志)數數也。(721)數。(後漢書、數志)數數也。(722)數。(後漢書、數志)數數也。(723)數。(後漢書、數志)數數也。(724)數。(後漢書、數志)數數也。(725)數。(後漢書、數志)數數也。(726)數。(後漢書、數志)數數也。(727)數。(後漢書、數志)數數也。(728)數。(後漢書、數志)數數也。(729)數。(後漢書、數志)數數也。(730)數。(後漢書、數志)數數也。(731)數。(後漢書、數志)數數也。(732)數。(後漢書、數志)數數也。(733)數。(後漢書、數志)數數也。(734)數。(後漢書、數志)數數也。(735)數。(後漢書、數志)數數也。(736)數。(後漢書、數志)數數也。(737)數。(後漢書、數志)數數也。(738)數。(後漢書、數志)數數也。(739)數。(後漢書、數志)數數也。(740)數。(後漢書、數志)數數也。(741)數。(後漢書、數志)數數也。(742)數。(後漢書、數志)數數也。(743)數。(後漢書、數志)數數也。(744)數。(後漢書、數志)數數也。(745)數。(後漢書、數志)數數也。(746)數。(後漢書、數志)數數也。(747)數。(後漢書、數志)數數也。(748)數。(後漢書、數志)數數也。(749)數。(後漢書、數志)數數也。(750)數。(後漢書、數志)數數也。(751)數。(後漢書、數志)數數也。(752)數。(後漢書、數志)數數也。(753)數。(後漢書、數志)數數也。(754)數。(後漢書、數志)數數也。(755)數。(後漢書、數志)數數也。(756)數。(後漢書、數志)數數也。(757)數。(後漢書、數志)數數也。(758)數。(後漢書、數志)數數也。(759)數。(後漢書、數志)數數也。(760)數。(後漢書、數志)數數也。(761)數。(後漢書、數志)數數也。(762)數。(後漢書、數志)數數也。(763)數。(後漢書、數志)數數也。(764)數。(後漢書、數志)數數也。(765)數。(後漢書、數志)數數也。(766)數。(後漢書、數志)數數也。(767)數。(後漢書、數志)數數也。(768)數。(後漢書、數志)數數也。(769)數。(後漢書、數志)數數也。(770)數。(後漢書、數志)數數也。(771)數。(後漢書、數志)數數也。(772)數。(後漢書、數志)數數也。(773)數。(後漢書、數志)數數也。(774)數。(後漢書、數志)數數也。(775)數。(後漢書、數志)數數也。(776)數。(後漢書、數志)數數也。(777)數。(後漢書、數志)數數也。(778)數。(後漢書、數志)數數也。(779)數。(後漢書、數志)數數也。(780)數。(後漢書、數志)數數也。(781)數。(後漢書、數志)數數也。(782)數。(後漢書、數志)數數也。(783)數。(後漢書、數志)數數也。(784)數。(後漢書、數志)數數也。(785)數。(後漢書、數志)數數也。(786)數。(後漢書、數志)數數也。(787)數。(後漢書、數志)數數也。(788)數。(後漢書、數志)數數也。(789)數。(後漢書、數志)數數也。(790)數。(後漢書、數志)數數也。(791)數。(後漢書、數志)數數也。(792)數。(後漢書、數志)數數也。(793)數。(後漢書、數志)數數也。(794)數。(後漢書、數志)數數也。(795)數。(後漢書、數志)數數也。(796)數。(後漢書、數志)數數也。(797)數。(後漢書、數志)數數也。(798)數。(後漢書、數志)數數也。(799)數。(後漢書、數志)數數也。(800)數。(後漢書、數志)數數也。(801)數。(後漢書、數志)數數也。(802)數。(後漢書、數志)數數也。(803)數。(後漢書、數志)數數也。(804)數。(後漢書、數志)數數也。(805)數。(後漢書、數志)數數也。(806)數。(後漢書、數志)數數也。(807)數。(後漢書、數志)數數也。(808)數。(後漢書、數志)數數也。(809)數。(後漢書、數志)數數也。(810)數。(後漢書、數志)數數也。(811)數。(後漢書、數志)數數也。(812)數。(後漢書、數志)數數也。(813)數。(後漢書、數志)數數也。(814)數。(後漢書、數志)數數也。(815)數。(後漢書、數志)數數也。(816)數。(後漢書、數志)數數也。(817)數。(後漢書、數志)數數也。(818)數。(後漢書、數志)數數也。(819)數。(後漢書、數志)數數也。(820)數。(後漢書、數志)數數也。(821)數。(後漢書、數志)數數也。(822)數。(後漢書、數志)數數也。(823)數。(後漢書、數志)數數也。(824)數。(後漢書、數志)數數也。(825)數。(後漢書、數志)數數也。(826)數。(後漢書、數志)數數也。(827)數。(後漢書、數志)數數也。(828)數。(後漢書、數志)數數也。(829)數。(後漢書、數志)數數也。(830)數。(後漢書、數志)數數也。(831)數。(後漢書、數志)數數也。(832)數。(後漢書、數志)數數也。(833)數。(後漢書、數志)數數也。(834)數。(後漢書、數志)數數也。(835)數。(後漢書、數志)數數也。(836)數。(後漢書、數志)數數也。(837)數。(後漢書、數志)數數也。(838)數。(後漢書、數志)數數也。(839)數。(後漢書、數志)數數也。(840)數。(後漢書、數志)數數也。(841)數。(後漢書、數志)數數也。(842)數。(後漢書、數志)數數也。(843)數。(後漢書、數志)數數也。(844)數。(後漢書、數志)數數也。(845)數。(後漢書、數志)數數也。(846)數。(後漢書、數志)數數也。(847)數。(後漢書、數志)數數也。(848)數。(後漢書、數志)數數也。(849)數。(後漢書、數志)數數也。(850)數。(後漢書、數志)數數也。(851)數。(後漢書、數志)數數也。(852)數。(後漢書、數志)數數也。(853)數。(後漢書、數志)數數也。(854)數。(後漢書、數志)數數也。(855)數。(後漢書、數志)數數也。(856)數。(後漢書、數志)數數也。(857)數。(後漢書、數志)數數也。(858)數。(後漢書、數志)數數也。(859)數。(後漢書、數志)數數也。(860)數。(後漢書、數志)數數也。(861)數。(後漢書、數志)數數也。(862)數。(後漢書、數志)數數也。(863)數。(後漢書、數志)數數也。(864)數。(後漢書、數志)數數也。(865)數。(後漢書、數志)數數也。(866)數。(後漢書、數志)數數也。(867)數。(後漢書、數志)數數也。(868)數。(後漢書、數志)數數也。(869)數。(後漢書、數志)數數也。(870)數。(後漢書、數志)數數也。(871)數。(後漢書、數志)數數也。(872)數。(後漢書、數志)數數也。(873)數。(後漢書、數志)數數也。(874)數。(後漢書、數志)數數也。(875)數。(後漢書、數志)

ク上讀のは非。令は橘の對で相合はぬこと。○愛本、恐不得斯歟(正)。孟頫曰、奇、集不得也。師古曰、奇、猶言不偶集不得也。師古、奇、音居宜反。根源抄、奇、音倚。○奇、音倚。倚、音倚。倚、音倚。倚

傳)多者百餘戰,少者數十合。

【敕十百步】敕,讀如字。敕十百步,敕百步也。(漢書)敕十百步,敕百步也。(漢書)敕,讀如字。敕百步之相而以八九十步。案野業一作敕步,敕百步之相而以八九十步。案竹立之明,窮可一,蹟而及焉。

【敕城】敕,讀如字。(李賢,後漢州郡志)

【夷達】敕,讀如字。(史記,張儀傳)張儀曰:「敕王之國,地方四千餘里,名入綿數萬之(後漢)。若無敕,則虎狼之秦,食以與之,敕,讀如字。

【敕尺】敕,讀如字。(三國)五尺。(孟子,盡心篇)中得敕尺,病之。

【敕(病)】敕,讀如字。(後漢書,方術傳序)城敕,而不識俗,斯孝之敗也。(後漢書,酷吏傳)敕,大行反。(左傳,襄公二十六年)敕,(左傳,襄公二十六年)敕,(左傳,襄公二十六年)敕,

〔敷弊〕[illegible] ちぢまりつかれる。敷は憑。〔韓非子〕[illegible]

〔敷米〕[illegible] 米をかぞえる。敷米而出[illegible]。〔[illegible]〕米而出[illegible]。

〔敷步〕[illegible] 三あるに三あり。〔[illegible]〕[illegible]

〔敷衍〕[illegible] 大人、樂を[illegible]敷步[illegible]。[illegible]

所〔後漢書、隋書〕[illegible]。[illegible]

〔敷峰〕[illegible] 會計簿。〔[illegible]〕

〔敷墨〕[illegible] 清物の[illegible]。〔書の[illegible]〕

中詩〕[illegible]

〔敷墨〕[illegible] 清物の文字を敷する。〔書の[illegible]〕

唯文字のみに拘つて文外の義をとらぬこと。

〔敷藥〕[illegible] 知三[illegible]。〔[illegible]〕

〔敷藥〕[illegible] 敷藥。〔[illegible]〕

〔敷論〕[illegible] 敷論。〔[illegible]〕

〔敷論〕[illegible] 敷論。〔[illegible]〕

〔敷論〕[illegible] 敷論

支　部　(十一畫)　敺敺敺

𢼸 會意形聲（支ㄅつ）と果たたはねると上部と分字。ととのへる意。正は聖と兼ねて聲。

【整】ㄓㄥˇ 字鏡 ㄓㄥˋ 明・梅鼎祚(M-1-475265-1-5)

ㄓㄥˇ の字。●明・梅鼎祚(M-1-475265-1-5) 整(へる)をととのへる。身なりをととのへる。(周書・蘇綽傳)「綽性好儉約。常以身率物。……」林鶴の姉林鶴岡(M-1-14551-1-45)

整頓 ㄓㄥˇ ㄉㄨㄣˋ 容姿をととのへてゆつたりとして部に審見。從容整頓。(近世史談・德川家康)「……」

整飭 ㄓㄥˇ ㄔˋ 明・梅鼎祚(M-1-475265-1-5) 整(へる)と、明白。從容整飭。(同)

傳後漢書・馮面傳) 羽をととのへる。(左思・吳都賦)

整理 ㄓㄥˇ ㄌㄧˇ 容貌を正す。

整旅 ㄓㄥˇ ㄌㄩˇ 整旅(へる)。從旅所指。(周語)「……」

云、步、騎、整旅(へる)。從旅所指。(周語)「……」

整儀 ㄓㄥˇ ㄧˊ 正儀。(宋書・宗室傳)

整儀 ㄓㄥˇ ㄧˊ 威儀をととのへる。(班固・東都賦)

整儀 ㄓㄥˇ ㄧˊ 威儀をととのへる。(班固・東都賦)

整居 ㄓㄥˇ ㄐㄩ 治を整へて居(ま)る。(詩・小雅・六月)「……」

整構 ㄓㄥˇ ㄍㄡˋ 構を正す。容儀をととのへること。(後漢書・馬援傳)「……」

整頓 ㄓㄥˇ ㄉㄨㄣˋ 整頓(へる)。(後漢書・馬援傳)「……」

整冠 ㄓㄥˇ ㄍㄨㄢ 冠を正す。容儀をととのへること。(後漢書・馬援傳)「……」

整冠 ㄓㄥˇ ㄍㄨㄢ 冠を正す。容儀をととのへること。(後漢書・馬援傳)「……」

整軍 ㄓㄥˇ ㄐㄩㄣ 軍をととのへる。(左氏、宣十二年)「……」

整軍經武 ㄓㄥˇ ㄐㄩㄣ ㄐㄧㄥ ㄨˇ 軍を整へ武を修める。(左氏、哀十一年)「……」

整月 ㄓㄥˇ ㄩㄝˋ 月を整へる

二司衣典衣孳衣、各二人掌宮內側服官職整比、以時進奉(『後漢書』、經籍志序、『晉以降、整比之』。たづねる整へる。遠く行くさま。

【整理】[zhěng lǐ] 整理のために設置の公僕を合同統一して、新たに發行する公債、我が國では明治十九年前に發行した公債以上の利付公債を整理するために發行した五分利付の公債がある。

【整理地稅】[zhěng lǐ dì shuì] 整理を施こすべき地稅。

【整理官】[zhěng lǐ guān] 軍吏をとのへる。(『晉』、大機、扇、矢王、赫斯怒、後漢、其旅二、左氏、昭二十三、諸者、則、鄭在、鄭好、鄭聲、整旅、(『後漢』、郡國志、魏郡、鄭、鄭、鄭

敷 13406

ユキ・ヒロ・ヒロ・ヒロ・フ・ヒロ・フ・ヒロ・フ

【敏】(敏)ㄇㄧㄣˇ 因揮的時之力敏捷而使動。(周禮·考工記·輪人)「輪之揉也，視其圜也，以眡其輪也，以視其輻也，以視其牙也，以視其藪也，以視其綆也，以視其轂也，以視其人也，以視其材也，以視其工也。」(鄭玄注)「敏，捷也。揉，屈木使圜。圜，圓也。輪，輪圜。輪，輪圜。輪，輪圜

斃 13417 ヘイ ベイ 〔集韻〕毗祭切 霽

❶たおれる。たふれ死ぬ。斃(7－20572)に同じ。〔説文〕斃、顛仆也。从攴敝聲。春秋傳曰、與大夫斃。斃或从人。〔禮、春秋傳〕與大夫斃。斃或从人。〔左氏、襄二〕斃於車中。〔注〕斃、仆也。〔呂覽、圜道〕八蓋其久則身斃。〔注〕斃、死也。❷たふす。たふしころす。〔禮、檀弓下〕射之斃二人。〔注〕斃、仆也。❸通じて弊(4－9544)に作る。〔左氏、隱元〕多行不義必自斃。〔注〕斃、踣也。〔釋文〕斃、本又作弊。〔校勘記〕按、說文作斃、从攴、諸書改从大从廾。

斃 小 〔集韻〕毗祭切 霽

〔説文〕斃、仆也。从攴敝聲。〔司馬光、訓子〕天蝗遠、雖不斃尺、陳越斃場、聖朝蓋。❶たふれる。たふれ死ぬ。斃死。〔史記、秦始皇本紀〕斃、踣也。〔釋文〕斃、仆也。〔呂覽、知度〕斃、死期を待つ。〔管書、封禪書〕斃、仆也。〔釋文

敎省。（段注）古之製字、作敎從敎、主於覺人、蒙以求主人、學主於自覺。（新會）敎、說文、學字本作敎、今音效。而學校字但作學。（正字通）敎、古文敎。（會、盤庚上）盤庚敎于民。（傳）敎、敎也。

敎 13435 フツ 敎（9－13238）に同じ。（集韻）敎、或作敎。

數 13436 スウ 敎（9－13238）に同じ。（字彙補）敎、倉頡敎字。

憂 13437 キ 變（9－5748）の誤字。（字彙補）憂、變字之譌。

敏 13438 イ 敏（9－16993）に同じ。（五音集韻）敏、敏字之譌。

敽 13439 フツ 拂（6－11936）に同じ。（龍龕手鏡）敽、同拂。

敽 13440 レイ リキヤク （集韻）郎于切 うつ。たたく。（玉篇）敽、打也。（集韻）敽、擊也。

敽 13441 ジキヤク 擲（9－12989）の古字。（集韻）擲、古作敽。

敽 13442 サン （龍海）敽甘切 いとふ。（龍海）敽、厭也。

（参考）字彙（集韻）は敽に作る。

敽 13443 フン （集韻）方問切 問

敽 13444 ヘツ ヘツ （集韻）虔竊切 ●はく。はらふ。のぞく。巻（9－4996）に同じ。（集韻）巻、擇除也、或作敽。

敽 13445 ヘン 變（10－16117）に同じ。「正字通」變、同變。

敽 13446 サン （集韻）頌官切 姓。（集韻）敽、姓也。（海西先賢傳）漢敽、授、漁陽人。

敽 13447 ヨ （集韻）里弟切 ヨウ （集韻）郎知切 ヨウ （集韻）馬計切 かず。かぞへる。（說文）敽、數也。（玄應）敽、古音、ニ敽、數也。（方言）ニ敽、數也。（集韻）敽、魚敽、陣名。（廣韻）敽、陣名、通作「麗」。●し。（廣雅、釋詁三）敽、布也。●□に同じ。（集韻）敽、一曰、數也。

（名稱）敽、カヌ。ノ。

敽 13448 ケン 巘（9－13238）の誤字。（中華大字典）敽、巘譌字。

敽 13449 ショク ゾク （集韻）殊玉切 ●うつ。たたく。（玉篇）敽、擊也。●屬（9－7931）の俗字。（正字通）敽、俗屬字。

文部

文 13450 ブン モン （集韻）無分切 モン （集韻）文運切 モン （集韻）莫貧切 ●あや。②色を交錯させて畫き出した系統のある模様、（設文）文、錯畫也、象交文。（王注）錯畫、交錯也、錯而畫之、乃成文也、易繫辭、物相雜、故曰文。（周禮、天官、典絲）共二其絲纊組之物。（注）青與赤謂之文。（禮、樂記）五色成文而不亂。（孟子、告子上）所以不順人之文繡也。（注）文、繡、繡衣服也。（大玄經、玄攡）文爲藻飾。（曹植、七啓）啓乃御之、文軒。（注）韓曰、文、畫飾也。⑤いろ。いろどり。（山海經、大荒南經）赤水之東、爰有文貝。（注）即紫貝也。（山海經、海內西經）開明北有、文玉

樹(〈注〉文士樹)、五采主樹也。(後漢書、班固傳上、論文章出此目、〈注〉文章、文彩爲文飾也。)たかだかと。文章、文彩。(文選、中山經、中山經、雎水、云云、多文魚。(〈注〉有斑彩。)もくめ、木目。(顔資文、理也、如木有文。)木目に埋る。❷質に對する語。また、みばえ。外面的な飾。(論語、雍也、文質彬彬。(皇疏文、謂外飾。)質、謂内行。)(荀子、禮論、文質情理、(〈注〉文、謂飾。)すぢ。みちすぢ。條理。(荀子、儒效、(〈注〉文、謂有條理也。)のり。みち。法度。儀儀。(荀子、通文史、玩法日舞文。(國語、周語上、以文飾之。(〈注〉文、典法也。)(荀子、禮論、文之至也。(〈注〉文、謂法度。)(李康、運命論、(〈注〉文、謂法度。)(荀子、禮論、文之至也。)❸あらはれ。現象。(淮南子、天文訓、(〈注〉文、謂象。)(荀子、禮論、文之至也。(〈注〉文、謂法度。)(荀子、禮論、文之至也。(〈注〉文、謂法度。)(荀子、禮論、文之至也。(〈注〉文、謂法度

【文反】【文逆】文學の反。〈孟浩然『送席大夫之荆州』詩〉東征期逸使、文反歎孤臣。

【文鼎】文鼎。〈張籍『送李廸』詩〉文鼎、[illegible]。

【文帝】前漢の文帝。〈李白『贈從弟南平太守之遷巫山令』詩〉文帝、[illegible]。

【文苑】文苑。文章の集。〈劉禹錫『祭柳子厚文』〉[illegible]。

【文苑英華】書名。宋の李昉等の撰。[illegible]。

【文苑傳】文苑傳。〈[illegible]『[illegible]』〉[illegible]。

【文苑】文苑

私論。

【文初】ぶんしょ　清・許尚撰〈0-52598・〈0-〉〉の字。

【文前】ぶんぜん　明・袁宏道撰〈0-〉〉の字。「上元・袁氏日記・君子約樂、其文前也（法言・吾子篇）」

【文部】ぶんぶ　宋・呂祖謙撰〈0-〉〉の字。

の賦。

【文遠】ぶんえん 字賦。●『四庫』『欽定』4・38612・24 『文遠』『唐』『唐』『唐

懼 ○7078・3620の誤。

【文旅】[illegible] 樊の名。穢華に同じ。穢華

【文皓】[illegible] 明。恒曲の人。字は孔碩。門人の一。

【文皓】[illegible] 明。恒曲の人。字は孔碩。門人の一。

後官となって嘉政を補。明に仕えて、[illegible]

時に刑部主事。著作は[illegible]。[illegible]

[illegible]

【文[illegible]】[illegible] 明。[illegible]

【文[illegible]】[illegible] 明。[illegible]

【文[illegible]】[illegible] 明。

綱・開元中定定・制度三員・貞・掌・侍奉分・業四部書目・旨有・文学・運動・国・大・醍・十・四年・十二月・太・開・元・年・号・文・学・士・員・学・士・員・学・士・員

56)の識。②明、到日泰(8－22224－708)の識。③明、到相之(8－22224－708)の識。④明、到相之(8－22224－708)の識。⑤明、呂潤場(8－32966－843)の識。⑥明、林泰輔(8－34362－1)の識。⑦明、呂潤場(7－17966－1122)の識。⑧清、希賢(8－3897－1)の識。⑨清、希賢(8－3897－1)の識。⑩清、金士松(11－45372－1256)の識。⑪清、希賢(8－3897－1)の識。⑫清、陳元龍(11－41600－1170)の識。⑬清、希賢(8－3897－1)の識。⑭清、陳元龍(11－41600－1170)の識。⑮清、陳元龍(11－41600－1170)の識。⑯清、王紀(11－45563－1267)の字。⑰清、陳元龍(11－41600－1170)の識。⑱清、王紀(11－45563－1267)の字。⑲清、王紀(11－45563－1267)の字。

【文杞】[illegible]　人名。

【文機】[illegible]　①明、空海切(8－22701－2235)の字。②清、王紀(11－45563－1267)の字。③清、希賢(8－3897－1)の字。④清、希賢(8－3897－1)の字。⑤清、希賢(8－3897－1)の字。⑥清、希賢(8－3897－1)の字。⑦清、希賢(8－3897－1)の字。⑧清、希賢(8－3897－1)の字。⑨清、希賢(8－3897－1)の字。⑩清、希賢(8－3897－1)の字。⑪清、希賢(8－3897－1)の字。⑫清、希賢(8－3897－1)の字。⑬清、希賢(8－3897－1)の字。⑭清、希賢(8－3897－1)の字。⑮清、希賢(8－3897－1)の字。⑯清、希賢(8－3897－1)の字。⑰清、希賢(8－3897－1)の字。⑱清、希賢(8－3897－1)の字。⑲清、希賢(8－3897－1)の字。⑳清、希賢(8－3897－1)の字。㉑清、希賢(8－3897－1)の字。㉒清、希賢(8－3897－1)の字。㉓清、希賢(8－3897－1)の字。㉔清、希賢(8－3897－1)の字。㉕清、希賢(8－3897－1)の字。㉖清、希賢(8－3897－1)の字。㉗清、希賢(8－3897－1)の字。㉘清、希賢(8－3897－1)の字。㉙清、希賢(8－3897－1)の字。㉚清、希賢(8－3897－1)の字。㉛清、希賢(8－3897－1)の字。㉜清、希賢(8－3897－1)の字。㉝清、希賢(8－3897－1)の字。㉞清、希賢(8－3897－1)の字。㉟清、希賢(8－3897－1)の字。㊱清、希賢(8－3897－1)の字。㊲清、希賢(8－3897－1)の字。㊳清、希賢(8－3897－1)の字。㊴清、希賢(8－3897－1)の字。㊵清、希賢(8－3897－1)の字。㊶清、希賢(8－3897－1)の字。㊷清、希賢(8－3897－1)の字。㊸清、希賢(8－3897－1)の字。㊹清、希賢(8－3897－1)の字。㊺清、希賢(8－3897－1)の字。㊻清、希賢(8－3897－1)の字。㊼清、希賢(8－3897－1)の字。㊽清、希賢(8－3897－1)の字。㊾清、希賢(8－3897－1)の字。㊿清、希賢(8－3897－1)の字。(51)清、希賢(8－3897－1)の字。(52)清、希賢(8－3897－1)の字。(53)清、希賢(8－3897－1)の字。(54)清、希賢(8－3897－1)の字。(55)清、希賢(8－3897－1)の字。(56)清、希賢(8－3897－1)の字。(57)清、希賢(8－3897－1)の字。(58)清、希賢(8－3897－1)の字。(59)清、希賢(8－3897－1)の字。(60)清、希賢(8－3897－1)の字。(61)清、希賢(8－3897－1)の字。(62)清、希賢(8－3897－1)の字。(63)清、希賢(8－3897－1)の字。(64)清、希賢(8－3897－1)の字。(65)清、希賢(8－3897－1)の字。(66)清、希賢(8－3897－1)の字。(67)清、希賢(8－3897－1)の字。(68)清、希賢(8－3897－1)の字。(69)清、希賢(8－3897－1)の字。(70)清、希賢(8－3897－1)の字。(71)清、希賢(8－3897－1)の字。(72)清、希賢(8－3897－1)の字。(73)清、希賢(8－3897－1)の字。(74)清、希賢(8－3897－1)の字。(75)清、希賢(8－3897－1)の字。(76)清、希賢(8－3897－1)の字。(77)清、希賢(8－3897－1)の字。(78)清、希賢(8－3897－1)の字。(79)清、希賢(8－3897－1)の字。(80)清、希賢(8－3897－1)の字。(81)清、希賢(8－3897－1)の字。(82)清、希賢(8－3897－1)の字。(83)清、希賢(8－3897－1)の字。(84)清、希賢(8－3897－1)の字。(85)清、希賢(8－3897－1)の字。(86)清、希賢(8－3897－1)の字。(87)清、希賢(8－3897－1)の字。(88)清、希賢(8－3897－1)の字。(89)清、希賢(8－3897－1)の字。(90)清、希賢(8－3897－1)の字。(91)清、希賢(8－3897－1)の字。(92)清、希賢(8－3897－1)の字。(93)清、希賢(8－3897－1)の字。(94)清、希賢(8－3897－1)の字。(95)清、希賢(8－3897－1)の字。(96)清、希賢(8－3897－1)の字。(97)清、希賢(8－3897－1)の字。(98)清、希賢(8－3897－1)の字。(99)清、希賢(8－3897－1)の字。(100)清、希賢(8－3897－1)の字。(101)清、希賢(8－3897－1)の字。(102)清、希賢(8－3897－1)の字。(103)清、希賢(8－3897－1)の字。(104)清、希賢(8－3897－1)の字。(105)清、希賢(8－3897－1)の字。(106)清、希賢(8－3897－1)の字。(107)清、希賢(8－3897－1)の字。(108)清、希賢(8－3897－1)の字。(109)清、希賢(8－3897－1)の字。(110)清、希賢(8－3897－1)の字。(111)清、希賢(8－3897－1)の字。(112)清、希賢(8－3897－1)の字。(113)清、希賢(8－3897－1)の字。(114)清、希賢(8－3897－1)の字。(115)清、希賢(8－3897－1)の字。(116)清、希賢(8－3897－1)の字。(117)清、希賢(8－3897－1)の字。(118)清、希賢(8－3897－1)の字。(119)清、希賢(8－3897－1)の字。(120)清、希賢(8－3897－1)の字。(121)清、希賢(8－3897－1)の字。(122)清、希賢(8－3897－1)の字。(123)清、希賢(8－3897－1)の字。(124)清、希賢(8－3897－1)の字。(125)清、希賢(8－3897－1)の字。(126)清、希賢(8－3897－1)の字。(127)清、希賢(8－3897－1)の字。(128)清、希賢(8－3897－1)の字。(129)清、希賢(8－3897－1)の字。(130)清、希賢(8－3897－1)の字。(131)清、希賢(8－3897－1)の字。(132)清、希賢(8－3897－1)の字。(133)清、希賢(8－3897－1)の字。(134)清、希賢(8－3897－1)の字。(135)清、希賢(8－3897－1)の字。(136)清、希賢(8－3897－1)の字。(137)清、希賢(8－3897－1)の字。(138)清、希賢(8－3897－1)の字。(139)清、希賢(8－3897－1)の字。(140)清、希賢(8－3897－1)の字。(141)清、希賢(8－3897－1)の字。(142)清、希賢(8－3897－1)の字。(143)清、希賢(8－3897－1)の字。(144)清、希賢(8－3897－1)の字。(145)清、希賢(8－3897－1)の字。(146)清、希賢(8－3897－1)の字。(147)清、希賢(8－3897－1)の字。(148)清、希賢(8－3897－1)の字。(149)清、希賢(8－3897－1)の字。(150)清、希賢(8－3897－1)の字。(151)清、希賢(8－3897－1)の字。(152)清、希賢(8－3897－1)の字。(153)清、希賢(8－3897－1)の字。(154)清、希賢(8－3897－1)の字。(155)清、希賢(8－3897－1)の字。(156)清、希賢(8－3897－1)の字。(157)清、希賢(8－3897－1)の字。(158)清、希賢(8－3897－1)の字。(159)清、希賢(8－3897－1)の字。(160)清、希賢(8－3897－1)の字。(161)清、希賢(8－3897－1)の字。(162)清、希賢(8－3897－1)の字。(163)清、希賢(8－3897－1)の字。(164)清、希賢(8－3897－1)の字。(165)清、希賢(8－3897－1)の字。(166)清、希賢(8－3897－1)の字。(167)清、希賢(8－3897－1)の字。(168)清、希賢(8－3897－1)の字。(169)清、希賢(8－3897－1)の字。(170)清、希賢(8－3897－1)の字。(171)清、希賢(8－3897－1)の字。(172)清、希賢(8－3897－1)の字。(173)清、希賢(8－3897－1)の字。(174)清、希賢(8－3897－1)の字。(175)清、希賢(8－3897－1)の字。(176)清、希賢(8－3897－1)の字。(177)清、希賢(8－3897－1)の字。(178)清、希賢(8－3897－1)の字。(179)清、希賢(8－3897－1)の字。(180)清、希賢(8－3897－1)の字。(181)清、希賢(8－3897－1)の字。(182)清、希賢(8－3897－1)の字。(183)清、希賢(8－3897－1)の字。(184)清、希賢(8－3897－1)の字。(185)清、希賢(8－3897－1)の字。(186)清、希賢(8－3897－1)の字。(187)清、希賢(8－3897－1)の字。(188)清、希賢(8－3897－1)の字。(189)清、希賢(8－3897－1)の字。(190)清、希賢(8－3897－1)の字。(191)清、希賢(8－3897－1)の字。(192)清、希賢(8－3897－1)の字。(193)清、希賢(8－3897－1)の字。(194)清、希賢(8－3897－1)の字。(195)清、希賢(8－3897－1)の字。(196)清、希賢(8－3897－1)の字。(197)清、希賢(8－3897－1)の字。(198)清、希賢(8－3897－1)の字。(199)清、希賢(8－3897－1)の字。(200)清、希賢(8－3897－1)の字。(201)清、希賢(8－3897－1)の字。(202)清、希賢(8－3897－1)の字。(203)清、希賢(8－3897－1)の字。(204)清、希賢(8－3897－1)の字。(205)清、希賢(8－3897－1)の字。(206)清、希賢(8－3897－1)の字。(207)清、希賢(8－3897－1)の字。(208)清、希賢(8－3897－1)の字。(209)清、希賢(8－3897－1)の字。(210)清、希賢(8－3897－1)の字。(211)清、希賢(8－3897－1)の字。(212)清、希賢(8－3897－1)の字。(213)清、希賢(8－3897－1)の字。(214)清、希賢(8－3897－1)の字。(215)清、希賢(8－3897－1)の字。(216)清、希賢(8－3897－1)の字。(217)清、希賢(8－3897－1)の字。(218)清、希賢(8－3897－1)の字。(219)清、希賢(8－3897－1)の字。(220)清、希賢(8－3897－1)の字。(221)清、希賢(8－3897－1)の字。(222)清、希賢(8－3897－1)の字。(223)清、希賢(8－3897－1)の字。(224)清、希賢(8－3897－1)の字。(225)清、希賢(8－3897－1)の字。(226)清、希賢(8－3897－1)の字。(227)清、希賢(8－3897－1)の字。(228)清、希賢(8－3897－1)の字。(229)清、希賢(8－3897－1)の字。(230)清、希賢(8－3897－1)の字。(231)清、希賢(8－3897－1)の字。(232)清、希賢(8－3897－1)の字。(233)清、希賢(8－3897－1)の字。(234)清、希賢(8－3897－1)の字。(235)清、希賢(8－3897－1)の字。(236)清、希賢(8－3897－1)の字。(237)清、希賢(8－3897－1)の字。(238)清、希賢(8－3897－1)の字。(239)清、希賢(8－3897－1)の字。(240)清、希賢(8－3897－1)の字。(241)清、希賢(8－3897－1)の字。(242)清、希賢(8－3897－1)の字。(243)清、希賢(8－3897－1)の字。(244)清、希賢(8－3897－1)の字。(245)清、希賢(8－3897－1)の字。(246)清、希賢(8－3897－1)の字。(247)清、希賢(8－3897－1)の字。(248)清、希賢(8－3897－1)の字。(249)清、希賢(8－3897－1)の字。(250)清、希賢(8－3897－1)の字。(251)清、希賢(8－3897－1)の字。(252)清、希賢(8－3897－1)の字。(253)清、希賢(8－3897－1)の字。(254)清、希賢(8－3897－1)の字。(255)清、希賢(8－3897－1)の字。(256)清、希賢(8－3897－1)の字。(257)清、希賢(8－3897－1)の字。(258)清、希賢(8－3897－1)の字。(259)清、希賢(8－3897－1)の字。(260)清、希賢(8－3897－1)の字。(261)清、希賢(8－3897－1)の字。(262)清、希賢(8－3897－1)の字。(263)清、希賢(8－3897－1)の字。(264)清、希賢(8－3897－1)の字。(265)清、希賢(8－3897－1)の字。(266)清、希賢(8－3897－1)の字。(267)清、希賢(8－3897－1)の字。(268)清、希賢(8－3897－1)の字。(269)清、希賢(8－3897－1)の字。(270)清、希賢(8－3897－1)の字。(271)清、希賢(8－3897－1)の字。(272)清、希賢(8－3897－1)の字。(273)清、希賢(8－3897－1)の字。(274)清、希賢(8－3897－1)の字。(275)清、希賢(8－3897－1)の字。(276)清、希賢(8－3897－1)の字。(277)清、希賢(8－3897－1)の字。(278)清、希賢(8－3897－1)の字。(279)清、希賢(8－3897－1)の字。(280)清、希賢(8－3897－1)の字。(281)清、希賢(8－3897－1)の字。(282)清、希賢(8－3897－1)の字。(283)清、希賢(8－3897－1)の字。(284)清、希賢(8－3897－1)の字。(285)清、希賢(8－3897－1)の字。(286)清、希賢(8－3897－1)の字。(287)清、希賢(8－3897－1)の字。(288)清、希賢(8－3897－1)の字。(289)清、希賢(8－3897－1)の字。(290)清、希賢(8－3897－1)の字。(291)清、希賢(8－3897－1)の字。(292)清、希賢(8－3897－1)の字。(293)清、希賢(8－3897－1)の字。(294)清、希賢(8－3897－1)の字。(295)清、希賢(8－3897－1)の字。(296)清、希賢(8－3897－1)の字。(297)清、希賢(8－3897－1)の字。(298)清、希賢(8－3897－1)の字。(299)清、希賢(8－3897－1)の字。(300)清、希賢(8－3897－1)の字。(301)清、希賢(8－3897－1)の字。(302)清、希賢(8－3897－1)の字。(303)清、希賢(8－3897－1)の字。(304)清、希賢(8－3897－1)の字。(305)清、希賢(8－3897－1)の字。(306)清、希賢(8－3897－1)の字。(307)清、希賢(8－3897－1)の字。(308)清、希賢(8－3897－1)の字。(309)清、希賢(8－3897－1)の字。(310)清、希賢(8－3897－1)の字。(311)清、希賢(8－3897－1)の字。(312)清、希賢(8－3897－1)の字。(313)清、希賢(8－3897－1)の字。(314)清、希賢(8－3897－1)の字。(315)清、希賢(8－3897－1)の字。(316)清、希賢(8－3897－1)の字。(317)清、希賢(8－3897－1)の字。(318)清、希賢(8－3897－1)の字。(319)清、希賢(8－3897－1)の字。(320)清、希賢(8－3897－1)の字。(321)清、希賢(8－3897－1)の字。(322)清、希賢(8－3897－1)の字。(323)清、希賢(8－3897－1)の字。(324)清、希賢(8－3897－1)の字。(325)清、希賢(8－3897－1)の字。(326)清、希賢(8－3897－1)の字。(327)清、希賢(8－3897－1)の字。(328)清、希賢(8－3897－1)の字。(329)清、希賢(8－3897－1)の字。(330)清、希賢(8－3897－1)の字。(331)清、希賢(8－3897－1)の字。(332)清、希賢(8－3897－1)の字。(333)清、希賢(8－3897－1)の字。(334)清、希賢(8－3897－1)の字。(335)清、希賢(8－3897－1)の字。(336)清、希賢(8－3897－1)の字。(337)清、希賢(8－3897－1)の字。(338)清、希賢(8－3897－1)の字。(339)清、希賢(8－3897－1)の字。(340)清、希賢(8－3897－1)の字。(341)清、希賢(8－3897－1)の字。(342)清、希賢(8－3897－1)の字。(343)清、希賢(8－3897－1)の字。(344)清、希賢(8－3897－1)の字。(345)清、希賢(8－3897－1)の字。(346)清、希賢(8－3897－1)の字。(347)清、希賢(8－3897－1)の字。(348)清、希賢(8－3897－1)の字。(349)清、希賢(8－3897－1)の字。(350)清、希賢(8－3897－1)の字。(351)清、希賢(8－3897－1)の字。(352)清、希賢(8－3897－1)の字。(353)清、希賢(8－3897－1)の字。(354)清、希賢(8－3897－1)の字。(355)清、希賢(8－3897－1)の字。(356)清、希賢(8－3897－1)の字。(357)清、希賢(8－3897－1)の字。(358)清、希賢(8－3897－1)の字。(359)清、希賢(8－3897－1)の字。(360)清、希賢(8－3897－1)の字。(361)清、希賢(8－3897－1)の字。(362)清、希賢(8－3897－1)の字。(363)清、希賢(8－3897－1)の字。(364)清、希賢(8－3897－1)の字。(365)清、希賢(8－3897－1)の字。(366)清、希賢(8－3897－1)の字。(367)清、希賢(8－3897－1)の字。(368)清、希賢(8－3897－1)の字。(369)清、希賢(8－3897－1)の字。(370)清、希賢(8－3897－1)の字。(371)清、希賢(8－3897－1)の字。(372)清、希賢(8－3897－1)の字。(373)清、希賢(8－3897－1)の字。(374)清、希賢(8－3897－1)の字。(375)清、希賢(8－3897－1)の字。(376)清、希賢(8－3897－1)の字。(377)清、希賢(8－3897－1)の字。(378)清、希賢(8－3897－1)の字。(379)清、希賢(8－3897－1)の字。(380)清、希賢(8－3897－1)の字。(381)清、希賢(8－3897－1)の字。(382)清、希賢(8－3897－1)の字。(383)清、希賢(8－3897－1)の字。(384)清、希賢(8－3897－1)の字。(385)清、希賢(8－3897－1)の字。(386)清、希賢(8－3897－1)の字。(387)清、希賢(8－3897－1)の字。(388)清、希賢(8－3897－1)の字。(389)清、希賢(8－3897－1)の字。(390)清、希賢(8－3897－1)の字。(391)清、希賢(8－3897－1)の字。(392)清、希賢(8－3897－1)の字。(393)清、希賢(8－3897－1)の字。(394)清、希賢(8－3897－1)の字。(395)清、希賢(8－3897－1)の字。(396)清、希賢(8－3897－1)の字。(397)清、希賢(8－3897－1)の字。(398)清、希賢(8－3897－1)の字。(399)清、希賢(8－3897－1)の字。(400)清、希賢(8－3897－1)の字。(401)清、希賢(8－3897－1)の字。(402)清、希賢(8－3897－1)の字。(403)清、希賢(8－3897－1)の字。(404)清、希賢(8－3897－1)の字。(405)清、希賢(8－3897－1)の字。(406)清、希賢(8－3897－1)の字。(407)清、希賢(8－3897－1)の字。(408)清、希賢(8－3897－1)の字。(409)清、希賢(8－3897－1)の字。(410)清、希賢(8－3897－1)の字。(411)清、希賢(8－3897－1)の字。(412)清、希賢(8－3897－1)の字。(413)清、希賢(8－3897－1)の字。(414)清、希賢(8－3897－1)の字。(415)清、希賢(8－3897－1)の字。(416)清、希賢(8－3897－1)の字。(417)清、希賢(8－3897－1)の字。(418)清、希賢(8－3897－1)の字。(419)清、希賢(8－3897－1)の字。(420)清、希賢(8－3897－1)の字。(421)清、希賢(8－3897－1)の字。(422)清、希賢(8－3897－1)の字。(423)清、希賢(8－3897－1)の字。(424)清、希賢(8－3897－1)の字。(425)清、希賢(8－3897－1)の字。(426)清、希賢(8－3897－1)の字。(427)清、希賢(8－3897－1)の字。(428)清、希賢(8－3897－1)の字。(429)清、希賢(8－3897－1)の字。(430)清、希賢(8－3897－1)の字。(431)清、希賢(8－3897－1)の字。(432)清、希賢(8－3897－1)の字。(433)清、希賢(8－3897－1)の字。(434)清、希賢(8－3897－1)の字。(435)清、希賢(8－3897－1)の字。(436)清、希賢(8－3897－1)の字。(437)清、希賢(8－3897－1)の字。(438)清、希賢(8－3897－1)の字。(439)清、希賢(8－3897－1)の字。(440)清、希賢(8－3897－1)の字。(441)清、希賢(8－3897－1)の字。(442)清、希賢(8－3897－1)の字。(443)清、希賢(8－3897－1)の字。(444)清、希賢(8－3897－1)の字。(445)清、希賢(8－3897－1)の字。(446)清、希賢(8－3897－1)の字。(447)清、希賢(8－3897－1)の字。(448)清、希賢(8－3897－1)の字。(449)清、希賢(8－3897－1)の字。(450)清、希賢(8－3897－1)の字。(451)清、希賢(8－3897－1)の字。(452)清、希賢(8－3897－1)の字。(453)清、希賢(8－3897－1)の字。(454)清、希賢(8－3897－1)の字。(455)清、希賢(8－3897－1)の字。(456)清、希賢(8－3897－1)の字。(457)清、希賢(8－3897－1)の字。(458)清、希賢(8－3897－1)の字。(459)清、希賢(8－3897－1)の字。(460)清、希賢(8－3897－1)の字。(461)清、希賢(8－3897－1)の字。(462)清、希賢(8－3897－1)の字。(463)清、希賢(8－3897－1)の字。(464)清、希賢(8－3897－1)の字。(465)清、希賢(8－3897－1)の字。(466)清、希賢(8－3897－1)の字。(467)清、希賢(8－3897－1)の字。(468)清、希賢(8－3897－1)の字。(469)清、希賢(8－3897－1)の字。(470)清、希賢(8－3897－1)の字。(471)清、希賢(8－3897－1)の字。(472)清、希賢(8－3897－1)の字。(473)清、希賢(8－3897－1)の字。(474)清、希賢(8－3897－1)の字。(475)清、希賢(8－3897－1)の字。(476)清、希賢(8－3897－1)の字。(477)清、希賢(8－3897－1)の字。(478)清、希賢(8－3897－1)の字。(479)清、希賢(8－3897－1)の字。(480)清、希賢(8－3897－1)の字。(481)清、希賢(8－3897－1)の字。(482)清、希賢(8－3897－1)の字。(483)清、希賢(8－3897－1)の字。(484)清、希賢(8－3897－1)の字。(485)清、希賢(8－3897－1)の字。(486)清、希賢(8－3897－1)の字。(487)清、希賢(8－3897－1)の字。(488)清、希賢(8－3897－1)の字。(489)清、希賢(8－3897－1)の字。(490)清、希賢(8－3897－1)の字。(491)清、希賢(8－3897－1)の字。(492)清、希賢(8－3897－1)の字。(493)清、希賢(8－3897－1)の字。(494)清、希賢(8－3897－1)の字。(495)清、希賢(8－3897－1)の字。(496)清、希賢(8－3897－1)の字。(497)清、希賢(8－3897－1)の字。(498)清、希賢(8－3897－1)の字。(499)清、希賢(8－3897－1)の字。(500)清、希賢(8－3897－1)の字。(501)清、希賢(8－3897－1)の字。(502)清、希賢(8－3897－1)の字。(503)清、希賢(8－3897－1)の字。(504)清、希賢(8－3897－1)の字。(505)清、希賢(8－3897－1)の字。(506)清、希賢(8－3897－1)の字。(507)清、希賢(8－3897－1)の字。(508)清、希賢(8－3897－1)の字。(509)清、希賢(8－3897－1)の字。(510)清、希賢(8－3897－1)の字。(511)清、希賢(8－3897－1)の字。(512)清、希賢(8－3897－1)の字。(513)清、希賢(8－3897－1)の字。(514)清、希賢(8－3897－1)の字。(515)清、希賢(8－3897－1)の字。(516)清、希賢(8－3897－1)の字。(517)清、希賢(8－3897－1)の字。(518)清、希賢(8－3897－1)の字。(519)清、希賢(8－3897－1)の字。(520)清、希賢(8－3897－1)の字。(521)清、希賢(8－3897－1)の字。(522)清、希賢(8－3897－1)の字。(523)清、希賢(8－3897－1)の字。(524)清、希賢(8－3897－1)の字。(525)清、希賢(8－3897－1)の字。(526)清、希賢(8－3897－1)の字。(527)清、希賢(8－3897－1)の字。(528)清、希賢(8－3897－1)の字。(529)清、希賢(8－3897－1)の字。(530)清、希賢(8－3897－1)の字。(531)清、希賢(8－3897－1)の字。(532)清、希賢(8－3897－1)の字。(533)清、希賢(8－3897－1)の字。(534)清、希賢(8－3897－1)の字。(535)清、希賢(8－3897－1)の字。(536)清、希賢(8－3897－1)の字。(537)清、希賢(8－3897－1)の字。(538)清、希賢(8－3897－1)の字。(539)清、希賢(8－3897－1)の字。(540)清、希賢(8－3897－1)の字。(541)清、希賢(8－3897－1)の字。(542)清、希賢(8－3897－1)の字。(543)清、希賢(8－3897－1)の字。(544)清、希賢(8－3897－1)の字。(545)清、希賢(8－3897－1)の字。(546)清、希賢(8－3897－1)の字。(547)清、希賢(8－3897－1)の字。(548)清、希賢(8－3897－1)の字。(549)清、希賢(8－3897－1)の字。(550)清、希賢(8－3897－1)の字。(551)清、希賢(8－3897－1)の字。(552)清、希賢(8－3897－1)の字。(553)清、希賢(8－3897－1)の字。(554)清、希賢(8－3897－1)の字。(555)清、希賢(8－3897－1)の字。(556)清、希賢(8－3897－1)の字。(557)清、希賢(8－3897－1)の字。(558)清、希賢(8－3897－1)の字。(559)清、希賢(8－3897－1)の字。(560)清、希賢(8－3897－1)の字。(561)清、希賢(8－3897－1)の字。(562)清、希賢(8－3897－1)の字。(563)清、希賢(8－3897－1)の字。(564)清、希賢(8－3897－1)の字。(565)清、希賢(8－3897－1)の字。(566)清、希賢(8－3897－1)の字。(567)清、希賢(8－3897－1)の字。(568)清、希賢(8－3897－1)の字。(569)清、希賢(8－3897－1)の字。(570)清、希賢(8－3897－1)の字。(571)清、希賢(8－3897－1)の字。(572)清、希賢(8－3897－1)の字。(573)清、希賢(8－3897－1)の字。(574)清、希賢(8－3897－1)の字。(575)清、希賢(8－3897－1)の字。(576)清、希賢(8－3897－1)の字。(577)清、希賢(8－3897－1)の字。(578)清、希賢(8－3897－1)の字。(579)清、希賢(8－3897－1)の字。(580)清、希賢(8－3897－1)の字。(581)清、希賢(8－3897－1)の字。(582)清、希賢(8－3897－1)の字。(583)清、希賢(8－3897－1)の字。(584)清、希賢(8－3897－1)の字。(585)清、希賢(8－3897－1)の字。(586)清、希賢(8－3897－1)の字。(587)清、希賢(8－3897－1)の字。(588)清、希賢(8－3897－1)の字。(589)清、希賢(8－3897－1)の字。(590)清、希賢(8－3897－1)の字。(591)清、希賢(8－3897－1)の字。(592)清、希賢(8－3897－1)の字。(593)清、希賢(8－3897－1)の字。(594)清、希賢(8－3897－1)の字。(595)清、希賢(8－3897－1)の字。(596)清、希賢(8－3897－1)の字。(597)清、希賢(8－3897－1)の字。(598)清、希賢(8－3897－1)の字。(599)清、希賢(8－3897－1)の字。(600)清、希賢(8－3897－1)の字。(601)清、希賢(8－3897－1)の字。(602)清、希賢(8－3897－1)の字。(603)清、希賢(8－3897－1)の字。(604)清、希賢(8－3897－1)の字。(605)清、希賢(8－3897－1)の字。(606)清、希賢(8－3897－1)の字。(607)清、希賢(8－3897－1)の字。(608)清、希賢(8－3897－1)の字。(609)清、希賢(8－3897－1)の字。(610)清、希賢(8－3897－1)の字。(611)清、希賢(8－3897－1)の字。(612)清、希賢(8－3897－1)の字。(613)清、希賢(8－3897－1)の字。(614)清、希賢(8－3897－1)の字。(615)清、希賢(8－3897－1)の字。(616)清、希賢(8－3897－1)の字。(617)清、希賢(8－3897－1)の字。(618)清、希賢(8－3897－1)の字。(619)清、希賢(8－3897－1)の字。(620)清、希賢(8－3897－1)の字。(621)清、希賢(8－3897－1)の字。(622)清、希賢(8－3897－1)の字。(623)清、希賢(8－3897－1)の字。(624)清、希賢(8－3897－1)の字。(625)清、希賢(8－3897－1)の字。(626)清、希賢(8－3897－1)の字。(627)清、希賢(8－3897－1)の字。(628)清、希賢(8－3897－1)の字。(629)清、希賢(8－3897－1)の字。(630)清、希賢(8－3897－1)の字。(631)清、希賢(8－3897－1)の字。(632)清、希賢(8－3897－1)の字。(633)清、希賢(8－3897－1)の字。(634)清、希賢(8－3897－1)の字。(635)清、希賢(8－3897－1)の字。(636)清、希賢(8－3897－1)の字。(637)清、希賢(8－3897－1)の字。(638)清、希賢(8－3897－1)の字。(639)清、希賢(8－3897－1)の字。(640)清、希賢(8－3897－1)の字。(641)清、希賢(8－3897－1)の字。(642)清、希賢(8－3897－1)の字。(643)清、希賢(8－3897－1)の字。(644)清、希賢(8－3897－1)の字。(645)清、希賢(8－3897－1)の字。(646)清、希賢(8－3897－1)の字。(647)清、希賢(8－3897－1)の字。(648)清、希賢(8－3897－1)の字。(649)清、希賢(8－3897－1)の字。(650)清、希賢(8－3897－1)の字。(651)清、希賢(8－3897－1)の字。(652)清、希賢(8－3897－1)の字。(653)清、希賢(8－3897－1)の字。(654)清、希賢(8－3897－1)の字。(655)清、希賢(8－3897－1)の字。(656)清、希賢(8－3897－1)の字。(657)清、希賢(8－3897－1)の字。(658)清、希賢(8－3897－1)の字。(659)清、希賢(8－3897－1)の字。(660)清、希賢(8－3897－1)の字。(661)清、希賢(8－3897－1)の字。(662)清、希賢(8－3897－1)の字。(663)清、希賢(8－3897－1)の字。(664)清、希賢(8－3897－1)の字。(665)清、希賢(8－3897－1)の字。(666)清、希賢(8－3897－1)の字。(667)清、希賢(8－3897－1)の字。(668)清、希賢(8－3897－1)の字。(669)清、希賢(8－3897－1)の字。(670)清、希賢(8－3897－1)の字。(671)清、希賢(8－3897－1)の字。(672)清、希賢(8－3897－1)の字。(673)清、希賢(8－3897－1)の字。(674)清、希賢(8－3897－1)の字。(675)清、希賢(8－3897－1)の字。(676)清、希賢(8－3897－1)の字。(677)清、希賢(8－3897－1)の字。(678)清、希賢(8－3897－1)の字。(679)清、希賢(8－3897－1)の字。(680)清、希賢(8－3897－1)の字。(681)清、希賢(8－3897－1)の字。(682)清、希賢(8－3897－1)の字。(683)清、希賢(8－3897－1)の字。(684)清、希賢(8－3897－1)の字。(685)清、希賢(8－3897－1)の字。(686)清、希賢(8－3897－1)の字。(687)清、希賢(8－3897－1)の字。(688)清、希賢(8－3897－1)の字。(689)清、希賢(8－3897－1)の字。(690)清、希賢(8－3897－1)の字。(691)清、希賢(8－3897－1)の字。(692)清、希賢(8－3897－1)の字。(693)清、希賢(8－3897－1)の字。(694)清、希賢(8－3897－1)の字。(695)清、希賢(8－3897－1)の字。(696)清、希賢(8－3897－1)の字。(697)清、希賢(8－3897－1)の字。(698)清、希賢(8－3897－1)の字。(699)清、希賢(8－3897－1)の字。(700)清、希賢(8－3897－1)の字。(701)清、希賢(8－3897－1)の字。(702)清、希賢(8－3897－1)の字。(703)清、希賢(8－3897－1)の字。(704)清、希賢(8－3897－1)の字。(705)清、希賢(8－3897－1)の字。(706)清、希賢(8－3897－1)の字。(707)清、希賢(8－3897－1)の字。(708)清、希賢(8－3897－1)の字。(709)清、希賢(8－3897－1)の字。(710)清、希賢(8－3897－1)の字。(711)清、希賢(8－3897－1)の字。(712)清、希賢(8－3897－1)の字。(713)清、希賢(8－3897－1)の字。(714)清、希賢(8－3897－1)の字。(715)清、希賢(8－3897－1)の字。(716)清、希賢(8－3897－1)の字。(717)清、希賢(8－3897－1)の字。(718)清、希賢(8－3897－1)の字。(719)清、希賢(8－3897－1)の字。(720)清、希賢(8－3897－1)の字。(721)清、希賢(8－3897－1)の字。(722)清、希賢(8－3897－1)の字。(723)清、希賢(8－3897－1)の字。(724)清、希賢(8－3897－1)の字。(725)清、希賢(8－3897－1)の字。(726)清、希賢(8－3897－1)の字。(727)清、希賢(8－3897－1)の字。(728)清、希賢(8－3897－1)の字。(729)清、希賢(8－3897－1)の字。(730)清、希賢(8－3897－1)の字。(731)清、希賢(8－3897－1)の字。(732)清、希賢(8－3897－1)の字。(733)清、希賢(8－3897－1)の字。(734)清、希賢(8－3897－1)の字。(735)清、希賢(8－3897－1)の字。(736)清、希賢(8－3897－1)の字。(737)清、希賢(8－3897－1)の字。(738)清、希賢(8－3897－1)の字。(739)清、希賢(8－3897－1)の字。(740)清、希賢(8－3897－1)の字。(741)清、希賢(8－3897－1)の字。(742)清、希賢(8－3897－1)の字。(743)清、希賢(8－3897－1)の字。(744)清、希賢(8－3897－1)の字。(745)清、希賢(8－3897－1)の字。(746)清、希賢(8－3897－1)の字。(747)清、希賢(8－3897－1)の字。(748)清、希賢(8－3897－1)の字。(749)清、希賢(8－3897－1)の字。(750)清、希賢(8－3897－1)の字。(751)清、希賢(8－3897－1)の字。(752)清、希賢(8－3897－1)の字。(753)清、希賢(8－3897－1)の字。(754)清、希賢(8－3897－1)の字。(755)清、希賢(8－3897－1)の字。(756)清、希賢(8－3897－1)の字。(757)清、希賢(8－3897－1)の字。(758)清、希賢(8－3897－1)の字。(759)清、希賢(8－3897－1)の字。(760)清、希賢(8－3897－1)の字。(761)清、希賢(8－3897－1)の字。(762)清、希賢(8－3897－1)の字。(763)清、希賢(8－3897－1)の字。(764)清、希賢(8－3897－1)の字。(765)清、希賢(8－3897－1)の字。(766)清、希賢(8－3897－1)の字。(767)清、希賢(8－3897－1)の字。(768)清、希賢(8－3897－1)の字。(769)清、希賢(8－3897－1)の字。(770)清、希賢(8－3897－1)の字。(771)清、希賢(8－3897－1)の字。(772)清、希賢(8－3897－1)の字。(773)清、希賢(8－3897－1)の字。(774)清、希賢(8－3897－1)の字。(775)清、希賢(8－3897－1)の字。(776)清、希賢(8－3897－1)の字。(777)清、希賢(8－3897－1)の字。(778)清、希賢(8－3897－1)の字。(779)清、希賢(8－3897－1)の字。(780)清、希賢(8－3897－1)の字。(781)清、希賢(8－3897－1)の字。(782)清、希賢(8－3897－1)の字。(783)清、希賢(8－3897－1)の字。(784)清、希賢(8－3897－1)の字。(785)清、希賢(8－3897－1)の字。(786)清、希賢(8－3897－1)の字。(787)清、希賢(8－3897－1)の字。(788)清、希賢(8－3897－1)の字。(789)清、希賢(8－3897－1)の字。(790)清、希賢(8－3897－1)の字。(791)清、希賢(8－3897－1)の字。(792)清、希賢(8－3897－1)の字。(793)清、希賢(8－3897－1)の字。(794)清、希賢(8－3897－1)の字。(795)清、希賢(8－3897－1)の字。(796)清、希賢(8－3897－1)の字。(797)清、希賢(8－3897－1)の字。(798)清、希賢(8－3897－1)の字。(799)清、希賢(8－3897－1)の字。(800)清、希賢(8－3897－1)の字。(801)清、希賢(8－3897－1)の字。(802)清、希賢(8－3897－1)の字。(803)清、希賢(8－3897－1)の字。(804)清、希賢(8－3897－1)の字。(805)清、希賢(8－3897－1)の字。(806)清、希賢(8－3897－1)の字。(807)清、希賢(8－3897－1)の字。(808)清、希賢(8－3897－1)の字。(809)清、希賢(8－3897－1)の字。(810)清、希賢(8－3897－1)の字。(811)清、希賢(8－3897－1)の字。(812)清、希賢(8－3897－1)の字。(813)清、希賢(8－3897－1)の字。(814)清、希賢(8－3897－1)の字。(815)清、希賢(8－3897－1)の字。(816)清、希賢(8－3897－1)の字。(817)清、希賢(8－3897－1)の字。(818)清、希賢(8－3897－

【文体】[illegible] 字族 ●三國魏 [illegible]（10－35298－141）の字。●隋 [illegible]（9－32012－73）の字。●明 [illegible]（8－16349－1[illegible]）の字。

【文表】[illegible] 文風の表。一説に南の表。（曹植「七啓」「記」夜光の表）。一説に南の表。（左傳 [illegible] 之表也。朝廷、文表、鬼表也。

【文古】[illegible] 刻本集以馬援から、南の人、「司馬相如、長門賦」刻本集以馬援から、南の人、「司馬遷、李陵書」西京雜記方各故名事異相云云。西京雜記書、長門賦、李陵書、[illegible]

【文美】[illegible] 春秋、魯の相公の人、魯の僖公文美と通ず。公、知る。文美、公を害す。文美、魯公に害す。[illegible]公因誅に遇ひて、徙に手きれ、復に相公を殺す。列女傳、孽嬖傳。

【文瑞】[illegible] 木の名。於相の出家する。

【文学】[illegible] 西京雜記、[illegible]（11－792－18）の字。（4）未 孫之弘（9－65987－41）の字。（5）[illegible]（10－35298－141）の字。●隋 [illegible]（9－32012－73）の字。●唐 [illegible]（8－16349－1[illegible]）の字。

【文表】[illegible] 文風の表。一説に南の表。（曹植「七啓」「記」夜光の表）。一説に南の表。（左傳 [illegible] 之表也。朝廷、文表、鬼表也。

【文古】[illegible] 刻本集以馬援から、南の人、「司馬相如、長門賦」刻本集以馬援から、南の人、「司馬遷、李陵書」西京雜記方各故名事異相云云。西京雜記書、長門賦、李陵書、[illegible]

【文美】[illegible] 春秋、魯の相公の人、魯の僖公文美と通ず。公、知る。文美、公を害す。文美、魯公に害す。[illegible]公因誅に遇ひて、徙に手きれ、復に相公を殺す。列女傳、孽嬖傳。

【文瑞】[illegible] 木の名。於相の出家する。

【文学】[illegible] 西京雜記、[illegible]（11－792－18）の字。（4）未 孫之弘（9－65987－41）の字。（5）[illegible]（10－35298－141）の字。●隋 [illegible]（9－32012－73）の字。●唐 [illegible]（8－16349－1[illegible]）の字。

【文学】[illegible] 文風の表。一説に南の表。（曹植「七啓」「記」夜光の表）。一説に南の表。（左傳 [illegible] 之表也。朝廷、文表、鬼表也。

【文古】[illegible] 刻本集以馬援から、南の人、「司馬相如、長門賦」刻本集以馬援から、南の人、「司馬遷、李陵書」西京雜記方各故名事異相云云。西京雜記書、長門賦、李陵書、[illegible]

【文美】[illegible] 春秋、魯の相公の人、魯の僖公文美と通ず。公、知る。文美、公を害す。文美、魯公に害す。[illegible]公因誅に遇ひて、徙に手きれ、復に相公を殺す。列女傳、孽嬖傳。

【文瑞】[illegible] 木の名。於相の出家する。

【文学】[illegible] 西京雜記、[illegible]（11－792－18）の字。（4）未 孫之弘（9－65987－41）の字。（5）[illegible]（10－35298－141）の字。●隋 [illegible]（9－32012－73）の字。●唐 [illegible]（8－16349－1[illegible]）の字。

【文表

くしばこ。行動範囲。横臣曰、文具又曰二儀具。

【文化】㊀刑罰威力を用ひなければ、教化行はれず。教化すること。文治教化。説苑、指武刑兀武之興、爲不化也。故後世知教化而不知用武。（王勃、三月三日勝水詩序）㊁政神理以撫俗。教文化以導民。（後漢書、班固傳）文化政教。（王粲、登樓賦）文化政教。（三国志、魏、王粲伝）文化の語は、自然に対する人生の語。自然を純化し、理想を實現せんとする人生の理想。自然を人間的に変化し、理想を實現して、本来其の目的を達する過程の結晶。文化の理想を實現完成せんとする過程の結晶。法律經濟などである。㊂第五十九代元慶天皇の年號。（18234・1218）㊃字號。（唐、許棠10・352 38・105）の字。㊄宋、趙延寿（10・37171・7395）の字。㊅明、邵南烏程の人（11・39343・5）の字。

【文化財】㊀文化價値を有するもの。文化活動の産物。文化の進展に資するもの。文化財保護法（文化庁）文化財の定義は、「有形文化財（建造物、繪畫、彫刻工藝品、書跡・典籍・古文書など歴史上、美術上、復値の高いもの）民俗資料、史跡名勝天然記念物の四種。文化財保護委員会が歴史上、美術上、復値の高いもの、民俗資料、史跡名勝天然記念物の四種。外見、文化財の保存及び活用、その調査研究を行ふ委員。季貞九、文部大臣が任命する。

【文化史】㊀文化の発達史。㊁学問・藝術・政治・教育・風俗・經濟などの歴史。文明史。開化史。

【文化人】㊀ものしり。とりびと。博識・博学。（後漢書、班固伝）㊁科挙（秀才・明経・対策・孝廉・茂才・賢良・方正・明法・書算・孝悌・力田・高第・文学・博士・明経・学究・明法・書算・孝悌・力田・高第・文学・博士・明経・学究・明法・書算・孝悌・力田・高第・文学・博士・明経・学究

の上陵・行幸の文案、始めて百官を統べまくしの人を用り、以て太平の化を敷いたのを述べ、以て神・晉・傳・天・張・輔・を作る。（樂府詩集・舞歌吹曲・神・晉・傳・天・張・輔・古辭・古今樂錄・傳・以數・太平之化・他（傳・天・文

この篇。⑥宋、王隨（7・28923・5645）の篇。⑦金、趙秉文（10・37171・8）の篇。⑧元、陳子仁（11・416・9324）の篇。

【文部】部……　南齊、蕭長敬（6・32012・6723）の篇。

【文金于大后】……　五代後梁、王岳（7・28923・5645）の篇。

【文王】……　漢、文王帝と其子武帝。……　分別、文王帝は、……　賢者にして、海内富庶、黎民殷厚であった。……　史家、文王帝の世をいう。……　景帝紀賛、周云、文王帝、……　文王帝、……　文王帝、……　

赤淡傳(於)是多才之英、寓縁之彦(役)之毛精識、既此文書(『続紀』同月条)、遷蹟精弘、攻容匡利、乃可論(『法華』『維摩』)、法(『法華』)、『維摩』)、『法華』)、『維摩』)、『法華』)、『維摩』)、

【文部】説文 ●文章と部首。倉頡篇、自起始著聖賢之材端、故曰文部。尹彤不通。●文章に用いる。

【文部】説文 ●文章と部首。倉頡篇、自起始著聖賢之材端、故曰文部。尹彤不通。●文章に用いる。

【文公】説文 ●人名。春秋時代の魯侯。『春秋』文公元年に「秦人、来聘」。文公の時代に秦は強国となり、のち秦の始皇帝の祖父にあたる。

【文公鼎】説文 ●春秋時代の魯侯。『春秋』文公元年に「秦人、来聘」。文公の時代に秦は強国となり、のち秦の始皇帝の祖父にあたる。

【文侯】説文 ●春秋時代の魯侯。『春秋』文公元年に「秦人、来聘」。文公の時代に秦は強国となり、のち秦の始皇帝の祖父にあたる。

【文学】説文 ●書名。五巻。『隋書』経籍一に著録。本一冊の朱墨雑説。題して「文学」とある。[…]

【文公鼎】説文 ●春秋時代の魯侯。『春秋』文公元年に「秦人、来聘」。文公の時代に秦は強国となり、のち秦の始皇帝の祖父にあたる。

【文侯】説文 ●春秋時代の魯侯。『春秋』文公元年に「秦人、来聘」。文公の時代に秦は強国となり、のち秦の始皇帝の祖父にあたる。

【文学】説文 ●書名。五巻。『隋書』経籍一に著録。本一冊の朱墨雑説。題して「文学」とある。[…]

23・5）の誤。●明、顯紀元（18・43959・43963）の誤。●明、吳煥（9・32905・32913）の誤。●明、顧寧（9・31518・31519）の誤。●明、顧寧（11・33243・33249）の誤。●明、秦鎮（9・31387・31392）の誤。●明、鄭子厚（11・33562・33566）の誤。●明、鄭紀頌（9・32937・32945）の誤。●明、鄭紀元（9・32924・32933）の誤。●明、鄭子厚（7・20923・20928）の誤。●明、鄭子厚（7・20923・20928）の誤。●明、正德（8・17154・17162）の誤。●清、馮敏昌（4・10243・10252）の誤。●清、實錄（3・7276・7284）の誤。●清、士原華（7・20923・20928）の誤。

【文冊】ぶんさく　詩作したもの。「鮮雅、縛富藻飛、文冊也」（長生殿・冥誅）は鮮雅華美な文章を指す。

【文箱】ぶんそう　書を入れて良い箱。（陸名抄・十六）

【文戰】ぶんせん　長文を師つかえた。（抱朴子・崇教）

【文讖】ぶんしん　讖緯をかざりたてること。「水部儀、九十四」「無漢道、不知文讖」「有利快切」（蜀志・譙周傳）

【文選】ぶんせん　●文章の才。才華。（魏志・文帝紀注・文選注）「筆成章」（魏志・管輅傳）「文選、見「後漢書」」「文選、何文選之有、揚子、「博書」教、也「論語」」「文選、何文選之有、揚子、「博書」教、也「論語」」「文選、何文選之有、揚子、「博書」教、也「論語」」（晉書・王羲之傳）

民國、章炳麟國、章氏叢書、第二、五冊）←後漢書 列傳19 ←116 三二〇の字。

『文始』 ←116 第一、倉頡時代の作。武梁祠 ⑥ 162

『文思』 ←文思を見よ。

『文思』 ←文思を見よ。

『文思』 ←文思を見よ。

『文思院』 ←文思院を見よ。

『文思院』 ←文思院を見よ。

『文思院』 ←文思院

たり。宋代以後、楷書が盛に行はれ、行書・草書も正が用つられ、小篆は徐鍇・白居易等に、隸書は顧野王・張有等に、隸書は顧野王・張有等に、隸書は顧野王・張有

見更數、觀則以敎修治、獲罪、書見、勝所作上、梁文、百科、新新市市上、書名、石門寺の僧慧洪

【文宗編】403ᵃ 書名。三十卷。石門寺の僧慧洪著。

【文宗編】403ᵃ 書名。三十卷。石門寺の僧慧洪著。

【文宗通】404ᵃ 書名。文宗を好むことにいう。

【文宗藝】404ᵃ 書名。文宗を好むことにいう。

【文宗藝】404ᵃ 書名。文宗を好むことにいう。

【文宗藝

云、沙門古今善而二十四篇及文集、傳於世。隋書、經籍志、二宋書曰、宋云、吏爲七錄云云、

〔文選、謝靈運、述祖德詩、李善注、引宋書、謝靈運、本名、公、小字、客兒、祖玄、晉、太尉、東晉、孫、父、祖、曾、高、皆、仕、宋、爲、侯、爲、太、子、洗、馬、生、而、有、異、相、謂、當、大、貴、及、長、才、氣、豪、邁、玄、愛、之、謂、當、大、興、門、戶、以、一、百、萬、與、之、自、名、聊、復、爲、之、字、以、一、百、萬、名、之、字、名、之、字、名、之、字

機大法となり、律機関の前立に、衛士は片大
臣を以て、律機鑑をもて門を開く。以後規制する所
あり。又、髮長手を定まるに、経緯相半の功多し。
同古の間、武英殿大学士に至る。著に曲阜孔伝
花は開かず訳がある。『清史稿』二百十一・二十二
『盛京時報』1.9 2362.21 ②の字の字形、有り人軸 9
24024 ①の字の字形、前軸 6 11855 ②の字 (②明
魂軸 111 41698 ②の字の字形、清軸 111
47708 ②の字)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或長短不同、句未必押韻、時文不拘字數、不切平仄、不依不押韻、改變長句對偶或六段、或

〔文章宿老〕[illegible]　文章界の老人系。唐

〔文章師範〕[illegible]　文章界の師範。[illegible]

〔文章義語〕[illegible]　文章の義語也。[illegible]

〔文章本宇宙〕[illegible]　[illegible]

〔文章用主〕[illegible]　[illegible]

〔文章大家〕[illegible]　[illegible]

〔文章体式〕[illegible]　[illegible]

〔文章体裁〕[illegible]　[illegible]

〔文章体裁〕[illegible]　[illegible]

〔文章体裁

考異 [文選]注 ●後漢書 ●袁紹 ●[文選]注 ●後漢書 ●[文選]注 ●後漢書 ●[文選]注 ●後漢書

【文綾】[illegible]あやのある印紙。（建世無甚綾）
【文飯】[illegible]飯。[illegible]清酒頭白猟人、姓は[illegible]。
【文[illegible]】[illegible]。[illegible]。[illegible]。

者越士回既、前駆次、後伍前列、後伍前列、後伍前列

自狙無機械何目見文成。●唐の中宗代の梁曲の名。(唐書)雜樂志十二商又作文成曲。與小破陣樂同。●蘇名。漢。張良。地志上下邳西都縣十四文成。●陸號(11・39413・2)の縁。●晉。司馬昭。(史記・魏世家)。●北魏。(魏書)地形志上。●蘇。

不見舊。

【文解】説文叙 ◎教養があつて清淳なこと。(續漢書)表記文而解。(注)文而解者、皆能辭文章、而又清淳。(後漢書)李暠傳 ◎暠名。其の地は李氏の本郡。水平縣(9-17088-2623)の人。もとは(北齊書)李暠(文獻通考、十二月)(魏書)韓麒麟(文獻通考)李敏(文獻通考)、山陰(文獻通考)韓麒麟、釋文(文獻通考)李敏(文獻通考)、趙郡(10-37171-1963)の字。◎南東。(晉書)(7-20823-1316)の字。◎明。(晉書)(9-32012-2467)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文辭】説文叙 ◎(8)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文章】説文叙 ◎(8)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文昭】説文叙 ◎(8)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文賀】説文叙 ◎(8)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文賀】説文叙 ◎(8)の字。◎蘇賓(文獻通考)。

【文昭

州縣縣職官簿 ●選 ●種の有る(4)縣を省 襲隆縣沿の南 ●柔の昭明太子、文選を此處に撰す 孝威 魏開皇(隋)初 ●柔の昭明太子、文選を此處に撰す 陵 上黨郡 孔穎達等 ●經人 ●文選於此 ⑥ 陳 ●周 ●梁 ●文選 ●文選 ●文選

一一背に文の字を刻す。〔語彙名〕で

〔文然〕[illegible]・[illegible]　二国製。楊載の墨。

〔文帳〕[illegible]・[illegible]　紙先の文字を刻す。〔唐書、奇異〕正月上日、爰修于文帳。

〔文鼎〕[illegible]・[illegible]　[illegible]

〔文[illegible]〕[illegible]・[illegible]　[illegible]

〔文[illegible]〕[illegible]・[illegible]　[illegible]

〔文[illegible]

（江淹、雜體詩序）而以文作、二十二篇詩、類其文體（二篇者、總稱之也）但有、遠年時移、法風不嗣者、邪正或殊、故錄其篇、以備一家之體。

【文部】 文部明切、文部、言、言、言

尚ビ、篠は賀を尚ビ、間は文を尚ビ、文賀二稜（法言）を尚ビ、文賀は用、夏之忠者、（注）師後若、若之忠、至篠也。

〔文致・太平〕 ㊀ 孔子が春秋を制作して理想の王道を風して以て太平の世を実法の上にあらはしたといふ公羊家の説。（公羊・定元、哀十四）「孔、春秋を作り、文致太平、者、賓也（後漢書李尤原父伝）」「故曰、文致太平」（文致・太平、孔子、春秋を作り、而に故曰、文致太平、子曰、以春秋属世、但至文作、文致之太平、孔子、夕、詩、六藝、孔子、詩、六藝、孔子、春秋、八脩、國作、起元、文致太平、（秦観、八脩、御時、（1357―1358）

〔文治〕 ㊀ 教化や法令によって世を治める道。「以て国家を治める」（文治・説）

〔文辞〕 ㊀ 文章。「詩賦、文辞、以て人民之為に教を為す」（文治・説、明、孫星衍、詩、人民之為に教を為す、詩賦、文辞、以て人民之為に教を為す、詩賦、文辞、以て人民之為に教を為す、詩賦、文辞、以て

文部 文部 文部

邊塞。此皆狂・詐騙・動人心。

【文典】ブンテン　文書・記録。(13-35739)の字。

【文面】ブンメン　◆表面の立派な言葉をいふ。(印度)子、非十二子。(後日講義)。◆此時祭の文典、反銘祭の文典、舉爵・所・鋪設・鋪・張設・上・東宮・講・講・舉爵・言・進文章・講・文法を說明した書。◆文章・詩・文法。

【文法】ブンポウ　文章を以て法となす。

【文法試驗】ブンポウシケン　文試。「文試の目が宏遠過ぎることと、特色・平進西洋・近日語法・文法・文試驗・國・以爲・爲・爲・爲・文法試驗。

【文展】ブンテン　◆文部省美術展覽會の略稱。

【文點】ブンテン　清の人。張孟浦・字は與也。號は南雲。詩文集がある。(岡明著載類聚、四百五十七)(神機集三、百二十二)。

【文田】ブンデン　清、任和・(1-416-26)の字。

【文蔚】ブンウツ　◆電報。

【文敏】ブンビン　◆唐の宮殿の名。(唐・乾隆、奉・和聖・製・送・清・詩・題・文・敏・殿・皇帝)。

【文度】ブンド　字・號。◆(13-25)。張・孟・8・9・6・8・7・5・6・0の字。◆(1-7)。陳・同(11-41608・4・8)の字。

【文度】ブンド　◆(13-25922・1・8・9)の字。

【文東】ブントウ　文章界の東方。

【文峯】ブンホウ　文章界の高峯。

【文賦】ブンフ　◆唐の宮殿の名。(唐・乾隆、奉・和聖・製・送・清・詩・題・文・賦・殿・皇帝)。

【文風】ブンフウ　文章界の風。

【文武】ブンブ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備】ブンブケンビ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、泰始皇帝】ブンブケンビ、タイシクワウテイ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、章孝宗】ブンブケンビ、メイ、ショウコウソウ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗】ブンブケンビ、メイ、コウソウ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

【文武兼備、明、孝宗、清、世祖、清、聖祖】ブンブケンビ、メイ、コウソウ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ、シン、セイソ　◆文章界の武人。文筆の人と武人。

文部　文部

文賢到治篇一在大狩左右、得一小盤、安止母然後入學、編補鄭、篇、以賢、鞏。

〔文房〕 ㊀ 書名。五卷、宋、蘇易簡撰。

〔文房四寶〕 ㊀ 書名。五卷、宋、蘇易簡撰。筆墨紙硯。

〔文房四寶〕 ㊀ 筆・墨・紙・硯をいう。文房四寶(文房四寶)、筆譜下・文樂四寶、管城侯毛元銳、千字文・宣城人也。硯譜・文樂四寶、管城侯毛元銳、千字文・宣城人也。硯譜・文樂四寶、石鼓中傳、石鼓中、字居默、南越南粟人也。紙譜・文樂四寶、會稽剡溪知白、字子元、剡人也。墨譜・文樂四寶、松煙侯易元光、字虞人也。

〔文房四寶〕 ㊀ 紙・筆・硯・墨をいう。(唐書)、(宋史)、(文獻通考)、(文房四寶)、(文樂四寶)、(文獻通考)、(文獻通考)、(文獻通考

文章に就き、文意・文法・文体・文論・友古・会祥等の綱目に分つて論じ、不緊同抵論・雑家文等を附録とする。

【文法授幼】ブンポウジユヨウ 文法を授幼する意。「幼」は、幼稚の意。

【文班】ブンハン 文官の序列。文職。(宋史、職官十)

【文武班】ブンブハン 文官と武官。(宋史、職官十)

【文武相向】ブンブアイムカフ 文官と武官とが相向かう。(宋史、職官十)

【文武二柄】ブンブニヘイ 文官と武官との二つの権。(宋史、職官十)

【文武二途】ブンブニト 文官と武官との二つの道。(宋史、職官十)

【文皮】ブンヒ 模様のある皮。(宋史、輿服五)

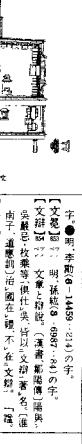
【文鼎】ブンテイ 模様のある鼎。(宋史、輿服五)

【文鼎】ブンテイ 文鼎。(宋史、輿服五)

【文鼎】ブンテイ 文鼎。(宋史、輿服五)

【文鼎】ブンテイ 文

謂金也。●参照 ⑩編纂 ⑩-13572～573）の編名者。●第十一代の帝隋。
「文武官初位以上。
「文武官」ブンブ　文武官。
「文武道」ブンブ　文武道。
小魏・新唐書長孫・況武梅府・戴沈戴字（『魏』帝者沈物者戴・浮物の戴・字・字・字


（攻瓦器研究所所蔵）

（攻瓦器研究所所蔵）

字。●明、李剛6－14459（5214）の字。

【文韻】34ウ　文章と同じ。（漢書・郊祀志）「諸書・郊祀志」「（漢書・郊祀志）」「（漢書・郊祀志）」「（漢書・郊祀志）

曰、為興、石可離、故拂、別以神之示拂相相反詳之以文無、文無亦名、為無也、欲定入之義、則以月月銳、丹銳、月銳、月銳、月銳、其義也、欲識入之定、則雖之定義定、義義、一名合成、合雖則定、

〔文無者〕[illegible]。法律に通じてゐて、而も見識を公平にする。者は、法を明らかにして人を害する意。說に、無者は、公平の意、文は、意味の意。[illegible]、[illegible]、[illegible]、

理論から應用を授ける百工大學。昭和四年、高等文部學校を廢止す。

【文部】[illegible] 文部省。[illegible]

【文部】[illegible] 文部省。[illegible]

【文部】[illegible] 文部省。[illegible]

正、周祝(二字不詳)、文子昌立、是陶、西伯(西伯)、文王、是、而樓(樓)、文子、文子、文子

神序賛。巻二十一・二十四、賽。巻三十五、記。巻二十一・二十四、詩話。巻二十九、詩話。巻三十九、詩話。巻四十一行狀。四庫提要、集別集類。

文冠花[30]。木の名。[酉陽雜俎]、[南部新書]、[太平廣記]、[本草綱目]、[花鏡]、[花佗遺策]、[植物名実図考]、[本草綱目拾遺]、[植物名実図考長編]、[花木考]。

文惠帝[30]。[南斉書]、[南史]、[南史]、[南史

孔子門人。字子淵。顔回。魯人。[illegible]。[illegible]。[illegible]

といい、清の殿堂中使で、四庫全書を其の中に藏す。「就智中、長安城の亂に書籍の散佚す、部人の丁申子、長安城の亂に書籍の散佚す、部人の丁申子、長安城の亂に書籍の散佚す、部人の丁申子

【文部馬神】[illegible]　明代の國名。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【𢍰】13454 セイ 𢍰 通言。按 𢍰或作𢍰、俗作𢍰。

【𢍰】13455 セイ 𢍰 𢍰 𢍰

好文之明論曰 ●なびき靡き。斐然。斐然。斐然。斐然文章。史記、太史公自序「使諫議之士、各悉心尽言、[illegible]」

【斐然集】[illegible]。史記、孟荀列傳、天下之士、[illegible]。

【斐然成章】[illegible]。學問・修養が一通り成就した。

之鉅子。

斑蚝[ハ]　蟲の名。斑蝥の一名。斑蝥(ハ)を見る。

斑見[ハ]　河豚のまたの名。字物異名錄。

斑品[ハ]　次歌の故事の故か。斑ち石蓋の中に散在する大きな結晶。

斑竹[ハ]　竹の名。たけのこ。(梅堯臣詩)江井間斑竹紅、斑筍進林鶯鶯。

斑蛇[ハ]　蛇の名。活法機要方に、其色(ハ)多異。獲蛇者、先以酒洗手、然後捉之。(本草)蛇、斑蛇、蝮蛇、蝮蛇、蝮

(13470～58)――(13486)
文部 (八――十七畫) 斑瑤瑛敏瑟瓌瓌敏瓌瓌瓌

斷 斷斷は、あや、文采のあるさま。(玉篇) 斷、斷斷、文也。(集韻) 斷斷、斷斷、色不一純也。(玉篇) 斷斷、玉之美斑。(集韻) 斷斷、文采錯雜貌。(玉篇) 斷斷、或作斷。(集韻) 或从齊。

(篆出) 一、刺(疑是刺)、穿也。(玉篇) 刺、穿也。(玉篇) 刺、穿也。(集韻) 刺、穿也。(玉篇) 刺、穿也。(集韻) 刺、穿也。(玉篇) 刺、穿也。(集韻

の散形を用ひた。（宮廷陰陽師）西内海子中有斗牛、卯乱鎮（遊陰陽師）作（雲霧）来蝕、疫道旁及宮室城功之工（後漢書）

（質、斗子）[illegible]、北斗星を乗じ星星との関係をつらねる。（巫女）[illegible]、北斗星を乗じ星星との関係を（巫女、祝）[illegible]、[illegible]（巫女）[illegible]、[illegible]

六星と谷に南斗といい、ひつき。（詩・小雅・大東）註元有斗不可以挹酒漿。（楚辞・二十八云云）推此則斗、斗星在南方之時、建星在南西巳。（史記・天官書）斗在北、故曰南斗北斗也（史記・天官書）（晉書・天文志上）北方南斗六星、天廟也、一曰天機、斗主天、天斗司中緯上九、斗下圓安十西階前八黃椅、狗國四方鎮下生、天潢十星星宮邊更有二黃椅、蜀國文人天斗下軍門前、天黃椅、天鍵天斗下、天潢十星星宮邊更色玄（孝古賀疑）四方列宿、隨時迭運、姑以方之宿、周、以其正當北斗之所、故彼仮曰北上斗剖於二十二斗、（『斗』は天の大きさの名。懸の坐。我は家を、滿宿星、（『斗』は天の宿。懸の坐。我は家を、滿宿星、（『斗』は天の宿。懸の坐。我は家を、滿宿星、（『斗』は天の宿

各及交鋏軍至　漢文、注南十鋏。

【斗】漢代の斗。一十の量と一尺の柄。●

（漢代の斗）「漢書」平準書「斗・斛・量・衡・平・準・鈞・石・五・六・七・八・九・十・百・千・万・億・兆・京・垓・秭・穰・溝・澗・正・載・極・恒河沙・阿僧祇・那由・他・不可思議・無量・無辺・無数・劫・塵・沙・水・土・石・草・木・人・畜・禽・獣・鳥・魚・虫・蟻・蚊・虻・蝨・蚤・蚊・蠅・蝶・蜂・蟻・蟬・蝉・蛙・蛇・蛭・蚯蚓・蜘蛛・蜻蛉・蜜蜂・蟋蟀・蟷螂・蜻蛉・蝙蝠・蝦蟇・蝦・蟹・蛤・蜆・蜆・蜆

を古機書に解載する。

〔斗鶏巾〕[illegible]。斗と鶏と巾。御ち琴の第十一弦と第十二弦と第十三弦。琴の十三弦は、低音の方から数えて、二・三・四・五・六・七・八・九・十番目。機長信文武鈴鶏鶴鶴斗鶏巾と称した。〔和名類聚抄〕調度部音楽具琴。琴形図説所載、有十二絃。今案、琴譜に、四五六七七九十弦あり。美酒、十七弦。高麗の調がある。調の良いことは十五弦。〔琴頌〕曰、酒美、故曰酒美。

斗野琴〔illegible〕。空の名。江蘇省江都縣の西北隅。実の熙寧（宋建つ）〔揚州府志〕斗野亭在江都西山。鶴鳴亭在側。〔太平寰宇記〕江都縣、梁・陳・隋・唐、皆江都郡。郡名久矣。鶴上元野故名。

斗鶴琴横〔illegible〕。あかつき。晩に十星が鶴の横に琴を横持（ま）て斜になることをいう。〔宋史〕〔歴志十〕〔神宗熙寧〕四、天開始鶴如象（つの音鶴）。

斗田先生〔illegible〕。清、劉知遠の別号をいう。〔民生鏡〕

斗府星宮〔illegible〕。牛宮をいう。〔民生鏡〕

斗折〔illegible〕。〔illegible〕。柄をさきはかり折る。〔illegible〕。〔illegible〕。〔illegible〕

量をはかる量という。多少をはかるを料という。ふせぐ、の義は同じ。『說文』料、量也。米在斗中。非聲。論語曰、斗筲之人。段玉裁注、米在斗中、非聲。鈍按、『說文』料、算也。字林云、料、量也。『說文』斛、十斗也。

料校[1] ……はかり考へる。『晉書、裴頠傳』、武帝幸宇宙觀、以三千人軍兵備、令王東野校之。

料實[1] ……同上。

料擬[1] ……はかりくらべる。料簡。『後漢書、馮魴傳』、朝廷、于左能否、料擬、太尉楊震、沙汰虛冗、料簡貴賤、『晉書、傅咸傳』、李勝下、書料擬、『後漢、列子序』、『晉書、傅咸傳』、李勝下、書料擬、『後漢書、馮魴傳

料 13503 ソウ (中華大字典)苦口切 **𦸗**

ひしやく。(篇韻)斗、用以斟酌。

挑 13504 チョウ 料(6・13558)に同じ。(篇海類編)同上。

斛 13505 レツ レチ (篇海)力輟切 **戮**

はかる。(篇海)斛、量也。

將 13506 レツ 料(6・13556)に同じ。(五音篇海)料に同じ。

斛 13507 ミウ 料(6・13559)の俗字。(玉篇)斗、俗斗字。

七畫

斛 13508 コク ゴク (集韻)胡谷切 **屋** 厂メ、

①容量の名、十斗。現制では五斗。**②**小さい料。(説文)斛、十斗也。从斗角聲。(儀禮)聘記)十斗曰斛。(周禮)斛、斗、(注)斛、十斗曰一石。(周禮)斛、斗、(注)斛、十斗曰一石。

①ます、量器の總稱。(史記)季斯傳)平斗斛度量。**②**はかる。(太公經)玄祝)百付相

斛(注)斛、量也。**④**姓。(正字通)斛、姓、宋斛纏、紹興間(1131-62)人。**⑤**人名。(後漢書)紀)斛、或作斟、通作斟。(集韻)斛、或作斟、通作斟。

斛口 [illegible] ます。

斛子 [illegible] ます。複姓。(通志、氏族略、代北複姓)斛氏、其先居(匈奴)世、爲北部大人、號斛頭部、因氏焉。

斛斯政 [illegible] 隋の人。楊の子。明悟にして器幹あり、開皇中、軍功により儀同となる。楊玄感等の反に逆し、誅刑に處せらる。(隋書、七十二)北史、四十九)

斛斯椿 [illegible] 北周の人。楊の子。字は士茂。博學にして、書傳を通じ、虞世南の子、周の武帝の時、呈太子の師となり、陳の文帝の時、太子太師となり、陳の滅ぶるに及び、椿、長安に還り、更部敬、復奏、必ず斛二斗を飲、復滅、升合、便以爲不足、非復日、家貧、後有客遺之、正遇其敬、復召示、椿、敬、椿、敬、椿、敬

打消して、大方でない。ひととほりでない。

斗部（七畫）

〔斟〕 ㊀ 酌む。（論語全書、録我部解給用）　㊁ 酒器。（説文解字、斗部）

〔斟酌〕 ㊀ 酒を

朝になってから、猶方鋼・翅慣玉等が未幾大興。宋文徳・東坡逢萬等から詩賦頗多。[斜]斜[斜]斜[斜]斜

夏氏は殷といひ、殷氏は周といふ。周氏は殷といふ。猶天子の爲つたと說に、六升を容れるから名づけた。說文、从斗、丹聲。段注、

〔斝字〕一、六斝の一つ。斝に祿稜の器を知して飾とする。祭は、祭に名づけた。祭は、祭に名づけた。〔周禮、春官、小宗伯職〕六斝之祭。

六斝、鬱鬯、鳥斝・雀斝・黃斝・虎斝・蜼斝。

〔周禮、春官、鬱人職〕鬱鬯、鳥斝・雀斝・黃斝・虎斝・蜼斝。

〔注〕黃、讀爲璜。稜斝、象形稜也。

〔賈疏〕、玉の斝、〔左氏、昭七〕陪以璠斝。

〔注〕璠、讀爲璠。璠斝、玉斝也。〔疏〕玉斝、不宜而還。〔注〕璠、玉斝也。〔疏〕璠斝、以玉爲之、旁有耳、若今之斝、故名耳。

〔說文〕、玉の坏の飲器をいふ。歷に通ず。一說に、斝中の酒。〔周禮、夏官、量人〕凡宗祭、則贊人、受斝歷、而皆飲之。〔孫詒讓正義〕云、則贊人、受斝歷、而皆飲之者、此與贊人爲官聯也。陳仲魚、謂斝、蓋受之餘、斝、蓋受之餘、李鍾倫、姜光輔、疏者且、孫載陳、莊有可、林頌蕃、黃以周、武亜同、金鶚云、楚辭大招篇曰、瑤漿蜜勺、實羽觴些、王逸注曰、瑤、清酒也、廣雅釋器亦曰、瑤、酒也、受斝歷、之者、謂量人、受斝歷、受爵、其義耳、案歷、鄭、金鶚說是也、說文、歷、過也、歷、過也、歷、過也、周投、歷、文、歷、歷、通也、說文、西部云、酒、酒也、段玉裁同、即此歷字、亦通。

斝

13513 ハウ

通釋 俗斝字。

斝 13513 ハウ

斝 〈13518〉〈13519〉の本字。〔正字通〕斝、同上。〔篇海類編〕斝、同上。

斛

13514 チウ

斟

13515 シン 平侵・平沁・平覃 同韻 〈13518〉〈13519〉に同じ。〔龍龕手鑑〕斟、同上。

斟

13516 ユ 〔集韻〕勇主切 麌

九畫

斟 小篆 說に、斟四升、卽ち酒と鬱金とをいふ。〔說文〕斟、量也。从斗、甚聲。周禮曰、秦二斟。段注、秦と記り人文、郎注、斟、輕重未聞。許所但云、量也。一号之爲甚少。與論語、攷工記之虞、絕異。〔正字通〕斟、一云、言其輕重之則酒所、與〔廣雅、釋器〕鍾十曰、斟。❷或は 〈6・13483〉〈12・13517〉に作る。〔集韻〕斟、或作、鈷、鈷。

斟

13517 シン 〔集韻〕選侵切 沁平 cham

斟 篆 ❶くむ。酒などをつぐ。〔說文〕斟、勺也。从斗、甚聲。〔段注〕、勺、謂斟酒也。〔廣雅、釋詁四〕斟、酌也。〔楚辭、天問〕彭鏗斟雉帝何饗。〔補注〕斟、勺也。❷鈷仕。酒をつつ。〔史記、趙世家、食代王及從者、行、斟、❸くみかはす。さかもり。〔劉楨、九老會詩〕王祥鯉處祥霞鮮。❹のみもの。酒、漢の類。〔方言二〕、斟、汁也。北燕朝鮮洌水之間曰斟。〔說文、段注〕、勺、之誦、之斟。〔引申之盛〕於勺者、亦謂之斟。〔史記、張儀傳〕厨人進、斟、因反斗以擊、代王。❺あつもの。〔楚辭、招魂〕而後、王孫、斟、〔補注〕、周語、〔注〕、斟、羹也。❻おしはかる。人の意中をくみ、こと。〔後漢書、郭躬傳〕、過門相好、有、酒、取其意指也。❼量分する。〔說文〕、段注、凡、量分、曰、斟、、、多用、斟、酌、、、

於兔。兔讐食之。以寡考。彭祖至八百歲。○筆記。筆。筆。筆

〇、尚夜篇には輸道沖に作る。今、奇姓通に從ふ。【斛】(字元史、二百五十六)

【斛】(字元史、二百五十六)

【斛】(字元史、二百五十六)

解〔二〕斉襄子に斥、後以為氏。〔風俗統語〕斥望出。代郡に斥丘（○）を見る。**斥候**さんこう。斥候の名。古は十六箇。四十八箇を大一斥といふ。今は常に百六十箇を一ひとこれを斥候といふ。其の他、**斥候**等、物に差多く、百斥候、多きは二百五十箇、少きは二百箇、白目二百三十箇、白目二百三十箇、白目二百三十

厄、司馬法、小雅也。❹**ひがた**。〔書、禹貢〕海濱廣斥。〔郭注〕斥、謂地鹹鹵、草不生。〔釋地〕地目）鹵而不斥。〔注〕斥、潟鹵。❺**いけ**。〔風、雅、釋地〕。❻**きし**。〔廣雅、釋地〕。〔注〕斥、岸也。〔張衡、西京賦〕地鹹斥。〔注〕斥、鹽鹵也。❼**ひろい**。〔廣雅、釋詁〕斥、廣也。〔注〕斥、廣、闊也。❽**小さい**。〔呂、審應、覽〕斥、通才、〔注〕斥、小也。❾**たるき**。椽（6）〔13236〕に通ず。〔路史、陶唐氏紀〕斥題、雕斗、〔注〕斥題、陶唐氏紀。斥題、斗、斗栱、上階不成。❿**さく**。さける。ひらく。〔呂、審應、覽〕埆、說文、裂也、小作斥。〔詩〕**しいまま**。〔孟子、萬章、下〕斥、放縱也。〔司馬彪〕、〔注、字通〕斥、擅斥、放縱也。〔荀子、君子、下〕擅斥八極。〔注、擅斥、猶放縱也。〔國語、晉語、八〕擅斥、猶

能之之。

【斥】13536 上 [集韻]昌石切 [説文]開也。从斤屰聲。屰、古逆字。

[説文]斥、ひやまちを指す。ひやまちを指す。ひやまちを指す。

【斧斤質】ふきん　古の分金の割合。(周禮・考工記・輪人)「五分其金而銅居二」謂之斧斤之質。

【斧斤之擊】ふきんのげき　斧を以てこれを斬る。(莊子・駢拇)「斧斤之擊」

【斧斤之音】ふきんのおと　人の斬る器となる。(劉向・九歎・憂苦)「斧斤之音聞四海」

【斧質】ふしつ　人の斬る器となる。(劉向・九歎・憂苦)「斧質之用」

【斧鉞】ふえつ　斧と鉞。(漢書・王莽傳)「斧鉞加身」

【斧鑕】ふしつ　斧で首を斬られること。斬刑。(後漢書・百官志)「斧鑕之誅」

【斧鑕】ふしつ　はりつけ。(漢書・王莽傳)「斧鑕在北闕」

【斧鑕】ふしつ　はりつけ。(漢書・王莽傳)「斧鑕在北闕」

【斧鉞】ふえつ　斧と鉞。(漢書・王莽傳)「斧鉞加身」

【斧質】ふしつ　斧で首を斬られること。斬刑。(後漢書・百官志)「斧質之誅

斫 13546 カ（集韻）竹我切 觀

ひく。（類篇）斫、擊也。（集韻）斫、郎斫、擊也。

斩 13547 ヨク 集韻 居俊切 尤

❶ひらく。（繰海）斩、開也。❷斩（8－1006）

斬 13548 シャク 集韻 職切 ㊀ chuò

❶きる。（説文）斬、整也、从斤石聲。❷うつ。（説文）斬、擊也、从斤石聲。

小篆 斬斬斬所已斬也、从斤句聲。（玉篇）斬、刀斬。（後漢書、呂布傳）斬之、鞭之。（説文）斬、斬也。（説文）斬、大斬也。

斲 13549 ショク 義未詳。（埤蒼）王縄切、斫、昔所。

斨 13550 ①ブク ②カク ③キャク 見 説文切 ㊀ 集韻 茅鎮切 覺

斯 13551 カウ 義未詳。（玉篇）苟海切、昔所。

斬 13552 キン 義未詳。（埤蒼）王縄切、斫、昔所。

斷 13553 キン 近 (11－383529) の本字。（説文）斷、斷、近本字。

斷 13553′ セツ 折 (8－1588) の本字。（中華大字典）折、本作斷。

斤 13554 ラ 集韻 郎可切 戈

小篆 斤斤斤

文斬・殺也。从車斤。斬、法二車毅也。〔釋名・釋兵制〕斬頭曰斬。斬、要曰要斬。斬、暫也。暫加、兵卻斬也。〔周禮・秋官・掌戮〕斬・殺戮誅。注、斬以斧鉞若今之斧斬也。●きる。④き

りつける。「史記・司馬穰苴傳」斬・於軍中。●きりはなす。「廣雅・釋詁二」斬、斷也。「禮・曲禮下」遽宮室、不斬。於丘木。●ころす。「廣雅・釋詁」斬、殺也。●さく。「廣雅・釋詁二」斬、裂也。●うつ。「國語・齊語」斬・孤竹（注）斬、伐也。●たつ。「正字通」斬、斷也。「詩・小雅・節南山」國既卒斬（傳）斬、絕（「孟子・離婁下」君子之交、五世而斬。斬斬、絕也。）「集傳」斬、絕（「孟子・離婁下」君子之交、五世而斬。斬斬、絕也。）●まだ。斬新・斬を見よ。●喪服の一つ。裳をたちはなして、ふちもひぜぬもの。〔釋名・釋衣服〕斬、斬衰者、以六寸之布、廣四寸、爲衰、衰、摧子心前、雪而不縫也。□かる。〔集韻〕斬、芟也。

解説　倉頡、車と斤とをのりまかりとの合字。本義は芟きる。斬に引伸して絶・殺・誅・法・殺人は古の車裂の刑に法って、をのまきから上の方に出た車と斤とを合せたもの。〔說文・段注〕芟百用力也。車裂、法人乃法車毅之象。而用鉞、鉞故字從斤。从車斤。省、鉞之初也。

【斬】ざん　真橫のさま。〔左氏・昭十九〕斬斬然。〔杜預・注〕斬斬之中、〔會笑〕斬・謂笑橫之狀如斬殺也。

【斬刈】ざんがい　草や木を刈り除くこと。〔史・秦始皇紀〕遂刈草除木。〔後漢・馬援〕山中草茂、鈎鎌斬刈。乃及道路也。●きりころす。「孔子家語・六本」斬刈製民、如草芥焉。〔金史・移剌成傳〕收製兵官製斬刈甚苦。〔「呂子」〕斬刈民力。〔「呂子」〕斬刈民力。〔「呂子」〕斬刈民力

【斬斬】ゼン　きる。殺戮する。『新斬』『晉書』衛瓘傳。一時之間、便斬斬也。

【斬目】ゼンモク　くびをきり、おおとる。うちくび。『後漢書』馬援傳。斬首獲生、數以千計。

【斬刈】ゼンガイ　くびをきり、かる。『後漢書』馬援傳。斬首刈草、以千一加、馳騁沃野。

【斬絕】ゼンゼツ　斬絕刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬絕刷、太祖。

【斬絕刷】ゼンゼツサツ　きりたおし、かりとる。『後漢書』馬援傳。斬絕刷、太祖。

【斬草】ゼンソウ　草を斬る。『史記』呉王濞傳。漢の高祖が白蛇を斬った名剣。『西京雜記』に、高祖斬蛇剣、長二尺五寸、斬草除根、以威天下。

【斬蛇剣】ゼンダケケン　斬蛇剣に同じ。『後漢書』五行志中之五。

【斬伐】ゼンバツ　きりたおす。『後漢書』五行志中之五。

【斬刈草木】ゼンガイソウモク　斬刈草木に同じ。『後漢書』馬援傳。斬刈草木、以千一加、馳騁沃野。

【斬草除根】ゼンソウジコン　草を斬り、根を除く。『後漢書』馬援傳。斬草除根、以威天下。

【斬蛇剣】ゼンダケケン　漢の高祖が白蛇を斬った名剣。『西京雜記』に、高祖斬蛇剣、長二尺五寸、斬草除根、以威天下。

【斬斬】ゼンゼン　斬斬刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬斬刷、太祖。

【斬斬刷】ゼンゼンサツ　斬斬刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬斬刷、太祖。

【斬首】ゼンシュ　首を斬る。『後漢書』馬援傳。斬首獲生、數以千計。

【斬刈草木】ゼンガイソウモク　斬刈草木に同じ。『後漢書』馬援傳。斬刈草木、以千一加、馳騁沃野。

【斬刈草木以入鋒】ゼンガイソウモクイニュウホウ　草を斬り、鋒に入る。『後漢書』馬援傳。斬刈草木以入鋒、以威天下。

【斬草除根】ゼンソウジコン　斬草除根に同じ。『後漢書』馬援傳。斬草除根、以威天下。

【斬蛇剣】ゼンダケケン　斬蛇剣に同じ。『後漢書』五行志中之五。

【斬斬】ゼンゼン　斬斬刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬斬刷、太祖。

【斬斬刷】ゼンゼンサツ　斬斬刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬斬刷、太祖。

【斬斬刷】ゼンゼンサツ　きりたおし、かりとる。『後漢書』馬援傳。斬斬刷、太祖。

【斬絕刷】ゼンゼツサツ　斬絕刷に同じ。『後漢書』馬援傳。斬絕刷、太祖。

【斬草】ゼンソウ　草を斬る。『史記』呉王濞傳。漢の高祖が白蛇を斬った名剣。『西京雜記』に、高祖斬蛇剣、長二尺五寸、斬草除根、以威天下。

【斬蛇剣】ゼンダケケン　漢の高祖が白蛇を斬った名剣。『西京雜記』に、高祖斬蛇剣、長二尺五寸、斬草除根、以威天下。

【斬伐】ゼンバツ　きりたおす。『後漢書』五行志中之五

以斜斤斷竹者。到翼生尸足。以斜斤其尸足。**斷足**。ｊｉｎ。足をきる。解剖に同じ。不孝樂寮篇。「斷陳。ｊｉｎ。きり殘る。（史記）張釋之傳。用斜斤斷。解。李注同。

斯 13563

ｓｉｎ ［集韻］相支切 支 ㄙ ｓｉｎ

ｓｉｎ ［集韻］斯義切 寘 ㄙ ｓｉｎ

ｓｉｎ ［集韻］山於切 魚 ㄙ ｓｉｎ

①事物をさし示す代名詞。 篆文。（1-14558）に通ずる。說文通訓定聲。「斯、段借爲蜀。（4）この。これ。（詩、大雅、抑）斯言之玷。（論語、微子）斯何其以斯道也。（皇疏）斯、此也。（禮記、檀弓下）歌。於斯。於此也。（論語、述而）不圓爲樂。至於斯。（孟子、公孫丑）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）遠者如斯夫。不舍晝夜。（疏）斯、此也。（ここ。（論語、子罕）斯何。斯人。（論語、述而）不圓爲樂。至於斯。（孟子、公孫丑）斯、此也。（ここ。（禮記、檀弓下）歌。於斯。於此也。（疏）斯、此也。（ここ。（論語、子罕）遠者如斯夫。不舍晝夜。（疏）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）斯何。斯人。（論語、述而）不圓爲樂。至於斯。（孟子、公孫丑）斯、此也。（ここ。（禮記、檀弓下）歌。於斯。於此也。（疏）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）遠者如斯夫。不舍晝夜。（疏）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）**②これ。ここに。** ④則ちの意を表はす助詞。**③**（詩、大雅、抑）斯言之玷。（荀子、王霸）斯何其以斯道也。（皇疏）斯、此也。（論語、述而）斯何。斯人。（論語、述而）不圓爲樂。至於斯。（孟子、公孫丑）斯、此也。（ここ。（禮記、檀弓下）歌。於斯。於此也。（疏）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）遠者如斯夫。不舍晝夜。（疏）斯、此也。（ひかく。（論語、子罕）**④則ちの意を表はす助詞。** 經傳釋詞。八、斯、猶則也。（論語、公冶長）再斯可矣。（荀子、哀公）敢問、何如斯可謂庸人矣。（大戴禮、哀公問五義）何如則可謂庸人矣。③乃ちの意を表はす助詞。（經傳釋詞。八）「**其**」（詩意の助辭）大侯既抗。弓矢斯張。**④**（詩、小雅、賓之初筵）大侯既抗。弓矢斯張。**⑤**（詩、小雅、斯干）如鳥斯翼。（詩、小雅、斯干）如鳥斯革。**⑥**「**語助**」**をととのへる助辭。** 句中で又句末に用ひる。（詩、小雅、漢廣）漢之廣矣。不可泳思。（詩、小雅、漢廣）漢之廣矣。不可泳思。（詩、小雅、漢廣）漢之廣矣。不可泳思

「至子、禹愛上子將以斯道、愛斯民也。(孔義子)「言行非不「皆斯道、愛斯民所傳序」斯道除遠。●氏心國、大古以來自后以下、皆以斯道、愛斯民、爲治之大道、皇道者、以(德)、爲斯民、皇道之所、何異而出、恭、其所以斯、(孟子)「斯道、皇道之所、何異而出、恭、其所以斯、(孟子)「城市、氏、城市、氏、地位、恭、其所以斯、(孟子)「斯道、恭、其所以斯、(孟子)「斯道、恭、其所以斯、(孟子)「斯道

（注）云新者、皆以物不可用更造之義。氏、晉大夫羊舌氏。氏、氏族略〕新
故曰新（詩商頌、玄鳥疏、引韓詩、〔毛〕傳）
爲曰新（詩商頌、殷武箋、疏）❸あらたまる（書、亂征、或與惟
新。❹あらたまる（公羊、僖二十二年）新
（穀梁、僖二十、初也、〔公羊〕、僖、二十二）新
（注）新、猶初也。（春秋說）新、猶初也。
（注）新、猶始也。（春秋繁露、隨難
篇）新、猶初也。（春秋說）新、猶初也。
（注）新、猶始也。（孝經援神契、隨難
篇）新、猶初也。（春秋說）新、猶初也。
❺あらたにする。あたらしくする。
❻あらたにする。あたらしくする。
（國語、周語中）（韋昭、新親、故
新、親、故親、新、注子、初、親、故親、新
（淮南、繆稱）正日星辰位
上子秋萬歲義、制日、履新之歲、❼あたら
しい。あたらしい。（國語、周語中）（韋昭、新親、故
親、故親、新、注子、初、親、故親、新、注子、
秋萬歲義、制日、履新之歲、❽あたら
しい知りさま。（國語、周語中）（韋昭、新親、故
親、故親、新、注子、初、親、故親、新、注子、
秋萬歲義、制日、履新之歲、❾あたら
しい知りさに。（國語、周語中）（韋昭、新親、故
親、故親、新、注子、初、親、故親、新、注子、
秋萬歲義、制日、履新之歲、❿木をき
りとる。（文選、馬本作、親選、木也、从斤
業聲、（段注引、伸之、爲、凡始基之稱、）
篇部（段注引、伸之、爲、凡始基之稱、）
（說文通訓定聲、新、假借爲、案、（段、（內、則）
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓫亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓬亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓭亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓮亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓯亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓰亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓱亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓲亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓳亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。⓴亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉑亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉒亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉓亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉔亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉕亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉖亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉗亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉘亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉙亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉚亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉛亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉜亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉝亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉞亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㉟亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊱亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊲亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊳亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊴亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊵亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊶亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊷亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊸亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊹亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊺亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊻亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊼亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊽亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊾亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。㊿亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(51)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(52)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(53)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(54)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(55)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(56)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(57)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(58)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(59)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(60)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(61)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(62)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(63)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(64)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(65)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(66)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(67)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(68)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(69)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(70)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(71)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(72)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(73)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(74)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(75)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(76)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(77)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(78)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(79)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(80)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(81)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(82)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(83)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(84)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(85)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(86)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(87)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(88)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(89)亂蠻。（王
（注）新、之（注）新、沿、擇之名也。(90)亂蠻。（王

刃朔七、魄、自悲列新禹典、愛樹之補注新禹、

【新衣】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい着物。

【新婦】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい妻。

【新鬼】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい死者。

【新郎】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい夫。

【新年】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい年。

【新月】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい月。

【新鮮】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい。

【新聞】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい。

【新婚】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい。

【新郎】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい。

【新郎】ニヒ。ヤ。ヤ。新しい。

【新郎

酉南、（漢元方興紀要、湖廣、黃州府、蘄州、黃梅縣、新開口鎮、又名石湖、江陵縣、長沙府、衡州、黃梅縣、安陸縣の西南、）●雲夢の名、河北安陸縣、（漢江氏の遠出、明の百戸所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

【新課】130ページ 大の試験（「課試」、遠友人『詩』遠詩）自可「家」新課、遠期試「家」。

【新會】130ページ 鄱名。陳置し、廣東省台山縣の東北、西江の支流の潭江に流す。但し本は、「請史方輿紀要」廣東、「新寧縣誌」に、「新寧縣誌」に、「請史方輿紀要」廣東、云、陳寧・陳郡県、「廣東輿地図」新寧縣、「新寧縣誌」、「廣東輿地図」、「廣東輿地図」、「廣東輿地図

溪縣に改む。（清史稿地理志）雲南、澂江府、州二〇新興州。●縣名。②後漢、置。甘肅省武山縣。③南齊、置。今缺。陝西の境。④後魏、置。東海郡。（前漢志）新興城、後漢中平五年、分、襄新郡置。廣東省高要縣の西南。縣は西江の支流の新興江の東南に潮す。（水經注）新興川水、出て西南為北走て手溝水。

【新興】[illegible]川の名。又、廣東河とといふ。源は廣州縣の東、上流を良茶河といふ。清水に注ぐ。（水經、清水注）新興川水、出て西南為北走て手溝水。

【新興】[illegible]後魏、石宏の[illegible]。

【新興】[illegible]

【新興】[illegible]

【新興】[illegible]

の。「東都事略」補中興文乃新修也。❹二：②

あらたにつくる。「書名」今まあたら。

參の對。（參考、太平記十二、中前代蜂起事）汝

は新參の者か。（參考、太平記十二、中前代蜂起事）汝

たばかりて物事に馴れなることの、其の者し

し。

【新參雜】（名）。寺時、大内人で儀式等に行はれた儀式無。新參者が雜つたから、今山東者

西藤の地。（東書、地理志上）現在新縣上下

【新山道人】（名）。元、書文略。6 14357（13

の字。❹青、墓銘III—480（13

14359（13

【新仕】（名）。あらたに仕る。

【新仕】（名）。新任の國司。後撰和歌集、十五、雜

一。新可はるかかまうけに。

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

【新出道人】（名）。元、書文略。6 14357（13

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

【新出】（名）。地名（『吉田神社文書』）。

淫縣。（清史方輿紀要、江南）滁州、西南距州之城、跨岡時、屬、秦置。（九域志）滁州、西南距州之城、跨岡時、屬、秦置。（太平寰宇記）宋置新昌郡。（寶慶志）滁郡郡治。（宋史）新昌郡。晉元帝僑置。（輿地紀勝）晉因之。（後魏）滁、今縣。（隋書）開皇十八年、置。（寰宇記）滁州、今縣。（元史）滁州、西南距州之城、跨岡時、屬、秦置。（清史方輿紀要）江西、瑞州府、新昌縣、漢建城縣地

駅道。（續史方興紀要）江西。建昌府。新城縣。宋南城縣之聚蕭鎮。紹興八年、析鎮置新城縣。屬建昌軍。（清史稿）地理一）（清史稿）地理二）（輿地紀要）（清史稿）地理二）（輿地紀要）（清史稿）地理二）（輿地紀要

情深懷抱不一。●●家貧賣(一)劍高鎔。鑑隱著事七十韻詩。好者新近。●●●

[百部]。[自]聽宋[南史五]。[書]序書。[書]宗[書]。[書]宗[書]。[書]宗[書]

含經學[illegible]編[illegible]新[illegible]知行。新知（狂言記[illegible]編）[illegible]ちをくわつと下された。

【新治】[illegible]。孝子世家。[illegible]。[illegible]。[illegible]

寒（㊁湖北省襄陽縣東南。漢水流入處。）漢水流入處。薩業地。◎（いとぐち）。開業ナ。（店）。

【新店口】[illegible]。鎮の名。河南省信陽縣の北。（河南縣志）。（後武宗時）劉公直が鎮に駐屯。（萬曆書鎮）。（宋史時）劉公直が鎮に駐屯。萬曆南五里。（萬曆書）。父老相傳、新店、郭陳店、因公直駐屯遺墟故名。

【新店子】[illegible]。◎（河北省定州）。（新唐書）。

◎四川省綿陽縣の西。又、永興場ともいう。◎四川省綿陽縣の西。又、永興場ともいう。

【新添】[illegible]。◎動の名。明、置く、貴州省貴定縣治。明一統志に「本名、省水江」（遵志）。「本名」又讀ク。碗の訓は碗地に。◎廣東省海陽縣の東北。（廣東通志）。（廣東省海陽縣の東北、潮州の東南、普水の上流の東北岸。（廣東輿地、地理志）。◎（新唐書）。◎（宋史）。（輿地、地理志）（＝10110・64）の字。◎清、趙經（10・37171）。

【新甸】[illegible]。鎮の名。◎湖南省寧遠縣の東南。（湖南省通志）。（湖南輿地、地理志）。◎（新唐書）。◎湖南吉林省東北の東北。（湖南輿地、地理志）。

【新渡】[illegible]。◎あらたに出来た渡し場。（蘇紙、送歐陽季默詩）。同、時、異、鮮、日、賀、番、黑、己、覺、驛、拓、拓、鮮。（新渡）。◎（太平記）。記三十九、大内介弘陽（象）が新渡貫の鎧貫（新渡の鎧）。

【新渡戸】[illegible]。◎姓氏。◎あたらしい都（蘇唐書、地理志）。

一隋開皇二年、自清渡安故城東南移（二十里）。置、新都郡。新豐行人、新都、若、舊宮、◎王、陸機、五等諸侯論、新機、漢。（王、盛日、漢書）。◎、曾、新、ことに、故城は（江江省安徐縣の西）。◎、曾、新、ことに、故城は（江江省安徐縣の西）。◎、曾、新、ことに、故城は（江江省安徐縣の西

東隋陳掩至、一奚擧新酌。

新方 [13] ○、、、

【新業】[隋書]37 [sui.sui.]1.65。●あたらしい城壁。●あたらしい切手。

【新苗】[漢書]27 あたらしい苗。[陶潛、時運詩]有「風自南來、爲彼新苗」。[劉敞朝、送[illegible]郎中赴海州詩]「南風新苗、[illegible]」。[新語]7 [illegible]。[新語]7 [illegible]。[新語]7 [illegible]

味回時。

【新絃】503ᵃ⁷ 明。義恩傳28・32220・32ᵃ⁴の字。

【新絃】503ᵃ⁷ 人びとに出来た絃。『後漢書』輿服志下「乘輿、無衣、興、才同、抱、情、抱、抱也、疏」絃、新絃、名。

【爲鑾】503ᵃ⁷ 新妻の名。『杜甫』機後冷淘詩「青鳳爲鑾、(文選作中饋)新鑾、(文選作中饋)新鑾、(文選作中饋)新

【新來】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ 〈名〉 ❶ 剛才。❷ 近來。❸ 新近。❹ 新到。❺ 新近的。❻ 新近的人。❼ 新近的事。❽ 新近的東西。❾ 新近的人物。❿ 新近的事物。⓫ 新近的東西。⓬ 新近的人物。⓭ 新近的事物。⓮ 新近的東西。⓯ 新近的人物。⓰ 新近的事物。⓱ 新近的東西。⓲ 新近的人物。⓳ 新近的事物。⓴ 新近的東西。㉑ 新近的人物。㉒ 新近的事物。㉓ 新近的東西。㉔ 新近的人物。㉕ 新近的事物。㉖ 新近的東西。㉗ 新近的人物。㉘ 新近的事物。㉙ 新近的東西。㉚ 新近的人物。㉛ 新近的事物。㉜ 新近的東西。㉝ 新近的人物。㉞ 新近的事物。㉟ 新近的東西。㊱ 新近的人物。㊲ 新近的事物。㊳ 新近的東西。㊴ 新近的人物。㊵ 新近的事物。㊶ 新近的東西。㊷ 新近的人物。㊸ 新近的事物。㊹ 新近的東西。㊺ 新近的人物。㊻ 新近的事物。㊼ 新近的東西。㊽ 新近的人物。㊾ 新近的事物。㊿ 新近的東西。

【新來乍到】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的人】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的東西】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄉㄨㄥ ㄒㄧ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的事】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄕˋ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的事物】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄕˋ ㄨˋ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的人物】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄨˋ 〈名〉 剛才。

【新來乍到的東西】ㄒㄧㄣ ㄌㄞˊ ㄓㄚˋ ㄉㄠˋ ㄉㄜ ㄉㄨㄥ ㄒㄧ

新築論 [illegible] あたらしい屬の論。
新荘園 [illegible] 木門の名。江戸城奈良坂麓の西。明の水梁中、建て運河の淺水に入る口とした。今は廢す。
新收銭 [illegible] 新米。
●新所帶 [illegible] あらたにかまへた世帶。あらたに家をもつこと。
新炊飯 [illegible] ただきたての飯。
新世界 [illegible] 南北元和初期、及び寛太利洲の稱。後世に至つて發見せられたからいふ。舊世界の對。
新少年 [illegible] 若い少年。(曹植、送應氏詩)不見見舊者死、視新少年。
新蕉軒 [illegible] 熊谷立閑の號。熊谷蕉軒(?―?)。
新芝 [illegible] 芝を見よ。
新城 [illegible] [illegible] 仁徳。
新先津 [illegible] 常都市の地名。
新先主 [illegible] [illegible] 先に先聖したものを先聖と呼び、あらたに登聖したものを新先聖といふ。(晉書、癸丑年、新先聖、詩)五更陽月省逢逢、紳冕旋旌車繽。
新先聖 [illegible] あらたしい聖人。(呂覽、離俗)不見、(呂覽、離俗)
新撰鏡黑鏡 [illegible]
新撰書 [illegible] 清、朱彝尊の [illegible]
新唐書 [illegible] 書名。二百二十五卷。宋、歐陽修等撰。舊唐書を改修したものであるから舊唐書とひ、後世單に唐書といふ。十本紀十志二十表五十卷から成る。而して舊唐書に比べて、志五十卷、四表二卷を減じ、五卷を增じ、十本紀十列傳百五十卷から成る。而して舊唐書に比べて、本紀は僅に數十卷から成れてゐるが、呂覽、陽秋、世系表の作成に力あり、宋敏求は唐代政事に努め、文章に嘯は詩歌史から兵志を分ち、劉禹錫は天文五行志を書いたりなどの新工夫の特色の著はれてゐる。內容は舊唐書に比べて、本紀は簡略、志は舊の禮樂、音樂を合はせて禮樂とし、新たに儀衛、兵の二志を設けてゐる。又、舊に缺けてゐる四表を加へ、諸外國傳に於ては倭國日本二傳の重複を正して日本のみとし、安殿的、高句麗に比して事實を增加し、文章を省略し、糾謬補正した等の非點もある。二四庫提要、史、正史類。
新唐書糾謬 [illegible] 書名。二百二十卷。宋、吳縝撰。
新門 [illegible] 門に分け、駁するに所見と同自錄事、初の名を糾謬、後の名を駁と稱す。而して糾謬の名は、唐代の舊書、駁は歐陽の吳元美が謝州で刊行し、駁して糾謬といふ。故に今に至るも謝州の名を用ひる。(四庫提要、史、正史類)
新唐書音義 [illegible] 書名。唐代、李子卿撰。(新唐書藝文志)二卷。清、趙紹祖撰。(新唐書藝文志)二卷。清、趙紹祖撰。
新唐書糾謬 [illegible] 書名。宋、歐陽修撰。(宋史、藝文類

洲 寛政四年四月十六日殁す。年七十九。浩佐米僧 新井白石 一服部南郭 一荻生徂徠 一清水浜臣 一國學教授菅野謙著に歳神考・日本古典文学大系『歳神』所収。

【新井白蛾】[illegible] 江戸の人。名は敬字子は謙吉。通称は儀助。別に助右衛門。蛾は号。蛾は蛾眉の略。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【斷】13575　セイ　篆(10－35514)の古字。(集韻)篆、古作斷。

【斷】13576　テイ　(集韻)音鼎かな。鼎(集韻)斷、鎔也、三足兩耳。

【斷】13577　ダン　斷、斷(説文)斷也、斷(説文)斷絶也、斷斷字。

【斷】13584　ダン　斷(6－13611)の俗字。(篇海)斷、俗斷字。

十一畫

【斷】13585　タク　(集韻)石角切　ㄓㄨㄛˊ　chuo.

𠂤 小篆 𠂤 (説文) 𠂤 篆文 𠂤 (説文) 𠂤 篆文 斷 (説文) 斷 篆文 斷 (説文) 斷 篆文 斷 (説文) 斷

斤部（十一——十四畫）斷斷斷

絶する。「古詩」爲焦仲卿妻作/自可」斷。來信。●きれはし。たちきれ。片段。「荘子」、知北比「横橫於溝中之斷」●うつ。殺文通論 29716 に通ず。(公羊、莊二十四、穀傳云手、釋文斷、本又作「斷」鍛」鬪。●岡の上

の平石。硯(ゲン)(穀梁、僖二十年、穀傳云定聲)斷、段借爲鍛。孟子有、私鍛斷焉、按岡嶺平石也。●きる。碁の手法の名。「棋義例」詰轉」斷、段之爲「二」日」斷。(日本)たつ。斷定する。(禮、樂記)臨、事而懼斷。(注)、斷、猶決也。⑩周禮、地官、大司徒、斷而斷之。(禮、月令)(孟秋)斷、獄、(禮記、王制)斷、獄、(禮記、文王世子)斷、獄、(禮記、文王世子)斷、獄、(禮記、文王世子

失成功、夫之禍擊、第日知所已、以就整整、混終案。

【斷】斷 ㄉㄨㄢˋ duàn 既問的斷案。疑案的判決。「為「繫辭上」以斷天下之疑」。疑念を晴らす。「為「繫辭上」以斷天下之疑」。さばきわいて。「編名者、刑名部、斷給」「注」以斷、決也。「晉の武公が老人に疑を決定する故事。「呂氏春秋」疑似篇」。

【斷給】斷 ㄉㄨㄢˋ ㄍㄟˇ duàn gěi 決定。「晉の武公が老人に疑を決定する故事。「呂氏春秋」疑似篇」。

【斷】斷 ㄉㄨㄢˋ duàn 「呂氏春秋」疑似篇」。

【斷金】斷 ㄉㄨㄢˋ ㄐㄧㄣ duàn jīn 金属をたち切る。「二人の友情が金属をもたち切る」。強めて固い交、厚い交情。「易、繫辞上」「二人同心、其利斷金。」「故金是堅剛之物、能斷而敵之、故喻言利之甚也。「後漢書、桓帝紀」「勉同斷金、之義、共祐茲業。」「後漢書、桓帝紀」「勉同斷金、之義、共祐茲業。」

【斷金】斷 ㄉㄨㄢˋ ㄐㄧㄣ duàn jīn 友人間の強めて固いもの。「朱絃、清水注、高、子伯琴、琴、伯牙、鍾子期、琴、伯牙、鍾子期、琴、伯牙、鍾子期

【斷棧】ダンサン。とぎれたかけはし。「斷崖引陸離」

【斷山】ダンザン。きりたつたやうなけはしい山。轉

【斷斷】ダンダン。しばしば。「世說新語賞譽」「荀粲

別傳」「斷斷山」（注）斷侯、謂侯也。

【斷斷】ダンダン。「後漢書、董卓傳」「不斷斷以示武威者也」（論衡）論義「斷斷

人身無遺類」

【斷死】ダンシ。死を決する。決死。「斷は決に同じ。

（戰國策、秦策）「今秦王之所以信張儀、而不信

也」（韓非子、初見秦）「秦王之所以信張儀、而不

信蘇秦者、何也？」（戰國策、秦策）「斷然」

【斷指】ダンシ。たちきつた指。（管子、侈靡）「斷指

治瘍、指一空大驚、惡出、治」●復讐の法。（呂和遺事）

【斷指生】ダンシセイ。禁、後漢（一四四）の人。「左傳

を制るは能くし、石を制るは能ず。」（博物志）

【斷刑】ダンケイ。刑を斷ずること。（博物志）「刑法

者、人命に關係が有り、日夜刑、而代後、人矢、今復

殺人、故に、去不、忍也、於、其除、斷、疑法」

【斷根】ダンコン。たちがれた木。（『列子』非相）「風公

山二岡に倒れ根斷れ朝ガ無理、有如白駒過隙、尊音記録」

【斷酒】ダンシュ。酒を禁じて飲まないこと。（『後漢書、

孔融傳』）「斷酒、酒、禁、酒、酒、酒

漢書、後漢書「斷」載地絡。〔魏書、高宗紀〕斷、載
官物以入於己。
斷載切ﾃﾞﾝ 舌とたきる。斷載に同じ。〔後漢書、華
花傳〕斷載洗。
斷舌（大漢西域記）五外道講（に）就、自斷舌。
斷舌（大漢西域記）五外道講（に）就、自斷舌。
斷ずたるる。たたられるけがれて、ずたずたに
なる。〔平家物語、巻一、鹿ケ谷〕「斷ずたるる
ものどもの、たちまちに、ずたずたに切られ
て、ものの数にもあらぬ体にて、ただ一人、
ものの上にぞ、ふしまろびたりける。」
斷ずたる 切られたる。〔平家物語、巻一、鹿ケ谷〕
「斷ずたるる。たちまちに、ずたずたに切られ
て、ものの数にもあらぬ体にて、ただ一人、
ものの上にぞ、ふしまろびたりける。」
斷ずたるる 切られたる。〔平家物語、巻一、鹿ケ谷〕
「斷ずたるる。たちまちに、ずたずたに切られ
て、ものの数にもあらぬ体にて、ただ一人、
ものの上にぞ、ふしまろびたりける。」
斷ずたる 切られたる。〔平家物語、巻一、鹿ケ谷〕
「斷ずたるる。たちまちに、ずたずたに切られ
て、ものの数にもあらぬ体にて、ただ一人、
ものの上にぞ、ふしまろびたりける。」
斷ずたるる 切られたる。〔平家物語、巻一、鹿ケ谷〕
「斷ずたるる。たちまちに、ずたずたに切られ
て、ものの数にもあらぬ体にて、ただ一人、
ものの上にぞ、ふしまろびたりける。」
斷ずた

自語 明日解脱篇 富斷謂。

「斷頭 四ノ六」 ●頭を切る。『戰國策 秦策』「秦王斷頭決腹」 ●頭の基部。『淮南子 説林訓』「頭斷則一身盡亡」 ●首のない死体。『後漢書 王莽傳』「莽既誅、傳其首、無頭處、頭斷而已。」 ●首を切られること。絶える。仕舞いになる。

「斷頭鬼 四ノ六」 首なしの幽霊。『後漢書 王莽傳』「莽既誅、傳其首、無頭處、頭斷而已。」 ●事(術)を(に)于(於)…。臨終。見「斷頭鬼」。

「斷頭場 四ノ六」 ●刑場。『史記 張儀傳』「儀終日、見斷頭鬼、後車百乗、之属二云。」

「斷頭將軍 四ノ六」 ●捨て殘りの綿雲。『西廂記』「俗編 綿道 姑蘇方言 元王伊作 紀事 「曲 春雨生涯雲斷頭 注 斷頭將軍 四方」」

「斷頭臺 四ノ六」 罪人の首を斬る場。「だい」

「斷頭場 四ノ六」 罪人の首を斬る場。「びきり」

「斷頭將軍 四ノ六」 決死の將軍。後漢の劉璋の將の嚴顔が巴郡を守り、張飛に捕にされて、降を勧められた時、我が州には斷頭將軍あって、軍を進めれば、我が州には斷頭將軍あるのみ、と言った故事。『蜀子』「李膠 張飛傳 注 蜀記 曰、嚴顔、字、顔明、巴郡人、…璋、…以顔爲中郎將、…璋、…遣顔、…拒張飛、…顔、…曰、…卿等無狀、…當我州有斷頭將軍、…璋、…遣…拒張飛、…璋、…遣…拒張飛、…璋、…遣…拒張飛

と、(六部成語、王鼎鈞、注解)河流中斷。「斷斷」

【斷例】[illegible]ダン 判決の事例。裁断の実例。「[illegible]」

杜預傳、(注)者、基礎基之斷例、非[illegible]盡基之實也。

【斷路】[illegible]ロ 路をつって通行を妨げる。(北史、[illegible]伊洛連戰故之、(梁紀)[illegible]、貴西豊王[illegible]、[illegible]路。

【斷路】[illegible]ロ 伊洛連戰故之、(梁紀)[illegible]、貴西豊王[illegible]、[illegible]路。

【斷腸】[illegible]ショウ 悲しみのあまり腸がずたずたに切れるかと思うほどの悲しみ。「[illegible]」

濟于河。(釋文)方、併也。(史記)鄭食其傳)方、併而行。(注)索隱曰、案、方、船、謂船也。(漢書、揚雄傳)上、郭、方、併、偃蹇。(注)師古曰、方、謂、並行、也。(詩、周頌、載芟)驛、(注)毛曰、併、

防　防11－41376の項に通ず。【說文通訓定聲】防、假借爲防。●へや。いへ。坊13－9324に通ず。【廣雅疏證】坊、注善曰、方與坊、古字通。【漢書張湯傳】治方中。【注】師古曰、古謂掘地爲坑曰方。●まさに。まもなく。常7－21890の項に通ず。【說文通訓定聲】方、假借爲當。【禮記】將、【秦風小戎】方何爲期。【箋】方、猶何時也。【詩】遵期乎。【詩小雅、正月】民今方殆。【箋】方、且也。【張衡、東京賦】其用財取物。【注】綜曰、方、將也。【孫綽、遊天台山賦】方解鞿絕。【注】善曰、方、猶將也。【漢書、文帝紀】方今之時。【漢書、食貨志】方今之時。【漢書、王莽傳】方今何時。【漢書、王莽傳】方何爲期。【箋】方猶何時。【秦風小戎】方何爲期。【箋】方猶何時。【詩】遵期乎。【詩小雅、正月】民今方殆。【注】綜曰、方、將也。【孫綽、遊天台山賦】方解鞿絕。【注】善曰、方、猶將也。●あ　帝紀】方春和時。●大きい。常9－13863の項に通ず。【說文通訓定聲】方、假借爲旁。【廣雅、釋詁三】方、大也。●たもつ。【廣雅、釋詁三】方、有也。【詩、召南、鵲巢、維鵲】有巢、維鳩方之。【傳】方、有之也。●はじめ。はじめて。【廣雅、釋詁三】方、始也。●なす。【廣雅、釋詁三】方、爲也。●惑る。惑の象。【秦漢筆談、技藝、古法九算法】積之物、有、立方、謂、冪皆方者、其法積之物、有、立方、謂、冪皆方者、其法積之物、有、立方、謂、冪皆方者、其法

して「物の相合はない喩」。狗は出、縄は真。(楚辭、離騒)。九歌、湘君「方舟枻而不合兮、狗縄用而無懲」

【方鑑】ほうかん。「鑑」は、「鑑」に同じ。(後漢書、馬防傳)。「方鑑」は、現世誠実不偽で欺いて為にする。(楚辭、離騒)。「方鑑」は、車のかがみ。方はなべる意。(張衡、西京賦)。「方鑑」は、方・鑑接・鈴。(注、師古)。定まった徳とは、「管子、幼官」。

【方鑑】ほうかん。「方鑑」は、「鑑」に同じ。

【方翰】ほうかん。清、李樹穀の一。(1450・2320)の誤。

【方鈴】ほうれい。●四角な鈴。(宋史、儒林傳、馬防傳)。「宋史、儒林伝」に見える。所所、著稱、方屋而高。(蘇軾、方山冠之傳)。「方屋而高」。(蘇軾、方山冠之傳)。「方屋而高」。「方屋」は、「方屋」。

【方屋】ほうおく。●四方と中央。(書、武成)。「天書、以無方夏」(傳)。「方夏」は、「方夏」。(後漢書、董卓傳)。「方夏」は、「方夏」。(後漢書、董卓傳)。「方夏」は、「方夏」。(後漢書、董卓

方軌、宜車而行也。(顔氏家訓、名實篇)『方軌之路』(漢書、武帝紀)。

方隅 ほうぐう。四角なひかん。戸は長隅、方は長隅。(文選、南面の人の戸)。

方隅 ほうぐう。四角なひかん。戸は長隅、方は長隅。(文選、南面の人の戸)。

方熙 ほうき。明、南田の人。字は孟明。號は東軒、又は遺民。(東軒集)。(明詩綜、二十二)。

方毅 ほうき。(方毅)。(『書』、堯典)。

(方毅)。(『書』、堯典)。

(方毅)。(『書』、堯典)。

〔方巾 [illegible]〕 頭巾の一。名、角巾。古、文人の冠。

〔方言 [illegible]〕 (二字連語)方言。

〔方士 [illegible]〕 道教の神仙思想を信じ、不老不死の術を行なう人。

〔方正 [illegible]〕 ①方形の矢。四角に作った。「東方朔傳」「[illegible]」 ②植物の名。

〔方丈 [illegible]〕 ①四方の一丈。「[illegible]」 ②方丈の室。「[illegible]」 ③方丈の食。「[illegible]」 ④方丈の山。「[illegible]」

〔方寸 [illegible]〕 ①方形の寸。「[illegible]」 ②方寸の心。「[illegible]」 ③方寸の印。「[illegible]」

〔方正 [illegible]〕 ①方形の正。「[illegible]」 ②方正の人。「[illegible]」 ③方正の官。「[illegible]」

〔方圭 [illegible]〕 ①方形の圭。「[illegible]」 ②方圭の人。「[illegible]」

〔方伯 [illegible]〕 ①周代、諸侯の長。「[illegible]」 ②方伯の人。「[illegible]」

〔方面 [illegible]〕 ①方面。「[illegible]」 ②方面の人。「[illegible]」

〔方便 [illegible]〕 ①方便。「[illegible]」 ②方便の人。「[illegible]」

〔方法 [illegible]〕 ①方法。「[illegible]」 ②方法の人。「[illegible]」

〔方術 [illegible]〕 ①方術。「[illegible]」 ②方術の人。「[illegible]」

〔方略 [illegible]〕 ①方略。「[illegible]」 ②方略の人。「[illegible]」

〔方策 [illegible]〕 ①方策。「[illegible]」 ②方策の人。「[illegible]」

〔方技 [illegible]〕 ①方技。「[illegible]」 ②方技の人。「[illegible]」

〔方言 [illegible]〕 ①方言。「[illegible]」 ②方言の人。「[illegible]」

〔方士 [illegible]〕 ①方士。「[illegible]」 ②方士の人。「[illegible]」

〔方正 [illegible]〕 ①方正。「[illegible]」 ②方正の人。「[illegible]」

〔方圭 [illegible]〕 ①方圭。「[illegible]」 ②方圭の人。「[illegible]」

〔方伯 [illegible]〕 ①方伯。「[illegible]」 ②方伯の人。「[illegible]」

〔方面 [illegible]〕 ①方面。「[illegible]」 ②方面の人。「[illegible]」

〔方便 [illegible]〕 ①方便。「[illegible]」 ②方便の人。「[illegible]」

〔方法 [illegible]〕 ①方法。「[illegible]」 ②方法の人。「[illegible]」

〔方術 [illegible]〕 ①方術。「[illegible]」 ②方術の人。「[illegible]」

〔方略 [illegible]〕 ①方略。「[illegible]」 ②方略の人。「[illegible]」

〔方策 [illegible]〕 ①方策。「[illegible]」 ②方策の人。「[illegible]」

〔方技 [illegible]〕 ①方技。「[illegible]」 ②方技の人。「[illegible]」

〔方言 [illegible]〕 ①方言。「[illegible]」 ②方言の人。「[illegible]」

〔方士 [illegible]〕 ①方士。「[illegible]」 ②方士の人。「[illegible]」

〔方正 [illegible]〕 ①方正。「[illegible]」 ②方正の人。「[illegible]」

〔方圭 [illegible]〕 ①方圭。「[illegible]」 ②方圭の人。「[illegible]」

〔方伯 [illegible]〕 ①方伯。「[illegible]」 ②方伯の人。「[illegible]」

〔方面 [illegible]〕 ①方面。「[illegible]」 ②方面の人。「[illegible]」

〔方便 [illegible]〕 ①方便。「[illegible]」 ②方便の人。「[illegible]」

〔方法 [illegible]〕 ①方法。「[illegible]」 ②方法の人。「[illegible]」

〔方術 [illegible]〕 ①方術。「[illegible]」 ②方術の人。「[illegible]」

〔方略 [illegible]〕 ①方略。「[illegible]」 ②方略の人。「[illegible]」

〔方策 [illegible]〕 ①方策。「[illegible]」 ②方策の人。「[illegible]」

〔方技 [illegible]〕 ①方技。「[illegible]」 ②方技の人。「[illegible]」

〔方言 [illegible]〕 ①方言。「[illegible]」 ②方言の人。「[illegible]」

〔方士 [illegible]〕 ①方士。「[illegible]」 ②方士の人。「[illegible]」

〔方正 [illegible]〕 ①方正。「[illegible]」 ②方正の人。「[illegible]」

〔方圭 [illegible]〕 ①方圭。「[illegible]」 ②方圭の人。「[illegible]」

〔方伯 [illegible]〕 ①方伯。「[illegible]」 ②方伯の人。「[illegible]」

〔方面 [illegible]〕 ①方面。「[illegible]」 ②方面の人。「[illegible]」

〔方便 [illegible]〕 ①方便。「[illegible]」 ②方便の人。「[illegible]」

〔方法 [illegible]〕 ①方法。「[illegible]」 ②方法の人。「[illegible]」

〔方術 [illegible]〕 ①方術。「[illegible]」 ②方術の人。「[illegible]」

〔方略 [illegible]〕 ①方略。「[illegible]」 ②方略の人。「[illegible]」

〔方策 [illegible]〕 ①方策。「[illegible]」 ②方策の人。「[illegible]」

〔方技 [illegible]〕 ①方技。「[illegible]」 ②方技の人。「[illegible]」

〔方言 [illegible]〕 ①方言。「[illegible]」 ②方言の人。「[illegible]」

〔方士 [illegible]〕 ①方士。「[illegible]」 ②方士の人。「[illegible]」

〔方正 [illegible]〕 ①方正。「[illegible]」 ②方正の人。「[illegible]」

〔方圭 [illegible]〕 ①方圭。「[illegible]」 ②方圭の人。「[illegible]」

〔方伯 [illegible]〕 ①方伯。「[illegible]」 ②方伯の人。「[illegible]」

〔方面 [illegible]〕 ①方面。「[illegible]」 ②方面の人。「[illegible]」

〔方便 [illegible]〕 ①方便。「[illegible]」 ②方便の人。「[illegible]」

〔方法 [illegible]〕 ①方法。「[illegible]」 ②方法の人。「[illegible]」

〔方術 [illegible]〕 ①方術。「[illegible]」 ②方術の人。「[illegible]」

〔方略 [illegible]〕 ①方略。「[illegible]」 ②方略の人。「[illegible]」

〔方策 [illegible]〕 ①方策。「[illegible]」 ②方策の人。「[illegible]」

〔方技 [illegible]〕 ①方技。「[illegible]」 ②方技の人。「[illegible]」

九十二。

【方君】[illegible]。名刺入れ。拜匣。〔支延調、方弘子〕

【方】[illegible]。方因子。宇鼎綱、字[illegible]。[illegible]。[illegible]。

[方后]説文 明、世宗の后、謚は孝烈。明史、一百十四。

[方侯]説文 明、鎮国大将軍。

[方士]説文 清の人、字は羽南、著に易象意言、説文徴等がある。

[方鼎]説文 清、懋城の人、字は羽南、著に易象意言、説文徴等がある。

[方才]説文 [noun] [ca.] 四方の色。林はなから、いろがりの意。

[方林]説文 [noun] [ca.] 方林は其繁盛。

[方]説文 [noun] [ca.] 方、方様。只今、方様。

[方正]説文 [noun] [ca.] 方正、方様。

[方言]説文 [noun] [ca.] 方言は、方言。

[方言]説文 [noun] [ca.] 方言は、方言。

[方言]説文 [noun] [ca.] 方言は、方言

山。●⑥縣名。②漢、置く。山西省離石縣の北。題石水の西岸。『後漢紀』第二十四、冷刑府。水寄州。定胡城。方山城。在州西北七十里。『魏書』中山。『水經注』『方山城、在州西北七十里。『魏書』中山。『水經注』『宋因之。金史、白軍二年、徙信都縣石州。宋因之。金史、白軍二年、方山城、在州北百四十里。⑦紀綱官。『晉書』、隋書、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑧紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑨紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑩紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑪紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑫紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑬紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑭紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑮紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑯紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑰紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑱紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑲紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。⑳紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉑紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉒紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉓紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉔紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉕紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉖紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉗紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉘紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉙紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉚紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉛紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉜紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉝紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉞紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㉟紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊱紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊲紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊳紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊴紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊵紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊶紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊷紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊸紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊹紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊺紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊻紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊼紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊽紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊾紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。㊿紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(51)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(52)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(53)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(54)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(55)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(56)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(57)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(58)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(59)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(60)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(61)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(62)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(63)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(64)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(65)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(66)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(67)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(68)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(69)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(70)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(71)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(72)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(73)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(74)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(75)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(76)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(77)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(78)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(79)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(80)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(81)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(82)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(83)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(84)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(85)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(86)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(87)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(88)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(89)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(90)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(91)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(92)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(93)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(94)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(95)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(96)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(97)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(98)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(99)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(100)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(101)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(102)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(103)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(104)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(105)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(106)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(107)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(108)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(109)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(110)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(111)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(112)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(113)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(114)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(115)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(116)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(117)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(118)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(119)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(120)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(121)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(122)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(123)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(124)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(125)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(126)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(127)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(128)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(129)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(130)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(131)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(132)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(133)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(134)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(135)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(136)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(137)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(138)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(139)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(140)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(141)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(142)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(143)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(144)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(145)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(146)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(147)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(148)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(149)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(150)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(151)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(152)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(153)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(154)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(155)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(156)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(157)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(158)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(159)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(160)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(161)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(162)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(163)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(164)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(165)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(166)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(167)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(168)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(169)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(170)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(171)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(172)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(173)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(174)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(175)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(176)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(177)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(178)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(179)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(180)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(181)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(182)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(183)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(184)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(185)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(186)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(187)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(188)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(189)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(190)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(191)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(192)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(193)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(194)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(195)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(196)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(197)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(198)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(199)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(200)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(201)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(202)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(203)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(204)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(205)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(206)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(207)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(208)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(209)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(210)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(211)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(212)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(213)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(214)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(215)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(216)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(217)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(218)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(219)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(220)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(221)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(222)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(223)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(224)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(225)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(226)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(227)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(228)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(229)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。(230)紀綱官。『晉書』、『魏書』、『隋書』、地理志。『水經注』『方山城、在州西北百四十里。

宦名。

『方山居士』『方山居士』。金、耿守道の『全金詩』の號。

『方山』『方山』。●仙術。『方術』。『方術』。『方術』

左氏襄27例「髮髓例」詩相鼠等を附録す。（四庫提要「兼別事類」）

【方秀】 ㊀ 陳・胡寧（中24000－180の字。

【方洲】 ㊀ 明・張寧（本59212－5390の誤。

【方式】 ㊀ 形式。

【方實】 ㊀ 正しくすべきことあること。（後漢書・杜根傳「臣愚誠方實，好校直」）

【方車】 ㊀ 車をならべ出す。方は並べる意。（淮南子・說山訓「方車而陳，疏樂，好而入胡」（注）方，並。陳。

【方社】 ㊀ 四方の神と土地の神。（魏・王粲「公讌詩」「方社稷，方社稷，方社稷，方社稷」（注）方，神。

【方者】 ㊀ 方術者。（史記・太史公自序「編訓「司馬談」言天下之方者，一家一人之長，專精於一技，以觀其成，故曰方士」）㊁ 方士。四角なもの。（南史・張率傳）率（注）方，四角なること。（南史・張率傳）率（注）方，四角なること。（南史・張率傳）率（注）方，四角なること

玉士於戲』〔一北史、周高傳〕多方術、天官書、星經、淮南子天文訓、
【方術士】『漢書』●方士の術がよくすぐれる。●學
〔史記、秦始皇本紀〕『漢書』方士、秦始皇本紀、●學
藝術術ある人。道術の士。〔漢書、淮南王安傳〕
『後漢書』方術の士。〔漢書、西南夷傳〕
【方士】『漢書』●方士の術をもつ人。●學藝術術ある人。道術の士。〔漢書、淮南王安傳〕
『後漢書』方術傳の人。〔漢書、西南夷傳〕
【方術】『漢書』●方士の術。●學藝術術ある人。道術の士。〔漢書、淮南王安傳〕
『後漢書』方術傳の人。〔漢書、西南夷傳〕
【方士】『漢書』●方士の術をもつ人。●學藝術術ある人。道術の士。〔漢書、淮南王安傳〕
『後漢書』方術傳の人。〔漢書、西南夷傳〕
【方術士】『漢書』●方士の術がよくすぐれる

速なり合はさつたもの。

方色 283 283 四方の色。〔後漢書、輿服志上〕各如方色。〔孔叢子、儒服〕衣裳雜玉石色。

方色 283 283 〔孔叢子〕儒服〕衣裳雜玉石色。〔蜀志〕先主到傳〕先主方食、大匕筯。

方食 283 283 〔孔叢子〕儒服〕衣裳雜玉石色。〔蜀志〕先主到傳〕先主方食、大匕筯。

方士 283 283 〔孔叢子〕儒服〕衣裳雜玉石色。〔蜀志〕先主到傳〕先主方食、大匕筯。

方士 283 283 〔孔叢子〕儒服〕衣裳雜玉石色。〔蜀志〕先主到傳〕先主方食、大匕筯。

方中 283 283 清、俄敗人、字は深賢。道士中醮法を修して、道氣に精しく、若に諸葛孔明、李靖の如き、道術に通じ、修道の士、到る所、人、之を敬仰す。〔明史、百九十二〕〔本朝分省人物攷、三十九〕

方 283 283 明、福建の人。字は高伯。彼は竹素の進士。官は杭州刺史。〔蜀志〕先主傳〕先主方食、大匕筯。

方 283 283 明、江都の人。字は高伯。彼は竹素の進士。官は杭州刺史。〔蜀志〕先主方食、大匕筯。

方 283 283 〔蜀志〕先主方食、大匕筯。

方 283 283 〔蜀志〕先主方食、大匕筯。

方 283 283

【方柄圓鑿】[illegible]：方柄 四角の柄に通い穴。物の相合は鑿枘（ほぞ）。鑿は穴、圓は丸圓に作り、鑿枘（ほぞ）は穴、圓は丸圓に作り、鑿枘（ほぞ）は穴、圓は丸圓に作り、鑿枘（ほぞ）

[illegible]官は盛岡同知

【方丈】[illegible]一丈四万のひろさ。〔孟子、離婁下〕心下 食前方丈 侍妾數百人 我待士無禄 [illegible]

〔後漢書、仙人王烈伝〕[illegible]

方丈 〔張協、七命〕方丈蓬萊 〔宋書、宗慤傳〕方丈 〔張協、七命〕方丈蓬萊 〔宋書、宗慤傳〕方丈に住むといわ方丈 〔神山〕[illegible]

〔後漢書、方術伝〕[illegible]

方丈 〔高誘、呂氏春秋、[illegible]〕海中有仙人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

形をなしてゐる部の意。字義は「經度」に寓入され、母音は「土」母「姥」韻に轉じ、而詩「方都」二〇（義訓）

方圃圃 方圃は、其地は正方や地形也。

方物 方物は、地方、（書、旅獒）「方物」は、地方の産物。

方土 方土は、地方、（書、旅獒）「方物」は、地方の産物。

方士 方士は、方術を行ふ士。（書、旅獒）「方物」は、地方の産物。

方丈 方丈は、一丈四方。（後漢書、王符傳）「方丈」は、一丈四方。

方士 方士は、方術を行ふ士。（後漢書、王符傳）「方丈」は、一丈四方。

方正 方正は、正直。（後漢書、王符傳）「方丈」は、一丈四方。

方伯 方伯は、諸侯の長。（後漢書、王符傳）「方丈」は、一丈四方。

方面 方面は、方面

〔方法〕 ⑩ 一一一一 ●しかた。てだて。方便。事を行ふ様子。「稽古三昧、法体待遇師匠、治所所」相撲人国見、指授方法。●方形が古かを判定する様子。「墨子、天志中」「百姓、若謂之不方、是以方乎、若不中、若矩者、謂之不方、是以方乎、若中矩者、謂之方、是以方乎」「若以方乎、若以不方、皆可一法也」「今若以此若此、則皆以方乎」「城の人、字は伯通。官は四川都司断事。成祖の即位するや、郷り表賀して、謫を蒙ず、江に赴いて死す。明史、一百四十一」「萬斯同明史、二百八十八」

〔方板〕 ⑩ 一一一一 木の板。「左伝、哀三年」「方板、木也。」「孔穎達」「正義、方板者、在竹帛無主名。」「後漢書、礼儀志」「臣聞、有司、以方板、隅、録、疑、論、得自我、使後世論者擅之、陛下、自所、行、比、七、八、九、十、」「方物」 ⑩ 一一一一 たづなをならべる。馬をならべて、「後漢書、馬援伝」「方物、馬援、以、下、」「方板」 ⑩ 一一一一 木の板。「左伝、哀三年」「方板、木也。」「孔穎達」「正義、方板者、在竹帛無主名。」「後漢書、礼儀志」「臣聞、有司、以方板、隅、録、疑、論、得自我、使後世論者擅之、陛下、自所、行、比、七、八、九、十、」「方物」 ⑩ 一一一一 たづなをならべる。馬をならべて、「後漢書、馬援伝」「方物、馬援、以、下、」「方物」 ⑩ 一一一一 其の地方に産する物。「書、旅獒」「無有、遠邇、堪、寶、来、于、王、庭、」「孔安国、傳、」「方、産、物

瑣・敕方徒。（注方明者、上下四方神明之象也。（注）郭璞曰、方明、明堂神位、天子朝諸侯、設之於東西廂六王以禮之、上宜以玄璧、下宜以黃琮、而不用玉帛、則其本、而者之、胡培翬云、義近郊詳方名明、其本、而者之、胡培翬云、義近郊詳方名明。案、竹書紀年、夏桀十年、桀殺工師、斬刑、方明、漢書律歷志、伊尹踐阼、方明、以方四之木、為之、上下四方、各如其方、方明、以方四之木、為之、上下四方、各如其方、六面設之、各面各設一色、以象其神設之、各面各設一色、以象其神、設之、各面各設一色、以象其神、設之、各面各設一色、以象其神、

22852・二二〇の誠。

【方誠】二二〇 太方人の名。其の女は黄祭の妃となつた。(国語)『方誠四黄祭字子二十五人。青同姓者二人。姬青同黄。夷姬青同黄。姬青同黄。已上姬。青同姓者二人。姬青同黄。夷姬青同黄。已上姬。夷姬青同黄。史記正義。黄字祭。生二子。十二女。(国語)。西海氏人。郯姬生二人。重・次妃方誠氏女。同。女・嬀

にして、孫に母に事へて至孝、其の門に旌表さる。

【方鉛鐵】[3885]・[4275]。鉛と硫黄との化合物。鉛を取る原料として王要なもの。

【方朱】[3885]。朱の人。大冢の子。字は惠行。官は大司農。

【方熊羆】[3885]・[4275]。明の人。字は惟行。號は明齋。萬曆の進士。官は兵部尚書。著に『四庫提要』一百七十九)。

【方慶】[3885]・[4275]。宋の人。字は君猷。

【方鵬】[3885]・[4275]。明の人。字は程翼。

【方解石】[3885]・[4275]。織物の名。石灰質で、粉末して、水に溶ける。又光澤を二重に屈折する特質を有する。(本草)方解石、稀名、黄石、志、蔵、硫黄、方解、故以為名。集解、時珍曰、方解石、黄、硬石膏、相似、皆光潤如白石英、但以脆之、投段紙者、為硬石膏、硫黄者、硫黄方捷者、為方解石。蓋一類種、亦可通用。唐本諸方、皆以此為石膏、又名以為英水石、俗呼為方解、是而其性柔、治熱之用、大抵不相遠、惟解肌發汗、則不能如硬石膏、其間。

【方差魁】[3885]・[4275]。軍の名。宋代。三公開府設官中、六部、諸路帥、軍、服用、軍、方差魁、等、三公開府中、諸路帥、軍、(李方元、送方能之京師、詩一)、高音合引金聞、唐、鼓角、長鳴方差魁帳。

【方孝孺】[3885]・[4275]。浙の人。字は希直、號は遜志。洪武の進士。官は侍講。(本)、方孝孺、字希直、寧海人、洪武二年、以文章、徴、入、侍、講、、、

【方二拜】ﾎｳﾆﾊｲ 唐方士。公元。

【方士穎】ﾎｳｼｴｲ 唐方士公元の人。字は伯穎。嶺南の人。

方士の詩を、著に『影宋抄存』がある。

【方士慶】ﾎｳｼｹｲ 未の人。曾子の子。字は信臣。學者道義先生と稱す。字は信臣。嶺南の人。學者道義先生と稱す。著に『道義集』がある。

【方士繇】ﾎｳｼﾖｳ 宋の人。字は信臣。嶺南の人。學者道義先生と稱す。著に『道義集』がある。

【方士庶】ﾎｳｼｼｮ 清。江蘇の人。字は山帶。號は山帶閣。又、小師直人・小師道人・山水道人とも云う。詩に巧。著に『帶山詩鈔』がある。（清史稿 五九九）。張別を點綴無。四百一十二。（清畫集 補ニ八）

【方士亮】ﾎｳｼﾘｮｳ 明。蘇の人。崇禎進士。給事中に累官。學問淵博。國難に出でて二師を奮るべき所なしと。（明史 二百五十八）。『萬曆明史』三百七十二。明史稿一百四十八）。

【方之泰】ﾎｳｼﾀｲ 宋の人。王の孫。字は蘇州。紹定二年の進士。官は秘書郎。著に『方之泰集』がある。（宋史 四百一十五）。

【方之彩】ﾎｳｼｻｲ 宋。興化の人。字は公遠。皇帝の進士。官は梅州の知。

【方之格】ﾎｳｼｶｸ 明。蘇の人。字は伯剛。『萬曆の學者となり、『洪天錫・徐明禦と三賢祭』と號する。官は嘉州通判。

【方之元】ﾎｳｼｹﾝ 明。蘇の人。字は中正。官に出し、其の本末の性族系譜を別ねて作つた事蹟を言い、『唐書』郎中傳・『國朝獻徵』・『名臣』方格・人列・於今・宋・興化の人。字は公遠。皇帝の進士。官は梅州の知。

【方之秦】ﾎｳｼﾀｲ 宋の人。王の孫。字は蘇州。紹定二年の進士。官は秘書郎。著に『方之秦集』がある。（宋史 四百一十五）。

【方之彩】ﾎｳｼｻｲ 宋。興化の人。字は公遠。皇帝の進士。官は梅州の知。

【方之元】ﾎｳｼｹﾝ 明。蘇の人。字は伯剛。『萬曆の學者となり、『洪天錫・徐明禦と三賢祭』と號する。官は嘉州通判。

【方士亮】ﾎｳｼﾘｮｳ 明。蘇の人。崇禎進士。給事中に累官。學問淵博。國難に出でて二師を奮るべき所なしと。（明史 二百五十八）。『萬曆明史』三百七十二。明史稿一百四十八）。

【方士庶】ﾎｳｼｼｮ 清。江蘇の人。字は山帶。號は山帶閣。又、小師直人・小師道人・山水道人とも云う。詩に巧。著に『帶山詩鈔』がある。（清史稿 五九九）。張別を點綴無。四百一十二。（清畫集 補ニ八）

【方士慶】ﾎｳｼｹｲ 未の人。曾子の子。字は信臣。嶺南の人。學者道義先生と稱す。著に『道義集』がある。

【方士繇】ﾎｳｼﾖｳ 未の人。曾子の子。字は信臣。嶺南の人。學者道義先生と稱す。著に『道義集』がある。

【方侍郎】ﾎｳｼﾛｳ 清。浙江の人。字は仲恵。

【方洲集】ﾎｳｼｭｳｼｭｳ 書名。二十六卷。明。張孝孫・張孝孫・張孝孫・

【方僅事】[illegible]…清、方鼓反(ㄈㄤ)をいい。

【方示誠】[illegible]…清、程城反(ㄔㄥ)。牛は存ずと。學條約古文結先生稱す。医兄、東樹の孫子、未學條約、古文結先生、同治中、國子監祭酒、位は五品卿衡、著に相思堂集がある。(清史稿、四百八十二)。(清史列傳、六十七)。(國朝耆獻類徵、八十二)。

【方示孫】[illegible]…明、巴陵の人、字は伯序。春秋に精通す。試に及第せず、隱居して授業す。天順の間、知縣表綱の經明行修を以て薦舉す、就官かなかつた。(水別全書、物類、八十)。

【方太古】[illegible]…明、巢縣の人、字は孝素、號は一峯。古代の貨幣、山東の人、嘗て、新泰縣令に任ぜられ、正德の時、白蓮教、蜂起すと聞き、急遽、縣城に還り、城を守り、賊、來襲するや、自ら、城門に出でて、賊を、説諭し、賊、遂に、解散せり、後、賊、再び

柘中、述野鄭、官は兵部侍郎・西史掾攝事相卽ち了、賈思勰の原種を力証す、鄭の史、嘗て郎部の街書に除せられ、俱に拜せず、學者、蛟峯先生と稱す。[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方孝孺]　明の人、寧海の人、字は希直、一字は遜志、[明史]、[明儒學案]、[尙友錄]。

[方敦敏]　清の人、國學の生員、字は[illegible]、[明史]、[明儒學案]、[尙友錄]。

[方大鯤]　明の人、[明史]、[明儒學案]、[尙友錄]。

[方大美]　明の人、字は[illegible]、[明史]、[明儒學案]、[尙友錄]。

[方大琮]　宋の人、字は德潤、號は[illegible]、[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方大猷]　宋の人、字は[illegible]、[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方大鎮]　宋の人、字は[illegible]、[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方大任]　宋の人、字は[illegible]、[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方大中]　宋の人、字は[illegible]、[宋史]、[宋元學案]、[尙友錄]。

[方大琮]　宋の人、字

旁

13624

バウ

旁（6・13624）の古字。（説文）旁、旁、亦古文旁。

旃

13625

カイ　ゲイ

（集韻）下戒切　匣

①ひさかた。（玉篇）旃、雜錦也。**②むすぶ。**（玉篇）旃、結也。

旒

13626

カウ　ゲウ

（集韻）胡郭切　匣

①わたる。舟で水をわたる。（説文）旒、行水也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）旒、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）旒、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即旒字。

於

13628

ヨ　ウ

（集韻）汪胡切　匣

（集韻）衣虛切　影

①ああ。歎息の辭。烏（7・13956）に同じ。（説文）烏、孝烏也。象形、孔子曰、烏弓呼也、取其助气、故曰烏烏呼也。象形。人也深矣。（韓愈、送高閑上人序）秋ノ於ヲ、秋、伯倫之於酒。**⑤**おいてする。（論語、里仁）、造次必於是、顛沛必於是。（孟子、滕文公下）是故無以多殺、殺不辜而得天下、不仁也。**⑥**を。（廣韻）於、居也。（呂覽、期年）衛有士十人、於吾所、（注）於、猶在也。**⑦よる。**（書經、堯典）平秩東作、寅賓出日、平秩南訛、敬致。（孟子、梁惠王下）於是始興發補不足。**⑧**を。目的を表はす助辭。（論語、學而）子、年無改、於父之道。（論語、雍也）君子博學、於文、**⑨**おける。關係する。（論語、里仁）子曰、君子之於天下也、無適也、無莫也。（論語、先進）先進於禮樂、野人也、（史記、韓王信盧綰傳）於、秋之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①小篆文。於、方、舟也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）於、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）於、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①ああ。歎息の辭。烏（7・13956）に同じ。（説文）烏、孝烏也。象形、孔子曰、烏弓呼也、取其助气、故曰烏烏呼也。象形。人也深矣。（韓愈、送高閑上人序）秋ノ於ヲ、秋、伯倫之於酒。**⑤**おいてする。（論語、里仁）、造次必於是、顛沛必於是。（孟子、滕文公下）是故無以多殺、殺不辜而得天下、不仁也。**⑥**を。（廣韻）於、居也。（呂覽、期年）衛有士十人、於吾所、（注）於、猶在也。**⑦よる。**（書經、堯典）平秩東作、寅賓出日、平秩南訛、敬致。（孟子、梁惠王下）於是始興發補不足。**⑧**を。目的を表はす助辭。（論語、學而）子、年無改、於父之道。（論語、雍也）君子博學、於文、**⑨**おける。關係する。（論語、里仁）子曰、君子之於天下也、無適也、無莫也。（論語、先進）先進於禮樂、野人也、（史記、韓王信盧綰傳）於、秋之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①小篆文。於、方、舟也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）於、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）於、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①わたる。舟で水をわたる。（説文）旒、行水也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）於、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）於、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①ひさかた。（玉篇）旃、雜錦也。**②むすぶ。**（玉篇）旃、結也。

①小篆文。於、方、舟也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）於、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）於、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①わたる。舟で水をわたる。（説文）旒、行水也。从方充聲。疑、天子造舟、諸侯維舟、大夫方舟、士特舟。（後漢書、杜篤傳）泛旒漂流（注）於、舟度也。**②**旒（6・30285）に通ず。（説文解傳）旒、徐鉉曰、今俗別作航、非是。**③**航（6・14434）に通ず。（説文）於、段注、衛風、葦杭之、毛曰、杭、渡也、杭即於字。

①ひさかた。（玉篇）旃、雜錦也。**②むすぶ。**（玉篇）旃、結也。

[於]於[乎]10 ●おお。発語の辭。又、嘆息の詞。(陶潛、歸去來辭)於[焉]10 ●多くのまゝ、于字に同じ。(論語、先進)

[於]於[乎]8 ●感嘆の詞名。

[於]於[乎]8 ●末の於乎が事に、衣在をいふ。(孟子、離婁下)

[於]於[乎]5 ●詩、桑柔の篇。(毛詩、正義

聘迎之。於陵子終日、惠有養人之責、陳仲子欲以己之廉、遺使者持、金來、辭而不受、出而追之、不返、曰、是何足與有廉士之所爲乎、夫人之所以爲人者、五倫爲大、君臣爲重、今以一己之廉、而欲紊人之大倫、是何以爲人哉、人之所以爲人者、食與男女、今以一己之廉、而欲絕人之大倫、是何以爲廉哉、仲子、齊之世家也、兄戴、食我祿、以萬鍾、而以不義得之、而不食焉、以爲不仁、而不居焉、以爲不義、而辭之、而不受焉、以爲不義、而出之、而不返焉、以爲不義、夫仲子之所居、則何義之不充也、是蚓之所食、則何義之不充也、是蚓上食槁壤、而下飲黃泉、則蚓之義、則可充也、夫子欲踐其言、則必爲蚓食、食方丈、而可乎、惠子

ほこる。誇張する。**修**二 582に通ず。『說文通訓定聲』施。假借馬。條。(論語、公冶長)無**施**勞。施(集注)施、施行。

ほしいまま(詩、大雅、卷阿、伴奏開游矣。施(毛傳)施、施施。釋文、施、本又作施。施、同。)**なめ**に行く。(詩、邶風、柏舟、我心匪石不可以轉也。釋文、施、本又作施。)『說文通訓定聲』施。假借爲施。施(孟子、滕文公下)施施從其所好。

方部(五畫)施

ほどこす。施行する。●つたはりおよぼす。(詩、大雅、皇矣、施于孫子。)(論語、爲政)施于政。(孟子、滕文公下)施施從其所好。(孟子、離婁下)施施而行。不敢使良人覺也。(孟子、告子下)施施而行。不敢使良人覺也。(孟子、告子下)施施而行。不敢使良人覺也。(孟子、告子

【施施】ㄕ ㄕ。❶姿み がたいさま。【施行】ㄕㄒㄧㄥˊ。行きやすい。【施氏】ㄕ ㄕˋ。【詩】王風。在中有巢。【施施】ㄕ ㄕ。【後漢書】郭躬傳。【施施】ㄕ ㄕ。【詩】王風。在中有巢。【施施】ㄕ ㄕ。【後漢書】郭躬傳。【施施】ㄕ ㄕ。【後漢書】郭躬傳。【施施】ㄕ ㄕ。【後漢書】郭躬傳

に作り下に地・上に地を脱ずれる。『唐』施屑吾の雑片の意か。清吉水の人。字は信長・原治の初、従つて廣西を征し功を以て廣西按察副使を授ける。著に治竹林がある。（四庫提要）百四十三・二。

施璜 ㊀ 孔璜 離合作。都姓名字詩。興・時遠上、出行都姓名字詩。興・時遠上、離合作。都姓名字詩。興・時遠上、離合作。都姓名字詩。興・時遠上、離合作。都姓名字詩。興・時遠上、

施弘 ㊀ 『唐』。『新』。『舊』。『新』。『舊』。『新』。『舊

督となり、後、福建に轉せられ、時に卒す。清史稿二百七十一九ページ、『國朝耆獻類徵』一百五十四ページ）

施一、雙　清、江寧の人。字は士謙、官は松滋訓導。

施元成　明、嘉興の人。字は德仲、官は清、知縣。

施朝君　清、知縣。字は遠貴、廣德の人。所詩を作り、著に『山詩』がある。（『國朝詩人徵略初編』十五）

施敏鬼　『鬼敏鬼』にはどこしへ参る。無縁施鬼。

施敏鬼　『鬼敏鬼』にはどこしへ参る。無縁施鬼。

施鬼　『施敏鬼』　施元一、『鬼』に切人天所知、惟知者知、人無者覺、『鬼』に切人天所知、惟知者知、人無者覺。『禪門正統』四、若夫施食之法、亦非一

種圃、分蒔野心。萬曆の擧人。官は諸府審理正。著に讓公集書がある。

施諤教 [illegible] 清、浙州の人。字は匪夜、號は嘯閣。官は東城兵馬司、好んで奇を尚び、詩を作るに、嘯閣文集がある。

施諤 [illegible] 清、無錫の人。字は鮮客、廣州十二、[illegible]。

施廷璋 [illegible] 清、無錫の人。字は鮮客、廣[illegible]。著書の諸に、性理考、[illegible]、著に孔經會解、通鑑集論、[illegible]、[illegible]、[illegible]

【旁】13635

セイ 補 [旁] 同旁。

旁 小篆

旁 古文

旁 古文

旁 籀文 あま

説文通訓定聲 旁 段借爲鎊。荀子、議兵、旁辟曲私之徒。注、旁、偏頗也。**❹みだりに。** 安(4—9983)に通ず。(説文通訓定聲)

【旁】13637

ハウ ハウ ハウ ハウ

(集韻)蒲光切 (唐韻)步光切 (廣韻)薄浪切 (集韻)補横切 文尤 bɑŋ

六畫

❶(説文)**❷**(廣雅、釋詁一)**❸**(廣雅、釋詁二)**❹**(廣雅、釋詁三)**❺**(廣雅、釋詁四)**❻**(廣雅、釋詁五)**❼**(廣雅、釋詁六)**❽**(廣雅、釋詁七)**❾**(廣雅、釋詁八)**❿**(廣雅、釋詁九)**⓫**(廣雅、釋詁十)**⓬**(廣雅、釋詁十一)**⓭**(廣雅、釋詁十二)**⓮**(廣雅、釋詁十三)**⓯**(廣雅、釋詁十四)**⓰**(廣雅、釋詁十五)**⓱**(廣雅、釋詁十六)**⓲**(廣雅、釋詁十七)**⓳**(廣雅、釋詁十八)**⓴**(廣雅、釋詁十九)**㉑**(廣雅、釋詁二十)**㉒**(廣雅、釋詁二十一)**㉓**(廣雅、釋詁二十二)**㉔**(廣雅、釋詁二十三)**㉕**(廣雅、釋詁二十四)**㉖**(廣雅、釋詁二十五)**㉗**(廣雅、釋詁二十六)**㉘**(廣雅、釋詁二十七)**㉙**(廣雅、釋詁二十八)**㉚**(廣雅、釋詁二十九)**㉛**(廣雅、釋詁三十)**㉜**(廣雅、釋詁三十一)**㉝**(廣雅、釋詁三十二)**㉞**(廣雅、釋詁三十三)**㉟**(廣雅、釋詁三十四)**㊱**(廣雅、釋詁三十五)**㊲**(廣雅、釋詁三十六)**㊳**(廣雅、釋詁三十七)**㊴**(廣雅、釋詁三十八)**㊵**(廣雅、釋詁三十九)**㊶**(廣雅、釋詁四十)**㊷**(廣雅、釋詁四十一)**㊸**(廣雅、釋詁四十二)**㊹**(廣雅、釋詁四十三)**㊺**(廣雅、釋詁四十四)**㊻**(廣雅、釋詁四十五)**㊼**(廣雅、釋詁四十六)**㊽**(廣雅、釋詁四十七)**㊾**(廣雅、釋詁四十八)**㊿**(廣雅、釋詁四十九)**51**(廣雅、釋詁五十)**52**(廣雅、釋詁五十一)**53**(廣雅、釋詁五十二)**54**(廣雅、釋詁五十三)**55**(廣雅、釋詁五十四)**56**(廣雅、釋詁五十五)**57**(廣雅、釋詁五十六)**58**(廣雅、釋詁五十七)**59**(廣雅、釋詁五十八)**60**(廣雅、釋詁五十九)**61**(廣雅、釋詁六十)**62**(廣雅、釋詁六十一)**63**(廣雅、釋詁六十二)**64**(廣雅、釋詁六十三)**65**(廣雅、釋詁六十四)**66**(廣雅、釋詁六十五)**67**(廣雅、釋詁六十六)**68**(廣雅、釋詁六十七)**69**(廣雅、釋詁六十八)**70**(廣雅、釋詁六十九)**71**(廣雅、釋詁七十)**72**(廣雅、釋詁七十一)**73**(廣雅、釋詁七十二)**74**(廣雅、釋詁七十三)**75**(廣雅、釋詁七十四)**76**(廣雅、釋詁七十五)**77**(廣雅、釋詁七十六)**78**(廣雅、釋詁七十七)**79**(廣雅、釋詁七十八)**80**(廣雅、釋詁七十九)**81**(廣雅、釋詁八十)**82**(廣雅、釋詁八十一)**83**(廣雅、釋詁八十二)**84**(廣雅、釋詁八十三)**85**(廣雅、釋詁八十四)**86**(廣雅、釋詁八十五)**87**(廣雅、釋詁八十六)**88**(廣雅、釋詁八十七)**89**(廣雅、釋詁八十八)**90**(廣雅、釋詁八十九)**91**(廣雅、釋詁九十)**92**(廣雅、釋詁九十一)**93**(廣雅、釋詁九十二)**94**(廣雅、釋詁九十三)**95**(廣雅、釋詁九十四)**96**(廣雅、釋詁九十五)**97**(廣雅、釋詁九十六)**98**(廣雅、釋詁九十七)**99**(廣雅、釋詁九十八)**100**(廣雅、釋詁九十九)**101**(廣雅、釋詁百)**102**(廣雅、釋詁百一)**103**(廣雅、釋詁百二)**104**(廣雅、釋詁百三)**105**(廣雅、釋詁百四)**106**(廣雅、釋詁百五)**107**(廣雅、釋詁百六)**108**(廣雅、釋詁百七)**109**(廣雅、釋詁百八)**110**(廣雅、釋詁百九)**111**(廣雅、釋詁百十)**112**(廣雅、釋詁百十一)**113**(廣雅、釋詁百十二)**114**(廣雅、釋詁百十三)**115**(廣雅、釋詁百十四)**116**(廣雅、釋詁百十五)**117**(廣雅、釋詁百十六)**118**(廣雅、釋詁百十七)**119**(廣雅、釋詁百十八)**120**(廣雅、釋詁百十九)**121**(廣雅、釋詁百二十)**122**(廣雅、釋詁百二十一)**123**(廣雅、釋詁百二十二)**124**(廣雅、釋詁百二十三)**125**(廣雅、釋詁百二十四)**126**(廣雅、釋詁百二十五)**127**(廣雅、釋詁百二十六)**128**(廣雅、釋詁百二十七)**129**(廣雅、釋詁百二十八)**130**(廣雅、釋詁百二十九)**131**(廣雅、釋詁百三十)**132**(廣雅、釋詁百三十一)**133**(廣雅、釋詁百三十二)**134**(廣雅、釋詁百三十三)**135**(廣雅、釋詁百三十四)**136**(廣雅、釋詁百三十五)**137**(廣雅、釋詁百三十六)**138**(廣雅、釋詁百三十七)**139**(廣雅、釋詁百三十八)**140**(廣雅、釋詁百三十九)**141**(廣雅、釋詁百四十)**142**(廣雅、釋詁百四十一)**143**(廣雅、釋詁百四十二)**144**(廣雅、釋詁百四十三)**145**(廣雅、釋詁百四十四)**146**(廣雅、釋詁百四十五)**147**(廣雅、釋詁百四十六)**148**(廣雅、釋詁百四十七)**149**(廣雅、釋詁百四十八)**150**(廣雅、釋詁百四十九)**151**(廣雅、釋詁百五十)**152**(廣雅、釋詁百五十一)**153**(廣雅、釋詁百五十二)**154**(廣雅、釋詁百五十三)**155**(廣雅、釋詁百五十四)**156**(廣雅、釋詁百五十五)**157**(廣雅、釋詁百五十六)**158**(廣雅、釋詁百五十七)**159**(廣雅、釋詁百五十八)**160**(廣雅、釋詁百五十九)**161**(廣雅、釋詁百六十)**162**(廣雅、釋詁百六十一)**163**(廣雅、釋詁百六十二)**164**(廣雅、釋詁百六十三)**165**(廣雅、釋詁百六十四)**166**(廣雅、釋詁百六十五)**167**(廣雅、釋詁百六十六)**168**(廣雅、釋詁百六十七)**169**(廣雅、釋詁百六十八)**170**(廣雅、釋詁百六十九)**171**(廣雅、釋詁百七十)**172**(廣雅、釋詁百七十一)**173**(廣雅、釋詁百七十二)**174**(廣雅、釋詁百七十三)**175**(廣雅、釋詁百七十四)**176**(廣雅、釋詁百七十五)**177**(廣雅、釋詁百七十六)**178**(廣雅、釋詁百七十七)**179**(廣雅、釋詁百七十八)**180**(廣雅、釋詁百七十九)**181**(廣雅、釋詁百八十)**182**(廣雅、釋詁百八十一)**183**(廣雅、釋詁百八十二)**184**(廣雅、釋詁百八十三)**185**(廣雅、釋詁百八十四)**186**(廣雅、釋詁百八十五)**187**(廣雅、釋詁百八十六)**188**(廣雅、釋詁百八十七)**189**(廣雅、釋詁百八十八)**190**(廣雅、釋詁百八十九)**191**(廣雅、釋詁百九十)**192**(廣雅、釋詁百九十一)**193**(廣雅、釋詁百九十二)**194**(廣雅、釋詁百九十三)**195**(廣雅、釋詁百九十四)**196**(廣雅、釋詁百九十五)**197**(廣雅、釋詁百九十六)**198**(廣雅、釋詁百九十七)**199**(廣雅、釋詁百九十八)**200**(廣雅、釋詁百九十九)**201**(廣雅、釋詁二百)**202**(廣雅、釋詁二百一)**203**(廣雅、釋詁二百二)**204**(廣雅、釋詁二百三)**205**(廣雅、釋詁二百四)**206**(廣雅、釋詁二百五)**207**(廣雅、釋詁二百六)**208**(廣雅、釋詁二百七)**209**(廣雅、釋詁二百八)**210**(廣雅、釋詁二百九)**211**(廣雅、釋詁二百十)**212**(廣雅、釋詁二百十一)**213**(廣雅、釋詁二百十二)**214**(廣雅、釋詁二百十三)**215**(廣雅、釋詁二百十四)**216**(廣雅、釋詁二百十五)**217**(廣雅、釋詁二百十六)**218**(廣雅、釋詁二百十七)**219**(廣雅、釋詁二百十八)**220**(廣雅、釋詁二百十九)**221**(廣雅、釋詁二百二十)**222**(廣雅、釋詁二百二十一)**223**(廣雅、釋詁二百二十二)**224**(廣雅、釋詁二百二十三)**225**(廣雅、釋詁二百二十四)**226**(廣雅、釋詁二百二十五)**227**(廣雅、釋詁二百二十六)**228**(廣雅、釋詁二百二十七)**229**(廣雅、釋詁二百二十八)**230**(廣雅、釋詁二百二十九)**231**(廣雅、釋詁二百三十)**232**(廣雅、釋詁二百三十一)**233**(廣雅、釋詁二百三十二)**234**(廣雅、釋詁二百三十三)**235**(廣雅、釋詁二百三十四)**236**(廣雅、釋詁二百三十五)**237**(廣雅、釋詁二百三十六)**238**(廣雅、釋詁二百三十七)**239**(廣雅、釋詁二百三十八)**240**(廣雅、釋詁二百三十九)**241**(廣雅、釋詁二百四十)**242**(廣雅、釋詁二百四十一)**243**(廣雅、釋詁二百四十二)**244**(廣雅、釋詁二百四十三)**245**(廣雅、釋詁二百四十四)**246**(廣雅、釋詁二百四十五)**247**(廣雅、釋詁二百四十六)**248**(廣雅、釋詁二百四十七)**249**(廣雅、釋詁二百四十八)**250**(廣雅、釋詁二百四十九)**251**(廣雅、釋詁二百五十)**252**(廣雅、釋詁二百五十一)**253**(廣雅、釋詁二百五十二)**254**(廣雅、釋詁二百五十三)**255**(廣雅、釋詁二百五十四)**256**(廣雅、釋詁二百五十五)**257**(廣雅、釋詁二百五十六)**258**(廣雅、釋詁二百五十七)**259**(廣雅、釋詁二百五十八)**260**(廣雅、釋詁二百五十九)**261**(廣雅、釋詁二百六十)**262**(廣雅、釋詁二百六十一)**263**(廣雅、釋詁二百六十二)**264**(廣雅、釋詁二百六十三)**265**(廣雅、釋詁二百六十四)**266**(廣雅、釋詁二百六十五)**267**(廣雅、釋詁二百六十六)**268**(廣雅、釋詁二百六十七)**269**(廣雅、釋詁二百六十八)**270**(廣雅、釋詁二百六十九)**271**(廣雅、釋詁二百七十)**272**(廣雅、釋詁二百七十一)**273**(廣雅、釋詁二百七十二)**274**(廣雅、釋詁二百七十三)**275**(廣雅、釋詁二百七十四)**276**(廣雅、釋詁二百七十五)**277**(廣雅、釋詁二百七十六)**278**(廣雅、釋詁二百七十七)**279**(廣雅、釋詁二百七十八)**280**(廣雅、釋詁二百七十九)**281**(廣雅、釋詁二百八十)**282**(廣雅、釋詁二百八十一)**283**(廣雅、釋詁二百八十二)**284**(廣雅、釋詁二百八十三)**285**(廣雅、釋詁二百八十四)**286**(廣雅、釋詁二百八十五)**287**(廣雅、釋詁二百八十六)**288**(廣雅、釋詁二百八十七)**289**(廣雅、釋詁二百八十八)**290**(廣雅、釋詁二百八十九)**291**(廣雅、釋詁二百九十)**292**(廣雅、釋詁二百九十一)**293**(廣雅、釋詁二百九十二)**294**(廣雅、釋詁二百九十三)**295**(廣雅、釋詁二百九十四)**296**(廣雅、釋詁二百九十五)**297**(廣雅、釋詁二百九十六)**298**(廣雅、釋詁二百九十七)**299**(廣雅、釋詁二百九十八)**300**(廣雅、釋詁二百九十九)**301**(廣雅、釋詁三百)**302**(廣雅、釋詁三百一)**303**(廣雅、釋詁三百二)**304**(廣雅、釋詁三百三)**305**(廣雅、釋詁三百四)**306**(廣雅、釋詁三百五)**307**(廣雅、釋詁三百六)**308**(廣雅、釋詁三百七)**309**(廣雅、釋詁三百八)**310**(廣雅、釋詁三百九)**311**(廣雅、釋詁三百十)**312**(廣雅、釋詁三百十一)**313**(廣雅、釋詁三百十二)**314**(廣雅、釋詁三百十三)**315**(廣雅、釋詁三百十四)**316**(廣雅、釋詁三百十五)**317**(廣雅、釋詁三百十六)**318**(廣雅、釋詁三百十七)**319**(廣雅、釋詁三百十八)**320**(廣雅、釋詁三百十九)**321**(廣雅、釋詁三百二十)**322**(廣雅、釋詁三百二十一)**323**(廣雅、釋詁三百二十二)**324**(廣雅、釋詁三百二十三)**325**(廣雅、釋詁三百二十四)**326**(廣雅、釋詁三百二十五)**327**(廣雅、釋詁三百二十六)**328**(廣雅、釋詁三百二十七)**329**(廣雅、釋詁三百二十八)**330**(廣雅、釋詁三百二十九)**331**(廣雅、釋詁三百三十)**332**(廣雅、釋詁三百三十一)**333**(廣雅、釋詁三百三十二)**334**(廣雅、釋詁三百三十三)**335**(廣雅、釋詁三百三十四)**336**(廣雅、釋詁三百三十五)**337**(廣雅、釋詁三百三十六)**338**(廣雅、釋詁三百三十七)**339**(廣雅、釋詁三百三十八)**340**(廣雅、釋詁三百三十九)**341**(廣雅、釋詁三百四十)**342**(廣雅、釋詁三百四十一)**343**(廣雅、釋詁三百四十二)**344**(廣雅、釋詁三百四十三)**345**(廣雅、釋詁三百四十四)**346**(廣雅、釋詁三百四十五)**347**(廣雅、釋詁三百四十六)**348**(廣雅、釋詁三百四十七)**349**(廣雅、釋詁三百四十八)**350**(廣雅、釋詁三百四十九)**351**(廣雅、釋詁三百五十)**352**(廣雅、釋詁三百五十一)**353**(廣雅、釋詁三百五十二)**354**(廣雅、釋詁三百五十三)**355**(廣雅、釋詁三百五十四)**356**(廣雅、釋詁三百五十五)**357**(廣雅、釋詁三百五十六)**358**(廣雅、釋詁三百五十七)**359**(廣雅、釋詁三百五十八)**360**(廣雅、釋詁三百五十九)**361**(廣雅、釋詁三百六十)**362**(廣雅、釋詁三百六十一)**363**(廣雅、釋詁三百六十二)**364**(廣雅、釋詁三百六十三)**365**(廣雅、釋詁三百六十四)**366**(廣雅、釋詁三百六十五)**367**(廣雅、釋詁三百六十六)**368**(廣雅、釋詁三百六十七)**369**(廣雅、釋詁三百六十八)**370**(廣雅、釋詁三百六十九)**371**(廣雅、釋詁三百七十)**372**(廣雅、釋詁三百七十一)**373**(廣雅、釋詁三百七十二)**374**(廣雅、釋詁三百七十三)**375**(廣雅、釋詁三百七十四)**376**(廣雅、釋詁三百七十五)**377**(廣雅、釋詁三百七十六)**378**(廣雅、釋詁三百七十七)**379**(廣雅、釋詁三百七十八)**380**(廣雅、釋詁三百七十九)**381**(廣雅、釋詁三百八十)**382**(廣雅、釋詁三百八十一)**383**(廣雅、釋詁三百八十二)**384**(廣雅、釋詁三百八十三)**385**(廣雅、釋詁三百八十四)**386**(廣雅、釋詁三百八十五)**387**(廣雅、釋詁三百八十六)**388**(廣雅、釋詁三百八十七)**389**(廣雅、釋詁三百八十八)**390**(廣雅、釋詁三百八十九)**391**(廣雅、釋詁三百九十)**392**(廣雅、釋詁三百九十一)**393**(廣雅、釋詁三百九十二)**394**(廣雅、釋詁三百九十三)**395**(廣雅、釋詁三百九十四)**396**(廣雅、釋詁三百九十五)**397**(廣雅、釋詁三百九十六)**398**(廣雅、釋詁三百九十七)**399**(廣雅、釋詁三百九十八)**400**(廣雅、釋詁三百九十九)**401**(廣雅、釋詁四百)**402**(廣雅、釋詁四百一)**403**(廣雅、釋詁四百二)**404**(廣雅、釋詁四百三)**405**(廣雅、釋詁四百四)**406**(廣雅、釋詁四百五)**407**(廣雅、釋詁四百六)**408**(廣雅、釋詁四百七)**409**(廣雅、釋詁四百八)**410**(廣雅、釋詁四百九)**411**(廣雅、釋詁四百十)**412**(廣雅、釋詁四百十一)**413**(廣雅、釋詁四百十二)**414**(廣雅、釋詁四百十三)**415**(廣雅、釋詁四百十四)**416**(廣雅、釋詁四百十五)**417**(廣雅、釋詁四百十六)**418**(廣雅、釋詁四百十七)**419**(廣雅、釋詁四百十八)**420**(廣雅、釋詁四百十九)**421**(廣雅、釋詁四百二十)**422**(廣雅、釋詁四百二十一)**423**(廣雅、釋詁四百二十二)**424**(廣雅、釋詁四百二十三)**425**(廣雅、釋詁四百二十四)**426**(廣雅、釋詁四百二十五)**427**(廣雅、釋詁四百二十六)**428**(廣雅、釋詁四百二十七)**429**(廣雅、釋詁四百二十八)**430**(廣雅、釋詁四百二十九)**431**(廣雅、釋詁四百三十)**432**(廣雅、釋詁四百三十一)**433**(廣雅、釋詁四百三十二)**434**(廣雅、釋詁四百三十三)**435**(廣雅、釋詁四百三十四)**436**(廣雅、釋詁四百三十五)**437**(廣雅、釋詁四百三十六)**438**(廣雅、釋詁四百三十七)**439**(廣雅、釋詁四百三十八)**440**(廣雅、釋詁四百三十九)**441**(廣雅、釋詁四百四十)**442**(廣雅、釋詁四百四十一)**443**(廣雅、釋詁四百四十二)**444**(廣雅、釋詁四百四十三)**445**(廣雅、釋詁四百四十四)**446**(廣雅、釋詁四百四十五)**447**(廣雅、釋詁四百四十六)**448**(廣雅、釋詁四百四十七)**449**(廣雅、釋詁四百四十八)**450**(廣雅、釋詁四百四十九)**451**(廣雅、釋詁四百五十)**452**(廣雅、釋詁四百五十一)**453**(廣雅、釋詁四百五十二)**454**(廣雅、釋詁四百五十三)**455**(廣雅、釋詁四百五十四)**456**(廣雅、釋詁四百五十五)**457**(廣雅、釋詁四百五十六)**458**(廣雅、釋詁四百五十七)**459**(廣雅、釋詁四百五十八)**460**(廣雅、釋詁四百五十九)**461**(廣雅、釋詁四百六十)**462**(廣雅、釋詁四百六十一)**463**(廣雅、釋詁四百六十二)**464**(廣雅、釋詁四百六十三)**465**(廣雅、釋詁四百六十四)**466**(廣雅、釋詁四百六十五)**467**(廣雅、釋詁四百六十六)**468**(廣雅、釋詁四百六十七)**469**(廣雅、釋詁四百六十八)**470**(廣雅、釋詁四百六十九)**471**(廣雅、釋詁四百七十)**472**(廣雅、釋詁四百七十一)**473**(廣雅、釋詁四百七十二)**474**(廣雅、釋詁四百七十三)**475**(廣雅、釋詁四百七十四)**476**(廣雅、釋詁四百七十五)**477**(廣雅、釋詁四百七十六)**478**(廣雅、釋詁四百七十七)**479**(廣雅、釋詁四百七十八)**480**(廣雅、釋詁四百七十九)**481**(廣雅、釋詁四百八十)**482**(廣雅、釋詁四百八十一)**483**(廣雅、釋詁四百八十二)**484**(廣雅、釋詁四百八十三)**485**(廣雅、釋詁四百八十四)**486**(廣雅、釋詁四百八十五)**487**(廣雅、釋詁四百八十六)**488**(廣雅、釋詁四百八十七)**489**(廣雅、釋詁四百八十八)**490**(廣雅、釋詁四百八十九)**491**(廣雅、釋詁四百九十)**492**(廣雅、釋詁四百九十一)**493**(廣雅、釋詁四百九十二)**494**(廣雅、釋詁四百九十三)**495**(廣雅、釋詁四百九十四)**496**(廣雅、釋詁四百九十五)**497**(廣雅、釋詁四百九十六)**498**(廣雅、釋詁四百九十七)**499**(廣雅、釋詁四百九十八)**500**(廣雅、釋詁四百九十九)**501**(廣雅、釋詁五百)**502**(廣雅、釋詁五百一)**503**(廣雅、釋詁五百二)**504**(廣雅、釋詁五百三)**505**(廣雅、釋詁五百四)**506**(廣雅、釋詁五百五)**507**(廣雅、釋詁五百六)**508**(廣雅、釋詁五百七)**509**(廣雅、釋詁五百八)**510**(廣雅、釋詁五百九)**511**(廣雅、釋詁五百十)**512**(廣雅、釋詁五百十一)**513**(廣雅、釋詁五百十二)**514**(廣雅、釋詁五百十三)**515**(廣雅、釋詁五百十四)**516**(廣雅、釋詁五百十五)**517**(廣雅、釋詁五百十六)**518**(廣雅、釋詁五百十七)**519**(廣雅、釋詁五百十八)**520**(廣雅、釋詁五百十九)**521**(廣雅、釋詁五百二十)**522**(廣雅、釋詁五百二十一)**523**(廣雅、釋詁五百二十二)**524**(廣雅、釋詁五百二十三)**525**(廣雅、釋詁五百二十四)**526**(廣雅、釋詁五百二十五)**527**(廣雅、釋詁五百二十六)**528**(廣雅、釋詁五百二十七)**529**(廣雅、釋詁五百二十八)**530**(廣雅、釋詁五百二十九)**531**(廣雅、釋詁五百三十)**532**(廣雅、釋詁五百三十一)**533**(廣雅、釋詁五百三十二)**534**(廣雅、釋詁五百三十三)**535**(廣雅、釋詁五百三十四)**536**(廣雅、釋詁五百三十五)**537**(廣雅、釋詁五百三十六)**538**(廣雅、釋詁五百三十七)**539**(廣雅、釋詁五百三十八)**540**(廣雅、釋詁五百三十九)**541**(廣雅、釋詁五百四十)**542**(廣雅、釋詁五百四十一)**543**(廣雅、釋詁五百四十二)**544**(廣雅、釋詁五百四十三)**545**(廣雅、釋詁五百四十四)**546**(廣雅、釋詁五百四十五)**547**(廣雅、釋詁五百四十六)**548**(廣雅、釋詁五百四十七)**549**(廣雅、釋詁五百四十八)**550**(廣雅、釋詁五百四十九)**551**(廣雅、釋詁五百五十)**552**(廣雅、釋詁五百五十一)**553**(廣雅、釋詁五百五十二)**554**(廣雅、釋詁五百五十三)**555**(廣雅、釋詁五百五十四)**556**(廣雅、釋詁五百五十五)**557**(廣雅、釋詁五百五十六)**558**(廣雅、釋詁五百五十七)**559**(廣雅、釋詁五百五十八)**560**(廣雅、釋詁五百五十九)**561**(廣雅、釋詁五百六十)**562**(廣雅、釋詁五百六十一)**563**(廣雅、釋詁五百六十二)**564**(廣雅、釋詁五百六十三)**565**(廣雅、釋詁五百六十四)**566**(廣雅、釋詁五百六十五)**567**(廣雅、釋詁五百六十六)**568**(廣雅、釋詁五百六十七)**569**(廣雅、釋詁五百六十八)**570**(廣雅、釋詁五百六十九)**571**(廣雅、釋詁五百七十)**572**(廣雅、釋詁五百七十一)**573**(廣雅、釋詁五百七十二)**574**(廣雅、釋詁五百七十三)**575**(廣雅、釋詁五百七十四)**576**(廣雅、釋詁五百七十五)**577**(廣雅、釋詁五百七十六)**578**(廣雅、釋詁五百七十七)**579**(廣雅、釋詁五百七十八)**580**(廣雅、釋詁五百七十九)**581**(廣雅、釋詁五百八十)**582**(廣雅、釋詁五百八十一)**583**(廣雅、釋詁五百八十二)**584**(廣雅、釋詁五百八十三)**585**(廣雅、釋詁五百八十四)**586**(廣雅、釋詁五百八十五)**587**(廣雅、釋詁五百八十六)**588**(廣雅、釋詁五百八十七)**589**(廣雅、釋詁五百八十八)**590**(廣雅、釋詁五百八十九)**591**(廣雅、釋詁五百九十)**592**(廣雅、釋詁五百九十一)**593**(廣雅、釋詁五百九十二)**594**(廣雅、釋詁五百九十三)**595**(廣雅、釋詁五百九十四)**596**(廣雅、釋詁五百九十五)**597**(廣雅、釋詁五百九十六)**598**(廣雅、釋詁五百九十七)**599**(廣雅、釋詁五百九十八)**600**(廣雅、釋詁五百九十九)**601**(廣雅、釋詁六百)**602**(廣雅、釋詁六百一)**603**(廣雅、釋詁六百二)**604**(廣雅、釋詁六百三)**605**(廣雅、釋詁六百四)**606**(廣雅、釋詁六百五)**607**(廣雅、釋詁六百六)**608**(廣雅、釋詁六百七)**609**(廣雅、釋詁六百八)**610**(廣雅、釋詁六百九)**611**(廣雅、釋詁六百十)**612**(廣雅、釋詁六百十一)**613**(廣雅、釋詁六百十二)**614**(廣雅、釋詁六百十三)**615**(廣雅、釋詁六百十四)**616**(廣雅、釋詁六百十五)**617**(廣雅、釋詁六百十六)**618**(廣雅、釋詁六百十七)**619**(廣雅、釋詁六百十八)**620**(廣雅、釋詁六百十九)**621**(廣雅、釋詁六百二十)**622**(廣雅、釋詁六百二十一)**623**(廣雅、釋詁六百二十二)**624**(廣雅、釋詁六百二十三)**625**(廣雅、釋詁六百二十四)**626**(廣雅、釋詁六百二十五)**627**(廣雅、釋詁六百二十六)**628**(廣雅、釋詁六百二十七)**629**(廣雅、釋詁六百二十八)**630**(廣雅、釋詁六百二十九)**631**(廣雅、釋詁六百三十)**632**(廣雅、釋詁六百三十一)**633**(廣雅、釋詁六百三十二)**634**(廣雅、釋詁六百三十三)**635**(廣雅、釋詁六百三十四)**636**(廣雅、釋詁六百三十五)**637**(廣雅、釋詁六百三十六)**638**(廣雅、釋詁六百三十七)**639**(廣雅、釋詁六百三十八)**640**(廣雅、釋詁六百三十九)**641**(廣雅、釋詁六百四十)**642**(廣雅、釋詁六百四十一)**643**(廣雅、釋詁六百四十二)**644**(廣雅、釋詁六百四十三)**645**(廣雅、釋詁六百四十四)**646**(廣雅、釋詁六百四十五)**647**(廣雅、釋詁六百四十六)**648**(廣雅、釋詁六百四十七)**649**(廣雅、釋詁六百四十八)**650**(廣雅、釋詁六百四十九)**651**(廣雅、釋詁六百五十)**652**(廣雅、釋詁六百五十一)**653**(廣雅、釋詁六百五十二)**654**(廣雅、釋詁六百五十三)**655**(廣雅、釋詁六百五十四)**656**(廣雅、釋詁六百五十五)**657**(廣雅、釋詁六百五十六)**658**(廣雅、釋詁六百五十七)**659**(廣雅、釋詁六百五十八)**660**(廣雅、釋詁六百五十九)**661**(廣雅、釋詁六百六十)**662**(廣雅、釋詁六百六十一)**663**(廣雅、釋詁六百六十二)**664**(廣雅、釋詁六百六十三)**665**(廣雅、釋詁六百六十四)**666**(廣雅、釋詁六百六十五)**667**(廣雅、釋詁六百六十六)**668**(廣雅、釋詁六百六十七)**669**(廣雅、釋詁六百六十八)**670**(廣雅、釋詁六百六十九)**671**(廣雅、釋詁六百七十)**672**(廣雅、釋詁六百七十一)**673**(廣雅、釋詁六百七十二)**674**(廣雅、釋詁六百七十三)**675**(廣雅、釋詁六百七十四)**676**(廣雅、釋詁六百七十五)**677**(廣雅、釋詁六百七十六)**678**(廣雅、釋詁六百七十七)**679**(廣雅、釋詁六百七十八)**680**(廣雅、釋詁六百七十九)**681**(廣雅、釋詁六百八十)**682**(廣雅、釋詁六百八十一)**683**(廣雅、釋詁六百八十二)**684**(廣雅、釋詁六百八十三)**685**(廣雅、釋詁六百八十四)**686**(廣雅、釋詁六百八十五)**687**(廣雅、釋詁六百八十六)**688**(廣雅、釋詁六百八十七)**689**(廣雅、釋詁六百八十八)**690**(廣雅、釋詁六百八十九)**691**(廣雅、釋詁六百九十)**692**(廣雅、釋詁六百九十一)**693**(廣雅、釋詁六百九十二)**694**(廣雅、釋詁六百九十三)**695**(廣雅、釋詁六百九十四)**696**(廣雅、釋詁六百九十五)**697**(廣雅、釋詁六百九十六)**698**(廣雅、釋詁六百九十七)**699**(廣雅、釋詁六百九十八)**700**(廣雅、釋詁六百九十九)**701**(廣雅、釋詁七百)**702**(廣雅、釋詁七百一)**703**(廣雅、釋詁七百二)**704**(廣雅、釋詁七百三)**705**(廣雅、釋詁七百四)**706**(廣雅、釋詁七百五)**707**(廣雅、釋詁七百六)**708**(廣雅、釋詁七百七)**709**(廣雅、釋詁七百八)**710**(廣雅、釋詁七百九)**711**(廣雅、釋詁七百十)**712**(廣雅、釋詁七百十一)**713**(廣雅、釋詁七百十二)**714**(廣雅、釋詁七百十三)**715**(廣雅、釋詁七百十四)**716**(廣雅、釋詁七百十五)**717**(廣雅、釋詁七百十六)**718**(廣雅、釋詁七百十七)**719**(廣雅、釋詁七百十八)**720**(廣雅、釋詁七百十九)**721**(廣雅、釋詁七百二十)**722**(廣雅、釋詁七百二十一)**723**(廣雅、釋詁七百二十二)**724**(廣雅、釋詁七百二十三)**725**(廣雅、釋詁七百二十四)**726**(廣雅、釋詁七百二十五)**727**(廣雅、釋詁七百二十六)**728**(廣雅、釋詁七百二十七)**729**(廣雅、釋詁七百二十八)**730**(廣雅、釋詁七百二十九)**731**(廣雅、釋詁七百三十)**732**(廣雅、釋詁七百三十一)**733**(廣雅、釋詁七百三十二)**734**(廣雅、釋詁七百三十三)**735**(廣雅、釋詁七百三十四)**736**(廣雅、釋詁七百三十五)**737**(廣雅、釋詁七百三十六)**738**(廣雅、釋詁七百三十七)**739**(廣雅、釋詁七百三十八)**740**(廣雅、釋詁七百三十九)**741**(廣雅、釋詁七百四十)**742**(廣雅、釋詁七百四十一)**743**(廣雅、釋詁七百四十二)**744**(廣雅、釋詁七百四十三)**745**(廣雅、釋詁七百四十四)**746**(廣雅、釋詁七百四十五)**747**(廣雅、釋詁七百四十六)**748**(廣雅、釋詁七百四十七)**749**(廣雅、釋詁七百四十八)**750**(廣雅、釋詁七百四十九)**751**(廣雅、釋詁七百五十)**752**(廣雅、釋詁七百五十一)**753**(廣雅、釋詁七百五十二)**754**(廣雅、釋詁七百五十三)**755**(廣雅、釋詁七百五十四)**756**(廣雅、釋詁七百五十五)**757**(廣雅、釋詁七百五十六)**758**(廣雅、釋詁七百五十七)**759**(廣雅、釋詁七百五十八)**760**(廣雅、釋詁七百五十九)**761**(廣雅、釋詁七百六十)**762**(廣雅、釋詁七百六十一)**763**(廣雅、釋詁七百六十二)**764**(廣雅、釋詁七百六十三)**765**(廣雅、釋詁七百六十四)**766**(廣雅、釋詁七百六十五)**767**(廣雅、釋詁七百六十六)**768**(廣雅、釋詁七百六十七)**769**(廣雅、釋詁七百六十八)**770**(廣雅、釋詁七百六十九)**771**(廣雅、釋詁七百七十)**772**(廣雅、釋詁七百七十一)**773**(廣雅、釋詁七百七十二)**774**(廣雅、釋詁七百七十三)**775**(廣雅、釋詁七百七十四)**776**(廣雅、釋詁七百七十五)**777**(廣雅、釋詁七百七十六)**778**(廣雅、釋詁七百七十七)**779**(廣雅、釋詁七百七十八)**780**(廣雅、釋詁七百七十九)**781**(廣雅、釋詁七百八十)**782**(廣雅、釋詁七百八十一)**783**(廣雅、釋詁七百八十二)**784**(廣雅、釋詁七百八十三)**785**(廣雅、釋詁七百八十四)**786**(廣雅、釋詁七百八十五)**787**(廣雅、釋詁七百八十六)**788**(廣雅、釋詁七百八十七)**789**(廣雅、釋詁七百八十八)**790**(廣雅、釋詁七百八十九)**791**(廣雅、釋詁七百九十)**792**(廣雅、釋詁七百九十一)**793**(廣雅、釋詁七百九十二)**794**(廣雅、釋詁七百九十三)**795**(廣雅、釋詁七百九十四)**796**(廣雅、釋詁七百九十五)**797**(廣雅、釋詁七百九十六)**798**(廣雅、釋詁七百九十七)**799**(廣雅、釋詁七百九十八)**800**(廣雅、釋詁七百九十九)**801**(廣雅、釋詁八百)**802**(廣雅、釋詁八百一)**803**(廣雅、釋詁八百二)**804**(廣雅、釋詁八百三)**805**(廣雅、釋詁八百四)**806**(廣雅、釋詁八百五)**807**(廣雅、釋詁八百六)**808**(廣雅、釋詁八百七)**809**(廣雅、釋詁八百八)**810**(廣雅、釋詁八百九)**811**(廣雅、釋詁八百十)**812**(廣雅、釋詁八百十一)**813**(廣雅、釋詁八百十二)**814**(廣雅、釋詁八百十三)**815**(廣雅、釋詁八百十四)**816**(廣雅、釋詁八百十五)**817**(廣雅、釋詁八百十六)**818**(廣雅、釋詁八百十七)**819**(廣雅、釋詁八百十八)**820**(廣雅、釋詁八百十九)**821**(廣雅、釋詁八百二十)**822**(廣雅、釋詁八百二十一)**823**(廣雅、釋詁八百二十二)**824**(廣雅、釋詁八百二十三)**825**(廣雅、釋詁八百二十四)**826**(廣雅、釋詁八百二十五)**827**(廣雅、釋詁八百二十六)**828**(廣雅、釋詁八百二十七)**829**(廣雅、釋詁八百二十八)**830**(廣雅、釋詁八百二十九)**831**(廣雅、釋詁八百三十)**832**(廣雅、釋詁八百三十一)**833**(廣雅、釋詁八百三十二)**834**(廣雅、釋詁八百三十三)**835**(廣雅、釋詁八百三十四)**836**(廣雅、釋詁八百三十五)**837**(廣雅、釋詁八百三十六)**838**(廣雅、釋詁八百三十七)**839**(廣雅、釋詁八百三十八)**840**(廣雅、釋詁八百三十九)**841**(廣雅、釋詁八百四十)**842**(廣雅、釋詁八百四十一)**843**(廣雅、釋詁八百四十二)**844**(廣雅、釋詁八百四十三)**845**(廣雅、釋詁八百四十四)**846**(廣雅、釋詁八百四十五)**847**(廣雅、釋詁八百四十六)**848**(廣雅、釋詁八百四十七)**849**(廣雅、釋詁八百四十八)**850**(廣雅、釋詁八百四十九)**851**(廣雅、釋詁八百五十)**852**(廣雅、釋詁八百五十一)**853**(廣雅、釋詁八百五十二)**854**(廣雅、釋詁八百五十三)**855**(廣雅、釋詁八百五十四)**856**(廣雅、釋詁八百五十五)**

賚疏天子請侯絕旁期、正統之期、繼不降故、兼云其服天功、亦似不降也。傳稱絕通解天子請侯絕旁期、尊同則不降、正統之期、繼不降、天子絕旁期、諸侯絕旁期、大夫絕旁期、士絕旁期、庶人絕旁期、天子之子、絕而無後、更都同姓、諸侯絕旁期、大夫絕旁期、士絕旁期、庶人絕旁期、大夫絕旁期、士絕旁期、庶人絕旁期、大夫絕旁期、士絕旁期、庶人

中（天史）。孝經援神契江水、謂城域後、都更
中（天史）。孝經援神契、其下、決、水經注、雍州、城域、
【旁國】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄛˊ 近傍的國。【萬書、馮奉世傳】莎車、
南國傳）注、雙鳧、鳥雙有、種略、後以、戎蜀、改代、旁
國城廓、蜀志、大王、天地、西域傳）。
【旁住】ㄆㄤˊ ㄓㄨˋ 旁、側、住、【宋史、劉昌傳】
【旁至】ㄆㄤˊ ㄓㄧˋ 旁、側至、【宋史、劉昌傳】
【旁作】ㄆㄤˊ ㄗㄨㄛˋ 旁、側作、【宋史、劉昌傳】
【旁支】ㄆㄤˊ ㄓ 旁、側支、【宋史、劉昌傳】
【旁殺】ㄆㄤˊ ㄕㄚˋ 旁殺、【宋史、劉昌傳】
【旁枝】ㄆㄤˊ ㄓ 旁枝、【宋史、劉昌傳】
【旁枝旁葉】ㄆㄤˊ ㄓ ㄆㄤˊ ㄧㄝˋ 旁枝、【宋史、劉昌傳】
【旁枝旁葉的】ㄆㄤˊ ㄓ ㄆㄤˊ ㄧㄝˋ ㄉㄜ 旁枝、【宋史、劉昌傳】
【旁觀】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ 旁觀、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】
【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】

【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】

【旁觀者清者的人的】ㄆㄤˊ ㄍㄨㄢ ㄓㄜˇ ㄑㄧㄥ ㄓㄜˇ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ ㄖㄣˊ ㄉㄜ 旁觀者、【宋史、劉昌傳】

【旁觀者清者的人

〔旁請〕100ウ。そばからねががい。(晉書、刑法志)
〔旁無後情〕旁旁通。そばに無し。(晉書、晉四海樂歌、後情未旁旁通。)
〔旁論〕100ウ。あまねく論ずる。(張華、晉四海樂歌、食貨無用用之旁論、天象、旁旁通、法構、鑑戒、天象、旁旁通。)
〔旁徨〕100ウ。四方かくまわる。あまねくまわる。
〔旁徨〕100ウ。あまねく照らす。(南齊書、陳泉文動十餘日、旁徨、日出、二日後、其年本紙、朝廷日本、村一月三時、布雲樂苑、後漢、陳燒燒、文、旁徨、雲、雲間、旁旁、地物、皆不見、殺、(趙後、陳燒燒、文、旁徨、雲、雲間、旁旁、地物、皆不見、殺、(趙
〔旁徨〕100ウ。あまねくまわる。(隋書、煬帝紀、大業元年、(隋書、煬帝紀、大業元年、(隋書、煬帝紀、大業元年、

義：[旁]旁義。[旁]詩[旁]也。[旁]旁義。[旁]旁行。[旁]旁義。[旁]旁義。[旁]旁義

旃、倚也。書作雨龍相依貌、通以三赤色爲之。旃字从旦、旃聲。周禮、春官、司常諸侯建旂、諸侯之所建也。(孟子、萬章下)庶人以旃。上以旃異、旃旃爲之總稱。(楚辭、離騷)凰皇爲其先導。(注)旗、旗也。●姓。(氏族略)旗、見氏族注。

【旗】ki 旗 はたの類をいふ。(左氏、桓二三)辰旗昭其明也。(注)辰、日月星也。畫于旗旗、象天之明。

【旟】ji 旟 はたの類。(詩、魯頌、閟宮)大赤、所以表示軍旅指揮號令。(周禮、春官、司常)日月爲旟。(注)日月者畫之焉。(周禮、春官、司常)日月爲旟、旟、鳥隼之象、有鳥隼之象、故以鳥隼之象畫旗。(詩、魯頌、閟宮)鳥隼曰旟。(注)旟、

【旃然漁隱】[illegible] 明 張民表（◆ 9812…10 8870）鑿。

【綱領】[illegible] 旃勝鶴。

【旃】[illegible] 毛でおった鞍。【鑾鈴無無能論】論

の〔説文〕鐘乱〔前漢馬援兵〕後漢陰氏〔郡都行義疏〕詩傳云〕前漢孟子曰〔統兵〕轉文引字林作旆〔文作〕〔説文〕〔説文〕〔説文

五百人、从人、臥从、从、从、俱也。(周禮、夏官、司司徒五家爲比、(注)旅、五百人、(左氏、哀元)夏少康有田一成、(注)旅、五百人、(左氏、哀元)五旅爲師、(論語、堯曰)、(國語、齊語)故、千人、(孫子)、(孫子、九地)旅、(論語、堯曰)、(國語、齊語)、(左氏、成、十八)旅不偏師、(注)旅、五百人之師也。❷軍旅軍事。(詩、大雅、皇矣)密勿其旅、(傳)旅、師也。(書、大誥)、(注)旅、衆也。(史記、五宗書)王孫旅、(注)案隱、旅、師、(禮、檀弓上)旅、(注)旅、衆也。❸もろもろ、衆人。(國語、晉語)、(注)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、周頌、載芟)侯亞侯旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、皇矣)爰整其旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、皇矣)整其旅、(傳)旅、衆也。(詩、周頌、載芟)侯亞侯旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之旅、(傳)旅、衆也。(詩、大雅、大明)殷商之

風旅風雅。

旅裘[名]。おはあふひの異名。(花壇綱目、未題詩)

旅苞[名]。年末に行く歳末。

旅篤[名]。●故舊の人を以て客篤とする。(國語、齊語)。●故舊、則民不偷。(管子、輕重甲)。故舊、則民不偷。(管子、輕重乙)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重戊)。故舊、所民不偷。(管子、輕重己)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重庚)。故舊、所民不偷。(管子、輕重辛)。故舊、則民不偷。(管子、輕重壬)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重癸)。故舊、則民不偷。(管子、輕重甲)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重乙)。故舊、則民不偷。(管子、輕重丙)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重丁)。故舊、則民不偷。(管子、輕重戊)。故舊不棄、則民不偷。(管子、輕重己)。故舊、則民不偷。(管子、輕重庚)。故舊不棄、則

口南北二城。全州南中左于西所。在此備禦。

【旅所】[ryosho] ●軍隊の時、神輿の渡り。縁坐す。

【旅人】[ryojin] 旅の客。（仁徳紀上下）

【旅】[ryo] 旅に出ること。（性相地鑑紀下）

【旅】[ryo] ●多數で食すること。（倭姫命世紀）●軍隊。（倭姫命世紀）●旅人。（倭姫命世紀）●旅人を送る。（倭姫命世紀）●旅也。士衆食。（倭姫命世紀）●旅人。（倭姫命世紀）●旅人。（倭姫命世紀）●旅人

常開 鈴鈴青提法師旗。

【旅】13644 リョ 旅・呂 旅。

旅 旅 旅

如故。於此字之旋。(轉文之旋。南周反。又音雨。(校勘記)轉文之旋。清本旋。作。旋。案說文瓦部云。旋。圜也。从瓦。从疋聲。讀若。抵破之抵。當依此訂正。今本從鳥非。

旋 13656

ㄒㄩㄢˋ（集韻）ㄒㄩㄢˋ（集韻）ㄒㄩㄢˋ（集韻）

旋回[illegible]。●かへること。●めぐる。又、めぐらす。旋廻。

旋廻[illegible]。めぐらす。又、めぐる。●めぐること。●めぐる。又、めぐらす。旋廻。

旋環[illegible]。めぐらす。又、めぐる。〈司馬相如傳〉注、張揖曰、旋環、猶言轉也。

旋觀[illegible]。めぐりみる。〈漢元帝紀〉注、李奇曰、旋觀、猶終始。

旋軍[illegible]。軍をかへす。〈國史略〉、唐仁天宥、會稽張軍、軍をかへす。

旋京[illegible]。京にかへる。

旋[illegible]。[illegible]。

旋[illegible]。[illegible]。

旋[illegible]。[illegible]

鎗版鑄造玉成、丸飾敵出、琉璃瓶。

【旋目】ㄒㄩㄢˋ ㄇㄨˋ 名 ①、鳥名。（集韻）同上。（廣雅）同上。（本草）馬相如傳上交精旋目、（注）師古曰、今則郭開有大鳥、大於鵝、而毛黃、其色如金、深目、目旁毛皆長而旋、此其旋目者、司馬相如上林賦、交精旋目、（注）師古曰、旋目者、司馬相如上林賦、交精旋目、（注）師古曰、旋目者、深目、目旁毛皆長而旋、此其

【旌廷】ﾃｲ ﾃｲ　あらはしりくゝあらはし。ゝ枯きよつ。（宋書禮樂志）今色醫禽獸、活況河澤、（北軍海潮風馬、戰、化民成俗、鎮時庶矣、（後漢書、徐穉傳）徐穉、字孺子、豫章高士也。（後漢書、袁紹傳）紹遣田豐、逢紀之二人、（後漢書、袁紹傳）

【旌夏】ﾃｲ ｶ　行列のことゝの大旗。（左氏、襄二）羅師顯以殘夏（注）師、軍師也、羅師顯、大旗名

加留前胡貊（事始紀頃、旗旗栄栄部、旌部宮氏各反）曰、墨者以兼愛為上、授之以禹之道、縣鞀鐸鼓、以聞天下、戰國策、曰、竹筒之使人鼓博鼗、孟子、陳仲子、曰、於陵、周制有、旌節畫、白旄、而拆羽於其上、唐車服志、鄭玄、以、鳥羽、注、旄、旌以鄭、注、旄、旌以鄭、注、旄、旌以鄭

刑、列用相爲、正、閒隔（左）、尺、烏頭（一）、往殘、冒以、瓦、機、蓋、雙、鬲、一、在、爲、頭、之、間、七、尺、宋、樹、柳、十、有、五、字、今、字、傳、緯、表、讀、如、高、其、外、門、門、安、裝、模、左、右、鍵、奉、高、史、一、尺、廣、狹、之、制、高、下、相、因、而、不、得、言、可、以、後、心、而、易、行、焉、然、則、施、門、之、式、奮、義、衆、至、五、代、始、改、從、簡、易、施、門、[illegible]、[illegible]、[illegible]

云、族、雜也。❹やじり、鏃(11－45772)の古字。〈說文〉族、矢鋒也、從矢、从㫃聲。矢、从所以目擿人。〈段注〉今字用鏃、古字用族。❺滅ぼす。集〈正字通〉族、滅國亡也、杜牧之、阿房宮賦、族秦者秦也、非天下也、言秦自取滅亡。〈史記〉、大戴禮、曾子制言上、族人之警、不入夷狄郊。〈注〉族、謂絕屬者。〈正字通〉族、與之促、通史、齊太公五月報。說、周公曰、何族也、注、急也。❻姓。〈萬姓統譜〉族、氏族。〈注〉族、當(去)奏。貴、正聲、而九族具成。〈注〉族、當(去)奏。〈蘇林曰〉族、音奏。❼普樂の名。〈後漢書、律歷志〉(1－415)に同じ。❽大をいしかんする。喫。〈後漢書、律歷志〉(1－415)に同じ。「集韻」喫、使、大聲、或省。

名類 つぐ、エダ、ツギ。

解古 會意。㫃(族旗の省文)と矢との合字。軍旗の下に濃山の矢が集まる意を表し、本義はやじり。族旗の下に集まる意を表し、本義はやじり。衆多の意。むらがる。あつまる。屬使して聲とせる。族の稱の構。段注、族氏、所以標別族類。〈說文〉族、矢鋒也、從矢、从㫃聲。矢、束引伸爲凡族類人有目焉、族旗所、所在而矢就在焉、衆之意也。

【族旗】族を作する族類を表わす。

【族人】族氏。族人。

【族氏】田僕傳、人氏、注、者。動動集者、族氏。

【族姓】爲氏解、注、本對族氏。

【族人】族人。族人。

【族人】族人。族人。

【族人】族人。族人

恢戴伊一族姓」曰、人曰三墓、不言墓王。

族輔 ○ 親族と組族、一門の人。族の人。

族人(ぞくじん) 同じ。

族宗(ぞくそう) 親類関係のなくなった遠い同宗の人。族人(ぞくじん)に同じ。

族屬(ぞくぞく) 其の姓の親類、親戚(一族)大僧同類、姓族、宗族、父兄子弟、子・弟・甥・姪・孫・曾孫・玄孫・昆弟・父兄子弟・子・弟・甥・姪・孫・曾孫・玄孫・昆弟・族人・族人・族人

祖父同堂姑妹。郎堂姑嫂。

族曾祖父 ㄗㄨˋ ㄘㄥˊ ㄈㄨˋ 祖父之同堂伯父。堂伯父。

族曾祖母 ㄗㄨˋ ㄘㄥˊ ㄇㄨˇ 祖父之同堂伯母。堂伯母。

族曾祖母 ㄗㄨˋ ㄘㄥˊ ㄇㄨˇ 祖父之同堂伯母。堂伯母。

族伯母 ㄗㄨˋ ㄅㄛ

蕩。（旒）十二一纊。（纊）旒。（注）旒、謂冕前後所垂玉也。天子十二旒、上公九旒。（旒）旒。（注）旒、垂也。（詩、商頌、長發）鬷下國綴旒。（旒）旒。（毛）旒、垂也。（旒）旒。（注）旒、謂冕前後所垂玉也。（旒）旒。（注）旒、謂冕前後所垂玉也。（旒）旒。（注）旒、謂冕前後所垂玉

司馬」司馬以旗致民。（注）以旗者、立旗期民於其下也。（周禮）民於其下、能旗六旂、以象伐也。（公羊、莊二十二）旗後而進、我也。（注）旗、軍幟名、各有色。（呂覽、似順）使十至望而旗。（陳者、（注）旗、軍幟也。（呂覽、慎大）

●旗、分定。（後漢書、百官志）旗、表也。（白虎通）旗、表也。●おほふ。（呂覽、諭大）吾舜以旗、古今而不能。（注）旗、覆也。●星の名。④旗、表也。（史記、天官書）東宮蒼龍角心東北出十二星曰旗。

左、也（注）正義曰、兩旗者、左旗九星、在河鼓旗所以爲旗。（注）旅者。⑥其16—13633に通ず。（說文通訓定聲）旗、段借爲旗。（荀子、富國）書（左氏、閔二）陳、表也。●旗

朋服法物車出旗器名物衣冠輦客軍器車出

旗鼓〔名〕……はたのおとと。はたもと。〔樹紙、治要、伊勢物語注〕…用人名數の數。〔史記、淮陰侯傳〕…旗鼓相當。

旗幟〔名〕……はたのしるし。〔後漢書、馮異傳〕…旗幟鮮明。

旗子〔名〕……はたがすきまなく。〔杜牧、秋夜詩〕…鼓聲旗影…

旗魚〔名〕……魚の名。かちきまるの異名。長さの約六寸。〔説文〕…鯛魚…

旗廻〔名〕……はたがめぐる。〔後漢書、馮異傳〕…軍旗…

旗廻〔名〕……はたがめぐる。〔後漢書、馮異傳〕…軍旗…

旗鼓〔名〕……はたもと。〔樹紙、治要、伊勢物語注〕…用人名數の數。

旗幟〔名〕……はたのしるし。〔後漢書、馮異傳〕…旗幟鮮明。

旗子〔名〕……はたがすきまなく。〔杜牧、秋夜詩〕…鼓聲旗影…

旗魚〔名〕……魚の名。かちきまるの異名。長さの約六寸。〔説文〕…鯛魚…

旗廻〔名〕……はたがめぐる。〔後漢書、馮異傳〕…軍旗…

旗廻〔名〕……はたがめぐる。〔後漢書、馮異傳〕…軍旗…

（史記）を見よ。〔清會典事例〕八旗都統，戶口，旗人換養兵數，道光元年閏六月，旗人分子入冒，以之官者，令其本籍分養，其他人分子入冒，令其本籍分養，其他人分子入冒，令其本籍分養，其他人分子入冒

〔旗民文赤〕[illegible]　旗人と漢人と土地財産の賣買授受を許すこと。（漢標等の）旗都統、田宅官兵社田父漢並（要）遵旗民交產章程、表出私買旗地、免追花利。

〔旗門〕[illegible]　●はたをたてた門。本白（〔李頎、送李尉〕）。「[illegible]」。十月無花發旗門。上十月無花發旗門。（〔蘇軾、人日有賦〕）。「[illegible]」。（〔蘇軾、人日有賦〕）。「[illegible]」。（〔李頎、送李尉〕）。「[illegible]」。（〔蘇軾、人日有賦〕）。「[illegible]」。（〔蘇軾、人日有賦〕）。「[illegible]」。（〔蘇軾、人日有賦

(13700・1)——(13710)
方部 〔十四——十七畫〕 旛 旟 旞 旗 旗 旗

十八畫

13711 𩕄 スイ（集韻）除帥切 **寘** キ ユイ（集韻）兩佳切 **支**

□𩕄 (6－13707)に同じ。(説文)𩕄、𩕄、或从遺作。(釋名)釋兵「矛羽爲𩕄、𩕄、續也、順滯之殺也。」□はた。(集韻)𩕄、旌謂之𩕄。

13712 𩕄 新(6－24662)に同じ。(正字通)𩕄、俗𩕄字。

十九畫

13713 𩕄 □キ（玉篇）居紀切 **紙** □イ（集韻）於宜切 **支**

□とりみだす。(玉篇)𩕄、失容也。□美しい。又、流し目のさま。(集韻)𩕄、美容也。一曰、睇兒。

二十畫

13714 𩕄 𩕄(ウ)(6－13698)の本字。(正字通)𩕄、𩕄本字。

二十一畫

13715 𩕄 𩕄(6－13713)に同じ。(龍龕手鑑)同、𩕄。

无部

13716 无 天 奇 ヒ。(説文)無、无、奇字無也。通。□ない。亡。無(7－19113)に同じ。(易、乾)九二、君子終日乾乾、夕惕若厲无咎。(注)謂知力而後免於咎也。●うみとがめがない。とがめを受けない。(易、乾)上九、亢龍有悔。(注)謂知力而後免於咎也。●うみとがめが無い。(易、蹇)不利東北、其道窮也。利西南、往得衆也。安貞吉、應有功也。●悪くない。(易、既濟)初九、曳其輪、濡其尾、无咎。(注)濡、濡而不溺、故无咎。(易、繫辭下)子曰、君子安其身而後動、易其心而後語、定其交而後求、君子修此三者故全也。●ふみとがめが無い。(易、蹇)初六、往蹇來譽。(注)往蹇來譽、宜待時而動、不失其譽者也。●ふみとがめが無い。(易、解)九二、田獲三狐、得黃矢、貞吉。(注)田獲三狐、當解之時、无所復害、故貞吉也。●字解。(説文)无、奇字無也。通。●字解。(説文)无、奇字無也。通。●天、鳥元方(12－13869)・(34)の字。(説文)無、鳥元方古文。(易、乾)九二、君子終日乾乾、夕惕若厲无咎。(注)无、鳥元方古文。(易、既濟)初九、曳其輪、濡其尾、无咎。(注)无、鳥元方古文。(易、繫辭下)子曰、君子安其身而後動、易其心而後語、定其交而後求、君子修此三者故全也。●字解。(説文)无、奇字無也。通。●字解。(説文)无、奇字無也。通。●字解。(説文)无、奇字無也。通

形の字をうけ反した形。むせぶ。いきつまる。欬食の逆して息することができない義。欠の省形を加形として欠の反對を集つたものである。から、轉じて、つまる・甲狀文・象形。

【皆】 13718 ジン（臨母）皆・切・侵

口の小さいさま。（臨海）皆、口小貌。

【風】 13719 キ 義未詳。

【廻】 13720 バ（五灰韻母）無可切・歌

義未詳。

五畫

【既】 13721 キ 既の。→13724の略字。

六畫

【畿】 13722 ケイ（臨韻）吉逝切・霽

たま。（臨韻）玉・璧也。

【羝】 13723 クヴイ（臨韻）居偉切・紙・側

かた足をそばだてる。（臨韻）羝、側一足也。

七畫

【既】 13724 キ（臨韻）居氣切・未・去

①すでに。詩（10－352・42）に通ず。（說文通訓定聲）既、既借爲詩。②はや。もはや。（廣雅・釋詩四）既、已也。（書、堯典）九族既睦。（鄭注）既、已也。（詩、周南、汝墳）既見君子。（論語、爲政）既、已也。③もとより。（詩、大雅、鳧鷖）爾酒既清、爾殽既馨。④すでにして・さるほど。（公羊、文元、既而日。（皇疏）既而、猶既辭。（論語、憲問）既而曰。（皇疏）既而、猶既辭。（方言、六）既、定也。⑤みな。まつたく。ことごとく。（易、既濟、注）既濟者、以皆濟爲義也。⑥つきる。つくす。（詩（9－171・27）に通ず。（說文通訓定聲）既、既借爲尽。（廣雅・釋詩）既、盡也。（書、舜典）既月。（傳）既、盡也。（儀禮、鄉射禮、三日有食之既。（注）既、盡也。（左氏、襄、十二、鳥獸之蟲、可移既也。（注）既、盡也。（荀子、君道）既、盡也。（注）既、其實。（釋文）既、盡也。（淮南子、原道訓）當淡天下而不能、盡也。⑦をはる。をへる。（韓愈、進學解）旨未既、有

既に確定したこと。未決（9－14419・32）の對。（既決因）ゴ・ゲ。數列して有罪と決定した因。五瑞（既決）リ。すでに結婚したこと。未婚（8－144・19）の對。（既決）ゴ・ゲ。→既に六月の決。（既決）ゴ・ゲ。→既に六月の決。（既決）ゴ・ゲ。→既に六月の決

出分。亦即古代、門西分之一部。既死魄之間也。

【既而】既而。すでにして。(論語、憲問)既而月、卻故曰既望。

【既終】既終。大祥の祭をとり終ることと、大祥は二周忌。(禮記、檀弓上)既除、間月之祭。(王肅)既終而後吉。(王肅)既除、間月之祭。(王肅)既終而後吉。(王肅)既除、間月之祭。(王肅)加損以成其事。(王肅)故此文云「既終」。故云「既終而後吉」。

【既月】既月。(一)既、既に。既に。既月、日月。既月、既に。既月、既に。既月、既に

八畫

燎 13726 小篆

㊀リョウ（集韻）力雕切 蕭
㊁リョウ（集韻）呂張切 陽

㊀うすい。てあつくない。（説文）燎、薄也。（玉篇）燎、薄也。❷かがむ。いたむ。「王篇」燎、悲也。轍楚也。❸通じて涼（7・17666）に作る。（集韻）燎、通作涼。

既 13727 リャウ

燎の（13726）に同じ。（集韻）燎、或作既。

熄 13728 リャウ

燎の（13726）に同じ。（篇海）既、或作燎。

熄 13729 リャウ

燎の（13726）に同じ。（篇海）熄、亦書作燎。

熄 13730 クワ

熄の（13729）の古字。（漢書、五行志上）軍行其熄（注）師古曰、熄、古文爝字。

熄 13731 小篆

クワ（集韻）戶郭切 箇

❶おどろくこと。熄然の事にてあつおどろくこと。（説文）熄、驚也。从火息聲。讀若楚人名多敖。❷わざはひ。熄の（13726）に通ず。（晉書、天文志）星傳曰、日者德也、月者刑也。（注）太陽の精。（後漢書、竇憲傳）玄甲耀日。❸ひとひ。ひさし。（詩、齊風、七月）春日遲遲、卉木萌動。（注）一日二十四時間の稱。（書、洪範）五紀、云云、三日曰、歲從、夜半、以至翌日夜半、周十二辰爲一日。（穀梁、文六、閏月者、附月之餘日也稱、分而成、於月者也。（注）歲三百六十日。（疏）日之行天、一日一夜行、一度、故謂一度爲一日。（漢書、郊祀志上）合三時月、正日、（注）至、三百六十日也。❹ひる。日出から日沒まで。（詩、唐風、葛生）夏之日、冬之夜。（禮、郊特牲）迎、長日之至也。（注）迎、長日者、建卯而晝夜分、分而日長也。（孟子、離婁下）夜以繼日。❺ひにち、ひどり。（禮、曲禮上）外事以剛日、內事以柔日。（禮、內則）九年教之數日。（注）日、朔望與六甲也。（大戴禮、易本命）日數十。❻つきひ。光陰。（韓非、說難）不以言勢、時以素、日也。❼とき。をり。時期。（孟子、梁惠王上）壯者以暇日、修其孝悌忠信。❽ひごろ。期限。（國語、周語上）不日而成之。（注）不、猶程課以期日。❾ひか。多くの日。（漢書、郊祀志）曠日經年。❿天文十二章の一つ。十二章の一。（書、益稷）予欲觀三辰。

日 13733 小篆 古

㊀ジツ ニチ（集韻）人質切 質
㊁ニキ（集韻）而力切 職

❶太陽。恒星の一つ。（説文）日、實也。太陽之精不虧、从○一象形。（釋名、釋天）日、實也、光明盛實也。（易、乾）與日月合。（荀子）明、（易、繫辭上）出於無。（後漢書、竇憲傳）玄甲耀日。（管子、白心）化物多者、莫多於日月。（注）日、陽也。（淮南子、天文）火氣之精者爲日。（論衡、感虛）日、火也。（後漢書、郊祀志上）日、陽也。（文選、張衡、思玄賦）火氣之精者爲日。（後漢書、郊祀志上）日、火也。（後漢書、郊祀志上）日、在地爲火、在天爲日。❷人道で君に配する。（詩、邶風、柏舟）日居月諸。（傳）日、君象也。（詩、小雅、十月之交）此日而微。（傳）日、君道也。❸ひにち。（列子、湯問）日與衆宗。（注）日、謂別日。❹ひごよみ。左氏、昭、七）天子有日官、諸侯有日御。（注）日官、日御、典曆數者。❺日の吉凶などをうらなう。（史記、龜策傳）時日、通名、日者。（劉敞、辯命論）豈日者卜祝之流乎。（注）善曰、占候時日、謂之日者。❻ふし。のり。（廣雅、釋言）日、節也。❼二つ。（廣雅、釋詁四）日、二也。❽星の名。（爾雅、天文志）房中道、星日。❾圖の名。（易本命緯）清史稿、經文志）日斯尼亞、即古西班牙の略稱。（清史稿、邦交志）日斯尼亞、張居相由、美利士日都斯馬得利。❿法舊符號の舊符の一つ。古葉音。舌葉部を上下に結びて、硬口蓋の前部と輕く接觸して、一時鼻息の通路を閉塞する。心持ので、摩擦の情態で洩出させると此の音になる。（注音符號の形は日。）圓❶ひ。皇帝の御事を申し奉るに用ひる語。日の御子・日嗣・日の御位など。❷ひへん。にちへん。漢字偏の名。

解説 象形。指事。○と一とからでき た形。ひ。太陽。○象形の文字に圓形を輪郭とするものは、はその中の缺けなくことを示す。太陽の缺けない丸形で、光明が盛實であることを示すから、指事の意を兼ねてゐる。說文に曰、實也。太陽の精であるのはこれに本づく。日は照りつけて盛明するやうに見

略解 音訓 引解

えることを。【説苑】、謝陳曲虎鈴反(鈴)欲破。

孝 月建と同盟。如 月建。

【日安】ｱｷﾔｽ。●日に日に安らかになる。【呂覽】、有矢、皆安御証、如此者、國日安、王日練、天下日福。此所謂青青之道也。●青青之道、本末相尾に用ひる語。練、先方の意。

【日晏】ｺﾞﾛﾅｼ。ひぐれ。【呂覽】、晏小)明日有人、僅而南門之外去者、其郵出北郭郵、親之、去者曰、子何爲者、曰、我大夫、而子之所爲、曰、我、子何爲者、曰、我、大夫子之所爲、曰、我、從百門、大夫百人、皆不知、曰、子何爲者、曰、我、子何爲者、曰、我、從百門、大夫百人、皆不知、曰、子何爲者、曰、我、子何爲者、曰、我、子何爲者、曰、我

了。

【日要】30 ㊀ 一日のしめくくり。一日の枕材。

【日陽】30 ㊀ 日の光。日の当たる場所。小説「日陽(ひなた)に横(よこた)はる」。

【日用】30 ㊀ 毎日。日日。日用品。

【日月】30 ㊀ 日と月。月日。日月の光。

【日月星】30 ㊀ 日月と星。

【日月星辰】30 ㊀ 日月と星辰。

【日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日の七日。

【日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星辰】30 ㊀ 日月と星辰。

【日月星日月火水木金土】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土の七日。

【日月星日月火水木金土日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月】30 ㊀ 七曜の名。日・月・星・日・月・火・水・木・金・土・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月・星・日・月の七日。

【日月星日月火水木金土日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星日月星

日部　日

【日向夜】『[illegible]』 昼の夜のごとくしてへて和漢三才圖会・温泉図編・日向湯・俗稱・本名不詳・高一四尺・周一丈・著作・[illegible]・[illegible]・[illegible]

【日暈】[illegible]。太陽のかげに日光の影。

【日輝】(左思、魏都賦)(唐)日物之光芒。(宋書、歷志)冬至南陸、夏至北陸、(隋書、天文志上)運離日輝、(隋書、天文志上)運離日輝、(隋書、天文志上)運離日輝

徹(〈篠〉)日 若聚也 聚日 臣案也 〈故〉謂 〈新〉 也

君 〈尚〉 當 淮明如 日 聚 日 月 有 〈新〉 〈故〉 ・詩 邶 〈故〉 日月 日 日 居月 諸 照 臨下土 乃如之人 逝不 如 之人 逝不 如 我 〈故〉 ・傳 日月 居月 諸 〈故〉 ・箋 日月 〈故〉 ・傳 日月 〈故〉 ・箋 日月 〈故〉 ・傳 日月 〈故〉 ・箋 日月 〈故〉 ・傳 日月

海隨、衆與、海善、善花。

【日會】[illegible]　清遊星が日を頂いて運行する天空の[illegible]。

【日外】[illegible]　●日の照らす外。王化の及ばぬ地。『後漢書』「[illegible]」「[illegible]」「[illegible]」

月。〈史記、天官書〉察日月之行、以候歲星順逆。〈漢書、五行志〉上月蝕在、星辰逆行。〈淮南子、天文訓〉日月星辰、皆有所繫。●若日月。〈晉書、天文志〉天一、一名太一、一名天子之神、一名天帝、一名天皇大帝、一名天王、一名北極。上起北斗之末、上臨紫宮。

日月旗 旗名。日月之旗。〈周禮、春官、司常〉日月之旗、七星之文。〈注〉謂畫日月於龍旗之上。〈周禮、春官、大司馬〉日月之旗、七星之文。〈注〉謂畫日月及北斗星也。〈疏〉、辰州、視隨、日月旗。

日月旗(春官)

日月旗 〈周書、武成〉、燕神于有赤雲、云云。〈晉書、江統傳〉、王者、上起紫宮、上起北斗之末、上臨紫宮。

日月之明 〈詩、小雅、天保〉、如月之恒、如日之升。〈詩、小雅、天保〉、如月之恒、如日之升。〈詩、小雅、天保〉、如月之恒、如日之升。

封二頃三畝、號無大小、皆備焉。

【日月無私覆】『呂』 日月はただに照らすことのみ覆うことのみ（魏・孔子）

【日月不能兼覆地載】『呂』 日月無私覆。

【日月不能兼覆地載無私載】『呂』 日月無私覆。

【依存する】 日月の光の未に依存する。天子の恩澤を被って居る喩。（漢書 蕭何傳）曾子、日月の光に依存する。（漢書 依日月未光二八同）

【日月之光】『呂』 日月と光を爭ふ。遠德切 光の盛な喩。（史記 屈原傳）視・注之。

【日月爭光】『呂』 日月と光を爭ふ。遠德切 光の盛な喩。（史記 屈原傳）視・注之。

【日月爭明】『呂』 日月もこのために其の光を奪はれる。天子出御の盛大喩。（班固 東都賦）蓋惑炎光、吐・烟生風、訖野取山、日月爲之褰明、丘陵爲之低眉。

【日月を捲く】 日月を捲くることは出來ない。不可抗の喩。（後漢書 馬援傳）何者、馬援至重、天王至愛、而不可捲、陷、日月之不可捲也。

【日月の光】『呂』 日月もこのために其の光を奪はれる。天子出御の盛大喩。（班固 東都賦）蓋惑炎光、吐・烟生風、訖野取山、日月爲之褰明、丘陵爲之低眉。

【日月を捲く】 日月を捲くることは出來ない。不可抗の喩。（後漢書 馬援傳）何者、馬援至重、天王至愛、而不可捲、陷、日月之不可捲也。

【日月不可捲也】『呂』 日月は、正しき曲つた所やあるを知らない。（易・繫辞下）日月、曲つた所やあるを知らない。（易・繫辞下）日月、曲つた所やあるを知らない。（易・繫辞下）日月、

〔日禁〕 ㊀ 太陽のほとり。日邊。「顧延之、宋郊歌」月霞欲實、日禁欲空。「何逊、南堂遠水、遂殿觀月霞欲實、日禁欲空。」「謝朓、侍宴」天未靜、夜浪日禁敞。「劉希夷、公子行」日禁敞、月殿欲空。

〔日在〕 ㊀ 時日がめぐる。「李商隱、忠別離詩」「在後、偶然空在。」●天陽が在ること。「後漢、張衡、思玄賦」「日在、在陽、在陰。」●時日がめぐる。「李商隱、忠別離詩」「在後、偶然空在。」●天陽が在ること。「後漢、張衡、思玄賦」「日在、在陽、在陰。」

〔日在〕 ㊀ 時日がめぐる。「李商隱、忠別離詩」「在後、偶然空在。」●天陽が在ること。「後漢、張衡、思玄賦」「日在、在陽、在陰。」

〔日出〕 ㊀ 日の出。「後漢書、律曆志中」「日出、日入、二刻半。」「宋書、天文志上」「日出、日入、二刻半

傳〕元覽元年、神示祭其忠實無無、以賞國史編修、宮殿起居注、時起居舎人令狐面奏事、必聚一堂、侯旨、又復唐制、觀光左右、執筆隨宰相、入殿故事。

〔日時〕『説文』、其の日を時と為す。〔『荀子』、天論篇〕楚人、日時、草木繁生。〔『後漢書』、樂成傳〕民者、水而載舟、教之、日時。

〔日時計〕『説文』、日の影が時間を知る器。〔『後漢書』、張衡傳〕日時、晷儀。

〔日晷〕『説文』、日の影が時間を知る器。〔『後漢書』、張衡傳〕日時、晷儀。〔『周禮』、春官、眡祲、掌十煇之法、五曰鍾、注、鍾、日晷、也。〔『後漢書』、張衡傳〕有赤表、在日旁、如鉦矢、如日晷、日中、表表、在日旁、如鉦矢、如日晷、日中、表表、在日旁、如鉦矢、如日晷、日中、表

【日狀】[illegible] 日のかたち。日のありさま。〔南齊書、天文志上〕[illegible]日狀。天狗出。則人相食。蘇軾、日蝕、生而狀如鏡鑒。扣、盤而得、其聲、使日聞、鐘、以鳴。

【日常】[illegible] ●太陽は恒常で變化しない。永遠に[illegible]。〔宋史、樂志十〕[illegible]。[illegible]。[illegible]。

紀(二三)に同じ。　日々にたたなづく　【史記・儒林傳】若(日色)如(三)　●太陽のこと。「未聞」五行志(漢書)　日色(三)　●太陽のこと。「未聞」五行志(漢書)　日蝕　【淮南子】天文　日蝕(三)　●日蝕。「日蝕」　日蝕(三)　●日蝕。「日蝕」　日蝕(三)　●日蝕。「日蝕」

日部 日

日 [甚] 日日。日に日に甚だしくなる。〔後漢書 馮
魴傳 [日甚]〕[日日]。[日日]。[日日]。一日一日と甚だし
くなる。〔[日日]。[日日]。[日日]。[日日]。[日日]。[日日]。
[日日]。

【日抄】[illegible] 日がぬきがきする。又、其の書名。
(宋史、黄震傳、所)著日抄一百卷。
【日消】[illegible] 日がたってなくなる。(荘子、寓
物論、其投知秋冬、以喜怒哀樂之心、相攻相
【日昭】[illegible] ●日が照らす。(説苑、善説、秦中初霽
詩、)日照(illegible)。(説苑、善説、秦中初霽
詩、)日照(illegible)。日照山春、●日照
金、遠人今、山家者語城郭、(illegible)。
【日照】(illegible)、(illegible)、(illegible)、

●〇一日後何と定めて給する給余。●〇美濃國の地名。

【日當】ナカツ 〇。まひるなる。午は属時の方角。太陽の真上に当る時をいふ。(季節 九部考)真午。

【日蝕】ヒハミ 〇。日蝕。

【日部】ヒベ 〇。日部。

【日盤】ヒバン 〇。日盤。

【日短】ヒミジカシ 〇。日が短い。冬至の節をいふ。(季節 九部考)短夜。

【日出】ヒイデ 〇。日出。

【日出國】ヒイデクニ 〇。日出国。

【日出の方】ヒイデノカタ 〇。日出の方。

【日出の時】ヒイデノトキ 〇。日出の時。

【日出の山】ヒイデノヤマ 〇。日出の山。

【日出の山の中臣】ヒイデノヤマノナカトミ 〇。日出の山の中臣。(神祇 九部考)

【日出づ】ヒイデ 〇。日出づ。

【日出づる國】ヒイデルクニ 〇。日出づる国。

【日出づる時】ヒイデルトキ 〇。日出づる時。

【日出づる山】ヒイデルヤマ 〇。日出づる山。

【日出づる山の中臣】ヒイデルヤマノナカトミ 〇。日出づる山の中臣。(神祇 九部考)

【日出る】ヒイデル 〇。日出る。

【日隱】ヒカクル 〇。日隠。

【日隱り】ヒカクリ 〇。日隠り。

【日隱る】ヒカクル 〇。日隠る。

【日隱る時】ヒカクルトキ 〇。日隠る時。

【日隱る山】ヒカクルヤマ 〇。日隠る山。

【日隱る山の中臣】ヒカクルヤマノナカトミ 〇。日隠る山の中臣。(神祇 九部考)

【日隱る山の中臣の大祓】ヒカクルヤマノナカトミノオホハラヘ 〇。日隠る山の中臣の大祓。(神祇 九部考)

【日隱る山の中臣の大祓の時の祝詞】ヒカクルヤマノナカトミノオホハラヘノトキノノリト 〇。日隠る山の中臣の大祓の時の祝詞。(神祇 九部考)

【日隱る山の中臣の大祓の時の祝詞の中臣の祓の時の祝詞の中臣の祓の時の祝詞の中臣の

背機陽、宮中以紅綾量日影多至後、日影漸長。後、後(社甫、至日建興詩)何人開道窮尋日、恰恰遊人一日行。

【日長】如小年 ⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁷⁷ 一月の一年程長。唐の王昌齢、詩に、鶯花正長、山水如長日長。

【日温】⁷⁷⁷⁷ 日に日に暖まる。

【日中】⁷⁷⁷ 日の中天に至る時。正午。

氏宣、十二至(後)漢、右漢初氣、數及日中、左氏宣、十二至(後)漢、右漢初氣、數及日中、左氏宣、十二至(後)漢、右漢初氣、數及日中、左

瑪諾天問略。日天不動及日距赤道度分問答二條。道則第十二。度天之分中也。周天三百六十五度。赤道南極九十度。去北極亦九十度。爲赤道則第四重。日天之分中也。周天三百六十度。南北赤各距一十度。爲赤道則第五重。日天之分中也。周天三百六十度。南北本動。自西而東。其南北二極。無赤道之度。日天度平。從冬至至夏。黃道漸南行北。夏至赤道一十三度。爲表分。●圖日天下之略。（原藏記未。日天赤道。左右各持。望筆。望筆間。四周。南極。北極。）

日輪（薩摩歌。中文日。日天。）

日天（日天。）

日輪（薩摩歌。中文日。日天。）

日輪（薩摩歌。中文日。日天。）

日輪（薩摩歌。中文日。

[日報]　●日報の幡面。日報を見よ。

[日忌]　日ごとに忘れる。(後漢書・獻帝紀)

[日旁]　太陽のかたばら。周髀。春官。眡祲。[註]鄭玄曰、四面反鄉、如傾水也。云云。玄鑑、註日旁氣、四面反鄉、如傾水也。云云。玄鑑、註日旁氣、直向太陽之處、謂日旁氣。(史記、天官書)・王朝所候、決於日旁。日旁氣。

[日望]　日にのぞむ。日々にねがうのぞむ。

[日月]　日と月。(新論、道徳篇)・(論衡、自紀)

[日月]　日月の日にひろくなる。(論衡、自紀)

[日月]　日と月。所・讀文章篇、(論衡、自紀)

[日月]　●日が黄黒の氣におおはれて光が日蝕。●日が日月同宿でなくても、時に陰氣が盛で光を失う。五行志五、永元十六年十月己亥、黄氣蝕日、所以皆曾、案、河圖古日、[註]日月同宿、日月相合、日月有不於陰、陰明者、日月蝕、陰非日月同宿、時陰氣盛、陰明者、日月光也。●日が光を失う。(三国志、魏書、武帝紀、建安二十五年、[註]魏略、曹瞞傳、[註]魏書、武帝紀、[註]魏略、曹瞞傳、[註]魏書、武帝紀、[註]魏略、曹瞞傳、[註]魏書、武帝紀

三國日中用。宣日。殊樣日夾。著近代之法也。日柄【ヨツ】。日柄もよう御座いたることなり。

日柄【ヨツ】。日がよくさされる。【名詩】。日柄。海鼠。風未相揚。日間悪間。淡夜夜合。岳起讃。

日給【ヨツ】。〈今参同受分〉。給日外。〈日蓮・海鼠詩〉。〈今参同受分〉。給日外。而庭不入。

日記【ヨツ】。〈尹・徐傳〉。朝日日暦。而庭不入。

日獣【ヨツ】。〈日蓮・海鼠詩〉。〈今参同受分〉。給日外。而庭不入。

日暦【ヨツ】。〈日蓮・海鼠詩〉。〈今参同受分〉。給日外。而庭不入。

日数【ヨツ】。〈日蓮・海鼠詩〉。〈今参同受分〉。給日外。而庭不入。

日時

【日本紀略】……やまとこと。和琴。(歴名類聚抄)　神楽部　音楽具　日琴等　日本琴　雅楽　琴部

日本紀略……日本琴。日本琴。日本琴。

日本紀略……五弦の絃。種々の模様を織り出し、美しい。絃所。

日本書紀……日本に於て發達した畫の總稱。(『古代美術』)

日本書紀……日本に於て發達した畫の總稱。(『古代美術』)

日本紀……「日本紀略」に「日本琴」。

日本紀……「日本紀略」に「日本琴」。

日本紀……「日本紀略」に「日本琴」。

俟先生聞香集（弘法注俟）・詩學逢源（紙園聞海）・魯西忠孝聞用鑑）・鍾鍾雄大鑑）・鍾鍾雄大鑑）・鍾鍾雄大

日本詩史（江村北海・文化遺産オンライン）

系・籍録・簡・道・法・名・墨・縱橫・雜・農・小說・兵六家。著録された兵書の實數は千五百十七篇。兵家は、權謀・形勢・陰陽・技術の四種に分類される。「孫子」・「呉子」・「司馬法」・「尉繚子」・「三略」・「六韜」・「李衛公問對」・「黄石公三略」・「太公兵法」・「孫臏兵法」・「孫子十篇」・「呉子四篇」・「公孫鞅十篇」・「李子十篇」・「魏公子兵法」・「魏武帝注孫子」・「魏武帝新書」・「魏武帝兵法」・「魏武帝船戰法」・「魏武帝八陣圖」・「魏武帝八陣圖圖」・「魏武帝八陣圖圖」・「魏武帝八陣圖

登陳州城云云詩)唐詩高下篇日高遠深明
【日朗】[illegible]　月出皎兮佼人僚兮(毛詩)
【日隔】[illegible]　雨後雲色日朗(白居易)
【日清】[illegible]　(東山詩)聞道雨雪日清(杜甫)
【日落】[illegible]　●日が西ちる。夕日がくれる(蜻蛉)。
(孟浩然)江樹日落雲晴(孟浩然)。(宋書)
陰三十理。(孟郊桂州)訪日落江湖(孟郊)。(王觀)
日落空蒼蒼(杜甫)。(李白)落月照人(李白)。(李白)
(杜甫)送客帝城北(杜甫)。(李白)日落西海(李白)。
(李白)日落西海(李白)。(李白)日落西海(李白)。(李白)

紀）五年秋九月、因以東西、南北編、南北編、西北編、西北編、東西編、東西編、日編、日編、日

天子。

【日湖漁唱】[illegible]。書名。巻一巻、宋、陳仁玉撰。仁玉平の詩を集めたもの。[四庫]未収書目提要。

【日五色】[illegible]。唐代、試験の課題。(書言故事)不捷類。日五色駁。[唐李程試]日五色駁。破舟楫。[後漢]虞詡天駟、[晉]陸機、[宋]元嘉法蔚、[北魏]法師、[梁]沈約、[後周]蘇綽、[隋]牛弘、[唐]李程試。日五色駁。[後漢]虞詡天駟。

瀆之而不講(疏風日絕風雨不彤翼)凡有彤氣者未見能無翼也而風吹日開必有損

【疑】日暮山青蕨蕨ﾔﾏﾉﾊﾞﾔﾏﾉﾊﾞﾔﾏﾉﾊﾞﾔﾏﾉﾊﾞ日の光をさへぎつて暮方の山青々としてゐる。(白居易、登西樓、遠行簡)海戶國樓上西南望、始見人間遠詩話、蕨、日暮山青蕨蕨、浸天秋水晚蒹葭茶下、蕨、注面、書畫譜、傅萬里、陽、晚蕨蹲茶下、蕨、蹲蕨、鮑姑、過、蹲蕨。

【日櫂張水月柳井枯】ﾋﾉｶｲﾊﾘﾐｽﾂｷﾔﾅｷﾞｲﾄｶﾚﾃ yoru, ōgi, hari, mizu, tsuki, yanagi, ito, kare, te. 日が並をかぶれば清水月と柳が並をかぶれば井戸も枯れる。(胡曾市地方に行はれる慣語。

【日擊】(蘇)七月十四日、(疏)七月十四日、(注)一つの大色はつたら、七日目。(莊子、應帝王)南海之帝爲儵、北海之帝爲忽、中央之帝爲渾沌、儵與忽遇、於渾沌之地、渾沌待之甚善、儵與忽謀、渾沌之德、曰、人皆有七竅、以視聽食息、此獨無有、嘗試爲之、日鑿一竅、七日渾沌死。

【鑿】日蝕(疏)風高低于朝風雖之天 ﾋｶｹﾞﾘ ﾋｶｹﾞﾘ ﾋｶｹﾞﾘ ﾋｶｹﾞﾘ 偏滿之花の影が池水に浮んでゐるさまは、日にふかげが風にふかがれて、或は高萬寶の玉のやうである。(蘇漢師詠梅花、晉草、校)、或は低く水面に浮んでゐるさまは、花光水上浮手、(蘇漢師詠梅花、晉草、之玉、染)枝染、浪、表裏、入、馬人之紅。

【日】13734

タン (美顯)得案切 ㊀ ﾀﾝ

一畫

一 ㊀ ひきあけ。あけがた。あかつき。見一上二一地也。(説文)旦、明也。从一日見一上二一地也。(爾雅、釋詁)旦、早也。(玉篇)旦、晩也。(公羊、哀、十三)冬十有一月、有星孛于東方、字者何、彗星也、其言于、東方何、其言之不能一日而滅也、何以滅、記異也。(注)旦者、日方出。(疏)旦者、日方出也、未相離難之辭。(詩、小雅、庭燎、●あかすず。夜もあかすず。(詩、唐風、蒲生謹篇)●あかす。●あける。夜があける。(常)(説、飯生)民花滋淫所生、種樹邪蓑絵傳)●朝光。朝早く。(易、繫辭、下)●あさ。あした。(玉篇)旦、朝也。(柳元元、種樹邪蓑絵傳)●朝の名

いふ。今の旦角、安松は、稍雅致。優、旦兒、若奇齡、西河腔者也。人、未出子、明朝、已出子、夜明、日出子、夜明、日出子、夜明、日

【待旦】ｔｕｎ。夜の明けるのをまつ。〔書 太甲上〕无于時桀乱顚。坐以待旦。〔孟子 離婁下〕周公思一人。夜以繼日。幸而得之。坐以待旦。

【旦暮】ｔｕｎｂｏ。あけがたと夕暮。〔孟子 盡心上〕旦暮遇之。又其所利。〔後漢書 馮衍〕代宗大業。〔注〕旦暮。朝夕。〔文選 潘岳 西征賦〕旦暮無一日之期。〔注〕旦暮。朝夕。〔晉書 陸機〕旦暮。〔注〕旦暮。朝夕。

【旦夕】ｔｕｎｓｅｋｉ。緊迫至切。〔後漢書 馮衍〕旦夕之間。〔注〕旦暮。朝夕。

【旦旦】ｔｕｎｔｕｎ。朝鳴くのを忘れた雞。初復得一鳴。抱犢出石。展其後宜。〔魏武帝 遺令〕諸子。〔注〕旦暮。朝夕。

【旦不保夕】ｔｕｎｆｕｈｏｓｅｋｉ。今晩が保證出來ないほどの危險な人命の喩きに言う。日旦。〔唐書 歌舞 日旦光輝 日旦日夕。〔注〕俳優の名稱。生日浮末注。

【旦】（7-21570 ･4532）を見よ。

【旦鳳】朝雲 蓋鳴 行雨。〔ｔｕｎｐｏｕ〕。楚の王が夢に見た。婦人が雨を降らしたことは。〔宋玉 高唐賦〕客在山之陽。高丘之岡。日鳳。朝雲 蓋鳴 行雨。朝朝暮暮陽臺之下。日鳳。朝雲 蓋鳴 行雨。

【旦】

13736

コン

（集韻）元韻 古魂切 魂

（一一一一）

旦部。

（一一一一）

旦

旦

旦

薬者、以薬多月之無時也。

【旨苦】ｼｸｸ　うつくしいはきく。(詩)陳風、防有鵲巢、邛有旨苦。(傳)苦、苦神。防有鵲巢、邛有旨苦。(箋)旨、美也。苦、苦菜。鵲也、是知、勢反。南有、美菜。(疏)旨、美也。苦、苦菜。鵲也、是知、勢反。南有、美菜。(疏)旨、美也。苦、苦菜。鵲也、可去生食。知之勢反。南有、美菜也。

【旨統】ｼﾄｳ　旨統、(唐書)、(宣)、(旨統)、(旨統)、(旨統

早稷 ㊀ わせ、早稲。〈本草・稷・稷・穄〉明・時珍 早稲 ㊀ 早稲。〈本草・稷・穄〉明・李

【早取】[illegible] ●手早く取る。●早取貿風の略。
【早取貿風】[illegible] 短時間に貿風を仕上げること。又、其の風貿。
【早宿】[illegible] 早目に宿をとる。「他宿」宿屋の客引。
【早熟】[illegible] 浦・詩・早稲從早、仲春三月。
【早出】[illegible] 早く出る。又、其の物。
【早出晩帰】[illegible] 早く出て晩に帰る。
【早出晩入】[illegible] 早く出て晩に入る。
【早出晩没】[illegible] 早く出て晩に没する

散早天。
【早鈴】13742 sōrei. (sōrei.) ●朝の茶うけ。朝の軽い食事。
【早鶯】13742 sōō. (sōō.) 少しはやく。
【早田】13742 sōda. (sōda.) 少し早く。
【早田】13742 田氏國の地名。
【早稲】13742 晩稲に代用する大きな稲。(男色大鑑下、早稲)
【早蒜】13742 sōbiru. 前に。以前に。
【早蒜】13742 祝儀用の蒜。
【早年】13742 sōnen. 若いとき。早歳。
【早飯】13742 sōmeshi. 晩年の對。(晉書、陸機陸雲傳論)既は早飯、早年。
【早期】13742 sōki. 早期。(東鑑、建久二年十月廿日條)早期、(宜和書法)朝寅卿自其早年、淳于儀等師、已與歐陽詢並著名筆相上下。
【早年】13742 sōnen. 以前。昔年。
【早年間】13742 sōnen. nenkan. 以前。昔年。
【早馬】13742 sōba. 早く走る馬。急報。
【早月】13742 sōgetsu. 旧暦の一月。(東鑑、建久二年十月廿日條)早月、(後拾遺、秋上)はやきさつきの。(源氏宗長、春道雨)早月、蛍を見聞、早梅。
【早花】13742 sōbana. 早く花の開くこと。(源氏宗長、春道雨)早梅。
【早咲】13742 sōzaki. 早く花の開くこと。(源氏宗長、春道雨)早梅。
【早苗】13742 sōnae. いそいで植えあげる。(漢書、黄霸傳)云不早自拔根枝。
【早沼】13742 sōshō. 脆くて普通の時期より早く稻熟。
【早祭】13742 sōsai. 早く熟する麥。(方言、注)早麥。
【早秋】13742 sōshū. 晩秋。(新相撲)秋。
【早蟬】13742 sōzemi. 朝早く鳴く蟬。(後拾遺、秋上)早蟬は、はやきさつきの。(源氏宗長、春道雨)早蟬。
【早蕨】13742 sōwarabi. 早く芽出る蕨。(万葉、巻十)早蕨

【早看東南晚看西北】tai-kan, tai-kan, tai-kan, tai-kan. 朝若上西北雲霞，晚若上東北雲霞，則雨。晨若上東北雲霞，晚若上西北雲霞，則晴。晨若上西北雲霞，晚若上東北雲霞，則雨。晨若上東北雲霞，晚若上西北雲霞，則晴。河北地方的俗諺。

【旱】 13743

ケン hàn

協韻 ㊀1248 ㊁1248 ㊂1248 同じ。（字彙）

字彙 此の字は骨意文字で、日に從い、十人の目に斥の同じ義にとる。故に字形意に日に從ひ、日の部に入れるべきであるが、康熙字典は誤って日の部に入れた。今、姑らく之に從ふ。（說文）旱、叶、或从日。（段注）日、日一也。

【旰】 13744

コン gān

昏・古作旱。

【旦】 13745

チウ（ツ）（篆文）地潤の義

日がくらい。（玉篇）明、日暗也。

【旬】 13746

ジュン（集韻）松倫切 眞

ユン（集韻）荀倫切 眞

ケン（集韻）荀倫切 眞

ヨ（文 文）旬。徧也。十日爲旬。旬、乃似之本義。日に從ひ、勹聲。（徐灝注箋）十日爲旬、乃似之本義。日に從ひ、勹に引ひて之を徧の義に取る。（段注）旬、古音在十五部。（徐灝注箋）十日爲旬。（禮記、曲禮上）凡上盥巾、下盥足。（疏）旬、徧也。（玉篇）旬、徧也。（廣韻）旬、徧也。（字彙）旬、徧也。（正韻）旬、徧也。（詩、大雅、江漢）來旬來宣。（箋）旬、徧也。（孟子、公孫丑）旬、徧也。（文選、潘岳、西征賦）旬、徧也。（文選、潘岳、西征賦）旬、徧也。（文選、潘岳、西征賦

子、曜霊宅上期以歳月旬日若神。(南史、宋武帝紀)字之旬日反位。

【旬候】 ⊡ ⊡ 旬候。(同上)

【旬朔】 ⊡ ⊡ 旬朔。(同上)

【旬日】 ⊡ ⊡ 旬日。(同上)

旬候、旬朔、旬日、いずれも同じ。

【旬月】 ⊡ ⊡ 一旬一月。(南唐近事、徐鉉伯)夜之間、等閑不覺其事。解。(蘇軾、詩)二月初合意、富貴旬月間。

旬月、一旬と一月。ごく短い期間。

ことを、主家が経営に動物することをいふ。一説に、偏く功績を立てることをいふ。文選、沔水、毛詩、旬、徐夏切、説文、旬、徧也、从勹、从日、均聲。旬、或从囗、或从日、或从口、或从口、或从口

旰 ㊀ 平 ㊁ 去 ㊂ 入 ㊃ 上 ㊄ 去 ㊅ 平 ㊆ 上 ㊇ 去 ㊈ 入 ㊉ 平 ㊊ 上 ㊋ 去 ㊌ 入 ㊍ 平 ㊎ 上 ㊏ 去 ㊐ 入 ㊑ 平 ㊒ 上 ㊓ 去 ㊔ 入 ㊕ 平 ㊖ 上 ㊗ 去 ㊘ 入 ㊙ 平 ㊚ 上 ㊛ 去 ㊜ 入 ㊝ 平 ㊞ 上 ㊟ 去 ㊠ 入 ㊡ 平 ㊢ 上 ㊣ 去 ㊤ 入 ㊥ 平 ㊦ 上 ㊧ 去 ㊨ 入 ㊩ 平 ㊪ 上 ㊫ 去 ㊬ 入 ㊭ 平 ㊮ 上 ㊯ 去 ㊰ 入 ㊱ 平 ㊲ 上 ㊳ 去 ㊴ 入 ㊵ 平 ㊶ 上 ㊷ 去 ㊸ 入 ㊹ 平 ㊺ 上 ㊻ 去 ㊼ 入 ㊽ 平 ㊾ 上 ㊿ 去 [illegible] 入 [illegible] 平 [illegible] 上 [illegible]

月十五日に遅蒜を薛上に貢る。馳の名に、蒜の類で、形状は略ぼ瓣に似て、水に入らず、穴居して好く清洲を心と為てるるが、水に入らず。

【早蒜皮】sō pan pi, tsō, tsō 清洲産クルバゲン

【早地】sō ti 陸地をいう。

【早地金蓮】sō ti kin ren 京京人の愛賞する蓮花の一種。(蔡京蔡絡時記、九花記子)蔡侯、日子蓮開考云云。(蔡京絡之蓮種京蔡云云)早地金蓮。

【早天】sō ten 旱の空、又、ひでりの時。

【早稻】sō tō 穀物の名。くろきび(本草、禾穀類)

解。時珍曰、周憲王曰、稗有六、水稗・旱稗云云、稗、苗葉似稗子、色深綠、根下葉帶紫色、稍鎮出、細穗、結子深紫、茎

昀・明也。从日勻聲。（集韻）昀、或作旬。（正字通）昀、今从白。●或は䀠（6－2278 8）に作る。（集韻）昀、或作䀠。

【昀昀】ﾝﾝ 明らかなさま。（荀子）君者像也、提提者昀昀也。（注）昀昀、明也。（楊倞）昀昀、或所見故像。

【旰】 13761 ク（集韻）匈于切 圓

●あさ。夜があける。旰（6－1386 8）に同じ。（集韻）旰、日始出也、或作昀。

●胡（6－13747）に通ず。（易、豫、旰豫、釋文）旰、晚作、旰、云、日始出、引詩旱日始旦。

（字彙）旰（3－1370）・干（3－1370）・旰（3－1370）日始出別字。（字彙補、四字倫用）・旰、音干、日始出、旰、音旰、日晚、旰、音旰、旰、音旰、旰、音旰

小 ●秋のそら。或は旼。(6—13776)。旻、秋天也。从日文聲。(集韻)、(類篇)、(字彙)、(正字通)、(康熙字典)、(漢語大詞典)、(漢語大字典)、(漢語大字典)、(漢語大字

無心是謂上言滿。

【昂】ガウ 漢 金惟駿（H1-4032・J-1165）の字。

【昂然】ガウ ゼン 元氣のさかんなさま。自負する所鋼強雄勁で人を圧倒するさま。（韓愛之諸処）

【昂霄】ガウ セウ 美しいまゆ。眉は雲中央が高くなっているさま。（司馬長卿・清村退居書・嶢部崔侍郎鄭秘書給事・詩）・宦官中貴常・昂霄内人相。

【昂低】ガウ テイ 高いと低い。信などの上が高くなったりあがる。物のねだんがあがる。（韓愛・上鄭）

【昂昂】ガウ ガウ 大位。（漢書・武帝紀・元封元年・詩）の●に同じ。

【昂昂然】ガウ ガウ ゼン 漢、子者をいう。（楊譚・録各等封爵・昂昂章宗・下封録・天聖八年・論功・陳・録五等爵・楊公・其於・楊氏・官陳・昂昂章宗・仍分二等・諸・今子爵・也・案・皇朝通攷・昂昂章宗・作・案・昂昂章宗）

【昂鼻】ガウ ビ 仰いだ鼻。鼻の先。（新序・雜事二）・昂鼻結喉・鼻項・髮。

【昂蔵】ガウ ゾウ 古・蔵復民から貧したる石の矢のね。松脂が水に入ること千年で化したものと可駆。・木質のやうな紋理があり・樹色で・硬よ・（事古略紀・略）

【昂珈】ガウ カ アフリカ西岸にある地名。Angola の音譯。（新・弘・張揆の人・姓は野猫氏・戦功多し。官は行衛書省右丞。（元史、一百三十二）

【昂拉】ガウ ラ 元・張揆の人・姓は野猫氏・戦功多し。官は行衛書省右丞。（元史、一百三十二）

【昶】13784 ショク 昃（→13785）に同じ。（集韻）昶・或作・昃。（正字通）

【昃】13785 ショク シキ ソク （集韻・礼色切）職 ㄗㄜˋ tsɤ⁴

小 ●かたむく。日が西に傾く。日が午をこえる。昶（→13784）に同じ。（集韻）昶・或作・昃。（說文・昶・日在西方時・側也・从日仄聲。易曰、日昃之離。）・日昃之離・昳・也・（左氏、定十五）日昃乃至・鉄也。●ひるすぎ。(2)午後。（宋書・武帝紀）日向・昃。(3)後・時頃。（書・無逸）自朝至于日昃・（疏・昃・亦名昳・晉・日蹉跌而下・謂・未時・也・(4)午後四時頃。（公羊、定、十五）日下昃。（注）昃・日西也・下昃、蓋晡時。●（→1-552）に通ず。（易・離）日昃之離。（釋文・昃・王・鄭・京本作仄、音同。●通して稷（→12307）に作る。（左氏、定十五）日下昃。（穀梁、定十五）日下稷。

【昃暮】ショク ボ 日がかたむく頃・午を過ぎる。（王・融・三月三日曲水詩序・酒・昃暮・明・暮・昃・昏・（昃食）ショク シキ 夕飯。晩食。（王・融・永明九年・策秀才文・朝・駕・起・昃食興・・（注）・酒日・昃食・晩食也。

【昆】13792 コン （集韻・古魂切）魂 ㄍㄨㄣ kun¹

小 ●おなし。ともに。（說文）昆・同也・从日从比。（太玄經・玄攻・・・

師吉日。又曰：昆夷、昆孚、或作混、又作緄。❷漢才。❸姓。（漢書、景武昭宣元成哀功臣表）渾邪。❹姓（漢書、昭宣元成哀功臣表）渾邪。❺地名。

解説 〔字義〕ヒツ。ヤス。

〔字形〕昆は昆と比べての意味。本義は「おなじ」。昆は親密。日は明。明るければ同。故に合して、親密の意。日は明。明るければ同。故に合して、親ぬ義。昆の字がなぜ「ヤス」の意味をもつのか、説文、段注は「昆は、明の義也。示部の義也。从比者同之義。今俗謂（合同）為渾、其實蠡に作る。昆部、昆部、𠬝部（魚文）参照」と。の多い

昆夷（ヒツ）。古の西戎の國。混夷、畎夷、昆吾（ゴ）。（説文、段注）。孟子、梁惠王下「文王事昆夷」（孟子、梁惠王下）。昆夷、昆孚、或作混、又作緄（説文、段注）。昆夷、昆孚、或作混、又作緄（説文、段注）。昆夷、昆孚、或作混、又作緄（説文、段注

ゑ一に同じ。又、遠い子孫の仇敵。「轉名、轉教屢反孫。昆、貴也、思情轉遠、以ゑ轉貴遠之耳。轉錄、遠孫。昆孫、案、昆孫、遠孫子孔之後者。」

【昆裔】ｊｉｎ　➡遠代、子孫。「昆裔、遠孫。」

【昆侖】ｋｕｎ　➡崑崙。「昆侖、崑崙。」

〔漢書、百官公卿表上〕廿泉宮、宣帝、甘泉宮、昆侖、昆侖、本名、甘泉宮至武帝改。〔百官志〕二千石、注〔師古曰〕昆侖、仙人之所住也。〔淮南子、地形訓〕昆侖之虛、上出元圃、層城九重、其外有弱水之淵、環之、其外有炎火之山、投物皆燃。〔同、墬形訓〕昆侖、其下有弱水、其外有炎火、人不能至。〔同、時則訓〕孟夏之月、其數七、其味苦、其臭焦、其祀竈、其虫蝯、其音徵、其日丙丁、其帝炎帝、其佐祝融、其神熒惑、其器以赤、其畜彘、其穀麻與豆、其蟲羽、其相物、其數、其味、其臭、其祀、其音、其日、其帝、其佐、其器、其畜、其穀、其蟲

卷一 奇木敗蓋其、正與二同。昆明三國時蜀漢郡名以下、三百二十字、疑衍。●如馬以下百七十字、疑衍。和輦、輦輪、輦車物之義。輦、輦車物之義。輦、輦車物之義。輦

臨むこと。〔通鑑〕漢紀、昇堂正座帝銭、張文雄少時、官有人相。〔宋史〕、相、然不相宜食。鳥魚、孔氏、孟子、昇堂就食。郎聞鵲噪、生徒、之昇堂。

【昇段】しょうだん　武道や昇碁などの有段者の昇格をいう。

【昇降】しょうこう　のぼる・おりる。〔後漢書〕、光武帝紀、昇降、〔注〕、同上。

【昇沈】しょうちん　うきしずみ。〔李白〕、昇沈、〔注〕、同上。

【昇天】しょうてん　●天にのぼる。上天。昇天。〔楚〕、西京雜記、昇天、〔注〕、〔後漢書〕、張衡、〔注〕、〔文選〕、〔注〕、〔李白〕、〔注〕、〔白居易〕、〔注〕、〔蘇軾〕、〔注〕、〔白氏長慶集〕、〔注〕、〔白氏長慶集〕、〔注〕、〔白氏長慶集

也（白虎通四時）春曰ニ蒼天ニ夏曰ニ昊天ニ（白虎通）西方金白色。故曰ニ昊天ニ（史記）昊天（集解、韓詩、釋文）。❹元朝遥稱中央。❺元、朱鳳、玄冥、招搖、格堯、昭明の神の名。❻昊天は、天の別名。周つて、五代に在つては、遠い事を記した。塔五白蓋昔といい、天の別名。❼昊天は、天の別名。❽昊天は、天の別名。❾昊天は、天の別名。❿昊天は、天の別名。⓫昊天は、天の別名。⓬昊天は、天の別名。⓭昊天は、天の別名。⓮昊天は、天の別名。⓯昊天は、天の別名。⓰昊天は、天の別名。⓱昊天は、天の別名。⓲昊天は、天の別名。⓳昊天は、天の別名。⓴昊天は、天の別名。㉑昊天は、天の別名。㉒昊天は、天の別名。㉓昊天は、天の別名。㉔昊天は、天の別名。㉕昊天は、天の別名。㉖昊天は、天の別名。㉗昊天は、天の別名。㉘昊天は、天の別名。㉙昊天は、天の別名。㉚昊天は、天の別名。㉛昊天は、天の別名。㉜昊天は、天の別名。㉝昊天は、天の別名。㉞昊天は、天の別名。㉟昊天は、天の別名。㊱昊天は、天の別名。㊲昊天は、天の別名。㊳昊天は、天の別名。㊴昊天は、天の別名。㊵昊天は、天の別名。㊶昊天は、天の別名。㊷昊天は、天の別名。㊸昊天は、天の別名。㊹昊天は、天の別名。㊺昊天は、天の別名。㊻昊天は、天の別名。㊼昊天は、天の別名。㊽昊天は、天の別名。㊾昊天は、天の別名。㊿昊天は、天の別名。

【昊】13801

姓（通志）氏族略。春秋時、昊氏。今臨淄有ニ此姓ニ。出ニ弘農姓略ニ。**あらはれる**。**ひろい**。**ひろ**。**ひろ**。**ひろ

西縣 [illegible]縣北西西南沔 [illegible]樂安江入大都縣境。[illegible]都江之上游。[illegible]海注於四海。[illegible]名。[illegible]水。東南流。[illegible]同。[illegible]至[illegible]大江入海。[illegible]水。[illegible]水。[illegible]水

舟。鮮名陳山、後改今名。又名昌山嶼。●廣府。東省廣州府。●【讀史方輿紀要】廣東、韶州府。●【昌宗】書座。唐石刻。有三石。相連。一名昌宗。此山名。

【昌士】[illegible]。五代國。都良士。(11・38647・5728)の人名。

【昌之】[illegible]。字後。●東、趙趙(10・37177・13)の人名。

【昌志】[illegible]。明。昌志。(編年、著熱行)生員。

【昌歜】[illegible]。きかんなこと。(編年、著熱行)

【昌盛】[illegible]。●西魏。廣。河南南陽郡。(8・22・1)

【昌時】[illegible]。牧。知。壺州。謝土表。專廉仕路。不。東昌時。(8・13112・2552)の字。

【昌黎】[illegible]。之流。文章。繁。昌黎。

【昌期】[illegible]。●宋。●【讀史方輿紀要】。河南南陽郡。●【讀史方輿紀要】。河南。南陽郡。淮東。比縣。縣。南陽郡。新野郡。尋置。東。南陽郡。後漢。南魏。(8・13112・2552)の字。

【昌邑】[illegible]。●南。廣。●。四川省大安縣の東。南。●【讀史方輿紀要】。四川。●。四川駅地。唐。乾元。一年。下大足縣。●。唐。置。●。大龍州。移。昌州。此。●。因之。●。唐。置。●。蜀。●。元龍州。●。置。●。●。●

明。昌平縣縣名。隋置。上谷郡後漢初。寇恂等。昌平。縣故郡屬後省。縣。其東又故穀倉也。昌平。縣故郡屬後省。縣。其東又故穀倉也。昌平。縣故郡屬後省。縣。其東又故穀倉也

徹右の境。〔漢書、地理志上〕臨淮郡、縣二十九。

【昌蒲】[名]ショウブ。●古の山出の人名。又、常山道人と下に注釈するように、人名の名。又、常山道人と下に注釈するように、人名の名を負うて上に付せられる。〔列仙傳〕見六者二百餘年、而童子如嬰兒。王子子、食菖蒲根。〔後漢書〕二百餘年、而童子如嬰兒。〔抱朴子〕「仙人の天地、鍾乳・菖蒲・黄精・甘草・地黄・麻蕡・巻柏・茯苓・白朮・天門冬・地肪・澤瀉・牛膝・防葵・茯神・遠志・五味・人参・芝草・紫芝・赤芝・黑芝・白芝・黄芝・紫芝・紫芝・紫

也。易、大有」明神智也。〈注〉明、猶才也。〈左氏、文十八〉「隱、明而善、達於禮」。〈疏〉明者、達也。晞、解釋義、照。見幽微也。〈疏〉明者、達也。晞、解釋也。四知、微之謂明。❹あらうかにする。❺あきらか。〈禮、祭統〉「然所以知之者、明也」。〈注〉謂「則」之以示人也。〈禮、大學〉「在明明德」。〈注〉明、明德。〈詩、騶虞〉「騶、明其至德也」。〈國語、晉語四〉「賢良、明也」。〈注〉明、猶才也。〈禮、大傳〉「明、顯也」。〈注〉明、猶尊也。〈禮、禮運、孔子閒居〉「明、明

秦穆姬，曰此簒殺。秦大夫，案生子孟明視。視名也。明，字。伐氏。（杜氏注簒殺，蘊〔明〕氏，山公案有二字誤明首，若伐氏從事明首。）⑥臨，照首的異名。持明（6－12019－105）を見よ。〔図版7－23024〕－26－6－6－1961）に通ず（集韻・四・陽・清・地名，或作・明。通作・孟。臨）あ。くらくなる。（㋑）。（㋒）。（㋓）をはる。（㋔）ひらく。（㋕）ひらくになる。（㋖）あきる。（㋗）すきまる。（㋘）。

字義　アキラ・アケル・アケ・アケ・デル・パルル・ヨ・ヒ・ヒラ・ヒラケル・ヒラク・ヒラケ・ヒラ・ヒル・ヒラ・ヒラ・ヒル・ヒラ・ヒル・ヒラ・ヒル

又復傳記」(轉名)安名之明衆也。

【明眼】(ｍｅｉｇａｎ)　かがやき又かがやく。明瞭。(宵蘭)「明眼」(ｍｅｉｇａｎ)　かがやき又かがやく。明瞭。(遠)「明眼」(ｍｅｉｇａｎ)　かがやき又かがやく。明瞭。(遠)「明眼」(ｍｅｉｇａｎ)　かがやき又かがやく。明瞭。(遠)「明眼」(ｍｅｉｇａｎ)　かがやき又かがやく。明瞭。(遠)

【明鏡】(ｍｅｉｋｙｏｕ)　明鏡。(遠)「明鏡」(ｍｅｉｋｙｏｕ)　明鏡。(遠)「明鏡」(ｍｅｉｋｙｏｕ)　明鏡。(遠)

【明哲】(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明哲」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明哲」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明哲」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)

【明徹】(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明徹」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明徹」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)「明徹」(ｍｅｉｔｅｔｓｕ)　●あきらかで聞こえなくこと。(宵蘭)

【明堂】(ｍｅｉｄｏｕ)　●明堂。(遠)「明堂」(ｍｅｉｄｏｕ)　●明堂。(遠)「明堂」(ｍｅｉｄｏｕ)　●明堂。(遠)「明堂」(ｍｅｉｄｏｕ)　●明堂。(遠)

【明徳】(ｍｅｉｔｏｋｕ)　●明徳。(遠)「明徳」(ｍｅｉｔｏｋｕ)　●明徳。(遠)「明徳」(ｍｅｉｔｏｋｕ)　●明徳。(遠)「明徳」(ｍｅｉｔｏｋｕ)　●明徳。(遠)

【明日】(ｍｅｉｎｉｃｈｉ)　●明日。(遠)「明日」(ｍｅｉｎｉｃｈｉ)　●明日。(遠)「明日」(ｍｅｉｎｉｃｈｉ)　●明日。(遠)「明日」(ｍｅｉｎｉｃｈｉ)　●明日。(遠)

【明日香】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕ)　●明日香。(遠)「明日香」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕ)　●明日香。(遠)「明日香」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕ)　●明日香。(遠)「明日香」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕ)　●明日香。(遠)

【明日香皇女】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｈｉｍｅｍｏｋｏ)　●明日香皇女。(遠)「明日香皇女」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｈｉｍｅｍｏｋｏ)　●明日香皇女。(遠)「明日香皇女」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｈｉｍｅｍｏｋｏ)　●明日香皇女。(遠)「明日香皇女」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｈｉｍｅｍｏｋｏ)　●明日香皇女。(遠)

【明日皇子】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｏｕｊｉ)　●明日皇子。(遠)「明日皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｏｕｊｉ)　●明日皇子。(遠)「明日皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｏｕｊｉ)　●明日皇子。(遠)「明日皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｏｕｊｉ)　●明日皇子。(遠)

【明日香皇子】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉ)　●明日香皇子。(遠)「明日香皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉ)　●明日香皇子。(遠)「明日香皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉ)　●明日香皇子。(遠)「明日香皇子」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉ)　●明日香皇子。(遠)

【明日香皇子殯宮】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉｎｏｈｉｎｇｕｎｕ)　●明日香皇子殯宮。(遠)「明日香皇子殯宮」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉｎｏｈｉｎｇｕｎｕ)　●明日香皇子殯宮。(遠)「明日香皇子殯宮」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉｎｏｈｉｎｇｕｎｕ)　●明日香皇子殯宮。(遠)「明日香皇子殯宮」(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉｎｏｈｉｎｇｕｎｕ)　●明日香皇子殯宮。(遠)

【明日香皇子殯宮之時歌】(ｍｅｉｎｉｃｈｉｋａｔｓｕｎｏｏｕｊｉｎｏｈｉｎｇｕｎｕｎｏｔｏｋｉｎｏｕｔａ)　●明日香皇子殯宮之時歌。(遠)「明日香皇子殯宮之時歌」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

［曹植］王仲宣誄字：論衡、說文解字。

明恭 ⊞ ⊠ 止明。 ⊠ 隋の煬帝、明州會稽寺に住す大力僧傳二十五。

明食 ⊞ 食料を盛りたこしらえ。 ⊠ 禮記檀弓上。

明由 ⊞ 明代の戯曲。 ⊠ 其の詞曲に典故を用い、前者は張鳳翼の灑砂記の如く自然に筆を用い、後者は湯顯祖の邯鄲記の如く故事を用ひ、共に詞藻を集めて、南曲を作したこれ崑曲が其の起と云はれる。明の李春の編。

明局 ⊞ 三局。 ⊠ 公然と開張して賭場。

明場 ⊞ 賭場。 ⊠ 明宮闈、香山鮮、廣運殿、明場、明堂。

明疑 ⊞ 疑問。 ⊠ 明宮闈、明場。

明近 ⊞ 明天。 ⊠ 明日。

明疑 ⊞ 疑問。 ⊠ 明宮闈、明場。

明子 ⊞ 明子。 ⊠ 明日。

明近 ⊞ 明天。 ⊠ 明日。

明宰 ⊞ 宰相。 ⊠ 明日。

明日 ⊞ 明日。 ⊠ 明日。

明日 ⊞ 明日。 ⊠ 明日。

明日 ⊞ 明日

(1009－1017)

[明瞭]□□ 字鏡。●鏡愛○4529－1111○の字。●□□ 鏡愛○0－2329－4023○の字。●□□ 鏡愛○1－2329－4023○の字。●□□ 鏡愛○1－2325－2173○の字。●□□ 鏡愛○0－2325－2173○の字。●□□ 鏡愛○0－2325－2173○の字。●□□ 鏡愛○0－2325－2173○の字。●□□ 常備○4－5535－2223○の字。●□□ 鏡愛○1－2325－2173○の字。●□□ 鏡愛○1－2325－2173○の字。●□□ 鏡愛○1－2325－2173○の字。●□□ 常備○4－5535－2223

明月照高台[謝朓]　明月照高楼[謝朓]　明月出海底[謝朓]　明月照在海眼[謝朓]　明月出海上[謝朓]　明月照海[謝朓]　明月照海[謝朓]　明月出海[謝朓]　明月出海[謝朓]　明月出

【明経】20ウ ●にかかることをあきらかにする。

【夏侯流】20ウ ●夏侯勝。前漢儒学者。宣帝時、梁の人。字は長倩。

知来 ●唐代、學士の科目の一。算學に明通する

【明堂】20ウ 周の明堂。

【明堂位】20ウ 書名。『礼記』の篇名。

【明堂図】20ウ 書名。三巻。三国・魏の人、董尋の撰

詩、言想如儀髣如髣、紫石後視定射人、五尺小身是稱、明時何用長鋒鏑。

明仙 [illegible] 明、明名、唐、蜀、浙江省鄞縣の東、四明山に続いた陶窯。

明州 [illegible] 明州名、唐、蜀、浙江省鄞縣の東、四明山に続いた陶窯。

明堂 [illegible] 明堂、天子の宮殿。孔穎達の禮記正義、明堂、所以宣明政教、故謂之明堂。●明堂位、魯之明堂、天子之宮殿。●郭璞、江賦、明堂、天子之宮殿。

明堂 [illegible] 明堂、明の皇室。明の朝廷。清山堂子、文、文、明堂、明の皇室。明の朝廷。清山堂子、

明堂議 [illegible] 此之時、明堂、冠、[illegible]、[illegible]、十九、[illegible]、[illegible]、[illegible]

を老釘に擬し了の字は、第巻、字を押韻、孔穎達、其文と書日、前日元帝時案、周村元後、雅度を殺、倩世之器也、時人、文帝、文帝、陳留、陳留、陳留

勇次。後、姉を捨て、敗れて自殺す。（清岩橋、盤谷寺日記、十二月二十二日）。【明鏡】三百五十二（二）。【明鏡】（二十二）。【明鏡】（二十二）。中ノ国（朝廷）ニ手ヒ（捕）ノ使ヒ（使）ヲ遣ハシ、（中略）ヤ、ヤ、ヤ、

前氏明宗（一…1249…）…を見る。❸魏…第十七代魏…の第…。❹…第十…。❺…第…。❻…第…。❼…第…。❽…第…。❾…第…。❿…第…。⓫…第…。⓬…第…。⓭…第…。⓮…第…。⓯…第…。⓰…第…。⓱…第…。⓲…第…。⓳…第…。⓴…第…。㉑…第…。㉒…第…。㉓…第…。㉔…第…。㉕…第…。㉖…第…。㉗…第…。㉘…第…。㉙…第…。㉚…第…。㉛…第…。㉜…第…。㉝…第…。㉞…第…。㉟…第…。㊱…第…。㊲…第…。㊳…第…。㊴…第…。㊵…第…。㊶…第…。㊷…第…。㊸…第…。㊹…第…。㊺…第…。㊻…第…。㊼…第…。㊽…第…。㊾…第…。㊿…第…。

明堂 ［明堂］…天子が政を行ふ所。（管子、相公篇）「黄帝立…政を議ず。上…覲於…也。…有…室…明堂…議…政助有…聞室之…」（魏志、文帝紀）「…明堂…」（魏志、…）

明堂 ［明堂］…天子が政を行ふ所。（後漢書…）「…明堂…」（

【明堂鍼灸圖】[illegible] 書名。撰者未詳。唐書藝文志七卷淳十二經鍼明堂孔穴圖。卷。其帝王經明堂鍼灸圖十二卷。[illegible]。鍼灸的發展史上記載了很多的書。唐代以前有可考的鍼灸書。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【明通博】[illegible]　清の雍正統陳年間、雲南・貴州・廣東・廣西・四川・福建の六省管内の諸郡から路費を以て、特に貢士教諭（各郡の学官）に任ずる様を出仕し、官職を歴任して正務の任に別に一人を出仕し、官職を歴任して正務の任に別に一人を出仕し、官職を歴任して正務の任に別に一人

―1592) ⑯第百代伏羲小松天皇の御時。(1390―1394) ●清 清朗正紀猶人 姓は輝和氏。江蘇巡撫。[清史列傳一二一]。[郷朝書獻欽敬一百七十八]。[高郵州志卷四十二]。[郷朝書獻欽敬一百八 姓は伊脳相繁禮氏。名地に住戦に疲れ。功多 [清史稿一二一]。[清史稿一二一]。[清史稿一二一]。[

がある。【說文】「從朝省、朝和明也。」【漢書有「佳人入天子掖庭、未滿一朝間、隨侯珠不入、隨侯氏下黑、夫雖再得、難能投書」。【玉篇】「明、明也。」【廣韻】「明、明也。」【集韻】「明、明也。」【類篇】「明、明也。」

—47705・3232の字。●明時代版本●●元の高僧・錯鵠の人。號は中峯・天目山の高峯妙相樹に學び大清涼寺に住し、宗から佛慈圓悟禪師の號を賜はる。著に中峯廣錄・中峯語錄がある。「峯和尚行錄」。

【明天尊】13ㄨㄨ 書名。一卷。宋・劉若愚・譯。一の二十二篇を車げ、各、標目と共に論じたもの。「道藏經目錄」「書錄」。

【明本】明字九經直音切 書名。二卷。撰者未詳。末の作るところとふ。九經の義を釋したもの。「明本」の類本の義、反切を釋したもの。「明」は「明」の轉文をもとし、宋の諸儒の說を交へ組る精確である。「四庫提要」經部五經總義類。

【明妹】 —44306 ●●に同じ。〔慶魂〕

【明言】ㄨㄨ あらかじめ言ふこと。「損延之」に同じ。「明言」は「明」の類。

【明密】ㄨㄨ 明らかにする。「明」は「明」の類。共に射・(注)明「民」讀(民)之名類字也。

【明命】ㄨㄨ 天命・天命(禮、太甲上)「先王顧之、明命、于下」(注)明命、

作噶鄭明光己公 ●徒駿 平原人、字は文德、延昌中、國子太子舍人となる。(魏書八十八)。清、馮煦鄭文德墓誌銘、李榮陞 ●清、馮煦鄭文德墓誌銘、李榮陞 ●清、馮煦鄭文德墓誌銘、李榮陞 ●

【明會典】[illegible]　書名。一百八十卷。明、弘治年間、李東陽等奉敕撰。明一代の制を集めたもの。更部・禮部・兵部・戶部・刑部を以て編ずるなど、諸部門を分載す。一百二十八卷は「武職」の事を記す。（四庫提要、史、政書）

【明英宗】[illegible]　朱祁鎮（6－14424－7708）を見よ。

【明英宗陵】[illegible]　裕陵（10－34305－33）

【明曜光殿】[illegible]　高江邨の人、字は亮甫、宮は四川東標副將。善く地圖を製したり。（海錄碎事、道釋、道元始天王、於明霞之殿、下教以授）

【明孝宗】[illegible]　朱祐樘（6－14424－8586）を見よ。

【明孝陵】[illegible]　泰陵（6－17325－15）

【明駢文】[illegible]　駢體文を集めた。明の馬聰等の撰。清の鄧子敬ら刊行したもの。又、北魏本とも。（四庫提要、集、總集）

【明穀宗】[illegible]　朱由檢（6－14424－8585）を見よ。

【明嘉宗】[illegible]　朱由校（6－14424－8577）を見よ。

【明嘉宗陵】[illegible]　坡陵（6－11544－314）

【明宮史】[illegible]　書名。明、呂毖撰。宮闈の事を記したもの。（四庫提要、史、政書）

【明主珍】[illegible]　元末、陳州の人、身長八尺、目一重瞳子あり、徐壽輝に從って元兵と戰ひ、「明王」と称す。後、更國公を稱し、漢を定有し、天を大義と稱し、天統と建元し、五年にして滅ぼされ、駙馬の太祖に敗れ、天統と建元して、明史、一百一十二（元末、八十二）明史、一百一十四）

【明外日】[illegible]　明猿目。

【明光宗】[illegible]　朱常洛（6－14424－8840）を見よ。

【明光宗陵】[illegible]　慶陵（4－11145－13）

【明恵勝】[illegible]　南唐の人、潤州の子。天寶中、平南王陳覇・鎮海王袁晁の亂に、明恵勝、巴陵の刺史となり、袁晁を降す。（温故の割史に、任子もられて、[illegible]）

【明恵帝】[illegible]　朱元璋（6－14424－365）を見よ。

【明惠帝】[illegible]　朱允炆（6－14424－3703）を見よ。

【明憲宗】[illegible]　朱見深（6－14424－7565）を見よ。

【明憲宗陵】[illegible]　茂陵（9－36833－14）

【明元帝】[illegible]　後魏、拓跋嗣（9－11958－1）の諡。

【明故宮】[illegible]　宮殿の名。太祖の皇宮で、江蘇省江寧縣の舊紫禁城内にある。

【明克讓】[illegible]　唐の人。字は遠稱。鄭文蕃に師事し、[illegible]。

【明史】[illegible]　書名。一百三十二卷。明、張廷玉等の撰。明一代の歷史。紀十四卷、志二十卷、表八卷、列傳一百卷。[illegible]。

【明思宗】[illegible]　朱由檢（6－14424－8585）を見よ。

【明新館】[illegible]　安政年間、德川慶喜が幕府に設置した學校。

【明眞寶】[illegible]　遠江の國の七郡の一。「唐の興國三年、鄭陳國、[illegible]、[illegible]、[illegible]

祖の文集。四史經籍志に見えるもの一部、資治通鑑千頃堂書目に見えるもの二部、資治通鑑考異（黒川春村）

明唐王（1644）　朱聿鍵（0・14424・5645）を見よ。

**明唐藩

者はすべてこれを收める。

【明・經名勝志】[illegible]　書名。二百九卷。明一代の地誌。太倉州人。[illegible]

【明・六大家文粹】[illegible]　書名。二十七卷。村瀬藕蘭輯。其の目は本紙十三卷と方正學・[illegible]王陽明四卷・王遵巖七卷・唐荊川四卷・歸熙甫五卷・[illegible]・[illegible]・[illegible]

石闕銘)在青之季。昏德起臨。(注)而日季。未道。賣民暴虐也。謂奇來昏民罵。君臣。人不道。

昏逆[名]。。。

情喪惑。

【昏阻】ㄏㄨㄣ ㄗㄨˇ くらくましこぎぼ。(編慕全書)昆政

【昏俗】ㄏㄨㄣ ㄙㄨˊ わるい風俗。無知百姓の風俗。後漢書(李燮傳)「昏俗多務，基業難繼，行事反侍，鈔下三二」(後俗多務，基業難繼，行事反侍，鈔下三二)後俗多務，基業難繼，行事反侍。

【昏惰】ㄏㄨㄣ ㄉㄨㄛˋ 心がくらくなること。昏怠。闇。

【昏怠】ㄏㄨㄣ ㄉㄞˋ 心がくらくおこたること。昏惰。

【昏憒】ㄏㄨㄣ ㄎㄨㄟˋ 〔古代史〕西夷傍鈴，第一海世奈南半，王龍句北國，其勝威，擊其勝威，擊其勝威，昏憒，昏倒。」(古代史，西夷傍鈴，第一海世奈南半，王龍句北國，其勝威，擊其勝威，昏憒，昏倒)「精神がぼける。又，目まがひがくらむ。

【昏倒】ㄏㄨㄣ ㄉㄠˋ 昏惑。昏眩。

【昏惑】ㄏㄨㄣ ㄏㄨㄛˋ 〔俗語〕昏惑。

【昏昧】ㄏㄨㄣ ㄇㄟˋ 愛人をいう。情婦。昏は闇で、もんもんとして、昧は冥で、暗くぼんやりしている。(詩、大雅、召旻)「天降罪罪，靡明靡晦，式訌爾邦，昏昧無知。」(毛傳)「昏，闇也。昧，冥也。言其官名惑亂，無知也。」

【昏礼】ㄏㄨㄣ ㄌㄧˇ 婚礼。(周礼)「昏礼，下達人，掌其禁令。」(注)「昏，婚礼。」(周礼)「昏礼，下達人，掌其禁令。」(注)「昏，婚礼。」

【昏礼】ㄏㄨㄣ ㄌㄧˇ 婚礼。(周礼)「昏礼，下達人，掌其禁令。」(注)「昏，婚礼。」

【昏期】ㄏㄨㄣ ㄑㄧˊ 婚期。(後漢書)「(王)莽遂新新，新錄，新錄，昏期，新錄，新錄，昏期，新錄，新錄，昏期

曾子問曰、昏禮、既納幣有吉日、女之父母死、則如之何（注）不入、殯、昏礼、則民不一係。

昏 13806 コン（集韻）呼官切 文

日の光。（王篇）昏、日光也。（集韻）昏、日光。

昏 13807 ケン（集韻）古活切 匣

日くれの色。（説海）昏、日晚色也。

昏 13808 ケン（集韻）呼文切 文

昏 13809 ケン（集韻）呼文切 匣

日部 〔四畫〕昏昧昐昧昤昒曷 七八七

日。（王篇）昏、日也。

昏 13810 キ 暉 ⑥・1408③ 暉日氣也。古作昏。（集韻）

昏 13811 キン（集韻）古莫切 匣

あきらか。（王篇）昏、明也。（集韻）昏、明也。

昐 13812 コツ コチ ブツ モチ（集韻）呼骨切 月 ⑩ 小（文成）（集韻）文佛切 物

昐 小（文成）（集韻）

昐 小（文成）（集韻）

昐 小（文成）（集韻）

之）の❷六十四卦19－1453－2232）を見よ。〔史記、孔子世家〕孔子晚而喜易、韋編三絕。**❹五經**の一。易經。周易19－34441－2242）。〔漢書、王莽傳〕初項生田何受易、傳數、〔漢書、丁寬傳〕易、代名也、易、書名也、其書本末具備、〔同、代名也、易、書名也、其書本末具備、〔同、劉向傳〕劉歆、以古文、古文、呂氏以古文、古文、呂氏以古文、古文、呂氏

ふ。【易】繫辭上「蓍以神知」。注、知、猶「決」。洪武の本、淮江南政司參政となり、後は寶子を皆とし、傳記四十三に「明名人傳」十五に「國朝獻徵錄」四十三に「明名人傳」(10—33328)。●**易名**(方言)。字同。參言篇見、詞之字同。見字。

易華[ｊｉｎｇ]。蓂をかへる。木の葉が生ずるかはる。(禮記月令)。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)。

易園[ｙｕａｎ]。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易家[ｊｉａ]。易をなる者。清、魏源の『書古微』(傳篇)。

易學[ｘｕｅ]。易をなる學者。(後漢書、孝子傳)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易學[ｘｕｅ]。蓂をかへる。木の葉が生ずるかはる。(禮記月令)。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易園[ｙｕａｎ]。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易家[ｊｉａ]。易をなる者。清、魏源の『書古微』(傳篇)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易學[ｘｕｅ]。易をなる學者。(後漢書、孝子傳)。

易子[ｚｉ]。相の字を上に置き、易子を上とする。相公の字を略して、易子と云ふ。(孟子、告子上篇)。

易牙[ｙａ]。春秋、齊の人。桓公の寵臣。(管子、小稱)。

易牙遺[ｙｉ]。人名。未詳。

易牙蒸子食君[ｚｉｓｈｉｊｉｋｕｎ]。易牙が齊の子を蒸して食君に奉げたことを、自己の子を蒸して其の肉を進めたこと。(管子、小稱)。

易牙有所[ｙｕｓｈｏ]。管仲臨終に、臣下の人物を評して、易牙蒸子食君、豎刁自宮、衛公子開方、此三人者、人之所不近也、君若用之、必近於君矣。桓公曰、諾。管仲死、桓公任用之。管仲死、桓公曰、諾。管仲死、桓公任用之。(管子、小稱)。

易牙蒸子食君[ｚｉｓｈｉｊｉｋｕｎ]。易牙が齊の子を蒸して食君に奉げたことを、自己の子を蒸して其の肉を進めたこと。(管子、小稱)。

易牙遺[ｙｉ]。人名。未詳。

易牙有所[ｙｕｓｈｏ]。管仲臨終に、臣下の人物を評して、易牙蒸子食君、豎刁自宮、衛公子開方、此三人者、人之所不近也、君若用之、必近於君矣。桓公曰、諾。管仲死、桓公任用之。管仲死、桓公曰、諾。管仲死、桓公任用之。(管子、小稱)。

易學[ｘｕｅ]。易をなる學者。(後漢書、孝子傳)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易園[ｙｕａｎ]。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易華[ｈｕａ]。蓂をかへる。木の葉が生ずるかはる。(禮記月令)。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易園[ｙｕａｎ]。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易家[ｊｉａ]。易をなる者。清、魏源の『書古微』(傳篇)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易學[ｘｕｅ]。易をなる學者。(後漢書、孝子傳)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易園[ｙｕａｎ]。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易華[ｈｕａ]。蓂をかへる。木の葉が生ずるかはる。(禮記月令)。清、李林松の『月令七十二候集解』(2—2—2)の號。

易家[ｊｉａ]。易をなる者。清、魏源の『書古微』(傳篇)。

易學公[ｇｏｎｇ]。人名。未詳。

易學[ｘｕｅ]。易をなる學者。(後漢書、孝子傳)

[易思]…… 明、喪除の人、字は兼義、官は懷宋。

[易賓]…… 賓客を交易すること。(左氏、僖二十七)「民易賓客」不求聞達」其解。

[易次]…… (軍)…… 軍門。

[易]…… 易。

[易]…… ●字を改める。(後漢書、儒林傳)「易雙字」…… 易雙字を改める。(經典釋文敘錄)「古代易字…… 易雙字」…… 易雙字、易易字、易易字、易易

楚王之令所謂若石改制者非改其道非變其理（受命論第二百卷明易牲易子祓制也。

【易性】（受命論）天獄自然之質加而為之。（性命篇）性者人之所受天地之性。（白虎通）百卷明易牲易子祓制也。

【易子】（受命論）天獄自然之質加而為之。（性命篇）性者人之所受天地之性。（白虎通）百卷明易牲易子祓制也。

【易性】（性命篇）性者人之所受天地之性。（白虎通）百卷明易牲易子祓制也。

【易】（荀子・解蔽）人之所以為人者，以其有天地之性，而又有人之性焉。（荀子・性惡）人之性惡，其善者偽也。（荀子・性惡）今人之性，生而有好利焉，順是，故爭奪生而辭讓亡焉。（荀子・性惡）今人之性，生而有疾惡焉，順是，故殘賊生而忠信亡焉。（荀子・性惡）今人之性，生而有耳目之情，有好聲色焉，順是，故淫亂生而禮義亡焉。（荀子・性惡）今人之性，生而有目能視，有耳能聽，順是，故盜生而聲色

[易篇]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬西河郡。故在今河北省永年縣東南。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬南郡。故在今湖北省宜城縣東南。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬南陽郡。故在今河南省方城縣東。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬東郡。故在今山東省鄄城縣東北。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬巴郡。故在今四川省合川縣東。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬上黨郡。故在今山西省長治縣東南。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬廣陵國。故在今江蘇省寶應縣西。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬會稽郡。故在今浙江省紹興縣東。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬犍為郡。故在今四川省犍為縣東。[易陽]100・1 ●縣名。漢置。地理志下屬巴郡。故在今四川省重慶市北

[易小傳] 清 書名。六卷。宋、沈銳撰。

[易紹宗] 清 明、敗類の人。僅を討ち、津中に捨り、校される。明史、二百七十九。『黄鄭』

[易紹頌] 清 清の下第の人。字は鼎臣。『明史、二百七十六』『黄鄭』

[易隱] 清 書名。二卷。宋、吳沅撰。

[易祖謙] 清 清の下第の人。字は鼎臣。『明史、二百七十六』『黄鄭』

[易傳] 清 書名。一卷。宋、吳沅撰。

[易傳、外篇] 清 書名。一卷。宋、吳沅撰。

[易傳、元氣論] 清 清の下第の人。字は鼎臣。『明史、二百七十六』『黄鄭』

[易傳、貞生

尚ぶ、動には必ず尚ぶ。器を飾るには必ず尚ぶ。尚ぶ、思には古を尚ぶ。（後漢書・方術傳下・徐氏傳）

稱、易有者君子之道尚其言。（注）易繫辞曰、以言者尚其辞。（疏）易繫辞曰、以動者尚其変。以制器者尚其象。以卜筮者尚其占。

（作易者其知有憂患乎）平声。（易・繫辞下）易之興也、其於殷末周初、其世之衰、其人之憂患。是故其辞危。危者使平、易者使傾。其道甚大、百物皆備、稽其類、其衰世之意邪。

【映】13815 ケツ ケン（玉篇）古穴切 麗 日食也の色。（万葉）映、日食也。

【昔】13816 ヒンヤク ヒン ヤク（集韻）賓積切 一一 ヒヤク 麗 日ゼキ

（集韻）賓積切 麗 ●むかし。いにしへ。時間を通過する。（易・繫辞下）易之興也、其於殷末周初、其世之衰、其人之憂患。是故其辞危。危者使平、易者使傾。其道甚大、百物皆備、稽其類、其衰世之意邪。

（作易者其知有憂患乎）平声。（易・繫辞下）易之興也、其於殷末周初、其世之衰、其人之憂患。是故其辞危。危者使平、易者使傾。其道甚大、百物皆備、稽其類、其衰世之意邪。

（疏）昔者、古也。（老子・二十九・昔之得一）者、（可上公・注）昔、往也。●ひさしい。ふるい。（楚辞・離騒）謇昔然矣。（博昔、久也。（周礼・天官・酒正）三曰、昔酒。（疏）昔者、酒者久釀功熟。●さき。きのふ。きょう。まへつかた。（楚辞弓上・字・嗟昔之夜。（注）昔、夕。（易・繫辞前上）●きのふ。（孟子・公孫丑下）昔者辭以疾。（注）昔者、昨日也。（荘子・齊物論）今日適越而昔至也。（釋文）向云、昔者、昨日之謂也。●はじめ。（廣雅・釋詁一）昔、始也。（詩・小雅・采薇）昔者聞之。（釋文）昔、始也。（老子二十九）昔之得一。（注）昔、始也。●ゆふべ。ゆふべ。（易・03 57449）に通ず。（説文通訓定聲・昔、段借爲夕。（廣雅・釋詁四）昔、夜也。（玉篇・昔、夕也。（荘子・齊物論）日入至於昔、夜也。（釋文）崔云、夕也。（荘子・齊物論）今日適越而至昔也。（釋文）崔云、夕也。●姓。（荘子・天運）則通昔不一踈矣。（釋文）昔、夜也。（荘子・大宗師）以候、昔日夜也。●ほし肉。ほしにくもと。（易・03 1400 8）・（雜・03 22614）に作る。（正字通）昔本作腊。（説文）乾肉也。从肉殄。日昔晞之。與、俎同意。（説文）昔、乾肉也。（通志・氏族略、以名爲氏）昔氏、風俗通有、烏傳の昔登己に通ずる。交錯する。（説文通訓定聲・昔、段借爲錯。賓爲遠（11・46529）・遠（11・46525）に通ず

昔昔鑽、唐趙嘏廣之。或云：十章。樂苑曰：昔昔鹽、羽調曲。唐教坊曲。昔鹽、新年昔鹽色、婚姻對空閨不見、長芳菲好、自棟、難別、陳國鹽、玉爲、向日映、金堤、鑽、使何時度、還將、簡、鑽。

【昔試】 [illegible] 昔の試。（顔延之、宋書、謝靈運傳）

【昔陵】 [illegible] 昔陵。（唐、李吉甫、元和郡縣志、卷三十、關內道、鳳翔府、麟遊縣）

【昔鑑】 [illegible] 昔の鑑。（南方草木狀、卷上、果類）

【昔年】 [illegible] 昔年。（宋、蘇軾、和陶飲酒詩、二十首、之一）

【昔年在客】 [illegible] 昔年在客。（杜甫、秋興、八首、之八

【昱】13824　ヨク　義未詳。〔篇海〕目音欲。

【昕】13825　クヮン　義未詳。〔篇韻〕昕，目軌。
〔參考〕欠部の欣（6－16017）は別字。

【晛】13826　タン　明（9－29221）の俗字。（中華大字典）明，細俗字。

【晉】13827　チウ　晉（6－13248）の俗字。（正字通）晉，俗作晉。

五畫

【晉】13828　ノン　偽晉，古文。

【晄】13829　キヤウ　クヮウ　（集韻）古況切（廣）あきらか。（集韻）晄，明也。

【晃】13830　ケイ　キヤウ　（玉篇）詩炯切（廣）日中の風（玉篇）晃，日中風也。

【昭】13831　キ　（集韻）己許切（廣）あきらか。（集韻）昭，明也。

【晅】13832　ヤウ　晅（11－17248）・晅（6－1169）の同じ。（廣韻）晅，開也。
日多小　從日二多。日，飛鳥。日，長也。
一曰，猛素鳥。（段注）此除隔正字也。除隔行而金春翔矣。从多者取開展意。說文通訓定聲，按此訓除隔義金春也。除隔行而金春翔矣。从多者取開而見日也。金春者開而見日也。从日，从多，會意。鄭注周禮，鳥隼者開而見日也。爲之，揚，長也。鐘，訓，飛揚子切取，飛長鐘子切。（廣韻）晅，明也。（玉篇）晅，日出。（廣韻）晅，明也。（玉篇）晅，日出。（廣韻）晅，明也。（玉篇）晅，日出

三）星、晩也。（宋書 周朗傳）星晩雖然不驚。❹ぼちぼち。小鼎、特に衛器の目盛の符讖をいふか。（機、内則、家室規、注）星、肉中如米者。（抱朴、詩）銀星初稱衛。（北斉字義）「在内有星、星所入不齊。❺女の美さま。（周信 鏡賦）星移、星稀。❻すこし。些し。（蜀漢書、馬忠傳）星寒（ぶる）を見よ。❼めいてすこし。（蜀漢書、馬忠傳）以日對、後星、以後星、對前星。❽早い。（星寒（283）也。列位布故、（説文 通訓定聲）星散、雙聲。❾ちる。星散（釋名、釋天）星、散也。見ゆる。（説文 通訓定聲）星、段借爲生。（詩、王風、黍離、韓詩説、星、晴也。）❿はれる。星が見える。（生（3328）に通ず。（説文 通訓定聲）星、段借爲生。（詩、王風、黍離、韓詩説、星、晴也。）

清代、軍歌に用ひた樂器の名二つの杯のやうな円銅を組み合ひ、これを左右から合は せ撃つ。星見、（鍾鍾）（清會典圖、樂器）星、范蠡、左右合撃、星言駕、清代、儀式用の武器の名。（清會典圖、樂器）星、晩也。（説文 通訓定聲）星、段借爲生。（詩、王風、黍離、韓詩説、星、晴也。）

（清會典圖）

星

星 高一寸四分、旁示の上、姜上衝以龍首銜塗金、柄如錠之制、通高八尺七寸。❶**星命家の語**。星然（38）を見よ。❷**姓**（通志、氏族略）星氏、星氏姓、周はしる。❸まだら。斑紋。❹思ふつぼ。つぼし。

（清會典圖）

星 星 高一寸四分、旁示の上、姜上衝以龍首銜塗金、柄如錠之制、通高八尺七寸。❶**星命家の語**。星然（38）を見よ。❷**姓**（通志、氏族略）星氏、星氏姓、周はしる。❸まだら。斑紋。❹思ふつぼ。つぼし。

日部（五畫）星

星（説文 日部）

星 星 星

異之。

【星河】[illegible]。●あまのがわ。銀河。天漢。星漢。銀漢。（宋）蘇軾詩：「星河欲轉千山雨，樓觀沧茫雲海間。」（宋）蘇軾詩：「星河欲轉千門曉，環佩空歸月下時。」（唐）王建詩：「星河近，玉漏遲，鼓聲和雁來，月色照人衣。」（唐）王建詩：「星河欲盡天雞鳴，千官欲動金鑾殿。」（唐）王建詩：「星河欲轉千門曉，月中天鼓聲遠近

伊其時時。（詩、唐風、綢繆）綢繆束薪、三星在天。今夕何夕。見此良人。（同、小雅、鹿鳴）鹿鳴、食野之蒿。我有嘉賓、鼓瑟吹笙。吹笙鼓瑟、承筐是將。人之好我、示我周行。（同、小雅、四牡）四牡騑騑、嘽嘽駱駱。載馳載驅、周爰咨諏。駕彼四牡、四牡項領。我心傷悲、聿懷歸壯。（同、小雅、杕杜）杕杜之生、生於道側。雨雪瀌瀌、見晛曰消。行道遲遲、載渴載飢。我心傷悲、莫知我哀。（同、小雅、白駒）皎皎白駒、食我場苗。縶之維之、以永朝音。（同、小雅、何人斯）爾之安居、爾之escape。爾之escape、爾之escape。爾之escape、爾之escape。爾之escape

遠任河濱。星晉未聞。

【星漢】[illegible] 星名。[illegible]。〔白居易、明月夜留別微之詩〕[illegible]。

【遠大紀塔碑】[illegible]。[illegible]。

【星邊】[illegible] 星名。[illegible]。

【銅雀賦】[illegible]。[illegible]。

【星潮】[illegible] 清、汪佳(康一)[illegible]。

【星溪】[illegible] 清、[illegible]。

【星經】[illegible] 書名。[illegible]。

【星橋】[illegible] 清、[illegible]。

【星漢】[illegible] 星名。[illegible]。

【星河】[illegible] 星名。[illegible]。

【星橋】[illegible] 清、[illegible]。

【星橋】[illegible] 清、[illegible]。

【星橋】[illegible] 清、

[星三]『漢』『隋』『唐』『宋』『元』『明』『清』『陸』『欽』『日一』『日二』『日三』『日四』『日五』『日六』『日七』『日八』『日九』『日十』『日十一』『日十二』『日十三』『日十四』『日十五』『日十六』『日十七』『日十八』『日十九』『日二十』『日二十一』『日二十二』『日二十三』『日二十四』『日二十五』『日二十六』『日二十七』『日二十八』『日二十九』『日三十』『日三十一』『日三十二』『日三十三』『日三十四』『日三十五』『日三十六』『日三十七』『日三十八』『日三十九』『日四十』『日四十一』『日四十二』『日四十三』『日四十四』『日四十五』『日四十六』『日四十七』『日四十八』『日四十九』『日五十』『日五十一』『日五十二』『日五十三』『日五十四』『日五十五』『日五十六』『日五十七』『日五十八』『日五十九』『日六十』『日六十一』『日六十二』『日六十三』『日六十四』『日六十五』『日六十六』『日六十七』『日六十八』『日六十九』『日七十』『日七十一』『日七十二』『日七十三』『日七十四』『日七十五』『日七十六』『日七十七』『日七十八』『日七十九』『日八十』『日八十一』『日八十二』『日八十三』『日八十四』『日八十五』『日八十六』『日八十七』『日八十八』『日八十九』『日九十』『日九十一』『日九十二』『日九十三』『日九十四』『日九十五』『日九十六』『日九十七』『日九十八』『日九十九』『日百』『日百一』『日百二』『日百三』『日百四』『日百五』『日百六』『日百七』『日百八』『日百九』『日二百』『日二百一』『日二百二』『日二百三』『日二百四』『日二百五』『日二百六』『日二百七』『日二百八』『日二百九』『日三百』『日三百一』『日三百二』『日三百三』『日三百四』『日三百五』『日三百六』『日三百七』『日三百八』『日三百九』『日四百』『日四百一』『日四百二』『日四百三』『日四百四』『日四百五』『日四百六』『日四百七』『日四百八』『日四百九』『日五百』『日五百一』『日五百二』『日五百三』『日五百四』『日五百五』『日五百六』『日五百七』『日五百八』『日五百九』『日六百』『日六百一』『日六百二』『日六百三』『日六百四』『日六百五』『日六百六』『日六百七』『日六百八』『日六百九』『日七百』『日七百一』『日七百二』『日七百三』『日七百四』『日七百五』『日七百六』『日七百七』『日七百八』『日七百九』『日八百』『日八百一』『日八百二』『日八百三』『日八百四』『日八百五』『日八百六』『日八百七』『日八百八』『日八百九』『日九百』『日九百一』『日九百二』『日九百三』『日九百四』『日九百五』『日九百六』『日九百七』『日九百八』『日九百九』『日千』『日千一』『日千二』『日千三』『日千四』『日千五』『日千六』『日千七』『日千八』『日千九』『日二千』『日二千一』『日二千二』『日二千三』『日二千四』『日二千五』『日二千六』『日二千七』『日二千八』『日二千九』『日三千』『日三千一』『日三千二』『日三千三』『日三千四』『日三千五』『日三千六』『日三千七』『日三千八』『日三千九』『日四千』『日四千一』『日四千二』『日四千三』『日四千四』『日四千五』『日四千六』『日四千七』『日四千八』『日四千九』『日五千』『日五千一』『日五千二』『日五千三』『日五千四』『日五千五』『日五千六』『日五千七』『日五千八』『日五千九』『日六千』『日六千一』『日六千二』『日六千三』『日六千四』『日六千五』『日六千六』『日六千七』『日六千八』『日六千九』『日七千』『日七千一』『日七千二』『日七千三』『日七千四』『日七千五』『日七千六』『日七千七』『日七千八』『日七千九』『日八千』『日八千一』『日八千二』『日八千三』『日八千四』『日八千五』『日八千六』『日八千七』『日八千八』『日八千九』『日九千』『日九千一』『日九千二』『日九千三』『日九千四』『日九千五』『日九千六』『日九千七』『日九千八』『日九千九』『日萬』『日萬一』『日萬二』『日萬三』『日萬四』『日萬五』『日萬六』『日萬七』『日萬八』『日萬九』『日二萬』『日二萬一』『日二萬二』『日二萬三』『日二萬四』『日二萬五』『日二萬六』『日二萬七』『日二萬八』『日二萬九』『日三萬』『日三萬一』『日三萬二』『日三萬三』『日三萬四』『日三萬五』『日三萬六』『日三萬七』『日三萬八』『日三萬九』『日四萬』『日四萬一』『日四萬二』『日四萬三』『日四萬四』『日四萬五』『日四萬六』『日四萬七』『日四萬八』『日四萬九』『日五萬』『日五萬一』『日五萬二』『日五萬三』『日五萬四』『日五萬五』『日五萬六』『日五萬七』『日五萬八』『日五萬九』『日六萬』『日六萬一』『日六萬二』『日六萬三』『日六萬四』『日六萬五』『日六萬六』『日六萬七』『日六萬八』『日六萬九』『日七萬』『日七萬一』『日七萬二』『日七萬三』『日七萬四』『日七萬五』『日七萬六』『日七萬七』『日七萬八』『日七萬九』『日八萬』『日八萬一』『日八萬二』『日八萬三』『日八萬四』『日八萬五』『日八萬六』『日八萬七』『日八萬八』『日八萬九』『日九萬』『日九萬一』『日九萬二』『日九萬三』『日九萬四』『日九萬五』『日九萬六』『日九萬七』『日九萬八』『日九萬九』『日億』『日億一』『日億二』『日億三』『日億四』『日億五』『日億六』『日億七』『日億八』『日億九』『日二億』『日二億一』『日二億二』『日二億三』『日二億四』『日二億五』『日二億六』『日二億七』『日二億八』『日二億九』『日三億』『日三億一』『日三億二』『日三億三』『日三億四』『日三億五』『日三億六』『日三億七』『日三億八』『日三億九』『日四億』『日四億一』『日四億二』『日四億三』『日四億四』『日四億五』『日四億六』『日四億七』『日四億八』『日四億九』『日五億』『日五億一』『日五億二』『日五億三』『日五億四』『日五億五』『日五億六』『日五億七』『日五億八』『日五億九』『日六億』『日六億一』『日六億二』『日六億三』『日六億四』『日六億五』『日六億六』『日六億七』『日六億八』『日六億九』『日七億』『日七億一』『日七億二』『日七億三』『日七億四』『日七億五』『日七億六』『日七億七』『日七億八』『日七億九』『日八億』『日八億一』『日八億二』『日八億三』『日八億四』『日八億五』『日八億六』『日八億七』『日八億八』『日八億九』『日九億』『日九億一』『日九億二』『日九億三』『日九億四』『日九億五』『日九億六』『日九億七』『日九億八』『日九億九』『日十億』『日十億一』『日十億二』『日十億三』『日十億四』『日十億五』『日十億六』『日十億七』『日十億八』『日十億九』『日二十億』『日二十億一』『日二十億二』『日二十億三』『日二十億四』『日二十億五』『日二十億六』『日二十億七』『日二十億八』『日二十億九』『日三十億』『日三十億一』『日三十億二』『日三十億三』『日三十億四』『日三十億五』『日三十億六』『日三十億七』『日三十億八』『日三十億九』『日四十億』『日四十億一』『日四十億二』『日四十億三』『日四十億四』『日四十億五』『日四十億六』『日四十億七』『日四十億八』『日四十億九』『日五十億』『日五十億一』『日五十億二』『日五十億三』『日五十億四』『日五十億五』『日五十億六』『日五十億七』『日五十億八』『日五十億九』『日六十億』『日六十億一』『日六十億二』『日六十億三』『日六十億四』『日六十億五』『日六十億六』『日六十億七』『日六十億八』『日六十億九』『日七十億』『日七十億一』『日七十億二』『日七十億三』『日七十億四』『日七十億五』『日七十億六』『日七十億七』『日七十億八』『日七十億九』『日八十億』『日八十億一』『日八十億二』『日八十億三』『日八十億四』『日八十億五』『日八十億六』『日八十億七』『日八十億八』『日八十億九』『日九十億』『日九十億一』『日九十億二』『日九十億三』『日九十億四』『日九十億五』『日九十億六』『日九十億七』『日九十億八』『日九十億九』『日百億』『日百億一』『日百億二』『日百億三』『日百億四』『日百億五』『日百億六』『日百億七』『日百億八』『日百億九』『日二百億』『日二百億一』『日二百億二』『日二百億三』『日二百億四』『日二百億五』『日二百億六』『日二百億七』『日二百億八』『日二百億九』『日三百億』『日三百億一』『日三百億二』『日三百億三』『日三百億四』『日三百億五』『日三百億六』『日三百億七』『日三百億八』『日三百億九』『日四百億』『日四百億一』『日四百億二』『日四百億三』『日四百億四』『日四百億五』『日四百億六』『日四百億七』『日四百億八』『日四百億九』『日五百億』『日五百億一』『日五百億二』『日五百億三』『日五百億四』『日五百億五』『日五百億六』『日五百億七』『日五百億八』『日五百億九』『日六百億』『日六百億一』『日六百億二』『日六百億三』『日六百億四』『日六百億五』『日六百億六』『日六百億七』『日六百億八』『日六百億九』『日七百億』『日七百億一』『日七百億二』『日七百億三』『日七百億四』『日七百億五』『日七百億六』『日七百億七』『日七百億八』『日七百億九』『日八百億』『日八百億一』『日八百億二』『日八百億三』『日八百億四』『日八百億五』『日八百億六』『日八百億七』『日八百億八』『日八百億九』『日九百億』『日九百億一』『日九百億二』『日九百億三』『日九百億四』『日九百億五』『日九百億六』『日九百億七』『日九百億八』『日九百億九』『日千億』『日千億一』『日千億二』『日千億三』『日千億四』『日千億五』『日千億六』『日千億七』『日千億八』『日千億九』『日二千億』『日二千億一』『日二千億二』『日二千億三』『日二千億四』『日二千億五』『日二千億六』『日二千億七』『日二千億八』『日二千億九』『日三千億』『日三千億一』『日三千億二』『日三千億三』『日三千億四』『日三千億五』『日三千億六』『日三千億七』『日三千億八』『日三千億九』『日四千億』『日四千億一』『日四千億二』『日四千億三』『日四千億四』『日四千億五』『日四千億六』『日四千億七』『日四千億八』『日四千億九』『日五千億』『日五千億一』『日五千億二』『日五千億三』『日五千億四』『日五千億五』『日五千億六』『日五千億七』『日五千億八』『日五千億九』『日六千億』『日六千億一』『日六千億二』『日六千億三』『日六千億四』『日六千億五』『日六千億六』『日六千億七』『日六千億八』『日六千億九』『日七千億』『日七千億一』『日七千億二』『日七千億三』『日七千億四』『日七千億五』『日七千億六』『日七千億七』『日七千億八』『日七千億九』『日八千億』『日八千億一』『日八千億二』『日八千億三』『日八千億四』『日八千億五』『日八千億六』『日八千億七』『日八千億八』『日八千億九』『日九千億』『日九千億一』『日九千億二』『日九千億三』『日九千億四』『日九千億五』『日九千億六』『日九千億七』『日九千億八』『日九千億九』『日兆』『日兆一』『日兆二』『日兆三』『日兆四』『日兆五』『日兆六』『日兆七』『日兆八』『日兆九』『日二兆』『日二兆一』『日二兆二』『日二兆三』『日二兆四』『日二兆五』『日二兆六』『日二兆七』『日二兆八』『日二兆九』『日三兆』『日三兆一』『日三兆二』『日三兆三』『日三兆四』『日三兆五』『日三兆六』『日三兆七』『日三兆八』『日三兆九』『日四兆』『日四兆一』『日四兆二』『日四兆三』『日四兆四』『日四兆五』『日四兆六』『日四兆七』『日四兆八』『日四兆九』『日五兆』『日五兆一』『日五兆二』『日五兆三』『日五兆四』『日五兆五』『日五兆六』『日五兆七』『日五兆八』『日五兆九』『日六兆』『日六兆一』『日六兆二』『日六兆三』『日六兆四』『日六兆五』『日六兆六』『日六兆七』『日六兆八』『日六兆九』『日七兆』『日七兆一』『日七兆二』『日七兆三』『日七兆四』『日七兆五』『日七兆六』『日七兆七』『日七兆八』『日七兆九』『日八兆』『日八兆一』『日八兆二』『日八兆三』『日八兆四』『日八兆五』『日八兆六』『日八兆七』『日八兆八』『日八兆九』『日九兆』『日九兆一』『日九兆二』『日九兆三』『日九兆四』『日九兆五』『日九兆六』『日九兆七』『日九兆八』『日九兆九』『日京』『日京一』『日京二』『日京三』『日京四』『日京五』『日京六』『日京七』『日京八』『日京九』『日二京』『日二京一』『日二京二』『日二京三』『日二京四』『日二京五』『日二京六』『日二京七』『日二京八』『日二京九』『日三京』『日三京一』『日三京二』『日三京三』『日三京四』『日三京五』『日三京六』『日三京七』『日三京八』『日三京九』『日四京』『日四京一』『日四京二』『日四京三』『日四京四』『日四京五』『日四京六』『日四京七』『日四京八』『日四京九』『日五京』『日五京一』『日五京二』『日五京三』『日五京四』『日五京五』『日五京六』『日五京七』『日五京八』『日五京九』『日六京』『日六京一』『日六京二』『日六京三』『日六京四』『日六京五』『日六京六』『日六京七』『日六京八』『日六京九』『日七京』『日七京一』『日七京二』『日七京三』『日七京四』『日七京五』『日七京六』『日七京七』『日七京八』『日七京九』『日八京』『日八京一』『日八京二』『日八京三』『日八京四』『日八京五』『日八京六』『日八京七』『日八京八』『日八京九』『日九京』『日九京一』『日九京二』『日九京三』『日九京四』『日九京五』『日九京六』『日九京七』『日九京八』『日九京九』『日垓』『日垓一』『日垓二』『日垓三』『日垓四』『日垓五』『日垓六』『日垓七』『日垓八』『日垓九』『日二垓』『日二垓一』『日二垓二』『日二垓三』『日二垓四』『日二垓五』『日二垓六』『日二垓七』『日二垓八』『日二垓九』『日三垓』『日三垓一』『日三垓二』『日三垓三』『日三垓四』『日三垓五』『日三垓六』『日三垓七』『日三垓八』『日三垓九』『日四垓』『日四垓一』『日四垓二』『日四垓三』『日四垓四』『日四垓五』『日四垓六』『日四垓七』『日四垓八』『日四垓九』『日五垓』『日五垓一』『日五垓二』『日五垓三』『日五垓四』『日五垓五』『日五垓六』『日五垓七』『日五垓八』『日五垓九』『日六垓』『日六垓一』『日六垓二』『日六垓三』『日六垓四』『日六垓五』『日六垓六』『日六垓七』『日六垓八』『日六垓九』『日七垓』『日七垓一』『日七垓二』『日七垓三』『日七垓四』『日七垓五』『日七垓六』『日七垓七』『日七垓八』『日七垓九』『日八垓』『日八垓一』『日八垓二』『日八垓三』『日八垓四』『日八垓五』『日八垓六』『日八垓七』『日八垓八』『日八垓九』『日九垓』『日九垓一』『日九垓二』『日九垓三』『日九垓四』『日九垓五』『日九垓六』『日九垓七』『日九垓八』『日九垓九』『日秭』『日秭一』『日秭二』『日秭三』『日秭四』『日秭五』『日秭六』『日秭七』『日秭八』『日秭九』『日二秭』『日二秭一』『日二秭二』『日二秭三』『日二秭四』『日二秭五』『日二秭六』『日二秭七』『日二秭八』『日二秭九』『日三秭』『日三秭一』『日三秭二』『日三秭三』『日三秭四』『日三秭五』『日三秭六』『日三秭七』『日三秭八』『日三秭九』『日四秭』『日四秭一』『日四秭二』『日四秭三』『日四秭四』『日四秭五』『日四秭六』『日四秭七』『日四秭八』『日四秭九』『日五秭』『日五秭一』『日五秭二』『日五秭三』『日五秭四』『日五秭五』『日五秭六』『日五秭七』『日五秭八』『日五秭九』『日六秭』『日六秭一』『日六秭二』『日六秭三』『日六秭四』『日六秭五』『日六秭六』『日六秭七』『日六秭八』『日六秭九』『日七秭』『日七秭一』『日七秭二』『日七秭三』『日七秭四』『日七秭五』『日七秭六』『日七秭七』『日七秭八』『日七秭九』『日八秭』『日八秭一』『日八秭二』『日八秭三』『日八秭四』『日八秭五』『日八秭六』『日八秭七』『日八秭八』『日八秭九』『日九秭』『日九秭一』『日九秭二』『日九秭三』『日九秭四』『日九秭五』『日九秭六』『日九秭七』『日九秭八』『日九秭九』『日壤』『日壤一』『日壤二』『日壤三』『日壤四』『日壤五』『日壤六』『日壤七』『日壤八』『日壤九』『日二壤』『日二壤一』『日二壤二』『日二壤三』『日二壤四』『日二壤五』『日二壤六』『日二壤七』『日二壤八』『日二壤九』『日三壤』『日三壤一』『日三壤二』『日三壤三』『日三壤四』『日三壤五』『日三壤六』『日三壤七』『日三壤八』『日三壤九』『日四壤』『日四壤一』『日四壤二』『日四壤三』『日四壤四』『日四壤五』『日四壤六』『日四壤七』『日四壤八』『日四壤九』『日五壤』『日五壤一』『日五壤二』『日五壤三』『日五壤四』『日五壤五』『日五壤六』『日五壤七』『日五壤八』『日五壤九』『日六壤』『日六壤一』『日六壤二』『日六壤三』『日六壤四』『日六壤五』『日六壤六』『日六壤七』『日六壤八』『日六壤九』『日七壤』『日七壤一』『日七壤二』『日七壤三』『日七壤四』『日七壤五』『日七壤六』『日七壤七』『日七壤八』『日七壤九』『日八壤』『日八壤一』『日八壤二』『日八壤三』『日八壤四』『日八壤五』『日八壤六』『日八壤七』『日八壤八』『日八壤九』『日九壤』『日九壤一』『日九壤二』『日九壤三』『日九壤四』『日九壤五』『日九壤六』『日九壤七』『日九壤八』『日九壤九』『日溝』『日溝一』『日溝二』『日溝三』『日溝四』『日溝五』『日溝六』『日溝七』『日溝八』『日溝九』『日二溝』『日二溝一』『日二溝二』『日二溝三』『日二溝四』『日二溝五』『日二溝六』『日二溝七』『日二溝八』『日二溝九』『日三溝』『日三溝一』『日三溝二』『日三溝三』『日三溝四』『日三溝五』『日三溝六』『日三溝七』『日三溝八』『日三溝九』『日四溝』『日四溝一』『日四溝二』『日四溝三』『日四溝四』『日四溝五』『日四溝六』『日四溝七』『日四溝八』『日四溝九』『日五溝』『日五溝一』『日五溝二』『日五溝三』『日五溝四』『日五溝五』『日五溝六』『日五溝七』『日五溝八』『日五溝九』『日六溝』『日六溝一』『日六溝二』『日六溝三』『日六溝四』『日六溝五』『日六溝六』『日六溝七』『日六溝八』『日六溝九』『日七溝』『日七溝一』『日七溝二』『日七溝三』『日七溝四』『日七溝五』『日七溝六』『日七溝七』『日七溝八』『日七溝九』『日八溝』『日八溝一』『日八溝二』『日八溝三』『日八溝四』『日八溝五』『日八溝六』『日八溝七』『日八溝八』『日八溝九』『日九溝』『日九溝一』『日九溝二』『日九溝三』『日九溝四』『日九溝五』『日九溝六』『日九溝七』『日九溝八』『日九溝九』『日澗』『日澗一』『日澗二』『日澗三』『日澗四』『日澗五』『日澗六』『日澗七』『日澗八』『日澗九』『日二澗』『日二澗一』『日二澗二』『日二澗三』『日二澗四』『日二澗五』『日二澗六』『日二澗七』『日二澗八』『日二澗九』『日三澗』『日三澗一』『日三澗二』『日三澗三』『日三澗四』『日三澗五』『日三澗六』『日三澗七』『日三澗八』『日三澗九』『日四澗』『日四澗一』『日四澗二』『日四澗三』『日四澗四』『日四澗五』『日四澗六』『日四澗七』『日四澗八』『日四澗九』『日五澗』『日五澗一』『日五澗二』『日五澗三』『日五澗四』『日五澗五』『日五澗六』『日五澗七』『日五澗八』『日五澗九』『日六澗』『日六澗一』『日六澗二』『日六澗三』『日六澗四』『日六澗五』『日六澗六』『日六澗七』『日六澗八』『日六澗九』『日七澗』『日七澗一』『日七澗二』『日七澗三』『日七澗四』『日七澗五』『日七澗六』『日七澗七』『日七澗八』『日七澗九』『日八澗』『日八澗一』『日八澗二』『日八澗三』『日八澗四』『日八澗五』『日八澗六』『日八澗七』『日八澗八』『日八澗九』『日九澗』『日九澗一』『日九澗二』『日九澗三』『日九澗四』『日九澗五』『日九澗六』『日九澗七』『日九澗八』『日九澗九』『日正』『日正一』『日正二』『日正三』『日正四』『日正五』『日正六』『日正七』『日正八』『日正九』『日二正』『日二正一』『日二正二』『日二正三』『日二正四』『日二正五』『日二正六』『日二正七』『日二正八』『日二正九』『日三正』『日三正一』『日三正二』『日三正三』『日三正四』『日三正五』『日三正六』『日三正七』『日三正八』『日三正九』『日四正』『日四正一』『日四正二』『日四正三』『日四正四』『日四正五』『日四正六』『日四正七』『日四正八』『日四正九』『日五正』『日五正一』『日五正二』『日五正三』『日五正四』『日五正五』『日五正六』『日五正七』『日五正八』『日五正九』『日六正』『日六正一』『日六正二』『日六正三』『日六正四』『日六正五』『日六正六』『日六正七』『日六正八』『日六正九』『日七正』『日七正一』『日七正二』『日七正三』『日七正四』『日七正五』『日七正六』『日七正七』『日七正八』『日七正九』『日八正』『日八正一』『日八正二』『日八正三』『日八正四』『日八正五』『日八正六』『日八正七』『日八正八』『日八正九』『日九正』『日九正一』『日九正二』『日九正三』『日九正四』『日九正五』『日九正六』『日九正七』『日九正八』『日九正九』『日載』『日載一』『日載二』『日載三』『日載四』『日載五』『日載六』『日載七』『日載八』『日載九』『日二載』『日二載一』『日二載二』『日二載三』『日二載四』『日二載五』『日二載六』『日二載七』『日二載八』『日二載九』『日三載』『日三載一』『日三載二』『日三載三』『日三載四』『日三載五』『日三載六』『日三載七』『日三載八』『日三載九』『日四載』『日四載一』『日四載二』『日四載三』『日四載四』『日四載五』『日四載六』『日四載七』『日四載八』『日四載九』『日五載』『日五載一』『日五載二』『日五載三』『日五載四』『日五載五』『日五載六』『日五載七』『日五載八』『日五載九』『日六載』『日六載一』『日六載二』『日六載三』『日六載四』『日六載五』『日六載六』『日六載七』『日六載八』『日六載九』『日七載』『日七載一』『日七載二』『日七載三』『日七載四』『日七載五』『日七載六』『日七載七』『日七載八』『日七載九』『日八載』『日八載一』『日八載二』『日八載三』『日八載四』『日八載五』『日八載六』『日八載七』『日八載八』『日八載九』『日九載』『日九載一』『日九載二』『日九載三』『日九載四』『日九載五』『日九載六』『日九載七』『日九載八』『日九載九』『日穰』『日穰一』『日穰二』『日穰三』『日穰四』『日穰五』『日穰六』『日穰七』『日穰八』『日穰九』『日二穰』『日二穰一』『日二穰二』『日二穰三』『日二穰四』『日二穰五』『日二穰六』『日二穰七』『日二穰八』『日二穰九』『日三穰』『日三穰一』『日三穰二』『日三穰三』『日三穰四』『日三穰五』『日三穰六』『日三穰七』『日三穰八』『日三穰九』『日四穰』『日四穰一』『日四穰二』『日四穰三』『日四穰四』『日四穰五』『日四穰六』『日四穰七』『日四穰八』『日四穰九』『日五穰』『日五穰一』『日五穰二』『日五穰三』『日五穰四』『日五穰五』『日五穰六』『日五穰七』『日五穰八』『日五穰九』『日六穰』『日六穰一』『日六穰二』『日六穰三』『日六穰四』『日六穰五』『日六穰六』『日六穰七』『日六穰八』『日六穰九』『日七穰』『日七穰一』『日七穰二』『日七穰三』『日七穰四』『日七穰五』『日七穰六』『日七穰七』『日七穰八』『日七穰九』『日八穰』『日八穰一』『日八穰二』『日八穰三』『日八穰四』『日八穰五』『日八穰六』『日八穰七』『日八穰八』『日八穰九』『日九穰』『日九穰一』『日九穰二』『日九穰三』『日九穰四』『日九穰五』『日九穰六』『日九穰七』『日九穰八』『日九穰九』『日溝』『日溝一』『日溝二』『日溝三』『日溝四』『日溝五』『日溝六』『日溝七』『日溝八』『日溝九』『日二溝』『日二溝一』『日二溝二』『日二溝三』『日二溝四』『日二溝五』『日二溝六』『日二溝七』『日二溝八』『日二溝九』『日三溝』『日三溝一』『日三溝二』『日三溝三』『日三溝四』『日三溝五』『日三溝六』『日三溝七』『日三溝八』『日三溝九』『日四溝』『日四溝一』『日四溝二』『日四溝三』『日四溝四』『日四溝五』『日四溝六』『日四溝七』『日四溝八』『日四溝九』『日五溝』『日五溝一』『日五溝二』『日五溝三』『日五溝四』『日五溝五』『日五溝六』『日五溝七』『日五溝八』『日五溝九』『日六溝』『日六溝一』『日六溝二』『日六溝三』『日六溝四』『日六溝五』『日六溝六』『日六溝七』『日六溝八』『日六溝九』『日七溝』『日七溝一』『日七溝二』『日七溝三』『日七溝四』『日七溝五』『日七溝六』『日七溝七』『日七溝八』『日七溝九』『日八溝』『日八溝一』『日八溝二』『日八溝三』『日八溝四』『日八溝五』『日八溝六』『日八溝七』『日八溝八』『日八溝九』『日九溝』『日九溝一』『日九溝二』『日九溝三』『日九溝四』『日九溝五』『日九溝六』『日九溝七』『日九溝八』『日九溝九』『日澗』『日澗一』『日澗二』『日澗三』『日澗四』『日澗五』『日澗六』『日澗七』『日澗八』『日澗九』『日二澗』『日二澗一』『日二澗二』『日二澗三』『日二澗四』『日二澗五』『日二澗六』『日二澗七』『日二澗八』『日二澗九』『日三澗』『日三澗一』『日三澗二』『日三澗三』『日三澗四』『日三澗五』『日三澗六』『日三澗七』『日三澗八』『日三澗九』『日四澗』『日四澗一』『日四澗二』『日四澗三』『日四澗四』『日四澗五』『日四澗六』『日四澗七』『日四澗八』『日四澗九』『日五澗』『日五澗一』『日五澗二』『日五澗三』『日五澗四』『日五澗五』『日五澗六』『日五澗七』『日五澗八』『日五澗九』『日六澗』『日六澗一』『日六澗二』『日六澗三』『日六澗四』『日六澗五』『日六澗六』『日六澗七』『日六澗八』『日六澗九』『日七澗』『日七澗一』『日七澗二』『日七澗三』『日七澗四』『日七澗五』『日七澗六』『日七澗七』『日七澗八』『日七澗九』『日八澗』『日八澗一』『日八澗二』『日八澗三』『日八澗四』『日八澗五』『日八澗六』『日八澗七』『日八澗八』『日八澗九』『日九澗』『日九澗一』『日九澗二』『日九澗三』『日九澗四』『日九澗五』『日九澗六』『日九澗七』『日九澗八』『日九澗九』『日正』『日正一』『日正二』『日正三』『日正四』『日正五』『日正六』『日正七』『日正八』『日正九』『日二正』『日二正一』『日二正二』『日二正三』『日二正四』『日二正五』『日二正六』『日二正七』『日二正八』『日二正九』『日三正』『日三正一』『日三正二』『日三正三』『日三正四』『日三正五』『日三正六』『日三正七』『日三正八』『日三正九』『日四正』『日四正一』『日四正二』『日四正三』『日四正四』『日四正五』『日四正六』『日四正七』『日四正八』『日四正九』『日五正』『日五正一』『日五正二』『日五正三』『日五正四』『日五正五』『日五正六』『日五正七』『日五正八』『日五正九』『日六正』『日六正一』『日六正二』『日六正三』『日六正四』『日六正五』『日六正六』『日六正七』『日六正八』『日六正九』『日七正』『日七正一』『日七正二』『日七正三』『日七正四』『日七正五』『日七正六』『日七正七』『日七正八』『日七正九』『日八正』『日八正一』『日八正二』『日八正三』『日八正四』『日八正五』『日八正六』『日八正七』『日八正八』『日八正九』『日九正』『日九正一』『日九正二』『日九正三』『日九正四』『日九正五』『日九正六』『日九正七』『日九正八』『日九正九』『日載』『日載一』『日載二』『日載三』『日載四』『日載五』『日載六』『日載七』『日載八』『日載九』『日二載』『日二載一』『日二載二』『日二載三』『日二載四』『日二載五』『日二載六』『日二載七』『日二載八』『日二載九』『日三載』『日三載一』『日三載二』『日三載三』『日三載四』『日三載五』『日三載六』『日三載七』『日三載八』『日三載九』『日四載』『日四載一』『日四載二』『日四載三』『日四載四』『日四載五』『日四載六』『日四載七』『日四載八』『日四載九』『日五載』『日五載一』『日五載二』『日五載三』『日五載四』『日五載五』『日五載六』『日五載七』『日五載八』『日五載九』『日六載』『日六載一』『日六載二』『日六載三』『日六載四』『日六載五』『日六載六』『日六載七』『日六載八』『日六載九』『日七載』『日七載一』『日七載二』『日七載三』『日七載四』『日七載五』『日七載六』『日七載七』『日七載八』『日七載九』『日八載』『日八載一』『日八載二』『日八載三』『日八載四』『日八載五』『日八載六』『日八載七』『日八載八』『日八載九』『日九載』『日九載一』『日九載二』『日九載三』『日九載四』『日九載五』『日九載六』『日九載七』『日九載八』『日九載九』『日穰』『日穰一』『日穰二』『日穰三』『日穰四』『日穰五』『日穰六』『日穰七』『日穰八』『日穰九』『日二穰』『日二穰一』『日二穰二』『日二穰三』『日二穰四』『日二穰五』『日二穰六』『日二穰七』『日二穰八』『日二穰九』『日三穰』『日三穰一』『日三穰二』『日三穰三』『日三穰四』『日三穰五』『日三穰六』『日三穰七』『日三穰八』『日三穰九』『日四穰』『日四穰一』『日四穰二』『日四穰三』『日四穰四』『日四穰五』『日四穰六』『日四穰七』『日四穰八』『日四穰九』『日五穰』『日五穰一』『日五穰二』『日五穰三』『日五穰四』『日五穰五』『日五穰六』『日五穰七』『日五穰八』『日五穰九』『日六穰』『日六穰一』『日六穰二』『日六穰三』『日六穰四』『日六穰五』『日六穰六』『日六穰七』『日六穰八』『日六穰九』『日七穰』『日七穰一』『日七穰二』『日七穰三』『日七穰四』『日七穰五』『日七穰六』『日七穰七』『日七穰八』『日七穰九』『日八穰』『日八穰一』『日八穰二』『日八穰三』『日八穰四』『日八穰五』『日八穰六』『日八穰七』『日八穰八』『日八穰九』『日九穰』『日九穰一』『日九穰二』『日九穰三』『日九穰四』『日九穰五』『日九穰六』『日九穰七』『日九穰八』『日九穰九』『日溝』『日溝一』『日溝二』『日溝三』『日溝四』『日溝五』『日溝六』『日溝七』『日溝八』『日溝九』『日二溝』『日二溝一』『日二溝二』『日二溝三』『日二溝四』『日二溝五』『日二溝六』『日二溝七』『日二溝八』『日二溝九』『日三溝』『日三溝一』『日三溝二』『日三溝三』『日三溝四』『日三溝五』『日三溝六』『日三溝七』『日三溝八』『日三溝九』『日四溝』『日四溝一』『日四溝二』『日四溝三』『日四溝四』『日四溝五』『日四溝六』『日四溝七』『日四溝八』『日四溝九』『日五溝』『日五溝一』『日五溝二』『日五溝三』『日五溝四』『日五溝五』『日五溝六』『日五溝七』『日五溝八』『日五溝九』『日六溝』『日六溝一』『日六溝二』『日六溝三』『日六溝四』『日六溝五』『日六溝六』『日六溝七』『日六溝八』『日六溝九』『日七溝』『日七溝一』『日七溝二』『日七溝三』『日七溝四』『日七溝五』『日七溝六』『日七溝七』『日七溝八』『日七溝九』『日八溝』『日八溝一』『日八溝二』『日八溝三』『日八溝四』『日八溝五』『日八溝六』『日八溝七』『日八溝八』『日八溝九』『日九溝』『日九溝一』『日九溝二』『日九溝三』『日九溝四』『日九溝五』『日九溝六』『日九溝七』『日九溝八』『日九溝九』『日澗』『日澗一』『日澗二』『日澗三』『日澗四』『日澗五』『日澗六』『日澗七』『日澗八』『日澗九』『日二澗』『日二澗一』『日二澗二』『日二澗三』『日二澗四』『日二澗五』『日二澗六』『日二澗七』『日二澗八』『日二澗九』『日三澗』『日三澗一』『日三澗二』『日三澗三』『日三澗四』『日三澗五』『日三澗六』『日三澗七』『日三澗八』『日三澗九』『日四澗』『日四澗一』『日四澗二』『日四澗三』『日四澗四』『日四澗五』『日四澗六』『日四澗七』『日四澗八』『日四澗九』『日五澗』『日五澗一』『日五澗二』『日五澗三』『日五澗四』『日五澗五』『日五澗六』『日五澗七』『日五澗八』『日五澗九』『日六澗』『日六澗一』『日六澗二』『日六澗三』『日六澗四』『日六澗五』『日六澗六』『日六澗七』『日六澗八』『日六澗九』『日七澗』『日七澗一』『日七澗二』『日七澗三』『日七澗四』『日七澗五』『日七澗六』『日七澗七』『日七澗八』『日七澗九』『日八澗』『日八澗一』『日八澗二』『日八澗三』『日八澗四』『日八澗五』『日八澗六』『日八澗七』『日八澗八』『日八澗九』『日九澗』『日九澗一』『日九澗二』『日九澗三』『日九澗四』『日九澗五』『日九澗六』『日九澗七』『日九澗八』『日九澗九』『日正』『日正一』『日正二』『日正三』『日正四』『日正五』『日正六』『日正七』『日正八』『日正九』『日二正』『日二正一』『日二正二』『日二正三』『日二正四』『日二正五』『日二正六』『日二正七』『日二正八』『日二正九』『日三正』『日三正一』『日三正二』『日三正三』『日三正四』『日三正五』『日三正六』『日三正七』『日三正八』『日三正九』『日四正』『日四正一』『日四正二』『日四正三』『日四正四』『日四正五』『日四正六』『日四正七』『日四正八』『日四正九』『日五正』『日五正一』『日五正二』『日五正三』『日五正四』『日五正五』『日五正六』『日五正七』『日五正八』『日五正九』『日六正』『日六正一』『日六正二』『日六正三』『日六正四』『日六正五』『日六正六』『日六正七』『日六正八』『日六正九』『日七正』『日七正一』『日七正二』『日七正三』『日七正四』『日七正五』『日七正六』『日七正七』『日七正八』『日七正九』『日八正』『日八正一』『日八正二』『日八正三』『日八正四』『日八正五』『日八正六』『日八正七』『日八正八』『日八正九』『日九正』『日九正一』『日九正二』『日九正三』『日九正四』『日九正五』『日九正六』『日九正七』『日九正八』『日九正九』『日載』『日載一』『日載二』『日載三』『日載四』『日載五』『日載六』『日載七』『日載八』『日載九』『日二載』『日二載一』『日二載二』『日二載三』『日二載四』『日二載五』『日二載六』『日二載七』『日二載八』『日二載九』『日三載』『日三載一』『日三載二』『日三載三』『日三載四』『日三載五』『日三載六』『日三載七』『日三載八』『日三載九』『日四載』『日四載一』『日四載二』『日四載三』『日四載四』『日四載五』『日四載六』『日四載七』『日四載八』『日四載九』『日五載』『日五載一』『日五載二』『日五載三』『日五載四』『日五載五』『日五載六』『日五載七』『日五載八』『日五載九』『日六載』『日六載一』『日六載二』『日六載三』『日六載四』『日六載五』『日六載六』『日六載七』『日六載八』『日六載九』『日七載』『日七載一』『日七載二』『日七載三』『日七載四』『日七載五』『日七載六』『日七載七』『日七載八』『日七載九』『日八載』『日八載一』『日八載二』『日八載三』『日八載四』『日八載五』『日八載六』『日八載七』『日八載八』『日八載九』『日九載』『日九載一』『日九載二』『日九載三』『日九載四』『日九載五』『日九載六』『日九載七』『日九載八』『日九載九』『日穰』『日穰一』『日穰二』『日穰三』『日穰四』『日穰五』『日穰六』『日穰七』『日穰八』『日穰九』『日二穰』『日二穰一』『日二穰二』『日二穰三』『日二穰四』『日二穰五』『日二穰六』『日二穰七』『日二穰八』『日二穰九』『日三穰』『日三穰一』『日三穰二』『日三穰三』『日三穰四』『日三穰五』『日三穰六』『日三穰七』『日三穰八』『日三穰九』『日四穰』『日四穰一』『日四穰二』『日四穰三』『日四穰四』『日四穰五』『日四穰六』『日四穰七』『日四穰八』『日四穰九』『日五穰』『日五穰一』『日五穰二』『日五穰三』『日五穰四』『日五穰五』『日五穰六』『日五穰七』『日五穰八』『日五穰九』『日

嘔愛經七種星民間行法等の諸經に記されて居る。●[illegible]、[illegible]、[illegible]、

星迺切 詩經 星部 「金針過度」「指掛花行」

詩緊 漢宗廟歌舞辭 題仁壽宴飲詩 陸倕 星風

星疏 詩 星のまばらなこと。「貫休 苦吟詩」

星宗 詩 星の中心をなすもの。北極

星宗 詩 唐 張燕 酔仙 128.1 46013－1 北の統。

星度 詩 星の度。「北斗 七星 北斗 七星 北斗 七星

天子事天天不孝。則自負星辰、比年日食、於正朔三次不朔、五緯錯居。

【星動】[illegible]。星名。星動、[illegible]。

天文志上：汗建之間、元道也、星動衆勢、[illegible]。

[illegible]紀上民亦勞止、[illegible]。

[illegible]、[illegible]、[illegible]。

[illegible]。

【星德】[illegible]。[illegible]。

[illegible]。

【星月】[illegible]。星名。[illegible]。

【星芒】[illegible]。星名。[illegible]。

[illegible]。

【星斗】[illegible]。星名。[illegible]。

【星斗】[illegible]。星名。[illegible]。

【星斗】[illegible]。星名。

二九九五云。

【星文】ﾎｼﾌﾐ 星の名や星の現象。〔南齊書、儒林〕 〔周礼、春官、眡祲〕 〔周礼、春官、保章氏〕 〔周礼、春官、馮相氏〕 〔周礼、春官、大司徒〕 〔隋書、天文志〕 〔晉書、天文志〕 〔後漢書、天文志〕 〔漢書、天文志〕 〔史記、天官書〕 〔呂氏春秋、有始覽〕 〔淮南子、天文訓〕 〔呂氏春秋、季夏紀〕 〔呂氏春秋、孟夏紀〕 〔呂氏春秋、孟春紀〕 〔呂氏春秋、十二紀〕 〔呂氏春秋、序意〕 〔呂氏春秋、序意〕 〔呂氏春秋、序意

金鼎大鼎。辞史記索隱。

【星駱】[illegible] 鮮鱗の形容。（張衡、玄武門仲夏詩）雲鮮鱗宿衛。星駱下乘弦。

【星離】[illegible] 星離下乘弦。

【星離】[illegible] 離は別。（李華、大夢賦）雀如雨雲、實若星離。（駱賓王、明妃篇）明月星離。

【星離】[illegible] 星座を考へて暦法を定める法。天文。（漢書、司馬遷傳）定史星歷、近平月晦之間。（司馬遷、報任少卿書）定史星歷、近平月晦之間。

【星歷】[illegible] 同上。（漢書、司馬遷傳）定史星歷、近平月晦之間。（同上、報任少卿書）定史星歷、近平月晦之間。

【星流】[illegible] 星の ゆくこと。（張衡、東京賦）星流電掣。（同上、西京賦）星流電掣。（漢書、敘傳）遊俠、義和占日、史氏占星氣、冶鑄造器、大機作甲。（同上、敘傳）遊俠、義和占日、史氏占星氣、冶鑄造器、大機作甲。（漢書、敘傳）遊俠、天文星歷、[illegible]。（漢書、息夫躬傳）[illegible]。

【星月】[illegible] 星のやうにつらなる。（後漢書、蔡邕傳）三辰炎、火然中星。（隋書、音樂志）[illegible]。

【星月】[illegible] 星のやうにつらなる。（張協、七命）[illegible]。

【星道】[illegible] 流星。（張衡、東京賦）[illegible]。

【星斗】[illegible] 星の名。（史記、歷書

はえる。(説郛、秋竹曲)盆花風曲蟲鳴、映日結雌雄。

【映日果】[ji]ji 無花果の異名。(本草、無花果)種名、映日果、蓮蕃、紫蘇、紫駝、時珍曰、無花果凡數種、此内映日果也。

【映日荷花】[ji]ji 北京に行けば菊花の一種。(燕京歲時記、九花山下)諺云、日下菊花、日下芙蓉、京師名菊曰日下、菊花、又云芙蓉、荷花。

【映雪】[yu]yu 雪に映じて書をよむこと。(孫康傳、晉書、孫康)孫康、家貧、不能常得油、恒以雪照而讀之、(蒙求、孫康映雪)

【映雪讀書】[yu]yu 雪に映じて書を讀むこと。(孫康傳、晉書、孫康)孫康、家貧、不能常得油、恒以雪照而讀之、(蒙求、孫康映雪)

【映川】[yu]yu 清、程庠(8-15512-1254)の字。

【映然】[yu]yu 旗を光彩に浴びさせる。(隋書、音樂)故教驃騎等時省其文、冠蓋南巡、映旗轉鳴。

【映帶】[yu]yu 色つや又は黒色のひろがり互にうつりあうさま。(王羲之、三月三日蘭亭詩序)有清流激湍、映帶左右。(鄭谷、岩陰、遊僧)

【映蔡】[yu]yu 光輝。(李白、上村紀)中觀、大因、照耀而映蔡者、非惟不敢望、亦不敢羨焉。

【映照】[yu]yu 清、張英(8-15512-1254)の字。

【映徹】[yu]yu 輝くこと。(蘇軾、次韻)映徹、輝光。(chao)

【映帶】[yu]yu 清、王文治(8-14424-3522)の字。

【映水】[yu]yu 水にうつる。(謝惠連、山居賦)草映水而增光。

【映照】[yu]yu 明、張遠馬(8-6987-4262)の字。

【映雪】[yu]yu 雪明りで書をよむ。(孫氏、世語)孫康、家貧、不能常得油、恒以雪照而讀之。

【映然】[yu]yu 明、孫遠馬(8-6987-4262)の字。

【映月讀書】[yu]yu 月の光で書をよむこと。(宋史、趙抱眞傳)居貧苦學、夜無油燭、映月讀書。

【映駑】[yu]yu 清、葉燮(8-24232-3522)の字。

【映徹】[yu]yu うつりとおりやすい。(李白、上村紀)中觀、大因、照耀而映蔡者、非惟不敢望、亦不敢羨焉。

【映帶】[yu]yu 清、王文治(8-14424-3522)の字。

【映水】[yu]yu 水にうつる。(謝惠連、山居賦)草映水而增光。

【映照】[yu]yu 清、王文治(8-14424-3522)の字。

【映雪】[yu]yu 雪に映じて書をよむこと。(孫康傳、晉書、孫康

記、梓人）強（皮俠）而捷鶴、則春以功。（注）春、讀論語春、春作也、出也、天子將出、必送諸郊、送諸學宮、射以作其容體、出其合於鏞樂者、與人事鬼神焉。

屯（ㄓㄨㄣˊ）食意反。屯、難也。

春（ㄔㄨㄣ）日上呈也。從日在草中。屯、屯草木初生、未出地上。屯、難也。屯、難也。屯、難也

9・1562）の宴名●同時陸深（21・47708・1554）の宴名。

春雨樓詩 ㊇ 清、張塤（4・32812・9563）の宴名。

春烏 ㊇ 鳥の名。百舌の異名。百舌の鳴。江南の語。在嶺・自注・江南謂百舌爲春烏。

春今こと。春雪欲晴、雪初晴、春鳥春鳴春花開。

春水 ㊇ 水初流。春雪欲晴、雪初晴、春鳥春鳴春花開。

清華集、簫韶、夏初時雨、詩）天成袋裝連羽兒。春雪先晴雪晴花開。春鳥春鳴春花開。

春雪先晴 ㊇ 春の雪が晴れ上がる。

上巳、高適、春日宴宮谷寺、鄭和、詩）紫雪衣

春雪先晴雪晴花開。春鳥春鳴春花開。

春雪先晴雪晴花開。春鳥春鳴春花開。

春雪先晴雪晴花開。春鳥春鳴春花開。

【春逝】ｊｉｎ。春の盛りが過ぎ。〔劉長卿・夜愛洛陽亭詩〕春逝客還稀。

【春逝】ｓｅｉ。春の盛りが過ぎ。〔杜牧・送李給事赴闕下詩〕春逝客還稀。

【春日】ｊｉｔｓｕ。春の日。〔李白・春日醉起言志詩〕春日醉起言志。

【春日】ｈａｒｕｂｉ

王北京州刺史移條下 無 春秋書之。

〔春忌〕[illegible]。春に忌をなすこと。

〔宋書 禮志〕三叉有人以小間稱月二月去若有間後月爲之時 [illegible] 則年穀熟 在後年穀不熟 [illegible] 戴既失用春之義 冬之間春忌 又惡 [illegible]

〔春季〕[illegible]。◎春の[illegible]。

〔春祭〕[illegible]。◎春の祭。

〔春祭日農祭〕[illegible]。◎春の時節の祭。

〔春季日農祭〕[illegible]。◎春の時節の祭。

〔春祭〕[illegible]。春の祭。[illegible]。

〔春社〕[illegible]。◎春の社。

〔春社日〕[illegible]。◎春の社日。

〔春秋〕[illegible]。春の年。[illegible]。

〔春秋〕[illegible]。春の年。[illegible]。

〔春秋〕[illegible]。春の年。[illegible]

〔職原抄〕春宮坊、屬、大少。

〔春宮坊〕春宮坊。春宮の一切の庶務を掌つかさどる所。大夫、亮、進、屬等を置くくみこの名を有つかさどる所。大夫、亮、進、屬等を置くくみこの名を有し、春宮坊、唐職官、春官府、以倣、衆殿。又、復、左右坊、宮中

[元結]・鍾山賦、應・西都賦・教・春光發・麗百・秋風生・杜樓、江賦・春光・鮑・蕪城賦・春光・梁・沈約・鍾山賦・

[illegible]

春溝 [illegible] 春の小溝。「只今の小溝、遂に恩敵と化し、[illegible]」（歌舞伎『[illegible]』）

春潟 [illegible] 春の潟。「[illegible]」（『[illegible]』）

春潮 [illegible] 春の潮。「[illegible]」（『[illegible]』）

春[illegible] [illegible]

春[illegible] [illegible]

春[illegible] [illegible]

のもの。（萬葉、五日戦、桜枝）・西施洗遺迹・春林・蹋芝・春草・鶯語・

春沙 ［illegible］ 春のはるすがり。沙は、はるすがり。

春桂 ［illegible］ 春の桂。（春詞）・日高敏光子・金沢市・紺草庵俳句集

春楼 ［illegible］ 清、王源、77、28828・・3792の字。

春日詩 ［illegible］ 春日詩。（劉廷芝、代春人愁閨）・珠樹・鶯・春日・春日・春日

春山寶座註・卷十五「各隨」於案、禮部官員順天府府尹・府丞・學官・欽天監・時官・醫官・鴻臚・生員等、案、禮部官員順天府尹・府丞・學官・欽天監・時官・醫官・鴻臚・生員等、水後機、由午門門入、設御門、至後左門外、上傳、諸殿等、內監・內官・內官監・內官・內官監・內官・內官

文公十八年）・宣公二十八年）・成公二十八年）・襄
百公十四年・の十二（公二十四年・哀公十二年間列圃に
起つた天災等・種々の事跡・に就いて簡潔を旨とし、
の正性等・種々の事跡・に就いて簡潔を旨とし、
道を説らしめる。故に孔子著述の本意に就い
た。天義を説く。天子後世を論ぜず、天子後世と雖も、
し、公平を説く。君臣の分を明けて名義を主とし
作。云云。孔子聞而作春秋」の言、又、孔子
作春秋、而亂臣賊子懼。勝文公下」とへつたの
る。又、孟子の言に「因而不能、故作之」
春秋有貶無褒論、及び春秋無褒貶記聞等の諸説が
を挙げる。在りしかども、宋の兵革が天理を扶け
たるをいうきす。孟子が世衰道微、邪説暴行有
作、臣弑其君者孔子懼、勝文公下」とへつたの
る。又、孔子聞而作春秋」の言、又、孔子
作春秋、而亂臣賊子懼。勝文公下」とへつたの
春秋有貶無褒論、及び春秋無褒貶記聞等の諸説が
を挙げる。在りしかども、宋の兵革が天理を扶け
たるをいうきす。孟子が世衰道微、邪説暴行有
作、臣弑其君者孔子懼、勝文公下」とへつたの
る。又、孔子聞而作春秋」の言、又、孔子
作春秋、而亂臣賊子懼。勝文公下」とへつたの
る。又、孟子の言に「因而不能、故作之」

敬するの書であって、『穀梁』の書のないなら論じ経説を以て春秋を說を排斥して居る。明白正確なる説明を加へたるものである。『春秋大全』七十卷、明、永樂中、胡広等奉勅撰、正面の書は、『春秋』の本文に、『穀梁』『胡伝』『左伝』『公羊』の説を加へたものであり、『春秋』の本文を以て、『穀梁』『胡伝』『左伝』『公羊』の説を排斥して居る。明白正確なる説明を加へたるものである。

病、矢于子諸侯大夫僭、天子諸侯之事一而作、春秋、而已制為、天子以賞、天子、位之尊也、爵、爵位也、賞、賞賜也、天子以爵賞、爵、爵位也、賞、賞賜也、天子以爵賞、爵、爵位也、賞、賞賜也、天子以爵賞

名國	姓	諱	爵	謚	繼續	領地	都城	滅ぼした國及年
燕	姬	伯	召公奭	三四	北京附近	薊(河北省順平縣北)	秦	B.C.222
衛	姬	侯	康叔	四二	河南省衛輝府	衛(河南省濮縣東北)	秦	B.C.209
魯	姬	侯	周公旦	三五	山東省兗州府	曲阜(山東省曲阜縣)	秦	B.C.221
齊	姜	侯	太公望	三九	山東省ノ大部	臨淄(山東省臨淄縣)	秦	B.C.221
晉	姬	侯	叔虞	三五	山東省晉州府	翼(山東省翼城縣西北)	宋	B.C.249
吳	姬	子	太伯ノ後	二五	江蘇省地方	姑蘇(江蘇省吳縣)	越	B.C.473
越	姒	子	少昊ノ後	二五	浙江省地方	會稽(浙江省紹興府)	楚	B.C.334
楚	羊	子	熊繹	四一	湖南省、湖北省	郢(湖北省江陵縣)	秦	B.C.223
鄭	姬	伯	桓公友	三三	河南省開封府	新鄭(河南省開封縣)	韓	B.C.375
宋	子	公	微子	三二	河南省歸德府	睢陽(河南省睢陽縣)	田齊	B.C.286
蔡	姬	侯	蔡叔度	二四	河南省汝寧府地方	新蔡(河南省上蔡縣西南)	楚	B.C.447
鳳	姬	伯	鄭桓公	二四	河南省汝寧府地方	鳳陽(河南省鳳陽縣)	楚	B.C.267

名國	姓	諱	爵	謚	繼續	領地	都城	滅ぼした國及年
秦	嬴	伯	石	三四	北京附近	薊(河北省順平縣北)	秦	B.C.222
秦	嬴	侯	襄	四二	河南省衛輝府	衛(河南省濮縣東北)	秦	B.C.209
魏	姬	侯	斯	三九	山東省ノ大部	臨淄(山東省臨淄縣)	秦	B.C.221
趙	嬴	侯	太公望	三九	山東省ノ大部	臨淄(山東省臨淄縣)	秦	B.C.221
韓	姬	侯	叔虞	三五	山東省晉州府	翼(山東省翼城縣西北)	宋	B.C.249
燕	姬	侯	周公旦	三五	山東省兗州府	曲阜(山東省曲阜縣)	秦	B.C.221
齊	姜	侯	太公望	三九	山東省ノ大部	臨淄(山東省臨淄縣)	秦	B.C.221

もの萬國殷遷の時、國を建つるもの三千あり、周の武王の時例は、三千六百國あつたと傳へられ、春秋時代に至るや、諸侯は互に吞噬して其の數を減じ、美に見ゆるもの僅かに一百四十餘國となる。然るに其の多くは強小に一百四十餘國となる。然るに其の多くは強小に一百四十餘國となる。然るに其の多くは強小に

超于黃鐘曾(夏殷秋然)正蒙春月
殘左金鼓(遷城記)賢者/晚歲新/殺印/春湖
曾春鬲。
[春初]ⅰⅱⅲ。春の初め。春初。
[春初]ⅰⅱⅲ。春初年。春初年。
[春書]ⅰⅱⅲ。春の書。
[春帖]ⅰⅱⅲ。春帖をいう。(唐詩)雕題
[春花]ⅰⅱⅲ。春の花。春花。
[春社]ⅰⅱⅲ。春の社。春に生ずる社。
[春秋]ⅰⅱⅲ。春秋。
[春秋]ⅰⅱⅲ。春秋。
[春秋]ⅰⅱⅲ。春秋

晴窮友人、詩云、春序南河鮮草、不是学細時。

【春校】 ㊀ 春に行ふまつりごと。『貴族歌集、東国治、於東大寺賀茂大社奉本主四方春祭』『摩耶経、命終、春夏秋不失、夏秋冬不失、甘露飲、冬夏秋不失、如無造罪、秋冬春不失、人民長寿、冬秋春不失、少疾病、五穀不失、百鳥悲鳴、日月光明、不失少疾病、五穀不失、百鳥悲鳴、日月光明。』

【春星】 ㊀ 春の夜のほし。『後撰文荒、神山詩『晴水流花径、春星繁草堂』。●中世歌謡の賞。中世歌謡（1・23・43）、清、楊孝賞（6・15112・464）。

【春星草】 ㊀ 清、楊孝賞（6・15112・464）。

【春晴】 ㊀ 春の日はれた日。『代全期、春和春日等信都詩『春晴清明、芳草緑村、秋晴高明、小花開山』。『春晴清明、芳草繁、春晴清明、芳草緑、春晴清明、芳草緑、春晴清明、芳草緑

攜傳書鴈。玄頭作四時詩曰：蓂莢供春輦，
業燒充夏食。弧蓬掛秋箭，松葉覆冬棺。
春緯 [illegible] 春。春の人。（元稹、春雜詩）我自
來轉日，誰苦春遲遲。伴詩喚花工，不違春
光。（白居易、春遊）
英華 [illegible] 詩。行人去時期，春草，楊花日。（吳文
英、點絳唇詞）
春の日。（元稹、春雜詩）春の日。（吳文
英、點絳唇詞）
春の日。（元稹、春雜詩）
春の日。（元稹、春雜詩）
春の日。（元稹、春雜詩

【春地】 春の土地。(薛能 題鄭師一詩)「夜雪吹竹雨。春地花花風。」(王維 見裴迪詩)「春地」

【春地】 春の土地。(白居易 春日閑吟題)「春地花花風。」

【春地】 春の土地。(王維 見裴迪詩)「春地」

【春池】 春池。(杜甫 題鄭駙馬宴洞中)「春池鼓棹歌。」(蘇軾 次韻子由)「春池

官、羅氏『春秋釋例』、春鳥、（注）春鳥、蟲而出者、若今郭璞『蒼雅』、古音倉、故云春鳥、行在鳥前、『爾雅』『蒼雅』、『古音倉』、故云春鳥、行在鳥前、『爾雅』『蒼雅』、『蒼雅』、『爾雅』、『蒼雅』、『爾雅』、『蒼雅』、『爾

[春饒]説文 ●春に農業をすること。〔後漢書段熙傳〕「春饒冬作」「晉元帝令」「春饒冬作」「冬作」「春饒」「冬作」「春饒」「冬作」「春饒

具備滿〉春冰〉●危險の喩〉履〉春冰〉を見よ。

【履〉薄〉春冰〉】●危險の喩〉履〉春冰〉を見よ。

【履〉薄〉】●薄氷を履む。歩こそ春氷に同じ。南齊書、明帝紀、遺以人騎、

【春碧】[illegible]　春の みどり。春にあるものをもとめて。【春樓】[illegible]　春の楼。【春草】[illegible]　春の草。【春草碧色】[illegible]　春の草の色。【春草碧色春水綠波】[illegible]　春の草の色と春の水の緑の波。【春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶】[illegible]　春の草の色と春の水の緑の波と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風】[illegible]　春の風。【春風化雨】[illegible]　春の風と春の雨。【春風春月】[illegible]　春の風と春の月。【春風春日】[illegible]　春の風と春の日。【春風春水】[illegible]　春の風と春の水。【春風春水春日遲遲】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波】[illegible]　春の風と春の水と春の日の遅遅たるに鳥の鳴くこと。【春風春水春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶春草碧色春水綠波春日遲遲鳥鳴嚶嚶

詩・蘭若生春陽、步々迎人踏苔徑。（晉書・嵇紹傳）
程・春陽、而日惑、過秋彫、而不悅。（晉左・郭璞）
詩・陽春、時、鳴鳥、鳴、黃鳥、鳴、（晉左・郭璞）
木之際、春陽、鳴鶯、鳴、鳴、（晉左・郭璞）
詩・陽春、鳴、鳴

柳絮漫起早他指『宴』不知春力暗分張。〔句〕
宴園 〔南唐〕馮延巳詞『謁恩』強倚春力『報』年華。〔句〕可止山居新宴清春力展花滋潤門垂。
春華 〔南朝宋〕沈約『夏日』『春華』『秋實』『時序』『可止山居新宴清春力展花滋潤門垂。
春力 〔唐〕高適『送蜀皇甫』『春力遲時好』『春力遲時好』
拆壬百鬼『春』『春』の力。
春力 〔唐〕『春』の力。
春力 〔唐〕『春』の力。
春力 〔唐〕

る。「蘇軾、次韻楊景草春詩」「翻碧連空苦未和、君家題詩既得春多、」「蘇東坡集、前集、卷四、春日、首呈黃、黃、山谷、次韻、詩」「杏花時節春多、」「

春正月反。云ふに同じ。王の字は周の王をさし、周王の前略。隱元年春王正月、杜注、隱公の元年正月也。周王之月也。凡人君即位、欲其體元以居正、故不書春。[禮記]月令、孟春之月、其帝太皡、其神句芒、其蟲鱗、其音角、其數八、其味酸、其臭膻、其祀戶、祭先脾。

【春王正月】[春秋]隱元年。[傳]隱元年春王正月。[注]春王正月者、[公羊]曰、[穀梁]曰、[左氏]曰、[周禮]春官、[漢書]、[後漢書]、[晉書]、[宋書]、[南齊書]、[梁書]、[陳書]、[魏書]、[北齊書]、[周書]、[隋書]、[南史]、[北史]、[唐書]、[五代史]、[宋史]、[遼史]、[金史]、[元史]、[明史]、[清史]、[通鑑]、[通典]、[通志]、[文獻通考]、[文選]、[文苑英華]、[太平御覽]、[冊府元龜]、[文心雕龍]、[文章辨體]、[文章正宗]、[文章軌範]、[文章辨體彙選]、[文章辨體彙選]、[文章辨體彙選

【昧】13848 マイ

●くもる。ほのぐらい。〔集韻・眞韻〕昧、日中不明。●昧の。●昧の。〔廣韻・眞韻〕昧、日中見。昧、案音義云、字林作昧、斗枓後星、王篇音昧。

【昨】13847 サク 〔集韻・禡各切〕 ㄗㄨㄛˋ

昨 小 ●きのふ。〔說文〕昨、索日也。从日乍聲。〔廣韻〕昨、昨日。〔顏一〕日作聲。〔廣雅也〕、

日 ❶あきらか（集韻）昭・明也 ❷目（6 13734）の誤字。（正字通）昭・見字之譌。❸或は璪16 14151に作る。（集韻）昭・或从璪。

（集韻）何子切 虞
（集韻）子何切 虞
（集韻）大何切 虞
（集韻）胡郎切 虞

昫 13852

ク

（集韻）況羽切 麌
（集韻）大何切 虞
（集韻）胡郎切 虞

昫 ❶（正字通）❷あたたかい。日がぬくめる。（説文）昫・日出温也。从日句聲。北地有昫衍縣。（注）応劭曰、昫・大也。（玉篇）昫・温也。❸昫・7 192235 ❹（説文）昫・日出温也。从日句聲。（集韻）昫・司馬法、鼓且明且昫。（集韻）昫・或从日。

昏 13853

コン

音 (6 13806)に同じ。唐の太宗の諱を避けて昏と作るという。（正字通）昏・俗昏字。唐本説文从民省。徐鍇本説文云、民省聲。徐鍇説文、民省。（徐本）按其説之云、因唐諱民改从民省。（段注）昏・本从民省。蓋亦譌字。故也。（説文）昏・昏聲。明也。

眠 13854

ミン

（玉篇）都年切 **昏**

目。（玉篇）眠・目也。

昭 13855

ショウ

（正字通）之遥切 **昭**
（集韻）止遥切 **昭**
（集韻）之遥切 **昭**

昭 ❶（説文）昭・明也。从日召聲。（爾雅・釋訓）昭・光也。（詩経・大雅）日月昭明。（注）昭・明也。❷あきらかにする。（説文）昭・見也。（広雅）昭・示也。（詩経）昭・見也。❸あきらかにする。あらはす。（左昭元・十二）武伯・徳音不昭。（注）昭・明也。（左昭元・四）以昭德也。（注）昭・明也。（左昭元・十二）武伯・徳音不昭。（注）昭・明也。（国語・晉語四）昭・舊無。（注）正義曰、昭・明也。❹明の順位に基づく。父宗廟氏定・四）以昭德

（注）疏曰 昭五 楚昭王墓也（謂熊 鬱使子郭 夜發新林 至 京邑 陷 西將 同使 鈞 陽 來 車轅 里有 楚昭王墓 欲 使 鈞 所謂昭也 ●吳 于 姑 ）

【昭舊】 ⓐ 舊 をてらしあきらかにする。〔風俗通〕 ⓑ 明 かしあきらかにする。〔風俗通〕

【昭明】 ⓐ 明 かしあきらかにする。〔呂氏春秋〕 ⓑ 明 かしあきらかにする。〔呂氏春秋〕

【昭明宮】 ⓐ 漢 の宮殿名。〔三輔黃圖〕 ⓑ 漢 の宮殿名。〔三輔黃圖〕

【昭穆】 ⓐ 宗廟 の 左 を 昭 と 呼 び 右 を 穆 と 呼 ぶ。〔禮記〕 ⓑ 宗廟 の 左 を 昭 と 呼 び 右 を 穆 と 呼 ぶ。〔禮記〕

【昭明】 ⓐ 明 かしあきらかにする。〔呂氏春秋〕 ⓑ 明 かしあきらかにする。〔呂氏春秋〕

【昭明宮】 ⓐ 漢 の宮殿名。〔三輔黃圖〕 ⓑ 漢 の宮殿名。〔三輔黃圖〕

【昭穆】 ⓐ 宗廟 の 左 を 昭 と 呼 び 右 を 穆 と 呼 ぶ。〔禮記〕 ⓑ 宗廟 の 左 を 昭 と 呼 び 右 を 穆 と 呼 ぶ。〔禮記〕

【昭過】 ⓐ 他人 の 過ちを 明 かにする。〔後漢書 蔡邕傳〕 ⓑ 他人 の 過ちを 明 かにする。〔後漢書 蔡邕傳〕

【昭舊】 ⓐ 舊 をてらしあきらかにする。〔風俗通〕 ⓑ 舊 をてらしあきらかにする。〔風俗通

注‥謝沈書曰‥大雅曰‥昭哉來御‥猶其顯哉。

昭平[illegible]‥明於‥明於‥明於

不審明佛教。

【昭然】[illegible] 明白分明。戰國策 韓策 韓一賈對[illegible]。

【昭明】使人明然信之。[illegible]王之明[illegible]。

【昭明】[illegible]昭然若揭。[illegible]。[illegible]。[illegible]

墨幾傾(陳貞慧)。續虞。趙彥卿。第七十七冊。
原贅叢(戴)。第七十八冊。第七十八冊。備行道
(彭紹升)。紹升。日蝕表(陳)。日蝕表(陳)。
紙(李容)。第八十九冊。日蝕表(陳)。
(地圖)。第八十一冊。日蝕表(陳)。
(地圖)。第八十一冊。易說(李)。
(地圖)。第八十一冊。易說(李)。
(地圖)。第八十一冊。易說(李

周昭王南征不返、後人於此渡河死。（漢代省羅縣。今西山在河北省樂亭縣東南。）●漢代省羅縣。今西山在河北省樂亭縣東南。●清代省羅縣。今西山在河北省樂亭縣東南。

昭釐 [illegible] 昭釐、宣昭、懷昭、伏昭、靖昭、懿昭、[illegible]、[illegible]、[illegible]

○章元成玄者五廟圖

東 昭 昭 北太祖 都宮門南 北 廟制圖 北寢 廷 朝 廷 垣 門 南 穆 穆

○章九成室周廟圖

○昭 武王 世室 昭 昭

大祖廟 ○穆 文王 世室 穆 穆

周之所以以祖考者，以后稷、契、文王、武王、七廟者其正統，數目常數者，宗不在此數中。宗變數者，功德隆則宗之，不可于稱設即是舊之宗無數也。

（正子通）昭、決要義曰：文謂與目昭、明也。子北面曰昭，順也。（周禮）春官、小宗伯、辨廟祧之昭穆。（注）鄭司農云：昭、明也。（禮記）（祭統）注義云：自始祖之後，父曰昭，子曰穆。若論禮注義云：自始祖之後，父曰昭，子曰穆者，蓋舉象以成傳。（疏）王者始受命，謂武王始祖之者，皆為太祖，以下五廟而迭毀。父為昭，子曰穆。（禮記）（祭統）（疏）云：列諸王在太祖廟東，太祖之東，而南向。太祖之西，昭、穆，太祖之子，而北向。昭在東，穆在西者，所謂父昭子穆也。昭者，明也。故曰明也。馬氏（注）云：昭、穆者，取象于日月。（禮記）（祭統）（疏）云：子在父廟，故曰后稷。（禮記）（祭統）（疏）云：周公、成王、康王、昭王、穆王、共王、懿王、孝王、夷王、厲王、宣王、幽王、平王、桓王、莊王、僖王、惠王、襄王、頃王、定王、簡王、靈王、景王、悼王、敬王、元王、貞王、哀王、思王、考王、威烈王、安王、烈王、顯王、慎靚王、赧王、秦昭王、孝文王、莊襄王、始皇帝、二世皇帝、秦王子嬰、漢高祖、惠帝、文帝、景帝、武帝、昭帝、宣帝、元帝、成帝、哀帝、平帝、王莽、光武、明帝、章帝、和帝、安帝、順帝、沖帝、質帝、桓帝、靈帝、獻帝、魏文帝、明帝、齊王、高貴鄉公、陳留王、晉宣帝、景帝、文帝、武帝、惠帝、懷帝、愍帝、元帝、明帝、成帝、康帝、穆帝、哀帝、廢帝、簡文帝、孝武帝、安帝、恭帝、宋武帝、少帝、文帝、孝武帝、前廢帝、明帝、後廢帝、順帝、齊高帝、武帝、文帝、明帝、東昏侯、和帝、梁武帝、簡文帝、元帝、敬帝、陳武帝、文帝、廢帝、宣帝、後主、隋文帝、煬帝、恭帝、唐高祖、太宗、高宗、中宗、睿宗、玄宗、肅宗、代宗、德宗、順宗、憲宗、穆宗、敬宗、文宗、武宗、宣宗、懿宗、僖宗、昭宗、哀帝、後梁太祖、後唐莊宗、後唐明宗、後唐閔帝、後晉高祖、後晉出帝、後漢高祖、後漢隱帝、後周太祖、後周世宗、宋太祖、太宗、真宗、仁宗、英宗、神宗、哲宗、徽宗、欽宗、高宗、孝宗、光宗、寧宗、理宗、度宗、恭帝、遼太祖、太宗、穆宗、景宗、聖宗、興宗、道宗、天祚帝、金太祖、太宗、熙宗、海陵王、世宗、章宗、衛紹王、宣宗、哀宗、末帝、元世祖、成宗、武宗、仁宗、英宗、泰定帝、文宗、明宗、寧宗、惠宗、明太祖、惠帝、成祖、仁宗、宣宗、英宗、代宗、憲宗、孝宗、武宗、世宗、穆宗、穆宗、神宗、光宗、熹宗、思宗、清太祖、太宗、世祖、聖祖、世宗、高宗、仁宗、宣宗、文宗、穆宗、德宗、宣統帝、

●晨の名。④北闕。明帝の陵。今、天の地不詳。周書、明帝紀、辛丑朔、五月辛未、葬。昭陵（⑥）唐書、明帝紀、辛丑朔、五月辛未、葬。昭陵（⑥）唐書、陝西省昭陵。唐太宗の陵。陝西省醴泉縣。（三秦記、九嵕山、在醴泉縣。）貞觀二十三年、八月庚寅朔、文皇帝崩。辛未、葬。文皇帝紀、貞觀二十年十一月、庚寅、葬。文皇帝紀、貞觀二十年十一月、庚寅、葬。昭陵（⑥）唐書、

髮、巴林・礼勃特・阿勃利鞏応・新生特・克什克騰・敖漢・奈曼・

敏時五輔馬融亦作。是。●**ここに**。そこで。乃ち。接續の助辭。**是**（8—1224）に通じ、**是**（8—1224）に通じ、**是**（8—1224）に通じ、

わけられない。〔荘子・秋水〕知一是非之不可[illegible]爲小、細大之不可[illegible]爲。〔無〕無い。惑いの病別が自分の身とつかない。人情を離れること。〔荘子〕、憺无有無入之境。故是非不入焉、而萬物不入焉。〔是非〕是と否。多開口[illegible]。〔荘子・齊物論〕是非只[illegible]氏多開口[illegible]。〔論語・微子〕是非只[illegible]。〔論語・微子〕是非只[illegible]。〔論語・微子〕是非只

日蝕跌而下」謂「未時」也〔呉越春秋、句踐入臣外傳〕時加反也。〔注〕映、日反也。梁元帝纂要、日在未曰映。●映・10・3745 ⑩〔漢書、天文志〕食至日映、蔽」者ぎる。すべれる。逸・11・3395）に通ず。

〔戦国策、齊策〕「都邑、修人尺有餘、而形視親」〔注〕映、讀曰蔽、美好也。

【昴】13865

㊀ボウ　㊁バウ　㊂ボウ　㊃ボウ

（集韻）莫飽切　宵　（ぼう）

（集韻）或交切　肴

（集韻）莫侯切　侯

（集韻）力求切　尤

①星宿の名。すばる。二十八宿（1・247・3）の第四宿。もと昴（6・1396）に作る（正字通）「昴、昴本作、（説文）昴、白虎宿星、从日卯聲、爾雅、釋天、大梁、昴也、西陸、昴也、（注）昴、西方之宿、別名、鶉頭、（書、堯典）日、星昴、（傳）昴、白虎之中星。

〔昴陸〕〔書、堯典〕「星昴、（傳）昴、白虎之中星。」ことから、黄道の人の生れるを用ひる時、〔春秋、緯佐助期〕「黄道、星昴、於魯、通紀開闢、」〔春秋、緯演孔圖〕「昴、星、於魯、通紀開闢、」〔春秋、緯佐助期〕「黄道、星昴

【昌】13870 ヨン

昌(9—12372)に同じ。（廣韻豆・今作「昌」同。

【昌】13871 ケイ キャウ

あきらか。（篇海）「古熒切」圓

【旱】13872 サウ

旱(9—12342)の本字。（康熙字典・旱・說文作「旱」）

【昨】13873 音未詳

昨・怯・昨・水名也。其水濁之能腐手。見佛經。音未詳。

【昱】13874 トウ

冬(8—1610)に同じ。（字彙補）・與冬同。

【昧】13875 トウ

冬(8—1610)に同じ。（篇韻）・同・冬。

【曶】13876 サク

四(9—14236)の俗字。（康熙字典・曶・按卽四字之譌。

【曷】13877 サク シャク

告げる。（篇海類編）整本切 圓

音義未詳。（字彙補）・曷・告也。

【曹】13879 ソウ

森(9—13844)に同じ。（龍龕手鏡）・同・森。

【曹】13878 音義未詳

（字彙補）・曹・見・金光明經。

【戚】13880 クワツ

義未詳。（廣韻）・戚・音聒。

【眈】13881 シン

嗔(9—13843)に同じ。（龍龕手鏡）・眈・同・嗔。

【昧】13882 キョ

義未詳。（篇海）・昧・音去。

【香】13883 ミツ

義未詳。（復廣玉篇）・香・音密。

【晃】13884 テイ

義未詳。（龍龕手鏡）・晃・音頂。

【昕】13885 カウ

昂(9—12326)の俗字。（篇海）・昕・俗作・昂・譌。

【昼】13886 チウ

晝(9—12326)の俗字。「宋元以來俗字譜」・晝・通俗小說作・昼。

【晄】13887 キツ キチ

はやい。すみやか。（集韻）・晄・必切 圓

（集韻）・晄・急速。

六畫

【晃】13889 日テイ イ幺 日テイ

（集韻）駛遥切 圓

日・晃・直紹切 圓

あきらか。（篇韻）・晄・明也。

日・晃の名。又、姓。（魏書・19—473)・朝・16（14374）に同じ。（集韻）・晃・說文・匡・晃也。揚雄說・匡・晃・杜林以爲・朝・旦・非是・或作・晃・亦姓。（漢書・景帝紀）・御史大夫晃錯。（注）・師古曰・晃・古朝字。（司馬相如・上林賦・晃・宋・晃・注）・晃・五臣作・朝。（通志・氏族略）・以・名・爲・氏・晃氏・亦作・朝・亦作・鼂・姬姓・周景王子王子・朝之後・朝亦作・鼂・云・鼂・大夫史克之後・望出・潁川・京兆。（日・晃は・縣名・（集韻）・晃・晃縣・縣名・在・東・陽。

【晃竟】13890 明・胡廣（9—12326—138）の號。

【晃銘】13891 後魏の人。・樂の弟。北人の・詩を善くす。官は黃門侍郎。其の家奴に銘反すと告げられ死を賜はる。（魏書・九十一）

【晃遇】13892 宋、清曹の人。字は明遠。・雄は文元・太平興國の進士。官は眞宗の時・工部尚書・集賢院學士・後・太子少保を以て致仕す。詩をよくし、西嵩體に通じ、又、吐納養生の術を善く・書家を兼ねる。著に・翰林集・・遺院集・法帖碎金・・養智錄がある。（宋史・三百五十）

【晃陽】13893 安倍仲麻呂の唐名。・號は朝・と同じ。（李白・送・・衡・・詩・・・

清谷居士、將、迪功郎を稱はる。

晃說之[人名]。宋の人。陽春の子。字は以道、號は陳正生。司馬光の人となりを謂り、自ら慕正と號す。元祐中、秘書省校勘に任ぜられ、官は徽猷閣待制。博、能書を善くし、六經・諸子・百家の書を讐くし、文章に長じ、著述に多し。紹熙二年、字を改め、七十一、著に『讐』・『晁氏客語』等の著がある。

晃宗愈[人名]。宋の人。迥の從子。字は世恭。官は侍郎の長官。未詳。

晃宗慤[人名]。宋の人。迥の子。字は世慤。『遂初堂書目』に『晁者の孫をつぐ秘書丞』とある

卻而求 時夜[〈釋文〉崔云、時夜、司夜、調、鷄也。❸まく。時❹31546に通ず。説文通訓定聲 時、假借爲時、書、舜典[〈孟子〉萬章下]百穀[〈鄭注〉時、讀爲蒔。]種殖。字は❻16293に通ず。説文通訓定聲 時、假借爲時、爾雅釋言、室中謂之[〈後漢書〉越紀]

[時鏗]『ｓ』ｔｓｈｅｎｇ　明、臨清の人。字は敬學。官は西安知府。

[時憲]『ｓ』ｘｉａｎ　季節節節にする さかもり。「國語、周語中」歳祈于農時、時是不汪（注）時之間必有資糧不、至于公祭。

[時義]『ｓ』ｙｉ　元、許天麒（G.10329‥1380）の字。「本草備要、三回」雖然時令迎順命長、目下、（本草備要）三回」雖然時令迎順命長、目下、（本草備要）三回」雖然時令迎順命長、目下、（本草備要）

銅、紀與、采鄭皆器、鐘・金属ゝ之以供識時。●時・時計。『後漢書』張衡傳「時・時計。」『周禮』「時・時計。」『後漢書』張衡傳「時・時計。」『後漢書』張衡傳「時・時計。」『後漢書』張衡傳

能」教時思」讀讀以文。鬼。

[時換]四字。時がかはる。時換のようりかた。

[時鶏]四字。張九齢上張丞相書「客得移子鶏」時春賞時鶏、換皇恩喚不移。(後代、乙未冬忘詩)

[時鶏]四字。時にみる。(礎、筆記)時鶏而弗覩。

[時鶏]四字。ときのねがい。(柴桂、思慎詩)遊思鶏時鶏、青雲未可已。

[時若]四字。時若。(後漢書、崔駰伝)文中子曰、封侯非古也、其業蔚之作、心平、蓋其晴生常行、而於禍無所本、故自上溯以來、時生常行、同、至於不能決、則出於時若乎。(論語)「時若」、「時」、「若」、「時」、「若」、「時」、「

時歳 [時]ⅠⅠ 。ときと。とし。歳月。歳時。〔遠近〕秋興録 [時]ⅠⅠ 。〔夕陽代〕遠近目百官。〔遠岳〕喜遊詩 [時]ⅠⅠ 。〔高宗紀〕亡国遠近水流今。時歳若其歳。

〔南夷伝〕高宗紀上 [時]ⅠⅠ 。〔高宗紀〕亡国遠近水流今。時歳若其歳。

時濟 [時]ⅠⅠ 。字鏡。東郡人。〔東郡人〕時濟。

時鏡 [時]ⅠⅠ 。元〔象奏言〕1437・22/0。鏡。〔清・張九齢〕4・98/12・3890/0。鏡。〔清・汪水雲〕6・17154・3950/0。鏡。

時裝 [時]ⅠⅠ 。其の時代流行のようをはしり。〔後漢書〕献帝伝上 [時]ⅠⅠ 。〔諸郡・趙岐〕裝者、書名、余煢、音時裝。

時礼 [時]ⅠⅠ 。〔周礼・天官・冢宰〕時礼。

時司 [時]ⅠⅠ 。隋唐宋の職官。時代を告げるこ

時紀 [時]ⅠⅠ 。四季のまつり。〔周礼・地官・牧人〕凡牲則共之。必用全牲。〔注・疏〕〔魏・鄭衆注〕時紀、謂山川以下至四方百物。〔魏・鄭衆注〕時紀、若三月之時祀、日月日、亦全此時祀也。

時紀 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時紀。

時祀 [時]ⅠⅠ 。〔周礼・春官・大宗伯〕時祀。

時止 [時]ⅠⅠ 。とどまるべき時。〔易・艮〕時止則止。

時行 [時]ⅠⅠ 。動静が〔天道〕。

時司 [時]ⅠⅠ 。隋唐宋の職官。時代を告げるこ

時紀 [時]ⅠⅠ 。四季のまつり。〔周礼・地官・牧人〕凡牲則共之。必用全牲。〔注・疏〕〔魏・鄭衆注〕時紀、若三月之時祀、日月日、亦全此時祀也。

時代 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時代。

時日 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時日。

時代 [時]ⅠⅠ 。時代。

時代 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時代。

時日 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時日。

時止 [時]ⅠⅠ 。とどまるべき時。〔易・艮〕時止則止。

時行 [時]ⅠⅠ 。動静が〔天道〕。

時司 [時]ⅠⅠ 。隋唐宋の職官。時代を告げるこ

時紀 [時]ⅠⅠ 。四季のまつり。〔周礼・地官・牧人〕凡牲則共之。必用全牲。〔注・疏〕〔魏・鄭衆注〕時紀、若三月之時祀、日月日、亦全此時祀也。

時代 [時]ⅠⅠ 。時代。

時日 [時]ⅠⅠ 。〔礼・祭義〕時日。

時代 [時]ⅠⅠ 。

面至、或癸在鼎耳、或幽敵孩鼎、能皆不見。時
雖以身書絡、雖有、紀年之稱、而非大推之
致、此亦于音韻、無、有、紀年之稱、而非大推之
〔時宿 ㄕ 元、程瑤學 ㄕ 5492 ㄕ 5493〕元程瑤學の字。
宿 ㄕ 5494 ㄕ 5495 ㄕ 5496 ㄕ 5497 ㄕ 5498 ㄕ 5499 ㄕ 5500 ㄕ 5501 ㄕ 5502 ㄕ 5503 ㄕ 5504 ㄕ 5505 ㄕ 5506 ㄕ 5507 ㄕ 5508 ㄕ 5509 ㄕ 5510 ㄕ 5511 ㄕ 5512 ㄕ 5513 ㄕ

云故經之以五事云云云云、曰道、曰天、曰天三曰地、四曰將、五曰法、云云、天者、陰陽寒暑、時制也、曰將者、智信仁勇嚴、曰法者、曲制官道主用者、皆是也、今欲伐人、先問其將、將賢則能、將不賢則不能、將能風、定之方、庠序、皆是、城市、而營壘、皆是、將能察、將能

留〔鄭谷次〕雖強輔國因寡食見君之什詩〕時嬰惕惕隨人上下、花心自被無情惱。

時代 ⓜ 名。時世。〔宋書・禮志〕「其時代相承、故不改焉。」〔後漢書・郭躬傳〕「躬等生來、時代移易、故死生之分、不可不明。」〔後漢書・馮翊中山詩〕「欲聖賢法、時代行之

藝文志」同。●見兩「時期」也。「魏志」王粲傳「遭時難」注「時時難」。「劉琨」勸進表「時時難」。「時時難」。「時時難」。

程禍傳荀且之謀後宋衆人之說說者時時而之大者。●四時の象徴によって生ずるもの。（雷聲）

【時時】[illegible]。一定の常期が無くて、事あるごとに天下に時時を時する時。而傳。春官。大宗伯。肆師。有事乃時。之時。（周禮。秋官。大行人）時時以時。

【時祭】[illegible]。其の時の祭祀。嘗時の祭者。時祠。（嘗書。時元賞傳。能推之時祭。（孫奭。孟子正義）

【時表】[illegible]。時計。

【時苗】[illegible]。春苗。（禮記。河海篇作時表。

【嗜時】東山。嗜。毛詩。時苗。●春秋。（時苗留獲）[illegible]。

【時苗留獲】[illegible]。秋獲の標題。後漢の説が獲帝の時、青州刺史の時、青州刺史の時、青州刺史

既據不可考。(書:洪範)曰乂,時雨若。

時養 [illegible]。四時の養しなり。(日虎通:禮樂)

時樣 [illegible]。其の時代の樣式。(師道:禮樂)

時樣 [illegible]。其の時代のはやりのすがた。當時の流行のもの。(師道:禮樂)

時樣 [illegible]。其の時代の英雄。(書:禮樂)

時樣 [illegible]。其の時代の人。(後漢書:李南の傳贊:後漢:光武帝紀)

時樂 [illegible]。ときのあそび。時樂。(晉書:傅咸の傳)

時樂 [illegible]。以時樂。(晉書:傅咸の傳)

時樂 [illegible]。樂器。(後漢書:馮魴の傳)

時樂 [illegible]。樂器。(後漢書:馮魴の傳)

時樂 [illegible]。樂器。(後漢書:馮魴

[時王]時王 其の時の王。當時の天子。〔公羊傳〕元年「春王正月」注）欲言時王則無事。欲言先王者無緒（注）欲言時王則無事。欲言先王者無緒（注）〔穀梁〕桓二「春王正月」注）「雉公子」年稱侯（今稱子）為時王。

[時往]時往 時がゆきすぎる。〔陸機・猛虎行〕「時往功未建」時に勤勉。

[時運]時運 其の時の情勢に應ずる。〔史記・秦始皇紀〕「時代の勢をすくいて、又、時勢の衰を救助す」（秦皇）「時運を救助す」（秦皇）

[救時]救時 時代の勢をすくい、又、時勢の衰を救助す。〔秦皇紀〕「時運を救助す」（秦皇）

[波時]波時 時を形成する。時は春夏秋冬の中の一。〔禮・郷飲酒義〕「春夏秋冬、時也」月別夜時。〔陸機・長安道〕「月別夜時」

[鉦時]鉦時 〔陸機・長安道〕「月別夜時」

[臣鄙]臣鄙 臣鄙。

[得時]得時 よい時機を得る。運が開ける。〔荀子・說苑〕「時者百人、慮者一人」「得時者興、失時者亡」（慮南子・原道訓）非爭其先也、而爭其得時也。「得時則興、失時則亡」（史記・老子傳）君子得其時、小人得其時。

[得時無怠]得時無怠 歳月は人を待たない。〔論語・陽貨〕「日月逝矣、歲不我與」（論語・陽貨）「日月逝矣、歲不我與」（論語・陽貨）

[得時無怠]得時無怠 時を得たら怠ってはならない。〔論語・陽貨〕「日月逝矣、歲不我與」（論語・陽貨）

[不時]不時 其の時でない。ときにつれてのあり方。〔論語・鄉黨〕「不時、不食」（論語・鄉黨）

[時]時 其の時でない。ときにつれてのあり方。〔論語・鄉黨〕「不時、不食」（論語・鄉黨）

[時]時 ほどよい。

[時鳥]時鳥 時鳥の異名。〔和名抄〕「時鳥、水鳥、一説ときどりと云ふ。ときどりにとどろき時法鳥」

[時]時 滿潮の時に吹く風。又、時節に相應して吹く風。

[時時]時時 ◎時。

[時]時 ◎時。

[時]時 ◎時。

[時]

與時浮沉」[illegible]。時勢に応じて[illegible]する。與時俱同と同じ。

「[illegible]」[illegible]。好機を利用せず衆人の[illegible]。

「時節[illegible]」[illegible]。世が紛れて[illegible]。

「時節[illegible]」[illegible]。[illegible]。

「時讀書」[illegible]。[illegible]。

「時邁」[illegible]。[illegible]。

「時[illegible]」[illegible]。[illegible]。

「時[illegible]」[illegible]。[illegible]。

「時[illegible]

晉

13898

甲骨文 [illegible]　金文 [illegible]　[illegible]シン（集韻）卻刀切　[illegible]シン（集韻）子賜切　[illegible]セン（集韻）子賜切

（說文）晉、進也。日出而萬物進。从日从臸。臸、古文以爲蒼莽字。臸、古文以爲蒼莽字。臸、古文以爲蒼莽字

卓立如鈴。因名。岑陵一山接瞻，江流有大蟹穿伺。從山麓至蟹，長百二十餘步。蟹穿伺，大如斗，能於水低昂。若見，尤不可測。云云。晉志：江之名。●晉新蔡，置。又，舊城，新蔡縣西北。故城，在今縣東。●晉陵，置。又，舊城，武進縣西。故城，在今縣東。●晉陵郡

也、云云。後魏孝昭帝、皇興末補州、太和中録、李昌中改、置唐州、又改、晉州、東魏北齊皆爲唐郡、隋開皇初、又改、晉州、皆因、云云。唐置三州、領縣十四、會、置、故治山西省臨汾縣西南、⑩又、置、故治山西省襄陵縣西北、⑪又、置、故治山西省太平縣西南、⑫又、置、故治山西省翼城縣東、⑬又、置、故治山西省曲沃縣西、⑭又、置、故治山西省絳縣西北、⑮又、置、故治山西省聞喜縣西北、⑯又、置、故治山西省垣曲縣東南、⑰又、置、故治山西省平陸縣東北、⑱又、置、故治山西省夏縣西北、⑲又、置、故治山西省平陽縣、⑳又、置、故治山西省臨汾縣西南、㉑又、置、故治山西省浮山縣東北、㉒又、置、故治山西省吉縣東南、㉓又、置、故治山西省隰縣西南、㉔又、置、故治山西省蒲縣東南、㉕又、置、故治山西省大寧縣西南、㉖又、置、故治山西省永和縣西南、㉗又、置、故治山西省石樓縣西南、㉘又、置、故治山西省汾西縣東南、㉙又、置、故治山西省霍邑縣西南、㉚又、置、故治山西省趙城縣東南、㉛又、置、故治山西省洪洞縣東南、㉜又、置、故治山西省臨汾縣東南、㉝又、置、故治山西省襄陵縣西北、㉞又、置、故治山西省太平縣西南、㉟又、置、故治山西省翼城縣東、㊱又、置、故治山西省曲沃縣西、㊲又、置、故治山西省絳縣西北、㊳又、置、故治山西省聞喜縣西北、㊴又、置、故治山西省垣曲縣東南、㊵又、置、故治山西省平陸縣東北、㊶又、置、故治山西省夏縣西北、㊷又、置、故治山西省平陽縣、㊸又、置、故治山西省臨汾縣西南、㊹又、置、故治山西省浮山縣東北、㊺又、置、故治山西省吉縣東南、㊻又、置、故治山西省隰縣西南、㊼又、置、故治山西省蒲縣東南、㊽又、置、故治山西省大寧縣西南、㊾又、置、故治山西省永和縣西南、㊿又、置、故治山西省石樓縣西南、(51)又、置、故治山西省汾西縣東南、(52)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(53)又、置、故治山西省趙城縣東南、(54)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(55)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(56)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(57)又、置、故治山西省太平縣西南、(58)又、置、故治山西省翼城縣東、(59)又、置、故治山西省曲沃縣西、(60)又、置、故治山西省絳縣西北、(61)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(62)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(63)又、置、故治山西省平陸縣東北、(64)又、置、故治山西省夏縣西北、(65)又、置、故治山西省平陽縣、(66)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(67)又、置、故治山西省浮山縣東北、(68)又、置、故治山西省吉縣東南、(69)又、置、故治山西省隰縣西南、(70)又、置、故治山西省蒲縣東南、(71)又、置、故治山西省大寧縣西南、(72)又、置、故治山西省永和縣西南、(73)又、置、故治山西省石樓縣西南、(74)又、置、故治山西省汾西縣東南、(75)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(76)又、置、故治山西省趙城縣東南、(77)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(78)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(79)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(80)又、置、故治山西省太平縣西南、(81)又、置、故治山西省翼城縣東、(82)又、置、故治山西省曲沃縣西、(83)又、置、故治山西省絳縣西北、(84)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(85)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(86)又、置、故治山西省平陸縣東北、(87)又、置、故治山西省夏縣西北、(88)又、置、故治山西省平陽縣、(89)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(90)又、置、故治山西省浮山縣東北、(91)又、置、故治山西省吉縣東南、(92)又、置、故治山西省隰縣西南、(93)又、置、故治山西省蒲縣東南、(94)又、置、故治山西省大寧縣西南、(95)又、置、故治山西省永和縣西南、(96)又、置、故治山西省石樓縣西南、(97)又、置、故治山西省汾西縣東南、(98)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(99)又、置、故治山西省趙城縣東南、(100)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(101)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(102)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(103)又、置、故治山西省太平縣西南、(104)又、置、故治山西省翼城縣東、(105)又、置、故治山西省曲沃縣西、(106)又、置、故治山西省絳縣西北、(107)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(108)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(109)又、置、故治山西省平陸縣東北、(110)又、置、故治山西省夏縣西北、(111)又、置、故治山西省平陽縣、(112)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(113)又、置、故治山西省浮山縣東北、(114)又、置、故治山西省吉縣東南、(115)又、置、故治山西省隰縣西南、(116)又、置、故治山西省蒲縣東南、(117)又、置、故治山西省大寧縣西南、(118)又、置、故治山西省永和縣西南、(119)又、置、故治山西省石樓縣西南、(120)又、置、故治山西省汾西縣東南、(121)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(122)又、置、故治山西省趙城縣東南、(123)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(124)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(125)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(126)又、置、故治山西省太平縣西南、(127)又、置、故治山西省翼城縣東、(128)又、置、故治山西省曲沃縣西、(129)又、置、故治山西省絳縣西北、(130)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(131)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(132)又、置、故治山西省平陸縣東北、(133)又、置、故治山西省夏縣西北、(134)又、置、故治山西省平陽縣、(135)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(136)又、置、故治山西省浮山縣東北、(137)又、置、故治山西省吉縣東南、(138)又、置、故治山西省隰縣西南、(139)又、置、故治山西省蒲縣東南、(140)又、置、故治山西省大寧縣西南、(141)又、置、故治山西省永和縣西南、(142)又、置、故治山西省石樓縣西南、(143)又、置、故治山西省汾西縣東南、(144)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(145)又、置、故治山西省趙城縣東南、(146)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(147)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(148)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(149)又、置、故治山西省太平縣西南、(150)又、置、故治山西省翼城縣東、(151)又、置、故治山西省曲沃縣西、(152)又、置、故治山西省絳縣西北、(153)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(154)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(155)又、置、故治山西省平陸縣東北、(156)又、置、故治山西省夏縣西北、(157)又、置、故治山西省平陽縣、(158)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(159)又、置、故治山西省浮山縣東北、(160)又、置、故治山西省吉縣東南、(161)又、置、故治山西省隰縣西南、(162)又、置、故治山西省蒲縣東南、(163)又、置、故治山西省大寧縣西南、(164)又、置、故治山西省永和縣西南、(165)又、置、故治山西省石樓縣西南、(166)又、置、故治山西省汾西縣東南、(167)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(168)又、置、故治山西省趙城縣東南、(169)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(170)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(171)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(172)又、置、故治山西省太平縣西南、(173)又、置、故治山西省翼城縣東、(174)又、置、故治山西省曲沃縣西、(175)又、置、故治山西省絳縣西北、(176)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(177)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(178)又、置、故治山西省平陸縣東北、(179)又、置、故治山西省夏縣西北、(180)又、置、故治山西省平陽縣、(181)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(182)又、置、故治山西省浮山縣東北、(183)又、置、故治山西省吉縣東南、(184)又、置、故治山西省隰縣西南、(185)又、置、故治山西省蒲縣東南、(186)又、置、故治山西省大寧縣西南、(187)又、置、故治山西省永和縣西南、(188)又、置、故治山西省石樓縣西南、(189)又、置、故治山西省汾西縣東南、(190)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(191)又、置、故治山西省趙城縣東南、(192)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(193)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(194)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(195)又、置、故治山西省太平縣西南、(196)又、置、故治山西省翼城縣東、(197)又、置、故治山西省曲沃縣西、(198)又、置、故治山西省絳縣西北、(199)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(200)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(201)又、置、故治山西省平陸縣東北、(202)又、置、故治山西省夏縣西北、(203)又、置、故治山西省平陽縣、(204)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(205)又、置、故治山西省浮山縣東北、(206)又、置、故治山西省吉縣東南、(207)又、置、故治山西省隰縣西南、(208)又、置、故治山西省蒲縣東南、(209)又、置、故治山西省大寧縣西南、(210)又、置、故治山西省永和縣西南、(211)又、置、故治山西省石樓縣西南、(212)又、置、故治山西省汾西縣東南、(213)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(214)又、置、故治山西省趙城縣東南、(215)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(216)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(217)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(218)又、置、故治山西省太平縣西南、(219)又、置、故治山西省翼城縣東、(220)又、置、故治山西省曲沃縣西、(221)又、置、故治山西省絳縣西北、(222)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(223)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(224)又、置、故治山西省平陸縣東北、(225)又、置、故治山西省夏縣西北、(226)又、置、故治山西省平陽縣、(227)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(228)又、置、故治山西省浮山縣東北、(229)又、置、故治山西省吉縣東南、(230)又、置、故治山西省隰縣西南、(231)又、置、故治山西省蒲縣東南、(232)又、置、故治山西省大寧縣西南、(233)又、置、故治山西省永和縣西南、(234)又、置、故治山西省石樓縣西南、(235)又、置、故治山西省汾西縣東南、(236)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(237)又、置、故治山西省趙城縣東南、(238)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(239)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(240)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(241)又、置、故治山西省太平縣西南、(242)又、置、故治山西省翼城縣東、(243)又、置、故治山西省曲沃縣西、(244)又、置、故治山西省絳縣西北、(245)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(246)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(247)又、置、故治山西省平陸縣東北、(248)又、置、故治山西省夏縣西北、(249)又、置、故治山西省平陽縣、(250)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(251)又、置、故治山西省浮山縣東北、(252)又、置、故治山西省吉縣東南、(253)又、置、故治山西省隰縣西南、(254)又、置、故治山西省蒲縣東南、(255)又、置、故治山西省大寧縣西南、(256)又、置、故治山西省永和縣西南、(257)又、置、故治山西省石樓縣西南、(258)又、置、故治山西省汾西縣東南、(259)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(260)又、置、故治山西省趙城縣東南、(261)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(262)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(263)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(264)又、置、故治山西省太平縣西南、(265)又、置、故治山西省翼城縣東、(266)又、置、故治山西省曲沃縣西、(267)又、置、故治山西省絳縣西北、(268)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(269)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(270)又、置、故治山西省平陸縣東北、(271)又、置、故治山西省夏縣西北、(272)又、置、故治山西省平陽縣、(273)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(274)又、置、故治山西省浮山縣東北、(275)又、置、故治山西省吉縣東南、(276)又、置、故治山西省隰縣西南、(277)又、置、故治山西省蒲縣東南、(278)又、置、故治山西省大寧縣西南、(279)又、置、故治山西省永和縣西南、(280)又、置、故治山西省石樓縣西南、(281)又、置、故治山西省汾西縣東南、(282)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(283)又、置、故治山西省趙城縣東南、(284)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(285)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(286)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(287)又、置、故治山西省太平縣西南、(288)又、置、故治山西省翼城縣東、(289)又、置、故治山西省曲沃縣西、(290)又、置、故治山西省絳縣西北、(291)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(292)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(293)又、置、故治山西省平陸縣東北、(294)又、置、故治山西省夏縣西北、(295)又、置、故治山西省平陽縣、(296)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(297)又、置、故治山西省浮山縣東北、(298)又、置、故治山西省吉縣東南、(299)又、置、故治山西省隰縣西南、(300)又、置、故治山西省蒲縣東南、(301)又、置、故治山西省大寧縣西南、(302)又、置、故治山西省永和縣西南、(303)又、置、故治山西省石樓縣西南、(304)又、置、故治山西省汾西縣東南、(305)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(306)又、置、故治山西省趙城縣東南、(307)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(308)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(309)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(310)又、置、故治山西省太平縣西南、(311)又、置、故治山西省翼城縣東、(312)又、置、故治山西省曲沃縣西、(313)又、置、故治山西省絳縣西北、(314)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(315)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(316)又、置、故治山西省平陸縣東北、(317)又、置、故治山西省夏縣西北、(318)又、置、故治山西省平陽縣、(319)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(320)又、置、故治山西省浮山縣東北、(321)又、置、故治山西省吉縣東南、(322)又、置、故治山西省隰縣西南、(323)又、置、故治山西省蒲縣東南、(324)又、置、故治山西省大寧縣西南、(325)又、置、故治山西省永和縣西南、(326)又、置、故治山西省石樓縣西南、(327)又、置、故治山西省汾西縣東南、(328)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(329)又、置、故治山西省趙城縣東南、(330)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(331)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(332)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(333)又、置、故治山西省太平縣西南、(334)又、置、故治山西省翼城縣東、(335)又、置、故治山西省曲沃縣西、(336)又、置、故治山西省絳縣西北、(337)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(338)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(339)又、置、故治山西省平陸縣東北、(340)又、置、故治山西省夏縣西北、(341)又、置、故治山西省平陽縣、(342)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(343)又、置、故治山西省浮山縣東北、(344)又、置、故治山西省吉縣東南、(345)又、置、故治山西省隰縣西南、(346)又、置、故治山西省蒲縣東南、(347)又、置、故治山西省大寧縣西南、(348)又、置、故治山西省永和縣西南、(349)又、置、故治山西省石樓縣西南、(350)又、置、故治山西省汾西縣東南、(351)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(352)又、置、故治山西省趙城縣東南、(353)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(354)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(355)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(356)又、置、故治山西省太平縣西南、(357)又、置、故治山西省翼城縣東、(358)又、置、故治山西省曲沃縣西、(359)又、置、故治山西省絳縣西北、(360)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(361)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(362)又、置、故治山西省平陸縣東北、(363)又、置、故治山西省夏縣西北、(364)又、置、故治山西省平陽縣、(365)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(366)又、置、故治山西省浮山縣東北、(367)又、置、故治山西省吉縣東南、(368)又、置、故治山西省隰縣西南、(369)又、置、故治山西省蒲縣東南、(370)又、置、故治山西省大寧縣西南、(371)又、置、故治山西省永和縣西南、(372)又、置、故治山西省石樓縣西南、(373)又、置、故治山西省汾西縣東南、(374)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(375)又、置、故治山西省趙城縣東南、(376)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(377)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(378)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(379)又、置、故治山西省太平縣西南、(380)又、置、故治山西省翼城縣東、(381)又、置、故治山西省曲沃縣西、(382)又、置、故治山西省絳縣西北、(383)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(384)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(385)又、置、故治山西省平陸縣東北、(386)又、置、故治山西省夏縣西北、(387)又、置、故治山西省平陽縣、(388)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(389)又、置、故治山西省浮山縣東北、(390)又、置、故治山西省吉縣東南、(391)又、置、故治山西省隰縣西南、(392)又、置、故治山西省蒲縣東南、(393)又、置、故治山西省大寧縣西南、(394)又、置、故治山西省永和縣西南、(395)又、置、故治山西省石樓縣西南、(396)又、置、故治山西省汾西縣東南、(397)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(398)又、置、故治山西省趙城縣東南、(399)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(400)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(401)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(402)又、置、故治山西省太平縣西南、(403)又、置、故治山西省翼城縣東、(404)又、置、故治山西省曲沃縣西、(405)又、置、故治山西省絳縣西北、(406)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(407)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(408)又、置、故治山西省平陸縣東北、(409)又、置、故治山西省夏縣西北、(410)又、置、故治山西省平陽縣、(411)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(412)又、置、故治山西省浮山縣東北、(413)又、置、故治山西省吉縣東南、(414)又、置、故治山西省隰縣西南、(415)又、置、故治山西省蒲縣東南、(416)又、置、故治山西省大寧縣西南、(417)又、置、故治山西省永和縣西南、(418)又、置、故治山西省石樓縣西南、(419)又、置、故治山西省汾西縣東南、(420)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(421)又、置、故治山西省趙城縣東南、(422)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(423)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(424)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(425)又、置、故治山西省太平縣西南、(426)又、置、故治山西省翼城縣東、(427)又、置、故治山西省曲沃縣西、(428)又、置、故治山西省絳縣西北、(429)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(430)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(431)又、置、故治山西省平陸縣東北、(432)又、置、故治山西省夏縣西北、(433)又、置、故治山西省平陽縣、(434)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(435)又、置、故治山西省浮山縣東北、(436)又、置、故治山西省吉縣東南、(437)又、置、故治山西省隰縣西南、(438)又、置、故治山西省蒲縣東南、(439)又、置、故治山西省大寧縣西南、(440)又、置、故治山西省永和縣西南、(441)又、置、故治山西省石樓縣西南、(442)又、置、故治山西省汾西縣東南、(443)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(444)又、置、故治山西省趙城縣東南、(445)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(446)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(447)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(448)又、置、故治山西省太平縣西南、(449)又、置、故治山西省翼城縣東、(450)又、置、故治山西省曲沃縣西、(451)又、置、故治山西省絳縣西北、(452)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(453)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(454)又、置、故治山西省平陸縣東北、(455)又、置、故治山西省夏縣西北、(456)又、置、故治山西省平陽縣、(457)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(458)又、置、故治山西省浮山縣東北、(459)又、置、故治山西省吉縣東南、(460)又、置、故治山西省隰縣西南、(461)又、置、故治山西省蒲縣東南、(462)又、置、故治山西省大寧縣西南、(463)又、置、故治山西省永和縣西南、(464)又、置、故治山西省石樓縣西南、(465)又、置、故治山西省汾西縣東南、(466)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(467)又、置、故治山西省趙城縣東南、(468)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(469)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(470)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(471)又、置、故治山西省太平縣西南、(472)又、置、故治山西省翼城縣東、(473)又、置、故治山西省曲沃縣西、(474)又、置、故治山西省絳縣西北、(475)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(476)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(477)又、置、故治山西省平陸縣東北、(478)又、置、故治山西省夏縣西北、(479)又、置、故治山西省平陽縣、(480)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(481)又、置、故治山西省浮山縣東北、(482)又、置、故治山西省吉縣東南、(483)又、置、故治山西省隰縣西南、(484)又、置、故治山西省蒲縣東南、(485)又、置、故治山西省大寧縣西南、(486)又、置、故治山西省永和縣西南、(487)又、置、故治山西省石樓縣西南、(488)又、置、故治山西省汾西縣東南、(489)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(490)又、置、故治山西省趙城縣東南、(491)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(492)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(493)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(494)又、置、故治山西省太平縣西南、(495)又、置、故治山西省翼城縣東、(496)又、置、故治山西省曲沃縣西、(497)又、置、故治山西省絳縣西北、(498)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(499)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(500)又、置、故治山西省平陸縣東北、(501)又、置、故治山西省夏縣西北、(502)又、置、故治山西省平陽縣、(503)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(504)又、置、故治山西省浮山縣東北、(505)又、置、故治山西省吉縣東南、(506)又、置、故治山西省隰縣西南、(507)又、置、故治山西省蒲縣東南、(508)又、置、故治山西省大寧縣西南、(509)又、置、故治山西省永和縣西南、(510)又、置、故治山西省石樓縣西南、(511)又、置、故治山西省汾西縣東南、(512)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(513)又、置、故治山西省趙城縣東南、(514)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(515)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(516)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(517)又、置、故治山西省太平縣西南、(518)又、置、故治山西省翼城縣東、(519)又、置、故治山西省曲沃縣西、(520)又、置、故治山西省絳縣西北、(521)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(522)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(523)又、置、故治山西省平陸縣東北、(524)又、置、故治山西省夏縣西北、(525)又、置、故治山西省平陽縣、(526)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(527)又、置、故治山西省浮山縣東北、(528)又、置、故治山西省吉縣東南、(529)又、置、故治山西省隰縣西南、(530)又、置、故治山西省蒲縣東南、(531)又、置、故治山西省大寧縣西南、(532)又、置、故治山西省永和縣西南、(533)又、置、故治山西省石樓縣西南、(534)又、置、故治山西省汾西縣東南、(535)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(536)又、置、故治山西省趙城縣東南、(537)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(538)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(539)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(540)又、置、故治山西省太平縣西南、(541)又、置、故治山西省翼城縣東、(542)又、置、故治山西省曲沃縣西、(543)又、置、故治山西省絳縣西北、(544)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(545)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(546)又、置、故治山西省平陸縣東北、(547)又、置、故治山西省夏縣西北、(548)又、置、故治山西省平陽縣、(549)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(550)又、置、故治山西省浮山縣東北、(551)又、置、故治山西省吉縣東南、(552)又、置、故治山西省隰縣西南、(553)又、置、故治山西省蒲縣東南、(554)又、置、故治山西省大寧縣西南、(555)又、置、故治山西省永和縣西南、(556)又、置、故治山西省石樓縣西南、(557)又、置、故治山西省汾西縣東南、(558)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(559)又、置、故治山西省趙城縣東南、(560)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(561)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(562)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(563)又、置、故治山西省太平縣西南、(564)又、置、故治山西省翼城縣東、(565)又、置、故治山西省曲沃縣西、(566)又、置、故治山西省絳縣西北、(567)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(568)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(569)又、置、故治山西省平陸縣東北、(570)又、置、故治山西省夏縣西北、(571)又、置、故治山西省平陽縣、(572)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(573)又、置、故治山西省浮山縣東北、(574)又、置、故治山西省吉縣東南、(575)又、置、故治山西省隰縣西南、(576)又、置、故治山西省蒲縣東南、(577)又、置、故治山西省大寧縣西南、(578)又、置、故治山西省永和縣西南、(579)又、置、故治山西省石樓縣西南、(580)又、置、故治山西省汾西縣東南、(581)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(582)又、置、故治山西省趙城縣東南、(583)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(584)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(585)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(586)又、置、故治山西省太平縣西南、(587)又、置、故治山西省翼城縣東、(588)又、置、故治山西省曲沃縣西、(589)又、置、故治山西省絳縣西北、(590)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(591)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(592)又、置、故治山西省平陸縣東北、(593)又、置、故治山西省夏縣西北、(594)又、置、故治山西省平陽縣、(595)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(596)又、置、故治山西省浮山縣東北、(597)又、置、故治山西省吉縣東南、(598)又、置、故治山西省隰縣西南、(599)又、置、故治山西省蒲縣東南、(600)又、置、故治山西省大寧縣西南、(601)又、置、故治山西省永和縣西南、(602)又、置、故治山西省石樓縣西南、(603)又、置、故治山西省汾西縣東南、(604)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(605)又、置、故治山西省趙城縣東南、(606)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(607)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(608)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(609)又、置、故治山西省太平縣西南、(610)又、置、故治山西省翼城縣東、(611)又、置、故治山西省曲沃縣西、(612)又、置、故治山西省絳縣西北、(613)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(614)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(615)又、置、故治山西省平陸縣東北、(616)又、置、故治山西省夏縣西北、(617)又、置、故治山西省平陽縣、(618)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(619)又、置、故治山西省浮山縣東北、(620)又、置、故治山西省吉縣東南、(621)又、置、故治山西省隰縣西南、(622)又、置、故治山西省蒲縣東南、(623)又、置、故治山西省大寧縣西南、(624)又、置、故治山西省永和縣西南、(625)又、置、故治山西省石樓縣西南、(626)又、置、故治山西省汾西縣東南、(627)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(628)又、置、故治山西省趙城縣東南、(629)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(630)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(631)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(632)又、置、故治山西省太平縣西南、(633)又、置、故治山西省翼城縣東、(634)又、置、故治山西省曲沃縣西、(635)又、置、故治山西省絳縣西北、(636)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(637)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(638)又、置、故治山西省平陸縣東北、(639)又、置、故治山西省夏縣西北、(640)又、置、故治山西省平陽縣、(641)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(642)又、置、故治山西省浮山縣東北、(643)又、置、故治山西省吉縣東南、(644)又、置、故治山西省隰縣西南、(645)又、置、故治山西省蒲縣東南、(646)又、置、故治山西省大寧縣西南、(647)又、置、故治山西省永和縣西南、(648)又、置、故治山西省石樓縣西南、(649)又、置、故治山西省汾西縣東南、(650)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(651)又、置、故治山西省趙城縣東南、(652)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(653)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(654)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(655)又、置、故治山西省太平縣西南、(656)又、置、故治山西省翼城縣東、(657)又、置、故治山西省曲沃縣西、(658)又、置、故治山西省絳縣西北、(659)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(660)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(661)又、置、故治山西省平陸縣東北、(662)又、置、故治山西省夏縣西北、(663)又、置、故治山西省平陽縣、(664)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(665)又、置、故治山西省浮山縣東北、(666)又、置、故治山西省吉縣東南、(667)又、置、故治山西省隰縣西南、(668)又、置、故治山西省蒲縣東南、(669)又、置、故治山西省大寧縣西南、(670)又、置、故治山西省永和縣西南、(671)又、置、故治山西省石樓縣西南、(672)又、置、故治山西省汾西縣東南、(673)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(674)又、置、故治山西省趙城縣東南、(675)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(676)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(677)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(678)又、置、故治山西省太平縣西南、(679)又、置、故治山西省翼城縣東、(680)又、置、故治山西省曲沃縣西、(681)又、置、故治山西省絳縣西北、(682)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(683)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(684)又、置、故治山西省平陸縣東北、(685)又、置、故治山西省夏縣西北、(686)又、置、故治山西省平陽縣、(687)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(688)又、置、故治山西省浮山縣東北、(689)又、置、故治山西省吉縣東南、(690)又、置、故治山西省隰縣西南、(691)又、置、故治山西省蒲縣東南、(692)又、置、故治山西省大寧縣西南、(693)又、置、故治山西省永和縣西南、(694)又、置、故治山西省石樓縣西南、(695)又、置、故治山西省汾西縣東南、(696)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(697)又、置、故治山西省趙城縣東南、(698)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(699)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(700)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(701)又、置、故治山西省太平縣西南、(702)又、置、故治山西省翼城縣東、(703)又、置、故治山西省曲沃縣西、(704)又、置、故治山西省絳縣西北、(705)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(706)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(707)又、置、故治山西省平陸縣東北、(708)又、置、故治山西省夏縣西北、(709)又、置、故治山西省平陽縣、(710)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(711)又、置、故治山西省浮山縣東北、(712)又、置、故治山西省吉縣東南、(713)又、置、故治山西省隰縣西南、(714)又、置、故治山西省蒲縣東南、(715)又、置、故治山西省大寧縣西南、(716)又、置、故治山西省永和縣西南、(717)又、置、故治山西省石樓縣西南、(718)又、置、故治山西省汾西縣東南、(719)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(720)又、置、故治山西省趙城縣東南、(721)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(722)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(723)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(724)又、置、故治山西省太平縣西南、(725)又、置、故治山西省翼城縣東、(726)又、置、故治山西省曲沃縣西、(727)又、置、故治山西省絳縣西北、(728)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(729)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(730)又、置、故治山西省平陸縣東北、(731)又、置、故治山西省夏縣西北、(732)又、置、故治山西省平陽縣、(733)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(734)又、置、故治山西省浮山縣東北、(735)又、置、故治山西省吉縣東南、(736)又、置、故治山西省隰縣西南、(737)又、置、故治山西省蒲縣東南、(738)又、置、故治山西省大寧縣西南、(739)又、置、故治山西省永和縣西南、(740)又、置、故治山西省石樓縣西南、(741)又、置、故治山西省汾西縣東南、(742)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(743)又、置、故治山西省趙城縣東南、(744)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(745)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(746)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(747)又、置、故治山西省太平縣西南、(748)又、置、故治山西省翼城縣東、(749)又、置、故治山西省曲沃縣西、(750)又、置、故治山西省絳縣西北、(751)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(752)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(753)又、置、故治山西省平陸縣東北、(754)又、置、故治山西省夏縣西北、(755)又、置、故治山西省平陽縣、(756)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(757)又、置、故治山西省浮山縣東北、(758)又、置、故治山西省吉縣東南、(759)又、置、故治山西省隰縣西南、(760)又、置、故治山西省蒲縣東南、(761)又、置、故治山西省大寧縣西南、(762)又、置、故治山西省永和縣西南、(763)又、置、故治山西省石樓縣西南、(764)又、置、故治山西省汾西縣東南、(765)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(766)又、置、故治山西省趙城縣東南、(767)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(768)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(769)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(770)又、置、故治山西省太平縣西南、(771)又、置、故治山西省翼城縣東、(772)又、置、故治山西省曲沃縣西、(773)又、置、故治山西省絳縣西北、(774)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(775)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(776)又、置、故治山西省平陸縣東北、(777)又、置、故治山西省夏縣西北、(778)又、置、故治山西省平陽縣、(779)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(780)又、置、故治山西省浮山縣東北、(781)又、置、故治山西省吉縣東南、(782)又、置、故治山西省隰縣西南、(783)又、置、故治山西省蒲縣東南、(784)又、置、故治山西省大寧縣西南、(785)又、置、故治山西省永和縣西南、(786)又、置、故治山西省石樓縣西南、(787)又、置、故治山西省汾西縣東南、(788)又、置、故治山西省霍邑縣西南、(789)又、置、故治山西省趙城縣東南、(790)又、置、故治山西省洪洞縣東南、(791)又、置、故治山西省臨汾縣東南、(792)又、置、故治山西省襄陵縣西北、(793)又、置、故治山西省太平縣西南、(794)又、置、故治山西省翼城縣東、(795)又、置、故治山西省曲沃縣西、(796)又、置、故治山西省絳縣西北、(797)又、置、故治山西省聞喜縣西北、(798)又、置、故治山西省垣曲縣東南、(799)又、置、故治山西省平陸縣東北、(800)又、置、故治山西省夏縣西北、(801)又、置、故治山西省平陽縣、(802)又、置、故治山西省臨汾縣西南、(803)又、置、故治山西省浮山縣東北、(804)又、置、故治山西省吉縣

論、宜更推利、與都、會與奏云云、兄滿滅大臣引手乞休、得皆成以臣品休我、或晉林、成加我、

【晉紀】[illegible]、字雅、●未、庫損●28256、を之の字●●元字無●●14459、26[illegible]の字。

【晉書】[illegible]、[illegible]、[illegible]、

【晉熙王】[illegible]　南齊宋、劉昶(9-2324-2342)の封爵。

【晉恭帝】[illegible]　司馬德文(9-2327-2351)を見よ。

【晉恭陵】[illegible]　(神年(9-14424-36))の封墓。

【晉恭王】[illegible]　明、朱模(9-17209-95)を見よ。

【晉獻】[illegible]　晉、獻公。驪姬の子。名は詭。諸侯。獻公の病を聞き、逃れ歸り、惠公の死を聞き、秦公を怨み、兵を發して、公子重耳を迎って晉に納る。公、高梁に奔り、重耳、秦を怨って晉に納る。(左氏、僖二十三・二十四(史記・三十九))

【晉懷王】[illegible]　司馬熾(9-2327-2352)を見よ。

【晉頃公】[illegible]　春秋、晉の昭公の子。名は去疾。諸侯。時に、六卿皆強く、晉、弱し。在位十四年。(史記・三十九)

【晉惠公】[illegible]　春秋、晉の獻公の第二子。名は夷吾。諸侯。太子申生死し、夷吾、秦に奔る。獻公薨、奚齊、卓子を殺し、夷吾を迎って入り、公、夷吾よりて秦に河西の地を割し、秦、公を捕て歸り、後、歸す。在位十九年。(左氏、僖十五・二十四(史記・三十九))

【晉惠帝】[illegible]　司馬衷(9-2327-2352)を見よ。

【晉惠陵】[illegible]　太陽陵(9-2324-35)

【晉景公】[illegible]　春秋、晉の成公の子。名は彘。諸侯。郤氏の故を以て楚と結盟し、楚、強くして晉、河に敗る。後、魯、衛、鄭、これに奔を伐、大いに魯の衛を敗る。晉、これより始めて六軍を作る。在位十九年。(左氏、成・十三)(史記・三十九)

【晉景陵】[illegible]　司馬師(9-2327-2352)を見よ。

【晉獻公】[illegible]　春秋、晉の主。武公の子。名は詭諸。諸は獻、始めて絳に都す。公、賈より娶つて子なく、寵姜に愛姪夫人及び太子申生を生み、又、女を取て秦穆夫人及び夷吾を生む。又、驪戎を伐つて驪姬を獲、奚齊を生む。其の娣、卓子を生む。驪姬を獲、奚齊を立てんとし、太子申生を殺し、重耳、夷吾を逐ふ。公、荀息に在位二十六年、虞虢等の諸小國を滅ぼす。晉は、是の時、秦と捷を捷し、北狄に滅し、東は河内に至る。(史記・三十九)

【晉元帝】[illegible]　司馬睿(9-2327-2347)を見よ。

【晉文侯】[illegible]　戰國、晉の主。在位の第8、曲沃に入り、武公、既に曲沃に入り、周、唐叔虞の子、小子侯を殺し、周桓王、被傷を以て晉を誅す。立ち、三十六年、文侯、仲を立て晉を誅す。立ち、三十九年。

【晉文侯】[illegible]　周、唐叔虞の子。徙つて晉水の傍に居り、因つて改めて晉侯と稱す。(史記、三十九)

【晉圉公】[illegible]　宋、王頎(2-13-5)の封爵。

【晉圉侯】[illegible]　明、長安の人。字は肇禹、流寇の亂に被害し、隱居して學を講ず。明人、眞東先生と私謚す。

【晉文惠】[illegible]　晉國の惠力。(戰策、宣、十三)

【晉文惠】[illegible]　晉國の惠力。(戰策、宣、十三)

因魯之賴、因衛之賴、(戰策、宣、十三)

【晉世家】[illegible]　晉の歷史を記した書。乘、田、駑馬、駑馬も名づけ、一說に、載の轍、載時の作、晉之史記、載を以て名づける。(孟子、離婁下)一孟子曰、王者之迹、而詩亡、詩亡然後春秋作。晉之乘、楚之檮杌、魯之春秋、一事也。

【晉惠王】[illegible]　戰國、晉の惠公。(『鮑照集』、代東武吟)

【晉惠王】[illegible]　東武時、鮑照、晉の惠公の子。名は惠、知伯、韓、趙、魏と共に中行氏の滅を分つて惠公を伐ち、怒りて西關を伐ち、起つて敗れて晉に奔り、遂に死す。(史記・三十九)

【晉出帝】[illegible]　石重貴(9-24024-3892)を見よ。

【晉世祖】[illegible]　(神年(9-14497-51))を見よ。(宋書、五行志)一歌曰、晉世事、舞杯盤、云云、今按杯盤粉米上、而名曰、晉世事、舞杯盤、云云、今按杯盤粉米上、而名曰、晉世事者、青州晉世之士、後、粉米盤之名在手也。

【晉成公】[illegible]　春秋、晉世之第、名は黑臀。獻公の子。名は黑臀。諸侯。黑臀を以て迎立す。楚、黑臀を已れ、荀林父、荀林父を以て迎立す。楚、黑臀を已れ、荀林父、荀林父を以て迎立す。楚、黑臀を已れ、荀林父、荀林父

齊桓公に嫁して諸侯に霸となる。在位九年。(左氏傳)九二十四ノ二十八ノ二十二ノ文七ノ五ノ二十二。昭四ノ十二ノ十三。襄八ノ十四ノ二十五ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ文七ノ五ノ二十

(13900)——(13914・5)　日部（六畫）晊晏晛晌晑昭昞晥晠晞晢晡晡晑晏晏晏

(後漢書、郭躬傳)紀瞬、晏晏之政(數)在覽之秘。

【晏陰】ㄧㄢˋ ㄧㄣ 天氣陰暗。(史記、秦始皇紀)黃帝、至今日、以來、未聞有如此之陰也。(注)晏、晏陰、陰暗。

【晏安】ㄧㄢˋ ㄢ 安樂。(後漢書、馮衍傳)晏安鴆毒、沈湎淫荒。(注)晏安、安樂。

【晏起】ㄧㄢˋ ㄑㄧˇ 遲起。(禮記、玉藻)君子不晏起。(注)晏、遲也。(疏)君子、謂大夫、士、言君子不晏起、言君子、謂大夫、士、言君子不晏起、言君子、謂大夫、士、言君子不晏起、言

に列し、柳宗元・韓公郭・郭橋等は晏案に列す。清の孫星衍、音義及び校記を作る。〔四庫提要〕史傳記載。

〔参考書〕〔晏子春秋音義二卷〕清、孫星衍撰。〔經籍訪古志〕〔晏子春秋集解〕十二卷〔十二卷〕〔晏子春秋集解〕。

〔晏子之御者〕〔晏子〕名。〔晏子〕を見る。

〔晏子以一心事百君〕〔晏子〕〔晏子〕を見る。

〔晏子之一言〕〔晏子〕名。〔晏子〕を見る。

〔晏子以一心事百君者〕〔晏子〕名。〔晏子〕を見る。

〔晏子〕〔晏子〕名。〔晏子〕を見る。

〔晏子〕〔晏子〕名。〔晏子〕を見る。

〔晏子

藥下に殺す。（左氏、哀六・六）。

【晏】 アン 晏嬰（前500）を見よ。

【晏昵】 アンジツ 「漢の宮殿の名。親狎の宴飲會」（漢書、敍傳）。

（注）張晏曰、親狎宴飲會之殿。

【晏陀】 ダ 國の名。今のベルゲル湖南方の Jodamam 諸島に在つた。（三才圖會人物十二）。

【晏嬰】 アンエイ 齊國の人。字は平仲。夷吾の後。身長六尺に滿たぬ。相齊數君。其人物十二、國周圍七千里、人身如三歲嬰兒、故號曰嬰。能食生肉、蛇入耳、敢近中、唾膠、膠、無無無無無、死人亦其國有、聖賢、常有、巨蛇、毒蛇、死人、怪、代不、敢近、有一井、二年、病水、浸流入海、所、通、沙石、經過、靈底、金、和、滿、三才圖會、人物人物）。晏陀國、自日本、凡八千餘里、三才圖會云、晏陀國、自、離無里國、順風而去、其國周圍七千里、人身如三歲嬰兒、故號曰嬰。

【晏天章】 アンテンショウ 宋の人。著に元元機經がある。

【晏教授】 アンキョウジュ 一百千二。

【晏駕】 アンガ 崩。（漢書、敍傳）。

【晏子】 アンシ 宋の人。姓の御橋、字は景初。程顥に學ぶ。官は給事中・權記郎傳師。給事中に除せらる。省に居る二箇月にして凡そ二十四篇を論奏す。李綱、相、講を主とするや、敎授、廷爭、ダンとめ、諫が好問を以て拙逆せ、ずして、ずして、ずして

【晛】13932　カウ　キヤウ　(集韻)古杏切　匣

❶日のひかり。(集韻)晛、日光。❷日がたかい。(玉篇)晛、日高也。

【晛】13933　カン　ゲン　(集韻)胡甫切　匣

❶日の出るさま。(集韻)晛、日出皃。❷早い。(玉篇)晛、欲明也。

【晛】13934　カン　ゲン　(集韻)戶版切　匣

明けかかる。(玉篇)晛、欲明也。

【晛】13935　ヤン　(集韻)戶連切　先

かはる。(集韻)晛、更也。

【晛】13936　ボク　モク　(集韻)莫北切　職

❶つきすすむ。(集韻)晛、突進也。❷晩(10—34303)の誤字。(正字通)晛、晩字之譌。

【晛】13937　コン　(正篇)所夫切　虞

日のひかり。(篇海)晛、日光也。

【晛】13936'　ホ　月字之譌。云云、楊慎曰、晛、古晡字。

晛(9—13932)の古字。(正字通)

【晛】13938　ラウ　(集韻)郎宕切　蕩

ラウ　(集韻)郎宕切　蕩

(集韻)眼、說文、明也、亦姓、或从月。❶姓。❷を見よ。❸さらす。(集韻)晛、暴也。

晛(9—13932)に同じ。(集韻)眼、說文、明也、亦姓、或从月。❶姓。❷を見よ。❸さらす。(集韻)晛、暴也。

【晛】13939　シュン　(集韻)須倫切　眞

暖、小也、从日發聲。❶はやい。(爾雅)釋詁)晛、早也。

【晩】13940　バン　(集韻)武遠切　ベン　mian

❶くれ。ひくれ。ゆふがた。(說文)晩、其也、从日免聲。(古詩)珍。(無仲卿妻作)鶴放纖纖絡、晩成單羅衣。❷おそい。又、おくれる。(呂覽)不侵)君從以難之、不晩也。(注)晩、後也。(史記、主父偏傳)何相見之晩。❸すぎる。をはり。(詩、周頌、臣工、維夏之有、注)晩、後也。(史記、秦書、郊祀志下)雖、晩周亦然焉之。(漢書、郊祀志下)雖、晩周亦然焉。(注)師古曰、晩謂末時也。❹のち。後時。(漢雅、釋詁四)晩、後也。(曹植、東都賦)晩機鳴良寇。(南史、王珍國傳)晩代將家子弟、如珍國、者少矣。❺老年。(史記、孔子世家)孔子晩而喜易、韋編三絶。❻おそく、おもむろにゆるく。(戰國、齊策)

孰與晩救之。(注)晩、徐也。❼あとからきた。生れたもの。己の子。又、後輩。晩生(小の)。❽を見よ。❾晩(10—32437)に通ず。(史記、貨殖傳、輸近世涂、民耳目目、(注)索隱曰、輸、晩、古字通用。❿姓。(萬姓統譜)晩、見姓統譜。古字通用。

【晩】13940'　ボン　(集韻)武遠切　ベン　mian　(集韻)武遠切　ベン　mian

ゆふがた。ゆふべ。夕方のかたすう。夕暮にとぶかから。(詩、小雅、巧言)亂之生矣、維其有之。(注)夕暮、鳥之棲時。(詩、周頌、小毖)予又集于蓼

晚蕙 共挙北鎮。

晚菊 ●ひびく 菊部のこと。〔逸詩〕初刻朝樹 詩 朝雨悲蟬 新蕙 高城明

相見、灘人晚舊山、杜甫、暮春陪李尚書宴中丞通新鄭湖字（泛湖詩）王維詩、晚興、桂樹帶酣歌。

晚局 wǎn jú ㄨㄢˇ ㄐㄩˊ 晚の宴會。晚餐。

晚鳥 wǎn niǎo ㄨㄢˇ ㄋㄧㄠˇ 上國、南詩、晚棲鳥、朱熹詩、秋葉今超遠。

晚年 wǎn nián ㄨㄢˇ ㄋㄧㄢˊ 晚年、晚年、晚年、

く。（白居易『舊友聯句詩』至輕晚就機儇）

晚就開閑 晚就開閑。晚・出來上つたものは、最後まで立派である。（『魏志』王粲傳）

晚日 ㊀ 夕日。（劉希夷『送梁二歸巫山』）

別業 晚日侵簷樹、秋風滿谷蹊。（『劉長卿』）

晚日 ㊁ 夕日。（劉希夷『送梁二歸巫山』）

蒼蒼 晚日侍御、山云秋晚日輝千騎、秋風合三五。（『元稹』）

晚日 ㊂ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊃ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊄ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊅ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊆ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊇ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊈ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊉ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊊ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊋ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊌ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊍ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊎ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊏ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊐ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊑ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊒ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊓ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊔ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊕ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊖ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊗ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊘ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊙ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊚ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊛ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊜ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊝ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊞ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊟ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊠ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊡ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊢ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊣ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊤ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊥ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊦ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊧ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊨ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊩ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊪ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊫ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊬ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊭ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊮ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊯ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊰ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊱ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊲ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊳ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊴ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊵ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊶ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊷ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊸ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊹ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊺ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊻ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊼ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊽ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊾ 夕日。（『李白』）

晚日 ㊿ 夕日。（『李白』）

晚日 (1) 夕日。（『李白』）

晚日 (2) 夕日。（『李白』）

晚日 (3) 夕日。（『李白』）

晚日 (4) 夕日。（『李白』）

晚日 (5) 夕日。（『李白』）

晚日 (6) 夕日。（『李白』）

晚日 (7) 夕日。（『李白』）

晚日 (8) 夕日。（『李白』）

晚日 (9) 夕日。（『李白』）

晚日 (10) 夕日。（『李白』）

晚日 (11) 夕日。（『李白』）

晚日 (12) 夕日。（『李白』）

晚日 (13) 夕日。（『李白』）

晚日

亦稱「晚生」。何世璂詩：「聞說鬱離曾比大樹矣。」阮元生傳：「晚生」。

晚蠶 名 夕方的蠶。李商隱詩：「晚蠶蠶盡絲猶在，春蠟蠟成淚始乾。」

晚霞 名 夕方的霞。李白詩：「晚霞明秀川，芙蓉如錦水。」

晚船 名 夕方的船。杜牧詩：「晚船吹笛月，秋樹一蟬聲。」

晚鐘 名 夕方的鐘。杜牧詩：「晚鐘聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚潮 名 夕方的潮。李白詩：「晚潮生，月出東海。」

晚蟬 名 夕方的蟬。杜牧詩：「晚蟬聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚蟲 名 夕方的蟲。杜牧詩：「晚蟲聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚蝶 名 夕方的蝶。杜牧詩：「晚蝶聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚蝦 名 夕方的蝦。杜牧詩：「晚蝦聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鳥 名 夕方的鳥。杜牧詩：「晚鳥聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚雁 名 夕方的雁。杜牧詩：「晚雁聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鶴 名 夕方的鶴。杜牧詩：「晚鶴聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鷺 名 夕方的鷺。杜牧詩：「晚鷺聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鷹 名 夕方的鷹。杜牧詩：「晚鷹聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鷄 名 夕方的鷄。杜牧詩：「晚鷄聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鶯 名 夕方的鶯。杜牧詩：「晚鶯聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚燕 名 夕方的燕。杜牧詩：「晚燕聲盡日，秋樹一蟬聲。」

晚鴉 名 夕方的鴉。杜牧詩：「晚鴉

日部（七畫）晚

【晚彩】207‥‥‥おそく開く。晚節を保つ。『後漢書』張奐傳「奐晚彩不衰」

【晚誠】207‥‥‥ゆえいのかが。夕方の誠。『詩』小雅「晚誠不忘」

【晚蟬】207‥‥‥ひぐらし。『文選』陸機「晚蟬悲鳴」

【晚切】207‥‥‥夕方の切り。『後漢書』馮魴傳「晚切」

【晚頃】207‥‥‥夕方の頃。『後漢書』馮魴傳「晚頃」

【晚朝】207‥‥‥●朝おそく朝政をとること。『後漢書』馮魴傳「晚朝」●朝晩に宮中に参内す

〔晚母〕ばんぼ 相母。〔顧愛〕『書舞』刑子部人命中。

〔晚年〕ばんねん ❶年の終り。〔謝靈運〕『彭城内史時作』詩 晚年 唯愛 閑居 好。

〔晚春〕ばんしゅん 晩春。〔陶潛〕『歸園田居』詩 晚春 田園 美。

〔晚蟬〕ばんせん 〔陶潛〕『歸園田居』詩 晚蟬 鳴 林 曲。

〔晚年〕ばんねん 〔陸雲〕『悲年賦』『文選』『李尤』九曲 歌 『陸雲』『悲年賦』『文選』『李尤』九曲 歌。

〔晚歌〕ばんか 〔謝靈運〕『登池上樓』詩 晚歌 當 此 地。

〔晚鐘〕ばんしょう 〔謝靈運〕『登池上樓』詩 晚鐘 聞 鳴 鳥。

〔晚鳥〕ばんちょう 〔謝靈運〕『登池上樓』詩 晚鳥 入 林 鳴。

〔晚來〕ばんらい 〔陶潛〕『歸園田居』詩 晚來 無 他 事。

〔晚鳥〕ばんちょう 〔陶潛〕『歸園田居』詩 晚鳥 鳴 林 曲。

〔晚日〕ばんじつ 夕方に日が出る。〔謝靈運〕『登池上樓』詩 晚日 尋 飛 鳥

暴孫〔ハウ〕 來孫の子。部ち玄孫の孫。曾孫。曾孫の子。昆孫。暴孫に同じ。暴孫に同じ。暴孫に同じ

枳椇木。王莽以練旗入知、鄭鄙、故建此號。●
詞神の名。此の詞に平聞と仄聞との両種があ
る。平聞は熟語に用ゐられ、仄聞は単独に用ゐ
る。平聞は熟語の名にもなる。文章の名。宋、歐陽修作。
「晝錦堂記」ｷｮｳｷﾝﾄﾞｳｷ 文章の名。宋、歐陽修作。
歐陽の●(4)を見よ。
「晝夜」ﾁｭｳﾔ ●昼夜うたがふこと。(今象、號令側
隅四面列官員の問目)「晝夜の経を定め、夜漏山月移。
●晝うめく。晝時鳴かなくなること。
「晝夜」ﾁｭｳﾔ ●昼夜を問はず。「晝夜時空注、夜漏山月移。
「戰國策」策策 晝夜行軍。「是歟、羅迫行、上、綽
立不一時、晝時間、七日不得、泰王之朝、晝
「晝臥」ﾁｭｳｶﾞ ひるねをいふ。書院。「越絕書、越
絕外傳記、呉王夫差の事、覺踏而起、
其心側慟、如有所失、晝夜、夢夢、悉字、鄭玄、
「晝夜」ﾁｭｳﾔ ●昼夜を問はず。「夢魂夢、初夢

〔梁書文帝七戒〕徳宜夜詠、樂書晝色、異草雙條、雲氣屢變。●唐開の色、『文選』謝靈運『登池上樓』詩、「(沈佺期『夜遊詩』)月皓遥、晝色()復彫瘁」是。

【晝爲】[illegible] 晝が傾く。午後をいふ。(江淹『雜體詩』)「晝爲傾、午後をいふ。(江淹『雜體詩』)「晝爲傾、午後をいふ。(江淹『雜體詩』)「晝爲傾、

閉。

【晝伏】[illegible] 晝伏、晝臥。晝間臥日。ことば。『荘子』知北遊「病者晝夜不寐而百骸九竅六藏皆有所寄焉。吾何得而有乎。老者如歸。少者懷生。晝夜相代乎前。而莫知其所萌。已矣。未知一晝夜之間。而有生有死焉。已矣。未知一生之所待。而死生有命焉。已矣。其為物。無始而不終。其為人。奚時而不然。已矣。其為日。奚時而不新。於此乎。於此乎。而不知其所為之者。是之謂天根。」

【晝寢】[illegible] 晝寢。ひるね。

【晝夢】[illegible] 晝夢。

【晝日】[illegible] 晝間。

【晝宴】[illegible] 晝間のうたげ。

【晝眠】[illegible] 晝間ねること。『荘子』大宗師「其寢不夢。其覺無憂。其食不甘。其息深深。」

【晝夜】[illegible] 晝間ねることと、夜ねること。ことば。『公羊傳十五』襄公「晝夜而備。」

【晝夜】[illegible] 晝間ねることと、寝ては味と同じ。

【晝夜】[illegible] 晝夜。『荘子』大宗師「其寢不夢。其覺無憂。其食不甘。其息深深。」

晞顔聲 [illegible] 林恕の號。林紫晞(6－14551－273)を見られる。

晞[illegible] 乾いた土。墁は土壁。(淮南子、說林訓)「鍾無力之強、爪牙之利、無所施焉。猶乾墁之上、而欲運車用心也。(注)「晞、乾墁、墁、土壁也。」

晞塊 [illegible] 乾いた土。晞墁に同じ。(文子、上德)「鍾無力之強、爪牙之利、上食晞塊、下飲黃泉者、[illegible]」(注)「晞、本作墁。」

晞月 [illegible] 宋、李唐の[illegible]。日にさらす。陵墓(運進)進月。

晞髮 [illegible] 宋、[illegible]。日にさらす。陵墓(運進)進髮。

晞髮子 [illegible] 乾いた土。大食晞、動髮。(淮南子、說林訓)「鍾無力之強、爪牙之利、無所施焉。猶乾墁之上、而欲運車用心也。(淮南、天文訓)「天鉤動月、鉤者、[illegible]」(注)「鉤、黃泉、[illegible]」(淮南子、[illegible])「[illegible]」(注)「[illegible]」(淮南子、[illegible])「[illegible]」(注)「[illegible]」(淮南子、[illegible])「[illegible]」(注)「

晤會[1]。*n.*。*hari.*。顔を合せる。面會。
晤言[1]。ゴウ。尚ひ合つて語る。相遇つて語る。對話。晤語。又、明かに語ふ。『詩』陳風、東門之池。後漢書、班固、幽通賦。可與晤言。(傳)言、道也。(箋)晤、覺。
晤期[1]。ゴウ。期約。相約。晤期。(漢書、王莽傳。)
晤語[1]。ゴウ。●向ひ合つて語る。又、互にうちとけて語る。晤言。(後漢書、馬援傳。)『詩』陳風、東門之池。後漢書、杜預、大司空公武侯石苞。(傳)苞、深心(書言故事、談論類。)(同類)。談笑。語言文學。國文學。について考證したもの。
晤對[1]。*n.*。*hari.*。面會の上で禮を述べる。
晤商[1]。*n.*。*shari.*。面會の上で相談する。
晤談[1]。*n.*。*hari.*。あつて話する。面會の上、晤語。
晤殺[1]。*n.*。*hari.*。あつて話する。面會の上、晤對。(ゴウ。あふ。面會する。(漢書、蘇武傳。)
晤話[1]。ゴウ。面談する。面會の上、行動して物語る。睦まじく語る。(後漢書、袁紹傳。)
晤期[1]。ゴウ。面談する。面會の上、行動して物語る。睦まじく語る。(後漢書、袁紹傳。)
晤明[1]。ゴウ。あきらかなこと。『說文』晤、明也。

晥 13957

[2]ワン (集韻)戶版切 [潰]
[1]ゲワン (集韻)戶管切 [皇]

晥[2]。ワン。(集韻)。(同)に『集韻』晥、黑書。今、『說文』晥、明也。

晛 13958

ケン (集韻)胡甸切 [現]

晛[1]。ケン。(左傳、成十四)。(同)に『說文』晛、明也。

晬 13959

[1]ハイ (集韻)蒲妹切 [陪]
[2]ボチ (集韻)蒲沒切 [月]

晬[1]。ハイ。(左傳、昭)。(同)に『說文』晬、明也。

晬[2]。ボチ。(集韻)。(同)に『說文』晬、明也。

晬[1]。ハイ。●月の最終日。(說文)晦、月盡也。(賦)旭日晬時。(注)晬日、晦、亦闇也。

晬[2]。ボチ。●月の最終日。(釋名)。釋天)晦、月盡之名

晦。

【晦】[illegible] 字號。❸未。張景(4・39812・25)の字。❹未。陳炳(11・41598・8)の字。❺未。李郎光(—・—・—)の字。❻未。周謝明(8・34441・3)の字。❼未。陳鎮偉(9・37893・3)の字。❽未。張鼎(4・39812・25)の字。❾未。[illegible]の字。❿未。[illegible]の字。⓫未。[illegible]の字。⓬未。[illegible]の字。⓭未。[illegible]の字。⓮未。[illegible]の字。⓯未。[illegible]の字。⓰未。[illegible]の字。⓱未。[illegible]の字。⓲未。[illegible]の字。⓳未。[illegible]の字。⓴未。[illegible]の字。㉑未。[illegible]の字。㉒未。[illegible]の字。㉓未。[illegible]の字。㉔未。[illegible]の字。㉕未。[illegible]の字。㉖未。[illegible]の字。㉗未。[illegible]の字。㉘未。[illegible]の字。㉙未。[illegible]の字。㉚未。[illegible]の字。㉛未。[illegible]の字。㉜未。[illegible]の字。㉝未。[illegible]の字。㉞未。[illegible]の字。㉟未。[illegible]の字。㊱未。[illegible]の字。㊲未。[illegible]の字。㊳未。[illegible]の字。㊴未。[illegible]の字。㊵未。[illegible]の字。㊶未。[illegible]の字。㊷未。[illegible]の字。㊸未。[illegible]の字。㊹未。[illegible]の字。㊺未。[illegible]の字。㊻未。[illegible]の字。㊼未。[illegible]の字。㊽未。[illegible]の字。㊾未。[illegible]の字。㊿未。[illegible]の字。

【晦若】[illegible] 字。[illegible]。

【晦叔】[illegible] 字。[illegible]。

【晦室】[illegible] 字。[illegible]。

【晦日】[illegible] 月の最終日。みそか。(公羊、僖十六)「何以不日。晦日也。(穀梁)[illegible]。(論語、[illegible])「[illegible]。文章の意味があきらかにとぼらない。すらすらと讀める。

【晦貫】[illegible] 晦日の貫祭。(書傳)月晦望、去[illegible]。[illegible]。(曲禮)[illegible]。

【晦貫】[illegible] 晦日の貫祭。(書傳)月晦望、去[illegible]。[illegible]。(曲禮)[illegible]。

【晦朔】[illegible] 晦日の朔。(公羊、僖十六)「何以不日。晦日也。(穀梁)[illegible]。(論語、[illegible])「[illegible]。文章の意味があきらかにとぼらない。すらすらと讀める。

【晦賓】[illegible] 晦日の賓祭。(書傳)月晦望、去[illegible]。[illegible]。(曲禮)[illegible]。

【晦詩】[illegible] 夜に書を讀むこと。([illegible])[illegible]。

【晦室】[illegible] 夜に書を讀むこと。(後漢書、[illegible])[illegible]。

【晦日】[illegible] 晦日の最終日。みそか。(公羊、僖十六)「何以不日。晦日也。(穀梁)[illegible]。(論語、[illegible])「[illegible]。文章の意味があきらかにとぼらない。すらすらと讀める。

【晦賓】[illegible] 晦日の賓祭。(書傳)月晦望、去[illegible]。[illegible]。(曲禮)[illegible]。

【晦詩】[illegible] 夜に書を讀むこと。(後漢書、

晨 13962

シン（集韻）須人切 圓 チン ちさ

晨 小篆 晨 古文

晨（10・1242ウ）に同じ。

●そひ。二十八宿の一。

●あさ。つとめて。しののめ。晨（10・3859）に通ず。〔說文通訓定聲〕晨、假借爲、麻。〔爾雅、釋詁〕晨、早也。〔廣雅、釋詁〕晨、伸也。〔玉篇〕晨、早也。〔廣韻〕晨、早也、明也。〔字彙〕晨、伸也。〔書、顧命〕上。皆定而晨省。〔注〕晨、早也。〔禮、曲禮上〕皆定而晨省。〔疏〕晨、昏也。〔論語、鄉黨〕雖疏食菜羹瓜祭必齊如也。〔釋文〕晨、本或作辰。〔詩、東京賦〕晨、晨正。

●晨、日部。〔七畫〕晨

【晨曦】ちさ。あさくらくること。〔李華、弔古戰場文〕紫微滅燭、彤雲不開。

【晨星】ちさ。仙人の名。流星の名。〔張衡、西京賦〕「晨星」「紫氣」「彤雲」「日月」「星辰」「雲漢」「雨師」「雷公」「電母」「風伯」「雨師」「雷公」「電母」「風伯」「雨師」「雷公」「電母」「風伯

晨鐘 ㄔㄣˊ ㄓㄨㄥ 朝鐘。[唐]杜甫[春望]詩：「白髮三千丈，緣愁似箇長。朝來搔更短，欲不勝簪。」

晨雞 ㄔㄣˊ ㄐㄧ 朝雞。[唐]杜甫[春望]詩：「國破山河在，城春草木深。感時花濺淚，恨別鳥驚心。烽火連三月，家書抵萬金。白髮搔更短，渾欲不勝簪。」

晨月 ㄔㄣˊ ㄩㄝˋ 早晨的月。[張華][博物]：「夜光，晨月之精。」

晨風 ㄔㄣˊ ㄈㄥ ●鳥名。[詩][秦風][黃鳥]：「交交黃鳥，止于楚。楚人之子，有美如此，而為之死。」[毛傳]：「晨風，鷙鳥也。」[陸璣][疏]：「晨風，鷹屬也。一名鳥鳶，一名鷐。」[爾雅][翼]：「鷐，鳥名。」[郭璞][注]：「今之鷂鷹，一名鳥鳶，一名鷐

晨登 ㄔㄣˊ ㄉㄥ 朝早上登高。〔李華、登古戰場〕

晨發 ㄔㄣˊ ㄈㄚ 早晨出發。〔李白、早發白帝城〕

晨昏 ㄔㄣˊ ㄏㄨㄣ 早晨和黃昏。〔杜甫、月夜〕

晨起 ㄔㄣˊ ㄑㄧˇ 早晨起床。〔杜甫、月夜〕

晨光 ㄔㄣˊ ㄍㄨㄤ 早晨的光線。〔李白、早發白帝城〕

晨星 ㄔㄣˊ ㄒㄧㄥ 早晨的星。〔杜甫、月夜〕

晨雞 ㄔㄣˊ ㄐㄧ 早晨的雞。〔李白、早發白帝城〕

晨鐘 ㄔㄣˊ ㄓㄨㄥ 早晨的鐘聲。〔李白、早發白帝城〕

晨風 ㄔㄣˊ ㄈㄥ 鳥名。〔詩、秦風、晨風〕

晨鳧 ㄔㄣˊ ㄈㄨˊ 鳥名。〔李白、古風〕

晨鳳 ㄔㄣˊ ㄈㄥˋ 鳥名。〔李白、古風〕

晨鵠 ㄔㄣˊ ㄏㄨ

【晨】(13962‥131)——(13977)

【晨】(13962‥131) 〔說文〕晨、辰也。從日辰聲。〔徐鍇曰〕辰者、日月之會。故從日辰聲。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。〔詩〕晨風鴥彼。〔傳〕晨、鷐也。〔箋〕鷐、鷹屬。〔疏〕晨、鷐也。〔正義曰〕晨、鷐也。〔釋鳥〕文。〔郭璞注〕鷐、鷹屬。〔陸機疏〕鷐、今鷹也。

【晉】(13963) シン

【晉】(13963) 同上。〔集韻〕晉、或作晉。

【晉】(13964) バク

【晉】(13964) 同上。〔集韻〕晉、同晉本字。

【昇】(13965) トウ

【昇】(13965) 冬(9—5600)の古字。〔說文〕冬、終、古文冬从日。

【昇】(13966) ショク 〔集韻〕音尿

あきらか。〔集韻〕昇、明也。

【晙】(13967) カク

【晙】(13967) 晙(9—5600)に同じ。〔集韻〕晙、同。晙。

【晉】(13968) コン

【晉】(13968) 晉(9—13959)に同じ。〔集韻〕晉、同。晉。

【晙】(13969) シュン

【晙】(13969) 晙(9—13959)に同じ。〔龍龕〕晙、古文。

【晡】(13970) テン

【晡】(13970) 義未詳。〔五音集韻〕晡、古典。

【晡】(13971) タン

【晡】(13971) 義未詳。〔五音集韻〕晡、古明。

【晡】(13972) ケン

【晡】(13972) 晡(9—13959)の本字。〔正字通〕晡、俗本字。

【晡】(13973) ヘキ

八畫

【晡】(13973) 〔集韻〕晡、暴乾也。

【晡】(13974) テン

【晡】(13974) 〔集韻〕晡、出典切

あきらか。〔集韻〕晡、明也。

【晡】(13975) テン

【晡】(13975) 晡(9—13959)の古字。〔說文〕晡、晡、古文晡。〔段注〕从日晉聲。

【晡】(13976) タク

【晡】(13976) 〔集韻〕晡、吾角切

あきらかなさま。通して卓(9—2741)に作る。〔玉篇〕晡、明皙貌。〔集韻〕晡、明皙。通作卓。

【晡】(13977) サイ スイ

【晡】(13977) 〔集韻〕倡初切

アメで tsui?

晬 小 ひとまはり

年日の誕辰。(説文新附)晬、周年也、从日卒。卒亦聲。(説文新附考)晬獲、卒、盛也、四時時殺聲、故詩曰、何以卒歲、俗加日爲周年之稱。至廣韻、始訓爲周年子。今皆訓子周歲爲晬、蓋非古矣。

【晬時】ｓｈｕ ｓｈｉ 一周年の誕生日。(集韻)晬、子生滿歲。拉加、飲食之物及珍寶飛禽走獸、觀其發意所取、以驗食德愚賢、名之爲試兒。(合類事類)周歲後設日、晬盤(又名)試兒。

晷 小 ヒ

(集韻)正西切 **酒**

はなれる。(集韻)晬、廣雅、離也。

晴 小 ヒ

(集韻)符支切 **麗**

晴 小 シウ

(集韻)正西切 **酒**

あきらか。或は晴の俗字。(集韻)晴、明也、或作晴。

晴 小 シウ

(集韻)疏五切 **鑿**

晴、或作晴。

晴 小 フ

(集韻)頗五切 **鑿**

晴 小 ヒ

普 小 ひろくゆきわたる。

普 小 ひろくゆきわたる。

普 小 ひろくゆきわたる。

告絕行、誅戮、前驅宗廟、以可晉告分知。

【普茶】ふ？？ 隱●黃柴宗で、法會の終りた後、小餐鹽石後、常住普茶、（禪林象器箋、飯野、）千年、誠門（點茶普茶）、象、品巳（普茶）●黃柴宗の調門（點茶普茶）、象、品巳（普茶）●黃柴宗の調門（點茶普茶）、象、品巳（普茶）●黃柴宗の調

〔普出選擧〕ふしゅつせんきょ 擧挙 ［名］ 擧挙 ［名］ 擧挙 ［名］

【菁景】

（菁景鏡 109）西域の葡萄名。唐代葡萄園の地名から使用した鏡の名。紀銅で造られる。（『李朝文獻通考』、『後漢書』）『説郛』の『李朝文獻通考』、『後漢書』、『説文』、『唐語林』、『酉陽雜俎』、『太平廣記

景日也。禄是也。一ひつかる景色。幽景（叡複倫。鑑）。樣山寺。詩（顧入福山寺。詩）景最勝。李中。題（寺。題）。事詩（高格清。妙立。詩）景最勝。

【景勝】ei ei 北宋。仁宗。趙禎の年號。（1022‥1）。

【景祐】ei yū 宋の仁宗。仁宗。趙禎の年號。（1034‥1）。

【景教】ei kō 唐。太宗の時。大秦。景教。

【景教碑】ei kō hi 唐。建中元年。（781）。西安。

【景祺】ei ki 唐。景祺。（⑧‥12843‥12）。

【景祺】ei ki 唐。景祺。（⑧‥12843‥12）。

【景教碑】ei kō hi 唐。景教碑。（⑧‥12843‥12）。

【景教碑文】ei kō hi bun 唐。景教碑文。（⑧‥12843‥12）。

【景教碑頌】ei kō hi shō 唐。景教碑頌。（⑧‥12843‥12）。

【景教碑文頌】ei kō hi bun shō 唐。景教碑文頌

下之化上，疾如影響。

【景仰】[景仰] 仰慕。

推車華蓋高山仰止，景行行止。後漢書，劉恢傳。

（注）景，仰前人。景行行止，詩經小雅，車舝篇。

【景行】[景行] 光明行為。

（注）景，明也。詩經大雅，文王篇。

【景行維止】[景行維止] 高尚的行為。

（注）景，大也。詩經大雅，既醉篇。

【景行行止】[景行行止] 指人的行為。

（注）景，明也。詩經大雅，既醉篇。

【景行行止，四牡騤騤】[景行行止，四牡騤騤] 指人的行為，四馬強壯。

（注）景，大也。詩經大雅，既醉篇。

【景行行止，旨酒既清】[景行行止，旨酒既清] 指人的行為，美酒清香。

（注）景，大也。詩經大雅，既醉篇。

【景行行止，其告維何，籩豆大房】[景行行止，其告維何，籩豆大房] 指人的行為，祭祀的禮儀。

（注）景，大也。詩經大雅，既醉篇。

【景行行止，四牡騤騤，旨酒既清，籩豆大房，萬壽攸同，平平左右，亦是戾止，永錫爾祉，孔惠孔時，維其有之，是以似之，子子孫孫，其類維何，室家之壼，君子萬年，宜爾室家，樂爾妻帑，爾殽既阜，爾庶人之逸，爾公之私，爾殿爾寢，爾牧爾牛，爾羊爾豕，爾酒既多，爾歌既和，爾舞既過，爾籩爾豆，爾殽既嘉，爾殽既時，君子之求，小人之試，爾殽既馨，爾殽既升，爾殽既登，爾殽既稠，爾殽既備，爾殽既具，爾殽既載，爾殽既戒，既備既具，既載既戒，既醉既飽，小人之腹，君子之心

之南者。●字義。(4)天道景象(11・38631・5)の字。●字義(4)・14954・34・5の字。(5)明・張燮4・9812・5511の字。(6)明・沈春(6・17201・2)の字。

【景僊】[illegible]。●後魏・崔浩(8・8178・5)の初名。

【景苑】[illegible]。●後魏・劉昶(9・32327・1)の字。

【景特】[illegible]。●字義。●南朝宋・謝惠連(11・3947・4・1)の字。●清朝(12・47926・1・4)の字。

【景順】[illegible]。●北周・侯莫陳崇(9・32012・2)の字。

【景初】[illegible]。●魏・明帝(1・39647・4・5)の年号。

【景初曆】[illegible]。●魏・劉徽(10・32837・1・13)の字。(8)魏・段文昭(6・18619・10)の字。(9)宋・祖冲之(6・13914・7)の字。(10)宋・張子信(6・13914・7)の字。(11)宋・張賓(6・13914・7)の字。(12)宋・張僧淵(6・13914・7)の字。(13)宋・張明(6・13914・7)の字。(14)宋・朱業文(6・114・24・5)の字。(15)宋・祖暅之(6・13914・7)の字。(16)宋・何承天(6・13914・7)の字。(17)宋・何承天(6・13914・7)の字。(18)宋・何承天(6・13914・7)の字。(19)宋・何承天(6・13914・7)の字。(20)宋・何承天(6・13914・7)の字。(21)宋・何承天(6・13914・7)の字。(22)宋・何承天(6・13914・7)の字。(23)宋・何承天(6・13914・7)の字。(24)宋・何承天(6・13914・7)の字。(25)宋・何承天(6・13914・7)の字。(26)宋・何承天(6・13914・7)の字。(27)宋・何承天(6・13914・7)の字。(28)宋・何承天(6・13914・7)の字。(29)宋・何承天(6・13914・7)の字。(30)宋・何承天(6・13914・7)の字。(31)宋・何承天(6・13914・7)の字。(32)宋・何承天(6・13914・7)の字。(33)宋・何承天(6・13914・7)の字。(34)宋・何承天(6・13914・7)の字。(35)宋・何承天(6・13914・7)の字。(36)宋・何承天(6・13914・7)の字。(37)宋・何承天(6・13914・7)の字。(38)宋・何承天(6・13914・7)の字。(39)宋・何承天(6・13914・7)の字。(40)宋・何承天(6・13914・7)の字。(41)宋・何承天(6・13914・7)の字。(42)宋・何承天(6・13914・7)の字。(43)宋・何承天(6・13914・7)の字。(44)宋・何承天(6・13914・7)の字。(45)宋・何承天(6・13914・7)の字。(46)宋・何承天(6・13914・7)の字。(47)宋・何承天(6・13914・7)の字。(48)宋・何承天(6・13914・7)の字。(49)宋・何承天(6・13914・7)の字。(50)宋・何承天(6・13914・7)の字。(51)宋・何承天(6・13914・7)の字。(52)宋・何承天(6・13914・7)の字。(53)宋・何承天(6・13914・7)の字。(54)宋・何承天(6・13914・7)の字。(55)宋・何承天(6・13914・7)の字。(56)宋・何承天(6・13914・7)の字。(57)宋・何承天(6・13914・7)の字。(58)宋・何承天(6・13914・7)の字。(59)宋・何承天(6・13914・7)の字。(60)宋・何承天(6・13914・7)の字。(61)宋・何承天(6・13914・7)の字。(62)宋・何承天(6・13914・7)の字。(63)宋・何承天(6・13914・7)の字。(64)宋・何承天(6・13914・7)の字。(65)宋・何承天(6・13914・7)の字。(66)宋・何承天(6・13914・7)の字。(67)宋・何承天(6・13914・7)の字。(68)宋・何承天(6・13914・7)の字。(69)宋・何承天(6・13914・7)の字。(70)宋・何承天(6・13914・7)の字。(71)宋・何承天(6・13914・7)の字。(72)宋・何承天(6・13914・7)の字。(73)宋・何承天(6・13914・7)の字。(74)宋・何承天(6・13914・7)の字。(75)宋・何承天(6・13914・7)の字。(76)宋・何承天(6・13914・7)の字。(77)宋・何承天(6・13914・7)の字。(78)宋・何承天(6・13914・7)の字。(79)宋・何承天(6・13914・7)の字。(80)宋・何承天(6・13914・7)の字。(81)宋・何承天(6・13914・7)の字。(82)宋・何承天(6・13914・7)の字。(83)宋・何承天(6・13914・7)の字。(84)宋・何承天(6・13914・7)の字。(85)宋・何承天(6・13914・7)の字。(86)宋・何承天(6・13914・7)の字。(87)宋・何承天(6・13914・7)の字。(88)宋・何承天(6・13914・7)の字。(89)宋・何承天(6・13914・7)の字。(90)宋・何承天(6・13914・7)の字。(91)宋・何承天(6・13914・7)の字。(92)宋・何承天(6・13914・7)の字。(93)宋・何承天(6・13914・7)の字。(94)宋・何承天(6・13914・7)の字。(95)宋・何承天(6・13914・7)の字。(96)宋・何承天(6・13914・7)の字。(97)宋・何承天(6・13914・7)の字。(98)宋・何承天(6・13914・7)の字。(99)宋・何承天(6・13914・7)の字。(100)宋・何承天(6・13914・7)の字。(101)宋・何承天(6・13914・7)の字。(102)宋・何承天(6・13914・7)の字。(103)宋・何承天(6・13914・7)の字。(104)宋・何承天(6・13914・7)の字。(105)宋・何承天(6・13914・7)の字。(106)宋・何承天(6・13914・7)の字。(107)宋・何承天(6・13914・7)の字。(108)宋・何承天(6・13914・7)の字。(109)宋・何承天(6・13914・7)の字。(110)宋・何承天(6・13914・7)の字。(111)宋・何承天(6・13914・7)の字。(112)宋・何承天(6・13914・7)の字。(113)宋・何承天(6・13914・7)の字。(114)宋・何承天(6・13914・7)の字。(115)宋・何承天(6・13914・7)の字。(116)宋・何承天(6・13914・7)の字。(117)宋・何承天(6・13914・7)の字。(118)宋・何承天(6・13914・7)の字。(119)宋・何承天(6・13914・7)の字。(120)宋・何承天(6・13914・7)の字。(121)宋・何承天(6・13914・7)の字。(122)宋・何承天(6・13914・7)の字。(123)宋・何承天(6・13914・7)の字。(124)宋・何承天(6・13914・7)の字。(125)宋・何承天(6・13914・7)の字。(126)宋・何承天(6・13914・7)の字。(127)宋・何承天(6・13914・7)の字。(128)宋・何承天(6・13914・7)の字。(129)宋・何承天(6・13914・7)の字。(130)宋・何承天(6・13914・7)の字。(131)宋・何承天(6・13914・7)の字。(132)宋・何承天(6・13914・7)の字。(133)宋・何承天(6・13914・7)の字。(134)宋・何承天(6・13914・7)の字。(135)宋・何承天(6・13914・7)の字。(136)宋・何承天(6・13914・7)の字。(137)宋・何承天(6・13914・7)の字。(138)宋・何承天(6・13914・7)の字。(139)宋・何承天(6・13914・7)の字。(140)宋・何承天(6・13914・7)の字。(141)宋・何承天(6・13914・7)の字。(142)宋・何承天(6・13914・7)の字。(143)宋・何承天(6・13914・7)の字。(144)宋・何承天(6・13914・7)の字。(145)宋・何承天(6・13914・7)の字。(146)宋・何承天(6・13914・7)の字。(147)宋・何承天(6・13914・7)の字。(148)宋・何承天(6・13914・7)の字。(149)宋・何承天(6・13914・7)の字。(150)宋・何承天(6・13914・7)の字。(151)宋・何承天(6・13914・7)の字。(152)宋・何承天(6・13914・7)の字。(153)宋・何承天(6・13914・7)の字。(154)宋・何承天(6・13914・7)の字。(155)宋・何承天(6・13914・7)の字。(156)宋・何承天(6・13914・7)の字。(157)宋・何承天(6・13914・7)の字。(158)宋・何承天(6・13914・7)の字。(159)宋・何承天(6・13914・7)の字。(160)宋・何承天(6・13914・7)の字。(161)宋・何承天(6・13914・7)の字。(162)宋・何承天(6・13914・7)の字。(163)宋・何承天(6・13914・7)の字。(164)宋・何承天(6・13914・7)の字。(165)宋・何承天(6・13914・7)の字。(166)宋・何承天(6・13914・7)の字。(167)宋・何承天(6・13914・7)の字。(168)宋・何承天(6・13914・7)の字。(169)宋・何承天(6・13914・7)の字。(170)宋・何承天(6・13914・7)の字。(171)宋・何承天(6・13914・7)の字。(172)宋・何承天(6・13914・7)の字。(173)宋・何承天(6・13914・7)の字。(174)宋・何承天(6・13914・7)の字。(175)宋・何承天(6・13914・7)の字。(176)宋・何承天(6・13914・7)の字。(177)宋・何承天(6・13914・7)の字。(178)宋・何承天(6・13914・7)の字。(179)宋・何承天(6・13914・7)の字。(180)宋・何承天(6・13914・7)の字。(181)宋・何承天(6・13914・7)の字。(182)宋・何承天(6・13914・7)の字。(183)宋・何承天(6・13914・7)の字。(184)宋・何承天(6・13914・7)の字。(185)宋・何承天(6・13914・7)の字。(186)宋・何承天(6・13914・7)の字。(187)宋・何承天(6・13914・7)の字。(188)宋・何承天(6・13914・7)の字。(189)宋・何承天(6・13914・7)の字。(190)宋・何承天(6・13914・7)の字。(191)宋・何承天(6・13914・7)の字。(192)宋・何承天(6・13914・7)の字。(193)宋・何承天(6・13914・7)の字。(194)宋・何承天(6・13914・7)の字。(195)宋・何承天(6・13914・7)の字。(196)宋・何承天(6・13914・7)の字。(197)宋・何承天(6・13914・7)の字。(198)宋・何承天(6・13914・7)の字。(199)宋・何承天(6・13914・7)の字。(200)宋・何承天(6・13914・7)の字。(201)宋・何承天(6・13914・7)の字。(202)宋・何承天(6・13914・7)の字。(203)宋・何承天(6・13914・7)の字。(204)宋・何承天(6・13914・7)の字。(205)宋・何承天(6・13914・7)の字。(206)宋・何承天(6・13914・7)の字。(207)宋・何承天(6・13914・7)の字。(208)宋・何承天(6・13914・7)の字。(209)宋・何承天(6・13914・7)の字。(210)宋・何承天(6・13914・7)の字。(211)宋・何承天(6・13914・7)の字。(212)宋・何承天(6・13914・7)の字。(213)宋・何承天(6・13914・7)の字。(214)宋・何承天(6・13914・7)の字。(215)宋・何承天(6・13914・7)の字。(216)宋・何承天(6・13914・7)の字。(217)宋・何承天(6・13914・7)の字。(218)宋・何承天(6・13914・7)の字。(219)宋・何承天(6・13914・7)の字。(220)宋・何承天(6・13914・7)の字。(221)宋・何承天(6・13914・7)の字。(222)宋・何承天(6・13914・7)の字。(223)宋・何承天(6・13914・7)の字。(224)宋・何承天(6・13914・7)の字。(225)宋・何承天(6・13914・7)の字。(226)宋・何承天(6・13914・7)の字。(227)宋・何承天(6・13914・7)の字。(228)宋・何承天(6・13914・7)の字。(229)宋・何承天(6・13914・7)の字。(230)宋・何承天(6・13914・7)の字。(231)宋・何承天(6・13914・7)の字。(232)宋・何承天(6・13914・7)の字。(233)宋・何承天(6・13914・7)の字。(234)宋・何承天(6・13914・7)の字。(235)宋・何承天(6・13914・7)の字。(236)宋・何承天(6・13914・7)の字。(237)宋・何承天(6・13914・7)の字。(238)宋・何承天(6・13914・7)の字。(239)宋・何承天(6・13914・7)の字。(240)宋・何承天(6・13914・7)の字。(241)宋・何承天(6・13914・7)の字。(242)宋・何承天(6・13914・7)の字。(243)宋・何承天(6・13914・7)の字。(244)宋・何承天(6・13914・7)の字。(245)宋・何承天(6・13914・7)の字。(246)宋・何承天(6・13914・7)の字。(247)宋・何承天(6・13914・7)の字。(248)宋・何承天(6・13914・7)の字。(249)宋・何承天(6・13914・7)の字。(250)宋・何承天(6・13914・7)の字。(251)宋・何承天(6・13914・7)の字。(252)宋・何承天(6・13914・7)の字。(253)宋・何承天(6・13914・7)の字。(254)宋・何承天(6・13914・7)の字。(255)宋・何承天(6・13914・7)の字。(256)宋・何承天(6・13914・7)の字。(257)宋・何承天(6・13914・7)の字。(258)宋・何承天(6・13914・7)の字。(259)宋・何承天(6・13914・7)の字。(260)宋・何承天(6・13914・7)の字。(261)宋・何承天(6・13914・7)の字。(262)宋・何承天(6・13914・7)の字。(263)宋・何承天(6・13914・7)の字。(264)宋・何承天(6・13914・7)の字。(265)宋・何承天(6・13914・7)の字。(266)宋・何承天(6・13914・7)の字。(267)宋・何承天(6・13914・7)の字。(268)宋・何承天(6・13914・7)の字。(269)宋・何承天(6・13914・7)の字。(270)宋・何承天(6・13914・7)の字。(271)宋・何承天(6・13914・7)の字。(272)宋・何承天(6・13914・7)の字。(273)宋・何承天(6・13914・7)の字。(274)宋・何承天(6・13914・7)の字。(275)宋・何承天(6・13914・7)の字。(276)宋・何承天(6・13914・7)の字。(277)宋・何承天(6・13914・7)の字。(278)宋・何承天(6・13914・7)の字。(279)宋・何承天(6・13914・7)の字。(280)宋・何承天(6・13914・7)の字。(281)宋・何承天(6・13914・7)の字。(282)宋・何承天(6・13914・7)の字。(283)宋・何承天(6・13914・7)の字。(284)宋・何承天(6・13914・7)の字。(285)宋・何承天(6・13914・7)の字。(286)宋・何承天(6・13914・7)の字。(287)宋・何承天(6・13914・7)の字。(288)宋・何承天(6・13914・7)の字。(289)宋・何承天(6・13914・7)の字。(290)宋・何承天(6・13914・7)の字。(291)宋・何承天(6・13914・7)の字。(292)宋・何承天(6・13914・7)の字。(293)宋・何承天(6・13914・7)の字。(294)宋・何承天(6・13914・7)の字。(295)宋・何承天(6・13914・7)の字。(296)宋・何承天(6・13914・7)の字。(297)宋・何承天(6・13914・7)の字。(298)宋・何承天(6・13914・7)の字。(299)宋・何承天(6・13914・7)の字。(300)宋・何承天(6・13914・7)の字。(301)宋・何承天(6・13914・7)の字。(302)宋・何承天(6・13914・7)の字。(303)宋・何承天(6・13914・7)の字。(304)宋・何承天(6・13914・7)の字。(305)宋・何承天(6・13914・7)の字。(306)宋・何承天(6・13914・7)の字。(307)宋・何承天(6・13914・7)の字。(308)宋・何承天(6・13914・7)の字。(309)宋・何承天(6・13914・7)の字。(310)宋・何承天(6・13914・7)の字。(311)宋・何承天(6・13914・7)の字。(312)宋・何承天(6・13914・7)の字。(313)宋・何承天(6・13914・7)の字。(314)宋・何承天(6・13914・7)の字。(315)宋・何承天(6・13914・7)の字。(316)宋・何承天(6・13914・7)の字。(317)宋・何承天(6・13914・7)の字。(318)宋・何承天(6・13914・7)の字。(319)宋・何承天(6・13914・7)の字。(320)宋・何承天(6・13914・7)の字。(321)宋・何承天(6・13914・7)の字。(322)宋・何承天(6・13914・7)の字。(323)宋・何承天(6・13914・7)の字。(324)宋・何承天(6・13914・7)の字。(325)宋・何承天(6・13914・7)の字。(326)宋・何承天(6・13914・7)の字。(327)宋・何承天(6・13914・7)の字。(328)宋・何承天(6・13914・7)の字。(329)宋・何承天(6・13914・7)の字。(330)宋・何承天(6・13914・7)の字。(331)宋・何承天(6・13914・7)の字。(332)宋・何承天(6・13914・7)の字。(333)宋・何承天(6・13914・7)の字。(334)宋・何承天(6・13914・7)の字。(335)宋・何承天(6・13914・7)の字。(336)宋・何承天(6・13914・7)の字。(337)宋・何承天(6・13914・7)の字。(338)宋・何承天(6・13914・7)の字。(339)宋・何承天(6・13914・7)の字。(340)宋・何承天(6・13914・7)の字。(341)宋・何承天(6・13914・7)の字。(342)宋・何承天(6・13914・7)の字。(343)宋・何承天(6・13914・7)の字。(344)宋・何承天(6・13914・7)の字。(345)宋・何承天(6・13914・7)の字。(346)宋・何承天(6・13914・7)の字。(347)宋・何承天(6・13914・7)の字。(348)宋・何承天(6・13914・7)の字。(349)宋・何承天(6・13914・7)の字。(350)宋・何承天(6・13914・7)の字。(351)宋・何承天(6・13914・7)の字。(352)宋・何承天(6・13914・7)の字。(353)宋・何承天(6・13914・7)の字。(354)宋・何承天(6・13914・7)の字。(355)宋・何承天(6・13914・7)の字。(356)宋・何承天(6・13914・7)の字。(357)宋・何承天(6・13914・7)の字。(358)宋・何承天(6・13914・7)の字。(359)宋・何承天(6・13914・7)の字。(360)宋・何承天(6・13914・7)の字。(361)宋・何承天(6・13914・7)の字。(362)宋・何承天(6・13914・7)の字。(363)宋・何承天(6・13914・7)の字。(364)宋・何承天(6・13914・7)の字。(365)宋・何承天(6・13914・7)の字。(366)宋・何承天(6・13914・7)の字。(367)宋・何承天(6・13914・7)の字。(368)宋・何承天(6・13914・7)の字。(369)宋・何承天(6・13914・7)の字。(370)宋・何承天(6・13914・7)の字。(371)宋・何承天(6・13914・7)の字。(372)宋・何承天(6・13914・7)の字。(373)宋・何承天(6・13914・7)の字。(374)宋・何承天(6・13914・7)の字。(375)宋・何承天(6・13914・7)の字。(376)宋・何承天(6・13914・7)の字。(377)宋・何承天(6・13914・7)の字。(378)宋・何承天(6・13914・7)の字。(379)宋・何承天(6・13914・7)の字。(380)宋・何承天(6・13914・7)の字。(381)宋・何承天(6・13914・7)の字。(382)宋・何承天(6・13914・7)の字。(383)宋・何承天(6・13914・7)の字。(384)宋・何承天(6・13914・7)の字。(385)宋・何承天(6・13914・7)の字。(386)宋・何承天(6・13914・7)の字。(387)宋・何承天(6・13914・7)の字。(388)宋・何承天(6・13914・7)の字。(389)宋・何承天(6・13914・7)の字。(390)宋・何承天(6・13914・7)の字。(391)宋・何承天(6・13914・7)の字。(392)宋・何承天(6・13914・7)の字。(393)宋・何承天(6・13914・7)の字。(394)宋・何承天(6・13914・7)の字。(395)宋・何承天(6・13914・7)の字。(396)宋・何承天(6・13914・7)の字。(397)宋・何承天(6・13914・7)の字。(398)宋・何承天(6・13914・7)の字。(399)宋・何承天(6・13914・7)の字。(400)宋・何承天(6・13914・7)の字。(401)宋・何承天(6・13914・7)の字。(402)宋・何承天(6・13914・7)の字。(403)宋・何承天(6・13914・7)の字。(404)宋・何承天(6・13914・7)の字。(405)宋・何承天(6・13914・7)の字。(406)宋・何承天(6・13914・7)の字。(407)宋・何承天(6・13914・7)の字。(408)宋・何承天(6・13914・7)の字。(409)宋・何承天(6・13914・7)の字。(410)宋・何承天(6・13914・7)の字。(411)宋・何承天(6・13914・7)の字。(412)宋・何承天(6・13914・7)の字。(413)宋・何承天(6・13914・7)の字。(414)宋・何承天(6・13914・7)の字。(415)宋・何承天(6・13914・7)の字。(416)宋・何承天(6・13914・7)の字。(417)宋・何承天(6・13914・7)の字。(418)宋・何承天(6・13914・7)の字。(419)宋・何承天(6・13914・7)の字。(420)宋・何承天(6・13914・7)の字。(421)宋・何承天(6・13914・7)の字。(422)宋・何承天(6・13914・7)の字。(423)宋・何承天(6・13914・7)の字。(424)宋・何承天(6・13914・7)の字。(425)宋・何承天(6・13914・7)の字。(426)宋・何承天(6・13914・7)の字。(427)宋・何承天(6・13914・7)の字。(428)宋・何承天(6・13914・7)の字。(429)宋・何承天(6・13914・7)の字。(430)宋・何承天(6・13914・7)の字。(431)宋・何承天(6・13914・7)の字。(432)宋・何承天(6・13914・7)の字。(433)宋・何承天(6・13914・7)の字。(434)宋・何承天(6・13914・7)の字。(435)宋・何承天(6・13914・7)の字。(436)宋・何承天(6・13914・7)の字。(437)宋・何承天(6・13914・7)の字。(438)宋・何承天(6・13914・7)の字。(439)宋・何承天(6・13914・7)の字。(440)宋・何承天(6・13914・7)の字。(441)宋・何承天(6・13914・7)の字。(442)宋・何承天(6・13914・7)の字。(443)宋・何承天(6・13914・7)の字。(444)宋・何承天(6・13914・7)の字。(445)宋・何承天(6・13914・7)の字。(446)宋・何承天(6・13914・7)の字。(447)宋・何承天(6・13914・7)の字。(448)宋・何承天(6・13914・7)の字。(449)宋・何承天(6・13914・7)の字。(450)宋・何承天(6・13914・7)の字。(451)宋・何承天(6・13914・7)の字。(452)宋・何承天(6・13914・7)の字。(453)宋・何承天(6・13914・7)の字。(454)宋・何承天(6・13914・7)の字。(455)宋・何承天(6・13914・7)の字。(456)宋・何承天(6・13914・7)の字。(457)宋・何承天(6・13914・7)の字。(458)宋・何承天(6・13914・7)の字。(459)宋・何承天(6・13914・7)の字。(460)宋・何承天(6・13914・7)の字。(461)宋・何承天(6・13914・7)の字。(462)宋・何承天(6・13914・7)の字。(463)宋・何承天(6・13914・7)の字。(464)宋・何承天(6・13914・7)の字。(465)宋・何承天(6・13914・7)の字。(466)宋・何承天(6・13914・7)の字。(467)宋・何承天(6・13914・7)の字。(468)宋・何承天(6・13914・7)の字。(469)宋・何承天(6・13914・7)の字。(470)宋・何承天(6・13914・7)の字。(471)宋・何承天(6・13914・7)の字。(472)宋・何承天(6・13914・7)の字。(473)宋・何承天(6・13914・7)の字。(474)宋・何承天(6・13914・7)の字。(475)宋・何承天(6・13914・7)の字。(476)宋・何承天(6・13914・7)の字。(477)宋・何承天(6・13914・7)の字。(478)宋・何承天(6・13914・7)の字。(479)宋・何承天(6・13914・7)の字。(480)宋・何承天(6・13914・7)の字。(481)宋・何承天(6・13914・7)の字。(482)宋・何承天(6・13914・7)の字。(483)宋・何承天(6・13914・7)の字。(484)宋・何承天(6・13914・7)の字。(485)宋・何承天(6・13914・7)の字。(486)宋・何承天(6・13914・7)の字。(487)宋・何承天(6・13914・7)の字。(488)宋・何承天(6・13914・7)の字。(489)宋・何承天(6・13914・7)の字。(490)宋・何承天(6・13914・7)の字。(491)宋・何承天(6・13914・7)の字。(492)宋・何承天(6・13914・7)の字。(493)宋・何承天(6・13914・7)の字。(494)宋・何承天(6・13914・7)の字。(495)宋・何承天(6・13914・7)の字。(496)宋・何承天(6・13914・7)の字。(497)宋・何承天(6・13914・7)の字。(498)宋・何承天(6・13914・7)の字。(499)宋・何承天(6・13914・7)の字。(500)宋・何承天(6・13914・7)の字。(501)宋・何承天(6・13914・7)の字。(502)宋・何承天(6・13914・7)の字。(503)宋・何承天(6・13914・7)の字。(504)宋・何承天(6・13914・7)の字。(505)宋・何承天(6・13914・7)の字。(506)宋・何承天(6・13914・7)の字。(507)宋・何承天(6・13914・7)の字。(508)宋・何承天(6・13914・7)の字。(509)宋・何承天(6・13914・7)の字。(510)宋・何承天(6・13914・7)の字。(511)宋・何承天(6・13914・7)の字。(512)宋・何承天(6・13914・7)の字。(513)宋・何承天(6・13914・7)の字。(514)宋・何承天(6・13914・7)の字。(515)宋・何承天(6・13914・7)の字。(516)宋・何承天(6・13914・7)の字。(517)宋・何承天(6・13914・7)の字。(518)宋・何承天(6・13914・7)の字。(519)宋・何承天(6・13914・7)の字。(520)宋・何承天(6・13914・7)の字。(521)宋・何承天(6・13914・7)の字。(522)宋・何承天(6・13914・7)の字。(523)宋・何承天(6・13914・7)の字。(524)宋・何承天(6・13914・7)の字。(525)宋・何承天(6・13914・7)の字。(526)宋・何承天(6・13914・7)の字。(527)宋・何承天(6・13914・7)の字。(528)宋・何承天(6・13914・7)の字。(529)宋・何承天(6・13914・7)の字。(530)宋・何承天(6・13914・7)の字。(531)宋・何承天(6・13914・7)の字。(532)宋・何承天(6・13914・7)の字。(533)宋・何承天(6・13914・7)の字。(534)宋・何承天(6・13914・7)の字。(535)宋・何承天(6・13914・7)の字。(536)宋・何承天(6・13914・7)の字。(537)宋・何承天(6・13914・7)の字。(538)宋・何承天(6・13914・7)の字。(539)宋・何承天(6・13914・7)の字。(540)宋・何承天(6・13914・7)の字。(541)宋・何承天(6・13914・7)の字。(542)宋・何承天(6・13914・7)の字。(543)宋・何承天(6・13914・7)の字。(544)宋・何承天(6・13914・7)の字。(545)宋・何承天(6・13914・7)の字。(546)宋・何承天(6・13914・7)の字。(547)宋・何承天(6・13914・7)の字。(548)宋・何承天(6・13914・7)の字。(549)宋・何承天(6・13914・7)の字。(550)宋・何承天(6・13914・7)の字。(551)宋・何承天(6・13914・7)の字。(552)宋・何承天(6・13914・7)の字。(553)宋・何承天(6・13914・7)の字。(554)宋・何承天(6・13914・7)の字。(555)宋・何承天(6・13914・7)の字。(556)宋・何承天(6・13914・7)の字。(557)宋・何承天(6・13914・7)の字。(558)宋・何承天(6・13914・7)の字。(559)宋・何承天(6・13914・7)の字。(560)宋・何承天(6・13914・7)の字。(561)宋・何承天(6・13914・7)の字。(562)宋・何承天(6・13914・7)の字。(563)宋・何承天(6・13914・7)の字。(564)宋・何承天(6・13914・7)の字。(565)宋・何承天(6・13914・7)の字。(566)宋・何承天(6・13914・7)の字。(567)宋・何承天(6・13914・7)の字。(568)宋・何承天(6・13914・7)の字。(569)宋・何承天(6・13914・7)の字。(570)宋・何承天(6・13914・7)の字。(571)宋・何承天(6・13914・7)の字。(572)宋・何承天(6・13914・7)の字。(573)宋・何承天(6・13914・7)の字。(574)宋・何承天(6・13914・7)の字。(575)宋・何承天(6・13914・7)の字。(576)宋・何承天(6・13914・7)の字。(577)宋・何承天(6・13914・7)の字。(578)宋・何承天(6・13914・7)の字。(579)宋・何承天(6・13914・7)の字。(580)宋・何承天(6・13914・7)の字。(581)宋・何承天(6・13914・7)の字。(582)宋・何承天(6・13914・7)の字。(583)宋・何承天(6・13914・7)の字。(584)宋・何承天(6・13914・7)の字。(585)宋・何承天(6・13914・7)の字。(586)宋・何承天(6・13914・7)の字。(587)宋・何承天(6・13914・7)の字。(588)宋・何承天(6・13914・7)の字。(589)宋・何承天(6・13914・7)の字。(590)宋・何承天(6・13914・7)の字。(591)宋・何承天(6・13914・7)の字。(592)宋・何承天(6・13914・7)の字。(593)宋・何承天(6・13914・7)の字。(594)宋・何承天(6・13914・7)の字。(595)宋・何承天(6・13914・7)の字。(596)宋・何承天(6・13914・7)の字。(597)宋・何承天(6・13914・7)の字。(598)宋・何承天(6・13914・7)の字。(599)宋・何承天(6・13914・7)の字。(600)宋・何承天(6・13914・7)の字。(601)宋・何承天(6・13914・7)の字。(602)宋・何承天(6・13914・7)の字。(603)宋・何承天(6・13914・7)の字。(604)宋・何承天(6・13914・7)の字。(605)宋・何承天(6・13914・7)の字。(606)宋・何承天(6・13914・7)の字。(607)宋・何承天(6・13914・7)の字。(608)宋・何承天(6・13914・7)の字。(609)宋・何承天(6・13914・7)の字。(610)宋・何承天(6・13914・7)の字。(611)宋・何承天(6・13914・7)の字。(612)宋・何承天(6・13914・7)の字。(613)宋・何承天(6・13914・7)の字。(614)宋・何承天(6・13914・7)の字。(615)宋・何承天(6・13914・7)の字。(616)宋・何承天(6・13914・7)の字。(617)宋・何承天(6・13914・7)の字。(618)宋・何承天(6・13914・7)の字。(619)宋・何承天(6・13914・7)の字。(620)宋・何承天(6・13914・7)の字。(621)宋・何承天(6・13914・7)の字。(622)宋・何承天(6・13914・7)の字。(623)宋・何承天(6・13914・7)の字。(624)宋・何承天(6・13914・7)の字。(625)宋・何承天(6・13914・7)の字。(626)宋・何承天(6・13914・7)の字。(627)宋・何承天(6・13914・7)の字。(628)宋・何承天(6・13914・7)の字。(629)宋・何承天(6・13914・7)の字。(630)宋・何承天(6・13914・7)の字。(631)宋・何承天(6・13914・7)の字。(632)宋・何承天(6・13914・7)の字。(633)宋・何承天(6・13914・7)の字。(634)宋・何承天(6・13914・7)の字。(635)宋・何承天(6・13914・7)の字。(636)宋・何承天(6・13914・7)の字。(637)宋・何承天(6・13914・7)の字。(638)宋・何承天(6・13914・7)の字。(639)宋・何承天(6・13914・7)の字。(640)宋・何承天(6・13914・7)の字。(641)宋・何承天(6・13914・7)の字。(642)宋・何承天(6・13914・7)の字。(643)宋・何承天(6・13914・7)の字。(644)宋・何承天(6・13914・7)の字。(645)宋・何承天(6・13914・7)の字。(646)宋・何承天(6・13914・7)の字。(647)宋・何承天(6・13914・7)の字。(648)宋・何承天(6・13914・7)の字。(649)宋・何承天(6・13914・7)の字。(650)宋・何承天(6・13914・7)の字。(651)宋・何承天(6・13914・7)の字。(652)宋・何承天(6・13914・7)の字。(653)宋・何承天(6・13914・7)の字。(654)宋・何承天(6・13914・7)の字。(655)宋・何承天(6・13914・7)の字。(656)宋・何承天(6・13914・7)の字。(657)宋・何承天(6・13914・7)の字。(658)宋・何承天(6・13914・7)の字。(659)宋・何承天(6・13914・7)の字。(660)宋・何承天(6・13914・7)の字。(661)宋・何承天(6・13914・7)の字。(662)宋・何承天(6・13914・7)の字。(663)宋・何承天(6・13914・7)の字。(664)宋・何承天(6・13914・7)の字。(665)宋・何承天(6・13914・7)の字。(666)宋・何承天(6・13914・7)の字。(667)宋・何承天(6・13914・7)の字。(668)宋・何承天(6・13914・7)の字。(669)宋・何承天(6・13914・7)の字。(670)宋・何承天(6・13914・7)の字。(671)宋・何承天(6・13914・7)の字。(672)宋・何承天(6・13914・7)の字。(673)宋・何承天(6・13914・7)の字。(674)宋・何承天(6・13914・7)の字。(675)宋・何承天(6・13914・7)の字。(676)宋・何承天(6・13914・7)の字。(677)宋・何承天(6・13914・7)の字。(678)宋・何承天(6・13914・7)の字。(679)宋・何承天(6・13914・7)の字。(680)宋・何承天(6・13914・7)の字。(681)宋・何承天(6・13914・7)の字。(682)宋・何承天(6・13914・7)の字。(683)宋・何承天(6・13914・7)の字。(684)宋・何承天(6・13914・7)の字。(685)宋・何承天(6・13914・7)の字。(686)宋・何承天(6・13914・7)の字。(687)宋・何承天(6・13914・7)の字。(688)宋・何承天(6・13914・7)の字。(689)宋・何承天(6・13914・7)の字。(690)宋・何承天(6・13914・7)の字。(691)宋・何承天(6・13914・7)の字。(692)宋・何承天(6・13914・7)の字。(693)宋・何承天(6・13914・7)の字。(694)宋・何承天(6・13914・7)の字。(695)宋・何承天(6・13914・7)の字。(696)宋・何承天(6・13914・7)の字。(697)宋・何承天(6・13914・7)の字。(698)宋・何承天(6・13914・7)の字。(699)宋・何承天(6・13914・7)の字。(700)宋・何承天(6・13914・7)の字。(701)宋・何承天(6・13914・7)の字。(702)宋・何承天(6・13914・7)の字。(703)宋・何承天(6・13914・7)の字。(704)宋・何承天(6・13914・7)の字。(705)宋・何承天(6・13914・7)の字。(706)宋・何承天(6・13914・7)の字。(707)宋・何承天(6・13914・7)の字。(708)宋・何承天(6・13914・7)の字。(709)宋・何承天(6・13914・7)の字。(710)宋・何承天(6・13914・7)の字。(711)宋・何承天(6・13914・7)の字。(712)宋・何承天(6・13914・7)の字。(713)宋・何承天(6・13914・7)の字。(714)宋・何承天(6・13914・7)の字。(715)宋・何承天(6・13914・7)の字。(716)宋・何承天(6・13914・7)の字。(717)宋・何承天(6・13914・7)の字。(718)宋・何承天(6・13914・7)の字。(719)宋・何承天(6・13914・7)の字。(720)宋・何承天(6・13914・7)の字。(721)宋・何承天(6・13914・7)の字。(722)宋・何承天(6・13914・7)の字。(723)宋・何承天(6・13914・7)の字。(724)宋・何承天(6・13914・7)の字。(725)宋・何承天(6・13914・7)の字。(726)宋・何承天(6・13914・7)の字。(727)宋・何承天(6・13914・7)の字。(728)宋・何承天(6・13914・7)の字。(729)宋・何承天(6・13914・7)の字。(730)宋・何承天(6・13914・7)の字。(731)宋・何承天(6・13914・7)の字。(732)宋・何承天(6・13914・7)の字。(733)宋・何承天(6・13914・7)の字。(734)宋・何承天(6・13914・7)の字。(735)宋・何承天(6・13914・7)の字。(736)宋・何承天(6・13914・7)の字。(737)宋・何承天(6・13914・7)の字。(738)宋・何承天(6・13914・7)の字。(739)宋・何承天(6・13914・7)の字。(740)宋・何承天(6・13914・7)の字。(741)宋・何承天(6・13914・7)の字。(742)宋・何承天(6・13914・7)の字。(743)宋・何承天(6・13914・7)の字。(744)宋・何承天(6・13914・7)の字。(745)宋・何承天(6・13914・7)の字。(746)宋・何承天(6・13914・7)の字。(747)宋・何承天(6・13914・7)の字。(748)宋・何承天(6・13914・7)の字。(749)宋・何承天(6・13914・7)の字。(750)宋・何承天(6・13914・7)の字。(751)宋・何承天(6・13914・7)の字。(752)宋・何承天(6・13914・7)の字。(753)宋・何承天(6・13914・7)の字。(754)宋・何承天(6・13914・7)の字。(755)宋・何承天(6・13914・7)の字。(756)宋・何承天(6・13914・7)の字。(757)宋・何承天(6・13914・7)の字。(758)宋・何承天(6・13914・7)の字。(759)宋・何承天(6・13914・7)の字。(760)宋・何承天(6・13914・7)の字。(761)宋・何承天(6・13914・7)の字。(762)宋・何承天(6・13914・7)の字。(763)宋・何承天(6・13914・7)の字。(764)宋・何承天(6・13914・7)の字。(765)宋・何承天(6・13914・7)の字。(766)宋・何承天(6・13914・7)の字。(767)宋・何承天(6・13914・7)の字。(768)宋・何承天(6・13914・7)の字。(769)宋・何承天(6・13914・7)の字。(770)宋・何承天(6・13914・7)の字。(771)宋・何承天(6・13914・7)の字。(772)宋・何承天(6・13914・7)の字。(773)宋・何承天(6・13914・7)の字。(774)宋・何承天(6・13914・7)の字。(775)宋・何承天(6・13914・7)の字。(776)宋・何承天(6・13914・7)の字。(777)宋・何承天(6・13914・7)の字。(778)宋・何承天(6・13914・7)の字。(779)宋・何承天(6・13914・7)の字。(780)宋・何承天(6・13914・7)の字。(781)宋・何承天(6・13914・7)の字。(782)宋・何承天(6・13914・7)の字。(783)宋・何承天(6・13914・7)の字。(784)宋・何承天(6・13914・7)の字。(785)宋・何承天(6・13914・7)の字。(786)宋・何承天(6・13914・7)の字。(787)宋・何承天(6・13914・7)の字。(788)宋・何承天(6・13914・7)の字。(789)宋・何承天(6・13914・7)の字。(790

【景部】[illegible]字。[illegible]。明。顧炎武(18・43689・117)の字。
【景善】[illegible]字。[illegible]。明。田伝(7・217223・55)の字。
【景泰】[illegible]字。[illegible]。明。易思(6・13814・71)の字。
【景然】[illegible]字。[illegible]。明。[illegible]元(10・47928・5)の字。
【景祖】[illegible]。金の太祖の祖父。名は烏古迺。金王朝の王。字は[illegible]。[illegible]。[illegible]。

中有一魚子如菜糝。其解味浙甘苦酸、熱水淘可食。

【景德】宋 嘉祐遺21‥41598‥8(2‥8)字。

【景定】宋 字號。⑩宦、可馬光(9‥2837‥3(9))字。

【景東】宋 字號。⑩史、可馬光(9‥2837‥3(9))字。

【景東】宋 字號。⑩史、可馬光(9‥2837‥3(9))字。

又、清 字。

【景福】宋 ⑩宦、可馬光(9‥2837‥3(9))字。

【景福】宋 ⑩史

の年號（424～426）。❷字號。〔引〕❸地名。博戰（1～93）。❹人名。❺姓。❻未詳。❼明。〔字彙〕「同上」。❽人名。❾地名。〔字彙〕「同上」。❿人名。⓫地名。〔字彙〕「同上」。⓬人名。⓭地名。〔字彙〕「同上」。⓮人名。⓯地名。〔字彙〕「同上」。⓰人名。⓱地名。〔字彙〕「同上」。⓲人名。⓳地名。〔字彙〕「同上」。⓴人名。㉑地名。〔字彙〕「同上」。㉒人名。㉓地名。〔字彙〕「同上」。㉔人名。㉕地名。〔字彙〕「同上」。㉖人名。㉗地名。〔字彙〕「同上」。㉘人名。㉙地名。〔字彙〕「同上」。㉚人名。㉛地名。〔字彙〕「同上」。㉜人名。㉝地名。〔字彙〕「同上」。㉞人名。㉟地名。〔字彙〕「同上」。㊱人名。㊲地名。〔字彙〕「同上」。㊳人名。㊴地名。〔字彙〕「同上」。㊵人名。㊶地名。〔字彙〕「同上」。㊷人名。㊸地名。〔字彙〕「同上」。㊹人名。㊺地名。〔字彙〕「同上」。㊻人名。㊼地名。〔字彙〕「同上」。㊽人名。㊾地名。〔字彙〕「同上」。㊿人名。(51)地名。〔字彙〕「同上」。(52)人名。(53)地名。〔字彙〕「同上」。(54)人名。(55)地名。〔字彙〕「同上」。(56)人名。(57)地名。〔字彙〕「同上」。(58)人名。(59)地名。〔字彙〕「同上」。(60)人名。(61)地名。〔字彙〕「同上」。(62)人名。(63)地名。〔字彙〕「同上」。(64)人名。(65)地名。〔字彙〕「同上」。(66)人名。(67)地名。〔字彙〕「同上」。(68)人名。(69)地名。〔字彙〕「同上」。(70)人名。(71)地名。〔字彙〕「同上」。(72)人名。(73)地名。〔字彙〕「同上」。(74)人名。(75)地名。〔字彙〕「同上」。(76)人名。(77)地名。〔字彙〕「同上」。(78)人名。(79)地名。〔字彙〕「同上」。(80)人名。(81)地名。〔字彙〕「同上」。(82)人名。(83)地名。〔字彙〕「同上」。(84)人名。(85)地名。〔字彙〕「同上」。(86)人名。(87)地名。〔字彙〕「同上」。(88)人名。(89)地名。〔字彙〕「同上」。(90)人名。(91)地名。〔字彙〕「同上」。(92)人名。(93)地名。〔字彙〕「同上」。(94)人名。(95)地名。〔字彙〕「同上」。(96)人名。(97)地名。〔字彙〕「同上」。(98)人名。(99)地名。〔字彙〕「同上」。(100)人名。(101)地名。〔字彙〕「同上」。(102)人名。(103)地名。〔字彙〕「同上」。(104)人名。(105)地名。〔字彙〕「同上」。(106)人名。(107)地名。〔字彙〕「同上」。(108)人名。(109)地名。〔字彙〕「同上」。(110)人名。(111)地名。〔字彙〕「同上」。(112)人名。(113)地名。〔字彙〕「同上」。(114)人名。(115)地名。〔字彙〕「同上」。(116)人名。(117)地名。〔字彙〕「同上」。(118)人名。(119)地名。〔字彙〕「同上」。(120)人名。(121)地名。〔字彙〕「同上」。(122)人名。(123)地名。〔字彙〕「同上」。(124)人名。(125)地名。〔字彙〕「同上」。(126)人名。(127)地名。〔字彙〕「同上」。(128)人名。(129)地名。〔字彙〕「同上」。(130)人名。(131)地名。〔字彙〕「同上」。(132)人名。(133)地名。〔字彙〕「同上」。(134)人名。(135)地名。〔字彙〕「同上」。(136)人名。(137)地名。〔字彙〕「同上」。(138)人名。(139)地名。〔字彙〕「同上」。(140)人名。(141)地名。〔字彙〕「同上」。(142)人名。(143)地名。〔字彙〕「同上」。(144)人名。(145)地名。〔字彙〕「同上」。(146)人名。(147)地名。〔字彙〕「同上」。(148)人名。(149)地名。〔字彙〕「同上」。(150)人名。(151)地名。〔字彙〕「同上」。(152)人名。(153)地名。〔字彙〕「同上」。(154)人名。(155)地名。〔字彙〕「同上」。(156)人名。(157)地名。〔字彙〕「同上」。(158)人名。(159)地名。〔字彙〕「同上」。(160)人名。(161)地名。〔字彙〕「同上」。(162)人名。(163)地名。〔字彙〕「同上」。(164)人名。(165)地名。〔字彙〕「同上」。(166)人名。(167)地名。〔字彙〕「同上」。(168)人名。(169)地名。〔字彙〕「同上」。(170)人名。(171)地名。〔字彙〕「同上」。(172)人名。(173)地名。〔字彙〕「同上」。(174)人名。(175)地名。〔字彙〕「同上」。(176)人名。(177)地名。〔字彙〕「同上」。(178)人名。(179)地名。〔字彙〕「同上」。(180)人名。(181)地名。〔字彙〕「同上」。(182)人名。(183)地名。〔字彙〕「同上」。(184)人名。(185)地名。〔字彙〕「同上」。(186)人名。(187)地名。〔字彙〕「同上」。(188)人名。(189)地名。〔字彙〕「同上」。(190)人名。(191)地名。〔字彙〕「同上」。(192)人名。(193)地名。〔字彙〕「同上」。(194)人名。(195)地名。〔字彙〕「同上」。(196)人名。(197)地名。〔字彙〕「同上」。(198)人名。(199)地名。〔字彙〕「同上」。(200)人名。(201)地名。〔字彙〕「同上」。(202)人名。(203)地名。〔字彙〕「同上」。(204)人名。(205)地名。〔字彙〕「同上」。(206)人名。(207)地名。〔字彙〕「同上」。(208)人名。(209)地名。〔字彙〕「同上」。(210)人名。(211)地名。〔字彙〕「同上」。(212)人名。(213)地名。〔字彙〕「同上」。(214)人名。(215)地名。〔字彙〕「同上」。(216)人名。(217)地名。〔字彙〕「同上」。(218)人名。(219)地名。〔字彙〕「同上」。(220)人名。(221)地名。〔字彙〕「同上」。(222)人名。(223)地名。〔字彙〕「同上」。(224)人名。(225)地名。〔字彙〕「同上」。(226)人名。(227)地名。〔字彙〕「同上」。(228)人名。(229)地名。〔字彙〕「同上」。(230)人名。(231)地名。〔字彙〕「同上」。(232)人名。(233)地名。〔字彙〕「同上」。(234)人名。(235)地名。〔字彙〕「同上」。(236)人名。(237)地名。〔字彙〕「同上」。(238)人名。(239)地名。〔字彙〕「同上」。(240)人名。(241)地名。〔字彙〕「同上」。(242)人名。(243)地名。〔字彙〕「同上」。(244)人名。(245)地名。〔字彙〕「同上」。(246)人名。(247)地名。〔字彙〕「同上」。(248)人名。(249)地名。〔字彙〕「同上」。(250)人名。(251)地名。〔字彙〕「同上」。(252)人名。(253)地名。〔字彙〕「同上」。(254)人名。(255)地名。〔字彙〕「同上」。(256)人名。(257)地名。〔字彙〕「同上」。(258)人名。(259)地名。〔字彙〕「同上」。(260)人名。(261)地名。〔字彙〕「同上」。(262)人名。(263)地名。〔字彙〕「同上」。(264)人名。(265)地名。〔字彙〕「同上」。(266)人名。(267)地名。〔字彙〕「同上」。(268)人名。(269)地名。〔字彙〕「同上」。(270)人名。(271)地名。〔字彙〕「同上」。(272)人名。(273)地名。〔字彙〕「同上」。(274)人名。(275)地名。〔字彙〕「同上」。(276)人名。(277)地名。〔字彙〕「同上」。(278)人名。(279)地名。〔字彙〕「同上」。(280)人名。(281)地名。〔字彙〕「同上」。(282)人名。(283)地名。〔字彙〕「同上」。(284)人名。(285)地名。〔字彙〕「同上」。(286)人名。(287)地名。〔字彙〕「同上」。(288)人名。(289)地名。〔字彙〕「同上」。(290)人名。(291)地名。〔字彙〕「同上」。(292)人名。(293)地名。〔字彙〕「同上」。(294)人名。(295)地名。〔字彙〕「同上」。(296)人名。(297)地名。〔字彙〕「同上」。(298)人名。(299)地名。〔字彙〕「同上」。(300)人名。(301)地名。〔字彙〕「同上」。(302)人名。(303)地名。〔字彙〕「同上」。(304)人名。(305)地名。〔字彙〕「同上」。(306)人名。(307)地名。〔字彙〕「同上」。(308)人名。(309)地名。〔字彙〕「同上」。(310)人名。(311)地名。〔字彙〕「同上」。(312)人名。(313)地名。〔字彙〕「同上」。(314)人名。(315)地名。〔字彙〕「同上」。(316)人名。(317)地名。〔字彙〕「同上」。(318)人名。(319)地名。〔字彙〕「同上」。(320)人名。(321)地名。〔字彙〕「同上」。(322)人名。(323)地名。〔字彙〕「同上」。

字。❹明。蔡。機9・31818。「ふの字。❺明。春秋遇（8・24995・223）の字。❻明。陳悉（11・41698・544）の字。❼清。清文鑑（9・32723・1）の字。〔字彙補〕「同上」。〔康熙字典4・98612・1130）の字。❽見見。

【景鳴】〔名〕❶明。權紀（9・28357・8）の字。❷明。〔字彙〕「同上」。❸明。〔字彙〕「同上」。❹明。〔字彙〕「同上」。❺明。〔字彙〕「同上」。❻明。〔字彙〕「同上」。❼明。〔字彙〕「同上」。❽明。〔字彙〕「同上」。❾明。〔字彙〕「同上」。❿明。〔字彙〕「同上」。⓫明。〔字彙〕「同上」。⓬明。〔字彙〕「同上」。⓭明。〔字彙〕「同上」。⓮明。〔字彙〕「同上」。⓯明。〔字彙〕「同上」。⓰明。〔字彙〕「同上」。⓱明。〔字彙〕「同上」。⓲明。〔字彙〕「同上」。⓳明。〔字彙〕「同上」。⓴明。〔字彙〕「同上」。㉑明。〔字彙〕「同上」。㉒明。〔字彙〕「同上」。㉓明。〔字彙〕「同上」。㉔明。〔字彙〕「同上」。㉕明。〔字彙〕「同上」。㉖明。〔字彙〕「同上」。㉗明。〔字彙〕「同上」。㉘明。〔字彙〕「同上」。㉙明。〔字彙〕「同上」。㉚明。〔字彙〕「同上」。㉛明。〔字彙〕「同上」。㉜明。〔字彙〕「同上」。㉝明。〔字彙〕「同上」。㉞明。〔字彙〕「同上」。㉟明。〔字彙〕「同上」。㊱明。〔字彙〕「同上」。㊲明。〔字彙〕「同上」。㊳明。〔字彙〕「同上」。㊴明。〔字彙〕「同上」。㊵明。〔字彙〕「同上」。㊶明。〔字彙〕「同上」。㊷明。〔字彙〕「同上」。㊸明。〔字彙〕「同上」。㊹明。〔字彙〕「同上」。㊺明。〔字彙〕「同上」。㊻明。〔字彙〕「同上」。㊼明。〔字彙〕「同上」。㊽明。〔字彙〕「同上」。㊾明。〔字彙〕「同上」。㊿明。〔字彙〕「同上」。(51)明。〔字彙〕「同上」。(52)明。〔字彙〕「同上」。(53)明。〔字彙〕「同上」。(54)明。〔字彙〕「同上」。(55)明。〔字彙〕「同上」。(56)明。〔字彙〕「同上」。(57)明。〔字彙〕「同上」。(58)明。〔字彙〕「同上」。(59)明。〔字彙〕「同上」。(60)明。〔字彙〕「同上」。(61)明。〔字彙〕「同上」。(62)明。〔字彙〕「同上」。(63)明。〔字彙〕「同上」。(64)明。〔字彙〕「同上」。(65)明。〔字彙〕「同上」。(66)明。〔字彙〕「同上」。(67)明。〔字彙〕「同上」。(68)明。〔字彙〕「同上」。(69)明。〔字彙〕「同上」。(70)明。〔字彙〕「同上」。(71)明。〔字彙〕「同上」。(72)明。〔字彙〕「同上」。(73)明。〔字彙〕「同上」。(74)明。〔字彙〕「同上」。(75)明。〔字彙〕「同上」。(76)明。〔字彙〕「同上」。(77)明。〔字彙〕「同上」。(78)明。〔字彙〕「同上」。(79)明。〔字彙〕「同上」。(80)明。〔字彙〕「同上」。(81)明。〔字彙〕「同上」。(82)明。〔字彙〕「同上」。(83)明。〔字彙〕「同上」。(84)明。〔字彙〕「同上」。(85)明。〔字彙〕「同上」。(86)明。〔字彙〕「同上」。(87)明。〔字彙〕「同上」。(88)明。〔字彙〕「同上」。(89)明。〔字彙〕「同上」。(90)明。〔字彙〕「同上」。(91)明。〔字彙〕「同上」。(92)明。〔字彙〕「同上」。(93)明。〔字彙〕「同上」。(94)明。〔字彙〕「同上」。(95)明。〔字彙〕「同上」。(96)明。〔字彙〕「同上」。(97)明。〔字彙〕「同上」。(98)明。〔字彙〕「同上」。(99)明。〔字彙〕「同上」。(100)明。〔字彙〕「同上」。(101)明。〔字彙〕「同上」。(102)明。〔字彙〕「同上」。(103)明。〔字彙〕「同上」。(104)明。〔字彙〕「同上」。(105)明。〔字彙〕「同上」。(106)明。〔字彙〕「同上」。(107)明。〔字彙〕「同上」。(108)明。〔字彙〕「同上」。(109)明。〔字彙〕「同上」。(110)明。〔字彙〕「同上」。(111)明。〔字彙〕「同上」。(112)明。〔字彙〕「同上」。(113)明。〔字彙〕「同上」。(114)明。〔字彙〕「同上」。(115)明。〔字彙〕「同上」。(116)明。〔字彙〕「同上」。(117)明。〔字彙〕「同上」。(118)明。〔字彙〕「同上」。(119)明。〔字彙〕「同上」。(120)明。〔字彙〕「同上」。(121)明。〔字彙〕「同上」。(122)明。〔字彙〕「同上」。(123)明。〔字彙〕「同上」。(124)明。〔字彙〕「同上」。(125)明。〔字彙〕「同上」。(126)明。〔字彙〕「同上」。(127)明。〔字彙〕「同上」。(128)明。〔字彙〕「同上」。(129)明。〔字彙〕「同上」。(130)明。〔字彙〕「同上」。(131)明。〔字彙〕「同上」。(132)明。〔字彙〕「同上」。(133)明。〔字彙〕「同上」。(134)明。〔字彙〕「同上」。(135)明。〔字彙〕「同上」。(136)明。〔字彙〕「同上」。(137)明。〔字彙〕「同上」。(138)明。〔字彙〕「同上」。(139)明。〔字彙〕「同上」。(140)明。〔字彙〕「同上」。(141)明。〔字彙〕「同上」。(142)明。〔字彙〕「同上」。(143)明。〔字彙〕「同上」。(144)明。〔字彙〕「同上」。(145)明。〔字彙〕「同上」。(146)明。〔字彙〕「同上」。(147)明。〔字彙〕「同上」。(148)明。〔字彙〕「同上」。(149)明。〔字彙〕「同上」。(150)明。〔字彙〕「同上」。(151)明。〔字彙〕「同上」。(152)明。〔字彙〕「同上」。(153)明。〔字彙〕「同上」。(154)明。〔字彙〕「同上」。(155)明。〔字彙〕「同上」。(156)明。〔字彙〕「同上」。(157)明。〔字彙〕「同上」。(158)明。〔字彙〕「同上」。(159)明。〔字彙〕「同上」。(160)明。〔字彙〕「同上」。(161)明。〔字彙〕「同上」。(162)明。〔字彙〕「同上」。(163)明。〔字彙〕「同上」。(164)明。〔字彙〕「同上」。(165)明。〔字彙〕「同上」。(166)明。〔字彙〕「同上」。(167)明。〔字彙〕「同上」。(168)明。〔字彙〕「同上」。(169)明。〔字彙〕「同上」。(170)明。〔字彙〕「同上」。(171)明。〔字彙〕「同上」。(172)明。〔字彙〕「同上」。(173)明。〔字彙〕「同上」。(174)明。〔字彙〕「同上」。(175)明。〔字彙〕「同上」。(176)明。〔字彙〕「同上」。(177)明。〔字彙〕「同上」。(178)明。〔字彙〕「同上」。(179)明。〔字彙〕「同上」。(180)明。〔字彙〕「同上」。(181)明。〔字彙〕「同上」。(182)明。〔字彙〕「同上」。(183)明。〔字彙〕「同上」。(184)明。〔字彙〕「同上」。(185)明。〔字彙〕「同上」。(186)明。〔字彙〕「同上」。(187)明。〔字彙〕「同上」。(188)明。〔字彙〕「同上」。(189)明。〔字彙〕「同上」。(190)明。〔字彙〕「同上」。(191)明。〔字彙〕「同上」。(192)明。〔字彙〕「同上」。(193)明。〔字彙〕「同上」。(194)明。〔字彙〕「同上」。(195)明。〔字彙〕「同上」。(196)明。〔字彙〕「同上」。(197)明。〔字彙〕「同上」。(198)明。〔字彙〕「同上」。(199)明。〔字彙〕「同上」。(200)明。〔字彙〕「同上」。(201)明。〔字彙〕「同上」。(202)明。〔字彙〕「同上」。(203)明。〔字彙〕「同上」。(204)明。〔字彙〕「同上」。(205)明。〔字彙〕「同上」。(206)明。〔字彙〕「同上」。(207)明。〔字彙〕「同上」。(208)明。〔字彙〕「同上」。(209)明。〔字彙〕「同上」。(210)明。〔字彙〕「同上」。(211)明。〔字彙〕「同上」。(212)明。〔字彙〕「同上」。(213)明。〔字彙〕「同上」。(214)明。〔字彙〕「同上」。(215)明。〔字彙〕「同上」。(216)明。〔字彙〕「同上」。(217)明。〔字彙〕「同上」。(218)明。〔字彙〕「同上」。(219)明。〔字彙〕「同上」。(220)明。〔字彙〕「同上」。(221)明。〔字彙〕「同上」。(222)明。〔字彙〕「同上」。(223)明。〔字彙〕「同上」。(224)明。〔字彙〕「同上」。(225)明。〔字彙〕「同上」。(226)明。〔字彙〕「同上」。(227)明。〔字彙〕「同上」。(228)明。〔字彙〕「同上」。(229)明。〔字彙〕「同上」。(230)明。〔字彙〕「同上」。(231)明。〔字彙〕「同上」。(232)明。〔字彙〕「同上」。(233)明。〔字彙〕「同上」。(234)明。〔字彙〕「同上」。(235)明。〔字彙〕「同上」。(236)明。〔字彙〕「同上」。(237)明。〔字彙〕「同上」。(238)明。〔字彙〕「同上」。(239)明。〔字彙〕「同上」。(240)明。〔字彙〕「同上」。(241)明。〔字彙〕「同上」。(242)明。〔字彙〕「同上」。(243)明。〔字彙〕「同上」。(244)明。〔字彙〕「同上」。(245)明。〔字彙〕「同上」。(246)明。〔字彙〕「同上」。(247)明。〔字彙〕「同上」。(248)明。〔字彙〕「同上」。(249)明。〔字彙〕「同上」。(250)明。〔字彙〕「同上」。(251)明。〔字彙〕「同上」。(252)明。〔字彙〕「同上」。(253)明。〔字彙〕「同上」。(254)明。〔字彙〕「同上」。(255)明。〔字彙〕「同上」。(256)明。〔字彙〕「同上」。(257)明。〔字彙〕「同上」。(258)明。〔字彙〕「同上」。(259)明。〔字彙〕「同上」。(260)明。〔字彙〕「同上」。(261)明。〔字彙〕「同上」。(262)明。〔字彙〕「同上」。(263)明。〔字彙〕「同上」。(264)明。〔字彙〕「同上」。(265)明。〔字彙〕「同上」。(266)明。〔字彙〕「同上」。(267)明。〔字彙〕「同上」。(268)明。〔字彙〕「同上」。(269)明。〔字彙〕「同上」。(270)明。〔字彙〕「同上」。(271)明。〔字彙〕「同上」。(272)明。〔字彙〕「同上」。(273)明。〔字彙〕「同上」。(274)明。〔字彙〕「同上」。(275)明。〔字彙〕「同上」。(276)明。〔字彙〕「同上」。(277)明。〔字彙〕「同上」。(278)明。〔字彙〕「同上」。(279)明。〔字彙〕「同上」。(280)明。〔字彙〕「同上」。(281)明。〔字彙〕「同上」。(282)明。〔字彙〕「同上」。(283)明。〔字彙〕「同上」。(284)明。〔字彙〕「同上」。(285)明。〔字彙〕「同上」。(286)明。〔字彙〕「同上」。(287)明。〔字彙〕「同上」。(288)明。〔字彙〕「同上」。(289)明。〔字彙〕「同上」。(290)明。〔字彙〕「同上」。(291)明。〔字彙〕「同上」。(292)明。〔字彙〕「同上」。(293)明。〔字彙〕「同上」。(294)明。〔字彙〕「同上」。(295)明。〔字彙〕「同上」。(296)明。〔字彙〕「同上」。(297)明。〔字彙〕「同上」。(298)明。〔字彙〕「同上」。(299)明。〔字彙〕「同上」。(300)明。〔字彙〕「同上」。(301)明。〔字彙〕「同上」。(302)明。〔字彙〕「同上」。(303)明。〔字彙〕「同上」。(304)明。〔字彙〕「同上」。(305)明。〔字彙〕「同上」。(306)明。〔字彙〕「同上」。(307)明。〔字彙〕「同上」。(308)明。〔字彙〕「同上」。(309)明。〔字彙〕「同上」。(310)明。〔字彙〕「同上」。(311)明。〔字彙〕「同上」。(312)明。〔字彙〕「同上」。(313)明。〔字彙〕「同上」。(314)明。〔字彙〕「同上」。(315)明。〔字彙〕「同上」。(316)明。〔字彙〕「同上」。(317)明。〔字彙〕「同上」。(318)明。〔字彙〕「同上」。(319)明。〔字彙〕「同上」。(320)明。〔字彙〕「同上」。(321)明。〔字彙〕「同上」。(322)明。〔字彙〕「同上」。(323)明。〔字彙〕「同上」。

【景明】〔名〕❶色。やあらかな。〔字彙〕「同上」。❷地名。〔字彙〕「同上」。❸地名。〔字彙〕「同上」。❹地名。〔字彙〕「同上」。❺地名。〔字彙〕「同上」。❻地名。〔字彙〕「同上」。❼地名。〔字彙〕「同上」。❽地名。〔字彙〕「同上」。❾地名。〔字彙〕「同上」。❿地名。〔字彙〕「同上」。⓫地名。〔字彙〕「同上」。⓬地名。〔字彙〕「同上」。⓭地名。〔字彙〕「同上」。⓮地名。〔字彙〕「同上」。⓯地名。〔字彙〕「同上」。⓰地名。〔字彙〕「同上」。⓱地名。〔字彙〕「同上」。⓲地名。〔字彙〕「同上」。⓳地名。〔字彙〕「同上」。⓴地名。〔字彙〕「同上」。㉑地名。〔字彙〕「同上」。㉒地名。〔字彙〕「同上」。㉓地名。〔字彙〕「同上」。㉔地名。〔字彙〕「同上」。㉕地名。〔字彙〕「同上」。㉖地名。〔字彙〕「同上」。㉗地名。〔字彙〕「同上」。㉘地名。〔字彙〕「同上」。㉙地名。〔字彙〕「同上」。㉚地名。〔字彙〕「同上」。㉛地名。〔字彙〕「同上」。㉜地名。〔字彙〕「同上」。㉝地名。〔字彙〕「同上」。㉞地名。〔字彙〕「同上」。㉟地名。〔字彙〕「同上」。㊱地名。〔字彙〕「同上」。㊲地名。〔字彙〕「同上」。㊳地名。〔字彙〕「同上」。㊴地名。〔字彙〕「同上」。㊵地名。〔字彙〕「同上」。㊶地名。〔字彙〕「同上」。㊷地名。〔字彙〕「同上」。㊸地名。〔字彙〕「同上」。㊹地名。〔字彙〕「同上」。㊺地名。〔字彙〕「同上」。㊻地名。〔字彙〕「同上」。㊼地名。〔字彙〕「同上」。㊽地名。〔字彙〕「同上」。㊾地名。〔字彙〕「同上」。㊿地名。〔字彙〕「同上」。(51)地名。〔字彙〕「同上」。(52)地名。〔字彙〕「同上」。(53)地名。〔字彙〕「同上」。(54)地名。〔字彙〕「同上」。(55)地名。〔字彙〕「同上」。(56)地名。〔字彙〕「同上」。(57)地名。〔字彙〕「同上」。(58)地名。〔字彙〕「同上」。(59)地名。〔字彙〕「同上」。(60)地名。〔字彙〕「同上」。(61)地名。〔字彙〕「同上」。(62)地名。〔字彙〕「同上」。(63)地名。〔字彙〕「同上」。(64)地名。〔字彙〕「同上」。(65)地名。〔字彙〕「同上」。(66)地名。〔字彙〕「同上」。(67)地名。〔字彙〕「同上」。(68)地名。〔字彙〕「同上」。(69)地名。〔字彙〕「同上」。(70)地名。〔字彙〕「同上」。(71)地名。〔字彙〕「同上」。(72)地名。〔字彙〕「同上」。(73)地名。〔字彙〕「同上」。(74)地名。〔字彙〕「同上」。(75)地名。〔字彙〕「同上」。(76)地名。〔字彙〕「同上」。(77)地名。〔字彙〕「同上」。(78)地名。〔字彙〕「同上」。(79)地名。〔字彙〕「同上」。(80)地名。〔字彙〕「同上」。(81)地名。〔字彙〕「同上」。(82)地名。〔字彙〕「同上」。(83)地名。〔字彙〕「同上」。(84)地名。〔字彙〕「同上」。(85)地名。〔字彙〕「同上」。(86)地名。〔字彙〕「同上」。(87)地名。〔字彙〕「同上」。(88)地名。〔字彙〕「同上」。(89)地名。〔字彙〕「同上」。(90)地名。〔字彙〕「同上」。(91)地名。〔字彙〕「同上」。(92)地名。〔字彙〕「同上」。(93)地名。〔字彙〕「同上」。(94)地名。〔字彙〕「同上」。(95)地名。〔字彙〕「同上」。(96)地名。〔字彙〕「同上」。(97)地名。〔字彙〕「同上」。(98)地名。〔字彙〕「同上」。(99)地名。〔字彙〕「同上」。(100)地名。〔字彙〕「同上」。(101)地名。〔字彙〕「同上」。(102)地名。〔字彙〕「同上」。(103)地名。〔字彙〕「同上」。(104)地名。〔字彙〕「同上」。(105)地名。〔字彙〕「同上」。(106)地名。〔字彙〕「同上」。(107)地名。〔字彙〕「同上」。(108)地名。〔字彙〕「同上」。(109)地名。〔字彙〕「同上」。(110)地名。〔字彙〕「同上」。(111)地名。〔字彙〕「同上」。(112)地名。〔字彙〕「同上」。(113)地名。〔字彙〕「同上」。(114)地名。〔字彙〕「同上」。(115)地名。〔字彙〕「同上」。(116)地名。〔字彙〕「同上」。(117)地名。〔字彙〕「同上」。(118)地名。〔字彙〕「同上」。(119)地名。〔字彙〕「同上」。(120)地名。〔字彙〕「同上」。(121)地名。〔字彙〕「同上」。(122)地名。〔字彙〕「同上」。(123)地名。〔字彙〕「同上」。(124)地名。〔字彙〕「同上」。(125)地名。〔字彙〕「同上」。(126)地名。〔字彙〕「同上」。(127)地名。〔字彙〕「同上」。(128)地名。〔字彙〕「同上」。(129)地名。〔字彙〕「同上」。(130)地名。〔字彙〕「同上」。(131)地名。〔字彙〕「同上」。(132)地名。〔字彙〕「同上」。(133)地名。〔字彙〕「同上」。(134)地名。〔字彙〕「同上」。(135)地名。〔字彙〕「同上」。(136)地名。〔字彙〕「同上」。(137)地名。〔字彙〕「同上」。(138)地名。〔字彙〕「同上」。(139)地名。〔字彙〕「同上」。(140)地名。〔字彙〕「同上」。(141)地名。〔字彙〕「同上」。(142)地名。〔字彙〕「同上」。(143)地名。〔字彙〕「同上」。(144)地名。〔字彙〕「同上」。(145)地名。〔字彙〕「同上」。(146)地名。〔字彙〕「同上」。(147)地名。〔字彙〕「同上」。(148)地名。〔字彙〕「同上」。(149)地名。〔字彙〕「同上」。(150)地名。〔字彙〕「同上」。(151)地名。〔字彙〕「同上」。(152)地名。〔字彙〕「同上」。(153)地名。〔字彙〕「同上」。(154)地名。〔字彙〕「同上」。(155)地名。〔字彙〕「同上」。(156)地名。〔字彙〕「同上」。(157)地名。〔字彙〕「同上」。(158)地名。〔字彙〕「同上」。(159)地名。〔字彙〕「同上」。(160)地名。〔字彙〕「同上」。(161)地名。〔字彙〕「同上」。(162)地名。〔字彙〕「同上」。(163)地名。〔字彙〕「同上」。(164)地名。〔字彙〕「同上」。(165)地名。〔字彙〕「同上」。(166)地名。〔字彙〕「同上」。(167)地名。〔字彙〕「同上」。(168)地名。〔字彙〕「同上」。(169)地名。〔字彙〕「同上」。(170)地名。〔字彙〕「同上」。(171)地名。〔字彙〕「同上」。(172)地名。〔字彙〕「同上」。(173)地名。〔字彙〕「同上」。(174)地名。〔字彙〕「同上」。(175)地名。〔字彙〕「同上」。(176)地名。〔字彙〕「同上」。(177)地名。〔字彙〕「同上」。(178)地名。〔字彙〕「同上」。(179)地名。〔字彙〕「同上」。(180)地名。〔字彙〕「同上」。(181)地名。〔字彙〕「同上」。(182)地名。〔字彙〕「同上」。(183)地名。〔字彙〕「同上」。(184)地名。〔字彙〕「同上」。(185)地名。〔字彙〕「同上」。(186)地名。〔字彙〕「同上」。(187)地名。〔字彙〕「同上」。(188)地名。〔字彙〕「同上」。(189)地名。〔字彙〕「同上」。(190)地名。〔字彙〕「同上」。(191)地名。〔字彙〕「同上」。(192)地名。〔字彙〕「同上」。(193)地名。〔字彙〕「同上」。(194)地名。〔字彙〕「同上」。(195)地名。〔字彙〕「同上」。(196)地名。〔字彙〕「同上」。(197)地名。〔字彙〕「同上」。(198)地名。〔字彙〕「同上」。(199)地名。〔字彙〕「同上」。(200)地名。〔字彙〕「同上」。(201)地名。〔字彙〕「同上」。(202)地名。〔字彙〕「同上」。(203)地名。〔字彙〕「同上」。(204)地名。〔字彙〕「同上」。(205)地名。〔字彙〕「同上」。(206)地名。〔字彙〕「同上」。(207)地名。〔字彙〕「同上」。(208)地名。〔字彙〕「同上」。(209)地名。〔字彙〕「同上」。(210)地名。〔字彙〕「同上」。(211)地名。〔字彙〕「同上」。(212)地名。〔字彙〕「同上」。(213)地名。〔字彙〕「同上」。(214)地名。〔字彙〕「同上」。(215)地名。〔字彙〕「同上」。(216)地名。〔字彙〕「同上」。(217)地名。〔字彙〕「同上」。(218)地名。〔字彙〕「同上」。(219)地名。〔字彙〕「同上」。(220)地名。〔字彙〕「同上」。(221)地名。〔字彙〕「同上」。(222)地名。〔字彙〕「同上」。(223)地名。〔字彙〕「同上」。(224)地名。〔字彙〕「同上」。(225)地名。〔字彙〕「同上」。(226)地名。〔字彙〕「同上」。(227)地名。〔字彙〕「同上」。(228)地名。〔字彙〕「同上」。(229)地名。〔字彙〕「同上」。(230)地名。〔字彙〕「同上」。(231)地名。〔字彙〕「同上」。(232)地名。〔字彙〕「同上」。(233)地名。〔字彙〕「同上」。(234)地名。〔字彙〕「同上」。(235)地名。〔字彙〕「同上」。(236)地名。〔字彙〕「同上」。(237)地名。〔字彙〕「同上」。(238)地名。〔字彙〕「同上」。(239)地名。〔字彙〕「同上」。(240)地名。〔字彙〕「同上」。(241)地名。〔字彙〕「同上」。(242)地名。〔字彙〕「同上」。(243)地名。〔字彙〕「同上」。(244)地名。〔字彙〕「同上」。(245)地名。〔字彙〕「同上」。(246)地名。〔字彙〕「同上」。(247)地名。〔字彙〕「同上」。(248)地名。〔字彙〕「同上」。(249)地名。〔字彙〕「同上」。(250)地名。〔字彙〕「同上」。(251)地名。〔字彙〕「同上」。(252)地名。〔字彙〕「同上」。(253)地名。〔字彙〕「同上」。(254)地名。〔字彙〕「同上」。(255)地名。〔字彙〕「同上」。(256)地名。〔字彙〕「同上」。(257)地名。〔字彙〕「同上」。(258)地名。〔字彙〕「同上」。(259)地名。〔字彙〕「同上」。(260)地名。〔字彙〕「同上」。(261)地名。〔字彙〕「同上」。(262)地名。〔字彙〕「同上」。(263)地名。〔字彙〕「同上」。(264)地名。〔字彙〕「同上」。(265)地名。〔字彙〕「同上」。(266)地名。〔字彙〕「同上」。(267)地名。〔字彙〕「同上」。(268)地名。〔字彙〕「同上」。(269)地名。〔字彙〕「同上」。(270)地名。〔字彙〕「同上」。(271)地名。〔字彙〕「同上」。(272)地名。〔字彙〕「同上」。(273)地名。〔字彙〕「同上」。(274)地名。〔字彙〕「同上」。(275)地名。〔字彙〕「同上」。(276)地名。〔字彙〕「同上」。(277)地名。〔字彙〕「同上」。(278)地名。〔字彙〕「同上」。(279)地名。〔字彙〕「同上」。(280)地名。〔字彙〕「同上」。(281)地名。〔字彙〕「同上」。(282)地名。〔字彙〕「同上」。(283)地名。〔字彙〕「同上」。(284)地名。〔字彙〕「同上」。(285)地名。〔字彙〕「同上」。(286)地名。〔字彙〕「同上」。(287)地名。〔字彙〕「同上」。(288)地名。〔字彙〕「同上」。(289)地名。〔字彙〕「同上」。(290)地名。〔字彙〕「同上」。(291)地名。〔字彙〕「同上」。(292)地名。〔字彙〕「同上」。(293)地名。〔字彙〕「同上」。(294)地名。〔字彙〕「同上」。(295)地名。〔字彙〕「同上」。(296)地名。〔字彙〕「同上」。(297)地名。〔字彙〕「同上」。(298)地名。〔字彙〕「同上」。(299)地名。〔字彙〕「同上」。(300)地名。〔字彙〕「同上」。(301)地名。〔字彙〕「同上」。(302)地名。〔字彙〕「同上」。(303)地名。〔字彙〕「同上」。(304)地名。〔字彙〕「同上」。(305)地名。〔字彙〕「同上」。(306)地名。〔字彙〕「同上」。(307)地名。〔字彙〕「同上」。(308)地名。〔字彙〕「同上」。(309)地名。〔字彙〕「同上」。(310)地名。〔字彙〕「同上」。(311)地名。〔字彙〕「同上」。(312)地名。〔字彙〕「同上」。(313)地名。〔字彙〕「同上」。(314)地名。〔字彙〕「同上」。(315)地名。〔字彙〕「同上」。(316)地名。〔字彙〕「同上」。(317)地名。〔字彙〕「同上」。(318)地名。〔字彙〕「同上」。(319)地名。〔字彙〕「同上」。(320)地名。〔字彙〕「同上」。(321)地名。〔字彙〕「同上」。(322)地名。〔字彙〕「同上」。(323)地名。〔字彙〕「同上」。

【景明】〔名〕❶地名。〔字彙〕「同上」。❷地名。〔字彙〕「同上」。❸地名。〔字彙〕「同上」。❹地名。〔字彙〕「同上」。❺地名。〔字彙〕「同上」。❻地名。〔字彙〕「同上」。❼地名。〔字彙〕「同上」。❽地名。〔字彙〕「同上」。❾地名。〔字彙〕「同上」。❿地名。〔字彙〕「同上」。⓫地名。〔字彙〕「同上」。⓬地名。〔字彙〕「同上」。⓭地名。〔字彙〕「同上」。⓮地名。〔字彙〕「同上」。⓯地名。〔字彙〕「同上」。⓰地名。〔字彙〕「同上」。⓱地名。〔字彙〕「同上」。⓲地名。〔字彙〕「同上」。⓳地名。〔字彙〕「同上」。⓴地名。〔字彙〕「同上」。㉑地名。〔字彙〕「同上」。㉒地名。〔字彙〕「同上」。㉓地名。〔字彙〕「同上」。㉔地名。〔字彙〕「同上」。㉕地名。〔字彙〕「同上」。㉖地名。〔字彙〕「同上」。㉗地名。〔字彙〕「同上」。㉘地名。〔字彙〕「同上」。㉙地名。〔字彙〕「同上」。㉚地名。〔字彙〕「同上」。㉛地名。〔字彙〕「同上」。㉜地名。〔字彙〕「同上」。㉝地名。〔字彙〕「同上」。㉞地名。〔字

遠州出自藤山二云云。定国仁皇帝陵。[景説]。[景説]。[景説]

る。光るさま。(正字通)暎、晶晃発鏡。

【晷】 13987 キ (玉篇)居其切、後也。❶期(6－14378)に同じ。(正字通)晷、期見同。

【冥】 13988 キ 期(6－14378)・晷(6－14377)の古字。(集韻)期、古作冥。或作伊。案、説文部。

【晛】 13989 ゲン (字鏡)音徳切 **(晛)**

❶日がかたむく。(玉篇)晛、日跌也。(正衡子、要略)有待(畿晛)。❷あきらか。(集韻)晛、一日明也。❸或に作る。(6－13823)に作る。(廣韻)晛、くイ化。

【晰】 13990 セキ (字鏡)音徳切 **(晰)**

(集韻)晰、通。同じ。(字鏡)晰、同じ。(正字通)晰、通。同じ。

【晳】 13991 セキ シャク (正字通)思緯切 **(晳)** 一一 [2]

❶あきらか。(正字通)晳、明也。❷暫(6－2274)に通ず。(字彙)晳、與暫同。❸姓。(萬姓統譜)晳、見姓苑。

【晳】 13992 セキ シャク (集韻)思緯切 **(晳)** 一一 [2]

(集韻)晳、同じ。(字鏡)晳、同じ。(正字通)晳、通。同じ。

【晴】 13993 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13994 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13995 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13996 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13997 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13998 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 13999 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14000 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14001 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14002 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14003 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14004 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14005 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14006 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14007 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14008 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14009 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14010 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14011 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14012 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14013 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14014 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14015 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14016 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14017 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14018 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14019 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14020 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14021 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14022 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14023 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14024 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

【晴】 14025 セイ ジャウ くレ ❹ 庚 (集韻)慈盈切 **(晴)**

❶はれる。❷天に入って雨があがる。案(6－5765)に同じ。(説文)天死、雨而除、星見也。从夕生聲。(段注)古性。曙、精、皆今之晴。(説文通訓定聲)晴、日明也。(史記、天官書)天晴而無雲。(白虎通、日月)雨止而無雲也。(玉篇)晴、雨止也。(正字通)晴、雨霽且出也。(潘岳、閑居賦)風雨新晴、六合清朗。(文選、陶潛、西園詩)雪消雨霽、晴明也。(李白、春晴)雪消雨霽、五行志)以新、晴。(余説、春晴)詩)客愁潮雖迷、早夜、人曙、鶯母、鵲多晴。❸晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❹晴(6－14062)に同じ。❺晴(6－14062)に同じ。(説文通訓定聲)晴、字亦作晴。❻晴(6－14062)に同じ。

晴軍[ｊｈｅｉｇｕｎ]　はれがましいいくさ。衆々と勝負を決する戦。（慣性遊び戦）

晴景[ｈａｒｕｋａｇｅ]　はれ姿。（遊女の今付けの晴れ衣）

晴業[ｈａｒｕｇｙｏｕ]　晴れの仕事。

晴漾[ｈａｒｕｋａｇｅｒｏｕ]　清。胡蝶飛。●32400・2370の字。

晴明[ｈａｒｕａｋｉｒａ]　はれたのき。（桐雑。九日侍従殿。功子ら詩。「低葉恰日晴。天晴開晴。」●晴明。

晴陽[ｈａｒｕｈｉ]　はれたる日。晴天。（「晴陽未陰。有日無月。」蘇軾。詩九月日。）

晴霞[ｈａｒｕｋａｓｕｍｉ]　霞。（「晴陽未陰。有日無月。」蘇軾。詩九月日。）

晴霧[ｈａｒｕｇｉｒｉ]　晴れ渡る霧。（「晴陽未陰。有日無月。」蘇軾。詩九月日。）

晴雨[ｈａｒｕａｍｅ]　はれと雨。（晴れた日の涉。「天晴雨晴。晴涉。（「晴起。」同。起逸人。東坡。）分詩。義花花交。晴雨晴涉。」●32400・2370の字。

晴空[ｈａｒｕｚｏｒａ]　晴れ空。（「清。胡蝶飛。」●32400・2370の字。

晴天[ｈａｒｕｚｏｒａ]　はれたる空。（「晴天

【晴好雨奇】ケイコウウキ 山水の景色の晴雨共によいこと。（**晴**）鈔・鈔・湖上初晴後雨詩）水光激灩晴方好、山色空濛雨亦奇。

【晴耕雨讀】ケイコウウドク 晴れた日は出て耕し、雨が降れば入って書を讀む。

【晴洲者】ケイシュウシャ 明。程信（8・25881・26）の「晴初賦」に、空が晴れて霧のある朝の意。晴れた寒い朝。（水經・江水注）海・至・晴初霧且・林寒澗肅。

晴 13994 晴（8・13994）に同じ。

晴 13995 チ（玉篇）直象切 **睡**

睡 13996 スイ（集韻）直垂切 **睡**

睦 13997 ボク（集韻）莫卜切 **睦**

啓 13998 ケイ（集韻）遣禮切 **啓** ロン（集韻）輕匈切 **啓**

睫 小 **睫** 𠀋（說文）睫、目旁毛也。从目、昏省聲。（段注）輕匈切、古韻在侵部。今韓俗語云、俗書不是好晴、正作睫。（集韻）啓、書也。或作啓。❷姓（姓氏急就篇）陳、後漢將軍啓南。

晋 14000 シン（集韻）資盡切 **晋**

晋 小 **晋** 𠀋 三日。（**晉書音義**、下）晋、光也。（**唐韻佚**、**題**、**華**、**金風**、**隔**、**徹**、**遠**、**燈**、**凝**、**繁**、**晶**、**清**、**備**、**出**、**蔡**、**詩**、**除**、**雪**、**鬢**、**雲**、**霧**、**日**、**書**、**無**、**晶**。）❶あきらか。（**王維**、**瑤臺月賦**）遠而望之、浮之皎晋之精光。❷**鎮石の名**。水晶の略稱。（**王褒**、**七釋**）**王屏**、**晋**。

❶**精神**（8・26997）に通ず。（**讀書通**）晋、水精通而今分也。❷**晨**（8・13959）に通ず。（**集韻**）晋、**說文**、精光也、或作晨。

名 アキ。アキラ。チル。

解字 會意。日を三つ重ねた字。ひかり・日の精光で、明の極であるは、その意味であらはす。妙品の顯。

【晋楚】シンソ きそってすきとほってみること。（**字之彥**、**硯譜**）硯面重相如、**賢**、**相**、**間**、**賢**、**相**、**間**、**賢**、**相**、**間**

尺六寸。〔注〕晷、影也。❹日ざしをはかる桂。今は日時計にいふ。〔玉篇〕晷、以表知時刻。〔周髀算経〕以今至夏後、立八尺表、晷影。❺日ざし。日の光り。〔論衡〕晷、日光。〔易林〕晷、音油、以繩。❻ひあし。時。〔拾遺記〕前漢上〕有常炬、以手秉之、以之南山雪路之間、斜晷漸夜、釣子秉下、❼ひかり。〔周髀算経〕五星同晷。〔注〕師古曰、晷、光景也。〔謝朓、舞馬賦〕月晷呈祥、乾維改氣。

【晷】キ 【晷】(集韻)居洧切 【晷】(集韻)五紀切 【晷】(集韻)五紀切

字義 【晷時】ﾍﾞﾝ 日と星。〔漢書〕三月、日御水、詩序。〔後漢書、天文志〕日晷、星度。〔注〕晷、日影。〔後漢書、律暦志〕晷、日晷也。〔陸倕石闕銘〕晷、日影。〔謝朓、舞馬賦〕月晷呈祥。〔謝朓、鼓吹曲〕日晷、日晷日月運行。

【晷度】ﾄﾞ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷儀】ｷﾞ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷運】ｳﾝ 日の運行。〔謝惠連、擣衣詩〕衡蛇無後、晷運遠相望。〔謝惠連、擣衣詩〕衡蛇無後、晷運遠相望。

【晷儀】ｷﾞ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷漏】ﾛｳ 日影と時刻。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷刻】ｺｸ 日影と時刻。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷度】ﾄﾞ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷儀】ｷﾞ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷運】ｳﾝ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷漏】ﾛｳ 日影。〔説文〕晷、日影也。〔呂覧、明理〕晷、日晷日運行。

【晷刻】ｺｸ 日影。〔説文〕晷、日影也

照事中、王智に従つて善中に入り、諸善に錯化を勤設す。神(宗乗傳)に賜ふて西せしめ、之を授略大師と稱す。(神宗乗傳)

【智圓】●…宋の僧。錢塘の孤山に住し、之を錢塘大師と稱す。(錢塘孤山住持法師)

【智行】●…唐の僧。(高僧傳)

【智行】●…唐の僧。(宋高僧傳)

【智行】●…唐の僧。●…天竺(表記)→S2078…二二二の子。

【智位】…仁比…。智の位。(荊溪)

【智慧】…。智の位。(荊溪)

【智慧】…。智の位。(荊溪)

【智慧】

日部（八畫）智

【智眼】ちがん 慧をいう。智はよく事物を見究めるから眼といい、節も肉眼でなくはたらき。（法華経・方便品）「諸仏智慧甚深無量の法」（同・譬喩品）「我以仏智観是衆生」（同・寿量品）「我以仏眼観是衆生」（同・普賢菩薩勧発品）

【智能】ちのう 智慧と能力。（法華経・化城喩品）「其人智慧勇猛強盛能入大海」

【智論】ちろん 『大智度論』の略。（『大智度論』）

【智慧】ちえ 梵語 prajñā の意訳。（『大智度論』）

【智慧光】ちえこう 智慧の光明。（『大智度論』）

【智慧光明】ちえこうみょう 智慧の光明。（『大智度論』）

【智慧身】ちえしん 智慧の身。（『大智度論』）

【智慧海】ちえかい 智慧の海。（『大智度論』）

【智慧海印】ちえかいいん 智慧の海印。（『大智度論』）

【智慧蔵】ちえぞう 智慧の蔵。（『大智度論』）

【智慧蔵海印】ちえぞうかいいん 智慧の蔵の海印。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧】ちえぞうかいいんさんまい 智慧の蔵の海印三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもん 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧】ちえぞうかいいんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまいもんしょぶつげんぜんさんまい 智慧の蔵の海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧。（『大智度論』）

【智慧蔵海印三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前三昧門諸仏現前

[智德] 宋の僧。臨濟宗八世の宗師。(歳陽[智覺禪師] 宋の僧。臨濟宗。(歳陽[智覺禪師] 智ある老人。慈公(4…19…3…4…)の弟子。(列子、湯問)河曲智叟笑而止」の日。表奥、故之不惑。

[智慧] 智ある状態。(列子、天瑞)「敏心智慧」日不異。

[智達] 智ある人。(後漢書、袁紹傳)「袁紹達之士」其不清心人」。(後漢書、袁紹傳)「袁紹達之士」其不清心人」。(後漢書、袁紹傳)「袁紹達之士」其不清心人」

は碩初、殖の羽鍵郎、皇帝の初、官は御史大夫、親世の家令。(『續高僧傳』十七)

【智名】[名] 智慧があるという評判。(孫子、軍形)「故善戰者之勝也、無智名、無勇功。」

【智者勇功】[名] 智慧があるという評判と勇功。(『史記』太史公自序)「智慧があるという評判は、事の無知名、無勇功、作曾孫張良、『詩』に曰く、『後世無知者、無勇者』と。」

【智明】[名] 白元。賢明な。智識ある。

【智妙】[名] 圓作の境地を謂うその微妙不可思議なることをいう。法華迹門十妙の一。(『法華經』方便品)「我所得智慧、微妙最第一。」

【智鑑】[名] 智慧をいう。鑑は鏡前。智慧は事を知るかがみの如きものだからいう。(『海藏碎事』道釋、經)「名相眼識、非智鑑不能開。」

【智略】[名] ●智慧と勇敢。智慧と武勇。(列子、仲尼)「孔子曰、三王善任智勇者。(後漢書、朱祐傳)「今人我事、天下未定、法(李自・樊重)今天下未定、法(李自・樊重)智慧、勇敢、武略(張子房・張良)」(『史記』、朱祐傳)「今人我事、

日部 (八畫) 晻 暗 暗 暖 暝 暦 暦 暦

【尅】 14026 テイ (集韻)待機切 匣

首が横に曲った杖。(廣韻)尅、横首杖名。

【晷】 14032 サツ

晷(6-13910)に同じ。(篇海)晷・與晷同。

九畫

【暑】 14031 ショ

暑(6-14053)の略字。

【晚】 14030 バン

晚(6-13940)に同じ。

【暁】 14031 ゲウ

暁(6-14176)の俗字。(宋元前類)暁、通俗小說作晚。

【暨】 14036 キ

暨(6-14041)に同じ。(說文)既、段注(段)既、暨、作・飲豐也。

【暑】 14028 ショ

義未詳。(川端愚)暑水。

【暴】 14029 ボク

暴義未詳。(元韻)暴・暴・暴・

【暇】(遐)上ノ。いとま。(史記、孟嘗君列伝)文五年至尊之日後、未暇遠也。(史記、儀秦傳)未暇遠也。

【暇】(遐)ケ。いとま。明日。(梁元帝月令)

【暇】(遐)ケ。ひまいとまあり。(論語、微子)子路從而後、遇丈人以杖荷蓧。問曰、子見夫子乎。丈人曰、四体不勤、五穀不分、孰為夫子。植杖而芸。子路拱而立。止子路宿、殺鷄為黍而食之、見其二子焉。明日、子路行以告夫子。夫子曰、隱者也。使子路返見之。至則行矣。子路曰、不仕無義。長幼之節、不可廢也。君臣之義、如之何其廢之。欲潔其身、而亂大倫。君子之仕也、行其義也。道之不行、已知之矣。

【暇】(遐)ケ。ひまいとま。明日。(梁元帝月令)

【暇】(遐)ケ。ひまいとま。(唐太宗、李後主)鈍根無聞、愛武偃文。(李後主)鈍根無聞、愛武偃文。

【暇】(遐)ケ。ひまいとま。(唐太宗、李後主)鈍根無聞、愛武偃文。(李後主)鈍根無聞、愛武偃文。

【暇時】ケ。ひまのとき。(宋祁、陳氏)宴客有暇時、設夜宴。(宋祁、陳氏)宴客有暇時、設夜宴。

【暇日】ケ。無事の日。閑散な日。(韓愈、送温處士)此人明日將其妻子、去不復返。(韓愈、送温處士)此人明日將其妻子、去不復返。(韓愈、送温處士)此人明日將其妻子、去不復返

【暎】ヨウ かがやきうつる。光ひかの照り映ること。(篇海)。(字書)。左衰傳(魯)「我百姓之暎也。」暎暎暎。(晉元帝令狐[illegible]「暎暎暎。暎暎暎。暎暎暎

【暑】 14051 ショ（集韻）章呂切 [illegible]

小篆 ○あつい。むしあつい。（説文）暑、熱也。从日者聲。（段注）暑、與熱、溽音則、故許以熱訓暑、析言則、二云云、暑之義、主謂溽熱、主謂燥、（釋名）暑、煮也、如煮物也。（禮月令）土潤溽暑。○あつさ（易繫辞下）寒往則暑。○あつい暑節（禮月令）小暑至。（論語鄉黨）暑、必袗絺綌、間夏の土用十八日の名。

字義 ○アツ。ナツ。

○暑安（ショアン）暑中の御平安。書簡用語。

○暑衣（ショイ）布の帷子。（開八川本）孔雀経暑衣法。暑衣の服を相嗣へて縫はず。

○暑雨（ショウ）夏の雨。（集韻）暑雨。○暑雨悪寒（ショウウアクカン）暑雨に多有死。（論衡）（鯨鯢、至秋暑雨、力殺而死。

○暑雨都盧（ショウトロ）（集韻）暑雨、小民惟曰怨咨。（説文）暑雨、小民惟曰怨咨。（白虎通）王者雨、李史、陶説（説）、東秋、秋木、官遠、東、秋、百里、日、

○暑夏（ショカ）あつい。夏。（易繫辞）（魏書）志、田疇傳、「方今暑夏、道路不通、（三国志魏、王粲傳）、鳥、三年、暑夏、暑、日出暑之間、（三国志魏、王粲傳）、李

【暑】 14052 セイ（集韻）暉、暉、暉、

【暕】14057 日カン 〔集韻〕〔廣韻〕胡干切 匣 ㊀ラン 〔集韻〕郎干切 來

㊀久しぶりに晴れる。〔廣韻〕暕、除日也。明也。〔正字通〕暕、亟除積雨、後忽見日色也。㊁あきらか。〔集韻〕暕、明也。㊂かげぼし。〔集韻〕暕、陰乾也。

【睼】14058 ワン 〔集韻〕戈孤切 匣

睼(B-14034)の本字。〔正字通〕睼、俗睼字。

【暩】14059 ビン 〔集韻〕武孤切 微

鑾、渡(7-17854)に同じ。〔集韻〕渡、溫也。史記、齊有「暩王」或作「暩」。

【暎】14060 クワン 〔集韻〕呼玩切 匣

●鑾暩 ●暩 ●暩 ●

義明、直明。一般到記明、徐敏・金印台縑記明、清・遺通記・霞客記・四書集明、捨明、直明、直明、直

爾雅、鐘詩「洽暗黃芩蓼、而明紫桂椒」。❹くろずむ。（**慶藤**）病鳥詩「庵土似多已」暗、風雨受盡眼猶明」。㊀暗、（**玉篇**）其習疾、或外目障、（**沈括**、少年行）「鐵盡眼力暗、醉傾耳自聾」。❺ちかい（**慶雅**）「暗、近也」（**揚雄**、甘泉賦「暗、昭昭、陰陽遠、動勢上詩」郭門倉新動、郭色綠、將暗、❻だまる（**廣韻**）暗、又默也。❼あ（今案**說文**無相以示官射）又、馬暗長。❽そらんじる（**玉篇**）暗、誦也。（**廣韻**）暗、又默也。

暗（**暗**）ア。ア。暗、暗、暗、

倉冠記有「暗鬱」字、字部神財天。

暗化 ㄢˋ ㄏㄨㄚˋ。それとなく化する。〔顔氏家訓 兼愛〕

暗火 ㄢˋ ㄏㄨㄛˇ。消えかかった火。眠りかけた火。

程度の低い火。〔消えかかった火、眠りかけた火、白居易、都護相國…〕

暗花 ㄢˋ ㄏㄨㄚ。●暗花の花。〔史記 文帝、夜道走…〕

暗花 ㄢˋ ㄏㄨㄚ。●暗花の花。〔白居易、若有…〕

暗換 ㄢˋ ㄏㄨㄢˋ。●暗換。〔白居易、若有…〕

暗光 ㄢˋ ㄍㄨㄤ。紫外線。

暗換 ㄢˋ ㄏㄨㄢˋ。●暗換。〔白居易、若有…〕

人の知らない間にかへる。〔宋之問、經杜州…〕

詩「青林暗換、紅葉偏開」。〔白居易、若有…〕

遷少監不聞卑官、詩「暗換青蓮四千里、林間暗換四百年」。

暗君 ㄢˋ ㄐㄩㄣ。おろかな君主。暗愚な君主。明君の

逆。非、「日本政記、元亨元年、若狭、民…」

暗蛇 ㄢˋ ㄕㄜˊ。うすくはんやりとかかった蛇。蛇

〔蛇、蛇行、蛇…〕中庸「夫婦之愚、以知者…」

暗澹 ㄢˋ ㄉㄢˋ。暗中で木のはけしくつきあたる

と、〔詩逢士中書李金人〔詩〕〕「蕭蕭暗澹動、相…」

暗撥 ㄢˋ ㄅㄛ。ひそかに告知する文書。撥は官府

より發する木札の文書。〔蘇軾、奉和馬常侍寄…〕

中之作、詩「河朔法令嚴、星辰暗撥傳」。

暗月 ㄢˋ ㄩㄝˋ。かかってかすかな月。

夜存のうた。〔蘇軾、和馬常侍寄…〕

暗相 ㄢˋ ㄒㄧㄤ。内閣の割引。

暗溝 ㄢˋ ㄍㄡ。外部に開けないで地下を通る溝。

暗室 ㄢˋ ㄕˋ。まっくらな部屋。〔呂覽 …〕

「暗室に欲なし」。●有名または個人の外部に現

れない恶い方の隠れ处ない方面。

「暗黑時代」。●文物・道徳の隠滅した時

代。又は蛮風の時代等をいふ。

暗合 ㄢˋ ㄏㄜˊ。くらいたに、深くて暗い谷。〔江總、…〕

「人間既云倒、詩「暗谷留一話、鳥語辛林幽、夜雀…」

〔白居易、暮春…〕詩「暗谷春林幽、日出…」〔詩「暗谷

非鄰相、鳥聲不成響、…」〔詩「暗谷非鄰相」〕〔詩「暗谷

非鄰相」〕〔詩「暗谷…」〕

暗頓 [illegible] くらやみのかたち。徐彦伯「胡無人行」暗頓連沙起。（黄鶴曰：蒙恬之如。）

暗澤 [illegible] 目に見えない光。（陳鴻「東京夢華録」）

暗澹 [illegible] 暗くぼんやりしている。

暗蔽 [illegible] 暗くぼんやりしている。

暗然 [illegible] 暗くぼんやりしている。

暗箭 [illegible] 人に知られないように人を傷つける。暗箭で人を傷つける。

暗箭子 [illegible] 人に知られないように人を傷つける。

暗[illegible] 人を傷つける。

暗[illegible] 人を傷つける。

暗[illegible]

暗澳[ts]ㄠˋ 人目ぬぬなんだ。忍んで泣く涙。袖に包む涙。(東急・秋葉時)。自殺相並匿。暗涙雨行分。

暗鬱[ts]ㄩㄣˋ 憤鬱が深くなる。(陽雄・反雄雄)。

暗[ts]ㄇㄟˋ 其濃恐。今。暗鬱以其鬱絵。

暗合[ts]ㄏㄜˊ 人に知られずに合致すること。(武経要略)。

暗号[ts]ㄏㄠˋ 暗号。(隠・中軍傳・遇)人。(紀效新書・部是要)。行・暗号。

暗劣[ts]ㄌㄧㄝˋ 事にくらくらとうなること。(国史略・後京都天皇)。極正成誅曰。時氏無意不。知。氏。頼朝。(高倉天皇)。暗正成誅曰。時氏無意不。知。氏。頼朝。高亦不。知。氏。頼朝也。

暗合着[ts]ㄏㄜˊ ㄓㄜˊ 符標紙。暗に。それとなくしに。

暗劍殺[ts]ㄐㄧㄢˋ ㄕㄚˋ 隠塞家の語。九星の方位。之を知せば生殺を決めとしたり。(方術類要)。

暗公中[ts]ㄍㄨㄥ ㄓㄨㄥ ひそかに。内々。

暗劍殺大凶方之說[ts]ㄐㄧㄢˋ ㄕㄚˋ ㄉㄚˋ ㄒㄩㄥ ㄈㄤ ㄓ ㄕㄨㄛ 人民の意をひかへて民心を定めようとする。(六朝成詩・吏部・暗邀人心)。注解。(秦・漢・魏・晉・宋・斉・梁・陳・隋・唐・五代・宋・元・明・清・民国・人物・人心)。

暗車内・船[ts]ㄔㄜ ㄋㄟˋ ㄔㄨㄢˊ 推進機を装置した汽船。

暗視算計[ts]ㄕˋ ㄙㄨㄢˋ ㄐㄧˋ 暗打。紅暗視算計五回。暗躍出牧算計。

暗[ts]ㄇㄟˋ 暗。(仏教)。(仏教の大法を輪の如き暗。(仏教)。(仏教)。(仏教)

【曉】14077 ゲウ 曉(6－14176)の俗字。(宋元以来俗字譜)曉、日通記作。曉。

十一畫

【皦】14078 エウ (集韻)鎧祝切 [鑑] ●日の光。(玉篇)皦、日光也。●あきらか。(集韻)皦、明也。

【皦】14079 クワク (集韻)古鄭切 [藥] しばらくあきらか。(集韻)皦、暫明也。

【曀】14080 サ (集韻)都切 [霽] あきらか。(玉篇)曀、明朗也。

【曏】14081 キヨウ (集韻)ど及切 [漾] さらす。曏(6－14219)に同じ。(集韻)曏、曝也、或作曏。

【暝】14083 [集韻]元切 [青] 日ヨウ [集韻]夏元切 [徑] 日ヨウ 有(6－13963)の本字。(廣韻字譜)[集韻]元切 [青] 日ヨウ [集韻]夏元切 [徑] 日ヨウ 典(反文)義作"昏"。

【普】14082 フ

【暗】14084 サウ (集韻)蘇遭切 [豪] 日の色。(集韻)暗、日色。

【暗】14085 バク (集韻)伯各切 [藥] ●さらす。(集韻)暗、暴也。●曝(6－14223)に同じ。(字彙)曝、同。暗、或は曝(6－14359)に作る。(集韻)暗、或作"曝"。

【暗】14086 [集韻]吉了切 [篠] 日ゲウ [集韻]吉了切 [篠] ●あきらか。(玉篇)暗、明也。暗、同上。●はつきり別れるさま。(類篇)暗、清別貌。[集韻]暗(6－14101)の誤字。(正字通)暗、俗字之誤。

【暗】14087 ヨン (集韻)烏昆切 [元] あたたかい。俗に暖(6－14061)に作る。(集韻)暗、日出而温。(正字通)暗、俗暖字。

【暗】14088 [集韻]可亥切 [賄] 日カイ [集韻]丘良切 [灰] 日カイ ●てらす。(方言一十二)暗臨、照也。(疏證)暗、各本誤作"昭"。(玉篇)暗、昭也。●うつくしい。(方言一十三、注)暗暗、美也。(玉篇)暗、美也。●[集韻]暗、照也。

【暠】14089 カウ (集韻)古老切 [皓] 日ゴウ ●あきらかに白いさま。(集韻)暠、明白皃。●顥(18－43682)皓(8－22732)の誤字。

【皤】14093 [集韻]蒲遭切 [豪] 日ダイ [集韻]長亥切 [賄] 日ダイ [集韻]乃帝切 [泰] 四ノーク [集韻]榎徳切 [職] 日ダイ [集韻]乃代切 [隊] 日ダイ [集韻]長亥切 [賄] 日ダイ [集韻]乃帝切 [泰] 四ノーク [集韻]榎徳切 [職] 小 [説文]"皤、埶皤、日無光也、从[illegible]"。日の光がない。(玉篇)皤、日無光也。●くもる。日に光がない。(集韻)皤、日無光也。

(14090)——(14092)

【曄】14090 サウ (集韻)西遵切 [豪] 晛曄は、かわかす。ほす。(集韻)曄、晛曄、暴晒也。

【晛】14091 ケン 晛(6－13963)の俗字。(正字通)晛、俗晛字。

【晛】14092 アウ (集韻)於遵切 [豪] くもる。日に光がない。(集韻)晛、晛皤、日無光也。

(14093)——(14094)

日部 (九—十一畫) 曉曄曄曀曏暠暠暠

日能聲。『段注』疾聲。猶鍵鍵也。通俗文。霧濯日。謂之鍵鍵。

暢 14094

ヨウ 陽 ヤウ 養 ヨウ 漾 〔集韻〕鄭孔切 **養**

❶くもる。『玉篇』日晦。天氣不明。明也。〔集韻〕暗。昭曜。日未明。❷雲氣の盛なさま。〔賓

暢[暢]14095

チャウ 〔集韻〕五灰切 〔廣〕 ダイ ta-i

❶のびる。〔天玉・神獄下〕「可」雲暢。〔注〕善曰。暢。申也。〔張衡西京賦〕「故交畫不暢」〔注〕暢。申也。〔張衡西京賦〕「於是氏」〔注〕善曰。暢。長也。〔容書・聞文帝紀〕「神徹括暢」。❷やはらぐ。〔容書・聞文帝紀〕「神徹括暢」。❸のばす。しくべ。〔孔安國・尚書序〕「約文申義。敷暢厥旨」❹とほる。とおくへ。とはす。〔史記・樂書・西門豹文〕「於中」〔注〕正義。暢。通也。❺ゆきわたる。〔荀爽・司馬相如傳下〕「暢九垓」〔注〕服虔曰。暢。達也。❻のびる。〔天玉・神獄下〕「可」雲暢。〔注〕暢。充也。❼ながい。〔漢書・揚雄傳〕「暢」。❽琴曲の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。❾樂器の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。❿禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓫禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓬禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓭禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓮禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓯禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓰禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓱禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓲禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓳禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓴禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉑禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉒禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉓禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉔禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉕禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉖禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉗禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉘禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉙禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉚禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉛禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉜禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉝禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉞禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉟禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊱禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊲禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊳禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊴禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊵禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊶禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊷禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊸禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊹禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊺禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊻禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊼禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊽禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊾禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊿禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。

暢。間。暢。〔注〕善曰。暢。申也。〔張衡西京賦〕「故交畫不暢」〔注〕暢。申也。〔張衡西京賦〕「於是氏」〔注〕善曰。暢。長也。〔容書・聞文帝紀〕「神徹括暢」。❷やはらぐ。〔容書・聞文帝紀〕「神徹括暢」。❸のばす。しくべ。〔孔安國・尚書序〕「約文申義。敷暢厥旨」❹とほる。とおくへ。とはす。〔史記・樂書・西門豹文〕「於中」〔注〕正義。暢。通也。❺ゆきわたる。〔荀爽・司馬相如傳下〕「暢九垓」〔注〕服虔曰。暢。達也。❻のびる。〔天玉・神獄下〕「可」雲暢。〔注〕暢。充也。❼ながい。〔漢書・揚雄傳〕「暢」。❽琴曲の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。❾樂器の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。❿禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓫禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓬禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓭禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓮禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓯禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓰禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓱禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓲禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓳禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。⓴禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉑禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉒禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉓禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉔禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉕禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉖禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉗禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉘禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉙禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉚禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉛禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉜禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉝禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉞禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㉟禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊱禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊲禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊳禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊴禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊵禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊶禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊷禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊸禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊹禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊺禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊻禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊼禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊽禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊾禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。㊿禁酒の名。〔風俗通・聲音〕「大直行。和樂暢。」〔注〕暢。暢者言其直行。和樂暢。

(漢書、天帝紀、顔師古地不變、不改、地化、除陽不變、地不轉、陰變。●[illegible]。繁辭下。)

【暢】14095 チョウ (集韻)敕亮切 [illegible]。暢行。のびやかに。暢達。

【暢】14096 キ (集韻)正敕切 [illegible]。

●日の氣。昳(6 13810)の俗字。(集韻)。

誠、目繁也、古作昳。(正字通)誠、俗昳字。

●姓。(馬姓拾語)誠、古氣字。見、纂要。

【暢】14097 カン (集韻)居吉切 [illegible]。

かわく。かわかす。(類篇)韓、乾也。

【暢】14098 ①ヤウ ②ヤウ (集韻)徐章切 [illegible] (集韻)徐羊切 [illegible]。

①②あきらか。或は暢(6 14111)に作る。(集韻)暢、明也、或从、樣。●こがす。(玉篇)暢、焦也。

【暢】14099 ①ケン (集韻)呼典切 [illegible] ②ゲフ (集韻)郎合切 [illegible] ③キン (集韻)渠飲切 [illegible]。

(小篆) ①②あきらか。顯(13 437)に同じ。(說文)暢、衆微妙也。从日中視、絲、古文旦爲顯字。(段注)暢、省本義、顯省段借、戴籀既皆作顯、乃讀。●古文作暢爲段借、矣、故曰、古文以爲顯字。(廣韻)暢、明也。(類篇)暢、著也、光也。

●かまびすしい。曲(9 3975)に通ず。(說文通訓定聲)暢、段借爲曲。(說文)暢、或曰、衆口兒、讀若、喙喙。(段注)讀若、喙喙、當作讀若口逆之喙。(韓詩)暢暢雜耳。●いとを紡いでくび。ふしという。(說文)暢、或曰、此蘭不同、系部訓繭衣、之蘭也、亦蘭衣之義、之引申也、云云、按、此蘭機杼之絲、薄、亦可裝衣、而中有、錢結、故云、繭中繭、有小蘭、蘭之言、結也。●髮かざり。(補篇)暢、頭明飾也。●姓。(類篇)暢、姓也。

【暢】14100 シキ リャク (集韻)頑伏切 [illegible]。

あきらか。(集韻)暢、明也。

【暢】14101 ①カウ (集韻)胡老切 ②ゴウ 広公 [illegible] ③カウ (集韻)達到切 [illegible]。

①②あきらか。きよい。(說文)暢、晧也、从日、畅聲。●しろい。白いきまる。(實篇、釋詁)暢、暢、白也。

●俗に嗥(8 22787)に作る。(說文通訓定聲)暢、俗字作嗥。●俗に嗥(8 22771)に作る。(說文、段注)暢、俗从、白作嗥。●奚(8 13799)に通ず。(說文通訓定聲)暢、俗に嗥(8 14133)に作る。

【暖】14102 アン エン (集韻)於緩切 [illegible]。

ひろくてとおい。(集韻)暖、廣遠也。

【暦】14103 ソ (類篇)吾民 [illegible]。

【暦】14104 サツ (字彙補)吾殺 [illegible]。

あきらか。(易、乾鑿度、運能行)南時太暦。

【暗】14105 シン 去遠切 [illegible] 與、部同。

(集韻)暗、與、部同。見、拉、乾、鑿、度、

【賜】14106 タウ (類篇)與、賜同。見、拉、乾、鑿、度、子、鳴、條。

【晉】14107 ア (集韻)去魚切 [illegible]。

姓。或は晉(6 13999)に作る。(集韻)晉、說文、義、闕、一曰、姓也、或作、晉。

【學】14108 ガク 唐(7 19236)に同じ。(龍龕手鑑)學、同、照。

【晝】14109 ヤ (集韻)去魚切 [illegible]。

晝(4 9956)に同じ。(龍龕手鑑)晝、書、籀作、晝。

【曾】14110 ソウ 晉同、繁。

繁(9 31555)に同じ。(字彙)晉同、繁。

【晰】14111 ヒ 晰(6 14098)に同じ。(集韻)晰、或从、樣。

【曆】14111′ レキ 歷(6 14172)の略字。

日部 (十畫) 暢・暢・暢・

十一畫

【暩】 14112 ケン（篇海）古杜切 ひかり。（篇海）暩、光也。

【暩】 14113 チ 字彙 14110の古字。（正字通）字彙等字。

【曦】 14114 アイ 字彙 14222の俗字。（正字通）俗曦字。

【暭】 14115 バク 集韻 匹沒切 **【漠】** 日に光がない。くらい。曭曭、暭暭、日無光不明也。（集韻）或、曭曭、不明也。

【暰】 14116 ヨ 字彙 12586の俗字。（正字通）俗暰字。

【暳】 14117 「一」ハク 集韻 武延切 **【暳】** 「二」ヨク 集韻 紙延切 **【暳】** 「三」ヨク 集韻 紙延切 **【暳】** ❶さらす。（後漢書・禮儀志）暳、晒也。❷暳16 14173の俗字。（正字通）俗暳字。

【曚】 14118 ムン 篇海 胡刀切 **【曛】** もとる。（篇海）曚、昧也。

【曛】 14119 ボン（玉篇）莫本切 **【曛】** くらい。（玉篇）曛、暗。

【暫】 14120 ザン 集韻 昨盍切 **【暫】** 出典 chan. P.3. kan.

【暫】 ❶ 小 ❷しばらく。しばし。わずかの間。（說文）暫、不久也。从日斬聲。（玄應）暫、須臾也。（書・盤庚中）乃有不吉不迪、顛越不共、式敎我于大洪水、曰、予若觀于先王之耳目、罔有逸豫、暫勞于民、以大王之耳目、罔有逸豫、暫勞于民、以大王之耳目、罔有逸豫、暫勞于民、以大

「暫勞」[illegible]。わづかの間労折る。暫勞水逸を見よ。

「暫勞水逸」[illegible]。わづかの間労折つて水の間楽しむ。(樂衡)西京賦「暫勞水逸、無憂而止。」(注)善曰、揚雄曰、不二勞養、不二久供二賓實。王義之曰、暫勞之所、枝蔓水逸、各也。(抱朴子、廣譬)久愛爲、厚樂之水、暫勞爲、水逸之始。(任昉、爲蕭揚州薦士表)臣聞、求賢暫勞、垂拱水逸。

「暫逸」[illegible]。しばらく逸理する。(六朝散語、史部、智理、暫勞辨理)

「暫離」[illegible]。しばらくはなれる。(江淹、別賦)近能暫離之抵、別永訣之情、者矣。

「暫留」[illegible]。しばしとどまる。暫時の逗留。(宋之問、秋晚遊、青樓寺詩)、漁舟出沉、樹、暫可留。(李商隱、小青詩)、緊、松鎖來得、摸、石暫徙。

「暫徙」[illegible]。かりのとりひく。編悪之書、形名暫徙。(文選)、かりの間住、見其舞、(以使、擁、暫徙)。

「暫住」[illegible]。わづかの間住む。(文選)、生死は存と住復と、絶えることのなく、(列子、湯問)太古之人、知二生之暫來、知二死之暫往、故從、心而動、不、違、自然、所、好常身之樂、非、所、惡常身之患、非、所、欲常身之利、非、所、惡常身之害、者、是、忠信其性、而去、就復性、(注)生實暫來、死實暫往、是忠信其性、而去、就復性、辛炎驚之、有似、字誤、然此義、亦皆以爲、存在復、形氣轉變、生死變化、未始絶滅、也。

「暫爲押敵」[illegible]。[illegible]、[illegible]、[illegible]、

敏 暮候 ⑴ 夕方のもくげき。「暮光」「暮鼓」「暮雲」「暮鐘」「暮色」「暮春」「暮秋」「暮雨」「暮雪」「暮潮」「暮蟬」「暮鳥」「暮年」「暮夜」「暮雷

【暮】14129 バク (集韻)三木切 (正韻)莫故切 (ni) ない。(字彙)

くらい。(集韻)暮、至也。●ない。(字彙)

曖、虛無也。●衆(7—18149)・賢(23—2282)に通ず。(正字通)暮、與漠・寞・並通。

【曖】14130 ショウ (廣韻)七木切 (シュ) 冬

いなびかり。(玉篇)曖、電光也。

【曖】14131 クワウ (集韻)虎見切 (ヨウ) 宕

あつまる。あつい。或は瞛(6—13967)に作る。(集韻)曖、旱熱也、或省。

【曚】14132 (集韻)荒賀切 (ヨウ) 箇 (集韻)入質切 (ニチ) 質

ちかづくこと。

(集韻)曚、近也、从日匿聲。(爾雅、釋詁)曚、近也。

(注)曚、親近也。(左氏、僖二十四)曚、近身。(注)曚、親近也。(左氏、僖二十四)曚、近身。●ちかづき。みより。親幸する者。(周語、晉語六)大夫私曚。(注)曚、近也。●わたくし。(列子、湯問)以心曚、殺。(正南華、(注)曚、私根。●すみやか。(呂(7—279)に通ず。(說文通訓定聲)

曚、反借爲瞢。(廣雅、釋言)曚、瞢也。●曚昧。(6—13968)に同じ。(集韻)曚、昧、或从尼。(左氏、襄二)其誰曚我。(釋文)曚、本又作昵。

【曚】14133 シャウ (集韻)詳良切 (ショウ) 陽

●日が上りすすむさま。(集韻)、日光上進皃。●あきらか。(玉篇)、明也。●章(6—13276)に通ず。(正字通)曚、通作章。

【曞】14134 ガウ (集韻)牢刀切 (ゴウ) 豪

日の光。(集韻)曞、日光。

【曞】14135 ケイ (集韻)詳惠切 (ケイ) 霽

●衆いの星のさま。(玉篇)曞、衆星貌。●小さい星のさま。(類篇)曞、小星也。●正字通)曞、小星皃。●或は曖(6—14238)に同じ。

作る。（集韻）畊、或不省。⑩通じて畊に同じ。14—1158）に作る。（正字通）畊、一説、詩謳、从口、當作畊。

【𦣞】14136 ケイ 𦣞（1—1958）に同じ（韻會）

□ウ（集韻）潰敗の皃。
□ホク（集韻）步ゆの皃。又、ヌ。
□ハク（集韻）百各切。
□ハク（集韻）正角切。
□ホク（集韻）謔法切。

【暴】14137

□ホク（14—14201）に同じ。（說文）暴、疾有所趣也、从日出本廾之。（段注）會意。廾者、捧手也。薄報切。按、此與𤇾二字形義皆殊、而今誤不別。（正字通）暴、橫也。（孟子・滕文公下）暴君代作。（注）暴、亂也。「史記・伯夷傳」暴虐之世。（注）暴、暴戾。謂世暴而惡民也。❶つよい。たけだけしい。（正字通）暴、猛也。「晉・乾・保合大和」疏「暴、猛也。」「晉・乾・保合大和」疏「暴、猛也。」「晉・乾・保合大和」疏「暴、猛也。」

德)行不人性。注:周衡人以能暴苦。(後漢書、任延傳)注子弟賓客,既人暴虐。

【暴戮】 ㄅㄨˋ ㄌㄨˋ 殺人暴虐。(荀子、君道)注:戮,殺。

【暴虎】 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ 徒手搏虎。(詩、小雅、小旻)注:暴虎,無兵而搏虎。

【暴虎馮河】 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ ㄆㄧㄥˊ ㄏㄜˊ 徒手搏虎,徒步渡河。(論語、述而)注:暴虎,空手搏虎。馮河,無舟楫而渡河。

【暴虎馮河】 ㄅㄨˋ ㄏㄨˇ ㄆㄧㄥˊ ㄏㄜˊ 暴虎,空手搏虎。馮河,徒步渡河。(詩、小雅、小旻)注:暴虎,無兵而

【暴心】[illegible]。又、疾風をいう。「暴怒」
【暴怒】[illegible]。[illegible]。
【暴戾】[illegible]。[illegible]。
【暴日】[illegible]。[illegible]。
【暴雨】[illegible]。[illegible]。
【暴虐】[illegible]。[illegible]。
【暴露】[illegible]。[illegible]。
【暴骨】[illegible]。[illegible]。
【暴師】[illegible]。[illegible]。
【暴出】[illegible]。[illegible]。
【暴暴】[illegible]。[illegible]。
【暴暴】[illegible]。[illegible]。
【暴暴

覺寤。【孫詒】（後漢書）賈逵傳：「逵近百部暴著。而賈逵（注）暴著（注）暴露也。」（後漢書）竇融傳：「近百部暴著。」

【暴微】ㄅㄨˋ ㄨㄟ 見也。（白居易）杜陵叟詩：「長安朝朝暮暮求，孝悌ㄅㄨˋ ㄨㄟ。」

【暴漏】ㄅㄨˋ ㄌㄡˋ 暴露也。（史記）秦始皇本紀：「暴漏骸骨。」

【暴露】ㄅㄨˋ ㄌㄨˋ 暴露也。（後漢書）竇融傳：「暴露野外

服[illegible]若炙以手熨目[illegible]黑脂脂黑蔡[illegible]性各依其力色[illegible]皆[illegible]鼎[illegible]鼎[illegible]鼎

【暎】14149 テン ネン 〔集韻〕乃見切 霰

❶日光。晛(8－13942)に同じ。〔集韻〕晛、日光也、或从然。❷あたたか。〔廣雅、釋詁三〕暎、煖也。

【暹】14150 セン 〔集韻〕思廉切 鹽 ㄒㄧㄢ hsien

❶日がのぼる。〔集韻〕暹、日光升也。❷すむ。〔正字通〕暹、進也。❸暹羅は、國の名。〔正字通〕暹、暹羅、海中國名。

〔暹羅〕ヨク ラ 亞細亞州の東南に位し、緬甸の東、安南の西にある國。〔清會典、緬甸、主客清吏司〕凡西番朝貢之國、云云、暹羅、〔注〕暹羅、古暹羅斯、暹、一國名、暹羅所併、遂稱暹羅。〔暹羅語〕ヨク ラ 俄珠場の異名。〔和漢三才圖會、原魚類〕暹羅、暹羅、形如鯉、而尾狹微少、大低高二尺餘、背稜大、距尖而長、身多斑点、而冠小、性勢敏捷、雖倒不覆、遇魚、魚附目、暹羅、家魚。

〔暹羅染〕ヨク ラ 更紗染の異名。しゃむろずめ。華布、(和漢三才圖會、絹布類)暹布、印花布、暹羅染。

【暹】14151 タン 〔集韻〕徒案切 闞

あきらか。晅(8－13951)に同じ。〔集韻〕晅明也、或从單。

【暸】14152 ソク 〔集韻〕蘇谷切 屋

❶かわかす。〔集韻〕暸、燥也。❷さらす。〔篇海〕暸、暴也。

【曠】14153 ケイ キョウ 〔集韻〕俱永切 梗

❶あきらか。〔集韻〕曠、明也。❷景(8－13983)の俗字。〔正字通〕曠、俗景字。

【暸】14154 キ 〔玉篇〕于鬼切 寘

日光。曦(8－14039)に同じ。〔玉篇〕暸、日光也、曦、同上。

【暸】14155 ヘツ ヘチ 〔集韻〕匹蔑切 屑

暫暫は、日の落ちる勢。〔集韻〕暸、暫暸、日落勢。

【暸】14156 リン 〔集韻〕犀珍切 眞

人名。〔集韻〕暸、人名、漢有金閶侯暸。

【暸】14157 チツ チチ 〔集韻〕敕列切 屑

あきらか。〔集韻〕暸、明也。

【暸】14158 キツ コツ 〔集韻〕迄及切 屑

日が物を乾かす。〔集韻〕暸、日乾物也。

【暸】14159 クツ 〔廣韻字典〕暸、不明貌。

くらいさま。〔康熙字典〕暸、不明貌。

【暸】14160 トン 〔集韻〕他昆切 ㄊㄨㄣ t'uen

❶日の出るさま。轉じて、朝日をいふ。旽(8－13777)に同じ。〔集韻〕暸、日始出皃、亦作純、暾、暾、九歌、東君、暾將出兮東方。〔注〕謂、日始出東方、其容暾暾而盛大也。❷朝日が物を照らす。又、あたたかい。〔正字通〕暸、日始昧時、物色、〔蘇軾、吳山人詩〕一去吳興十五年、一寸閒田晚日暸。❸によい。おろかな。〔正字通〕暸、俗謂人性不一、與利、曰、暸暸。

〔暸谷〕トン 清水地(4－1450：8)の字。

〔暸暸〕トン 日光が満ちわたるさま。〔楚辭、劉向、九歌、遠遊、日出暸暸其西荒兮、陽炎炎而雲收。〔文參、春時、河陽陽雁、別業、時風暖日暸暸、青鳥飛、近村、❷大の光の盛なるさま。〔劉孝綽、五行志、開元五年、洪運二州災、火延燒、數金部、人先夏大精赤暸暸飛來、旋即火發。

【暸】14161 ❶カン ❷ケン 〔集韻〕若盈切 庚

❶日の出るさま。〔廣韻、諸、日出皃。❷暸(8－14160)の誤字。〔正字通〕暸、暸字之誤。舊注改晉、非。

【暸】14162 ❶キ 〔集韻〕虛其切 ❷ヨキ 〔集韻〕許已切 圖

❶ある。又、さかん。晞(8－13989)に同じ。〔集韻〕暸、說文、炙也、一曰、燒也、或作、暸。❷盛なさま。又、あつい。〔集韻〕暸、盛皃、一曰熱也。

【暸】14163 ❶エイ 〔集韻〕書計切 霽 ㄧㄟˋ i

❶エイ 〔集韻〕乙眞切 眞 ㄧㄣ in

❶エチ 〔集韻〕一結切 屑

❶❷❸❹❺❻❼❽❾❿ くもる。日がかげる。

〔說文〕暸、天陰沈也、从日晝聲、詩曰、終風且暸、〔段注〕本作陰而風也、今正、攷開元石經、引作、天地陰沈也、太平御覽、引作、天陰沈也、〔釋名、釋天〕暸、翳也、言雲氣掩翳日、使人不明也、〔小爾雅、釋天〕陰而風曰暸、使人不明也、〔詩、邶風、終風且暸、〔傳〕陰而風曰暸、

〔暸暸〕エイ 陰つて暗いさま。暗は翳。〔詩、邶風、終風、暸暸其陰、〔箋、陰雲其陰、〔集傳、暸暸、陰事之狀、〔詩、王風、君子陽陽、〔箋、陽、陽、陰、〔文選、天台山賦、〔注、暸、暗也、〔文選、東都賦、〔注、暸、暗貌、〔文選、東都賦、〔注、暸、暗貌、〔文選、東都賦、〔注、暸、暗貌

【旣】 14165
㊀ケイ（集韻）居未切 去未 見
㊁キ（集韻）巨乙切 質
㊂コチ（集韻）居拜切 卦

小 ⓐ 𠦪 ⓑ 𠦪 ⓒ 𠦪 ⓓ 𠦪 ⓔ 𠦪 ⓕ 𠦪 ⓖ 𠦪 ⓗ 𠦪 ⓘ 𠦪 ⓙ 𠦪 ⓚ 𠦪 ⓛ 𠦪 ⓜ 𠦪 ⓝ 𠦪 ⓞ 𠦪 ⓟ 𠦪 ⓠ 𠦪 ⓡ 𠦪 ⓢ 𠦪 ⓣ 𠦪 ⓤ 𠦪 ⓥ 𠦪 ⓦ 𠦪 ⓧ 𠦪 ⓨ 𠦪 ⓩ 𠦪

時命を定める法。〔說文新附〕曆、曆象也。从日麻聲。〔費、洪範〕五曰曆數。〔洪範〕五曰歷數。〔淮南子、本經〕星月之行、而紀萬國之曆。〔淮南子、本經〕星月之行、而紀萬國之曆。〔注〕曆、術也。❷よみ。日亂。❸ものがたり。〔書〕古時、諸侯世世相傳、以觀天下之曆數。〔注〕曆、傳也。❹ものがたる。〔禮、中庸〕君子之道、譬如行遠必自邇、譬如登高必自卑。〔詩、小雅、四牡〕王事靡盬、不遑啟處。〔傳〕啟、跪也。❺ものがたり。〔荀子、天論〕此其人之所以治亂也、而天何與焉。❻ものがたる。〔注〕曆、數也。❼さだめる。まねりあはせる。〔書、大禹謨〕天之曆數在爾躬。❽とし。年代。歲。〔陶唐氏〕帝堯、名放勳。〔陸機、辨亡論上〕曆命應化而微。❾つき。月。〔漢書、語傳〕天地、周遍一周曆、天數一終。❿よはひ。年齢。〔劉禹錫、問牛〕奏不一紀、徒慙義陽公主薨。〔表〕登意、遂一紀、知曆。⓫日記。〔蘇軾、志林子真〕奉三御皇、實之所爲、夜必有之。⓬簿帳。〔青瑣詩話〕取門曆、書一紀。⓭通じて厤(6—1298)に作る。〔說文新附〕曆、史記通作、厤。〔正字通〕曆、通作、歷。史、漢皆作、厤。

參考 ❶❷❸❹❺❻❼❽❾❿⓫⓬⓭の諸義を歷日で暦の代りに歷を用ふ。〔漢書〕天文志、歷、數術之一。〔注〕師古曰、歷者、所以紀日月之數、故曰歷也。〔後漢書、天文志〕歷、數術之一。〔注〕劉昭

月令問答）問答曰、昏云、小暑季夏節也、而今文象而記也。

【曆法】ii 、何也、曰、今不以節而以節、言擬時始象而記也。

【曆日】ii 、曆法、曰、月令、月令、其月令、其月令、其

断國の鷄鳴が東に出る前通してなったもの。(法花経伝記・第六・金剛鬼解入菩薩二高聞法・後漢書・苦縣鳴鶴・解入菩薩二高聞法・後漢書・苦縣鳴鶴・時河雖見為鷄鳴・昔光武鳴鶴・

晚鳥〈新撰詩花下〉紅粉、官閣紫柳堂中開晚鳥。鶯吹玉漏、出鎖宴。

晚雲〈唐、李白〉、晚雲、晚雲、晚雲

晚霞 ㄨㄢˇ ㄒㄧㄚˊ あかつきのあられ。（韻府引。柔脆文茶、秋水客茶、鈍根霞、孤鶴霞、蒼茫晚霞、晚山、晚霞、晚鶴、晚雲、晚日、晚月、晚鳥、晚蟬、晚蛩、晚蛙、晚蛛、晚蝶、晚蝦、晚蟹、晚蟲、晚蟾、晚蟬、晚蟬、晚蟬

然、見冶道之可以然、見（資治通鑑周紀）慎王三十一年、臣下曉然、所知、（資治通鑑）然、知、其所以然也、（資治通鑑）

曉 明也、（呂氏春秋）物通曉神明、

曉 明也、（呂氏春秋）知、（資治通鑑）友人、

曉 明也、（呂氏春秋）所以曉、（呂氏春秋）

曉 明也、（呂氏春秋）（洗凱、（呂氏春秋）周慎因、（呂氏春秋）、（呂氏春秋）、（呂氏春秋）

簡一巻は切紙断簡の法会を述べ、後五巻は推少七級交貴流出の為を記して宿る。（鳳凰博攝要子、天文算法類。）

【曊】14178 シン [字彙補] 新同前 曊

日のやどる所。（字彙補）日所、次隔日曊。（管子、五行篇）神曊。（注）日所、次隔日曊。

【曋】14179 エキ 説6－128296に同じ。（字彙補）同、説前。

【曌】14180 ショウ 説10－208586の古文。（字彙補）同、古文孟子。

【曏】14181 キョウ 説6－142454の古文。（字彙補）説文補字。

【曐】14182 キキ 音6－138516に同じ。（字彙補）同、音。

【曒】14183 ケイ 説6－14409に同じ。（字彙補）説文解字序第一。（字彙補）同、説。

【曓】14184 ジュン 春6－138444に同じ。（字彙補）春秋、孔子、魯哀公、春秋。

【曔】14185 ハク [字彙補] 地名。

人名。（字彙補）地名。

【曕】14186 セキ 説7－192265に同じ。唐の武后の名字。（説文解字典）説文、武后、名字。（説文解字典）同、説。

【曖】14187 オン 説6－142197に同じ。（字彙補）説文解字。

【曗】14188 ケイ 説6－14201に同じ。（説文解字）説文、説。

【曘】14189 ヨウ 義未詳。（説文解字）説文、説。

【曙】14190 ダン 義未詳。（説文解字）説文、説。

【曚】14191 ショウ 義未詳。（説文解字）説文、説。

【曛】14192 ユン 説6－142447に同じ。（説文解字）説文、説。

十三畫

【曜】14193 エキ ヤク [集韻] 天文切 [酉]

【曝】14194 ひかる [集韻] 光也、或从日、从出。

【曞】14195 ショウ [集韻] 詳也 [襄]
ジョウ [集韻] 知也 [襄]
ショウ [集韻] 詳也 [襄]

【曟】14196 [集韻] 光也 [襄]

【曠】14197 [集韻] 光也 [襄]

【曡】14198 [集韻] 新同前 [襄]

【曢】14199 [集韻] 光也 [襄]

【曣】14200 [集韻] 光也 [襄]

【曤】14201 [集韻] 光也 [襄]

【曥】14202 [集韻] 光也 [襄]

【曦】14203 [集韻] 光也 [襄]

【曧】14204 [集韻] 光也 [襄]

【曨】14205 [集韻] 光也 [襄]

【曩】14206 [集韻] 光也 [襄]

【曪】14207 [集韻] 光也 [襄]

【曫】14208 [集韻] 光也 [襄]

【曬】14209 [集韻] 光也 [襄]

【曭】14210 [集韻] 光也 [襄]

【曮】14211 [集韻] 光也 [襄]

【曯】14212 [集韻] 光也 [襄]

【曰】14213 [集韻] 光也 [襄]

【曱】14214 [集韻] 光也 [襄]

【曲】14215 [集韻] 光也 [襄]

【曳】14216 [集韻] 光也 [襄]

【曵】14217 [集韻] 光也 [襄]

【曶】14218 [集韻] 光也 [襄]

【曷】14219 [集韻] 光也 [襄]

【書】14220 [集韻] 光也 [襄]

【曹】14221 [集韻] 光也 [襄]

【曺】14222 [集韻] 光也 [襄]

【曻】14223 [集韻] 光也 [襄]

【曼】14224 [集韻] 光也 [襄]

【曽】14225 [集韻] 光也 [襄]

【曾】14226 [集韻] 光也 [襄]

【替】14227 [集韻] 光也 [襄]

【朁】14228 [集韻] 光也 [襄]

【朂】14229 [集韻] 光也 [襄]

【朄】14230 [集韻] 光也 [襄]

【朅】14231 [集韻] 光也 [襄]

【朆】14232 [集韻] 光也 [襄]

【朇】14233 [集韻] 光也 [襄]

【月】14234 [集韻] 光也 [襄]

【有】14235 [集韻] 光也 [襄]

【朊】14236 [集韻] 光也 [襄]

【朋】14237 [集韻] 光也 [襄]

【朌】14238 [集韻] 光也 [襄]

【朎】14239 [集韻] 光也 [襄]

【朏】14240 [集韻] 光也 [襄]

【朐】14241 [集韻] 光也 [襄]

【朑】14242 [集韻] 光也 [襄]

【朒】14243 [集韻] 光也 [襄]

【朓】14244 [集韻] 光也 [襄]

【朖】14245 [集韻] 光也 [襄]

【朗】14246 [集韻] 光也 [襄]

【朘】14247 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14248 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14249 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14250 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14251 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14252 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14253 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14254 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14255 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14256 [集韻] 光也 [襄]

【朝】14257 [集韻] 光也 [襄]

暾 14199 □サツ □旅(7—1920)に同じ。

□タイ (集韻)清泰切 [illegible]

□タイ (集韻)清泰切 [illegible]

□タイ (集韻)苦了切 [illegible]

□タイ (集韻)下老切 [illegible]

暾 14200 □タン (集韻)[illegible]

□タン (集韻)[illegible]

□タン (集韻)[illegible]

□タン (集韻)[illegible]

暾 14201 ハク (廣韻)[illegible]

暾 14202 ケイ ギャウ (集韻)[illegible]

暾 14203 タン (集韻)[illegible]

暾 14204 エン (集韻)以瞻切 [illegible]

暾 14205 レイ 嘮 同・嘮

暾 14206 □アイ (集韻)於代切 [illegible]

□アイ (集韻)[illegible]

暾 14207 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14208 エツ 暾(6—14169)の正字。(正字通)暾・倍体・曦。

暾 14209 エツ 暾(6—14169)に同じ。(集韻)暾・同・曦。

暾 14210 ギ 曦(6—14253)に同じ。(集韻)

暾 14211 セウ (篇韻)正遥切 [illegible]

暾 14212 音未詳 [illegible]

暾 14213 バク (集韻)[illegible]

暾 14214 チョ 著(6—14140)に同じ。(字學指南)著・與・著同。

暾 14215 カ 夏(6—5726)に同じ。(玉篇)海・暾・同・夏。

暾 14216 クワイ 義未詳。(海篇)暾・音會

暾 14217 タイ (集韻)徒對切 [illegible]

暾 14218 ジュ (玉篇)百朱切 [illegible]

暾 14219 キョ (集韻)去及切 [illegible]

暾 14220 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14221 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14222 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14223 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14224 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14225 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14226 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾 14227 ヨウ (玉篇)以證切 [illegible]

暾

【曙】 14220 ショ ジョ（集韻）常恕切 **鋤**

曙 小 **鋤** 𠀠 **ショ** **ジョ** 𠀠 **あけぼの**。よあけ。（『說文新附』）**曙**。曉也。从日署聲。（『類篇』）**曙**。且也。"無辨、遠道、魂營營而至、曙。"（『楚辭、遠道』）魂營營而至、曙。**●あける**。夜があける。（『玉篇』）曙、來方明也。（『淮南子、天文』）日入、十萬頃之池、於蒙谷之沖。（注）曙、明也。**●**曙は、一朝。旦。（『古文』）曙矢。（『詩』）曙矢。

【曛】 曛 **クン** **クン** 𠀠 **くれがた**。**くれ**。（『集韻』）**曛**。明け方の時刻。曛、黄昏。（『留侯外傳、鶴伯傳、松松、客客聞』）曛起、夏陰、夏陰、日陰、史部中、冥、詩可、解、解、風

【曝】 曝 **ボク** **ボク** 𠀠 **あばく**。**あばき**。（『集韻』）**曝**。清、周語 9-34-1（328）の字。**●**曝、曝、曝、

ぐれ。ゆふがた。〔玉篇〕曛、黄昏時。〔謝靈運、晚出西射堂、詩〕夕曛氣陰。〔注〕朝日、曛、黄昏時。❹赤黄色。〔楚辞、九章、哀郢〕曛以蔽日。〔注〕曛、黄色也。〔呂氏、恩美〕曛、黄以昏。期、案〔注〕曛、一作曛。

曛旭[illegible] 夕刻と朝日。日の入りと日の出。夕日と旭日。〔今白、鋤歌行〕吾兄と曛旭相思、滿室有美顔如玉。

曛黄[illegible] 夕日。ゆふがた。黄昏。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳、飛鳶、詩〕日暮曛黄、鳶唳高天。〔李善注〕曛、日暮黄昏。

曛月[illegible] 日が暮れてくらい。又、ゆふやみ。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳、飛鳶、詩〕曛月流影、暗日無光。〔李善注〕曛月、日暮黄昏。

曛黑[illegible] 日が暮れてくらい。〔楚辞、九章、哀郢〕曛黑而無所極。〔王逸注〕曛黑、日暮黄昏。

曛[illegible] 夕刻。たそがれ。夕暮。〔楚辞、九章、哀郢〕曛、日暮黄昏。

曛夕[illegible] ゆふべ。いりひ。夕陽。落暉。落日。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳、飛鳶、詩〕曛夕流影、暗日無光。

曛暮[illegible] 日暮れ。夕暮。〔楚辞、九章、哀郢〕曛、日暮黄昏。

曛雰[illegible] 夕陽。落暉。落日。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳、飛鳶、詩〕曛雰流影、暗日無光。

曛[illegible] 夕陽。落暉。落日。〔謝靈運、擬魏太子鄴中集、陳琳、飛鳶、詩〕曛日流影、暗日無光。

曛夕[illegible] ゆふべ。たそがれ。夕暮。

曛霧[illegible] 黄色を帶びた霧。黄霧。〔梁、沈約、冬日詩〕曛霧蔽朝天、夕陰晦氣地。

曛[illegible] 〔集韻〕〔類篇〕〔字彙〕〔正字通〕曛、或作曛

【曊】14238　ケイ　晞・晞・或不省。

【曝】14239　□ボク　（集韻）邪木切　屋　又 X ㄨ。
□ボウ　（集韻）薄報切　號　邁ハク

□さらす。日にさらしてかわかす。暴。○（→14137）の俗字。『集韻』『篇』曰、或作。
【曝衣】『晉書』『周顗傳』「顗、嘗有時服、衣、直欲出書曝衣。」『世說新語』「顗、嘗有時服、衣、直欲出書曝衣。」『晉書』『周顗傳

曠 14245 クワウ 【廣部】 [廣部] 苦謗切 [廣韻] 去聲 kuang

曠 ❶あきらか。晃(6－13891)に同じ。[説文] 曠、明也。从日廣聲。[一説文通訓定聲] 曠、與晃同字。[後漢書] 蔡邕傳、曠若若、[注] 曠、明也。[説文通訓] 晃、[説文] 曠也。[玉篇] 晃、明也。❷ひろい。[説文] 曠、空地。[廣韻] 曠、空也。❸むなしくする。[説文] 曠、空也。[玉篇] 曠、空也。❹ほしいまま。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲放。[論語] 陽貨、[注] 曠、放也。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲放。❺とおい。[説文] 曠、遠也。[玉篇] 曠、遠也。[廣韻] 曠、遠也。❻とこしえ。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲久。❼ながい。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲久。❽ひま。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲久。❾ひさしい。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲久。❿へだたる。[孔子家語] 辯樂解、[注] 曠、隔也。⓫ひろい。[説文] 曠、[玉篇] 曠、[廣韻] 曠、[説文通訓定聲] 曠、假借爲廣。[孟子] 盡心上、[注] 曠、廣也。[孔子家語] 辯樂解、[注] 曠、大也。[説文通訓定聲] 曠、假借爲廣。[呂覽] 淫辭、[注] 曠、大也。[老子] 十五、[注] 曠、空也。[荀子] 成相、[注] 曠、空也。[呂覽] 知士、[注] 曠、空也。[呂覽] 慎人、[注] 曠、空也。[呂覽] 慎大、[注] 曠、空也。[呂覽] 慎勢、[注] 曠、空也。[呂覽] 慎行

士懷登註節百篇。

曠事 40 ㄍㄨㄤˋ ㄕˋ 動則無曠事。失。

曠 40 ㄍㄨㄤˋ 空也。

文選明風賦注有曠矣。

曠 40 ㄍㄨㄤˋ 而釣。曠日而不釣。曠日而釣。曠日空之。曠日。

曠日 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ 久。曠日持久者。殆失。有曠。

●謂多久。長久。曠日持久。曠日。曠日持久則軍糧必乏不待接刃而戰士已困矣。

曠日經年 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ ㄐㄧㄥ ㄋㄧㄢˊ 多。久。多久。年月久。曠日。

曠日持久 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ ㄔˊ ㄐㄧㄡˇ 多。年月久。曠日。

●長。久。閒也。

曠日經年 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ ㄐㄧㄥ ㄋㄧㄢˊ 多。年月久。曠日。

●長。閒也。

曠日持久 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ ㄔˊ ㄐㄧㄡˇ 多。年月久。曠日。

●長。閒也。

曠日 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ 久。曠日。曠日持久。曠日。

曠日彌久 40 ㄍㄨㄤˋ ㄖˋ ㄇㄧˊ ㄐㄧㄡˇ 多。久。多久。曠日

曙 [illegible] 曙 [illegible] 曙 [illegible] 曙 [illegible] 曙 [illegible]

(14255)——(14266)　日部（十六～十九畫）　曦穆曩曩曩

日部　（十九―三十二）　曦 曩 曰 曶 曷 曷 曷

【曰】14278

曰 エツ チツ ヨツ (集韻)王伐切 ㊀ yuè

曰 ヨツ (集韻)王切切 ㊀ yè

小 曰 ㊀いふ。のたまふ。云(1—124)

曰 ㊀いふ。のたまふ。云(1—124)。詞。詞也。从口出。(段注)詞者。意內而言出。言也。(廣雅)釋詁四、曰、言也。(論語、衛靈公)不曰如之何者。❷いはく。いうことには。人の言や他の文書の語などを引いて述べる時に用ひる語。(論語、學而)子曰。(皇疏)曰者、發語之端也。(左氏、隱、元)有文在其手。曰、魯侯大人。(杜預注)曰、稱、細云、有人而無徑。不可以爲卜筮。(疏、表記)大雅曰、德輶如毛。民鮮克舉。(毛詩、烝民)傳、輶、輕也。言德輕而人鮮能舉。❸と言ふ。(論語、爲政)子曰、吾十有五而志于學。三十而立。四十而不惑。五十而知天命。六十而耳順。七十而從心所欲不踰矩。(疏)曰、言、語也。(論語、學而)子曰。(皇疏)曰者、發語之端也。(左氏、隱、元)有文在其手。曰、魯侯大人。(杜預注)曰、稱、細云、有人而無徑。不可以爲卜筮。(疏、表記)大雅曰、德輶如毛。民鮮克舉。(毛詩、烝民)傳、輶、輕也。言德輕而人鮮能舉。❹物を列挙するときに添へる語。何々である。⑤(→19958)に通ず。(經傳釋詞、二)曰、猶、爲也、謂之也、若、書洪範、曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土之屬是也、故楚四年鼎梁傳、(一)乾豆二、黃髮三、(三)充君之厨、公羊傳爲作曰、(穀梁、師說)士大夫、女族、曰師曰勿子云者、則聲無識矣。❻ここに。發語の助辭。(9—16017)、東(9—29215)、遠(11—37110)、一(9—1539)、(11—39129)、與(8—26593)、越(11—37110)、十(1—1539)、(11—39129)。(戰國、毛詩考正)說文、欲、詮詞也、从口、欠从口。曰亦聲。引(→詩欲)求欲字。然則欲蓋本

曲部 象形 〔三は四月の月の象形。月は陰の日を欠いて物を生ずる形。日は陽の日を開いて物を成ずる形。引伸して委曲。引伸して禁曲。曲は竹の形である。引伸して曲がる。曲がるから曲がるの意となる。曲がるから曲がるの意となる。説文の武器に曲の字あり。(かぎ)のことであるという。その字は借に曲を用いる。〕 **曲** 〔(甲一二五五)〕 曲がる。曲がる。曲がる。

を此處に遠く離り、水流が之字形に屈曲してゐるのを名づく。唐の開元年間に成響を加へた。池町の西、若干樓、天寶年、天寶初、成響を加へた。池町かあつた。池は十坪減じて無い。（朝鮮語）曲江樓　天寶初、開元年間、成響を加へ、勝地、南行、樂遊原、曲江池、漢武帝所、造、名勝、五在在、其本末曲折、有、（杜甫、同、題、名、曲江、詩、）高、麗、人、香、盤、奏、香、日、借、日、曲、●駱名、（）高、麗、人、慕、義、名、慕、義、名、慕、義、名

曰部（二畫）曲

[曲笙]ﾏﾏ ﾏﾏ まがった笙。（漢書、東京賦）「鼓鼙鼗鐸、鳴笙竽瑟、…」

[曲沃]ﾏﾏ ﾏﾏ 縣名。民國所で、雲南省建水縣。

[曲池]ﾏﾏ ﾏﾏ 曲がった池。（楚辞、宋玉、招魂）「魂魄歸来！…東方有大海、…曲池…」

[曲直]ﾏﾏ ﾏﾏ 曲がったもの。（荀子、王霸）「…曲直…」

[曲埸]ﾏﾏ ﾏﾏ 曲がった畑。（漢書、食貨志）「…曲埸…」

[曲]ﾏﾏ ﾏﾏ 曲がった手。（荀子、王霸）「…曲…」

[曲]ﾏﾏ ﾏﾏ 曲がった馬。（漢書、郊祀志）「…曲

を尊といひ、曩士に木のあるのを柮といふ。(宋書)

(南史)[illegible]　[illegible]

(南史)[illegible]　[illegible]

(南史)[illegible]　[illegible]

興、鰥得四月清和雨年晴詩）凍柔酒沼當軒雪、雲散遠峰人座青。（文選、謝朓、和王主簿）

曲脚 ⑩ 曲脚 ⑩ 曲脚 ⑩

名曲張[三國志]：陶升子，華陽國志可名曲張，低聲王之。

[曲陵][三國志]：つまさに遠ほうる。「子相」に曲き到る。（李陵傳上）「故に遠ほうる。」（蘇武傳）

[曲陽][三國志]：上谷郡。魏の置く。「曲陽」は、「曲陽」の旨（未来、中者者句序）「諸說之間異得失、亦得」。

[曲[illegible]][三國志]：心に病はなやがれて人の說に[illegible]。

[曲枉][三國志]：邪解（解）解後見。代の人の說に[illegible]。

[曲[illegible]][三國志]：曲つた枝。（韓非子「內儲說上」周[illegible]）

[曲[illegible]][三國志]：種々の曲[illegible]をしながら[illegible]に[illegible]。

[曲[illegible]][三國志]：「[illegible]」[illegible]。

上手にて、曲[illegible]は本の事にて。

[曲[illegible]][三國志]：●[illegible]のことをいうのである。

[曲[illegible]][三國志]：[illegible]。

[曲[illegible]][三國志]：[illegible]。

[曲[illegible]][三國志]：[illegible]

曰部（二畫）曲

【曲博】ｊｉｎ ●已と曲げてつくりしたかご。〈荘子、山木〉【曲蹄】ｊｉｎ 蹄が曲がること。〈呂氏春秋、司馬法〉【曲脚】ｊｉｎ 〈楚辞、九歌、東君〉●曲がった脚。●曲がった脚の調子。〈呂氏春秋、司馬法〉【曲脚】ｊｉｎ 〈楚辞〉●曲がった脚。●曲がった脚の調子。〈呂氏春秋、司馬法〉【曲脚】ｊｉｎ 〈楚辞、九歌、東君

曲の作法を述べた。曲元。●巻。明・魏良輔撰。詞曲の作法を述べた。（曲元）

曲尺 ［きょくしゃく］ ●魚を捕るやなぐ。（東俗稱語）

曲水 ［きょくすい］ ●魚。（魚類・稚魚）

曲水 ［きょくすい］ ●魚。（魚類・魚類・魚類）

曲梁 ［きょくりょう］ 魚を捕る竹製の漁獲器。曲梁は竹を曲げて作る。（魚類・稚魚）

曲梁 ［きょくりょう］ ●魚

んだ大江。〔海錄碎事 地 陵澤〕 周杜、曲渚圓廣鏡初光。

〔曲城〕 ①城名。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ②ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。③ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ④ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑤ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑥ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑦ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑧ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑨ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑩ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑪ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑫ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑬ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑭ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑮ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑯ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑰ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑱ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑲ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ⑳ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉑ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉒ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉓ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉔ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉕ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉖ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉗ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉘ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉙ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉚ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉛ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉜ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉝ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉞ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㉟ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊱ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊲ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊳ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊴ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊵ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊶ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊷ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊸ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊹ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊺ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊻ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊼ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊽ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊾ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 ㊿ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (51)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (52)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (53)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (54)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (55)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (56)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (57)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (58)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (59)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (60)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (61)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (62)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (63)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (64)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (65)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (66)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (67)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (68)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (69)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (70)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (71)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (72)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (73)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (74)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (75)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (76)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (77)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (78)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (79)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (80)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (81)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (82)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (83)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (84)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (85)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (86)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (87)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (88)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (89)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (90)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (91)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (92)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (93)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (94)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (95)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (96)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (97)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (98)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (99)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (100)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (101)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (102)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (103)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (104)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (105)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (106)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (107)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (108)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (109)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (110)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (111)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (112)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (113)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (114)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (115)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (116)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (117)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (118)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (119)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (120)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (121)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (122)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (123)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (124)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (125)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (126)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (127)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (128)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (129)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (130)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (131)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (132)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (133)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (134)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (135)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (136)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (137)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (138)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (139)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (140)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (141)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (142)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (143)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (144)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (145)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (146)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (147)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (148)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (149)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (150)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (151)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (152)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (153)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (154)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (155)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (156)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (157)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (158)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (159)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (160)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (161)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (162)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (163)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (164)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (165)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (166)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (167)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (168)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (169)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (170)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (171)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (172)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (173)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (174)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (175)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (176)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (177)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (178)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (179)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (180)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (181)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (182)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (183)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (184)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (185)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (186)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (187)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (188)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (189)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (190)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (191)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (192)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (193)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (194)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (195)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (196)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (197)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (198)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (199)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (200)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (201)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (202)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (203)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (204)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (205)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (206)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (207)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (208)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (209)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (210)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (211)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (212)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (213)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (214)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (215)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (216)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (217)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (218)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (219)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (220)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (221)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (222)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (223)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (224)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (225)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (226)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (227)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (228)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (229)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (230)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (231)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (232)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (233)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (234)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (235)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (236)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (237)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (238)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (239)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (240)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (241)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (242)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (243)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (244)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (245)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (246)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (247)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (248)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (249)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (250)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (251)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (252)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (253)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (254)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (255)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (256)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (257)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (258)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (259)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (260)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (261)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (262)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (263)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (264)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (265)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (266)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (267)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (268)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (269)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (270)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (271)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (272)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (273)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (274)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (275)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (276)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (277)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (278)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (279)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (280)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (281)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (282)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (283)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (284)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (285)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (286)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (287)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (288)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (289)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (290)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (291)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (292)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (293)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (294)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (295)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (296)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (297)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (298)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (299)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕 (300)ひがしの曲直方に、城を築き、城流を下森晉。〔賈誼、弔屈原賦〕

【曳】 14282 エイ

曳 ⊠ ①ひく ②ひきずくる。〔說文〕曳、臾也。从申。臾聲。臾、引也。子有地之行。〔玄應、一切經音義 十二〕 ③ひきずくる。〔詩、唐風、山有樞〕 ④ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑤ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑥ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑦ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑧ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑨ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑩ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑪ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑫ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑬ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑭ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑮ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑯ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑰ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑱ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑲ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ⑳ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉑ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉒ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉓ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉔ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉕ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉖ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉗ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉘ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉙ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉚ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉛ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉜ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉝ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉞ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㉟ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊱ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊲ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊳ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊴ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊵ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊶ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊷ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊸ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊹ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊺ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊻ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊼ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊽ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊾ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 ㊿ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (51)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (52)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (53)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (54)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (55)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (56)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (57)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (58)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (59)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (60)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (61)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (62)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (63)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (64)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (65)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (66)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (67)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (68)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (69)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (70)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (71)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (72)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (73)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (74)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (75)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (76)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (77)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (78)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (79)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (80)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (81)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (82)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (83)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (84)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (85)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (86)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (87)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (88)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (89)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (90)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (91)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (92)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (93)ひきずくる。〔呂氏春秋 慎大覽〕 (94)ひきずくる。〔呂

子愛孫山望來京(蘇軾詩)。歇后、(禪)有百家如林、千人萬人覩如林(同上)。林の者、林の林といふ意。愛陽門(柳宗元)。大小の林の林、林の者、林の林といふ意。愛陽門(柳宗元)。大小民の林の林といふ意。佛身を量らうとしたが、林の林を投棄てたものが數多くあつたので、林を投棄てたものが數多くあつたので、林を投棄てたものが數多くあつたので、

更改 kēng gǎi 倘更云云すべきを。再申する。

更行 kēng xíng 後に行ふこと。「漢書」李廣傳。

時輩。「南史」徐孝嗣傳「又被」者李嗣在坐。時輩。

更番 gēng fān 夜番をやる者が幾。

編番。「本」とこに代して五回交代して五度に

至る。

更號 gēng hào ●改廻り番をしまする。「宋法遠鑑」

「唐武德元年」「其後實」得其更號。

(注)更號、持更之號。●更の號で呼び名を改め

更革 gēng gé 「後世家」曲沃武公即位三十七

年矣、更號曰晉武公。

更讓 gēng ràng 「後漢書」「百郡更牽」

高洲 ǎo zhōu 「後漢書」「牧野

今轉、京建而更遷、秋清陰之宗室、非高帝之

更休 gēng xiū 「史記」、文帝紀

「宋史」、樂志「樂傳」夏若所、我、雖、「小雅」不

敏、若其不敏、至道、更休、「詩」、「鄭」

「唐書」、「李」、「更」、「更」、「更

樽名、館舗、女餅、女蜜、女蜜、日精、更生、傳経年、迫蝕、金英、陰城、陽蹠、時琺日、拡杖子云、仙買也。●漢、別向 12 22224‥(74)の本名。●李姥（?明、朝起編 18‥13589‥(23)）の字。（?民國、康有爲 4 93776‥(35)）の字。

【更生郷】ｋｅｎｓｅｉｋｙｏｕ　漢末多事ノ國用ノ不足ニ為ルヤウニ人々ハ多ク貨物ヲ殺ニテ税ヲ逃ルヤウニシタルノ、人々ハ多ク貨物ヲ殺シ

代きせねばならぬ程民くかかつても習ひ覚え得ない。事の後のうるさきに心を。（禮記 儒行）「其他 殷聞 儒行 孔子對曰 遽數之不能盡也」 其他 殷聞 遽數之不能盡也（注）遽 猶卒也 猶 猶 卒也 猶 猶 大夫也 君 君無 君無 君無 朝聞 道 夕聞 道 夕死 可 矣 ●「論語 里仁 子曰 朝聞道夕死可矣」 使之 相代（疏）更 更 代也 更 代也 更 代也 君無 君無 朝 大夫 僕侍 疲倦 宜更 代之 未可 終也 若不 之行 遽數 之 則不 能盡 聞 其事 遽數 之 乃盡 久 論 至 終 僕侍 之人 倦怠 而代 之 猶未 可 盡 矣 言僕行之 人 倦怠 而代 之 猶未 可 盡 矣 相如傳）相如既學 業 廉相如之為人 更名相如。

【更名地】[ｺｳﾒｲﾁ] 明代に各藩に分給したもの を 清代の所在の州郡に編入して民に給 有 清名地（注）「祠堂分 給名藩之地 國 朝編 入 所在州郡 有 清名地（注）「祠堂分 給名藩之地 國 朝編 入 所在州郡 有 清名地 （清會典事 例 戶部 田賦 田賦 科則 山西 民 賦 田 每畝科 則 ･合九寸至二寸七千 不等 屯地 每畝科 則 ･釐三毫至三寸四釐 零不 等 糧一 升八勺至二 斗九合零 不 等 更名地 每畝科 則五釐至二 錢四分 不等 糧七勺至二 斗二 不等 蒲所屯地 每畝科 則 ･分四釐 ･三毫五更名 ･更名 ･以 類 ･

【更名】[ｺｳﾒｲ] ●名を改める。改名する。（史記 馬相如傳）相如既學 業 廉相如之為人 更名相如。

【更名】[ｺｳﾒｲ] 名を改める。改名する。（史記 馬相如傳）相如既學 業 廉相如之為人 更名相如。

【更名】[ｺｳﾒｲ] 明代に各藩に分給したもの を 清代の所在の州郡に編入して民に給 有 清名地（注）「祠堂分 給名藩之地 國 朝編 入 所在州郡 有 清名地（注）「祠堂分 給名藩之地 國 朝編 入 所在州郡 有 清名地 （清會典事 例 戶部 田賦 田賦 科則 山西 民 賦 田 每畝科 則 ･合九寸至二寸七千 不等 屯地 每畝科 則 ･釐三毫至三寸四釐 零不 等 糧一 升八勺至二 斗九合零 不 等 更名地 每畝科 則五釐至二 錢四分 不等 糧七勺至二 斗二 不等 蒲所屯地 每畝科 則 ･分四釐 ･三毫五更名 ･更名 ･以 類 ･

【更名】[ｺｳﾒｲ] 名を改める。改名する。（史記 馬相如傳）相如既學 業 廉相如之為人 更名相如。

曷(ケツ)・何也。(説文)・小雅・漸漸之石。)和及切。

矣。(説文)・(詩)・(雅)・九歌・遠遊。)

曷其不舒于情。(注)冠。何也。

曷(ケツ)いつ。(書)・湯誓・時日曷喪。(左氏・昭・元)

吾子其曷能。

曷(ケツ)たれ。(左)・(詩)・小雅・四月。曷云能穀。(論語)・憲問。なんぞ云をせるや。何不一

511・(説文)・(詩)・(集韻)・(韻)・(韻)・(集韻)・(韻)・(集韻)・(韻)・(集

図 氏書永瑛、劉林人、天順間、獻寧縣三湾、

[俗字] 日部のノ ノ フ ノ ヒ ヒ。

[書意] ①。。。

角書部 **書** 部首解説・自象字類。

【書聞】ﾌﾞﾝ 書物を聞いてるなかどの。（杜審言「和沈佐公遊湯泉山池」詩）「湯泉集」

【書部】ｼｮﾌﾞ 書物を編集する官職。（宋史、職官志）「湯泉集」

【書記】ｼｮｷ 文字を書き方の事。書道の學問。（荀悅「漢紀」、孝惠帝紀）「宋書」後廢帝紀・年五六歲時、始就書學、而掛、奚

【書論】ｼｮﾛﾝ 書論を著説。（梁書、蕭子雲傳）「梁書」蕭子雲傳

【書類】ｼｮﾙｲ 編輯に文字を類分する。（呉地記）「呉元初、蘇州刺史陳祐使都尉清、書類、奉敕、作「銘」（呉元年）

【書刀】ｼｮﾄｳ 書信の封。封書。轉して、手紙。（王子雲「解州逢王子」詩）「呉日」劉元孫「書」

【書函】ｼｮｶﾝ 手紙を書く箱。（「袋」封筒）

【書簡】ｼｮｶﾝ 手紙を書く紙。（「袋」封筒）

【書信】ｼｮｼﾝ 手紙を書く紙。（「袋」封筒）

【書翰】ｼｮｶﾝ 手紙を書く紙。（「袋」封筒）

【書刺】ｼｮｼ 手紙を認める札。（「袋」、種

【書狀】ｼｮｼﾞｮｳ 文書、書札。（「袋」、忠、道徳傳）

【書部】ｼｮﾌﾞ 書部に作る。（「袋」、「毛詩草木鳥獸蟲魚疏、釋詩序」）「蟲蟲取、蟲蟲」

【書生】ｼｮｾｲ 書生。（「袋」、「毛詩草木鳥獸蟲魚疏、釋詩序」）「蟲蟲取、蟲蟲」

に唱講・講説等の職を以て倍耳に入り易からんと。

[書籍]…書籍の印刷・出版・販売。

[書籍]…書籍の印刷・出版・販売。

[書籍]…書籍の印刷・出版・販売

文、[隋書 李密傳]蓋與宇文化及・隋水面論密數。[晉書 桓溫傳]桓歌良久、乃讀目大言曰。[北史 韓論 相投書]何況[晉書 書物]・[晉書 書物]・[晉書 書物]・

距也。(晉子・版法解)士吏注書人有書社之(史記・孟嘗君列傳)封于書社(索隱引王邑曰書社謂以書社屬孟嘗君也)書社二千(史記・魏世家)書社之入(封禪書)書社之稅(漢書・地理志)書社之人(封禪書)書社之稅(漢書・食貨志)書社之入(封禪書)書社之入(封禪書)書社之入(封禪書

朝 又、壯士朝、壯士芟居、新附。

【書篇】30a ●書篇。書篇。書篇。

[書抱] 書ほう　書覆(82)に同じ。

[書覆] 書ふく　①其の人の手に用ゐなくなる書。②書の裏手紙。

[書]　①其の人の手紙。遺言書。(柳樹二三)書類をこす又其の手紙。遺言書。(柳樹二三)書類を見て不多の頃。

[書嚢] 書のうぶくろ　書物を入れる袋。

[書帙] 書ちつ　(給蓮記)西(案始皇)張儀、蘇秦、人同志盛天下良貴。(食物)書嚢、(張儀)同王敬君。

[書帳] 書ちょう　書物のとばり。轉して、書籍をいふ。(蘇頌)本草、(李室)(蘇)三年日(過)故人任意注書帳。(李室)(蘇)三年日(過)故人書嚢。(李室)(蘇)書帳冷、水紙蟲虫寒。

[書場] 書じょう　①書物の中。書籍の文章の中。書中有(女顔如玉)(2232)を見よ。②手紙の文章の中。

[書中] 書ちゅう　(蘇)書中のすべたもの(通)稱(馬)書中虎。

[書中有(女顔如玉)] 書中有(女顔如玉)(2232)を見よ。

[書中虎] 書ちゅうとら　(蘇)書中のすべたもの(通)稱(馬)書中虎。

[書中有女顔如玉] 書中有(女顔如玉)(2232)を見よ。

[書中自有千鍾粟] 書中自有千鍾粟。

[書中自有黄金屋] 書中自有黄金屋。

[書中自有顔如玉] 書中自有(女顔如玉)(2232)を見よ。

[書中自有車馬] 書中自有車馬

書年 ●書行や判決の期往。
書年 ﾖﾐﾄｼ 字 年號。●明・宣教郎(9・2589)2・55
3)の字。明・八大山人(9・1459・1492)の字。●一世少牧
清・戴大有(9・11625・1892)の字。●清・汪大經(9・1715
9・19294・1963)の字。
書記 ﾌﾐﾂｸﾘﾋﾄ 名 書物をつくる人。書物の著者。●
宋・書記・西京雜記・祝鮀傳表・表以下筆・覆以
鈔紙・唐書・文成公主傳・表以下筆所・覆以
張議・鮮・紙・世俗多用白紙字南史
・說文・卷一・編簡・竹・竹部・字南史
・魏・曲堤下・書力・寶・以錄不入公
門・(注)方・板也・王授傳・書・刑・勢力・石
九者七若五・魏・書・謂・後・孫・定・板也・百字以上
用・為板・書・之・板・云・書・力・也。
書包 ﾌﾐﾂﾂﾐ 名 ●本の包紙。●學生の鞄。
書棚 ﾌﾐﾀﾅ 名 ●本の棚。●學生の鞄。
書庫 ﾌﾐｸﾗ 名 ●書籍・宗教・今は主に文人の遠
邦・藝天遊・祝鮀傳・書庫・表・(注)・書・庫・
書房 ﾌﾐﾎﾞｳ 名 ●書齋・宗教・今は主に文人の遠
邦・藝天遊・祝鮀傳・書庫・表・(注)・書・庫・
書法 ﾌﾐﾎｳ 名 ●書道・宗教・今は主に文人の遠
邦・藝天遊・祝鮀傳・書庫・表・(注)・書・庫・
書學 ﾌﾐｶﾞｸ 名 ●書道・宗教・今は主に文人の遠
邦・藝天遊・祝鮀傳・書庫・表・(注)・書・庫・
書籍 ﾌﾐｼｬｸ 名 ●書物・書・刊・刻・
義・勝・名・今・四・五・百・年・書・刊・刻・
梓・(唐)・呂・覽・書・刊・刻・
梓・(唐)・呂・覽・書・刊・刻・
梓・(唐)・呂・覽

曰部（六畫）書

〔書文〕[illegible]。文字をいう。〔唐太宗、正日臨朝頌〕書文同軌、四方之風、時清太平、賢能輔聖、詩頌書、詩頌勢の雅宗、書文兼備。●探文と探字。〔礼記、中庸〕書同文、車同軌、行同倫。〔後漢書、馬援伝〕援上書曰、臣聞、倫、輪也、言人人之心、皆如此也。

〔書肆〕[illegible]。書屋に同じ。〔宋史、李燾伝〕燾、以書肆、自起。

〔書帙〕[illegible]。書を入れる袋。〔宋史、李燾伝〕燾、以書肆、自起。

〔書物〕[illegible]。●書籍。●書物に同じ。〔張籍、送陶少尹赴鳳翔節度書記〕書籍、〔唐〕文者時事、〔南史、王僧孺伝〕文者時事、〔唐〕文者時事、〔唐〕文者時事、〔唐

記憶力のよいこと。宋の韋叟の記憶に優れてゐたことを世人が賛嘆したことから。ふ〔尚友錄二〇〕韋叟・宋・太祖と稱し、開門力・樂・愛・以・書・權・目・之・[illegible]。[illegible]・識誤の意。書籍。

廣韻 二庚 [illegible]。〔廣博物志〕陶隱居祝・[illegible]・[illegible]・[illegible]

【讀書亡羊】[illegible] 書を讀んで居たために羊になれて、心を外に絶ただ道を失ふ。(荘子、駢拇篇)無心を外に絶ただ道を失ふ。(荘子、駢拇篇)無心を外に絶ただ道を失ふ。(荘子、駢拇篇)[illegible]牧。[illegible]羊。[illegible]。[illegible]。[illegible]

馬城。漕（7—18131）に通ず。【說文通訓定聲】曹 假借爲漕。『左氏』閔二）立。戴公以建。于曹。（注）曹、衛下邑。❹黑の國名。姬姓。伯鯈（周の武王の弟）叔振鐸の封ぜられた國。陶丘に都す。今の山東省定陶縣。春秋の中頃、宋に滅ぶる。『詩』曹風。集傳 曹、其地在兗州定陶之西。（春秋、哀公十四）西狩于大野。（杜預注）大野、澤名。在魯西北。（『水經』巨野澤注）澤在魯西北。（『水經』巨野澤注）澤在魯西北。（『水經』巨野澤注）澤

昆蕪漢部帥司隸之官觀、在開以平揆、其文文苑、三國志、文士傳曰、潁川荀公曾、外傳荀子、荀子、荀卿、荀況、荀況、荀卿、荀況、荀卿、荀況、荀卿

【曹主】[ts'ao²²] ●明。高祥的人。字是廷美。弘治の進士。官は侍郎。後、陝西参政に遷り、雲南に思田の乱を鎮撫す。(明史、四百九十八)。(雲南志略)(正統)(嘉靖)(雲南通志)(雲南人物志)(雲南通志)(雲南人物志)(雲南通志)(雲南人物志

羽、羽獵賦、吾師如一書公詩、敢撰、無忘受、對諸軍厚恩、篇以共死、不可背之、吾終不留、吾樂梁、篇以共死、不可背之、吾終不留、吾樂梁、篇以共死、不可背之、吾終不留、吾樂梁

之、大業初復置。隋煬帝、唐初亦曰書州。書州、云云、宋仍曰書州。熙寧四年、州廢、置書令官、正官、令、丞、簿、尉。明朝洪武四年、州廢、置書令官、正官、令、丞、簿、尉。

〔書州、秋胡〕……今東平之魯郡。

〔書州、東魯〕……今東平之魯郡。

〔書州、東莞〕……今東平之莒縣。

〔書社之課〕……國を亡ぼす課を言う。

〔書社之課〕……書國の社会。書社に課を言う。

〔書社之課〕……國を亡ぼす課を言う。

人が、衆君子の教を、「古代、衰亡、書社、書叔振、陳詩、公孫僖、子、子、社会、而課、亡、書、書叔振、陳詩、南蛮、鬼同、書社之課、人有、衆君子、「衆君子、真江、書国、書国の人、字は徳隣、父は書に至る。

〔書記〕……書人、書者子ともいう。

〔書敏〕……三国、魏の人、操の子。字は子文。猛は敏、射御を善くし手格す。文敏、従、従に従い、向に所皆功あり、操、書で彰の誅を持って責誅死、以、家初中、任城王に封せらる。

（三国志・十九）

〔書衆〕……後漢、人。馬氏と共に、遊学したが、唯、衆のみ四篇があり、「後漢書」、百十上。

〔書社〕……書、書、書、

曹符の基がある。●江蘇省新縣の東南、北地鎮。

曹達 [illegible] 酸化ナトリウム又、炭酸曹達の總稱に多く用ひる。

曹瞞 [illegible] 明、宋史列傳、蓋は文賛。

曹瞞 [illegible] 明、宋史列傳、字は孟德、蓋は文賛。

曹瞞傳

敬攻するに用ひたるの名が名である。

曹伴 〔晉書〕 明・江陵の人。字は子誠。別號は紫山。著書に林集がある。

曹操 〔晉書〕 宋・沛國の人。字は孟德。魏帝の徵召を辭して、武帝に仕へ、中書令・魏帝・官は倉舒。〔宋史〕三百五十五

曹風 〔晉書〕 明・新蔡の人。字は鳴岐・成化の進士。正德の初、右副都御史に擢され、巡撫・官は巡撫・著書に存目

廣西參議。初、蜀國の僭制や、學位・野史紀略・[illegible]に未だ詳しからず。劉廷元に師ぶ。後、唐王の時、官を勧められ、辭を解らる。後、唐王の時、官を勧められ、辭を解らる。後、唐王の時、官を[illegible]に[illegible]に[illegible]に

表・奏・書・序・七・論・說・箴・銘・頌・贊・銘文・誄・哀・銘・誄・碑・碑・墓表・墓誌・墓誌銘・墓誌銘文・墓誌銘文・墓誌銘文

『曹權頓』[2297・278]　清、山西天寧の人、字は子成、號は蓉菴、順治九年、母を養して仕えず、著に四書講義、詩經、書經、周易、禮記、春秋、孝經、小學、性理、家訓等の書あり、以て本となす。著に四書講義、詩經、類敘（三百九十五）。

『曹大成』[2297・278]　明、江陵の人、字は定和、萬曆の進士、官は禮科都事中。

『曹大家』[2297・278]　漢、班昭、字は惠姬、班固の妹、曾孫氏に嫁ぐ、夫の死後、寡婦となり、班固の妹、曾孫の著、固、溝書を著はし、未だ完成せざるに、和帝、詔して東觀に就き、之を成さしめ、昭に謂て、女子、能く文章を作るべしと、昭、召して東觀に就いて、之を成さしめ、帝、大家、曹世叔の妻、有り、班氏、名を昭、字は惠姬

る。後、洪承疇の従び松山を援け戦ふやへれて死す。『明史』百七十二〔二〕。『萬斯同明史』百七十二。

〔曹秋堅〕[30]：[illegible]。字は長興、官は[illegible]。

〔曹操〕[30]：[illegible]。字は孟德、官は[illegible]。

〔曹操〕[30]：[illegible]。字は[illegible]

哀哭。〔釋文〕曼、引。❺ながい。〔一切經音義、六〕曼、長也。〔詩、魯頌、閟宮〕孔穎達、頌、〔六〕曼、長也。〔箋〕曼、延也。❻ひい。〔詩、魯頌、閟宮〕箋、曼、廣也。❼よい。〔詩、魯頌、閟宮〕箋、曼、美也。〔注〕曼、美也。〔淮南子、司馬遷傳〕曼辭以自解。〔注〕曼、美也。〔淮南子、俶真訓〕曼聲呑吞、故。〔注〕曼聲、善聲也。❽つやつやしい。〔淮南子、天相〕嫫母曼目、〔注〕曼、澤也。〔漢書、司馬相如傳上〕鄭女曼延。〔注〕文穎曰、曼、美、言其色理曼澤。❾きめがこまかい。〔楚辭、天問〕平曼曼夷。❿ひろい。〔楚辭、天問〕平曼曼夷。⓫ゆるい。〔楚辭、離騷〕曼曼其修遠兮。〔王逸、章句〕曼、緩也。〔淮南子、俶真訓〕曼顧結膊。〔注〕曼、緩也。⓬かるい。〔枚乘、七發〕衣裳則雜遝曼煖。〔注〕薄日、曼、輕也。⓭つく。〔荀子、馬論〕鬱拒鬱曼。〔釋文〕李云、曼、發聲字。〔王引之、述聞〕曼、發聲字。同。〔小爾雅、廣詁〕曼、無也。〔廣雅、釋言〕曼、無也。〔法言、重黎〕神怪茫茫、聖人曼云。〔注〕曼、無也。〔法言、五百〕行有之也、病曼之也。〔注〕曼、無也。⓮文采のない雑。〔後一27829〕に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、段借為幔。〔荀子、致士〕雜飾曼胡之纓。〔釋文〕謂、嘉曼無文理、也。（後一9050）に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、段借為幔。〔荀子、馬論〕鬱拒鬱曼。〔釋文〕李云、發聲字。同。〔小爾雅、廣詁〕曼、無也。〔廣雅、釋言〕曼、無也。〔法言、重黎〕神怪茫茫、聖人曼云。〔注〕曼、無也。〔法言、五百〕行有之也、病曼之也。〔注〕曼、無也。⓯文采のない雑。〔後一27829〕に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、段借為幔。〔荀子、致士〕雜飾曼胡之纓。〔釋文〕謂、嘉曼無文理、也。（後一9050）に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、段借為幔。〔荀子、馬論〕鬱拒鬱曼。〔釋文〕李云、發聲字。同。〔小爾雅、廣詁〕曼、無也。〔廣雅、釋言〕曼、無也。〔法言、重黎〕神怪茫茫、聖人曼云。〔注〕曼、無也。〔法言、五百〕行有之也、病曼之也。〔注〕曼、無也。⓰つつむ。幔。〔後一9050〕に通ず。〔說文通訓定聲〕曼、段借為幔。〔荀子、馬論〕鬱拒鬱曼。〔釋文〕李云、發聲字。同。〔小爾雅、廣詁〕曼、無也。〔廣雅、釋言〕曼、無也。〔法言、重黎〕神怪茫茫、聖人曼云。〔注〕曼、無也。〔法言、五百〕行有之也、病曼之也。〔注〕曼、無也。

曼胡〔名〕〔荀子、致士〕雜飾曼胡之纓。〔楊倞、注〕曼胡、未詳。〔王引之、述聞〕曼胡、猶曼延也。〔漢書、司馬相如傳上〕鄭女曼延。〔注〕文穎曰、曼、美、言其色理曼澤。〔王念孫、雜志

[淮南子、氾論訓]之筮、[注]蓍草。[書、洪範]稽疑之謀、[後漢、司馬彪傳]之筮、[漢、於忠]、盈而數音。

蓍[illegible] 仲[illegible]蓍[illegible]。[漢、於忠]、盈而數音。

蓍[illegible] 元、[後漢書]、[illegible]。

蓍[illegible] 字[illegible]。●[illegible]。[illegible]。

蓍[illegible] 東方朔。(6・14499・54)。[illegible]。

曼[illegible] 蓍草。[illegible]。

曼[illegible] 長。[illegible]。[illegible]。

曼[illegible] 也。[illegible]。

曼陀[illegible] 曼陀羅。[illegible]。

曼陀羅[illegible] 曼陀羅。[illegible]。

曼陀羅[illegible] 曼陀羅。[illegible]。

曼[illegible] 長。[illegible]。

曼[illegible] 長。[illegible]。

曼[illegible] 長

不意、曾是是在位、曾是是在服、曾是是矢、聽、論語、季氏、曾子、曾謂、泰山不如林、放、孟子、離婁下、爾何曾比予於管仲、諸葛瑾、乃、則合語氣、趙注、孟子、曰、何曾、猶何乃、乃、則合語氣、趙注、孟子、曰、何曾、猶何乃、（皇疏、曾、猶則也）（『孟子』公孫丑上）御、何曾比予於管仲、（音義、曾、則也、乃也）、我也、（趙注、曾、則也。）❹かつて、まへに（『書』8・4295）、曾、則也。（說文通訓定聲）、何、段借爲、嘗、（王筠、句讀、經也、（論語、爲政、曾是以爲、孝乎。（皇疏、曾、猶嘗也）❺なんぞ、（方言、十一）、何、何也、（淮渭之原、則之謂則、謂、何爲、（新方言、釋詞）（今通日）、曾、俗作、怎、或日、曾、音轉如、僧、四川成都以東、謂何曰、曾、掲越亦如之。❻これ、（廣雅、釋言）、曾、是也。❼かさねる、（『書』4・7798）に通ず、（說文通訓定聲）、曾、段借爲、層、（『詩經』、離騷、（宋祁說、『書』、曾、段借爲、累也、（注）、累也、（注）、宋祁說、『書』、累累、（注）、重也、（天觀、曾子疾病、屬年以山爲、卑、而曾、無其上、）❽ふかい、（『陸機、招隱詩』、顯、曾、無其上、（注）、（今通日）、曾、俗作、）❾あがる、（『楚辭、九歌、東君、輝映兮、琴曾、（『書』5・2361）に通ず、（說文通訓定聲）、曾、段借爲、楢、郎、增、（淮南子、覽冥、）、遷至、其曾、高、仞之上、（注）、曾、巳、（注）、曾巳、猶、未位、也、）❿ます、（『書』8・5454）に通ず、（說文通訓定聲）、曾、段借爲、增、（孟子、告子下）、曾、益其所不能、（音義、曾、益、續作、增、（通志、氏族略、以、國爲氏）、曾氏、亦作、鄫、亦作、繒、以姓、子鄫、今浙州、承縣、八十里故鄫城、是也、夏少康封、其少子曲沃子鄫、襲、年喜滅、之、鄫太子、巫仕、魯、去邑爲、曾氏、見、世本、望出、魯國。

甲骨文 𠙵

解説 會意形聲。もと八と囗との合字。八は氣の發散を象徴し、囗は日または月の象形。八は八日、囗は月を表わす。日と月との合字。八は日を表わす。また、囗は月を表わす。故に本義は、同じ日に重なる意。転じて、重ねる意に用いる。『說文解字』曾、曾、舉也。从八从囗、囗、象形。曾、古文曾、从日、四、四、日、重也、曾、重也、曾、日、出、象、曾、重也、曾、日、出、象、曾、重也、曾、日、出、象

【曾鑊】ツェン　明・蔡和の人。字は時乎。可直隱の進士。官は刑部・郎中。著に『明史』一百五十九、『萬斯同歷史』二百三十二）『明史稿』一百十九、『萬斯同歷史』二百三十二）『明史稿』一百

【曾機】ツェン　宋・吉水の人。字は仲溟。號は鶴巢・鶴巢二十八人。

【曾伋】ツェン　宋・吉水の人。字は參思。官は昭州の未。袁州の和縣を死ぜられる。

【曾孥】ツェン　宋・袁州の和縣を死ぜられる。

【曾宮】ツェン　大名・ふ。晉代（『御覽』『晉書』『晉書』）『晉書』『晉書』『晉書』

誤為「甚」王應麟說略同。然宋汪端編曾子一卷，則亦未見。此書也，十篇者，大戴禮之曾子立孝，曾子本孝，曾子立事，曾子制言上，曾子制言中，曾子制言下，曾子疾病，曾子天圓也，曾子大事，曾子立事，曾子疾病，曾子天圓也，曾子大事，曾子立孝，曾子本孝，曾子制言上，曾子制言中，曾子制言下，曾子疾病，曾子天圓也，曾子大事，曾子立事，曾子本孝，曾子立

曾 昔聞、其青雷隱而生、故名、或云、其生涯、實數、至、至、往、曾、言、出、曾、言、出、曾、言、出

は文章。隋志、梁家の初、兼官校理となり、呂惠卿と剪燈話録を撰す。後、東田の乱を鎮圧。輔林子は道教に傾倒。著書に『呂惠卿集』等。

曾鞏 140 ㊀かさねつくる山〈『広韻』徑・東圏韻〉詩・文章を以て強る。宮は徳象府知・著に徠曾集五十五。

曾鞏 140 ㊀かさねつくる山〈『広韻』徑・東圏韻〉詩・文章を以て強る。宮は徳象府知・著に徠曾集五十五。

曾慥 140 宋・紫微の人、字は端甫、元符の進士。官は吏部尚書。著に内外制及び東宮日記がある。

曾覿 140 前に見る。字は純甫、長安青龍坂に知己を持。国信使非不衆・近覿覿。

曾肇 140 ㊀曾鞏を一に(唐書・李文・程表録傳)。

曾肇 140 宋・紫微の人、字は端甫、元符の進士。官は吏部尚書。著に巧書室を偶月集とし、

曾鞏 140 宋・紫微の人、字は子固、臨川の人。文章を以て強る。宮は徳象府知・著に徠曾集五十五。

曾慥 140 宋・紫微の人、字は敏夏

居し、竹林を好む。著に梅溪四録がある。●明の人。字は子厚。号は月川。紹興の人。字は文通。嘉定の進士。官は知婺州。朱熹の門人。著に『周易』・『孟子』・『中庸』・『大学』・『論語』・『孝経』・『小学』・『近思録』・『通書』・『西銘』・『正蒙』・『性理』・『太極』・『皇極』・『経世』・『参同』・『易』・『楚辞』・『韓』・『柳』・『欧』・『蘇』・『曾』・『王』・『程』・『張』・『周』・『邵』・『司馬』・『呂』・『謝』・『胡』・『李』・『杜』・『韓

業がある。〔宋史四百四十二〕。

〔曾仲鳴 ㄗㄥ ㄓㄨㄥ ㄇㄧㄥˊ〕民國福建省閩侯縣の人。佛國巴黎大學卒業後帰国し、福建省政府に入り、建設廳長として、廈門市政府に入り、汪兆銘の腹心となって銃殺中央監察委員長、福建部政務次長、駐蒙古政府顧問兼長官、福建部政務次長、駐蒙古として、他國に対する中國文学紹介者として、著に法國文学概説がある。

〔曾沖子 ㄗㄥ ㄔㄨㄥ ㄗˇ〕江西の人。字は聖和。至元中、程鉅夫、留を奉じて賢を求め、沖子を舉げ、福建提刑司僉事を授けらるも、時に閩粤、盜くして險、乘じて好をなし、民、迫つて亂をなすや、沖子、都を巡り、撫綏感切し、民、民とともに、各、盜大夫を以て殺仕す。〔新元史、二百三十九〕。

〔曾廷端 ㄗㄥ ㄊㄧㄥˊ ㄉㄨㄢ〕明、龍溪の人。都學生。嘗思、明、百回本〕。

〔曾廷瑞 ㄗㄥ ㄊㄧㄥˊ ㄖㄨㄟˋ〕清の人。僕の從父。字は五二、道光中、官は、貴州遵義知府。〔明史、百四十二〕。

〔曾貞 ㄗㄥ ㄓㄣ〕明、龍溪の人。字は、貞。嘗思、明、百回本〕。

〔曾貞夫 ㄗㄥ ㄓㄣ ㄈㄨ〕明、龍溪の人。字は、貞。嘗思、明、百回本〕。

〔曾朝節 ㄗㄥ ㄔㄠˊ ㄐㄧㄝˊ〕清の人。曾國藩の弟。字は、沅甫。官は禮部尚書。東京浮屠に充てられる。著に、別集がある。〔明、百回本〕。

〔曾朝陽 ㄗㄥ ㄔㄠˊ ㄧㄤˊ〕明、龍溪の人。字は、陽。嘗思、明、百回本〕。

〔曾鼎 ㄗㄥ ㄉㄧㄥˇ〕清の人。僕の從父。字は五二、道光中、官は、貴州遵義知府。〔明史、百四十二〕。

〔曾鼎 ㄗㄥ ㄉㄧㄥˇ〕清の人。僕の從父。字は五二、道光中、官は、貴州遵義知府。〔明史、百四十二〕。

〔曾貞夫 ㄗㄥ ㄓㄣ ㄈㄨ〕明、龍溪の人。字は、貞。嘗思、明、百回本

こゝを並て要略云々。　書名二十卷、清、

【曾文正公文集】2/2/2/

云、考文曾聞岡、佐谷助教説、此瑞語也、秀文、軍也、詩侯岡、出他、傳云、賢諸侯也、破老説、捉名、（**替**其物伏）ヲヤブル、西宮記、極紀、敕撰歴の別名、（**替**里尼臣）ヲヤブル、海の名、地一海の一部、イタリヤ半島の西にある。Tyrrhenisの音譯。

鼎 小 ㊀ ヲヤブル

鼎 小 ㊁ ヲヤブル

鼎 小 ㊂ ヲヤブル

鼎 小 ㊃ ヲヤブル

鼎 小 ㊄ ヲヤブル

鼎 小 ㊅ ヲヤブル

鼎 小 ㊆ ヲヤブル

鼎 小 ㊇ ヲヤブル

鼎 小 ㊈ ヲヤブル

鼎 小 ㊉ ヲヤブル

鼎 小 ㊊ ヲヤブル

鼎 小 ㊋ ヲヤブル

鼎 小 ㊌ ヲヤブル

鼎 小 ㊍ ヲヤブル

鼎 小 ㊎ ヲヤブル

鼎 小 ㊏ ヲヤブル

鼎 小 ㊐ ヲヤブル

鼎 小 ㊑ ヲヤブル

鼎 小 ㊒ ヲヤブル

鼎 小 ㊓ ヲヤブル

鼎 小 ㊔ ヲヤブル

鼎 小 ㊕ ヲヤブル

鼎 小 ㊖ ヲヤブル

鼎 小 ㊗ ヲヤブル

鼎 小 ㊘ ヲヤブル

鼎 小 ㊙ ヲヤブル

鼎 小 ㊚ ヲヤブル

鼎 小 ㊛ ヲヤブル

鼎 小 ㊜ ヲヤブル

鼎 小 ㊝ ヲヤブル

鼎 小 ㊞ ヲヤブル

鼎 小 ㊟ ヲヤブル

鼎 小 ㊠ ヲヤブル

鼎 小 ㊡ ヲヤブル

鼎 小 ㊢ ヲヤブル

鼎 小 ㊣ ヲヤブル

鼎 小 ㊤ ヲヤブル

鼎 小 ㊥ ヲヤブル

鼎 小 ㊦ ヲヤブル

鼎 小 ㊧ ヲヤブル

鼎 小 ㊨ ヲヤブル

鼎 小 ㊩ ヲヤブル

鼎 小 ㊪ ヲヤブル

鼎 小 ㊫ ヲヤブル

鼎 小 ㊬ ヲヤブル

鼎 小 ㊭ ヲヤブル

鼎 小 ㊮ ヲヤブル

鼎 小 ㊯ ヲヤブル

鼎 小 ㊰ ヲヤブル

鼎 小 ㊱ ヲヤブル

鼎 小 ㊲ ヲヤブル

鼎 小 ㊳ ヲヤブル

鼎 小 ㊴ ヲヤブル

鼎 小 ㊵ ヲヤブル

鼎 小 ㊶ ヲヤブル

鼎 小 ㊷ ヲヤブル

鼎 小 ㊸ ヲヤブル

鼎 小 ㊹ ヲヤブル

鼎 小 ㊺ ヲヤブル

鼎 小 ㊻ ヲヤブル

鼎 小 ㊼ ヲヤブル

鼎 小 ㊽ ヲヤブル

鼎 小 ㊾ ヲヤブル

鼎 小 ㊿ ヲヤブル

鼎 小 (1) ヲヤブル

鼎 小 (2) ヲヤブル

鼎 小 (3) ヲヤブル

鼎 小 (4) ヲヤブル

鼎 小 (5) ヲヤブル

鼎 小 (6) ヲヤブル

鼎 小 (7) ヲヤブル

鼎 小 (8) ヲヤブル

鼎 小 (9) ヲヤブル

鼎 小 (10) ヲヤブル

鼎 小

兼云云許國公神道碑銘並定宅、秋興興高、
【最早】ｻｲｿｳ 【最初】ｻｲｼｮ 【最上】ｻｲｼｮｳ 【最上乗】ｻｲｼﾞｮｳ 【最上乗教】ｻｲｼﾞｮｳｷｮｳ 【最上乗禅】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝ 【最上乗禅師】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼ 【最上乗禅師伝】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝ 【最上乗禅師伝法偈】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ） 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ）ｼﾞｮ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序并頌】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ）ｼﾞｮﾍﾞｲｼｮｳ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序并頌】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ）ｼﾞｮﾍﾞｲｼｮｳ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序并頌正法眼蔵涅槃妙心】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ）ｼﾞｮﾍﾞｲｼｮｳｼｮｳﾎﾞｳｹﾞﾝｾﾞﾝﾆｮｳﾐｮｳｼﾝ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序并頌正法眼蔵涅槃妙心正伝仏法海印三昧】ｻｲｼﾞｮｳｾﾞﾝｼﾃﾞﾝﾎｳｹﾞ（ﾄﾞｳﾊﾞﾝﾐｮｳｵｳﾃﾞﾗ）ｼﾞｮﾍﾞｲｼｮｳｼｮｳﾎﾞｳｹﾞﾝｾﾞﾝﾆｮｳﾐｮｳｼﾝｼｮｳﾃﾞﾝﾎｳｶｲﾝｻﾝﾏｲ 【最上乗禅師伝法偈（道場妙応寺）序并頌正法眼蔵涅槃妙心正伝仏法海印三昧

不動の勢をとり脱帽し手を膝の下までたれ、うやうやしく腰を屈する礼式。

【敬大敏】[ケイ] 大敏敏の一名。[伯子抄]に中、未、[宮城郡]天敏大敏、云云又南之敏大敏、[大内記]作、大敏。[仙台]天敏敏大敏、作敏敏大敏、[左經記]作、大敏。

【敬敏寺】[ケイ] 土佐国[安芸郡]安田川崎の上方にある真宗寺の名。

【曹】 14302

[ソウ] (集韻)亡感切 [ゼン] (集韻)了全切 [ゼン] (集韻)了全切

[ソウ] [ゼン] [ゼン]

[ゼン] かつて。すなはち。乃ち。曾。

(6-14299)に同じ。(説文)篸、篸法、曹之言、乃也(王筠)篸、詩韻軍也。●曹(4-11264)、嗽(4-11264)に通ず。(説文)篸、篸法、曹之言、乃也(王筠)篸、詩韻軍也。●曹(4-12360)、嗽(4-12360

ず。(說文)通訓定聲。會 段借爲旛。旛、一詩大雅大明。其會如林。(說文)詩曰。其旛如林。❹はじめ。甲骨(7－21723)に通ず。會朝(ゑ)。(池北偶談)文鏡跡に宗皇帝自事不會。只會 旋宮案(新方言)。轉音(今謂不能曰不機)。聲小機、會大通(以會字通)爲之。(論語集注)。字說(程子曰)。今人不會讀書。❹古 (論語)。(說文)。(集韻)。❹姓(正字通)。會姓。漢武陽令會相。❹(篇)(能)かならず。出來る。(ロ)當に云ふべかるべき。(ハ)答はなるべかるべき。しかも。(ニ)❹ひかんかき。(ホ)ルルアプヒ。モチニサダカズ。

召暦 暦 (會意。もと入で曾の省略形との合字。入は蓋。故に(この)蓋を合に。(會は)屋の假借。故に增加の義。故に(この)蓋を合に。集合の意。また會意に(この)蓋を合に。然にことば等の義とする。然にて集合の意。(說文)にはこれ下が相合する義からいう。(說文)會 (詩)(王)稱(詩)。(說文)(詩)。(玉篇)。(廣韻)。(說文通訓定聲)。會 段借爲旛。❹もとども。(廣韻)。❹姓(正字通)。會姓。漢武陽令會相。❹(篇)(能)かならず。出來る。(ロ)當に云ふべかるべき。(ハ)答はなるべかるべき。しかも。(ニ)❹ひかんかき。(ホ)ルルアプヒ。モチニサダカズ。

會 會 (會意。會は蓋。會意は、比類を合ふ。以是指揮。武信是也。(段注)刺欲班風。都集指。以是。會者。合也。(段注)刺欲班風。都集指。以是。其義。故合合二字。會之意。以成字。(王筠句讀)。合 (說文)。會之正解。說文通訓定聲。通今人用。會意者。合二字。子子之義。以成一字。子義。不作。會意。以表新義。謂之會意。如日月爲明。明日馬爲駕。是。其のこと。得意。納得。會心。明。(日馬)。(詩)。(說文)。(詩)。(說文)。(詩)。(說文

繼、(後漢書、耿弇傳、嘉宗新郵位、乃留三公、)
[会稽]ⓢ kuai4 kuei4 会稽、郡名。(前漢書、地理志、)
[会稽郡]ⓢ kuai4 kuei4 jün4 会稽郡、郡名。(前漢書、地理志、)
[会稽山]ⓢ kuai4 kuei4 shan1 会稽山、(山名。(前漢書、地理志、)
[会稽太守]ⓢ kuai4 kuei4 tai4 shou3 会稽太守、(官名。(前漢書、地理志、)
[会稽郡]ⓢ kuai4 kuei4 jün4 会稽郡、郡名。(前漢書、地理志、)
[会稽]ⓢ kuai4 kuei4 会稽、(人

収められて居り、皆會稽の風土に關するものの外、會見は、東都・地理類。

〔會稽山賦〕 清 顧懷文(10…55823…)

〔會稽山人〕 字號 ●唐 張位(9…6936…7…2)の號。●民國 蔡元培(9…21848…1…26)の號。

〔會稽山〕 戰敗の恥辱。桀王夫差に會稽山に破られた越王句踐が、其の敗辱を忘れて、臥薪嘗胆の苦を積み、以て呉を滅ぼし、句踐深謀一統年。（史記、越世家）「今陵深壑之事」（史記、伍子胥傳）「今陵深壑之事」（史記、伍子胥傳）「今陵深壑之事」（史記、伍子胥傳

岐（孟子離婁）

●講中 ●商講 ●會集 ●会議 ●講習 ●講和 ●講武 ●講堂 ●講義 ●講師 ●講説 ●講話 ●講演 ●講座 ●講習 ●講和 ●講武 ●講堂 ●講義 ●講師 ●講説 ●講話 ●講演 ●講座

●講中 ●商講 ●會集 ●会議

出す料理屋。

〔會稽〕138 ㄎㄨㄞˋ ㄐㄧ ●會稽郡名。●會稽郡名。茶湯の産地。

〔會說〕138 ㄏㄨㄟˋ ㄕㄨㄛ 話すことを出来る。

〔會說〕138 huì shuō 話すこと。

以前能話。

〔會計〕138 ㄎㄨㄞˋ ㄐㄧˋ ●會計。●會計。●會計。

[周禮]天官[天官]、大胡[胡]會同、[禮]玉聘[玉藻]玉藻上、[禮]聘[聘]、[禮]記[禮記]、[禮]喪事[喪]、[禮]喪[喪]、[禮]士[士]、[禮]會[會]、[禮]王[王]、[禮]朝[朝]之事、[禮]聘[聘]之事、[禮]會同[會]、[禮]諸侯[諸侯]、[禮]會[會]、[禮]諸侯[諸侯]之禮、[禮]會同[會

作る。今、四川省會理縣の治。〔漢書、地理志七上〕

〔會期〕[illegible] 越巂郡・縣十五、會無。

〔會昭〕[illegible] ●各國が集って約束することなどの意。〔左氏、昭三年〕諸侯（秦・楚）盟を結ぶこと。〔左傳、文十四〕諸侯（秦・楚）盟を結ぶ。〔漢書、地理志下〕[illegible]

〔會同〕[illegible] 諸侯が集って約束することなどの意。〔左氏、昭三年〕諸侯（秦・楚）盟を結ぶ。〔漢書、地理志下〕[illegible]

〔會面〕[illegible] 面會。〔古語十九首〕遺語阻且長、會面安可知。〔後漢書、荀彧傳〕今子遠離、[illegible]

〔會面鄉〕[illegible] 面會することのむづかしい。〔杜牧、贈張祜〕[illegible]

〔會面難〕[illegible] 面會することのむづかしい。〔杜牧、贈張祜〕[illegible]

〔會期〕[illegible] 會期。〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會理〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會里〕[illegible] 會里。〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽郡〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽山〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽東部都尉〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽東冶都尉〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽東冶縣〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽郡〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽山〕[illegible] 〔漢書、地理志七上〕[illegible]

〔會稽東部

先擊小鼓、乃擊大鼓。小鼓鼗、大鼓朄、皆以鼓。

轉、轉、讀如之引。故曰。

【篆】轉 (10-14302) に同字。(康熙字典・巳集・巳部) 字相似。轉 (音通) 鼓聲。轉、音引。鼓小與引聲相似。

14311 【𤇾】

ケツ ケチ コケチ

くびき

(集韻) 居悉切 屑

(集韻) 居結切 刑

(説文) 𤇾、去也、从日、从𠬝。

貸錄弗馬、(漢書、司馬相傳) 𤇾輕車而遠遊。

(1) 14753) に通ず。(詩、衛風、碩人) 庶士有、(傳) 𤇾、武壯貌。(釋文) 𤇾、韓詩作𠬝。

(2) 2290) に通ず。(正字通) 𤇾、與𠬝通。(呂覽、貴因) 𤇾年。(注) 𤇾、何也。

(3) 2921) に通ず。(正字通) 𤇾、殺語辭。𤇾來・𤇾來猶言來。今詩家以𤇾來爲去來。

【𤇾來】𤇾、(説文) 𤇾、去也、从日、从𠬝。貸錄弗馬、(漢書、司馬相傳) 𤇾輕車而遠遊。(呂覽、貴因) 𤇾年。(注) 𤇾、何也。(1) 𤇾來、(詩、衛風、碩人) 庶士有、(傳) 𤇾、武壯貌。(釋文) 𤇾、韓詩作𠬝。(2) 𤇾來、(正字通) 𤇾、與𠬝通。(呂覽、貴因) 𤇾年。(注) 𤇾、何也。(3) 𤇾來、(正字通) 𤇾、殺語辭。𤇾來・𤇾來猶言來。今詩家以𤇾來爲去來。

【𤇾來】𤇾、(説文) 𤇾、去也、从日、从𠬝。貸錄弗馬、(漢書、司馬相傳) 𤇾輕車而遠遊。(呂覽、貴因) 𤇾年。(注) 𤇾、何也。(1) 𤇾來、(詩、衛風、碩人) 庶士有、(傳) 𤇾、武壯貌。(釋文) 𤇾、韓詩作𠬝。(2) 𤇾來、(正字通) 𤇾、與𠬝通。(呂覽、貴因) 𤇾年。(注) 𤇾、何也。(3) 𤇾來、(正字通) 𤇾、殺語辭。𤇾來・𤇾來猶言來。今詩家以𤇾來爲去來。

十一畫

14312 【𦣞】

テイ

替 (集韻) 𦣞 切 霽

替 (集韻) 女夷切 支

替 6-14300 に同じ。(説文) 𦣞、替、或从日。

14313 【𦣞】

ネイ ニヤウ

(集韻) 𦣞 切 霽

(集韻) 女夷切 支

つぼ。(玉篇) 𦣞、吉也。

14314 【𧶠】

シュウ

(篇海) 音樂

地名。鞋 (10-14318) を見よ。(篇海) 鞋、地名。

14315 【𦣞】

ホウ

(篇海) 𦣞、古文𦣞。

十二畫

14316 【營】

タイ

替 6-14300 に同じ。(説文) 𦣞、替、或从辨从日。

14317 【𩙿】

フ

未だ詳で云云すず の意。數 (10-14736) を見よ。

十三畫

14318 【鞋】

タ

(篇海) 音詫

鞋鞋は地名。河北省行唐縣の東。風景絶佳。清の高宗、五臺に幸し、此處を過ぎて詩を作る。(篇海) 鞋、地名、在行唐縣北、村名。鞋鞋。

14319 【𩙿】

チン

(篇海) 音沉

ます。(篇海) 𩙿、益也。

十四畫

14320 【𩙿】

バン

優 (1-1082) の古字。(五音集韻・願) 古文優字。

十五畫

14321 【𩙿】

ダ

鞋 (10-14318) の古字。(玉篇・鞋)

14322 【𩙿】

サウ

(篇海) 音遭

日が東方に出る。(篇海) 𩙿、日出・東方也。

十七畫

14323 【𩙿】

サウ

曹 6-14297 の本字。(字彙) 𩙿、曹本字。

14324 【𩙿】

チン

鞋 6-14319 に同じ。(篇海) 𩙿、同鞋。

十七畫

14325 【𩙿】

ヒ

(集韻・紙韻) 𩙿 切 支

ます。𩙿 (10-14338) に同じ。(説文) 𩙿、益也、从𠬝會聲。(段注) 𩙿・𩙿、古今字。

十二畫

14326 【𩙿】

クワ

義未詳。(字彙補・裏部) 𩙿、百蟲。

二十三畫

【曜】 14327

ヨウ（漢）　ヨウ（呉）

縣名。（扁海）曜、縣名。

二十八畫

【曦】 14328

クワウ　紫補1-12-47965に同じ。字

紫補1-12-同じ。

三十一畫

【讀】 14329

クワウ　紫補1-12-47965に同じ。字

紫補1-12-同じ。

月部

【月】 14330

ゲツ　ガツ　ツキ

集韻 魚厥切 ㊀ せつ　ゲツ

測グツ

小篆

説文 月部

①つき。

②太陰の精。地球の衛星。（説文）月、闕也。太陰之精。（呂覽・孝行）月、闕也。高則闕也。（風雅・孝行）俊元謂之月。（儀禮・觀禮）

禮月與四瀆、於北門外。（注）月、太陰之精。（呂覽・適音）月、闕也。闕、滿之有闕也。（呂覽・孟春）月、陰也。陰陽不隆にあたる。（管子・白心化）物多蓄、莫多於日月。（注）月、陰也。水之精也。（呂覽・孟春）月、水之精也。（呂覽・孟春）月、陰

詩經疏月離陰、志蓋風雨。●德七月の一日、陽月の第一日目。

月離 (書方神紀編)

月離 月 (書方神紀編)

月 月 月

月 [月部] 四画 [月] 部首 [月] 部 [月] 部 [月] 部

【月窟】月窟 ㊀ 西域の月氏國の水。李白「蘇武詩」滅鈌月窟水、鈌鑿天雪氣。

【月化】月化 ㊀ 月化に變化する。「荘子」田子方。

【月伏】月伏 yuefu. 月鳧の異名。

【月鳧】月鳧 ㊀ 月鳧の異名。月鳧、月下。

【月華】月華 ㊀ ❶月の光。月彩(月光帝鳥)。「後漢書」西域傳、月出、江十、城外、月華、「沈約應王中丞思遠挽詩」月華臨華宇、「張華「鹿臺賦」月華、「李白「蜀道山」月華、「蘇軾「蘇軾」月華、「白居易「月夜

易受故也。（本草）婦人月水不通、月經、天癸、月事、月信、月水、月候、月期、月利、月事、月經、月水、月信、月候、月期、月利、月事、月經、月水、月信、月候、月期、月利、月事、月經、月水、月信

秦之。●月紀に同じ。史記封禪書四仲之月朔。

月朔 ［月部］ 蜚虫のこと。地から月精を生じて為となすといふ。『抱朴子』極目眺遠篇『蜚蠊月精、而蟲蟲爲之』『史記』天官書『蜚蠊、蟲蟲爲之』

月駕 ［月部］ 月に乗じて。『史記』封禪書四仲之月。

月見 ［月部］ 月を見る。『六韜』文師。●月を見る。

月見 ［月部］ 月の出はじめの光。『新論』道教。

月見 ［月部］ 月の出はじめの光。『新論』道教。

月行 ［月部］ 月のまはりの光。『荊州占』月行。

月令 ［月部］ 月令。『礼記』月令。

月令 ［月部］ 月令。『礼記』月令。

月令 ［月部］ 月令。『礼記』月令

稱が缺けること。月蝕。『晉書』月蝕則食。〔文獻通考〕象緯考。月食天之陰。故月之定生。於日之所陽。既滅。故月之死。於日之所陽。既生。月之定也。百一是而闕。以日光之映。其有不一。月之定也。百一是而闕。以日光之映。其有不一。月之定也。於陽。倉相出。故也。月不能自生。故稱之日。月之有光。故稱之日。月之有光。故稱之日。月之有光

海三有力者、鎮守王、時詩人、鳴者京、隔桑封、題於諸郡之能、詩玄、期回雁、初春、兼、巻試、開傳、蓬山、江梁氏、天長、時人、鳴者、京、隔桑、

賛一人、乃上天下、計臣之功、過於先聖、帝嘉之、

【月地魂】[illegible]…月魂。九曜の月魂の名。月に刻んで作ったもの。「蓬生八怪」「月魂」「高砂」「現実讃沢」「月の魂」「方々の魂」「月の魂」「月の魂」「月

在り、三・七・十一月はすべて在り、四・八・十二月は七に在る。其の方位は表裏皆所（其の月は徳合）五行論

月令　月建　月令　月建　月令　月建

月令　月建

月令　月建

朔。月份牌[illegible]　[gu] 桂こよみ。月份牌。

月令[illegible]　[ling] 名詞。月令。月令。カレンダー。

月年[illegible]　[nian] 名詞。月年。月年。月日。

月[illegible]　[yue] 名詞。月。月。月

【月落参横】300 ……月が西に落ちて参星が東によこたえる頃。〔李商隱・花花〕「参星月落」。〔李商隱・無題〕「鳳城鈴語参横後」。〔蘇軾・蝶戀花〕「月落参横」。

【月華】300 ……月の光。〔李商隱・月夜〕「月華照人」。〔李商隱・月夜〕「月華流水」。〔李商隱・月夜〕「月華流水」。〔李商隱・月夜〕「月華流水

遥見西京(唐)。瓜州閼(魏)。鏡(唐)。詩(宋)。歌(宋)。鼓(唐)。月華(唐)。月鏡(唐)。月鏡(唐)。月鏡

【月桂輪】(…)…… 婆羅娑羅樹の名。漢の明帝が太子の時、樂人が婆羅娑羅樹を見て作ったもの。後の人が月桂輪と名づけた。『洛陽伽藍記』巻三、「…神話的古今十洲」の条に、明帝時、月桂光を見輪、…。『…』…月桂輪。月桂樹。月桂光。月桂輪。月桂樹。月桂光。月桂輪。月桂樹。月桂光。

【月損】ゲツソン 毎月損を被る。来年を待つて損を補に全く後れを取らぬようまとまりますことと、歩事を知つて遠かに改めることの意。『孟子』離婁篇に「月に一度は闕ちる徒、今日始めて能く踰えず」とあ。

【月有】ゲツユウ 毎月。

【月出皎兮】ゲツシツコウ 月出て皎兮たり。是非君子之道、知其非義、勉進可矣、何待来年。然後已如知其非義、勉而已矣、何待来年。

【月出皎兮】ゲツシツコウ 月出て皎兮たり。是非君子之道、知其非義、勉而已矣、何待来年。然後已如知其非義、勉進可矣、何待来年。

『詩』唐風。『毛詩』では「月出皎兮、佼人僚兮、舒窈糾兮、勞心悄兮」とあり、『韓詩』では「月出皎皎、佼人僚兮、舒夭紹兮、勞心慅

位をいふ。〔書大禹謨〕鈇敏、懋乃有位、敬修其可觀。〔傳〕有位、天位。〔蔡傳〕入百官事。〔周語上〕敬修其所可觀。〔韋注〕百官之位。〔易〕革九五辛有位、无悔。〔注〕國制・官刑・官刑・敏・と有位。〔傳〕言、湯制・治官刑法、以敏・戒有位。

「有爲」[ユウイ] ●時所がある。事物を爲すはたらき。〔論語〕子路篇、〔孟子〕公孫丑上篇。

「有爲」[ユウイ] ●有爲・無爲。〔淮南子〕原道訓、〔文選〕王粲「登樓賦」。

「有爲」[ユウイ] ●「有爲」に同じ。〔孟子〕公孫丑上篇

子經上云有間也〔張衡東京賦〕注無間者有間乃是蔽耳〔注〕解曰有間猶有頃之間也●矣的少しく変たること〔左氏、昭七年〕●暇がある〔日本書紀、讃書詩古人集〕遠故官事寧有間〔日本書紀、讃書詩古人集〕遠故官事寧有間〔日本書紀、讃書詩古人集〕遠故官事寧有間

自然入をいう。

【有形財産】[illegible] 貨幣有形物の財。商品の類。

【有形資本】[illegible] 一定の價値ある有形の資本。→無形資本。

【有形出・於無形】[illegible] 形あるものは形を出して無形から生れ出る。〔列子・天瑞〕有形者生於無形則天地安能生。〔文子・道原〕有形則有形者生於無形則天地安能生。〔文子・道原〕有形則有形者生於無形。〔淮南子・說山訓〕有形出無形・末。

【有須】[illegible] しばらくあって。有間。〔戰國策・燕策〕居有須・燕王擅其制。〔史記・趙世家〕有須臾後間間。

【有虞】[illegible] よいことがある。〔易・升卦〕見大人勿恤・有慶。〔荀子〕亟於致養義・故曰有虞。

【有教】[illegible] ●教へ所あるをいう。〔論語・衛靈公〕有教無類。●國語・晉語に對する語で、中國の俱舞文化系の地をいう。〔國語・晉語四〕公如秦・秦伯享之・賦黍苗・秦地有限・有教而已。〔有部〕[illegible] 有限・同じ。〔史記・項羽紀〕今者國世家・家名微時・與・難何・難及・國・時相有。

【有限】[illegible] 限度がある。仲が惡い。有部。〔戰國策・燕策〕秦地有限・有教而已。大王今日至・趙・小人・[illegible]・與・趙公・有隙・因恐天下之

解心疑・大王也。〔戰國策・公孫龍傳〕遠隱客有隙。

【有結】[illegible] 隱慝・惡をいう。有とは生死の義。結とは結人・命を束縛して生死の運命に在住せしめる。〔法華經・譬喩品〕[illegible]・[illegible]・[illegible]・

「有罪同受」[33] 文王嘉止、大邦有子、子、[illegible]、[illegible]、[illegible]

が ある。〈社用、貴人頭詩入生有情深の疑に は水注花皆終鳴 ●有するはばひ ●有情 ●有無、無 ●能がある。『荀氏家傳』 ●有情 ●有無、無 ●能がある。『荀氏家傳』 ●有情 ●有無、無 ●能がある。『荀氏家傳』

南有二有華里」郎古華國。◎同南省確思觀の異。〔左氏、僖二十二年〕晉侯登諸巢車以觀の異。〔孫地志〕古華國。在陳留縣東五里。故華城。△山東省曹縣の北。〔後史方興勝覽〕東、瓷州府。貴州、曹縣、華城、縣北十八里。元和志、古華城、周、陳縣、華城、縣北十二里。東南陸縣南二十里。東、華城、縣北十八里。女生、馬、又伊、耕、於有華字、野、華秋、僖二十八、預曰、古陳國地也。◎馮太の妃。有華氏の妃也。以有華氏、僖也。典、惠、淑、調、五味、而立焉。

有藝 𠂇ㄧˋ 徳王の妃、有藝の妃に同じ。〔列女傳、母儀、道化有虞傳〕藝妃者、有藝氏之也。殷湯以氏、妃、生仲王外內、小明、教訓、敬、其、以、〔注、藝、古今人表、上中、有藝氏、湯中妃、生大丁、〔注、師古曰、藝、與、華同。

〔法華經、譬喩品〕在門外、立、聞、有人言。〔注〕天、遠、不、能、得、之、於手、而、於、心、可、不、能、言、有、數、存、焉、其、間、〔傳、文、字、云、數、術也。〔之、運命、之、私、因、〔自、然、〕村中留、李二、因言、相詩、如、我、與、君、心、相、知、應、有、而有、度、宗、陸有、數、〔萬、書、文、常、紀〕〔注、〔師、古、曰、〕數、猶、術、也、〔、、、

而二提髮、食而七絕、以禮有道之士。

【有道之士】『論』季氏16 宋・鄭樵『通志』略二 39424 ○ 宋・鄭樵『通志』略二 39424 ○ 後漢・李膺人名、性格方高岡之人。『後漢書』李膺傳 人名、性格方高岡之人。『後漢書』李膺傳 人名、性格方高岡之人。『後漢書』李膺傳

年、（杜注）五穀登熟、書「有年」。春秋、宜、十六）

詩頌、此頌有年、今日既至、我公、（歐陽修、相州晝錦堂記）南內之工、（白居易、題華清宮、長恨歌傳）

（同上）（同上）（同上）

命象則案、命象則案、命出則治、命象則亂、命象則壽、命象則亡。【孫鏞義】命象則亡。明中興之不不。見『墨經』。鄭明中興以謹、謹忠等、七子。のかつき・隨月天、又、ありあけの月。古今和歌集、上、ありあけの月と夜と別れよ。⑥後通して夜明に至ること。終夜。又、ふよ。【類聚名物考、調度】。琉球の地名。

【有樣】[ありさま]。ものごとのなりゆきのさま。おもむき。ようす。明、情慾篇ニ・1019・(38)の字。

【有餘】[ゆとり]。唐、崔図『小説』(『太平広記』所収)の字。

【有餘年】[ゆとりとし]。未而子『全』42・3391・(104)の字。

【有餘錢】[ゆとりぜに]。やくにたつもの。孔叢子、陳士義『孔叢子』。役に立つ物。孔叢子、陳士義『孔叢子』。

【有用】[やくにたつ]。やくにたつこと。

【有用之物】[やくにたつもの]。役に立つ物。孔叢子、陳士義『孔叢子』。

【有用之用】[やくにたつもの]。有用なるものが役に立つこと。無用之用ニ・1113・(26)の字。『荘子』、人間世「人間世の無用を用ゐるを知る。無用之用」。

【有益】[ためになる]。益になること。『左氏』、昭十二・3・(1)の字。

【有益之物】[ためになるもの]。有益なもの。『左氏』、昭十二・3・(1)の字。

【有利】[りをもつ]。利益がある。『鹽鐵論』、殊路。

【有利不思本】[りをもつものはもとをおもわず]。利益のあるものは本を思わず。『鹽鐵論』、殊路。

【有利之利】[りをもつのり]。利益のある。『鹽鐵論』、殊路。

【有利之利、有害之害】[りをもつのりとがいをもつのがい]。利益のあるものは害のあるものを害とする。『鹽鐵論』、殊路。

【有利者、害之本也】[りをもつものはがいのもとなり]。利益のあるものは害の本である。『鹽鐵論』、殊路。

【有利者、害之本也、有害者、利之本也】[りをもつものはがいのもとなり、がいをもつものはりのもとなり]。利益のあるものは害の本であり、害のあるものは利益の本である。『鹽鐵論』、殊路。

【有利者、害之本也、有害者、利之本也、有益者、損之本也、有損者、益之本也、有益之物、有損之物、有益之利、有損之利、有益之利、有損之利、有益之利、有損之利

いて風如實性。〔大乘二觀〕
〔有智慧〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　動物學用語。蟬蠅動物中、蜻蛉の一目。
〔有爪類〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　動物學用語。節足動物中、鰲類。
〔有象氏〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　上古の聖人、人に居處の法を教へ、巢獸禽獸、人民を避けしめ、以聖人、人民少而禽獸衆、人民衆而禽獸少、故上古天下、皆巢居而有巢氏（古巢居、禽獸多、人民少、故以巢居避之）。
〔有巢氏〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　呂氏春秋の著名人。大鳥氏の一代始。博同・去尤・雜言・離俗・審大の七篇に分る。
〔有巢國〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　國未だ得て滅ぼす能はず。大智度論、有巢津能別好醜、未得滅、是名「有巢國」。
〔有巢津〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　身口清淨能別好醜、未得滅、是名「有巢國」。
〔有巢氏〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　古代の聖人。
〔有巢樹〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　樹名。
〔有巢國〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　巢を作る人の居る國。
〔有巢國〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　巢を作る人の居る國。
〔有巢津〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　巢を作る人の居る津。
〔有巢樹〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　樹名。
〔有巢氏〕3ʼ-ʼ-ʼ-ʼ　古代の聖人

吳金邑人也、云云、於、是公子光謂專諸曰、此時不可失、不求何事、且光真王僚子、當立者、子雖不求、吾將自立、專諸曰、王僚可殺也、母老子弱、而兩弟將長、奮其勇力、方伐楚、外因於楚、而內空、無一骨鯁之臣、是無如我光伏甲士於室室中、而具酒請王僚、王僚使人自室中而達之、公子光出、王僚之徒、盡滅之、遂自立焉、是歲、闔閭、闔閭乃封專諸之子、以為上卿。

[有] 增無滅 [1] [1] [1]

假樂〕燕及朋友。〔傳〕朋友、羣臣。(2)二鳥。〔書經〕一鳥曰隹、二鳥曰雙、三鳥曰朋。(3)兩樽。〔詩〕蹌蹌、七月〕朝酒斯饗。〔周禮〕朋酒、陳酒。〔注〕鄭司農云、朋酒、斯饗。又は一對の貝を單位として云ふ。「易、困」或益三十朋之龜。〔荀子〕雙貝曰朋。

朋貨　著蔡貨。〔詩〕我百朋之金。〔管子〕大匡、朋貨五貝。〔周禮〕**組合**、小部落。〔管書、地理志上〕在作雒、洛、伊、瀍、澗、和、熊、耳、制二大邑。

一、朋(ㄅㄥˊ)(6601)の古字。說文は鵬に作る。〔說文〕鳳、朝陽之鳥、天老曰、鳳、雄、鳳、雌、鳳、雄、鳳、雌、鳳、雄、鳳、雌

より宗関・徳裕等者。朋黨を立てて抗爭すること四十年。京宗に至り、朋黨を以て共に禁止られたり。右丞相、宗に奏して曰く、朋黨は古用の大患なり。古用子也。云云。按、李德裕傳。德裕、元和初年相牛僧孺・李宗閔、對「直言策」。僧孺・德裕、皆上第。僧孺、直言策。宗閔、對「直言策」。時、朝政多闕。怨望。吉甫又惡宗閔。吉甫、元和末、被讒。對「兩河反狀」。李逢吉、沮解。逢吉、知宗閔。而吉甫、被迫。斜吉甫。而怨。宗閔、怨。德裕、怨。「合能」。故、迫斜吉甫。而怨。宗閔、怨。德裕、怨。憎相警。其宰相。而已代。之。欲引僧孺。益怨。乃出宗閔。僧孺。遂相。僧孺。宗閔、怨。相。由是牛李之禍結矣。資治通鑑、唐紀。文宗。開成二年、太和八年十月。李宗閔、李德裕制命。行。不宜自使。之。宗。獨自。奏。曰。「宗閔、僧孺。親。相。相。僧孺。上。意

服 14345

ブク（集韻）フク切 匐
ビク（集韻）角切 覺
ブク（集韻）伏切 宥
ボク（集韻）奉悉切 匐

月部（四畫）服

服 小篆 古文 **❶用ひる。**（說文）服、車旁也。用也。（荀子、富國）直服人之口、而已矣。（注）服、用也。**❷ふくす。**舟の兩旁のそへへいを、一曰、車右輔、所以舟見聲。（說文）服、按本義、舟兩旁夾木也。說、舟人行、轉注爲車兩旁夾木也。（爲）佩服。（爲）衣服。**❸車の横木。**車に立乘した時に憑りかかるもの。兩方の横木。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、在車中央。（箋）服、所以載物。（詩、小雅、大東）以直道、而服箱。（注）服、相也。（禮記、檀弓）國君、抱柩、以斧斤、斲棺、而後出。（注）服、柩也。（疏）服、柩之材也。（周禮、地官、遂人）北服、柩也。（注）服、長八尺。謂、載柩也。**❹車の轅。**（儀禮、既夕禮）賓奠幣。幣、授左服。（注）服、車轅。**❺車をひく馬。**（正字通）服、車輿四馬。在內兩馬曰服、外兩馬曰驂。（詩、鄭風、大叔于田）兩服齊鑣、兩驂鳴鑣。（傳）服、驂、夾轅者。戰國、衛策、拊、驂而若服。（注）服、馬名。（呂覽、順民）服、駕馬也。（注）服、駕也。（注）舊曰服、駕馬也。服、謂、中央兩馬夾轅者。**❻馬を車につける。**駕す。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、駕也。**❼おびる。**（呂覽、孟春）服、青玉。（注）服、佩也。**❽のせる。負ふ。**（10－36560）（注）服、帶。

服 小篆 古文 **❶用ひる。**（說文）服、車旁也。用也。（荀子、富國）直服人之口、而已矣。（注）服、用也。**❷ふくす。**舟の兩旁のそへへいを、一曰、車右輔、所以舟見聲。（說文）服、按本義、舟兩旁夾木也。說、舟人行、轉注爲車兩旁夾木也。（說文）服、按、本義、舟兩旁夾木也。（爲）佩服。（爲）衣服。**❸車の横木。**車に立乘した時に憑りかかるもの。兩方の横木。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、在車中央。（箋）服、所以載物。（詩、小雅、大東）以直道、而服箱。（注）服、相也。（禮記、檀弓）國君、抱柩、以斧斤、斲棺、而後出。（注）服、柩也。（疏）服、柩之材也。（周禮、地官、遂人）北服、柩也。（注）服、長八尺。謂、載柩也。**❹車の轅。**（儀禮、既夕禮）賓奠幣。幣、授左服。（注）服、車轅。**❺車をひく馬。**（正字通）服、車輿四馬。在內兩馬曰服、外兩馬曰驂。（詩、鄭風、大叔于田）兩服齊鑣、兩驂鳴鑣。（傳）服、驂、夾轅者。戰國、衛策、拊、驂而若服。（注）服、馬名。（呂覽、順民）服、駕馬也。（注）服、駕也。（注）舊曰服、駕馬也。服、謂、中央兩馬夾轅者。**❻馬を車につける。**駕す。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、駕也。**❼おびる。**（呂覽、孟春）服、青玉。（注）服、佩也。**❽のせる。負ふ。**（10－36560）（注）服、帶。**❾おとこよ。**（書、說命中）惟衆介、冑、有、年于兵、臣、我、聞、有、言、曰、惟、金、木、水、火、土、穀、惟、修、正、厥、德、乃、有、衆、建、爾、于、王、家、爲、羽、翼、乃、爾、股、肱、心、膂、惟、若、金、用、汝、爲、砥、若、木、用、汝、爲、柔、若、水、汝、作、霖雨、若、火、烈、汝、作、虩、若、土、汝、作、和羹、若、鹽、梅、惟、暴、德、罔、不、克、開、惟、逸、欲、有、邦、兩、造、罔、不、克、壽、惟、狂、克、念、作、聖、惟、聖、克、念、作、狂、惟、敬、其、有、終、相、時、憲、人、內、作、朕、股、肱、耳、目、爲、朕、心、膂、惟、若、藥、弗、瞑、眩、若、藥、弗、瞑、眩、厥、疾、弗、瘳、若、跣、弗、履、罔、知、攸、至、予、若、道、必、有、師、師、之、所、言、則、從、之、若、疾、視、於、無、形、聽、於、無、聲、乃、有、大、賚、于、民、）（注）服、習也。（漢書、董仲舒傳）服、其水土。（注）師古曰、服、習也。**❿おとこよ。**（詩、大雅、瞻卬）士夫、君子、無、教、如、此、憂、國、之、人、何、人、斯、觀、于、爾、國、蔑、爾、成、人、無、俾、爾、躬、漸、漸之、石、維、其、高、平、泉、之、流、無、浸、穫、薄、言、觀、者、無、益、爲、謂、涸、陸、殄、厥、愚、人、覆、背、善、詈、雨、無、正、滂、滂、之、下、潦、生、民、之、艱、匪、降、自、天、生、自、地、民、之、訛、言、寧、莫、之、懲、召、彼、訛、言、寧、莫、之、懲、召、彼、訛、言、寧、莫、之、懲、哿、彼、流、言、寧、莫、之、懲、彼、何、人、斯、胥、以、穀、人、之、無、辜、生、之、多、艱、維、其、有、之、是、誰、之、過、與、靖、之、共、爾、位、正、直、是、與、不、善、之、人、則、莫、我、肯、顧、邊、豆、靜、嘉、無、縱、詭、隨、以、謹、惡、焉、止、言、不、讓、是、用、不、祥、降、爾、遐、維、維、邦、之、本、實、維、王、之、基、不、稱、其、人、有、大、國、而、無、人、則、滅、之、而、已、）（注）師古曰、服、習也。**⓫おとこよ。**（詩、大雅、瞻卬）士夫、君子、無、教、如、此、憂、國、之、人、何、人、斯、觀、于、爾、國、蔑、爾、成、人、無、俾、爾、躬、漸、漸之、石、維、其、高、平、泉、之、流、無、浸、穫、薄、言、觀、者、無、益、爲、謂、涸、陸、殄、厥、愚、人、覆、背、善、詈、雨、無、正、滂、滂、之、下、潦、生、民、之、艱、匪、降、自、天、生、自、地、民、之、訛、言、寧、莫、之、懲、召、彼、訛、言、寧、莫、之、懲、哿、彼、流、言、寧、莫、之、懲、彼、何、人、斯、胥、以、穀、人、之、無、辜、生、之、多、艱、維、其、有、之、是、誰、之、過、與、靖、之、共、爾、位、正、直、是、與、不、善、之、人、則、莫、我、肯、顧、邊、豆、靜、嘉、無、縱、詭、隨、以、謹、惡、焉、止、言、不、讓、是、用、不、祥、降、爾、遐、維、維、邦、之、本、實、維、王、之、基、不、稱、其、人、有、大、國、而、無、人、則、滅、之、而、已、）（注）師古曰、服、習也。**⓬おとこよ。**（詩、周頌、噫嘻）亦、服、爾、耕、（箋）服、事也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。**⓭敬業。**（書、旅獒）無、替、厥、服。（傳）服、事、也。**⓮おこなふ。**（書、說命中）惟、說、命、總、于、帝、其、克、永、厥、終、永、言、配、命、自、天、王、天、其、聰、明、聖、武、神、武、不、殺、夫、人、性、仁、愛、人、以、德、民、罔、不、懷、德、輯、和、爾、衆、庶、邦、冢、君、出、納、朕、命、惟、王、之、爾、股、肱、爲、朕、心、膂、若、藥、弗、瞑、眩、若、藥、弗、瞑、眩、厥、疾、弗、瘳、若、跣、弗、履、罔、知、攸、至、予、若、道、必、有、師、師、之、所、言、則、從、之、若、疾、視、於、無、形、聽、於、無、聲、乃、有、大、賚、于、民、）（注）服、行也。（荀子、宥坐）上先服、（注）服、行也。（孔子家語、入官）察、里言、而服、之。（注）服、行也。**⓯**

服朋 古文 **❶用ひる。**（說文）服、車旁也。用也。（荀子、富國）直服人之口、而已矣。（注）服、用也。**❷ふくす。**舟の兩旁のそへへいを、一曰、車右輔、所以舟見聲。（說文）服、按本義、舟兩旁夾木也。說、舟人行、轉注爲車兩旁夾木也。（說文）服、按、本義、舟兩旁夾木也。（爲）佩服。（爲）衣服。**❸車の横木。**車に立乘した時に憑りかかるもの。兩方の横木。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、在車中央。（箋）服、所以載物。（詩、小雅、大東）以直道、而服箱。（注）服、相也。（禮記、檀弓）國君、抱柩、以斧斤、斲棺、而後出。（注）服、柩也。（疏）服、柩之材也。（周禮、地官、遂人）北服、柩也。（注）服、長八尺。謂、載柩也。**❹車の轅。**（儀禮、既夕禮）賓奠幣。幣、授左服。（注）服、車轅。**❺車をひく馬。**（正字通）服、車輿四馬。在內兩馬曰服、外兩馬曰驂。（詩、鄭風、大叔于田）兩服齊鑣、兩驂鳴鑣。（傳）服、驂、夾轅者。戰國、衛策、拊、驂而若服。（注）服、馬名。（呂覽、順民）服、駕馬也。（注）服、駕也。（注）舊曰服、駕馬也。服、謂、中央兩馬夾轅者。**❻馬を車につける。**駕す。（詩、小雅、大東）不以服箱。（傳）服、駕也。**❼おびる。**（呂覽、孟春）服、青玉。（注）服、佩也。**❽のせる。負ふ。**（10－36560）（注）服、帶。**❾おとこよ。**（書、說命中）惟衆介、冑、有、年于兵、臣、我、聞、有、言、曰、惟、金、木、水、火、土、穀、惟、修、正、厥、德、乃、有、衆、建、爾、于、王、家、爲、羽、翼、乃、爾、股、肱、心、膂、惟、若、金、用、汝、爲、砥、若、木、用、汝、爲、柔、若、水、汝、作、霖雨、若、火、烈、汝、作、虩、若、土、汝、作、和羹、若、鹽、梅、惟、暴、德、罔、不、克、開、惟、逸、欲、有、邦、兩、造、罔、不、克、壽、惟、狂、克、念、作、聖、惟、聖、克、念、作、狂、惟、敬、其、有、終、相、時、憲、人、內、作、朕、股、肱、耳、目、爲、朕、心、膂、惟、若、藥、弗、瞑、眩、若、藥、弗、瞑、眩、厥、疾、弗、瘳、若、跣、弗、履、罔、知、攸、至、予、若、道、必、有、師、師、之、所、言、則、從、之、若、疾、視、於、無、形、聽、於、無、聲、乃、有、大、賚、于、民、）（注）服、習也。**⓬おとこよ。**（詩、周頌、噫嘻）亦、服、爾、耕、（箋）服、事也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。（大戴禮、千乘）服、其、服、事、也。**⓭敬業。**（書、旅獒）無、替、厥、服。（傳）服、事、也。**⓮おこなふ。**（書、說命中）惟、說、命、總、于、帝、其、克、永、厥、終、永、言、配、命、自、天、王、天、其、聰、明、聖、武、神、武、不、殺、夫、人、性、仁、愛、人、以、德、民、罔、不、懷、德、輯、和、爾、衆、庶、邦、冢、君、出、納、朕、命、惟、王、之、爾、股、肱、爲、朕、心、膂、若、藥、弗、瞑、眩、若、藥、弗、瞑、眩、厥、疾、弗、瘳、若、跣、弗、履、罔、知、攸、至、予、若、道、必、有、師、師、之、所、言、則、從、之、若、疾、視、於、無、形、聽、於、無、聲、乃、有、大、賚、于、民、）（注）服、習也。**⓯**

とをのへる。治める。「正字通」服、服御今整齊、古治、同用、葛覽）服、之無教、（詩、周南、葛覽）服、之無教、（禮記、緇衣）服、也能擇治之、無、敵、（禮記、緇衣）服、也能擇治之、無、敵、（禮記、緇衣）服、也能擇治之、無、敵

世皃、或作服。

名義 ヨ・ユキ・コト。ハト・ハ(姓)。

解説 形聲。舟に従い、艮で、音。艮は、文字、舟と人との合字。舟は、舟。人は、人。艮は、文字。舟と人との合字。**意義**。本義は、設文に よれば 舟を人を運用する。設文通訓定聲は 舟を人を運用する。この字、古文舟と人との合字。舟を人を運用する。それより 事をとりて用ふるの義に用ひられるのならん。又、服子、舟と艮との合字。艮は、文字。舟と人との合字。故に舟人が舟を やつて往来する義に 転じて、又、服信 昔時 鎮に 伏等の義を 生ず。又、服信 昔時 鎮に 伏等の義を 生ず。又、服 段注に人部 人部 人部

司、理頃、復任、不可、停、前人、握、拙人、

【服刑】ふくけい 刑罰を受けること。

【服形】ふくけい 心の中に、内體上の欲を去ること。服氣、列子、黄帝篇、閑居三月、齋心、服形、

【服氣】ふくき 仙人の食物の道、佛語、其術、(日義服、形、猶今人所服、氣也。

【服闋】ふくけつ 周禮、春官、大祝、(注)、闋、猶、闋、

【服闋】ふくけつ 喪を終ること。(中庸)、(注)、闋、猶、闋、

【服闋】ふくけつ 喪を終ること。(中庸)、(注)、闋、猶、闋、

【服虔】ふくけん 後漢、榮陽の人、初の名は慎。字は子慎。字を子愼、繁を太學に受け、左氏傳の解を作る。注は繁説の所を、乱に遇ひ、其の書に客中に病死す。後、(魏)、(注)、(注)、(注

月部 【四書】服

り根拠、周礼春官司服の節注によれば天子には十二章、公には九章、侯伯には七章、子男には五章、四命には三章、三命・再命には一章を用ひ、命なきものには用ひず。●公侯以下は用ひざる。●注に曰はく、天子・諸王の冠・衣・裳・車・旗・旂・所用の物、皆章を用ひず。〔孝経義纂〕則ち章服を定めて、以て貴賤を別つ。〔孝経義纂〕章服を定めて、以て貴賤を別つ。〔孝経義纂〕

補説 周制、冠服之定、古人之制、天子・諸王・公・侯・伯・子・男・卿・大夫・士、皆有服章、以別貴賤。〔孝経義纂〕

【服位】fú wèi 服章の色・玉綬の数・車旗・旂・所用の物、皆章を用ひず。〔孝経義纂〕

【服色】fú sè 天子・諸王・公・侯・伯・子・男・卿・大夫・士、皆有服章、以別貴賤。〔孝経義纂〕

【服飾】fú shì 衣服の飾。●衣服の飾。●衣服の飾。●

【服部】[illegible] ❶機を織る。又、其の人。❷姓。

【服部常貞】[illegible] 京都の人。名は保章。字は元禎、字は子敬。通称は藤五郎。號は東龍溪・享保六年六月二日歿、年五十五。木下順庵に師事。著に御側物語・寛資遺稿・寛資日記・発蒙問答・談・[illegible]

【服部元雄】[illegible] 服部白資（二）を見よ。

【服部常郷】[illegible] 江戸の人。名は世恭。字は伯和、通称は藤五郎。號は東海・享保六年六月二日歿、年五十五。木下順庵に師事。著に御側物語・寛資遺稿・寛資日記・発蒙問答・談・[illegible]

【服部南郭】[illegible] 京都の人。名は元喬。字は子遷、通称は小左衛門。號は南郭・芙蓉峰・芙蓉居・雪堂。寛延九年七月一日歿、年七十七。荻生徂徠に師事。[illegible]

【服部南郭門】[illegible] 服部南郭の門人。[illegible]

【服部南郭門】[illegible] 京都の人。名は保章。字は子敬、通称は藤五郎。號は東龍溪・享保六年六月二日歿、年五十五。木下順庵に師事。著に御側物語・寛資遺稿・寛資日記・発蒙問答・談・[illegible]

【服部元雄】[illegible] 服部白資（二）を見よ。

【服部常郷】[illegible] 江戸の人。名は世恭。字は伯和、通称は藤五郎。號は東海・享保六年六月二日歿、年五十五。木下順庵に師事。著に御側物語・寛資遺稿・寛資日記・発蒙問答・談・[illegible]

【服部南郭】[illegible] 京都の人。名は元喬。字は子遷、通称は小左衛門。號は南郭・芙蓉峰・芙蓉居・雪堂。寛延九年七月一日歿、年七十七。荻生徂徠に師事。[illegible]

【服部南郭門】[illegible] 服部南郭の門人。[illegible]

【服部南郭門

倫使錄小兒并鳥閣篋平章胡但開僰並矣所在倫上有溪時以爲號。

【服閒】138 ㄨㄢˊ 漢の人。伯人。蒼梧郡の人。建安中、諸葛亮の軍中を往來して、蒼梧山の西に住む。

【服鵠】138 ㄍㄨˋ 服しのがれる。〔漢書、文帝紀〕服鵠者、鵠鳥。鵠、鵠鳥。

【服鵠】138 ㄍㄨˋ 鵠鳥に寄せる。〔韓非子、問田〕臣聞、周德衰微、全之疵也。修行信智、蓬之遠服。

【服道】138 ㄉㄠˋ 車の名。器物を載せて人の挽くものである。〔周禮、考工記、輪人〕輪之崇、以其載者、必有二所、一焉、推一焉、〔疏〕輿名者、服道者、必有二所、一焉、推一焉。

【服駁】138 ㄅㄛˊ 服道に同じ。〔呂氏春秋、治道〕駁駁〔注〕高誘曰、王子喬・民・蠶者也。民故蠶者、服駁也。〔呂氏春秋、慎人〕蠶者、服駁也。

【服鼎】138 ㄉㄧㄥˇ 服鼎。鼎を載せる。〔禮、祭統〕夫人奉盛、盛于祭、祭之日、夫人入、獻于尸、尸酢夫人、夫人獻于祖、祖酢夫人、夫人獻于鼎、鼎有鉶、芼、芼者、芼之、芼者、芼之、芼者、芼之

朏 肉部の朏の朏（0・14352）に別字。（正脱）朏、月未盛光、魄月始生魄然也。（清書・歴志）三十日君盛光、魄月始生魄然也。（清書・歴志）三十日君作時、朏魄魄、月未盛時魄魄、（王筠）月の部分。一説に、日と月の「顔延年、惠・留誄」曲水作時、朏魄魄、月未盛時魄魄、（王筠）月の部分。一説に、日と月の「顔延年、惠・留誄」曲水曲水。●日月、陰質之日月。「顔延年、惠・留誄」曲水曲也

北方(一段)人則一時在野。冬人隱室。物則一時牛馬。冬人國倉。物則一時穀物。[蔡傳]

月令 冬月令。[禮記]

月令 冬月令。[禮記]

月令 冬月令。[禮記

丁巳、後四千四十六算上、此元以天正建子貴駁。

【朔地】[illegible]、地名。北方の名。朔北の地。朔漠地。【朔方】[illegible]、北方の名。烏孫陸下、諸族兵不日効。【朔方】[illegible]、北方の道。朔道。【朔風】[illegible]、北方の風。【朔漠】[illegible]、北方の砂漠。【朔漠】[illegible]、北方の砂漠。【朔漠】[illegible]、北方の砂漠

生、月始生一英、月十五英、十六日、月
後日始一英、月小則一英、然本
注、名同、案英、一日歷英、一故事歷歷若一花木
明而生、望而落、皇矩案英、

朕 14360

サク　朔・古作朕

朔 6．14359 の古字。〔集韻〕

朕 14361

チン　〔集韻〕直稔切　〔廣〕澄 jim

〔集韻〕又名切　〔鈴〕

朕 小篆

㊀**われ**。おのれ。貪賤を通じ（正字通）。朕、解字之譌。（說文）解、我也。朝（『周禮』上文）朕、我也。古者尊卑共之、貴賤不一様（孟子、萬章上注）。（楚辭、離騷）朕皇考曰伯庸（注）朕、我也。●**天子の自稱**。秦の始皇帝に始まる（『爾雅』、釋詁）。朕、我也。（注）古者貴賤皆自稱。朕、（注）秦始皇二十六年、定禮、至尊之稱、萬因不改、以迄今。（公羊、宣、十二、案無、良、注）天子自稱曰朕。（史記、秦始皇紀）臣等昧死言、天子自稱曰朕。（白虎通、號、或稱朕何、亦王者之謙也、朕、我也。●**きざし**。しるし。あと。（荀子、議兵）（注）朕、兆也。（『淮南子』、詮言訓）遊無朕。（注）朕、兆也。●**ぬひめ**。（『說文』、朕、舟の上のはきめ。甲板の上のぬひめ。（『說文』、朕、段注）按、朕在舟部、其解當曰、舟縫也。

月部（六—七畫）

朕 14362

カク　交・T-233 に同じ。〔鐘倉小補〕朕、同文。日月と交道也。

朕 14362′

ラク　朗・6．14362 の略字。

朗 14363

ラク　〔集韻〕里黨切

〔集韻〕里黨切　〔鈴〕

朗・6．14364 の本字。（『偏韻』）

朗 14364

ラク　〔集韻〕里黨切　〔鈴〕力丈 lɔŋ

朗 小篆 ★4563 に同じ。（說文）朗、明也。（『廣韻』）朗、明也。（『周禮』、鍾師、注）朗、明也。●**はがら**。あきらか。（『禮記』、月令）季秋之月、日在房、（注）房、心、大火、蒼龍宿、明堂、月令、（『後漢書』、天文志

●清 梅朗中 ㊀ 14363-2851 ㊁ 2851 の字。

朗 山 ㊀ ●山名。冠山の異名。晉の王朗が登つたから名づけた。（海錄碎事地總載 山部 山 山在今河南省 晉司徒王朗墓葬處。民名 朗山 上有 陵廟 南朝 并 ●清 陳鑾宗 ㊀ 14527-2851 ㊁ 2851 の字名。

朗子 ㊀ 晉 ・ 宿 ・ 宿 ・ 宿

望 14368

□バウ（集韻無攷切）□□□

〔望縣〕①に、唐、虞宗廟で[illegible]の字。〔望遠〕②に、[illegible]。〔望氏〕望氏、[illegible]。〔望長〕[illegible]。〔望遠〕[illegible]。〔望遠鏡〕[illegible]。〔望遠鏡〕[illegible]。〔望遠鏡

理骨の處と傳らる。●俗に祭祀に望祀多あり。

蕤 見かゝと出て登つて現世の家の牌狀を置き寸と傳ふ。

魚名。鯊魚。槍刀。鮪魚。鱘魚。鱣魚。鱘魚。鱘魚。

望 衆宇。復。其南。戰。海其南。

望[宋史] 宇。復。其南。戰。海其南。

望[宋史] 內ある者に代に理理すること。の。

望[宋史] 宮。高。西天。鄭紀。[宋史] 官者。

望[宋史] 以。望。[宋史] 西口。望。[宋史] 望。

望[宋史] 不。遠。基。用。[宋史] 望。

望[宋史] 。のぞみ。思をはせていたか。

望[宋史] 。のぞみ。思をはせていたか。

望[宋史] 。願つてゐたより一層まさつてゐる。

望[宋史] 。願つてゐたより上。期待より上。

望[宋史] 。醍醐天王出の望外。

望[宋史] 。皇紀。傳者。天皇。皇。[宋史] 。

望[宋史] 。上古の帝。天皇をいふ。「路史」。

望[宋史] 。縣名。民國。復。。滿州黑龍江省紀。

望[宋史] 。化紀。七月。時。清河の望。

望[宋史] 。清。方。[宋史] 。[宋史] 。

望[宋史] 。ひてり。時に雨雪を待ち望むこと。

望[宋史] 。と。切に望む。[宋史] 。[宋史] 。

望[宋史] 。若天象之望。[宋史] 。[宋史] 。

望[宋史] 。[宋史]

〔望春宮〕 ㄨㄤˋ ㄔㄨㄣ ㄍㄨㄥ 宮殿名。清の文帝、徳つ故址は城西百五里獲の東。（唐書、地理志）一京兆府、萬年縣、有「望春宮」。（唐書、地理志）一京兆府、（西京記）西京禁苑、内有「望春宮」。在高陵之上。

〔望春樓〕 ㄨㄤˋ ㄔㄨㄣ ㄌㄡˊ 唐代の樓の名。（唐書）食貨志三、唐禁苑、西苑城、蓬萊、蓬萊宮、蓬萊殿、蓬萊宮、蓬萊殿、蓬萊宮、蓬萊殿

【望郡】128 ●山名。別名名、孤山・都山・河北省唐縣の東北。【後漢書、郡國志一】注、晉山・望郡山。

【望縣】128 ●縣名。唐縣の名。【漢書、地理志下】注、晉山・望郡山。

【望月】128 ●月の名。【漢書、郊祀志一】注、晉山・望郡山。

【望城】128 ●城名。河北省唐縣の西南。【漢書、地理志下】注、晉山・望郡山。

【望縣】128 ●縣名。河北省唐縣の西南。【漢書、地理志下

によって國に入る事が出來たので、其の異蜂を入國、月内來て王而來、故如錢條入國也、起一二月來、月内來、王而來、故如錢條入國也、起一二月來、月内來、王而來、故如錢條入國也、起一二月來、月内來、

朝 部 （六五五） 例

聽朝也。㊃つかさ。官職。天子・卿大夫・諸侯・地方官が事を見る處。（正字通）「朝、諸侯所有事見天子也。」（周禮、秋官、大行人）「諸侯之朝也、春見曰朝、夏見曰宗、秋見曰覲、冬見曰遇、……」（左氏、成十二）「諸侯之卿、交修相好也。」（左氏、成十二）「諸侯間朝也。」（左氏、昭元年）「朝、臣見君曰朝。」（禮記、曲禮下）「天子・諸侯・卿・大夫・士、皆有所聽朝也。」（注）「君、謂君位。」（正義）「朝、謂聽朝政。」（同）「天子・諸侯・卿・大夫・士、皆有所聽朝也。」（注

朝宗不絕。夕結成冰。〔郭璞賦、東山高〕若芳若合。霧翳鬱乎若●。●神の名。孫綽、遊天台賦。●●●

記、秦始皇紀・改元始皇帝・始皇帝・朝賀・正月・朝賀・[illegible]

月部（八畫）朝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〔周禮・春官〕司尊彝凡四時之間記，追享、朝享。〔注〕鄭司農云、追享、朝享讀如給也。在四時之間。故書「間」作「閒」。玄謂追享、朝享、謂礿、禘、嘗、烝也。天子春朝踐、焉故大給、謂大祭也。諸侯秋朝踐、焉故大給、謂嘗、烝也。〔禮記・祭統〕天子親耕、親桑、以共粢盛、以事上帝、以奉宗廟、故天子之所親、諸侯之所勸也。是故古者天子、諸侯、必有公桑蠶室、以近川、以桑、蠶之事、親之、所以見天子、諸侯之有、事、於、蠶也。〔注〕桑、桑葉、蠶、蠶子、事、猶、事、也。〔後漢書・章帝紀〕建初元年、詔曰、蠶桑、衣之所出、而俗不重、或以一時之利、傷數年之業、其令、郡國、勿、以、蠶、桑、為、市、〔注〕蠶桑、衣之所出、而俗不重、或以一時之利、傷數年之業、其令、郡國、勿、以、蠶、桑、為、市、〔後漢書・章帝紀〕建初元年、詔曰、蠶桑、衣之所出、而俗不重、或以一時之利、傷數年之業、其令、郡國、勿、以、蠶、桑、為、市、

朝鏡 〔漢〕朝鏡之、朝、〔漢書・郊祀志〕

朝冠 〔漢〕朝冠、〔漢書・郊祀志〕

朝[1] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[2] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[3] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[4] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[5] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[6] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[7] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[8] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[9] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[10] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[11] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[12] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[13] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[14] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[15] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[16] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[17] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[18] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[19] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝[20] 〔漢〕朝、〔漢書・郊祀志〕

朝鞍 [illegible] 朝廷の役人。朝士。〔蘇軾〕答魏之琰書「[illegible]」。●国朝 [illegible]。

朝経 [illegible] 朝廷。〔宋書〕徐廣傳「臣所見聞、唯居都邑、徒增[illegible]」。

朝暉 [illegible] 朝廷。〔宋書〕[illegible]。

朝食 [illegible] 朝廷の規則。〔任昉〕奏劉整[illegible]。

朝食 [illegible] 朝廷の[illegible]。

朝[illegible] 朝廷。〔[illegible]〕[illegible]。

朝[illegible] 朝廷。〔[illegible]〕[illegible]。

朝[illegible] 朝廷。〔[illegible]〕

の象嶧（『嶧山碑』清拓現「国学大学」朝参の象。
【朝会】朝見『周』。朝廷に参内天子に謁見し
奏上する。『後漢』衛瓘『天台賦』「朝廷に
雄誠、因、事指」入、宮殿、者、謂、朝参、終見、迎、
造作之類。
【朝餐】『周』。朝、食をすること。又、朝の食事
朝餉（『郭象』晩、答、傳説）況復（『荀悅』前漢紀）晨朝
知、我飢。
【朝出】『周』。出、門、を、事、祭、紀、の、こ、と。『儀礼』
散不足、蓋無、出門、之事、公、食、者、朝、之、類、
【朝生】『周』。朝、に、生、まれ、て、夕、に、死、ぬ、こ、と。『儀礼』
『周』。朝、に、生、まれ、て、夕、に、死、ぬ、こ、と。『儀礼』
『周』。朝、に、生、まれ、て、夕、に、死、ぬ、こ、と。『儀礼』
【朝市】『周』。人、な、か、の、り。『韓非』「朝市、人、なかのり。
【朝市廛】『周』。『儀礼』賓饗、解、印、後、朝、市、三十年、來、

赴き、部政及び諸司を報告した役人。又、上計使者と稱す。唐は漢の制に倣い、各直接被使者を遣はして京師に詣る。天平宝字四年に諸国司たちに、「漢制及び諸葛亮の故事に準じ、天平宝字元年以前、諸国の郡司、国司の任期を定め、三年を以て限とせしめ、親五年に至れば官に赴かしめ、其の年に至れば、国の一例に準じ、郡領を擢き、年間政の事に従ひ、官に赴かしめ、地方職、年間政の事に従ひ、官に赴かしめ、地方職、年間政の事に従ひ、官に赴かしめ、地方職

[illegible]

朝 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

池。[illegible]注[illegible]林曰、吳以之滿朝鮮夕[illegible]池也。枚乘上書諫[illegible]吳王之[illegible]曰、[illegible]不[illegible]朝鮮[illegible]朝鮮[illegible]

[illegible]

[illegible]

李種9 14459・355 を見よ。

【朝鮮元海者】[illegible]。李朝。第十五代の王。[illegible] 14459・355 を見よ。

【朝鮮】[illegible]。[illegible]。[illegible]。

公の使ひにかゝりまゐり侍る。[illegible]朝の行路難詩

【朝辺】[illegible]。朝と辺。朝夕（潮史、北注傳）朝

晩一時（同）等朝歌。

【朝歌】[illegible]。朝歌を後生に[illegible]。[illegible]

[illegible]人の[illegible]詩[illegible]朝歌を[illegible]。[illegible]

【朝暮】[illegible]。朝暮を後生に[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【朝探】[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【朝夕】[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

【朝日

【朝命】[illegible] 朝廷の命令。君主の命。君命。お命令。「[illegible]」（史記、[illegible]王朝命）「[illegible]」（[illegible]）「[illegible]」（[illegible]）

【朝明】[illegible] ●朝日が出る時。朝明け。夜明け。

【朝明】[illegible] ●朝日と共に。朝から。

【朝明】[illegible] 朝明。[illegible]

【朝明】[illegible] ●朝のあかるい。

【朝明】[illegible] 朝明。[illegible]

【朝明】[illegible] 朝明。[illegible]

【朝明】[illegible] 朝明。[illegible]

不敏。〔案〕結句無韻。〔謝靈運〕從遊京口北固應詔詩。生如朝露。何久自知如此。（士）詩。自昔朝露。見山則晦。（人）詩。朝露。〔謝靈運〕擬鄴中集。〔張協〕雜詩。朝露。〔謝靈運〕擬魏太子鄴中集。〔張協〕雜詩。朝露。〔陸機〕擬東宮。〔張華〕情詩。朝露。〔陸機〕擬東宮。〔張華〕情詩。朝露。（星雲）。朝露無時。有增長。鏡山爍水不可挹。

朝蒼 ㊀ 朝。朝。朝。

と、「左氏、僖七朝不及夕、今何以待君」(左氏、襄十七)「朝夕之急」朝不及夕。

朝不・謀ゴ 朝不・謀ゴ 朝不・謀ゴ

道一備（【淮南子】原道訓「晉羅紈於冀州，而田宅爭強；陳珠於南海，而鄰里爭盜；隨侯之珠，和氏之璧，猶以爭亡國者，無道也」注「羅紈，綺也」）。

期 14378

キ（集韻）奚之切　支

くご（ゴ）

（集韻）奚之切　支

通用字

①あふ 約束してであう。

（文選文）期，會也。从月其聲。（段注）期者，要約之意。所以爲會合也。（廣雅，釋詁四）期，會也。（國語，周語中）期，猶可期也（注）期，會也。（十）

②もとめる。（漢書，武帝紀）非期而至，所念無期。（注）師古曰，期，要也。（十）

③あてにする 目的とする。（禮，大喪篇）刑期于無刑。（十）

④をはる。きはまる。（廣雅，釋詁下）期，卒也。（注）卒期費。（注）期，卒也。費，耗也。（十）

⑤ときをり 適當な時期。（禮，檀弓上）期而小祥，期而大祥。（注）期，時也。（周禮，天官，大宰）前期十日（注）期，所謂之日也。（禮記，樂記）期，猶會也。（十）

⑥ゆき（廣韻）期，期也。（詩，小雅，南山有臺）樂只君子，萬壽無期。（左傳，僖公十二年）無無期，無疆。（呂覽，慎大覽）期，期也。（十）

⑦ほど。程度。（呂覽，慎大覽）期，期也。（十）

⑧ご（荀子，賦篇）以期，期年者，二（注）期，待也。

【字解】ノリ　トノ　トキ　サイ

【期類】…　百歲の人をいう。此の語の出典は

曁記の文は「百年を期と曰い、餘はまた期なり」とあるが、同義の語がさらに二十を期と曰い、百年を期と曰いたのはいずれも「期」の字を用いた時期、時節の意である。「期」は「月」と「其」とからなる。「其」は「箕」の省略形で、「其」は「丌」と「丌」とからなる。「丌」は「几」の象形で、「几」は「机」の象形である。「机」は「木」と「幾」とからなる。「幾」は「幾」の省略形で、「幾」は「幾」と「幾」とからなる。「幾」は「幾」と「幾」とからなる。「幾」は「幾」と「幾」とからなる。

幾反。野曰風兮風兮，故能〓。

【期牛】ㄑㄧˊ ㄋㄧㄡˊ 。祓山牛注也。大牛。名。〓牛。〓雄。鄭都缺。元年。鄭伯克段于鄢。注〓郊。

【期年】ㄑㄧˊ ㄋㄧㄢˊ 。一定的期限內。支撐小金。

【期貨】ㄑㄧˊ ㄏㄨㄛˋ 。期日。期日。期日。

【期貨買賣】ㄑㄧˊ ㄏㄨㄛˋ ㄇㄞˇ ㄇㄞˋ 。定期賣買。

【期會】ㄑㄧˊ ㄏㄨㄟˋ 。約束會計會期。又。期會。期日。又。期會。期日。又。期會。期日

期賁[illegible]　財用をきはめる。楊雄『荘子、天道篇』「[illegible]」。[illegible]。[illegible]。[illegible]

朧朧は、月がほのぐらい。〔集韻〕朧、朧朧、月不明也。

朢 14391 小篆 古文

日バウ 〔集韻〕無放切 漢
日バウ 〔集韻〕武方切 陽

①月が満ちる。満月。〔説文新附〕朢、月滿也。〔興〕日相望似。朝者、从月出从壬、壬、朝廷也。〔尤溝、説文古本〕月在二、遠相望也。●古は望(9－30073)に作る。〔説文〕望、古文望省。●望(5－14368)に通ず。〔説文通訓定聲〕朢、今皆以望爲之。

解字 會意月と臣との会字。月が満ちる。満月。月が満ちて相望むことは、臣が君の朝廷に朝するに似てるの義。壬は廷の假借で朝廷。望月の望の本字。

参考 元寇(9－14368)は別字。〔字彙〕辨似、二字相近。望、壬字同音。望、仰望之望。朢、月滿與日相望。如臣朝君。故从臣月。

朕 14392 リンヨウ 通朕 〔集韻〕

夜(8－1669)に同じ。〔正字通〕朕、夜通。

朕 14393 シンヨウ 通朕 〔集韻〕俗朕字。

朕(8－3323)の俗字。〔正字通〕朕、俗朕字。

十一畫

朕 14394 日セン 〔篇海〕徐兗切 銑
日セン 〔篇海〕宗緣切 先

①小さい。〔篇海〕朕、短也。●便朕は、小さいさま。〔篇海〕朕、便朕、小貌。

参考 肉部の朕(9－29821)の異字。

朗 14395 デン ネン 〔篇海〕叢見切 霰

月が出る。〔篇海〕朗、月出也。

朗 14396 音未詳 人名 〔字彙補〕朗、音未詳。〔樓英子傳四〕朗望送、人子。

朏 14397 ホク 〔字彙補〕奉木切 屋

たもつ。〔字彙補〕朏、有也。

十二畫

朦 14398 トン 〔集韻〕他昆切 元

●月の光。〔玉篇〕朦、月光也。●或は膯(6－14373)に作る。〔集韻〕朦、或省。

朧 14399 コツ ゴチ 〔篇海〕胡骨切 月

にごる。あかがつく。〔篇海〕朧、淘石也。

膊 14400 トウ ソ 〔集韻〕徒東切 東

①月が初めて出る。〔集韻〕膧、月初出也。●おぼろなさま。膧朧(2)を見よ。

参考 肉部の膧(9－29823)は別字。

〔朧朧〕ロウ ●おぼろなさま。明るくなるさま。高朧朧。〔陶弘景、天地宗元〕湖色清淡、海光高朧朧。●明かでないさま。〔後漢書、張衡傳〕吉凶物錯、人用朧朧。〔注〕朧朧、言不明也。

〔朧朧〕ロウ ロウ 月かげの明るくなりかかるさま。おぼろなさま。〔通俗、秋興賦〕月朧朧以含光兮。〔注〕善曰、朧朧、欲明也。良曰、朧朧月初出貌。〔詩愈、詠衡嶽、遂宿嶽寺題門樓、詩〕夜投佛寺上高閣、星月接手聯朧朧。

膊 14401 キツ キチ 〔集韻〕渠律切 屑

①月が東北の方に在ること。〔篇海〕膊、在乞、東北方也。●月が西に傾く。〔集韻〕膊、一日、月見西方。●通じて橘(6－1555)に作る。〔集韻〕膊、通作橘。

参考 肉部の膊(9－29824)は別字。

朋 14402 ラウ 朗(6－14364)に同じ。〔字彙補〕朋、與朗同。

朋 14403 シンヨウ ジョウ 〔集韻〕神陵切 蒸

妊娠する。子をはらむ。〔集韻〕朋、妊也。

朋 14404 ジン 〔集韻〕谷心切 侵

姓。〔玉篇〕朋、姓也。

十三畫

膜 14405 ケツ 敬 〔集韻〕畎

畎(8－22724)に同じ。〔字彙〕膜、同畎。

膟 14406 ハン 〔集韻〕百父切 麌

膟 14407 クワイ 義未詳 〔海篇〕朝 音詳。

十四畫

膠 14408 エフ 〔篇海〕於葉切 葉

月の動くさま。〔篇海〕膠、月動貌。

膠 14409 小 附 ボウ 〔集韻〕莫胡切 東 ム 〔集韻〕莫侯切

●月のおぼろなこと。〔説文新附〕膠、月蒙朧也。从月蒙聲。●月が入りかかる。〔類篇〕膠、膠朧、月傍。入也。●朗(4)かぶせる。(6)欺く。

参考 肉部の膠(9－29825)は別字。

〔膠朧〕ロウ うす暗くむすばれる。〔周礼、地官、媒氏〕凡娶妻之道、必有陰陽之會、嘉礼、氣交之道、必有陰陽之合。〔注〕膠朧、猶昏昏也。

〔膠液〕エキ 鼻味でまずい。〔陶弘景、發真陽訣序〕眞人立象無説、本于鉛膠投鼎。

【臘吃】[illegible] ごまかして飲食する。

【臘官】[illegible] 官吏をごまかす。（編纂之書）發數部（官取）鈔。

【臘混】[illegible] ごまかす。騙者する。（編纂之書）發數部（官取）鈔。

【臘混】[illegible] 混淆（文化）。世俗、混新官、以希接受。●[illegible]。

【臘事】[illegible] 不明瞭な。

【臘詐】[illegible] ごまかす。

【臘詐】[illegible] ごまかして請求する。

【臘錢】[illegible] 金錢をごまかす。金を騙しとる。

【臘任】[illegible] 賄。●賄。●ばんやりする。あつけに取られる。

【臘抵】[illegible] 代（原文冊）臘抵。

【臘敏】[illegible] 隣着する。ごまかしがしす。臘壓する。（編纂之書）發數部、比較・減・評書臘敏。

【臘編】[illegible] ごまかす。

【臘味】[illegible] おはちにくいもの。（素問）氣交變大論「臘味」は「臘味」。

【臘味】[illegible] 臘味。（素問）氣交變大論「臘味」は「臘味」。

【臘混】[illegible] おはちるさまま。うす暗いさま。又、混沌として區別・秩序のないさま。（風俗通）愚未出版（文集）「家鐵」「鄭羅傳」「黒（見補之）」。

【臘弄】[illegible] ごまかす。騙混。

【臘臘】[illegible] ●月かげのおぼろなさま。（連文）臘臘月明・入馬・臘・日持・出馬・臘・（連文）臘・東食詩・蜀魂啼來春復臭、鶯魂吟後月臘臘。●おぼろげに見えるさま。はんやりしたさま。（李嶠・早發・苦竹館詩）「苦竹館臘嶠深、臘臘遊霧晚・（雅陽・雅陽）●時事のはっきりしないこと。事理の不明瞭なこと。曖昧。臘臘奏請を見よ。

【臘臘組】[illegible] 臘臘車馬の仲間。

【臘臘體】[illegible] 詩文などの意義の明かでないもの。又、編纂の輪郭のおぼろなもの。

【臘臘車】[illegible] 無理に車車をすすめ、法外の車代を強請する無精の人力車夫。

【臘臘奏請】[illegible] 事實を調査せず曖昧な奏請をすること。明律・職制・官吏、不・許・封公侯（所司臘臘奏請、輒封公爵者、當從官吏之受・封・官・所・輒・封・公・爵・者、當・從・官・之・受・封・官・所・輒・奏・請